

白滝遺跡群Ⅳ

第1分冊（本文編）

白滝村 奥白滝11遺跡
上白滝8遺跡
上白滝6遺跡(2)
白滝第30地点遺跡

一般国道450号白滝丸瀬布道路工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書

平成15年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター

白滝遺跡群Ⅳ

第1分冊
(本文編)

奥白滝11遺跡
上白滝8遺跡
上白滝6遺跡(2)
白滝第30地点遺跡

(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書

第195集

平成15年度

白滝遺跡群Ⅳ

第1分冊（本文編）

白滝村 奥白滝11遺跡
上白滝8遺跡
上白滝6遺跡（2）
白滝第30地点遺跡

一般国道450号白滝丸瀬布道路工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書

平成15年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター

口絵1 遺跡群(1)

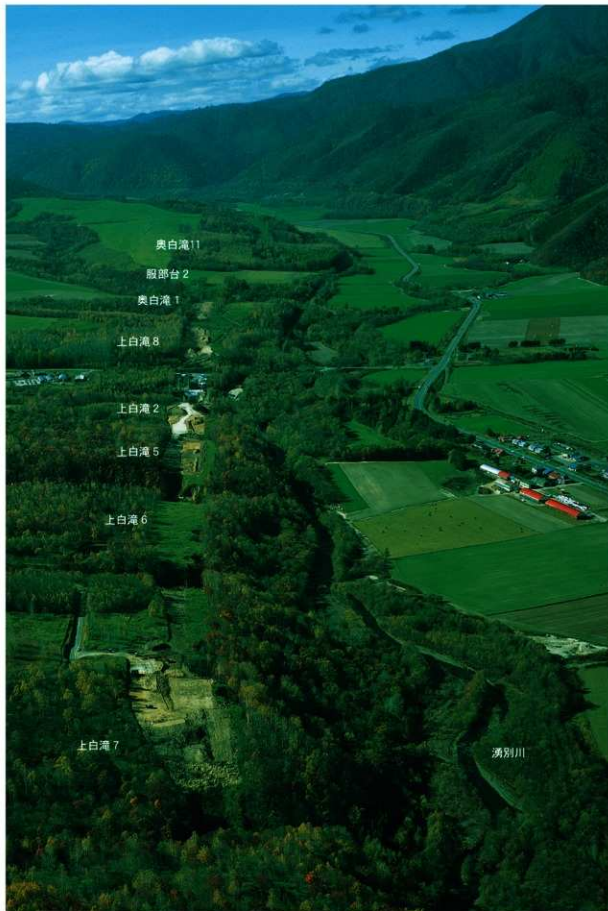


1 遺跡群と赤石山 (南から・平成11年撮影)



2 上白滝2・8遺跡と湧別川 (南から・平成8年撮影)

口絵2 遺跡群(2)



遺跡群と湧別川 (東から・平成9年撮影)



1 平成7年度調査状況 (西から)



2 平成7年度調査状況 (南西から)

口絵 4 上白滝 8 遺跡(2)



1 平成7年度包含層調査(西から)



2 平成7年度調査状況(北西から)

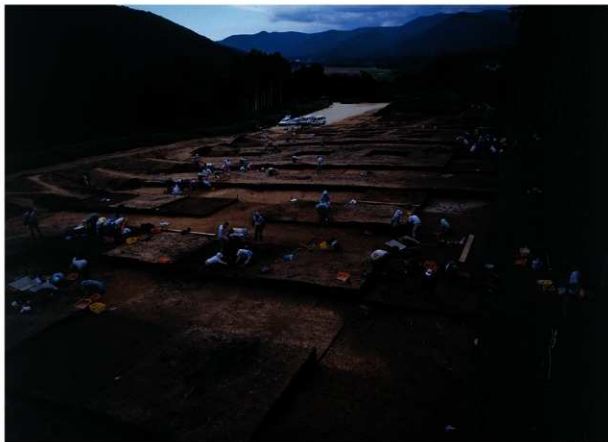


1 平成 8 年度調査状況 (南東から)



2 平成 8 年度包含層調査 (南東から)

口絵 6 上白滝 8 遺跡(4)



1 平成 8 年度調査状況 (西から)



2 土層断面(Q61区北壁) (南から)



1 Sb-9 石核ほか (北から)

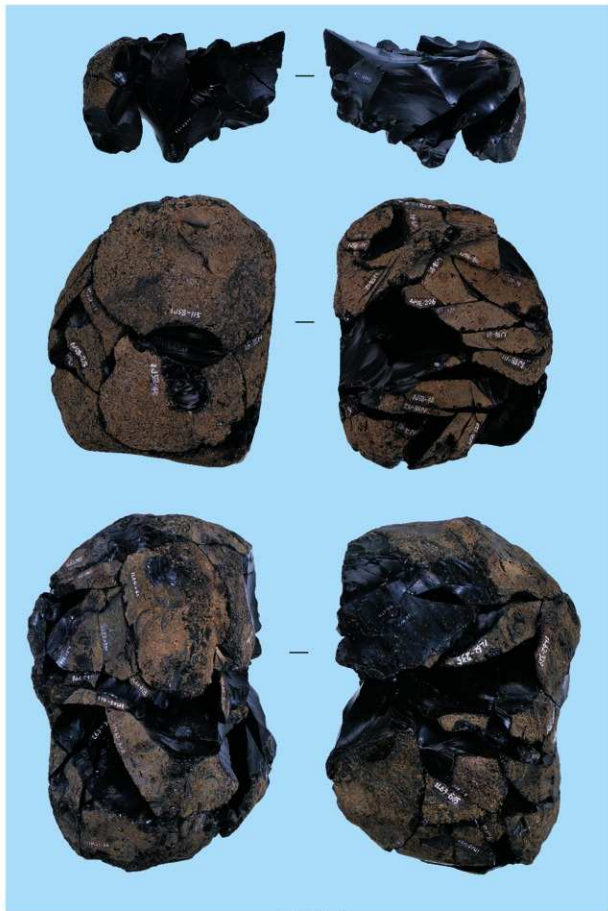


2 Sb-9 石核ほか (北から)

口絵8 上白滝8遺跡(6)

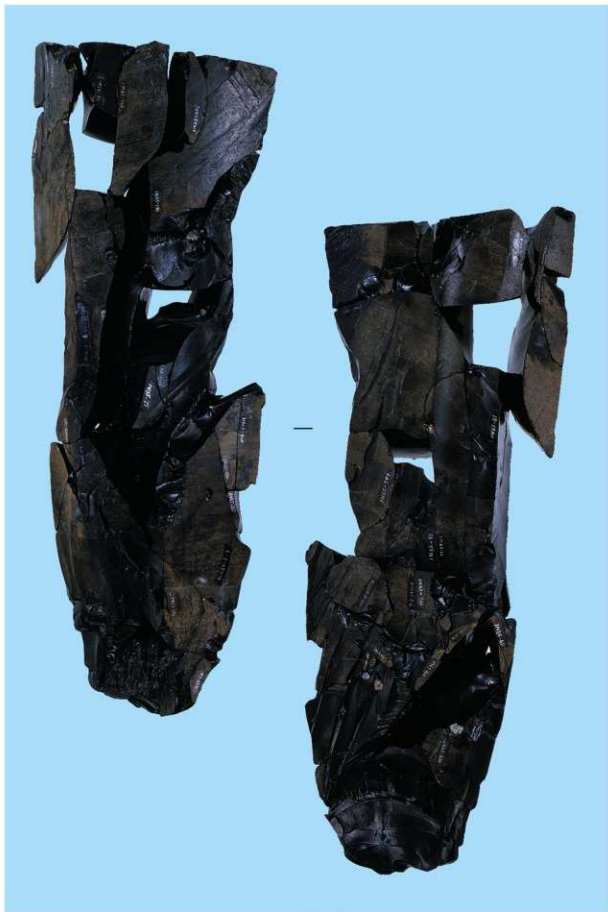


Sb-4~6二次加工ある剥片ほか(2/3)

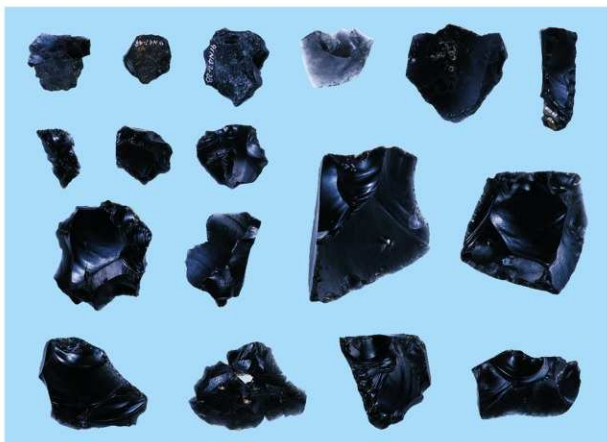


Sb-4~6 接合資料(1) (2 / 3)

口絵10 上白滝8遺跡(8)



Sb-4~6 接合資料(2) (2/3)

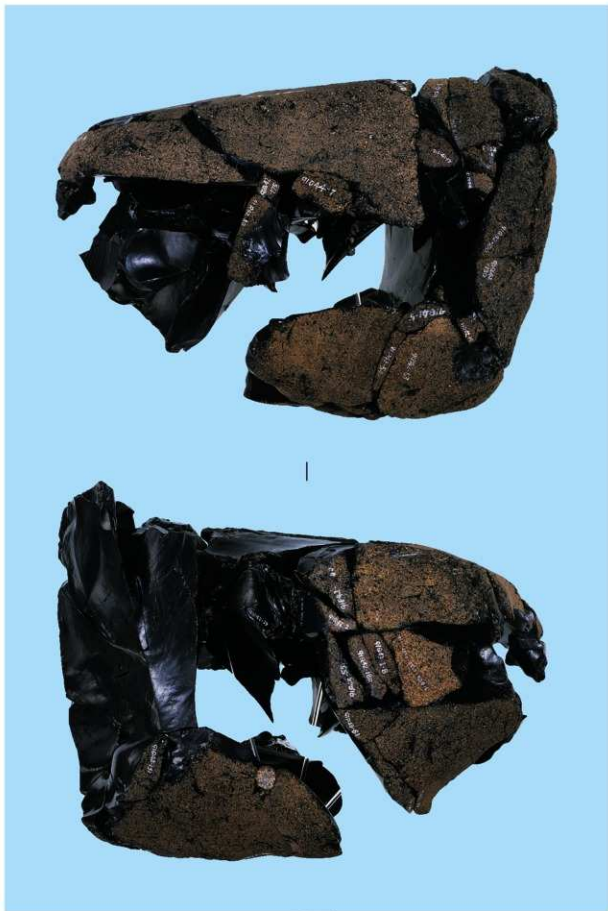


1 Sb-10二次加工ある剥片ほか(2/3)



2 Sb-11~13二次加工ある剥片ほか(2/3)

口絵12 上白滝8遺跡(10)



Sb-11~13接合資料(2/5)



1 Sb-17台石ほか (北西から)



2 Sb-27尖頭器ほか (西から)

口絵14 上白滝8遺跡(12)



1 Sb-28両面槌発石器ほか(西から)



2 Sb-33調査状況(南東から)



1 Sb-34石槌ほか(西から)

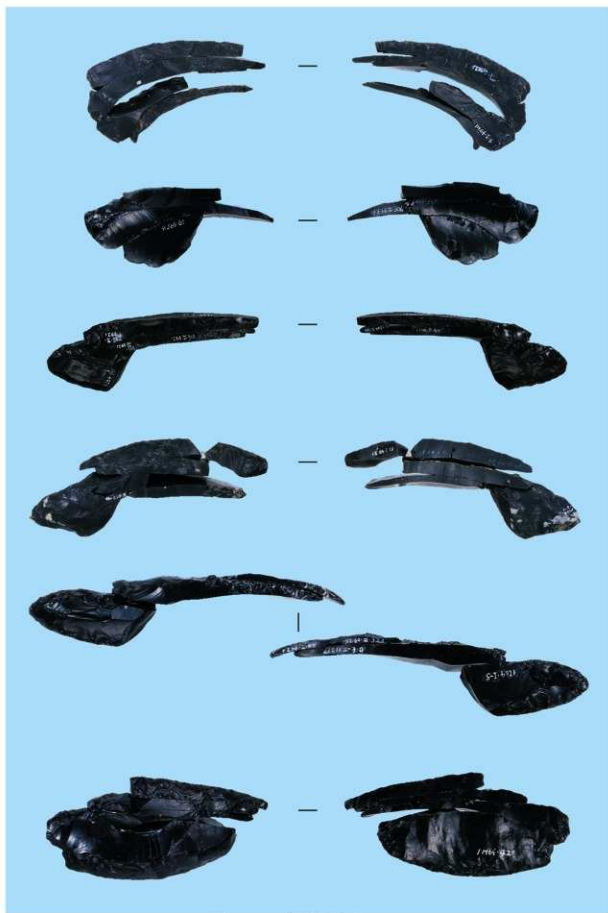


2 Sb-47石刃槌ほか(南から)

口絵16 上白滝8遺跡(14)



A区(Sb-14~19)尖頭器ほか(2/3)



A区(Sb-14~19)接合資料(1)(2/3)

口絵18 上白滝8遺跡(16)

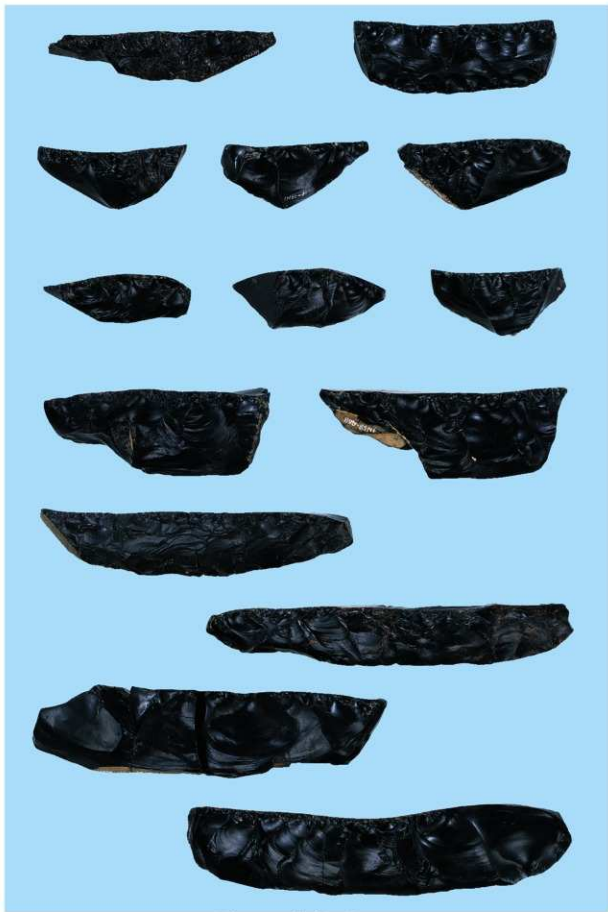


A区(Sb-14~19)接合資料(2)(2/3)



B区(Sb-20~29)尖頭器(1/2)

口絵20 上白滝8遺跡(18)



B区(Sb-20~29)舟底形石器(1/2)







D区 (Sb-36~55) 尖頭器 (2 / 3)

口絵24 上白滝8遺跡(22)



D区(Sb-36~55)石器(2/3)

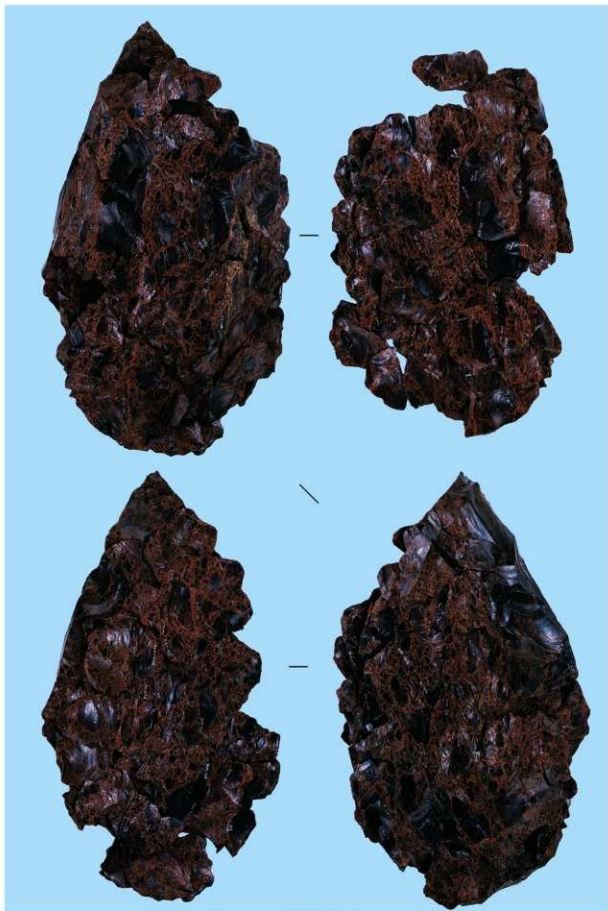


D区 (Sb-36~55) 掘器 (2/3)

口絵26 上白滝8遺跡(24)



D区(Sb-36~55)舟底形石器(2/3)



D区 (Sb-36~55) 接合資料(1) (1/3)



D区 (Sb-36~55) 接合資料(2) (1/2)



F区 (Sb-61) ナイフ形石器ほか (単品 2 / 3・接合 1 / 2)



斜面部燧石刀核ほか(2/3)



石刀鏃ほか (2/3)

口絵32 黒曜石

1 黒曜石 1



2 黒曜石 2



3 黒曜石 3



4 黒曜石 4



5 黒曜石 5



例 言

- 1 この報告書は、一般国道450号白滝村白滝道路改良工事に伴い、平成7～13年度に財団法人 北海道埋蔵文化財センターが実施した白滝村奥白滝（おくしらたき）11・上白滝（かみしらたき）8・上白滝6・白滝第30地点遺跡の埋蔵文化財発掘調査に関するものである。また、平成7～14年度に行った白滝遺跡群の奥白滝11・服部台2・奥白滝1・上白滝8・上白滝2・上白滝5・上白滝6・上白滝7・北支湧別4・白滝第30地点・白滝8・白滝18・白滝3・旧白滝9・旧白滝8・下白滝遺跡の調査概要も報告する。
- 2 平成7年度より行われている白滝遺跡群の調査の概要については、いくつかの機会に紹介しているが、奥白滝11・上白滝8・上白滝6・白滝第30地点遺跡に関しては、本書が優先する。
- 3 本書は第1分冊（本文編）、第2分冊（石器実測・分布図編）、第3分冊（写真図版編）の3冊で構成されている。第1分冊は、本文、自然科学的分析等、掲載遺物一覧表など、第2分冊は、各遺跡における石器ブロック群・区域単位での石器実測図・石器ブロック分布図・接合資料実測図など、第3分冊は、遺跡単位での航空写真・調査状況・石器・接合資料などの順で構成されている。
- 4 第1分冊と第2分冊の挿図は通し番号である。
- 5 第2分冊で実測図を掲載した石器・接合資料は、基本的にすべて第3分冊の写真番号に掲載し、さらに接合資料に含まれる石器については、接合資料とともに縮小し再度掲載した。また、第3分冊の写真図版のみに掲載した石器・接合資料もある。
- 6 第2分冊の実測図番号と第3分冊の写真番号は同一である。実測図番号は、各遺跡の石器ブロック群・区域単位で1から付けたが、その順番は、単体石器、接合資料、写真のみ掲載単品石器、写真のみ掲載接合資料の順である。
- 7 本書の作成は、第1調査部第3調査課で行ったが、編集は奥白滝11・上白滝6・白滝第30地点遺跡については長沼 孝が、上白滝8遺跡については鈴木宏行・直江康雄が行い、全体を鈴木宏行が調整した。

整理作業・報告書作成作業は遺跡・石器群単位で進め、以下の担当において進めた。

奥白滝11・上白滝6・白滝第30地点遺跡：長沼 孝

上白滝8遺跡（Sb-1～13・62・63）：直江康雄

上白滝8遺跡（Sb-14～61・斜面部）：鈴木宏行

また、図版・挿図の作成担当、各章または節・項の執筆は以下のとおりである。

第1分冊（本文編）

口絵（カラー）：直江康雄・鈴木宏行・長沼 孝

I章1～4（1）～（4）・（6）、II章4、III章1・2、IV章1（1）～（4）・（6）、

V章1・2、VI章1・2：長沼 孝、

II章2・3、IV章1（5）、2（1）・（3）～（9）・（19）、VII章1：直江康雄

IV章1（7）（8）・2（2）：鈴木宏行・直江康雄

I章1（5）、II章1、IV章2（10）～（18）、VIII章2：鈴木宏行

第2分冊（石器実測・分布図編）

奥白滝11・上白滝6・白滝第30地点遺跡石器・分布図：長沼 孝

上白滝8遺跡（Sb-1～13・62・63）石器・分布図・接合資料：直江康雄

上白滝8遺跡（Sb-14～61・斜面部）石器・分布図・接合資料：鈴木宏行

第3分冊（写真図版編）

奥白滝11・上白滝6・白滝第30地点遺跡調査状況・石器・接合資料：長沼 孝

上白滝8遺跡調査状況・(Sb-1~13)石器・接合資料：直江康雄

上白滝8遺跡(Sb-14~61・斜面部)石器・接合資料：鈴木宏行

- 8 作業の一部および年代測定・分析などは下記の機関または個人に依頼した。

現地測量・航空写真撮影およびデータ入力、遺物実測の一部など：(株)シン技術コンサル

遺物写真撮影：(有)写真事務所クリーク(佐藤雅彦)

接合資料他実測用写真撮影：小川忠博

放射性炭素年代測定：(株)地球科学研究所(Ⅷ章1)

黒曜石フィッシュトラック年代測定：山梨県環境科学研究所 興水達司(Ⅷ章2)

堆積層の粒度・珪藻、堆積層中の花粉・植物珪酸体分析：パリオサーヴェイ株式会社(Ⅷ章3)

黒曜石産地推定・水和層測定：(有)遺物分析研究所、薬科哲男(Ⅷ章4)

- 9 現地の写真撮影は、随時調査員が行い、航空写真・遺物は、前述の会社が行った。

- 10 出土遺物は白滝村教育委員会が、写真・データなどの記録類は財団法人北海道埋蔵文化財センターが保管している。

- 11 調査にあたっては、下記の機関および人びとの指導ならびに協力をえた。(順不同、敬称略)

文化庁、青森県立郷土館、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、仙台市富沢遺跡保存館、東北福祉大学、御東京部埋蔵文化財センター、東京都立大学、明治大学考古学博物館、神奈川県立埋蔵文化財センター、財かながわ考古学財団、長野県埋蔵文化財センター、長門町教育委員会、野尻湖ナウマンゾウ博物館、朝日村教育委員会、津南町教育委員会、沼津市教育委員会、京都文化博物館、岡山理科大学、鹿児島県埋蔵文化財センター、熊本県教育委員会、福岡市埋蔵文化財センター、多久市教育委員会、北海道教育委員会、白滝村教育委員会、丸瀬布町教育委員会、遠軽町教育委員会、北見市北網園文化センター、常呂町教育委員会、幕岡町教育委員会、網路市埋蔵文化財調査センター、帯広百年記念館、名寄市北国博物館、下川町教育委員会、千歳市教育委員会、今金町教育委員会、市立函館博物館、知内町教育委員会、

岡村道雄、土肥 孝、平川一臣、中村有吾、林 謙作、木村英明、鶴丸俊明、吉崎昌一、長崎潤一、梶原 洋、柳田俊雄、佐川正敏、岡本東三、安齋正人、佐藤宏之、山田 哲、小野 昭、山田昌久、大沼克彦、阿部朝陽、安藤政雄、島田和高、野口 淳、山科 哲、加藤晋平、小林達雄、谷口康浩、薬科哲男、稲田孝司、小林博昭、宮岡直人、小畑弘己、三宅徹也、太田原潤、丸山清治、中川重紀、北村忠昭、須田良平、斎野裕彦、会田容弘、渋谷孝雄、松沢亜生、小菅将夫、栗島義明、館野 孝、五十嵐彰、栗原伸好、大塚健一、吉田政行、砂田佳弘、興水達司、大竹憲昭、人竹幸恵、堤 隆、須藤隆司、谷 和隆、中村由克、沢田 教、小藤博史、山本 克、佐藤雅一、田中耕作、鈴木 暁、高橋保雄、前嶋秀張、白鳥直樹、笹原芳郎、青島邦夫、池谷信之、鈴木忠司、高野 学、佐藤良二、西田昌弘、麻柄一志、岩永雅彦、水崎康弘、宮田榮二、牛ノ濱修、水野達郎、鎌田洋昭、山田悟郎、三野紀雄、松村論文、瀬下直人、太田敏量、北沢 実、山原敏朗、大久義明、今井真二、氏江敏文、鈴木邦輝、浦坂周一、石川 朗、高橋 理、出穂雅美、高倉 純、大島直行、寺崎康史、長谷部一弘、高橋豊彦

記号等の説明

- 調査区域図・遺跡全体の遺物分布図などの縮尺は、任意であるのですべてスケールを付けたが、発掘区の一辺は4mであるので、目安としてもらいたい。
- 各石器ブロックの基本的な全遺物分布図の縮尺は、以下のようにしたが、器種別分布図、接合分布図などは統一せず、スペースに応じた縮尺とした。いずれの場合も縮尺とスケールを示した。
奥白滝11 1:240 上白滝8 1:150 (Sb-17・19・27・61は1:200)
上白滝6・白滝第30地点 1:150
- 母岩別・接合資料の接合分布図の基本的な縮尺は、以下のようにしたが、全体図・拡大図の一部は、スペースに応じた縮尺とした。いずれの場合も縮尺とスケールを示した。
上白滝8・上白滝6 1:200
- 遺物の縮尺は、実測図・写真とも、石器類は1:2としたが、一部大型の石器については1:3とした。接合資料および接合破片は、実測図・写真とも1:3とした。
- 一部の接合資料実測図においては、視覚的に図を理解し易くするために接合剥片の腹面側、接合資料内の内側部分などをトーンで示した部分がある。
- 尖頭器関連の接合資料の実測図においては、全体の状況を示すと同時に腹面側(内側)の状況の実測図を示したものもある。
- 接合資料の中で、剥片石器や石核の素材である剥片もしくは原石を分割したのものについては「個体A」「個体B」・・・さらにそれらから剥離された剥片を素材にするものは「個体a」「個体b」・・・と呼称した。
- 接合資料は、剥離行程を理解し易くするために模式図を作成し、実測図と共に掲載した。模式図は同一段階の剥離群毎にトーンを変え、剥離の流れを番号で示した。ただし、切り合い関係がなく、前後関係が明らかでないものにおいても便宜上番号を付けたので、詳細は個々の説明を参照願いたい。
- 剥離模式図の縮尺は任意である。模式図中の矢印(→)は接合剥片の剥離方向を示すが、接合剥片の打点側が欠損している場合は切れた矢印(—▶)、重なって見えない部分は破線の矢印(-----▶)で示した。また、素材剥離時の打撃点部分に▶を付けたものもある。
- 接合資料と共に掲載した接合破片(典型的な石器も含む)は基本的に剥離順番に並べてある。
- 尖頭器、細石刃関連などの模式図においては、接合剥片に残存する打点の位置から、想定される輪郭を示したものもある。
- 調査区域図および遺物分布図など方位記号は平面直角座標の北を、レベルは標高(単位はm)を示す。
- 遺構や石器ブロックについては以下の略号を使用した場合がある。
Sb:石器ブロック Cb:炭化木片ブロック
- 遺物分布図では以下の記号を用いた。

●:剥片	●:石刃	●:縦長剥片	+:削片	■:細石刃
▲:細石刃核	◆:舟底形石器	▲:尖頭器	◆:両面調整石器	★:ナイフ形石器
▲:彫器	■:搔器	◆:錐形石器	▼:削器	▼:二次加工ある剥片
⊠:石核	⊠:石刃核	△:石鏃・石刃鏃	人:つまみ付きナイフ	
□:礫石器等(斧形石器・敲石・砥石・台石・原石・礫)				

- 15 石器ブロックの全遺物分布図については剥片を網点で示した。また、接合分布図、母岩別・接合資料分布図においても、全体の遺物を網点で示したものもある。
- 16 挿入図の番号は、石器群ごとに単体石器、接合資料、写真のみ掲載接合資料の順で1から付けた。また、接合破片として接合資料の所に示した場合は、単体石器で付した番号を付けている。
- 17 遺物分布図の記号横の数字は、遺物番号を示している。また、分布図中の縮小した遺物実測図横の数字は挿入図の番号で、さらに出土発掘区・遺物番号を同時に表示したものもある。
- 18 石器ブロック接合分布図の接合線は、剥離順番を示すものではなく、遺物番号の若い順番に機械的に結んだものである。
- 19 接合資料の接合分布図では、折れ面接合をすべて実線で示した。また、個体や段階などを示す場合に破線で示したものもある。
- 20 細石刃関連の接合資料に関しては、一括遺物点数を接合分布図中に掲載した。
- 21 石質は掲載遺物の一覧表に示したが、黒曜石については、以下の5種類に分けて示した。
 黒曜石1：黒色 黒曜石2：梨肌（黒色） 黒曜石3：黒色に茶色が混じる（黒>茶）
 黒曜石4：茶色に黒色が混じる（茶>黒）
 黒曜石5：黒色に紫がかかった茶色が混じる（黒>紫・茶）
- ただし、黒曜石2の梨肌で、黒曜石5の特徴があるものについては、黒曜石2の5という形で表現する。この分類は、破片の状態での観察なので、同一母岩でも2種類の特徴がみられる場合もある。
- 接合資料の一覧表では、スペースの関係で、上記の黒曜石1～5についてそれぞれを1～5の数字のみで示した。
- 碧玉については、色調から濃緑色の1、赤色の2、褐～褐黄色の3とした。
- 安山岩については、主に剥片石器に利用される緻密で玄武岩質のものを安山岩1、主に台石や敲石などに利用される輝石安山岩などのものを安山岩2とした。
- 珪質頁岩は泥岩質の頁岩と区別するために使用したもので、硬質頁岩や凝灰岩質のものなどを含んでいる。原産地を考慮した細分は今後の課題である。
- 22 黒曜石以外の石質については、実測図番号の下に以下の略号で示した。
 珪質頁岩：SI-Sh めのう：Ag 碧玉：Ja 珪岩：Qu 安山岩：An
 緑色泥岩：Gr-Mu 凝灰岩：Tu 片岩：Sch 粘板岩：Sl 砂岩：Sa

写真図版の説明

- 1 写真図版は、遺跡別に奥白滝11遺跡、上白滝8遺跡、上白滝6遺跡、白滝第30地点遺跡の順で掲載した。
- 2 掲載順は、空中写真、調査状況、炭化木片ブロック等、石器ブロック別遺物出土状況、出土遺物である。
- 3 挿図に掲載した遺物は、すべて写真を掲載している。また、写真のみ掲載した接合資料、接合破片もある。
- 4 出土遺物は、石器ブロック群・区域毎に単体石器、接合資料の順で掲載し、番号は挿図中の番号と一致している。接合資料は基本的に挿図の掲載順としたが、割り付けの関係で、前後することや、写真のみの掲載資料が組み合わされている場合がある。挿図とは番号で照合していただきたい。
- 5 写真の縮尺は、単体石器は1：2であるが、一部大型のものについては1：3とした。接合資料は1：3とした。
- 6 接合資料の写真は、実測図作成用として90°展開の台に固定し、破片の輪郭や剥離面が明確になるようなライティングでストロボ撮影したものを1：2にプリントした。したがって、各面の誤差はないが、単体石器や接合破片とは若干異なった写真となっている。また、撮影時の固定具などがみられることがあるので、注意願いたい。
- 7 単体石器は通常の俯瞰撮影なので、正面と裏面では若干の誤差を生じていることがある。また、接合資料の写真とも若干異なっていることがある。

目 次

第1分冊（本文編）

口絵（カラー図版）

例言・記号等の説明・写真図版の説明

目次・第1分冊挿図目次・第1分冊表目次・第2分冊挿図目次抜粋・第3分冊目次抜粋

I	調査の概要	1
1	調査要項	1
2	調査体制	2
3	調査に至る経過	3
4	調査概要	4
(1)	発掘区の設定	4
(2)	調査の方法	6
(3)	整理の方法	7
(4)	報告書の作成	8
(5)	遺構・遺物の分類	9
(6)	調査結果の概要	15
II	遺跡の位置と周辺的环境	41
1	遺跡の位置と周辺の遺跡	41
2	遺跡周辺の地形と地質	44
3	基本土層	47
4	黒曜石の原石山・赤石山	49
III	奥白滝11遺跡の調査	53
1	調査の概要	53
(1)	調査要項	53
(2)	調査体制	53
(3)	調査日誌抄	51
(4)	発掘区の設定	51
(5)	土層	51
(6)	調査の方法	56
(7)	整理の方法	56
(8)	調査結果の概要	59
2	遺構と遺物	59
(1)	遺物分布と石器ブロック	60
(2)	石器ブロック1 (Sb-1) の石器	60
	出土石器	60
	分布・接合状況	61
IV	上白滝8遺跡の調査(東地区)	63
1	調査の概要	63
(1)	調査要項	63
(2)	調査体制	63

(3)	調査日誌抄	61
(4)	発掘区の設定	69
(5)	土層	70
(6)	調査の方法	82
(7)	整理の方法	84
(8)	調査結果の概要	85
2	遺構と遺物	88
(1)	炭化木片ブロック	88
(2)	遺物分布と石器ブロック・石器ブロック群・区域	95
(3)	石器ブロック1～3 (Sb-1～3)の石器	133
	出土石器	133
	分布・接合状況	135
	母岩別資料	136
(4)	石器ブロック4～6 (Sb-4～6)の石器	140
	出土石器	140
	分布・接合状況	143
	母岩別資料	144
(5)	石器ブロック7・8 (Sb-7・8)の石器	152
	出土石器	152
	分布・接合状況	153
	母岩別資料	153
(6)	石器ブロック9 (Sb-9)の石器	155
	出土石器	155
	分布・接合状況	156
	母岩別資料	157
(7)	石器ブロック10 (Sb-10)の石器	160
	出土石器	160
	分布・接合状況	161
	母岩別資料	162
(8)	石器ブロック11～13 (Sb-11～13)の石器	162
	出土石器	162
	分布・接合状況	164
	母岩別資料	165
(9)	白滝I群石器ブロック外の石器	168
	出土石器	168
	分布	168
(10)	A区・石器ブロック14～19 (Sb-14～19)の石器	168
	出土石器	168
	分布・接合状況	174
	母岩別資料	176

01	B区・石器ブロック20～29 (Sb - 20～29) の石器	189
	出土石器	189
	分布・接合状況	194
	母岩別資料	196
02	C区・石器ブロック30～35 (Sb - 30～35) の石器	205
	出土石器	205
	分布・接合状況	208
	母岩別資料	209
03	D区・石器ブロック36～55 (Sb - 36～55) の石器	212
	出土石器	212
	分布・接合状況	217
	母岩別資料	221
04	E区・石器ブロック56～60 (Sb - 56～60) の石器	235
	出土石器	235
	分布・接合状況	236
	母岩別資料	237
05	F区・石器ブロック61 (Sb - 61) の石器	238
	出土石器	238
	分布・接合状況	239
	母岩別資料	240
06	白滝I群以外石器ブロック外の石器	240
	出土石器	240
	分布	241
07	表土(重機調査)の石器	241
	出土石器	241
08	斜面部(重機調査)の石器	242
	出土石器	243
	分布・接合状況	247
	母岩別資料	247
08	低位部・石器ブロック62・63 (Sb - 62・63) の石器	248
	出土石器	248
	分布	249
V	上門滝6遺跡の調査(平成13年度調査分)	251
1	調査の概要	251
(1)	調査要項	251
(2)	調査体制	251
(3)	調査日誌抄	251
(4)	発掘区の設定	252
(5)	土層	252
(6)	調査の方法	254

(7) 整理の方法	254
(8) 調査結果の概要	257
2 遺構と遺物	258
(1) 遺物分布と石器ブロック	258
(2) 石器ブロック4 (Sb-4) の石器	261
出土石器	261
分布・接合状況	261
(3) 石器ブロック5 (Sb-5) の石器	264
出土石器	264
分布・接合状況	266
母岩別資料	266
VI 白滝第30地点遺跡の調査	269
1 調査の概要	269
(1) 調査要項	269
(2) 調査体制	269
(3) 調査口誌抄	271
(4) 発掘区の設定	271
(5) 土層	272
(6) 調査の方法	272
(7) 整理の方法	272
(8) 調査結果の概要	274
2 遺構と遺物	275
(1) 炭化木片ブロック	276
(2) 遺物分布と石器ブロック	278
(3) 石器ブロック1 (Sb-1) の石器	278
出土石器	278
分布・接合状況	279
(4) 石器ブロック2 (Sb-2) の石器	279
出土石器	279
分布・接合状況	279
(5) 石器ブロック外・表土層の石器	279
VII 自然科学的分析等	281
1 放射性炭素年代測定	281
2 上白滝8遺跡出土黒曜石のフィッシュントラック年代測定	285
3 上白滝8遺跡の堆積層・古植生の検討	287
4 上白滝8・上白滝6遺跡出土の黒曜石製石器の原材産地分析および非破壊分析による水和量の測定	298
VIII まとめ	321
1 上白滝8遺跡「白滝I群」(Sb-1~13) について	321
2 上白滝8遺跡「白滝I群」以外について	337

(1) A区・石器ブロック14~19 (Sb-14~19)	337
(2) B区・石器ブロック20~29 (Sb-20~29)	343
(3) C区・石器ブロック30~35 (Sb-30~35)	347
(4) D区・石器ブロック36~55 (Sb-36~55)	350
(5) E区・石器ブロック56~60 (Sb-56~60)	357
(6) F区・石器ブロック61 (Sb-61)	358
(7) 斜面部	360
引用文献	362
掲載遺物一覧	365

第1分冊(本文編)挿図目次

調査の概要

図I-1 ルート変更図	5
図I-2 器種分類①	10
図I-3 器種分類②	11
図I-4 器種分類③	12
図I-5 器種分類④・計測の基準	13
図I-6 白滝遺跡群調査区域図	19
図I-7 奥白滝11・服部台2遺跡調査区域・遺物分布図	22
図I-8 奥白滝1遺跡調査区域・遺物分布図	23
図I-9 上白滝8遺跡調査区域・遺物分布図	25
図I-10 上白滝2・上白滝5遺跡調査区域・遺物分布図	27
図I-11 上白滝6遺跡調査区域・遺物分布図	29
図I-12 上白滝7・北支通別4遺跡調査区域・遺物分布図	31
図I-13 白滝第30地点・白滝8遺跡調査区域・遺物分布図	32
図I-14 白滝18遺跡調査区域・遺物分布図	33
図I-15 白滝3・F白滝遺跡調査区域・遺物分布図	34
図I-16 旧白滝9・旧白滝8遺跡調査区域・遺物分布図	35
図I-17 白滝遺跡群出土石器①	36
図I-18 白滝遺跡群出土石器②	37
遺跡の位置と周辺の環境	
図II-1 白滝村の位置と村内の遺跡	42
図II-2 奥白滝11・上白滝8・上白滝6・白滝第30地点遺跡の位置と周辺の遺跡	43
図II-3 段丘面分布図	45
図II-4 基本土層図	48
図II-5 調査遺跡・黒曜石露頭位置図	50

奥白滝11遺跡の調査

図III-1 調査範囲・発掘区設定図	55
図III-2 発掘区域地形・上層断面図	57
図III-3 遺物分布・接合分布・石器ブロック設定図	58

上白滝8遺跡の調査

図IV-1 調査範囲・発掘区設定図	71
図IV-2 上層概略図①	72
図IV-3 上層概略図②	73
図IV-4 上層概略図③	74
図IV-5 土層断面図①	76
図IV-6 土層断面図②	77
図IV-7 土層断面図③	78
図IV-8 土層断面図④	79
図IV-9 上層断面図⑤	80
図IV-10 上層断面図⑥	81
図IV-11 調査範囲・報告地区・発掘区域地形図	83
図IV-12 炭化木片ブロック分布図	91
図IV-13 炭化木片ブロックの平面・断面図①	92
図IV-14 炭化木片ブロックの平面・断面図②	94
図IV-15 炭化木片ブロックの平面・断面図③	96
図IV-16 遺物分布①・接合分布図①	106
図IV-17 遺物点数①・密度分布①・石器ブロック設定図①	107
図IV-18 遺物分布②・遺物点数②・密度分布②	108
図IV-19 接合分布図②	109
図IV-20 石器ブロック設定②・区域設定・接合分布③	110
図IV-21 石器ブロック設定図③	111
図IV-22 器種・石材別分布図①	114
図IV-23 器種・石材別分布図②	115

図Ⅳ-24	器種・石材別分布図③	116	図Ⅴ-6	珪藻化石・植物珪酸体	297
図Ⅳ-25	器種・石材別分布図④	117	図Ⅴ-7	黒曜石原産地	304
図Ⅳ-26	器種・石材別分布図⑤	120	図Ⅴ-8	黒曜石水和層の十沙波スペクトル	312
図Ⅳ-27	器種・石材別分布図⑥	121	図Ⅴ-9	産地分析・水和層測定試料①	314
図Ⅳ-28	器種・石材別分布図⑦	122	図Ⅴ-10	産地分析・水和層測定試料②	315
図Ⅳ-29	器種・石材別分布図⑧	123	図Ⅴ-11	産地分析・水和層測定試料③	316
図Ⅳ-30	器種・石材別分布図⑨	124	図Ⅴ-12	産地分析・水和層測定試料④	317
図Ⅳ-31	器種・石材別分布図⑩	125	図Ⅴ-13	産地分析・水和層測定試料⑤	318
図Ⅳ-32	器種・石材別分布図⑪	126	図Ⅴ-14	産地分析・水和層測定試料⑥	319
図Ⅳ-33	器種・石材別分布図⑫	127	図Ⅴ-15	産地分析・水和層測定試料⑦	320
図Ⅳ-34	器種・石材別分布図⑬	128	まとめ		
図Ⅳ-35	器種・石材別分布図⑭	129	図Ⅴ-1	「白滝1群」石器組成図①	322
図Ⅳ-36	器種・石材別分布図⑮	130	図Ⅴ-2	「白滝1群」石器組成図②	323
上白滝6遺跡の調査②			図Ⅴ-3	二次加工ある剥片の長幅比	324
図Ⅴ-1	調査範囲・発掘区設定図①	253	図Ⅴ-4	石器ブロック群別二次加工ある剥片の素材と加工	324
図Ⅴ-2	発掘区設定②・調査範囲図	255	図Ⅴ-5	「白滝1群」母岩別資料①	326
図Ⅴ-3	発掘区城地形・土層断面図	256	図Ⅴ-6	「白滝1群」母岩別資料②	328
図Ⅴ-4	遺物分布・接合分布図	259	図Ⅴ-7	「白滝1群」母岩別資料③	329
図Ⅴ-5	石器ブロック設定図	260	図Ⅴ-8	「白滝1群」母岩別資料④	330
図Ⅴ-6	器種・石材別分布図①	262	図Ⅴ-9	「白滝1群」母岩別資料⑤	332
図Ⅴ-7	器種・石材別分布図②	263	図Ⅴ-10	「白滝1群」母岩別資料⑥	333
白滝第30地点遺跡の調査			図Ⅴ-11	A区(Sb-14~19)石器組成図	338
図Ⅵ-1	調査範囲・発掘区設定図	270	図Ⅴ-12	A区(Sb-14~19)燧石刃関連資料	339
図Ⅵ-2	発掘区城地形・土層断面図	273	図Ⅴ-13	A区(Sb-14~19)母岩別資料	340
図Ⅵ-3	炭化木片ブロックの平面・断面図	275	図Ⅴ-14	B区(Sb-20~29)石器組成図	344
図Ⅵ-4	遺物分布・接合分布・石器ブロック設定図	277	図Ⅴ-15	B区(Sb-20~29)母岩別資料	345
自然科学的分析等			図Ⅴ-16	C区(Sb-30~35)石器組成図	348
図Ⅶ-1	フィッシュトラック年代測定試料	286	図Ⅴ-17	C区(Sb-30~35)母岩別資料	349
図Ⅶ-2	上白滝8遺跡サンプル採取地点と各地点の柱状図	288	図Ⅴ-18	D区(Sb-36~55)石器組成図①	352
図Ⅶ-3	上白滝8遺跡S27区南壁の粒径加積曲線(1)	291	図Ⅴ-19	D区(Sb-36~55)石器組成図②	353
図Ⅶ-4	上白滝8遺跡S27区南壁の粒径加積曲線(2)	292	図Ⅴ-20	D区(Sb-36~55)母岩別資料①	354
図Ⅶ-5	上白滝8遺跡高頭1地点の主要珪藻化石群集	293	図Ⅴ-21	D区(Sb-36~55)母岩別資料②	355
			図Ⅴ-22	E区(Sb-56~60)(上段)・F区(Sb-61)(下段)石器組成図・母岩別資料	359
			図Ⅴ-23	斜面部細石刃関連資料	361

第1分冊(本文編)表目次

調査の概要

表Ⅰ-1	白滝遺跡群遺跡別・調査年別面積一覧	17
表Ⅰ-2	白滝遺跡群遺跡別出土点数等一覧	17
遺跡の位置と周辺の環境		
表Ⅱ-1	白滝村の遺跡一覧	43
奥白滝11遺跡の調査		
表Ⅲ-1	奥白滝11遺跡出土遺物点数・重量一覧	59
表Ⅲ-2	奥白滝11遺跡出土遺物石質別一覧	59

表Ⅲ-3	奥白滝11遺跡出土点取り遺物ブロック・石質別一覧	60
表Ⅲ-4	奥白滝11遺跡出土原礫に残存・被熱石器・燧	60
上白滝8遺跡の調査		
表Ⅳ-1	上白滝8遺跡東地区出土遺物点数・重量一覧	86
表Ⅳ-2	上白滝8遺跡東地区出土遺物石質別一覧	87

表Ⅳ-3	上白滝8遺跡東地区炭化木片ブロック一覽	89
表Ⅳ-4	上白滝8遺跡東地区出土炭化材樹種同定結果一覽	90
表Ⅳ-5	上白滝8遺跡東地区内上点取り遺物ブロック・石質別一覽(1)	98
表Ⅳ-6	上白滝8遺跡東地区内上点取り遺物ブロック・石質別一覽(2)	99
表Ⅳ-7	上白滝8遺跡東地区内上点取り遺物ブロック・石質別一覽(3)	100
表Ⅳ-8	上白滝8遺跡東地区内上点取り遺物ブロック・石質別一覽(4)	101
表Ⅳ-9	上白滝8遺跡東地区内上点取り遺物ブロック・石質別一覽(5)	102
表Ⅳ-10	上白滝8遺跡東地区内上点取り遺物ブロック・石質別一覽(6)	103
表Ⅳ-11	上白滝8遺跡東地区内上点取り遺物ブロック・石質別一覽(7)	104
表Ⅳ-12	上白滝8遺跡東地区内上点取り遺物ブロック・石質別一覽(8)	105
表Ⅳ-13	上白滝8遺跡東地区出土原礫面残存・被熱石器一覽	132
上白滝6遺跡の調査(2)		
表Ⅴ-1	上白滝6遺跡出土遺物点数・重量一覽	257
表Ⅴ-2	上白滝6遺跡出土遺物石質別一覽	257
表Ⅴ-3	上白滝6遺跡出土点取り遺物ブロック・石質別一覽	261
表Ⅴ-4	上白滝6遺跡出土原礫面残存・被熱石器一覽	261
白滝第30地点遺跡の調査		
表Ⅵ-1	白滝第30地点遺跡出土遺物点数・重量一覽	274
表Ⅵ-2	白滝第30地点遺跡出土遺物石質別一覽	274
表Ⅵ-3	白滝第30地点遺跡炭化木片ブロック一覽	276
表Ⅵ-4	白滝第30地点遺跡出土点取り遺物ブロック・石質別一覽	276
表Ⅵ-5	白滝第30地点遺跡出土原礫面残存・被熱石器一覽	276
自然科学的分析等		
表Ⅶ-1	放射性炭素年代測定一覽	284

表Ⅷ-2	上白滝8遺跡出土黒曜石のフィッシュントラック年代測定結果	286
表Ⅷ-3	上白滝8遺跡 S27区南壁の粒度分析結果	289
表Ⅷ-4	上白滝8遺跡 S27区南壁の粒度分析評価結果	289
表Ⅷ-5	上白滝8遺跡各地点の珪藻分析結果	293
表Ⅷ-6	上白滝8遺跡 S27区南壁の花粉分析結果	295
表Ⅷ-7	上白滝8遺跡 S27区南壁の植物珪酸体分析結果	295
表Ⅷ-8	各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値(1)	300
表Ⅷ-9	各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値(2)	301
表Ⅷ-10	各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値(3)	302
表Ⅷ-11	湯別川河口域の河床から採取した247個の黒曜石内蔵の分類結果	304
表Ⅷ-12	常呂川(小ノ島～北見大橋)から採取した37個の黒曜石内蔵の分類結果	304
表Ⅷ-13	上白滝8・上白滝6遺跡出土黒曜石製造物の元素比分析結果(1)	306
表Ⅷ-14	上白滝8・上白滝6遺跡出土黒曜石製造物の元素比分析結果(2)	307
表Ⅷ-15	上白滝8・上白滝6遺跡出土黒曜石製造物の原材産地推定結果(1)	308
表Ⅷ-16	上白滝8・上白滝6遺跡出土黒曜石製造物の原材産地推定結果(2)	309
表Ⅷ-17	上白滝8・上白滝6遺跡出土黒曜石製造物の水相厚測定結果	311

まとめ

表Ⅷ-1	二次加工ある剥片の素材と加工	324
表Ⅷ-2	母岩別資料接合・分布状況	334
掲載遺物一覽		
表1	奥白滝11遺跡掲載石器一覽	365
表2	上白滝8遺跡掲載石器一覽	365
表3	上白滝8遺跡掲載接合資料一覽	400
表4	上白滝6遺跡掲載石器一覽	482
表5	上白滝6遺跡掲載接合資料一覽	483
表6	白滝第30地点遺跡掲載石器一覽	484

第2分冊(石器実測・分布図編)挿図目次抜粋

奥白滝11遺跡の調査		
図Ⅲ-4	Sb-1の石器	1
図Ⅲ-5・6	Sb-1の分布・接合分布図	2
上白滝8遺跡の調査		
図Ⅳ-37~43	Sb-1~3の石器	5

図Ⅳ-44~47	Sb-1~3の分布・接合分布図	12
図Ⅳ-48~67	Sb-1~3の接合資料	16
図Ⅳ-68~81	Sb-4~6の石器	36
図Ⅳ-82~92	Sb-4~6の分布・接合分布図	50
図Ⅳ-93~133	Sb-4~6の接合資料	61

図Ⅳ-134-136	Sb-7・8の石器	102
図Ⅳ-137-139	Sb-7・8の分布・接合分布図	105
図Ⅳ-140-157	Sb-7・8の接合資料	108
図Ⅳ-158-162	Sb-9の石器	126
図Ⅳ-163-166	Sb-9の分布・接合分布図	131
図Ⅳ-167-180	Sb-9の接合資料	135
図Ⅳ-181-183	Sb-10の石器	149
図Ⅳ-184・185	Sb-10の分布・接合分布図	152
図Ⅳ-186	Sb-10の接合資料	154
図Ⅳ-187-190	Sb-11-13の石器	155
図Ⅳ-191-191	Sb-11-13の分布・接合分布図	159
図Ⅳ-195-207	Sb-11-13の接合資料	163
図Ⅳ-208	石器ブロック外の石器、分布図	176
図Ⅳ-209-244	A区(Sb-14-19)の石器	177
図Ⅳ-245-257	A区(Sb-14-19)の分布・接合分布図	213
図Ⅳ-258-290	A区(Sb-14-19)の接合資料	226
図Ⅳ-291-328	B区(Sb-20-29)の石器	259
図Ⅳ-329-343	B区(Sb-20-29)の分布・接合分布図	297
図Ⅳ-344-375	B区(Sb-20-29)の接合資料	312
図Ⅳ-376-388	C区(Sb-30-35)の石器	344
図Ⅳ-389-394	C区(Sb-30-35)の分布・接合分布図	357
図Ⅳ-395-407	C区(Sb-30-35)の接合資料	363
図Ⅳ-408-464	D区(Sb-36-55)の石器	376

図Ⅳ-465-487	D区(Sb-36-55)の分布・接合分布図	433
図Ⅳ-488-542	D区(Sb-36-55)の接合資料	456
図Ⅳ-543-546	E区(Sb-56-60)の石器	511
図Ⅳ-547-551	E区(Sb-56-60)の分布・接合分布図	515
図Ⅳ-552・553	E区(Sb-56-60)の接合資料	520
図Ⅳ-554-558	F区(Sb-61)の石器	522
図Ⅳ-559-562	F区(Sb-61)の分布・接合分布図	527
図Ⅳ-563・564	F区(Sb-61)の接合資料	531
図Ⅳ-565・566	石器ブロック外の石器、分布図	533
図Ⅳ-567-575	表上(重機調査)の石器	535
図Ⅳ-576-594	斜面部の石器	544
図Ⅳ-595-599	斜面部の分布図	563
図Ⅳ-600	斜面部の接合資料	568
図Ⅳ-601	Sb-62・63(低位部)の石器、分布図	569
上白滝6遺跡の調査(2)		
図Ⅴ-8・9	Sb-4の石器、分布・接合分布図	571
図Ⅴ-10-13	Sb-5の石器	573
図Ⅴ-14-16	Sb-5の分布・接合分布図	577
図Ⅴ-17-19	Sb-5の接合資料	580
白滝第30地点遺跡の調査		
図Ⅵ-5・6	Sb-1の石器	583
図Ⅵ-7	Sb-1の分布・接合分布図	585
図Ⅵ-8	Sb-2の分布・接合分布図	586

第3分冊(写真図版)目次抜粋

奥白滝11遺跡の調査

図版1	空中写真
図版2	調査状況
図版3	Sb-1の調査・遺物
図版4	Sb-1の石器
上白滝6遺跡の調査	
図版5・6	空中写真
図版7	遺跡近景
図版8-17	調査状況
図版18・19	上層断面
図版20-24	炭化木片ブロック
図版25	Sb-2・3の調査・遺物
図版26	Sb-3・4の調査・遺物
図版27	Sb-5の調査・遺物
図版28	Sb-5・6の調査・遺物
図版29	Sb-7-9の調査・遺物
図版30	Sb-9の調査・遺物
図版31	Sb-11・12の調査・遺物
図版32	Sb-15-17の調査・遺物

図版33・34	Sb-17の調査・遺物
図版35	Sb-18-21の調査・遺物
図版36	Sb-21・23の調査・遺物
図版37	Sb-24・25の調査・遺物
図版38	Sb-25・27の調査・遺物
図版39-42	Sb-27の調査・遺物
図版43	Sb-27・28の調査・遺物
図版44	Sb-28の調査・遺物
図版45	Sb-28・30・32の調査・遺物
図版46	Sb-33・34の調査・遺物
図版47	Sb-33-35の調査・遺物
図版48	Sb-35の調査・遺物
図版49	Sb-35-37の調査・遺物
図版50	Sb-37・38の調査・遺物
図版51	Sb-38-40・42・43の調査・遺物
図版52	Sb-43・44の調査・遺物
図版53	Sb-44の調査・遺物
図版54	Sb-45・46の調査・遺物
図版55・56	Sb-46の調査・遺物

- 図版57～61 Sb-47の調査・遺物
 図版62 Sb-48～51の調査・遺物
 図版63 Sb-51・52の調査・遺物
 図版64 Sb-52～54の調査・遺物
 図版65 Sb-56・57・59・60の調査・遺物
 図版66 Sb-61の調査・遺物
 図版67 石器ブロック外・低位部の調査・遺物
 図版68～79 Sb-1～3の石器
 図版80～109 Sb-4～6の石器
 図版110～123 Sb-7・8の石器
 図版124～130 Sb-9の石器
 図版131・132 Sb-10の石器
 図版133～141 Sb-11～13の石器
 図版142 Sb-11～13・白滝I群石器ブロック外の石器
 図版143～193 A区(Sb-14～19)の石器
 図版194～255 B区(Sb-20～29)の石器
 図版256～278 C区(Sb-30～35)の石器
 図版279～356 D区(Sb-36～55)の石器
 図版357～361 E区(Sb-56～60)の石器
 図版362～365 F区(Sb-61)の石器
 図版366 石器ブロック外の石器
 図版367～371 表土(重機調査)の石器
 図版372～385 斜面部の石器
 図版386 斜面部・低位部の石器
上白滝6遺跡の調査2)
 図版387 空中写真
 図版388～390 調査状況
 図版391～393 Sb-5の調査
 図版394 Sb-4・5の石器
 図版395～400 Sb-5の石器
白滝第30地点遺跡の調査
 図版401 空中写真
 図版402 調査状況
 図版403 調査状況、土層ほか
 図版404 Sb-1の調査・遺物
 図版405 Sb-1・2の調査・遺物
 図版406 Sb-1・2の石器ほか

I 調査の概要

1 調査要項

事業名 一般国道450号白滝丸瀬布道路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査（平成14年度）

委託者 国土交通省北海道開発局網走開発建設部

受託者 財団法人北海道埋蔵文化財センター

遺跡名・所在地・調査面積・調査期間

調査年度	遺跡名	遺跡番号	所在地	調査面積(m ²)	調査期間（現地調査）
平成7年度	上白滝8	I-20-91	紋別郡白滝村字上白滝179-1,181	6,600	平成7年4月17日～平成8年3月25日 (平成7年5月8日～10月25日)
平成8年度	上白滝8	I-20-91	紋別郡白滝村字上白滝179-1,181-2,181-3	10,212	平成8年4月11日～平成9年3月31日 (平成8年5月8日～10月30日)
	上白滝2	I-20-48	紋別郡白滝村字上白滝177-2,177-3	2,995	
小計				13,207	
平成9年度	奥白滝1	I-20-50	紋別郡白滝村字上白滝183-5	5,340	平成9年4月11日～平成10年3月31日 (平成9年5月6日～10月25日)
	上白滝8	I-20-91	紋別郡白滝村字上白滝181-4,182-3	320	
	上白滝2	I-20-48	紋別郡白滝村字上白滝176-2,177-3	3,930	
	上白滝5	I-20-88	紋別郡白滝村字上白滝123-3	3,728	
	上白滝7	I-20-90	紋別郡白滝村字上白滝219-3	7,413	
小計				20,761	
平成10年度	服部台2	I-20-13	紋別郡白滝村字奥白滝18-3	3,812	平成10年4月10日～平成11年3月31日 (平成10年5月6日～10月24日)
	奥白滝1	I-20-50	紋別郡白滝村字上白滝183-5	2,067	
	上白滝5	I-20-88	紋別郡白滝村字上白滝123-3	4,132	
	上白滝6	I-20-89	紋別郡白滝村字上白滝123-3,122-3	6,953	
	上白滝7	I-20-90	紋別郡白滝村字上白滝219-3	5,150	
	上白滝8	I-20-91	紋別郡白滝村字上白滝181-4,182-3	86	
	北支藩部4	I-20-67	紋別郡白滝村字北支藩部7-1	5,472	
小計				27,642	
平成11年度	奥白滝11	I-20-65	紋別郡白滝村字奥白滝52-5	505	平成11年4月1日～平成12年3月31日 (平成11年5月6日～7月4日)
	服部台2	I-20-13	紋別郡白滝村字奥白滝18-3	2,002	
小計				2,507	
平成12年度	服部台2	I-20-13	紋別郡白滝村字奥白滝18-3	877	平成12年4月3日～平成13年3月30日 (平成12年5月8日～10月27日)
	奥白滝1	I-20-50	紋別郡白滝村字上白滝183-2	345	
	上白滝8	I-20-91	紋別郡白滝村字上白滝182-2	661	
	白滝308A	I-20-6	紋別郡白滝村字白滝382-4	636	
	白滝8	I-20-58	紋別郡白滝村字白滝146-1,146-2	834	
白滝18	I-20-92	紋別郡白滝村字白滝145,139-1	2,000		
小計				5,933	
平成13年度	上白滝6	I-20-89	紋別郡白滝村字上白滝123	670	平成13年4月2日～平成14年3月29日 (平成13年7月16日～9月14日)
	白滝3	I-20-36	紋別郡白滝村字白滝106ほか	2,900	
	下白滝	I-20-23	紋別郡白滝村字下白滝99-1	90	
小計				3,660	
平成14年度	旧白滝9	I-20-32	紋別郡白滝村字旧白滝438	3,280	平成14年4月1日～平成15年3月31日 (平成14年6月3日～10月25日)
	旧白滝8	I-20-31	紋別郡白滝村字旧白滝412	2,610	
	下白滝	I-20-23	紋別郡白滝村字下白滝99-1	2,250	
小計				8,240	
合計				88,570	

2 調査体制

財団法人北海道埋蔵文化財センター 理事長	伊藤一大 (平成10年5月31日まで)		
	大澤 満 (平成14年6月30日まで)		
	森重植一 (平成14年7月1日から)		
専務理事	佐藤哲人 (平成11年5月31日まで)	常務理事	柴田忠昭 (平成11年3月31日まで)
	宮崎 勝 (平成11年6月1日から)		木村尚俊 (平成13年7月17日まで)
			畑 宏明 (平成14年6月1日から)
業務部長	山内 清 (平成9年3月31日まで)	第1調査部長	畑 宏明 (平成11年8月15日まで)
	北條雅洋 (平成10年3月31日まで)		木村尚俊 (平成13年7月17日まで)
総務部長	中田 仁 (平成13年3月31日まで)		(兼務)
	柳瀬茂樹 (平成14年3月31日まで)		大沼忠春 (平成14年3月31日まで)
	下村一久 (平成14年4月1日から)		(兼務)
			畑 宏明 (平成14年4月1日から)
			(兼務)
平成7年度	第1調査部第3調査課課長	長沼 孝 (発掘担当者)	
	同 文化財保護主事	宗像公司 (発掘担当者)	
平成8年度	第1調査部第3調査課課長	長沼 孝 (発掘担当者)	
	同 文化財保護主事	藤井 浩 (発掘担当者)	
	同 文化財保護主事	宗像公司 (発掘担当者)	
	同 文化財保護主事	坂本尚史	
	同 文化財保護主事	鈴木宏行	
	同 文化財保護主事	直江康雄	
平成9年度	第1調査部第3調査課課長	長沼 孝 (発掘担当者)	
	同 主任	越田雅司 (発掘担当者)	
	同 文化財保護主事	宗像公司 (発掘担当者)	
	同 文化財保護主事	坂本尚史	
	同 文化財保護主事	鈴木宏行	
	同 文化財保護主事	直江康雄	
平成10年度	第1調査部第3調査課課長	長沼 孝 (発掘担当者)	
	同 主任	越田雅司 (発掘担当者)	
	同 文化財保護主事	宗像公司 (発掘担当者)	
	同 文化財保護主事	坂本尚史	
	同 文化財保護主事	鈴木宏行	
	同 文化財保護主事	直江康雄	
平成11年度	第1調査部第3調査課課長	長沼 孝 (発掘担当者)	
	同 主任	越田雅司 (発掘担当者)	

	同	主任	鈴木宏行
	同	文化財保護主事	坂本高史
	同	文化財保護主事	佐藤 剛
	同	文化財保護主事	直江康雄 (発掘担当者)
	同	文化財保護主事	福井淳一
平成12年度	第1調査部第3調査課課長		長沼 孝 (発掘担当者)
	同	主任	越田雅司 (発掘担当者)
	同	主任	鈴木宏行 (発掘担当者)
	同	文化財保護主事	直江康雄 (発掘担当者)
平成13年度	第1調査部第3調査課課長		長沼 孝 (発掘担当者)
	同	主任	鈴木宏行 (発掘担当者)
	同	文化財保護主事	直江康雄
平成14年度	第1調査部第3調査課課長		長沼 孝 (発掘担当者)
	同	主任	鈴木宏行 (発掘担当者)
	同	主任	立田 理 (発掘担当者)
	同	文化財保護主事	直江康雄 (発掘担当者)

3 調査に至る経過

昭和62年に建設大臣によって指定された全国の高規格幹線道路網14,000kmのうち、北海道の整備道路は、1,828kmである。このうち日本道路公団が国土開発幹線道路として北海道縦貫・横断自動車道としての整備予定が1,378km、北海道開発局が一般国道の自動車専用道路として整備予定の五路線（日高・深川・留萌・旭川・紋別、帯広・広尾、函館・江差）が450kmとなっている。

旭川・紋別自動車道は、始点が旭川市で、比布町、愛別町、上川町、白滝村、九瀬布町、遠軽町、上湧別町、湧別町を經由して終点のオホーツク海に面した紋別市に至る延長130kmの路線である。この路線のうち上川町上越から北見峠を抜ける北大雪トンネルを通り白滝村へ至る上越白滝道路については、白滝村における遺跡の密集地帯を通ることから、平成4年7月に埋蔵文化財保護のための事前協議書が北海道開発局網走開発建設部より北海道教育委員会あてに提出された。

同年8月の北海道教育委員会による所在確認調査を経て、平成5年7～11月には範囲確認調査が服部台、服部台2、白滝第4・30地点遺跡および同指定史跡「白滝遺跡」の隣接地などにおいて行われ、20haにおよぶ広範囲の遺跡が確認された。その後、遺跡の保存についての協議が関係者においてなされると同時に、北海道考古学会、日本考古学協会などからも保存要望書が提出され、その動向が学会でも注目されることとなった。

そのような状況で、大規模かつ重要な遺跡が密集する八号沢川と湧別川の合流点付近について路線の変更がなされ（図I-1）、奥白滝11・奥白滝12・服部台・服部台2・奥白滝1・上白滝8遺跡の6か所の主要部分について現状保存がはかられた。しかし、変更が困難な区域については事前の発掘調査が必要となり、平成7年から（財）北海道埋蔵文化財センターと白滝村教育委員会による発掘調査が開始された。平成11年度には、大規模な遺跡の密集する奥白滝、上白滝地区の本線部分については調査が終了し、現場調査の峠を越した。

平成12年度は、白滝IC手前の本線部分にあたる白滝8・白滝18遺跡と防雪柵設置のための服部台2・奥白滝1・上白滝8・白滝第30地点遺跡の調査を行った。白滝8遺跡は当初工事立会区域であっ

たが、表土を除去したところ遺物が確認されたので、発掘調査を行った。また、白滝18遺跡は平成11年度に調査予定であったが、用地買収の関係で調査が平成12年度に変更された。服部台2・奥白滝1・上白滝8・白滝第30地点の4遺跡の防雪柵設置に伴う調査は、道路用地の北側境界に接した3m幅のトレンチ調査であった。服部台2遺跡では、天狗平踏道橋の設置部分の追加調査もあり、一部平成10・11年の調査区と接している。奥白滝1遺跡では、平成9年の調査区とは8mの間隔がある。上白滝8遺跡では、当初用地幅までの調査を行っていた関係で、西側100mの調査で終了する予定であったが、平成8年調査の本線部分との間隔がわからなかったことと、防雪柵設置位置の関係から、用地内をすべて調査することとした。白滝第30地点遺跡では、白滝村教育委員会調査の白滝第4地点遺跡の調査区域に隣接し、白滝第30地点遺跡の調査区域とは、8～10mの間隔がある。

平成12年度で、白滝ICまでの調査は概ね終了したが、平成13年度において、上白滝6遺跡の工事用道路と白滝3遺跡のインターチェンジに防帯する道路部分の調査を2か月間行った。また、白滝ICから隣町の丸瀬布ICまでのちょうど中間点に位置する下白滝遺跡の小規模調査を実施した。

平成14年度は白滝IC～丸瀬布IC間の昨年調査した下白滝遺跡のほか、祝賀沢川左岸の旧白滝8遺跡、同右岸の旧白滝9遺跡の3か所の調査を行った。いずれも低位の段丘面で、耕作などによる擾乱が著しいが、土器などの出土もあり、縄文～統縄文時代の遺跡とみられる。今までの調査とは異なった石器類がみられ、空白であった縄文時代以降の白滝遺跡群の状況を知ることができる貴重な資料が得られた。

平成15年度は平成14年度に調査した旧白滝8遺跡と隣接する高台に位置する旧白滝5遺跡のほか、丸瀬布町の中島遺跡などを調査する予定である。

平成7～14年度の8年間で(財)北海道埋蔵文化財センターが調査したのは、奥白滝11・服部台2・奥白滝1・上白滝8・上白滝2・上白滝5・上白滝6・上白滝7・北支湧別4・白滝第30地点・白滝8・白滝18・白滝3・旧白滝9・旧白滝8・下白滝遺跡など16遺跡、面積は88,570㎡、白滝村教育委員会が平成7～10年度の4年間で調査したのは、白滝第4・30地点の2遺跡、面積は20,123㎡である。現時点における白滝村での発掘調査面積は、108,693㎡である。

また、現状保存された奥白滝11・奥白滝12・服部台・服部台2・奥白滝1・上白滝8遺跡の6か所については、旧路線および新路線との間の部分を加えた204,352.33㎡について、関係者の努力により平成10年に国指定史跡に追加され、すでに指定済の「白滝遺跡」(白滝第13地点遺跡)と合わせて「白滝遺跡群」(面積226,250.33㎡)として名称変更された。さらに白滝村による指定地の公有化作業も終了し、将来的な史跡の整備・活用の検討が行われている。

4 調査概要

(1) 発掘区の設定

発掘区は基本的にアルファベットの英文字と数字の組合せで表示し、規格は4×4mとした。各遺跡の設定は、道路工事の測点SPを基準に行った。ただし、工事路線の変更があった関係で、変更部分にあたる奥白滝11・服部台2・奥白滝1・上白滝8・上白滝2遺跡までは、新路線の測点を基準点とし、路線変更のなかった上白滝6・上白滝7・北支湧別4・白滝第30地点・白滝8・白滝18遺跡は当初計画の測点を使用した。また、上白滝5遺跡は、変更のなかった部分であるが、上白滝2遺跡と連続して発掘区を設定した関係で、変更後の測点を使用した。いずれの発掘区も公共座標の測量成果を示しておくので、それぞれの位置関係の把握において問題はないと考えられる。しかし、変更部分

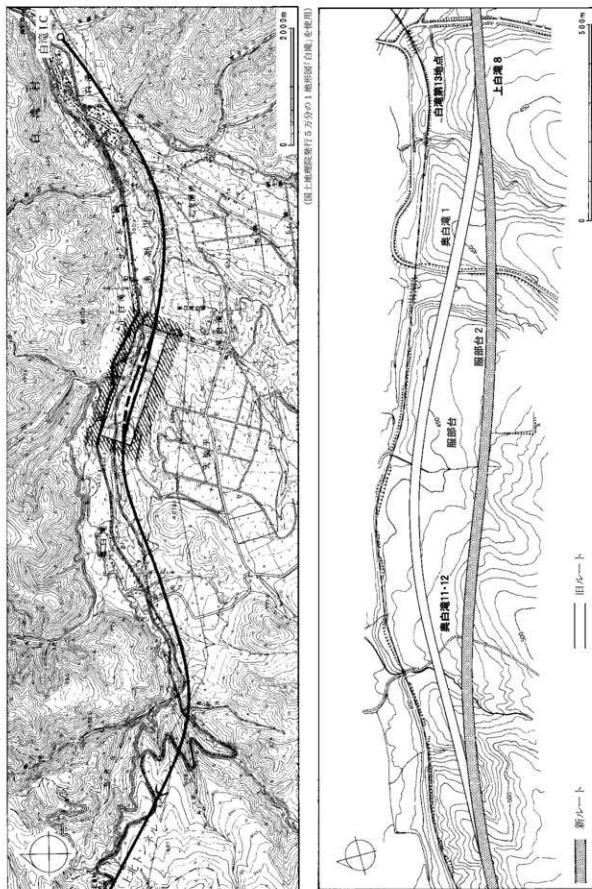


図1-1 ルート変更図

の測点を基準にした奥白滝11・服部台2・奥白滝1・上白滝8・上白滝2・上白滝5遺跡の6か所については、「白滝遺跡群Ⅰ」（坂本ほか 2000）で示した範囲確認調査の試掘穴を示した図と測点が若干ずれている点に注意願いたい。

発掘区の設定は、まず各遺跡において、区切りの良い測点2点を基準点として選び、その2点を通る直線を南北方向の基線とした。東西方向は、基準点を通り南北の基線に直交する直線を基線とした。

設定したラインの呼称は、南北方向をアルファベットの大文字、東西方向を数字とした。南北のアルファベットは、調査区をカバーすることを考え、北から南にアルファベット順に決めたが、基線のSPラインをMとした場合が多い。東西の数字は、測点の進行方向（西から東）に順次設定した。しかし、奥白滝1遺跡については、平成9年度に本線部分、平成10年度に工事道路部分の調査を行うこととなり、本線部分の発掘区の設定で、工事道路部分をカバーできない状況が生じた。したがって、平成10年度の調査区では平成9年度の発掘区の方向を変えないで、南北方向のアルファベットを小文字にし、さらに東西方向の数字を若干ずらして変更した。また、平成12年度の防雪柵設置に伴う調査においては、本線部分の調査の際に設定した発掘区を復元した。

白滝第30地点遺跡は、白滝村教育委員会による調査が行われていたが、当センターにおいては初めての調査であったので、新たに発掘区を設定した。しかし、白滝村教育委員会の設定した発掘区と方向は同じにした。

平成13・14年度調査の下白滝遺跡と平成14年度調査の旧白滝8・9遺跡は用地の境界杭を発掘区設定の基準とした。

発掘区の呼称は、4m四方区画の北西隅の交点で表示した。例えばMラインと10ラインの交点の南東側がM10区ということになる。

各遺跡の基準点と発掘区設定の状況は、各遺跡の報告で詳しく説明する。 （長沼 孝）

（2）調査の方法

調査区域の現況は、わずかの畑地がみられるものの大部分は白樺などを中心とした山林で、笹が一面に生い茂った状態であった。試掘調査時に立木の伐採は終了していたので、今回は、重機による伐根と笹根の除去から調査を開始した。ただし、かつて畑地として利用していた服部台2・奥白滝1・上白滝8・上白滝2遺跡などでは、笹の根に混じって黒曜石片が一面にみられるところもあり、重機による笹根の除去を最小限にした場所もある。

発掘調査は、4×4mの発掘区単位で進め、I層（表土および耕作土）の遺物は一括して取り上げ、遺物包含層であるII層の遺物は、基本的に出土位置を計測して発掘区単位で遺物番号を付けて取り上げた。しかし、指先より小さい剥片類については、発掘区単位で一括して取り上げた。さらに、砕片類が多い部分では、フレイク集中として範囲を記録して上ごと取り上げ、水洗処理した。地点の計測は、トータルステーションを使用し、さらに遺標・遺物データシステム（シン技術コンサル）にデータを蓄積すると同時に毎日遺物一覧表とドットマップ（分布図）を作成し、データのチェックと遺物の分布状況を把握しながら調査を進めた。現時点でのデータ数は506,738件、遺跡単位で管理し、最大は上白滝8遺跡の216,607件、最小は白滝第30地点遺跡の314件である。

いずれの遺跡も工事用地内以外に表土や排土の仮置き場の確保が困難であった。したがって、調査区域の全面的な同時展開は不可能で、いくつかに分割して調査を進めた。また、効率良い調査を進めるためには、排土の運搬距離や傾斜を十分考慮する必要があった。調査区域の分割状況は遺跡によって異なるが、大きく南北に二分し、さらに東西にいくつかに分けた場合が多い。

調査は、まず分割した範囲の四分の一の発掘区を行い（25%調査）、次に遺物分布の濃密な部分から順次進め、分割区域を順次終わらせた。また、急斜面や攪乱の著しい部分については、発掘区単位で、重機による掘り上げと人手による遺物採取を行った。さらに、25%調査によって遺物が全く出上らなかった部分については、最終的に重機を使用した駄目押し調査を行った。

焼上り炭化木片ブロックについては、現場で平面や断面の記録を作成した後に上壤ごとビニール袋に採取し、自然乾燥後に、フローテーション法（浮遊物を0.125mm、2 mm メッシュ、沈殿物を1 mm メッシュの土壤分析用のふるいで採取）により炭化木片などを採取した。さらに、得られた炭化木片の中から、大きく状態の良いものを抽出し、年代測定や樹種同定の試料とした。

さらに遺跡の地形環境や化石周水河作用、テフラなどが明瞭な状況で観察できる土層については、剥ぎ取りを行い保存した。（長沼 孝）

（3）整理の方法

遺物は雨天日などを利用し、基本的に現場で水洗作業を行った。その後、札幌の整理作業所に運び、注記などの整理作業を開始した。

遺物は、位置を記録した遺物（以下「点取り遺物」）と一括取り上げ遺物（以下「一括遺物」）の二つに分けることができ、それぞれ次の流れで作業を進めた。

点取り遺物

一次整理として、すべてについて注記作業を行い、次に器種分類、重量計測、石質、残存状況、打点・自然面・被熱の有無などの属性観察をして遺跡・遺物データベースに入力した。

注記は、遺跡名の代わりに道教委の登録番号、発掘区、遺物番号の順で行った。例えば、上白滝 8 遺跡の P30 区の遺物番号100は、「91P30・100」となる。重量は小数点 桁までの計測である。

石材の大部分を占める黒曜石に関しては絶対的なものではないが、肉眼的な特徴から黒色の「黒曜石1」、梨肌の「黒曜石2」、黒色に茶色の混じった（黒>茶）「黒曜石3」、茶色に黒色の混じった（茶>黒）「黒曜石4」、黒色に紫がかった茶色の混じった（黒>紫・茶）「黒曜石5」の5種類に分類した。ただし、梨肌で、黒色に茶色の混じった（黒>茶）ものなどは「黒曜石2の3」という表現を使うこともある。また、一つの原石においても部分的に異なる状況があるので、「黒曜石1・3」ということもある。

残存状況は欠損または完形、打点・自然面・被熱などは「有」または「無」の簡単な観察だけである。被熱は肉眼観察により、表面が光沢を失い、くもりガラスのような状態のものやうろこ状のひび割れがみられるものなどを「有」とした。

二次整理はおもに実測・接合作業である。接合作業は、定形的な石器類においては、まず折れ面接合を、次に同一母岩の石器類や剥片を探すようにした。剥片類は、先に分類した5種類の黒曜石毎に同一の石器ブロックないし発掘区のものを集めて作業を進めた。接合作業の実際は、折れ面接合の場合は瞬間接着剤を使用するが、剥離面接合の場合は、両面テープで仮止めしながら作業を進め、必要に応じて瞬間接着剤を使用した。また、重量のあるものや欠落部分の多いものなどについては、ホットボンドなどを使用して補強しながら作業を進めた。ある程度作業が進行した段階で、剥離工程を記録したカードを作成し、接合番号を付けた。接合番号は遺跡毎に付けたが、折れ面接合は50001から、剥離面接合は1からとした。したがって、剥離面接合資料に折れ面接合が含まれている場合は、1個体の接合資料で接合番号を複数あることがある。さらにこれらの作業で得られた接合資料のうち特徴的で同一母岩視できる資料を集め、母岩別資料として、遺跡毎に1から番号を付けた。資料の呼称は、

「母岩別資料」を略して「母岩」、「接合資料」を略して「接合」とし、母岩別資料の場合は「母岩5・接合100」、接合のみの場合は「接合55」、折れ面接合の場合は「接合50015」のように表示した。これらの接合、母岩などの二次的な属性データを先のシステムに追加入力し、現場での出土位置、一次整理の属性観察などのデータと共に遺跡単位で管理している。

石器の実測作業は、基本的に通常の方法で行っているが、大型の石器や接合資料などについては、超望遠レンズ（800～1200mm）を使用した90度展開の写真（プロカメラマン小川忠博氏に依頼）を使用して行っている。作業は、フジグラフプロジェクトンペーパーに焼き付けた実大プリントを、ライトボックス上で、セクショントレーシングペーパーで判断できる部分をなぞり、後は実物を見ながら補足する形で進めている。石核や複雑な接合資料などは面合わせの手間が省けるので、効率よく作業を進めることができる。また、大きな剥離面などでは、リングも十分読み取ることができる。さらにこの時撮影した写真を二分の一の通常印刷紙にプリントし、写真図版に接合資料として掲載した。

一括遺物

基本的に現場において、定形的な石器類の抜き出し、点数のカウントなどを行い、その後の作業は札幌の整理作業所で行った。抜き出した石器類は、一次整理として台帳を作成し、点取り遺物と同様に注記、属性観察を行い、二次整理の実測・接合作業を行う。剥片類は一括して重量を計測した後、必要に応じて点取り遺物の接合作業の対象遺物に加え、接合したもののみ、注記・属性観察などを行っている。その注記は、点取り遺物と区別するため、発掘区と台帳の整理番号の間に層位を記入した。例えば、上白滝8遺跡のP30区、Ⅱ層出土、台帳番号10の石器は、「91P30・Ⅱ・10」となる。

（長沼 孝）

（4）報告書の作成

平成7年度から始まった調査は、ある程度出土遺物量を予想して整理計画を作成していたが、具体的な計画は、遺物の状況が明らかになってから検討することとしていた。また、現地作業を優先した調査体制としていたため、夏期の整理作業においても調査員が常駐する体制が取れなかった。したがって当初の整理作業は注記、属性観察、接合作業、集計などの基礎的な作業を中心に行った。

平成10年度に本線部分の主要な調査がほぼ終了し、遺物量や接合状況が明らかになってきたので、平成11年度から報告書の作成を開始し、「白滝遺跡群Ⅰ」（平成11年度）、「白滝遺跡群Ⅱ」（平成12年度）、「白滝遺跡群Ⅲ」（平成13年度）を刊行し、本報告「白滝遺跡群Ⅳ」が4冊目となる。

調査状況や出土遺物の概要については、調査年度単位で（財）北海道埋蔵文化財センター調査年報8～15（（財）北海道埋蔵文化財センター 1996、1997、1998、1999、2000、2001、2002、2003）で紹介している。また、委託者より調査内容が比較的容易に理解できる資料作成の要請を受け、写真を中心とした調査概要として平成9年度に「白滝遺跡群を掘るⅠ（上白滝8遺跡の調査）」、平成10年度に「白滝遺跡群を掘るⅡ（上白滝2遺跡の調査）」、「白滝遺跡群を掘るⅢ（奥白滝1遺跡の調査）」を作成したが、報告書の刊行を開始した平成11年度以降、また他の遺跡については作成していない。

報告書は遺跡単位での作成を基本とし、年度単位で終了したものを1冊にまとめて刊行することとしている。ただし、平成12年度に行った防雪柵関連で調査した4か所の遺跡（服部台2・奥白滝1・上白滝8・白滝第30地点）のうち奥白滝1遺跡については、進行していた報告書作成作業に組み込むことができず、別途報告することとした。また、平成13年度に工事用道路建設に伴い実施した上白滝6遺跡の追加調査分については、本線部分の報告が平成12年度に刊行された関係で、今回の報告となった。また、上白滝8遺跡に関しては、出土量が多い関係で、二回に分けて報告することとし、今回

が一回目となった。

出土遺物量は膨大であるが、報告は基本的にどのようなものが、どのような状態で、どのくらい出たのかが理解できるように作成している。したがって、遺物の集計にあたっては、器種、石質別の点数、重量を明確に示すことにしている。遺物は層位的に分離できる状況ではないが、平面的にある程度のまとまりとして確認でき、それを「石器ブロック」と呼び、それを最低単位として、石器の組成、接合関係などから、単独または複数で「石器群」という形で捉えた。したがって、報告書では、石器群単位で定形的な石器を、次にその石器群を構成する石器ブロックの分布図、接合状況図を、最後にその石器群の接合資料を提示する形とした。定形的な石器類は、破片を含めてその石器群の器種組成が理解できるように配慮した。分布図は、まず全点の分布を示し、次に図を示した定形的な石器の出土位置が理解できる図を作成した。接合状況図は石器群単位での折れ面接合や全接合を示した。接合資料は、全体実測図を示し、その測距過程が分かるように測距模式図を作成し、また、可能なものについては、段階単位での実測図を作成したこともある。さらに接合破片のうち先の定形的な石器で提示しているものを接合資料の縮尺に合わせて再度示している。また、状況によっては剥片類でも実測図を作成して掲載したものもある。母岩別資料または接合資料においてもその接合破片、または母岩の分布状況を図で示した。

接合資料の中には、全体を写真のみで示し、剥離模式図や分布図のみ示したこともある。

実測図を示した石器、接合資料は基本的に写真図版に掲載すると同時に掲載遺物一覧として示すこととした。

各種分析については、遺跡単位で結果を報告することとしているが、状況によっては同時に分析した他の遺跡のものも報告する場合もある。

「調査結果の概要」は、報告書作成時の最新の集計データ、遺跡の内容を記載しているもので、報告書によって数値・内容が異なる部分があるので、注意願いたい。(長沼 孝)

(5) 遺構・遺物の分類

遺構の分類

確認された遺構は焼土と炭化木片ブロックである。土壌が赤褐色に変化し、火を焚いた痕跡と考えられるものを焼土とし、Fで表記した。明確な焼土を伴わずに炭化木片がまぎらって検出されたものを炭化木片ブロックとし、Cbで表記した。いずれも明確な掘り込みは伴わない。

遺物の分類

確認された遺物はすべて石器類である。これまでの研究史の中で確立し、広く一般的に認識されてきた器種分類を踏襲して以下のように分類した。また、二次加工技術や剥片剥離技術を基にした細分類は、必要に応じて行うこととする。

剥片 (FK)

石核・石刃核・細石刃核・石器(ツール)から剥離されたもので縦長剥片・石刃・細石刃・削片以外の石器。

石刃 (BL)

長さが幅の2倍以上で両側縁がほぼ平行し、それに平行する稜がある石器。

縦長剥片 (LF)

長さが幅の2倍以上で石刃に該当しない石器。

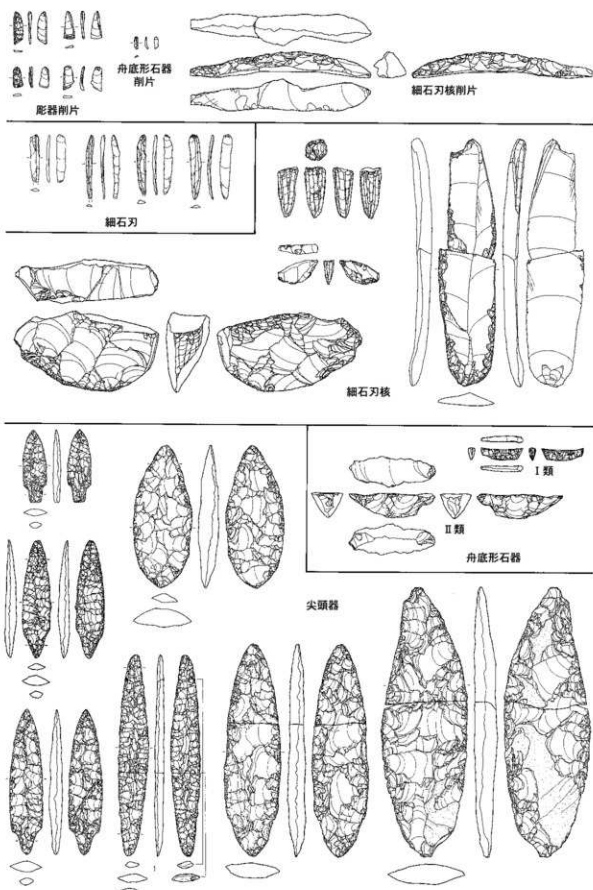


圖 I-2 器種分類 (1)

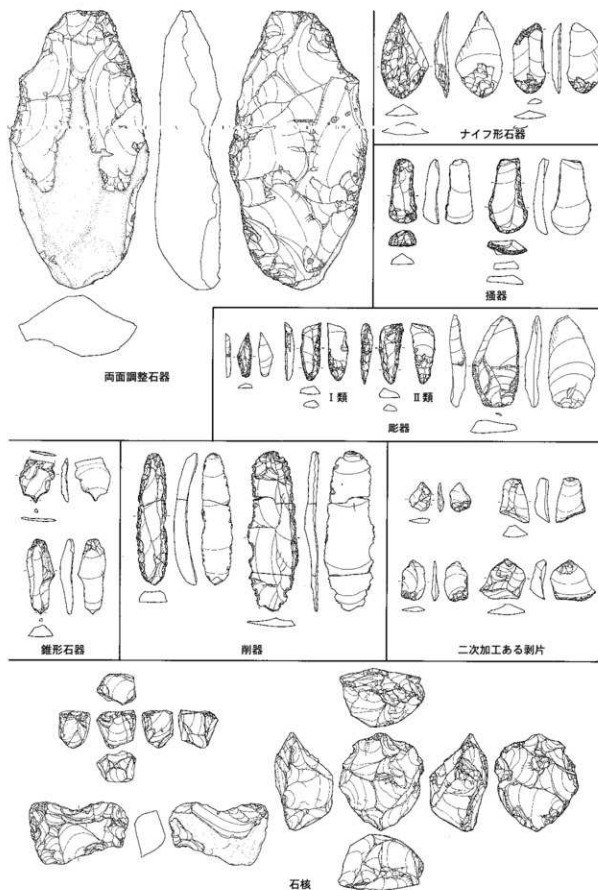


図 I-3 器種分類 (2)

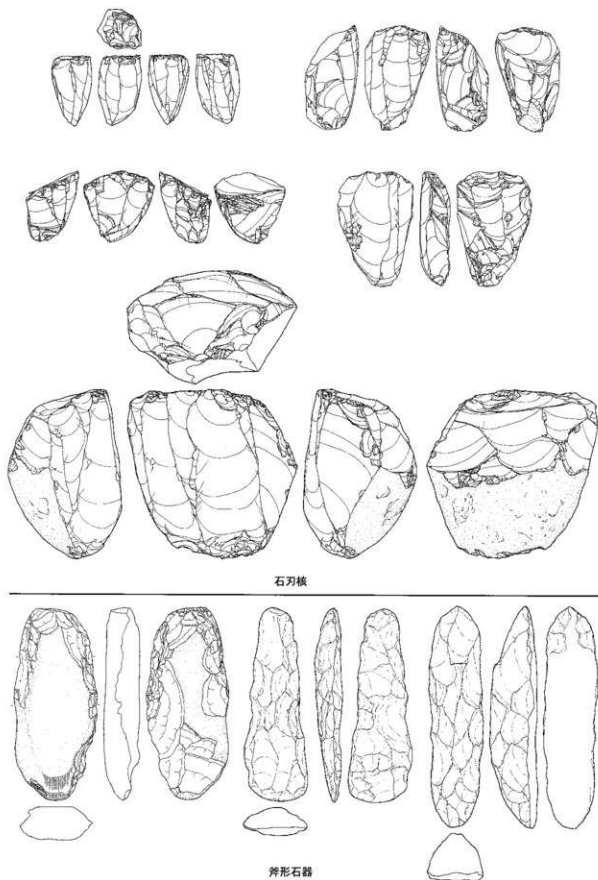


圖 I-4 器種分類 (3)

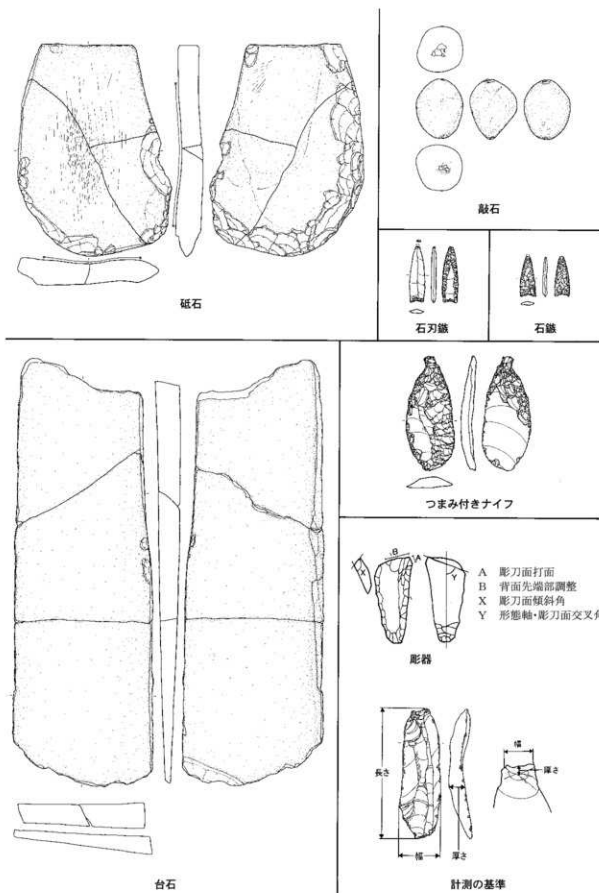


図1-5 器種分類(4)・計測の基準

削片 (SP)

彫器削片：彫器の彫刀面作出・再生時に剥離されたと考えられる削片。

細石刃核削片：削片系細石刃核の打面作出時に剥離されたと考えられる削片。

舟底形石器削片：小型舟底形石器の端部から剥離されたと考えられる細石刃状の削片。これ自体が目的のものかどうか不明であり、削片として分類した。

尖頭器削片：尖頭器の縁辺から剥離されたと考えられる削片。

その他削片：上記の削片以外で削片の縁辺から剥離されたと考えられる削片。素材の縁辺に加工の無い削片から剥離されたもので周縁部調整のない彫器から剥離されたと見なすこともできる。

細石刃 (MB)

細石刃核より剥離されたと考えられ、長さが幅の2倍以上で両側縁がほぼ平行し、それに平行する稜があり、幅が1 cm以下の石器。

細石刃核 (MC)

細石刃を剥離したと考えられる石器。削片剥離以前のもを母型、削片が剥離され、細石刃が剥離されていないものを未製品とした。

舟底形石器 (BT)

素材の平坦面から周辺に二次加工を施して舟形に整形した石器。

I類：加工が精緻で幅が4～12mm、高さが8～12mm程度の小型のもの。主に上下から側面加工が行われ、端部に細石刃状の縞状剥離痕を持つものが多い。

II類：加工が粗くI類より大きいもの。主に上から側面加工が行われ、端部に縞状剥離痕がみられない。

尖頭器 (PT)

素材の両面を加工し、尖頭部を作り出した石器。

両面調整石器 (BF)

素材の両面を加工したもので尖頭器、斧形石器以外の石器。

ナイフ形石器 (KN)

素材の鋭い縁辺の一部を残し、他の縁辺に加工を施した石器。広型ナイフ形石器を含む分類のため、二次加工は刃潰し状の加工に限らず平坦剥離も含む。

彫器 (BU)

素材の端部に一条から数条の縞状剥離を施した石器。

調整打面から彫刀面が作出されたものに関しては彫刀面傾斜角により以下のように細分する。

I類：彫刀面が背面に傾くもの。

II類：彫刀面が腹面に傾くもの。

掻器 (ES)

素材の端部に連続的な二次加工を施した石器。

錐形石器 (DR)

素材の端部に錐状の尖頭部を作り出した石器。

削器 (SS)

素材の側縁に連続的な二次加工を施した石器。

二次加工ある剥片 (RF)

素材に二次加工を施したもので、定形的石器に分類されない石器。「白滝I群」では掻器・錐形石器

以外の定形ではなく縁辺に微細な剥離痕がみられる石器を含めて分類した。

石核 (CO)

剥片を剥離したと考えられるもので、石刃核、細石刃核以外の石器。

石刃核 (BC)

石刃を剥離したと考えられる石器。

斧形石器 (AX)

両面もしくは片面加工により、斧状の刃部を作り出した石器。

敲石 (HS)

礫に潰打痕の観察される石器。

磨石 (GS)

小型礫に磨痕が観察される石器。

砥石 (WS)

礫の片面もしくは両面に磨痕の観察される石器。

台石、石皿 (AS)

偏平礫に打撃痕や磨痕の観察される石器。

原石 (RM)

石器の石材として利用される石で、人為的と考えられる剥離を受けていないもの。

礫 (PB)

石器の石材として利用されない石で、剥離、敲打痕、潰打痕、磨痕などが観察されないもの。

石刃鏃 (BA)

石刃を素材として主に腹面縁辺の加工により尖頭部を作り出した石器。

石鏃 (AH)

素材を細かい加工により薄身にして端部に尖頭部を作り出した概ね 5 cm 以下の石器。

つまみ付きナイフ (TS)

素材端部にノッチ状の加工でつまみ部を作り出した石器。

(鈴木宏行)

(6) 調査結果の概要

平成7～14年の8年間で調査した遺跡は、湧別川の支流から奥白滝11・服部台2・奥白滝1・上白滝8・上白滝2・上白滝5・上白滝6・上白滝7・北支湧別4・白滝第30地点・白滝8・白滝18・白滝3・旧白滝9・旧白滝8・下白滝の16か所(図I-6)で、その面積は、88,570㎡である。年度・遺跡別の調査面積は、表I-1を参照願いたい。

確認された遺構は、火を焚いた痕跡の可能性のある炭化木片の集中(炭化木片ブロック・Cb)と赤色土(焼土)(F)である。炭化木片ブロックは7遺跡66か所(服部台2・8か所、奥白滝1・18か所、上白滝8・28か所、上白滝2・6か所、上白滝1・1か所、上白滝7・4か所、白滝第30地点・1か所)(平成12年度の報告では65か所としているが、平成13年度報告の奥白滝1遺跡において分離したものが、1か所の追加となった)焼土は5か所(上白滝5・2か所;赤色土と報告、旧白滝8・3か所)である。炭化木片ブロックは、遺物の集中部、もしくはその周辺に分布し、いずれもII層の下部で検出されている。大きさは径10cm前後の円形から長さ1m前後の長円形と様々で、いくつかの小ブロックで確認される場合もある。炭化木片の集中度および大きさも様々で、含む層はおおよそ5cm前後の厚さのものが多い。しかし、上白滝8遺跡のCb-13は例外的で、2.4×1.0mの大き

さで、窪みに3層に分かれて堆積する大規模なものであった。炭化木片については、放射形炭素年代測定(AMS法)を行ったところ、上白滝7・白滝第30地点遺跡の試料については、4,500~1,900年前という縄文・統縄文時代に相当する年代値が得られた。しかし、他の5遺跡の試料では、最も新しいもので9,940±40yBP(Beta-150438)、最も古いもので、27,690±320yBP(Beta-112902)という数値が得られ、さらに、13,000~14,000yBP、15,000~16,000yBP、18,000~19,000yBP、26,000~27,000yBPに数値の集中がみられる。これらの数値は、現在考えられている石器群の年代と大きくかけ離れたものではない。しかし、被熱石器の分布との重複など石器ブロックとの同時性を明確に対比ができる状況にない。また、人が関わらない自然現象に由来する炭化木片の可能性もあるが、樹種同定の結果などからも当時の植生を反映しているものであることは間違いない。一応、石器群の年代を検討する上で、参考となるものと考えられるので、現在、各遺跡における石器ブロックと炭化木片ブロックの対比を、石器の接合や母岩分類などの作業の進めながら、検討している。

出土している遺物は、平成13年度まではすべて石器類で、土器は1点もなかったが、平成14年度の下白滝遺跡と旧白滝8遺跡の調査で土器が出土した。平成13年度までに調査した土器が出土していない湧別川右岸の遺跡で出土した石器類の時期は、遺物包含層のⅡ層の下位に約3万年に降下したと考えられる大雪御鉢平軽石(Ds-O₁)があることから、3万年より新しい後期旧石器時代と考えられるが、年代的には本州の縄文時代草創期に相当する時期のものもある。また、石鏃や石刃鏃および石刃鏃石器群と考えられるものもあるので、縄文時代早期およびそれ以降の時期になる可能性のある石器群もある。平成11年度に報告した上白滝7遺跡のSb-1の二次加工ある剥片類は、縄文時代後・晩期の可能性のある石器素材と考えられる(坂本ほか2000)。また、平成12年度に報告した北支湧別4遺跡のSb-1も石器の形態や加工、さらにバティナの状況から縄文時代の小型の尖頭器を製作している石器群と考えられる(鈴木ほか2001)。

下白滝遺跡は耕作による擾乱が著しく遺物包含層が残存していなかったが、木根と思われる落ち込みに遺物が流れ込んでおり、多数の石器類とともに土器が発見された。土器は縄文時代中期とみられる押型文・刺突文に伴う無文土器のほか、後期・晩期とみられるものが少量あった。旧白滝8遺跡も下白滝遺跡同様耕作による擾乱が著しかったが、旧河道に接した斜面部分で統縄文時代後北C₁とみられる土器が出土し、遺跡出土の石器類の大部分もその時期のものと考えられる。遺跡の遺存状況は決して良い状況ではなかったが、白滝遺跡群における縄文時代及び統縄文時代の石器製作の様相を知る手がかりが得られたことには大きな意義がある。

現時点における各遺跡での出土遺物数は表1-2に示したとおりで、総数は4,327,036点、そのうち出土位置を記録したものは、506,738点、残りの3,820,298点は表上など発掘区単位で一括して取り上げたものである。石器の出土量および分布密度は遺跡によって異なるが、平均すると1m²あたり48点となり、平均以上の遺跡は、旧白滝8が187点、服部台2が113点、奥白滝1が108点、上白滝8が75点、下白滝が67点、上白滝2が62点などで、次は白滝18の18点、白滝3の14点、上白滝5の11点と極端に少なくなり、その他の遺跡では10点以下になってしまう。

次に定形的な石器の比率や器種別の割合を概観しようと思うが、平成14年度調査の旧白滝8や下白滝は縄文~統縄文時代の時期で、特殊な状況であるので、ここでは平成13年度までの旧石器時代を主体とした遺跡について取り扱うこととする。

出土石器の大部分は製作時にできる剥片・砕片類で、定形的な石器類は総数365万点のおよそ0.7%、26,300点ほどである。出土位置を記録した497,586点では、定形的な石器の比率は高くなり、およそ3.8%、18,900点程となる。現時点で、この数字は石器の個体数を表すものではなく、例えば、1個

表 I-1 白滝遺跡群遺跡別・調査年別面積一覧

※ブロックは報告書

遺跡名	年数	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	遺跡別面積	報告書
奥白滝11	1					505				505	白滝Ⅳ
隈部台2	3				3,812	2,002	877			6,691	
奥白滝1	3			5,340	2,067		315			7,752	白滝Ⅲ
上白滝8	5	6,600	10,212	320	56		661			17,849	白滝Ⅳ
上白滝2	2		2,995	3,930						6,925	白滝Ⅱ
上白滝5	2			3,728	4,132					7,860	白滝Ⅱ
上白滝6	2				6,953			670		7,623	白滝Ⅱ・Ⅲ
上白滝7	2			7,443	5,150					12,593	白滝Ⅰ
北支笏洞4	1				5,472					5,472	白滝Ⅱ
白滝第30地点	1						636			636	白滝Ⅳ
白滝8	1						834			834	
白滝18	1					2,600				2,600	
白滝3	1							2,900		2,900	
田白滝9	1								3,380	3,380	
田白滝8	1								2,610	2,610	
下白滝	2							90		2,340	
年次別面積	8	6,600	13,207	20,761	27,642	2,507	5,953	3,660	8,240	88,570	
報告書						白滝Ⅰ	白滝Ⅱ	白滝Ⅲ			

表 I-2 白滝遺跡群遺跡別出土点数等一覧

遺跡名	調査年	面積 m ²	遺物総数 点	点/m ²	集点計 点	一括 点	主な遺物
奥白滝11	1999	505	2,376	3	1,117	1,259	尖頭器・両面調整石器・磨器・石刃・石核・石杖
隈部台2	1998~2000	6,691	798,030	113	67,771	730,259	磨石刃・細石刃核・舟底形石器・尖頭器・両面調整石器・磨器・撻器・削器・ナイフ形石器・石刃・石杖・石核
奥白滝1	1997・1998・2000	7,752	831,924	108	99,212	732,712	磨石刃・細石刃核・舟底形石器・尖頭器・両面調整石器・磨器・撻器・削器・ナイフ形石器・石刃・石杖・石核
上白滝8	1995~1998・2000	17,849	1,349,748	73	216,607	1,133,141	磨石刃・細石刃核・舟底形石器・尖頭器・両面調整石器・磨器・撻器・削器・ナイフ形石器・石刃・石杖・石核
上白滝2	1996・1997	6,925	432,429	62	50,085	382,344	磨石刃・細石刃核・舟底形石器・尖頭器・両面調整石器・磨器・撻器・削器・ナイフ形石器・石刃・石杖・石核
上白滝5	1997・1998	7,860	86,070	11	22,477	63,593	舟底形石器・尖頭器・両面調整石器・磨器・撻器・削器・ナイフ形石器・石刃・石杖・石核・石刃
上白滝6	1998・2001	7,623	6,662	1	2,672	3,990	尖頭器・両面調整石器・磨器・撻器・削器・ナイフ形石器・石刃・石杖・石核・石刃
上白滝7	1997・1998	12,593	21,709	2	4,448	17,261	尖頭器・磨器・撻器・削器・ナイフ形石器・石刃・石杖・石核
北支笏洞4	1998	5,472	21,140	4	6,776	17,364	尖頭器・両面調整石器・磨器・撻器・削器・石刃・石杖・石核
白滝第30地点	2000	636	4,627	7	314	4,313	磨石刃・磨器・撻器・削器・石刃・石杖
白滝8	2000	834	4,036	5	1,728	2,308	磨石刃・舟底形石器・両面調整石器・磨器・石刃・石杖・石核
白滝18	2000	2,600	47,825	18	23,423	24,402	尖頭器・両面調整石器・舟底形石器・磨器・撻器・削器・ナイフ形石器・石杖・石核
白滝3	2001	2,900	41,281	14	1,010	40,271	尖頭器・舟底形石器・磨器・撻器・削器・石刃・石杖・石核
田白滝9	2002	3,380	28,318	8	0	28,318	石核・尖頭器・磨器
田白滝8	2002	2,610	490,293	187	9,098	481,195	上器(39点)・石核・尖頭器・両面調整石器・両面加工ナイフ・磨器・石核
下白滝	2001・2002	2,340	157,568	67	0	157,568	上器(44点)・石核・尖頭器・両面調整石器・つまみ付きナイフ・磨器
計	1995~2002	88,570	4,327,036	48	506,736	3,820,298	*1993試掘はかを含む

体の尖頭器が破損して、5点接合していれば、5点の尖頭器というカウントになる。したがって、個体数の把握という点では問題があるが、出土傾向の把握という観点で、18,900点の内訳をみてみたい。

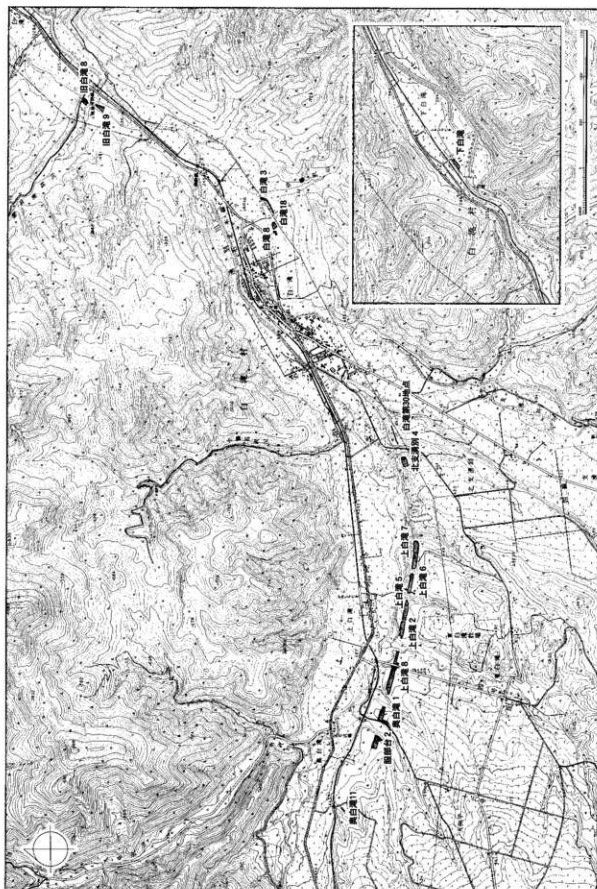
最も多いのは、石刃・縦長剥片の38.4%で、二次加工のみられる剥片類の11.6%、尖頭器の11.3%、石刃核・石核9.9%と続き、それ以下は削器(5.9%)、舟底形石器(4.5%)、搔器(4.3%)、彫器(3.0%)、両面調整石器(2.9%)、ナイフ形石器(2.3%)、細石刃(2.3%)、錐形石器(0.5%)、細石刃核(0.4%)、斧形石器・礫石器(0.2%)などである。

出土遺物の中で最も古く、現在のところ道内では最も古期と考えられている千歳市祝梅三角山地点、上上幌町鶴木、清水町共栄3、函館市桔梗2遺跡などの石器群に対比できる資料が白滝Ⅰ・上白滝8遺跡などで出土している(図1-17-1~9)。それらは剥片素材でその版面側でうろこ状の剥片を剥離する石核、剥片ないし分割礫を素材にして求心状に寸詰まりの剥片を剥離する石核、交互剥離によって打面と作業面を入れ替える石核、打面転移を頻繁に行いサイコロ状の形態になる石核などがあり、剥片剥離技術には共通性が見られる。しかし、定形的な石器類は少なく、軽微な二次加工か微細剥離のみみられる小型剥片石器が多く、他には搔器や錐形石器が若干みられる程度である。小型剥片石器は、「ナイフ形石器(切出し形ナイフに類する)」(吉崎・横山 1974)、「切出形、台形、半月形などのナイフ」「小型ペン型ナイフ」(辻 1973)、「台形椽石器」(山原 1992・1993)、「ナイフ椽石器」(石川・長沼 1988)、「粗形ナイフ形石器」(千葉 1985)などといわれているものに該当する。それらは、名称だけでなく特徴や素材の形状もバラエティがある。また、「台形椽石器」(佐藤 1988)と定義・分類されているものに含まれるものも少なく、加工が極めて微弱であるのが特徴である。その状況から「不定形剥片石器」とも呼ばれているが、これも石刃・縦長剥片以外の剥片を包括してしまつて、考を要する。したがって、現時点では特徴的な石核や小型剥片石器などを含む石器群を「白滝Ⅰ群」と仮称し、他の石器群と分離して整理・報告書作成作業を行っている。本来であれば、他の石器群においても「白滝Ⅱ群」「白滝Ⅲ群」・・・と遺跡群全体を包括する分類を行う必要があるかもしれない。しかし、石器ブロックや石器群の内容は様々で、単純に包括できず、報告書段階では接合関係を重視した石器群の把握とし、内容の違いを明確化するように努めている。各石器群の特徴はある程度把握できる状況になってはいるが、単純にまとめてしまうと、かえって混乱を招く恐れがある。したがって、現時点では、「白滝Ⅰ群」以外の石器群の名称は一般的な呼称に留めている。当面は「白滝Ⅰ群」という形で包括していきたいと考えている。

ナイフ形石器は、台形石器のほか「広郷型」と呼ばれているものを含む石器群がある(図1-17-10~19)。台形石器は刃渡り状のブランディングが明確なものが、股部台2・上白滝8遺跡で4点ほど出土しているが、伴伴石器は明確でない。「広郷型」ナイフ形石器と呼ばれているものは、調整剥離は平坦剥離を特徴とし、形態は基部が丸い尖頭形が典型的なものである。しかし、上白滝7・上白滝8遺跡ではそれらの他に素材石刃の形状を生かし、先端部を尖頭状にするだけで基部加工をほとんどしないものなどもみられる。既に報告した上白滝7遺跡では接合資料から素材の石刃や剥片を獲得する石刃技法の状況が明らかになっている。

尖頭器は破損品が大部分なので、点数的に大きな比率を占める。有舌、木葉形、柳葉形と形態も多様で、大きさも様々である。最大のものは、上白滝8遺跡出土の長さ36.5cm、重さ1.2kgのものである。また、形態や特徴、パティナの状況から明らかに縄文時代と考えられるものもある。

石刃核・石核は、大型の石刃核から「白滝Ⅰ群」に伴う剥片素材の小型のものまで各種ある。石刃核で最大のものは、長さ24cm、重さ3.8kgである。さらに、石刃を剥離していないブランクでは、10kgにおよぶものもある。



国土院発行22.5万分の地形図(北見納)「白濁」(丸瀬布南部)を縮小

図1-6 白濁集落跡調査区域図

舟底形石器は、大きさが20cmを越える大型から2 cm程度の小型品まで各種あり、調整も粗いものから細かいものまで様々である。2 cm程度の小型品は調整が細かく、一端または両端に強状剥離がみられるものが多い。また、茶色の黒曜石1の原石を多用する傾向があるのも大きな特徴である。

両面調整石器の大部分は、尖頭器の初期の段階とみられるものが大部分で、石刃核、細石刃核のブランクと考えられるものが若干ある。

細石刃核は、「札滑型」(図I-17-20~22)、「紅葉山型」(図I-18-28~31)、「幹下型」(図I-18-34~40)、「射的山型」(図I-18-24)などと呼ばれているものが、比較的まとまって出土している。また、単独ながら「白滝型」、「祝加型」、「忍路子型」と呼ばれているものがみられる。

斧形石器は、緑色泥岩・頁岩・安山岩製の刃部磨製のものが若干みられ、明らかに縄文時代とみられる定角式のものもある。

礫石器は少ないが、台石と考えられるものがやや多く、散石、砥石が数点ずつみられるだけである。

縄文～統縄文時代とみられる石器としては、石鏃、石刃鏃、錐形石器、尖頭器(石槍・ナイフを含む)、つまみ付きナイフ、両面加工ナイフなどがある。

石鏃は、上白滝6遺跡の石刃鏃に伴う柳葉形ないし菱形に近いもののほか、下白滝遺跡では有茎・無茎各種みられる。また、下白滝遺跡では薄手の剥片に二次加工が施された未成品とみられるものも多数出土している。旧白滝8遺跡では統縄文時代特有の薄身の三角形鏃がみられる。

石刃鏃を含む石器群は上白滝6遺跡で2か所、上白滝5遺跡でも1か所の石器ブロックが確認され、上白滝6遺跡のSb-5では石刃鏃が破片を含めると11点出土し、石鏃、尖頭器、搔器、削器、つまみ付きナイフ、両面調整石器、石刃などが伴い、白滝遺跡群での石刃鏃石器群の様相を示す良好な資料となっている。

錐形石器では奥白滝1遺跡の表土から縄文時代前期の縄文式土器に伴うとみられる棒状のものが出土している。

尖頭器は石刃鏃石器群に伴う柳葉形のものほか、下白滝遺跡では幅広く、基部も太い石銃状のものや左右が非対称のナイフ状のものがみられる。

つまみ付きナイフは、奥白滝1遺跡や上白滝8遺跡の表土層から各1点みられるほか、下白滝遺跡で未成品を含めて少量出土している。奥白滝1遺跡のものは形状や二次加工の特徴から前期の縄文式土器に伴うものと考えられる。また、上白滝6遺跡の石刃鏃石器群に伴い石刃やポイントフレイクにわずかにつまみ部を作出したものがみられる。

両面加工ナイフとしたものは、統縄文時代後北式土器に伴う特徴的な石器で、旧白滝8遺跡で出土している。全体の形状が分かるものは少ないが、尖頭器に近い形状で、太日の基部があり、その未成品が多い。また、その製作初期段階とみられる両面調整石器も同時に多数出土している。

石材の大部分は黒曜石であるが、安山岩、頁岩、珪岩、めのう、碧玉、凝灰岩などもみられる。黒曜石以外の石材の石器は素材ないし石器の形で遺跡に搬入されている。また、それらと同様な状況で白滝以外の産地の黒曜石も搬入されている。白滝以外の黒曜石産地では、置戸・所山、置戸・置戸山、十勝三股、留辺蘂・ケシヨマップ、赤井川、名寄など、全道各地のものがみられる。

出土石器の総重量は、およそ9,000kg、最大のものは上白滝8遺跡で出土した10.4kgの石刃核のブランクである。この総重量は、黒曜石以外の石材も含まれるが、大部分は黒曜石製であるので、人頭大の6 kg程度の原石だと1,500個、握り拳大の小型の600g程度の原石だと15,000個という量の原石ということになる。最も遺物量の多い上白滝8遺跡は、半数に近い3,500kgの重量である。

各遺跡出土石器群の特徴

石器類は、層的に分離できないが、平面的にある程度のみとまりで確認できた。周水河作用や風倒木・木根などの自然の営力によって若干の移動がみられるが、石器の後の摩耗がない点や同一母岩とみられる石器類が比較的まとまって出土している点などから、石器類は大幅に移動していないことが想定される。したがって、石器類の平面的なまとまり（石器ブロック）は、石器が製作、使用、遺棄または廃棄された状況のある程度反映しているものと考えられ、単独ないし複数のものを石器群という形で捉えることができる。

湧別川の上流部から16か所の遺跡について石器群の概要と特徴を簡単に紹介する。

奥白滝11遺跡（平成11年）（図I-7）

遺跡の主体部は、現状保存された旧路線部分で、調査区域は西側端にあたる。斜面の末端部に相当する部分から2,396点の遺物が出土したが、定形的な石器としては、尖頭器、両面調整石器、削器、細石刃、石刃核、石核などがわずかにみられた。石器類は調査区外に続く1か所の石器ブロックから確認されたが、詳細は不明である。

服部台2遺跡（平成10・11・12年）（図I-7）

平成10年の調査区では、「概加型」細石刃核、舟底形石器、石刃核、彫器、搔器がブロックを形成して出土している。その中には大型の石刃核7点が0.8×0.3mの範囲から多数の剥片を伴って確認されたブロックや木葉形尖頭器製作のブロックなどがある。

平成11年の調査区では、尖頭器を主体とするブロックのほか、石刃核・両面調整石器のブロック、「紅葉山型」細石刃核・石刃核・石刃核・搔器などのブロックが確認されている。「紅葉山型」細石刃核を伴うブロックの石刃核と沢を挟んだ東側に位置する奥白滝1遺跡の同様の石器群の石刃核が接合したものが2個体確認されている。接合距離は直線で、およそ350mである。また、耕作土中であるが「白滝型」細石刃核が6点出土している。

平成12年度の調査では、右舌を含む尖頭器を中心としたブロックのほか、台形石器が2点出土しているのが注目される。

奥白滝1遺跡（平成9・10・12年）（図I-8）

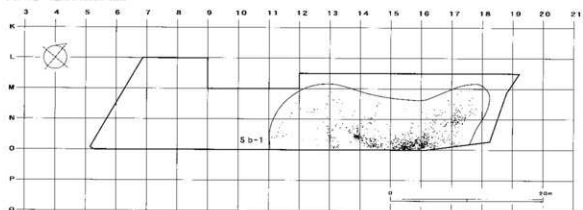
平成9年の調査区は馬の背状の地形をした本線部分、平成10年の調査区は北側に緩やかに傾斜する斜面で、石器の斜面方向への移動が顕著にみられる。石器類は、平面分布や石器の特徴から14か所の石器ブロック（Sb-1~4）に分けることができ、さらに接合状況などから12の石器群とした。

Sb-1~6は「白滝I群」で、剥片素材でその腹面側でうろこ状の剥片を剥離する石核（図I-17-8）、剥片ないし分割産を素材にして求心状に寸詰まりの剥片を剥離する石核（図I-17-9）、交互剥離によって打面と作業面を入れ替える石核、打面転移を頻繁に行いサイコロ状の形態になる石核などがみられる。定形的な石器類は少なく、うろこ状や末端部が三角形に広がる剥片または縦長気味の剥片などに軽微な二次加工が微細調整がみられるもの（図I-17-4~6）が多く、若干の錐形石器（図I-17-7）、搔器が伴っている。接合状況からSb-1~3、Sb-4~6の二つに分けられる。Sb-1~3では、二次加工ある剥片のほかに粗い刃部加工の搔器が、Sb-4~6では、小型剥片の腹面の打輪部に平坦剥離を施した石器や錐形石器がみられる。

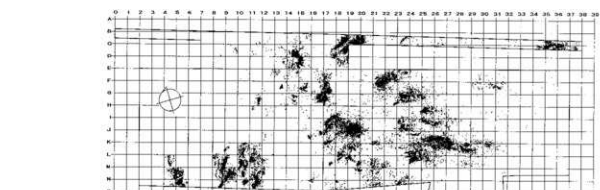
Sb-7~10は円錐形の「紅葉山型」細石刃核（図I-18-28~31）を含む石器群で、細石刃、石刃、石刃核、搔器（図I-18-32・33）、錐形石器などが伴っている。接合資料から、石刃剥離と打面再生が繰り返され、最終段階で細石刃剥離が行われたことがわかる。また、細石刃核は厚手の剥片を素材としたものもある。先に述べたように服部台2遺跡との遺跡間接合したものが2個体確認された。



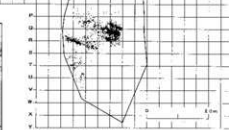
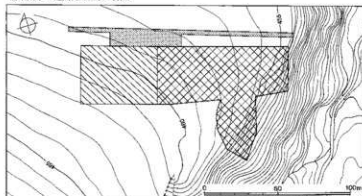
奥白滝11遺跡調査区域図



奥白滝11遺跡遺物分布図



服部台2遺跡調査区域図



服部台2遺跡遺物分布図



図 I - 7 奥白滝11・服部台2遺跡調査区域・遺物分布図

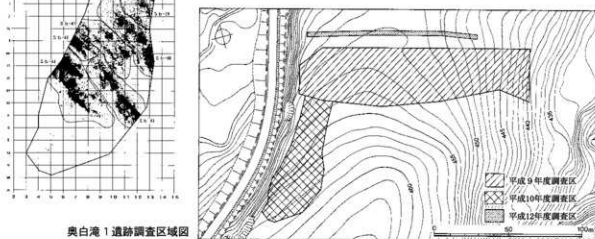
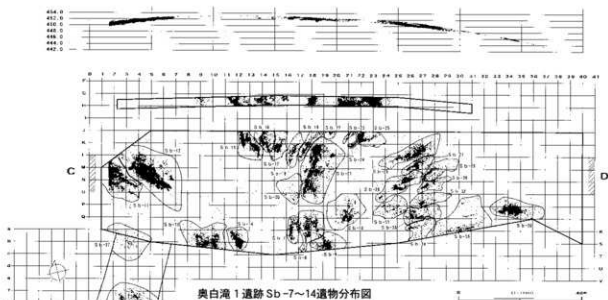
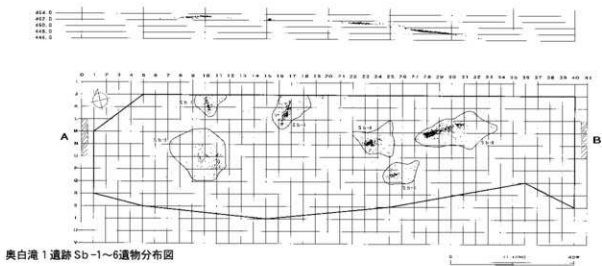


図 I-8 奥白滝 1 遺跡調査区域・遺物分布図

残りの九つの石器群はすべて尖頭器を含むものであるが、ブロックの状況や石器の組成などが異なっている。Sb-11・12では粗い加工の尖頭器の未成品、若干の搔器・削器、石刃、石刃核など、Sb-15~21では加工の状況が様々な大小の柳葉形・木葉形尖頭器、搔器、錐形石器、舟底形石器のほか緑色泥岩製の斧形石器など、Sb-22~25ではやや粗い加工の木葉形尖頭器、両面調整石器、彫器、搔器、石刃核など、Sb-26~30では有舌尖頭器、柳葉形・木葉形尖頭器など、Sb-31~36では有舌尖頭器、木葉形尖頭器のほか碧玉製の石刃・縦長剥片、台石などが出土している。Sb-38~44は平成10年の調査区で、縄文時代と考えられる石器が混在しているが、多数の尖頭器がみられる。尖頭器はその大部分が製作途中の破損品で、幅の狭いものから大型で幅の広いものまで各種ある。その中でも幅が狭くて厚みがあるグループは白滝の他の遺跡ではみられないもので、所属時期も不明である。尖頭器以外では搔器、削器、石刃核が多く、縄文時代と考えられるものとしては、削器の一部、錐形石器、石鏃、つまみ付きナイフ、砥石などがある。Sb-13、Sb-14、Sb-37は他のブロックと接合関係がないことから単独の石器群としたが、Sb-13では粗い加工の尖頭器と搔器、削器などが、Sb-14では尖頭器と台石などが、Sb-37では粗い加工の尖頭器と石核などが出土しているだけである。

平成12年度の調査区は、平成9年の本線部分調査区の8m程北側で、有舌を含む尖頭器に彫器、削器、石刃核などが伴うブロックと「白滝I群」の二次加工ある剥片とサイコロ状の石核を含むブロックなどが確認された。前者の尖頭器のブロックでは、碧玉製の石器や剥片類が多数出土しているのが注目される。

上白滝8遺跡（平成7～10・12年）（図I-9）

白滝第13地点の南側に接した一段高い段丘に立地し、平成7・8年に主要部分の調査を、平成9・10・12年に北西部分の若干の追加調査を行い、最終的に134万点の遺物が出土した。

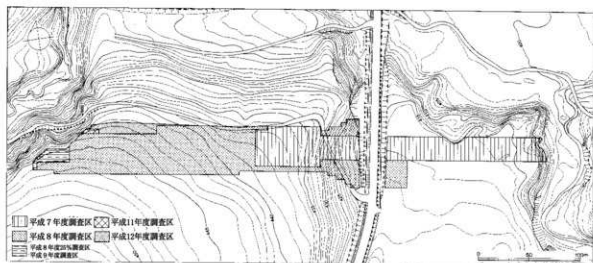
「白滝I群」と仮称した今回の調査で最も古いと考えている石器群が15か所ほどのブロックで確認された。この石器群は、定形的な石器が少なく、わずかの二次加工ないし微細調整のみみられる小型剥片石器類（図I-17-1）が大部分を占める。石核は、打面を頻繁に転移したサイコロ状を呈するもの（図I-17-3）や厚手の剥片を素材としていわゆる寸詰まりの剥片を剥離するものなどが特徴的で、接合資料もかなりの数におよぶ。また、大型で加工の粗い搔器（図I-17-2）を主体とするブロックもあり、時期的にいくつかに分けられる可能性がある。

「広郷型」ナイフ形石器が、石刃、石刃核などを伴ってみつまっている。また、単独出土の台形石器や斜面の一括採取の切り出し形のナイフ形石器などもみられる。

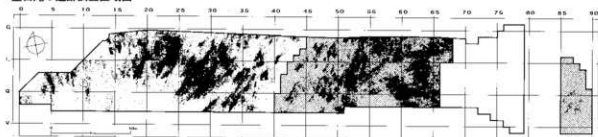
細石刃石器群は、「峠下型」細石刃核（図I-18-34~36・38~40）とそれに伴う削片、細石刃のブロックがみられ、他に「崑加型」細石刃核（図I-18-37）が数点ある。

尖頭器の製作に関わるブロックが最も多い。形態は木葉形が多いが、有舌もみられ、大きさも大小様々、加工も粗いものから完成直前の精緻なものまで各種ある。素材は、小型のものは剥片であるが、大部分は板状の原石を利用している。両面調整石器は、大部分が尖頭器の初期の段階とみられ、いわゆる湧別技法のプランクとは考えられない。出土した細石刃核の大半が「峠下型」（図I-18-34~36・38~40）であるということもこの考えを裏付ける。

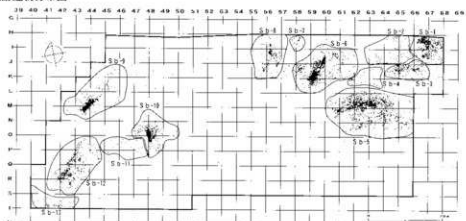
舟底形石器は、尖頭器、石刃核、彫器などとその製作剥片と共に出土し、大きさも調整も様々である。石刃核に舟底形石器、彫器、石刃などが接合した資料のほか舟底形石器の甲板面同士が接合したものなどもあり、その製作方法もいくつかのパターンが考えられる。また、尖頭器を縦割りにして小型の舟底形石器を製作していることがわかる接合資料もある。



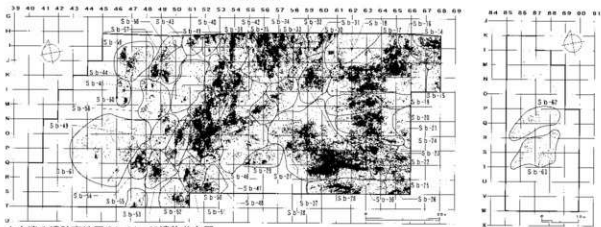
上白滝8遺跡調査区域図



上白滝8遺跡遺物分布図



上白滝8遺跡東地区Sb-1~13遺物分布図



上白滝8遺跡東地区Sb-14~63遺物分布図

図1-9 上白滝8遺跡調査区域・遺物分布図

上白滝2遺跡（平成8・9年）（図I-10）

平成8年の調査区は、攪乱が著しく発掘区単位の遺物採取をした部分が多いが、平成9年の調査区では良好な状態で石器類が出土した。石器類は、平面分布や接合状況などから15の石器ブロック（Sb-1～15）に分けることができ、さらに、それらは内容が不十分な石器ブロック7・8を除き、大きくは三つ、細かくは七つの石器群に分けることができる。

有舌を含む尖頭器を主体とする石器群は、Sb-1・2とSb-15である。Sb-1・2は、角張った幅広の舌部の作出された有舌尖頭器と加工のやや粗い木葉形の尖頭器を主体とした石器群で、Sb-1では彫器、搔器などが、Sb-2では、多量の製作剥片が伴っている。Sb-2に重複するCb-2の炭化木片のAMS法年代測定では、16,520±50yBP、17,740±110yBP、17,660±180yBPという数値が得られている。

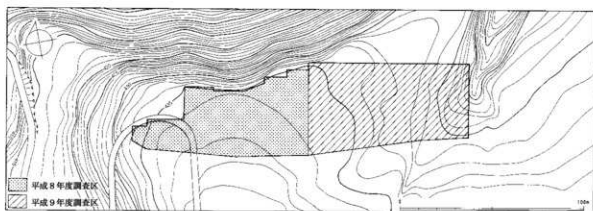
Sb-15は、遺跡全体の点取りの半数以上を占め、尖頭器は431点および、179点の彫器、125点の搔器を伴っている（図I-18-41～52）。尖頭器のうち有舌尖頭器は100点を超え、両面に斜並行剥離が施された完成品ないし完成品に近いものもあるが、そのほとんどは破損・欠損品である。完形品で最大幅をみると2～3cmのものが多く、長さは全体の形状がわかるものでは最小5cm、最大13cmであるが、8～10cmのものが多く。

細石刃石器群と考えられるのは、Sb-3～6・10、Sb-9、Sb-14である。Sb-3～6・10は、細石刃と粗い両面加工の「礼滑型」細石刃核（図I-17-20～22）やそのブランクとともに多数の石核がみられ、さらにそれらを含む接合資料が得られた。Sb-9は、大型石刃を素材とした「射的山型」細石刃核（図I-18-24）と共に細石刃、彫器（図I-18-25）、搔器（図I-18-26）、削器（図I-18-27）、石刃などが出土し、さらに、石核の調整剥片、石刃、打面再生剥片が接合し、最終的な石刃核が持ち出されたものが4個体確認された。そのうち最大の接合資料は高さが35cmもある。Sb-14は頁岩製の細石刃、削片、細石刃核調整剥片などの接合資料のみの特殊なもので、持ち込まれた細石刃核で細石刃剥離が行われ、さらに残核が持ち出されたと考えられる。

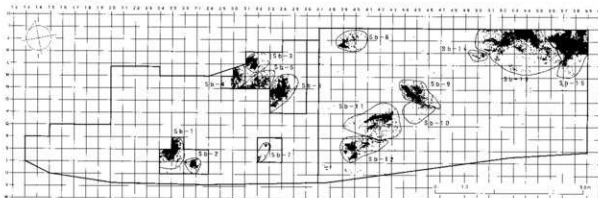
舟底形石器を主体とし、尖頭器、彫器、搔器、削器、錐形石器、石刃・石刃核、石核などが伴っているのは、Sb-11・12とSb-13である。いずれも尖頭器は大型品が主体で、その製作に関わる接合資料も得られている。舟底形石器は、製作途中の破損品が大部分で、その接合資料が多数ある。また、Sb-13では、加工が精緻な小型の舟底形石器（図I-18-57～59）もみられる。

上白滝5遺跡（平成9・10年）（図I-10）

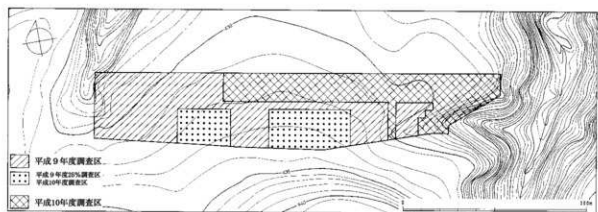
遺跡は上白滝2遺跡の小沢を挟んだ東側で、上白滝6遺跡とは深い沢を挟んだ西側に位置する。調査区の東西に大きな遺物集中区がみられるが、12か所の石器ブロック（Sb-1～12）に分けられ、さらに七つの石器群とした。Sb-1、Sb-4では尖頭器の製作剥片、Sb-2では尖頭器とその製作剥片が出土しているため、いずれも尖頭器の製作が行われているが、規模が小さく、内容は不明である。また、Sb-2はパティナの状態で水相層測定の結果から縄文時代と考えられる。Sb-3は大型石刃を含む石器群で、石刃・縦長剥片の接合資料が1個体確認できた。Sb-5は西側の大きな集中区で、木葉形尖頭器、大型石刃、石刃核、石核などが出土し、接合資料などから尖頭器は石核素材と剥片素材のものがある。Sb-6～11は調査区東側に位置する石器ブロックで、加工が細かく細身に薄手の尖頭器と小型舟底形石器を特徴とし、さらに彫器、搔器に安山岩製の斧形石器が伴っている。Sb-12は12点しか遺物がないが、2点の石刃核、4点の削器を含む石器群で、産地推定の結果、それらの石器は白滝以外の黒曜石と判定されている。深い沢を挟んで東側に位置する上白滝6遺跡でも石刃核石器群が確認されており、現時点では接合関係などは確認できないが、関係が強い可能性が



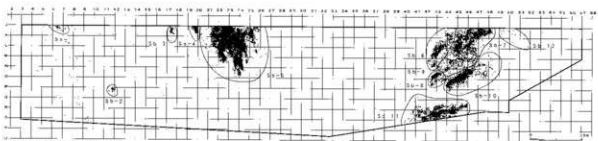
上白滝2遺跡調査区域図



上白滝2遺跡遺物分布図



上白滝5遺跡調査区域図



上白滝5遺跡遺物分布図

図1-10 上白滝2・上白滝5遺跡調査区域・遺物分布図

ある。

上白滝6遺跡（平成10・13年）（図I-11）

平成10年度の調査で出土した遺物は、すべて石器類で、時期的には縄文時代と旧石器時代のものがある。器種としては、有舌尖頭器を含む尖頭器、両面調整石器、彫器、搔器、削器、錐形石器、石刃、縦長剥片、削片、石核、石鏃、剥片などがある。これらのうち縄文時代と考えられるものとしては、石刃鏃を含む石鏃、搔器、剥片などがある。

石器類は、平面的に3か所のまとまりで確認でき、石器ブロック1～3（Sb-1～3）とした。また、これらの石器ブロックを構成する石器類は、特徴や組成、接合状況などから二つの石器群に分けることができる。

Sb-1は、石刃鏃を特徴とする石器群で、黒曜石製で斧状の大型搔器が伴っている。また、石刃鏃以外の搔器や剥片の大部分が梨山の黒曜石2であるという特徴がある。時期的には、土器の出土はないが、縄文時代早期と考えられる。1点出土している石刃鏃の水和層測定による年代換算では、 $7,622 \pm 490$ BPという数値が得られた。

Sb-2・3は、有舌尖頭器を含む尖頭器を特徴とする石器群で、両面調整石器、彫器、搔器、削器、錐形石器、石核などが伴っている。有舌尖頭器は、黒曜石製のものは角張った舌部が作出されているが、安山岩製のものは、身部と舌部の境が不明瞭である。尖頭器より彫器、搔器、錐形石器の割合が多く、濃緑色の碧玉製の彫器や錐形石器が特徴的である。両石器ブロックとも川礫や扁平礫から剥離された剥片やその核部分を素材にした尖頭器製作と彫器、搔器、錐形石器の使用などが行われた場と考えられ、ブロック間の接合資料が1個体ある。

時期的には後期旧石器時代末期と考えられるが、年代の決め手となる資料は得られていない。なお、尖頭器、削器、母岩別資料に含まれる剥片の水和層測定による年代換算では、 $18,832 \pm 2,573$ BP、 $13,854 \pm 1,000$ BP、 $21,489 \pm 1,346$ BPという数値が得られたが、単純に石器群の年代として採用できない。

平成13年度の調査区は、平成10年度の本線部分の調査区西側、上白滝5遺跡に隣接する沢に近い部分で、本線部分を挟んで北側と南側の調査区がある。北側地区では北隅で傾斜に沿った細長い石器ブロックが1か所（Sb-4）確認でき、尖頭器、搔器などが若干出土したが、大部分は尖頭器製作の剥片である。南側地区では調査区中央やや北側で石刃鏃を含む石器ブロックが1か所（Sb-5）確認できた。石器類は、石刃鏃のほか石鏃、尖頭器、両面調整石器、搔器、削器、つまみ付きナイフ、石刃、石核などで、現時点では白滝遺跡群の中では最も充実した石刃鏃石器群である。石刃鏃、石鏃、石刃などの石器類は透明感の強い良質の黒曜石で、同様な剥片が全くないことからそれらは単体で遺跡に搬入されている。産地分析や肉眼観察の結果、石鏃は赤井川産、名寄産、石刃鏃は置戸・所山産十勝産、白滝産があることが明らかになり、石刃鏃文化の石器または人の大きな動きを知ることができる良好な資料といえる。一方、両面調整石器、石核や剥片類は梨山の黒曜石2で、原石を搬入して石器製作が行われている。平成10年度調査区の石刃鏃石器群であるSb-1でも梨山の搔器や剥片が多いことから、関連性が強いと考えられる。

上白滝7遺跡（平成9・10年）（図I-12）

石器類は、平面的に10か所のまとまりで確認でき、石器ブロック1～10（Sb-1～10）とした。また、これらの石器ブロックを構成する石器類は、特徴や組成、接合状況などから三つの石器群に分けることができる。

Sb-1は、二次加工ある剥片・剥片のみの特殊な石器組成である。二次加工ある剥片は剥片の形状

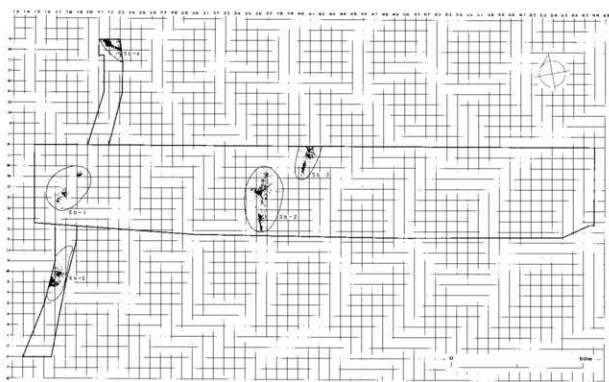
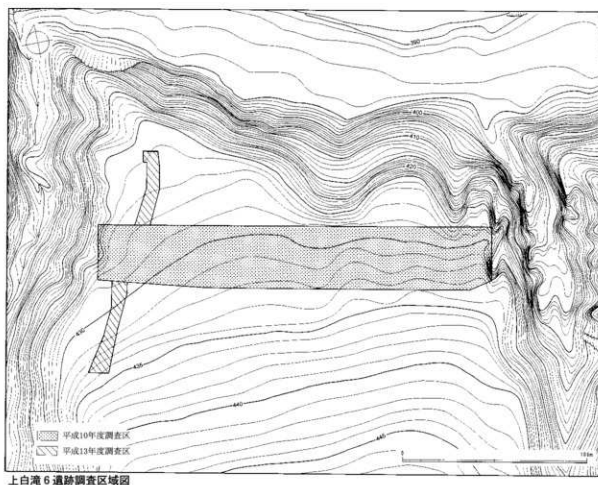


図 I-11 上白滝6遺跡調査区域・遺物分布図

や加工の状況から、石器素材と考えられる。一見したところ他のブロック出土の石器類に比べ光沢があり、水層が発達していないことが分かり、水層測定による年代換算では、 $2,193 \pm 156\text{yBP}$ 、 $2,719 \pm 222\text{yBP}$ 、 $4,047 \pm 138\text{yBP}$ という数値が得られている。類例や水層測定によるデータなどから、縄文時代後・晩期頃ではないかと考えられる。

Sb-2・3は、尖頭器を特徴とする石器群で、彫器、搔器、石核などが伴っている。尖頭器は8cm前後の木葉形のもので製作され、破損・欠損品が多くみられる。時期的には後期旧石器時代末期と考えられるが、年代の決め手となる資料は得られていない。

Sb-4~10は、ナイフ形石器(図I-17-10~18)を特徴とする石器群で、搔器(図I-17-19)、石刃、石刃核などを伴い、多数の接合資料がある。ナイフ形石器は、広頸型ナイフ形石器と呼ばれているものを含み、母岩分類の結果、61個体の母岩別資料(97接合資料)が抽出でき、原石の選択、石核からの素材獲得、ナイフ形石器の加工などの状況が把握できた。年代の決め手となる資料は得られていないが、打面調整のみられない比較的単純な石刃技法と「白滝I群」に類似する寸詰まりの刮片剥離の共存ということから、細石刃出現以前の後期旧石器時代前半で、「白滝I群」より新しい時期と考えられる。

北支湧別4遺跡(平成10年)(図I-12)

出土した遺物は、すべて石器類で、時期的には旧石器時代のものが大半を占めるが、縄文時代とみられるものもある。器種としては、尖頭器、両面調整石器、彫器、搔器、削器、二次加工ある刮片、石刃、縦長刮片、石刃核、石核、剥片などがある。

石器類は、平面的に3か所のまとまりで確認でき、石器ブロック1~3(Sb-1~3)とした。また、これらの石器ブロックを構成する石器類は、特徴や組成、接合状況などから2つの石器群に分けることができる。

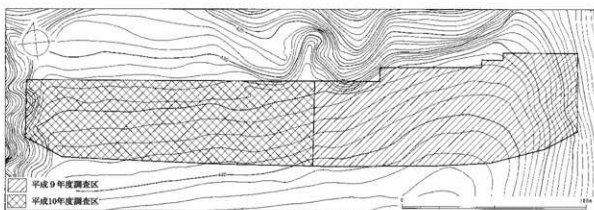
Sb-1は、尖頭器とその製作剥片のみの出土で、尖頭器製作が行われた場と考えられる。いずれの石器も剥離面の光沢が強く、水層が発達していないことから縄文時代の石器群と考えられる。平成13年度に実施した3点の尖頭器の水層測定による年代換算では、 $7,600 \pm 259\text{yBP}$ 、 $4,860 \pm 281\text{yBP}$ 、 $4,656 \pm 125\text{yBP}$ という数値が得られ、肉眼視察と同様な測定結果が得られた。

Sb-2・3は、尖頭器を特徴とする石器群で、両面調整石器、彫器、搔器、削器、石刃、縦長刮片、石刃核、石核などが伴っている。3点の有角尖頭器は舌部が明瞭に作出され、ほぼ完形の黒曜石製の2点は産地推定ではいずれも置戸・所山産と判定されている。また、中間から先端部が欠損している1点は珪質頁岩製で、3点の有角尖頭器は、いずれも石器の形で遺跡に持ち込まれていると考えられる。尖頭器は柳葉形ないし木葉形のもので、破損品やその製作剥片が多く、両石器ブロックとも尖頭器製作が行われた場であったことがわかる。また、主にSb-3において搔器・削器が出土しているので、その製作・使用も行われていた。ブロック間の接合資料が1個体ある。

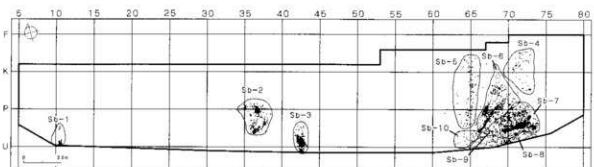
時期的には後期旧石器時代末期と考えられるが、年代の決め手となる資料は得られていない。

白滝第30地点遺跡(平成12年)(図I-13)

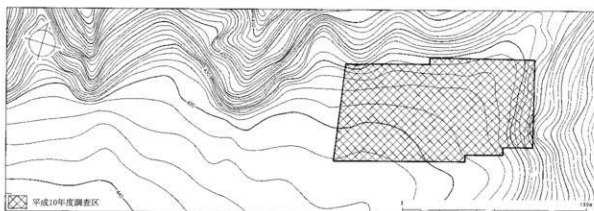
平成7~9年度に白滝村教育委員会が調査した白滝第4・30地点遺跡に隣接している。遺物総数は4,627点であるが、耕作による攪乱が著しく、点取り遺物は314点である。定形的な石器は、細石刃、搔器、削器、舟底形石器などで、細石刃に搔器・削器の伴う小ブロック(Sb-1)と尖頭器の製作剥片のみの小ブロック(Sb-2)が確認されただけである。



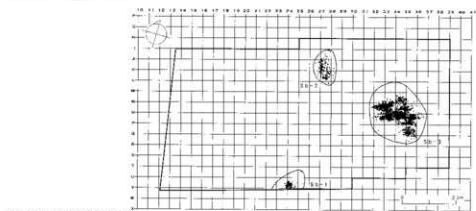
上白滝7遺跡調査区域図



上白滝7遺跡遺物分布図

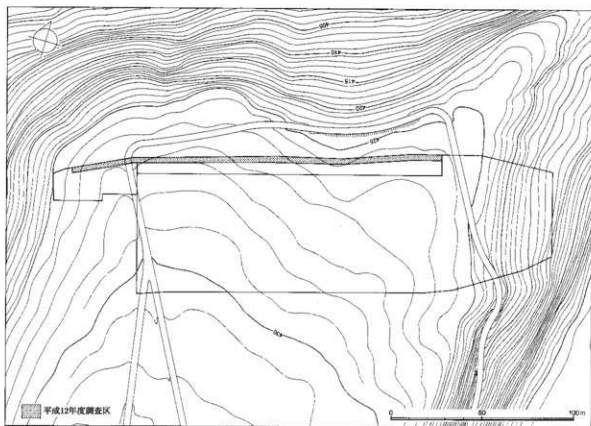


北支湧別4遺跡調査区域図

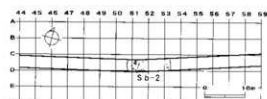
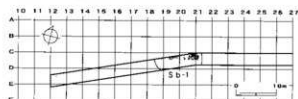


北支湧別4遺跡遺物分布図

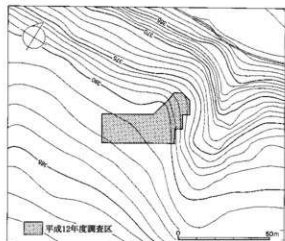
図1-12 上白滝7・北支湧別4遺跡調査区域・遺物分布図



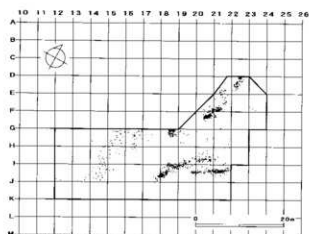
白滝第30地点遺跡調査区域図



白滝第30地点遺跡遺物分布図

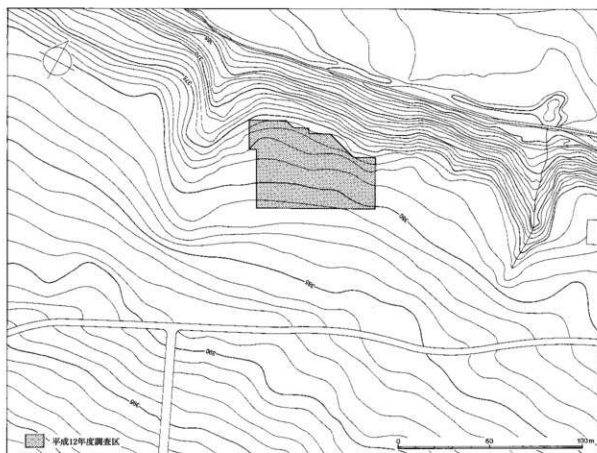


白滝8遺跡調査区域図

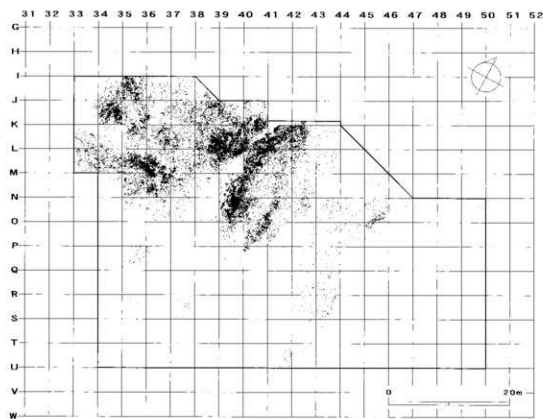


白滝8遺跡遺物分布図

図 I-13 白滝第30地点・白滝8遺跡調査区域・遺物分布図

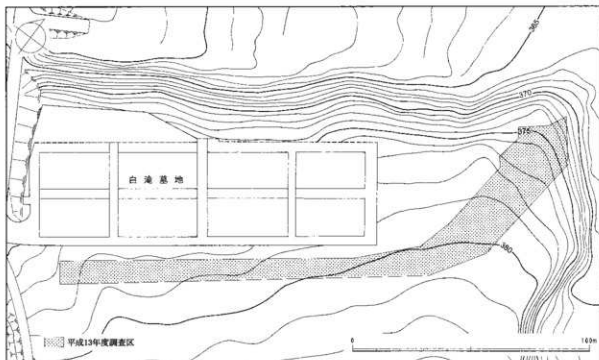


白滝18遺跡調査区域図

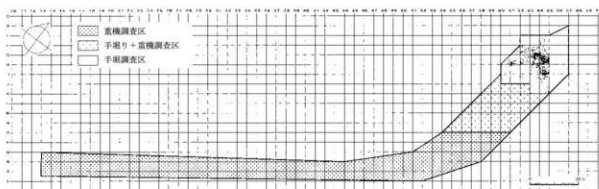


白滝18遺跡遺物分布図

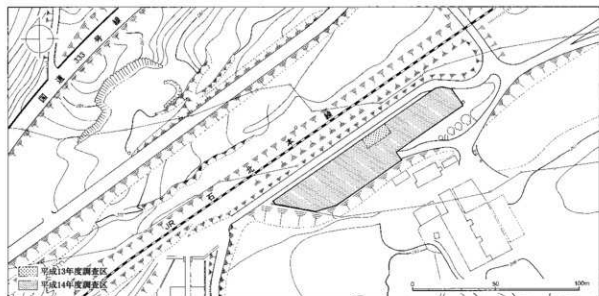
図 I-14 白滝18遺跡調査区域・遺物分布図



白滝3遺跡調査区域図

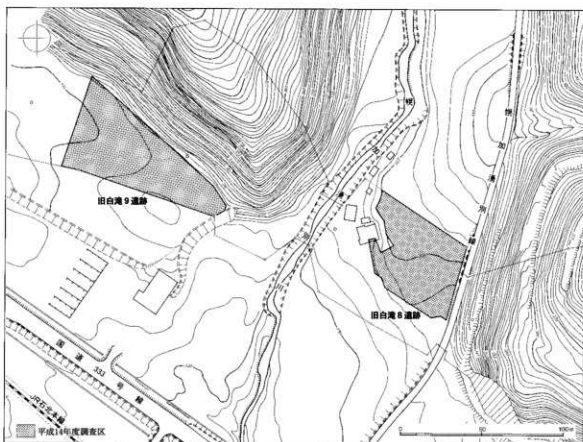


白滝3遺跡遺物分布図

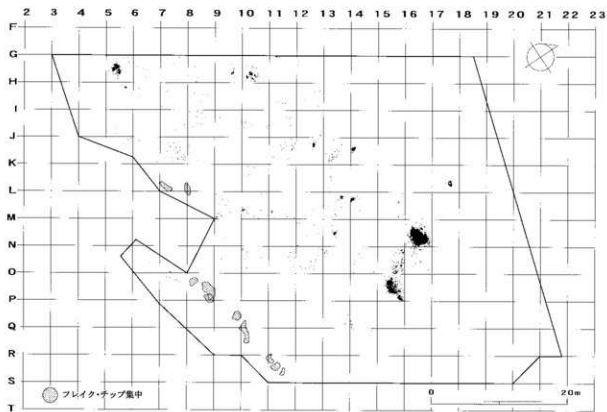


下白滝遺跡調査区域図

図 I-15 白滝3・下白滝遺跡調査区域・遺物分布図



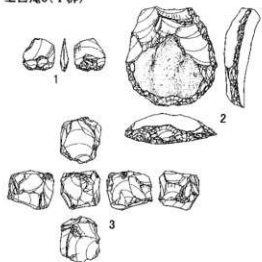
旧白滝9・旧白滝8遺跡調査区域図



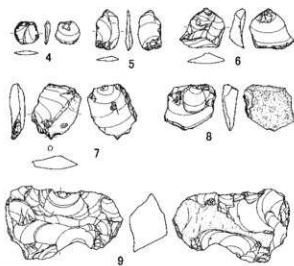
旧白滝8遺跡遺物分布図

図 I-16 旧白滝9・旧白滝8遺跡調査区域・遺物分布図

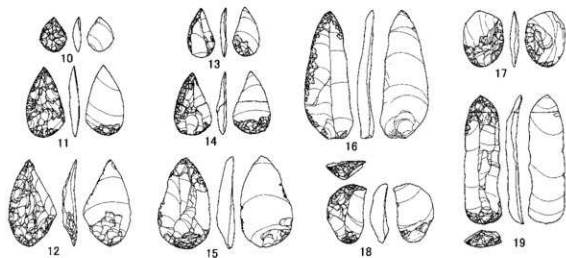
上白滝8(I群)



奥白滝1(I群: Sb-4~6)



上白滝7(Sb-4~10)



上白滝2(Sb-3~6·10)

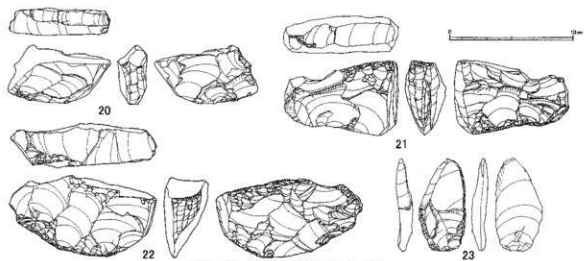
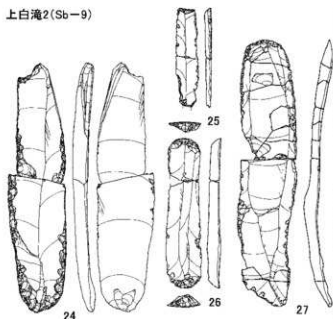
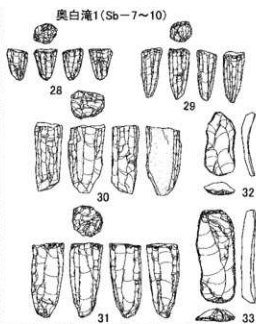


図1-17 白滝遺跡群出土石器(1)

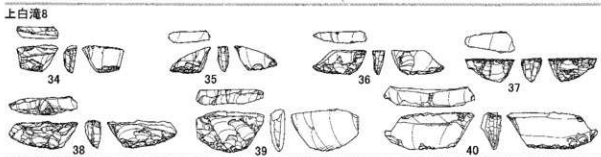
上白滝2(Sb-9)



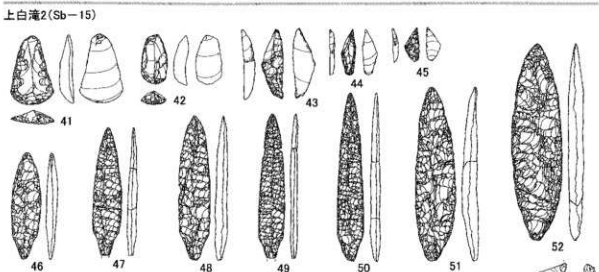
奥白滝1(Sb-7~10)



上白滝8



上白滝2(Sb-15)



上白滝2(Sb-13)



図 I-18 白滝遺跡群出土石器(2)

白滝8遺跡（平成12年）（図I-13）

湧別川と支湧別川の合流地点に近い白滝市街南方、上白滝地区の遺跡の立地する上白滝面より一段低い東白滝面の標高380m前後の河岸段丘上にある。遺跡は小規模で、段丘縁辺の小沢に面した突出部に遺物が分布している。定形的な石器は、細石刃、彫器、搔器、削器、舟底形石器、石刃核、石核などである。斜面部で舟底形石器に近接して発見された凝灰岩製の石刃核は、長さ37cm、重さ3kgの大製品で、形態的には丸ノミ形の石斧に類似するが、石斧の刃部に相当する部分には琢磨痕などはみられない。他の地域の遺跡から持ち込まれたもので、その用途、性格が注目される。

白滝18遺跡（平成12年）（図I-14）

白滝8遺跡同様、湧別川と支湧別川の合流地点に近い東白滝面の段丘縁辺の緩斜面に立地し、白滝8遺跡の小沢を挟んだ東側に位置している。遺物は、北東方向の小さな沢を挟んで分布し、定形的な石器としては、尖頭器、搔器、削器、舟底形石器、石核、石刃核などがあるが、尖頭器が35%を占める。その尖頭器は大部分が幅の広い有舌のもので、大きさ・形態ともにバラエティーに富んでいる。最も大型のものは、長さ31.1cm、幅9.7cmである。素材は剥片が多いが、板状の原石もみられ、その大部分が破損・欠損品である。類似した有舌尖頭器は、白滝では上白滝8遺跡、他の地域では、北見市広郷28遺跡、濱戸町置戸安住遺跡、今金町神丘2遺跡などで出土している。

白滝3遺跡（平成13年）（図I-15）

遺跡は白滝18遺跡の東方400m、同じ東白滝面の段丘縁辺に立地し、東側には伊藤の沢川が流れている。調査区は大きく白滝墓地南の西側地区と段丘縁辺の東側地区に分けられる。西側地区は耕作による攪乱のため、遺物包含層が全くなく、発掘区単位での重機による掘り上げ後、人力による遺物採取を行った。採取された遺物はすべて石器類で、有舌尖頭器、尖頭器、彫器、搔器、石刃核、石核などがある。東側地区では段丘の先端部に遺物の分布が認められ、尖頭器、小型のものを含む舟底形石器、彫器、搔器、錐形石器、石刃核、石核が出土した。

旧白滝9遺跡（平成14年）（図I-16）

遺跡は幌加湧別川の右岸、湧別川本流に対しては左岸の標高340mの段丘上に位置する。地形は比較的平坦であるが、湧別川に向かって緩やかに傾斜している。また、背後は粘板岩製の基礎層が露出した急峻な崖面となり、調査区の北西端ではその崩落した岩塊が多数みられた。

調査区は耕作による後世の攪乱が著しく、遺物包含層は残存していなかった。したがって、調査は耕作上を重機によって掘り上げ、その後人力によって遺物を採取する方法で行った。出土遺物は全て石器類で、定形的なものとした石鏃、尖頭器（石槍・ナイフを含む）、削器などが若干みられただけである。遺跡の時期は石器のパティナや器種などから縄文時代と考えられるが、土器が出土していないので、詳細は不明である。

旧白滝8遺跡（平成14年）（図I-16）

遺跡は白滝市街から北東へ3.4km、幌加湧別川と湧別川との合流点を400m遡った幌加湧別川左岸に位置する。調査区の標高は340m、調査前の地形は幌加湧別川に向かって緩やかに傾斜する斜面で、幌加湧別林道を挟んだ調査区北西の沢からの崖堆積物でマウンド状の高まりとなっていた。遺跡は耕作、宅地や庭の造成など後世の攪乱が著しく、大部分の区域では遺物包含層は残存していなかったが、宅地に続く駐車場や道路部分の下に幌加湧別川の旧河道部が確認された。その旧河道部につながる斜面でわずかに遺物包含層が残存している部分があり、焼土や剥片集中、土器などが発見された。また、攪乱された畑でも沢地形の部分や、木根などから大量の剥片類が出土し、遺物の総数は49万点におよび、1㎡当たりの遺物出土点数も187点となり、今までの遺跡では最高となった。

土器は表土層からも若干出土したが、大部分は旧河道に接した斜面及び焼土周辺で、大部分が縄文時代後北C₁式に相当するものである。定形的な石器としては、石鏃、削器、両面加工ナイフ及びその製作途中の両面調整石器、石核などがあるが、大部分は石器製作に関わる剥片・碎片類である。石器類の時期は、光沢の強いパティナの状況や石器・剥片の特徴、剥離技術などから縄文時代後北C₁式の時期と考えられる。剥片・碎片類の占める割合は、上白滝地区の旧石器時代の遺跡よりはるかに多い状況である。

下白滝遺跡（平成13・14年）（図1-15）

遺跡は、白滝市街の北東約9.5km、丸瀬布町市街とのほぼ中間点、村名の由来である「白滝」の下流、標高270mの湧別川左岸の河岸段丘上に立地している。湧別川との比高は約7mである。遺跡は全体的に耕作による攪乱が著しく、段丘の端部分に攪乱を免れた部分がわずかにある。

平成13年度は畑部分90㎡、平成14年度は残りの部分について調査を行った。調査区はすべて耕作による攪乱を受けており、遺物量の少ない平成13年度調査区およびその周辺の北東側半分は、重機による掘り上げ後、人力による遺物採取を行った。南西側も攪乱されているが、遺物の出土量が多いのと剥片・碎片類が小さいため人力で調査を行った。また、風倒木や木根部分から攪乱を免れた石器類が多量に出土し、その中に土器類もみられた。土器は大部分が縄文時代中期の刺突文ないし無文の土器とみられ、その他若干の後・晩期のものである。定形的な石器類は、石鏃、尖頭器（石槍・ナイフを含む）、削器、つまみ付きナイフなどである。また、薄手の剥片に二次加工がみられる石鏃の未成品とみられるものもある。遺跡は縄文時代の石器製作跡と考えられるが、出土している剥片類が小型であることなどから二次加工を主体とした遺跡とみられる。（長沼 孝）

II 遺跡の位置と周辺の環境

1 遺跡の位置と周辺の遺跡

遺跡の所在する白滝村は、北海道網走支庁管内中西部に位置し、北緯43° 44′ 20″ から43° 57′ 30″、東経143° 0′ 40″ から143° 18′ 20″ の間にある。北は丸瀬布町・滝上町、東は丸瀬布町、西・南は上川支庁管内上川町に接している。

村の中央には湧別川と支湧別川に挟まれた台地状の三角地帯があり、周囲は山地に囲まれている。北側には湧別川の左岸に急峻な山地が迫り、その中に黒曜石の産出地として知られる赤石山がある。また、南西から南東にかけて大雪山系の天狗岳・武利岳・支湧別岳などの1,600～1,800mの山々が連なっている。村内を東西に流れる湧別川は天狗岳に源流を発生し、北側からは赤石山周辺から流れ込む八号沢川、十勝石沢川、幌加湧別川を吸収し、南側からは本来本流である支湧別川（アイヌ語で「シ・ユーベツ」、「大きい・湧別川」の意味）と白滝村市街地で合流し、丸瀬布町、遠軽町、上湧別町、湧別町を経てオホーツク海に流れ込んでいる。

道内の黒曜石産地との位置関係は、赤石山を起点とする南東方向40kmに置戸町所山・置戸山、南方向50kmに上土幌町十勝三股が位置している。

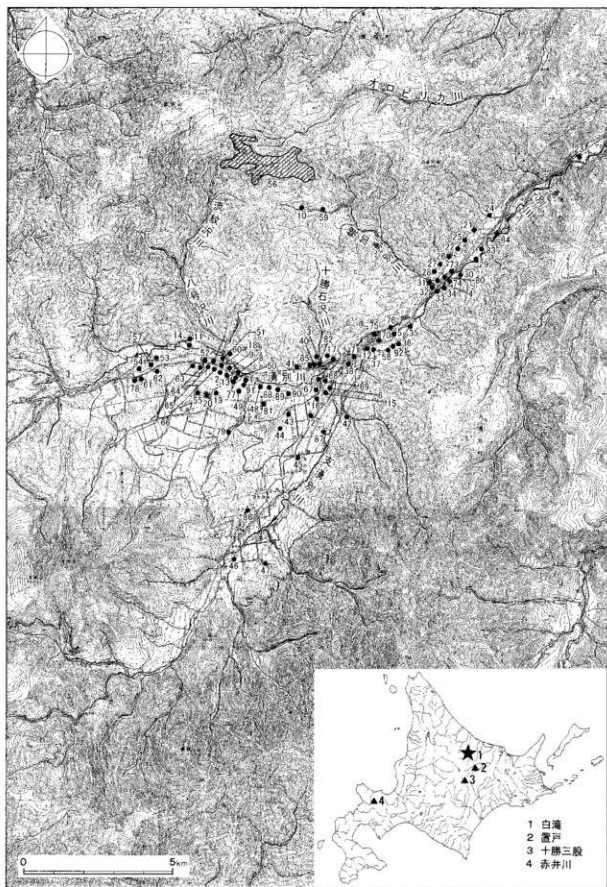
村内には92か所の遺跡が確認されている（図Ⅱ-1・2、表Ⅱ-1）。縄文時代以降の遺跡は平成14年度調査を行った旧白滝8・旧白滝9・下白滝（北海道埋蔵文化財センター 2003）、石井遺跡の4遺跡のみでその他は断片的に縄文時代の石器が見られるものの旧石器時代の遺物が主体を占める。それらのほとんどは湧別川沿いの河岸段丘上に所在し、「白滝遺跡群」と総称されている。これらは、大きく八号沢と湧別川の合流点付近、十勝石沢川と湧別川の合流点付近、幌加湧別川と湧別川の合流点付近の三つの集中地区に分けることができる。いずれも赤石山を源流とする沢と湧別川の合流点付近から下流に広がる形で集中し、原右採取や、露頭へのルートとして沢を利用していたことが想定される。その内、特に、八号沢川と湧別川の合流点付近には白滝第13地点遺跡をはじめ、服部台・服部台2・白滝第32・33地点遺跡など、学史的に有名かつ大規模な遺跡が集中している。一方、段丘以外では、赤石山の山麓で赤石山・幌加沢遺間地点・幌加林遺跡の3遺跡が確認されているのみであるが、深い森林のために発見されていない遺跡があることが予想される。

黒曜石は赤石山山頂および露頭、八号沢川、十勝石沢川、幌加湧別川、湧別川などで採取でき、遺跡ではその立地環境を反映して大量の黒曜石が利用されている。湧別川中流域の遠軽町内にある同時代のタチカルシュナイ遺跡でも同様に黒曜石の利用がみられる。

奥白滝11遺跡は、八号沢川と湧別川の合流点から約0.6km上流の右岸段丘上、白滝第33地点遺跡の南西側に隣接し、大規模遺跡の集中する地域の西端に位置する。標高は約160m、湧別川との比高は約35mである。

上白滝8遺跡は、八号沢川と湧別川の合流点から約1.1km下流の右岸段丘上、白滝第13地点遺跡の南側、奥白滝1遺跡の沢を挟んだ東側、上白滝2遺跡の沢を挟んだ西側に隣接し、大規模遺跡の集中する地域の中央部に位置する。標高は高位部で約435m～450m、低位部で約415m、湧別川との比高は高位部で35m～50m、低位部で15mである。

上白滝6遺跡は、八号沢川と湧別川の合流点から約2km下流の右岸段丘上、上白滝5遺跡の沢を挟んだ東側、上白滝7遺跡の沢を挟んだ西側に隣接し、十勝石沢川と湧別川の合流点とのほぼ中間に位置する。標高は約425～435m、湧別川との比高は30～40mである。



(国土地理院発行5万分の1地形図「白滝」「上支湧別」「丸瀬布南部」「大和」を使用)

図Ⅱ-1 白滝村の位置と村内の龍跡



図II-2 奥白滝11・上白滝8・上白滝6・白滝第30地点遺跡の位置と周辺の遺跡
〔国土地理院発行5万分の1地形図「白滝」を参照〕

表II-1 白滝村の遺跡一覧

登録番号	遺跡名	調査年度	報告年度	調査者	遺跡名	調査年度	報告年度
1	1 白滝第13地点	1955	古畑 1961	40	1 白滝		
		1956	北人遺業連 1960	41	上白滝		
		1958	古畑 1961	42	北支洞別1		
		1985	松竹 1987b	43	栗白滝1		
2	藤原台	1951	杉原・戸田 1955	44	北支洞別2		
3	白滝第22地点	1956	北人遺業連 1960	45	五通別1		
4	白滝遺跡			46	上支洞別1		
5	石井			47	下支洞別2		
6	白滝第30地点	1957	内配 1959	48	上白滝2	1996・97	鈴木ほか 2000
		1985	松竹 1987b	49	水白滝		
		1994	松竹 1995	50	栗白滝1	1997・98・2000	藤江ほか 2002
		1995-98		51	栗白滝2		
		2000	北海道歴史文化財センター 2001	52	奥白滝3		
7	白滝第33地点	1957	古畑 1961	53	栗白滝4		
		1985	松竹 1987b	54	栗白滝5		
8	白滝第31地点	1959	古畑 1961	55	穴滝11		
		1959	白滝町体研発会 1963	56	幸吾山		
9	白滝第32地点	1959	白滝町体研発会 1963	57	奥白滝5		
		1966	松竹 1987b	58	白滝8	2000	北海道歴史文化財センター 2001
		1972	米村 1975・77	59	豊船橋吉		
10	横尾川遺跡 承取地	1967・90・95・ 99・99・99・99	札幌大学本学実習センター 1968・90・90・95・米村 2003	60	上白滝3		
11	岩倉倉	1981	千葉・銀 1982	61	奥白滝7		
12	旭森遺跡			62	栗白滝8		
13	飯沼12	1981	千葉・銀 1982	63	栗白滝9		
		1998・99・2000	北海道歴史文化財センター 1999・2000・99	64	奥白滝10		
14	沢島12			65	栗白滝11	1999	北海道歴史文化財センター 2000
15	白滝第4地点	1955	古畑 1961	66	栗白滝12		
		1986	松竹 1987b・b	67	北支洞別4	1998	鈴木ほか 2000
		1991	松竹 1995	68	白滝9		
		1995・96	松竹・藤竹 2002	69	白滝10		
16	白滝第10地点			70	14滝11		
17	白滝第27地点	1955	内配 1961	71	14滝12		
18	白滝第29地点			72	北支洞別3	1983	松竹 1987b
19	白滝第37地点	1960	白滝町体研発会 1963	73	白滝11		
20	白滝第38地点	1960	白滝町体研発会 1963	74	14滝13		
21	田白滝4			75	白滝14		
22	平尾1			76	白滝15		
23	下白滝	2001・02	北海道歴史文化財センター 2001・02	77	下白滝4		
24	田白滝3			78	栗白滝13		
25	宇野台			79	奥白滝3		
26	白滝15			80	白滝14	1983	松竹 1987b
27	トサキ1	1961	白滝町体研発会 1963	81	栗白滝4		
28	田白滝5			82	白滝16		
29	田白滝6			83	田白滝12		
30	田白滝7			84	田白滝13		
31	田白滝8	2002	北海道歴史文化財センター 2002	85	田白滝14		
32	田白滝9	1985・2002	松竹 1985 北海道歴史文化財センター 2002	86	上支洞別5	1996	松竹 1987b
33	田白滝10	1985	松竹 1987b	87	下支洞別5		
34	白滝1			88	下白滝5	1997・98	藤江ほか 2002
35	白滝2			89	下白滝5	1998・2001	鈴木ほか 2005 北海道歴史文化財センター 2001
36	白滝3	2001	北海道歴史文化財センター 2001	90	上白滝7	1997・98	坂本ほか 1999
37	白滝4			91	上白滝8	1995・98・2000	北海道歴史文化財センター 1996・97・98・99・2001
38	白滝5			92	白滝18	2000	北海道歴史文化財センター 2001
39	白滝6						

白滝第30地点遺跡は、十勝石沢川と湧別川の合流点付近の右岸段丘上、白滝第4地点遺跡の東側に隣接し、十勝石沢川と湧別川の合流点付近の遺跡集中域の南西部に位置する。標高は約425～430m、湧別川との比高45～50mである。(鈴木宏行)

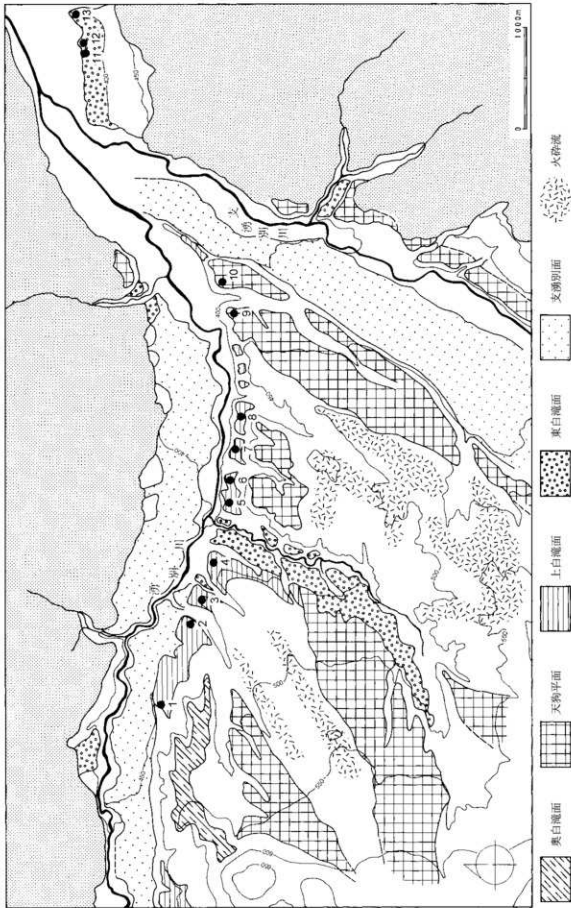
2 遺跡周辺の地形と地質

遺跡群のある白滝村は、北海道の屋根といわれる大雪山系北東山麓の小盆地に位置し、盆地内には西から東に流れてオホーツク海に注ぐ湧別川と、南西から北東に流れて白滝市街で湧別川と合流する支湧別川がある。村内の遺跡は湧別川と支湧別川に挟まれた、通称「三角地帯」と呼ばれる一帯に多くあり、特に湧別川右岸の河岸段丘上に集中している。三角地帯の南東側は、標高700～1,700mの日高累層群による山系である。北側は日高累層群とこれを覆う晚加湧別層・晚加湧別凝灰岩による標高600～1,200mの山地で、深い谷地形が発達している。南西側は大雪山系の北東延長部にあたり標高1,500～1,800mの山々が連なっている。三角地帯は、南西側にある天狗岳(標高1,553m)から北東方向に広がる緩斜面と数段の段丘地形から成り立っている(図Ⅱ-3)。

北側の山地は北西部と北東部で地形、地質の様相が異なる。北西部は、チトカウニ山(標高1,445m)を中心として、日高累層群の粘板岩で構成され、急峻な山々が広がる。北東部も同様に日高累層群の基盤で構成されているが、後縁部に広く溶結凝灰岩が分布しているため山腹斜面が急峻で、山後部は全体的に平坦な地形となっている。溶結凝灰岩は、分布西限にあたる雄柏山から東へ向かうにしたがい、山後部の高さが徐々に低くなり丸瀬布町までみられる。遺跡群と関係の深い赤石山(標高1,147m)もこの山塊に位置する。赤石山では黒曜石が産出し、国内でも最大級の埋蔵量を誇っている。山腹には人規模な黒曜石の露頭がいくつもみられ、その下の沢では良質の黒曜石が採集できる。

段丘面は、湧別川と支湧別川に挟まれた三角地帯の台地上に少なくとも5段が発達している。形成時期の古い段丘から奥白滝面、天狗平面、上白滝面、東白滝面、支湧別面に区分され、段丘形成史が概観されている(中村・平川 1998)。これらの段丘面の基盤となっているのは白滝層と呼ばれる火砕流堆積物で、地点によって凝灰質砂層、溶結凝灰岩層、砂質粘土層、湖成堆積層などと様相が異なる。白滝層は盆地内の広い範囲でみられ、現在の斜面傾斜方向と同方向に三角地帯内に流れ込んだと思われる。これに伴い古白滝湖が形成されたため、白滝層の大部分は二次堆積による湖成堆積層として確認されている。

段丘面の中で最も高位の奥白滝面は、湧別川上流部の伊藤ノ山(標高678m)の北東に残っているのみである。天狗平面は、斜面堆積によってできた大規模な扇状地地形で、天狗岳から北東方向、白滝層の間を埋めるように分布している。特に伊藤ノ山東側、天狗沢川上流部、支湧別川左岸で良好に発達し、この段丘面上には北支湧別4(当センター調査)・白滝第4地点・第30地点遺跡(村教委・当センター調査)などが立地している。次の上白滝面(標高470～400m)は、湧別川により形成された河岸段丘で、湧別川の右岸に八号沢川合流地点付近から黒曜の沢合流地点付近まで分布する。遺跡が数多く立地しているのはこの段丘面上で、白滝第13地点遺跡、服部台遺跡など学史的にも有名な遺跡が数多く分布している。当センターが調査した遺跡の多くもこの段丘面上に立地し、湧別川の上流から奥白滝11・服部台2・奥白滝1・上白滝8・上白滝2・上白滝5・上白滝6・上白滝7遺跡と続き、それぞれ大小の谷地形によって区切られている。谷地形の中で最も大きなものは、上白滝地区で湧別川と合流する天狗沢川で、三角地帯を大きく東西に二分し、その東側と西側では地形的な差異がみられる。天狗沢川より西側は扇状地状の緩斜面地形で、東側は開析の進んだ傾斜のやや強い台地状



1: 奥白滝1遺跡 2: 瀧原台2遺跡 3: 奥白滝1遺跡 4: 上白滝8遺跡 5: 上白滝6遺跡 6: 上白滝5遺跡 7: 上白滝6遺跡 8: 上白滝7遺跡 9: 北支那別4遺跡 10: 白滝部30地点遺跡 11: 白滝8遺跡 12: 白滝10遺跡 13: 白滝3遺跡
(資料・写真 1998を元に作成)

図1-3 段丘面分布図

の地形である。また中村、平川により、段丘礫層のほぼ直上に堆積する奥白滝軽石がトエトコ火山灰(TT)に比定され、このテフラの噴出年代が15~20万年前頃と推定されることから上白滝面の離水時期もそれ以前と考えられている(中村・平川 1998)。次に形成される東白滝面(標高500~370m)は、前出の天狗沢川の両岸と、湧別川と支湧別川との合流地点より下流の右岸に広く発達し、最終水期前半には離水していたと推定されている。天狗沢の左岸には上白滝8遺跡(当センター調査)、合流地点下流の右岸には白滝18・白滝8・白滝3遺跡(当センター調査)が立地している。次の支湧別面(標高150m~)は、最終水期極相期に離水した最も新しい段丘面で、湧別川左岸と支湧別川左岸に広く分布する。縄文時代以降の遺跡がみられることが多く、旧白滝8・旧白滝9・下白滝遺跡が立地している。また湧別川左岸は、山地が間近に迫っているため段丘面が階段状に形成されず、八号沢川と十勝沢川の間の山麓では所々に支湧別面を覆う崖堆積がみられる。

次に白滝盆地内にみられるテフラについて説明する。中村、平川によると、11枚のテフラ層が確認され、広域対比が試みられている(中村・平川 1998, 平川ほか 2000)。そのうち地形発達史を考える上で重要なテフラは、新しいものから樽前a軽石(Ta-a)、大雪御鉢平軽石(Ds-Oh)、屈斜路庶路火山灰(Kc-Sr)、支笏1軽石(Spfa-1)、トエトコ火山灰(TT)である。樽前a軽石(Ta-a)は、細粒の軽石片からなるテフラで、服部台2遺跡の表土中で確認された。大雪御鉢平軽石(Ds-Oh)は、淘汰が悪く、多量の石質岩片を含有しているのが特徴で、盆地内の広い範囲で確認されている。直上の炭化木片の年代測定値から、約3万年前に降下したものと考えられる。発掘された遺物はすべて同層かそれより上層から出土しているため、遺跡の形成年代を考える上でも重要なテフラである。屈斜路庶路火山灰(Kc-Sr)は、黄褐色の細粒ガラス質火山灰で、奥白滝1・服部台2遺跡の大雪御鉢平軽石(Ds-Oh)と赤褐色粘土壌の間にもみられることから、最終間水期から最終水期の間に降下したと考えられる。支笏1軽石(Spfa-1)は、約4万2千年前に降下したテフラである。黄褐色の細粒ガラス質火山灰で、湧別川と合流する手前の十勝沢左岸で確認された。屈斜路庶路火山灰(Kc-Sr)とは肉眼的に類似するが、支笏1軽石(Spfa-1)は屈折率が高い斜方輝石を含む特徴がある。トエトコ火山灰(TT)は、普通角閃石を多量に含むのが特徴で、上白滝面に立地する服部台2・奥白滝1遺跡では段丘礫層の直上から確認された。15~20万年前に降下したテフラと推定され、白滝盆地の段丘形成史を考える上で重要なテフラである。

今回報告する4遺跡は、すべて三角地帯内の湧別川右岸にあり、奥白滝11・上白滝8・上白滝6遺跡は上白滝面(上白滝8遺跡は東白滝面も含む)、白滝第30地点遺跡は一段高位の天狗平面上に立地している。

奥白滝11遺跡は、湧別川と八号沢川の合流点から約700m上流に位置し、遺跡の主体部は現状保存された旧路線(国指定史跡部分)を中心とした一帯にある。調査区域は標高が460~465m、台地北西側端の斜面上で、北東-南西方向の細長い範囲である。中央部には北西方向に走る小さな沢地形がみられ、調査区域を二分している。北東側にはテラス状の小さな平坦面があり、南東側は沢の立ち上がり斜面がなだらかに続く。調査区域の北西側は急崖で、湧別川に合流する沢が流れている。遺跡が立地する台地の東側には沢を挟んで服部台・服部台2遺跡がある。

上白滝8遺跡は、湧別川と八号沢川の合流点から約1,100m下流に位置している。遺跡は上白滝面から急斜面を介して一段低い東白滝面に渡っている。調査区域の標高は上白滝面が430~445m、東白滝面が410~420mである。調査は段丘の縁から約25m奥に入った地点で、台地の幅500m程を横切るように東西方向に長い区域で行った。主に旧石器時代の遺物を包含する上白滝面の中央部には僅かな沢地形がみられ、遺物分布もそこで大きく二分される。遺跡の西側は急崖で沢を挟んで奥白滝1遺跡

(平成13年度報告)、東側には上白滝地区で最も大きな天狗沢が流れ、沢を挟んで上白滝2遺跡(平成12年度報告)がある。

上白滝6遺跡は、湧別川と八号沢の合流点から約2,000m下流、十勝石沢との合流点から約1,800m上流に位置している。調査区域は標高が125~135m、台地西側の緩斜面上で、段丘の縁から約15m奥に入った地点から南北方向120m程の細長い範囲である。台地を東西方向に横切るように調査した本線部分は平成12年度に報告されている。中央部にみられる小さな沢地形によって、比較的緩斜面である西側と傾斜が強い東側に分けられる。遺物の分布は地形に対応するように大部分が西側から出土している。今回の調査区域の地形は本線部分の北側が比較的平坦であるのに対し、南側は傾斜が強い。台地の東西とも深い沢地形が発達し、西側には上白滝5遺跡(平成13年度報告)、東側には上白滝7遺跡(平成11年度報告)が位置している。

白滝第30地点遺跡は湧別川と十勝石沢の合流点の約450m南側に位置している。調査区域は標高が427m前後、段丘の縁を20~35m奥に入った地点で、台地を東西方向に横切る細長い範囲である。遺跡の大部分は白滝村教育委員会によって調査が行われている(松谷 1987a、松村 1995、松村・瀬下 2002、松村・瀬下 2003)。三角地帯の頂点部分にあたる台地で、平坦な面が大きく広がり、北東側には細長い舌状の張り出し部分が発達している。台地の西側には深い沢地形が発達し、沢を挟んで北支湧別4遺跡(平成12年度報告)があり、西側は標高380m前後の支湧別面が広がっている。

(直江康雄)

3 基本土層

調査した遺跡は、すべて湧別川の右岸段丘上に立地し、地表より1m前後の表層(I~III層)については同様な土層の堆積状況がみられた。したがって、各遺跡においては層厚などに若干の相違がみられるが、基本的に以下のような層名に統一して記述した。なお、IV層以下は各段丘面によって異なり、さらに同一段丘面の遺跡においても多少の違いがみられる。

第I層：表土・耕作土層 厚さは10cm前後、クマ笹や木根を含んだ黒色の腐食土層及び、現代の耕作によって攪乱された表層である。

第II a層：褐色粘質土層 厚さは30~50cm、しまり、粘性とも弱い、下部にいくにしたがって強まる。黄褐色の軽石、石質岩片、マンガン粒を少量含む。調査したすべての遺跡で観察され、遺物の大部分がこの層から出土することから本来の遺物包含層であると考えられる。なお、II a層に含まれる少量の石質岩片や軽石は、II c層に含まれているものと類似している。

第II b層：灰白色~青灰色粘質土層 厚さは5 cm前後、しまりが少しあり、粘性が強い。含有物はII a層と同様軽石、石質岩片、マンガン粒を少量含む。遺跡群すべてで観察されるわけではなく、所々で観察される。含有物が同様で、灰白色をしていることから、II a層が還元化された層と考えられる。またこの土は、III層の中程まで入ったクラックの中にもみられ、平面形は径1m前後の細目模様を呈し、周縁に酸化鉄が沈着している。

第II c層：赤褐色~灰褐色砂質土層 厚さは10cm前後、しまりがあり、粘性は弱い。この層も遺跡群すべてで観察されるわけではなく、特にII b層と上下関係をもって確認される地点は少ない。石質岩片、軽石を多量に含んでいる。この岩片と軽石は、大雪山系に位置する御鉢平カルデラ起源のテフラ(Ds-Oh)であることが確かめられている(中村・

平川 1998, 1999)。テフラ層直上で検出された炭化木片の放射性炭素年代は、約3万年前であった。

第Ⅲ層：赤褐色～褐色砂質土層 厚さは50～100cm、しまりが強く、粘性は少しある。マンガング粒を多量に含んでいる。その他に石質岩片、軽石も少量含まれる。Ⅲ層以下からは遺物は全く出土しない。Ⅲ層は、周水河現象を受けて、上面がうねっている地点が多い。平面形でみると皿状の窪みになっており、そこにⅡb層やⅡc層が厚く堆積している状況が多くみられた。

Ⅳ層以下については各段丘面により異なる。調査した遺跡のほとんどが立地する上白滝面では、基本的にしまりの強いローム質の土層が続き、砂層と粘土層の互層となり、段丘礫層に達する。これら基本的な層序の中に各遺跡、各地点において様々な土層がみられる。上白滝8・上白滝7遺跡などでは、斜面堆積物であるマトリックスの多い礫層がⅢ層の下に約1mみられる。服部台2遺跡、奥白滝1遺跡の北側地点では、古土壌と呼ばれる赤褐色の層が確認され、その直下に推定降下年代が15～20万年前のトエトコ火山灰がみられ、段丘礫層へと続く。トエトコ火山灰は、普通角閃石を豊富に含み、指で土層を掻き探ると、針状の黒色鉱物がべつとりと残るのが特徴である。上白滝2遺跡では、段丘礫層直上の粘土と砂の互層が他の遺跡より厚く1mほど堆積している。また、Ⅲ層以下には周水河作用により、土層が波状に変形している地点も多くみられた。上白滝面より上位の天狗平面上に立地する北支湧別4遺跡では、Ⅲ層直下にトエトコ火山灰がみられ、その下層の厚く堆積した灰白色粘土層の中にSit 6テフラ(中村・平川 1998, 1999)があり、段丘礫層へと続いている。上白滝面より下位の東白滝面上に立地する白滝8・白滝18・白滝3遺跡では、段丘礫層がⅢ層の直下にある。特に湧別川に面した段丘の縁部分は、Ⅱa層下部およびⅡb層中に粘土層や礫層が互層となっている地点が確認され、粘土・礫層中からも多くの遺物が出土している。

湧別川と支湧別川に挟まれた三角地帯内の段丘面の基盤となっているのは、白滝層と呼ばれる火砕流堆積物で、地域内の広い範囲でみられるが、地点によって凝灰質砂層、溶結凝灰岩層、砂質粘土層、湖成堆積層などと様相が異なる。(直江康雄)

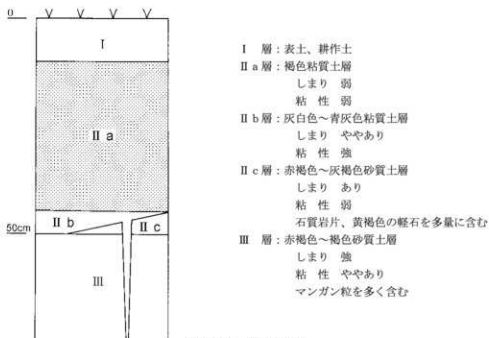


図 2-4 基本土層図

4 黒曜石の原石山・赤石山

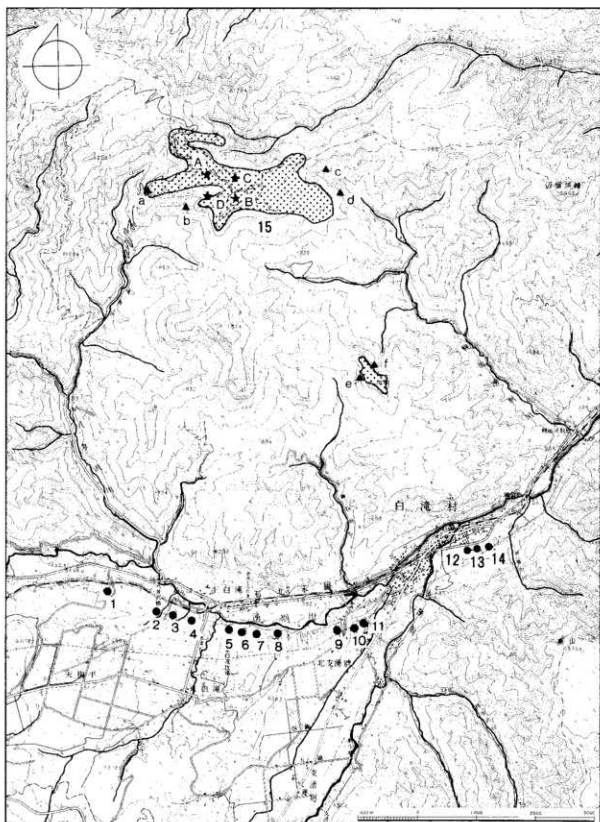
黒曜石は黒曜岩とも呼ばれ、「新版地学辞典」（地学団体研究会 1996）によれば、「ガラス光沢を有する流紋岩～デイサイト質のガラス質火山岩。黒曜石とも。色は通常暗黒または灰黒。貝殻状断口を示す。比重は2.339～2.527。水分に乏しい（ H_2O （±）<1%）ことと比重が大きいことでピッチストーンと区別される。ときに少量の斑晶を含む。石基には晶子を含む。しばしば点紋・綫状・球状構造を呈し、また気泡を含むことがある。通常、溶岩または火山放出物として産し、日本では北海道十勝・長野県和田峠などのものが有名。Obsidianは火山ガラスに対する古代からの名称。石器時代に石器の材料として珍重」とある。黒曜石は、考古学的には極めて重要な石材であるが、岩石学的には火山岩の一種で、成因、構造なども比較的単純な関係から研究文献は多くない。むしろ考古学と関連した産地推定や年代測定の研究の方が多い状況である。

わが国のガラス質火山岩の初期の分析（遠藤 1929、神津 1930）で取り上げられたのは十勝産の黒曜石で、白滝産のものが分析対象となるのは昭和13年の津中の紹介（津中 1938）以後で、昭和25年の河野による「木邦玻璃質岩石の研究」（河野 1950）で、岩石学的な分析と全国の他の黒曜石との対比が行われている。

白滝産の黒曜石は、河野の分析によれば、斑晶鉱物として斜長石、磁鉄鉱を含み、比重は2.352、屈折率は1.4856、化学成分では SiO_2 が74.41%である。

赤石山は、白滝村市街の北々西6.5m、標高は1,147m（古い地図では1,154m）、現在は国道333号より八号沢川に沿った八号沢林道を3.5km程入り、さらに流紋沢川に沿った赤石林道を上り、山頂部へ行くことができる。途中の林道では標高950m付近から黒曜石が散布し、標高1,000mを越えると一面に黒曜石がみられる部分が数か所みられる。また、標高1,000m付近の林道右手には有名な、通称八号沢の露頭（図Ⅱ-5のa）がある。この露頭は、黒曜石が流紋岩質凝灰岩にパッチ状にみられ、灰白色球類や綫状構造が多いが、玻璃光沢があり、良質である。また、叩くと金属音がするので、硬質とみられる。山頂部の平坦面では、ピークの標高1,147m周辺に黒色を主体とする黒曜石の散布地帯（図Ⅱ-5のA）があり、さらにピークを下り削平された林道の終点付近では、紅色、茶色、紫がかかった茶色など俗に花十勝といわれる黒曜石が一面にみられる（図Ⅱ-5のB）。ここは、昭和31・32年ごろから観賞・装飾品加工用の原石採掘が行われたところである。また、黒色の散布地帯とこの採掘跡の中間部には茶色の黒曜石が集中する部分もある（図Ⅱ-5のC）。さらに赤・茶色の混じった黒曜石は、採掘跡手前の流紋岩球類の指定地（図Ⅱ-5のD）のある急な沢（仮称球類の沢）でも多量にみられる。山頂部や球類の沢では、原石に混じって粗い両面調整石器や石核や剥片などがみられ、一部は紹介されている（宗像 1999）が、時期の決め手はない。球類の沢は、小規模な露頭がいくつかあるが、標高900m付近の柱状節理の発達した露頭（図Ⅱ-5のb）は大規模なもので、その下から下流で採取できる角柱状の原石は、球類がみられるものの良質で、石器の素材としては極めて良好である。おそらく、旧石器時代においてもこの沢は原石採取の主要な地点であったと考えられ、標高700m付近のわずかな平坦部などでは、剥片類が散布する地点が多数ある。また、赤石林道入り口から1km程入った78林道林道のカッピングでは、梨肌黒曜石原石を採取することができる。後に説明する黒曜の沢より上流の湧別川で採取される梨肌原石は、この78林道林道周辺に由来する可能性があり、薬科氏の産地分析での原産地「八号沢」は、78林道林道採取原石の分析値である。

白滝村市街へ入る手前の十勝石沢は別名、黒曜の沢、澱粉沢と呼ばれ、沢入り口の礫層中や砂防ダム付近では大小の多量な黒曜石原石が採取できるが、そのほとんどが細かい気泡が多く玻璃光沢の鈍



- 1: 奥白滝11 2: 服部台2 3: 奥白滝1 4: 上白滝8 5: 上白滝2 6: 上白滝5 7: 上白滝6 8: 上白滝7
 9: 北支湧別4 10: 白滝第4地点 11: 白滝第30地点 12: 白滝8 13: 白滝18 14: 白滝3 15: 赤石山 A: 黒
 B: 赤(探掘跡) C: 茶 D: 流紋岩球顆 a: 八号沢の露頭 b: 球顆の沢・柱状露頭 c: 梶加沢の露頭
 d: あじさいの滝 e: 十勝石沢の露頭 f: 白土の沢露頭

図Ⅱ-5 調査遺跡・黒曜石露頭位置図

い俗称「梨肌」のものである。沢を溯った上流部左岸の露頭(図Ⅱ-5のe)は、後述する梶加沢白土の沢(図Ⅱ-5のf)の反対側になり、山頂部に数mの厚さで、凝灰岩、流紋岩の上部に堆積している。また、この露頭の下位の溶結凝灰岩中には、玻璃光沢の強い黒曜石もある(白濁団体研究会1963)とされ、沢の所々では玻璃光沢の黒曜石もわずかであるが採取できるので、その供給源となる露頭や上層が存在すると思われるが、詳細は不明である。

白濁村市街の北東2mにある梶加湧別川の流れる梶加沢は、北西方向に伸び、入り口から直線距離で6km程で、赤石山の山頂にいたる。上流部や支流の蜂の巣沢川でも、黒色や茶色の混じった良質の黒曜石原石が採取できる。蜂の巣沢の最上流部付近では、名前の由来となった俗称「蜂の巣石」と呼ばれる蜂の巣のような窪みが多数みられる黒曜石がみられるほか、標高800mの通称梶加沢の露頭(図Ⅱ-5のd)や林道終点に近い通称あじさいの滝(図Ⅱ-5のc)などいくつもの露頭がある。最近確認できた地域では、梶加沢遠間地点遺跡隣の「左ノ沢」があり、石器製作に適した手ごろの大きさの良質の原石が採取できる。この「左ノ沢」は前述の梶加沢の露頭やあじさいの滝につながる赤石山山頂から南東に伸びる尾根筋にあり、この一帯が梶加沢の主要な黒曜石原石の分布地帯である可能性がある。また、沢入り口より梶加湧別川を3km程溯った左手にある白土の沢の露頭(図Ⅱ-5のf)は、十勝石沢の露頭(図Ⅱ-5のc)の反対側で、一体では「梨肌」の黒曜石が採取できる。山頂部や球類の沢同様に梶加沢においても露頭やその周辺で、人為的な石器類が採取できる地点が多数あるが、梶加沢遠間地点遺跡などのように特徴的な遺物が多数みられる場所以外は、年代の決定が難しい。

おそらく赤石山へつながる八号沢、十勝石沢、梶加沢の3本の大きな沢および湧別川本流は、旧石器時代以来黒曜石原石の主要な採取地で、先に説明したように採取できる原石にも違いがあったと考えられる。その状況は、アイヌ語地名としても確認できる。山田秀三によれば、黒曜石はアイヌ語で「アンチ(anchi)」あるいは「アンジ(anji)」で、明治31年5万分の1地形図では、八号沢川のところどころに「シュマフレユーベツ」、十勝石沢のところに「アンシュオユーベツ」という地名が見られるという。そして「シュマフレユーベツ」はシュマ・フレ・ユーベツ Shuma-hure-yupet「石が・赤い・湧別川(の支流)」、「アンシュオユーベツ」はアンジ・オ・ユーベツ Anji-o-yupet「黒曜石・が多い・湧別川」と考えられる、という(山田1977)。現在でも赤や茶色の黒曜石は八号沢・流紋沢川が主体であり、十勝石沢は梨肌の原石であるが、その量は膨大である。また、山田によれば、石ころなどがごろごろある状態をいうのは「オ」を使うのがアイヌ語の通例だという。現在でも十勝石沢の砂防ダムでみられる、一面に黒曜石の大小の原石が敷き詰めたとある状況と符合する。

赤石山を中心とした八号沢・流紋沢、十勝石沢、梶加・蜂の巣沢の一帯は、深い森林地帯(国有林)で、多くの黒曜石の露頭や良質の原石が採取できる地点が多数あるが、その実態は不明である。また、それらの地点と関連して遺物が散布する地点も多数あるが、その内容や時代などの把握も困難な状況である。地形・地質などの把握を含めた総合的な分布調査が必要であり、村教委でも資料収集に努めているところで、今後は次第の明らかになっていくものと考えられる。(長沼 孝)

Ⅲ 奥白滝11遺跡の調査

1 調査の概要

(1) 調査要項

事業名	一般国道450号白滝丸瀬布道路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査（平成14年度）
委託者	国土交通省北海道開発局網走開発建設部
受託者	財団法人北海道埋蔵文化財センター
遺跡名	奥白滝11遺跡（I-20-65）
所在地	紋別郡白滝村字上白滝62-2
調査面積	505㎡
調査期間	平成11年4月1日～平成12年3月31日（現地調査平成11年5月6日～10月25日） 平成12年4月3日～平成13年3月30日（整理作業のみ） 平成13年4月2日～平成14年3月29日（整理作業のみ） 平成14年4月1日～平成15年3月31日（整理作業のみ）

(2) 調査体制

財団法人北海道埋蔵文化財センター	理事長	大澤 満（平成14年6月30日まで） 森重 権（平成14年7月1日から）	
専務理事	佐藤哲人（平成11年5月31日まで） 宮崎 勝（平成11年6月1日から）	常務理事	柴田忠昭（平成11年3月31日まで） 木村尚俊（平成13年7月17日まで） 畑 宏明（平成14年6月1日から）
総務部長	中田 仁（平成13年3月31日まで） 柳瀬茂樹（平成14年3月31日まで） 下村一久（平成14年4月1日から）	第1調査部長	畑 宏明（平成11年8月15日まで） 木村尚俊（平成13年7月17日まで） （兼務） 大沼忠春（平成14年3月31日まで） （兼務） 畑 宏明（平成14年4月1日から） （兼務）
平成11年度	第1調査部第3調査課	課長	長沼 孝（発掘担当者）
	同	主任	越田雅司（発掘担当者）
	同	主任	鈴木宏行
	同	文化財保護主事	坂本尚史
	同	文化財保護主事	佐藤 剛
	同	文化財保護主事	直江康雄（発掘担当者）
	同	文化財保護主事	福井淳一
平成12年度	第1調査部第3調査課	課長	長沼 孝

1 調査の概要

	同	主任	越田雅司
	同	主任	鈴木安行
	同	文化財保護主事	直江康雄
平成13年度	第1調査部第3調査課	課長	長沼 孝
	同	主任	鈴木安行
	同	文化財保護主事	直江康雄
平成14年度	第1調査部第3調査課	課長	長沼 孝
	同	主任	鈴木安行
	同	主任	立田 理
	同	文化財保護主事	直江康雄

(3) 調査日誌抄

平成11年			5月20日(木) 包含層調査、N14区両面調査石器、M12区北壁土層層面実測。
5月6日(木) 調査員自備入り。			5月26日(水) 包含層調査、H15区削器出土。
5月7日(金) 現場開始準備・環境整備ほか。			5月27日(木) 包含層調査終了。
5月10日(月) 現場開始所式。 (服部台2遺跡の調査)			調査面積505m ² 、点取り遺物データ1,117点。 (服部台2遺跡の調査)
5月17日(月) 表土除去。			6月4日(金) 平成11年度の調査終了、調査員引き上げ。
5月18日(火) 杭打ち・測量。			
5月19日(水) 包含層調査開始、N11区削石が出土。			

(4) 発掘区の設定

発掘区はアルファベットの英文字と数字の組み合わせで表示し、規格は4×4mとした。調査区の設定基準は、工事測定のIPNo. 6とIPNo. 7を基準点とし、その2点を通る直線を南西-北東方向の基線とし、北西-南東方向はIPNo. 7の基準点を通り、南西-北東方向の基線に直交する直線とした。

ラインの設定は、南西-北東方向をアルファベットの英文字とし、基線をMに設定後、南東側にN、O、P、Q、北西側は逆にL、Kとした。北西-南東方向は数字で、IPNo. 7を通る基線を5とし、北東側6、7、8、・・・とした。調査区域は、アルファベットラインでは、L～O、数字ラインでは5～20の範囲で、基準点の測量成果は下記のとおりである。

IPNo. 6	X = -13419.200	Y = 69878.500
IPNo. 7 (M5)	X = -13466.248	Y = 69839.225

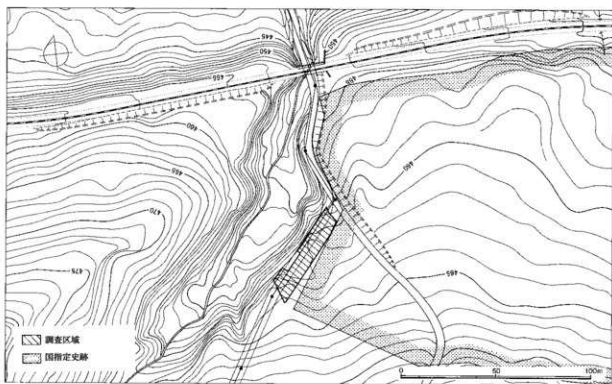
(平面直角座標系 第XⅡ系)

発掘区の呼称は、4m四方区画の西側のライン交点で示した。例えば、Nラインと12ラインの交点の東側がN12区ということになる。また、発掘区の方法は、公共座標の北方向に対して東側に30°50'52"傾いている。

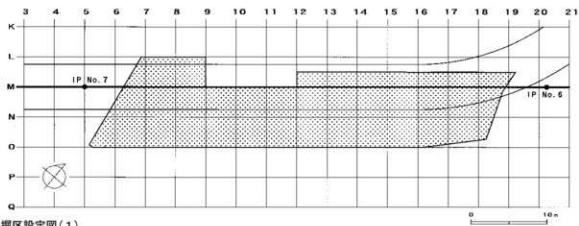
(長沼 孝)

(5) 土層

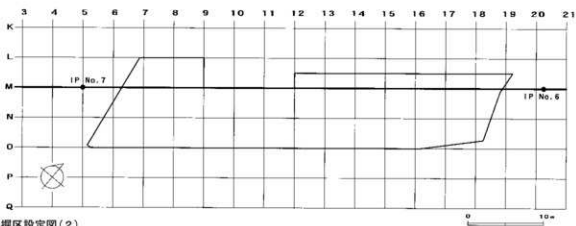
奥白滝11遺跡の土層堆積状況は、Ⅱ章で記載した基本土層とはほぼ同様で、上からⅠ層(表土)、Ⅱa層(褐色粘質土)、Ⅱc層(赤褐色～灰褐色砂質土)、Ⅲ層(赤褐色～褐色砂質土)の順に堆積しているが、Ⅱb層(灰白色粘質土)は見られなかった。遺物包含層であるⅡa層は、遺跡内のほとんどの地点で連続的に確認された。



調査範囲・周辺の地形図



発掘区設定図(1)



発掘区設定図(2)

図Ⅲ-1 調査範囲・発掘設計図

調査区域は工事路線変更で国指定史跡となった遺跡本体の西端に位置し、南西から北東に延びる小沢に面している。地形は全体的に南から北に緩やかに傾斜しているが、中央から西側に小さな沢があり、その東側は狭い舌状地形になっている。図Ⅲ-2ではNラインの南西-北東方向の地形断面と13ラインの北西-南東方向の上層断面を示した。

13ライン

笹根を含むⅠ層(表土)下に遺物包含層であるⅡa層が20cm程度の厚さであり、その下は砂質のⅡc層になっているが、部分的に黄灰色の粘質土がみられる。基本的にⅡc層、黄灰色粘質土の下はⅢ層と考えられるが、南東端で確認できただけである。(長沼 孝)

(6) 調査の方法

調査は高規格道路建設に伴う村道の付替え工事に先立つもので、区域も幅12m、長さ56m程度の狭い範囲である。また、調査区外に排土場所の確保が困難な状況から、通常の25%調査は行わず、重機による表土除去を行った後、杭打ち、測量、包含層調査、測量という手順で調査を進めた。

包含層調査は、まず小沢両側の高まり部分のM・N6区とM・N11~17区から始めた。その結果、M・N6区では遺物が全く出土せず、調査区内での遺物の分布はM・N11~17区の高まり部分であると判明したので、M・N7~10区については重機で調査し、終了と同時に測量を行い、排土場所とした。また、調査区の北西縁は沢に而した部分で、作業の安全や土の流出防止のためのクリアランスを確保して調査を行ったが、遺物の広がりはないとみられる。

遺物の取り上げは、他の遺跡と同様に、Ⅰ層(表土および耕作土)については発掘区単位で一括して取り上げ、遺物包含層であるⅡ層については、出土位置を可能な限り計測した。しかし、Ⅱ層の遺物でも指先より小さい剥片類については、発掘区単位で一括して取り上げた。出土位置の記録はトータル・ステーションを使用し、さらに遺構・遺物データシステム(シン技術コンサルタント)にデータを蓄積すると同時に毎日遺物一覧表とドットマップ(分布図)を作成し、データのチェックと遺物の分布状況を把握しながら調査を進めた。現場終了時の奥白滝11遺跡のデータ数は1,117件である。

(長沼 孝)

(7) 整理の方法

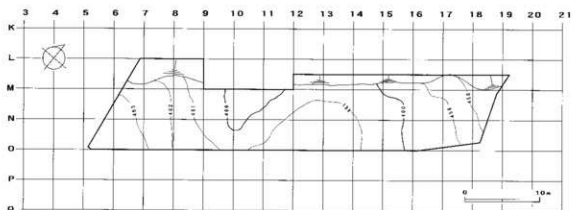
遺物の水洗作業は、基本的に現地で行った。その後、札幌の整理作業所に運び、注記などの整理作業を開始した。

遺物の整理作業は、他の遺跡と同様に点取り遺物と一括遺物に分けて進めた。点取り遺物は注記後に、器種分類、重量計測、石質、残存状況、打点・自然面・被熱の有無など一次の属性観察を行い、次に接合・実測などの二次整理作業を進めた。遺物の注記は、道教委の登録番号、発掘区、遺物番号の順としたので、奥白滝11遺跡、N15区出土、遺物番号30の石器の場合は「65N15・30」となる。

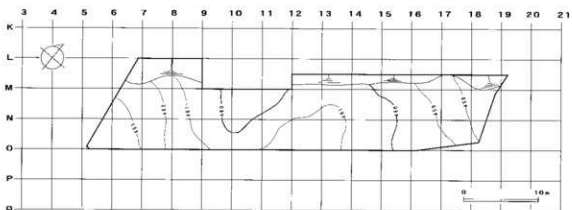
また、一括遺物は、定形的なものや点取り遺物と接合したものを抽出し、台帳を作成した。したがって、その注記は、点取り遺物と区別するため、発掘区と台帳の整理番号の間に層位を記入した。例えば、N15区、I層出土、台帳番号5の石器は、「65N15・I・5」となる。

現場で取り上げた点取り遺物は、1,117点であったが、水洗後に精査し、地山に含まれている自然礫や崩壊石の原石を除いた結果、点取り遺物は最終的に1,116点となった。

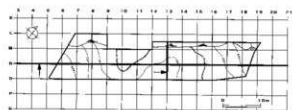
遺物の接合作業は、石質、発掘区そして全体の順で進めたが、全体量が少なく、遺物の分布が調査区域外に広がっていることなどから、あまり進展しなかった。



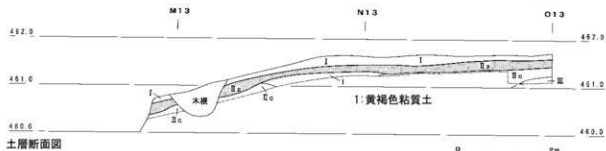
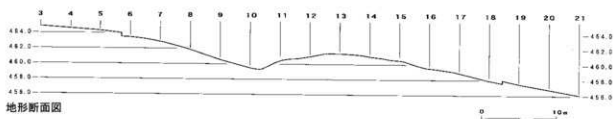
表土除去後の地形図



調査終了後の地形図

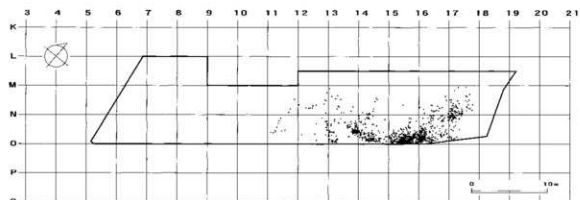


地形断面図



土層断面図

図Ⅲ-2 発掘区域地形・土層断面図



13ライン



15ライン



Mライン



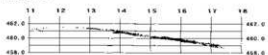
14ライン



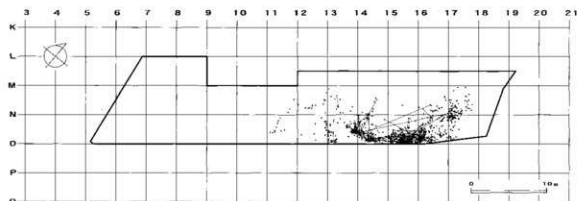
16ライン



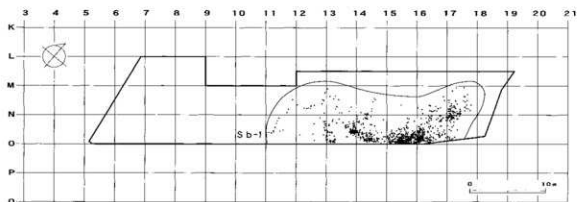
Nライン



遺物分布図



全接合分布図



石器ブロック設定図

図Ⅲ-3 遺物分布・接合分布・石器ブロック設定図

表Ⅱ-1 奥白滝11遺跡出土遺物点数・重量一覧 ※重量の単位は(g)

種類	尖頭器		両面調整石器		湖盆		撿器		削器		舟底形石器		細石刃		石刃		縦長剥片		石刃核		石核		剥片		原石		合計						
	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量					
点取り	1	21.9	1	130.4						1	194.2										1	378.9	1	243.9	111	5017.9		1116	8296.3				
一括	I	2	6.1												1	6.2													312	489.9			
	II																												437	367.3			
点取り	2	45.4	1	299.2	2	11.0	2	32.8	2	161.9	1	124.2			1	42.2	2	38.2									1	11.2	17	968.3			
一括			1	267.6																								1	1188.6	1	8095.6	12	2107.9
合計	3	67.7	3	1097.3	2	11.0	2	32.8	2	161.9	1	124.2			1	6.2	1	43.4	2	38.2	1	378.9	1	243.9	259	1165.9	2	4814.4	236	13918.2			

表Ⅱ-2 奥白滝11遺跡出土遺物石質別一覧 ※重量の単位は(g)

種類	石質	尖頭器		両面調整石器		湖盆		撿器		削器		舟底形石器		細石刃		石刃		縦長剥片		石刃核		石核		剥片		原石		合計			
		点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量		
点取り	燧石	1	21.9	1	130.4						1	194.2																	1116	8296.3	
	小石	1	21.9	1	130.4						1	194.2																	1116	8296.3	
一括	燧石	4	21.7	2	966.9	1	5.4	2	32.8	4	161.9	1	124.2	1	6.2	1	42.4	2	38.2									2	4814.4	2374	7814.9
	小石	1	21.7	2	966.9		1	5.9																				1	5.4		
合計	3	67.7	3	1097.3	2	11.0	2	32.8	2	161.9	1	124.2			1	6.2	1	43.4	2	38.2	1	378.9	1	243.9	259	1165.9	2	4814.4	236	13918.2	

最終的に折れ面接合は31例（50001～50031）、剥離面接合は33例（1～33）となった。接合に関わる点数は145点（折れ面接合のみ26点、剥離面接合119点）で、点取り遺物の総数1,116点に対しては13.0%、点取り及び一括遺物の総数2,396点に対しては6.1%の接合率である。遺物・接合点数が少ないので、母岩別資料の抽出は行わなかった。

最終的に実測図などを掲載した石器類は5個体、6点で、接合資料はない。分布・接合図などを示した石器ブロックは1か所である。石器類の掲載割合は、点取り及び一括遺物の総数2,396点から剥片2,369点を引いた石器27点に対して22.2%である。（長沼 孝）

（8）調査結果の概要

奥白滝11遺跡では、炭化木片ブロックなどの遺構は確認されなかった。遺物総数は2,396点、総重量は131,918.2g、そのうち点取り遺物は1,116点、一括ほかの遺物は1,280点で、詳細は表Ⅱ-1を参照願いたい。

出土した遺物はすべて石器類で、時期は後期旧石器時代終末頃と考えられる。器種としては尖頭器、両面調整石器、彫器、撿器、削器、舟底形石器、細石刃、石刃、縦長剥片、石刃核、石核、剥片、原石などがあるが、大部分のものは史跡に指定された旧路線内の試掘調査で出土したもので、今回の発掘区では尖頭器、両面調整石器、削器、細石刃、石刃核、石核、剥片などが出土しただけである。

石器類は調査区の東側で出土し、小さないくつかのまとまりがみられるが、調査区域外に広がり、全体状況が不明なことから、一つの石器ブロック（Sb-1）とした。

ブロック内の表土から細石刃が出土しているが、1点のみで、この石器ブロックに伴う確証はない。したがって、この石器ブロックは尖頭器に伴う石器群とみられるが、詳細な時期は不明である。

（長沼 孝）

2 遺構と遺物

焼土や炭化木片ブロックなどの遺構は確認されなかった。

出土した遺物はすべて石器類で、平面的にはいくつかの小さなまとまりがみられるが、調査範囲が

表Ⅲ-3 奥白滝11遺跡出土点取り遺物ブロック・石質別一覧 ※重量の単位は(g)

ブロック	石質	尖頭器		両面調整石器		削器		石刃核		石核		剥片		合計	
		点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量
Sb-1	黒曜石1					1	194.3	1	378.9	1	543.8	829	2796.9	829	3063.9
	黒曜石2											3	37.3	3	37.3
	黒曜石3	1	31.0									75	380.6	76	411.6
	黒曜石4			1	130.4							169	1685.1	169	1815.6
	黒曜石5											23	127.7	23	127.7
合計		1	31.0	1	130.4	1	194.3	1	378.9	1	543.8	1111	5617.9	1116	6259.3

表Ⅲ-4 奥白滝11遺跡出土原礫面残存・被熱石器一覧

ブロック	遺物点数(点取り)(点)	原礫面残存石器(点,%)	被熱石器等(点,%)	
Sb-1	1116	173	15.3	12
合計	1116	173	15.5	12

狭いことや南東側の調査区域外に分布が広がり、調査区域内でまとまりが完結しないことなどから、1か所の石器ブロックとした。

(1) 遺物分布と石器ブロック

石器類は調査区域内の西側、11ラインより北東側、28×8m(14発掘区)の範囲に分布する。分布は15ラインを境に大きく二つに分けられ、南西側はやや散漫であるが、北東側はN15・16区で濃密にみられる。南西側はN13・14区に小さな集中が1か所、北東側はN15・16区とM・N17区に集中がみられるが、N15区が最も濃密な遺物分布区域である。

(2) 石器ブロック1(Sb-1)の石器

出土石器

尖頭器1点、両面調整石器1点、削器1点、石刃核1点、石核1点、剥片1,111点、総計1,116点、重量6,296.3gの石器類が出土した。石材はすべて黒曜石で、黒曜石1は826点(74.3%)と最も多く、黒曜石4の184点(16.5%)、黒曜石3の75点(6.7%)、黒曜石5の23点(2.1%)、黒曜石2の3点(0.3%)と続く。また、被熱しているものは12点(1.1%)と非常に少なく、原礫面が残存しているものも173点(15.5%)と少ない。

細石刃(図Ⅲ-4-1、図版4-1)

中間部の破片である。両側および2本の後はほぼ平行で、横断面は台形である。打点側の折れは背面部の小丸類から広がっている。全体的に灰色で、やや光沢を失っているため、被熱しているものと考えられる。

両面調整石器(図Ⅲ-4-2、図版4-2)

加工初期段階の破片である。横断面が台形に近い柱状の梨肌の黒曜石2の原石の両面に粗い加工がみられる。右側裏面の大きな割離面に接合する剥片があるが、その状態は図示していない。

削器(図Ⅲ-4-3、図版4-3)

背面に原礫面がみられる。やや湾曲した縦長剥片の両側縁に粗い加工が施されている。全体的に稜が磨耗し、割離面も光沢が鈍い梨肌の黒曜石2である。

石核(図Ⅲ-4-4・5、図版4-4・5)

4は両面で剥片割離が行われている石核で、素材の原石は稜が若干潰れている角礫とみられる。上部石核の割離後に行われた打面形成の際に緑が潰れ、遺棄されたと考えられる。5は単割離打面の石

核で、打面と正面の作業面の角度が90度に近くなり、さらに径1.5cmの球顆が現れたため遺棄されたと考えられる。原石は稜が潰れた楕円形に近い亜角礫とみられる。

石器ブロック1 (Sb-1) の分布 (図Ⅲ-5)

M11～17区、N11～17区の28×8mの範囲で確認され、分布は15ラインを境に南西と北東の二つに大きく分かれるが、N15・16区が最も濃密な遺物分布を示している。図示した石器類もN14～16区に分布している。

石器ブロック1 (Sb-1) の接合状況 (図Ⅲ-6)

N13・14区とN15区の二つの小ブロック内での接合関係が多いが、その両者間での接合、さらにそれらと少し距離のあるM16・17区との接合もみられる。(長沼 孝)

IV 上白滝8遺跡の調査（東地区）

1 調査の概要

(1) 調査要項

事業名	一般国道450号白滝丸瀬布道路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査（平成14年度）
委託者	国土交通省北海道開発局網走開発建設部
受託者	財団法人北海道埋蔵文化財センター
遺跡名	上白滝8遺跡（I-20-91）
所在地	紋別郡白滝村字上白滝179-1, 181-2, 181-3, 181-4, 182-2, 182-3
調査面積	17,849㎡（平成7年度：6,600㎡、平成8年度：10,212㎡、平成9年度：320㎡、平成10年度：56㎡、平成12年度：661㎡）
調査期間	平成7年4月17日～平成8年3月25日（現地調査平成7年5月8日～10月25日） 平成8年4月11日～平成9年3月31日（現地調査平成8年5月8日～10月30日） 平成9年4月11日～平成10年3月31日（現地調査平成9年5月6日～10月25日） 平成10年4月10日～平成11年3月31日（現地調査平成10年5月6日～10月24日） 平成11年4月1日～平成12年3月31日（整理作業のみ） 平成12年4月3日～平成13年3月30日（現地調査平成12年5月8日～10月27日） 平成13年4月2日～平成14年3月29日（整理作業のみ） 平成14年4月1日～平成15年3月31日（整理作業のみ）

(2) 調査体制

財団法人北海道埋蔵文化財センター	理事長	伊藤 一夫（平成10年5月31日まで）	
		大澤 満（平成14年6月30日まで）	
		森重 樺一（平成14年7月1日から）	
専務理事	佐藤 哲人（平成11年5月31日まで）	常務理事	柴田忠昭（平成11年3月31日まで）
	宮崎 勝（平成11年6月1日から）		木村尚俊（平成13年7月17日まで）
			畑 宏明（平成14年6月1日から）
業務部長	山内 清（平成9年3月31日まで）	第1調査部長	畑 宏明（平成11年8月15日まで）
	北條雅洋（平成10年3月31日まで）		木村尚俊（平成13年7月17日まで）
総務部長	中田 仁（平成13年3月31日まで）		（兼務）
	柳瀬茂樹（平成14年3月31日まで）		大沼忠春（平成14年3月31日まで）
	下村一久（平成14年4月1日から）		（兼務）
			畑 宏明（平成14年4月1日から）
			（兼務）
平成7年度	第1調査部第3調査課	課長	長沼 孝（発掘担当者）
	同	文化財保護主事	宗像公司（発掘担当者）

1 調査の概要

平成8年度	第1調査部第3調査課 課長	長沼 孝 (発掘担当者)
	同 文化財保護主事	藤井 浩 (発掘担当者)
	同 文化財保護主事	宗像公司 (発掘担当者)
	同 文化財保護主事	坂本尚史
	同 文化財保護主事	鈴木宏行
平成9年度	第1調査部第3調査課 課長	長沼 孝 (発掘担当者)
	同 主任	越田雅司 (発掘担当者)
	同 文化財保護主事	宗像公司 (発掘担当者)
	同 文化財保護主事	坂本尚史
	同 文化財保護主事	鈴木宏行
平成10年度	第1調査部第3調査課 課長	長沼 孝 (発掘担当者)
	同 主任	越田雅司 (発掘担当者)
	同 文化財保護主事	宗像公司 (発掘担当者)
	同 文化財保護主事	坂本尚史
	同 文化財保護主事	鈴木宏行
平成11年度	第1調査部第3調査課 課長	長沼 孝 (発掘担当者)
	同 主任	越田雅司
	同 主任	鈴木宏行
	同 文化財保護主事	坂本尚史
	同 文化財保護主事	佐藤 剛
平成12年度	第1調査部第3調査課 課長	長沼 孝 (発掘担当者)
	同 主任	越田雅司 (発掘担当者)
	同 主任	鈴木宏行 (発掘担当者)
	同 文化財保護主事	直江康雄 (発掘担当者)
	同 文化財保護主事	福井淳一
平成13年度	第1調査部第3調査課 課長	長沼 孝
	同 主任	鈴木宏行
	同 文化財保護主事	直江康雄
平成14年度	第1調査部第3調査課 課長	長沼 孝
	同 主任	鈴木宏行
	同 主任	立田 理
同 文化財保護主事	直江康雄	

(3) 調査日誌抄

平成7年度		(紙位部) 表土除去開始。
5月8日(月)	調査員白濁入り。	13日(土) 東地区表土除去、杭打ち開始。
9日(火)	～11日(木) 現場開始準備、環境整備、調査区域伐採木処理ほか。	15日(月) 東地区表土除去、杭打ち。
12日(金)	現場開所式、雇用・作業説明ほか。東地区	17日(木) 西地区(高位部) 60～67・M～Rライン表土除去開始、杭打ち開始。

18日(木)	東地区包含層調査開始。西地区60～65・I～Mライン、65ライン以東(斜面部)表土除去、杭打ち。		
20日(土)	東地区包含層調査終了。遺跡隣接部にのみ包含層残存。他は重機による確認調査とする。	18日(火)	包含層調査、J63区(表土)大型両面調整石器出土。点取り遺物20,000点を超える。北海道新聞定柱支取取材。
22日(月)	西地区(以下省略)25%調査開始。東地区確認調査トレンチ掘削。	20日(木)	包含層調査、N62・P60・P61区尖頭器出土。小清水町教育委員会森田光一氏来訪。
23日(火)	25%調査、遺物取り上げ(トータルステーション)開始。東地区確認調査終了。	24日(月)	包含層調査、M05区のみう製形石器、P60区括器・舟底形石器、P61区安山岩製槌両面調整石器出土。遠軽町郷土資料館長本吉春雄氏来訪。
29日(日)	25%調査、M25区Cb-1確認。O62区頁岩製尖頭器片出土。斜面部調査開始(重機による掘り上げ後、人力による遺物採取)。	26日(水)	包含層調査、M65区尖頭器出土。
6月1日(木)	25%調査、M-65～66区業者による十貫ボーリング。	27日(木)	包含層調査、J63区石核、J61区細石刃核、P61区尖頭器(複製)出土。北海道(S P 60,910～60,910)追加調査区域幅30m表土除去。
2日(金)	25%調査、K62区石斧尖頭器出土。	28日(金)	包含層調査、J65区のみう製石器、N60区大型板状刮片(26×11cm)、N64区尖頭器出土。追加調査区表土除去。
3日(土)	25%調査、K74区頁岩製石刃(薄岸タイプか)、細石刃核(複製)出土。	31日(月)	雨天のため現場作業中止。終日遺物水洗ほか。岩室文化資料館松沢生氏現地指導、北海道大学林達作氏来訪。
6日(火)	25%調査、斜面部調査、Cb-1実施、平削作業。	8月2日(水)	包含層調査、松沢氏石器製作について実演・講演(午後)。
7日(水)	25%調査、斜面部調査、I60区彫器、M62区頁岩製石器出土。	4日(金)	包含層調査、N63区出土製肌尖頭器がすでに出土していたN・O62区尖頭器と接合、人ききは長さ28cm、幅12cm。
9日(金)	25%調査、斜面部調査、O64区時下型細石刃核、Q60区尖頭器・尖頭器調整刮片出土。	7日(月)	包含層調査、J60・61区括器、P60区尖頭器、P61区石刃・石核・打石再生刮片ほか出土。
13日(火)	25%調査、包含層調査開始、斜面部調査、K62区刮片・細石刃、Q62区尖頭器破損品出土。	10日(木)	包含層調査、表土(ボサ)遺物採取、J64区舟底形石器・細石刃、L62区尖頭器出土。
16日(金)	降雨のため現場作業は午前中のみ、午後は遺物水洗。25%・包含層調査、斜面部調査、仙台市教育委員会倉富博氏来訪。	11日(金)	包含層調査、L61区両面調整石器、L63区棒状短石・頁岩製石器出土。
17日(土)	25%・包含層調査、K66区括器・頁岩製尖型石刃出土。	12日(土)	発掘器材・遺物水洗、釜体内現場閉鎖準備。
19日(月)	25%・包含層調査、銅器調査、帯広百年記念館北沢次、山原義徳氏ほか来訪。	14日(月)～19日(土)	現場閉鎖。
20日(火)	25%・包含層調査、斜面部調査、K61区大型尖頭器複製品(長さ22cm)、K64区大型尖頭器出土。	21日(月)	雨天のため現場作業中止。終日遺物水洗・集計ほか。
22日(木)	25%・包含層調査、斜面部調査。	22日(火)	包含層調査、追加調査区域(54発掘区、864㎡)に着手。
23日(金)	24日(土)現場休み。調査員の出張形態の関係で、1週目の土曜日は稼働し、翌週のみ・土曜日は休み、10月までこの繰り返し。	24日(木)	包含層調査、表土(ボサ)遺物採取、P60区尖頭器出土。
25日(月)	降雨のため現場作業は午前中のみ、午後は遺物水洗。25%・包含層調査、斜面部調査。	29日(火)	包含層調査、表土(ボサ)遺物採取、I57区舟底形石器、J65区彫器出土。
28日(水)	25%・包含層調査、斜面部調査、H62区(表土)安山岩製石斧複製品、K67区括器・薄岸タイプ頁岩製石刃、M63・P62区尖頭器出土。	30日(水)	包含層調査、表土(ボサ)遺物採取、I58区頁岩製石器・めのみう製形石器出土。ド川町教育委員会井貝昌司氏来訪。
29日(木)	25%・包含層調査、斜面部調査終了、K67区大型石刃・彫器・削器、K63区大型両面調整石器出土。	9月1日(金)	包含層調査、I56区尖頭器、I59区頁岩製括器、K57区削器出土。牧場町博物館佐藤和利氏ほか発掘作業員20名、札幌大学木村美明氏来訪。
7月1日(土)	包含層調査。	4日(月)	雨天のため現場作業中止。終日遺物水洗・集計ほか。
3日(月)	雨天のため現場作業中止、終日遺物水洗ほか。	5日(火)	包含層調査、I56区尖頭器、K57区のみう製形石器出土。表土除去(S P 60,920～40幅10m)(M・N・O部分)、資料調査兼花岡地形・地質調査。
5日(水)	包含層調査、H63区彫器、J62区尖頭器、J67区括器出土。N62区とO62区出土の大型尖頭器片(複製)が接合。	6日(水)	重機表土除去終了。M60～65トレンチ掘削終了。表土除去後杭打ち終了。
7日(金)	包含層調査、P63区大型槌製両面調整石器(19cm×φ)、H65区(表土)尖頭器・時下型細石刃核・刮片など出土。尖頭器・両面調整石器及びその製作刮片が多い。	8日(金)	包含層調査、I53区尖頭器、M54区舟底形石器、O59区石刃・尖頭器出土。
11日(火)	包含層調査、H65区頁岩製時下型細石刃核出土。	9日(土)	包含層調査、O58区石刃、J65区尖頭器出土。遠軽町子ども探検隊ほか14名体験発掘、白滝村遺跡研究会30名、国学院大学加藤晋
13日(木)	包含層調査、I65・N62区尖頭器破片出土。		
17日(月)	雨天のため現場作業中止。終日遺物水洗ほか。		

1 調査の概要

	平氏来訪。	23日(月)	遺物水洗、現場養生、写真撮影現場撤去、遺物札幌へ搬送など。
13日(水)	包含層調査、J56区石刃・尖頭器出土。	24日(火)	23日(水) 発掘器材整列、物品引き上げなど。
14日(木)	包含層調査、表土(甲中)遺物採取、J56区石刃、O37区細石刃核・両面調整石器、O59区尖頭器出土。	26日(木)	調査員引き上げ。
18日(月)	雨天のため午前中は遺物水洗、午後より包含層調査、J35区播磨・尖頭器出土。		
20日(水)	包含層調査、J56区石核、N56・N59区舟底形石器出土。文化庁岡村道雄、土肥孝氏来訪。	平成8年度 5月7日(火)	調査員白滝入り。
21日(木)	包含層調査、N59区播磨、O54区削器出土。常呂町教育委員会武田修氏来訪。	8日(木)	9日(木) 現場開始準備、環境整備など。現地開所式、雇用・作業内容説明など。積雪20cmのため現場作業できず。
22日(金)	包含層調査、N54区石刃・尖頭器、N57区削片出土。菅広百年記念館北沢光氏来訪。	10日(金)	前日の降雪のため現場作業できず、表土除去、杭打ち開始。
25日(月)	前日の降雪のため現場作業できず、終日遺物水洗。	13日(月)	現場調査開始、西地区(高位部)25%調査。
26日(火)	包含層調査、M56・N59区削器、N54区尖頭器出土。京都大学分子実験所柴田晋吾、顕鏡学地産文化財センター石川潤、今金町寺崎康史氏来訪。	14日(火)	東地区(低位部)包含層調査開始、R85区(表土)石核、西地区(以下省略)25%調査、H54区彫器、M53区尖頭器・削器・舟底形石器出土。
27日(水)	包含層調査、L54・M55・P59区舟底形石器、N54区石刃・削器、N58区小型ハンマー、P59区石刃・尖頭器出土。鳥取大学古谷昭高氏来訪。	15日(水)	雪のち雨のため現場作業中止、遺物水洗など。
29日(金)	包含層調査、M55区大型両面調整石器(24cm)・削器、P58・59区石刃・削器出土。	16日(木)	本日も雪模様、1時間ほどで現場作業中止。
10月2日(月)	包含層調査、L56・57区尖頭器、P58区削器出土。	17日(金)	東地区包含層調査。25%調査、I35区石核4点集中、M53区舟底形石器・尖頭器、O33区舟底形石器出土。表土除去、30ライン巻取り・継続中。ボヤ処理、47ライン区、クレーン前終了。
4日(水)	包含層調査、L56区播磨・尖頭器、Q59区尖頭器出土。	21日(火)	東地区包含層調査。包含層調査、R31区石刃核3点集中、I35区石核(白濁1群が)、H37区播磨出土。
5日(木)	包含層調査、P54区原石・石核、Q59区両面調整石器出土。	24日(金)	東地区包含層調査終了。包含層調査、O51区石刃核、O52区尖頭器、O48区舟底形石器、M52区両面調整石器出土。
6日(金)	強風、大降雪・北見時短冠雪、人換状態が厳しいため現場作業中止。終日道徳発表・集訓など、北海タイムス(オホーツク版)新聞報道(9/19取材)。	25日(土)	包含層調査、K53区播磨、M52区削器、O48区石刃核、L31・K31区石刃(焼付)出土。用地内南側に残存していた立木の伐採。
11日(水)	包含層調査、Q56区舟底形石器、Q58・59区両面調整石器発掘品出土。	28日(火)	暗れて暑い、包含層調査、H35区播磨・尖頭器、L41区尖頭器、H36区尖頭器、K53区神杖原石、K31・52・53区に削片集中。伐採木撤出。
12日(木)	包含層調査、追加調査面積912㎡、全体で6,600㎡となる。	30日(木)	包含層調査、H34区頁岩製削器、O31区尖頭器・舟底形石器、I46区両面調整石器、M51区尖頭器、I32区両面調整石器出土。
14日(土)	包含層調査、I157区石刃核・石刃・削器出土。	6月1日(日)	包含層調査、K33区Cb-2確認、O31・I131区尖頭器出土。
16日(月)	包含層調査、I157区細石刃核、I158区木炭製尖頭器(ほぼ完成)出土。修繕工で大学長崎岡 兵ほか学生9名来訪。	3日(月)	現場作業開始直後も雷雨のため作業中止、以後器材整備、遺物・土壌水洗など。
17日(火)	降雨のため現場作業は午前中で中止、午後より遺物水洗・巻取り。包含層調査、I157区大塚削片・焼付炭削片、Q59区尖頭器中間部出土。	5日(水)	包含層調査、Q・R48区Cb-2調査終了(※K33区はCb-3に変更)。
18日(水)	包含層調査、H57区石刃核および削片多数出土。兼日Q59区出土の大型尖頭器の中間部と以前にQ60区出土していた尖頭削片が接合し、30cmを超える大型尖頭器となることが判明。NHK北見支局取材、夕方のニュースで報道。	7日(金)	包含層調査、O31区Cb-4確認。白滝村行政視察一行(村長、村会議員、役場職員、教育長など)来訪。
19日(木)	包含層調査、雨天のためテントを設営してH57区調査、H57区石核(扁平)・縦長削片・両面調整石器(斧状)出土。	11日(火)	包含層調査、R49区Cb-5確認。
20日(金)	包含層調査終了。昨日同様雨天のためテントを設営してI157区調査。平成7年度調査面積8,600㎡、点取り遺物53,254件。	12日(水)	包含層調査、J33区石刃核出土。N49区Cb-6確認。
21日(土)	完結状況写真撮影、発掘器材・遺物・土壌水洗、来年度プレハブ建設予定の東地区(低位部)の表土除去・整地。	13日(木)	包含層調査、H34区播磨、P48区尖頭器、K31区舟底形石器出土。銅屑表土除去三分の二程度終了。残りはボヤ処理後。
		14日(金)	包含層調査、I32区播磨・舟底形石器、J33区舟底形石器、I31区削器、J47区削器、N33区舟底形石器・スキーク削片、P48区尖頭器出土。Q50区削片集中。
		15日(土)	包含層調査、Cb-6終了、Cb-3隣接発掘区(J33区)に拡大。N51区彫器・尖頭器、N53区尖頭器・舟底形石器出土。好天が続いているため作業は順調に進んでいる

		が、土壌が乾燥して掘りづらくなっている。水を散布し、シートをかきかけて掘り乾燥機を押えて調査を進める。	
17日(月)		I32区掻器、L51区、L33区削器・両面調整石器、N49区台石 or タッチャー、P48区舟底形石器出土。	
18日(火)		包含層調査、N51区掻器、R51区尖頭器、J46区舟底形石器、P51区尖頭器出土。Q50区剥片集中。	
20日(木)		包含層調査、斜面調査(重機による掘り下げ後に人力で遺物採取)開始。K32区石刃核、J46区石核・尖頭器、N51区両面調整片3点、N53区尖頭器、R51区尖頭器・舟底形石器、L52区掻器出土。	
21日(金)		包含層調査、斜面調査、Cb-7・8(Q50区)、Cb-9(I32区)確認。P51区剥片集中I、2・3設定。I48区尖頭器、N51区石核、頁岩製石器出土。	
24日(月)		包含層調査、斜面調査、L43区細石刃核、K46区石刃核、L53区尖頭器、J48区舟底形石器出土。	
27日(木)		包含層調査、斜面調査、J33区剥片集中I・2、K32区剥片集中I。J32区掻器、L43区白滝I群剥片、N52区舟底形石器・削器、J53区削器、L52区舟底形石器・両面調整石器・石刃、K32区削器、R72区大型石刃素材削器出土。	
28日(金)		包含層調査、斜面調査、N32区剥片集中I、L30区削器、J51区のろう製剥片、L52区尖頭器・掻器、J53区舟底形石器、L52区削器・舟底形石器、R51区舟底形石器、R32区尖頭器・舟底形石器、R71区(上層)石刃素材削器出土。	
7月1日(月)		包含層調査、Cb-11(R51区)確認。K32区石刃核、L36区石核、L43区白滝I群剥片・石核、K40区尖頭器、L52区尖頭器、J53区石刃核、L53区舟底形石器、M52区小型舟底形石器・舟底形石器、R51区尖頭器、R52区尖頭器出土。	
3日(水)		降雨のため14:30で現場作業中止、以後遺物・土壌水洗。L43・44区白滝I群剥片、L52区尖頭器・掻器、L53・N52区舟底形石器出土。	
4日(木)		包含層調査、斜面調査、Cb-12(R50区)終了。Q25区舟底形石器・掻器、L43・44区白滝I群石核・剥片、J53区尖頭器、L52区尖頭器、N52区舟底形石器出土。	
5日(金)		前夜の降雨のため現場状態悪く、作業できず。終日遺物・土壌水洗など。	
6日(土)		雨天のため現場作業できず。終日遺物・土壌水洗。雨天が続いたため現場作業やや遅れ気味。点取り遺物点数13、336点。	
8日(月)		包含層調査、斜面調査終了。	
9日(火)		包含層調査、L52区Cb-13(I)・(2)設定及び掘り下げ。P50区石刃核、N19区石刃核・舟底形石器出土。	
11日(木)		降雨のため現場作業は14:30で終了、以後は遺物水洗。包含層調査、Cb-13は落ち込み状に広がる。M19区石刃核、L30区安山岩製剥片出土。	
16日(火)		包含層調査、M21区舟底形石器出土。M21・Q25区剥片集中。排土・表土移動。西側写真撮影足場移動。	
19日(金)		包含層調査、M17・M23区尖頭器、Q35区石刃核、M19区削器、M21区舟底形石器出土。	
23日(火)		排土・表土移動、駐車場整備など。 包含層調査、M21区舟底形石器、M31区安山岩製石器、Q3区尖頭器、Q27区削器、S29区白滝I群剥片・石核、S33区舟底形石器、S35区白滝I群サイコロ状石核・剥片出土。 包含層調査、Cb-13調査終了。O37区削器、O29区掻器、M37区削器、M33区尖頭器、S35区白滝I群剥片出土。	
24日(水)		雨天のため現場作業できず。終日遺物・土壌水洗。	
26日(金)		雨天のため現場作業できず。終日遺物・土壌水洗。	
27日(土)		包含層調査、M33区剥片集中I、O39区Cb-14確認。	
29日(月)		包含層調査、Q27区石刃核・削器、O27区尖頭器、O29区削器、S29区尖頭器、O35区舟底形石器、Q43区石核(サイコロ状)出土。	
31日(水)		雨天のため現場作業できず。終日遺物・土壌水洗。遺物集計など。一括取り上げ遺物点数平井部309、852点、斜面部5,581点。東京大学安齋止人、岡上篤大・宇治浩幸、東京都埋蔵文化財センター竹尾道史来訪。	
8月1日(木)		包含層調査、Cb-15(Q39)終了。M27区尖頭器、O29区掻器、J30区安山岩製削器、O43区舟底形石器、M35区掻器・舟底形石器、O47区ナイフ形石器、Q47区尖頭器、S43区頁岩製削器出土。札幌大学小村英明、小清水町教育委員会藤田光一氏来訪。	
2日(金)		包含層調査、S33区剥片集中2設定。R66・67区石刃核・両面調整石器、O27区ナイフ形石器、Q27区尖頭器、S29区半円両面調整石器出土。藤野女子大学古崎昌一氏来訪。	
5日(月)		包含層調査、M43区石核(白滝I群か)O47区石核、O45区石核、Q45区石核、Q47区両面調整石器出土。 (上白滝2遺跡調査開始)	
7日(水)		包含層調査、N27区石刃核、N35区削器・掻器、O27区石核、O29区尖頭器・石核、P35区石核・削器、R25区両面調整石器、R29区掻器・両面調整石器、R35区石刃核・削器、M43区白滝I群石核・剥片、R59区掻器・削器、R61区尖頭器出土。東京都埋蔵文化財センター籠野孝、神奈川県埋蔵文化財センター砂田佳弘、早稲田大学亀田直美、湘西市埋蔵文化財センター石川剛、長野県丹波淳一氏来訪。	
8日(木)		包含層調査、Cb-16(O29区)確認。M30区石核、N23区舟底形石器、O29区石核、P19区舟底形石器、P25区尖頭器・掻器、R19区樺皮炭石、M43区白滝I群剥片出土。R61区剥片集中。	
9日(金)		包含層調査、P29区掻器、R29区尖頭器、M13区白滝I群剥片、N45区舟底形石器、P33区掻器、S49区尖頭器・石核、P25区削器・石核2点・頁岩製削器石器出土。O29区剥片集中設定。	
10日(土)		釜体み現場開始準備、発掘器材整備など。	
12日(月)		17日(土)釜体み現場開始。	
19日(月)		包含層調査、M33区掻器、M43区白滝I群剥片、N35区尖頭器・石核、P25区削器・石核2点・頁岩製削器石器出土。O29区剥片集中設定。	
21日(水)		包含層調査、N35区削器・舟底形石器・石核、P25区削器、P29区舟底形石器、M30尖頭器出土。	
23日(金)		雨天のため現場作業できず。終日遺物・土壌	

1 調査の概要

	水洗など、工事内容変更に伴う調査区域、面積の変更について道教委と現地に打ち合わせ。	7日(月)	奈良国立文化財研究所加藤真二氏来訪。降雨のため9:30で現場作業中止、以後遺物水洗。網路考古学会 11名、かながわ考古学財団栗原伸好氏ほか6名来訪。
26日(月)	包含層調査、N35区石核、P35区舟底形石器・削片出土。北海道拓殖記念館石代啓祝氏来訪。	8日(火)	包含層調査、K18区尖頭器・彫器、L27・N28区尖頭器、O44・O46・P44区広野型ナイフ形石器出土。岡山大学藤田孝司氏来訪。
28日(水)	包含層調査、O30区舟底形石器、S30区彫器、S36区石核出土。	9日(水)	降雨のため9:30で現場作業中止、以後遺物水洗。支那朝小学校生徒13名、教諭5名来訪。
29日(木)	包含層調査、S36区Cb-19確認。R60区割片集中。P22区広野型ナイフ形石器、P27区石刃核、R28区両面調整石器出土。	10日(木)	休日、現地説明会(札幌、忠実、北見、遠軽などから参加者51名)、包含層調査、J29区有舌尖頭器、L21区尖頭器・舟底形石器、P28区彫器・撻器出土。
31日(土)	包含層調査、N36区尖頭器、O36区両面調整石器、P30区舟底形石器、P36区小型舟底形石器出土。大隈の回復で調査の遅れは解消しつつある。点取り遺物79,287点。降雨のため現場作業は午前中で中止、午後は遺物・土壤水洗。包含層調査、O36区舟底形石器、P37区削器、R30区石核、R33区尖頭器出土。遠軽地区市町村議会議員一行来訪。	14日(月)	包含層調査、K23区彫器石器、K29区有舌尖頭器・石核、K25・R12区白滝1群石核、L16・19・22区舟底形石器出土。
9月2日(月)		16日(水)	赤石山方面冠着、寒い。包含層調査、K19区尖頭器・舟底形石器・石核、P28区尖頭器・舟底形石器・削器、K22区有舌尖頭器出土。
6日(土)	包含層調査、P35区Cb-17終了、Q28区Cb-19確認。M29・N29・R60区尖頭器、O26区両面調整石器、R26・33区石刃核出土。文化庁岡村道雄氏来訪。	17日(木)	強風、積雪5cm。包含層調査、K18区舟底形石器、K22区有舌尖頭器、L18区舟底形石器・石刃核出土。
10日(火)	包含層調査、M18区舟底形石器・両面調整片、N38区尖頭器、P26区削器出土。産業医現地視察。	19日(土)	終日作業。包含層調査、J23区尖頭器・彫器・削器・石核、K20区両面調整石器・彫器・撻器・舟底形石器、L21区尖頭器・舟底形石器出土。新潟大学白石典之氏来訪。
12日(木)	包含層調査、M20区尖頭器・舟底形石器・石核、M28区片層彫器、N38区細石刃核、P47区石核、棒状削器出土。	21日(月)	包含層調査、J22区尖頭器・小型舟底形石器、J23・K13・P10・P29区石核出土。
14日(土)	包含層調査、M38区舟底形石器、N26区尖頭器、N34区細石刃核ブランク出土。点取り遺物94,098点。	23日(水)	包含層調査、K20区尖頭器・舟底形石器、P10区白滝1群石核、めづり製削片出土。上湯部中学校生徒・教諭39名来訪。
17日(火)	包含層調査、M18区小型舟底形石器、M20区尖頭器・舟底形石器、N36区細石刃核、P47区広野型ナイフ形石器出土。	26日(土)	包含層調査終了。K21区尖頭器、L28区舟底形石器出土。遺物・土壤水洗。調査面積10,212㎡、点取り遺物149,555件。平成8年度2連踏(白滝2、白滝8連踏)13,207㎡調査終了。
19日(木)	包含層調査、M16区石刃核、M22・N46区舟底形石器、M29区両面調整石刃、P28区片層彫器出土。岩宿文化資料館松沢幸生、山梨県環境局興水達司氏現地指導(21日まで)。	28日(月)	29日(火) 遺物・土壤水洗。積土処理。
20日(金)	包含層調査、J19区尖頭器・撻器・削器・舟底形石器・石核、J21区彫器・両面調整石器出土。榎文センター調査部研修会。	30日(水)	遺物搬出。発掘器材収納、プレハブ越冬準備など。
21日(土)	包含層調査、点取り遺物100,940点。榎文センター調査部研修会。	31日(木)	当様様、調査引続き上げ。
24日(火)	前日の降雨のため午前中は現場作業できず、遺物水洗。午後からは包含層調査を行うが、降雨のため14:30頃で現場作業中止、以後遺物水洗。帯広百年記念館山原敏郎氏来訪。	平成9年	
25日(水)	雨天のため現場作業できず、終日遺物水洗。瀬支管内高等学校理科教諭遠坂10名、遠軽高等学校社会科教諭10名来訪。	5月6日(火)	調査員現地入り。
27日(金)	包含層調査、J25区石核、M22区舟底形石器、O28区尖頭器、O46区広野型ナイフ形石器出土。	7日(水)	現場開始準備はか。
10月1日(火)	包含層調査、L21区尖頭器・舟底形石器・撻器、M28・N30・S50区尖頭器、P28区両面調整石器出土。遠軽中学校教諭3名来訪。	8日(木)	現場開始式、みずのりのため現場作業できず。
3日(木)	包含層調査、J21区両面調整石器・彫器、K19区尖頭器・舟底形石器、L19区両面調整石器、R64区細石刃核出土。	9日(金)	包含層調査開始。平成8年度調査未了部分の調査。N7・8区石刃・石刃核・削器、P5区舟底形石器出土。
4日(金)	雨天のため現場作業できず、終日遺物水洗。	10日(土)	包含層調査、N7区片層彫器、N8区撻器・石核(白滝1群)出土。
		12日(月)	包含層調査、N8区尖頭器・舟底形石器・石核、P5区尖頭器・彫器・撻器・舟底形石器出土。
		13日(火)	包含層調査、N7区尖頭器・小型舟底形石器・石刃核、P5区尖頭器・石刃核、N8区撻器(白滝1群)・削器・舟底形石器出土。白滝1群と尖頭器・舟底形石器が重複した状況で確認。
		14日(水)	包含層調査、O8区めづり製削片(白滝1群か)出土。
		16日(金)	包含層調査、N6区石刃核、N8区舟底形石器・石刃核出土。
		19日(月)	包含層調査、O4区尖頭器・舟底形石器、

20日(火)	P4区尖頭器・白滝1群剥片出土。 包含層調査終了。O4・6区尖頭器出土。 Cb-22調査終了。カナダモントリオール大学フィリップ・スミス、マッキーール大学井川史子夫妻来訪。	26日(月)	包含層調査。G34区舟底形石器出土。鳥状の木漏ろし区域(約300m)についても調査を行うこととなる。
21日(水)	完掘状況写真撮影。杭など掘取。調査完了。 調査面積320㎡、点取り遺物3,261件。 (奥白滝1・上白滝2・上白滝5・上白滝7遺跡調査)	27日(火)	包含層調査。G15区尖頭器、G34区炭化木片出土。
10月18日(土)	平成9年度5遺跡(奥白滝1・上白滝8・上白滝2・上白滝5・上白滝7)調査終了、全体調査面積20,761㎡。	28日(水)	調査中断。雨による排土の移動。
20日(月)	～23日(木) 遺物水洗、発掘器材・環境整備、物品搬載など。	7月5日(水)	包含層調査再開。I17区舟底形石器出土。北海道開拓の村野村崇氏来訪。
24日(金)	調査員引き上げ。	6日(木)	包含層調査。G23区槌器、I19区尖頭器出土。降雨のため現場作業は午前中で終了。午後は器材・遺物水洗。
平成10年度		7日(金)	包含層調査。H16区尖頭器、I17・19区削器出土。カナダバンフ小学校校長、教諭3名はか来訪。
5月6日(水)	調査員白滝入り。	10日(月)	包含層調査。G23区尖頭器・槌器・舟底形石器出土。I19区Cb-23調査。今回の調査区での出土遺物は平成8年度調査区につながる尖頭器・舟底形石器石器とみられる。
7日(木)	～9日(土) 現場開始準備、環境整備ほか。	12日(水)	包含層調査。H17区彫器・錐形石器出土。I18区Cb-24調査。
8日(金)	～12日(火) 北海道大学地球環境科学研究所菅平川一司・中村有吾氏地質・地形調査。	13日(木)	包含層調査。防宮複部分調査終了。埴土移動後の鳥状の木漏ろし区域の調査を展開。
11日(月)	現場開始式、雇用・作業内容など説明ほか。 (奥白滝1・上白滝5・上白滝6遺跡調査)	17日(月)	～19日(水) 雨天のため現場作業できず。遺物取り上げ・水洗など。
6月23日(火)	部分的な北面掘削増加に伴う調査を小規模に実施。包含層調査終了。	26日(水)	(奥白滝1遺跡調査) 包含層調査再開。H24・I24区尖頭器、I21区彫器・石核出土。
24日(水)	I13区H1岩盤槌器・石核、I15区石核出土。	27日(木)	包含層調査。H23区尖頭器・彫器・舟底形石器、H24区彫器・小舟形石器出土。
25日(木)	包含層調査終了。	31日(月)	包含層調査。I21区彫器・小型舟底形石器、I22区尖頭器・彫器・舟底形石器出土。
10月15日(水)	平成10年度7遺跡(服部台2・奥白滝1・上白滝8・上白滝5・上白滝6・上白滝7・北支那別4遺跡)調査終了、全体調査面積27,616㎡。	8月1日(火)	包含層調査。H21区舟底形石器、H24区小型舟底形石器、I28区石核(白滝1群)出土。
16日(木)	～21日(水) 遺物水洗、発掘器材・環境整備、物品搬載など。	2日(水)	包含層調査。I23区舟底形石器、I28区石核(白滝1群)出土。
22日(木)	調査員引き上げ。	3日(木)	包含層調査。H22区尖頭器・彫器・舟底形石器・石核、H28区石核(白滝I群)出土。
平成12年度		4日(金)	包含層調査調査終了。H22区石核、H25区石方核出土。 調査面積661㎡、点取り遺物9,705件。 (奥白滝1・服部台2・白滝8・白滝18遺跡調査)
5月8日(月)	調査員白滝入り。	10月16日(月)	現場作業終了。 平成12年度6遺跡(服部台2・奥白滝1・上白滝8・白滝第30地点・白滝8・白滝18遺跡)調査終了。全体調査面積5,953㎡、点取り遺物63,193件。
9日(火)	～11日(木) 現場開始準備、環境整備ほか。	17日(火)	～25日(木) 遺物水洗、発掘器材整備など。
12日(金)	現場開始式、雇用・作業内容など説明ほか。 (服部台2・白滝第30地点・白滝18遺跡調査)	26日(木)	実機操、物品・レンタカーなど引き上げ。
6月15日(月)	表土除去終了。	27日(金)	調査員引き上げ。
19日(木)	杭打ち、測量。道路用地北端の防宮欄建設に關わる調査区予定区域と平成8年度調査区域の間に鳥状の木漏ろし区域が残ることが判明し、その取り扱いについて協議することとなる。		
21日(水)	包含層調査開始。G23区槌器、G24・I16区尖頭器出土。		
22日(木)	包含層調査。H15区尖頭器、I16区尖頭器・石核出土。		

(4) 発掘区の設定

発掘区はアルファベットの大字と数字の組み合わせで表示し、規格は4×4mとした。調査区の設定基準は、工事測定のSP60900とSP60960を基準点とし、その2点を通る直線を東西方向の基線とし、南北方向はSP60900の基準点を通り、東西方向の基線に直交する直線とした。

ラインの設定は、南北方向をアルファベットの大字とし、基線をMに設定後、南側にN、O、P、・・・、北側は逆にL、K、J、・・・とした。東西方向は数字で、調査区域全域をカバーでき

るように SP60900 を通る基線を 50 とし、東側に 51、52、53、・・・、西側に 49、48、47、・・・とした。調査区域は、アルファベットラインでは、F～W、数字ラインでは 0～122 の範囲で、基準点の測量成果は下記のとおりである。

SP60900 (M50)	X = -13941.075	Y = 71310.021
SP60960 (M65)	X = -13952.438	Y = 71368.935

(平面直角座標系 第Ⅱ系)

発掘区の呼称は、4 m 四方区画の西側のライン交点で示した。例えば、M ラインと 50 ラインの交点の南東側が M50 区ということになる。また、発掘区の方向は、公共座標の北方向に対して右回りで東側に 10° 55' 07" 傾いている。(長沼 孝)

(5) 土層

上白滝 8 遺跡の土層堆積状況は、上白滝面にあたる標高 436～448 m の高位部と、東白滝面にあたる標高 415 m 前後の低位部に分けて説明する。

高位部

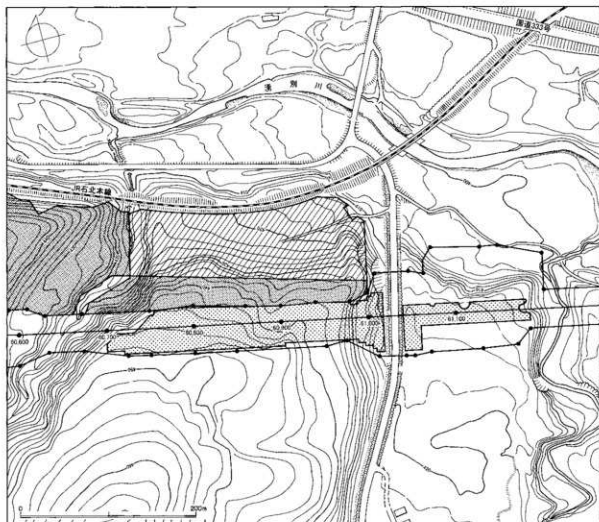
高位部は上白滝面にあたり、Ⅱ章で記載した基本土層とほぼ同様で、上からⅠ層(表土)、Ⅱa層(褐色粘質土)、Ⅱb層(灰白色～青灰色粘質土)、Ⅱc層(赤褐色～灰褐色砂質土)Ⅲ層(赤褐色～褐色砂質土)の順に堆積している。遺物包含層であるⅡa層は、遺跡内のほとんどの地点で連続的に確認された。Ⅱc層は、大雪御鉢平軽石(約3万年前降下)を多く含む層で、各地点で安定してみられ、特にⅢ層上面が窪んでいる地点では厚く堆積している。Ⅲ層以下の堆積状況については、Tラインで重機による深掘り調査を行い、段丘階層までの層序を記録した。以下45ライン、50ライン、55ライン、60ライン、Mライン(西地区含む)、Tライン(深掘り区)の順に詳しく説明を行う。

45ライン(図Ⅳ-2・5)

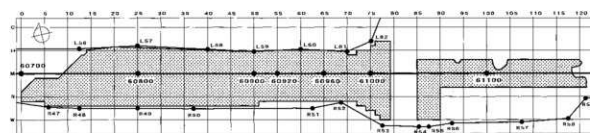
北へ向かってなだらかに傾斜する地形で、Ⅱa層はH・N・S区を除いてほとんどの地点で連続的に確認される。層厚は15～45cmであった。H区では上部が削平を受けていたため、15層(褐色砂質土)が露出している状態で確認された。また、N・S区では木根による大きな擾乱がみられ、それぞれ13層(暗褐色砂礫)・2層(Ⅱa～Ⅱb層の漸移層)と続いている。Ⅱa層中にはK区で5層(灰褐色シルト)の堆積が約10cm確認された。45ラインは他のラインに比べⅡa層の下にⅡb層がみられる地点が多い。Ⅱb層の下にはⅢ層が続いているが、I・J・M区ではⅡa層の直下にⅢ層が堆積している。また、O・P区ではⅢ層がみられず、10層(明黄褐色砂)が確認された。Ⅱc層はM区で部分的にみられ、層厚は5cm前後であった。Ⅲ層の下にはI区で15層、K～M区で13層、Q区で10層が堆積している。

50ライン(図Ⅳ-2・5)

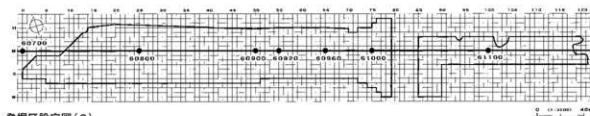
北へ向かってなだらかに傾斜する地形で、Ⅱa層は各区で安定して確認される。層厚は25～60cmであった。Ⅱa層の上部にはO区付近で3層(暗褐色砂)がみられる。Ⅱa層の下にはH区でⅢ層、I～P・S区でⅡb層、Q・R区でⅡc層が続いている。50ラインでも45ラインと同様にⅡa層の下にⅡb層が堆積している地点が多い。また、K区の北側とR区の中央にはそれぞれ11層(暗茶褐色粘土)と8層(灰褐色粘土)がみられる。下層まで確認したI区では、Ⅱb層の下にⅡc層・Ⅲ層・17層(褐色シルト+礫)が堆積している。



調査範囲 平成元年指定国史跡「白滝遺跡」(白滝第13地点遺跡) 平成10年追加指定国史跡「白滝遺跡群」
調査範囲・周辺的地形図



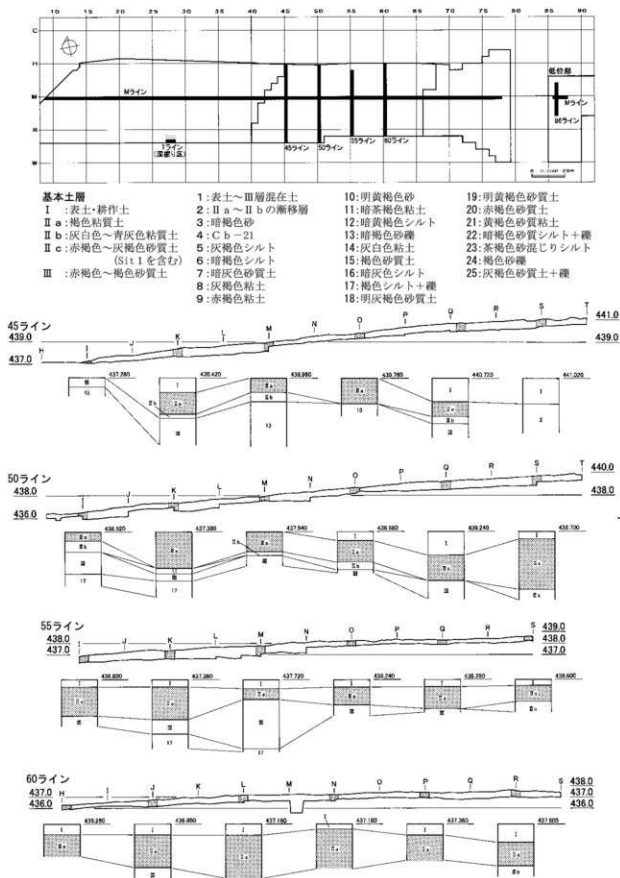
発掘区設定図(1)



発掘区設定図(2)

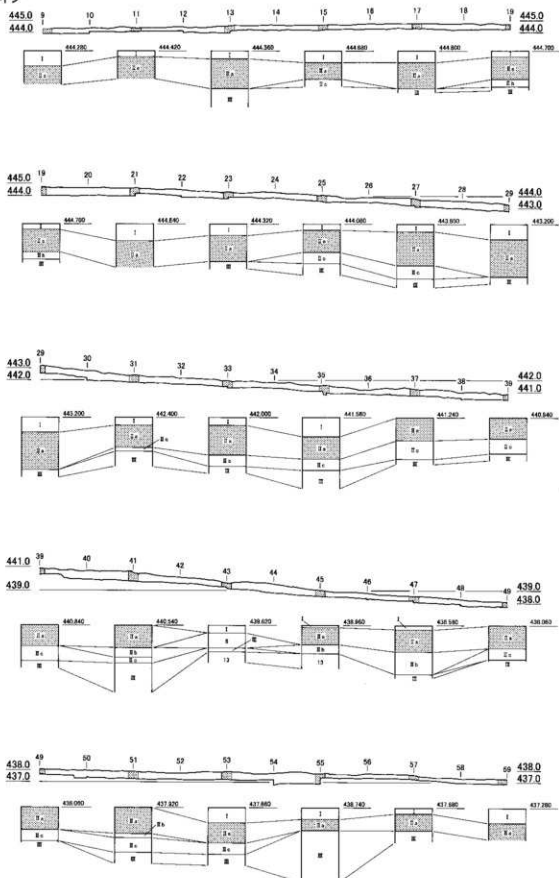
図Ⅳ-1 調査範囲・発掘区設定図

1 調査の概要



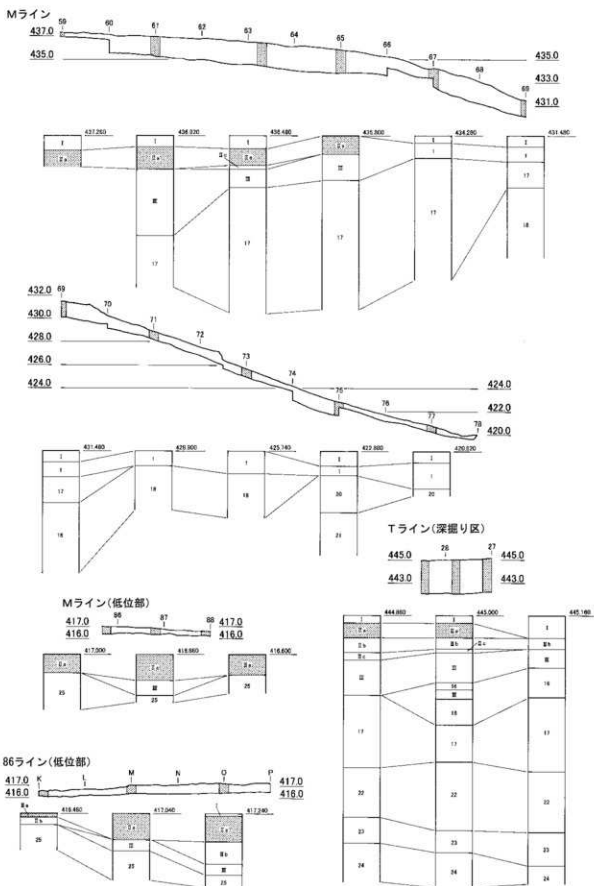
図N-2 土層概略図(1)

Mライン



図IV-3 土層概略図(2)

1 調査の概要



図N-4 土層概略図(3)

55ライン (図IV-2・6)

北へ向かって僅かに傾斜する地形で、Ⅱa層は各区で安定して確認される。層厚は10~55cmであった。Ⅱa層の下にはほとんどⅢ層がみられ、僅かにL区の一部とR区でⅡc層が確認されている。Ⅲ層の下には17層(褐色シルト+礫)が安定してみられる。

60ライン (図IV-2・6)

北へ向かって僅かに傾斜し、特にL~S区はほぼ平坦な地形で、Ⅱa層は各区で安定して確認される。層厚は25~45cmであった。P~R区にはⅡa層中に3層(暗褐色砂)がブロック状にみられる。Ⅱa層の下にはH~O区で直接Ⅲ層が、P~R区でⅡb層を挟んでⅢ層が堆積している。下層まで確認したM区では、Ⅲ層の下に厚く17層(褐色シルト+礫)が確認された。

Mライン(西地区を含む高位部と斜面部)(図IV-3・4・7~9)

上白滝8遺跡の立地する段丘面全体を東西方向に切った土層断面である。地形は大きく東西に二つの平坦面があり、標高の高い西側から緩やかな傾斜を経て東側につながり斜面へと続いている。西側の平坦面は9区から21区で、東側の平坦面は49区から59区である。65区を過ぎると傾斜がきつくなり斜面部となる。

Ⅱa層は途中、木根などにより部分的に分断されているが、基本的には高位部の全ての地点で安定的に確認され、層厚は5~45cmである。66区の中央より東側は急傾斜で斜面堆積となり、Ⅱa層の代わりに1層(表土からⅢ層までの混泥土)がみられる。Ⅱa層中には36・55区に3層(暗褐色砂)が部分的にみられる。Ⅱa層の下は全体的な傾向としてⅡc層が安定して確認され、Ⅱb層は40~51区で連続的に堆積している。また、西側に傾斜し始める15~17区、東側斜面部に接する64・65区ではⅡa層の直下にⅢ層がみられる。

Ⅱb層がみられる40~51区では部分的であるがⅡa~Ⅱb層間に6層(暗褐色シルト)、Ⅱb~Ⅱc層の間に9層(赤褐色粘土)、Ⅲ層の上部に7層(暗灰色砂質土)・11層(暗茶褐色粘土)、Ⅲ層の下部に12層(暗黄褐色シルト)・13層(暗茶褐色砂礫)・14層(灰白色粘土)が堆積している。この地区は浅い沢地形となっているため、他の地区と異なる堆積状況である。13層は沢の礫層とみられ、段丘礫層の構成礫より風化がなく、径5cm強の円摩度の高い礫が主体を占めている。

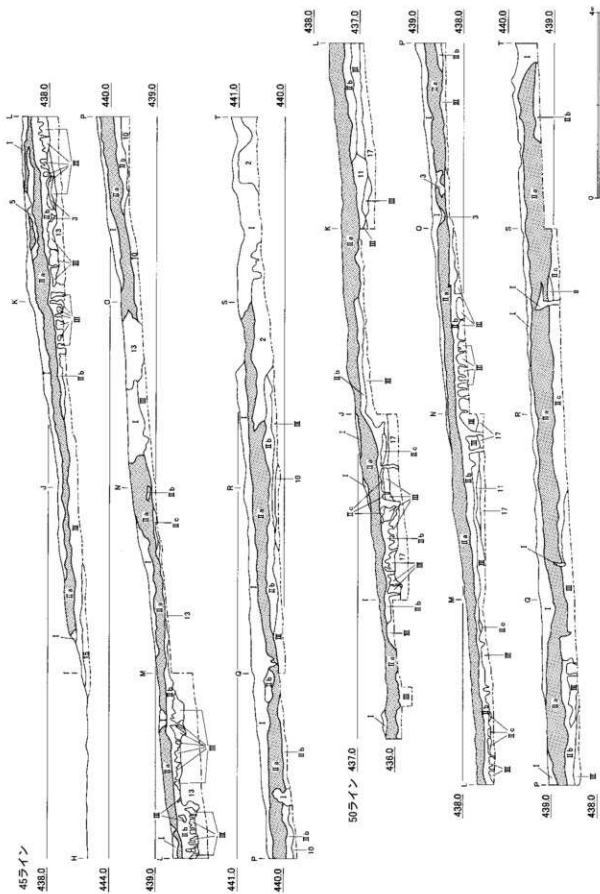
Ⅲ層の下部は17層(褐色シルト+礫)が確認され、斜面部では17層に続いて18層(明灰褐色砂質シルト)・20層(赤褐色砂質土)・21層(黄褐色砂質粘土)が安定的にみられる。なお18層は火砕流堆積物である白滝層に対比される。

Tライン(深掘り区)(図IV-4・10)

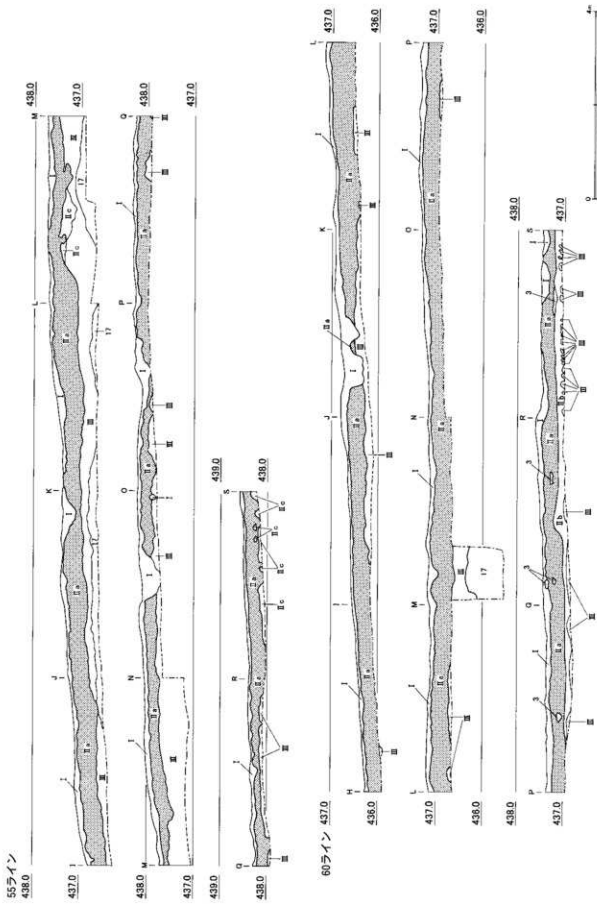
Ⅱa層はほとんどの地点で確認され、層厚は5~20cmであった。Ⅱa層の下にはⅡb層が安定して堆積し、Ⅲ層上面から伸びる深さ1m弱のクラックにⅡb層が落ち込んでいる。Ⅱb層の下にはⅡc層・Ⅲ層と続き、Ⅲ層の下部は波状になっている。さらに16層(暗灰色シルト)・17層(褐色シルト+礫)・22層(暗褐色砂質シルト+礫)・23層(茶褐色砂泥じりシルト)がみられ、上白滝面の段丘礫層である24層に到達する。17層・22層はマトリックスの多い礫層で、どちらも斜面堆積物とみられる。23層は砂とシルトの互層で、段丘面が離水する直前の水成堆積層と思われる。

低位部

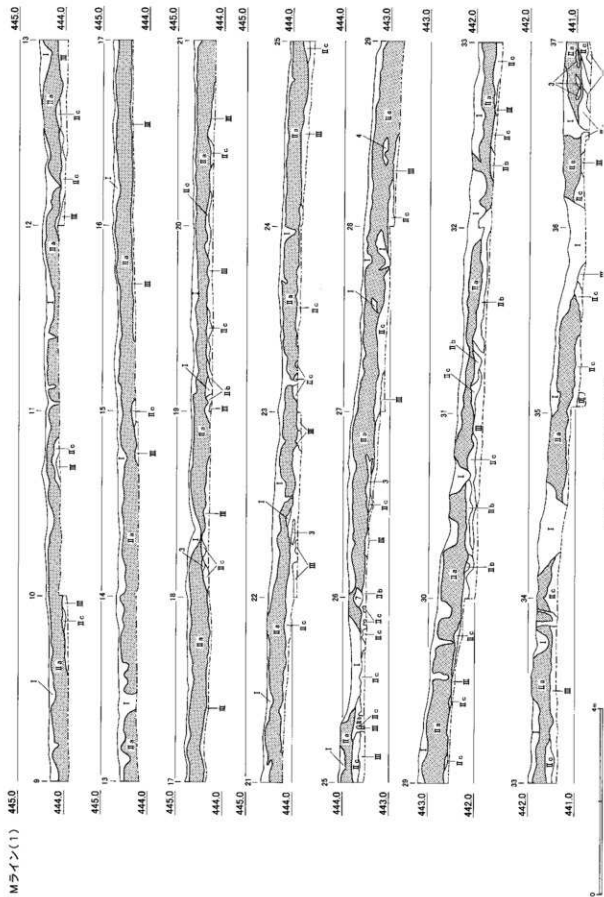
低位部は東白滝面にあたり、85区~121区までの東西約150mに及ぶ。高位部に近い西側の90区付近までは比較的Ⅱa~Ⅱc層の堆積状況が良好であった。高位部に比べⅡa層が薄く、部分的にⅡb、Ⅱc層がみられる。Ⅲ層の下には25層(段丘礫層に至る漸移層)が確認された。90区以東は表土の直下に25層が確認されている(図版17-2)。以下86ライン、Mラインの順に詳しく説明を行う。

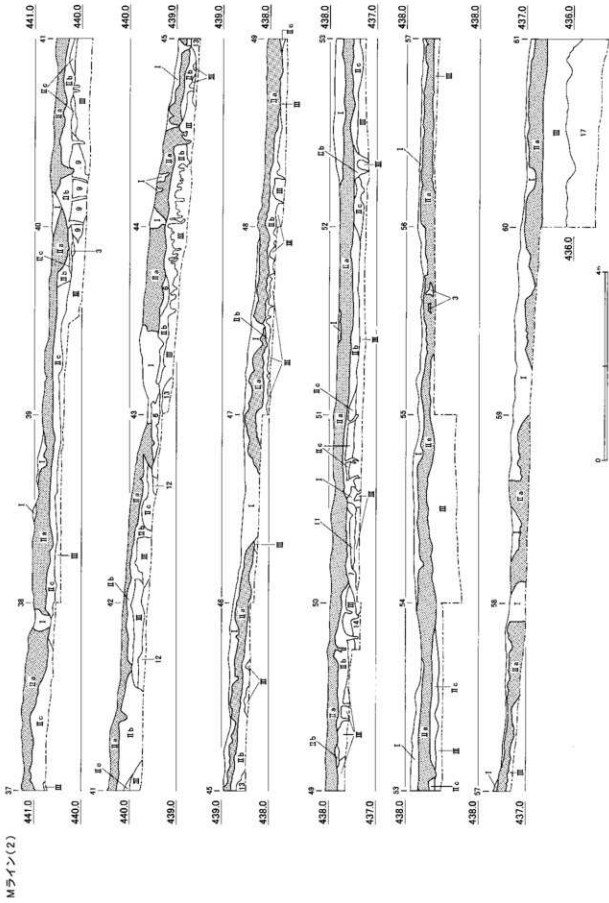


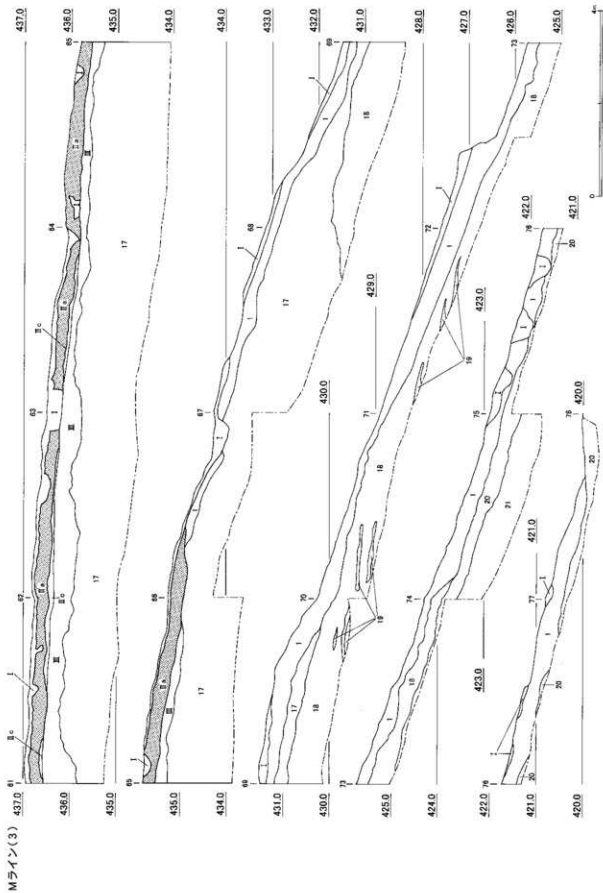
図IV-5 土層断面図(1)



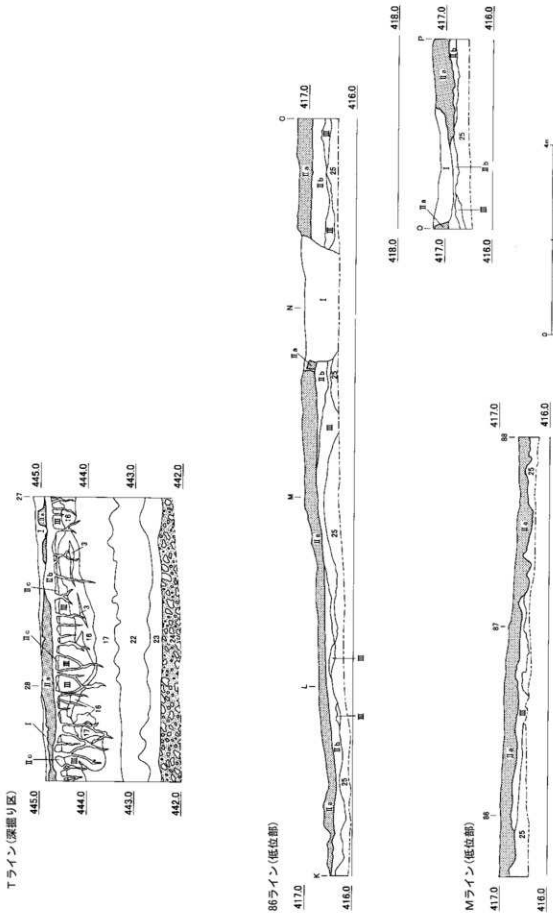
図IV-6 土層断面図(2)







図IV-9 土層断面図(5)



図IV-10 土層断面図(6)

86ライン (図Ⅳ-4・10)

北へ向かってなだらかに傾斜する地形で、Ⅱa層はほとんどの地点で連続的に確認されたが、N・O区付近には木根による擾乱がみられた。層厚は5～30cmであった。Ⅱa層の下には全体的にⅡb層が堆積し、Ⅲ層・25層(灰褐色砂質土+礫)と続いている。M区付近ではⅡb層がみられず、Ⅱa層の直下にⅢ層が堆積している。

Mライン (低位部) (図Ⅳ-4・10)

東に向かってなだらかに傾斜する地形で、Ⅱa層は各区で安定して堆積している。層厚は10～30cmであった。Ⅱa層の下にはⅢ層・25層(灰褐色砂質土+礫)と続くが、87区ではⅡa層の直下に25層が確認されている。さらに東側になると、Ⅱa層が薄くなっていき、表土の直下に25層が堆積している。
(直江康雄)

(6) 調査の方法

調査区全域は山林であったが、試掘調査時点ですでに立木の伐採は終了していた。したがって、調査は重機による笹根の除去や伐根からスタートした。ただし、笹根に混じって遺物が確認されたところでは除去は最小限にした。また、重機で除去した笹根混じりの表土についても可能な限り遺物採取を行った。

平成7年度の調査はまず道路東側の低位面について調査を行い、次に遺跡主体部の高位面の調査へ移行した。重機によって除去した表土や人力によって調査した排土などは用地の外に搬出することができなかったため、用地内での移動を行い調査を展開した。平成7年度においては西側に次年度以降の調査区域の空間があったので、そこを表土・排土の堆積場所とした。また、道路に接した斜面部は通常の人力による調査が不可能であったので、重機によって発掘区単位で土壌を掘り上げ、その後人力による遺物採取という調査方法を採用した。そして調査終了後は排土場所として利用した。また、遺物包含層が全く無く、遺物も出土しなかった低位部の大部分については重機による表土除去と土層確認トレンチの掘削で調査を終了した。

平成8年度の調査区は東西260mという長い状況であったので、同時の全面展開は困難であった。平成7年度の調査区に隣接する東側については、調査完了区域に表土・排土を堆積することができたが、西側については大きく南北に分け、さらにそれらをいくつかのブロックに分け、表土と排土の移動を行い、排土の運搬距離をできるだけ短くするように配慮しながら調査を進めた。

調査は基本的に、分割された区域ごとに、重機による表土除去、杭打ち、25%調査、包含層調査の順に進めた。排土と表土に関しては調査終了区域の拡大とともに移動を重ね、できるだけ調査区域の近くに排土場所を確保しながら調査を展開した。

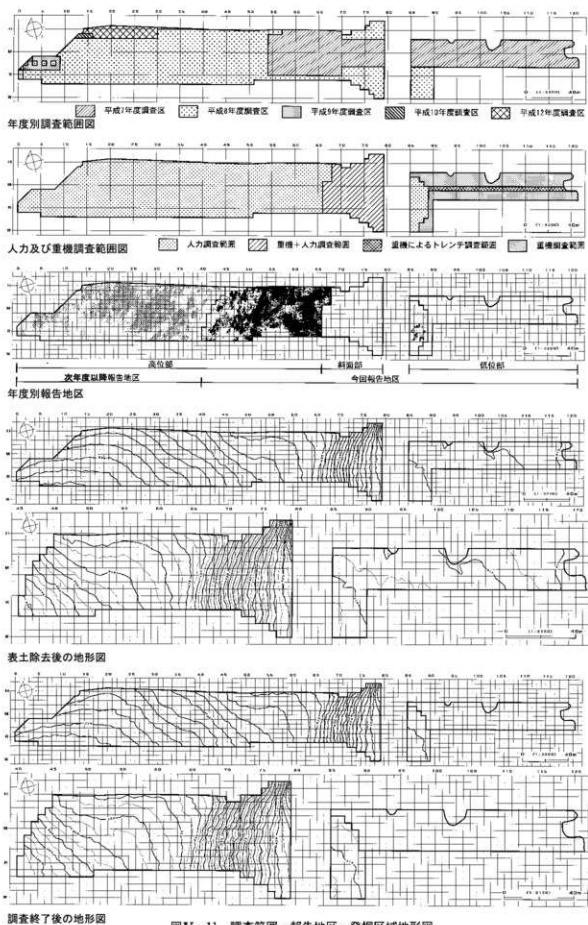
平成9年度の調査区は遺跡の西端で、平成8年度に調査を終了することができなかった区域である。

平成10年度の調査は、沢に面した道路路面の掘削区域の拡大に伴うもので、僅かの面積の調査であった。

調査区域の範囲は、平成7年度時点では用地内全域であったが、平成8年度以降は詳細設計が決まったことを受け、工事がおよぶ範囲をカバーする形で、発掘区の区切りが良い範囲とした。

平成12年度の防雪柵建設に伴う調査区は用地境界の北端幅3mで、平成8年度の本線部分調査区との間に残地ができることとなったが、遺物が連続的に出土していることや工事による包含層への影響を考え、委託者と道教委の同意を得て記録保存の措置をとった。

遺物の取り上げは、他の遺跡と同様に、I層(表土および耕作土)については発掘区単位で一括し



て取り上げ、遺物包含層であるⅡ層については、出土位置を可能な限り計測した。しかし、Ⅱ層の遺物でも指先より小さい剥片類については、発掘区単位で一括して取り上げた。出土位置の記録はトータル・ステーションを使用し、さらに遺構・遺物データシステム（シン技術コンサルタント）にデータを蓄積すると同時に毎日遺物一覧表とドットマップ（分布図）を作成し、データのチェックと遺物の分布状況を把握しながら調査を進めた。調査終了時の各年度のデータ数は、平成7年度53,254件、平成8年度149,555件、平成9年度3,261件、平成10年度838件、平成12年度9,705件、合計216,613件である。（長沼 孝）

（7）整理の方法

遺物の水洗作業は、基本的に現地で行った。その後、札幌の整理作業所を選び、注記などの整理作業を開始した。

遺物の整理作業は、他の遺跡と同様に点取り遺物と一括遺物に分けて進めた。点取り遺物は注記後に、器種分類、重量計測、石質、残存状況、打点・自然面・被熱の有無など一次の属性観察を行い、次に接合・実測などの二次整理作業を進めた。遺物の注記は、道教委の登録番号、発掘区、遺物番号の順としたので、上白滝8遺跡、H54区出土、遺物番号123の石器の場合は「91H54・123」となる。なお、平成7年度は遺跡名を白滝第13地点遺跡と認識していたため、登録番号の注記が1となっている。また、一括遺物は、定形的なものや点取り遺物と接合したものを抽出し、台帳を作成した。したがって、その注記は、点取り遺物と区別するため、発掘区と台帳の整理番号の間に層位を記入した。例えば、L60区、I層出土、台帳番号5の石器は、「91（1）L60・I・5」となる。

水洗後に精査し、地山に含まれている自然礫や黒曜石の原石を除いた結果、今回報告対象である東地区の点取り遺物は最終的に89,310点（「白滝I群」：7,090点、「白滝I群」以外：82,220点）となった。

遺物の接合作業は、石質、発掘区、石器ブロック、石器ブロック群そして全体の順に進めた。上白滝8遺跡では、平成7年度の整理作業時より「白滝I群」を分離し、他の石器群とは独立した形で整理作業を進めた。したがって、接合番号は「白滝I群」とそれ以外の二つの石器群に分けて、1000単位でずらして番号を付した。最終的に折れ面接合5,361例（「白滝I群」754例：50001～50769・欠番15、「白滝I群」以外4,607例：51001～55631・欠番24）、剥離面接合2,125例（「白滝I群」351例：1～352・欠番1、「白滝I群」以外1,774例：1001～2791・欠番17）となった。

接合作業は石質の類似したものを集めて行ったが、その作業中で同一母岩と認識できる接合資料・非接合資料・非接合単品石器を母岩別資料として抽出した。この作業は接合資料を中心に行ったため、母岩判別が困難であった接合数が少量の接合資料、接合資料に対応する母岩のない剥片・単品石器類が母岩別資料から漏れている。そのため、単体で搬入された石器は母岩識別が可能であっても母岩別資料には分類されていない。このような手順で母岩に分類できたもの477個体を母岩別資料とした（「白滝I群」120母岩：1～100・459～476・478・480、「白滝I群」以外357母岩：101～458・477・479・欠番1）。

接合に関わる点数は23,052点（「白滝I群」：折れ面接合のみ518点、剥離面接合3,934点、「白滝I群」以外：折れ面接合のみ4,066点、剥離面接合14,534点）で、点取り遺物の総数89,310点に対しては25.8%、点取り及び一括遺物の総数702,618点に対しては3.3%の接合率である。また、477個体の母岩別資料の点数は20,829点で、点取り遺物の総数89,310点に対しては23.3%、点取り及び一括遺物の総数702,618点に対しては3.0%の母岩抽出率である。

接合作業後は接合資料単位で剥離順による接合カードを作成し、同時に母岩別資料に含まれる接合資料・非接合剥片・非接合単品石器を記載した母岩台帳を作成した。その後、それらのデータを遺構・遺物データシステム（シン技術コンサル）に入力し、分布図等の作成に利用した。

実測図掲載の接合資料は、接合カードを用い、剥離段階毎の色分けを行い、それに従って実測図の輪郭図にスクリーントーンを振り分け、さらに剥離方向を矢印で記入して剥離模式図を作成した。原産地遺跡という性格から遺物量・接合資料数が非常に多く、接合作業以降の作業に多大な労力を要した。また、大型石器や接合資料の実測図作成に関しては写真実測を行った。大型で慎重な取り扱いが必要な写真撮影にはカメラマンの小川忠博氏とともに多くの工夫と慎重さが必要であった。また、同様に図化には多大な労力を必要とした。

本報告では、石器ブロック群・区域ごとに出土石器、分布・接合、接合資料の順で、実測図、分布図などを示した。最終的に実測図などを掲載した石器類は1,448個体、2,115点（うち写真のみを掲載したもの26個体、36点）、接合資料は225個体（うち模式図・写真を掲載したもの20個体、写真のみを掲載したもの51個体）、分布・接合図などを示した石器ブロックは63か所である。石器類の掲載割合は、点取り及び一括遺物の総数702,618点から剥片694,939点を引いた石器類7,679点に対して27.5%である。（鈴木宏行・直江康雄）

（8）調査結果の概要

上白滝8遺跡は総点数130万点を越える大量の石器類が出土しているため高位部中央や東よりの空白地帯を境に東西に分割し、二回に分けて報告することとした。遺構は28か所の炭化木片ブロック（Cb-1～28）が確認され、そのうち東地区に関連するのは13か所（Cb-1・2・4～8・10～15）である。そのほとんどは石器の分布と重なるが石器群の複雑さと併せてそれらと直接的に関連づけるのは困難である。遺物は全て石器類である。西地区は現在整理中であるため概数であるが、遺跡全体の点数は約135万点、重量は約3,460kg、そのうち点取り遺物は約21万点、一括ほか遺物は約114万点である。今回報告する東地区の遺物点数は702,618点、重量1,641,790.2g、そのうち点取り遺物は89,310点、一括ほか遺物は613,317点で、詳細は表IV-1に掲載している。

出土した遺物は、ほとんどが旧石器時代のものであるが、一部、石鎌・つまみ付きナイフなど旧石器時代以外の石器が混じる。東地区では、石器類を平面分布や石器の特徴から63か所のブロック、斜面部に分け、それらを14の石器ブロック群・区域に分けた。なお、石器群・区域の分類基準についてはIV章2（2）で後述する。

Sb-1～13は「白滝I群」である。石核の出土量が多く、多様な形態がみられる。剥片素材でその腹面からうろこ状の剥片を剥離する石核、剥片ないし分割礫を素材として求心状に寸詰まりの剥片を剥離する石核、素材の小口面を作業面として打面が厚く幅の広い剥片を剥離する石核、素材の細長い面を作業面として縦長剥片を剥離する石核、交互剥離によって打面と作業面を入れ替える石核、打面転移を頻繁に行いサイコロ状の形態になる石核などがみられる。これらは石核の素材と剥離技術によってI～III類に分類されている（IV章2（3）母岩別資料・接合資料参照）。原石の形状は転礫と角礫の二種類がみられ、転礫は各種の石核の素材となり、角礫は縦長剥片を剥離する石核との結びつきが強い。定形的な石器類は少なく、うろこ状や末端が広がる剥片または縦長気味の剥片などに軽微な二次加工か微細剥離がみられるものが多い。また、うろこ状剥片の腹面の打削部に平坦剥離を施した二次加工ある剥片が特徴的である。定形的な石器は錐形石器、搔器、削器がみられる。主に接合状況からSb-1～3、4～6、7・8、9、10、11～13の六つに分けられる。Sb-1～3は縁辺

表Ⅳ-2 上白滝8遺跡東地区出土遺物石質別一覧 ※重量の単位は(g)

種別	石質	尖形器		片断		打石		磨石		磨石		磨石		磨石		磨石	
		枚数	重量	枚数	重量	枚数	重量	枚数	重量	枚数	重量	枚数	重量	枚数	重量	枚数	重量
Ⅰ Ⅰ群	上白滝																
	打石	564	29,889.7	99	12,051.3	15	1,956.4	10	1,375.5	85	12,056.6	239	7,801.9	10	87.1	5	15.6
	片断	1	38.0	1	268.3						4	121.8					
	打石	1	23.7					1	11.3	7	41.3	15	268.4	1	3.8		
	片断									1	15.7						
	打石													4	26.8		
	片断																
	打石																
	片断																
	打石																
	片断																
	計		565	29,918.5	100	12,082.6	15	2,066.4	11	1,392.3	106	12,178.4	244	8,103.9	15	104.5	5
Ⅱ Ⅱ群	上白滝																
	打石	218	14,013.7	28	4,601.6	13	817.7	17	182.4	44	1,106.7	100	3,602.4	3	14.9	15	41.1
	片断																
	打石	2	412.2					2	119.7	1	8.7	3	33.7				
	片断																
	打石																
	片断																
	打石																
	片断																
	打石																
	片断																
	計		220	14,425.9	28	4,601.6	13	817.7	19	202.1	48	1,145.1	103	3,636.1	3	14.9	15
Ⅲ Ⅲ群	上白滝																
	打石	37	2,819.8	3	106.3	3	99.3	2	270.3	20	1,288.1	50	2,072.4	1	18.2		
	片断																
	打石																
	片断																
	打石																
	片断																
	打石																
	片断																
	打石																
	片断																
	計		37	2,819.8	3	106.3	3	99.3	2	270.3	20	1,288.1	50	2,072.4	1	18.2	
Ⅳ Ⅳ群	上白滝																
	打石	201	13,320.4	30	5,600.1	15	907.2	33	1,481.0	80	2,340.3	121	2,502.8	10	65.0	15	41.1
	片断	5	48.6	1	16.9												
	打石																
	片断																
	打石																
	片断																
	打石																
	片断																
	打石																
	片断																
	計		206	13,369.0	31	5,617.0	15	907.2	33	1,481.0	80	2,340.3	121	2,502.8	10	65.0	15

に微細な剥離がみられる二次加工ある剥片の他に、うろこ状剥片の腹面の打窟部に平坦剥離を施した二次加工ある剥片、搔器、錐形石器がみられる。原石の形状は転礫のみである。Sb-4~6は縁辺に微細な剥離がみられる二次加工ある剥片の他に、うろこ状剥片の腹面の打窟部に平坦剥離を施した二次加工ある剥片、搔器、錐形石器がみられる。原石の形状は転礫と角礫の二種類がみられる。Sb-7・8は縁辺に微細な剥離がみられる二次加工ある剥片と搔器がみられる。原石の形状は角礫のものが主体的である。Sb-9は縁辺に微細な剥離がみられる二次加工ある剥片の他に、うろこ状剥片の腹面の打窟部に平坦剥離を施した二次加工ある剥片がみられる。原石の形状は転礫のみである。Sb-10は縁辺に微細な剥離がみられる二次加工ある剥片の他に、錐形石器、搔器、削器がみられる。原石の形状は転礫のみである。Sb-11~13は縁辺に微細な剥離がみられる二次加工ある剥片の他に、錐形石器がみられる。原石の形状は転礫のみである。

A~F区、斜面部、Sb-62・63は「白滝I群」以外の石器群である。A~F区、斜面部には接合関係がみられ、それぞれに複数の石器群が重複する部分があると考えられる。ここでは特徴的な石器を記述するととめる。A区では峠下技法関連資料、I・II類の舟底形石器、彫器などが、B区では大型尖頭器、大型のII類の舟底形石器、大型石刃などが出土している。C区では尖頭器、峠下技法関連資料、舟底形石器などが、D地区では尖頭器、I・II類の多くの舟底形石器、彫器が出土している。E区では尖頭器、舟底形石器などが出土している。他地区では石刃の大小に関わらず単剥離打面から頭部調整を伴う石刃技法が主体的であるが、E区では横位の裏面調整のある石刃核から打面調整を施す石刃剥離が行われるのが特徴である。F区では広郷型ナイフ形石器などが出土し、斜面部では峠下型・梶加型・美利河型類似・蘭越型類似の各種細石刃核が出土している。Sb-62・63は低位部の石器群である。表土から出土した石緻1点以外は剥片で縄文時代の石器ブロック群と考えられる。

西地区は、I類の舟底形石器を含む石器群、広郷型ナイフ形石器を含む石器群、幅広有舌尖頭器石器群、「白滝I群」などが確認されているが、東地区同様それらは部分的に重複している。これらについては、現在整理作業中であり、報告は来年度以降の予定である。(鈴木宏行・直江雄雄)

2 遺構と遺物

確認された遺構は炭化木片ブロックのみで、遺跡全体で28か所、そのうち東地区11か所である。今回は西地区の東端に位置するCb-14・15も東地区に関連すると考え、併せて報告する。

確認された遺物は全て石器類で、分布状況・石器組成から63の石器ブロックを認定し、接合関係・石器組成を中心として14の石器ブロック群・区域に分けた。遺物の記述は高位部、斜面部、低位部の順で行い、高位部に関しては石器ブロック群・区域毎にSb-1~3、4~6、7・8、9、10、11~13、白滝I群ブロック外、A区(Sb-14~19)、B区(Sb-20~29)、C区(Sb-30~35)、D区(Sb-36~55)、E区(Sb-56~60)、F区(Sb-61)、I群以外ブロック外、表土(重機調査)の順に行う。

(1) 炭化木片ブロック

炭化木片ブロックは遺跡全体で28か所検出された。そのうち今回報告対象であるCb-1・2・4~8・10~15は、すべて高位面上の白滝面上にある。炭化木片ブロック内には焼土が伴わず、堆積している土層の中に炭化木片がまともまっている状態であった。ブロックの中心部の土層は、炭化木片と

表Ⅳ-3 上白滝8遺跡東地区炭化木片ブロック一覧

	層位	土 壌		炭化物		石 器		14C年代 (yBP)		
		体積(cc)	重量(g)	重量(g)	点数	重量(g)				
Ch-1		-	-	23.9	-	-	-	12460±60	12420±100	
Ch-2	(1)	2200	2000	0.6	1	0.1				
	(2)	2800	2800	3.1	2	0.2	18570±60			
	(3)	400	400	1.0	0	0.0				
	(4)	800	800	3.5	0	0.0				
	(5)	300	400	2.0	0	0.0				
	(6)	100	200	0.4	0	0.0				
	(7)	9900	10900	16.1	2	0.1				
	(8)	3100	3200	4.6	4	0.1				
	計	19600	20700	31.3	9	0.5				
Ch-4		100	200	0.5	1	0.1	13780±100			
Ch-5		2100	2000	2.2	0	0.0				
Ch-6		33400	34200	90.4	17	0.7	18650±160	18780±160		
Ch-7		200	300	0.6	0	0.0				
Ch-8		100	200	0.2	0	0.0				
Ch-10		3000	3500	1.3	3	0.2	17940±180			
Ch-11	(1)	1700	1900	1.7	3	0.1	18760±170			
	(2)	700	700	1.4	5	0.1				
	(3)	500	600	1.2	3	0.1				
	計	2900	3200	4.3	11	0.3				
Ch-12		600	800	0.8	1	0.1				
	(1)	6400	6200	8.1	1	0.1				
	(2)	1000	900	1.8	0	0.0				
	(3)	42700	40000	51.3	4	0.3	27500±470			
	(4)	9100	9100	7.6	0	0.0				
Ch-13	(5)	上	23900	22300	29.8	0	0.0	26900±120		
		中	48600	46300	120.7	1	0.1	27600±130		
		下	3100	2800	28.8	0	0.0	26390±480		
		草	13000	12900	68.0	2	0.2	27690±320		
		上中階	1600	1700	1.9	0	0.0			
		中下階	1500	1400	0.7	0	0.0			
		草・層下	14600	15300	7.6	0	0.0			
計	165500	158900	326.3	8	0.7					
Ch-14		1000	900	5.8	1	0.1	21980±210	24340±160		
Ch-15		23400	25400	20.1	6	0.3	14030±110	13930±50		

同様のやや暗褐色となっていることが特徴である。全体的な傾向としてQ50Ⅹを中心とした標高138～140mの北東側に傾斜する緩斜面上にまとまって分布している。石器ブロックとの位置関係は遺物集中域に重なるように分布するもの(Cb-2・4・6・11・13)、遺物集中域の縁辺部に分布するもの(Cb-1・5・7・8・10・12)、遺物集中域から離れて分布するもの(Cb-14・15)に分けられ、遺物集中域近辺に多い。

炭化木片ブロックの土壌はすべて採取し、体積と重量を計測後、フローテーション作業を行った。選別後の集計結果は表Ⅳ-3のとおりである。炭化木片のうち5mm以上の大きさがあるものはすべて樹種同定を行った。結果はすべてトウヒ属などの針葉樹であり、当時の植生は針葉樹の散生する森林ツンドラと推定された(表Ⅳ-4)。詳細については「白滝遺跡群Ⅲ」のV章3(三野 2002)に掲載している。また、炭化木片ブロックごとにAMS法による放射性炭素年代の測定を行った。年代の測定結果は、大まかに12,400～12,500yBP(Cb-1)、13,500～14,000yBP(Cb-4・15)、17,900～19,000yBP(Cb-2・6・10・11)、21,900～24,500yBP(Cb-14)、26,000～28,000yBP(Cb-13)に分けられ、18,000yBP前後の測定値が多い。なお、Cb-5・7・8・12は炭化木片が微量で、周辺の炭化木片ブロックの年代値が均質であったため測定を行っていない。年代測定結果の詳細

表Ⅳ-4 上白滝8遺跡東地区出土炭化材樹種同定結果一覧(三野 2001)

試料番号	炭化木片ブロック	樹 種
1	Cb-1	カラマツ属 <i>Larix</i> sp. ?
2	Cb-1	カラマツ属 <i>Larix</i> sp.
3	Cb-1	トウヒ属 <i>Picea</i> sp. ?
4	Cb-2 (2)	カラマツ属 <i>Larix</i> sp. ?
5	Cb-2 (2)	試料微少のため同定不能
6	Cb-2 (2)	試料微少のため同定不能
7	Cb-2 (2)	試料微少のため同定不能
14	Cb-6	-
15	Cb-6	カラマツ属 <i>Larix</i> sp. ?
16	Cb-6	カラマツ属 <i>Larix</i> sp. ?
17	Cb-6	試料微少のため同定不能
18	Cb-6	針葉樹
19	Cb-6	カラマツ属あるいはトウヒ属
20	Cb-6	針葉樹
22	Cb-13 (上層)	試料微少のため同定不能
23	Cb-13 (中層)	針葉樹
24	Cb-13 (下層)	針葉樹
25	Cb-13 (下層)	試料微少のため同定不能
26	Cb-13 (下層)	針葉樹
27	Cb-13 (下層)	針葉樹
28	Cb-13 (下層)	針葉樹
29	Cb-13 (下層)	針葉樹
30	Cb-13 (上下半層)	試料微少のため同定不能

はⅤ章1に掲載している。

Cb-1 (図Ⅳ-13、表Ⅳ-3)

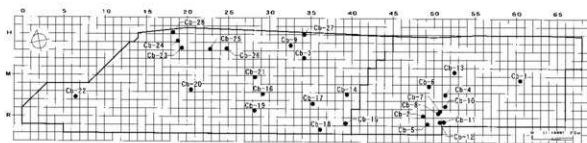
M60区、Sb-5・19西部の遺物が散漫な地点から90×80cmの不整形の範囲、厚さ6cmで確認された。周辺にも不定形な範囲で炭化木片が散在しており、その範囲を破線で示した。検出面はⅡa層中である。ブロック全体の土壌を採取し、23.9gの炭化木片を回収した。得られた炭化木片のうち2点について放射性炭素年代測定を行い12,460±60yBP (Beta-101787・試料No.1)、12,420±100yBP (Beta-112894・SHIRA-22)の測定結果が得られた。

Cb-2 (図Ⅳ-13、表Ⅳ-3)

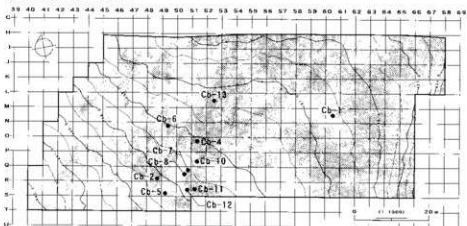
Q・R48区、Sb-53の遺物集中域の下部から280×115cmの範囲で炭化木片が散在しているのが確認された(破線部)。検出面はⅡa層の下部である。調査の進行と共に近接した2か所のブロックとなり、(1)・(2)を設定した。

(1)は105×45cmの楕円形の範囲で、厚さは5cmであった。採取した土壌は10,900gで16.1gの炭化木片を回収した。(2)は70×20cmの楕円形の範囲で、厚さは4cmであった。採取された土壌は3,200gで4.6gの炭化木片を回収した。なお散在部からは6,600gの土壌を採取し、10.6gの炭化木片を回収した。

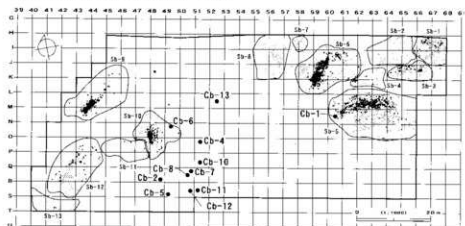
得られた炭化木片のうち1点について放射性炭素年代測定を行い、(2)のサンプルに18,570±60yBP (Beta-101788・試料No.2)の測定結果が得られた。



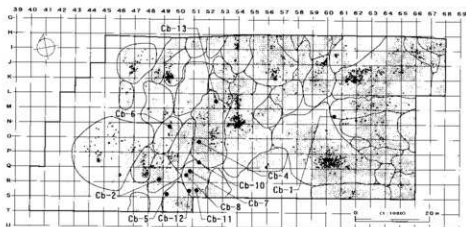
炭化木片ブロック位置図



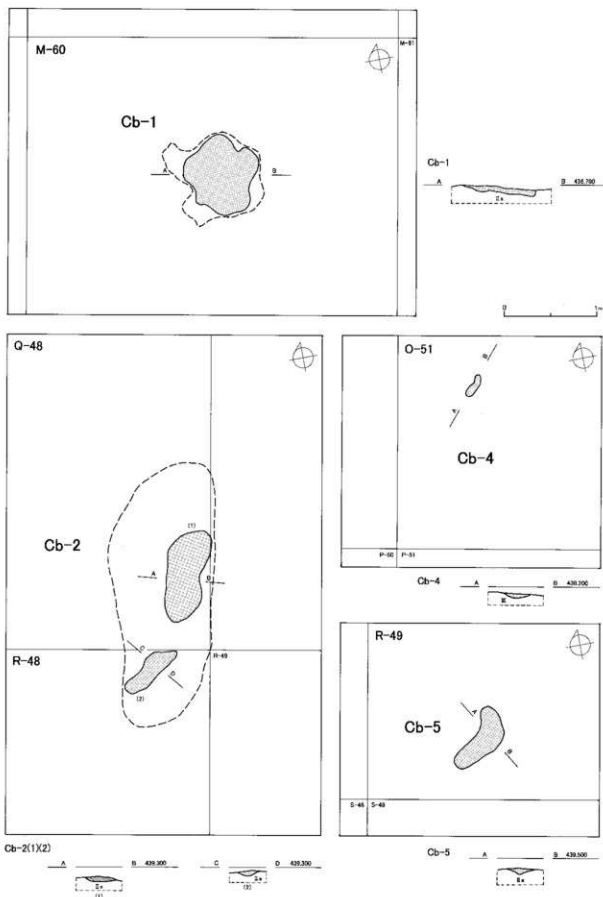
Sb-1~13の被熱石器と炭化木片ブロック



Sb-14~61の被熱石器と炭化木片ブロック



図M-12 炭化木片ブロック分布図



図M-13 炭化木片ブロックの平面・断面図(1)

Cb-4 (図IV-13、表IV-3)

O51区、Sb-47の遺物集中域の下部から25×8cmの楕円形の範囲、厚さ3cmで確認された。検出面はⅢ層の上面である。採取された土壌は200gで0.5gの炭化木片を回収した。得られた炭化木片のうち1点について放射性炭素年代測定を行い13,780±100yBP (Beta-126162・SHIRA-51)の測定結果が得られた。

Cb-5 (図IV-13、表IV-3)

R49区、Sb-52の西側縁辺部の遺物が希薄になる地点から75×25cmの「へ」の字形の範囲、厚さ6cmで確認された。検出面はⅡ層の下部である。採取された土壌は2,000gで2.2gの炭化木片を回収した。

Cb-6 (図IV-14、表IV-3)

M・N49区、Sb-10の東側縁辺部の遺物が希薄になる地点、Sb-49の遺物集中域の下部から130×75cmの楕円形の範囲で確認された。厚さは最大で12cm、検出面はⅡa層の下部である。採取された土壌は34,200gで90.4gの炭化木片を回収した。得られた炭化木片のうち2点について放射性炭素年代測定を行い18,650±160yBP (Beta-112895・SHIRA-23)、18,780±160yBP (Beta-112896・SHIRA-24)の測定結果が得られた。

Cb-7 (図IV-14、表IV-3)

Q50区、Sb-51の遺物集中域の北側から15×15cmの円形の範囲、厚さ3cmで確認された。検出面はⅡa層下部である。採取された土壌は300gで0.6gの炭化木片を回収した。

Cb-8 (図IV-14、表IV-3)

Q50区、Sb-51の遺物集中域の西側から10×10cmの円形の範囲、厚さ3cmで確認された。検出面はⅡa層下部である。採取された土壌は200gで0.2gの炭化木片を回収した。

Cb-10 (図IV-14、表IV-3)

P51区、Sb-47と51の境日から50×20cmの不整な楕円形の範囲、厚さ8cmで確認された。検出面はⅡa層である。採取された土壌は3,500gで1.3gの炭化木片を回収した。得られた炭化木片のうち1点について放射性炭素年代測定を行い17,940±180yBP (Beta-112899・SHIRA-27)の測定結果が得られた。

Cb-11 (図IV-14、表IV-3)

R51区、Sb-51の遺物集中域の下部から近接した三つの集中部を確認し、(1)～(3)を設定した。検出面はⅢ層上面である。

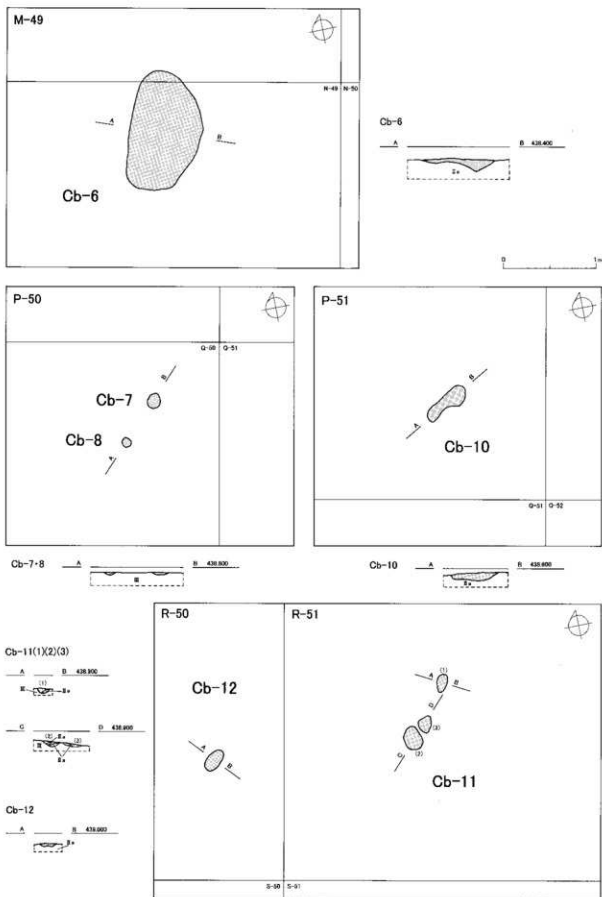
(1)は20×10cmの楕円形の範囲で、厚さは5cmであった。採取された土壌は1,900gで1.7gの炭化木片を回収した。(2)は(1)の南西側にあり、25×20cmの長楕円形の範囲で、厚さは6cmであった。採取された土壌は700gで1.4gの炭化木片を回収した。(3)は(2)の北東側に近接してみられ、20×15cmの不整な楕円形の範囲で、厚さは3cmであった。採取された土壌は600gで1.2gの炭化木片を回収した。得られた炭化木片のうち1点について放射性炭素年代測定を行い、(1)のサンプルに18,760±170yBP (Beta-112900・SHIRA-28)の測定結果が得られた。

Cb-12 (図IV-14、表IV-3)

R50区、Sb-51と52の境日から30×15cmの楕円形の範囲、厚さ3cmで確認された。検出面はⅡa層下部である。採取された土壌は800gで0.8gの炭化木片を回収した。

Cb-13 (図IV-15、表IV-3)

L52区、Sb-47北部の遺物集中域の下部から近接した二つの集中部を確認し、(1)・(2)を



図IV-14 炭化木片ブロックの平面・断面図(2)

設定した。検出面はⅡa層下部である。調査の進行により(1)・(2)からややずれて新たな集中部を確認したため(3)・(4)を設定した。その後の掘り下げて、それぞれが一つの大きく深いまとまりとなり(5)を設定した。本ブロックは遺跡内はもちろん、現在まで調査された白滝遺跡群の中で最大のもので、突出した景の炭化木片が得られている。

(1)は70×10cmの長楕円形の範囲で、厚さは3cmであった。採取された土壌は6.200gで8.1gの炭化木片を回収した。(2)は(1)の北西側にあり、30×25cmの楕円形の範囲で、厚さは6cmであった。採取された土壌は900gで1.8gの炭化木片を回収した。(3)は(1)のやや南西側に一部重なるようにあり、125×20cmの長楕円形の範囲で、厚さは4cmであった。採取された土壌は40.000gで51.3gの炭化木片を回収した。(4)は(2)のやや南側に一部重なるようにあり、48×35cmの不整な楕円形の範囲で、厚さは5cmであった。採取された土壌は9.100gで7.6gの炭化木片を回収した。(5)は(3)・(4)の下部に大きく広がり240×95cmの範囲であった。断面は間層を挟み炭化木片の集中する層が、3層に分かれ、厚さは20cm程であった。採取された土壌は102.700gで257.5gの炭化木片を回収した。

得られた炭化木片のうち5点について放射性炭素年代測定を行い、(3)のサンプルに27,500±470yBP (Beta-112901・SHIRA-29)、(5)のサンプルに26,900±120yBP (Beta-101790・No.4)、27,600±130yBP (Beta-101791・No.5)、26,390±480yBP (Beta-101792・No.6)、27,690±320yBP (Beta-112902・SHIRA-30)の測定結果が得られた。

(5)を中心としたCb-13はその深さや窪みの形態から掘り込んで作られた炉の可能性を想定して調査を行った。しかし土層断面を観察すると、炭化木片の下層にあるⅡa・Ⅱc層が切られている様子がなく、ほぼ自然堆積の傾斜に沿って炭化木片がたまっていることから人為的な掘り込みではないと判断した。最終的に重機により礫層までの堆積状況の確認を行ったところ、礫層上面がⅡa・Ⅱc層、Cb-13底面のうねりと一致する堆積であったことが確認された。(図版24-2)。このことから炭化木片堆積時は窪みのある自然地形であったことが考えられ、前述の判断と矛盾しない結果となった。

Cb-14 (図IV-15、表IV-3)

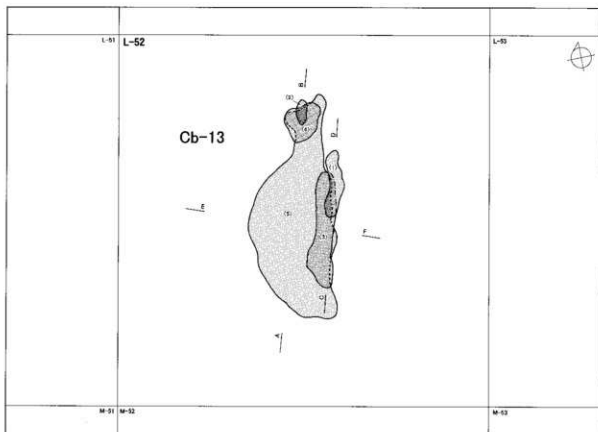
O39区、近い石器ブロックは南東側に約30m離れた「白滝I群」のSb-12と西地区の白滝I群でL37区、S36区を中心とした2つの石器ブロックである。25×13cmの不整な楕円形の範囲、厚さ4cmで確認された。検出面はⅢ層上面である。採取された土壌は900gで5.8gの炭化木片を回収した。得られた炭化木片のうち2点について放射性炭素年代測定を行い21,980±210yBP (Beta-112903・SHIRA-31)、21,340±160yBP (Beta-174487・SHIRA-93)の測定結果が得られた。

Cb-15 (図IV-15、表IV-3)

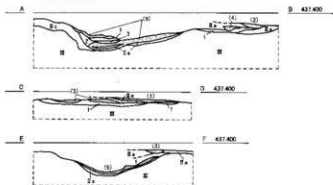
Q39区、近い石器ブロックは南東側に約10m離れた「白滝I群」のSb-13と西地区の白滝I群でS36区を中心とした石器ブロックである。73×50cmの不整な楕円形の範囲、厚さ8cmで確認された。検出面はⅢ層上面である。採取された土壌は25.400gで20.1gの炭化木片を回収した。得られた炭化木片のうち2点について放射性炭素年代測定を行い14,030±110yBP (Beta-112904・SHIRA-32)、13,930±50yBP (Beta-174488・SHIRA-94)の測定結果が得られた。(直江康雄)

(2) 遺物分布と石器ブロック・石器ブロック群・区域

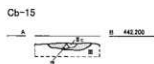
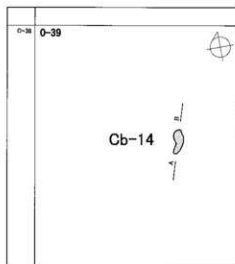
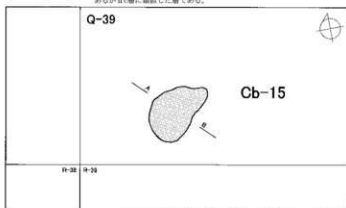
東地区の出土地点を計測して取り上げた遺物(以下点取遺物)は89,310点である。調査区の地形は西端から緩やかに北東に向かって傾斜しているが、50ラインより東には舌状の平坦面が北東方向に



Cb-13(1X2X3)(4X5)



- 1: 褐色粘質土 炭化物を微量に含有する、目土層起源のスコリアを若干含む。
- 2: 暗褐色粘質土 炭化物をやや含有する、土炭化物塊との薄縁のなめ、直径5mm前後のオレンジ色の粘土ブロックを多く含有する。
- 3: 褐色シルト質粘土 炭化物は含有しない、テラックによる黄褐色粘土を含むため不明瞭であるが目土層に類似した層である。



0 1m

図M-15 炭化木片ブロックの平面・断面図(3)

張り出し、東側は急な斜面部を挟んで低位部へと連続している。遺物集積域の形状は周水河性のソリフラクションなどの影響により、遺物の傾斜方向への移動が認められるが、本来の分布を大きく変えるものではないと考えられる。

整理作業では技術的特徴をもとに「白滝Ⅰ群」を分離し、「白滝Ⅰ群」とそれ以外に分けて接合作業以降の整理を行った。これらは、分布上重複する地点(Sb-1・14、3・17、5・19、6・36、8・35など)があるが、奥白滝Ⅰ遺跡で確認されたレベル差(直江ほか 2001の図Ⅲ-17)は確認できなかった(図Ⅳ-21)。

「白滝Ⅰ群」については従来通りに遺物分布・密度分布・接合関係からブロックを13(Sb-1~13)に分け、それらを六つの石器ブロック群に分類した(図Ⅳ-16・17)。「白滝Ⅰ群」以外については、白滝遺跡群の既報告の遺跡と比較して高密度の分布域が広範囲に連続し(図Ⅳ-18)、また、その連続の中に複数の石器群が重複する複雑な様相を示している。そのため、ブロック設定はそれらの連続した分布をいくつかの単位に分けて記述・把握するための手段として便宜的に行った。まず、密度分布図(図Ⅳ-18)の20点のラインで括り、それらが広範囲に及ぶ場合(Sb-17・19・21・23・24・26、30・31、33~35、39~44・46、56・57)はそのラインのくびれた部分で分割した。また、50点以下の独立した山に関しては近隣の50点以上の山に統合した。但し、Sb-61については広郷型ナイフ形石器のまとまりが確認されていたため50点以下の山であるがブロックとして認定している。その結果、48のブロック(Sb-14~61)(図Ⅳ-20)を設定した。接合関係(図Ⅳ-19)を見るとほとんどは近接した範囲で接合するが、広範囲にわたる遠距離間での接合もみられる。従来通り、接合関係で石器ブロック群の認定を行うと全てのブロックは一つの石器ブロック群に認定される。しかし、実際には特徴的な石器を基準にするまとまりがみられ、また、近距離の接合関係と併せて六つ(A~F)の「区域」(図Ⅳ-20)に分類した。「区域」で括られた遺物の集合体は、同一の石器製作技術を持ち、同一時期の所産と考えられるまとまりである「石器ブロック群」とは異なり、純粋な石器群を反映したものではないが、複数石器群の重複の中にはやけた実体として把握される。

低位部については遺物分布から二つのブロック(Sb-62・63)に分け、一つの石器ブロック群に認定した(図Ⅳ-20)。

以上のように東地区を63の石器ブロック(Sb-1~63)、斜面部に分け、それらをSb-1~3、4~6、7・8、9、10、11~13、A区(Sb-14~19)、B区(Sb-20~29)、C区(Sb-30~35)、D区(Sb-36~55)、E区(Sb-56~60)、F区(Sb-61)、斜面部、Sb-62・63(低位部)の15の石器ブロック群・区域に分離した。以下に、石器ブロック群・区域とブロックの関係について述べる。

Sb-1~3は「白滝Ⅰ群」である。剥片の縁辺に軽微な加工を施した二次加工ある剥片を主体とし、うろこ状剥片の腹面の打縮部に平坦剥離を施した二次加工ある剥片、搔器、錐形石器が伴出している。石核はサイコロ状のものや剥片の腹面備を求心状に剥離するものなどがみられる。原石の形状はすべて転蹀である。まとまった3か所のブロックからなり、それぞれに接合関係が確認された。

Sb-4~6は「白滝Ⅰ群」である。剥片の縁辺に軽微な加工を施した二次加工ある剥片を主体とし、うろこ状剥片の腹面の打縮部に平坦剥離を施した二次加工ある剥片、搔器、錐形石器が伴出している。石核はサイコロ状のものや剥片の腹面備を求心状に剥離するもの、縦長剥片を連続的に剥離するものなどがみられる。原石の形状は転蹀と角蹀の二種類がみられ、後者と縦長剥片を連続的に剥離する石核との結びつきが強い。まとまった3か所のブロックからなり、それぞれに接合関係が確認された。

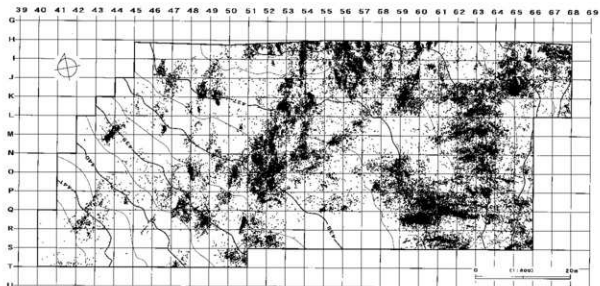
Sb-7・8は「白滝Ⅰ群」である。加工が施された石器が少なく、剥片の縁辺に軽微な加工を施した二次加工ある剥片と搔器が出土している。石核は縦長剥片を連続的に剥離するものや剥片の腹面

表N-7 上白滝8遺跡東地区出土点取り遺物ブロック・石質別一覧(3) ※重量の単位は(g)

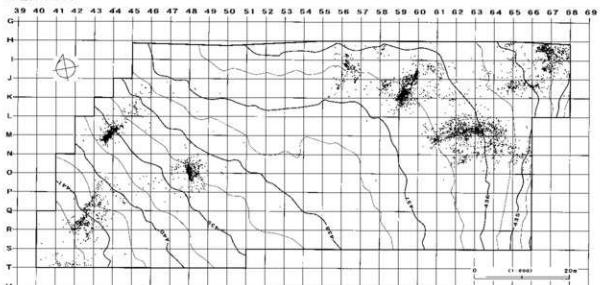
行番号	So	石質	1		2		3		4		5		6		7		計		
			個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量			
Sh-14-19	19	小片																0	
		燧石(1)	13	227.4	1	120.4													348.0
		燧石(2)																	0
		燧石(3)	4	184.0															768.0
		燧石(4)																	0
		燧石(5)	1	101.0															101.0
		燧石(6)																	0
		燧石(7)																	0
		燧石(8)																	0
		燧石(9)																	0
		燧石(10)																	0
		燧石(11)																	0
		燧石(12)																	0
		20	20	小片															
燧石(1)																			0
燧石(2)																			0
燧石(3)																			0
燧石(4)																			0
燧石(5)																			0
燧石(6)																			0
燧石(7)																			0
燧石(8)																			0
燧石(9)																			0
燧石(10)																			0
燧石(11)																			0
燧石(12)																			0
燧石(13)																			0
21	21	小片																0	
		燧石(1)																	0
		燧石(2)																	0
		燧石(3)																	0
		燧石(4)																	0
		燧石(5)																	0
		燧石(6)																	0
		燧石(7)																	0
		燧石(8)																	0
		燧石(9)																	0
		燧石(10)																	0
		燧石(11)																	0
		燧石(12)																	0
		燧石(13)																	0
22	22	小片																0	
		燧石(1)																	0
		燧石(2)																	0
		燧石(3)																	0
		燧石(4)																	0
		燧石(5)																	0
		燧石(6)																	0
		燧石(7)																	0
		燧石(8)																	0
		燧石(9)																	0
		燧石(10)																	0
		燧石(11)																	0
		燧石(12)																	0
		燧石(13)																	0
23	23	小片																0	
		燧石(1)																	0
		燧石(2)																	0
		燧石(3)																	0
		燧石(4)																	0
		燧石(5)																	0
		燧石(6)																	0
		燧石(7)																	0
		燧石(8)																	0
		燧石(9)																	0
		燧石(10)																	0
		燧石(11)																	0
		燧石(12)																	0
		燧石(13)																	0
24	24	小片																0	
		燧石(1)																	0
		燧石(2)																	0
		燧石(3)																	0
		燧石(4)																	0
		燧石(5)																	0
		燧石(6)																	0
		燧石(7)																	0
		燧石(8)																	0
		燧石(9)																	0
		燧石(10)																	0
		燧石(11)																	0
		燧石(12)																	0
		燧石(13)																	0
25	25	小片																0	
		燧石(1)																	0
		燧石(2)																	0
		燧石(3)																	0
		燧石(4)																	0
		燧石(5)																	0
		燧石(6)																	0
		燧石(7)																	0
		燧石(8)																	0
		燧石(9)																	0
		燧石(10)																	0
		燧石(11)																	0
		燧石(12)																	0
		燧石(13)																	0
26	26	小片																0	
		燧石(1)																	0
		燧石(2)																	0
		燧石(3)																	0
		燧石(4)																	0
		燧石(5)																	0
		燧石(6)																	0
		燧石(7)																	0
		燧石(8)																	0
		燧石(9)																	0
		燧石(10)																	0
		燧石(11)																	0
		燧石(12)																	0
		燧石(13)																	0
27	27	小片																0	
		燧石(1)																	

表M-11 上白滝8遺跡東地区出土点取り遺物ブロック・石質別一覧(7) ※重量の単位は(g)

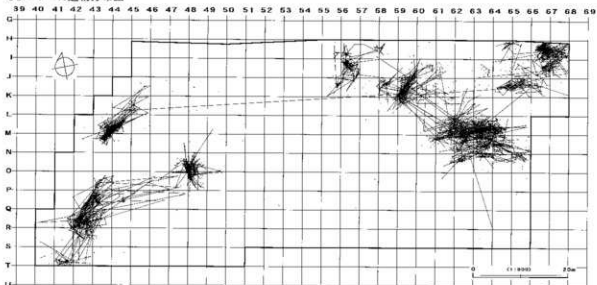
行番号	Sb	石質	遺構1		遺構2		遺構3		遺構4		遺構5		遺構6		遺構7		計	石質									
			数量	重量	数量	重量	数量	重量	数量	重量	数量	重量	数量	重量	数量	重量											
Sh-60-35	50	燧石	13	449.1	1	7.1																					
		燧石(1)	11	429.9																							
		燧石(2)	2	20.2																							
	51	燧石	11	92.0																							
		燧石(1)	5	140.9																							
		燧石(2)	6	47.1																							
	52	燧石	10	851.0	1	5.7																					
		燧石(1)	8	775.4																							
		燧石(2)	2	75.6																							
	53	燧石	10	970.5	1	5.7																					
		燧石(1)	9	921.1																							
		燧石(2)	1	49.4																							
54	燧石	21	699.9																								
	燧石(1)	19	586.7																								
	燧石(2)	2	113.2																								
55	燧石	31	826.4																								
	燧石(1)	29	794.4																								
	燧石(2)	2	32.0																								
Sh-60	56	燧石	307	1001.7	1	6.2																					
		燧石(1)	305	995.5																							
		燧石(2)	2	6.2																							
	57	燧石	1	4.8																							
		燧石(1)	1	111.2																							
		燧石(2)	1	39.4																							
	58	燧石	1	213.4																							
		燧石(1)	1	176.5																							
		燧石(2)	1	36.9																							
	59	燧石	1	16.0	1	31.8																					
		燧石(1)	1	483.4																							
		燧石(2)	1	53.1																							
60	燧石	1	117.8																								
	燧石(1)	1	32.4																								
	燧石(2)	1	85.4																								
Sb-61	61	燧石	1	18.4																							
		燧石(1)			40	311.4	3	163.7	1	7.9	1	17.4															
		燧石(2)			1	5.7																					
	I B	燧石																									
		燧石(1)																									
		燧石(2)																									
	711-3	燧石																									
		燧石(1)																									
		燧石(2)																									
	I B	燧石																									
		燧石(1)																									
		燧石(2)																									
Sb-62	燧石																										
	燧石(1)																										
	燧石(2)																										
Sb-63	燧石																										
	燧石(1)																										
	燧石(2)																										
711-3	燧石																										
	燧石(1)																										
	燧石(2)																										
計			549	1919.9	10	1003.1	10	135.4	11	339.9	109	720.1	1	7.9	10	295.9	1	15.4	112	1641.9	11	75	8.5	25	127.1	129	1087.7



全遺物分布図

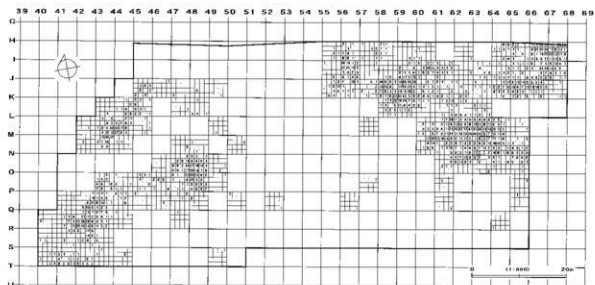
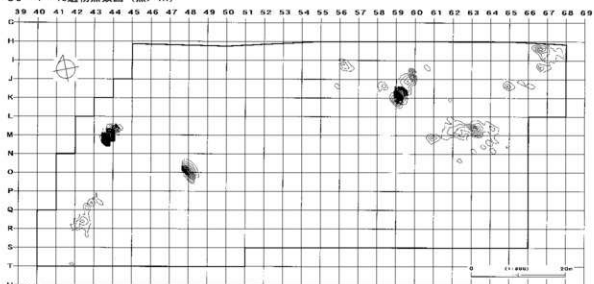


Sb-1~13遺物分布図

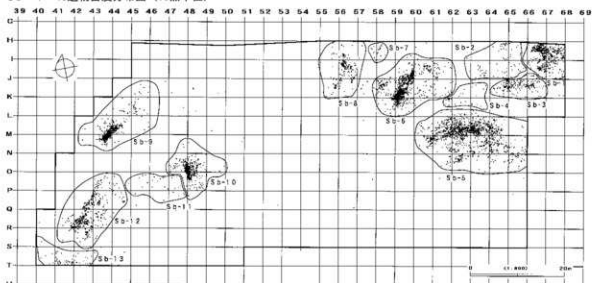


Sb-1~13接合分布図

図IV-16 遺物分布(1)・接合分布図(1)

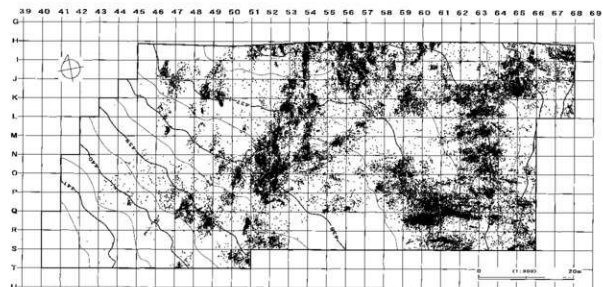
Sb-1～13遺物点数図(点/m²)

Sb-1～13遺物密度分布図(10点単位)

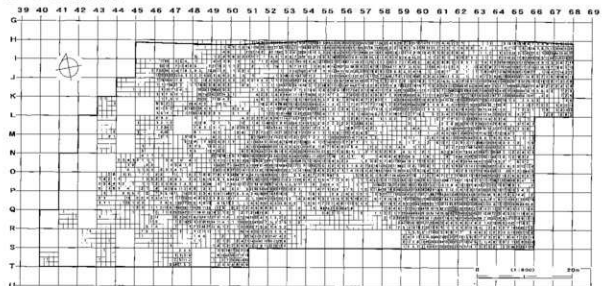


Sb-1～13石器ブロック設定図

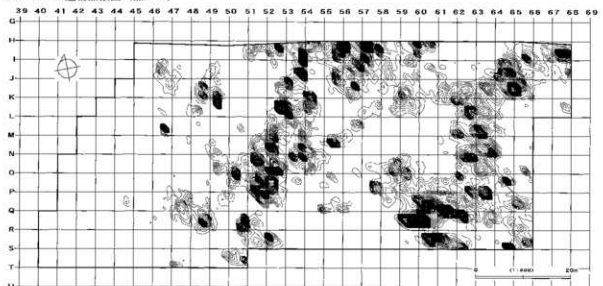
図IV-17 遺物点数(1)・密度分布(1)・石器ブロック設定図(1)



Sb-14~61遺物分布図

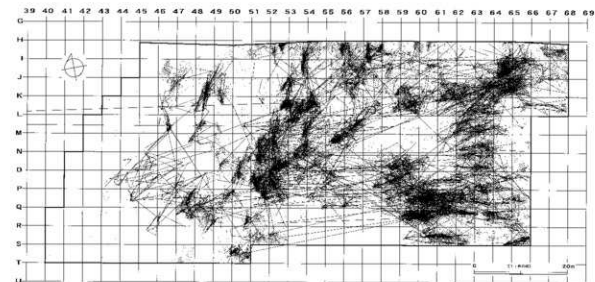


Sb-14~61遺物点数図 (点/m²)

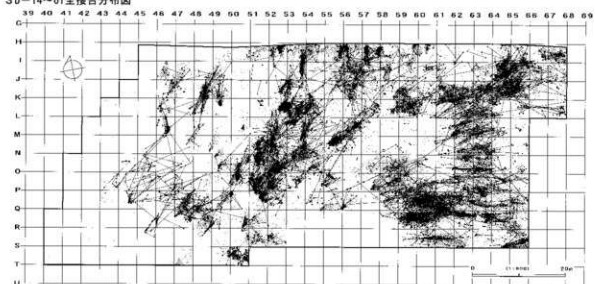


Sb-14~61遺物密度分布図 (10点単位)

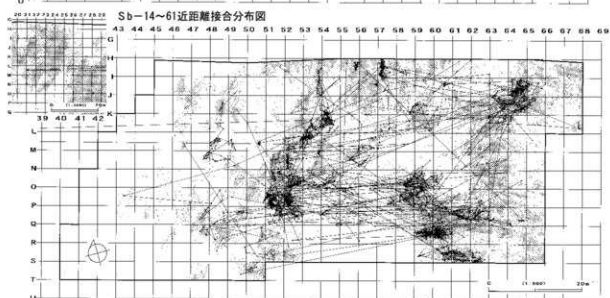
図IV-18 遺物分布 (2)・遺物点数 (2)・密度分布図 (2)



Sb-14~61全接合分布図

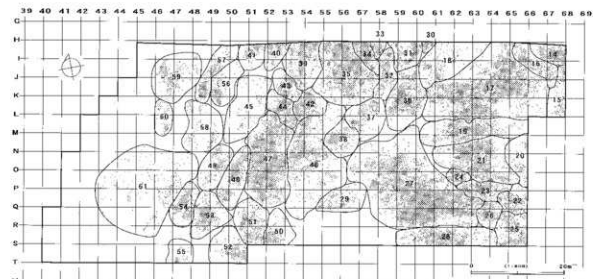


Sb-14~61近距離接合分布図

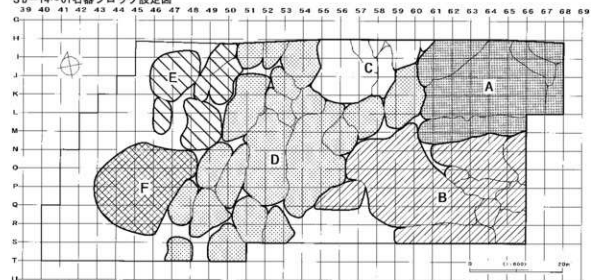


Sb-14~61遠距離接合分布図

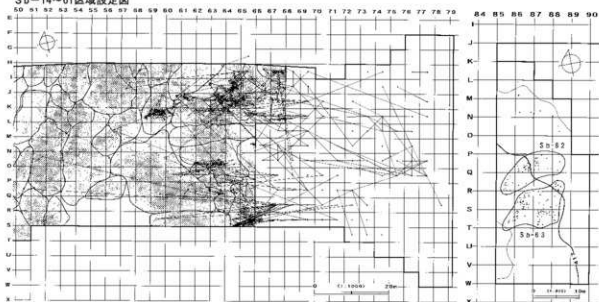
図IV-19 接合分布図 (2)



Sb-14~61石器ブロック設定図



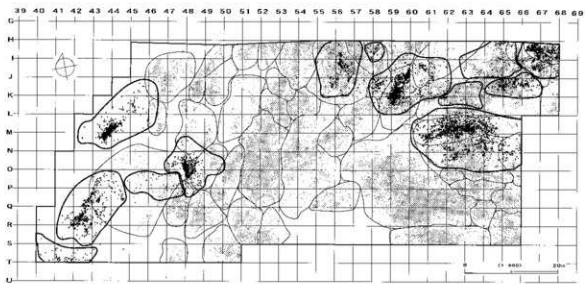
Sb-14~61区域設定図



斜面部接合分布図

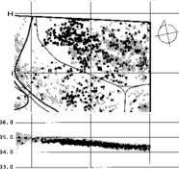
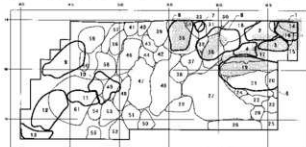
図M-20 石器ブロック設定(2)・区域設定・接合分布図(3)

低位部石器ブロック設定図

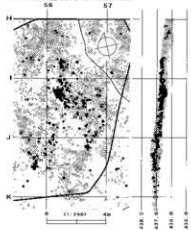


石器ブロック設定図 ※太枠・ドットはSb-1～13（「白滝1群」）

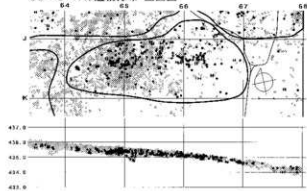
Sb-1・14の遺物分布・立面図



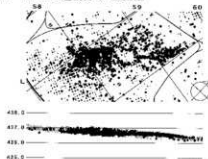
Sb-8・35の遺物分布・立面図



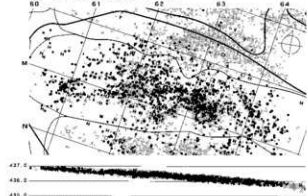
Sb-3・17の遺物分布・立面図



Sb-6・36の遺物分布・立面図



Sb-5・19の遺物分布・立面図



図M-21 石器ブロック設定図（3）

側を求心状に剥離するものがみられる。原石の形状は角稜が主体的で、縦長剥片を連続的に剥離する石核との結びつきが強い。隣り合う2か所のブロックからなり、接合関係が確認された。

Sb-9は「白滝I群」である。剥片の縁辺に軽微な加工を施した二次加工ある剥片を主体とし、うろこ状剥片の腹面の打縮部に平坦剥離を施した二次加工ある剥片が出土し、定形的な石器はみられない。石核はサイコロ状のものや剥片の腹面側を求心状に剥離するものなどがみられる。原石の形状はすべて転蹀である。他のブロックとの母岩の共有関係・接合関係が希薄なことから独立した石器ブロック群とした。

Sb-10は「白滝I群」である。剥片の縁辺に軽微な加工を施した二次加工ある剥片を主体とし、搔器・削器・錐形石器が伴出している。二次加工技術に切断技法が含まれている可能性が高く、主に二次加工ある剥片の一部と錐形石器にみられる。石核は剥片の腹面側や両面に求心状の剥離をするものが多い。原石の形状はすべて転蹀である。西側に隣接するSb-11縁辺部とのブロック間接合が2例確認された。両ブロックは石器の内容や剥離技術、接合状況に相違がみられることから、隣接部で分布が重なったものと判断し独立した石器ブロック群とした。

Sb-11~13は「白滝I群」である。剥片の縁辺に軽微な加工を施した二次加工ある剥片を主体とし、錐形石器が伴出している。石核はサイコロ状のものや剥片の腹面側を求心状に剥離するもの、縦長剥片を連続的に剥離するものなどがみられる。原石の形状はすべて転蹀である。まとまった3か所のブロックからなり、それぞれに接合関係が確認された。

A区(Sb-14~19)は、尖頭器、峠下技法関連資料、小型の靱加型細石刃核、舟底形石器(I・II類)、彫器、搔器、石刃核、石核、斧形石器等が出土した。舟底形石器はI類を含み、周縁加工のある左刃の彫器とともに峠下技法関連の石器と分布が重なるが、それらに接合関係は認められない。細石刃核と細石刃核削片、細石刃核削片同士の接合資料、また、それらと石刃等の一次剥離資料との接合資料が確認されている。

B区(Sb-20~29)は、大型尖頭器、小~大型の舟底形石器(II類)、平坦剥離による加工のある削器、大型石刃、石刃核、石核等が出土した。単剥離打面から大型石刃を剥離した接合資料に大型舟底形石器と削器は含まれ、一連の石器製作技術に位置付けられる。また、少量ではあるが峠下技法関連資料が含まれている。

C区(Sb-30~35)は、尖頭器、峠下技法関連資料、小型の靱加型細石刃核、舟底形石器(I・II類)、彫器、小~大型の石刃核・石核等が出土した。密度分布図を見ると高密度の山が、連結するというより点在し、また、峠下技法関連資料や大型石刃関連資料は域内でも局地的な分布であることから、本区域に複数の石器群が混在している可能性がある。

D区(Sb-36~55)は、尖頭器、彫器、搔器、舟底形石器(I・II類)、石刃核、石核、斧形石器等が出土した。多くの舟底形石器が出土し、I類から大型のものまで多様である。甲板面に原稜面を持つものや大型剥片素材である大型のものはB区のものに類似し、関連すると考えられる。小型の舟底形石器・彫器・搔器は、上白滝2遺跡Sb-11・12、13、上白滝5遺跡Sb-6~11に類似する。

E区(Sb-56~60)は、尖頭器、舟底形石器(I・II類)、石刃核等が出土している。楕形の表面調整を施した石刃核から打面調整を伴う石刃剥離が行われるのが特徴である。舟底形石器I類は幅広く、2点とも十勝産であり、搬入されている。

F区(Sb-61)は、広郷型ナイフ形石器、舟底形石器(II類)、石刃核等が出土した。広郷型ナイフ形石器が含まれるのが特徴で素材の石刃技法とともに上白滝7遺跡Sb-4~10に類似する。舟底形石器は分布の周辺部から出土し、共伴関係は不明である。

斜面部は、尖頭器、峠下型細石刃核、幌加型細石刃核、美利河型類似細石刃核、南越型類似細石刃核、大型舟底形石器（Ⅱ類）、大型石刃素材削器、大型石刃核等が出土している。大型の舟底形石器には幌加型細石刃核と技術的特徴が類似するものがあり、母型と考えられる。高位部のA・B区と接合するものがあり、それらとの関連が想定されるが、斜面部で原位置を保っていないため、多様な細石刃核の伴同関係を含め不明である。

Sb-62・63は低位部の石器群である。剥片のみで定形的な石器はみられないが、表土から石礫が1点出土している。隣り合う2か所のブロックからなるが、接合関係は確認されていない。出土した剥片の石質・形態・重量などが類似しているため同一の石器ブロック群とした。点取り遺物は主にⅡ層上部から出土しており、水和層があまり発達していないことから石礫を含めた縄文時代の石器群であると考えられる。

次に石材別・器種別状況を概観する。石器ブロックが一部重なるため、「白滝Ⅰ群」としたSb-1~13とそれ以外のSb-14~61に分けて行う。なお、出土点数について特に記述がない場合は、点取り遺物の点数で、一括遺物も含む場合は明記する。

Sb-1~13「白滝Ⅰ群」の石器

黒曜石製の石器（図Ⅳ-22、表Ⅳ-2・5・6）

黒曜石の比率が高く、7,090点中7,074点で全体の99.8%を占める。石質毎にみると黒曜石1（黒色）が最も多く、6,645点（93.9%）出土し、以下黒曜石5（黒>紫・茶）の293点（4.1%）、黒曜石4（黒<茶）の68点（1.0%）、黒曜石2（梨肌）の46点（0.7%）、黒曜石3（黒>茶）の22点（0.3%）の順となっている。石質毎に石器ブロックを観察すると、最も多い黒曜石1は全体的に分布し、特にSb-7は黒曜石1のみで構成されている。黒曜石2はSb-10に集中してみられ、その他の石器ブロックではほとんど出土していない。黒曜石3はまとまった分布がみられず、Sb-1・2・5・6・8・9・11・12から僅かに出土している。黒曜石4はSb-2・6からまとまって出土し、Sb-5・10ではブロック全体に散漫に広がっている。黒曜石5はSb-5に多くみられ、ブロック全体に広がって出土している。Sb-6では黒曜石4と同様に中央に集中して分布している。

黒曜石以外の石器（図Ⅳ-23、表Ⅳ-2・5・6）

7,090点のうち16点（0.2%）が黒曜石以外の石材で、その内訳はめのう7点、珪岩5点、碧玉（濃緑色の碧玉1）3点、頁岩1点である。石質ごとに石器ブロックを観察すると、めのうはSb-2・3・12のみでみられ、特にSb-3で多く、5点出土している。珪岩、碧玉はどちらもSb-12から出土しているが、珪岩がブロック東部にまとまっているのに対し、碧玉はブロック全体の集中域と重なるように北東方向に間延びした分布である。頁岩はSb-6のみみられる。Sb-12からは三種類の黒曜石以外の石材が出土し、他の「白滝Ⅰ群」の石器ブロックと比べ、ややバラエティーに富んだ石材構成である。

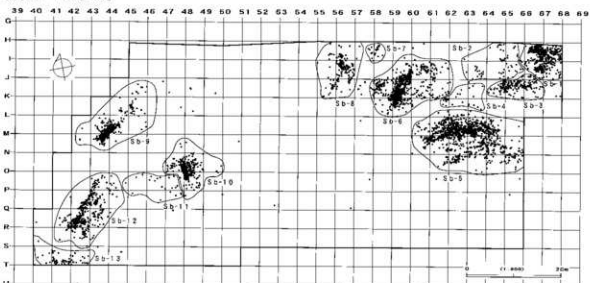
二次加工ある剥片（図Ⅳ-24、表Ⅳ-5・6）

274点出土し、Sb-7を除くすべての石器ブロックでみられる。特にSb-6（75点）・9（61点）で多く出土し、Sb-5（44点）・10（37点）・12（26点）でもまとまってみられる。「白滝Ⅰ群」の二次加工ある剥片は、搔器・削器・錐形石器以外の定形的ではない石器を全て含めて分類している。また、加工も一般的な二次加工のほかには微細剥離が連続的にみられるものも含めている。

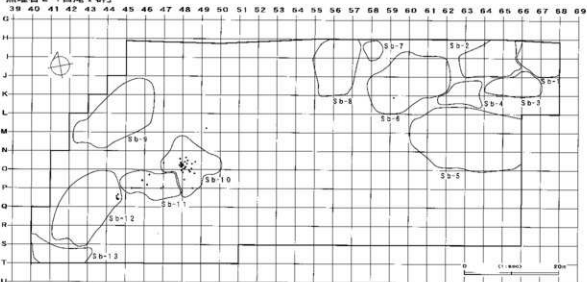
搔器（図Ⅳ-24、表Ⅳ-5・6）

13点出土し、Sb-1（1点）・5（5点）・8（1点）・10（5点）・石器ブロック外（1点）のみみられる。Sb-5・10からややまとまって出土している。石器ブロック群としてはSb-9、11~13で組成していない。

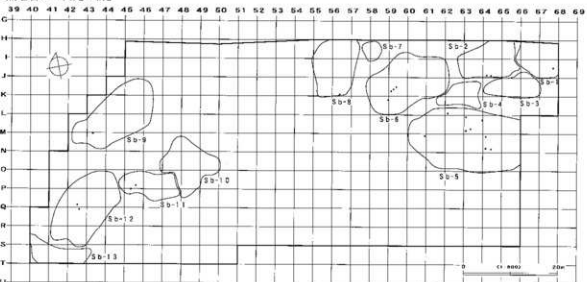
黒曜石1「白滝」群



黒曜石2「白滝」群

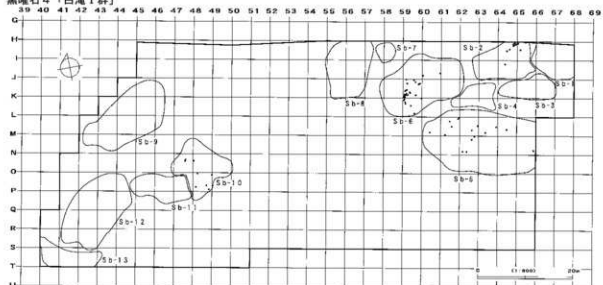


黒曜石3「白滝」群

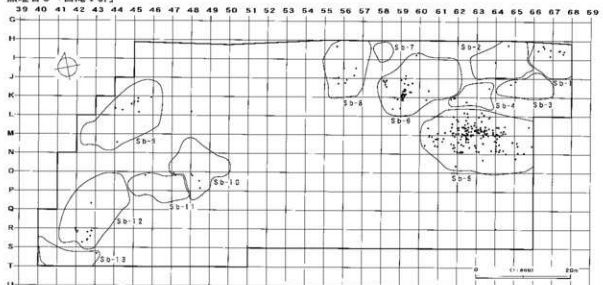


図M-22 器種・石材別分布図(1)

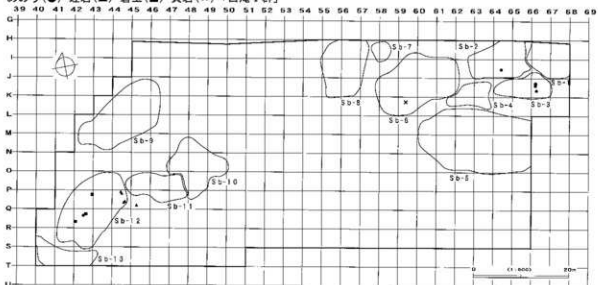
黒曜石4「白滝I群」



黒曜石5「白滝I群」

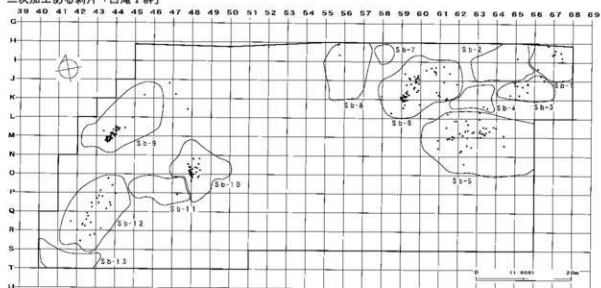


めのう(●)・珪岩(▲)・碧玉(■)・頁岩(×)「白滝I群」

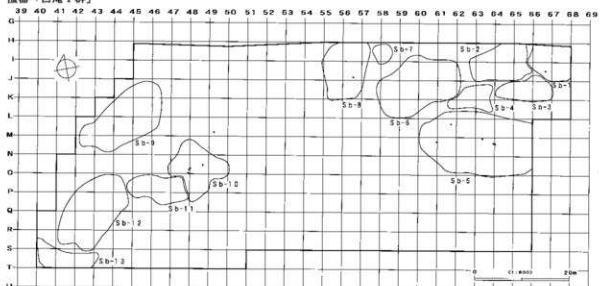


図IV-23 器種・石材別分布図(2)

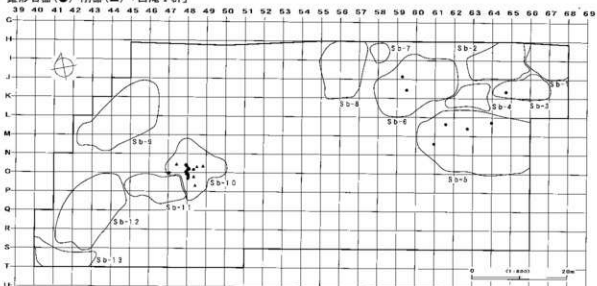
二次加工ある剥片「白滝I群」



播器「白滝I群」

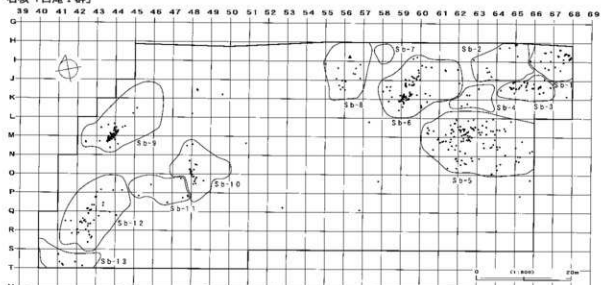


錐形石器(●)・削器(▲)「白滝I群」

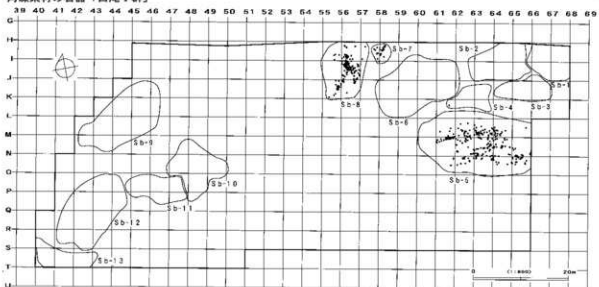


図IV-24 器種・石材別分布図(3)

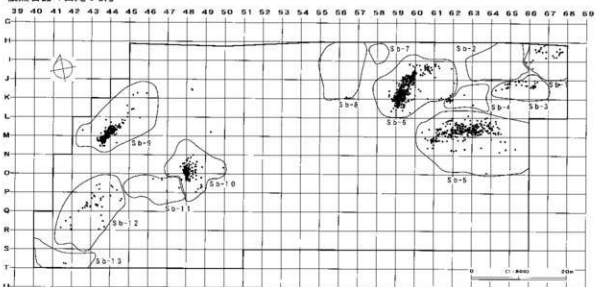
石核「白滝Ⅰ群」



角礫素材の石器「白滝Ⅰ群」



被熱石器「白滝Ⅰ群」



図Ⅳ-25 器種・石材別分布図(4)

錐形石器 (図IV-24、表IV-5・6)

25点出土し、Sb-3 (1点)・5 (4点)・6 (2点)・10 (18点) でみられる。Sb-10からの出土が突出して多い。Sb-5ではブロック北側の遺物集中域の中にもばらに分布している。石器ブロック群としてはSb-7・8、9、11~13で組成していない。

削器 (図IV-24、表IV-5・6)

10点すべてSb-10から出土している。背面の縁辺に連続した平坦剥離が施される特徴があり、他の二次加工のある石器と様相が異なる。

石核 (図IV-25、表IV-5・6)

527点出土し、Sb-7を除くすべての石器ブロックでみられる。特にSb-5 (124点)・6 (104点)・9 (103点) で多く出土し、Sb-3 (41点)・12 (42点) でもまとまってみられる。ツール類全ての点数よりも多い数の石核が確認されている。点数の多い要因の一つとして被熱による折れ面接合が多く確認されていることが挙げられる。

角礫素材の石器 (図IV-25)

527点出土し、Sb-4・5・7・8で確認されている。特にSb-5 (286点)・8 (218点) で多くみられる。石器ブロック群でみると、Sb-7・8は非常に高い割合で角礫素材の石器が出土しているのに対し、Sb-4~6では角礫以外の石器が半数以上を占め、角礫素材の石器はSb-5からまとまって出土している。

被熱石器 (図IV-25、表IV-13)

2,778点 (39.2%) が被熱している。全体的に高い割合だが、石器ブロック単位でみると、特にSb-6 (68.4%)・9 (64.0%)・4 (54.1%) は非常に多く、Sb-10では39.1%と平均値に近い。その他Sb-5 (23.1%)・3 (16.6%)・11 (12.9%)・12 (8.1%)・1 (4.6%)・13 (2.9%)・8 (0.4%)・2・7 (共に被熱なし) と続き、石器ブロック間での変異が大きい。分布は全体の遺物分布にほぼ対応している。各石器ブロックの被熱石器と炭化木片ブロック (Cb) との関係を見ると (図IV-12)、Cb-1から東側に間延びしてSb-5、Cb-6の南西側に3m離れてSb-10が分布している。Sb-1~4・6~9・11~13の周辺には炭化木片ブロックはみられない。

原石面残存の石器 (表IV-13)

3,030点 (42.7%) に残存している。全体的に高い割合で、特にSb-7 (65.2%)・8 (63.1%)・4 (59.5%) では非常に多くみられる。その他に50%台前半 (Sb-11・13)、40%台 (Sb-1~3・5・10・12)、30%台 (Sb-6・9) に分かれる。原石や原石面に覆われた大型の剥片の状態で遺跡に搬入されたものが多いことを示している。

Sb-14~61の石器**黒曜石製の石器** (図IV-26・27、表IV-2・5~12)

82,020点のうち81,896点 (99.8%) が黒曜石製である。黒曜石全体の中では黒曜石1 (黒色) が43,402点 (53.0%) で約半数を占め、以下黒曜石4 (黒<茶) の20,386点 (24.9%)、黒曜石5 (黒>紫・茶) の11,243点 (13.7%)、黒曜石3 (黒>茶) の6,312点 (7.7%) の順となっている。石質別では、黒曜石1はほぼ全域に分布するが、黒曜石4の多いSb-22 (P65区)、Sb-38 (M55・56区) は密度が低い。黒曜石2は部分的に散漫に分布し、Sb-17 (IJ62~68区)、Sb-21・24 (O62~65区)、Sb-34・35 (HI56・57区)、Sb-46 (M~P53・54区)、Sb-48 (O50区)、Sb-57 (IJ48・49区) にまとまりがある。黒曜石3~5は石質が漸移的であることもあり、全体的に類似した分布で、黒曜石3はSb-27 (PQ59~63区) に大きなまとまりがある。黒曜石4はほぼ全域に分布するが、Sb-

14 (H67区)、19 (L61~65区)、27 (N・O57~59区)、30 (H60区)、46 (L~O53・54区)、55 (S47区)、59 (I・J46・47区)、60 (K・L46区)、61 (N~Q44~46) は密度が低い。黒曜石5は黒曜石3・4の分布密度が低いSb-27 (N・O58・59区) に黒曜石1と共に分布する特徴がある。

黒曜石以外の石器 (図IV-28・29、表IV-2・5~12)

82,020点のうち124点 (0.2%) が黒曜石以外の石材で、その内訳は頁岩57点、安山岩40点、めのう11点、軽石8点、泥岩2点、砂岩2点、流紋岩1点、凝灰岩1点、珪岩1点、碧玉1点である。分布を見ると、頁岩はA (Sb-14~19)・B (Sb-20~29) 区には散漫に、Sb-47 (N51・52区)・52 (S49・50区) にはまとまって分布する。安山岩はSb-27 (O~Q59・60区)、35 (H・I56区) にはまとまって、それ以外には散漫に分布している。めのうは57ラインより東に散漫に、軽石はSb-54 (Q47区) にまとまって分布し、その他の石材はそれぞれ点在している。器種別では、頁岩は搔器 (7点)、削器 (15点) が多く、細石刃核削片 (2点)、細石刃核 (2点) にも利用されるが、彫器は1点のみである。安山岩は台石 (18点) が最も多く、削器が4点で、石核・斧形石器も1点出土している。石核は剥片素材で縁辺に簡単な剥離の行われたものである。めのうは錐形石器 (4点) が多く、細石刃核 (2点) にも利用される。砂岩は2点とも敲石である。

尖頭器 (図IV-30、表IV-5~12)

563点出土し、ほぼ全域に分布する。15点以上のブロックは、Sb-27 (101点)、52 (53点)、46 (50点)、47 (39点)、21 (36点)、54 (31点)、17 (27点)、16 (21点)、19 (21点)、35 (21点)、53 (21点)、51 (19点)、59 (17点)、50 (15点) の順で、特にSb-52は狭い範囲に集中している。

両面調整石器 (図IV-30、表IV-5~12)

100点出土し、Sb-46 (35点)、47 (18点) で集中して分布し、それ以外は散漫な分布である。これらは、尖頭器の製作途中の粗い段階のものである。

細石刃 (図IV-30、表IV-5~12)

29点出土し、Sb-17 (24点) にまとまって分布する。ほとんどは幹下型細石刃核から剥離されたものである。

細石刃核 (図IV-31、表IV-5~12)

36点出土し、Sb-17 (27点)、27 (5点)、34 (2点)、21 (1点) に分布する。小型の鏡加型細石刃核を除いて幹下型細石刃核の範疇に入るものである。

削片 (図IV-31、表IV-5~9)

細石刃核削片は104点出土し、Sb-17 (77点)、27 (7点)、34 (8点) に多く分布する。これらは幹下技法で剥離されたものと考えられ、細石刃・細石刃核の分布と一致している。尖頭器削片は18点出土し、Sb-46 (4点)、47 (4点) にまとまって分布し、それ以外は散漫に分布している。その他削片は12点出土し、Sb-47 (4点) 周辺に多い。

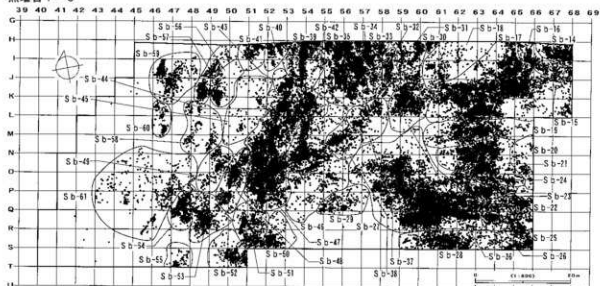
舟底形石器 (図IV-32、表IV-5~12)

I類は一括遺物を合わせて19点出土し、Sb-27 (7点)、30 (1点)、37周辺 (2点)、43周辺 (3点)、46 (1点)、47 (2点)、59 (3点) に分布している。II類は208点出土し、ほぼ全域に分布している。これらは分布範囲が重複しているが、I類はB (Sb-20~29)・F (Sb-61) 区にはみられない。

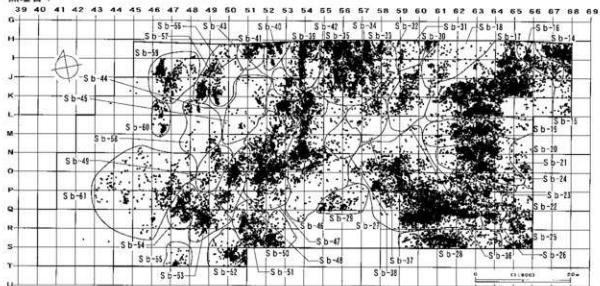
ナイフ形石器 (図IV-32、表IV-5~12)

45点出土し、ほとんどがSb-61に分布している。Sb-61周辺のは広郷型ナイフ形石器で、F区を特徴づけている。また、それ以外は切り出し形などである。

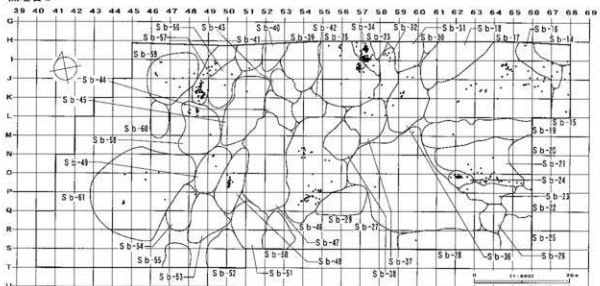
黒曜石 1~5



黒曜石 1

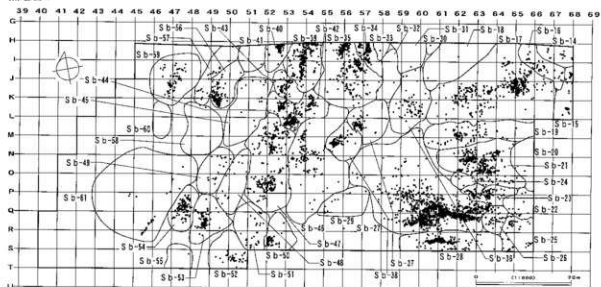


黒曜石 2

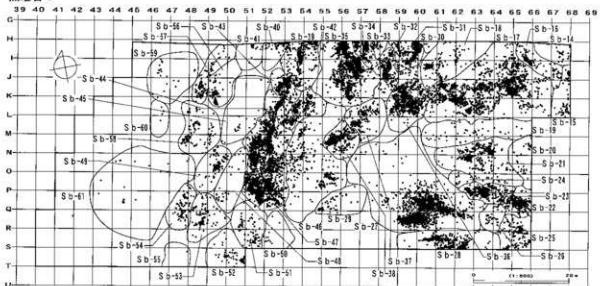


図N-26 器種・石材別分布図(5)

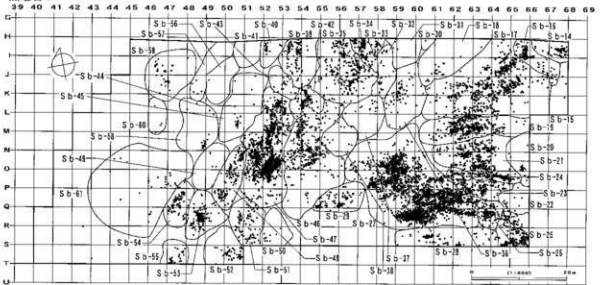
黒曜石 3



黒曜石 4

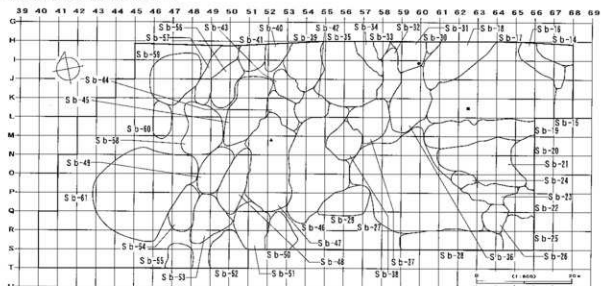


黒曜石 5

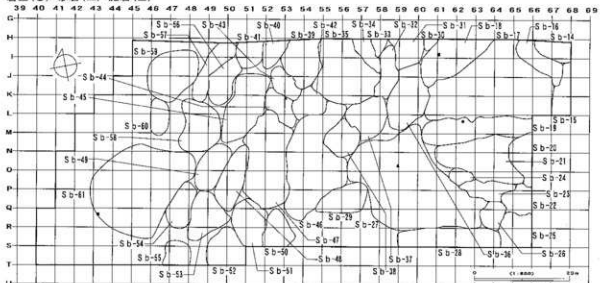


図IV-27 器種・石材別分布図(6)

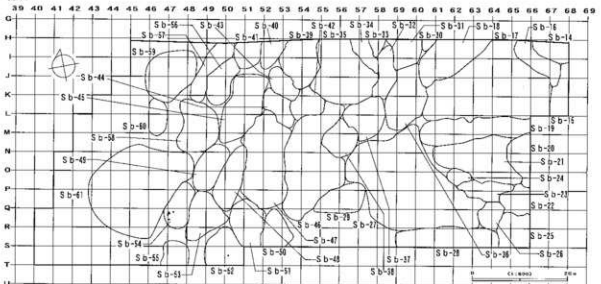
流紋岩(●)・凝灰岩(▲)・珪岩(■)



碧玉(●)・砂岩(▲)・泥岩(■)

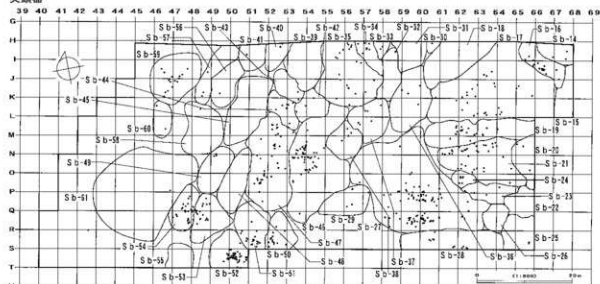


軽石

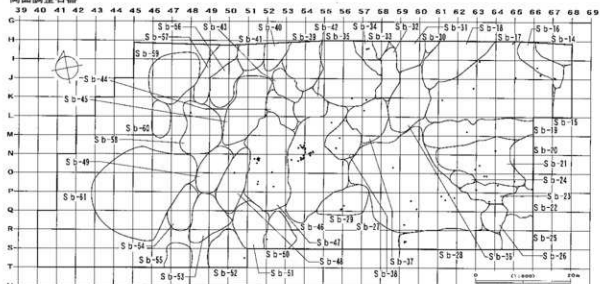


図IV-29 器種・石材別分布図(8)

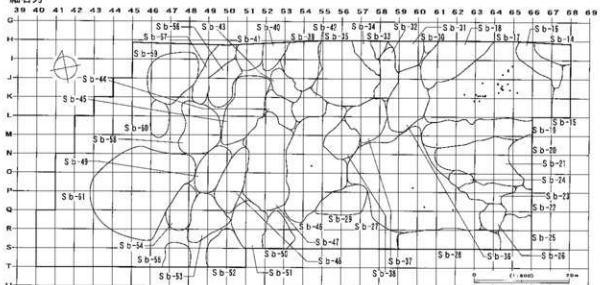
尖頭器



両面調整石器

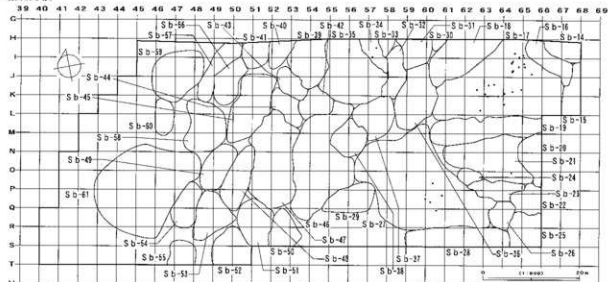


細石刃

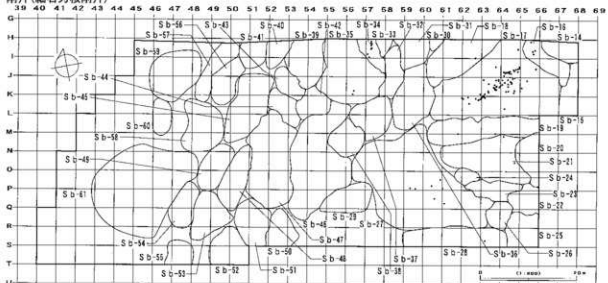


図N-30 器種・石材別分布図(9)

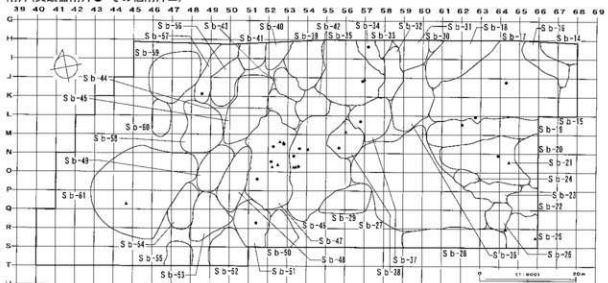
細石刃核



削片(細石刃核削片)

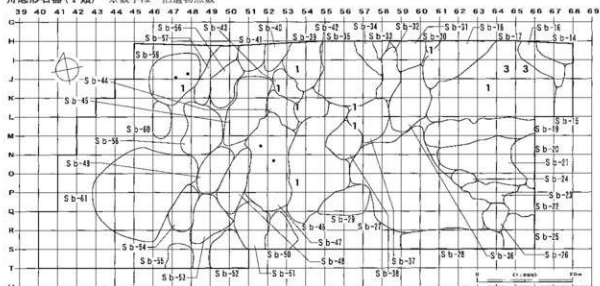


削片(尖頭器削片●・その他削片▲)

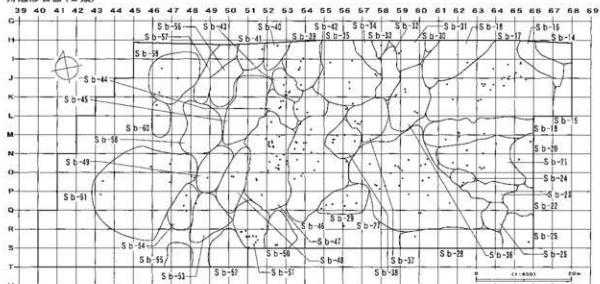


図N-31 器種・石材別分布図(10)

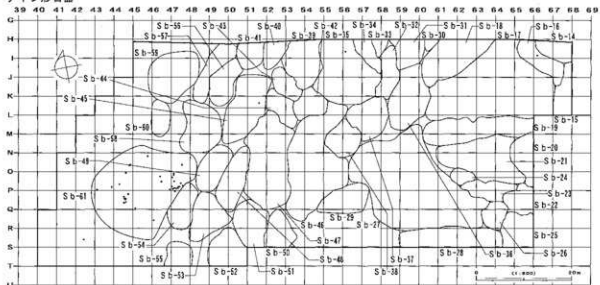
舟底形石器(I類) ※数字は一括遺物点数



舟底形石器(II類)

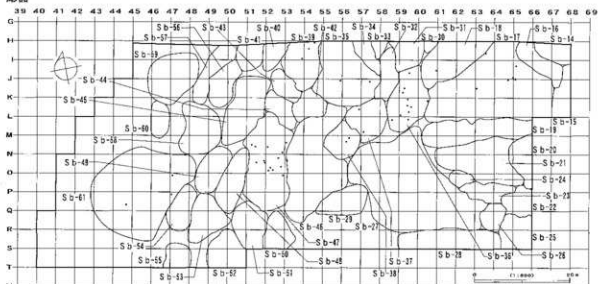


ナイフ形石器

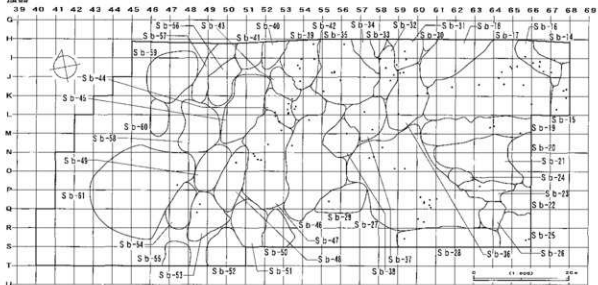


図N-32 器種・石材別分布図(11)

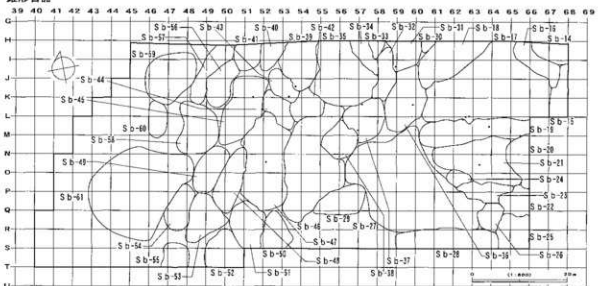
甍器



撞器

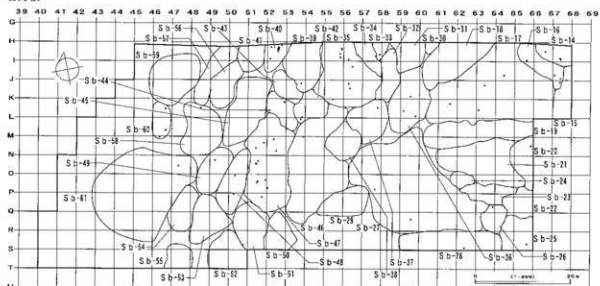


錐形石器

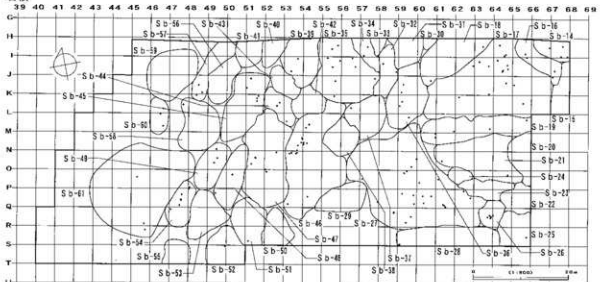


図N-33 器種・石材別分布図 (12)

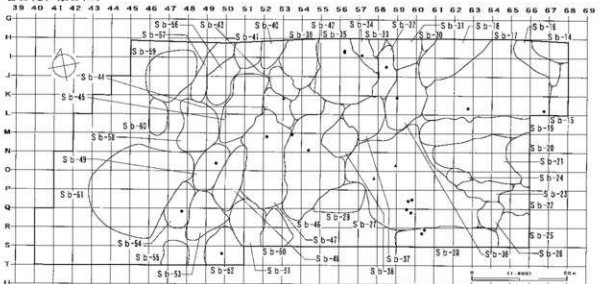
石刃核



石核

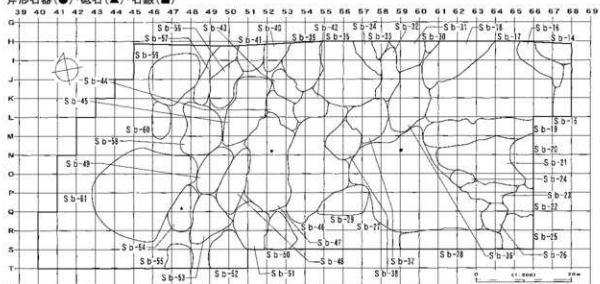


台石(●)・敲石(▲)

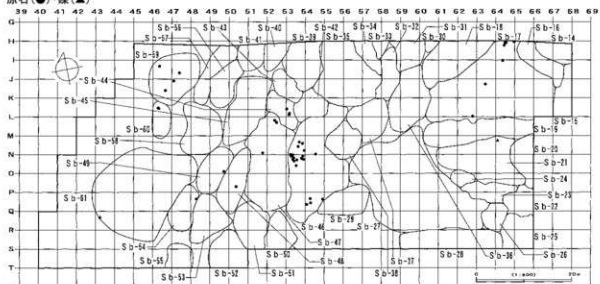


図IV-35 器種・石材別分布図(14)

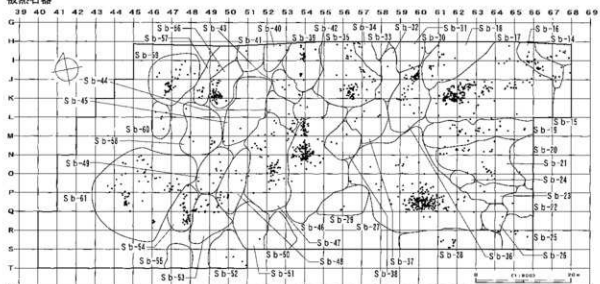
斧形石器(●)・砥石(▲)・石鏃(■)



原石(●)・燧(▲)



被熱石器



図N-36 器種・石材別分布図(15)

彫器 (図IV-33、表IV-5~12)

44点出土し、Sb-17(6点)、18(1点)、35(2点)、36(11点)、37(2点)、38(2点)、39(3点)、46(1点)、47(13点)、61(3点)に分布する。比較的まとまって出土する傾向がある。ほとんどが周縁加工のある左刃の彫器であるが、Sb-61の彫器は異なり、F(Sb-61)区を特徴づけている。また、B(Sb-20~29)・E(Sb-56~60)区には分布せず、同様にその区域を特徴づけている。

搔器 (図IV-33、表IV-5~12)

93点出土し、E(Sb-56~60)区を除いて全体的に分布する。彫器の分布するSb-36にはほとんどみられず、彫器とは分布が異なるところがある。

錐形石器 (図IV-33、表IV-5~12)

15点出土し、散漫な分布である。

削器 (図IV-34、表IV-5~12)

257点出土し、ほぼ全域に分布する。

二次加工ある剥片 (図IV-34、表IV-5~12)

90点出土し、全体的に分布するが、密度は低い。Sb-47にまとまりがみられる。

石刃・縦長剥片 (図IV-34、表IV-5~12)

石刃は789点、縦長剥片は1,178点出土し、全体的に分布している。

石刃核 (図IV-35、表IV-5~12)

72点出土している。3点以上出土しているのはSb-16(5点)、17(4点)、35(9点)、36(3点)、40(12点)、60(3点)で、B(Sb-20~29)・F(Sb-61)区には少なく、分布に偏りがみられる。

石核 (図IV-35、表IV-5~12)

147点出土し、全体的に分布している。石刃核の少ないB(Sb-20~29)区にも他地区同様に分布がみられる。

台石 (図IV-35、表IV-5~12)

19点出土し、A~D区に分布し、特にB(Sb-20~29)区のSb-27・29にまとまっている。

敲石 (図IV-35、表IV-5~12)

3点出土し、Sb-27(2点)、44(1点)に分布する。全体の遺物数に比べ、非常に少ない。

斧形石器 (図IV-35、表IV-5~12)

1点出土し、Sb-47に分布する。

砥石 (図IV-35、表IV-5~12)

1点出土し、Sb-54に分布する。

石鏃 (図IV-35、表IV-5~12)

1点出土し、Sb-27の分布の周縁部に分布する。

原石 (図IV-35、表IV-5~12)

45点出土し、Sb-17(8点)、46(22点)、59(4点)の3か所にまとまりがある。特にSb-46には厚さ1cm程度の板状ないし短冊状の原石が分布し、被熱しているものが多い。また、Sb-17・59には小型の棒状原石が含まれる。

礫 (図IV-35、表IV-5~12)

2点出土し、Sb-21(1点)、61(1点)に分布する。

表Ⅳ-13 上白滝8遺跡東地区出土原機面残存・被熱石器一覧

ブロック	遺物点数(点取り)(点)	原機面残存石器(点、%)	被熱石器(点、%)
Sb-1	565	209	47.6
Sb-2	76	36	47.4
Sb-3	223	108	48.4
Sb-4	37	22	59.5
Sb-5	1544	680	44.0
Sb-6	1620	631	39.1
Sb-7	23	15	65.2
Sb-8	255	161	63.1
Sb-9	1482	507	34.2
Sb-10	581	261	44.9
Sb-11	31	16	51.6
Sb-12	546	268	49.1
Sb-13	68	35	51.5
白滝I新ブロック外	39	18	46.2
Sb-14	1484	169	11.4
Sb-15	268	37	13.8
Sb-16	718	200	27.9
Sb-17	8952	1862	20.8
Sb-18	334	97	29.0
Sb-19	1913	293	15.3
Sb-20	199	39	19.6
Sb-21	4179	546	13.1
Sb-22	623	54	8.7
Sb-23	1323	170	12.8
Sb-24	322	38	11.8
Sb-25	1144	210	21.0
Sb-26	498	151	30.9
Sb-27	15257	1939	12.7
Sb-28	2664	232	8.7
Sb-29	391	49	12.5
Sb-30	278	55	19.8
Sb-31	818	36	4.4
Sb-32	500	63	12.6
Sb-33	718	67	9.3
Sb-34	1813	169	9.3
Sb-35	5537	945	17.1
Sb-36	1574	288	18.3
Sb-37	462	86	18.6
Sb-38	672	203	30.2
Sb-39	2612	378	14.5
Sb-40	784	178	22.7
Sb-41	321	39	12.1
Sb-42	1201	203	16.9
Sb-43	720	137	19.0
Sb-44	2708	439	16.2
Sb-45	161	71	44.1
Sb-46	2622	516	19.7
Sb-47	9101	1463	16.1
Sb-48	1147	206	18.0
Sb-49	395	41	10.4
Sb-50	548	25	4.6
Sb-51	1269	80	6.3
Sb-52	523	114	21.8
Sb-53	1061	67	6.3
Sb-54	763	75	9.8
Sb-55	139	27	19.4
Sb-56	680	49	7.2
Sb-57	684	236	34.5
Sb-58	374	129	34.5
Sb-59	708	47	6.6
Sb-60	512	168	49.1
Sb-61	500	118	23.6
ブロック外	16	4	25.0
Sb-62	69	3	4.3
Sb-63	116	19	16.4
孤位部ブロック外	15	0	0.0
合計	89310	15893	17.8

被熱石器 (図IV-35、表IV-13)

1487点 (1.8%) が被熱している。被熱率10%以上のブロックは Sb-56・61、5~10%は Sb-16・18・46・59、1~5%は Sb-17・19・27・29・35~37・43・45・48・49・53・54・58・60でそれ以外は1%以下で、8割以上のブロックが被熱率5%以下で、5割以上が1%以下である。全体的には「白滝I群」(Sb-1~13) (39.2%) に比べ、非常に低い割合であるが、既報告で遺物総数5万点以上の上白滝2 (Sb-15を除く)、上白滝5、「白滝I群」を除いた奥白滝1遺跡 (鈴木ほか 2000、直江ほか 2001) と比較するとほとんど変わらず、奥白滝1遺跡の「白滝I群」の被熱率26.2%を考慮に入れると、むしろ、「白滝I群」被熱率の高さが目立ち、石器群を特徴づけている。分布に関してはほぼ全域に分布するが、いくつかの集中域があり、その中心に高密度の部分があるのが特徴である。この特徴は技術的に分類した器種毎の分布傾向とは異なり、被熱行為という全く別の要因によるものであるためと解釈できる。しかし、これらと炭化木片ブロックの分布が一致、または近接する場所は無く、炭化木片ブロックと被熱石器を直接的に関連づけるのは困難である。「白滝I群」とI群以外の遺物は Sb-1・14、Sb-3・17、Sb-5・19、Sb-6・36、Sb-8・35で分布上重複している (図IV-21)。このうち Sb-5・19、Sb-6・36に関しては、「白滝I群」である Sb-5 (23.1%)・6 (68.4%) は被熱率が高く、多くの被熱石器が分布している (図IV-25) のに対して、「白滝I群」以外の Sb-19 (1.7%)・36 (4.1%) は、他の「白滝I群」以外と同様に被熱率が低く、ほとんど分布がみられない。「白滝I群」の被熱石器がその場所で被熱したという前提で考えると、被熱を受けた「白滝I群」(Sb-5・6) が残された後に、被熱を受けない「白滝I群」以外 (Sb-19・36) が重複して残されたと考えられ、それらには時間差を想定することができる。これらに上下差はないが (図IV-21)、堆積が薄いため、埋没後の土の動きによって上下差を失ったと考えられる。

原礫面残存の石器 (表IV-13)

原礫面は12,841点 (15.7%) に残存している。原礫面残存率30%以上のブロックは Sb-26・38・45・57・58・60、20~30%は Sb-16~18・25・40・52・61、10~20%は Sb-14・15・19~21・23・24・27・29・30・32・35~37・39・41~44・46~49・55でそれ以外は10%以下である。E (Sb-56~60) 区の Sb-57・58・60は小型の軽礫で搬入されるため、比率が高いと考えられる。その他のブロックでも局地的に比率の高い場所では原石に近い形状で搬入されたものが多いと考えられる。また、Sb-28・50・51・53・54は比率が低く、原礫面の少ない粗加工された尖頭器で搬入されたものが多いためと考えられる。このように原礫面残存率は搬入形態を反映している。(鈴木宏行・直江康雄)

(3) 石器ブロック1~3 (Sb-1~3) の石器**出土石器** (表IV-5・6)

二次加工ある剥片21点、搔器1点、錐形石器1点、縦長剥片17点、石核79点、剥片745点の計864点、重量23,413.6gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が最も多く95.8%を占め、以下黒曜石4 (1.6%)、黒曜石5 (1.5%)、めのう (0.7%)、黒曜石3 (0.4%) となっている。

「白滝I群」の二次加工ある剥片は、搔器・削器・錐形石器以外の定形的ではない石器を全て含めて分類している。また、加工も一般的な二次加工のほかには微細調整が連続的にみられるものも含めている。

二次加工ある剥片 (図IV-37-1~11、図版68)

11点 (10個体とII層一括出土1個体を加えた11個体) を図示している。1~3は薄手の剥片を素材とし、素材のバルブを除去する加工が施されたものである。1・2とも腹面のみ長さ5 mm程度

の大きな加工がみられる。2の素材打面は除去しきれずに残っている。3は両面に細かな加工が施されている。

4～7は台形または五角形の剥片を素材とし、縁辺もしくは末端辺に加工がみられるものである。素材の末端部は4～6が厚手であるのに対し、7は薄手である。打面幅が小さく、打面付近の両側縁の角度が大きく開いているものが多い(4・6・7)が、5のみ打面幅が大きく、打面付近の両側縁がほぼ平行している。二次加工は、4・5が腹面の片側縁から末端辺にかけての「く」の字状の縁辺に軽微な剥離が連続的にみられる。6は背面左側縁の突出部に急角度の加工があり、反対側縁の腹面には軽微で不連続な剥離がみられる。7は腹面に不連続な剥離がみられる。

8～10は縦長剥片を素材とするもので、8・10は片側縁、9は末端辺に軽微な加工が連続的に施されている。

11は大型の剥片を素材とするものである。腹面に長さ1cmを越える大きな加工によって突出部が作出されている。錐形石器の可能性もある。

掻器 (図IV-37-12、図版68)

1点(1個体)を図示している。末端部に原石面が残る大型の剥片を素材とする。長幅比は1.6で、背面の剥離面構成は腹面と同方向である。腹面の中ほどには大きな段がみられ、末端部が最も薄い部位となっている。刃部加工は末端の一部にのみ施され、刃部の角度は全体的に65度前後である。

錐形石器 (図IV-37-13、図版68)

1点(1個体)を図示している。原石面が大きく残り、末端まで厚みを保つ剥片を素材とするものである。突出部は2か所みられる。左側は錯向剥離、右側は腹面からの剥離により作出されている。

石核 (図IV-38-14～図IV-43-39、図版68～70)

50点(23個体とI層出十3個体を加えた26個体)を図示している。剥離の際に打面調整、頭部調整などの石核調整は施されず、剥離面のバルブが発達している特徴がみられる。

14～19は剥片を素材とし、扁平で作業面を主に素材の広い面に固定している石核である。主に末端が薄手で寸詰まりの剥片が剥離されている。17は素材の背面側、それ以外は素材の腹面側に作業面が設定されている。14は折れ面を打面とし、ほぼ一方からの剥離がみられる。15の裏面は原石面に覆われている。16は一回のみ剥離が行われたものであるが、打点付近には数個のパンチマークがみられる。17～19は上下方向から剥離が行われているものである。17の下端にみられる連続した剥離は、正面にある球顆を除去しきれずにヒンジとなっている。18は裏面が原石面に覆われ、被熱による破損が著しい。19の素材は厚手の縦長剥片である。

20～23・32は打面を主に素材の広い面に固定するもので、素材は全て剥片である。20は剥離角が比較的小さく、裏面に素材背面が残っている。21は正面で長幅比が1.5前後の剥片が連続的に剥離され、裏面では横方向の剥離も行われている。22は厚手で大型の縦長剥片を素材とし、一回の剥離のみが行われたものである。23は正面から右側面に渡って縦長剥片が連続的に剥離されている。右側面の剥離は末端が著しいヒンジとなっている。32は被熱による破損が著しい。

24・25は剥片を素材とし、作業面を素材の細長い面に設定するものである。どちらも打面を作出した後、素材の打面側で連続的な剥離が行われる。24は被熱により破損している。25は縦長剥片が剥離されている。

26～31・33～39は打面転移を数多く行っているものである。打面と作業面を入れ替える交互剥離を基本とし、作業場所(交互剥離の二つの作業面)を転移させていく傾向がある。素材は28・29・31・33が剥片、それ以外は礫である。26・27は正面と上面との交互剥離が行われている。26の右側面では

縦長剥片が剥離され、上面には数個のパンチマークがみられる。27は石材の中に節理が多く入っており、素材としての状態は非常に悪い。右側面から裏面にわたる大きな面は素材を分割した際の剥離面である。29・30はめのう製である。29は正面で小型の縦長剥片が剥離されている。被熱によるひび割れがみられる。30は正面と上面で剥離がみられ、右側面には細かい剥離によって突出部が作出されている。28・31~39は2か所以上でわたって交互剥離が行われるもので、特に31・33~38は頻繁に交互剥離の作業場所を転移させているためサイコロ状の石核となっている。28は正面と上面、右側面と裏面との交互剥離がみられ、正面では縦長剥片が剥離されている。31は正面と上面、右側面と裏面との交互剥離がみられ、正面では縦長剥片が剥離されている。33は右側面に原石面が大きく残り、正面と上面、下端で左右の側面での交互剥離がみられる。34は正面に一部原石面が残っているが、六面とも剥離面に覆われている。頻繁に作業面を転移しながら交互剥離を繰り返し、最後は正面と上面での交互剥離がみられる。35は裏面に原石面が大きく残り、正面と上面、正面と右側面、下面と左側面での交互剥離が行われている。上面と下面にはパンチマークがみられる。36は裏面に原石面が大きく残り、正面の剥離によって石核を大きく消費しているため、交互剥離の単位が把握できない。おそらく複数の場所で交互剥離が行われたと思われる。37・38は原石面がほとんどなく、六面とも剥離面に覆われている。37は3、4 mmの球顆が多数あり、右側面には軽いヒンジがみられ、打面と作業面が鈍角化している。38は正面と上面、右側面と裏面との交互剥離がみられる。39は扁平な形態で、正面・裏面・下面を中心に剥離が進行したものである。いずれも人型の剥片が剥離されている。

石器ブロック1 (Sb-1) の分布 (図IV-44、表IV-5・6)

H65~67、I65~67区の7.5×9 mの範囲で確認されたが、調査区範囲外のG66・67区や斜面部のH・I69区にも分布が広がると考えられる。H66区に三日月状の集中区があり、その他はやや散漫な出土状況である。二次加工ある剥片8点、接器1点、縦長剥片12点、石核27点、剥片517点の計565点、重量15,433.2gの石器類が出土した。

石器ブロック2 (Sb-2) の分布 (図IV-45、表IV-5・6)

H62~65、I62~65区の8×13mの範囲で確認されたが、若干調査区範囲外のG64・65区にも分布が広がると考えられる。H64・65区の北部に小さなまとまりがあるが、全体的には散漫な分布である。二次加工ある剥片1点、縦長剥片1点、石核11点、剥片63点の計76点、重量4,458.2gの石器類が出土した。石核の比率が高く(14.4%)、H64・65区の境目とI63区に集中してみられる。めのう製の剥片が1点出土している。

石器ブロック3 (Sb-3) の分布 (図IV-46、表IV-5・6)

I65・66、J64~66区の5.5×12mの範囲で確認された。ブロックの北部にまとまって分布し、南部は散漫な分布である。二次加工ある剥片12点、錐形石器1点、縦長剥片4点、石核11点、剥片165点の計223点、重量3,522.2gの石器類が出土した。石核の比率が非常に高い(18.4%)。めのう製の石核が2点出土している。

石器ブロック1~3 (Sb-1~3) の接合状況 (図IV-47)

Sb-1~3ではブロック内の接合を中心として、ブロック間にも接合関係が広がっている。ブロックの集約域同士の接合関係ではなく、集約域と他のブロックの散漫な地点との接合関係が多い。また、Sb-3ではSb-5との剥離面接合、Sb-6との折れ面接合が確認されている。

母岩別資料・接合資料

「白滝Ⅰ群」(Sb-1~13)では多数の接合資料が得られ、それらを検討した結果、素材の形態、打面・作業面の設定場所や転移方法、得られる剥片の形態などにより剥離技術をⅠ~Ⅲ類に大別し、さらに若干の細分を行った。なお、これは一昨年度報告した奥白滝Ⅰ遺跡(直江ほか 2002)の「白滝Ⅰ群」の剥離技術をもとにしている。

I類：扁平な石核の広い面で剥離作業を行うもの。

I a類…片側の広い面で作業を行うもの。主に長幅比が1.0前後の貝殻形・扇形・台形・三角形の剥片が剥離される。

I b類…表裏両方の広い面で作業を行うもの。主にやや横長の剥片が剥離される。

Ⅱ類：素材の小口面で剥離作業を行うもの。

Ⅱ a類…素材の広い面に打面を固定するもの。主に打面部が幅広く厚い剥片・両側縁の中央がほぼ平行する寸詰まりの剥片が剥離される。

Ⅱ b類…素材の小口面を打面に固定するもの。主に縦長の剥片が剥離される。

Ⅲ類：打面と作業面を傾斜に転移するもの。剥離される剥片の形態は最も多様である。主に両側縁の中央がほぼ平行する寸詰まりの剥片・やや横長の剥片・縦長剥片・片側縁が「く」の字状になる剥片などが剥離される。

Ⅲ a類…打面と作業面を1~数打ごとに入れ替える交互剥離を基本とし、作業場所(交互剥離の二つの作業面)を転移していくもの。

Ⅲ b類…打面と作業面の転移に規則性が見られないもの。

以下、「白滝Ⅰ群」(Sb-1~3, 4~6, 7・8, 9, 10, 11~13)に限定し、接合資料の記載に用いる。

母岩別資料6・接合資料6(図Ⅳ-48、図版71-1)

母岩別資料は接合6のみである。

素材 7点(7個体)が接合し、重量は254.0g、大きさは6.5×9.5×7 cmである。上面に広く平坦な剥離面があることから、素材は厚手の剥片であった可能性が高い。原石面は転露面で裏面の一部には半月状の「つめ跡」(以下、「爪状痕」と表現)がみられる。

剥離工程 上面で横方向の剥離が行われた後(段階1)、正面から右側面にかけて連続的にⅡ類の剥離が行われている(段階2)。剥離のほとんどがヒンジとなり、最終的に石核23が遺棄される。

分布 ほとんどがSb-1のH66・67区の集中域から出土するが、段階2で最初に剥離された剥片と石核23がブロック南東部に離れて分布している。

母岩別資料17・接合資料34(図Ⅳ-48、図版72-1)

母岩別資料は接合34のみである。

素材 13点(11個体)が接合し、重量は130.1g、大きさは9.5×9×7.5cmである。全体的に摩滅し、部分的に平滑な面が残る重円礫を素材とし、ほぼ原石の状態で遺跡内に搬入されている。

剥離工程 正面と上面での交互剥離が最終段階まで行われ、石核26が遺棄される。正面の剥片はすべて欠落している。段階1の剥片は石核の素材となり、Ⅰa類の剥離が行われ、石核15が遺棄される。段階2・3で得られた剥片がそれぞれ二次加工ある剥片6・5となっている。

分布 Sb-3からまばらに出土している。

母岩別資料1・接合資料1(図Ⅳ-49・50、図版71-2)

母岩別資料は接合1のみである。

素材 37点(36個体)が接合し、重量は716.6g、大きさは13×9.5×9 cmである。平滑面に覆われ、角が摩滅した垂角礫を素材とし、ほぼ原石の状態で遺跡内に搬入されている。

剥離工程 III類の剥離を基本として剥離が進行していく。段階1・2、4・5、7～11は主に正面と鋭角に交わる裏面に作業場所を設定して交互剥離が行われている。段階1・4の正面の剥離は広く平坦な面を作業面としているため、幅広い剥片が剥離されているのに対して、裏面の段階2・5・8・9・10では石核の稜に沿った作業面が設定されているため、縦長剥片が多く剥離されている。途中でみられる段階3・6は横方向の剥離で、それぞれ前段階の作業面を打面とする打面転移である。段階12・13はIII類の剥離で、主に正面と左側面で作業が行われている。その後、途中横方向からの剥離を挟んで(段階16・17)正面と左側面(段階14・15)→正面と左側面(段階18・19)→裏面と右側面(段階20・21)→下面と裏面(段階22・23)は作業場所を転移しながらIII類の剥離が行われている。最終的に段階23がヒンジとなり、石核34が遺棄される。

分布 Sb-1のH66・67区の集積域からまとまって出土している。

母岩別資料4・接合資料4(図IV-50・51、図版72-2)

母岩別資料は接合4のみである。

素材 37点(29個体)が接合し、重量は948.4g、大きさは14.5×10.5×8.5cmである。全体的に摩滅した凹礫を素材とし、ほぼ原石の状態で遺跡内に搬入されている。

剥離工程 段階1～7はIII類の剥離が行われている。段階1～3は原石の短軸と長軸との剥離である。短軸側の段階1・3は上面、長軸側の段階2では厚手の縦長剥片が正面から左側面にかけて連続的に剥離されている。作業場所を移動した段階4・5は上・下面と左側面との剥離である。段階4は段階2の左側の作業面を打面に設定し、石核の上で行われる剥離で、段階3からは90度打面転移した状態である。段階6・7は上面の左行で行われた剥離である。欠落部分が大きく前段階とのつながりは不明であるが、段階8は上からの剥離となる。再び段階9・10、11・12ではIII類の剥離となる。段階9の正面の剥離は、広い面に施されるため、大きな平坦面が作出され、段階10が下面から左側面にわたる連続的な剥離となっている。この中の縦長剥片が二次加工ある剥片10の素材となっている。段階11・12の間には上面で剥離された欠落部分がある。最終的にサイコロ状の石核35が遺棄される。

分布 Sb-1のH66を中心分布するが、段階1・2・7の剥片の一部がやや離れたブロック南西部から散漫に出土している。

母岩別資料2・接合資料2(図IV-51・52、図版73-1)

母岩別資料は接合2・341で構成され、総点数32点、総重量1,581.2gである。

素材 30点(19個体)が接合し、重量は1,533.4g、大きさは9.5×13.5×17cmである。角が摩滅し、平滑面が部分的に残る垂凹礫を素材とし、ほぼ原石の状態で遺跡内に搬入されている。

剥離工程 III類の剥離を基本として作業が進行している。段階1・2、4・5は、原石の短軸と長軸とで行われた交互剥離である。途中の段階3は裏面からの剥離で、段階2の作業面を打面としている。段階6からはIII類の剥離となる。正面で左右からの対向状の剥離の後(段階6・7)、段階8は90度打面転移を行い、再び裏面での剥離となる。段階9は、段階4でできた平坦面を打面とする正面での連続した剥離である。その後、原石面を打面として、上面からの剥離が行われる(段階10)。段階10の剥片は二次加工ある剥片7の素材となっている。最終的な石核は欠落しているが、空隙部分から遺跡内でほぼ原石を消費し尽くしたことが分かる。

分布 Sb-1から出土している。段階1～4は南側、段階5～10は北側にそれぞれまとまって分布している。

母岩別資料5・接合資料5 (図Ⅳ-52~54、図版73-2)

母岩別資料は接合5と剥片1点で構成され、総点数90点、総重量1,528.0gである。

素材 89点(67個体)が接合し、重量は1,514.1g、大きさは9×12×16cmである。全体的に摩滅した凹痕を素材とし、上面で大きな剥離を行った状態で遺跡内に搬入されている。

剥離工程 Ⅲa類の剥離を基本として作業が進行する。段階1~4、6~16、17・18は原石の長軸と短軸上に作業場所を設定している交互剥離である。上面は長軸上の作業面で、段階2・4前半までは幅広剥片が剥離されるが、それ以降は、正面側の剥片と同様に、石核の稜に沿った作業面が設定されているため、長幅比が1.0以上の剥片が多く剥離される。段階2の正面からの剥離は欠落し、横方向からの剥片のみが接合する。段階5は右側面で行われた単独の剥離である。段階4・6とも正面右側での剥離が多く行われたため、上面が大きく傾いている。その後も同一の作業場所での交互剥離が長く続き、石核が相似的に縮小していく。段階14は、右側面全体に及ぶ連続的な剥離である。そのため次の段階15・16は、どちらも段階14との交互剥離であるが、90度打面転移した形となっている。段階18は正面横からの剥離で、以前の交互剥離部の打面縁辺を剥片の稜に利用している。段階19からはⅢb類の剥離である。頻繁な打面転移により、最終的にサイコロ状の石核36が遺棄される。

分布 Sb-1の中央に散漫に分布している。

母岩別資料47・接合資料337 (図Ⅳ-55~59、図版74・75-1)

母岩別資料は接合337・175で構成され、総点数118点、総重量4,543.2gである。

素材 116点(92個体)が接合し、重量は4,524.4g、大きさは23×19×16.5cmである。全体的に摩滅し、上端がすぼまる傘状の凹痕を素材とし、ほぼ原石の状態で遺跡内に搬入されている。

剥離工程 Ⅲa類の剥離を基本として作業が進行する。正面横からの剥離の後(段階1)、上端で交互剥離が行われる(段階2・3)。90度打面転移した段階4の後、再び上端で交互剥離がみられる(段階5~7)。段階4・5・6・7の大型の剥片は石核の素材となっている(個体A・B・C・D・E)。特に個体B・Dの素材は、類似した厚手の剥片である。また、搔器12は段階6の剥片を素材としている。その後左側面で横からの剥離を行い(段階8)、作業場所を右側面に転移し、交互剥離が行われる(段階9・10)。段階9は連続的な剥離で、石核の右側を大きく消費している。次に作業面を裏面の下端に転移し、交互剥離が行われる(段階11・13)。段階12には1cm程の球顆が取り込まれ、石核からの除去が目的であったとみられる。その後上端で交互剥離が行われる(段階14~17)。段階15では片割縁が「く」の字状の剥片が剥離されている。段階18からはⅢb類の剥離が正面と裏面で横方向からみられ、最終的にサイコロ状の石核38が遺棄される。

個体Aは折損後に剥離が行われ、石核は欠落している。

個体BはⅡa類の剥離が石核を半周して連続的にみられ、石核20が遺棄される。

個体CはⅡa類の剥離が一回味われ、石核17が遺棄される。

個体DはⅡ類の剥離を基本として作業が進行する。D-段階1・3は裏面横方向のⅡb類の剥離である。D-段階2・4・5はⅡa類の剥離で、4・5の間には上面の剥離(欠落)がみられる。全体的に打面転移が数回行われるが、素材腹面を打面とする意識が強い。最終的に石核21が遺棄される。

個体Eは素材の腹面側を作業面に固定するⅠa類の剥離がみられる。石核は欠落している。

分布 Sb-1の南北に集中域が分かれるが、段階、個体差によつての分離はできない。最終的な石核38は北側の集中域に、個体の石核や搔器12は南側の集中域に分布している。

母岩別資料3・接合資料3 (図Ⅳ-60、図版75-2)

母岩別資料は接合3のみである。

素材 39点 (34個体) が接合し、重量は1,496.2g、大きさは15×17.5×11cmである。正面が摩滅し、裏面に平滑な面がみられる垂円礫を素材としている。欠落部分が大きく搬入形態は不明である。

剥離工程 III a類の剥離が行われるが、上面の剥離はすべて欠落している。段階1の大型の剥片は個体Aの素材となり、II a類の剥離が連続的に行われる。最終的な石核は欠落しているが、空隙部分から遺跡内でほぼ個体Aを消費し尽くしたことが分かる。全体の最終的な石核も欠落している。

分布 Sb-1・3から出土している。個体AはSb-1の南部を中心にSb-3まで分布が広がっている。個体A以外はSb-1の北部を中心に散漫に分布する。

母岩別資料7・接合資料7 (図IV-61、図版76-1)

母岩別資料は接合7のみである。

素材 17点 (15個体) が接合し、重量は336.1g、大きさは9×9.5×6.5cmである。全体的に摩滅し、部分的に平滑な面が残る垂円礫を素材とし、ほぼ原石の状態で遺跡内に搬入されている。

剥離工程 III類の剥離を基本として作業が進行する。正面と上面との交互剥離 (段階1~3) の後、裏面横方向からの段階4が行われる。段階2は正面から右側面の広い範囲に作業面が及ぶ。その後、III a類の剥離が下端 (段階5・6) →右側端 (段階7・8) と作業場所を転移しながら行われている。それぞれ一回の剥離で作業面が転移している。段階9からはIII b類の剥離で最終的にサイコロ状の石核37が遺棄される。

分布 Sb-1の中央部に散漫に分布している。

母岩別資料9・接合資料11 (図IV-62~64、図版76-2・77)

母岩別資料は接合11のみである。

素材 12点 (12個体) が接合し、重量は3,054.9g、大きさは17.5×18.5×16cmである。欠落部分が多いため素材の状態は不明であるが、原石面は平滑な面と摩滅した面がみられる。各面に剥離が及んだ状態で遺跡内に搬入されている。

剥離工程 III類の剥離を基本として作業が進行している。正面と上面との交互剥離 (段階1・2) の後、裏面横方向 (段階3) →正面向下方向 (段階4) とIII b類の剥離が行われ、石核39が遺棄される。段階1・3の大型の剥片が石核の素材となっている (個体A・B、石核16)。個体AではI b類の剥離が行われ、石核19が遺棄される。個体Bでは一回のみII a類の剥離が行われ、石核22が遺棄される。また、段階2の剥片は二次加工ある剥片11の素材となっている。

分布 Sb-1・2から散漫に分布している。Sb-1には二次加工ある剥片11、個体Bの剥片、段階1がみられ、Sb-2からは個体Aの剥片と石核19、石核16が出土している。

母岩別資料8・接合資料8 (図IV-65~67、図版78・79)

母岩別資料は接合8の他、接合9・10・50002・50003、剥片20点で構成され、総点数141点、総重量3,134.8gである。

素材 113点 (64個体) が接合し、重量は3,014.0g、大きさは15×18.5×10cmである。爪状痕がある円礫を素材とし、ほぼ原石の状態で遺跡内に搬入されている。

剥離工程 大型の原石を個体A・Bに二分割する。分割面は一部に節理面がみられ、各個体にも内在する割れが入っている。

個体AはIII b類の剥離によって作業が進行する。A-段階1~4・6・8・9はそれぞれ一回の剥離ごとに打面と作業面を転移している。A-段階1・3・7では平坦面を作業面に設定し、幅広い剥片が剥離され、A-段階2・4・5の正面では急角度の稜に沿って剥離軸を設定し、分厚い剥片が剥離される。これらの剥片は石核の素材となっている (個体A-a・b・c・d)。最終的な石核は欠

落している。

個体A-aは右側面で打面を作出した後(a-段階1)、素材の腹面で求心状のⅠa類の剥離を行っている(a-段階2)。最終的に石核18が遺棄される。

個体A-bは下端を剥離した後(b-段階1)、右側面と表面との交互剥離が行われる(b-段階2~5)。b-段階3の剥片が二次加工ある剥片9の素材となっている。その後、正面上からの連続的なⅡa類の剥離が行われ(b-段階6)、最終的に石核32が遺棄される。

個体A-cは上端で交互剥離(c-段階1・2)が行われた後、裏面を中心にⅢb類の剥離が続く(c-段階3~6)。その後、再び正面と上面とのⅢa類の剥離が行われる(c-段階7~11)。正面の剥離(c-段階7・11)は石核の角の稜に沿って剥離軸を設定しているため、縦長剥片が剥離されている。また、c-段階8の剥片が二次加工ある剥片8の素材となっている。最終的に石核31が遺棄される。

個体A-dはⅠb類の剥離が正・裏面で行われる(d-段階1~4の左側)。d-段階3は裏面での連続的な求心状の剥離となっている。最後のd-段階4の右側はⅡb類の剥離で縦長剥片が剥離されている。最終的に石核28が遺棄される。

個体A-eはⅠa類の剥離が行われ、石核14が遺棄される。剥片は欠落している。

個体Bは上端でⅢb類の剥離が行われる(B-段階1~4)。B-段階1の厚手の剥片が個体B-aの素材となり、剥片を分割した後Ⅲa類の剥離が行われ石核33が遺棄される。個体Bでは剥離があまり進行せず、最終的に大型の石核27が遺棄される。

分布 Sb-3を中心としてSb-1・2にも分布が広がっている。個体や段階ごとの明確な違いは見い出せない。やや離れたSb-2の北部からはA-段階3・6、個体Aのa-段階2の剥片と個体Bの石核27が出土している。また、Sb-1からは個体Aのc-段階6、B-段階2の剥片が出土している。(直江康雄)

(4) 石器ブロック4~6(Sb-4~6)の石器

出土石器(表Ⅳ-5・6)

二次加工ある剥片121点、挿器5点、錐形石器6点、縦長剥片62点、石核233点、剥片2,753点、原石21点の計3,201点、重量78,021.1gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が最も多く90.6%を占め、以下黒曜石5(7.5%)、黒曜石4(1.4%)、黒曜石3(0.4%)、黒曜石2及び頁岩(0.03%)となっている。

二次加工ある剥片(図Ⅳ-68-1~図Ⅳ-69-30、図版80・81)

33点(29個体とⅡ層一括出土1個体を加えた30個体)を図示している。1~4は薄手の剥片を素材とし、素材のバルブを除去するような加工が施されたものである。1~3は両面、4は腹面に加工がみられる。1の左側縁は両面に細かな剥離があり、上部縁辺には不連続な微細剥離がみられる。2は側縁からの加工が頻繁なため、完全にバルブの盛り上がり除去しきれていない。上部縁辺には両面からの剥離がみられ鋸歯縁状となっている。3の腹面には細かな加工しか施されていないため、素材の打面とバルブが残っている。背面には石核の素材腹面のバルブと打面がみられる。4は側縁からの加工が中心で、完全にバルブの盛り上がりと素材の打面を除去しきれていない。上部縁辺には不連続な微細剥離がみられる。

5~21は台形、扇形、五角形の剥片を素材とし、縁辺もしくは末端に加工がみられるものである。素材の末端部は薄手のものがほとんどだが、8・14・16~18は末端部に最大厚がある。後者のうち17

以外という高い確率で末端部に原石面がみられる。その他に原石面が残存している位置は背面側(13・17・20)と打面部(12・19)である。特に17は背面を覆うように広く原石面が残っている。打面部が大きく打面付近の両側縁がほぼ平行するものが多く、打面部幅が小さく両側縁の角度が大きく開いているものは5・8~11・16・20である。加工は腹面の片側縁(6・12・14・15・19)、末端辺(7・11・13・17)、もしくは両方にわたる「く」の字状の縁辺(8~10)に施されるものが多い。5は背面の右側縁と末端辺の角に急角度の加工が施されている。16は両側縁の一部、20は両側縁と打面に加工がみられ、左側縁と打面の加工は1 cm 程の大きさなのである。21は末端辺にノッチ状の加工が両面から施されている。

22~30は縦長剥片を素材とし、側縁に加工がみられるものである。素材末端部は薄手のものがほとんどだが、28はヒンジ、30は石核の下面を取り込んでいるためどちらも末端部が厚手である。背面の剥離面構成は、腹面とほぼ同方向(22・26)、逆方向を含むもの(23・24・28~30)、横方向を含むもの(25・27)となっている。原石面は26が末端部、30が背面の大部分に残り、どちらも滑らかな原石面である。ほとんどの加工は、腹面の片側縁に連続的に施されるもの(22・24~28・30)で、その他に腹面の片側縁と末端辺(23)、背面にノッチ状の加工(29)がみられる。また、連続した加工の反対側縁には、不連続な微細剥離がみられるものがある。

撥器(図IV-70-31~35、図版81)

5点(4個体とI層出土1個体を加えた5個体)を図示している。残存状況は31~33が完形品で34・35は基部欠損品である。長幅比は31・32が1.5前後で、33は1.2とやや幅広である。背面の剥離面構成は腹面と同方向のもの(31~33)、横方向を含むもの(34・35)の二種がみられ、原石面は31・34・35の片側に大きく残っている。末端形状はすべて腹面側にやや湾曲する形である。素材打面の幅は31が約5 mm と小さく、32・33は3 cm 程度で、バルブは3個体とも発達している。加工は主に刃部のみに加え、周縁には微細な剥離がみられる程度である。刃部の角度は全体として60度前後に集中し、34が最も小さく45~50度、32が55~60度、31が60~70度で、33・35は65~80度となっている。なお、33の右側縁には単独で50~55度の加工が幅1 cm 程度みられ、角度の異なる刃部を二つ備えていた可能性がある。34・35の折れ面はどちらも背面からの加撃によって欠損している。

錐形石器(図IV-70-36~40、図版81)

5点(5個体)を図示している。打面部が厚手の剥片を素材とし、36~39は素材の末端もしくは側縁、40は折れ面を利用して突出部を作出している。残存状況は36・40が完形品、37・38が突出部欠損、39が上部欠損品である。なお37には二つの突出部がみられ、右側が欠損している。突出部の加工は36・38・39が腹面から、37右側が背面から、37左側・40は鉋向剥離が行われている。36の右側縁は鋸歯状の剥離である。37は背面の突出部付近に長軸に沿って数条の擦痕がみられる。上部に内湾する加工があり、右側縁には鉋向剥離による加工が施されている。40の突出部は比較的長く、加工の打点が潰れたようにやや摩滅している。

石核(図IV-70-41~図IV-81-88、図版81~86)

61点(43個体とI層出土5個体を加えた48個体)を図示している。残存する原石面の状態や接合資料から摩滅した部位がある転蹠(円蹠・並円蹠・並角蹠)を母岩とするもの(41~64)と、ほとんど摩滅がみられない角蹠を母岩とするもの(65~88)に二分することができる。いずれも剥離の際に打面調整、頭部調整などの石核調整は施されず、剥離面のバルブが発達している特徴がみられる。

41~50は扁平で、作業面を主に素材の広い面に固定している石核である。主に末端が薄手で寸詰まりの剥片が剥離されている。素材は41~49が剥片、50は蹠である。作業面は41~46が素材の腹面、47

～49は素材の背面に設定されている。41は素材のバルブ部を除去するように剥離が行われ、裏面の左側縁には急角度の加工が施されている。錐形石器もしくは搔器としての機能を備えていた可能性がある。また、Sb-9の剥片類と約60cm離れて接合する(母岩87・接合244)(図版130-2)。43は上からの一回の剥離時に三つに破損している。44は折れ面を打面とするもので、47と折れ面接合する。45の素材剥片は厚さ約3cmとやや厚手である。47は折れ面を打面としている。48・49は最終剥離がウートラパッセを起こしている。50は正面に上下からの剥離がみられる。

51・52は打面を主に素材の平坦な広い面に設定するもので、同方向の剥離が連続的に行われている。素材は51が分割際、52が厚手の剥片で、素材腹面を打面に設定する。剥離作業は51が正面のみ、52は石核をほぼ全周し、長幅比が1.5前後の剥片が連続して剥離されている。

53～56は小口面を打面として作業面を素材の広い面や細長い面に設定するもので、縦長剥片を剥離している割合が高い。素材は53が剥片、54～56は礫である。53は打面作出後、正面から右側面にかけ幅広・縦長剥片が剥離されている。54～56は打面作出後、作業面を広い面に設定しているものである。裏面が原石面に覆われ、全体的に扁平な形態となっていることから、剥離作業が一方方向に進んでいたものとみられる。54は打面側にも数面の剥離面があり、交互剥離によって作業が進んでいる。56は細かい球類を多数含む黒曜石で、上下方向からの剥離がみられる。上からの剥離は激しいヒンジを起こしている。

57～64は打面転移を数多く行っているものである。打面と作業面を入れ替える交互剥離を基本とし、作業場所(交互剥離の二つの作業面)を転移させていく傾向がある。特に58～64は頻繁な打面転移によってサイコロ状の石核となっている。すべて礫素材である。原石面は一面を覆うように残る(57・58)、僅かに残る(61・63・64)ものがある。作業面の大きさから、3cm前後の58・59、5cm前後の57・60～62、8cm前後の63・64に分けられる。57は正面と上面、正面と右側面との交互剥離が行われている。58は左側面と上面との交互剥離がみられる。その他の剥離は多方向からのもので、統一性がない。59は正面と上面、左側面と裏面、右側面と裏面と下面との交互剥離がみられる。剥離が石核の下端まで抜けているものが多いことから、末端まで厚みを保つ剥片が多く剥離されたこととみられる。石核形状は最も正六面体に近く、被熱による細かなひび割れがみられる。60は前作業面の末端側に打面を転移するもので、裏面→右側面→上面→正面と剥離が進んでいる。上面と裏面に多くのパンチマークがみられる。61の石質は黒曜石イである。62はやや扁平で、下面では縦長剥片が剥離されている。63は半球状で、正面に石核全体を覆う大きな剥片がみられる。64は正面と上面、左側面と正面との交互剥離がみられる。全体的に石核の下端まで抜ける剥離が少なく、ヒンジになっている部分が多い。

65～88はほとんど磨滅がみられない角礫を素材とするものである。「白滝I群」では、磨滅した部位がある軌礫(円礫・亜円礫・亜角礫)を素材とした剥片剥離のみが行われていると認識していた。しかし角礫素材の一群が軌礫素材のものと分布が重なる点・剥片剥離技術に石核調整がまったく行われていない点・交互剥離が特徴的にみられる点・打面が大きくバルブが発達する剥片が剥離されている点など共通点が多いことから「白滝I群」に含めて報告を行うこととした。角礫を素材とするものの最大の特徴は、素材の形状を利用して縦長剥片が多く剥離されていることである。石核の打面が固定的なものと非固定的なものが多い。前者は、平坦な打面を作出して剥離を行うもの(65・72・76・78・80・83・85)で、最終的に180度打面転移し、下面からも剥離がみられるもの(75・77)もある。打面は分割面であることが多い。非固定的なものは打面と作業面を入れ替える交互剥離を行いながら作業が進行していくもの(74・79・81・84)と、90度打面転移を行うもの(73・86～88)がみ

られる。82は上下の作業面で異なる特徴があり、上端では作業面を固定した剥離が行われているのに対し、下端では交互剥離がみられる。

素材は剥片(65・66)と、礫もしくは分割した剥片・石核・礫(67~88)があり、後者は形態上分別することは困難で、接合作業によって判明したものである。74・82・84以外は石核に原石面が残存し、多くは裏面にみられる。最終剥離がウートラパッセとなるものが多く67・69・70~74・76~78・80にみられ、ヒンジは65・79・82・84・85に起きている。65・66の作業面はウートラパッセを起こした剥片の厚手の末端部を利用している。67・68の剥離は石核の短軸のみで剥離が行われる。72は同方向の剥離がほぼ全周している。74・79の裏面には下方向からの剥離がみられる。81は正面の剥離が下端まで届かずに最終剥離は幅広の剥片となっている。82は角柱状の石核で、右側面・裏面・左側面にみられる大きなリングは、素材分割時のものと考えられる。86は正面にみられる上からの剥離の他に、裏面から横方向の剥離も行われている。87は扁平で、裏面と正面には長軸方向で縦長剥片剥離の痕跡がみられる。最終的に幅広の剥片が作出されている。88は正面と上面との交互剥離の他に、裏面と原石面が残る平坦な下面に左右からの剥離が施されている。

棒状原石(図版87-126~143)

27点(18個体)を写真のみ掲載している。126~136・138・140・143は幅と厚さが同様の棒状を呈し、その他は幅が大きな板状である。126~130・132~136・143は上下端に折れ面がみられ、131・138・140~142は下端のみ折れ、137・139は上端のみ折れている。折れ面接合しているものうち140・143は長軸に沿った内在する割れ面で接合し、末端がステップフラクチャーを起こしている。

原石は、大きく不規則なリングが残る滑らかな面とザラついた面がある。前者にはザラついた面と同様に褐色に風化したものと、風化が僅かで母岩から分離した状態に近いものがみられる。これらと同様の原石面は角礫を素材とした接合資料にも観察される。両者は同じ地点で採取されたが、もしくは剥片剥離時に剥落したと考えられる。

石器ブロック4(Sb-4)の分布(図IV-82、表IV-5・6)

J62・63、K61~63区の6×9.5mの範囲で確認された。全体的に散漫な出土状況である。二次加工ある剥片2点、縦長剥片3点、石核5点、剥片27点の計37点、重量889.3gの石器類が出土した。

石器ブロック5(Sb-5)の分布(図IV-83~87、表IV-5・6)

K61~63、L60~65、M60~65、N61~65区の14×24mの範囲で確認されたが、東側の斜面部にも分布が広がると考えられる「白流I群」である。Sb-1~13の中で最も大きく設定したブロックである。斜面方向と調和するようにブロック北部のL62~64にかけて東西に間延びした集中域がみられる。二次加工ある剥片44点、掻器5点、錐形石器4点、縦長剥片37点、石核124点、剥片1,289点、棒状原石21点の計1,544点、重量53,033.6gの石器類が出土した。石核が多くみられ、素材は摩滅した部位がある転礫(円礫・垂円礫・亜角礫)とほとんど摩滅がみられない角礫が利用されている。両者は分布範囲に僅かなズレがあり、転礫素材のものはブロック北部中心、角礫素材のものはブロック中央から南部の散漫な地域に多く分布している。また、角礫素材の石器類と関係が深いと思われる棒状原石はブロック北部に多くみられる。

石器ブロック6(Sb-6)の分布(図IV-88・89、表IV-5・6)

H59・60、I58~61、J57~62、K58~60区の13.5×17.5mの範囲で確認された。J・K59区にまたがって密度の濃い集中域、I59区の南東部に小さな集中域がみられる。二次加工ある剥片75点、錐形石器2点、縦長剥片3点、石核104点、剥片1,435点の計1,619点、重量24,080.9gの石器類が出

土した。二次加工ある剥片、石核が多くみられる。

石器ブロック4～6 (Sb-4～6)の接合状況 (図IV-90～92)

Sb-4～6ではブロック内の接合を中心として、ブロック間にも接合関係が広がっている。特にSb-5・6間のブロック集中域同士の接合関係が10例確認され、両ブロックが密接な関係であり、同時性が非常に高いことを示していると考えられる。素材を摩滅した部位がある転礫(円礫・垂円礫・垂角礫)とほとんど摩滅がみられない角礫に分離してみると、角礫素材のものはSb-5を中心として分布し、他のブロックとの接合関係がみられないのに対し、転礫素材のものは各ブロックに分布し、他のブロックとの接合関係が密接である。また、石器ブロック群間での接合もみられる。転礫素材ではSb-6がSb-8・9と剥離面接合、Sb-3と折れ面接合し、Sb-5がSb-3と剥離面接合している。角礫素材ではSb-4がSb-7と剥離面接合している。特にSb-6は三つの石器ブロック群間での接合関係が確認された。

母岩別資料50・接合資料125 (図IV-93、図版88-1)

母岩別資料は接合125の他、接合126～129・344・50049～50051、二次加工ある剥片1点、剥片10点で構成され、総点数45点、総重量708.3gである。

素材 11点(9個体)が接合し、重量は364.3g、大きさは8.5×13.5×7.5cmである。全体的に摩滅し、部分的に平滑な面が残る亜円礫を素材とする。同一母岩の資料から、ほぼ原石の状態で遺跡内に搬入されたとみられる。

剥離工程 段階1～5は正面でのI A類の剥離である。上下からの剥離が交互に繰り返され、剥片の多くは幅広くである。次に表面で横からの段階6が剥離される。正面の剥離とは対照的に、石核の後に沿って剥離軸を設定しているため、長幅比が1.0以上の剥片が剥離されている。最終的に石核50が遺棄される。

分布 Sb-6から散漫に出土している。

母岩別資料56・接合資料141 (図IV-93、図版88-2)

母岩別資料は接合141のみである。

素材 6点(4個体)が接合し、重量は133.6g、大きさは13×7×2.5cmである。右側縁に摩滅した原石面がある剥片を素材とし、剥片の状態で遺跡内に搬入されている。透明感が強い黒曜石で、産地分析の結果はあじさい滝産であった(Ⅷ章4)。

剥離工程 剥片を二分割し(個体A・B)、それぞれ折れ面を打面として、I A類の剥離を行っている。作業面は素材の腹面側(個体A)と背面側(個体B)に分かれる。個体Aの剥片は欠落し、最終的に石核14が遺棄される。個体Bの末端の剥片は急角度の剥離である。最終的に石核17が遺棄される。

分布 Sb-5・6から出土している。分布の中心はSb-6のI 59区にあり、南側に4mほど離れたK 59区からは個体Bの剥片、15mほど離れたSb-5からは個体Aの石核が出土し、I 59区と折れ接合している。

母岩別資料23・接合資料49 (図IV-94、図版88-3)

母岩別資料は接合49の他、接合50～52で構成され、総点数29点、総重量1,679.5gである。

素材 11点(5個体)が接合し、重量は634.0g、大きさは9.5×14.5×7.5cmである。素材は扁平な分割礫で、原石面は平滑な面が多い垂角礫である。ほぼ原石の状態で搬入され、遺跡内で分割されている。

剥離工程 I A類の剥離が行われている(段階1)。打面が平坦で剥離角が直角に近い場合、ウート

ラバッセを起こしている剥片が多い。最終的に石核51が遺棄される。

分布 Sb-5の南部、N62区を中心に出土している。

母岩別資料48・接合資料115 (図IV-95、図版89)

母岩別資料は接合115のみである。

素材 36点(29個体)が接合し、重量は2,311.3g、大きさは17.5×15.5×13.5cmである。全体的に摩滅し、部分的に平滑な面が残る円礫を素材とし、ほぼ原石の状態で遺跡内に搬入されている。

剥離工程 Ⅲ a 類の剥離を基本として作業が進行している。正面と上面との交互剥離が段階1～6まで行われる。作業場所の転移がないため、石核形状が相似的に縮小している。それぞれ段階3・4の間では上面、段階5・6・7の間では正面側の剥片が欠落している。段階7からは右側面と上面との交互剥離が行われ、最終的にサイコロ状の石核54が遺棄される。

分布 Sb-6の西部に集中して分布している。

母岩別資料32・接合資料70 (図IV-96・97、図版90)

母岩別資料は接合70のみである。

素材 33点(27個体)が接合し、重量は3,513.9g、大きさは25.5×16×13.5cmである。平滑な面が多く、角が摩滅した歪角礫を素材とし、ほぼ原石の状態で遺跡内に搬入されている。

剥離工程 Ⅲ a 類の剥離を基本として作業が進行している。裏面横からの剥離(段階1)の後、正面と裏面(段階2・3)→裏面と右側面(段階3の最後の剥離・4)→左側面と正面(段階5～7)→下面と裏面(段階8～12)と交互剥離が作業場所を転移しながら行われる。段階3の剥離は連続的で、末端が幅広い剥片が多く剥離されている。段階12は下面と左側面の二面に渡って剥離が及ぶ。段階12の剥片が二次加工ある剥片27の素材となっている。最終的に石核64が遺棄される。

分布 Sb-5のM63・64区から散漫に出土している。二次加工ある剥片27がやや北側のL63区に分布する。

母岩別資料36・接合資料74 (図IV-98～100、図版91)

母岩別資料は接合74のみである。

素材 50点(42個体)が接合し、重量は4,250.1g、大きさは23×17×14cmである。全体的に摩滅した円礫を素材とし、ほぼ原石の状態で遺跡内に搬入されている。

剥離工程 Ⅲ a 類の剥離を基本として作業が進行している。上面と正面の交互剥離の後(段階1～3)、段階3の末端側面を打面として左側面で段階4が剥離される。その後、再び上面と正面との交互剥離(段階5・8)が行われるが、途中石核の左側で正面と裏面の横方向の剥離(段階6・9と7)がみられる。なお、段階5と6、6～8の前後関係は不明である。次に上端で裏面と左側面(段階10・11)→左側面と正面(段階12～14)とⅢ a 類の剥離がみられる。途中、左側面での横方向の剥離(段階15)を挟んで、再び上端(段階16・17)→左側面と正面(段階18・19)とⅢ a 類の剥離が続いている。段階20からはⅢ b 類の剥離が行われ、最終的に石核63が遺棄される。全体的に石核の稜に沿って剥離軸を設定しており、長幅比が1.0以上となる剥片が多くみられる。それらのうち段階14・19・20の剥片は搔器の素材となっている。また、段階12で剥離された幅広い剥片ではⅠ a 類の剥離が行われ、石核43が遺棄される。

分布 Sb-5の中央の集申域から散漫に出土している。

母岩別資料24・接合資料53・54 (図IV-101、図版92-1)

母岩別資料は接合53・54の他、接合55～59・351・50014～50017・50768、石核1点、剥片21点で構成され、総点数80点、総重量1,541.0gである。

素材 接合53は8点（6個体）が接合し、重量は229.6g、大きさは7.5×7×7 cmで、接合54は7点（6個体）が接合し、重量は167.9g、大きさは11.5×13.5×5.5cmである。礫素材とみられるが詳しい状態は不明である。接合54の大きさから、かなり大型の原石であったと思われる。原石面は平滑面が多く、角が摩滅している。

剥離工程 初期段階が接合54で、剥離が進行した結果、接合53の状態に至ったものとみられる。接合54の全体の剥離は正面と上面（欠落）との交互剥離である。得られた大型の剥片を用いてⅡa類の剥離を行い、石核145が遺棄されている。

接合53はⅡb類の剥離が行われている。正面上からの剥離（段階1）は連続的で、長幅指数が1.0以上の剥片が得られている。Ⅰa類の剥離を行っている石核42が接合する。段階2～4は右側面→上面→上面と一打ごとに転移した横方向の剥離である。段階4の剥片は厚手で、石核の形状が大きく崩れている。最終的に石核60が遺棄される。

分布 接合54はSb-3・5・6の三つのブロックから出土し、石器ブロック群を越えての接合関係が確認された。剥離順、段階、個体による違いはみられず、J66区（Sb-3）出土の剥片はJ59区（Sb-6）と折れ接合をしている。

接合53は、段階1～4までの剥片がSb-5に散漫にみられ、最終的な石核60が約10m北側のSb-4に分布している。

母岩別資料37・接合資料75（図Ⅳ-101、図版92-2）

母岩別資料は接合75・76で構成され、総点数9点、総重量177.3gである。

素材 6点（4個体）が接合し、重量は161.1g、大きさは7×4.5×7.5cmである。全体的に摩滅した凹跡を素材とし、ほぼ原石の状態で遺跡内に搬入されている。

剥離工程 下端の左右の側面（段階1・欠落）→上面と正面（段階2・3）と作業場所を転移しながらⅢa類の剥離が行われている。得られた剥片は段階1が幅広いの剥片、段階2・3では長幅指数1.0以上の剥片である。最終的に右側面の下端から剥離が行われ（欠落）、石核57が遺棄される。

分布 点取り資料が少ないため詳細は不明である。段階2の剥片がSb-5から出土し、約10m離れて折れ面接合している。

母岩別資料49・接合資料116（図Ⅳ-102、図版93-1）

母岩別資料は接合116の他、接合117～124・346・50046・50048、石核2点、剥片5点で構成され、総点数37点、総重量1,787.3gである。

素材 6点（6個体）が接合し、重量は436.5g、大きさは9×9.5×9 cmである。礫素材とみられるが詳しい状態は不明である。同一母岩の資料から、大型の原石であったとみられる。原石面は全体的に摩滅している。

剥離工程 Ⅲ類の剥離を基本として作業が進行している。左側面（段階1）→右側面（段階2）と作業面転移した後、上面と右側面（段階3～5）との交互剥離が行われている。段階1で剥離された剥片は、Ⅰa類の剥離が行われ石核45が遺棄される。また、段階4の剥片が錐形石器38に加工されている。最終的に石核Ⅳ-208-3が遺棄される。

分布 Sb-6から散漫にみられ、最終的な石核Ⅳ-208-3はブロック北部に分布している。

母岩別資料51・接合資料130（図Ⅳ-103・104、図版93-2）

母岩別資料は接合130のみである。

素材 34点（24個体）が接合し、重量は513.1g、大きさは10×9.5×10.5cmである。全体的に摩滅した凹跡を素材とし、ほぼ原石の状態で遺跡内に搬入されている。石質は黒曜石4である。

剥離工程 III類の剥離を基本として作業が進行している。原石の稜に沿って正面上から大型の縦長剥片が剥離される（段階1）。段階1で得られた平坦面を打面に設定し、上面・左側面・下面に渡って石核を半周する連続的な剥離が行われる（段階2）。段階2の剥片は、長幅指数が1.0以上の剥片が多い。この後はIIb類の剥離となり、左側面（段階3）→下面（段階4）→下面横方向（段階5）→右側面（段階6）→裏面（段階7）と作業面転移が行われる。段階1・2の縦長剥片は石核の素材となり（個体A・B）、段階2・6の剥片が二次加工ある剥片20・17の素材となっている。最終的にサイコロ状の石核61が遺棄される。

個体Aは素材の長軸に対して斜行するように上面と正面・左側面との交互剥離が行われている（A-段階1・2）。正面の剥離は素材の縁辺に沿ったものであるため縦長剥片となっている。最終的に石核53が遺棄される。個体Bは素材の広い面でのIa類の剥離（B-段階1・3）の間に縁辺に沿ったIIb類の剥離（B-段階2）が行われている。最終的な石核は欠落している。

分布 Sb-6の集積域を中心として分布するが、段階2・5の剥片と二次加工ある剥片17が南東側のSb-5から散漫に出土している。

母岩別資料21・接合資料47（図IV-105・106、図版94）

母岩別資料は接合47のみである。

素材 31点（19個体）が接合し、重量は1,539.8g、大きさは18×11.5×12cmである。全体的に摩滅した凹縁を素材とし、正面と上面で剥離が行われた状態で遺跡内に搬入されている。

剥離工程 上面の平坦面を打面として、正面で石核の稜に沿った連続的な剥離が行われる（段階1）。末端がヒンジとなる縦長剥片が多くみられる。段階2は石核下部からの剥離で、先のヒンジによる石核の凹凸を修正するものと思われる。段階3は打面内生のような上面での剥離で、打面部が厚手で幅広の剥片は、石核の素材となり（個体A）、Ia類の剥離が行われ、石核49が遺棄される。段階4では左側面から裏面にかけて連続的に縦長剥片が剥離されている。段階5からはIIb類の剥離となり上面（段階5）→正面横から（段階6）→裏面横から（段階7）→右側面上から（段階8）と続いている。最終的な石核は扁平となるが出ししておらず、遺跡外に搬出された可能性が高い。

分布 Sb-5から散漫に出土し、折れ面接合する石器同士が東西に離れて分布する傾向がある。

母岩別資料22・接合資料48（図IV-106・107、図版95）

母岩別資料は接合48のみである。

素材 44点（33個体）が接合し、重量は2,130.4g、大きさは20.5×15×13.5cmである。爪状痕がある凹縁を素材とし、正面と上面で大きく剥離が行われた状態で遺跡内に搬入されている。

剥離工程 石核の長軸と短軸にあたる正面と上面との交互剥離が作業場所を変えずに繰り返される。長軸側の正面（段階1・4・6）では石核の稜に沿った作業面が設定されているため、長幅指数が1.0以上の剥片が多くみられる。特に段階6では、連続的な剥離によって縦長剥片が多数剥離されている。最終的に扁平な石核55が遺棄される。また、段階6でウートラバッセを起こした剥片が、石核の素材となっている（個体A）。横方向に打面を作した後（A-段階1）、正面の広い面でIa類で剥離が行われ（A-段階2）、最終的に石核48が遺棄される。

分布 Sb-5からまとまって出土しているが、段階1・6の縦長剥片がSb-4に分布している。

母岩別資料34・接合資料72（図IV-108、図版97-1）

母岩別資料は接合72のみである。

素材 20点（16個体）が接合し、重量は622.9g、大きさは19×9×5cmである。ザラついた岩屑面がある扁平な角縁素材で、ほぼ原石の状態で遺跡内に搬入されている。

剥離工程 正面と上面との交互剥離が作業場所を変えずに繰り返行われる。石核の長軸と短軸で行われ、長軸にあたる正面（段階1・3・5）で石核の稜に沿った作業面が設定されているため、長幅比1.0以上の剥片が多くみられる。短軸にあたる上面は剥離の進行によって作業面が裏面に移行していく。その後、180度打面転移して下端からの剥離が行われる（段階7）。最終的な石核は出上しておらず、遺跡外に搬出された可能性が高い。

分布 Sb-5の南東部を中心に出土している。

母岩別資料26・接合資料64（図Ⅳ-108・109、図版97-2）

母岩別資料は接合64のみである。

素材 26点（23個体）が接合し、重量は1,277.4g、大きさは34.5×12×5 cmである。素材は扁平な角礫である。露頭から分離してからあまり時間が経過していないとみられる大きなリングがあり、打面・パルプがはっきりせず、ほとんど同化していない平坦面（以下「露頭分離面」と表現）が正面に残り、裏面は平滑な岩屑面に覆われている。ほぼ原石の状態で遺跡内に搬入されている。

剥離工程 正面・左右の側面と上面との交互剥離が繰り返行われる。石核の長軸と短軸で行われ、長軸にあたる正面・左右の側面（段階2・4・5・7・9）で石核の稜に沿った作業面が設定されているため、長幅比1.0以上の剥片が多くみられる。最終的に石核81が遺棄される。

分布 Sb-5の南東部を中心に出土するが、段階2の縦長剥片がやや北西のL62区に分布している。

母岩別資料29・接合資料67（図Ⅳ-110・111、図版98）

母岩別資料は接合67のみである。

素材 28点（23個体）が接合し、重量は1,642.8g、大きさは30.5×9.5×10cmである。ザラついた岩屑面がある角柱状の角礫を素材とする。正面・左側面・裏面には露頭分離面が残る。ほぼ原石の状態で遺跡内に搬入されている。

剥離工程 正面と裏面との交互剥離が繰り返行われる（段階1～12）。お互いの作業面が長軸に対して斜行するように設定されているため、初期段階ではどちらも同様の剥片が剥離されている。剥離の進行に従い、裏面側で長幅比1.0以上の剥片が多く剥離されるようになり、特に段階8・12では縦長剥片が多くみられる。段階3の剥片が二次加工ある剥片21の素材となっている。その後、180度打面転移して下端からの剥離が連続的に行われ（段階13）、正面で横方向の剥離がなされ（段階14）、石核87が遺棄される。

分布 Sb-5の集中域であるL63・64区を中心として出土している。二次加工ある剥片21と段階13の剥片がやや西側のL・M61区に分布する。

母岩別資料27・接合資料65（図Ⅳ-111・112、図版99）

母岩別資料は接合65のみである。

素材 35点（32個体）が接合し、重量は3,641.4g、大きさは36.5×15.5×8.5cmである。平滑な岩屑面がある扁平な角礫を素材とする。上端と下端を分割した状態で遺跡内に搬入されている。

剥離工程 段階1は下端での交互剥離の一部で、対応する剥片が欠落している。段階2～7は左側面と右側面との交互剥離が繰り返行われたものである。お互いの作業面が長軸に対して斜行するように設定されているため、初期段階ではどちらも同様の剥片が剥離されている。段階5・6の欠落部分で厚手の剥片が剥離されたため、段階7の作業面が右側面から上面側に移行している。石核の稜に沿った剥離が連続的に行われているため、長幅比1.0以上の剥片が多くみられる。段階6の縦長剥片が二次加工ある剥片26の素材となっている。その後、右側面（段階8）→上面（段階9）→正面横から（段階10）→裏面下から（段階11）とⅢb型の剥離が行われ、最終的にサイコロ状の石核88が遺棄される。

分布 Sb-5南部のM・N62・63区を中心として出土する。段階4の縦長剥片がL61区、段階7の剥片がL64区とやや離れて分布している。

母岩別資料35・接合資料73 (図IV-113、図版100-1)

母岩別資料は接合73のみである。

素材 6点(5個体)が接合し、重量は253.7g、大きさは15.5×6.5×4.5cmである。正面がザラついた岩屑面、裏面に平滑な面がある扁平な角礫を素材とする。上端を分割した状態で遺跡内に搬入されている。

剥離工程 分割面を打面に固定して石核の長軸で連続的な剥離を行っている(段階1)。ウートラパッセが激しく、最終的に作業面高が5cm近くまで減じ、石核70が遺棄されている。極端なウートラパッセを起こした剥片は石核の素材となり(個体A)、素材の末端部を打面に固定した剥離がみられ、石核65が遺棄される。

分布 Sb-5南部の石器がまばらな地点を中心に分布する。

母岩別資料33・接合資料71 (図IV-113・114、図版100-2)

母岩別資料は接合71のみである。

素材 15点(10個体)が接合し、重量は577.7g、大きさは21.5×9.5×4cmである。平滑な岩屑面に覆われた扁平な角礫を素材とする。上端を分割した状態で遺跡内に搬入されている。

剥離工程 下端からの右側縁の剥離(段階1)、と上端からの左側縁の連続的な剥離がみられる。その後、石核が分割され(個体A・B)、それぞれ分割面を打面として側縁で剥離が行われている。最終的に石核69(個体A)・67(個体B)が遺棄される。

分布 Sb-5の集中域の東部から散漫に出土している。

母岩別資料45・接合資料110 (図IV-115~117、図版101・102-1)

母岩別資料は接合110のみである。

素材 54点(38個体)が接合し、重量は4,230.7g、大きさは38.5×16×9.5cmである。素材は角錐状の角礫である。正面に露頭分離面が残り、左右の側面と裏面には平滑な岩屑面がある。遺跡内には上端を分割した状態で搬入されている。

剥離工程 180度打面転移をしながら右側縁を中心に剥離が行われる(段階1~4)。段階3では右側面の剥離が上面まで抜けるのに対し、左側面の剥離は途中ヒンジを起こし石核末端の形状を大きく崩している。段階5は上面の剥離で、下端での交互剥離である段階6~10との前後関係は不明である。下端での剥離の初期段階は、お互いの打面が長軸に対して斜行するように設定されているため、どちらも同様の剥片が剥離されている。剥離の進行に従い、作業面が左側面に移行していき、段階11では縦長剥片が多くみられる。段階8の剥片と11の縦長剥片は二次加工ある剥片18・30の素材となっている。その後、180度打面転移を行い、正・裏面で剥離がなされ(段階12)、正面・左側面と上面との交互剥離が繰り返される(段階13~16)。石核の長軸と短軸で行われ、長軸にあたる正面・左側面(段階14・16)で石核の後に沿った作業面が設定されているため、長短比1.0以上の剥片が多くみられる。その後再び180度打面転移を行い、下方から縦長剥片が連続的に剥離され(段階17)、最終的に石核74が遺棄される。

分布 Sb-5のL・M61区の境界を中心としたまとまりと、集中域であるL62・63区を中心としたまとまりの二つに分かれる。段階による相違もなく、向者に折れ面接合が確認された。

母岩別資料28・接合資料66 (図IV-118・119、図版102-2)

母岩別資料は接合66のみである。

素材 20点 (17個体) が接合し、重量は1,431.2g、大きさは29×9.5×7.5cmである。素材は三角柱状の角礫で、全面的に露頭分離面がみられる。ほぼ原石の状態で遺跡内に搬入されている。

剥離工程 石核の短軸で二分割され、それぞれ剥片剥離が行われている (個体A・B)。個体Aはまず、長軸に斜行する剥離が右側面で連続的に行われ (A-段階1)、正面と裏面を上からの剥離がみられる (A-段階2)。180度打面転移し、下端からの剥離の後 (A-段階3)、再び上端で交互剥離が行われる (A-段階4～6)。その後再度下端から剥離がなされる (A-段階7)。A-段階2～4・6・7は石核の長軸の後に沿った剥離が行われ、長幅比が1.0以上で末端がヒンジの剥片が多く剥離されている。また、A-段階7の剥片が二次加工ある剥片28の素材となっている。最終的に石核82が遺棄される。

個体Bは長軸に斜行する剥離が右側面 (B-段階1) →裏面 (B-段階2) で行われる。その後、上からの剥離の後 (B-段階3)、再び右側面に斜行する剥離がみられる (B-段階4)。最終的な石核は出土しておらず、遺跡外に搬出された可能性が高い。

分布 Sb-5の集中域から散漫に分布している。個体Aは東側、個体Bは西側にまとまりが偏る傾向がある。

母岩別資料71・接合資料178 (図IV-119～121、図版103)

母岩別資料は接合178のみである。

素材 17点 (14個体) が接合し、重量は1,204.2g、大きさは24.5×10×14cmである。素材は三角錐状の角礫で、左右の側面に露頭分離面が残り、裏面には平滑な原石面がみられる。遺跡にはほぼ原石の状態で搬入されたとみられる。

剥離工程 横からの剥離によって二分割され (段階1、個体A)、さらに上からの剥離によって分割されている (段階2、個体B・C)。個体Aは上端での連続的な交互剥離 (A-段階1～4) と下端での長軸に斜行する連続的な剥離で (A-段階5)、最終的に石核84が遺棄される。

個体Bは上端を7cm程切戻し、平坦面を作出する (B-段階1)。それを打面として長軸に沿って剥離が行われている (B-段階2)。最終的な石核は出土しておらず、遺跡外に搬出された可能性が高い。

個体Cは長軸に斜行する剥離がみられるが (C-段階1)、詳細は不明である。最終的な石核は出土しておらず、遺跡外に搬出された可能性が高い。

分布 Sb-5の集中域を中心に東西約19mに広がって分布している。

母岩別資料72・接合資料179 (図IV-122～124、図版104)

母岩別資料は接合179のみである。

素材 31点 (25個体) が接合し、重量は1,573.4g、大きさは48.5×9×6.5cmである。素材は平滑な岩屑面に覆われた棒状の角礫である。下端を分割した状態で遺跡内に搬入されている。

剥離工程 石核の中央で斜めに分割され、それぞれ剥離が行われている (個体A・B)。個体Aは石核の表面と上面との交互剥離が連続的に行われる (A-段階1～6)。上面の剥離であるA-段階2・4では石核を切断するような分厚い剥片が剥離され、母岩の消費が激しい。その後、180度打面を転移し、個体Bとの分割面から剥離が行われ (A-段階7)、最終的に石核78が遺棄される。また、A-段階7は大きくウートラバッセを起こした剥片で、石核の素材となっている (個体A-a)。分厚い末端側の剥離がみられ、最終的に石核66が遺棄される。

個体Bは下端を4cmほど切断し (B-段階1)、平坦面を作出している。それを打面として表面で剥離を行い (B-段階2)、180度打面転移して正面でB-段階3を剥離し、最終的に石核75が遺棄

される。また、B-段階1は石核の素材となり（個体B-a）、下からの剥離が行われ、最終的に石核68が遺棄される。

分布 Sb-5の集中域であるL63区を中心に散漫に分布している。

母岩別資料31・接合資料69（図IV-125～128、図版105・106）

母岩別資料は接合69のみである。

素材 59点（53個体）が接合し、重量は3.126.5g、大きさは42.5×13.5×7.5cmである。素材は平滑な岩屑面に覆われた棒状の角礫である。ほぼ原石の状態で遺跡内に搬入されている。

剥離工程 節理面で割られた段階1の後、下から大型の剥片が剥離される（段階2）。段階2と残った石核とも二分割され（個体A・B・C・D）、それぞれ剥離が行われている。個体Aでは、下端で交互剥離がみられる（A-段階1・2）。その後180度打面転移し、個体Bとの分割面から連続的な剥離（A-段階3）が行われる。ウートラッセを起こした縦長剥片が多くみられ、石核の作業面高を5cm近く減少させている。最終的に作業面高が6cm程になり、石核71が遺棄される。

個体Bは正面と上面（個体Aとの分割面）で交互剥離が行われる（B-段階1・2）。その後、下端を切断するような剥離がみられ、（B-段階3）。再び上面から連続的な剥離が行われる（B-段階4）。ウートラッセを起こした縦長剥片が多くみられ、石核の作業面高を8cmほど減少させている。最終的に作業面高が約7cmとなり、石核72が遺棄される。

個体Cは裏面と下面（個体Dとの分割面）で交互剥離が行われる（C-段階1・2）。その後、Ⅲb類の剥離が裏面→正面→右側面と続き、最終的に石核86が遺棄される。

個体Dは、正面と上面（D-段階1・2、4～7）→裏面と上面（D-段階8～11）と作業場所を転移するⅢa類の剥離である。途中にみられるD-段階3は裏面の上からの剥離である。また、D-段階8では、石核を切断するような分厚い剥片が剥離されている（D-段階8、図IV-128-122）。その後、180度打面転移し、下端から連続的な剥離がみられる。これらの剥離は石核の長軸と短軸で行われ、長軸側の剥離（D-段階1・3・5・7・9・11・12）は石核の後に沿った作業面が設定されているため、長幅比が1.0以上の剥片が多い。最終的に石核79が遺棄される。

分布 Sb-5のM63・64区を中心に散漫に分布している。

母岩別資料30・接合資料68（図IV-129～133、図版107～109）

母岩別資料は接合68のみである。

素材 40点（28個体）が接合し、重量は3.585.4g、大きさは43.5×16×7.5cmである。素材は平滑な岩屑面に覆われた扁平な角礫である。上端を分割した状態で遺跡内に搬入されている。

剥離工程 石核の短軸で二分割され、それぞれ剥片剥離が行われている（個体A・B）。個体Aはまず、左側面のみを利用して、180度打面転移を繰り返す剥離が行われる（A-段階1～3）。最後のA-段階3は激しいヒンジが起きている。その後、A-段階2の縦長剥片と石核がそれぞれ二分割され剥片剥離が行われる（個体A-a・b・c・d）。いずれも平坦な分割面を打面に設定するもので、最終剥離はウートラッセとなっている。個体A-dのみ180度打面転移を行い、上下からの剥離がみられる。最終的にそれぞれ石核73・76・80・77が遺棄される。

個体Bは下端からの剥離の後（B-段階1）、180度打面転移を行い、個体Aとの分割面を打面に固定し、左右の側面と正面で連続的な剥離が行われる（B-段階2）。最終的に石核83が遺棄される。また、大きなウートラッセを起こした右側面の剥離は、石核の素材となり（個体B-a）、交互剥離が行われ（分割面欠欠落）、石核85が遺棄される。

分布 Sb-5南部の石器がまばらな地点を中心に東西に広がって分布する。

写真のみ掲載の接合資料

母岩25・接合60(図版96)は円礫を素材とするもので、原石を半割した状態で遺跡内に搬入されている。剥離技術はⅢa類で、分割面と上下端での交互剥離がみられる。分割面側では長幅比が1.0以上の剥片が多く剥離され、二次加工ある剥片29が接合する。最終的に石核56が遺棄される。

(直江康雄)

(5) 石器ブロック7・8(Sb-7・8)の石器

出土石器(表Ⅳ-5・6)

二次加工ある剥片2点、搔器1点、縦長剥片48点、石核18点、剥片202点、原石7点の計278点、重量27,048.7gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が最も多く96.8%を占め、以下黒曜石5(2.8%)、黒曜石3(0.4%)となっている。剥片や縦長剥片の中には線状・点状の擦痕が多数付着しているものが多い。付着場所が不規則で、多数みられることから、埋没中の土圧やソリフラクションなどの周氷河現象を受けた際に石器同士が擦れあって発生したものと思われる。これらの縁辺には加工と区別がつかない連続した剥離がみられることが多い。そのため、擦痕が不規則に付着している石器の縁辺の連続した剥離は加工と認定せず剥片に分類した。

搔器(図Ⅳ-134-1、図版110)

1点(1個体)を図示している。右側縁が欠損し、背面は原石面に覆われている。刃部の縦断面形状は僅かに腹面側に湾曲し、薄手である。刃部は末端全体にわたって形成され、刃角は50~60度である。腹面には素材のバルブを除去するような剥離が施されている。

石核(図Ⅳ-134-2~図Ⅳ-136-9、図版110・111)

16点(5個体とI層出土1個体とボサ出土2個体を加えた8個体)を図示している。残存する原石面の状態や接合資料から摩擦した部位がある転礫(円礫・亜円礫・亜角礫)を素材とするもの(2)と、ほとんど摩擦がみられない角礫を素材とするもの(3~9)に二分することができる。「白滝I群」では、摩擦した部位がある転礫(円礫・亜円礫・亜角礫)を素材とした剥片剥離のみが行われていると認識していた。しかしSb-4~6で角礫素材の一群が転礫素材のものと同様に分布が重なる点・剥片剥離技術に石核調整がまったく行われていない点・交互剥離が特徴的にみられる点・打面が大きくバルブが発達する剥片が剥離されている点など共通点が多いことから「白滝I群」に含めて報告を行うこととした。角礫を素材とするものの最大の特徴は、素材の形状を利用して縦長剥片が多く剥離されていることである。いずれも剥離の際に打面調整、頭部調整などの石核調整は施されず、剥離面のバルブが発達している特徴がみられる。

2は作業面に主に素材の広い面に固定する石核である。素材は不明で、周辺から求心状の剥離が行われている。主に末端がヒンジを起こしている横長の剥片が剥離されている。

3~9はほとんど摩擦がみられない角礫を素材とするものである。Sb-4~6の石核と同様に、打面が固定的なもの(5)と非固定的なもの(3・4・6)がみられる。後者は打面と作業面を入れ替える交互剥離を基本とし、最終的に180度打面転移を行い、下面での剥離がみられる。また上端と下端で打面固定型と非固定型が共存するもの(7~9)もある。素材は剥片が3・4で、その他は分割礫もしくは礫である。全ての石核に原石面が残存し、側面もしくは裏面にみられるものが多い。形態が角柱状のものは4・6~9、扁平なものは3・5である。作業面にヒンジが起きている割合が高い。3は正面と裏面の平坦で広い面での交互剥離がみられ、幅広の剥片が多く剥離されている。4の交互剥離は正面と上面、裏面と下面の2か所でみられる。5は正面を中心として縦長剥片が連続的に

剥離されている。作業面にはヒンジ、ウートラパッセの両方がみられる。7は28.7×14.5×14.3cmと大型である。原石面が多く面に残っていることから、素材の厚さと幅はあまり減じていないと思われる。下面からは石核を周回するように縦長剥片が連続的に剥離されている。8・9は下端が突出する形態で、8は正面と裏面、9は左右の側面との交互剥離が行われている。

棒状原石（図版111-21~29）

9点（9個体）を写真のみ掲載している。21~28は幅と厚さが同様の棒状を呈し、29は幅が大きく板状である。21~24・26~28は上下端に折れ面がみられ、25は上端のみ折れ、29は完形である。原石面は、大きく不規則なリングが残る滑らかな面とザラついた面がある。前者にはザラついた面と同様に褐色に風化したものと、風化が僅かで母岩から分離した状態に近いものがみられる。これらと同様の原石面は角礫を素材とした接合資料にも観察され、両者は同じ地点で採取されたか、もしくは剥片剥離時に剥落したと考えられる。

石器ブロック7（Sb-7）の分布（図IV-137、表IV-5・6）

H57・58、I57区の4.5×3mの範囲で確認された。全体的に散漫な出土状況である。縦長剥片5点、剥片18点の計23点、重量3,062.2gの石器類が出土した。縦長剥片を除くツール類がまったくみられない。

石器ブロック8（Sb-8）の分布（図IV-137・138、表IV-5・6）

H55~57、I55・56、J55・56区の12×10mの範囲で確認されたが、調査区範囲外のG55~57区にも分布が広がると考えられる。I56区を中心にまとまって分布し、H56、J55区にも小さな集中域がみられる。二次加工ある剥片2点、接ぎり1点、縦長剥片43点、石核18点、剥片184点、棒状原石7点の計255点、重量23,986.5gの石器類が出土した。縦長剥片・石核ともブロック全体に分布している。

石器ブロック7・8（Sb-7・8）の接合状況（図IV-139）

Sb-7・8ではブロック内の接合を中心として、ブロック間にも接合関係が広がっている。Sb-7からの出土点数が少ないうえ、3例のブロック間接合は高い割合といえる。また、Sb-7ではSb-4との剥離面接合が確認されている。

母岩別資料60・接合資料161（図IV-140、図版112）

母岩別資料は接合161のみである。

素材 55点（31個体）が接合し、重量は3,963.9g、大きさは32×14×9.5cmである。ザラついた岩屑面がある角柱状の角礫を素材とし、ほぼ原石の状態で遺跡内に搬入されている。

剥離工程 左側面と上面との交互剥離によって剥離が進行している（段階1~8）。段階9~11は正面→右側面→裏面と90度の作業面転移を行う剥離である。その後、右側面と裏面で横方向の交互剥離がみられる（段階12・13）。最終的な石核は出土しておらず、遺跡外に搬出された可能性が高い。

分布 Sb-8のI56区を中心に分布している。

母岩別資料61・接合資料162（図IV-141、図版113）

母岩別資料は接合162のみである。

素材 9点（8個体）が接合し、重量は992.1g、大きさは22.5×7.5×6.5cmである。素材は扁平な角礫である。正面と右側面には平滑な原石面、左側面と裏面には露頭分層面が残っている。上端を分割した状態で遺跡内に搬入されている。

剥離工程 裏面での下端からの剥離の後（段階1）、180度打面転移し、正面での連続的な剥離がみら

れる（段階2）。当初は正面と側面との稜を剥離軸に設定するが、1回の激しいウートラバッセにより作業面高が約9 cm減少している。長幅比が1.0以上の剥片が多くみられ、最終的に石核5が遺棄される。

分布 Sb-7に分布するが、段階2の縦長剥片1点が西側に6 mほど離れたSb-8のH56区から出土している。

母岩別資料69・接合資料176（図IV-142～149、図版114～117）

母岩別資料は接合176のみである。

素材 69点（61個体）が接合し、重量は9,219.4g、大きさは58.5×15×13.5cmである。ザラついた岩面がある角柱状の角礫を素材とし、上下端を分割した状態で遺跡内に搬入されている。

剥離工程 石核の短軸で二分割され、それぞれ剥片剥離が行われている（個体A・B）。個体Aは、上面と右側面（A-段階2・3）→左側面と上面（A-段階4～8）→正面と上面（A-段階9・10）とⅢa類の剥離が行われる。A-段階1は下端からの剥離で、A-段階8までと前後関係が不明である。右側面での上から剥離の後（A-段階11）、180度打面転移し、右側面と下面での交互剥離がみられる（A-段階12・13）。次に、上面（A-段階14）→正面と上面の交互剥離（A-段階15・16）→左側面上から（A-段階17）とⅢb類の剥離が続き、最終的に石核6が遺棄される。

個体Bは、正面と上面との連続的な交互剥離（B-段階1～4）の後、180度打面転移し、表面から右側面に渡る連続的な剥離がみられる（B-段階5）。B-段階5は最初の剥離のみ末端まで抜ける大型の剥片で、それ以降はヒンジを起こしているものが多い。その後、再び上端での交互剥離が連続的にみられる（B-段階6～9）。お互いの打面が長軸に対して斜行するように設定されているため、どちら側でも同様の長幅比が1.0以上の剥片が剥離される。最終的に下面からの剥離が行われ（B-段階10）、石核8が遺棄される。

また、B-段階5の最初の板状の剥片は石核の素材となっている（個体B-a）。上端での交互剥離が連続的にみられた後（a-段階1～4）、下面と左側面（a-段階5・6）に作業場所を移すⅢa類の剥離が行われ、最終的に石核3が遺棄される。

分布 個体ごとに分布が異なる。個体AはSb-8の集中域のI56区、個体B（B-aを除く）はSb-7、個体B-aはSb-8の集中域北側のH56区から出土している。

母岩別資料70・接合資料177（図IV-150～157、図版118～123）

母岩別資料は接合177のみである。

素材 75点（46個体）が接合し、重量は17,779.7g、大きさは66.5×14×19.5cmである。平滑な岩面がある角柱状の角礫を素材とし、上下端を分割した状態で遺跡内に搬入されている。「白瀧I群」の中で最大の接合資料である。

剥離工程 長軸に沿った大型の縦長剥片である段階1の後、石核部分が中央短軸で二分割され、それぞれ剥片剥離が行われている（個体B・C）。また、段階1の縦長剥片も石核の素材となっている（個体A）。

個体Aは、左側面と上面（A-段階1～4）→右側面と下面（A-段階5・6）とⅢa類の剥離がみられる。最終的に石核4が遺棄される。

個体Bは、正面で縦長剥片を剥離した後（B-段階1）、表面で横方向の剥離がみられる（B-段階2）。次に、下面を打面に固定して、石核を周囲するように連続的な剥離が行われる（B-段階3）。B-段階3では、石核長軸の稜に沿って剥離軸を設定しているため、縦長剥片が多く剥離されている。その後再び上面と正面との交互剥離（B-段階4～6）が行われ、最終的に石核7が遺棄される。

個体Cは、上面と正面（C-段階1・2）→左側面と上面（C-段階3）とⅢA類の剥離がみられ、その後の剥離が大きく欠落している。次に下面に打面を固定して、右核を周回するように連続的な剥離が行われる（C-段階4）。C-段階4では、右核長軸の後に沿って剥離軸を設定しているため、縦長剥片が多く剥離されている。その後、正面と右側面との横方向の交互剥離（C-段階5・6）と下からの剥離（C-段階7・8）が行われ、最終的に右核9が遺棄される。

分布 Sb-8全体から出土している。なかでも個体AはI・J56区東側にまとまって分布する。

（直江康雄）

（6）石器ブロック9（Sb-9）の石器

出土石器（表IV-5・6）

二次加工ある剥片61点、右核103点、剥片1,318点の計1,482点、重量11,259.9gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が最も多く99.3%を占め、以下黒曜石5（0.7%）、黒曜石3（0.07%）となっている。二次加工ある剥片（図IV-158-1～図IV-159-36、図版124）

40点（36個体）を図示している。1～5は薄手の剥片を素材とし、素材の打面・バルブを除去するような加工が両面に施されたものである。1～3は完形、4・5は上部欠損品である。1の背面は右核の素材腹面のみで構成されている。上部縁辺には微細剥離がみられる。2は素材の打面部から側縁の広い範囲に加工が施され、素材を大きく変形している。3の素材は縦断面が湾曲し、末端は軽いヒンジとなっている。4は被熱によるひび割れがみられる。5は加工の範囲が狭く、素材の打面部に集中している。

6～27は台形、扇形、三角形、五角形の剥片を素材とし、縁辺もしくは末端に加工が施されるものである。6～15は両側縁が広がる扇状、16～27は両側縁が平行もしくは末端がすばまり三角形、四角形、五角形となっている。素材の打面部の幅は小さく、5mm前後のものが多い。素材の末端部は薄手のものがほとんどだが、8・9・12・16・17・23・27は末端部に最大厚がある。原石面は6・17・18・21・27にみられるが、いずれも背面を覆うようなものではない。加工の部位は腹面の片側縁（7・9・12～14・20～22・24・26）に施されるものが多い。その他は腹面の末端辺（10）、腹面の側縁から末端辺にかけての「く」の字状の縁辺（18）、腹面の片側縁と打面（6）、腹面の両側縁（11・19）、両面に錯向状の加工（8・15）、背面の片側縁（16・17・25・27）に加工がみられる。加工の状態は基本的に1.5mm前後の剥離が連続するもので、素材の形態を大きく変化させるものではない。7の側縁には3～4mmの比較的大きな加工があり、末端辺には微細剥離が不連続にみられる。8の腹面の加工は側縁から末端辺にかけての「く」の字状の縁辺に施されている。11の腹面左側縁の加工は、打面側にいくに従い急角度となり、対応する背面の縁辺がやや潰れている。15は被熱による破損である。16の腹面は平坦でバルブが発達せず、末端はステップフラクチャーとなっている。17の二次加工は微細で1mmに満たない剥離が連続してみられる。21の末端はヒンジで、両側縁は急角度（70～80度）である。23は打面側に折れ面を利用した突出部が作出されており、錐形石器の可能性もある。27の二次加工は掻器の刃部に類似する急角度で大きな剥離である。

28～36は縦長剥片を素材とするもので、28～34が完形品、35・36が破損品である。素材末端部はすべて薄手で、36は縦断面が湾曲している。背面の剥離面構成は腹面とほぼ同方向（28～30）、逆方向を含むもの（31～33）、横方向を含むもの（34～36）となっている。原石面は29・30・34～36にみられ、それぞれは背面全体（29）、末端辺（30・36）、片側縁（34・35）に残っている。加工は腹面の片側縁全体にわたるもの（28・32・34～36）が多い。その他は部分的な加工にとどまるもので、縁辺上部

と末端辺(29)、縁辺中央の突出部(30)、縁辺下部(31・33)にみられる。29は被熱によるひび割れがある。33は左側縁の末端側に両面からやや内湾するような加工が施されている。35は5mm前後の大きな剥離が不規則にみられる。

石核(図Ⅳ-159-37~図Ⅳ-162-59、図版124・125)

53点(23個体)を図示している。いずれも打面調整、頭部調整などの石核調整は施されず、剥離面のバルブが発達している特徴がみられる。

37~42は扁平で、作業面を主に素材の広い面に固定する石核である。主に末端が薄手で寸詰まりの剥片が剥離されている。素材は全て剥片で、作業面は素材の腹面側に設定されている。37は上からの剥離が連続的にみられ、最終剥離はウートラパッセとなっている。38は被熱による破損で、内部にはひび割れがみられる。39の破損は正面の最終剥離の末端部から起こったものである。38・39とも素材の打面側にあたる右側縁で、正面と裏面との交互剥離を行っている。40は上下からの剥離がみられ、下からの剥離は比較的小さく1.5mm前後である。41は上からの剥離が連続的にみられ、被熱により破損している。

43~45は正面と裏面の広い面で作業面転移を行っているものである。素材は全て剥片で、いずれの石核も剥離面のみで構成されている。43の裏面には横方向からの剥離面もみられる。

46~50は打面を主に素材の平坦な広い面に固定するもので、比較的打面幅の広い剥片が剥離される。素材は厚手の剥片である。打面の設定は、平坦な原石面(46~48)と、素材腹面(49・50)がみられる。46は正面から左側面にかけて連続的な剥離が行われている。47は被熱により破損し、内部にはひび割れがみられる。48の正面は一回の大きな剥離面である。49・50は折れ面接合するもので、それぞれ一回の剥離が行われている。

51・52は剥片を素材とし、作業面を主に素材の側縁に設定するものである。主に縦長剥片が剥離されている。51は作業面が固定され、最終剥離がステップフラクチャーを起こしている。52は上面に打面を出して縦長剥片を剥離するもので、裏面や左側面には横方向の剥離もみられる。

53~59は多方向からの剥離面によって構成され、数多くの打面・作業面転移を行っているものである。打面と作業面を入れ替える交互剥離を基本として作業が進行していき、特に54~59は頻繁な打面転移によってサイコロ状の石核となっている。素材は剥片(53・55・57・58)と、礫(54・56・59)がみられる。原石面は56を除くすべてに残っている。53は分厚い剥片を素材とし、正面と上面との交互剥離がみられる。素材の状態はほとんど変化していない。54は正面と上面との交互剥離がみられる。その他の剥離は多方向からのもので統一性がなく、一打単位の打面転移を頻繁に行った結果と考えられる。55は正面・左側面と上面、正面と下面との交互剥離がみられる。石核の下端を取り込む剥離があまりみられず、正面の最終剥離はヒンジとなっている。56は石核を横断するように内在する割れが2か所で見られる。正面と上面との交互剥離が行われている。57は石核の下端を取り込む剥離がみられず、末端がヒンジとなっている面が多い。58は正面と上面、右側面と裏面、左側面と裏面、正面と下面との交互剥離がみられる。被熱による破損が激しい。59は10cmを越える大型の石核で、正面と上面、下面と裏面との交互剥離がみられる。

石器ブロック9(Sb-9)の分布・接合状況(図Ⅳ-163~166、表Ⅳ-5・6)

J45・K43~45・L42~45・M42~44区の10.5×20.5mの範囲から南西方向に細長い形で確認された。L43・44、M43区にまたがる濃密な集積域がみられ、その他は散漫な分布状況である。二次加工ある剥片61点、石核103点、剥片1,318点の計1,482点、重量11,259.9gの石器類が出土した。トゥー

ルの種類は少ないが、点数が多く、前述の集中域にまとまってみられる。

接合状況はブロック内の集中域を中心として全体に広がっている。また、約60m離れたSb-6とのブロック間接合が1例確認された(母岩87・接合244、図版130-2)。

母岩別資料90・接合資料247(図IV-167、図版126-1)

母岩別資料は接合247のみである。

素材 54点(26個体)が接合し、重量は372.6g、大きさは5×10×10cmである。背面が原石面に覆われた剥片を素材とする。原石面は角が摩滅するものである。剥片の状態では遺跡内に搬入されている。

剥離工程 正面を中心としたⅡa類の剥離が連続してみられる(段階1~3)。途中、上面での剥離が行われるが欠落している。段階1の剥片は二次加工ある剥片20・30の素材となっている。その後、右側面と正面(段階4~6)→正面と上面(段階7・8)とⅢa類の剥離が続き、下面での剥離が行われ(段階9)、最終的に石核58が遺棄される。

分布 Sb-9の集中域にまとまって分布している。

母岩別資料84・接合資料239(図IV-168・169、図版126-2)

母岩別資料は接合239・237で構成され、総点数74点、総重量495.3gである。

素材 72点(61個体)が接合し、重量は488.8g、大きさは14×10.5×5.5cmである。背面が原石面に覆われた剥片を素材とする。原石面は滑らかで、角がやや摩滅するものである。剥片の状態では遺跡内に搬入されている。

剥離工程 左側面での剥離の後(段階1)、裏面から石核を分割する剥離がみられる(段階2)。厚手で幅広い2点の剥片が石核の素材となり、それぞれ剥片剥離が行われている(個体A・B)。以後、図IV-169-65のように下面を正面、右側面を上面に据えて説明する。正面の小口面を中心としてⅢb類の剥離が行われている。正面で上下からの剥離の後(段階3・4)、90度打面を転移し、右側面での剥離がみられる(段階5)。再び正面上からの剥離(段階6・8)が右側面の剥離(段階7)を挟んで行われている。最終的に石核57が遺棄される。

個体Aは、正面と裏面との交互剥離が連続的にみられ(A-段階1~5)、裏面横方向の剥離が行われている(A-段階6)。最終的に石核52が遺棄される。

個体Bは、Ⅲa類の剥離がみられる。正面と上面との交互剥離が連続的に行われた後(B-段階1~5)、右側面と裏面(B-段階6~9)→下端での裏面と正面(B-段階10・11)→横方向の右側面と左側面(B-段階12・13)と作業場所が転移している。また、B-段階13の剥片が二次加工ある剥片9・18の素材となっている。その後、上面(B-段階14)→下面(B-段階15)とⅢb類の剥離がみられ、最終的に石核55が遺棄される。

分布 Sb-9の集中域にまとまって分布している。

母岩別資料89・接合資料246(図IV-170、図版126-3)

母岩別資料は接合246のみである。

素材 30点(27個体)が接合し、重量は140.5g、大きさは5×6.5×6cmである。角が摩滅した重円礫を素材とし、ほぼ原石の状態では遺跡内に搬入されている。

剥離工程 正面・右側面と上面との交互剥離の後(段階1・2)、上面裏からの剥離が行われる(段階3)。再び正面と上面との交互剥離が連続的にみられ(段階4~9)、正面と左側面(段階10~13)→下面と正面(段階14・15)→右側面と正面(段階16・17)とⅢa類の剥離が行われる。段階9は左右の側面での剥離で、右側面の剥離は交互剥離に対応するものだが、左側面の剥離は段階8の末端部

へ打面転移した剥離である。段階3・8・15・16の剥片が二次加工ある剥片13・19・11・17の素材となっている。また、段階9の剥片が石核の素材となり、I a 類の剥離が行われ、石核37が遺棄される。最終的な石核は出土しておらず、遺跡外に搬出された可能性が高い。

分布 Sb-9の集中域にまとまって分布している。

母岩別資料86・接合資料242 (図IV-171・172、図版127-1)

母岩別資料は接合242の他、接合243・50172、剥片14点で構成され、総点数109点、総重量499.4gである。

素材 91点(68個体)が接合し、重量は470.2g、大きさは9.5×10.5×9 cmである。角がやや摩滅した亜角礫を素材とし、正面、上面、右側面で大きな剥離を行った状態で遺跡内に搬入されている。

剥離工程 III a 類の剥離が正面と上面・右側面(段階1・2)→正面と左側面(段階3~5)→正面と上面(段階6~8)で行われる。段階5の剥片が二次加工ある剥片25の素材となっている。下面での剥離(段階9)を挟んで、再びIII a 類の剥離が左側面と裏面(段階10~15)→右側面と上面(段階16・17)→上面から右側面と正面(段階18・19)で行われる。段階19では同一打面から裏面への剥離もみられる。また、段階11の剥片が二次加工ある剥片22の素材となっている。その後、上面・下面(段階20・21)での剥離が行われ、再びIII a 類の剥離が正面と上面(段階22・23)→裏面と上面(段階24・25)→左側面と正面(段階26・27)→右側面と下面(段階28・29)と続く。段階1~19までは同段階で二、三回程度の剥離がみられるが、その後は一回の剥離で打面を転移することが多い。前者には長幅比が1.0以上の剥片が若干含まれる。最終的に石核56が遺棄される。

分布 Sb-9の集中域にまとまって分布している。

母岩別資料82・接合資料229 (図IV-172~175、図版127-2)

母岩別資料は接合229のみである。

素材 145点(115個体)が接合し、重量は730.7g、大きさは20×8×7.5cmである。ザラついた岩屑面がある角柱状の角礫を素材とし、ほぼ原石の状態で遺跡内に搬入されている。

剥離工程 III 類の剥離を中心として作業が進行している。段階1・2は正面と右側面との交互剥離である。段階1は石核長軸に対して斜めに剥離するもので、段階2は連続した剥離である。次に左側面での剥離がみられ(段階3・4)、この作業面を打面として正面から上面・裏面にかけて剥離が行われる(段階5)。なお、段階1・3~5の剥片は石核の素材となっている(個体A~E)。次に段階5のヒンジによってできた突出部を除去するように、右側面→正面と90度打面を転移させる横方向の剥離がみられる(段階6・7)。段階7の作業面は正面と裏面の二つに分かれ、裏面からIII a 類の交互剥離が始まり、裏面と左側面(段階7~10)→上面と正面(段階11~13)の剥離がみられる。これらは石核の角の稜を作業面に設定し、長幅比が1.0以上の剥片が剥離されるものが多い。また、段階12の作業面は正面と左側面の二つに分かれ、どちらも二次加工ある剥片35・34の素材となっている。段階14~17・20・21はIII b 類の剥離で、左側面と裏面を中心として作業面転移がみられる。途中の段階18・19は左側面と裏面の交互剥離で、裏面の剥離は横方向と縦方向の剥離が行われている。また、段階14・16・17・20の剥片が二次加工ある剥片26・2・36・14の素材となっている。段階22からは再びIII a 類の剥離が始まり、石核下端での作業(段階22~25)→裏面と右側面(段階26~28)→石核下端での裏面と左側面(段階29・30)→右側面と下面(段階31~33)→左側面と裏面(段階34・35)→右側面と正面・左側面(段階36・37)と続く。また、段階26・29の剥片が二次加工ある剥片6・23の素材となっている。正面上からの剥離の後(段階38)、最終的に石核54が遺棄される。

個体AはI b 類の剥離が行われ、主に素材の打面側で交互剥離がみられる。最終的な石核は欠落し

しており、遺跡外に搬出された可能性が高い。

個体Bは素材の腹面側でI a類の剥離が行われている。同一の打面から連続的な剥離がみられる。最終的に石核47が遺棄される。

個体Cは細長い右側面と上面で交互剥離が行われている（C-段階1・2・4）。途中のC-段階3・5は切断剥離で、前段のヒンジを修正している。C-段階6からはI b類の剥離で、最終的に石核44が遺棄される。

個体Dは主にI b類の剥離が行われている。途中のD-段階5は細長い小口面での連続的な作業で、長幅比が1.0以上の剥片が多く剥離されている。最終的に石核43が遺棄される。

個体EはII b類の剥離が連続的に行われるが、いずれも激しいステップフラクチャーとなっている。二次加工ある剥片16が接合する。最終的に石核51が遺棄される。

分布 Sb-9の集積域を中心としてまとまって分布している。段階・個体による分布の差はみられない。

母岩別資料83・接合資料230（図IV-176～179、図版128・129）

母岩別資料は接合230の他、接合231～236・238・50163～50168、石核1点、二次加工ある剥片4点、剥片125点で構成され、総点数330点、総重量4,961.8gである。

素材 154点（69個体）が接合し、重量は4,101.9g、大きさは14.5×23×7.5cmである。爪状痕のある凹溝を素材とし、正面で大きな剥離を行った状態で遺跡内に搬入されている。

剥離工程 下面での剥離の後（段階1）、正面から左側面にわたる上からの連続的な剥離がみられる（段階2・3）。なお、段階2・3の剥片は石核の素材となっている（個体A～F）。その後、III b類の剥離が行われ、正面下から（段階4）→正面横から（段階5）→左側面（段階6）→右側面（段階7）→上面（段階8）と作業面を転移していき、最終的に石核59が遺棄される。なお、段階4～7の剥片が石核の素材となり（個体G～J）、前述と合わせて10個体の石核素材を剥離している。

個体Aは素材の打面から、石核本体を大きく取り込む剥離が行われ（A-段階1）、小さく消耗した石核48が遺棄される。さらにA-段階1は石核の素材となり（個体A-a）、下面での作業の後（a-段階1）、II a類の剥離が連続的に行われている（a-段階2）。最終的な石核は出上しておらず、遺跡外に搬出された可能性が高い。

個体Bは、上端でI b類の剥離が行われている。石核の稜に沿って剥離軸を設定するものがあり、長幅比が1.0以上の剥片がみられる。B-段階1の剥片は二次加工ある剥片31の素材となっている。最終的に石核45が遺棄される。

個体Cは正面でII a類の剥離が行われ、石核46が遺棄される。

個体Dは正面（素材腹面）でI a類の剥離がみられる（D-段階1・3）。途中、石核を切断するような急角度の剥離が行われている（D-段階2）。最終的な石核は出上しておらず、遺跡外に搬出された可能性が高い。

個体E・Fは縦長剥片を切断したもので、それぞれII a類の剥離が行われ、石核50・49が遺棄される。

個体Gは正面と上面で僅かな作業（G-段階1・2）がみられるのみで、素材の状態はほとんど変化していない。石核53が遺棄される。

個体Hは急角度の剥離（H-段階1）→石核の稜に沿って剥離軸を設定する剥離（H-段階2）→平坦な素材腹面での剥離（H-段階3）がみられるが、欠落部分が多く詳細は不明である。最終的な石核も出土していない。

個体IはI a類の剥離が数回行われ、石核12が遺棄される。

個体JはI b類の剥離が行われる（J-段階1・2）。石核が厚手なため、急角度の剥離が多くみられる。最終的な石核は出土しておらず、遺跡外に搬出された可能性が高い。

分布 Sb-9の集中域を中心として広い範囲から出土している。段階・個体による分布の差はみられない。

写真のみ掲載の接合資料

母岩88・接合245（図版130-1）は石核の素材となる厚手の剥片（個体）の版面に一枚の剥片が接合している。欠落部分が多く詳細は不明であるが、剥片の形態から後段の剥離も剥片素材の石核から剥離された可能性が高い。最終的な石核は出土しておらず、遺跡外に搬出された可能性が高い。図版130-1-94は前段の個体の接合状態である。I b類の剥離が集中的に行われ、次第に急角度の剥離となっていくⅢ類の剥離となる。最終的な石核は欠落しているが、空隙部分から遺跡内ではほぼ個体を消費し尽くしたことが分かる。二次加工ある剥片95・96が接合する。

母岩87・接合244（図版130-2）はほぼ原石の状態で搬入され、Ⅲ a類の剥離を中心とした作業が行われている。最終的な石核は欠落しているが、空隙部分から遺跡内ではほぼ個体を消費し尽くしたことが分かる。初期段階で剥離された上面の剥片が石核の素材となり、I a類の剥離が行われ、石核図IV-70-41が遺棄される。石核は約60m離れたSb-6から出土している。また、多様な形態の剥片が二次加工ある剥片12・15・24・28・29の素材となっている。（直江康雄）

（7）石器ブロック10（Sb-10）の石器

出土石器（表IV-5・6）

二次加工ある剥片37点、搔器5点、削器10点、錐形石器18点、石核25点、剥片486点の計581点、重量3,653.0gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が最も多く92.4%を占め、以下黒曜石2（5.3%）、黒曜石4（1.4%）、黒曜石5（0.9%）となっている。

二次加工ある剥片（図IV-181-1-10、図版131）

14点（10個体）を図示している。素材となる剥片の選択性が低く、加工の部位や強弱が異なるため形態の斉一性がない。原石面は2・3・6・7・9にみられ、特に2・3は背面全体に残っている。背面の剥離面構成は版面とほぼ同方向（1・6・7）、逆方向を含む（5）、横方向を含む（8・9・10）ものがみられる。また、1・6・8・9は背面に平坦でリングの大きな面がある。これは素材を剥離した石核が剥片素材で、その版面にあたと考えられる。二次加工は1～3・5が急角度、4・6が連続した微細なもの、7～10が5 mm前後のやや平坦で鋭角なものである。折れ面を切っている加工は2～5のみみられる。

1の形態は台形状で、鋭い直線的な縁を残し、周縁に急角度の加工がみられる。背面からの加工が基本であるが、右側縁下部では対向状となっている。上部の縁には微細な剥離が連続的にみられる。3は加工が全周するもので、末端辺・左側縁・上部にかけては背面から、右側縁は版面からの加工が施されている。他の遺物に比べ水相層の発達が弱い。4・5は折れ面によってできた角に錯向状の加工がみられる。6は厚手の剥片が素材で、末端辺は背面から右側縁は版面からの加工が施されている。8は縁辺全体にわたる加工がみられる。9の末端は激しいヒンジとなっており、バンチマークが数個みられる。薄い灰色の中に透明感のあるスジが入った黒曜石で、肉眼的にケシヨマップ産のものと類似する。10は打面部に最大幅と最大厚がある縦長剥片を素材としている。

搔器（図IV-181-11-13、図版131）

8点(3個体)を図示している。11・12はほぼ完形で、13が欠損品である。長幅比は11・12ともに0.8でやや横長である。背面の剥離面構成は、腹面と同方向(12)、逆方向を含む(11・13)もののみられる。原石面は12の打面のみに残っている。刃部の縦断面形状は11・13がほぼ直線状で、12がやや腹面側に湾曲する形である。加工は11・12とも末端部から片側縁に連続して施されている。刃部の角度は基本的に末端部が急角度で、11が50~65度、12は50~75度、13は60~65度である。11は腹面の器体中央部に多数のパンチマークのみられ、破損は直接加撃したことによって起こったと考えられる。13の腹面には素材のバルブを除去する2cm程の剥離のみられ、石核としても機能していたと思われる。

削器 (図Ⅳ-181-14~図Ⅳ-182-16、図版131)

7点(3個体)を図示している。14・16が完形品で、15は末端部が欠損している。背面の縁辺に連続した平坦剥離が施されている。3個体とも打面は幅広で器体中央部の両側縁がほぼ平行し、原石面が残っている。加工は14・15が背面の縁辺全体、16は背面の末端部にあり、腹面には不連続な剥離が全体的のみられる。

錐形石器 (図Ⅳ-182-17~27、図版131)

14点(11個体)を図示している。折れ面を利用して突出部を加工しているものが多いことから、切断技法を用いていた可能性がある。17~25は素材の末端側に突出部が作出されたもので、19・23・25は折れ面と接する縁辺の角を利用している。原石面は17~19・23・24が打面、20が左側面にみられる。加工は腹面からの剥離がほとんどで、17が背面から、25は左右の突出部とも錯向剥離が行われている。21は薄手で、微細な剥離が連続した加工である。24は腹面のバルブ付近に縦方向の擦痕のみられ、それを切る1.3cm程の剥離がある。また、右側縁には櫛状剥離がみられる。

26・27は素材の打面側に突出部が作出されたもので、26は打面と接する側縁の角を利用している。加工は26が腹面から、27が背面からの剥離によるものである。26の打面は幅・厚さ共に大きい。27の右側縁には櫛状剥離がみられるが、突出部の加工に切られている。

石核 (図Ⅳ-182-28~図Ⅳ-183-35、図版131)

8点(8個体)を図示している。いずれも剥離の際に打面調整、頭部調整などの石核調整は施されず、剥離面のバルブが発達している特徴がみられる。

28~34は作業面を主に素材の広い面に設定している石核である。素材は29・33・34が不明で、それ以外は剥片である。作業面は29が片面のみ、30~33が両面にわたる交互剥離、28・34が広い面の他に細長い小片面でも剥離が行われている。28の正面の剥離は左側面の折損後である。29の裏面は原石面に覆われている。正面の大きくヒンジが起きている面に二次加工ある剥片5が接合する。30は1cm前後の小さな剥離が両面のほぼ全周にわたって施されている。「白滝I群」では類例がなく、両面調整石器や錐形石器とみることできる。31は正面が上から、裏面は下からの剥離が主体的である。末端がヒンジを起しているものが多い。33は裏面からの剥離が集中的に行われたため急角度になり、小片面化している。34の正面上からの最終剥離はヒンジを起している。それ以外の剥離面は打面が原石面、横方向から行われている。

35は剥片を素材とし、打面を素材の広い面に固定するものである。作業面が短く、1.5cm前後である。末端側の原石面を取り込む横長剥片が多く剥離されている。上面には打点部付近に多数のパンチマークがみられる。

石器ブロック10 (Sb-10) の分布・接合状況 (図Ⅳ-183~185、表Ⅳ-5・6)

M47・48、N47~49、O47・48、P48区の13×13mの範囲から南側が急にすぼまる形で設定した。

N47・48、O48区にまたがる集中域がみられ、その他は散漫な分布状況である。二次加工ある剥片37点、挿器5点、削器10点、錐形石器18点、石核25点、剥片486点の計581点、重量3,653.0gの石器類が出土した。

接合状況はブロック内の集中域を中心として全体に広がっている。西側に隣接するSb-11縁部部とのブロック間接合が2例確認された。両ブロックは石器の内容や剥離技術、接合状況に相違がみられることから、隣接部で分布が重複したものと判断した。

母岩別資料73・接合資料180 (図Ⅳ-186、図版132-1)

母岩別資料は接合180の他、接合181・182、剥片23点で構成され、総点数89点、総重量576.7gである。

素材 43点(38個体)が接合し、重量は352.7g、大きさは11×15×4 cmである。背面に原石面が大きく残る剥片を素材とする。原石面は滑らかな面である。剥片の上端を分割した状態で遺跡内に搬入されている。

剥離工程 下端でI b類の剥離が行われた後(段階1・2)、右側面から下面にわたっての連続的な剥離が行われる(段階3)。段階3の後半は急角度の剥離となり、小口面での作業となる。段階4からは180度打面転移したII a類の剥離である。右側面を中心に剥離が行われ、最終的に石核35が遺棄される。

分布 Sb-10の集中域を中心として分布する。段階4の剥片1点がやや北側のM47区から出土している。

写真のみ掲載の接合資料

母岩76・接合187(図版132-2)は剥片の状態でも遺跡内に搬入されている。石核を切断するような分厚い剥離の前後にわたってI a類の剥離がみられる。最終的に石核40が遺棄される。また、初期段階の剥片が錐形石器38、石核39の素材となっている。

母岩480・接合194(図版132-3)は正面を大きく剥離した状態で遺跡内に搬入されている。求心状にI a類の剥離が行われる。最終的な石核は出土しておらず、遺跡外に搬出された可能性が高い。削器42が接合する。

母岩77・接合189(図版132-4)は正面を大きく剥離した状態で遺跡内に搬入されている。正面の平坦面でI a類の剥離が連続的に行われ、二次加工ある剥片44・45が接合する。最終的に石核46が遺棄される。

母岩78・接合190(図版132-5)はI a類の剥離が行われている。石核を輪切りにするような大きな剥離もみられるが、最終的な石核も含め欠落部分が多く、詳細は不明である。(直江康雄)

(8) 石器ブロック11~13 (Sb-11~13) の石器

出土石器(表Ⅳ-5・6)

二次加工ある剥片29点、縦長剥片22点、石核55点、剥片539点の計645点、重量1,7349.1gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が最も多く93.8%を占め、以下黒曜石5(2.3%)、黒曜石2(2.0%)、黒曜石3及び珪岩(0.6%)、碧玉(0.5%)、めのう(0.2%)となっている。

二次加工ある剥片(図Ⅳ-187-1~図Ⅳ-188-24、図版133)

25点(23個体とI層出土1個体を含めた24個体)を図示している。1は縦長剥片を素材とし、素材の打面・バルブを除去するような加工が両面に施されたものである。背面の剥離面構成は腹面とほぼ

同方向で、逆方向も含まれる。逆方向の剥離面は平坦で、リングが大きい。これは素材を剥離した石核が剥片素材で、その腹面・バルブスカーにあたと考えられる。加工は基部側の背面両側縁、腹面左側縁に施されている。腹面下端からの加工は急角度で、バルブ部の盛り上がり完全に除去されていない。先端は尖り、左側縁には微細な剥離が不連続にみられる。

2～17は縁辺もしくは末端に軽微な加工が施されるものである。2～11は両側縁が広がる扇状、12～17は両側縁が平行に近く四角形、五角形となっている。2～4・6～8・10・12は末端部付近に最大厚があり、5・9・11・13～17は薄手で、形態の違いとはほぼ対応している。原石面は2・9・12・13・15・16にみられ、残存部位はすべて側縁と末端辺である。加工の部位は腹面の片側縁(8・13)、腹面の末端辺(3・4)、腹面の片側縁と末端辺(7・10・11・16)、腹面の両側縁(9・12・14・15)、両側縁と末端辺(2・5・6)、背面の片側縁(17)に施され、齊一性がみられない。加工の状態は基本的に1.5mm前後の剥離が連続するものだが、5・10・12・13のように5mmを超える大きな剥離がみられる場合もある。2の加工は側縁から末端辺にかけての「く」の字状の縁辺と鋭角な突出部2か所に分かれてみられる。5の右側縁はノッチ状に加工され、錐形石器と類似する突出部が作出されている。6の両側縁は錯向状の剥離で腹面の加工は末端辺との「く」字状の縁辺にみられる。7の末端部の剥離は急角度である。

18～24は縦長剥片を素材とするものである。素材末端部は薄手のものが多いが、18・20は石核の下面を取り込んでいるため厚手である。背面の剥離面構成は腹面とほぼ同方向(18)、逆方向を含むもの(20・22～24)、横方向を含むもの(19・21)となっている。加工は腹面の片側縁全体にわたり、19・20・22・23は反対側縁にもみられる。反対側縁の加工部位は、19・22が打面とそれに続く腹面左側縁の小さな範囲、23が腹面右側縁の打面部付近、20が背面右側縁の打面部付近と縁辺の凹部である。

錐形石器(図IV-188-25、図版133)

1点(I層出土1個体)を図示している。縦長剥片を素材とし、末端部に突出部を作出するものである。突出部は腹面からのノッチ状の加工で、先端部にも及び、右側は背面まで抜けず鈍角化している。右側縁には、打面側が背面に連続的、末端部が両面に不連続で微細な剥離がみられる。

剥片(図IV-188-26～28、図版133)

3点(2個体とII層一括出土1個体を加えた3個体)を図示している。いずれも珪岩製のもので、流離構造が発達している。26は背面に細かな剥離がみられる。大きさや縦断面の湾曲具合から掻器の刃部調整剥片と思われる。27・28は長幅比が2.0に満たない縦長気味の剥片である。打面は27が単剥離、28が複剥離で、どちらも幅が広い。27の両側縁は急角度で、右側の背面剥離面構成は横方向である。

石核(図IV-188-29～図IV-190-51、図版133・134)

26点(20個体とI層出土2個体とB調査出土1個体を加えた23個体)を図示している。いずれも剥離の際、打面調整や頭部調整などの石核調整は施されず、剥離面のバルブが発達している特徴がみられる。29～31は平坦で広い面を作業面に設定するものである。主に末端が薄手で、寸詰まりの剥片が剥離されている。素材は全て剥片である。29～32は作業面を素材の腹面に固定、33は作業面を素材の背面に固定、34は正面と裏面の広い面で交互剥離が行われている。29は長軸方向に剥離が行われ、末端まで抜ける剥片が一回みられる。30～32は素材の側縁からの剥離が行われている。30・31とも一回の剥離で作業を終了している。32の上部縁辺には1mm前後の微細な剥離が連続してみられる。34は上端と下端で交互剥離が行われている。

35～46は作業面を主に素材の細長い面に設定するものである。主に縦長剥片が剥離されている。素材は35・36・39～46が剥片で、37・38は不明である。打面は平坦打面によるもので、素材面をそのま

ま利用する35・36・42・44と、剥離によって作出する37～41・43・45・46がみられる。35は左側面に横方向の剥離がみられ、90度打面転移を行っている。37はめう製の、下端には両側からの加工により突出部が作出されている。38は碧玉製で、裏面にも小口面での剥離がみられる。39は2.5cm程の大きな球類が残っている。42は正面の細長い面から左側面にかけての連続した剥離がみられる。43は縦長剥片の他に、片割縁が「く」の字状の剥片も剥離されている。44は原石面打面以下端からの剥離もみられる。45は粗い円錐形で、正面から左側面にかけて縦長剥片が剥離されている。46は下端の狭い範囲に急角度の細かい加工があり、掻器として機能していた可能性が考えられる。

47～51は多方向からの剥離面によって構成され、数多くの打面・作業面転移を行っているものである。打面と作業面を入れ替える交互剥離を基本として作業が進行していき、特に49・50は顕著な打面転移によってサイコロ状の石核となっている。素材は剥片(47～49)と、礫(50・51)がみられる。原石面は47・51を除くものにみられ、表面や下面に残ることが多い。47の最終剥離は正面を覆う大きなもので、左側面と裏面との交互剥離がみられる。その他の剥離は多方向からのもので統一性がなく、一打単位の打面転移を頻りに行った結果と考えられる。48は正面と上面・左側面の交互剥離が行われている。49は交互剥離がみられず、打面転移が不規則に行われている。50は正面と右側面との交互剥離がみられる。石核の末端まで取り込んでいる剥離面が多いことから、末端部が厚手の剥片が多く剥離されたと思われる。51の形態は縦長で、全体的にリングの大きな面によって構成されている。下端の剥離は内在する割れによるものである。

石器ブロック11 (Sb-11) の分布 (図Ⅳ-191・192、表Ⅳ-5・6)

O44～47、P45～47区の6.5×13mの範囲で確認された。全体的に散漫な出土状況である。二次加工ある剥片1点、石核7点、剥片23点の計31点、重量1,876.7gの石器類が出土した。また、Ⅱ層一括遺物ではO46区から注岩製の剥片26が出土している。石核が22.6%と高い割合でみられる。

石器ブロック12 (Sb-12) の分布 (図Ⅳ-191～193、表Ⅳ-5・6)

O43・44、P41～44、Q41～44、R41～43区の19×10.5mの範囲で北東方向に間延びした形で確認された。Q42区を中心として北東側にまとまりがみられる。二次加工ある剥片26点、縦長剥片21点、石核42点、剥片457点の計546点、重量14,810.6gの石器類が出土した。縦長剥片がQ42区を中心として分布しているのに対し、二次加工ある剥片・石核はブロック全体から偏りなく出土している。

石器ブロック13 (Sb-13) の分布 (図Ⅳ-193、表Ⅳ-5・6)

R40、S40～43区の6.5×13mの範囲で確認されたが、調査区範囲外のT40～42区に分布が広がると考えられる。全体的に散漫な出土状況であるが、S41区にややまとまった分布がみられる。二次加工ある剥片2点、縦長剥片1点、石核6点、剥片59点の計68点、重量661.8gの石器類が出土した。ブロックの集中部が調査区外にあると考えられ、出土石器の組成や割合などを正確に反映していない可能性が高い。

石器ブロック11～13 (Sb-11～13) の接合状況 (図Ⅳ-194)

Sb-11～13ではブロック内の接合を中心として、ブロック間でもSb-12を中心とした接合関係が多く確認されている。このことから三つのブロックには密接な関係があり、同時性の高さを示すものと思われる。また、Sb-11の縁辺部ではSb-10とのブロック間接合がみられるが、両石器群の石器の内容や剥離技術、接合状況に相違がみられることから、隣接部で分布が重複したものと判断した。

接合資料302 (図IV-195、図版135-1)

素材 5点(5個体)が接合し、重量は47.0g、大きさは $5 \times 5.5 \times 3$ cmである。欠落部分が多く素材は不明である。原石面は角が摩滅している。

剥離工程 全体の剥離は同方向からの剥片が2点接合するのみで、最終的な石核も含めて欠落部分が多く、詳細は不明である。背面の剥離面構成と打面の位置に段差があることからⅢ類の剥離が行われていた可能性が高い。なお、2点の剥片はそれぞれ石核の素材となっている(個体A・B)。

個体Aは作業面を大きく取り込むⅠa類の剥離が一回行われ、最終的に石核30が遺棄されている。

個体Bは素材の側縁と末端部で交互剥離がみられる(B-段階1・2)。どちらも素材の細長い小

口面を作業面しているため、長幅比1.0以上の剥片が剥離されている。最終的に石核35が遺棄される。
分布 個体A・BともSb-12の集中域からやや離れたブロックの北東縁辺部から散漫に出土している。その中で個体Aは北側、個体Bは南側に分かれて分布する。

母岩別資料462・接合資料285 (図IV-195、図版135-2)

母岩別資料は接合285の他、接合286・50194、剥片4点で構成され、総点数42点、総重量250.1gである。

素材 30点(26個体)が接合し、重量は221.3g、大きさは $8.5 \times 4 \times 7.5$ cmである。背面が原石面に覆われた剥片を素材とする。原石面は滑らかで、角がやや摩滅するものである。剥片の状態で遺跡内に搬入されている。

剥離工程 素材の側縁と末端に沿った交互剥離が連続的に行われている(段階1~7)。どちらも素材の細長い小口面を作業面しているため、長幅比1.0以上の剥片が多くみられる。次に平坦な表面を中心にⅠb類の剥離が行われ(段階8~11)、再び正面と上面の細長い面での交互剥離となる(段階12~14)。なお、段階9の片側縁が「く」の字状の剥片は、二次加工ある剥片11の素材となっている。最終的にサイコロ状の石核48が遺棄される。

分布 Sb-12の集中域を中心に分布する。二次加工ある剥片11や段階6の縦長剥片、段階11・12の剥片がやや離れたブロック北側縁部から出土している。

母岩別資料459・接合資料278 (図IV-196、図版135-3)

母岩別資料は接合278の他、接合279・280で構成され、総点数26点、総重量248.7gである。

素材 18点(18個体)が接合し、重量は148.4g、大きさは $7.5 \times 7.5 \times 6.5$ cmである。角が摩滅した亜角礫を素材とする。欠落部分が大きく、搬入形態は不明である。

剥離工程 段階1は正面で石核左右の角の後に沿って剥離軸を設定した、上からの剥離である。そこからⅢa類の剥離が始まり、左側面と正面横方向(段階2)→右側面と正面横方向(段階3)→上面と正面(段階4~6)→上端での左右の側面(段階7~10)と作業場所が転移している。その後、右側面を打面として正面から上面にわたる連続的な剥離が行われ(段階11)、再び上面と正面との交互剥離がみられる(段階12・13)。最終的な石核は欠落しているが、空隙部分から遺跡内では個体を消費し尽くしたことが分かる。二次加工ある剥片が多く接合し(2・9・12~16)、段階3・7・8・11~13の多様な形態の剥片が素材となっている。

分布 Sb-12の南部を中心として散漫に分布している。

母岩別資料463・接合資料287 (図IV-196~198、図版136-1)

母岩別資料は接合287・316で構成され、総点数37点、総重量425.7gである。

素材 35点(33個体)が接合し、重量は415.9g、大きさは $9 \times 11 \times 7$ cmである。背面が原石面に覆われた剥片を素材とする。原石面は滑らかで、角が摩滅するものである。剥片の状態で遺跡内に搬入

されている。

剥離工程 剥片を二つに分割し、それぞれ剥片剥離が行われている（個体A・B）。個体AはⅢa類の剥離が行われ、まず正面と上面（分割面）との交互剥離が連続的にみられる（A-段階1～5）。A-段階2は石核の素材となり（個体A-a）、I a類の剥離が行われるが、最終的な石核は欠落している。また、A-段階4の片備縁が「く」の字状の剥片が二次加工ある剥片10の素材となっている。次に180度打面転移し、上面での作業が連続的に行われる（A-段階6）。A-段階6は次第に急角度となり、作業面が裏面に移行していき、下面との交互剥離が開始される（A-段階6～8）。その後、Ⅲb類の剥離が上面・正面（A-段階9）→右側面（A-段階10）→裏面（A-段階11）と続き、最終的に小型の石核47が遺棄される。また、A-段階9は石核の素材となり（個体A-b）、作業面を大きく取り込むI a類の剥離が一回行われ、最終的に石核29が遺棄される。

個体BはⅢb類の剥離が行われ、正面→右側面→上面→右側面（B-段階2～5）と作業面が転移している。B-段階1は裏面での作業で、B-段階4までとの前後関係が不明である。最終的にサイコロ状の石核49が遺棄される。

分布 Sb-11～13に分布している。中心はSb-12で、ブロック全体に散漫にみられ、Sb-11からは個体Bの石核49、Sb-13からは個体B-段階5の剥片が出土している。

母岩別資料466・接合資料290（図Ⅳ-199・200、図版137）

母岩別資料は接合290の他、接合320・322、剥片4点で構成され、総点数49点、総重量2,114.0gである。

素材 40点（31個体）が接合し、重量は2,038.0g、大きさは18.5×16.5×9.5cmである。爪状のある円盤を素材とし、原石の状態で遺跡内に搬入されている。

剥離工程 右側面で大きな剥離を行い（段階1）、その平坦面を打面に設定して正面から上面・裏面にわたる剥離が行われる（段階3）。段階2は裏面の剥離で、段階1との前後関係は不明である。その後Ⅲb類の剥離が行われ、裏面→正面と作業面が転移し（段階4・5）、上端で左右の側面との交互剥離が連続的にみられ（段階6～9）、右側面横方向の剥離が行われる（段階10）。最終的な石核は欠落している。また、段階3・4・8・10の剥片4点が石核の素材となっている（個体A～D）。

個体Aは分厚い断面三角形の剥片である。上面で石核の角の後を剥離軸に設定する交互剥離が行われた（A-段階1・2）、正面で連続的な剥離がみられる（A-段階3）。最終的な石核は欠落している。

個体Bは直径約3cmの流紋岩球類を内在する剥片である。平坦な左側面での剥離の後（B-段階1）、球類を分割するような急角度の剥離がみられる（B-段階2）。前段の作業面を打面に設定し、正面の細長い面で連続的な剥離が行われている（B-段階3）。最終的に石核39が遺棄される。

個体C・Dとも素材の腹面でI a類の剥離が行われている。打撃の数が少なく、それぞれ石核31・32が遺棄される。

分布 Sb-11～13に分布している。中心はSb-12で、南北二つのまとまりがみられる。北側には段階1・3～6が多く、南側は段階2と個体A（段階3）が集まっている。東側に約12m離れたSb-11からは個体Bの石核39が単独でみられ、Sb-13では個体C・Dを含めた段階7の後半からの剥片・石核が出土している。

母岩別資料465・接合資料289（図Ⅳ-201～207、図版138～141）

母岩別資料は接合289の他、接合338～340・50207、二次加工ある剥片1点、剥片25点で構成され、総点数168点、総重量8,888.1gである。

素材 122点(92個体)が接合し、重量は8,193.1g、大きさは23×18×33.5cmである。爪状痕のある円鏝を素材とする。正面を大きく剥離した状態で遺跡内に搬入されている。

剥離工程 III類の剥離を基本として作業が進行している。細長い小口面である正面の連続的な剥離の後(段階2)、下面で大きな剥離が行われる(段階3)。下面付近には内在する割れがみられ、段階3によって石核下部の形状が変形してしまう。段階4は下面からの剥離で、前段の修正であったとみられる。なお、段階1は裏面にみられる小さな剥離で、段階6までとの前後関係が不明である。次に再び正面に作業面が戻り、上面との交互剥離が開始される(段階5～9)。段階10からはII b類の剥離で、右側面の横方向(段階10)→右側面の縦方向(段階11)→上面(段階12)と続く。また、段階2・7～12の剥片は石核の素材となっている(個体A～L)。最終的に石核51が遺棄されるが、段階12との間に大きな欠落部分がみられる。

個体Aは上面での剥離(A-段階1)の後、素材の左右の側縁に沿った交互剥離が行われる(A-段階2～5)。どちらも素材の細長い小口面を作業面にしているため、長幅比が1.0以上の剥片が多くみられる。最終的に石核40が遺棄される。

個体Bは交互剥離が連続して行われる。B-段階1・2では、お互いの打面が長軸に対して斜行するように設定されているため、どちらも同様の縦長剥片が剥離されている。剥離の進行に従い、作業面が石核の長軸と短軸とに移行し、長軸側である左側面のB-段階5で長幅比1.0以上の剥片が多く剥離されるようになる。縦長剥片を素材とした二次加工ある剥片23・24が接合する。最終的に石核45が遺棄される。

個体C・Dは同一の剥片を分割したものである。個体Cは、まず細長い右側面で連続的なII b類の剥離が行われている(C-段階1～3)。途中、上面でも剥離がみられるが(欠落)、小規模であるため打面調整的なものであったと考えられる。C-段階3の剥片は二次加工ある剥片17の素材となっている。最終的に石核46が遺棄される。個体Dは細長い正面でII b類の剥離を行った後(D-段階1)、正面と上面との交互剥離が連続的にみられる(D-段階2・3)。正面では素材の細長い小口面を作業面にしているため、長幅比が1.0以上の剥片、上面では片側縁が「く」の字状の剥片が多くみられる。D-段階1・3の剥片が二次加工ある剥片6～8・21の素材となっている。最終的に石核43が遺棄される。

個体E・F・G・Hは同一の剥片を分割したものである。個体Eは左側面から正面と裏面に交互剥離が連続的に行われている(E-段階2～6)。E-段階1は右側面の急角度の剥離で、E-段階5までとの前後関係が不明である。最終的な石核は欠落している。個体F・Gとも分割面からの剥離がみられ、個体Fでは石核33が遺棄され、個体Gでは石核が欠落している。個体Hは図版作成後に接合が確認されたため図IV-205～70に図示していないが、個体Fとの分割面を作業面とし、二枚の剥片が接合する。最終的な石核は欠落している。

個体Iは石核左側ではI b類の剥離がみられる(I-段階1・2)。石核右側はII b類の剥離がみられ(I-段階1)、長幅比が1.0以上の剥片が多く剥離されている。最終的に石核42が遺棄される。

個体Jは左右の側面でのI b類の剥離の後(J-段階1)(左側面欠落)、正面下からの大きな剥離が行われ(J-段階2)、石核44が遺棄される。

個体Kは上端と下端でのI b類の剥離である(K-段階1～4)。上端裏面のK-段階1・2は石核の縁に沿って剥離軸を設定しているため、長幅比が1.0以上の剥片が多くみられる。最終的に石核34が遺棄される。

個体Lは細長い右側面での剥離の後(L-段階1)、上面と正面との交互剥離が行われている(L-

一段階2・3)。最終的に石核41が遺棄される。

分布 Sb-11・12から出土している。ほとんどがSb-12の広い範囲に分布し、ブロック全体にまたがるような折れ面接合をしているものが多い。段階9の剥片の一部と最終的な石核が東側に約12m離れたSb-11から出土している。段階・個体ごとの分布の大きな違いはみられない。また、個体1-一段階1の剥片がブロック外のQ40区に分布する。

写真のみ掲載の接合資料

母岩80・接合193(図版142-1)は内在する割れのため正面の剥離が大きく石核を分割するような剥離となっている。最終的な石核は欠落している。なお、前述の正面の剥片は石核の素材となり、素材表面から数回の剥離が行われ、石核98が遺棄される。(直江康雄)

(9) 白滝I群石器ブロック外の石器

二次加工ある剥片(図IV-208-1、図版142-2)

1は薄手の剥片を素材とし、素材の打面・パルプを除去するような加工が両面に施されたものである。完形品で、先端が尖る形態である。背腹両面に長さ5mm程度の大きな加工がみられる。

石核(図IV-208-2・3、図版142-2)

2は扁平で、平坦な面と小口面との交互剥離が求心状にみられるものである。主に上下からの剥離が行われ、平坦な正面では末端が薄手で寸詰まりの剥片が剥離されている。剥片素材である。

3はサイコロ状の石核である。全面的に剥離面に覆われ、下部に僅かな節理面がみられる。正面以外では横方向の剥離が多い。

分布(図IV-208)

1はSb-9のやや外側であるJ46区から出土している。同様の石器はSb-9にもみられる。2はJ49区から出土し、各ブロックから一定の距離を隔てている。3はH59区から出土し、Sb-6に含まれる。石器ブロックラインの変更を図版作成後に行ったため、本節に図示している。

(直江康雄)

(10) A区・石器ブロック14~19(Sb-14~19)の石器

出土石器(表IV-5~8)

尖頭器72点、両面調整石器13点、ナイフ形石器1点、彫器7点、搔器21点、削器49点、錐形石器5点、舟底形石器29点(Ⅱ類29点)、二次加工ある剥片17点、細石刃25点、細石刃核28点、石刃189点、縦長剥片165点、石刃核13点、石核32点、削片87点(細石刃核削片84点、尖頭器削片3点)、剥片12,904点、台石2点、原石8点の計13,670点、重量188,721.7gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が68.0%で最も多く、黒曜石4(16.4%)、黒曜石5(10.4%)、黒曜石3(4.6%)が続き、以下黒曜石2(0.4%)、頁岩(0.11%)、安山岩(0.07%)、めのう(0.04%)、珪岩(0.01%)、泥岩(0.01%)、碧玉(0.01%)である。彫器・舟底形石器は黒曜石4が多く、細石刃関連資料である細石刃・細石刃核削片・細石刃核は黒曜石1・5が多い。

尖頭器(図IV-209-1~図IV-215-32、図版143~148)

61点(25個体とI層出土6個体とⅡ層出土1個体を加えた32個体)を図示している。1~2は、有舌尖頭器である。1は完形品で、両面とも平行剥離ではない比較的大きな剥離で加工されている。舌部は明瞭で、下部部からの加工もあり、角張った形状に作り出されている。舌部裏面中央には平坦な

加工面があり、平坦剥離で形状を整え、最後に舌部を整形したことが想定できる。舌部側縁は潰れているが、特に最も抉れた部分の潰れが激しく、右側縁裏面には縁部を潰した際に付いたと考えられる直交方向の擦痕が残る。産地分析では十勝三設産という結果が得られている。2は舌部の折損品である。1と同様に下端部からの加工がみられ、角張った形態である。また、側縁にも潰れが認められる。3は小型の尖頭器の先端部で、有舌尖頭器の可能性もあるが、不明である。

4～32は有舌以外の尖頭器で、4～18は完形品、19～32は折損品である。4～10は剥片素材で長さ15cm以下のものである。4・5は縦長剥片ないし剥片を素材に剥離軸と器体長軸が一致し、6～10は横長剥片を素材に剥離軸と器体長軸が直交している。4は平坦打面から剥離された素材で背面には横方向からの剥離がみられる。二次加工は正面には縁部のみ急角度の、裏面は先端部のみ平坦な加工が行われる。5は素材の原面打面が残り、裏面には素材面が残存している。6・8は両面とも主に一方の側縁から加工がなされ、縁部はやや潰れている。その特徴から細石刃核の母型の可能性がある。7は加工の度合いが少なく、尖頭器に近い形態の素材が利用されている。11～13は15～25cmのもので石核素材と考えられる。11は平坦剥離で比較的良好な形態に整形されているが、中央の球粒で折損している。12は平坦剥離によって薄手に加工されている。13は細長い角縁素材で、中央で折損後、再加工が行われるが尖頭部は作出されずに遺棄されている。14～16は15cm以下の厚手で幅広の尖頭器である。15・16には素材面が残り、厚手の剥片素材である。17・18は25cm以上の大型の尖頭器である。両者とも角縁素材で粗い加工の途中で折損している。18は折損後、再加工が行われるが、加工途中で遺棄されている。19～21は薄手の尖頭器の折損品である。厚さ10mm以下で素材面は残存せず加工の進んだ段階と考えられる。21は平坦剥離による加工後、一部縁部に平行剥離が行われている。22・23・25は厚さ20mm前後と厚手で加工も粗く、比較的初期の段階で折損したものと考えられる。23・25は角縁面が残る。24は安山岩製の剥片素材で小型のものである。縁部が平坦剥離によって加工されている。26～29は厚さ20mm以下で主に平坦剥離によって加工されたものである。26・27の縁部に細かい剥離がみられるが大部分は平坦剥離面が残り、その段階で折損したものと考えられる。30は粗い加工の段階で折損したもので角縁面が残る。31・32は平坦剥離による加工段階で折損したものであるが、折損後折れ面から縁部に桶状の剥離が行われる。

両面調整石器 (図IV-215-33、図版148)

8点(1個体)を図示している。33は小型の角縁素材でほぼ円形に加工される。両面とも大きな剥離で加工され、裏面の縁部に頭部調整状の潰れた加工が行われる。

細石刃 (図IV-215-34-102、図版148・149)

69点(11個体とI層出土29個体とII層出土21個体とIII層出土8個体を加えた69個体)を図示している。34～62は完形、63～87は頭部、88～92は中間部、93～102は先端部である。34・35は後付の細石刃で、34は細石刃剥離段階の最初に剥離されたものである。両者とも後部は左右からの剥離で形成され、側面縁は直線的ではなく弧状である。また、背面右側に細石刃核右側面の素材面が残存している。完形品の長さは20～30mmにはほぼ収まり、幅は4～6mmで規格性が高い。折損品も含め、幅は4～6mmのものが多いが、84～87は長さ・幅共に大型で、剥離された細石刃核の大きさが異なると考えられる。二次加工がみられるのは84のみで右側縁全体に微細な加工がなされている。66の背面上部右側縁には先行の細石刃剥離後に行われた作業面からの加工痕が残る。細石刃の打面は全て単調打面である。背面右側には細石刃核に残る素材腹面がみられるものが多く、素材面を取り込む細石刃はねじれが強い。遺跡には素材面を残さない直線的な細石刃より素材面を残すねじれの強いものが多く、前者は搬出され、後者が遺棄されたと考えられる。以上のことからほとんどの細石刃は20～

30mmの作業面長の特下型細石刃核から剥離されたものと考えられる。

細石刃核 (図Ⅳ-216-103~図Ⅳ-218-137、図版149~150)

40点(24個体とI層出土11個体を加えた35個体)を图示している。103~117は細石刃剥離痕のあるもの、118~137は細石刃剥離痕の無いものである。103~115は削片剥離によって打面を作出するもの、116・117はそれ以外のものである。103~110は素材の縁辺部のみに加工のみられるもの、111~115は左右側面の大部分に加工のみられるものである。116は縦長削片素材で、素材形状が細石刃核未製品に類似し、左側面は下縁部のみに右側面はほぼ全体に加工が施され、細石刃が剥離されている。甲板面の作業面付近は欠損しているため、削片剥離が行われたかどうかは厳密には不明である。117は素材腹面を甲板面に設定し、両側面とも主に甲板面からの加工で整形されている鋭加型細石刃核である。103は素材剥離軸に直交する方向で削片剥離を行い、削片剥離の先端側から細石刃剥離を行っている。104~110は素材の剥離軸と同一方向で削片剥離を行い、削片剥離の打面側で細石刃剥離を行っている。104・106~108・110は素材背面に残る剥離面と腹面の剥離面の方向が一致し、単設の石核から剥離された縦長削片ないし石刃を素材としている。105は背面と腹面の剥離面の方向が逆で、両設打面の石核から剥離されたと考えられる。109は背面が原礫面で覆われている。104の甲板面には裏面からの削片剥離が認められるが、作業面付近にはその剥離を切る正面からの削片剥離面が一部残り、正面からの削片剥離打面から細石刃が剥離されている。素材の打面側を細石刃剥離作業面に利用しているのは105・107・110、先端側を利用しているのは104・106・108・109で偏りはみられない。107は表面に折れ面があるが、削片剥離・周縁加工に切られている。全体的に作業面は素材腹面側に回り込む傾向がある。103~110の細石刃核は全て甲板面の削片剥離が他端に抜けるか、ウートラパッセ状に下縁に抜けている。また、甲板面からの加工のみられるのは108のみで上面の境の高く突出した部分が加工されている。111~114は全て削片が他端まで抜けずに途中でヒンジになっている。ヒンジによって残った段差を右側面からの加工によって除去し、側面視が直線的になるようにしている。111・112・115は右側面に甲板面を切る加工のみられる。これらの細石刃核は削片剥離とそれに伴う加工の結果、加工範囲が広いと考えられる。細石刃剥離痕のある細石刃剥離作業面長は21~27mmのものが多く、この数値は完形の細石刃長と一致する。また、甲板面と作業面の角度は60度前後である。加工が縁辺部に限定される細石刃核は幅が10mm以下のものが多く、両面調整に近い細石刃核幅は10mm以上である。10mm以上の素材のものは母型作成段階ないし削片剥離段階で加工の度合いを高めることによって細石刃核幅を減少させていると考えられる。

118~131は縁辺部のみ加工が行われる未製品である。全て、縦長削片ないし石刃素材で素材剥離軸と石器長軸が一致する。素材の打面側から削片を剥離しているのは118・122・127~130で、先端側から剥離しているのは119~121・125である。123は上下に削片剥離がみられ、124・126は左右から削片が剥離されている。118~121は削片剥離が直線的ないしウートラパッセで他端まで抜けているものである。118は削片打面部のみ加工のみられる。119は削片に切られる細石刃剥離痕が一条認められる。加工は左側面の縁辺全体に及んでいるが細石刃剥離部が最も急角度である。120は甲板面の側面形が弧状になっており、最も突出した部分に右側面から甲板面に加工が施される。その後、削片剥離が行われるが、打面周辺が潰れている。121は裏面に残る折れ面を加工が切っている。数回の細石刃剥離痕が残る。122は削片が他端まで抜けていない。最終的には削片剥離の打面部が潰れて遺棄されている。123は上下で削片が剥離されるが両方とも腹面側に傾いて細石刃は剥離されていない。124は両端から削片が剥離されるが中央で折損し、細石刃はわずかに剥離されるのみである。125は左側面に甲板面を切る調整がみられ、最後に幅広い細石刃が剥離されている。126は裏面からの削片剥離後、左側面

に甲板面と下縁から調整が行われる。裏面からの削片剥離後に正面からの削片剥離が行われ、さらにその後、右側面から甲板面中央部に調整が行われる。127は折れ面を切る加工がある。128は削片剥離後右側面調整が行われ、さらに削片剥離、右側面調整が行われる。129は細石刃剥離作業面のみ加工が行われ、削片が剥離されるが、甲板面は素材腹面側に傾き、幅も狭い。130は上面・作業面とも削片状の剥離がみられる。通常、峙下型細石刃核は細石刃剥離面を正面に据えた場合、素材背面が左側面に素材腹面が右側面になり、主に左側面である素材背面に加工が施されるが、130はその逆である。131は折損品であるが、上面の加工が急角度で他の細石刃核に類似すること、同一母岩（母岩153、図IV-276・277）に同様の加工のある細石刃核があることから細石刃核の折損品と分類した。132~137は両面のほぼ全体に加工のあるものである。132~134は削片剥離後の加工はみられず、両面調整の母型から削片が剥離されたものと考えられる。135~137は削片剥離に伴う側面調整が行われている。135は削片剥離後、左側面は甲板面から、右側面は下縁から側面調整が行われている。136は削片剥離後、右側面が上下から調整され、甲板面からの調整は削片剥離によって波打った頂部を中心に行われている。最後に裏面からの削片剥離が行われる。137は上面に削片剥離に切られる横位の調整痕があり、断面V字形の母型が準備された可能性がある。削片剥離後、左側面は上下から右側面は裏面付近が下縁から調整されている。細石刃核未製品の長さはほぼ10cm以下である。

細石刃核削片（図IV-218-138~図IV-223-233、図版150~153）

143点（49個体とⅠ層出土34個体とⅡ層出土11個体とⅢ層出土2個体を加えた96個体）を図示している。138~152は一次削片である。138~146は上面が素材腹面である右側面からの連続した加工のみで調整された細石刃核母型から、147・148は上面が部分的な加工によって調整された細石刃核母型から、149・150は上面が左右両面からの加工によって調整された細石刃核母型から、151・152は上面が素材腹面である左側面からの連続した加工のみで調整された細石刃核母型から剥離された一次削片である。

153~233は二次削片である。153~221は両面調整以外の細石刃核から剥離された断面が四角形の二次削片で153~188は完形、189~221は折損品である。153~180は側面形が直線的な、181~188は末端部に反りやウトラパッセがみられる二次削片である。先行の削片剥離後に3種類の加工が行われる。一つは先行の削片がヒンジになり、その末端部を右側面から除去し、上縁部を直線的にする加工である（154・161・162・165・170・171・175・184・187・188・194・198・215・218・220・228）。一つは甲板面から側面、特に削片剥離打面近くに行われる加工である（155・161・162・166~169・171・173・176~178・181・185・190・192・194・196~205・209・211・222・221・226・233）。そして、側面から甲板面に行われる加工である（158・160・161・168・171・172・174・178・180・183・189~192・203・222）。222~228は断面三角形のものであるが全て末端部で剥離が最後に左右側面に傾く傾向がある。229~231は両面調整の細石刃核から剥離されたもので両面加工の母型の存在を示している。このうち230・231は15cm以上で他の削片と比べ極端に長く、細石刃核の素材が異なると考えられる。232・233は断面がV字形の細石刃核母型から剥離されたものである。上面は数枚の大きな平坦面で構成されるが、上面を切る素材面が左側面に有ることから上面は素材面と考えられ、楔形の細石刃核に類似した素材の背面・腹面を加工することによって断面V字形の母型を作成している。削片全体では長さは147・185・188・230・231を除いて10cm以下であり、細石刃核未製品の大きさと対応しているが、230・231は15cm以上で剥離された母型の素材の大きさが異なっていたと考えられる。

舟底形石器 (図Ⅳ-224-234-図Ⅳ-227-264、図版153-155)

36点(20個体とⅠ層出土7個体とⅡ層出土2個体とⅢ層出土2個体を加えた31個体)を图示している。234-238はⅠ類で、234-236は完形、237・238は折損品である。234・235は両端で、236・237は片側で本類に特徴的な細石刃状の縮状剥離が行われている。全て剥片素材と考えられ、石器長軸と素材剥離軸が一致する。完形品である234-236は全て25×10×5mmで、同様な形態である。237・238は、長さは異なるが幅・高さはそれらと類似する。加工は甲板面・下縁の両方から行われ、234を除いて下縁からの加工が切っており、最終調整は下縁から行われている。石質は全て茶に黒が混じる石質4である。上白滝5遺跡(直江ほか 2002)で確認された二重バティナは確認できない。

239-264はⅡ類である。239-257は完形、258-264は折損品である。甲板面がネガ面で剥片を剥離した石核素材と考えられる243・250・255、甲板面が原礫面で原石を素材としていると考えられる264を除いて全て厚手の剥片ないし縦長剥片素材で、それらは244を除いて石器長軸と素材剥離軸が一致する。素材の打面の残るものは全て単剥離打面ないし原礫面打面である。石器の端部に素材面を持つものが多く、また、それらに原礫面が多いことから素材は石器の長さともあまり変わらない小型の原石から剥離されたもので、素材の長さを大きく変えないような加工がなされたと考えられる。但し、257は甲板面が平坦で15cm越える大型の剥片素材である。転礫面を持つもの(239・244・245・247・249)と平滑な原礫面を持つもの(240・246・248・252-255・259・260・264)があり、転礫・角礫両者が利用されている。加工は主に甲板面から行われるが、下縁から行われるものもある。251は甲板面に止面からの削片状の剥離痕がある。257は大型の剥片素材で甲板面からの加工も比較的細かく、それらを切る下縁からの加工により下縁の稜線が直線的になり、側面も比較的平坦で形態的に整っている。262・263は高さ比べ、幅が小さい。264は甲板面が平坦な角礫面で、おそらく原石から加工されたと考えられる。

ナイフ形石器 (図Ⅳ-228-265、図版155)

1点(1個体)を图示している。265は石刃素材で背面部に急角度の、右側縁に平坦な加工がなされている。基部は両側縁とも攪り潰され、背面部中央の稜線も潰れている。基部腹面には側縁と平行する擦痕が認められる。

彫器 (図Ⅳ-228-266-274、図版155)

9点(6個体とⅠ層出土3個体を加えた9個体)を图示している。266はⅠ類、267-274はⅡ類の彫器である。素材は全て縦長剥片・石刃と考えられるが、頁岩製の267・271は厚さ10mm以上で黒曜石製に比べ厚手である。打面の残る266・273・274は全て頭部調整のある単剥離打面の石刃核から剥離されている。267を除いて全て背面部全周縁に加工があり、266・273・274以外は腹面部に加工がある。彫り面は全て左肩に作出され、267・270以外は素材の先端側である。Ⅱ類のものは全て背面部先端部調整が行われるが、Ⅰ類には行われない。267・271は先行の彫り面作出後、彫り面末端部が裏面から調整されている。

彫器削片 (図Ⅳ-228-275-280、図版155)

6点(Ⅰ層出土2個体とⅡ層出土1個体とⅢ層出土3個体を加えた6個体)を图示している。275・276はⅠ類の彫器から剥離されたものである。275は先行の削片剥離後、彫器裏面から彫り面に加工が行われた後に剥離されている。277-280はⅡ類の彫器から剥離されたものである。277・278は末端部、279・280は完形である。277はめのう製で背面部先端部調整がみられる。278は彫り面末端部が彫器裏面から加工された後に剥離されている。279・280には背面部先端部調整痕がある。

攪器 (図Ⅳ-228-281-図Ⅳ-230-305、図版155-157)

27点(21個体とI層出土3個体とII層出土1個体を加えた25個体)を図示している。281~300は完形、301~305は折損品である。281~295は石刃・縦長剥片素材、296~300は剥片素材である。281は頁岩、282はめのう製である。282・303以外は刃部以外に加工があり、側縁全体に急角度の加工のあるものが多い。刃部は、283・285~287・289・296は急角度の加工で比較的直線的に加工されるが、それ以外は鋭角の加工で円形に加工されている。297・298は両面調整である。301・305は20cm程度の大形石刃素材である。

錐形石器(図IV-231-306~311、図版157)

7点(3個体とI層出土3個体を加えた6個体)を図示している。306は頁岩、307はめのう製である。全て石刃・縦長剥片素材と考えられる。306~308は両端に刃部が作出され、一端は中軸線上に、もう一端は斜めに作出されている。309は12cm程度の石刃の打面側に刃部が形成される。310は主に背面の加工で刃部が作出されるが腹面も加工されている。311は錯向剥離によって刃部が形成される。刃部以外に加工のあるものは308・310で縁辺に細かい剥離があるのみである。

削器(図IV-231-312~316、図版157)

6点(4個体とII層出土1個体を加えた5個体)を図示している。312は安山岩、315は頁岩製である。剥片素材である312以外は石刃素材である。312は薄い剥片素材で右側縁に平坦剥離がみられる。313・314は縁辺に比較的急角度の加工があり、部分的に平坦剥離が施される。315は18cmの大形石刃の左側縁に部分的に加工が施される。316は20cm以上の大形石刃素材で背面ほぼ全体を覆う平坦な加工が施されている。

二次加工ある剥片(図IV-232-317~321、図版158)

8点(4個体とI層出土1個体を加えた5個体)を図示している。321以外は石刃素材である。317・318は部分的な平坦剥離で加工されている。319は調整打面の石刃素材で打面付近に錯向剥離が行われる。320は中央に上下の破片にまたがるノッチ状の剥離があり折損しているが、その後、上部破片の折れ面付近が再加工されている。昨下型細石刃核に折れ面を持つものがあることから湾曲の度合いの強い先端部をノッチによって折り取り、昨下型細石刃核のブランクを作成した途中の形態である可能性が高い。321は頁岩製で鋸歯縁状に5か所の突起が作出されている。

石刃・剥片(図IV-232-322~図IV-236-343、図版158~161)

石刃は44点(21個体)、剥片は1点(1個体)を図示している。322は複剥離打面を持つものである。左側面には正面からの剥離痕があり、作業面転移が行われたと考えられる。323~339は完形品である。323・324は打面調整のみされるものである。324は左側縁に右核調整痕が残る。325~327は単剥離打面を持つが頭部調整はみられない。328~331・334~338は単剥離打面を持ち、比較的軽微な頭部調整がみられる。338は稜付石刃である。332・333は打面が潰れて形状は不明である。332の裏面には側面からの石核調整がみられ、333の正面下部には稜調整の痕が残る。339は最初に剥離された石刃で頭部調整・打面調整がみられる。石刃剥離に先立つ稜調整はみられない。340~342は折損品である。342の右側面には石刃剥離途中段階での稜調整、裏面の石核調整がみられる。343は背面に平行する稜の残る幅広の剥片である。332・342のような石刃核の裏面を取り込むウトラパッセの石刃剥離の結果、石刃核高が低くなり、剥離されたと考えられる。

石刃核(図IV-236-344~図IV-240-356、図版161~164)

15点(11個体とI層出土2個体を加えた13個体)を図示している。344~347は背後から左右側面に石核調整を行い、横断面が鋭角の扇形となる母型を製作後、石刃剥離が行われている。下縁からの調整がみられるが、打面は上設の単剥離ないし複剥離打面に固定され、頭部調整を行わないで10cm以

下の石刃が剥離されている。348～350・352・356は上設の単剥離打面から頭部調整を伴う石刃剥離が行われた石刃核である。348・349・356は転礫素材、350・352は角礫素材である。348・349の側面には正面からの石核調整が、350の裏面には横方向の石核調整がみられる。356の石刃核高は17cmで大型である。351は転礫素材の内設の石刃核である。打面は上下とも単剥離打面で軽微な頭部調整を伴って石刃が剥離される。353～355は複剥離打面を持ち、頭部調整のある石刃核で354のみ内設打面である。353・354は転礫素材、355は礫形状不明である。354・355は背後から石核調整が行われている。石刃核高は17cm以上で大型である。

石核 (図Ⅳ-240-357～図Ⅳ-243-365、図版163～166)

17点(8個体とI層出土1個体を加えた9個体)を図示している。357は垂角礫素材で正面中央に大きな剥離痕のあるものである。358・359・361は、裏面では上・左・右の三方向から、正面では主に上から剥離が行われる円盤状の石核である。裏面の左右からの剥離は石核調整、上からの剥離は正面作業面の打面調整と考えられ、正面では縦長の剥片が剥離されている。358は角礫、359は転礫素材、361は礫形状不明である。360は角礫素材で両設打面の石核である。上設打面は単剥離打面、下設打面は打面調整のある複剥離打面である。右側面には裏面からの側面調整がみられる。362は転礫素材で大きな剥離による打面作出後、剥片が剥離されている。363は転礫素材で上面・正面・右側面に三方向からの剥離がみられ、打面転移が行われている。364は左右側面での剥片剥離後、裏面・正面で縦長の剥片が剥離されている。打面は大きな剥離で作出される単剥離打面であるが、左側面縁辺では部分的に打面調整が行われる。365は転礫素材で裏面には横方向の剥離が行われ、上面・正面で交互に剥離が行われている。

斧形石器 (図Ⅳ-244-366、図版167)

1点(I層出土1個体)を図示している。366は安山岩製である。正面左側に原礫面が残り、大型の剥片素材と考えられる。正面・裏面共に平坦剥離で加工され、刃部は長軸方向の剥離によって直線的に整形されている。

台石 (図Ⅳ-244-367、図版167)

1点(1個体)を図示している。367は安山岩製である。正面は平坦で下方向になだらかに傾斜し、裏面は剥落している。

石器ブロック14 (Sb-14) の分布 (図Ⅳ-245、表Ⅳ-5・6)

H66・67、167区の8×5mの範囲で確認されたが、斜面部である東側に若干分布が広がると思われる。H67区は密度が高く、傾斜方向である東西方向に分布が伸びている。尖頭器3点、搔器1点、削器4点、二次加工ある剥片1点、石刃1点、縦長剥片4点、石刃核3点、石核4点、剥片1,473点の計1,484点、重量8,554.1gの石器類が出土した。石核類が多く、集中域の外縁部に分布する。細石刃は幅広いものが出土している。石材は黒曜石1が最も多く92%を占め、以下黒曜石5(4.7%)、黒曜石4(2.0%)、黒曜石3(1.1%)、黒曜石2(0.1%)、頁岩(0.1%)である。

石器ブロック15 (Sb-15) の分布 (図Ⅳ-245、表Ⅳ-5・6)

I～K67区の11×4mの範囲で確認されたが、斜面部である東側に若干分布が伸びると思われる。I67、K67区の2か所に集中域が認められるが、比較的密度は低い。搔器4点、削器9点、二次加工ある剥片2点、細石刃1点、石刃10点、縦長剥片10点、石刃核1点、剥片231点の計268点、重量2,454.9gの石器類が出土した。搔器・削器が多く、搔器はK67区の集中域の外縁部に、削器は大型の石刃素材で背面を覆う平坦な二次加工によるものがあり、主にK67区に分布する。石材は黒曜石

1が52.2%を占め、以下黒曜石4(28.4%)、黒曜石3(15.7%)、黒曜石2(1.5%)、黒曜石5(1.1%)、頁岩(1.1%)である。

石器ブロック16 (Sb-16) の分布 (図IV-246、表IV-5・6)

H65・66、I65～67、J67区の13×5mの範囲で確認された。高密度のH・I65区とそれ以外の散漫な分布に分けられる。尖頭器16点、両面調整石器3点、ナイフ形石器1点、搔器6点、削器4点、舟底形石器1点(Ⅱ類1点)、細石刃核1点、石刃5点、縦長剥片9点、石刃核5点、石核4点、削片4点(細石刃核削片4点)、剥片654点の計718点、重量13.113.1gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が50.8%を占め、以下黒曜石4(21.4%)、黒曜石5(20.9%)、黒曜石3(5.2%)、黒曜石2(0.7%)、頁岩(0.4%)、安山岩(0.3%)、めのう(0.1%)である。尖頭器は厚手で幅広のものが多く、I66区周辺に分布する。細石刃・細石刃核削片・細石刃核の細石刃関連資料はH65区にまとまって分布する。石核類は単剥離打面と幅広の作業面を持つものと調整打面と幅の狭い作業面を持つものがあり、それらは分布を異にし、それぞれH・I65区とI・J67区に分布する。

石器ブロック17 (Sb-17) の分布 (図IV-247～254、表IV-5・6)

H63～65、I62～66、J60～66、K60～66、L60～65区の28×17mの範囲で確認された。A区の中で最大のブロックである。尖頭器22点、両面調整石器9点、彫器6点、搔器10点、削器23点、錐形石器2点、舟底形石器22点(Ⅱ類22点)、二次加工ある剥片13点、細石刃24点、細石刃核27点、石刃162点、縦長剥片124点、石刃核4点、石核17点、削片79点(細石刃核削片77点、尖頭器削片2点)、剥片8,394点、台石2点、原石8点の計8,953点、重量138,954.1gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が65.9%を占め、以下黒曜石4(19.8%)、黒曜石5(8.6%)、黒曜石3(4.9%)、黒曜石2(0.5%)、頁岩(0.07%)、安山岩(0.06%)、めのう(0.03%)、珪岩(0.01%)である。彫器・舟底形石器は黒曜石4が多く、細石刃・細石刃核削片・細石刃核の細石刃関連資料は黒曜石1・5が多い。細石刃関連資料はH64・65、I64・65、J63・64、K62・63区に分布するが、細石刃と細石刃核削片は分布がほぼ重複し、細石刃核はやや北側(I64・65区)にずれ、それらには細石刃核未製品が多い。舟底形石器も細石刃関連資料と分布が重複し、小型の舟底形石器であるⅠ類も同様でこれらを積極的に分離することは不可能である。尖頭器はJ62区周辺とK63・64区周辺の2か所にまとまり、前者には剥片素材の15cm以下の尖頭器が、後者には石核素材の20cm以上の大型尖頭器が含まれる。有舌尖頭器は両者のはずれであるK62区から出土している。彫器は細石刃関連資料の東側から出土し、その他のツールは全体的に分布している。石核類は全体的に分布するが、I63・64区周辺のものは平坦打面と幅広の作業面を持つものが多く、K61・63区には複剥離打面の石刃核が分布する。以上の石器分布から本ブロックは細石刃核関連資料と舟底形石器が分布するI64、J63・64区周辺、剥片素材の尖頭器が分布するJ62区周辺、大型の尖頭器が分布するK63区周辺の3か所に分けられる。

石器ブロック18 (Sb-18) の分布 (図IV-255、表IV-5・8)

H60～63、I60～62、J60・61区の17×8mの範囲で確認された。低密度の小規模な集中域がみられる。彫器1点、削器3点、舟底形石器1点(Ⅱ類1点)、石刃2点、縦長剥片2点、石核2点、削片1点(細石刃核削片1点)、剥片322点の計334点、重量6,999.0gの石器類が出土した。石材は黒曜石4(47.6%)と黒曜石1(43.7%)で90%を占め、以下黒曜石5(7.2%)、黒曜石3(0.6%)、黒曜石2(0.3%)、めのう(0.3%)、泥岩(0.3%)である。剥片以外の石器は散漫に分布している。

石器ブロック19 (Sb-19) の分布 (図IV-256、表IV-7・8)

L60～65、M60～65区の23×6mの範囲で確認された。尖頭器21点、両面調整石器1点、搔器3点、削器6点、錐形石器3点、舟底形石器5点(Ⅱ類5点)、二次加工ある剥片1点、石刃9点、縦長剥

片16点、石核5点、削片3点（細石刃核削片2点、尖頭器削片1点）、剥片1,840点の計1,913点、重量18,646.5gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が71.5%を占め、以下黒曜石5（21.2%）、黒曜石3（4.6%）、黒曜石4（2.4%）、頁岩（0.1%）、安山岩（0.1%）、黒曜石2（0.05%）、めのう（0.05%）、碧玉（0.05%）である。20cmを越える大型の尖頭器片が多く、L61・62区にまとまっている。

石器ブロック14～19（Sb-14～19）の接合状況（図Ⅳ-257）

全体的には接合分布は各ブロック内での小集約域を単位としてまとまるが、ブロックや地区をまたがる接合資料もある。

母岩別資料163・接合資料1194（図Ⅳ-258、図版169-1）

母岩別資料は接合1194の他、接合1195・51087、剥片26点で構成され、総点数100点、総重量844.4gである。

素材 54点（39個体）が接合し、重量は648.7g、大きさは24×13×5 cmである。平滑な原礫面と潰れた角を持つ重角礫素材で粗加工された両面調整体で搬入されている。

剥離工程 段階1～5は遺跡内での初期段階である。段階2では突出した後部を除去するように加工が行われ、段階4・5では原礫面が残る先端部を薄く尖らせるように加工されている。段階6の尖頭器30が折損した後、段階7～12の再加工が行われる。段階7・12・13は折れ面周辺の尖頭部作出のための剥離で、段階8・9は縁辺全体の剥離である。段階8以降の加工によって断面が凸レンズ状になり、遺跡から搬出されている。

分布 Sb-17・19のK62～64、L61～64区に斜面方向に伸びるが、比較的まとまった分布を示している。

母岩別資料144・接合資料1154（図Ⅳ-259～262、図版168）

母岩別資料は接合1154の他、接合1155～1163・51077・51079、剥片79点で構成され、総点数288点、総重量3,743.7gである。

素材 167点（105個体）が接合し、重量は3,365.1g、大きさは25×23×12cmである。爪状痕のある比較的扁平な転礫素材で原石で搬入されている。

剥離工程 裏面右下からの剥離の後、正面左側面からAが剥離された際にB～EとF・Gの2つに分割される。B～Eの個体ではB～Dが正・裏面で交互に剥離される。F・Gの個体では分割面を打面としてFが剥離される。個体A～Fはそれぞれ尖頭器に加工されている。

個体A～C・E～Gは最初、縁辺部の調整を伴わない縁辺から5～10mmを加撃する粗い加工が行われた後、縁辺部の調整を伴う打面の小さい剥片が剥離される加工が行われ、断面が凸レンズ状の尖頭器が製作されている。個体Dは粗い加工の段階で遺棄されている。個体A～C・E～Gから製作された尖頭器は断面凸レンズ状の端正な形態で搬出されたと考えられる。

分布 Sb-17・18のH60・61、I61～63、J60～62・64区にまとまって出土し、個体毎に分布の違いはみられない。

接合資料2640（図Ⅳ-263、図版169-2）

素材 5点（3個体）が接合し、重量は30.0g、大きさは13×3×1.2cmである。原石形状は不明であるが石刃素材である。

剥離工程 母型作成：石刃の先端傾を細石刃核基部に、打面側を細石刃剥離作業面に設定し、背面周縁と腹面下縁部・基部周辺に加工を施している。上面の加工のみ急角度で断面はV字状である。

削片剥離：一次削片は欠落している。先行の削片剥離後、甲板面を右側面から加工し、削片剥離打

面周辺には左側面に甲板面から加工を行った後、168が剥離される。168は末端部がヒンジであり、剥離後甲板面に段差が残る。その段差を除去するように右側面から加工が行われ、再度甲板面から左側面に加工を施した後に161が剥離されている。

細石刃剥離: 細石刃核114の細石刃剥離作業面は甲板面上の打点のある長軸方向の剥離に切られているが、細石刃剥離作業面を観察するとその打点位置は削片161の腹面の位置に推定され、削片161を剥離した面が細石刃剥離打面になっていたと考えられる。細石刃剥離は削片161の打点位置から細石刃核作業面の位置まで長さにして7 cm分行われている。この間、打面再生は行われず、細石刃剥離終了後、甲板面に長軸方向の剥離がなされている。細石刃が剥離された甲板面の面積を $70 \times 12\text{mm}$ 、細石刃の平均的な幅を5 mm、厚さを1.5mmとすると220本程度の細石刃が剥離された計算になる。

分布 Sb-17のI64区に全て分布している。

接合資料2642 (図IV-263、図版169-3)

素材 4点(3個体)が接合し、重量は15.3g、大きさは $8 \times 3 \times 0.9\text{cm}$ である。原石形状は不明であるが、石刃素材である。

剥離工程 母型作成: 石刃の打面側を細石刃核基部に、先端側を細石刃剥離作業面に設定し、背面の基部周辺には鋭角の、下縁部には細かい加工を、腹面の下縁部・基部周辺には平坦な加工を施している。

削片剥離: 一次削片は欠落している。先行の削片剥離後、部分的に甲板面を右側面から加工し、214が剥離される。214はほぼ他端まで達している。その後、甲板面の中央部まで達しない削片が2本剥離された後、それらの後付近を右側面から加工して183が剥離されている。183は下縁に抜け、細石刃核の甲板面の側面形は弧状になっている。183の打面部には細石刃状の剥離痕が残るが、連続して剥離されたものではない。

細石刃剥離: 183が剥離された後、細石刃が剥離されるが、甲板面の再生は行われず、細石刃核106が遺棄される。細石刃剥離作業面に残る最終剥離面はヒンジになっている。細石刃剥離は削片183の打点位置から細石刃核作業面の位置まで長さにして2.8cm分行われている。細石刃が剥離された甲板面の面積を $28 \times 7\text{mm}$ 、細石刃の平均的な幅を5 mm、厚さを1.5mmとすると50本程度の細石刃が剥離された計算になる。

分布 Sb-17のI64、I63・64区に分布している。

接合資料2644 (図IV-263、図版169-4)

素材 2点(2個体)が接合し、重量は10.2g、大きさは $6 \times 2.2 \times 0.9\text{cm}$ である。原石形状は不明、背面と腹面の剥離方向が反対の石刃ないし縦長剥片素材と考えられる。

剥離工程 母型作成: 素材の先端側を細石刃核基部に、打面側を細石刃剥離作業面に設定し、背面はほぼ全周縁に、腹面は下縁部に加工を施している。

削片剥離: 218の上面はほとんどが右側面からの加工であるが、端部に長軸方向の剥離が残っている。このことは本削片が一次削片ではなく先行する削片剥離の後、甲板面全体をほぼ右側面からの剥離によって一新する加工が行われていたことを示している。その後、218が剥離される。細石刃核105の左側面には細石刃剥離作業面付近に削片剥離段階で行われたと考えられる上面からの剥離痕がある。最終削片である218はウートラバッセで下縁部に抜け、甲板面の側面形は「 \wedge 」の字状になる。

細石刃剥離: 218の打面部が欠損しているため、細石刃剥離がどの程度行われたか不明であるが、打面再生は行われず細石刃が連続的に剥離されている。

分布 Sb-17のI64、I62区に分布している。

接合資料2748 (図IV-264、図版169-5)

素材 2点(2個体)が接合し、重量は17.9g、大きさは7.4×2×0.8cmである。平滑面のある角礫から剥離された縦長剥片を素材としている。素材の打面は単剥離打面で頭部調整が認められる。

剥離工程 母型作成：石刃の打面側を細石刃核基部に、先端側を細石刃剥離作業面に設定し、背面の上縁には急角度の、下縁部には細かい加工を、腹面の下縁の一部には平坦な加工を施している。

削片剥離：一次削片は欠落している。先行の削片剥離後、甲板面のヒンジによる段差を右側面から除去し、IV-579-47が剥離される。IV-579-47は下縁に抜け、細石刃核の甲板面の側面形状は「へ」の字状になっている。

細石刃剥離：IV-579-47の打面部分が欠損しているため、細石刃剥離がどの程度行われたか不明であるが、打面再生は行われずに細石刃が連続的に剥離されている。細石刃核作業面はヒンジになり、遺棄される。

分布 Sb-17のJ63区に分布している。

接合資料2639 (図IV-264、図版170-1)

素材 5点(3個体)が接合し、重量は857.7g、大きさは8.4×2.8×1.1cmである。原石形状は不明、両面とも加工が多く、素材形状は不明であるが剥片ないし石刃素材と考えられる。

剥離工程 母型作成：左側面は、上縁は比較的大きい剥離で、下縁は小さい剥離で加工され、右側面は下縁・基部に加工が施される。

削片剥離：一次削片は欠落している。先行の削片剥離後、その末端部を左右から、右側面を部分的に加工した後、229が剥離される。229の打面には細石刃状の剥離痕があるが、連続的に剥離されたものではない。その後、229の剥離によってできた甲板面末端部の段差を除去する加工、甲板面に削片打面周辺、右側面から加工が行われた後に189が剥離される。189は中間部までしか到達せず、その末端部を右側面から加工し、また、左側面の削片打面近くを加工した後、162が剥離される。162の打面付近にも細石刃状の剥離痕があるが、連続的なものではない。

細石刃剥離：162の剥離面を打面として細石刃が剥離されるが、甲板面の再生は行われず、細石刃核111が遺棄される。細石刃核には削片162剥離後、下縁から剥離された加工痕があり、細石刃剥離直前ないし途中で細石刃核の調整が行われたと考えられる。細石刃剥離は削片162の打点位置から細石刃核作業面の位置まで長さにして4.3cm分行われている。細石刃が剥離された甲板面の面積を43×12mm、細石刃の平均的な幅を5mm、厚さを1.5mmとすると140本程度の細石刃が剥離された計算になる。

分布 全てSb-17の164区に分布している。

母岩別資料157・接合資料1186 (図IV-264、図版170-2)

母岩別資料は接合1186のみである。

素材 6点(5個体)が接合し、重量は28.6g、大きさは9.4×3.6×1.2cmである。平滑面を持つ角礫から剥離された剥片ないし縦長剥片素材である。

剥離工程 母型作成：素材の打面側を細石刃剥離作業面に、先端側を細石刃核基部に設定し、背面のみ全周縁加工を施している。削片160の打面部に残る剥離から削片打面周辺は背面側の急角度の剥離で調整されている。

削片剥離：一次削片は欠落しているが、先行の削片剥離後、甲板面の削片打面周辺、末端部付近を加工し、160が剥離される。160は他の削片と比べ打面厚が9mmと厚く、縁辺に平行ではなく斜めに剥離されている。その後、削片打面部を大きく再加工し、2cm程度短くなっている。次に154が

剥離され、2本削片が剥離された後、156が剥離される。その後、削片剥離面末端部の段差を右側面から除去した後、左側面に斜めに傾く削片が剥離され、さらに215が剥離されている。その後、甲板面の長軸方向に剥離が行われるが、打面から5mmでステップ剥離になり、細石刃が剥離されずに遺棄されている。

分布 全てSb-17の164区に分布する。

接合資料2645 (図IV-265、図版170-3)

素材 5点(3個体)が接合し、重量は28.9g、大きさは11×2.8×1.2cmである。原石形状は不明、石刃素材である。

剥離工程 母型作成：素材の背面・腹面とも縁辺部に細かい剥離で母型が作成されている。

削片剥離：一次削片は欠落している。接合資料の上面と削片192・166の切り合いから判断すると先行の削片剥離が正面・裏面から行われた後、裏面から192が剥離され、最後に正面から166が剥離されている。192の剥離に先だって右側面から甲板面に、甲板面から左側面に加工が行われ、166の剥離に先だって左側面に加工が行われている。両端共に細石刃状の剥離痕があるが、連続的なものではない。

分布 Sb-17のJ63・64、K63区に分布する。

接合資料2637 (図IV-265、図版170-4)

素材 6点(4個体)が接合し、重量は74.7g、大きさは10.8×4×2cmである。亜角礫から剥離された剥片ないし縦長剥片を素材としている。

剥離工程 母型作成：素材の打面側を細石刃核基部に、先端側を細石刃剥離作業面に設定し、背面の上縁には急角度の、下縁部の細石刃剥離作業面側には平坦な加工を、腹面の下縁の細石刃剥離作業面には平坦な、基部側には細かい加工を施している。削片剥離打面(細石刃剥離作業面)は左右両側面から稜状に形成される。

削片剥離：一次削片は欠落している。先行の削片剥離後、甲板面のヒンジによる末端部の段差を右側面から除去し、170が剥離される。甲板面の削片打面付近にできた段差を除去する左側面からの調整の後、172が剥離される。さらに、左側面の打面部付近・先行削片末端部付近、右側面から甲板面末端部の加工の後、173が剥離される。その後、甲板面から左側面に加工を行い、細石刃剥離作業面で細石刃状の剥離が行われるが、連続せずに細石刃核125は遺棄される。

分布 Sb-17の164区に分布する。

接合資料2638 (図IV-266、図版170-5)

素材 4点(4個体)が接合し、重量は65.7g、大きさは10×5.2×1.2cmである。原石形状は不明、縦長剥片素材である。

剥離工程 母型作成：素材の打面側を細石刃剥離作業面に、先端側を細石刃核基部に設定し、背面の上縁には急角度の、下縁には平坦な加工を、腹面の下縁には細かい加工を施している。裏面の折れ面を切る加工が両側面にみられ、折損後、左側面には折れ面から、右側面には下縁から加工が行われている。

削片剥離：素材背面側のみ加工のある断面三角形の一次削片146の剥離後、甲板面から左側面、甲板面の削片打面周辺に加工を行い、190が剥離される。190は左側面に傾く剥離で甲板面長軸に稜が残る。削片打面周辺の甲板面縁辺部を細かく加工した後、191が剥離されている。191は他端に達している。その後、細石刃核127は、細石刃が全く剥離されずに遺棄される。

分布 Sb-17のH64、I64区に分布する。

接合資料2643 (図IV-266、図版170-6)

素材 6点（4個体）が接合し、重量は125.7g、大きさは12×5.8×2.2cmである。原石形状は不明、剥片素材である。

剥離工程 母型作成：素材の打面側を細石刃剥離作業面に、先端側を細石刃核基部に設定し、背面の下縁には散漫に平坦な加工を、腹面の基部には連続的な加工を施している。

削片剥離：一次削片は欠落しているが、先行の削片剥離後、甲板面末端部に右側面から調整を行い、221が剥離される。次に、削片打面付近で甲板面から調整を行った後、204が剥離される。さらに、甲板面から右側面に加工が行われ、178が剥離されている。その後、甲板面から右側面に加工が行われるが、下縁まで達し、細石刃核128は遺棄される。

分布 Sb-17のJ63～65区に分布している。

接合資料2641（図Ⅳ-267、図版170-7）

素材 3点（2個体）が接合し、重量は20.1g、大きさは7.8×2.2×1.2cmである。原石形状は不明、剥片ないし縦長剥片素材である。

剥離工程 母型作成：素材の打面側を細石刃剥離作業面に、先端側を細石刃核基部に設定し、背面の下縁全体に加工を施している。腹面には細石刃作業面から加工が施されているが、基部側の加工は全て甲板面を切るもので、母型作成段階でどのような加工が施されたかは不明である。

削片剥離：一次削片は欠落している。細石刃剥離作業面側から末端部が波打つ削片剥離後、細石刃核基部側から削片剥離が行われ、腹面には細石刃核基部側の二分の一以上の範囲で甲板面・下縁から加工が行われる。その後、163が剥離され、そのまま細石刃核136は遺棄されている。

分布 Sb-17のI64区に分布する。

接合資料2654（図Ⅳ-267、図版171-1）

素材 2点（2個体）が接合し、重量は4.1g、大きさは5.7×0.8×1.2cmである。原石形状は不明、剥片ないし縦長剥片・石刃素材である。

剥離工程 母型作成：素材の打面側を細石刃核基部に、先端側を細石刃剥離作業面に設定し、背面の上縁に連続した加工を施している。その他の加工は不明である。

削片剥離：削片打面側には端部から長軸方向の剥離、上縁からの剥離による調整が行われ、一次削片138が剥離される。その後、無調整で164が剥離される。

分布 Sb-17のI64区に分布する。

接合資料2656（図Ⅳ-267、図版171-2）

素材 4点（3個体）が接合し、重量は5.6g、大きさは5.6×1.1×1cmである。原石形状は不明、剥片ないし縦長剥片素材である。

剥離工程 母型作成：素材の打面側を細石刃剥離作業面に、先端側を細石刃核基部に設定する。どのような加工がなされたかは不明である。

削片剥離：一次削片は欠落している。削片打面側が左右両面から稜状に調整された後、157が剥離される。その後、削片打面側から右側面にかけて細かい加工が行われ、155が剥離される。薄い削片剥離後、右側面から甲板面に細かい調整が行われ、158が剥離される。

分布 Sb-17のI64、J63区に分布する。

接合資料2655（図Ⅳ-267、図版171-3）

素材 2点（2個体）が接合し、重量は11.7g、大きさは7.4×2.6×1.3cmである。原石形状は不明、剥片ないし縦長剥片素材である。

剥離工程 母型作成：素材の打面側を細石刃剥離作業面に、先端側を細石刃核基部に設定する。細石

刀核作業面から腹面に平坦な加工が行われている。その他の加工は不明である。

削片剥離: 一次削片は欠落している。先行の削片剥離後、甲板面には削片末端部の段差を除去する加工が右側面から、削片打面周辺には正面から加工が行われ、左側面には甲板面から加工が行われる。その後、194が剥離され、再度甲板面から左側面に加工が行われ、169が剥離されている。194・169共に他端まで達していたと考えられる。

分布 Sb-17の164、J64区に分布する。

接合資料2652 (図IV-268、図版171-4)

素材 5点(4個体)が接合し、重量は36.1g、大きさは9.3×3.0×2.0cmである。原石形状は不明、削片素材と考えられる。

剥離工程 母型作成: 素材の打面側を細石刃剥離作業面に、先端側を細石刃核基部に設定する。背面は上縁に連続的な剥離を行い、腹面の削片打面周辺には細石刃核作業面から平坦な加工が、上縁には細石刃核基部側・削片打面付近に加工が行われているが、その他の加工は不明である。

削片剥離: 一次削片143の剥離後、甲板面から左側面に加工が行われ、201が剥離される。右側面のみを取り込む断面三角形の削片剥離後、甲板面から左側面に加工を行い、また、削片打面を稜状に作り直して177が剥離される。次に細石刃核作業面から左側面にかけて細かい調整がなされ、右側面中央に甲板面からの加工がなされた後、176が剥離される。

分布 Sb-17の164区に分布する。

接合資料2651 (図IV-268、図版171-5)

素材 11点(6個体)が接合し、重量は42.7g、大きさは11.6×3.6×1.6cmである。転蹠から剥離された削片ないし狭長削片を素材としている。

剥離工程 母型作成: 素材の打面側を細石刃剥離作業面に、先端側を細石刃核基部に設定し、上縁の背面側に急角度の部分的な剥離を行っているが、その他の加工は不明である。

削片剥離: 一次削片139の剥離後、210・212が連続して剥離されるが、端部が欠損しているため削片剥離に伴う調整の有無は不明である。次に左側面の甲板面末端部周辺に甲板面から加工が、甲板面の削片打面付近には左側面から加工が行われ、174が剥離される。その後、甲板面末端部には左右両面から稜状に加工が施され、左側面全体には甲板面から、甲板面には右側面から加工が行われ、幅が2mm程度細くなっている。その後、171が剥離され、再び甲板面末端部に両側面から稜状に加工が行われ、228が剥離される。

分布 全てSb-17の164区に分布している。

接合資料2658 (図IV-269、図版171-6)

素材 3点(2個体)が接合し、重量は11.2g、大きさは12.1×1.4×1.0cmである。原石形状は不明、石刃素材である。

剥離工程 母型作成: 素材の打面側を細石刃剥離作業面に、先端側を細石刃核基部に設定し、上縁の背面・腹面両面に鋭角の剥離を行っているが、その他の加工は不明である。素材の形状をほとんど変えずに上縁は直線的である。

削片剥離: 一次削片148の剥離後、195が剥離されるが、148剥離後も母型同様の直線的な素材縁辺形状が維持されている。

分布 Sb-17のJ63・64、K63区に分布している。

接合資料2659 (図IV-269、図版171-8)

素材 5点(3個体)が接合し、重量は18.3g、大きさは14.9×1.8×1.2cmである。原石形状は不明、

単剥離打面から剥離された15cm以上の比較的長い石刃を素材としている。

剥離工程 母型作成：素材の打面側を細石刃剥離作業面に、先端側を細石刃核基部に設定し、上縁の背面には削片打面周辺部と細石刃核基部側に、腹面には細石刃核基部側に加工が行われる。削片の打面部は腰部から背面にブッチ状の加工がなされている。その他の部位の加工は不明である。素材の形状をほとんど変えずに上縁は直線的である。

削片剥離：他端に及ぶ長い一次削片147の剥離後、甲板面のねじれた左側面に加工が行われ、196が剥離される。その後、217が剥離されるが、細石刃核の中央付近でヒンジになり、剥離が止まっている。

分布 Sb-17のJ63、K62区に分布する。

接合資料2660 (図IV-269、図版171-7)

素材 5点(4個体)が接合し、重量は10.3g、大きさは6.6×1.7×1.7cmである。原石形状・素材は不明である。

剥離工程 母型作成：接合資料の両側面ともネガ面で覆われている。左側面は長軸両方向・上から剥離され、右側面は上縁部から加工された面と考えられる。

削片剥離：先行の削片剥離後、右側面削片打面付近に調整を加え、稜状に調整された削片打面から200が剥離される。右側面全体を甲板面から加工し、改めて削片打面を稜状に調整し直し、199が剥離される。その後、左側面を調整し、断面三角形の224が剥離され、数本の削片剥離後、右側面に甲板面からの調整を伴う211が剥離されている。

分布 Sb-17のJ63・64区に分布する。

接合資料2657 (図IV-270、図版177-2)

素材 12点(7個体)が接合し、重量は225.9g、大きさは23.6×6.0×2.5cmである。原石形状・素材は不明である。

剥離工程 母型作成：主に上下からの剥離によって長さ約24cmの上縁が直線的で下縁が弧状の両面調整体が製作される。

削片剥離：まず断面三角形の一次削片149が剥離されるが、長軸方向の三分の一程しか達していない。その後、他端にはほぼ達する230が剥離された後、反対側から193が剥離される。次に、231が剥離されるが、下縁に抜けて、大きく器体の長さを減少させている。231の剥離によって細石刃核基部の形状が大きく変化したため下縁からの剥離で円く加工されている。甲板面から左側面への加工後、203が剥離され、さらに、甲板面から両側面への加工の後、202が剥離される。次にIV-579-48が剥離されるが、231同様下縁に抜けて大きく器体の長さを減少させている。最終形態は8×2×2cmの両面調整のある未製品であったと想定される。

分布 Sb-17・斜面部のJ63・64、K61・62・65・73、L74、O75区に散漫に分布する。剥離の順番による分布の違いはなく、高位部と斜面部で折れ面接合している。

接合資料2653 (図IV-271、図版170-9)

素材 2点(2個体)が接合し、重量は23.2g、大きさは6.3×3.0×1.4cmである。原石形状は不明、左側面・背面・腹面の三面で構成される断面三角形の削片素材である。

剥離工程 母型作成：素材の打面側を細石刃核基部、先端側を細石刃剥離作業面、背面を右側面、腹面を左側面に設定する。腹面である左側面には下縁から加工が行われ、背面である右側面には上下から加工が行われる。甲板面である上面は素材の平坦面が利用され、加工は行われず、素材の形態が利用されている。

削片剥離：一次削片は欠落している。先行の削片剥離後、233が剥離され、さらに232が剥離される。

233は他端に達していないが、232は下縁に抜けている。

分布 Sb-17のI64区に分布する。

母岩別資料101・接合資料1001 (図IV-272・273、図版172)

母岩別資料は接合1001の他、接合1002～1005・51001、剥片60点で構成され、総点数113点、総重量1,960.8gである。

素材 32点(17個体)が接合し、重量は977.5g、大きさは27×16×7 cmである。平滑な原礫面を持つ角礫を素材としておそらく原石で鍛えられている。

剥離工程 比較的大型の剥片剥離により作出された下設卑剥離打面から石刃が剥離された後、頭部調整・打面調整を伴う石刃339が剥離される(1)。339の末端部がヒンジになり、その段差を除去するように下設打面から頭部調整を伴う剥離が行われる(2)。再び上設打面から下端部に達する石刃が剥離される(3)が、再度末端部がヒンジになり、下設打面から剥離が行われる(4)。以後、同様に上設打面からの石刃剥離(5・7)、下設打面からの剥離(6・8)が交互に行われる。石刃剥離に伴う後形成は行われない。このうち、段階6で剥離された石刃(個体A)を素材として細石刃核が製作されている。個体Aに関して以下に説明を行う。

個体A母型作成：石刃の打面側を細石刃核基部、先端側を細石刃剥離作業面、背面を左側面、腹面を右側面に設定する。一次削片が欠落するが、削片剥離面に切られる古い加工がみられないことから素材の内部に及ばない縁辺部の加工によって母型が作成されたと考えられる。

削片剥離：先行の削片剥離後、削片末端部を両側面から稜状に、左側面削片打面周辺を細かい剥離で加工した後、159が剥離され、さらに、左側面削片打面周辺、削片末端部段差を左側面から加工した後、198が剥離されている。右側面に亘る断面三角形の削片剥離後、左側面打面周辺、右側面打面周辺・削片末端部周辺を加工した後、197が剥離される。石刃という素材形態を反映して甲板面は直線的である。

分布 Sb-17のI64・65、J62～64区に分布する。個体A以外はほとんどがI64区に分布し、個体AはJ62・63区に分布している。

母岩別資料155・接合資料1183 (図IV-274～276、図版173・174)

母岩別資料は接合1183の他、接合1184、剥片1点で構成され、総点数47点、総重量1,130.4gである。

素材 44点(27個体)が接合し、重量は1,066.4g、大きさは20×11×10cmである。平滑な原礫面を持つ角礫を素材として一枚の大型の剥離面のある状態で鍛えられている。

剥離工程 大型剥離面と原礫面の後を利用して石刃作業面に設定し、左側面は下面から右核調整(段階1)を、右側面は後調整(段階2)を行い、頭部調整を伴う石刃338が剥離される。以後、連続的に石刃が剥離される(段階3)が、ヒンジの石刃剥離によって作業面形状が悪化した際には作業面下部に左側面から調整(段階4)が行われる。338・341・340・336・335・334は段階3で剥離された石刃である。剥離された石刃のうち、個体A・Bは細石刃核の素材となり、320は部分的な加工が行われている。320は両側縁にノッチ状の加工がみられ、それらの剥離によって中央で折損している。ノッチの施される部位は石刃先端部の湾曲の始まる部分であるため、この湾曲を折り取る目的でなされたと考えられる。折損後は素材打面側の破片を折れ面周辺を両面加工することでU字状に整形している。端部がU字状に加工され、且つその中央部に折れ面を持つ細石刃核・細石刃関連接合資料が存在することからノッチ状の剥離によって端部を折り取る技術が時下型細石刃核母型作成工程で行われたと考えられる。個体A・Bに関して以下に説明を行う。

個体A母型作成：石刃の打面側を細石刃剥離作業面、先端側を細石刃核基部、背面を左側面、腹

面を右側面に設定する。先端部の折損後、左側面は下縁の折れ面付近に、右側面は下縁に連続的な細かい剥離を、上縁に平坦な剥離を行っている。削片打面は両側面から稜状に加工されている。加工は細かく、素材形態を大きく変化させていない。

削片剥離：一次削片は欠落している。先行の削片剥離後、甲板面のヒンジによる段差を右側面から除去し、側面を直線的にし、188が剥離される。188は他端に達しているが末端部がウートラパッセになっている。甲板面から左側面に加工を行った後、剥離が左側面に偏る断面三角形の209が剥離され、続けてIV-569-13が剥離される。

細石刃剥離：IV-569-13の剥離面を打面として細石刃が剥離されるが、甲板面の再生は行われず、細石刃核110が遺棄される。細石刃核の作業面付近には削片IV-569-13剥離後、甲板面からの加工痕があり、細石刃剥離途中で細石刃核の調整が行われたと考えられる。細石刃剥離は削片IV-569-13の打点位置から細石刃核作業面の位置まで長さにして2.4cm分行われている。細石刃が剥離された甲板面の面積を $24 \times 12\text{mm}$ 、細石刃の平均的な幅を5mm、厚さを1.5mmとすると80木程度の細石刃が剥離された計算になる。

個体B母型作成：石刃の背面の左側縁を上縁に右側縁を下縁に設定し、上縁に加工を行い、下縁に関してはその後の加工に切られるため不明である。腹面は下縁に細かい加工が行われる。

削片剥離：削片剥離は両端から行われるが表面からの152・213剥離後、削片剥離末端部段差を腹面からの加工により除去し、175を剥離、正面からの削片剥離後、削片剥離末端部段差を腹面からの加工による除去、及び左側面を甲板面・下縁から、そして、右側面を端部から加工を行った後、最終的に正面からの削片剥離によって細石刃核126は折損している。175の背面には正面からの削片剥離痕があり、175剥離以前に正面から削片が剥離されたことが分かる。細石刃状の剥離痕は細石刃核126の表面にはなく、正面には剥離痕が残るが、連続的なものではない。

分布 Sb-17・19のI64、M61区に分布し、334を除いて全てI64区から出土している。個体A・Bに分布の違いはみられない。

母岩別資料153・接合資料1180 (図IV-276・277、図版175)

母岩別資料は接合1180の他、接合1181、削片1点で構成され、総点数32点、総重量1,199.4gである。

素材 27点 (18個体) が接合し、重量は1,048.2g、大きさは $15 \times 12 \times 13\text{cm}$ である。角礫を素材として原礫面の他に大型の剥離面の残る形態で搬入されている。

剥離工程 上設の単剥離打面から頭部調整を伴う石刃剥離 (段階1) 後、正面から打面再生が行われ (段階2)、さらに上設打面から石刃剥離 (段階3)、打面再生 (段階4) が繰り返される。最後に下設打面から頭部調整を行いながら石刃が剥離される (段階5)。段階1で剥離された石刃は、背面上縁に急角度の、下縁に細かい剥離の施された細石刃核131に加工され、318は左側縁に鋭角の加工がなされる。また、段階3で剥離された石刃 (個体A) は細石刃核に加工されている。331は接合しないが同一母岩と考えられ、大きく欠落した段階1・3の石刃と考えられる。個体Aに関しては以下に説明を行う。

個体A母型作成：石刃の打面側を細石刃核基部、先端側を細石刃剥離作業面、背面を左側面、腹面を右側面に設定する。左側面の上下縁全体に角度のある加工を、右側面の下縁に鋭角の加工を施している。

削片剥離：一次削片141剥離後、甲板面末端部段差を右側面からの加工で除去し、165が剥離される。再度同様の調整後、184が剥離される。甲板面・削片打面部に右側面から加工が行われた後、削片剥離が行われるが、削片打面部で潰れてしまい細石刃剥離は行われずに遺棄される。

分布 Sb-17のH64・65、I64、J64区に分布し、個体Aとそれ以外の分布差はない。

母岩別資料158・接合資料1187 (図IV-278・279、図版176・177-1)

母岩別資料は接合1187の他、接合1188、細石刃1点、剥片8点で構成され、総点数106点、総重量1,739.0gである。

素材 94点(67個体)が接合し、重量は1,728.2g、大きさは15×15×11cmである。爪状痕のある原礫面を持つ軋礫を素材として正面・上面に大きい剥離面のある状態で搬入されている。

剥離工程 左側面から裏面下部への剥離(1)後、上設打面から打面調整(3)、下縁からの調整(4)を行いながら正面で石刃剥離が行われる(2)。その後、作業面を裏面に転移し、左側面を打面に設定し、打面調整(6)を行いながら石刃が剥離される(5)。327は段階2、326は段階5で剥離された石刃である。段階2で剥離された石刃(個体A)は細石刃核の素材となっている。個体Aに関しては以下に説明する。

個体A母型作成：石刃の打面側を細石刃核基部、先端側を細石刃剥離作業面、背面を左側面、腹面を右側面に設定する。左側面の細石刃核基部周辺の上下縁全体に角度のある加工を、その他の部分には細かい加工が行われる。細石刃核基部は折損しているが母型作成段階か削片剥離段階かは不明である。

削片剥離：一次削片145剥離後、153が剥離される。欠落している削片剥離後、さらに、続けて206・207・208・223が剥離されるが、途中で右側面から末端部の調整が行われるものの全て他端には達していない。最後に186の剥離が下縁に抜け平坦な甲板面が確保されるが、細石刃核長は3.5cmと非常に小型化している

分布 Sb-17・30のH63～65、I63～65、J64・66区に分布する。個体AはI64、J64区に分布し分布差は認められない。

母岩別資料152・接合資料1178 (図IV-280・281、図版178)

母岩別資料は接合1178の他、接合1179で構成され、総点数48点、総重量2,191.5gである。

素材 44点(28個体)が接合し、重量は1,554.3g、大きさは18×15×8cmである。爪状痕のある原礫面を持つ軋礫を素材として原石の形態で搬入されている。

剥離工程 大型削片剥離によって打面を作出し、石核調整は行われず、頭部調整を伴う石刃が剥離される(1)。石刃剥離の途中、正面右下部で後調整が行われる(2)。段階1で剥離された個体A～Cは細石刃核に加工されている。石刃は石核調整がほとんど行われないため、作業面形状(原石形状)を反映し、比較的幅広である。また、作業面の下端部の調整も行われないため石刃の先端部形態は不安定である。個体Aは大型削片素材で斜めに分割した後、素材背面側が片面加工されている。接合部品が少なく製作された石器は不明であるが、同一母岩で他に2個体細石刃核を製作していることから細石刃核を製作したものと考えられる。個体B・Cに関しては以下に説明する。

個体B母型作成：石刃の打面側を細石刃剥離作業面、先端側を細石刃核基部に設定しているが、削片状の剥離が上下にみられるため作業面は不明である。石刃先端部の折損後、素材の背面左側縁に急角度の加工がなされる。右側縁は削片が剥離されており、不明である。

削片剥離：401の上面には折れ面からの削片状の剥離があり、下面でも削片が剥離されている。下面では一次削片144の剥離後、甲板面から素材背面に加工が行われ、226が剥離される。その後、数本の削片が剥離されるが、細石刃は剥離されずに細石刃核130は遺棄される。

個体C母型作成：石刃の打面側を細石刃核基部、先端側を細石刃剥離作業面、背面を左側面、腹面を右側面に設定する。左側面の上下縁には細かい加工が、下縁細石刃剥離作業面付近には急角度の

加工が施される。折損している先端部（模式図中個体Cの離れた部分）にも両側縁に加工があることから素材の両側縁に加工が行われた後、折損し、折れ周辺が再加工されたと考えられる。

削片剥離：一次削片は欠落しているが187に残る先行の削片はヒンジになり、大きな段差ができている。その段差を除去する加工は行われずに187が剥離される。187は下縁に抜けて細石刃核119は大きく長さが減少し、細石刃剥離は行われずに遺棄されている。

分布 Sb-17の163～65、J64・65区に分布する。個体A・Bは全体の分布同様164・65区から出土しているが、個体CはJ64・65区から出土し、やや分布がずれる。

母岩別資料127・接合資料1088・1087（図IV-281・282、図版178・179）

母岩別資料は接合1088・1087の他、接合1089・1093、細石刃9点、剥片28点で構成され、総点数143点、総重量1,409.4gである。

素材 接合1088は74点（44個体）が接合し、重量は1250.0g、大きさは20×18×10cmである。接合1087は23点（14個体）が接合し、重量は108.1g、大きさは8×4×1cmである。平滑な原礫面を持ち角が摩滅した扁平な直角礫素材で原石ないしそれに近い形状で搬入されている。灰色の特徴的な黒曜石である。

剥離工程 接合1088は正面右上で剥離が行われた（1）後、上面から左側面にかけて厚手の剥片が剥離され（2～4）、最後に正面で厚手の剥片が剥離されている（5）。厚手の剥片が剥離されているため石核357は大型の剥離面で作成される。頭部調整・打面調整は行われない。段階4で剥離された剥片である個体A・Bは細石刃核に加工されている。個体Bは横長剥片素材で一枚の調整剥片のみ接合している。同一母岩で他に2点の細石刃核があることから細石刃核母型を作成したものと考えられる。個体Aに関しては以下に説明する。

個体A母型作成：横長剥片の背面右側縁を細石刃剥離作業面、左側縁を細石刃核基部、背面を左側面、腹面を右側面に設定する。加工は左側面に関しては長軸方向の剥離によって厚さを減少させた後、上下縁からの加工によって整形している。上縁は両面加工が施され、縦断面形がほぼ左右対称になるように加工され、下縁部に関しては細石刃核が欠落しているため不明である。右刃素材とは異なり素材形状を反映して上縁部がやや弧状になっている。

削片剥離：一次削片150の剥離後、182・216が剥離される。150・182は他端に達しているが、216は途中で剥離が終了している。この段階で甲板面を右側面から連続的に加工し、甲板面の側面形を直線的に大きく変化させている。その後、他端に達する220が剥離され、甲板面から左側面全体に加工を施した後、181が剥離されている。細石刃核は出土していないが長さ5cm程度の小型品である。

接合1087は接合1088の段階3以前の上から正面に剥離されたもので、4点の一次剥離削片の接合資料である。その内、1点は個体Aで、1点は部分的に内面調整された石核であるが、細石刃核の母型の可能性がある。個体Aに関しては以下に説明する。

個体A母型作成：削片の打面縁を細石刃核基部、先端側を細石刃剥離作業面、背面を左側面、腹面を右側面に設定する。加工は左側面に関しては長軸方向の剥離によって厚さを減少させた後、上下縁からの加工によって整形される。右側面に関しては細石刃核の加工が削片剥離の後に行われているため、母型作成段階でどの程度加工が行われたか不明である。

削片剥離：一次削片142の剥離後、無調整で227が剥離される。断面三角形の227の剥離により左側面に似た甲板面全体を右側面から加工し、140が剥離される。その後、右側面に下縁部から加工を行い、225が剥離され、左側面削片打面部付近を加工して最終削片167が剥離される。

細石刃剥離：167の剥離面を打面として細石刃が剥離されるが、甲板面の再生は行われず、細石刃

核112が遺棄される。細石刃剥離は削片167の打点位置から細石刃核作業面の位置まで長さにして5.0cm分行われている。細石刃が剥離された甲板面の面積を50×12mm、細石刃の平均的な幅を5mm、厚さを1.5mmとすると160本程度の細石刃が剥離された計算になる。

分布 接合1088はSb-15・17のH63・64、162・64・65、J65、K62・67区に散漫に分布し、個体A・Bとそれ以外の分布差はみられない。接合1087はSb-17のH64・65、164、K62、L63区に分布する。個体Aは接合1088の分布と一致するが、細石刃核母型の可能性ある石核とその調整剥片はK62、L63に分布し、違いがみられる。

母岩別資料160・接合資料1190 (図IV-283~285、図版180)

母岩別資料は接合1190のみである。

素材 67点(37個体)が接合し、重量は4,668.5g、大きさは26×20×11cmである。平滑な原礫面を持つ扁平な幅広い角礫素材で原石の形状で搬入されている。

剥離工程 左側面下部を向面からの剥離で正面観がU字状になるように整形し(1・2)、右側面でも両面で加工が行われ(3・4)、正面上から石刃337が剥離される(5)。337の剥離によって中央に段差ができ、それを除去するように正面左ド(6)、裏面ド(7)、正面右ド(8)、正面左(9)から剥離が行われ、右側面から裏面への剥離(11)・打面調整(12)を挟みながら上設の複剥離打面から頭部調整を伴う石刃剥離が行われる(10)。全体的に石核の正面形がU字形になるように両面で加工が行われ、そのため石核IV-594-123の形状が引盤状になるが、石刃剥離打面は上面に固定され、石刃剥離は正面で行われる。作業面形状が平坦なため石刃は幅広いものが多い。

分布 Sb-17のI64区周辺、J63・64、K63・64区の2か所に分布が分かれる。段階10の後半の石刃以降の石器はJ63・64、K63・64区から出土し、それ以前の石器はI64区から出土している。P61区から出土しているのは石刃の打面部である。石刃核は斜面部のO70区から出土している。

母岩別資料154・接合資料1182 (図IV-285・286、図版181)

母岩別資料は接合1182のみである。

素材 16点(8個体)が接合し、重量は635.9g、大きさは17×6×8cmである。平滑な原礫面を持つ角礫素材で大型の剥離面のある状態で搬入される。

剥離工程 右側面に原礫面、左側面・裏面上部に大型の剥離面、右側面から裏面に連続的な石核調整のある母型を製作し、正面の核を利用して上設の単剥離打面から頭部調整無しで石刃が剥離される(1)。正面核調整(2)後、頭部調整を伴う石刃剥離が行われる(3)。段階3で剥離された石刃は全てウートラバッセで石刃剥離に伴って石刃核高が徐々に短くなる。石核調整も行われず、作業面形状は長方形で変化しないため石刃は短冊状である。

分布 Sb-17のH・I64区に分布する。

母岩別資料156・接合資料1185 (図IV-286~288、図版182・183)

母岩別資料は接合1185のみである。

素材 50点(39個体)が接合し、重量は1,930.9g、大きさは19×11×14cmである。爪状痕のある原礫面を持つ角礫素材で、原石で搬入される。

剥離工程 原石の角を右側面から大きく剥離した後、正面からの剥離で打面を作出する(1)。右側面下部を調整した(2)後、上設の単剥離打面から頭部調整を伴う石刃剥離が行われる(3)。正面右側面調整(4)・正面下縁部調整(5)を挟んで石刃剥離が継続される(6)。その後、180度の打面転移が行われ、打面調整・頭部調整を伴う石刃が剥離される(7)。最後に左側面から裏面に打面調整を伴う石刃剥離が行われる(8)。三回の打面転移の結果、石核IV-594-124は扁平な円盤状で

ある。図版183は段階1の剥片を外した写真であるが、段階3で剥離された原礫面を持たない中央部の15cm程度の石刃が欠落しているのが分かる。

分布 Sb-17~19のI64、J60・64・65、K64、L65区の主にJ64区を中心として分布している。石刃核は斜面部であるM66区から出土している。

母岩別資料143・接合資料1147 (図IV-288・289、図版184-1)

母岩別資料は接合1147の他、接合1146・1148~1153、石刃1点、剥片27点で構成され、総点数86点、総重量1,146.3gである。

素材 14点(11個体)が接合し、重量は315.3g、大きさは15×8×5cmである。平滑な原礫面を持つ角礫素材で後形成により整形された直方体に近い石刃核母型で搬入されている。

剥離工程 稜調整(1・3)を挟みながら打面調整を伴う石刃調整が行われる(2・4)。作業面は左右側面に及び、ウートラバッセが頻繁に起こり、打面調整も行われるため石刃核高は著しく減少し、同一母岩資料である接合資料1146と合わせると長さ22cmの石刃核が最終的には8cmに変化している。

分布 Sb-15・17のJ65、K65~67区に分布している。

母岩別資料141・接合資料1141 (図IV-289、図版184-2)

母岩別資料は接合1141の他、剥片1点で構成され、総点数17点、総重量194.7gである。

素材 16点(15個体)が接合し、重量は186.6g、大きさは8×6×7cmである。爪状痕のある原礫面を持つ転礫素材で原石ないし粗削りされた状態で搬入されている。

剥離工程 石刃調整痕のある右側面下部で正面からの剥離(1)の後、上設打面から正面・右側面で剥離が行われる(2)。正面と上面の後調整(3)の後、上面で頭部調整を伴う石刃調整が行われる。打面転移が頻繁に行われ、段階2で剥離された石刃322や石刃核348にも多方向の剥離がみられる。

分布 Sb-16・17のH65、I65、J64区に分布し、主にH65区にまとまっている。

母岩別資料145・接合資料1164 (図IV-290、図版185-1)

母岩別資料は接合1164の他、接合51080、剥片1点で構成され、総点数12点、総重量297.7gである。

素材 9点(9個体)が接合し、重量は288.3g、大きさは7×11×8cmである。爪状痕のある原礫面を持つ転礫素材で原石ないし粗削りされた状態で搬入されている。

剥離工程 一回の剥離で作出された上設打面から左側面で剥離が行われた(1)後、上面の剥離を挟んで左右側面で剥離が行われる(2)。最後に上面で剥離が行われる(3)。全体を通して作業面転移が頻繁に行われ、調整は行われない。

分布 Sb-16・17のH64、I64・65区に分布している。

母岩別資料140・接合資料1140 (図IV-290、図版185-2)

母岩別資料は接合1140の他、剥片13点で構成され、総点数36点、総重量352.6gである。

素材 23点(19個体)が接合し、重量は338.9g、大きさは11×11×7cmである。平滑な原礫面を持つ小型の角礫素材で原石の形状で搬入されている。

剥離工程 原石の端部を加撃し、個体A・Bに二分割し、剥片素材の個体Aと石核素材の個体Bで舟底形石器を製作している。個体Aは分割面を甲板面に設定して加工が行われる。途中で折損したものが259であるが、比較的小型に加工されている。折れた片備は出土していない。個体Bは分割面を甲板面に設定して加工が行われるが底面からの加工で254の左側面が大きく内湾し、若干の加工の後に遺棄される。

分布 Sb-16・17のH64、I63・64、J63区に散漫に分布し、個体A・Bに分布の差はみられない。

写真のみ掲載の接合資料

母岩別資料103・接合資料1009 (図版186・187) は、扁平な亜角礫素材で原石の形態で搬入される。上面に打面作出後、最初に石核調整を行わずに下縁調整を挟みながら頭部調整を伴う石刃剥離が行われる。最後は裏面調整が施され、石刃核形態は扁平であったと考えられる。正面で最初に剥離された剥片は削器IV-587-97に加工されている。作業面に扁平な原礫面が利用されるため剥離される石刃は幅広である。図版187-416は打面作出剥片を外した写真である。

母岩別資料136・接合資料1133 (図版188) は、30cmを越える扁平ではない亜角礫素材で原石の形態で搬入される。大型の剥片剥離によって打面を作出し、最初に石核調整を行わずに頭部調整を伴う石刃剥離が行われる。途中で打面再生・下縁調整が行われる。

母岩別資料102・接合資料1006 (図版189・190) は、爪状痕のある原礫面を持つ扁平な転礫素材ではば原石の形態で搬入される。原石の端部に一回の剥離で打面を作出し、扁平な正面で頭部調整を伴う石刃剥離が行われる。初期の厚手の剥片を素材に削器が製作されている。図版190-419は打面作出剥片を外した写真であるが、中央の石刃が欠落している。

母岩別資料444・接合資料2005 (図版191-1) は、爪状痕のある原礫面を持つ転礫素材ではば原石の形態で搬入される。正面にある大きな剥離面から左側面・上面で粗い石核調整が行われ、上面の剥離面を打面として正面で石刃が剥離される。

母岩別資料159・接合資料1189 (図版191-2) は、亜角礫素材で石核の形態で搬入されている。上設の単剥離打面から頭部調整を伴う石刃剥離が行われ、右側面に正面からの石核調整がみられる。

母岩別資料135・接合資料1132 (図版192・193) は、爪状痕のある原礫面を持つ最大長40cmを越える大型の扁平な転礫素材である。正面右上の突出部を正面から除去する剥離の後、正面で頭部調整を伴う石刃剥離が行われる。しかし、下縁まで石刃が抜けずにさらに打面再生のみ継続される。石核高が57cmから17cmに半分以下に減少しているが、まともな石刃は剥離されない。(鈴木宏行)

(11) B区・石器ブロック20~29 (Sb-20~29) の石器

出土石器 (表IV-7・8)

尖頭器168点、両面調整石器23点、搔器19点、削器56点、錐形石器2点、舟底形石器47点 (Ⅱ類47点)、二次加工ある剥片17点、細石刃3点、細石刃核6点、石刃251点、縦長剥片303点、石刃核6点、石核36点、削片14点 (細石刃削片10点、尖頭器削片1点、その他削片3点)、剥片25,639点、石鏃1点、台石6点、箆石2点、礫1点の計26,600点、重量213,398.4gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が47.2%で最も多く、黒曜石4 (21.8%)、黒曜石5 (20.1%)、黒曜石3 (10.6%)が続き、以下黒曜石2 (0.2%)、安山岩 (0.05%)、頁岩 (0.04%)、めのう (0.01%)、砂岩 (0.004%)である。彫器が含まれないのが特徴である。細石刃核の石材は黒曜石1・5が主体であるSb-14~19とは異なり、頁岩・めのう・黒曜石4・ケショマップ産の黒曜石が利用されている。

尖頭器 (図IV-291-1~図IV-305-4、図版194~203)

135点 (42個体とI層出土2個体を加えた44個体) を図示している。素材は、20・21・24・32の小形品に原礫面以外の素材面の残るものがあるが、それ以外は大型品が多く、全て原礫面以外の素材面が無いものほとんどは石核素材と考えられる。1~14は完形ないしそれに準じるものである。1~12は平坦剥離による加工が全体を覆い、縁辺部に細かい加工がなされている。平坦剥離面は滑らかな表面を形成し、平面形は左右対称で、断面形も凸レンズ状で対称のものが多い。反りはなく、偏縁の偏面観は直線的である。

1には器体に2か所の折れ面と下端部に折れ面がある。それぞれ3か所の折れ面には全て長い方の破片に再加工が行われる。2には左側面に折れ面があり、裏面の加工は折れ面に切られ、正面の加工は折れ面を切っている。加工途中で折損し、正面で再加工が行われるが、最後は球顆が原因で折損している。形態が左右非対称であるのはそのためである。3には上端部に加工に切られる折れ面があり、折損後再加工されたと考えられる。右側縁から正面への加工で折損している。右側縁下部の正面には平行剥離に近い剥離が、その打面にあたる裏面には縁辺に角度のある剥離がみられる。4には2か所折れ面があり、下部の折れ面は左側縁から裏面への加工が原因で、上部の折れ面は器体中央から放射状に折れている。5には大きく3か所の折れ面がある。上部の折れ面は左側縁から裏面への加工が、中部の折れ面は下部の折損後、再加工が行われた加工が、下部の折れ面は右側縁から正面への加工が原因である。平面形態は半月状であるが、裏面右上の加工の打点位置を復元すると、一段階前は左右対称で左側縁上部を加工することによって半月形になったと考えられる。6には大きく上下2か所の折れ面がある。下部の折れ面は右側縁から正面への剥離に原因のあるもので、その折れ面を切る上部の折れ面は器体中央から放射状に延びている。7には大きく2か所の折れ面があり、上部の折れ面は右側縁から正面への剥離が原因で、下部の折れ面は器体の中央から放射状に延びている。8には大きく2か所の折れ面があり、上部の折れ面は球顆から放射状に延び、下位の折れ面は左側縁から正面への剥離が原因である。9には2か所の折れ面があり、上下とも球顆が原因である。ほぼ器体の中央で折損後、折れ面から裏面に加工が施されるが剥離は正面に抜けている。さらに、その剥片の左側縁に加工が行われている。10には3か所の折れ面があり、上部の折れ面は正面の球顆が原因で、中部の折れ面は上部の折れ面を切り、放射状に延びる。下部の折れ面は下端から裏面への加工が原因である。11には2か所の折れ面があり、上部の折れ面は左側縁から正面への加工が、下部の折れ面は左側縁から正面への加工が原因である。12は長さ36.5cmの大型の尖頭器で、角礫素材である。接合する剥片や同一母岩と考えられる剥片はなく、ほぼこの形状で搬入されたと考えられる。表面に凹凸がなく比較的滑らかで、断面形も正面が凸状ではあるがほぼ断面凸レンズ状で、原礫面が正面上部の一部にしか残存しないことから考えると、素材原石は非常に大きいものであったと想定される。大きく4か所の折れ面があり、上から1・3番目の折れ面は器体中央から放射状に延びるもので、2番目は球顆が、4番目は左側縁下部から裏面への加工が原因である。13は角礫素材、両面とも粗い剥離で加工される。折れ面は披熟によるものと剥離が原因のものがある。14は両面とも粗い剥離がみられ、中央の稜を越える剥離が少なく、断面は菱形になる。側縁の断面視も直線的ではなく、先端部も尖頭状ではない。

15~17は折損後、再加工が行われたものである。15の縁辺部以外は平坦剥離で覆われ、断面形は非対称で、下部の折損後、両側縁下部が再加工されている。16は角礫素材で正面に残る平坦剥離面から、大型の尖頭器の端部が折損した後に、折れ面を中心に裏面に再加工が行われたと想定される。石材は流理構造のある特徴的な黒曜石で、白滝以外の産地の可能性がある。17は粗い剥離で構成されるもので、下端部に折れ面があり、その周辺を中心に再加工がなされている。

18・19は扁平な細長い角礫を素材として加工されたものである。18は15cm程度の原石素材で、加工途中で折損し、再加工が行われるが厚みを取ることができずに遺棄される。19は30cm以上の原石素材で裏面を中心に加工されるが、上部の原礫面を除去できずに、中央で折損している。下部の破片は再加工が行われるが、再度下端部で折損している。全体的な形態は素材である原石形状を反映して細長い。

20~44は折損品である。20・21・24は剥片素材で、20・21は小型の尖頭器である。22・23・27は小型であるがやや厚みのあるものである。26は頁岩製で縁辺には平行剥離がみられ、側縁は交互剥離状

である。基部は円く、側縁は直線的である。21・25・28は薄く、側縁は直線的である。28～39の表面は平坦剥離によって滑らかで整った形態である。29は細長い尖頭器で、折損後、下部破片の左側縁を正面からの急角度の加工で幅を減少させているが、粗い剥離のため側縁がギザギザしている。32は剥片素材で左側縁から正面への剥離で折損している。33は主に正面の加工で尖頭部が作出されている。34は左側縁から正面への加工により中央で折損している。上下端の折れ面は被熱によるものである。35～39は幅広い尖頭器片である。38には放射状の折れ面がみられる。40～43は比較的粗い剥離で加工された尖頭器である。41は角礫素材で本来全長30cmを越える尖頭器の折損品と考えられる。右側縁上部には素材面が残るが、器面は滑らかで正面形・断面形共に整った形態である。

両面調整石器 (図Ⅳ-306-45～図Ⅳ-308-49、図版203～205)

17点(4個体とI層出土1個体を加えた5個体)を図示している。45・46は転礫、47・48は角礫素材である。45は両面とも平坦剥離で覆われ、整った形態である。46は1cm程度の球顆が含まれる石材で比較的粗い加工が行われ、最終的に球顆が原因で折損している。47は2cm程度の球顆が含まれる30cmを越える角礫素材で粗い加工の段階で表面に段差ができ、折損後に遺棄されている。48は粗い加工で覆われたもので折損品である。49は安山岩製の剥片素材で表面の風化が激しい。加工は両側縁を中心に、特に正面上部に行われる。

細石刃 (図Ⅳ-308-50・51、図版205)

2点(II層出土1個体とIII層出土1個体を加えた2個体)を図示している。50・51共に頭部である。50にはねじれがある。

細石刃核 (図Ⅳ-308-52～58、図版205)

7点(6個体とI層出土1個体を加えた7個体)を図示している。52・53は頁岩製、55はめのう製、54は流理構造のある灰色の黒曜石で同一接合資料である59にケショマップ産の分析結果が得られている。52は石刃素材で左右側面に下縁から加工が行われ、削片剥離後、細石刃剥離が行われる。最後に剥離された細石刃はヒンジになり、遺棄される。53は石刃素材である。彫器から細石刃核に転用されている。石刃の先端部に作出された彫刀面打面から素材左側縁に彫刀面が作出され、背面先端部調整が行われる。その後、素材右側縁に素材基部側から削片剥離を行い、細石刃剥離打面を作出し、細石刃を剥離している。最終的に作業面にヒンジによる段差ができ、遺棄される。54は縦長剥片素材で、左右両面の下縁部に部分的な加工がみられる。55は剥片素材で左側面には上下から、右側面には下縁部に加工が行われる。削片剥離後、細石刃が剥離されるが、ヒンジのため作業面に段差ができ、遺棄される。56は縦長剥片ないし剥片素材で、素材背面のみ両側縁部に加工が行われる。右側面は削片剥離後に甲板面から加工されている。細石刃剥離は行われない。素材背面が右側面に、素材腹面が左側面に設定され、通常の峠下型細石刃核の逆である。57は剥片素材で左側面には全面を覆う下縁からの加工が行われ、削片が剥離される。断面三角形の二次削片剥離によって甲板面長軸に稜が残っている。細石刃状の剥離はみられるが、削片に切れ、削片剥離が打面付近で潰れ、遺棄される。58の素材は不明である。左側面は甲板面からの剥離とそれを切る下縁からの剥離で加工され、右側面は甲板面からの剥離で加工されている。甲板面には削片剥離面と考えられる二枚の剥離面が残る、素材形状を大きく変化させている点で美利河型細石刃核に類似する。

細石刃核削片 (図Ⅳ-308-59～図Ⅳ-309-65、図版206)

9点(7個体)を図示している。59～61は一次削片である。59は左側面には縁辺全体に、右側面には削片打面のみ加工がみられる。前述のとおりケショマップ産の結果が得られている。60は通常の峠下型とは素材の利用が逆で右側面に素材背面を設定し、右側面の上下縁辺に加工を施している。端部

に折れ面があり、折損後に母型製作の加工が行われ、60自体は下縁に抜ける剥離になっている。61は上縁両面に細かい加工が施された母型から剥離されている。

62～65は二次削片である。62は頁岩製、先行の削片剥離後、右側面から甲板面への加工・削片打面周辺の加工が行われ、剥離されている。63は先行の削片剥離後、甲板面から右側面に加工を施し、剥離される。64は先行の削片剥離後、左側面の一部に甲板面から加工が行われた後、先行の削片と反対方向で剥離されている。65は先行の削片剥離による末端部段差を右側面から除去し、直線的にした後、剥離される。62～65は他端に達している。

尖頭器削片 (図Ⅳ-309-66、図版206)

2点(1個体)を図示している。66は厚さ2cmの尖頭器の縁辺から剥離された削片である。打面は稜状で断面形は台形である。削片剥離に先行する加工は行われない。

舟状形石器 (図Ⅳ-309-67～図Ⅳ-316-96、図版206～209)

42点(28個体とI層出土2個体を加えた30個体)を図示している。67～88は完形品である。67～69は幅の狭いものである。67・68は甲板面が平坦でリングが密集することから素材は大型の剥片ないし両極剥離のような方法で剥離されたと考えられる。両者共に上下からの加工で整形され、67はより細かい加工がみられる。68の甲板面はネガ面で原石を半分に分割した素材と考えられる。69は縦長剥片素材で原礫面を甲板面として腹面のみ加工が行われる。70・71は小型のものである。71は転礫から剥離された剥片素材である。両者とも粗い剥離と縁辺部の細かい剥離によって整形されている。部分的に下縁からの加工もみられる。72～79は表面に凹凸が全くなくザラつきのない原礫面を持つもので、72・76・77は素材打面部である正面に、73・74・78は甲板面に、75・79は左側面に原礫面が残るものもある。図示していないが、77・79は甲板面同士で接合し、また、甲板面に原礫面が残るものもあることから小型の角礫を分割したものや原石を素材としていると考えられる。大きさは78を除いて長さ10cm以下で高さは3～4cmである。加工は全て甲板面からなされ、側面形は三角形のものが多く特徴的である。80～83はザラつきのある平滑な原礫面があるもので、80・83は甲板面がネガ面で右核ないし右刃核素材、81・82は大型の剥片素材である。全て底面に原礫面が残り、剥片素材のものは初期の段階で剥離されたものと考えられる。全て甲板面からの粗い加工で整形され、側面形は長方形に近く素材は一定の厚さのある盤状のものと考えられる。84～87は大型のもので上下から比較的細かい加工が行われる。84・87は平滑面と潰れた転礫面を持つ重角礫から剥離された剥片素材である。88は大型品で部分的な粗い加工の途中で折損し、遺棄されたものである。甲板面にはねじれた素材腹面ではなく、平坦な素材右側面を利用している。

89～96は折損品である。89はザラついた平滑な原礫面を甲板面として上下から細かい剥離で加工される。主に下縁からの加工が切っている。91は比較的幅が狭い。92・96はザラついた平滑面を持つ角礫から剥離された剥片素材で92の側面形は長方形に近い。93の右側面は主に下縁から加工されている。94は角礫から剥離された剥片素材である。急角度の加工がなされずに遺棄される。95は転礫素材で甲板面から粗い加工の段階で折損し、遺棄される。

彫器 (図Ⅳ-316-97、図版209)

1点(I層出土1個体)を図示している。97は頁岩製。正面左側縁と右側縁基部、裏面基部に加工が行われ、素材先端部側に左側縁から右肩に彫り面が作出される。彫り面傾斜角は鈍角で背面先端部調整がみられる。

撞器 (図Ⅳ-316-98～図Ⅳ-317-107、図版209・210)

14点(10個体)を図示している。99は頁岩製。98・101は単調打面から無調整で剥離された縦長

剥片・剥片素材、99・100・105は頭部調整のある石刃素材、102～104は剥片素材、106は大型の石刃素材である。98～100・105は刃部以外には軽微な加工が行われ、99・100の刃部幅は狭い。101・102は側縁全体に加工が行われ、特に102の右側縁には急角度の加工がみられる。103は背面全体に平坦な加工で覆われ、腹面側基部・刃部にも加工がみられる。104は両側縁・素材打面側に急角度の粗い加工が行われる。その加工状態から舟底形石器の可能性もある。106は素材先端部に軽微な加工で刃部が形成される。107は両端に折れ面があるが、打点側の折れ面に加工がみられる。

錐形石器 (図IV-317-108-109、図版210)

2点(1個体とⅡ層出土1個体を加えた2個体)を図示している。108はめのう製。108・109共に5cm程度の小型の石刃ないし剥片素材で、108は素材打面側に長軸と同一方向に、109は先端側に長軸とはやや斜めに細長い刃部が作出される。また、108の右側縁の両面には加工がみられる。

削器 (図IV-317-110-図IV-319-123、図版210-212)

27点(13個体とⅠ層出土1個体を加えた14個体)を図示している。123は頁岩製。110～120は石刃素材、121・122は剥片素材である。石刃素材のうち115～120は15cmを越える大型の石刃が利用される。110・111は素材背面の縁辺部に平坦な加工が施される。112～118は両面に加工が行われるものである。112は基部の両面とも平坦剥離で突頭状に整形され、両側縁は急角度の加工によって整形されるが、特に右側縁は内湾するように整形される。明らかに基部とそれ以外で加工技術が異なっている。113～120は部分的な平坦加工がみられる。特に115～120の15cm以上的大型石刃素材のものは素材の背面先端部に加工が施され、腹面縁辺にはその打面となる細かい剥離がみられる。121は背面全周縁、腹面打面部に加工がみられる。両側縁とも弧状の平坦剥離加工部とやや内湾する角度のある加工部に分けられ、それらは左右点対称である。122は背面に角度のある部分的な加工があり、123は縦長剥片素材で両側縁に急角度の加工が施される。

石鏃 (図IV-319-124、図版212)

1点(1個体)を図示している。212は薄い剥片素材で背面は部分的な細かい平坦な加工が、腹面は基部を中心に加工が行われる。技術形態学的に石鏃に分類したが、本石器が弓矢の先として機能するものかどうかは不明である。また、包含層であるⅡ層から出土しているが、1点のみであり定形的な石器として共存するかどうか不明である。

石刃 (図IV-319-125-図IV-322-134、図版212-214)

27点(10個体)を図示している。125～131・134は完形、ないし、ほぼ完形で、132・133は折損品である。長さは18～25cmと非常に大型で、全て単剥離打面から剥離され、打面縁辺部を直線的にする頭部調整がみられる。下からの剥離痕を持つものがあり、両設の石刃核から剥離されたものと考えられる。133には稜調整が行われている。

石刃核 (図IV-323-135-図IV-324-141、図版215-216)

7点(5個体とⅠ層出土2個体を加えた7個体)を図示している。135は原礫面打面、136・138～141は単剥離打面、137は複剥離打面である。135～138は角礫素材、139～141は転礫素材である。136は表裏で石刃が剥離され、正面では上からの、裏面では下からの打撃で剥離される。137は正面・右側面・裏面に石刃剥離痕があり、左側面には下からの剥離痕がある。これら2点以外は全て単設打面であるが、138は接合資料(図IV-371-373)から両設打面から石刃剥離が行われた残核であることが分かる。頭部調整は、作業面の打面部が打面再生に切られて不明である137を除いて全てに行われるが、140・141は特に顕著で、それ以外は軽微なものである。139～141は大型剥片剥離による打面作出後、打点側から石刃剥離が行われ、一方向に石刃剥離が進行した結果、裏面に原礫面が残る。

石核 (図Ⅳ-325-142~図Ⅳ-328-153、図版216~219)

18点 (10個体とⅠ層出土2個体を加えた12個体) を図示している。142は複剥離面であるが、右側面では単剥離面から頭部調整を伴う石刃剥離が行われている。正面・右側面・裏面には上設面からの剥離面が残る、作業面転移が行われたと考えられる。143は角礫素材で原礫面打面を持つ。144~146は角礫素材で単剥離面を持つものである。144・146は上面から145は左下から顕著な頭部調整を伴う石刃剥離が行われ、最後にそれぞれ右側面、上面から剥離が行われる。148~150は角の潰れた転礫素材で、148・149は単剥離面、150は原礫面に近い古い剥離面打面から顕著な頭部調整を伴う石刃が剥離されている。これらの剥離は一方向に進行し、表面に原礫面が残る。151~153は盤状の角礫素材で、151・152は角礫の縁辺部を加工した後、短軸方向に分割し、分割面を打面として剥片が剥離される。153は原礫面打面から剥片が剥離される。

敲石 (図Ⅳ-328-154、図版219)

1点 (1個体) を図示している。154は上部を欠損しているが5 cm程度の砂岩を利用している。正面形は円形、断面形は半月形に近い。潰打痕は下端部に限定され、特に潰れの激しい10×7 mmの範囲は平坦になっている。

石器ブロック20 (Sb-20) の分布 (図Ⅳ-329、表Ⅳ-7・8)

L65、M64・65、N64・65、O65区の11×5 mの範囲で確認されたが、Mラインでは斜面部である東側に若干分布が伸びると思われる。N65区に小集中域が、M65区の東端にトゥールの混じる極小なまとまりがある。尖頭器3点、削器1点、舟底形石器3点 (Ⅱ類3点)、縦長剥片5点、石刃核1点、剥片186点の計199点、重量2,808.9gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が63.8%を占め、以下黒曜石4 (23.6%)、黒曜石5 (10.5%)、黒曜石3 (1.5%)、頁岩 (0.5%) である。斜面部との境界であるM66区では大型の縦長剥片素材の舟底形石器が出土している。

石器ブロック21 (Sb-21) の分布 (図Ⅳ-329~331、表Ⅳ-7・8)

M61~64、N61~65、O62~65区の19×11mの範囲で確認された。尖頭器36点、両面調整石器6点、削器9点、錐形石器2点、舟底形石器10点 (Ⅱ類10点)、二次加工ある剥片6点、細石刃核1点、石刃22点、縦長剥片12点、石核2点、削片4点 (細石刃核削片2点、尖頭器削片2点、その他削片1点)、剥片4,068点、礫1点の計4,179点、重量22,374.0gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が62.8%を占め、以下黒曜石5 (16.2%)、黒曜石4 (10.8%)、黒曜石3 (9.5%)、黒曜石2 (0.6%)、頁岩 (0.07%) である。尖頭器は20cm以上の大型のものが多く、分布はM61~63区とN62・63区の2か所に分かれる。北側に隣接するSb-17の南側・Sb-19にも大型尖頭器が出土しており、関連が強いと考えられる。舟底形石器は大型のものが含まれる。細石刃・細石刃核削片・細石刃核はM~O64区に分布し、集中域から外れる傾向にあり、尖頭器削片は10m以上西側のM52・53区と接合関係がある。また、Ⅰ層川土であるが、頁岩製の石刃の彫器が出土している。

石器ブロック22 (Sb-22) の分布 (図Ⅳ-332、表Ⅳ-7・8)

O65、P64・65、Q64・65区の7×7 mの範囲で確認された。削器1点、石刃2点、縦長剥片7点、剥片613点の計623点、重量4,384.0gの石器類が出土した。石材は黒曜石4が75.4%を占め、以下黒曜石1 (18.9%)、黒曜石5 (2.9%)、黒曜石3 (2.7%) である。ツールがほとんど無く、黒曜石4が多数を占めるのが特徴である。

石器ブロック23 (Sb-23) の分布 (図Ⅳ-332、表Ⅳ-7・8)

O62~65、P62~64区の12×5 mの範囲で確認された。尖頭器4点、両面調整石器3点、搔器1点、

削器1点、石刃4点、縦長剥片5点、石核1点、剥片1,304点の計1,323点、重量10,908.4gの石器類が出土した。石材は黒曜石4が46.9%を占め、以下黒曜石1(27.4%)、黒曜石5(15.9%)、黒曜石3(9.8%)、黒曜石2(0.08%)である。ツールのほとんどは北側に隣接するSb-21と接合関係がある。

石器ブロック24 (Sb-24) の分布 (図IV-333、表IV-7・8)

N61・62、O61・62区の5×4mの範囲で確認された。尖頭器6点、削器1点、舟底形石器2点(Ⅱ類2点)、剥片313点の計322点、重量2,540.3gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が54.7%を占め、以下黒曜石5(28.3%)、黒曜石2(10.9%)、黒曜石4(4.0%)、黒曜石3(1.9%)、頁岩(0.3%)である。黒曜石2が特徴的に含まれる。大小の舟底形石器があり、尖頭器・削器は隣接するSb-21・23と接合関係がある。唯一出土している頁岩は欠損した尖頭器である。

石器ブロック25 (Sb-25) の分布 (図IV-333、表IV-7・8)

Q64・65、R64・65区の8×7mの範囲で確認されたが、斜面部である東側・調査区域外である南側に分布が広がると思われる。尖頭器2点、搔器2点、削器3点、舟底形石器1点(Ⅱ類1点)、二次加工ある剥片5点、石刃41点、縦長剥片42点、石刃核1点、石核1点、削片2点(その他削片2点)、剥片1,044点の計1,144点、重量15,931.2gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が55.4%を占め、以下黒曜石5(24.8%)、黒曜石4(15.7%)、黒曜石3(4.0%)である。R64・R65区に小集積域があり、それ以外は散漫な分布を示す。R64区の集積域には石刃類が多く、R65区の集積域にはツールが多い。R65区出土石核類は全て原礫面打面である。

石器ブロック26 (Sb-26) の分布 (図IV-334、表IV-7・8)

P63・64、Q63・64、R64区の6×6mの範囲で確認された。石刃1点、縦長剥片24点、石刃核1点、石核5点、剥片467点の計498点、重量18,341.5gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が50.6%を占め、以下黒曜石5(33.9%)、黒曜石3(8.4%)、黒曜石4(7.0%)である。剥片類以外は石核類のみで、図示した3点は全て転礫素材で準剥離打面から顕著な頭部調整を伴う石刃剥離が行われている。

石器ブロック27 (Sb-27) の分布 (図IV-334~340、表IV-7・8)

L59、M57~60、N56~60、O56~62、P57~63、Q57~63、R59区の30×22mの範囲で確認された。B区の中で最大のブロックである。尖頭器101点、両面調整石器8点、搔器14点、削器33点、舟底形石器23点(Ⅱ類23点)、二次加工ある剥片5点、細石刃3点、細石刃核5点、石刃154点、縦長剥片182点、石刃核2点、石核26点、削片7点(細石刃核7点)、剥片14,687点、石核1点、台石4点、蔽石2点の計15,257点、重量116,039.6gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が44.0%を占め、以下黒曜石5(23.8%)、黒曜石4(20.4%)、黒曜石3(11.7%)、安山岩(0.07%)、頁岩(0.04%)、黒曜石2(0.01%)、めのう(0.01%)、砂岩(0.01%)である。尖頭器は黒曜石3が、石刃は黒曜石5が多い。尖頭器は20cm以上の大型のものが多く、P59・60区周辺とQ59・60区周辺の2か所にまとまりがある。また、40m離れたS49・50区、36m離れたR52区出土の尖頭器と接合した例がある。細石刃削片・細石刃核はO・P60区周辺にまとまっている。舟底形石器はやや散漫に分布するがN58~60、O57・58区にまとまりがある。特にN59・60区出土のものは全て平滑なザラつきのない原礫面を持つものである。搔器はP・Q60区に分布し、大型石刃素材の削器はN58・59区周辺とP58区周辺に多い。石核類はほぼ全域に分布している。以上のことからツールは①N58~60、O57・58区の舟底形石器の分布域、②P59・60区の尖頭器の分布域、③Q59・60区の尖頭器の分布域、の3か所に分離でき、①の分布域には大型石刃素材の削器・蔽石が、②の分布域には細石刃関連資料が重なる。

また、大型の石刃素材の削器は②の分布域の西側からずれて分布し、挿器は②と③にまたがるように分布している。石核類は全体に分布している。

石器ブロック28 (Sb-28) の分布 (図IV-341、表IV-7・8)

Q61・62、R59～64区の22×5mの範囲で確認されたが、調査範囲外である南側に分布が伸びると思われる。尖頭器11点、両面調整石器3点、挿器1点、削器7点、舟底形石器1点(Ⅱ類1点)、二次加工ある剥片1点、石刃19点、縦長剥片15点、石刃核1点、石核1点、削片1点(細石刃核削片1点)、剥片2,601点、台石2点の計2,664点、重量17,552.6gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が49.3%を占め、以下黒曜石4(30.9%)、黒曜石3(14.4%)、黒曜石5(5.3%)、安山岩(0.08%)、黒曜石2(0.04%)である。大型の尖頭器・両面調整石器が全体に分布し、一部は北側のSb-27の石器と接合している。

石器ブロック29 (Sb-29) の分布 (図IV-342、表IV-7・8)

O56・57、P54～57、Q54～56区の12×6mの範囲で確認された。尖頭器5点、両面調整石器3点、挿器10点、削器1点、錐形石器2点、舟底形石器7点(Ⅱ類7点)、石刃8点、縦長剥片11点、剥片356点の計391点、重量2,517.9gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が58.1%を占め、以下黒曜石5(27.6%)、黒曜石4(12.0%)、黒曜石3(2.3%)である。舟底形石器が多く、両面調整石器はSb-46出土石器と接合している。

石器ブロック20～29 (Sb-20～29) の接合状況 (図IV-343)

全体的には接合分布は各ブロック内での小集大成を単位としてまとまるが、ブロックや地区をまたがる接合資料もあり、特にD地区との接合資料が多い。

母岩別資料231・接合資料1367 (図IV-344、図版220-1)

母岩別資料は接合1367の他、剥片4点で構成され、総点数21点、総重量304.3gである。

素材 17点(11個体)が接合し、重量は301.5g、大きさは20×8×2.5cmである。平滑な原礫面を持つ角礫を素材として尖頭器の形態で搬入されている。

剥離工程 裏裏共に右側から加工が行われる(1・2)が、段階2の最終剥離が裏面に抜けて折損している。下部の折れ面は放射状でその起点を打撃して折損した可能性がある。

分布 Sb-27のP60、Q59・60区に分布している。

母岩別資料458・接合資料2732 (図IV-344・345、図版220-2)

母岩別資料は接合2732の他、剥片3点で構成され、総点数54点、総重量613.9gである。

素材 51点(30個体)が接合し、重量は607.7g、大きさは24×12×4.5cmである。平滑な原礫面を持つ角礫を素材として尖頭器の形態で搬入されている。

剥離工程 裏面(1～3)、正面(4・5)の加工の後、本体はIV-418-41にみられる上部の球類で折損している。折損後、大きい方の破片の折れ面付近を再加工(6～8)しているが、縁辺の角度が大きくなり、最終的に遺棄されている。遺跡搬入時は断面が整った凸レンズ状で、折損するまでは両面加工により徐々に小型化しているが、折損後の再加工は比較的粗く、断面形状は非対称形に変化している。

分布 Sb-28のR60～62、Sb-46のM53、N53・54区に分布し、最大40mの距離を隔てている。それらは完全に段階で分けることができ、Sb-28からは段階1～5が、Sb-46からは段階6～8・尖頭器が出土し、工程上は尖頭器の折損前と折損後に対応する。つまり、Sb-28で加工され折損した後、Sb-46に持ち込まれ再加工が行われたか、あるいは、Sb-28で加工された後、Sb-46に持

ち込まれ、加工中に折損し、再加工が行われたと考えられる。

母岩別資料200・接合資料1277 (図IV-345・346、図版222-1)

母岩別資料は接合1277のみである。

素材 18点(14個体)が接合し、重量は550.9g、大きさは $27 \times 8 \times 4$ cmである。平滑な原礫面を持つ扁平で長大な角礫を素材として原石の形態で搬入されている。

剥離工程 表裏両面とも加工されているが(1~7)、上半部は右側面の原礫面を除去できていない。また、上半部の裏面は平坦なため中央部ではヒンジによる段差が形成されている。折れ面は下端部を含め4か所あるが上・下位・下位の折れ面は潜在的な折れによるもので、中位の折れ面は段階7の剥離によるものである。中位の折損後、下部の破片に再加工が行われるが、左側縁から正面への粗い剥離の後、遺棄される。

分布 Sb-27のO60、P59~61区に分布し、尖頭器と剥片では若干分布がずれている。

母岩別資料197・接合資料1270 (図IV-346・347、図版221)

母岩別資料は接合1270のみである。

素材 75点(36個体)が接合し、重量は3,681.1g、大きさは $30 \times 18 \times 10$ cmである。平滑な原礫面を持つ盤状の角礫を素材として原石の形態で搬入されている。

剥離工程 最初、左側面から表裏両面への加工(2~5)が行われるが、内在する直径2.5cm大の球顆を除去できないため、加工は右側面(6・7)に移行する。最終的には右側縁から裏面への加工(7)によって器体は折損し、遺棄されている。原礫面で確認できない内部の大型球顆を除去できずに、また、除去しようとしたことが原因で剥離作業を終了せざるを得なくなっている。

分布 Sb-27のP59、Q59・60、Sb-28のR59~61、Sb-29のP55、Sb-47のO51区に分布し、最大で40mの距離を隔てている。ほとんどの剥片はQ59・60区にまとまって分布するが、両面調整石器はR59区に分布し、R60・61、P55、O51区に分布する剥片は段階3・5で剥離された原礫面を持つやや大型の剥片である。

母岩別資料239・接合資料1401 (図IV-348・349、図版222-2・223-1)

母岩別資料は接合1401の他、剥片2点で構成され、総点数17点、総重量1,752.2gである。

素材 15点(9個体)が接合し、重量は1746.2g、大きさは $28 \times 14 \times 5$ cmである。平滑な原礫面を持つ盤状の角礫を素材として左側縁の両面が加工された形態で搬入されている。

剥離工程 左側縁からの加工により中央で折損し、個体A・Bに分割される。個体Aは折れ面を打面として厚手の縦長剥片が剥離され、個体Bは折れ面を打面として厚手の縦長剥片が剥離された(1)後、その剥離面を打面として剥片剥離が行われる(3)。個体Bの段階3のみ頭部調整がみられる。

分布 Sb-27のO57~60、Q58・59区に分布し、個体A・Bでは分布が異なる。

母岩別資料214・接合資料1324 (図IV-350、図版223-2)

母岩別資料は接合1324の他、接合1325~1328・51142~51144・53966、削器1点、縦長剥片1点、剥片9点で構成され、総点数36点、総重量300.1gである。

素材 3点(3個体)が接合し、重量は20.7g、大きさは $8 \times 5 \times 1.0$ cmである。原石形状は不明であるが、剥片ないし縦長剥片素材で、素材または母型で搬入されたと考えられる。流理構造のある灰色の特徴的な石質で、産地分析ではケショマツ産の結果が得られている。

剥離工程 母型作成：素材の先端部を細石刃核基部に、打面側を細石刃剥離作業面に設定し、背面の上・下縁と腹面下縁部・基部周辺に加工が施される。

剥片剥離：断面三角形の一次剥片59の剥離後、その末端部を腹面から加工して上縁を直線的にし、

甲板面の末端まで達しない中途の削片剥離の後、65が剥離される。65は緩やかな弧を描いて下縁部に達し、平坦な打面が形成される。

細石刃剥離：65が剥離された後、細石刃が剥離されるが、打面再生は行われず、細石刃が連続的に剥離されている。最終細石刃作業面には段差が無く、細石刃を剥離しきった状態であると考えられる。細石刃剥離は削片65の打点位置から細石刃核作業面の位置まで長さにして4.7cm分行われ、細石刃が剥離された甲板面の面積を47×7mm、細石刃の平均的な幅を5mm、厚さを1.5mmとすると90本程度の細石刃が剥離された計算になる。

分布 一次削片59はSb-21のN64区、二次削片65はSb-27のP61区、細石刃核54はQ60区に分布し、最大20mの距離を隔てている。

接合資料2647 (図Ⅳ-350、図版223-3)

素材 2点(2個体)が接合し、重量は7.3g、大きさは4.6×2.4×0.8cmである。原石形状は不明であるが、石刃ないし削片素材で素材または母型で搬入されている。頁岩製。

剥離工程 母型作成：素材の打面側を細石刃核基部に、先端側を細石刃剥離作業面に設定し、背面上・下縁と腹面下縁部に加工が施される。

削片剥離：一次削片は欠落しているが、先行の削片剥離後、腹面から甲板面の傾斜のある部分、甲板面から削片剥離打面周辺に加工が行われ、62が剥離される。62は他端に抜け、平坦な甲板面が形成される。

細石刃剥離：62が剥離された後、細石刃が剥離されるが、打面再生は行われず、細石刃が連続的に剥離されている。最終細石刃作業面はステップになり、段差ができたため遺棄されたと考えられる。細石刃剥離は削片62の打点位置から細石刃核作業面の位置まで長さにして2.0cm分行われ、細石刃が剥離された甲板面の面積を20×7mm、細石刃の平均的な幅を5mm、厚さを1.5mmとすると40本程度の細石刃が剥離された計算になる。

分布 Sb-27のO61、P60区に分布している。

接合資料2646 (図Ⅳ-351、図版223-4)

素材 2点(2個体)が接合し、重量は15.8g、大きさは5.3×2.6×1.1cmである。平滑な原礫面を持つ角礫から剥離された縦長削片を素材として、素材ないし母型で搬入されている。石材は細石刃剥離にはほとんど利用されない黒曜石4である。

剥離工程 母型作成：素材の先端側を細石刃核基部に、打面側を細石刃剥離作業面に設定し、背面上・下縁に加工が施される。素材背面を右側面、素材腹面を左側面に設定し、通常の峠下技法の素材面と作業面の位置関係とは逆になっている。

削片剥離：腹面側に傾き下縁に抜ける一次削片60の剥離後、細石刃核基部側から右側面に粗い加工が行われ、さらに背面に傾く削片が剥離される。細石刃剥離は行われずに遺棄されている。

分布 Sb-27のO60区に分布する。

接合資料2648 (図Ⅳ-351、図版223-5)

素材 2点(2個体)が接合し、重量は32.2g、大きさは6×3×2cmである。めのうの小型の原石を素材として原石ないし素材の形態で搬入されている。

剥離工程 7cm程度の小型の原石を分割し、細石刃核の素材としている。55は素材背面の上下縁、腹面の下縁に加工が施された後、削片剥離が行われる。甲板面には削片剥離痕が二枚あり、削片剥離は最低二回行われている。削片剥離により直線的で平坦な甲板面が形成され、細石刃剥離が行われる。細石刃剥離作業面には最終の細石刃剥離によりステップ状の段差が残り、細石刃剥離が困難になり、

廃棄されたと考えられる。

分布 Sb-27のP60・61区に分布する。

母岩別資料451・接合資料2028 (図IV-351・352、図版223-6)

母岩別資料は接合2028の他、縦長剥片1点で構成され、総点数9点、総重量102.0gである。

素材 8点(5個体)が接合し、重量は27.8g、大きさは11.4×4.0×1.2cmである。原石形状は不明、石刃素材であるが搬入形態は不明。

剥離工程 母型作成：素材の打面側を細石刃核基部に、先端側を細石刃剥離作業面に設定し、両面の上・下縁に加工が施される。上縁の加工は、背面については部分的で、腹面については細かいもので素材の形状をほとんど変えていない。上縁形は軽い弧状である。

削片剥離：断面三角形の一次削片61の剥離後、甲板面の傾きの強い部分を甲板面から腹面に調整を行い、63が剥離される。再度甲板面の傾いた部分を同様に調整した後、IV-221-185が剥離されている。IV-221-185剥離後、甲板面から腹面側に幅が2、3mm減少するほどの大きな加工が行われ、その加工を切る下縁からの加工が行われる。IV-223-222を含む他端に達しない削片剥離後、下縁に抜けるIV-222-219が剥離されている。

分布 Sb-17のJ63、K62、Sb-19のL61、Sb-27のO59・60区に分布している。最初の61・63はSb-27から出土し、次のIV-221-185はSb-19から、IV-223-222・IV-222-219はSb-17から出土している。A地区とB地区の細石刃関連資料の集中域にまたがるように分布し、剥離順ではB地区→A地区の方向性がある。

接合資料2661 (図IV-352、図版223-7)

素材 2点(2個体)が接合し、重量は7.4g、大きさは5.8×2.0×0.9cmである。原石形状は不明。石刃ないし剥片素材であるが搬入形態は不明。

剥離工程 母型作成：素材の打面側を細石刃核基部に、先端側を細石刃剥離作業面に設定し、背面の周縁、腹面の基部に加工が施される。母型の上縁は直線的である。

削片剥離：素材先端側からの削片剥離後、素材打面側から断面三角形の削片IV-219-151が剥離され、甲板面が傾き突出した部分に甲板面から左側面に調整が行われた後、再度素材先端側から64が剥離される。64は下縁に抜けており、細石刃核の甲板面の側面形は「へ」の字状であったと想定できる。

分布 IV-219-151はSb-17のJ64区、64はSb-21のM64区に分布している。

母岩別資料397・接合資料1885 (図IV-353・354、図版224・225-1)

母岩別資料は接合1885のみである。

素材 33点(28個体)が接合し、重量は1,542.3g、大きさは21×15×10cmである。平滑な原礫面を持つ角礫を素材として粗割りされた形態で搬入されている。

剥離工程 左側面から裏面、裏面から左側面に石核調整が行われ、上下に正面からの剥離によって打面が作出された後、頭部調整を行いながら上下から石刃が剥離される(1・2)。石刃剥離に伴い、裏面から左側面に側面調整が行われる(3)。下設の打面再生が行われた後、上下からの石刃剥離(4・5)が継続される。最後に石刃核を素材として作業面を甲板面に設定して舟底形石器が製作されている(個体A)。剥離された石刃は15cm程度で、内側で剥離された石刃、舟底形石器が欠落しており、搬出されたと考えられる。

分布 Sb-27とSb-46・47の2か所に分けられる。Sb-46・47には段階1・2の石刃類が分布し、Sb-27には段階3～5の石核調整削片・石刃類・石核素材の舟底形石器調整削片が分布している。Sb-46・47には、段階1・2の良好な石刃類のみが出土していることからそれらが選択されて持ち

込まれたと考えられる。

母岩別資料186・接合資料1249 (図IV-351・355、図版225-2・226-1)

母岩別資料は接合1249のみである。

素材 78点(52個体)が接合し、重量は2,791.0g、大きさは28×17×12cmである。爪状痕のある転礫を素材として原石の形態で搬入されている。

剥離工程 大型の剥片剥離による打面作出(1)後、後調整無しで頭部調整を伴う石刃剥離が行われる(2)。石刃剥離の途中で作業面から左側面に後調整が行われる。剥離された石刃は15cm程度で原礫面を持たない内側の石刃が欠落しており、搬出されたと考えられる。段階1で剥離された大型剥片A・Bは舟底形石器に加工され、個体Aから加工された舟底形石器は片側を中心に加工され、折損して95が遺棄されている。個体Bの舟底形石器は欠落し、搬出されている。

分布 Sb-21・23・24に分布するが、N61・62、N63区の2か所にまとまりがある。段階2の石刃はN61・62区に、舟底形石器に加工された個体A・BはN63区に分布が分かれ、石刃核はそれらとやや離れたO63・64区に分布している。

母岩別資料184・接合資料1243 (図IV-356・357、図版226-2)

母岩別資料は接合1243の他、接合1244～1246、石刃1点で構成され、総点数29点、総重量1,752.6gである。

素材 12点(9個体)が接合し、重量は921.1g、大きさは26×9×5cmである。平滑な原礫面を持つ角礫素材で搬入形態は不明。

剥離工程 裏面に大型の剥離面を持つ剥片を素材として上設打面から石刃が剥離された(1)後、下面から厚手の縦長剥片が剥離され(2)、再度、上設打面から厚手の縦長剥片が剥離される(3)。20cm程度の段階2・3で剥離された厚手の縦長剥片、石核は舟底形石器の素材となり、全て平坦な素材の大型剥離面を甲板面に設定している。IV-582-63は甲板面・下縁から、88は右側面の一部に、IV-582-62は甲板面からのみ加工が行われ、それぞれ加工途中で折損し、再加工されることなく遺棄される。舟底形石器は短冊状の素材形状を反映して長方形に近い側面形である。

分布 Sb-20と東側の斜面部に分布するが、斜面部であるM66区に最も多く、分布の中心があったと考えられる。

母岩別資料245・接合資料1415 (図IV-357・358、図版227)

母岩別資料は接合1415のみである。

素材 20点(12個体)が接合し、重量は2,995.2g、大きさは21×19×12cmである。角の潰れた転礫を素材として原石の形態で搬入されている。

剥離工程 上面に大型の剥片剥離による打面作出(1)後、縦方向の剥離が行われる(2)。作業面から裏面への剥離による下設打面作出(3)後、同打面から頭部調整を伴う縦長剥片剥離が行われ(4)、再度、上設打面から石刃が剥離された後に石刃核IV-237-351は遺棄される。

分布 Sb-17・26・27に分布し、Sb-17のJ63、K63区とSb-26・27のP62～64、Q64区に分かれる。Sb-17には段階2の折損した石刃、段階4の石刃、石刃核が分布し、それ以外はSb-26・27に分布している。

母岩別資料244・接合資料1414 (図IV-358～360、図版228)

母岩別資料は接合1414のみである。

素材 77点(52個体)が接合し、重量は2,090.5g、大きさは33×13×12cmである。平滑な原礫面を持つ角柱状の角礫を素材として原石の形態で搬入されている。

剥離工程 角礫の稜を利用して最初の石刃を剥離する位置に作業面を設定し、打面が作出される(1)。上設打面から頭部調整を伴う石刃が剥離される(2)が、石刃の末端部がヒンジになり、作業面に段差ができると、作業面の側面形を弧状に維持するように下設打面に打面転移を行い石刃が剥離される(3)。以後、同様に上設打面からの石刃剥離(4)→下設打面再生(5)→下設打面からの石刃剥離(6)→上設打面からの石刃剥離(7)と打面転移が頻りに繰り返され、最終的に石刃核を素材として正・裏面で横方向の剥離が行われ(8~10)、尖頭器が製作されている。石刃は最大20cm程度のもものが剥離され、原礫面を持たない内側で剥離されたものが欠落している。

分布 Sb-27とSb-46の2か所に分布している。ほとんどはSb-27のQ59・60区に分布するが、連続的に剥離されたものではない比較的大型の石刃がSb-46のN53・54区に分布するため、Sb-27からSb-46に持ち込まれたものと考えられる。

母岩別資料238・接合資料1398 (図IV-360・361、図版229)

母岩別資料は接合1398の他、接合1399・1400、剥片3点で構成され、総点数44点、総重量4,820.3gである。

素材 27点(18個体)が接合し、重量は4,252.5g、大きさは19×19×11cmである。平滑な原礫面を持つ角礫を素材として原石ないし原石に近い形態で搬入されている。

剥離工程 裏面から左側面への石核調整・裏面から右側面への剥離(1)・正面から下へ下設打面作出(2)後、下設打面から石刃剥離が行われる。裏面からの右側面下端部調整(3)後、上設打面から頭部調整を伴う石刃剥離(4)が行われ、途中、右側面下端部調整(5・6)を挟んで上設打面から石刃剥離(7)が継続され、最後に上設打面から右側面への石刃剥離(8)が行われる。最大18cmの石刃が剥離されるが、平坦な作業面形状を反映して、幅広である。

分布 Sb-25のR64・65、斜面部のQ67、R66・67・69区に分布し、南側は調査区範囲外に伸びる可能性がある。

母岩別資料202・接合資料1281 (図IV-362~364、図版230・231)

母岩別資料は接合1281の他、接合1282で構成され、総点数99点、総重量2,514.7gである。

素材 95点(57個体)が接合し、重量は2,483.9g、大きさは34×16×10cmである。平滑な原礫面を持つ角礫を素材として原石の形態で搬入されている。

剥離工程 右側面から正・裏面への石核調整(1~3)の後、アクシデンタルな割れで個体A・Bに分割される(4)。

個体Aは左側面調整(1)・作業面下部調整(2)後、打面再生(3)を行いながら頭部調整を伴う石刃剥離が行われる(4)。

個体Bは稜調整(1)・打面作出(2)後、石刃剥離(3)が行われ、途中稜調整(4・6)を挟んで石刃剥離(5・7)が継続される。その後、裏面で石刃剥離(8)が行われ、左側面から裏面への剥離(9)後、正面で下面から石刃剥離(10)が行われる。石刃剥離は全て頭部調整を伴う。

個体A・Bから剥離された石刃の長さは8~18cmで、頭部調整が著しく、打面の縁辺を直線的にするために、剥離される石刃の打面形態は凸レンズ状になる。

分布 Sb-27のQ61、Sb-28のR59~62、Sb-46のL54区に分布する。個体A・Bの分布に違いはなく、1点を除いてはR59~62区周辺にまとまって分布する。唯一L54区から出土しているのは個体Bの段階3で剥離された石刃の打面部である。

母岩別資料195・接合資料1267 (図IV-364・365、図版232・233)

母岩別資料は接合1267の他、接合1268・52627で構成され、総点数47点、総重量2,351.4gである。

素材 42点（22個体）が接合し、重量は1,630.6g、大きさは19×18×13cmである。平滑な原礫面を持つ角礫素材で搬入形態は不明である。

剥離工程 正面右下からの作業面調整後、古い大きな剥離面である単剥離打面から頭部調整を伴い最大20cmの石刃が連続的に剥離されている。作業面の正面形はホームベース型に近い五角形、横断面形は弧状で石刃剥離に伴い断面形は維持される。途中で下縁部調整が行われるが、ほとんど石核形状を変化させることなく、ほぼ理想的に石刃剥離が行われたと考えられる。IV-585-90は内側縁への平坦剥離によって刃器に加工されている。

分布 Sb-25のR64・65、斜面部のQ67・68・70～72、R66・68～70区に分布し、南側は調査範囲外に伸びる可能性がある。分布は東西の広範囲に及ぶが、東側は斜面による影響があると考えられる。

母岩別資料193・接合資料1266（図IV-366、図版233・234-1）

母岩別資料は接合1266の他、剥片13点で構成され、総点数65点、総重量2,543.9gである。

素材 52点（21個体）が接合し、重量は2,476.7g、大きさは16×16×15cmである。爪状痕のある原礫面を持つ角礫を素材として原石ないし打面作出された形態で搬入されている。

剥離工程 大型の剥片剥離による打面作出後、後調整無しで頭部調整を伴う石刃剥離が行われる。原石の中には1～2cmの球顆が含まれ、前半の石刃は球顆による折損が多くみられる。後半は石刃核141にみられるように作業面形状が平坦化し、幅広い石刃が剥離されるが、それらは欠落しており、搬出されたと考えられる。

分布 Sb-22・23・25～27のP62～65、Q64区に分布する。折れ面接合の分布が東西方向に伸びていることから、本来一つのまとまりであった可能性が高い。

母岩別資料192・接合資料1264（図IV-367、図版234-2）

母岩別資料は接合1264の他、接合1265、剥片9点で構成され、総点数51点、総重量885.4gである。

素材 35点（22個体）が接合し、重量は783.2g、大きさは28×9×5cmである。平滑な原礫面を持つ扁平な角礫を素材として原石の形態で搬入されている。

剥離工程 両側面から両面に加工作（1～3）が行われた後、両面調整刃器48が折損している（4）。折損した上部破片は上端に打面が作出され（5）、正面で石刃が剥離される。その後、段階4の折れ面を打面として左側面で石刃剥離（6）が行われ、徐々に正面に作業面をずらし、最終的には幅広い剥片が剥離される。最後に横方向からの剥離（7）が行われ、石核146は遺棄される。石刃は最大15cmで全て頭部調整が行われる。本資料は両面調整の尖頭器を製作する途中で折損し、石刃核に転用されたものである。

分布 Sb-27のO60、P59～61、Q60・61、Sb-28のR60区に分布し、P60区周辺にまとまっている。

母岩別資料191・接合資料1260（図IV-368、図版241-2）

母岩別資料は接合1260の他、接合1261～1263・51127、剥片15点で構成され、総点数66点、総重量943.7gである。

素材 32点（21個体）が接合し、重量は762.7g、大きさは25×14×7cmである。平滑な原礫面を持つ扁平な角礫を素材として原石の形態で搬入されている。

剥離工程 主に右側面を中心に正・裏面にやや粗い加工（1～4）が行われた後、頭部調整のある打面の小さい剥片剥離による加工が行われる（5～8）。尖頭器本体は欠落し、搬出されたと考えられる。

分布 Sb-27のP61、Q59・60区にまとまって分布する。

母岩別資料241・接合資料1404（図IV-368～371、図版242～246）

母岩別資料は接合1404のみである。

素材 150点（98個体）が接合し、重量は11,888.6g、大きさは $18 \times 30 \times 19$ cmである。平滑な原礫面を持つ大型の盤状の角礫を素材として原石ないし原石に近い形態で搬入されている。

剥離工程 左側面から裏面への剥離（1）後、正面からの大型剥片剥離によって上設打面が作出される（2）。上設打面から右側面への厚手の剥片剥離（4）後、下設打面が作出され（3）、下設打面から石刃剥離が行われる（5）。段階5の剥離によって作業面に段差ができ、それを修正するように上設打面から石刃剥離が行われる（6）。段階6の途中で下設打面から剥片が剥離され（7）、さらに、下設打面から石刃が剥離される（8）。その後、上設打面で厚さ4.8cmの大型剥片の剥離による打面再生が行われ（9）、上設打面から石刃が剥離される（10）。正面右側縁の調整（11）後、引き続き上設打面から石刃剥離（12）が、途中で下設打面からの石刃剥離（13）と側縁調整（14）を挟みながら行われる。最後は右側面からの調整を挟みながら上設打面から剥片が剥離され（15）、右側縁上部を欠損（16）して石核145が遺棄されている。一連の石刃剥離を通じて作業面形状は比較的平坦で、両設打面からの石刃剥離によって石核の側面形は「く」の字状に維持され、作業面にヒンジにより段差ができると打面を転移させてその段差を除去している。段階1・2・4で剥離された大型剥片A・B・Cは舟底形石器に加工され、段階6で剥離された大型石刃は削器120に加工されている。石刃剥離の際には頭部調整が行われる。段階6で剥離された石刃である134は 25×12 cmと非常に大型である。図版244・245は打面作出剥片と段階1～3の石核調整剥片を外したものであるが、段階9の大型剥片剥離による打面再生によって大きく高さが減少していること、側面形が「く」の字状に維持されているのが分かる。また、中央の石刃類は欠落し、搬出されている。石刃剥離途中で打面再生のために厚さ4.8cmの大型剥片が剥離されているが、原石が非常に大きいため打面を完全に刷新するためにはこのサイズの打面再生剥片を剥離する必要があったと考えられる。

分布 S_b-23・27・29・46の広い範囲に分布する。個体A・BはO57～59区、個体CはP61・62区、個体A～C以外はN58・59区に主に分布し、舟底形石器に加工された個体A～Cとそれ以外の分布に違いがみられる。個体A～C以外のうち段階3の打面作出剥片がO54・55区、127の石刃がP55・57区、段階1の剥片がO62・P61区からそれぞれ離れて出上している。

母岩別資料243・接合資料1409（図IV-371～373、図版236～241-1）

母岩別資料は接合1409の他、接合1410～1413で構成され、総点数209点、総重量13,602.8gである。**素材** 198点（115個体）が接合し、重量は13,333.0g、大きさは $42 \times 31 \times 19$ cmである。平滑な原礫面を持つ盤状の大型角礫素材である。裏面は一枚の剥離面、その他は原礫面が残りに、上設打面が作出された状態で搬入されている。

剥離工程 裏面から右側面への稜調整（2）・厚さ4.2cmの大型剥片剥離による下設打面作出（1）の後、正面から左側面への稜形成（3）、下設打面から石刃剥離（4）が行われる。打面転移が行われ、上設打面から石刃が剥離（5）された後、下設打面から石刃剥離が行われる（6）。さらに上設打面から左側面から石刃剥離（7）、上設打面再生（8）、上設打面から石刃剥離（9）、正面下部調整（10）、上設打面から石刃剥離（11）、上設打面再生（12）、上設打面から石刃剥離（13）、正面下部左右の石核調整（14）を挟みながらの上設打面からの石刃剥離（15）が行われる。

段階3～5の石刃剥離は右側面に、段階7～15の石刃剥離は左側面に偏って行われる。

段階1・8・12の打面再生剥片、段階2・6の側面調整剥片、段階7の石刃を外したものが図版238・239であるが、前半と後半で作業面転移が行われていることと中央部の石刃が欠落しているのが分かる。石刃剥離の際には頭部調整が行われ、最大24cmの石刃が剥離されている。

分布 Sb-23・27・46に分布し、N54区周辺、N58・59区、P61・62区周辺、Q59・60区周辺の4か所の小集中域に分かれる。量がが多いのはP61・62区周辺とQ59・60区周辺で前者からは段階1～3、後者からはそれ以外の段階の石器が出土している。量の少ないN54区周辺からはIV-449-246(段階7)・IV-448-243(段階11)・IV-449-248(段階13)・IV-448-245(段階13)と剥片1点が出土し、石刃が選択されて持ち込まれていると考えられる。また、N58・59区周辺からは段階1・4の一部の剥片が出土している。

母岩別資料198・接合資料1271(図IV-373・374、図版235)

母岩別資料は接合1271のみである。

素材 34点(16個体)が接合し、重量は4,077.3g、大きさは34×13×12cmである。平滑な原礫面を持つ角柱状の角礫を素材として原石の形態で搬入されている。

剥離工程 正面から上面への剥離によって打面が作出され(1)、頭部調整を伴う石刃が剥離される(2)。段階2の最終剥離の際、石核は節理面から個体A・Bに分割され、その後、それぞれ小口面で剥片剥離が行われる。

分布 Sb-23・27のP60-63区にまとまって分布している。

母岩別資料399・接合資料1887(図IV-375、図版241-3)

母岩別資料は接合1887の他、接合1888・1889で構成され、総点数16点、総重量290.6gである。

素材 12点(11個体)が接合し、重量は279.5g、大きさは16×7×4cmである。原石形状は不明、個体A・Bの舟底形石器の形態で搬入されている。

剥離工程 個体AとBは甲板面同士で接合して、個体Aの甲板面はボジ面で剥片素材である。個体Bの甲板面はネガ面で石核の作業面を甲板面に設定した石核素材か、剥片の背面を甲板面に設定した剥片素材かは不明である。しかし、舟底形石器製作において通常は剥片を素材として背面を甲板面に設定することは無いのでおそらく石核素材と考えられる。個体A・B共に甲板面・下縁から加工された比較的細かい剥離の状態での搬入されている。遺跡内では個体Aは縁辺から5mm程度内側を加撃する粗い加工が甲板面からのみ行われる。個体Bは比較的細かい加工が甲板面・下面からなされている。個体Aの舟底形石器本体である86の左側面の左半分には搬入時の加工が残る、右半分と右側面の全面には遺跡内で加工された粗い加工が残る。両者共に折損していないが遺棄されている。

分布 Sb-24・29・46ブロック外に分布する。個体A・Bとも調整剥片はP51・55区に分布しているが、舟底形石器はそれぞれO62、Q56区に分布する。

写真のみ掲載の遺物

母岩別資料182・接合資料1237(図版247)は、長さ28cmの尖頭器で搬入される。遺跡内で加工されるが、折損し、再加工されずに遺棄される。石材は黒曜石2(梨肌)である。

母岩別資料230・接合資料1361(図版248-1)は、平滑な原礫面を持つ角礫素材で長さ30cm程度の粗加工された尖頭器で搬入される。正面は左側縁から、裏面は両側縁から加工が行われるが、先端部である40が折損、再加工が行われるが、最終的にIV-567-2が折損している。

母岩別資料237・接合資料1390・1391(図版248-2・249-1)は、石核素材の尖頭器調整剥片で表裏の關係にあたる。平滑な原礫面を持つ原石を素材として30cm程度の粗加工された尖頭器で搬入される。両面とも左右両側縁から加工が行われ、長さをほとんど変えずに厚さ・幅を減少させて搬入されている。

母岩別資料290・接合資料1568(図版249-2)は、平滑な原礫面を持つ角礫素材で裏面のみ粗加工された状態で搬入されている。両面とも左右両側縁から加工されるが、尖頭器本体は折損し、遺棄さ

れている。

母岩別資料190・接合資料1258（図版251-2）は、爪状痕のある転礫素材で非常に粗い加工のされた状態で搬入されている。主に裏面を中心に加工されるが、1～2cmの球類が原因で折損し、遺棄されている。

母岩別資料199・接合資料1272（図版250・251-1）は、平滑な原礫面を持つ角礫素材でほぼ原石の状態でも搬入されている。正面下部の稜調整後、下設打面から石刃が剥離される。その後、打面を転移し、上設の原礫面打面から石刃が剥離されるが、途中で作業面下部に稜調整・下設打面調整・下設打面からの石刃剥離が行われる。石刃は20cm程度で剥離の際には頭部調整が行われ、中央から左側面にかけての石刃が欠落し、搬出されている。最後は石刃核の作業面を甲板面に設定して舟底形石器が製作される。図版251-1は石刃核部分の接合写真である。素材となる石刃核は平坦な作業面と平滑な原礫面に覆われ盤状で、その形状を反映して舟底形石器の側面形は長方形である。

母岩別資料201・接合資料1278（図版252・253-1）は、平滑な原礫面を持つ角礫素材で原石に近い状態で搬入されたと考えられる。右側面下部調整・上設打面作出後、石刃剥離が行われ、打面再生を積みながら継続される。最後は石刃核の作業面を甲板面に設定して舟底形石器が製作されるが、折損して遺棄されている。加工された舟底形石器（図版253-1-83）は盤状の石刃核形状を反映して側面形が長方形である。石刃剥離の際に頭部調整が行われる。剥離される石刃は20cm程度で、平坦な作業面形状を反映し、幅広である。中央の石刃が欠落し、搬出されている。打面作出剥片1個体、大型石刃4個体、石刃核1個体の計6個体を素材として舟底形石器が製作され、石刃核素材の1個体以外は搬出されている。また、石刃のうち1点は背面先端部の右側縁に平坦剥離が施され、削器に加工されている。

母岩別資料165・接合資料1197（図版253-2）は、爪状痕のある転礫素材で原石の形状で搬入されている。正面を大きく取り去る剥離の後、一回の剥離によって打面が作出され、頭部調整を伴う石刃剥離が行われる。

母岩別資料164・接合資料1196（図版254）は、平滑な原礫面を持つ角礫素材で、上・裏面を粗く剥離した状態で搬入される。正面下部の石核調整後、下設打面が作出され、下設打面からの石刃剥離、上設打面からの石刃剥離が交互に行われる。最後は石刃核の右側面下部から横方向の剥離がみられる。石刃剥離の際には頭部調整が行われる。作業面は平坦で17cm程度の幅広の石刃が剥離されているが、ほとんどは欠落し、搬出されている。

母岩別資料187・接合資料1250（図版255）は、爪状痕のある原礫面を持つ転礫素材で、打面が作出された状態で搬入されている。正面から左側面への稜調整後、平坦な単剥離打面から頭部調整を伴う石刃剥離が行われ、15cm程度の石刃が剥離されている。中央から右側面にかけての石刃が欠落し、搬出されている。（鈴木宏行）

(12) C区・石器ブロック30～35 (Sb-30～35) の石器

出土石器（表IV-7～10）

尖頭器33点、両面調整石器4点、ナイフ形石器1点、彫器2点、搔器13点、削器27点、錐形石器1点、舟底形石器10点（Ⅱ型10点）、二次加工ある剥片7点、細石刃核2点、石刃98点、縦長剥片197点、石刃核11点、石核15点、削片13点（細石刃核削片10点、尖頭器削片2点、その他削片1点）、剥片9,226点、台石4点の計9,664点、重量104,341.3gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が55.3%で最も多く、黒曜石4（31.7%）、黒曜石5（5.9%）、黒曜石3（4.5%）、黒曜石2（2.5%）が続き、以下安

山岩 (0.08%)、頁岩 (0.02%)、めのう (0.01%)、流紋岩 (0.01%) である。石刃・縦長剥片は黒曜石が多い。

尖頭器 (図Ⅳ-376-1~図Ⅳ-377-12、図版256・257)

16点 (10個体とⅠ層出土2個体を加えた12個体) を図示している。1は比較的薄手の尖頭器である。平坦な裏面の加工を正面の加工が切り、最後は裏面右下の加工で下端部を欠損している。2・4は厚手で、比較的加工が粗い。平坦な裏面から正面に加工が行われるため断面が三角形となる。3・5は両面とも平坦加工が施される薄手の尖頭器である。3は幅広で折損後、下端部が再加工されている。5の正面上部には左側縁から右側縁を取り込む加工があり、やや幅広であったと考えられる。6~8は幅狭の尖頭器の欠損品である。7は角礫素材で裏面縁辺部の加工を打面にして正面の加工が行われる。9・11は厚手で比較的粗い加工で構成される。11は角礫素材で裏面・右側面に角礫面が残る。10は両面とも平坦調整で加工され、下端部の折れ面から裏面に加工がある。正面には右側縁を取り込む加工があり幅広であったと考えられる。裏面には素材腹面が残り、剥片素材である。12は平坦剥離で構成される裏面とそれを切る正面の加工で構成され、断面は三角形である。

両面調整石器 (図Ⅳ-377-13~図Ⅳ-378-14、図版257)

2点 (2個体) を図示している。13は角柱状の角礫素材で左側面と裏面の後縁を中心に左側面・裏面に加工が行われる。剥離角は90度に近く剥離が困難な状態で、左側面と裏面の後縁は潰れている。14は両面調整石器ないし尖頭器の折損品を素材として、左側縁では折れ面から右側縁では下端部から削片状の剥離が行われる。右側縁から剥離された削片は腹面から加工が行われ、舟底形石器Ⅰ類の加工途中と考えられる。

細石刃 (図Ⅳ-378-15~17、図版257)

3点 (Ⅱ層出土3個体) を図示している。15~17は長さ20~23mmで全て同様な大きさの細石刃核から剥離されている。16には器体にねじれがみられ、17の右側面には細石刃核の右側面下縁部調整が残る。

細石刃核 (図Ⅳ-378-18~20、図版257)

4点 (2個体とⅠ層出土1個体を加えた3個体) を図示している。18・19は細石刃剥離痕のあるもの、20は細石刃剥離痕のないものである。18は素材の打面側を細石刃剥離作業面に、先端側を細石刃核基部に設定し、右側面には素材面と下縁からの加工が、左側面には下縁からの加工がみられる。甲板面の側縁形は「へ」の字状で、甲板面は削片剥離後に右側面から加工が行われる。19は縦加型細石刃核である。両側面は大部分が甲板面からの加工で整形され、下縁からの加工も一部みられる。左右側面の上下縁部の加工は非常に細かく、また、縁辺は擦り潰されて直線的に仕上げられている。作業面形状はU字形に近い18に比べ、未製品の断面形を反映して肉側縁が直線的に立ち上がるV字状である。そのため、作業面に残る細石刃の形状は肉側縁が平行しない先細りである。18・19の作業面長はそれぞれ21、24mmであり差がない。20は大型の剥片素材で素材の打面側を細石刃剥離作業面に先端側を細石刃核基部に設定し、背面の周縁に比較的急角度の加工が、腹面の一部に細かい加工が施される。削片剥離後、左側面から甲板面に加工が行われるが、その際の剥離で折損している。

細石刃核削片 (図Ⅳ-378-21~25、図版257)

6点 (5個体) を図示している。21~25は二次削片である。全て左側面に先行の削片剥離後の甲板面からの調整がみられ、22には右側面から甲板面に先行の削片剥離による末端部の段差を除去するための加工が、23・24には甲板面の削片剥離打面周辺に加工が行われる。22は他の削片に比べ打面が大きく厚手である。

舟底形石器 (図Ⅳ-378-26~図Ⅳ-380-32、図版258)

9点(5個体とI層出土1個体とII層出土1個体を加えた7個体)を図示している。26はI類、27~32はII類である。素材剥離軸と石器長軸が直交する31を除いて素材剥離軸と石器長軸は一致する。26は肉壁に細石刃状の縮状剥離痕がある。30・32は甲板面からの加工によって整形され、それ以外は甲板面と下縁から加工される。特に細長い形状である29は下縁からの加工頻度が高い。原稜面が残るのは29・31のみで平滑な原稜面である。29は素材剥離に伴う調整はなく、31は甲板面がネガ面で石核素材と考えられる。

ナイフ形石器 (図Ⅳ-380-33、図版258)

1点(1個体)を図示している。33は横長剥片を素材として素材剥離軸と直交するように肉面共に急角度の加工によって基部が作り出される。素材の一個縁は加工されずに端部に残される。素材背面と腹面の剥離面は直交し、素材は90度の打面転移が行われた石核から剥離されている。

彫器 (図Ⅳ-380-34~37、図版258)

4点(2個体とI層出土2個体を加えた4個体)を図示している。34~36はI類、37はII類である。素材は全て石刃・縦長剥片素材と考えられる。打面の残る34・37は頭部調整のある単剥離打面の石刃核から剥離されている。彫刀面打面部のみ加工の施される34以外は背面全周縁・腹面の一部に加工が施される。彫刀面は36のみ素材打面部に作出される。36は器体端部を断ち切るように作出された彫刀面打面部から形態軸・彫刀面交角の小さい直線的な彫刀面が作出される。背面の加工は平行剥離で腹面も基部全体に加工が施され、他とは形態・加工とも異質である。37には背面先端部調整がみられる。

掻器 (図Ⅳ-380-38~図Ⅳ-381-50、図版258・259)

15点(13個体)を図示している。38~46は定形、47~50は折損品である。全て石刃・縦長剥片素材である。40は頁岩製。打面の残るものは39・42・43で、39・42は頭部調整を伴う単剥離打面、43は原稜面打面の石刃核から、44・45は打面調整の施される石刃核から剥離されている。刃部形状は直線的なものが多く42・44・46・50は弧状である。40・41は両側縁に急角度の加工が行われるが、それ以外は全く加工されないか軽微な加工が施される程度である。

錐形石器 (図Ⅳ-381-51、図版259)

1点(1個体)を図示している。51はめのう製、単剥離打面から頭部調整を行わずに剥離された縦長剥片素材で先端部に長軸に対して斜めに刃部が形成される。加工は刃部のみである。

削器 (図Ⅳ-381-52~図Ⅳ-382-57、図版259)

7点(5個体とI層出土1個体を加えた6個体)を図示している。53・54・56・57は定形、55は折損品である。大型剥片素材である57を除き石刃素材で、55・56は大型の石刃素材である。52~54は両側縁に連続した急角度の加工が行われる。55~57は平坦剥離で加工されるもので、55は素材の中央部は背面の両側縁には鋭角の、基部には肉面に平行剥離が施され尖頭状に加工される。56は左側縁のみ、57の右側縁は弧状に左側縁はやや直線的に加工が行われる。

石刃 (図Ⅳ-382-58~図Ⅳ-383-62、図版260)

11点(5個体)を図示している。58・59は稜付石刃である。58は両側面への比較的大型の剥片剥離によって稜が形成され、59は細かい剥離で稜調整が行われる。58の後の突出部は擦り潰されている。59の背面打面部付近はステップ状に潰れ、単剥離打面から頭部調整を伴わずに剥離されている。60・62は頭部調整のある単剥離打面から剥離され、62は肉設打面の石刃核から剥離されている。長さは20cm前後である。

石刃核・石核 (図Ⅳ-384-63~図Ⅳ-388-77、図版261~264)

石刃核は11点(11個体)、石核は4点(4個体)を図示している。63は折れた大型尖頭器素材で、折れ面から左側面への加工の後、折れ面を打面として両端で削片状の縦長剥片が剥離され、主に正面側で頭部調整を伴った剥離が行われる。64～72は転礫素材で単剥離打面を持ち、頭部調整を伴う石刃・剥片剥離が行われたものである。64～67は作業面長が10cm以下である。67は左側面に石刃剥離痕があり、左側面での石刃剥離後、正面で石刃核を斜めに断ち切るような石刃剥離が行われる。68・69は作業面長が10cmを越えるもので69は顕著な頭部調整がみられる。70～72は幅広で平坦な作業面を持ち、10cm前後の幅広な石刃が剥離されている。作業面形状が幅広になるのは原石の長軸を横方向に設定しているためである。73は角礫素材で単剥離打面を持ち、頭部調整を伴う18cm程度の石刃が剥離されている。74は転礫素材で背後を作出した後、打面調整・頭部調整を行いながら15cm程度の石刃が剥離される。75は角礫素材、表裏両面で剥片剥離が行われるが、正面では上部から左側縁にかけて180度の弧状の打面から剥片剥離が行われ、下部では右下に打面を固定して剥片が剥離され、最後に右側縁下部から剥離が行われる。裏面も同様で上部では弧状の打面から剥離が行われ、左側からの剥離を伴う。結果的に凹盤状の形態になる。76は小型の転礫素材で原石を分割するように原礫面を打撃して剥離が行われる。77は小型の角礫素材で、原礫面を打撃して剥離が行われる。

石器ブロック30 (Sb-30) の分布 (図IV-389、表IV-7・8)

H60区の3×2mの範囲で確認されたが、調査範囲外である北側に分布が伸びると考えられる。尖頭器1点、縦長剥片1点、剥片276点の計278点、重量2,130.8gの石器類が出土した。分布密度は高い。石材は黒曜石1が98.2%を占め、以下黒曜石4(1.1%)、黒曜石3(0.4%)、黒曜石5(0.4%)である。非常に小規模なブロックである。

石器ブロック31 (Sb-31) の分布 (図IV-389、表IV-7・8)

H58～60、I58・59区の7×6mの範囲で確認されたが、調査区範囲外である北側に分布が伸びると考えられる。分布密度の高い60ライン周辺と密度の低い59ライン周辺に分けられる。挿器3点、錐形石器1点、舟底形石器2点(Ⅱ類2点)、二次加工ある剥片1点、縦長剥片1点、剥片810点の計818点、重量2,761.1gの石器類が出土した。石材は黒曜石4が86.4%を占め、以下黒曜石1(12.3%)、黒曜石5(0.6%)、黒曜石2(0.1%)、黒曜石3(0.1%)、頁岩(0.1%)、流紋岩(0.1%)、めのう(0.1%)である。黒曜石4が多く、ツールでは挿器・舟底形石器の出土が特徴的で、それらは分布密度の低い59ライン周辺に分布する。

石器ブロック32 (Sb-32) の分布 (図IV-390、表IV-7・8)

H57・58、I58、J57・58区の11×5mの範囲で確認された。分布密度は比較的低い。尖頭器1点、挿器4点、削器5点、二次加工ある剥片1点、石刃6点、縦長剥片6点、石核2点、剥片474点、台石1点の計500点、重量6,546.5gの石器類が出土した。石材は黒曜石4が65.8%を占め、以下黒曜石1(26.8%)、黒曜石5(5.2%)、黒曜石2(1.4%)、黒曜石3(0.4%)、頁岩(0.2%)、安山岩(0.2%)である。石材では黒曜石4が多く、ツールでは挿器・削器が多いのが特徴である。

石器ブロック33 (Sb-33) の分布 (図IV-390、表IV-7・8)

H57・58区の4×4mの範囲で確認された。尖頭器2点、削器4点、舟底形石器1点(Ⅱ類1点)、二次加工ある剥片1点、石刃47点、縦長剥片67点、石刃核1点、剥片595点の計718点、重量17,282.7gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が91.8%を占め、以下黒曜石4(4.6%)、黒曜石5(3.5%)、黒曜石3(0.1%)である。分布密度は高く、石刃・縦長剥片が非常に多い。

石器ブロック34 (Sb-34) の分布 (図IV-391、表IV-7・10)

H56・57、157区の9×4mの範囲で確認されたが、調査範囲外である北側に分布は伸びると考えられる。尖頭器8点、両面調整石器2点、削器3点、細石刃核2点、石刃13点、縦長剥片64点、石刃核1点、石核2点、削片9点(細石刃核削片8点、尖頭器削片1点)、剥片1,708点、台石1点の計1,813点、重量21,470.2gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が52.7%を占め、以下黒曜石4(20.2%)、黒曜石2(10.7%)、黒曜石5(9.3%)、黒曜石3(7.0%)、安山岩(0.06%)である。分布密度の高い小集中域が3か所ある。石材は黒曜石2が含まれ、周辺ブロックにはみられない細石刃関連資料が含まれるのが特徴である。剥片以外の石器はHI57区に集中している。

石器ブロック35(Sb-35)の分布(図IV-391~393、表IV-9・10)

H54~56、I54~57、J54~57、K55~57区の15×14mの範囲で確認されたが、若干調査範囲外の北側に分布は伸びると考えられる。C区の中で最大のブロックである。尖頭器21点、両面調整石器2点、ナイフ形石器1点、彫器2点、搔器6点、削器15点、舟底形石器7点(Ⅱ類7点)、二次加工ある剥片4点、石刃32点、縦長剥片58点、石刃核9点、石核11点、削片4点(細石刃核削片2点、尖頭器削片1点、その他削片1点)、剥片5,363点、台石2点の計5,537点、重量54,150.0gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が58.2%を占め、以下黒曜石4(29.4%)、黒曜石5(6.2%)、黒曜石3(5.5%)、黒曜石2(0.6%)、安山岩(0.1%)である。H55・56、I56、I・J55、J56区の4か所の小集中域に分けられる。H55・56区の小集中域には転蹠素材で作業面が幅広いの石刃核が含まれ、尖頭器が多い。I56区の小集中域はツールが少なく、I・J55区の小集中域は刃部が弧状の搔器が多く、J56区の小集中域には舟底形石器・尖頭器が多い。彫器はJ55・56区に分布し、型式の異なる36のみJ57区に分布する。細石刃関連資料は一括遺物を含め散漫に分布している。石核類は石質4の小型のものがJ55・56区周辺に分布する。

石器ブロック30~35(Sb-30~35)の接合状況(図IV-394)

全体的には各ブロック内の小集中域を単位としてまとめるが、Sb-33・34では小集中域内での接合率が高く、相互にまたがる接合が多い。また、区域を越えた接合もみられる。

接合資料2662(図IV-395、図版267-3)

素材 接合2662は3点(3個体)が接合し、重量は6.6g、大きさは3.5×1.4×1.1cmである。原石形状は不明、剥片ないし石刃・縦長剥片素材で搬入形態は不明。

剥離工程 母型作成：素材の先端部を細石刃剥離作業面に、打面側を細石刃核基部に設定しているが、母型作成時の二次加工は不明。

削片剥離：先行の削片剥離後、甲板面から左側面、側面から甲板面の削片打面周辺に加工が行われ、24が剥離される。その後、同様に23・25が剥離される。25の剥離の際には削片剥離打面部分を甲板面からの加工で尖頭状に調整している。

分布 Sb-34のH57区に分布している。

母岩別資料260・接合資料1464(図IV-395~397、図版265・266)

母岩別資料は接合1464の他、接合51184、縦長剥片1点、剥片41点で構成され、総点数99点、総重量5,305.9gである。

素材 54点(33個体)が接合し、重量は4,722.1g、大きさは24×22×18cmである。角の潰れた直角礫を素材として原石ないし原石に近い形態で搬入されている。

剥離工程 右側面から裏面へ剥離が行われ(1)、正面左上から縦長剥片が剥離(2)された後、正面右上から縦長剥片が剥離される(3)。以後、正面左下からの剥離(4)→正面右上からの剥離(5)

→右側面調整(6)→裏面左上からの剥離(7)→正面左上からの剥離(8)が行われる。正面では主に左上上縁・下縁から、裏面では右側面下部・上縁からの剥離が行われる。頻繁な打面転移の結果、石核75の形状は円盤状になる。石核の縁部には頭部調整状の細かい剥離が残る。段階2で剥離された厚手で大型の剥片(個体A)は細石刃核に加工されている。個体Aに関して以下に説明を行う。

個体A母型作成:縦長剥片の先端側を細石刃核基部に、打面側を細石刃剥離作業面に設定し、上縁部は背面・腹面側の一部に、下縁部は背面側の全体・腹面側の一部に加工が施される。

削片剥離:一次削片に近い二次削片IV-569-12剥離後、甲板面中央部に右側面から、削片剥離打面周辺の左側面に甲板面から加工が行われ、22が剥離される。再度、甲板面・左側面への加工の後、21が剥離される。右側面に傾く断面三角形の削片剥離後、削片剥離打面部に甲板面から加工を行い、甲板面中央部を左側面から加工した際に細石刃核は折損している。22の打面は厚く、厚手の削片を意図して剥離されたと考えられる。

分布 Sb-32・34のH57・58、I57区に分布している。分布はH57区の西北部、南西部、H58区の3か所に分かれるが、それらは段階差や大きさで分けることはできない。細石刃関連の個体AはH57区西北部に分布する。

母岩別資料259・接合資料1456・1457(図IV-398・399、図版266・267-1・2)

母岩別資料は接合1456・1457の他、接合1458~1463・51182・51183、縦長剥片2点、剥片80点で構成され、総点数172点、総重量3,977.7gである。

素材 接合1456は62点(38個体)が接合し、重量は3,399.7g、大きさは25×15×14cmである。接合1457は5点(3個体)が接合し、重量は34.5g、大きさは8.2×2.4×2.0cmである。角の潰れた亜角礫を素材として原石の形態で搬入されている。

剥離工程 核形成を含む石核調整(1)後、上設の複剥離打面から石刃が剥離される(2)。下設打面作出(3)後、打面調整(5)を挟んで下面から石刃剥離が行われる(4)。最後に裏面で石刃剥離が行われる(6)。接合1457は段階1で左側面から正面側で剥離されたと考えられる厚手の剥片を素材としている。接合1457に関しては以下に説明を行う。

接合1457母型作成:剥片の先端側を細石刃核基部に、打面側を細石刃剥離作業面に設定している。一次削片・細石刃核が欠落し、母型作成時の加工は不明である。

削片剥離:先行の削片剥離後、削片打面周辺を甲板面から調整し、IV-222-205が剥離される。下縁部から左側面への加工後、再度削片打面周辺の調整が行われ、IV-220-179が剥離される。IV-220-179の剥離によってできた甲板面の段差を除去するように右側面から甲板面に加工が行われ、削片剥離打面部周辺の甲板面への加工後、IV-220-180が剥離される。

分布 Sb-17のI64・65、J63、Sb-34のH57区の2か所に分布している。段階1の大型剥片、段階2・4の最終剥離剥片を除いた段階1~5はSb-34に、段階6以降のものはSb-17に分布する。段階1で剥離された剥片素材の細石刃核削片接合資料である接合1457は、H64・65、I64区に分布している。段階で分布に違いがあり、段階1~5はH57区周辺で剥離が行われた後、I64区周辺に持ち込まれ剥離が行われたと考えられる。また、段階1の剥片も選択されてI64区に持ち込まれ、細石刃核に加工されている。

母岩別資料261・接合資料1465(図IV-400・401、図版268)

母岩別資料は接合1465の他、接合1466~1469・51185~51191、剥片142点で構成され、総点数236点、総重量4,805.5gである。

素材 66点(38個体)が接合し、重量は3,407.2g、大きさは29×20×17cmである。爪状痕のある原

礫面を持つ転礫を素材として正面を稜状に粗割りした形態で搬入されている。

剥離工程 上面から右側面への剥離(1)、正面から上面への剥離(2)、裏面から左側面への剥離(3)、右側面から裏面への剥離(4)、稜調整右側面(5)、稜調整左側面(6)の一連の石核調整後、頭部調整を伴う石刃が剥離される(7)。石刃剥離の際には打面再生(8)が頻繁に行われ、下縁部調整(9)も行われる。石刃剥離の際の稜調整が顕著で稜部は擦り潰され、頻繁な打面再生により石刃核高が8cm程度減少している。剥離された石刃は20cm程度で、多くは欠落し、搬出されている。

分布 Sb-34・35のH57、I56・57、J56区に分布する。分布は大きくH57区とJ56区の2か所に分かれるが、それらに段階差は認められず、石器の内容による違いも明確には認められない。

母岩別資料189・接合資料1257 (図IV-401・402、図版267-4)

母岩別資料は接合1257の他、接合51125、剥片1点で構成され、総点数42点、総重量2,366.1gである。

素材 39点(21個体)が接合し、重量は2,327.1g、大きさは21×14×12cmである。角の潰れた転礫を素材として原石の形態で搬入されている。

剥離工程 正面からの剥離による打面作出(1)後、石刃核の打面縁部を直線的にする顕著な頭部調整を伴う石刃剥離が行われる(3)。(2)の横方向の剥離がみられるが原石内部に内在する割れであった可能性が強い。剥離された石刃は12cm程度で、中央部で剥離された幅広のものは欠落し、搬出されたと考えられる。

分布 Sb-22のP64、Sb-35のH55区の2か所に分かれて分布している。P64区から出土したのは比較的形の整った石刃・剥片で、H55区から出土したのはそれ以外の遺物であるため、P64区に選択された石刃類が持ち込まれたと考えられる。

母岩別資料270・接合資料1499 (図IV-402・403、図版269)

母岩別資料は接合1499の他、接合1500、剥片1点で構成され、総点数15点、総重量1,567.3gである。

素材 10点(7個体)が接合し、重量は1,367.3g、大きさは11×14×14cmである。角の潰れた亜角礫を素材として原石に近い形態で搬入されている。

剥離工程 左側面を打面として正面で剥離が行われた後、上面に打面を転移させ、正面上から幅広の石刃が剥離されている。

分布 Sb-35のH55・56区にまとまって分布している。

母岩別資料343・接合資料1698 (図IV-403、図版269)

母岩別資料は接合1698のみである。

素材 24点(12個体)が接合し、重量は2,100.9g、大きさは23×16×13cmである。爪状痕のある原礫面を持つ転礫を素材として原石で搬入されている。

剥離工程 転礫の長軸を横方向に利用し、末端部を粗い剥離(1)によって切り落とし、横方向の剥離(2)の後、反対側の端部を切り落とす剥離を行い、さらに頭部調整を伴う石刃剥離(3)が行われている。

分布 Sb-35のH55区にまとまって分布している。

母岩別資料289・接合資料1557 (図IV-404~407、図版272~278)

母岩別資料は接合1557の他、接合1558~1567・51218~51221、縦長剥片8点、剥片224点で構成され、総点数476点、総重量16,131.7gである。

素材 200点(128個体)が接合し、重量は499,641.1g、大きさは37×28×34cmである。平滑な原礫面を持つ大型の角礫を素材として原石の形態で搬入されている。

剥離工程 大型剥片である個体Aの剥離によって個体Bの打面が作出される。

個体 A は先端部折損(1)、打面作出(2)、稜調整後、顕著な頭部調整を伴う石刃が剥離される(3)。石刃剥離の途中で下面からの調整(4)が行われる。図版278-93は個体 A の打面作出剥片・先端部折損剥片を外した写真である。上面を見ると石刃核に近い中央の石刃が欠落しており、搬出されたものと考えられる。

個体 B は打面作出時の欠損(1)、稜調整(2)後、顕著な頭部調整を伴う石刃剥離が行われる(3)。石刃剥離の進行に伴い作業面が平坦化すると下面から剥離が行われ(4)、作業面の末端部端面が弧状になるように維持される。最後は薄くなった石刃核を横方向に分割している(5)。

段階3で剥離された厚手の縦長剥片(個体 A)、段階5で剥離された剥片(個体 B)、石核(個体 C・図版276-91)は舟底形石器に加工され、それぞれ搬出されている。図版274-90の上面を見ると内側から左側にかけての石刃が欠落し、搬出されている。

個体 A・Bとも15~20cmの石刃が剥離されている。

分布 Sb-32~35の H56~58、I56~58、J55・57区に分布し、ほとんどは Sb-33の H57・58区にまとまっている。H57・58区以外に分布する石器は石刃が多いが、他の石刃と明確な違いはみられない。

写真のみ掲載の遺物

母岩別資料265・接合資料1482(図版270・271)は爪状痕のある黒曜石2(梨肌)の転蹀素材で原石の形状で搬入されている。石核調整の後、正面で頭部調整を伴う石刃剥離が行われる。石刃核は出土していない。30cmを越える大型の原石素材であるが接合する石器は、ほとんどが石核調整剥片で良形の石刃は無い。

母岩別資料339・接合資料1690(図版271)は10cm以下の非常に小型の転蹀を素材として上下方向から分割されている。分割された剥片は割縁が加工されている。(鈴木宏行)

(13) D区・石器ブロック36~55(Sb-36~55)の石器

出土状況(表IV-9~12)

尖頭器264点、両面調整石器59点、ナイフ形石器1点、彫器34点、掻器36点、削器109点、錐形石器7点、舟底形石器111点(I類2点、II類109点)、二次加工ある剥片41点、細石刃1点、石刃201点、縦長剥片440点、石刃核37点、石核54点、削片18点(尖頭器削片11点、その他削片7点)、剥片27,329点、斧形石器1点、台石1点、砥石1点、敲石1点、原石31点の計28,783点、重量257,068.5gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が48.6%で最も多く、黒曜石4(30.7%)、黒曜石5(13.2%)、黒曜石3(7.0%)が続ぎ、以下黒曜石2(0.3%)、頁岩(0.09%)、安山岩(0.04%)、軽石(0.03%)、めのう(0.007%)、凝灰岩(0.003%)、砂岩(0.003%)である。細石刃1点を除くと細石刃関連資料が無く、他の区域に比べ彫器が多いのが特徴である。彫器(74%)、錐形石器(100%)、舟底形石器(I類100%、II類45%)は黒曜石4が多く利用されている。今回報告地区では最大の区域で最多の遺物が出土している。

尖頭器(図IV-408-1~図IV-421-51、図版279~287)

132点(46個体とI層出土5個体を加えた51個体)を図示している。1~5は斜平行剥離のみられる尖頭器である。1は石刃素材、2は扁平な角蹀素材、3~5は石核素材と考えられる。1・2は断面三角形の素材が利用され、加工の度合いは低い。3~5は素材面が残らず、断面が凸レンズ状で、両面の中央に平坦剥離面を残すことから大型の素材から整形され平坦剥離による加工を経て斜平行剥離が行われたと考えられる。3は両端が折損しているが縁部で両端から削片状の加工がなされている。

6～39は主に両面とも平坦剥離によって加工されるものでほとんどは断面形が凸レンズ状になる。6～31は比較的幅が狭く、32～39は幅広の尖頭器であるが、これらは漸移的なものである。6～17、32～34は完形ないしほぼ完形、18～31、35～39は折損品である。原礫面の残存するものは10・12・14・15・17・21・32で、角の潰れた亜角礫である14以外は平滑な原礫面を持つ角礫素材である。32は両面に原礫面が残り、扁平な原礫素材である。6は折れ面から再加工されており、結果的に小型になっている。7の縁辺には削片状の加工がみられる。8～10は尊手で形態が整っているが加工の際に折損している。9は、裏面右上の剥離面からその打点位置を推定し、前段階の形態を復元すると、本来は左右対称の尖頭器で、右上を取り込む加工により大きな形態変化があったと考えられる。11は正面両側縁が最終的に角度のある加工によって調整されているため断面形が三角形に近い。12は正面左からの最終剥離面で折損し、13の中央の折れ面は放射状である。14は裏面右からの剥離が反対側縁を取り込んでいるため直線的になっている。また、折損後、折れ面から加工が行われる。15の肉端には原礫面ないし古い面が残存し、素材形状を残す。細長い16は左側縁を取り込む加工により大きく形態を変化させている。17は23cmと大型で左右非対称である。19は先端部の折損後、再加工が行われる。22には剥離による折れ面を切る2か所の放射状の折れ面がある。23の左側縁下部は右側縁下部からの剥離によって切り取られている。28の下部の折損は被熱によるものである。30・33は裏面に大型の剥離面が残るが、古い面であるため石核素材と考えられる。31は縁辺を取り込む割れによって不安定な半面形である。35は中央を斜めに二分する折損後、折れ面から再加工される。

40～44・48・50は粗い加工で整形されたものである。原礫面が残るのは40・43・44・48・50で、角の潰れた亜角礫素材である40・44以外は平滑な原礫面を持つ角礫素材である。41・42は折損後、再加工が行われる。48・50は被熱による折れ面が含まれる。50は初期の加工により不安定な下部形状が決定されている。20cmを越える大型品が多く、原礫面を残すものが多いことから石核素材の尖頭器の初期段階であると考えられる。

45～47・49は両側縁に角度のある加工のみられる細長い形態のものである。45～47は両端に折れ面があり、その面から加工がみられる。両側縁の急角度の加工は折れた後の再加工の結果と考えられ、再加工を繰り返した最終的な形態と考えられる。

51は尖頭器折損後、折れ面から側縁で削片状の剥離が行われている。

両面調整石器 (図IV-422-52～図IV-425-57、図版288～291)

34点(6個体)を図示している。52以外は原礫面が残り、全て平滑な原礫面を持つ角礫素材である。55は厚さ2cmの薄い扁平な原石素材で、56・57は4cm程度の扁平な原石素材である。部分的な粗い加工のものが多く、また、厚手のものが多いことから尖頭器製作の最初の段階であると考えられる。また、56・57は同一母岩が無く、試し割りされた状態で搬入され、そのまま遺棄されたと考えられる。

尖頭器削片 (図IV-425-58～62、図版291)

7点(3個体とI層出土2個体を加えた5個体)を図示している。58～60・62は両面加工、61は片面加工に近い尖頭器の縁辺を取り込むように剥離されている。61のみ打面が残存し、折れ面ではなく尖頭器縁辺を打面としている。

ナイフ形石器 (図IV-425-63、図版291)

1点(1個体)を図示している。63は原礫面が残る幅広の削片を横方向に利用し、直線的な側縁を残し、素材打面部・末端部を斜めにやや内湾するように断ち切る急角度の加工が施される。腹面には素材のバルブを除去する加工が右側縁から行われ、両側縁の縁辺部は潰れている。素材背面と腹面の剥離方向は直交し、打面転移の行われた石核から剥離されている。

彫器 (図Ⅳ-426-64~図Ⅳ-427-94、図版291・292)

35点 (27個体とⅠ層出土4個体を加えた31個体) を図示している。素材は石刃・縦長剥片と考えられるものが多い。素材の打面が残るものは少ないが、頭部調整のある単刃離打面を持つものと打面縁辺部が潰れた複刃離打面を持つものがある。彫刀面は両端に作出される64を含め、全て素材先端部に作出され、石刃の93以外は全て左刃である。彫刀面打面は全て腹面からの加工で作出される。彫刀面形状は64~67・93がⅠ類、68~92・94がⅡ類である。周縁加工は、Ⅰ類のうち64は彫刀面打面のみに、65・67・93は両側縁に行われ、66は基部に左右縦縁から背面を覆う加工が行われ、断面が三角形になる。Ⅱ類のうち68~74は背面を覆う加工により断面三角形になり、76~90は縁辺部に急角度の加工がなされ、75・91・92・94は微細な加工が施される。腹面に加工のみられるものは65・66・68・70・72・77・78・81~83・85・90で片側にはみられないが、Ⅱ類には77・88・89は側縁が内湾し、基部が舌状に整形されている。背面先端部調整はⅠ類にはみられないが、Ⅱ類には77・88・92・94を除いて全てみられる。そのうち6割程度の調整は彫刀面に切られ、打点が残らない。形態軸・彫刀面交角はⅠ類が60度前後である。Ⅱ類は45~95度と幅があるが、平均は73度でⅠ類より横刃である。彫刀面傾斜角はⅠ類が55度前後で、Ⅱ類は130~140度が多い。彫刀面打面は右側面の背面先端部調整を打面とする70以外は右側縁上端に腹面からの加工でノッチ状に作出される。75は頁岩製で素材と二次加工面の風化の度合いが異なり、素材剥離と二次加工とに時間差があると考えられる。

彫器削片 (図Ⅳ-427-95、図版292)

1点 (Ⅰ層出土1個体) を図示している。95はⅡ類の横刃の彫器から剥離されたものである。右側面にみられる背面先端部調整には打点がなく、直前の彫刀面再生以後、背面先端部調整を行わずに本削片剥離による彫刀面再生が行われる。彫刀面傾斜角は再生前後では約120度でほとんど変化がなく、刃部形状も直線的で変化がみられない。

掻器 (図Ⅳ-427-96~図Ⅳ-430-131、図版292~294)

41点 (27個体とⅠ層出土9個体を加えた36個体) を図示している。96~128は両側縁が平行ないしやや刃部に向かって広がるもので、96~117は両側縁の加工の頻度が低く、ほとんど素材形態が変化しないもの、118~128は両側縁の加工の頻度が相対的に高く、形態変化の度合いの大きいものである。素材はほとんどが石刃・縦長剥片で、打面の残存するものでは118・124・131以外は頭部調整がみられ、原礫面打面である119以外は単刃離打面である。100には後調整がみられる。129・130は撥形に刃部が開くもので、素材は剥片である。腹面に加工がみられるのは126・129で、126は折損後に腹面加工が行われている。両者とも刃部は摩耗し、円くなり、刃部腹面には刃部に直交する線状痕が観察できる。131は右側縁に加工が偏る厚手の剥片素材のものである。全体的に長幅比の大きいものは直線的な、小さいものは円い刃部のものが多い。96は頁岩製、119・126・128・131は産地分析の結果、それぞれ赤井川・あじさい滝・所山・ケシヨマップ産と判定されている。当センターによる一連の調査で赤井川と判定されたのは奥白滝1遺跡に続いて2例目である。

錐形石器 (図Ⅳ-430-132~136、図版294)

5点 (5個体) を図示している。132は頁岩、133・136はめのう製で黒曜石以外の割合が高い。両側縁に加工がみられる134以外は刃部のみ加工が行われる。また、直線的な加工による134以外はノッチ状の剥離で刃部が作出される。素材は、132~134は石刃・縦長剥片、135は不明、136は剥片である。刃部は素材剥離軸に対して斜めに作出されるものが多い。

削器 (図Ⅳ-430-137~図Ⅳ-433-159、図版294~296)

39点 (19個体とⅠ層出土4個体を加えた23個体) を図示している。143は頁岩製。137~153は石刃

ないし縦長剥片素材で、137～149は片面加工、150～153は両面加工である。長さは7 cm 程度の小型品から17cm の大型品まで多様な長さの素材が利用されている。137～145は細かい剥離によって加工され、素材形状はほとんど変化していない。147は平坦剥離によって、148は比較的大きな剥離で加工される。149の下部は平行剥離によって尖頭状に加工され、上部は折損後、折れ面から加工が行われる。腹面の折れ面付近には平坦剥離面が残し、150と同様の石器の再加工品である可能性がある。150の先端部は素材背面の平行剥離によって尖頭状で断面三角形に加工がなされ、基部は両面とも平坦剥離によって幅広い尖頭状に加工されている。151・152は背面両側縁と腹面のバルブを除去するような加工がみられる。153は背面のほぼ全体が平坦剥離によって覆われ、腹面縁はバルブ周辺と先端部に平坦剥離が施される。

154～159は剥片素材である。154は厚手の剥片、155は薄手の剥片の端部を尖頭状にする加工がなされている。156は左側縁の素材先端部に平坦剥離がみられ、157は尖頭器調整剥片と考えられる縦長剥片の、159は剥片の両側縁に加工がみられる。159は両面が平滑な原礫面に覆われる非常に扁平な原石素材で、正面左側縁には比較的小角度の、正面右側縁・裏面左側縁には平坦な加工がみられる。

二次加工ある剥片 (図Ⅳ-433-160、図版296)

1点 (1 個体) を図示している。160は厚手の剥片素材で背面右側縁先端部に加工が施される。

舟底形石器 (図Ⅳ-433-161～図Ⅳ-447-234、図版297～302)

110点 (59個体とⅠ層出土14個体とⅢ層出土1個体を加えた74個体) を図示している。161～167はⅠ類で、端部に細石状の剥離痕のあるものが161～163、無いものが164～167である。161は幅が4mm で162 (9 mm) ・163 (11mm) に比べ狭い。162は両面調整石器の縁辺部から剥離された削片素材である。163のみ両端に細石状の剥離痕がある。163は流理構造のある黒曜石で産地分析の結果、所山産と判定されている。164は素材打面の端部を除いて幅が4 mm で161に近く、165は平均して6～7 mm で側面の加工にはヒンジによる段差が残る。166も幅が7 mm であるが加工は非常に精緻で表面は滑らかである。以上のことから幅によって4～8 mm のもの (161・164～167)、8～12mm のもの (162・163) に分けることができる。

168～234はⅡ類で、168～223は完形品、224～234は折損品である。168～207、214～231は剥片あるいは石核素材である。170・174・181・185・202は甲板面に大型のネガティブな剥離面を残す石核素材である。素材剥離軸と石器長軸が一致するものが多く、基本的には石器の長さは素材の長さを反映している。10cm 以下のものは小型の剥片ないし石核素材でほとんど黒曜石1が利用され、10～15cm のものは黒曜石1・3～5が、15cm 以上のものは大型の剥片ないし石核素材で全て黒曜石1が利用されている。また、角礫・転礫ともに利用されている。加工はほとんどが甲板面から行われ、下縁からの加工のみみられるものは甲板面からの加工後に行われたものが多く、さらに甲板面の加工に切られるものもある。特に下縁からの加工範囲の広い189・190・203・226・229～231は、側面が平坦かつ下縁部がシャープで側面形は細長い形状である。205・207の側面には著しい階段状の剥離がみられ、そのため遺棄されたと考えられる。

208～212・233・234は甲板面が原礫面の舟底形石器である。側面形は細長く甲板面が直線的で、234の甲板面・両側面に原礫面が残ることから素材には石器形状に近い棒状原石が利用されたと考えられる。210・212は下縁からの加工もみられ精巧である。213は尖頭器の折損品を素材として片面加工が行われる。214～223は加工の初期段階で折損あるいは形状の悪化に伴い遺棄されたものである。

石刃・剥片 (図Ⅳ-447-235～図Ⅳ-450-255、図版303～305)

石刃は40点 (20個体)、剥片は2点 (1 個体) を図示している。235～254は完形、255は折損品であ

る。235～240は剥片素材の石刃核から剥離されたものである。長さは10cm程度で打面は平坦で頭部調整がみられる。239・240は稜付石刃で、236・238には稜調整が残る。241～249は単剥離打面の石刃核から頭部調整を伴って剥離されたものである。長さは12～19cmで大型のものは幅広である。250～254は調整打面の石刃核から剥離されたもので打面の大きいものが多い。長さは12～16cmで252～254は幅広である。242・254・255には角稜面が、250・251には稜面が残る。

石刃核 (図IV-451-256～図IV-458-280、図版305～309)

37点(23個体とI層出土2個体を加えた25個体)を図示している。256～270は頭部調整のある石刃核で、原稜面打面の259・265・268以外は単剥離打面ないし二、三枚の複剥離打面である。256は作業面が周囲し、257・258は剥片素材である。259～263・265・269・270は上下方向ないし多方向の剥離が、264・266～268は上設打面からの剥離のみ行われる。大きさは5～18cmと多様であるが269・270を除くとはほぼ10cm以下である。

271～275は調整打面の石刃核である。271は打面転移が行われる。272は裏面に横方向の石核調整があり、273・274は上設打面からの剥離のみで石核調整はみられない。大きさは10～15cmであるが、打面調整による石刃核高の減少を考慮に入れると15cm程度の石刃が剥離されたと考えられる。275は左右両面に石核調整が行われ、頭部調整のある複剥離打面の石刃核である。長さは21cmと大型である。

276～280は頭部調整の無いもので、原稜面打面である278以外は単剥離打面ないし二、三枚の複剥離打面である。角柱状の角稜が主に利用される。一方向のみの276、横方向の剥離のある279以外は上下方向の剥離が行われる。大きさは10～20cmで小型のものはウートラパッセが、大型のものは中央にヒンジがみられる。

石核 (図IV-459-281～図IV-463-299、図版309～312)

20点(15個体とI層出土4個体を加えた19個体)を図示している。281～283は5cm以下の石核で非常に小さい剥離面で構成される。多方向の剥離がみられ、頭部調整・打面調整は行われない。284～293は5～10cmの石核である。多方向の剥離がみられ、頭部調整・打面調整は行われない。大型の剥離面が残るものが多く、舟底形石器の素材となる厚手の剥片が剥離されたと考えられる。294～297は比較的扁平な石核である。主に正面で上下または左右方向から剥離が行われた結果、扁平になったと考えられる。298は扁平な盞状の角稜の正面・裏面で部分的な剥離が行われる。299は両面加工により断面三角形に整形されている。長さ24cmと大型で、275のような石刃核の母型と考えられる。

敲石 (図IV-463-300、図版312)

1点(1個体)を図示している。300は砂岩製。上面は欠損し、下端部に潰打痕がみられる。

砥石 (図IV-464-301、図版312)

1点(1個体)を図示している。301は安山岩製。厚さは14mmと薄く、中央に擦痕のある平滑面がある。周縁は全て欠損している。

斧形石器 (図IV-464-302、図版312)

1点(1個体)を図示している。302は安山岩製。表面は風化し、剥離面が非常に見づらい。刃部には裏面から大きな剥離がみられ、右側縁も加工が施される。

台石 (図IV-464-303・304、図版313)

2点(2個体)を図示している。303・304ともに安山岩製で風化している。303の正面は平滑であるが、裏面は全体が剥落している。304は両面とも平滑で擦痕が部分的に観察される。

石器ブロック36 (Sb-36) の分布 (図IV-465、表IV-9・10)

L59・60、J58~60、K58~60、L58・59区の15×8mの範囲で確認された。尖頭器4点、彫器11点、搔器5点、削器7点、錐形石器1点、舟底形石器6点(Ⅱ類6点)、石刃9点、縦長剥片14点、石刃核3点、石核5点、剥片1,508点、台石1点の計1,574点、重量11,744.7gの石器類が出土した。石材は黒曜石4が57.6%を占め、以下黒曜石1(33.6%)、黒曜石5(4.1%)、黒曜石3(3.9%)、黒曜石2(0.6%)、頁岩(0.06%)、安山岩(0.06%)である。彫器が多く、基部を舌状に整形した3点が含まれる。彫器11点中9点は黒曜石4である。器種による分布の偏りはあまりなく、全体的に分布している。

石器ブロック37 (Sb-37) の分布 (図IV-466、表IV-9・10)

K56~58、L56~58、M57区の10×8mの範囲で確認された。尖頭器7点、両面調整石器1点、彫器2点、搔器2点、削器2点、錐形石器2点、舟底形石器4点(Ⅱ類4点)、石刃1点、縦長剥片13点、石刃核1点、石核1点、削片1点(尖頭器削片1点)、剥片425点の計462点、重量4,344.0gの石器類が出土した。石材は黒曜石4が45.2%を占め、以下黒曜石1(36.6%)、黒曜石3(14.5%)、黒曜石5(2.8%)、黒曜石2(0.6%)、めのう(0.2%)、である。L56区に密度の高い集中域があり、舟底形石器がまとまっている。一括遺物には舟底形石器1類が含まれる。量は多くないが、ツールの種類が多いのが特徴である。

石器ブロック38 (Sb-38) の分布 (図IV-467、表IV-9・10)

L55・56、M55・56、N55・56区の8×8mの範囲で確認された。尖頭器4点、両面調整石器2点、彫器2点、搔器1点、削器3点、舟底形石器6点(Ⅱ類6点)、縦長剥片7点、削片2点(尖頭器削片1点、その他削片1点)、剥片645点の計672点、重量8,360.0gの石器類が出土した。石材は黒曜石4が77.2%を占め、以下黒曜石3(14.9%)、黒曜石1(5.7%)、黒曜石5(2.2%)である。搬入された形態の大形両面調整石器が2点出土している。黒曜石1が少ないものの器種組成・石材組成はSb-36・37に類似する。

石器ブロック39 (Sb-39) の分布 (図IV-467・468、表IV-9・10)

H52~54、I52~54、J53・54区の11×9mの範囲で確認されたが、調査範囲外である北側に分布が広がると思われる。彫器3点、搔器6点、削器2点、錐形石器1点、舟底形石器9点(Ⅱ類9点)、二次加工ある剥片3点、石刃2点、縦長剥片19点、石刃核1点、石核3点、剥片2,563点の計2,612点、重量16,150.0gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が61.7%を占め、以下黒曜石4(19.8%)、黒曜石3(13.6%)、黒曜石5(4.9%)、である。分布は南北方向に細長い。ツールの種類・量が多いのが特徴だが、ほとんどの彫器・搔器には黒曜石1が、全ての舟底形石器には黒曜石4が利用されている。舟底形石器は10cm以下のもので小型の原石から剥離された剥片・石核を素材としている。

石器ブロック40 (Sb-40) の分布 (図IV-469、表IV-9・10)

H51~53、I51・52区の8×5mの範囲で確認されたが、調査範囲外である北側に分布が広がると思われる。尖頭器2点、削器1点、舟底形石器1点(Ⅱ類1点)、二次加工ある剥片1点、石刃8点、縦長剥片12点、石刃核12点、剥片747点の計784点、重量10,026.2gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が62.1%を占め、以下黒曜石3(23.2%)、黒曜石4(11.1%)、黒曜石5(3.6%)である。3か所の小集中域があり、特に、H52区中央東側の集中域は密度が高い。石刃核は3個体出土し、それぞれの打面形状は、単剥離打面・複剥離打面・調整打面と異なっている。

石器ブロック41 (Sb-41) の分布 (図IV-469、表IV-9・10)

H50・51、I50・51区の6×5mの範囲で確認されたが、調査範囲外である北側に分布が広がる

思われる。尖頭器1点、削器2点、舟底形石器1点（Ⅱ類1点）、剥片317点の計321点、重量1,583.1gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が92.5%を占め、以下黒曜石4（6.5%）、黒曜石3（0.6%）、黒曜石2（0.3%）である。石材は黒曜石1がほとんどである。

石器ブロック42 (Sb-42) の分布 (図Ⅳ-470、表Ⅳ-9・10)

J53・54、K53～55、L53・54区の7×7mの範囲で確認された。尖頭器3点、搔器2点、削器2点、舟底形石器2点（Ⅱ類2点）、二次加工ある剥片1点、石刃16点、縦長剥片20点、石刃核2点、剥片1,153点の計1,201点、重量12,603.0gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が64.0%を占め、以下黒曜石4（18.6%）、黒曜石5（11.2%）、黒曜石3（6.2%）である。舟底形石器は幅広のⅠ類と甲板面が原稜面のⅡ類が出土し、Ⅰ類の舟底形石器は産地分析の結果、所山産という結果が得られている。石刃核は調整打面のもので頭部調整を行わない単剥離打面のもので出土している。

石器ブロック43 (Sb-43) の分布 (図Ⅳ-470、表Ⅳ-9・10)

I52・53、J52・53、K52・53区の8×5mの範囲で確認された。尖頭器2点、搔器1点、錐形石器1点、舟底形石器7点（Ⅱ類7点）、石刃2点、縦長剥片2点、剥片705点の計720点、重量3,647.3gの石器類が出土した。石材は黒曜石4が58.5%を占め、以下黒曜石1（26.9%）、黒曜石3（11.7%）、黒曜石5（2.9%）である。舟底形石器が多く、10cm以下の小型の素材が利用されている。

石器ブロック44 (Sb-44) の分布 (図Ⅳ-471、表Ⅳ-9・10)

J52、K52・53、L52・53区の9×6mの範囲で確認された。尖頭器9点、搔器7点、削器3点、舟底形石器5点（Ⅱ類5点）、二次加工ある剥片4点、石刃4点、縦長剥片12点、石刃核1点、石核3点、剥片2,656点、原石3点、礫石1点の計2,708点、重量19,058.1gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が60.4%を占め、以下黒曜石4（16.8%）、黒曜石5（13.2%）、黒曜石3（9.6%）、砂岩（0.04%）である。高密度のブロックで彫器以外のツールが多い。石材と器種に偏りがみられ、尖頭器・搔器・削器には黒曜石1が、舟底形石器・石刃・縦長剥片には黒曜石4が多い。ブロックの東に搔器が、西に舟底形石器・石核類が出土している。石核は多方向の剥離面が残る小型のもので、舟底形石器の素材となる厚手の剥片が剥離されたと考えられる。119の搔器は産地分析で赤井川産という結果が得られている。

石器ブロック45 (Sb-45) の分布 (図Ⅳ-472、表Ⅳ-9・10)

I50・51、J50～52、K50・51、L49～51、M49・50区の16×11mの範囲で確認された。尖頭器1点、ナイフ形石器1点、削器4点、錐形石器1点、二次加工ある剥片2点、石刃4点、縦長剥片6点、石核5点、剥片137点の計161点、重量1,757.7gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が55.3%を占め、以下黒曜石5（20.5%）、黒曜石4（13.7%）、黒曜石3（9.3%）、黒曜石2（0.6%）めのう（0.6%）である。分布範囲は広範囲であるが非常に散漫である。J・K51区の石核は多方向からの剥離によって薄手の不定形剥片が剥離されたもので、63のナイフ形石器の素材はそのような不定形剥片である。

石器ブロック46 (Sb-46) の分布 (図Ⅳ-473～475、表Ⅳ-9・10)

K55・56、L53～55、M53～55、N53～56、O53～56、P53・54、Q53区の26×13mの範囲で確認された。尖頭器50点、両面調整石器35点、彫器1点、搔器2点、削器20点、舟底形石器17点（Ⅱ類17点）、二次加工ある剥片4点、細石刃1点、石刃33点、縦長剥片66点、石刃核1点、石核16点、削片6点（尖頭器削片4点、その他削片2点）、剥片2,346点、台石2点、原石22点の計2,622点、重量32,399.5gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が65.2%を占め、以下黒曜石5（16.4%）、黒曜石4（11.9%）、黒曜石3（4.7%）、黒曜石2（1.6%）、安山岩（0.1%）である。L～N53・54区に集巾城があり、その周辺は散漫な分布である。出土している多量のツールのほとんどはこの集巾城に

分布している。尖頭器は角礫素材・剥片素材で、平行剥離のみられる小型のものから比較的大型のものまで多様で、薄板状の原石の縁辺のみに加工が施された初期段階で遺棄されたものがある。原石は22点出土しているが全てこの種の板状、あるいは棒状のもので尖頭器・原礫面の甲板面を持つ舟底形石器の素材となっていたと考えられる。舟底形石器は10cmを越える大型のものも多く、甲板面に原礫面の残るものもみられ、黒曜石1の原石ないし大型剥片素材と考えられる。一括遺物では両面調整石器の削片素材であるI類の162がある。また、頁岩製彫器がM53区のI層から出土している。石核は集中域には少なく、扁平な原石に部分的な剥離の行われた石核以外は、頭部調整の無い単剥離打面の276のみである。128・131の搔器は産地分析によりそれぞれ所山・ケシヨマップ産の結果が得られている。

石器ブロック47 (Sb-47) の分布 (図IV-476-480、表IV-9・10)

K52、L51-53、M50-53、N51-53、O50-53、P50-53区の21×11mの範囲で確認された。尖頭器39点、両面調整石器18点、彫器15点、搔器7点、削器26点、錐形石器1点、舟底形石器29点 (I類2点、II類27点)、二次加工ある剥片14点、石刃103点、縦長剥片183点、石刃核12点、石核6点、削片8点 (尖頭器削片4点、その他削片4点)、剥片8,635点、斧形石器1点、台石1点、原石3点の計9,101点、重量82,129.8gの石器類が出土した。石材は黒曜石4が50.7%を占め、以下黒曜石1 (24.6%)、黒曜石5 (21.2%)、黒曜石3 (3.4%)、頁岩 (0.1%)、安山岩 (0.01%)、凝灰岩 (0.01%) である。D区の中で最大の遺物量のブロックである。長径2~3mの高密度の小集中域が連続した分布を示している。尖頭器は20cmを越える大型のものから10cm以下の小型のものまで出土し、分布にあまり偏りがなく、全体的に分布している。彫器はM・N51・52区に散漫に分布している。搔器はM・N51区にまとまりがある。舟底形石器はM52区とN52区に分布が分けられ、前者には10cm以下の黒曜石4のII類が、後者には10cm以上の黒曜石1の棒状原石ないし剥片素材のII類が分布している。I類は両地点から出土している。石核類は10cm以下の黒曜石4の素材を剥離したと考えられる小型の石核、石刃核がほとんどでM~P51区に分布している。これらと舟底形石器の分布は一致しない。M52区には頭部調整のない単剥離打面の石刃核が分布している。利用される石材は尖頭器には黒曜石1が、両面調整石器・彫器・搔器には黒曜石4が、削器には黒曜石1・5が、舟底形石器には黒曜石1・4が多い。また、石核・石刃核は黒曜石4が多く、黒曜石1・5が少なく、剥片類も同様であるため、黒曜石4の剥片剥離が主体的であると考えられる。一方、石刃類は黒曜石1・5の比率が高く、それらは他の場所から持ち込まれたと考えられる。

石器ブロック48 (Sb-48) の分布 (図IV-481、表IV-9・10)

M50・51、N49-51、O49・50、P49・50、Q49・50区の15×5mの範囲で確認された。両面調整石器1点、搔器1点、削器1点、舟底形石器2点 (II類2点)、二次加工ある剥片4点、石刃10点、縦長剥片52点、石刃核2点、石核2点、剥片1,071点、原石1点の計1,147点、重量12,501.5gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が79.9%を占め、以下黒曜石5 (14.0%)、黒曜石4 (2.4%)、黒曜石2 (2.2%)、黒曜石3 (1.4%)、頁岩 (0.1%) である。高密度のN・O50区の集中域と低密度のP49・50区の集中域がある。前者には多方向の剥離による扁平な石核と頭部調整のない単剥離打面の石刃核が、後者には打面調整のある石核と5cm以下の小型の石核が出土している。

石器ブロック49 (Sb-49) の分布 (図IV-481、表IV-9・10)

M49、N48-50、O48・49、P48区の11×5mの範囲で確認された。尖頭器3点、削器3点、舟底形石器1点 (II類1点)、二次加工ある剥片1点、石刃1点、縦長剥片8点、石刃核1点、石核3点、剥片372点、台石1点、原石1点の計395点、重量8,780.6gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が

59.5%を占め、以下黒曜石4 (32.7%)、黒曜石3 (5.3%)、黒曜石2 (1.0%)、黒曜石5 (1.0%)、安山岩 (0.5%)である。作業面が周囲する小型の石刃核、折損後折れ面から再加工の行われた尖頭器が出土している。

石器ブロック50 (Sb-50) の分布 (図IV-482、表IV-9-12)

Q52・53、R51-53区の8m×7mの範囲で確認された。尖頭器15点、両面調整石器1点、削器3点、舟底形石器2点(Ⅱ類2点)、縦長剥片1点、剥片526点の計548点、重量2,480.9gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が85.6%を占め、以下黒曜石3 (10.2%)、黒曜石4 (2.4%)、黒曜石5 (1.8%)である。尖頭器が多いのが特徴で、10~20cmの比較的薄手のものが出土している。舟底形石器は10cmを越える大型のものである。

石器ブロック51 (Sb-51) の分布 (図IV-483、表IV-11-12)

P50・51、Q50-52、R50・51区の10×7mの範囲で確認されたが、調査範囲外である南側に分布が若干広がると考えられる。尖頭器19点、削器2点、舟底形石器15点(Ⅱ類15点)、二次加工ある剥片2点、石刃1点、縦長剥片5点、石刃核1点、石核1点、削片1点(尖頭器削片1点)、剥片1,222点の計1,269点、重量6,493.7gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が83.4%を占め、以下黒曜石5 (7.6%)、黒曜石4 (6.7%)、黒曜石3 (2.4%)である。尖頭器が多いのが特徴で、10~20cmの比較的薄手で整った形状の尖頭器がみられるものの折損品が多い。舟底形石器は10cmを越える大型のもので、石刃核は打面調整のあるものである。

石器ブロック52 (Sb-52) の分布 (図IV-484、表IV-11-12)

R49・50、S49・50区の8×8mの範囲で確認されたが、調査範囲外である南東部に分布が広がると思われる。尖頭器53点、両面調整石器1点、削器20点、二次加工ある剥片4点、縦長剥片2点、石核1点、剥片441点、台石1点の計523点、重量9,074.8gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が63.3%を占め、以下黒曜石4 (15.1%)、黒曜石5 (10.3%)、黒曜石3 (8.2%)、頁岩 (2.5%)、黒曜石2 (0.2%)、安山岩 (0.2%)、軽石 (0.2%)である。器種は偏り、非常に多くの尖頭器・削器が出土している。尖頭器は20cmを越える大型のものから平行剥離のみられる小型のものまで出土しているが、ほとんどが折損品である。また、尖頭器製作の初期段階と考えられる両面調整石器も出土している。削器は大型の石刃・剥片素材で縁辺部に連続的な加工がみられる。尖頭器はSb-27・60と接合関係のあるものがあり、その距離はそれぞれ4m・30mである。

石器ブロック53 (Sb-53) の分布 (図IV-485、表IV-11-12)

P48・49、Q48-50、R48・49区の11×9mの範囲で確認された。尖頭器21点、挿器2点、削器1点、舟底形石器1点(Ⅱ類1点)、石刃3点、縦長剥片13点、剥片1,020点の計1,061点、重量3,895.8gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が63.2%を占め、以下黒曜石5 (15.2%)、黒曜石4 (11.7%)、黒曜石3 (9.9%)である。尖頭器が多く、20cm前後の大型のものが多く、挿器は幅広い石刃が利用される。隣接するSb-54と複数の接合関係がみられる。

石器ブロック54 (Sb-54) の分布 (図IV-486、表IV-11-12)

O47・48、P46-48、Q46-48、R47区の10×5mの範囲で確認された。尖頭器31点、削器7点、舟底形石器3点、(Ⅱ類3点)、二次加工ある剥片1点、石刃4点、縦長剥片5点、石核8点、剥片701点、台石1点、砥石1点、原石1点の計763点、重量9,721.5gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が59.8%を占め、以下黒曜石3 (14.3%)、黒曜石5 (13.4%)、黒曜石4 (11.0%)、軽石 (0.9%)、頁岩 (0.3%)、安山岩 (0.3%)、黒曜石2 (0.1%)である。尖頭器が多く、20cm前後の大型のものが多く、舟底形石器は10~15cmの中型のもので、石核は単剥離打面を持つ5cm以下の小型のもの

が多い。隣接するSb-54と複数の接合関係がみられる。

石器ブロック55 (Sb-55) の分布 (図IV-487、表IV-11・12)

R46、S46・47区の5×5mの範囲で確認されたが、調査範囲外である南側に分布が広がるとと思われる。剥片139点、重量316.3gの石器が出土した。石材は黒曜石1が62.6%を占め、以下黒曜石5(36.0%)、黒曜石3(0.7%)、黒曜石4(0.7%)である。ツールを含まない小規模なブロックである。

石器ブロック36~55 (Sb-36~55) の接合状況 (図IV-487)

全体的には接合分布は各ブロック内での小集積域を単位としてまとまるが、ブロックや地区をまたがる接合資料もあり、特にSb-47とB地区のSb-27との接合資料が多く、関連が強い。折れ面接合ではSb-47とA地区のSb-17との接合が多く認められる。これは尖頭器調整剥片の接合資料(母岩142・接合1142・1143)であるが、分布は剥離段階に対応せず、また、剥離後にそれぞれの地点に廃棄されたと考えられる。

母岩別資料414・接合資料1926 (図IV-488~490、図版314)

母岩別資料は接合1926のみである。

素材 222点(103個体)が接合し、重量は2,684.1g、大きさは34×20×9cmである。平滑な原礫面を持つ角礫を素材として粗加工された大型の尖頭器で搬入されている。

剥離工程 遺跡内に搬入された時点では粗い加工で表面に凹凸がみられる。最初は、それらを除去するように比較的厚手で大型の剥片が剥離され、全体の形状が整えられる(1~8)。一連の剥離によって厚みが減少し、断面は凸レンズ状に変化している。さらに、薄手の幅広剥片剥離によって薄く整形され(9~13)、28×13×2cmの尖頭器で搬出される。尖頭器形状は長さの変化が少なく、厚さが最も変化している。

分布 Sb-14~37のL56、Sb-38のM55・56、Sb-46のN54、Sb-47のL52、M52、N51・52、O50・51、P50・51区に分布しているが、ほとんどはO51区に集中している。Sb-37・38に分布する剥片は段階1・2で剥離されたものである。

母岩別資料345・接合資料1700 (図IV-490・491、図版315-1)

母岩別資料は接合1700の他、接合1701・1702で構成され、総点数49点、総重量600.2gである。

素材 43点(30個体)が接合し、重量は581.7g、大きさは20×13×4cmである。角が潰れた平滑な原礫面を持つ角礫を素材としておそらく原石に近い形態で搬入されている。

剥離工程 縁辺部調整を伴わない打面の大きい厚手の剥片が剥離された(1)後、縁辺部調整を伴う両面加工が行われ(2~9)、厚さ・幅が減少していく。正面右側縁中央の瘤を除去する段階9の加工の際に本体は中央で折損し、その後、より大型である下部破片の縁辺で削片状の剥離が行われる(11)。

分布 Sb-37のK57、L56・57、Sb-38のL55、M55・56区に分布する。初期の段階1~4と折損後の本体と削片はK57、L56区を中心に、加工の進んだ段階5~9はM55・56区に分布している。

母岩別資料452・接合資料2029 (図IV-492・493、図版316)

母岩別資料は接合2029の他、接合2030・51618、剥片23点で構成され、総点数151点、総重量1,080.3gである。

素材 120点(62個体)が接合し、重量は1,011.8g、大きさは35×21×6cmである。おそらく角礫素材で、両面共に大型の平坦剥離によって整形された表面の凹凸の少ない比較的薄手で大型の尖頭器で搬入されている。

剥離工程 搬入時の形態が整った形状をしており、遺跡内では最初から縁辺部調整を伴う平坦剥離に

よる幅広剥片の剥離によって加工される（1～5）。段階1・3・5は縁辺部の広い範囲に及ぶ連続した剥離群であり、搬入時の良好な形態を反映して初期段階から順次剥離が進んだと考えられる。34×18×3 cmの尖頭器で搬出されている。

分布 Sb-46のM54、Sb-47のN52、O51・52、P52、Sb-50のQ52区に分布し、O52区に集中している。

接合資料2624（図Ⅳ-493、図版315-2）

素材 2点（2個体）が接合し、重量は18.7g、大きさは9×3×1 cmである。素材は不明。小型の尖頭器で搬入されている。

剥離工程 60の背面には二条の削片状剥離痕が残り、尖頭器の右側縁から下部から削片状剥離が行われている。その後、同様に60が剥離されるが、その剥離に先行する打面作出はみられず、剥離は裏面から正面へ行われ、右側面にねじれて正面と直交するように進行する。その後、器体先端部の正面・裏面に左側縁から加工が行われる。

分布 尖頭器はL51区のI層、削片はSb-47のM52区に分布する。

母岩別資料352・接合資料1720（図Ⅳ-494・495、図版317）

母岩別資料は接合1720の他、接合1721～1725、剥片39点で構成され、総点数175点、総重量1,664.3gである。

素材 118点（63個体）が接合し、重量は1,486.6g、大きさは27×17×9 cmである。平滑な原礫面を持つ角礫を素材として原石に近い形態で搬入されている。

剥離工程 まず、縁辺から3～5 mm内側を加撃し、比較的人型の剥片剥離によって断面が菱形から凸レンズ状になるまで加工される（1～6）。この段階で原礫面はほぼ除去される。その後、縁辺部の加撃による平坦剥離（7～14）によって厚みを減らし、25×13×2 cmの尖頭器で搬出される。

分布 Sb-47のM51、N51、O50・51、P51区に分布するが、段階によって偏りがみられる。段階1～5の途中まではO51区に、段階5の途中から段階14まではP51区にまとまる。これらの段階は加工技術の変化にほぼ対応している。

母岩別資料291・接合資料1572・1573（図Ⅳ-496・497、図版318）

母岩別資料は接合1572・1573の他、接合1574～1576・51227～51230、剥片30点で構成され、総点数140点、総重量2,546.8gである。

素材 接合1572は46点（25個体）が接合し、重量は1,169.2g、大きさは37×14×6 cmである。接合1573は47点（21個体）が接合し、重量は1,007.4g、大きさは31×19×4 cmである。これらは同一個体の尖頭器調整剥片で表裏の関係にあたる。角の潰れた巨角礫を素材として粗加工が行われ、断面が台形状の大型尖頭器の形態で搬入されている。

剥離工程 平坦な裏面側（接合1573）を中心に剥離が行われ（接合1573-1～5）、幅が減少する。その後、正面側（接合1572）で比較的大型の剥片剥離（接合1572-1～3）によって断面形が凸レンズ状になるように整形される。

分布 両者併せてSb-39のH53、I53、J52～54、K53・54、L53区から出土している。ほとんどはJ・K54区に集中しているが、一部H53区に分布し、その内容は接合1572の段階1、段階1573の段階1・5である。つまり、最初と最後の段階の剥片が出土していることになる。

母岩別資料436・接合資料1966（図Ⅳ-498・499、図版319-1）

母岩別資料は接合1966の他、接合1967～1973・51342～51344、剥片75点で構成され、総点数168点、総重量1,202.7gである。

素材 64点（49個体）が接合し、重量は822.5g、大きさは21×15×6 cmである。爪状痕のある転礫を素材として片側に原礫面が残る、裏面が片面加工された断面三角形の形態で搬入されている。

剥離工程 最初に凸状の正面で縁辺部調整を伴わない粗い加工が行われ（段階1・2・4）、表面でも同様の加工が行われる（3）。これらの舟底形石器の調整剥片に類似する打面の大きい急角度の加工では幅は減少するが、断面形は相似的に小型化し、凸レンズ状には変化していない。次に正面中央の稜から左右に加工が行われ（5・6）、厚みが減少する。以後軽微な縁辺部調整を伴う正面左右からの加工（7～9）の後、裏面で左右から加工が行われ（10・11）、最終剥離で本体が折損し、尖頭器16は遺棄される。段階6で剥離された右側縁を取り込む大型の剥片Aは腹面から片側に加工が行われ、舟底形石器213が製作されている。

分布 Sb-40のH52区の狭い範囲に集中して分布しているが、調査範囲外である北側に若干分布が広がる可能性がある。個体Aと個体A以外では分布差は認められない。

接合資料2675（図IV-499、図版319-2）

素材 9点（7個体）が接合し、重量は96.4g、大きさは13×7×2 cmである。原石形状、搬入形態は不明。

剥離工程 扁平で幅広の剥片を素材として縁辺部を両面調整し木葉形に加工している。下端部から削片162と58を剥離した後、再度下端部から剥離を行うがヒンジになっている。段差になった打面周辺を調整した後、61を剥離し（1）、上端から連続した削片剥離を行う。最初に剥離された断面三角形の削片は中央で折損し、打面側の削片を素材として舟底形石器162が製作される。162は左側面のみ軽微な加工がなされ、端部で細石状の縞状剥離が行われている。尖頭器ないし両面調整石器の縁辺から剥離された一次削片は断面形が高さのある三角形であるため、舟底形石器I類に適した素材といえる。通常は舟底形石器I類の素材は剥片が利用されるが、これらの削片は素材供給の形態と考えられる。

分布 Sb-27のN63、Sb-46の52・53、Sb-47のO51区に分布している。舟底形石器162はO53区の一括遺物である。全体的に散漫に分布し、IV-309-66は48mを隔てて接合している。

母岩別資料396・接合資料1883（図IV-500・501、図版320・321-1）

母岩別資料は接合1883の他、接合1884で構成され、総点数30点、総重量4,837.6gである。

素材 28点（12個体）が接合し、重量は4,675.3g、大きさは24×20×12cmである。30cmを越える大型の平滑な原礫面を持つ角礫を素材として上・下・左右側面で大型剥片の剥離により石核調整された母型で搬入されている。

剥離工程 正面から下面へ的大型剥片剥離（1）によって作出された打面から石刃が剥離（2）された後、180度の打面転移が行われ、上設打面から頭部調整を伴う石刃剥離が行われる（3）。石刃剥離の段階では作業面形状の補正のために逆方向の剥離が施される。15～20cmの石刃が剥離されるが、ほとんどは欠落しており、搬出されたと考えられる。

分布 Sb-47のN52、O51・52、P52区に分布している。

母岩別資料439・接合資料1995（図IV-502・503、図版321-2）

母岩別資料は接合1995の他、接合1996・1997、剥片14点で構成され、総点数61点、総重量1,394.1gである。

素材 42点（28個体）が接合し、重量は1300.0g、大きさは17×12×9 cmである。平滑な原礫面を持つ角礫を素材として原石の形態で搬入されている。

剥離工程 節理ないし潜在的な割れによる不規則な割れ方でA・Bに分割される。個体Aは一部が

欠損した(A-1)後、原礫面打面から頭部調整を伴う石刃剥離が行われる(A-2)。途中で下面から石核調整が行われる(A-3)。個体Bは下面から石刃剥離後、打面再生(B-1)、頭部調整を伴う石刃剥離(B-2)が行われ、以後、180度の打面転移を繰り返しながら石刃が剥離される(B-3~5)。最後は下面で全体を取り込むような剥離が行われ(6)、剥離は終了する。石核には左側面に石刃剥離痕が残り、上面・正面には広い剥離面が残る。

分布 Sb-47のL51・52、M51・52、N51・52区に分布する。個体AはN51区に分布の中心があるが、個体BはM・N51区にまたがって分布している。

母岩別資料344・接合資料1699(図IV-504、図版322)

母岩別資料は接合1699のみである。

素材 30点(19個体)が接合し、重量は1,969.3g、大きさは16×13×12cmである。平滑な原礫面を持つ角礫を素材として原石で搬入されている。

剥離工程 角礫の角部で交互に剥離しながら石核形状を整えた(1~4)後、頭部調整を行いながら石刃が剥離される(5)。石刃剥離の最終剥離がヒンジになり、作業面形状が悪化した段階で180度の打面転移により下面から剥離が行われる(6)が、厚手の剥片が剥離され、剥離が終了している。模様のある不均質な石質のためか端止な石刃は剥離されていない。

分布 Sb-46・47のM51・53、N52・53、O52・54区に分布している。斜面方向に分布が広がり、折れ面接合同様である。

母岩別資料441・接合資料1999(図IV-505・506、図版322)

母岩別資料は接合1999の他、接合2000~2002、剥片3点で構成され、総点数31点、総重量599.0gである。

素材 接合1999は22点(17個体)が接合し、重量は438.4g、大きさは13×9×8cmである。角の潰れた亜角礫を素材として原石の形態で搬入されている。

剥離工程 原石上端からの剥離(1)後、上面で正面から厚手の剥片が剥離される(2)。下面からの剥離(3)後、段階1の剥離面を打面として頭部調整を伴う石刃剥離が行われる(4)。下面からの剥離(5)が行われた後、下面を取り込む剥離が行われる(6)。石核289には打面転移の結果、多方向からの剥離面が残る。

段階2で剥離された打面作出剥片である10cm程度の厚手の剥片(個体A)は舟底形石器に加工、搬出され、段階6で剥離された厚手の剥片(個体B)は同時割れによる剥離(個体B-1)の後、厚手の剥片が剥離される(個体B-2)。個体Bの石核である287の打面には複数の打痕が残り、以後も剥離をしようとしていたようである。

分布 Sb-42のK53、Sb-44のK52・53、L53区に分布する。個体AはL53区、個体BはK52区、個体A・B以外はK53区に分布の中心があり、微妙に違いがみられる。

母岩別資料346・接合資料1703(図IV-506、図版323-1)

母岩別資料は接合1703の他、縦長剥片1点、剥片3点で構成され、総点数13点、総重量744.3gである。

素材 9点(8個体)が接合し、重量は708.6g、大きさは17×9×8cmである。平滑な原礫面を持つ角礫を素材として原石で搬入されている。

剥離工程 原石端部に一回の剥離によって打面が作出(1)された後、上設打面から石刃が剥離される。作業面中央にヒンジによる段差が生じると下設の原礫面打面からの剥離(2)により作業面形状を回復させている。その後も上(3)下(2)から石刃が剥離されるが、下設打面作出以降は下設打

面から剥離が行われている。

分布 Sb-47のM・N51区にやや散漫に分布する。

母岩別資料350・接合資料1715 (図IV-507、図版324)

母岩別資料は接合1715の他、剥片2点で構成され、総点数19点、総重量2,843.0gである。

素材 47点(26個体)が接合し、重量は2,840.4g、大きさは22×17×10cmである。爪状痕のある原礫面を持つ転礫を素材として原石で搬入されている。

剥離工程 原石端部から長軸方向への剥離(1~3)の後、上縁部に横位の調整を行い(4)、さらに長軸方向の剥離によって打面が作出される(5)。正面で剥離(6)後、横位の打面再生を行い(7)、頭部調整を伴う石刃剥離が行われる(8)。石刃剥離は正面から右側面に偏っている。

分布 Sb-42のK53・54、Sb-43のJ52、Sb-44のK52・53、L53区に散漫に分布している。

母岩別資料442・接合資料2003 (図IV-508、図版323-2)

母岩別資料は接合2003のみである。

素材 11点(9個体)が接合し、重量は534.6g、大きさは11×9×7cmである。原礫面に爪状痕のある小型の転礫を素材として原石で搬入されている。

剥離工程 原石端部に長軸方向への一回の剥離によって打面が作出され(1)、縁辺部を振り潰すような頭部調整を行いながら石刃剥離が行われる(2)。剥離された縦長剥片は6~7cmでほとんどが接合している。石刃剥離に伴う石核調整はみられない。

分布 Sb-45のL51、Sb-47のK52、L51・52、M51・52、N51・52区に非常に散漫に分布している。

母岩別資料410・接合資料1917 (図IV-508、図版325-1)

母岩別資料は接合1917の他、接合1918で構成され、総点数72点、総重量396.5gである。

素材 69点(48個体)が接合し、重量は382.1g、大きさは11×10×7cmである。爪状痕のある転礫を素材として原石ないし粗い剥離が行われた形態で搬入されている。

剥離工程 一回の剥離によって作出された打面から頭部調整を伴う石刃剥離が行われる(1)。潜在的な割れによる不規則な剥離(2)が起こった後も剥片剥離は行われる(3)。石核調整は行われないうが、打面と作業面の角度が比較的小さく、作業面形状がV字状という石刃核として良好な形態的特徴があり、石刃剥離は左右に打点をずらしながら一方向に順調に進行している。作業面形状が比較的平坦なため石刃の形状も幅広く揺器98の素材になっている。また、138や137のように縁辺に細かい加工が連続する削器が製作されている。

分布 Sb-49のO48、Sb-53のPQ48、Sb-54のP47・48、Q47、Sb-61のO46・47、P47区に分布するが、ほとんどはP・Q47区に集中している。

母岩別資料390・接合資料1860 (図IV-509、図版325-2・326-1)

母岩別資料は接合1860の他、接合1861~1866・51315~51318、剥片32点で構成され、総点数114点、総重量2,152.0gである。

素材 54点(28個体)が接合し、重量は1,745.5g、大きさは21×15×10cmである。爪状痕のある原礫面を持つ転礫を素材として原石で搬入されている。

剥離工程 転礫の横断面形状が三角形になるような石核調整(1・2)後、後調整(3)を行い、打面調整(4)を行いながら石刃が剥離される(5)。打面調整・再生のため石刃核高は20cmから14cmに減少している。石刃は初期の比較的形の悪いものと左右の原礫面を持つものが残存しているが、中間段階の形の良いものは欠落し、搬出されている。また、初期の10cm程度比較的短い幅広い石

刃を素材として挿器IV-380-44が製作されている。

分布 Sb-35のI55、J54、Sb-42のJ54、K53・54区に分布するが、挿器を除きK53・54区周辺にまとまっている。

母岩別資料440・接合資料1998 (図IV-510、図版326-2)

母岩別資料は接合1998のみである。

素材 46点(28個体)が接合し、重量は1,889.5g、大きさは27×11×7 cmである。爪状痕のある細長い転蹠を素材として原石の形態で搬入されている。

剥離工程 原石の端部左側面を斜めに剥離し(1)、その剥離面を打面として上部を斜めに断ち切るように剥離が行われる(2・3)。正面からの剥離(4)により水平な打面が作出され、主に左側面で打面調整を伴う石刃が剥離される(5)。さらに、正面からの打面再生(6)後、打面調整を伴う連続的な石刃剥離が行われる(7)。石刃剥離の際に打面の縁の稜線の頂部を除去する頂部調整が行われず、石刃はその頂部から1 cm程度内側を加撃して剥離されるため、その打面形状は高さが1 cmの直角三角形に近い。その結果、厚みのある10~15cmの石刃が剥離されている。

分布 Sb-42のK54・55、Sb-46のL53・54、M53区に分布している。K54区とL・M54区の2か所に分布のまとまりがあり、段階1~5は両者に、段階6・7は後者に分布し、石刃核は少し離れたK55区に分布している。

母岩別資料295・接合資料1581 (図IV-511・512、図版327・328)

母岩別資料は接合1581のみである。

素材 109点(53個体)が接合し、重量は3,975.2g、大きさは21×21×15cmである。平滑な原蹠面を持つ角蹠を素材として原石の形態で搬入されている。

剥離工程 左側面から正面への剥離(1)、上面での剥離(2)の後、正面で連続的な石刃剥離が行われ(3)、打面再生(4・6・8)・石刃剥離(5・7・10)が繰り返される。段階10の石刃剥離の前にはヒンジにより悪化した作業面形状を修正するように下面から剥離が行われる(9)。以後、頻繁に打面転移が行われ、下面から(11)、左側面から(12)、上面から(13)、左側面から(14)剥離が行われる。その結果、石核297は多方向の剥離面のある扁平な形状である。石刃は頂部調整・打面調整が行われないものが多いが、253・252のように打面調整が行われるものもある。図版328-351は打面を外した状態の写真であるが、打面縁辺から1~2 cmを加撃して剥離されたものが多く、打面形状は252のような三角形のものが多い。また、両側縁が平行になるものは少ない。

分布 Sb-45のL51、Sb-48のNO50、Sb-49のN49区に分布し、非常に集中した分布である。

母岩別資料351・接合資料1716 (図IV-513~515、図版329)

母岩別資料は接合1716の他、接合1717・1718、縦長剥片1点、剥片28点で構成され、総点数113点、総重量1,783.5gである。

素材 77点(65個体)が接合し、重量は1,668.7g、大きさは21×18×12cmである。平滑な原蹠面を持つ角蹠を素材として原石の形態で搬入されている。

剥離工程 正面下部の後調整(1)後、上面・正面で交互剥離が行われ(2)、下面からの剥離(5)、上面からの剥離(6)が行われる。また、裏面では下面調整(4)を挟んで上面から厚手の剥片が剥離される(3)。上面では裏面から(7)、下面では正面から(8)厚手の剥片が剥離され、後者の剥離面を打面として頂部調整を伴う石刃が剥離される(9)。さらに、上面で右側面から厚手の剥片が剥離され(10)、その剥離面を打面として裏面で石刃剥離が行われる(11)。最後に石刃核は右側面への加撃(12)により大きく二分割されている。段階3で剥離された厚手で幅広の剥片(個体A)は

素材背面である左側面を加工し、弧状の素材先端部を作業面に設定し、後調整後、石刃が剥離される。また、238の背面に後調整がみられ、石刃剥離途中で後調整が行われている。段階7・8・10で剥離された打面作出剥片である厚手の剥片は、それぞれ個体B・C・Dとして舟底形石器に加工されているが、本体は欠落し、搬出されたと考えられる。また、これらの素材は断面形が三角形に近く舟底形石器に加工するのに適しているため、選択されたと考えられる。

分布 Sb-44のL52、Sb-47のL52、M51・52、N51・52、O52、P51区に分布する。大きくM52区とP51区にまとまりがあり、M51・52、N51区には散漫に分布する。個体A～D以外のほとんどはP51区に分布するが、石刃・厚手の剥片はM・N51・52区に分布する。個体Aは、一次剥離の際に折れた部分はP51区、石刃剥離の部分はN52区周辺に分布する。個体B～Dの舟底形石器調整剥片は2か所に分布するが全て初期の段階がP51区、後半の段階がM52区周辺に分布する。以上から、P51区には一次剥離の剥片、及び、舟底形石器調整剥片の初期段階の剥片が分布し、M52区には舟底形石器調整剥片の後半段階、M・N51・52区には石刃ないし厚手の剥片が分布している。

母岩別資料353・接合資料1726 (図IV-516・517、図版330)

母岩別資料は接合1726の他、接合2741、剥片3点で構成され、総点数65点、総重量1,230.3gである。

素材 60点(44個体)が接合し、重量は1,216.4g、大きさは22×13×10cmである。平滑な原礫面を持つ角礫を素材として原石で搬入されている。

剥離工程 原石の端部に連続する剥離によって打面が作出され(1)、そのうち厚手の剥片Aは舟底形石器に加工される。作業面下部の後調整(2)後、石刃剥離が行われ(3)、さらに後調整(4)、側面調整(5)、後調整(6)の後、平坦な右側面で幅広い石刃が剥離される(7)。しかし、この段階の石刃は欠落している。次に下面で横方向の剥離によって打面を作出し(8)、小口面で下設打面から比較的厚手の石刃が剥離されている(9)。途中、ヒンジの石刃剥離による作業面形状の悪化に伴い、上下に打面を転移させ(10)、後調整も行われる(11)。

分布 Sb-47のL52、M51・52、N51、P51区に分布している。個体Aは全てP51区に、石刃剥離が行われる段階3・9・10は特に形の良好な石刃がM・N51・52区に分布する。個体A・段階3・9・10以外のものでは大型の剥片がM・N51区に、それらを除く全てがP51区に分布している。以上から良形の石刃・大型剥片はM・N51・52区に散漫に分布し、それ以外の一次剥片・舟底形石器調整剥片はP51区に集中して分布している。

母岩別資料366・接合資料1759 (図IV-517・518、図版330)

母岩別資料は接合1759のみである。

素材 77点(65個体)が接合し、重量は1,251.9g、大きさは17×14×10cmである。角の潰れた亜角礫を素材として原石の形態で搬入されている。

剥離工程 上面から正面への剥離(1)の後、上面では正面から(2)、下面では裏面から厚手の剥片が剥離される(3)。段階3の剥離面を打面として裏面で厚手の剥片が剥離され(4)、後調整(5)後、頭部調整を伴う石刃剥離が行われる(6)。最終剥離がヒンジになり、石核は遺棄される。

分布 Sb-29のO56、Sb-47のN51・52、O51・52、P51区に分布し、ほぼO51・52区に集中している。それと離れたO56区に分布するのは段階5の剥片である。

母岩別資料364・接合資料1749 (図IV-519・520、図版331)

母岩別資料は接合1749の他、接合1750・1751・1760、剥片1点で構成され、総点数55点、総重量691.1gである。

素材 39点(26個体)が接合し、重量は590.6g、大きさは14×13×9cmである。平滑な原礫面を持

つ角礫を素材として原石ないし原石に近い形態で搬入されている。

剥離工程 上設打面から厚手の縦長剥片が剥離され（１）、下面からの調整（２）の後、石刃が剥離される（３）。さらに、作業面からの側面調整（４）の後に頭部調整を伴う石刃剥離が行われる（５）。段階１で剥離された厚手の縦長剥片（個体A）は側縁を作業面に設定し、素材の打面部周辺を加工し、石刃剥離が行われる。また、段階５で剥離された厚手の縦長剥片（個体B）を素材として舟底形石器が製作される。

分布 Sb-47のN51、O50・51、P51区に分布している。狭い範囲にまとまっており、個体A・Bとそれ以外の分布に違いはみられない。

母岩別資料438・接合資料1991（図Ⅳ-520・521、図版331）

母岩別資料は接合1991の他、接合1992～1994、縦長剥片2点、剥片59点で構成され、総点数124点、総重量821.2gである。

素材 51点（37個体）が接合し、重量は540.4g、大きさは15×12×11cmである。角の潰れた亜角礫を素材として原石の形態で搬入されている。

剥離工程 上設打面から右側面での剥離（１）の後、ヒンジになった作業面形状を修正するために下面からの剥離（２）、後調整（３）が行われ、石刃が剥離される（４）。段階１で剥離された剥片（個体A）は舟底形石器の製作途中で折損し、遺棄されている。また、石核（個体B）を素材として作業面を平面に設定し、舟底形石器が製作され、さらにその調整剥片である個体Cを素材にして舟底形石器が製作されるが最終剥離で右側面を大きく取り込み遺棄される。

分布 Sb-43のK53、Sb-44のK52区に分布し、非常に集中した分布である。

母岩別資料363・接合資料1745（図Ⅳ-521・522、図版332-1）

母岩別資料は接合1745の他、接合1746～1748、剥片12点で構成され、総点数52点、総重量618.8gである。

素材 31点（24個体）が接合し、重量は165.1g、大きさは15×8×6cmである。角の潰れた亜角礫を素材として原石で搬入されている。

剥離工程 原石の端部に一回の剥離により作出された（１）打面から、頭部調整を伴う石刃剥離が行われる（２）。作業面は平坦で長さ10cm程度の幅広の石刃が剥離されている。裏面での剥離（３）の後、下縁からの剥離（４）で作出された打面から縦長剥片が剥離されている（５）。段階１の厚手の打面作出剥片（個体A）は舟底形石器製作途中で遺棄される。腹面左側縁付近に打痕が残っていることから上手く割れずに遺棄されたものと考えられる。

分布 Sb-47のL51、M51、N51・52区に分布し、比較的まとまっている。N51区とそれ以外では段階・内容に違いはみられない。

母岩別資料405・接合資料1903（図Ⅳ-522～525、図版332-2）

母岩別資料は接合1903の他、石核1点、剥片68点で構成され、総点数183点、総重量2,314.4gである。

素材 114点（80個体）が接合し、重量は2,065.8g、大きさは19×16×10cmである。爪状痕のある転礫を素材として原石の形態で搬入されている。

剥離工程 右側面での厚手の剥片剥離（１）後、右側面から横方向の剥離によって打面が作出され（２）、後調整を積みながら正面で縦長剥片剥離が行われる（３）。裏面では後調整（５）が行われ、厚手の縦長剥片が剥離される（６）。その後、右側面下部調整（７）・正面右側面からの調整（９）・裏面下部調整（11）を挟んで裏面で縦長剥片が剥離される（８・10）。縦長剥片剥離の際には頭部調整は

行われず、打面の大きい厚手の縦長剥片が剥離されている。段階Ⅰ（個体A）・Ⅱ（個体B・C）・Ⅲ（個体D）・Ⅳ（個体E）で剥離された厚手の剥片・縦長剥片は舟底形石器に加工されるが、本体が欠落・搬出されたと考えられる個体A以外は、折損などが原因で途中で遺棄されている。

分布 Sb-37のL56、Sb-38のL56、M55・56区に分布している。大きくL56区とM55区に集中域が分かれる。前者には個体A～D、個体A～E以外の段階Ⅰ～Ⅴが、後者には個体E、個体A～E以外の段階Ⅵ～Ⅺが分布している。つまり、舟底形石器製作も含め段階Ⅰ～ⅤはL56区に、段階Ⅵ～ⅪはM55区に分布し、完全に段階で分けることができる。

母岩別資料447・接合資料2014（図Ⅳ-526～528、図版333）

母岩別資料は接合2014の他、接合2015～2021で構成され、総点数127点、総重量2,401.5gである。

素材 108点（64個体）が接合し、重量は2,335.1g、大きさは19×16×14cmである。爪状痕のある転礫を素材として原石の形態で搬入されている。

剥離工程 正面から上面（1）、上面から正面（2）、上面から左側面（3）、上面から裏面（4）、上面から正面（5）の一連の交互剥離による石核調整の後、左側面の段階Ⅴの剥離面を打面として石核を周回する頭部調整を伴う石刃剥離が行われる（6）。段階Ⅴで剥離された厚手の剥片（個体A・B・C）、段階Ⅵで剥離された厚手の剥片（個体D・E）は舟底形石器に加工されるが、本体が残存しているのは折損した個体Cのみである。

分布 Sb-37のL56・57、Sb-38のL55・56、M55区に分布している。分布はL56区とM55区に分かれ、個体A・B・D・EはL56区に、個体Cと個体A～E以外の一次剥離の剥片はM55区に分布している。個体A・B・D・Eは素材で持ち込まれ、加工が行われたと考えられる。

母岩別資料334・接合資料1680（図Ⅳ-528・529、図版334-1）

母岩別資料は接合1680のみである。

素材 30点（28個体）が接合し、重量は650.6g、大きさは15×11×9cmである。平滑な原礫面を持つ角礫を素材として原石の形態で搬入されている。

剥離工程 原礫面を打面として石核調整を行わずに縁辺から2cm程度内側を加撃して、連続的に厚手の剥片が剥離されている（1・2）。その後、裏面から右側面に剥離が行われる（3）。石核Ⅳ-388-77は粗い剥離が行われているため大きい剥離面で構成される。最初の剥離の際、同時割れで1a、1b、1cの3個体に分割されるが、1a（個体A）・1b（個体B）は舟底形石器に加工される。また、段階Ⅱで剥離された厚手の剥片（個体C・D）も舟底形石器に加工される。これらのうち本体が残存するのは、素材の縦折れした面を甲板面に設定し、片面加工で終了している個体Bの223のみで他は搬出されている。15cm程度の小型の原石であるが、厚手の剥片が連続的に剥離され、ほとんど舟底形石器に加工されており、非常に効率的である。

分布 Sb-35のK55・56、Sb-38のL55・56、M55・56、Sb-41のH51区に広範囲に分布している。個体A・C・DはM55区に分布しているが、個体A～D以外の剥片はやや離れたK55・56区に、個体Bは約23m離れたH51区に分布している。

母岩別資料335・接合資料1681（図Ⅳ-530、図版334-2）

母岩別資料は接合1681の他、接合1682・1683、剥片7点で構成され、総点数39点、総重量425.7gである。

素材 27点（25個体）が接合し、重量は369.5g、大きさは11×11×8cmである。平滑な原礫面を持つ角礫を素材として原石の形態で搬入されている。

剥離工程 原礫面を打面として石核調整を行わずに縁辺から2cm程度内側を加撃して厚手の剥片が

2枚(個体A・B)剥離されている。その後、下面から石核を二分割するような剥離が行われるが、剥離された剥片は接合していない。個体A・Bと石核である個体Cは舟底形石器に加工されるが、本体は搬出されている。個体Cは作業面を甲板面に設定している。10cm程度の小型の原石であるが厚手の剥片が連続的に剥離され、石核と併せて3個体の舟底形石器が製作されている。

分布 Sb-37のL56、Sb-38のL55・56、M55区にまとまって分布している。

母岩別資料336・接合資料1684(図IV-531・532、図版335-1)

母岩別資料は接合1684のみである。

素材 25点(20個体)が接合し、重量は454.5g、大きさは11×10×8cmである。平滑な原礫面を持つ角礫を素材として原石の形態で搬入されている。

剥離工程 原礫面を打面として裏面と右側面の角から2cm程度内側を加撃して厚手の剥片が剥離される(1)が、同時割れが発生している。その後、正面の角で下面から同様に厚手の剥片が剥離される(2)。さらに正面で2cm程度内側を加撃して連続的に厚手の剥片が剥離される(3)。石核は厚手の剥片が剥離された結果、中央に幅広の剥離面が残る平坦な形状である。段階1で剥離された個体A、段階2で剥離された個体Bは舟底形石器に加工され、搬出されている。一次剥離で剥離された剥片は、縦長で厚さが幅に近い断面三角形の形状で舟底形石器に適した素材であり、舟底形石器の素材として目的的に剥離されたと考えられる。

分布 Sb-35のJ56、Sb-37のK56・57、Sb-38のL55・56、M55、Sb-46のL55区にやや散漫に分布し、個体A・Bとその他の遺物に分布の差はみられない。

母岩別資料338・接合資料1687(図IV-532、図版335-2)

母岩別資料は接合1687の他、接合1688・1689、剥片9点で構成され、総点数35点、総重量180.3gである。

素材 21点(14個体)が接合し、重量は147.0g、大きさは9×5.5×5cmである。平滑な原礫面を持つ小型の角礫を素材として原石で搬入されている。

剥離工程 長軸方向に厚手の剥片Aを剥離後、横方向からの剥離によって幅広の厚手の剥片Bが剥離され、さらに、長軸方向に二分割するように剥片Cが剥離される。厚手の剥片(個体A・B・C)はそれぞれ舟底形石器に加工され、個体Aは片側面を中心に加工され、折損後に215が遺棄される。個体Bは長軸方向である横方向に素材を利用して両側縁を加工しているが、やはり、折損後に遺棄されている。個体Cは幅が10mm程度まで加工されるが中央で折損後に遺棄される。遺棄された167はやや大きめのI類である。右側面は比較的平坦で上縁部には細かい剥離が、下縁部の一部には平坦な加工がみられる。左側面は上縁部には細かい加工がみられるがヒンジになっており、折損の原因となっている。また、下縁部全体に押圧剥離状の細長い平坦剥離がみられる。

分布 個体A・BともにSb-39のJ53、Sb-43のJ52・53区に分布し、個体Cは全て153、J52区の一括遺物として出土しており、全体として分布率はない。

母岩別資料293・接合資料1579(図IV-533、図版336-1)

母岩別資料は接合1579のみである。

素材 28点(22個体)が接合し、重量は196.6g、大きさは19×5.5×2.5cmである。原石形状は不明。20cmを越える腹面の平坦な大型の剥片を素材として高さ/幅の比率の大きい大型の舟底形石器の形態で搬入されている。両側面は左側面の一部を除き甲板面から加工され、部分的にヒンジがみられるが比較的滑らかな表面である。

剥離工程 加工は全て甲板面から行われるが、それらは縁辺部を擦るような頭部調整を伴う。下縁部

が失われるため加工はウートラバッセになり反対側面に抜けている。そのため本体の高さは5.5cmから2cmへ大きく減少する。本体である230を見ると中央で折損後再加工が行われ、さらに折損しているのが分かる。

分布 折損した舟底形石器のみ Sb-47の N52区に分布するが、それ以外は全て K・L53区の狭い範囲に集中して分布している。

母岩別資料142・接合資料1143・1142 (図IV-533・534、図版336-2・337-1)

母岩別資料は接合1143・1142の他、接合1144・1145・51075・51076、剥片18点で構成され、総点数163点、総重量1.125.1gである。

素材 接合1143は55点(27個体)が接合し、重量は412.5g、大きさは43×15×3cmである。接合1142は73点(33個体)が接合し、重量は612.9g、大きさは38×15×4cmである。これらは同一個体の尖頭器調整剥片で表裏の関係にあたる。原石形状は不明であるが角礫素材と考えられる。表面に凹凸の少ない断面形が凸レンズ状の端正な大型の尖頭器で搬入されている。

剥離工程 両接合資料とも搬入時の尖頭器の端正な形状を反映して、順調に加工が行われたため段階単位の剥離群が連続している。一回り小型化する加工が行われ、43×12×3cmで本体は搬出される。

分布 大きくA区のSb-17のI・J64・65区周辺、D区のSb-47のO32区周辺に分布が分かれ、前者は集中した、後者は散漫な分布を示す。これらは非常に特異な分布状態である。図IV-533・534の右側の模式図は出土した区域を示したものである。分布差は段階によるものではない。また、折れ面接合を破線で示したが、本来同一剥片が別々の区域から出土しているものがある。このことから、尖頭器の加工後、これらの調整剥片が一度まとまった状態の後に、ランダムに抽出されてそれぞれの地点に遺棄されたと考えられる。

母岩別資料267・接合資料1488 (図IV-535、図版338)

母岩別資料は接合1488の他、接合1489・1490・2742・2743・51202～51206、剥片78点で構成され、総点数216点、総重量1.313.0gである。

素材 119点(70個体)が接合し、重量は1,169.3g、大きさは23×16×7cmである。平滑な原礫面を持つ盤状の角礫を素材として原石の形態で搬入されている。

剥離工程 原礫面及び角礫の角を除去するような粗い剥離(1～6)の後、器体を薄くする加工が行われ(7～12)、断面形が凸レンズ状の21×9×2.5cmの尖頭器で搬出される。

分布 Sb-36のJ59・60、K58～60区に分布している。東西方向にやや伸びた分布で、折れ面接合も同様な分布を示す。

母岩別資料292・接合資料1577 (図IV-535、図版337-2)

母岩別資料は接合1577の他、接合1578、剥片12点で構成され、総点数76点、総重量378.9gである。

素材 61点(46個体)が接合し、重量は330.3g、大きさは21×11×3.5cmである。平滑な原礫面を持つ盤状の角礫を素材として原石の形態で搬入されている。

剥離工程 角礫の角を除去するような剥離(1～4)の後、縁辺部調整を伴う加工(5～7)が行われる。段階1・2では両端部で交互剥離がみられる。断面が凸レンズ状の20×8×2cmの尖頭器で搬出される。

分布 Sb-42のK54、Sb-44のK53区に集中して分布している。

母岩別資料389・接合資料1847 (図IV-536～539、図版340～342)

母岩別資料は接合1847の他、接合1848～1859・51313・51314、縦長剥片1点、剥片49点で構成され、総点数264点、総重量7,269.5gである。

素材 143点(93個体)が接合し、重量は5,107.2g、大きさは34×27×21cmである。平滑な原礫面を持つ角礫を素材としておそらく原石の形態で搬入されている。

剥離工程 左側面に裏面(1)、右側面(2)から加工が行われ、段階2の剥離面を打面とした右側面への核調整(3)の後、右側面で頭部調整を伴う石刃剥離(4)が行われる。段階4の途中で右側面下部に石核調整(5)が行われ、最後は180度の打面転移による右側面への連続した剥離(6)が正面下部の打面再生(7)を伴って行われる。

段階2で剥離された三角錐の形状をした個体Aは石刃核の素材として利用される。下端からの石核調整(個体A-2)を挟みながら三角形の二辺で主に左側縁から右側縁の順でV字状に頭部調整を伴う石刃剥離(個体A-1)が行われ、244・241のような整った石刃が剥離されている。最後は裏面から横方向の剥離が行われる(個体A-3)。

段階4で剥離された石刃は249のように平坦な作業面形状を反映して幅広である。また、段階4で剥離された厚手の大型剥片である個体Bを素材として頭部調整を伴う石刃剥離(個体B-1)が行われる。途中で下端部からの作業面調整(個体B-2)が行われる。

分布 大きくSb-27のO58・59区周辺、Sb-47のN・O52区周辺に分布が分かれる。前者は散漫な分布であるが、後者は比較的まとまった分布である。Sb-47以外から出土しているのは個体Aのみである。個体Aは二側縁で石刃剥離が行われるが、そのうち右側縁で行われる後半の剥離以降は全てSb-27・36に分布し、Sb-47での石刃剥離後、Sb-27に持ち込まれて石刃剥離が行われたと考えられる。Sb-47ではN・O52区に集中域があるがL・M51・52、N51区には散漫な分布がみられ、そこには石刃類が多い。

母岩別資料268・接合資料1491(図IV-539・540、図版339-1)

母岩別資料は接合1491の他、接合1492・1493、剥片1点で構成され、総点数58点、総重量539.4gである。

素材 38点(28個体)が接合し、重量は375.2g、大きさは15×12×4.5cmである。平滑な原礫面を持つ角礫を素材として両面加工された母型の形態で搬入されている。

剥離工程 上部に縦方向の剥離によって打面を作出し(1)、頭部調整を伴う石刃が剥離される(2)。右側面からの打面調整(3)、石刃剥離(4)の後、下面から裏面へ剥離(5)が行われ、その剥離面を甲板面に設定し、石核素材の舟底形石器(個体B)が製作される。また、段階1で剥離された厚手の剥片(個体A)は舟底形石器に加工されているが、両者とも本体は欠落している。

分布 大きくSb-36とSb-47に分布が分かれる。前者には舟底形石器を製作した個体A・Bが、後者にはそれ以外の遺物が分布し、厚手の剥片・石核が選択されてSb-47から持ち出され、Sb-37で舟底形石器に加工されたと考えられる。

母岩別資料342・接合資料1697(図IV-540、図版339-2)

母岩別資料は接合1697の他、剥片14点で構成され、総点数37点、総重量380.2gである。

素材 23点(18個体)が接合し、重量は326.1g、大きさは12×10×5.5cmである。平滑な原礫面を持つ角礫を素材として原石ないしそれに近い形態で搬入されている。

剥離工程 単剥離打面から頭部調整を伴う石刃剥離(1)の後、打面再生(2)、石刃剥離(3)が行われ、石刃核(個体B)は舟底形石器に加工される。段階2で剥離された打面再生剥片である個体Aは舟底形石器に加工されるが、両者とも本体は欠落している。

分布 Sb-42~44に散漫に分布し、個体A・B、個体A・B以外の分布の差はみられない。

母岩別資料354・接合資料1727(図IV-541、図版343-1)

母岩別資料は接合1727の他、剥片2点で構成され、総点数28点、総重量171.2gである。

素材 26点(24個体)が接合し、重量は464.1g、大きさは14×9×9 cmである。平滑な原礫面を持つ角礫を素材として原石の形態で搬入されている。

剥離工程 左側面から下部部(1)、裏面から正面(2)、正面から裏面(3)への剥離の後、石核を二分割するような剥離(4)が左側面から行われる。段階2で剥離された剥片(個体A)、段階4で分割された厚手の剥片(個体B)と石核(個体C)は舟底形石器に加工され、全て搬出されている。

分布 Sb-47のO・P51区にまとまって分布している。

母岩別資料358・接合資料1737 (図IV-541・542、図版343-2)

母岩別資料は接合1737の他、剥片24点で構成され、総点数71点、総重量750.9gである。

素材 47点(45個体)が接合し、重量は704.9g、大きさは12×9×8.5cmである。平滑な原礫面を持ち、角の潰れた重角礫を素材として原石の形態で搬入されている。

剥離工程 原礫面を打面として正面と左側面の角から2.5cm程度内側を加撃して厚手の剥片が剥離され、以後、直前の剥離によって形成された角から2cm程度内側を加撃して10cm以下の厚手の剥片が連続的に剥離される。石核286は厚手の剥片が剥離された結果、中央に幅広の剥離面が残る平坦な形状である。四枚の厚手の剥片(個体A～D)は舟底形石器に加工され、途中で遺棄された個体Dの180を除いて搬出されている。180は甲板面と左側面の角度が鈍角で鋭角にするのが困難なため遺棄されたと考えられる。また、右側縁の一部に加工のある160は、頭部調整の無い打面の大きい剥片が剥離される二次加工が舟底形石器の加工に類似するため、舟底形石器製作が意図された最初段階で遺棄されたと考えられる。一次剥離で剥離された剥片は縦長で非常に厚い形状で舟底形石器に適した素材であり、本個体は舟底形石器の素材を剥離することを目的として利用されたと考えられる。

分布 Sb-46のO55、Sb-47のL52、M52・53、N52、O55区に分布している。個体A～DはほとんどM52区に分布し、個体A～D以外の初期の一次剥離剥片はやや離れたO55区に分布している。

母岩別資料359・接合資料1738 (図IV-542、図版343-3)

母岩別資料は接合1738の他、剥片1点で構成され、総点数15点、総重量147.6gである。

素材 14点(10個体)が接合し、重量は147.2g、大きさは8×7×5 cmである。平滑な原礫面を持ち、角の潰れた重角礫を素材として非常に小型の原石の形態で搬入されている。

剥離工程 横断面が三角形の原石の縦方向に三回剥離が行われ、長さ7cmの断面三角形の石核(個体A)を素材として舟底形石器が製作され、搬出される。

分布 Sb-39のH・I53区に分布する。

写真のみ掲載の遺物

母岩別資料437・接合資料1974・1975(図版344・345-1)は、石核素材の尖頭器調整剥片で表裏の関係にあたる。平滑な原礫面を持つ長さ35cmを越える大型の盤状の角礫素材で原石の形状で搬入される。主に、接合1974個で加工が行われ、長さをほとんど変えずに厚さ・幅を減少させて断面形が凹レンズ状で長さ30cm程度大型の尖頭器で搬出される。また、接合1974の原礫面を除去する粗い加工段階の厚手の幅広剥片を素材として舟底形石器が製作されている。

母岩別資料328・接合資料1658(図版345-2・346)は、長さ32cmの平滑な原礫面を持つ角礫素材で原石の形状で搬入されている。原礫面を除去する粗い加工の後に縁部調整のある平坦調整が行われるが、途中43や42が折損し、大きく長さを減少させている。L21区から出土したIV-565-4を除いて全てL53区周辺に分布し、これらの距離は約130mである。

母岩別資料296・接合資料1582(図版347)は、長さ35cmの平滑な原礫面を持つ角礫素材で原石の

形態で搬入されている。正面側で原礫面を除去する粗い加工が行われるが、途中で54が折損している。折損後、長さ20cm程度の本体は長軸方向に三分割され、それぞれ、舟底形石器状の加工が行われる。

母岩別資料392・接合資料1876（図版348・349）は、長さ40cmの平滑な原礫面を持つ角礫素材で、片面加工の形態で搬入される。原礫面で覆われた正面側で原礫面を除去する粗い加工が連続して行われ、厚さが大きく減少するが、幅・断面形はほとんど変化がみられない。最後は中央で折損している。

母岩別資料294・接合資料1580（図版350-1）は、爪状痕のある原礫面と平滑な原礫面を持つ原石素材で粗加工された尖頭器で搬入されている。粗い加工の後、平坦加工が行われ、厚さが減少するが、2か所で折損し、尖頭器33は遺棄される。

母岩別資料391・接合資料1868・1867（図版350-2・351）は、平滑な原礫面を持つ立方体に近い形状の原石の裏表で行われた剥離の接合資料と考えられる。両者とも上面の原礫面打面から剥離が行われ、接合1868側では20cm程度の打面の大きい厚手の大型剥片が剥離され、接合1867側では後調整・頭部調整を伴う20cm程度の石刃剥離が行われた後、接合1868同様打面の大きい厚手の大型剥片が剥離される。これらの大型剥片を素材として3個体の舟底形石器が製作されているが、中央で折損した198以外は搬出されている。

母岩別資料394・接合資料1880（図版351）は、平滑な原礫面を持つ角礫素材で搬入形態は不明。後調整後、正面から右側面にかけて上面の卓剥離打面から縁辺を斜めに削ぎ落とす頭部調整を伴って15cm程度の石刃が剥離される。石刃剥離の途中で後調整がみられる。

母岩別資料393・接合資料1878（図版352）は平滑な原礫面を持つ角礫素材で原石の形状で搬入される。打面作出後、縁辺を削ぎ落とす頭部調整を伴う石刃剥離が行われ、打面再生の後、継続される。剥離された石刃は15~20cmで、原礫面を持たない中央部で剥離された石刃は欠落し、搬出されている。分布はSb-45のL50区にほとんどが分布するが、一部石刃はSb-35・36・37に分布している。

母岩別資料333・接合資料1679（図版352）は、爪状痕のある角礫素材で同一の剥離で打面作出後、頭部調整を伴う石刃剥離が行われる。途中で打面再生が行われる。多く含まれる球顆が原因で折損している剥片が多い。

母岩別資料300・接合資料1587（図版353）は、平滑な原礫面を持つ角礫素材で原石の形状で搬入されている。比較的小型の剥片を剥離することにより打面を作出し、同様な剥片を剥離する打面調整を行いながら石刃が剥離される。石刃剥離は頻繁に上下に打面を転移させながら行われ、また、頭部調整は行われない。結果として残核277は平坦な形状になる。中央の15cm程度の石刃は欠落し、搬出されている。

母岩別資料299・接合資料1586（図版354）は、平滑な原礫面を持つ角礫素材で原石の形状で搬入されている。比較的小型の剥片を剥離することにより打面を作出し、同様な剥片を剥離する打面調整を行いながら石刃が剥離される。石刃剥離は頻繁に上下に打面を転移させながら行われ、頭部調整は行われない。作業面は正面に固定される。上設打面からの連続的なヒンジによって石刃核の側面形は「く」の字状に内湾している。

母岩別資料411・接合資料1919（図版354）は、平滑な原礫面を持つ角礫素材で原石の形状で搬入されている。短軸方向の剥離と長軸方向の剥離が交互に行われ、頭部調整の無い石刃剥離ないしは尖頭器製作の初期段階の可能性が考えられる。

母岩別資料298・接合資料1585（図版355-1）は、平滑な原礫面を持つ球形に近い原石素材で原石の形状で搬入されている。正面と上面で頭部調整・打面調整を伴わない交互剥離が行われる。また、途中で下面と裏面においても交互剥離がみられ、残核であるIV-573-37は多方向の剥離面の残るサ

イコロ状に近い形状である。

母岩別資料360・接合資料1739 (図版355-2) は、角の潰れた亜角礫素材で長さ10cmの小型の原石で搬入されている。側縁に沿って厚手の剥片が剥離された後、その面を打面として他の側縁で厚手の剥片が剥離されている。8 cm 前後の剥片・石核3個体は舟底形石器に加工され、折損した石核素材の170以外は搬出されている。

母岩別資料297・接合資料1583 (図版356-1) は、平滑な原礫面を持つ角礫素材で原石の形状で搬入されている。単剥離打面から頭部調整を行わないで石刃が剥離されるが、途中でヒンジにより段差が形成される。最後は裏面で下面からの剥離が行われ、ウートラバッセで正面に抜けて石核高が平減している。

母岩別資料357・接合資料1736 (図版356-2) は、爪状痕のある転礫から剥離された厚手の剥片素材である。おそらく石刃剥離の打面作出剥片と考えられる。舟底形石器調整剥片の接合資料である。

(鈴木宏行)

(14) E区・石器ブロック56~60 (Sb-56~60) の石器

出土石器 (表IV-11・12)

尖頭器24点、両面調整石器1点、削器14点、舟底形石器7点 (I類2点、II類5点)、二次加工ある剥片2点、石刃34点、縦長剥片40点、石刃核4点、石核7点、削片1点 (尖頭器削片1点)、剥片2,648点、原石6点の計2,788点、重量29,945.1gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が65.3%で最も多く、以下黒曜石4 (15.0%)、黒曜石3 (13.8%)、黒曜石2 (3.4%)、黒曜石5 (2.6%)である。彫器・搔器・細石刃関連資料が組成されないのが特徴である。

尖頭器 (図IV-543-1~7、図版357)

13点 (6個体とI層出土1個体を加えた7個体) を図示している。1は、柳葉形の尖頭器である。裏面は平坦剥離で覆われるが、正面は比較的角度のある加工で断面形は三角形に近い。2~4は幅広い尖頭器で、2は角の潰れた亜角礫の原礫面が残り、やや粗い加工の段階で折損し、遺棄される。3は、厚さ10mmで薄手である。全体的に平坦剥離で覆われ、縁部には細かい剥離がみられる。下端に折れ面があり、右側面下部は再加工されている。4は長さ15cm以上の比較的大型の尖頭器の折損品と考えられる。平坦剥離で加工され、縁部に細かい剥離はみられない。5は、厚さ8mmで非常に薄く、長さは68mmと小型で両側縁は対称で整った形態である。中央の平坦剥離と縁部部の細かい平坦剥離が漸移的に分布し、平坦剥離から細かい剥離に徐々に変化したと考えられる。6は平滑な原礫面を持つおそらく薄手の板状の原石素材と考えられる。器体の中央には平坦剥離が、縁部には細かい平坦剥離がみられ、下部は四角く、原石形状を変化させていない。中央・上部が折損し、中央部の折損後、折れ面付近を中心に再加工が行われる。7は、平滑面を持つ角礫を素材とした複剥離打面の石核から剥離された縦長剥片を素材としている。左側面は両面に、右側面は正面のみ加工がなされるが、素材面が大きく残存する。

ナイフ形石器 (図IV-544-8、図版357)

1点 (I層出土1個体) を図示している。8は広郷型ナイフ形石器の基部である。背面左側縁・腹面基部に平坦剥離による加工がみられ、背面左側縁からの加工で上部を欠損している。

削器 (図IV-544-9~11、図版357・358)

5点 (3個体) を図示している。9の石質は特徴的で、灰色で磨りガラス状の黒曜石である。背面と腹面の剥離方向が逆の縦長剥片素材で、背面側縁には角度のある、腹面には平坦な加工が行われ、

背面の加工で上部を折損している。10・11は剥片素材で、10は背面右側縁のみ、11は背面ほぼ全体に平坦加工がみられる。

舟底形石器 (図Ⅳ-544-12~図Ⅳ-545-17、図版358)

8点(6個体)を図示している。12・13はⅠ類である。12はネガティブな甲板面を持ち、13は素材を横方向に利用している。それぞれ幅が8・9mmで通常のⅠ類に比べ幅広である。12・13とも上下から加工されているが、13の甲板面からの加工は潰れて段差になっている。細石刃状の縮状剥離が端部で最後に行われるが、両者とも右側面に回り込んでいる。産地分析の結果、両者とも十勝産と判定されている。14~17はⅡ類である。14は15cmを越える転蹠の石核素材で、甲板面が大きく湾曲している。加工は非常に粗く、最終剥離で折損している。15は転蹠から剥離された10cmを越える剥片素材で甲板面が平坦である。ほとんどは甲板面からの加工で甲板面縁辺部には細かい加工がみられる。甲板面からの加工後の下縁からの加工の際に折損している。16・17は棒状の角礫素材で同一個体である。加工は原礫面打面から行われ、16は主に甲板面から、17は主に下縁から行われる。

石刃核・石核 (図Ⅳ-545-18~図Ⅳ-546-23、図版358・359)

石刃核は4点(3個体とⅢ層出土1個体を加えた4個体)、石核は2点(2個体)を図示している。18は転蹠素材で頭部調整を伴う石刃剥離が周囲している。19~23は角の潰れた亜角礫ないし転蹠素材で打面調整のある単設の石刃核・石核である。19・20は表面に横方向の石核調整が行われ、扁平である。10cm前後の石刃・縦長剥片が剥離されている。

石器ブロック56 (Sb-56) の分布 (図Ⅳ-547、表Ⅳ-11・12)

I49・50、J49・50、K49区の11×6mの範囲で確認された。尖頭器1点、二次加工ある剥片1点、石刃1点、縦長剥片1点、剥片676点の計680点、重量4,069.1gの石器類が出土した。石材は黒曜石3が43.4%を占め、以下黒曜石1(35.9%)、黒曜石4(20.3%)、黒曜石2(0.3%)、黒曜石5(0.1%)である。J・K49区に高密度の集中域があり、斜面方向に広がっている。比較的幅の狭い尖頭器が出土し、32m離れた地点のものど折れ面接合している。

石器ブロック57 (Sb-57) の分布 (図Ⅳ-547、表Ⅳ-11・12)

H49・50、I48・49、J48、K48区の15×4mの範囲で確認された。尖頭器3点、削器1点、石刃11点、縦長剥片11点、石核3点、削片1点(尖頭器削片1点)、剥片654点の計684点、重量9,970.4gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が69.3%を占め、以下黒曜石4(17.8%)、黒曜石2(8.9%)、黒曜石3(3.2%)、黒曜石5(0.7%)である。J48区に集中域があり、斜面方向に広がっている。薄い角礫素材の尖頭器、原石を分割したような石核が出土している。

石器ブロック58 (Sb-58) の分布 (図Ⅳ-548、表Ⅳ-11・12)

K47~49、L48・49、M47~49区の11×8mの範囲で確認された。尖頭器1点、両面調整石器1点、削器5点、二次加工ある剥片1点、石刃7点、縦長剥片6点、石刃核1点、石核1点、剥片351点の計374点、重量4,250.1gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が51.3%を占め、以下黒曜石4(34.0%)、黒曜石5(8.6%)、黒曜石2(5.6%)、黒曜石3(0.5%)である。4か所の非常に小規模な集中域で構成されるブロックである。K47・48区で尖頭器・削器・調整打面の石刃核が出土している。

石器ブロック59 (Sb-59) の分布 (図Ⅳ-549、表Ⅳ-11・12)

H48、I45~48、J46~48、K46・47区の12×9mの範囲で確認された。尖頭器17点、削器7点、舟底形石器6点(Ⅰ類2点、Ⅱ類4点)、縦長剥片7点、剥片667点、原石4点の計708点、重量4,012.8gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が81.5%を占め、以下黒曜石3(9.2%)、黒曜石5

(4.4%)、黒曜石4 (3.4%)、黒曜石2 (1.4%)、貞岩 (0.1%) である。全点数はSb-56・57と変わらないが、本地区では最もトゥールの多いブロックで、それらに分布の偏りはみられない。尖頭器は大型から小型のものまで、舟底形石器はⅠ・Ⅱ類ともに出土している。

石器ブロック60 (Sb-60) の分布 (図Ⅳ-550、表Ⅳ-11・12)

K46、L46、M46区の8×4mの範囲で確認された。尖頭器2点、削器1点、舟底形石器1点(Ⅱ類1点)、石刃15点、縦長剥片15点、石刃核3点、石核3点、剥片300点、原石2点の計342点、重量7,642.7gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が97.1%を占め、以下黒曜石4 (1.8%)、黒曜石5 (1.2%) である。L46区に高密度の集中域があるが、多く出土している石核類はブロック全体に分布している。また、L46区から出土した尖頭器は30m離れたR・S50・51区と接合関係がある。

石器ブロック56～60 (Sb-56～60) の接合状況 (図Ⅳ-551)

全体的には接合分布は各ブロック内での小集積域を単位としてまとまるが、ブロックや地区をまたがる資料もある。特にSb-57・58では密な接合関係がみられ、また、尖頭器はB地区のR50～52区と遠距離の接合関係がある。

母岩別資料419・接合資料1939 (図Ⅳ-552、図版360-1)

母岩別資料は接合1939のみである。

素材 10点 (5個体) が接合し、重量は1,716.5g、大きさは16×14×13cmである。角に爪状痕のある転蹠を素材として原石の形態で搬入されている。

剥離工程 側面調整 (1) と裏面調整 (2) が交互に行われ、石核が整形される。その後、打面調整を行いながら石刃が剥離される。10は段階1で剥離された剥片を素材として加工された削器である。

分布 Sb-56のI49、Sb-57のJ48、Sb-58のK47、Sb-59のI48、Sb-60のI46区に散漫に分布する。段階1・2の前半はSb-56・57・59に、後半はSb-60に、削器はSb-58に分布する。剥離された12cm前後の石刃は欠落し、搬出されている。

母岩別資料423・接合資料1943 (図Ⅳ-552・553、図版360-2)

母岩別資料は接合1943のみである。

素材 13点 (12個体) が接合し、重量は194.0g、大きさは20×4×3cmである。平滑な原礫面を持つ棒状の角蹠を素材として原石の形態で搬入されている。

剥離工程 下縁からの加工 (1・2) 後の甲板面から行われた加工 (3) の際に中央で折損 (4) し、片方は再加工が行われる。甲板面からの加工 (5)、下縁部からの加工 (6) の後に本体16は遺棄される。

分布 Sb-59のJ46、Sb-60のK46区にはほぼまとまって分布する。

母岩別資料422・接合資料1942 (図Ⅳ-553、図版361-1)

母岩別資料は接合1942の他、接合51332で構成され、総点数18点、総重量847.1gである。

素材 15点 (10個体) が接合し、重量は830.8g、大きさは14×12×7cmである。角が潰れた転蹠を素材として原石の形態で搬入されている。

剥離工程 横方向の裏面加工 (1)、右側面加工 (2) の交互剥離による石核調整の後、頭部調整を伴う石刃剥離 (3) が行われる。頻繁な打面調整の結果、石核20の打面にはヒンジによる段差が残る。剥離された石刃は10cm程度で中央部の石刃が欠落し、搬出されたと考えられる。

分布 Sb-60のL46、M46、Sb-61のM45区に分布する。

母岩別資料416・接合資料1930 (図Ⅳ-553、図版361-1)

母岩別資料は接合1930の他、剥片4点で構成され、総点数12点、総重量719.1gである。

素材 8点（7個体）が接合し、重量は700.3g、大きさは11×9×8 cmである。角の潰れた亜角礫を素材として原石の形態で搬入されている。

剥離工程 上面に打面作出後、打面調整を伴う石刃剥離が行われる。

分布 Sb-57のI49、J48、K48、Sb-58のK48区に分布する。

写真のみ掲載の遺物

母岩別資料413・接合資料1925（図版361-2）は、角の潰れた亜角礫素材で原石の形態で搬入される。裏面横方向の剥離によって石核調整を行い、上面から正面への石刃剥離の後、打面転移が行われ、下面から剥離される。（鈴木宏行）

(15) F区・石器ブロック61 (Sb-61) の石器

出土石器（表IV-11・12）

尖頭器1点、ナイフ形石器40点、彫器3点、搔器1点、削器1点、舟底形石器7点（Ⅱ類7点）、二次加工ある剥片5点、石刃16点、縦長剥片32点、石刃核1点、石核3点、削片1点（その他削片1点）、剥片388点、礫1点の計500点、重量6,068.5gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が80.4%で最も多く、黒曜石3（7.2%）、黒曜石5（6.0%）、黒曜石4（4.2%）が続く、以下黒曜石2（2.0%）、泥岩（0.2%）である。黒曜石1の割合が非常に高く、また、ナイフ形石器が40点と多く、細石刃関連資料が含まれないのが特徴である。

ナイフ形石器（図IV-554-1～図IV-555-26、図版362）

37点（22個体とI層出土4個体を加えた26個体）を図示している。加工は全て平坦剥離によるものである。1～7は剥片・石刃を素材とし、ほぼ左右対称な柿の種子のような形状に整形された小型の石器である。全て腹面加工により基部が円形に整形され、背面加工は全面的に行われる1・2・6、片側縁に行われる3・4、先端部に行われる5に分けられ、それらの順で素材形態の変形の度合いが高い。1～3は素材の先端側、4～6は打面側が基部に設定される。7は中央で折損後、破片の一つを利用して背面の両側縁・腹面基部が加工される。

8～19は石刃を素材としたより大型の石器である。8・9は先端部を斜めに断ち切る加工が行われ、8は腹面基部にも加工がある。10～19は背面片側縁ないし先端部調整によってほぼ左右対称な平面形に加工されるものである。10・12・13・15～19は主に片側縁調整、11・14は先端部調整によって背面加工が、10・12・14・16・18・19には腹面基部加工が行われる。12・16・17・19は素材の先端側、8～11・13～15・18は打面側が基部に設定される。

20～26は折損品で、20～23は先端部、24～26は基部である。20・21は片側縁に、22は先端部に背面加工が行われ、23は片側縁加工の後、折損し、右側縁に再加工が行われる。24は腹面のみ、25・26は両面に加工が施される。25は背面基部加工の際、腹面側に剥離が抜けてしまったものである。

全体的に加工は平坦剥離によって行われ、基部は両面加工により円形で平坦に作出されるのが特徴である。逆に背面加工に関しては背面を覆う加工、右側縁のみ、左側縁のみ、先端部のみ加工があり、それらに偏りがない。同様に、素材の打点位置と基部の位置にも偏りがみられず、基部を平坦な円形に、先端部を尖頭状に整形することを目的として加工が行われ、その形態を作成するのに適した素材の利用のされ方があったと考えられる。つまり、素材の直線的な縁辺は尖頭状の形態を作成するのに最大限利用されたと考えられる。その点ではナイフ形石器というよりむしろ尖頭器に分類した方が良いと思われる。

彫器 (図IV-555-27~図IV-556-29、図版363)

3点(2個体とI層出土1個体を加えた3個体)を図示している。27は貞岩製の彫器である。両側縁に急角度の加工が行われ、左側に作出された打面から右側に彫刀面が作出される。28は打面の大きい石刃素材で先端部に作出された打面から左側縁に直線的に彫刀面が作出される。29は比較的大型の石刃の折れ面を打面として左右両側縁で彫刀面が作出される。左側縁上部には一部彫刀面作出前の加工が残る。

掻器 (図IV-556-30、図版363)

1点(1個体)を図示している。30は石刃素材で円い刃部が作出される。左側縁には微細な、右側縁には平坦な加工がみられる。

削器 (図IV-556-31、図版363)

1点(1個体)を図示している。31は石刃素材で背面の両側縁には連続した平坦調整による加工がみられる。上下両端部には両極打法によるものと考えられる平坦でリングの密集した剥離がある。

二次加工ある剥片 (図IV-556-32・33、図版363)

4点(2個体)を図示している。32は頭部調整の無い剥片素材で左側縁先端部に平坦な剥離がみられる。33は打面の縁に微細な頭部調整のある打面の大きい縦長剥片素材である。先端部折損後、左側縁先端部に加工が行われる。

舟底形石器 (図IV-556-34~図IV-557-37、図版363)

6点(4個体)を図示している。34~37はII類である。34~36は15cmを越える大型の剥片・石核素材である。特に36は長さ21cmで非常に大型である。34・35ともに転礫素材で、34は剥片、35は石核素材である。3点とも甲板面からのみの加工で整形されている。37は棒状の角礫素材で、左側面のみ加工が行われ、折損している。

剥片 (図IV-557-38、図版364-1)

4点(1個体)を図示している。38は長幅比2以下の縦長の剥片である。石核の縁辺に微細な剥離による頭部調整を行い、剥離されている。頭部調整は打面縁辺の稜の張り出しを除去するものではなく、また、加撃は作業面上の二本の稜を取り込むように稜と稜の間に行われるため、打面形状は台形に近い。

石刃核・石核 (図IV-557-39~図IV-558-42、図版364-1)

石刃核は2点(1個体とI層出土1個体を加えた2個体)、石核は2点(2個体)を図示している。39・40は角の潰れた垂角礫素材で単剥離打面から軽微な頭部調整を伴って石刃が剥離される。両者ともに両設の石刃核である。41・42は爪状痕のある原礫面を持つ転礫素材で、単剥離打面から頭部調整を行わずに剥片が剥離される。41は剥離が進み、平坦である。

石器ブロック61 (Sb-61) の分布 (図IV-559~561)

M45、N44~47、O43~48、P43~47、Q43~46、R45区の24×18mの範囲で確認された。P44区にナイフ形石器がまとまる非常に小規模な集積域が、O47、P46区周辺にはナイフ形石器がまとまるO47区と剥片がまとまるP46区が連続した低密度の集積域があり、それ以外は散漫な分布である。ナイフ形石器は、前者には加工の少ないものが、後者には加工が多く、形態の整ったものが多い。また、ナイフ形石器16は西地区であるN28区と70m離れた接合関係がある。舟底形石器・石核類は集積域から離れて分布し、彫器・掻器はO47、P46区周辺の集積域に分布する。

石器ブロック61 (Sb-61) の接合状況 (図IV-562)

主にブロック内での散漫な接合関係がみられ、周辺ブロックとの接合関係は少ない。

母岩別資料412・接合資料1922 (図IV-563・564、図版365)

母岩別資料は接合1922の他、接合1923・51617で構成され、総点数81点、総重量1,648.5gである。

素材 77点(46個体)が接合し、重量は1,633.1g、大きさは15×15×11cmである。爪状痕のある転擦を素材として原石の形態で搬入されている。

剥離工程 一回の剥離によって作出された打面から石核調整を行わずに石刃が剥離され(1)、打面再生の後、継続される(2)。石刃剥離に伴う頭部調整は打面の縁辺部に軽微な加工で行われ、後の頂部を除去するようなものではない。また、石刃剥離の際の加撃点が作業面の後の頂部ではなく頂部と頂部の間であるため38のように石刃の打面幅は広く、石刃自体も幅広で打面幅と最大幅はほとんど変わらない形状である。また、そのような石刃が剥離されるため、石核の作業面も扁平で、最終的に石核41のように扁平となる。10cm前後の石刃が剥離され、ナイフ形石器(9・23・22・24・8)、二次加工ある剥片(32・33)に加工されるが、それらの加工は部分的で加工途中のものが多い。また、欠落したものがほとんど無く、ほとんど搬出されていない。

分布 Sb-60のM46、Sb-61のM45、N44・45・47、O43~47、P44・45、Sb-53のP48区の広い範囲に散漫に分布するが、ナイフ形石器はP44区に集中している。人為的に集められたと考えられる。

写真のみ掲載の遺物

母岩別資料407・接合資料1911(図版364-2)は、角の潰れた亜角礫素材で原石の形状で搬入される。上設打面からの石刃剥離の後に横方向の剥離によって石核は中央で分割され、両者ともに両設の単剥離打面から石刃剥離が行われる。(鈴木宏行)

(16) 白滝I群以外石器ブロック外の石器

尖頭器(図IV-565-1、図版366)

1点(1個体)を図示している。1は長さ16cmでやや厚手の尖頭器である。やや粗い平坦剥離で加工されている。

ナイフ形石器(図IV-565-2、図版366)

1点(1個体)を図示している。2は先細りした縦長剥片素材のナイフ形石器である。基部は両面とも平坦剥離によって加工されるが、先端部は加工されずに先細りの素材形状が残される。

掻器(図IV-565-3、図版366)

1点(I層出土1個体)を図示している。3は頭部調整の行われる単剥離打面の石刃核から剥離された石刃素材である。両側縁には急角度の加工が施され、刃部はやや直線的に加工される。

二次加工ある剥片(図IV-565-4、図版366)

1点(1個体)を図示している。4は幅広の尖頭器調整剥片素材で、素材打点部周辺に平坦剥離による両面加工がみられる。

舟底形石器(図IV-565-5、図版366)

1点(1個体)を図示している。5は甲板面がネガ面で10cm以上の石核素材と考えられる。主に甲板面からの加工で整形されるが、最後は右側面に下縁から加工が行われ、端部には細石刃状の剥離がみられる。甲板面の縁辺部は細かい加工で直線的に加工される。側面形は長方形に近く、両側面の表面は比較的滑らかである。

石刃核 (図IV-566-6、図版366)

1点 (I層出土1個体) を図示している。6は角の潰れた扁平な直角礫素材である。上設の単刃離打面から頭部調整を伴い石刃が剥離される。素材が扁平なため裏面に作出された打面と作業面の角度は40度と小さい。また、途中で裏面下端からの剥離、正面下端からの剥離、左側縁から裏面への剥離が行われる。素材形状を反映して作業面形状は平坦で、幅広い石刃が剥離されている。

分布 (図IV-566)

1・2は広郷型ナイフ形石器の出土するSb-60の南西に位置し、また、Sb-12と重複することから、2はいずれかと関連があると考えられる。しかし、尖頭器はどちらにも含まれないため、1の関連性は不明である。3・6はSb-18・30に隣接するグリッドで採集され、6はH57区 (Sb-34) から出土したIV-388-75に類似する。4は西地区であるL21区から出土している。主にL53区 (Sb-44) に分布する母岩328・接合1658 (図版345-2・346) に単体で含まれるため、L21区に搬入されたと考えられる。5はSb-29出土の舟底形石器IV-309-68と接合し、Sb-29と関連がある。

(17) 表土 (重機調査) の石器

ここでは、調査の最初の段階で行われた重機による笹根除去作業の際の排土中から得られた遺物について説明する。土は一定の範囲から集められているため正確な地点は不明である。

尖頭器 (図IV-567-1~図IV-568-5、図版367)

8点 (5個体) を図示している。1は直角礫素材で長さ28cmの大型品である。正面は主に左側縁から裏面は両側縁から大型の剥片剥離による平坦剥離が行われ、正面左側縁からの加工で折損している。正面の加工が左側縁に偏るため最大厚部も右に偏っている。2は角礫素材の尖頭器で、平坦剥離によって加工され、縁辺には細かい剥離がみられる。3は非常に幅広い横長剥片素材で、背面は全体に、腹面は素材のバルブの部分に押圧剥離状の薄く、器体の奥に侵入する加工が行われ、非常に細長い形状である。左側縁から正面への最終剥離で折損している。4・5は珪岩製の尖頭器である。4は裏面が大型の平坦剥離によって、正面がやや小さな剥離で加工され、断面形は背面側が凸状になる。5は正面が深い加工により、裏面が比較的細かい加工によって整形されるが、側面形はやや湾曲し、あまり整った形態ではない。

両面調整石器 (図IV-568-6、図版368)

1点 (1個体) を図示している。6は角柱状の角礫素材で平坦な裏面には全体に、正面は右側縁のみに粗い加工が行われる。ヒンジや潰れによる表面形態の悪化により途中で遺棄されたと考えられる。

細石刃核 (図IV-568-7~図IV-569-11、図版368)

5点 (5個体) を図示している。7は素材の背面を左側面に設定し、素材打面側から削片が剥離される。両側面とも下端部に加工があり、作業面長は29mmである。作業面は素材腹面である右側面に偏り、裏面は折損している。8は小型の剥片素材で素材背面を左側面に、素材先端部を細石刃剥離作業面に設定している。腹面には上縁から粗い加工が、背面には縁辺部に急角度の加工が施され、最後に削片が剥離される。削片剥離は器体の中央付近までしか到達せず、細石刃剥離は行われない。9は両面加工された母型の裏面から削片が剥離され、裏面で細石刃が剥離される。その後、正面から削片が剥離され、正面で細石刃が剥離される。他の棒下型細石刃核に比べ幅広い細石刃が剥離されている。10は素材背面を左側面に、先端部を細石刃剥離作業面に設定している。左側面の上縁には比較的急角度の、その他の周縁には平坦な加工が施され、特に素材打面部には平坦剥離による両面加工で尖頭状

に加工される。最後に正面に細石刃状の剥離が行われる。11は腕加型細石刃核である。素材を横方向に利用し、舟底形の細石刃核未製品が製作され、端部で細石刃が剥離される。側面の加工は甲板面・下縁から行われ、右側面甲板面からの加工、右側縁下縁からの加工、左側縁下縁からの加工、左側面甲板面からの加工の順で整形される。特に甲板面の縁辺には細かい加工が行われ、上面から見た縁辺は直線的で滑らかである。作業面長は24mmである。

細石刃核削片 (図Ⅳ-569-12・13、図版368)

2点(2個体)を図示している。12・13ともに峠下技法の二次削片である。12は原礫面の残る大型のもので、先行の削片剥離後、末端部の段差を右側面から除去し、剥離されている。

舟底形石器 (図Ⅳ-569-14～図Ⅳ-572-28、図版368・369)

15点(15個体)を図示している。甲板面が原礫面で原石素材である17・28、甲板面がネガ面で石核素材である14・25以外は剥片素材である。14～17、24～26は完形、18～23、27・28は折損品である。14～16は10cm以下の小形品、17・24・25は10～15cm、26は15cm以上の大型品である。ほとんどは甲板面からの加工であるが、15・19～26には下縁からの加工がみられる。26の甲板面の縁辺は、細かい剥離により滑らかである。

彫器 (図Ⅳ-572-29～31、図版370)

3点(3個体)を図示している。29は小型の細長い石刃素材で素材打面側の端部を断ち切るように作出された彫刀面打面から縁辺に沿って彫刀面が作出される。彫刀面と接する腹面には彫刀面と直交する細かい線状痕が観察できる。30は頁岩製である。剥片素材で素材打面側である基部には両面に平坦剥離が施され、尖頭状に整形される。右肩に斜めに作出された彫刀面打面から左肩に彫刀面が作出されるⅡ種の彫器である。31は打面調整のある石刃素材で、素材先端側に腹面からの急角度の加工によって内湾するように作出された彫刀面打面の左右の端部から左右側縁に彫刀面打撃が行われる。腹面側に加撃されるため彫刀面は腹面側に傾いている。

つまみ付きナイフ (図Ⅳ-572-32、図版370)

1点(1個体)を図示している。32は斜めに湾曲した剥片素材でバルブの下につまみが作られ、内湾した右側縁、左側縁先端部には連続した加工が施される。

石刃核 (図Ⅳ-572-33～図Ⅳ-573-36、図版370)

4点(4個体)を図示している。33～36は単剥離打面の石刃核である。33・35・36には頭部調整がみられる。33には打面の裏面側に横方向の剥離がある。34は裏面に横方向の加工があり、それを切る下面からの縦方向の剥離がみられる。35は作業面が周囲している。33・36は角礫素材である。

石核 (図Ⅳ-573-37～図Ⅳ-575-41、図版370・371)

5点(5個体)を図示している。37は、頭部調整・打面調整を伴わない剥離が、頻繁な打面転移を繰り返して行われ、サイコロ状に近い形状である。38は、正面・左側面・上面で剥片が剥離されている。39は角礫素材で単剥離打面から幅広の剥片が剥離される。正面左側縁下部・裏面下部には石核調整がみられる。40は転礫素材で単剥離打面から頭部調整を伴う幅広の剥片剥離が行われ、最後に下縁から剥片が剥離されている。41は転礫素材で当初裏面左側の一枚の剥離面を打面として右側縁から正面に頭部調整を伴う剥片剥離が行われる。その後、打面を上面に90度転移させ、上面から頭部調整を伴って幅広の剥片が剥離されている。(鈴木宏行)

(18) 斜面部(重機調査)の石器

ここでは高位部の東側に位置し、低位部との間にある斜面部から出土した遺物について説明する。

調査は、重機によって発掘区単位で土壌を掘り上げ、人力によって遺物を採集する方法で行った。

斜面部は高位部の東端であるA・B区と接するため両者の遺物が混在し、また、斜面のため原位置を保っていないという立地上の問題から厳密に石器群を抽出するのは困難である。

出土石器 (表IV-8)

全て一括遺物で尖頭器43点、両面調整石器2点、ナイフ形石器2点、彫器8点、掻器31点、削器67点、錐形石器1点、舟底形石器24点(Ⅱ類24点)、二次加工ある剥片7点、細石刃50点、細石刃核20点、石刃310点、縦長剥片69点、石刃核10点、石核37点、削片45点(細石刃核削片45点)、剥片18,179点、原石4点の計18,910点、重量193,059.0gの石器類が出土した。一括遺物から抜き出した遺物1,078点の石材は黒曜石1が57.2%で最も多く、黒曜石4(22.9%)、黒曜石5(13.0%)、黒曜石3(4.6%)が続く、以下黒曜石2(1.4%)、頁岩(0.8%)である。彫器・舟底形石器は黒曜石4が多く、細石刃関連資料である細石刃・細石刃核削片・細石刃核は黒曜石1・5が多い。

尖頭器 (図IV-576-1~11、図版372)

11点(11個体)を図示している。1は剥片素材と考えられる10cm程度の断面三角形の尖頭器である。比較的粗い加工で正面左側縁は階段状に潰れ、先端部は欠損している。2は15cmを越える大型石刃素材で両側縁は加工されずに、両面の平坦剥離によって、素材打面側は尖頭状に、先端側は凹形に加工される。3~11は欠損品で全て小型の尖頭器片である。3・10・11は幅広の、それ以外は幅の狭いものである。9は厚手の断面三角形で正面の後からの加工がみられる。

両面調整石器 (図IV-577-12、図版372)

1点(1個体)を図示している。12は大型剥片素材で裏面は大型の平坦剥離、正面は両側縁からの奥に侵入する剥離によって断面形が薄針状に整形される。上端部から腹面に剥離が行われ、下端部の刃部形状は円のみ状であるが、潰れや擦痕は観察できない。形態上は斧形石器であるが、黒曜石製であり、両面調整石器に分類した。

細石刃 (図IV-577-13~28、図版373)

16点(16個体)を図示している。13~19は完形ないしほぼ完形、20~24は頭部、25~27は先端部、28は中間部である。完形品の長さは22~38mmであるが、26~32mmのものが多く、折損品を含めて30mm前後が多いと考えられる。幅は5~10mmであるが、7~9mmのものが多く、この数値はA区の峠下型細石刃核から剥離された細石刃の規格と異なりやや大型で、異なる細石刃核から剥離されたものと考えられる。

細石刃核 (図IV-577-29~図IV-578-46、図版373・374)

19点(18個体)を図示している。29~37は細石刃剥離痕のある細石刃核である。29~31・36・37は削片剥離によって細石刃剥離面が作出されるもの、32~35はそれ以外のものである。29~31は剥片・石刃素材で、峠下型細石刃核の範疇に入る。29・30は素材先端側から、31は素材打面側から削片剥離が行われ、29・31は他端まで達し、30は途中でヒンジになっている。29は両側面下縁部に加工が施される。裏面の折れ面を切る加工がみられ、折損後に加工が行われている。30は背面の縁部に細かい加工が行われるが、上縁の削片剥離部では削片剥離前に角度のある比較的確りとした加工が行われる。31は左側面ほぼ全体、右側面上部・細石刃作業面周辺に加工がみられるが、左側面を覆う上面からの加工は先行の削片剥離後に行われたものと考えられる。29~31の甲板面と作業面の角度は、31が75度であるが、29・30はほぼ60度でA地区の峠下型細石刃核と一致する。一方、細石刃剥離作業面長は22~33mm、細石刃核高は29~31mmでやや大きい。

32~35は大型の剥片素材で主に腹面から両側面への加工で未製品が作成される靱加型細石刃核であ

る。素材腹面である甲板面が平坦であることが特徴で大型の剥片が利用されていると考えられる。素材の剥離軸と石器長軸との関係では32・34は素材を縦方向に、33・35は横方向に利用している。33・34は下縁からの加工によって側面の湾曲が弱まり、表面の凹凸が減り、滑らかになり、また、全ての甲板面の縁辺には頭部調整状の細かい加工が行われ、直線的に仕上げられている。これらの特徴はⅡ類の10cm以下の舟底形石器にはみられないものである。細石刃剥離は、素材を横方向に利用する33・35は向端で、縦方向に利用する32・34は素材先端側のみで行われる。甲板面と作業面の角度は時下型細石刃核と異なり、45～85度と幅がある。細石刃剥離作業面長は28～36mmで30mm前後が多く、斜面部出土細石刃長と一致する。

36・37は蘭越型に類似するものである。36は左側面・裏面に素材面と思われる縦方向の剥離面が残り、素材が縦方向に利用されている。細石刃核未製品の形状は不明であるが、背縁から右側面に細石刃核母型作成時の加工がみられる。細石刃剥離作業面側から削片剥離が行われ、細石刃が剥離されている。甲板面の削片剥離面は打点が遠く、細石刃剥離が進んでいると考えられる。作業面長は34mmで比較的長い細石刃が剥離されている。37は削片素材で素材を縦方向に利用し、横切るように削片が剥離される。加工は素材背面である左側面にはほぼ全面的に、素材腹面である右側面には縁辺部に平坦剥離によって行われる。甲板面には数枚の剥離面が残る。素材を縦に利用し、横に断ち切るように削片剥離が行われ、54mmもの長い細石刃剥離作業面長を持つ点で蘭越型細石刃核に類似するが、削片素材であり、細石刃剥離に先立って石刃剥離が行われない点が蘭越型と異なる。

39～46は細石刃剥離痕の無い細石刃核未製品である。全て削片剥離によって甲板面が作出される。38・40・42～44は厚手の削片素材、41・45は不明である。40・46には原稜面が残り、角の潰れた直角稜が利用されている。38～40・43は素材打面側から、42・44は素材先端側から削片剥離が行われる。40の削片剥離は正面からの後、裏面から行われる。片面加工(39・40・44)と両面加工(41～43・45・46)があり、それらは削片剥離前のものもあるが、ほとんどは削片剥離後に行われ、特に38・40～42は削片剥離後、甲板面から片側縁ないし両側縁に比較的軽い側面調整が行われ、大きく幅を減少させている。また、45は両面とも全体的な加工がみられるが、接合資料から2本前の削片剥離後にほとんどの側面調整が行われており、削片を剥離しながら幅を減少させる美利河技法の特徴がこれら一帯にはみられる。

細石刃核削片(図Ⅳ-579-47～51、図版374)

8点(8個体)を図示している。47は時下型細石刃核の二次削片である。先行する削片剥離後、そのヒンジによる段差を除去する腹面からの剥離が行われ、剥離されるが、下縁に抜け、細石刃核本体の長さを大きく減少させている。48は両面加工された細石刃核母型から剥離されたもので、先行の削片剥離後、左側面に下縁から全面的に加工が行われ、剥離されるが、下縁に抜けて細石刃核本体の長さを大きく減少させている。49～51は一次削片である。49・50は削片剥離前に、甲板面に設定する面の削片打面側周辺を横方向の剥離によって、また、49はさらにその面から両側面への加工によって準備された断面V字形の細石刃核母型から剥離される。両者とも上面に平坦な原稜面が残り、石核素材と考えられる。幅は4cm程度で細石刃核母型は非常に幅広である。51は大型の削片素材で腹面から急角度の加工によって母型が作成される。52は向側面、53・54は片側面に先行の削片剥離後に大きく幅を減少させる加工が行われ、剥離されている。削片剥離打面の残る49・50・53の打面周辺には細石刃状の細かい剥離がみられ、50・53は打面の厚さが1.5cmで大きく母型の高さが減少したと考えられる。4cm程度の幅で断面V字状の母型を作成し、削片剥離後、側面調整を繰り返して、幅・高さが減少する点で美利河技法に類似する。

舟底形石器 (図Ⅳ-580-55~図Ⅳ-583-67、図版374~376)

15点(13個体)を図示している。55は小型で甲板面からとそれを切る下縁からの加工が行われる。56~61は下縁の側面形が整った弧状で甲板面の縁辺に細かい剥離が行われ、縁辺が滑らかな形状のものである。素材は大型の剥片ないし石核で甲板面は非常に平坦である。幅に対して高さが高く、靴加型細石刃核の未製品と考えられる。57・58は幅広で加工も粗いが、56・59~61は上下から丹念に、特に下縁部に細かい加工を施して直線的になるように加工され、側面の表面が滑らかで非常に整った形状である。62・63は大型の石刃素材である。62は甲板面のみから、63は上下から加工が行われ、細長い側面形である。甲板面の縁辺部は細かい剥離により直線的になっている。64は大型剥片素材で粗い加工が行われる。65は剥片素材で素材の側面である原礫面を甲板面に設定し、両面で粗い加工が行われる。素材の利用の仕方、剥離の種類から石核の可能性もある。66・67は折損品である。66は縦長剥片素材で平坦な加工が施され、67は稜付石刃素材で細かい加工と部分的に粗い加工がみられる。

ナイフ形石器 (図Ⅳ-583-68・69、図版376)

2点(2個体)を図示している。68は剥片ないし縦長剥片素材で右側縁は直線的ではほぼ直角の急角度の加工、左側縁は下半部に内湾する急角度の加工が行われる。加工はほとんどが腹面から施されるが、右側縁の先端部には一部背面からの加工がみられる。それらの加工は素材を断ち切るような加工で素材を斜めに利用した切り出し形の形状である。69は背面と腹面の剥離方向が直交する剥片素材で、腹面側の両側縁に背面からほぼ直角の急角度の加工が行われる。背面は平坦な単一面でボジ面の可能性がある。

彫器 (図Ⅳ-583-70~73、図版376)

4点(4個体)を図示している。70は単設の単剥離打面を持つ石刃核から剥離された石刃素材で、背面基部を中心とした周縁加工が行われ、上端部右側に作出された打面から素材縁辺に沿って彫刀面剥離が行われる。その後、彫刀面の先端から右側縁に彫刀面状の剥離が行われ、また、腹面には彫刀面打面から平坦な加工がみられる。71はⅡ類の彫器である。両設の石刃核から剥離された石刃素材で両側縁全体に急角度の加工が行われ、左肩に腹面側に傾く彫刀面が作出され、背面先端部調整もみられる。72は転礫面を持つ石刃素材で、加工は右上の彫刀面打面のみに行われ、左肩に背面に傾く彫刀面が作出される。また、彫刀面に切られる背面先端部調整がみられる。73は石刃素材で、まず右肩に彫刀面剥離が行われ、背面先端部に細部調整が行われた後、左側縁に沿って剥離軸とほぼ同じ角度で彫刀面が作出される。二次加工は背面基部を中心に行われ、先端部は細かい平坦剥離である。

掻器 (図Ⅳ-584-74~85、図版376・377)

12点(12個体)を図示している。74~83は石刃ないし縦長剥片素材で、74~80は完形、81~83は折損品である。打面の残る74は調整打面の石刃核から、75・77・79は頭部調整を伴う単剥離打面の石刃核から剥離されている。74は正面右に正面側からの剥離がみられ、打面転移が行われたと考えられる。側縁の加工は、76には左側縁に平坦剥離による加工が、77には両側縁に急角度の加工が、80には右側縁下半部に平行剥離が行われるが、その他には行われない。80の刃角は35度と小さく、82の刃部加工は縁辺に限定される。

84・85は剥片素材で両側縁には簡単な加工が行われ、84は素材打面側に刃部が形成されている。両者とも転礫素材で85は原礫面打面である。

錐形石器 (図Ⅳ-585-86、図版377)

1点(1個体)を図示している。86は石刃素材で先端部に錯向剥離によって刃部が形成される。

削器 (図Ⅳ-585-87~図Ⅳ-587-97、図版377~379)

14点(11個体)を図示している。87~92は片面加工の削器で、87~89は完形、90~92は折損品である。87は周縁を細い急角度の加工で尖頭状に整形している。基部縁辺部は潰れ、右側縁裏面には若干の加工がみられる。88・89はそれぞれ17、23cmの大型石刃素材で非常に端正な形態である。89には打面が残存し、頭部調整を伴う単剥離打面であるが、打面に残る剥離面の打点が近く、調整打面の可能性もある。88は右側縁に平坦剥離による加工が行われ、89は左側縁下部・右側縁上部に平行剥離がみられ、特に右側縁の加工は上部から下部に向かって順番に行われるが、折損部付近で中央の稜を越えずに段差になり、折損している。88は頁岩製で、単体で搬入されている。90・92は頭部調整を伴う単剥離打面から剥離された石刃素材で両側縁縁辺部に平坦剥離による加工が行われる。91は転礫面のある厚手の剥片素材で粗い加工がみられる。

93~96は両面加工の削器である。93は基部の両面に平坦剥離によって加工が行われ、やや先端部が尖る円形に整形される。先端部の右側縁は45度程度の剥離によって加工されるが左側縁はそれより若干急角度でやや内湾している。94は厚手で大型の石刃素材で背面打面部周辺・腹面ほぼ全周に比較的粗い平坦剥離が行われる。95・96は長さ22.5cmで非常に大型の石刃素材である。打面の残る95は頭部調整を伴う単剥離面打面から剥離された石刃である。95の左側面には平滑な原礫面が残り、96の先端部には先行の石刃剥離面を切る後調整痕が残る。95の加工は尖頭器製作に類似し、先端部の両側縁・両側面に行われ、尖頭状に整形される。一方、96は両面で加工部位が異なり、右側縁では腹面加工が先端部に、背面加工がそれより中央に施され、左側縁も同様の範囲に細かい加工が行われる。

97は、剥片素材で背面は右側縁上部、腹面は左側縁上部に比較的粗い錯向剥離が行われる。

石刃・剝片 (図Ⅳ-587-98~図Ⅳ-590-114、図版379~381)

石刃は18点(16個体)、剝片は1点(1個体)を図示している。98~111は完形ないし打面部で、99・100・102・103・106~109は頭部調整を伴う単剥離打面から、110・111は調整打面から剥離された石刃で、98・101・104・105は打面が石刃剥離時に欠損し、打面形状の不明なものである。また、112・113は先端部で打面形状は不明である。98を除き全て単設打面の石刃核から剥離された石刃であるが、98は下からの大きい剥離痕があり、下面からの調整に近い剥離によるものと考えられる。原礫面は100・101・108・113に残るが、全て平滑なものであることから大型の角礫素材が多いと考えられる。長さは完形で15cm以上のものが多く、折損品である113は20cmを越えられ、高さ15cm以上の大型の石刃核から剥離されたものが多いと考えられる。調整打面を持つ110・111は15cm以下で小型であるが、打面調整によって石刃核高の減少があるため素材の原石は20cmを越えられられる。114は頭部調整を伴う石刃剥離の際に剥離された剝片である。

石刃核・石核 (図Ⅳ-590-115~図Ⅳ-594-124、図版381~385)

石刃核は9点(9個体)、石核は1点(1個体)を図示している。115~118は単剥離打面を持ち、頭部調整を伴う石刃剥離が行われた石刃核である。115・116は平滑な原礫面を持つ角礫素材で背面に平坦な原礫面があり、裏面以外の270度で裏面方向に向かって石刃剥離が行われている。115は正面左側縁に側縁調整がみられ、また、右側面は大型の縦長剝片剥離後、さらに剥離が行われるが、作業面が階段状になり、遺棄される。116の上面形は蒲葷形に近く、正面形も逆台形と非常に整った形態で、両側縁が平行な石刃が剥離されている。117・118は爪状痕のある原礫面を持つ転礫素材である。117の作業面は平坦で下端部にヒンジによる段差がみられる。118は上面形が扇形で整った形状で、両側縁が平行な石刃が剥離されている。剥離された石刃はウートラパッセで下端部を取り込んでおり石刃核高が減少し、遺棄されたと考えられる。

119・120は打面調整ないし打面再生の行われるものである。119は折損した大型の尖頭器素材で端

部に打面を作出し、打面調整を行いながら彫縁に沿って石刃が剥離される。120は裏面・右側面調整の後、打面調整を行いながら石刃が剥離される。

121～124は多方向の剥離が行われ、扁平な形態のものである。121は裏面左右からの剥離、表面から左右側面への石核調整後、正面上下から打面調整・再生を伴う石刃剥離が行われる。122は転擦素材で、右側面の単剥離打面から裏面で頭部調整を伴う幅広い剥片剥離が行われた後、裏面上部に打面を作出し、正面で剥片剥離が行われるが、あまり連続して剥離されていない。123は平滑な原礫面を持つ角礫素材で、裏面調整・正面左側縁からの石核調整を伴いながら正面で石刃剥離が行われ、正面作業面形状は平坦である。124は正面上からの石刃剥離後、正面右側縁を打面として裏面で打面調整を伴う石刃剥離が行われる。両面での打面転移・石核調整などで最終形態は扁平な円盤状である。

分布 (図Ⅳ-595～599)

図Ⅳ-20は斜面部の遺物を含む接合資料の分布である。斜面部の遺物はグリッド一括で取り上げているため、グリッドの中央に座標を与えて接合線を書いてある。この図を見るとPラインより北側ではA区との、南側ではB区との接合関係が強い。また、図Ⅳ-11では斜面部の等高線がPライン付近で湾曲し、東南東に向かって傾斜しており、接合関係も東南東に伸びる傾向がある。それらにまたがる接合関係があることから厳密には区分は困難であるが、O66区から東南東に伸ばしたラインを挟んで、便宜的に北側を北地区、南側を南地区とする。

尖頭器は、ほとんど北地区から出土し、多くがA区寄りに分布する。両面調整石器は、南地区B区寄りに円盤形の斧形石器に類似する12が出土している。細石刃は北地区のK73区に多いが、A区寄りに散漫に分布している。細石刃核は北地区を中心に散漫に分布し、梶加型細石刃核はその分布のうち、北と南の両端に分かれて分布する。K73区周辺には藪越型類似、峠下型細石刃核が分布する。また、中央のL～Nラインには美利河型類似の削片剥離と側面調整を繰り返す一群が分布し、同一の剥離技術から剥離された細石刃核削片もその分布に一致する。舟底形石器は梶加型細石刃核の未製品と考えられるものはJ・K74区を除くと細石刃核同様、北と南の両端に分かれて分布し、大型石刃素材の62・63は北地区のB地区寄りに分布し、それ以外は散漫に分布する。彫器は北地区の北東に分布し、搔器は北地区の西と東に分布する。削器は、小型で基部に両面加工があり先端部が尖頭状の93と剥片素材の91・97、大型石刃素材の89が北地区のA区寄りに、大型で先端部が尖頭状の95・96が南地区に分布し、その他は散漫に分布する。ナイフ形石器は北地区のA区寄りに分布し、錐形石器は北地区の中央に分布する。石核類は打面調整のある石核が北地区の北側に、打面転移により扁平になる石核は北地区の南側に、裏面に原礫面を持ち、比較的整った形態の石刃核が南地区のB区寄りに分布する。

以上をまとめると北地区のA区寄りに小型尖頭器、細石刃、搔器、両面加工で基部を作り出し先端部を尖らせた削器、大型石刃素材で平坦な平行剥離のある削器、剥片素材の削器、ナイフ形石器が、北地区の中央には美利河技法類似の削片・細石刃核、峠下型細石刃核、藪越型類似細石刃核、梶加型細石刃核未製品の舟底形石器、彫器、搔器が、北地区の南側には打面転移により扁平になる石核が分布している。また、南地区のB区寄りに円盤形の斧形石器類似の尖頭器・裏面に原礫面が残る稜の平行する石刃核が、中央から東には梶加型細石刃核及び未製品の舟底形石器、大型で先端部が尖頭状の削器が分布する。

接合資料2636 (図Ⅳ-600、図版386-1)

素材 2点（2個体）が接合し、重量は105.9g、大きさは11×5×2.5cmである。平滑な原礫面を持つ角礫素材で搬入形態は不明である。

剥離工程 先行の削片剥離後、甲板面から両側面全体を覆う加工が行われ、大きく幅を減少させている。その後、削片52が剥離されるが、そのまま遺棄されている。45は細石刃核形状からは札滑型に分類されるが、接合資料からは削片剥離と甲板面からの加工によって細石刃核形態を整える点で美利河技法に類似する。残核形状から技法を推定するのは困難と言われるが、細石刃核45の側面調整を観察すると断面凸レンズ状の縁道を打点として加工が行われたのではなく、断面V字形の甲板面から加工されたことが判定できる。両面加工があるという理由で札滑型と判断するのではなく、側面の加工の打点位置を推定することで母型形状を推定できるのではないかと考える。今後の課題としたい。

分布 削片52はK70区に細石刃核45はL74区に分布し、離れて分布する原因が人為的なものかどうかは判断できない。

接合資料2649（図IV-600、図版386-2）

素材 2点（2個体）が接合し、重量は90.1g、大きさは13×4×3cmである。転蹠から剥離された幅広い大型削片を素材で搬入形態は不明である。

剥離工程 幅広い削片の剥離軸を細石刃核の短軸方向に設定し、素材先端部に急角度の加工を施し、打面側の加工は不明であるが、おそらく断面がD字状になるように母型が製作される。削片51の直前の中央まで達しない。一次削片が剥離された後、甲板面から削片打面周辺に細石刃核の剥離を行い、端部の上面形が円形になるように削片打面調整が行われ、削片51が剥離される。その後、甲板面から背面側へ加工が行われ、削片54が剥離される。削片51の剥離後の側面調整で幅は最大10mm減少し、大きく母型の形態が変化しと考えられる。その特徴は美利河技法に類似する。

分布 削片51はN71区に、削片54はN66区に分布し、離れて分布する原因が人為的なものかどうかは判断できない。

写真のみ掲載の接合資料

母岩別資料240・接合資料1402（図版386-3）は、平滑な原礫面を持つ角礫素材で搬入形態は不明である。下面から正面への石核調整後、単剥離打面から頭部調整を伴って20cm程度の石刃が剥離されている。石刃核形状は、下面に向かって先が細くなる五角形の端正な形態であるため、石刃剥離が順調に連続して行われている。（鈴木宏行）

(19) 低位部・石器ブロック62・63 (Sb - 62・63) の石器

出土石器

185点、重量38.4gの削片のみが出土した。石材は黒曜石1が最も多く84.5%を占め、以下黒曜石3（5.5%）、黒曜石2（4.5%）、黒曜石4（3.0%）、黒曜石5（2.5%）となっている。削片はすべて小形で重量も少なく（平均0.2g）、表土出土の石礫同様に水層の発達があり見られない。Sb-1-61が出土した段丘面より一段低い東白滝面に立地することも合わせて考えると、本石器ブロック群は縄文時代に属するものと思われる。

石礫（図IV-601-1、図版386-4）

1点（1層出土1個体）を図示している。1は基部が内湾する無茎の石礫で、向隅縁は僅かに外湾するものである。削片素材で、先端部が欠損している。背面は丁寧な調整面に覆われ、腹面は縁辺部のみの加工で、素材面が残存している。

石器ブロック62 (Sb-62) の分布 (図IV-601)

P86~88、Q85・86区の15×7mの範囲で確認された。全体的に散漫な出土状況である。剥片のみ69点、重量12.1gが出土した。剥片はすべて小型で重量も少ない。石鎌1は表土一括で、Sb-62・63間のR85区から出土した。

石器ブロック63 (Sb-63) の分布 (図IV-601)

Q88、R86~88、S85~88区の11×13.5mの範囲で確認された。全体的に散漫な出土状況であるが、R86、S87区にややまとまった分布がみられる。剥片のみ116点、重量26.3gが出土した。Sb-62と同様に剥片が小型で重量が少ないものが多い。
(直江康雄)

V 上白滝6遺跡の調査（平成13年度調査分）

1 調査の概要

(1) 調査要項

事業名	一般国道450号白滝丸瀬布道路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査（平成14年度）
委託者	国土交通省北海道開発局網走開発建設部
受託者	財団法人北海道埋蔵文化財センター
遺跡名	上白滝6遺跡（I-20-89）
所在地	紋別郡白滝村字上白滝123
調査面積	607㎡
調査期間	平成13年4月2日～平成14年3月29日（現地調査平成13年7月16日～9月14日） 平成14年4月1日～平成15年3月31日（整理作業のみ）

(2) 調査体制

財団法人北海道埋蔵文化財センター 理事長	大澤 満（平成14年6月30日まで） 森重 橋（平成14年7月1日から）
専務理事	宮崎 勝（平成11年6月1日から） 常務理事 木村尚俊（平成13年7月17日まで） 畑 宏明（平成14年6月1日から）
総務部長	柳瀬茂樹（平成14年3月31日まで） 第1調査部長 木村尚俊（平成13年7月17日まで） 下村 久（平成14年4月1日から）（兼務） 大沼忠春（平成14年3月31日まで） （兼務） 畑 宏明（平成14年4月1日から） （兼務）

平成13年度	第1調査部第3調査課課長	長沼 孝（発掘担当者）
	同 主任	鈴木宏行（発掘担当者）
	同 文化財保護主事	直江康雄
平成14年度	第1調査部第3調査課課長	長沼 孝
	同 主任	鈴木宏行
	同 主任	立田 理
	同 文化財保護主事	直江康雄

(3) 調査日誌抄

平成13年	19日（水）（白滝3遺跡25%・包含層調査）
7月16日（月）	調査員白滝入り。
17日（火）	開所式ほか。
18日（水）	（白滝3遺跡表上除去、杭打ち）
8月21日（火）	調査区設定基準杭など確認、調査準備。
22日（水）	北側表土除去終了。
23日（木）	北側重機調査、北端で調査片が出上したの

- で、その周辺を手掘り調査とする。
- 24日(金) 南側表土除去終了。北側(本線側)で掘片出土。明治大学杉原重夫氏来訪。
- 27日(月) 雨天のため、遺物水洗ほか、作業半日。
- 28日(火) 雨天のため、遺物水洗ほか、作業半日。
- 29日(水) 北側および南側調査区包含層調査、北側A22区尖頭器、南側W17区石鎌・石刃鎌・尖頭器・つまみ付きナイフ出土。北側は尖頭器石器群、南側は石刃鎌石器群と判明。
- 30日(木) 南側W17区石鎌・石刃鎌・尖頭器・つまみ付きナイフ・掻器出土。
- 31日(金) 雨天のため遺物水洗ほか、作業半日で終

- 了。
- 9月4日(火) 北側A21区尖頭器出土、調査終了。南側X16区石刃鎌・石核出土。
- 6日(水) 南側包含層調査終了。
- 7日(木) 写真撮影、杭撤去など、調査完了。調査面積670㎡。点取り遺物1,063点。(白滝3・下白滝遺跡の調査)
- 14日(金) 事務所備品・レンタカーなど引き上げ、調査員白滝引き上げ。平成13年度最終調査面積3,660㎡(上白滝6遺跡670㎡、白滝3遺跡2,900㎡、下白滝遺跡900㎡)。

(4) 発掘区の設定

発掘区はアルファベットの英文字と数字の組み合わせで表示し、規格は4×4mとした。調査区は平成10年度の本線部分の調査区を復元した。平成10年度調査区の設定は、工事測点のSP6190とSP62000を基準点とし、その2点を通る直線を南北方向の基線とし、東西方向は基準点を通り、南北方向の基線に直交する直線とした。

ラインの設定は、南北方向をアルファベットの英文字とし、基線をMに設定後、南側にN、O、P、Q、北側は逆にL、K、J、I・・・とした。東西方向は数字で、SP61900を通る基線を25とし、東側26、27、28・・・と進行し、SP62000では50、西側は逆に24、23、22とした。調査区域は、アルファベットラインでは、K～T、数字ラインでは15～68の範囲で、基準点の測量成果は下記のとおりである。

SP61900 (M25) X = -14124.977 Y = 72263.341

SP62000 (M50) X = -14143.918 Y = 72361.531

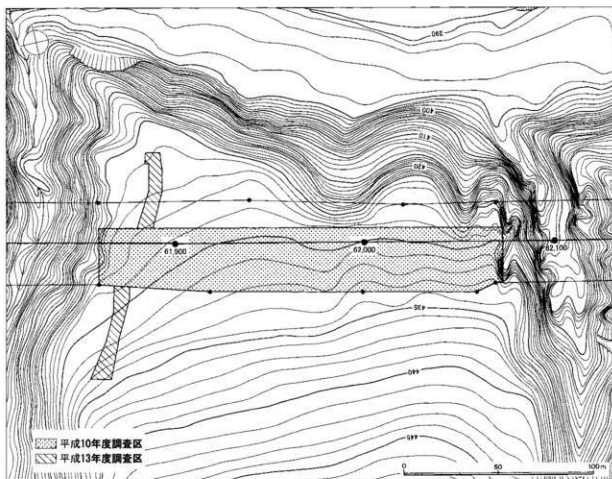
(平面直角座標系 第XⅡ系)

平成13年度の調査は連絡道路建設に伴う工事用道路建設に伴うもので、調査区は本線の北側と南側に角状に突き出た形となった。北側の調査区は、平成10年設定の発掘区内に収まったが、南側は南北方向がアルファベットのZまでに入らなかったため、Zより南側は小文字のa、b、c・・・とした。調査区域は北側の発掘区はA～Kラインと20～24ライン、南側の発掘区はR～eラインと14～19ラインの範囲である。

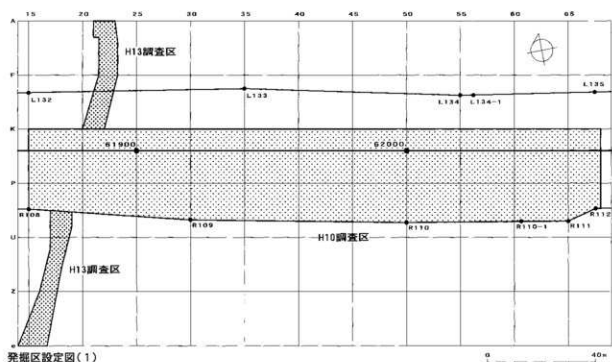
発掘区の呼称は、4m四方区画の西隅のライン交点で示した。例えば、Nラインと12ラインの交点の東側がN12区ということになる。また、発掘区は、公共座標の北方向に対して右回りで東側に10° 55' 06" 傾いている。(長沼 孝)

(5) 土層

上白滝6遺跡の土層堆積状況は、Ⅱ章で記載した基本土層とはほぼ同様で、上からI層(表土)、Ⅱa層(褐色粘質土)、Ⅱc層(赤褐色～灰褐色砂質土)Ⅲ層(赤褐色～褐色砂質土)の順に堆積している。遺物包含層であるⅡa層は、遺跡内のほとんどの地点で連続的に確認された。南側調査区ではe～Yラインでは斜面の傾斜はややきついが、遺物が出土したY～Sラインでは傾斜はやや緩やかになっている。北側調査区では遺物が出土した北端部分の傾斜がややきつくなっている。(長沼 孝)



調査範囲・周辺の地形図



発掘区設定図(1)

図V-1 調査範囲・発掘区設定図(1)

(6) 調査の方法

北備調査区は、平成10年の本線部分の調査結果から、遺物出土の可能性が薄いと考えられたので、表土除去後、本線部分に接する南端から重機によって包含層を少しずつ除去する重機調査を進めた。その結果、北端に近いB22区で剥片が確認できたので、その周辺は人力による手掘り調査とした。遺物はA21・22・23区、B22・23区、C23区で確認され、調査区外に続いていることが予想される。

南備調査区は、本線部分の調査で確認された石刃鎌石器群のSb-1に近いことから、関連する石器群の広がりが予想された。本線に接する北側から表土除去を進めたところ、V17、W17区から黒曜石2の大型剥片が出土したので、その周辺では重機による表土除去を最小限にして手掘り調査を開始した。一方Zラインより南側では表土除去の際に遺物がまったく出土しなかったため、重機調査を進めたが、遺物はまったく見られなかった。

南北いずれの調査区も遺物の出土する部分が限られていたので、通常の25%調査などは行わず、排水の運搬路を確保しながら包含層調査を進めた。

調査期間は2週間程度となったが、雨天が多く、実質の調査日数は7日間ほどであった。

遺物の取り上げは、他の遺跡と同様に、I層（表土および耕作土）については発掘区単位で一括して取り上げ、遺物包含層であるII層については、出土位置を可能な限り計測した。しかし、II層の遺物でも指先より小さい剥片類については、発掘区単位で一括して取り上げた。出土位置の記録はトータル・ステーションを使用し、さらに遺構・遺物データシステム（シン技術コンサルタント）にデータを蓄積すると同時に毎日遺物一覧表とドットマップ（分布図）を作成し、データのチェックと遺物の分布状況を把握しながら調査を進めた。現場終了時の上白滝6遺跡のデータ数は1,063件である。

(長沼 孝)

(7) 整理の方法

遺物の水洗作業は、基本的に現地で行った。その後、札幌の整理作業所に運び、注記などの整理作業を開始した。

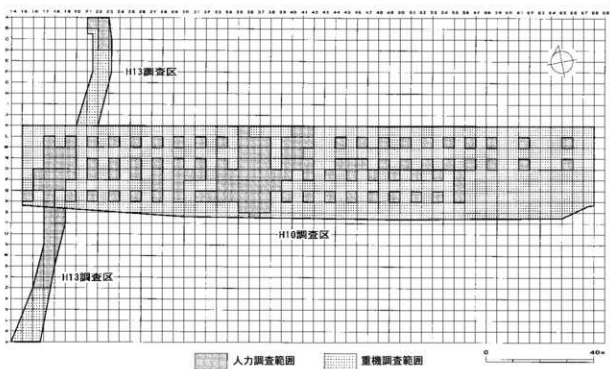
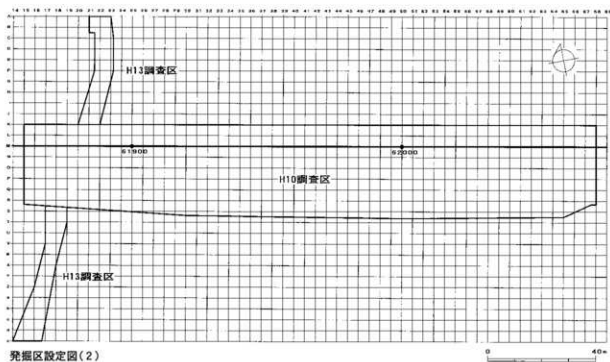
遺物の整理作業は、他の遺跡と同様に点取り遺物と一括遺物に分けて進めた。点取り遺物は注記後に、器種分類、重量計測、石質、残存状況、打点・自然面・被熱の有無など一次の属性観察を行い、次に接合・実測などの二次整理作業を進めた。遺物の注記は、道教委の登録番号、発掘区、遺物番号の順としたので、上白滝6遺跡、W17区出土、遺物番号30の石器の場合は「89W17・30」となる。

また、一括遺物は、定形的なものや点取り遺物と接合したものを抽出し、台帳を作成した。したがって、その注記は、点取り遺物と区別するため、発掘区と台帳の整理番号の間に層位を記入した。例えば、W17区、I層出土、台帳番号5の石器は、「89W17・I・5」となる。

現場で取り上げた点取り遺物は、1,063点であったが、水洗後に精査し、地山に含まれている自然礫や黒曜石の原石を除いた結果、点取り遺物は最終的に1,058点となった。

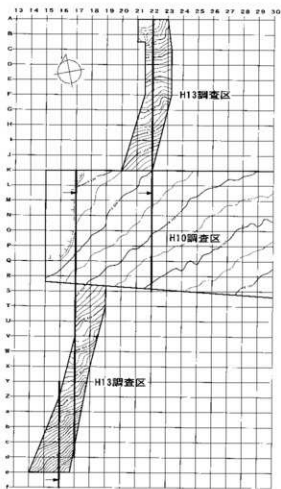
遺物の接合作業は、石質、発掘区そして南北の調査区の順に進めたが、北備は全体量が少なく、遺物の分布が調査区域外に広がっていることなどから、あまり進展しなかった。南備は定形的な石器類の大部分が搬入品であったので、接合は在地の梨樹の黒曜石2の剥片類が主体であった。また、同じ石刃鎌石器群の平成10年度調査のSb-1や隣接する上白滝5遺跡のSb-6との接合も試みたが、接合しなかった。

最終的に折れ面接合は191例（50052～50134 *500001～50051、51例は平成10年調査分）、剥離面接合は34例（40～73 *1～39、38例は平成10年度調査分、21は欠番）となった。母岩抽出は、南備

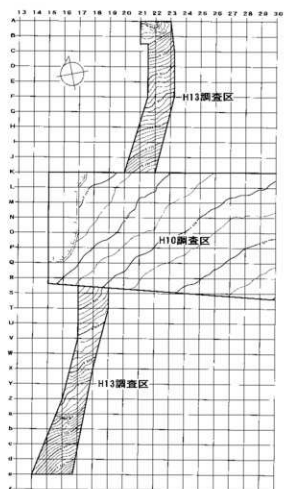


図V-2 発掘区設定(2)・調査範囲図

1 調査の概要

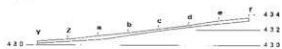


表土除去後の地形図



調査終了後の地形図

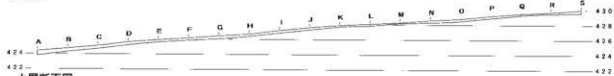
1.6ライン



1.7ライン



2.2ライン



土層断面図

図V-3 発掘区域地形・土層断面図

表V-1 上白滝6遺跡出土遺物点数・重量一覧 ※重量の単位は(g)

種類	尖頭器		両面調整器		掻器	削器		二次加工 剥片		石刃	縦長剥片		石核	剥片		石鏃	石刃鏃		つまみ付き		燧石器等	合計						
	点数	重量	点数	重量		点数	重量	点数	重量		点数	重量		点数	重量		点数	重量	点数	重量		点数	重量	点数	重量	点数	重量	
点取り	8	209.5	5	1219.2	6	206.5	8	211.1	3	201.0	10	27.3	2	101.0	1	2211.8	905	1267.8	6	9.3	11	11.7	2	6.2	1	2592.8	1026	16112.9
一括								1	347.0							1	694.3	105	1472.1								100	2293.4
合計	8	209.5	5	1219.2	6	206.5	8	211.1	4	421.0	10	27.3	2	101.0	2	2596.1	1230	2596.1	6	9.3	11	11.7	2	6.2	1	2592.8	1126	21001.3

表V-2 上白滝6遺跡出土遺物石質別一覧 ※重量の単位は(g)

種別	石質	実山砂		有山砂		緑色	黒色		二次加工 剥片		石刃	縦長剥片		石核	剥片		石鏃	石刃鏃		つまみ付き		燧石器等	合計							
		点数	重量	点数	重量		点数	重量	点数	重量		点数	重量		点数	重量		点数	重量	点数	重量		点数	重量	点数	重量	点数	重量		
点取り	実山砂	8	209.5	5	1219.2	6	206.5	8	211.1	3	209.0	9	26.0	2	100.0	1	2211.8	905	1267.8	6	9.3	11	11.7	2	6.2		1064	12438.3		
	有山砂																										1	2966.9		
一括	実山砂																											1	7.3	
	有山砂	8	209.5	5	1219.2	6	206.5	8	211.1	3	354.0	10	27.3	2	101.0	1	2211.8	905	1267.8	6	9.3	11	11.7	2	6.2	1	2592.8	1026	16112.9	
一括	実山砂																												327	2258.9
	有山砂																												537	2268.0
合計		8	209.5	5	1219.2	6	206.5	8	211.1	4	421.0	10	27.3	2	101.0	2	2596.1	1230	2596.1	6	9.3	11	11.7	2	6.2	1	2592.8	1126	21001.3	

調査区出土の黒曜石2の接合資料5個体についてのみ行い、母岩番号は平成10年度調査分の3個体(母岩別資料1~3)に続けて母岩別資料4~8とした。

接合に関わる点数は332点(折れ面接合のみ69点、剥離面接合263点)で、点取り遺物の総数1,058点に対しては31.4%、点取り及び一括遺物の総数1,595点に対しては20.8%の接合率である。5個体の母岩別資料の点数は154点で、点取り遺物の総数1,058点に対しては14.6%、点取り及び一括遺物の総数1,595点に対しては9.7%の母岩抽出率である。

最終的に実測図などを掲載した石器類は46個体、55点、接合資料は5個体(うち模式図・写真を掲載したもの3個体)、分布・接合図などを示した石器ブロックは2か所である。石器類の掲載割合は、点取り及び一括遺物の総数1,595点から剥片1,530点を引いた石器類65点に対して84.6%である。

(長沼 孝)

(8) 調査結果の概要

平成10年度の上白滝6遺跡の調査では炭化木片ブロックなどの遺構は確認されなかった。

遺物の総数は1,595点、総重量は21,001.3gである。そのうち点取り遺物は1,058点、一括遺物は537点で、詳細は表V-1を参照願いたい。

出土した遺物はすべて石器類で、時期的には縄文時代と旧石器時代のものがある。器種としては尖頭器、両面調整石器、掻器、削器、二次加工ある剥片、石刃、縦長剥片、石核、石鏃、石刃鏃、つまみ付きナイフ、剥片、台石などがある。

石器類は平成10年度の本線調査区を挟んだ北側と南側の調査区でそれぞれまとまって確認され、北側調査区のもの(石器ブロック4 (Sb-4)、南側調査区のもの(石器ブロック5 (Sb-5)とした(Sb-1~3は平成10年度調査区)。

Sb-4は尖頭器、掻器、削器、縦長剥片、剥片などがみられ、尖頭器の製作を行っているブロックであるが、調査区外にも広がり、全体の状況は不明である。

Sb-5は尖頭器、両面調整石器、掻器、削器、二次加工ある剥片、石刃、石核、石鏃、石刃鏃、つまみ付きナイフ、剥片、台石などがみられ、石刃鏃石器群と考えられる。尖頭器、掻器、削器、石

鎌、石刃鎌、つまみ付きナイフ、石刃などはいずれも石器の状態では遺跡に搬入され、簡単な二次調整や刃部の再加工などが行われているだけで、ブロック内での石器製作は、梨肌の黒曜石を原石の状態を持ち込んでの剥片剥離や尖頭器の素材としての両面調整石器作りなどである。

産地分析の結果、石鎌では赤井川産と名寄産、石刃鎌では置戸・所山産と十勝産、尖頭器、搔器、つまみ付きナイフでは置戸・所山産、削器、石刃では置戸・所山産と白滝・あじさいの滝産の黒曜石が確認された。石鎌は6点のうち5点分析し、名寄産が3点、赤井川産が2点であるが、分析を行わなかった基部側の破片も石質は赤井川産と判定されたものに類似しているため、赤井川産とみられ、名寄産と赤井川産がそれぞれ3点ずつで、白滝産がないということになる。石刃鎌は11点出土しているが、被熱しているものも多く、産地分析を行ったのは2点で、置戸・所山産と十勝産という判定が出ている。分析を行っていない9点を観察すると、茶色が入った黒曜石3が1点だけで、他は黒色の黒曜石1である。黒曜石3は白滝産の可能性があるが、残りの黒曜石1は白滝産以外で、置戸・所山産のものが多いとみられる。尖頭器は3点あるが、いずれも灰色の編模様が入る類似した石質で、分析した1点の置戸・所山産同様、置戸・所山産とみられる。搔器3点、つまみ付きナイフ2点はすべて分析し、置戸・所山産と判定された。削器と石刃は15点あり、1点が頁岩で、残りの14点が黒曜石製である。14点の黒曜石の石質は、肉眼的に三つのグループに分けられる。一つは分析を行わなかったが梨肌の黒曜石2で、明らかに白滝産と考えられる。他の二つは、それぞれに産地分析で置戸・所山産と白滝・あじさいの滝産と判定されたものが対応し、置戸・所山産は9点（分析は4点）、白滝・あじさいの滝産は4点（分析は3点）である。いずれにしろ搬入された石器類は白滝産以外の赤井川産、名寄産、置戸・所山産、十勝産の黒曜石で製作されたものが多く、なかでも置戸・所山産のものが多いということがいえる。

時期としては、Sb-4は後期旧石器時代終末頃、Sb-5では土器は出土していないが、他の石刃鎌石器群の遺跡同様に縄文時代早期と考えられる。なお、Sb-5の石器について水和層測定による年代換算を行ったところ、 $6,643 \pm 281$ yBP（石刃鎌：置戸・所山産）、 $4,633 \pm 393$ yBP（石刃鎌：十勝産）、 $6,394 \pm 492$ yBP（尖頭器：置戸・所山産）、 $6,410 \pm 78$ yBP（つまみ付きナイフ：置戸・所山産）、 $5,948 \pm 414$ yBP（削器：置戸・所山産）という数値が得られた。（長沼 孝）

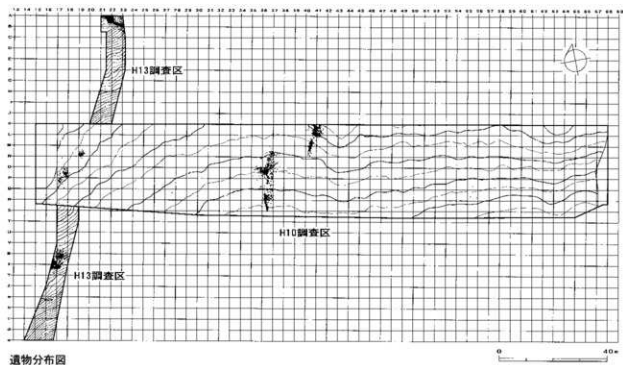
2 遺構と遺物

焼土や炭化木片ブロックなどの遺構は確認されなかった。

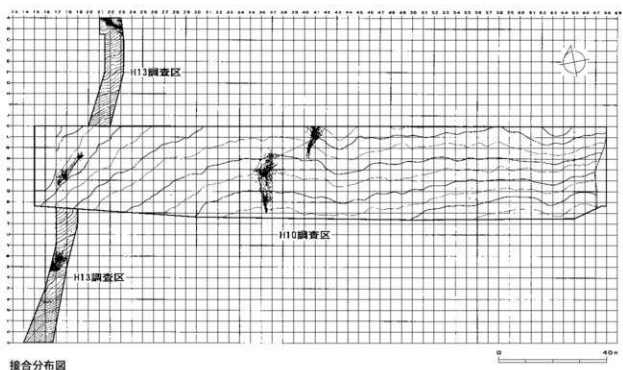
出土した遺物はすべて石器類で、平面的にはいくつかの小さなまとまりがみられるが、南北いずれの調査区も調査区域外に遺物分布が広がり、石器ブロックの全体状況が把握できないので、細かなブロック設定は行わなかった。

(1) 遺物分布と石器ブロック

北側は調査区北端のA21・22区に主に分布して調査区外に広がっている。南側は平成10年度調査のSb-1のO・P17区の南方20mのV・W・X16区、V・W・X17区を中心に分布している。北側・南側いずれもブロック内の報告のみで、平成10年度調査のSb-1～3を含めても、他のブロックとの接合はない。したがって、平成10年度調査のSb-1～3に続けて北側をSb-4、南側をSb-5とした。

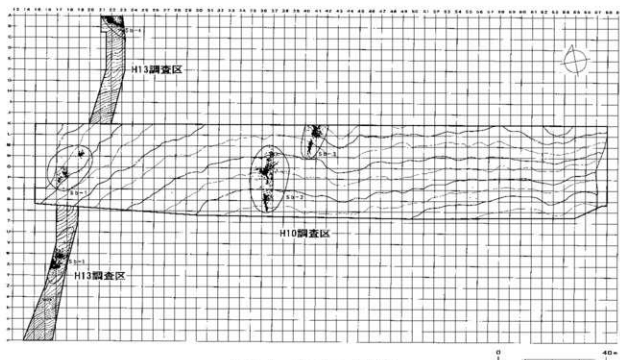


遺物分布図



接合分布図

図V-4 遺物分布・接合分布図



図V-5 石器ブロック設定図

尖頭器・両面調整石器 (図V-6)

尖頭器はSb-4で3点、Sb-5で5点、計8点、両面調整石器はSb-5のみで5点、2個体出土している。

彫器・錐形石器 (図V-6)

Sb-4・5とも出土していない。

撞器 (図V-6)

Sb-4で1点、Sb-5で5点、計6点出土している。

削器・つまみ付きナイフ (図V-6)

削器はSb-4で1点、Sb-5で7点、計8点、つまみ付きナイフはSb-5のみで2点出土している。

石刃・縦長剥片 (図V-6)

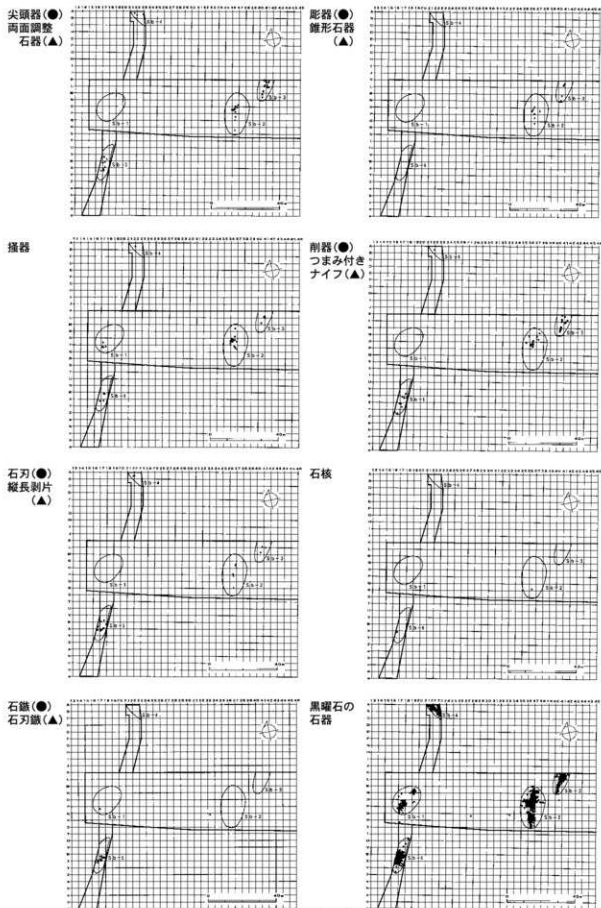
石刃・縦長剥片はSb-4で2点、Sb-5で10点、計12点出土している。そのうちSb-5出土の石刃1点が頁岩製である。

石鏃・石刃鏃 (図V-6)

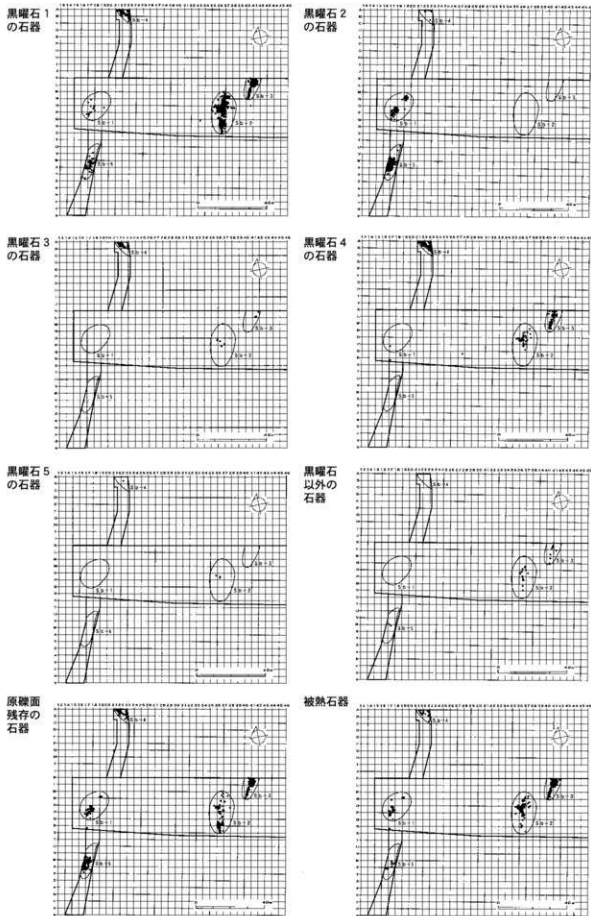
石鏃・石刃鏃いずれもSb-5出土で、石鏃6点、石刃鏃11点、計17点である。平成10年度の調査ではSb-1で石刃鏃1点とブロック外で石鏃1点が出土している。

黒曜石製の石器 (図V-6・7)

点取り遺物1,058点のうち1,056点、99.8%が黒曜石製の石器で、そのうち黒色の黒曜石1は137点(黒曜石全体に対して13.0%、以下同じ)、梨肌の黒曜石2は469点(44.4%)、黒に茶の黒曜石3は101点(9.6%)、茶に黒の黒曜石4は349点(33.0%)、黒に紫・茶の黒曜石5は1点(0.1%)である。分布状況を見ると、黒曜石1はSb-4・5ともにあるが、Sb-4がやや多い。黒曜石2はSb-5が大部分で、Sb-4では3点のみ、逆に黒曜石3はSb-4が大部分で、Sb-5では1点のみ、黒曜



図V-6 器種・石材別分布図(1)



図V-7 器種・石材別分布図(2)

石質は縁辺に透明部分がみられる良質の黒曜石1である。

搔器 (図V-8-3、図版394-3)

3は横長剥片を素材にした搔器とみられるが、刃部の大半が欠損している。両側縁の加工はやや粗く、全体にねじれているので、尖頭器製作時の剥片を利用していると考えられる。石質は茶色に黒色がまだらに混じる黒曜石1である。

縦長剥片 (図V-8-4、図版394-4)

4は黒曜石3の残付きの縦長剥片である。両側縁の細かな不連続の剥離は、人為的な二次加工ではなく、稜などにも摩滅がみられることから、土中での移動などの自然の営力によるものとみられる。

石器ブロック4 (Sb-4) の分布 (図V-8・9)

遺物はA21・22区に細長く溝状に調査区外の東側から流れてきたような状態で分布している。ブロックの主体は調査区外の北東側にあると考えられる。図示した石器類はA21・22区から出土している。

石器ブロック4 (Sb-4) の接合状況 (図V-9)

接合は遺物の集中部のA21区を中心にみられ、他のブロックとは接合しない。

(3) 石器ブロック5 (Sb-5) の石器

出土石器

尖頭器5点、両面調整石器5点、搔器5点、削器7点、二次加工ある剥片3点、石刃10点、石核1点、石鏃6点、石刃鏃11点、つまみ付きナイフ2点、台石1点、計519点、総重量14,645.4gの石器類が出土した。石材は頁岩1点、凝灰岩1点のほかはすべて黒曜石である。黒曜石は梨梨の黒曜石2が466点(点数89.8%、重量78.3%)と圧倒的に多く、他は黒曜石1が50点(9.6%)、黒曜石3が1点だけで、黒曜石4・5は全くみられない。

石鏃 (図V-10-1~6、図版394-1~6)

6点とも両面加工である。1は全体の形状が凸レンズに近いが、基部がやや丸い。石質は白い斑品鉱物が全体にみられるが、比較的良質で、産地分析の結果、赤井川産と判定された。2は両端がわずかに欠損しているが、全体の形状は上側が長い菱形である。横断面は凸レンズ状で、側面で見ると基部側が少し厚い。石質は透明感がある黒曜石1であるが、裏面にはうろこ状のクラックが見られるので、被熱している。産地分析の結果、名寄産と判定された。3は先端がやや丸みを帯びるが、横断面が凸レンズ状にバランスよく二次加工されている。石質は2、4に類似し、縁辺が曇りガラスに近い感じで、産地分析の結果、名寄産と判定された。4は両端が欠損しているが、全体の形状は細長い菱形とみられる。裏面に素材面が残るが、側面ははやや屈曲している。石質は2、3と同様の質感で、産地分析の結果、同様に名寄産と判定された。5は両端が欠損しているが、1に近い凸レンズ状の形態と考えられる。裏面のやや上側にコブ状の高まりがあるが、側面は整っている。石質は白い斑点状の斑品鉱物が全体にみられ、良質とはいえない。産地分析の結果、1と同様に赤井川産と判定された。6は平坦に二次加工された基部の破片である。石質は白い細かな斑品鉱物がみられ、1に近い。

石刃鏃 (図V-10-7~17、図版394-7~17)

7~10は完形またはほぼ完形、11~13は先端側、14は中間部、15~17は基部側である。7、8の側面はやや湾曲しているが、その他は直線的で、9、10は特にバランスがよい。素材の石刃は後が2本あり、横断面が台形を呈するものが多い。二次加工は基本的に腹面側が多いが、先端と基部では背面

側にもみられる。基部加工は背面側に打面を確保する程度の細かな剥離後、腹面側にえぐり込むようにやや深く剥離が行われている。8～10、12、15は表面が光沢を失い、場所によっては細かな凸凹がありあばた状になっているので、被熱していると考えられる。石質はいずれも良質で、もっとも長い10は黒曜石3であるが、他は黒曜石1である。全体の形状が分かり被熱していない7、11を産地分析したところ、極めて透明感が強い7は置戸・所山産、部分的に透明感がある11は十勝産と判定された。また、水和層年代測定では、7は $6.643 \pm 281yBP$ 、11は $4.633 \pm 393yBP$ という数値が得られた。

尖頭器 (図V-10-18～20、図版394-18～20)

3点とも破片である。いずれも横断面は扁平な凸レンズ状で、両面とも縁辺からのやや深い押圧剥離が施されているが、中央部にまで及んでいない。石質はいずれも小さな球顆がわずかにあり、輪状の流理構造がみられ、類似しているが、接合はしなかった。19について産地分析を行ったところ、置戸・所山と判定された。また、水和層年代測定では $6.394 \pm 492yBP$ という数値が得られた。

両面調整石器 (図V-10-21、図V-11-22、図版394-21、図版395-22)

2点とも梨形の黒曜石2で、いずれも調整剥片が接合し、21は母岩8・接合44、22は母岩4・接合40である。21は両面の粗い剥離後、右側縁表側と左側縁裏側の錯向剥離で全体を薄みにしようとしているが、厚みが解消されず、欠損している。22も原石の周縁から薄みにしようとする剥離が行われているが、正面左側が大きく階段状になり、中央上側のコブ状が解消されずに破損している。

搔器 (図V-11-23～26、図版395-23～26)

23は横断面が三角形の小型の縦長剥片の末端に刃部を作出している。両側縁の二次加工はやや不連続で浅い剥離である。刃部は直線的で角度は55～70度前後である。石質は透明感が強く、灰色の縞状の流理構造が顕著で、産地分析の結果、置戸・所山産と判定された。24、25はいずれも厚手の剥片を素材とした搔器の刃部側の破片である。いずれも刃部は丸みがあり、角度は24は70～80度、25は75度前後と急角度である。石質は24は灰色の縞模様があり、やや光沢が鈍い。25は透明感があるがうろこ状のひび割れがみられ、いずれも被熱している。産地分析の結果、2点とも置戸・所山産と判定された。26は厚手の剥片の末端部に急角度の刃部作出しているもので、22の両面調整石器と同一母岩で接合する(母岩4・接合40)。

つまみ付きナイフ (図V-11-27・28、図版395-27・28)

27は厚手のポイントフレイクを素材とし、打点側の両側縁に左側は腹面のみ、右側は背面両面にノッチ状の浅い加工で、つまみ部を作出している。28は右刃素材で、両側縁に浅い急角度の加工を施し、さらに打点側にノッチ状のつまみ部を作出している。石質は2点とも透明感が強い良質の黒曜石1で、産地分析の結果、いずれも置戸・所山産と判定された。また、28の水和層年代測定では $6.410 \pm 78yBP$ という数値が得られた。

削器 (図V-12-29～35、図版395-29～35)

29～34は石刃の背面側の両側縁に連続的な浅い剥離がみられるが、大きさがバラバラで、さらに腹面側にも不連続な剥離がみられることなどから、二次加工というよりは使用による刃こぼれの可能性がある。29は打点に近い右側縁がノッチ状になっているが、28・29のように腹面側に加工がないことからつまみ付きナイフとしなかった。石質は29～34は透明感が強いが、9～33は27、28と類似し、34は黒色の模様は他とは異なっている。産地分析の結果、30、33は置戸・所山産、34は白滝・あじさいの滝産と判定された。分析を行わなかった29、31、32も置戸所山産と考えられる。また、30の水和層年代測定では $5.948 \pm 414yBP$ という数値が得られた。35は原産面が残る厚手の剥片の右側縁に粗い加工が施されている。22の両面調整石器、26の搔器と同一母岩(母岩4・接合40)で接合する。

石刃 (図V-12-36~43、図版395-36~43)

36~43はいずれも欠損している石刃である。36は貞岩製で、両側縁に不連続な浅い剥離がみられる。また、腹面端部は火バネによる欠損がみられるので、被熱している。39は2本の稜が通り、横断面が台形の形態が整った石刃であるが、被熱のため全面があばた状になっている。37~43の石質はいずれも透明感が強いが、模様や質感の相違から37、38、43と39、40~42の二つのグループに分けられる。産地分析の結果、38、43は白滝・あじさいの滝産、40、42は置戸・所山産と判定された。したがって、分析を行わなかったが、37は白滝・あじさいの滝産、39、41は置戸・所山産と考えられる。

石核 (図V-12-44、図V-13-45、図版396-44・45)

2点とも梨肌の黒曜石2の石核である。44は母岩4・接合40で、原石の状態で遺跡に搬入されたもの一部である。単剥離打面から厚手の剥片が剥離され、26の搔器が接合している。45は横断面が三角形に近い直角稜の一部に大きな剥離で打面を形成し、大型の剥片を剥離している。打面形成時の剥片と大型の剥片が2点接合し、母岩5・接合41とした。

台石 (図V-13-46、図版396-46)

凝灰岩製の扁平な台石とみられる。両側が欠損しているが、表面は平坦で、部分的に窪みがある。右側の窪み周辺が赤変しているので、被熱したものと考えられる。

石器ブロック5 (Sb-5) の分布 (図V-14・15)

平成10年度に調査したSb-1の南側に位置し、調査区外の西側に若干広がっている可能性がある。ブロックの広がりには南北はT~Zライン、東西は16~19ラインの22×7.5mの細長い範囲であるが、集中部はV・W・X16区、V・W・X17区の8×5mの楕円形の範囲である。また、その集中部もW16区の北側(a)とXラインを中心としたW16区、X16・17区(b)の二つのまとまりがある。石鏃・石刃鏃はa・b両方にみられるが、aがやや多く、aとbの中間部にも分布している。尖頭器、両面調整石器、搔器、削器、石刃などはa・b両方にみられる。

石器ブロック5 (Sb-5) の接合状況 (図V-16)

a・bそれぞれのまとまり内のほか、a・b間の折れ面接合が多い。接合の大部分は黒曜石2に関するもので、母岩4では両面調整石器(図V-11-22)本体が7m、さらに剥片は5m離れて接合し、全体では12mの接合距離となる。平成10年度に調査した同じ石刃鏃石器群のSb-1でも黒曜石2の搔器や剥片類が出土していたので、接合を試みたが、接合はしなかった。また、沢を挟んだ白滝5遺跡の石刃鏃石器群のSb-12とも接合を試みたが、Sb-12は搬入された石刃鏃、削器のみで、剥片剥離を行っていないので、接合しなかった。当然ながら平成10年度調査のSb-2・3との接合も認められない。

母岩別資料・接合資料

Sb-5では、折れ面接合13例、剥離面接合13例が確認され、そのうち特徴的な石質で、原石の形状をある程度把握できる5個体の母岩別資料(母岩別資料4~8:1~3は平成10年度調査分)を抽出した。結果的に5個体の母岩別資料はすべて梨肌の黒曜石2となった。5個体については接合状態の写真をすべて掲載した(図版397~400)が、実測図はなく、剥離過程の模式図と分布図を示した。

母岩別資料8・接合資料44 (図V-17、図版397)

母岩別資料8は接合44のみで、両面調整石器1点、剥片68点、計69点で構成され、総重量は2,568.6gである。石質は梨肌の黒曜石2で、良好とはいえない。

素材 両面に原礫面が観察できることから、板状の23.1×11.1×8.7cmの角礫とみられる。

剥離工程 最初は裏面の左右両側からの剥離（1～3）と正面右側の剥離（4）で、原礫面を除去すると同時に粗い両面体の整形を行っている。次に上方と左右の錯交剥離（6・7）で、両面体を薄くしようとしているが、剥離が階段状となり、結果的に破損している。

分布 ブロック中央の二つのまとまり（a・b）、およびその周辺に広く分布し、その広がりは8×3mの範囲である。最終的に欠損した両面調整石器（図V-10-21）は削割のまとまりbのX16区で出土している。

母岩別資料4・接合資料40（図V-18、図版398、399-1）

母岩別資料4は接合40のみで、両面調整石器4点（1個体）、搔器1点、削器1点、石核1点、剥片38点、計45点で構成され、総重量は3,048.5gである。石質は梨肌黒曜石2で、良好とはいえない。

素材 原石は縦断面が三角形に近い板状の21.9×14.4×11.1cm（中間部厚）の角礫である。

剥離工程 厚みのある上方を右側面からの加撃で、打面を確保すると同時に二分割（A・B）し、剥片剥離と両面調整石器の製作を行っている。上方の個体Aでは、最初の分割で形成された剥離面を打面にして両面で厚手の剥片剥離を行っている。残核（図V-12-44）は断面が三角形となり、剥離された厚手の剥片は搔器（図V-11-26）の素材となっている。下方の個体Bは両面の突出した原礫面の除去（1～3）後、分割時に作出された上方の打面からの連続的な剥離（4）、周縁からの剥離（5～8）を行い、両面体を製作しようとしているが、瘤状の突出部ができ、さらに強い加撃のため長方形の両面体が4点に破損している。4の上方からの剥離で得られた原礫面の残る厚手の剥片は削器（図V-12-35）の素材となっている。

分布 ブロック中央の二つのまとまりそれぞれの南東側を中心に分布するが、ブロック北側のU18区にも1点みられ、その広がりは13×3mと広い範囲である。個体Aの石核はX17区のI層出土で、破損した両面調整石器の破片4点はV・W・X17区の3発掘区から出土し、両端の距離は約7mである。

母岩別資料5・接合資料41（図V-19、図版399-2）

母岩別資料5は接合41のみで、石核1点、剥片3点、計4点で構成され、総重量は3,006.2gである。石質は梨肌黒曜石2で、良好とはいえない。

素材 大きさ21.3×13.5×12.9cm程の亜円礫を素材にしている。

剥離工程 原石の長軸方向やや斜め上方、正面から裏面への加撃で、打面を作出（1）し、その後上方から厚手の剥片を剥離（2）している。

分布 Xラインを挟んだW・X16区の2×1mの範囲に分布するが、石核は3点の剥片とは少し離れている。

母岩別資料6・接合資料42（図V-19、図版400）

母岩別資料6は接合42のみで、二次加工ある剥片3点、剥片16点、計19点で構成され、総重量は1,721.3gである。石質は梨肌黒曜石2で、良好とはいえない。

素材 大きさ21.9×12.9×12cm程の山形の角礫を素材にしている。

剥離工程 平らな正面の上下からの剥離（1・2）で、原礫面の除去を行い、厚みのある上方を正面から裏面に剥離して打面を形成（3）し、正面から右側面で剥片剥離（4）を行っている。石核はないが、あまり有効な剥片は得られていないようである。

分布 W17区北側のまとまりの3.5×2.5mの範囲に大部分が分布し、少し離れてX16区に1点みられる。V17区とX16区出土剥片の接合距離は約6.5mである。

母岩別資料7・接合資料43 (図V-19、図版100)

母岩別資料7は接合43のみで、剥片18点のみで構成され、総重量は1,384.6gである。石質は梨肌の黒曜石2で、良好とはいえない。

素材 母岩別資料6に近い、大きさ20.4×10.8×9 cm程の山形の角礫を素材にしている。

剥離工程 最初の大きな剥離(1)以外は基本的に交互剥離(2～4、5・6)で剥片剥離を行っているが、有効な剥片は得られていないようで、石核もない。

分布 W17区北側まとまりの2×1.5mの範囲に大部分が分布し、少し離れたV16・17区に4点がみられる。全体の分布範囲は5×2 mである。(長沼 孝)

VI 白滝第30地点遺跡の調査

1 調査の概要

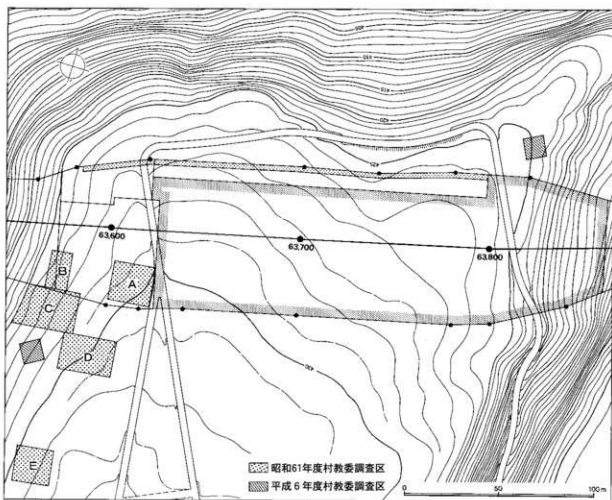
(1) 調査要項

事業名	一般国道450号白滝丸瀬布道路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査（平成14年度）
委託者	国土交通省北海道開発局網走開発建設部
受託者	財団法人北海道埋蔵文化財センター
遺跡名	白滝第30地点遺跡（I-20-6）
所在地	紋別郡白滝村字白滝382-4
調査面積	636㎡
調査期間	平成12年4月3日～平成13年3月30日（現地調査平成12年5月8日～10月27日） 平成13年4月2日～平成14年3月29日（整理作業のみ） 平成14年4月1日～平成15年3月31日（整理作業のみ）

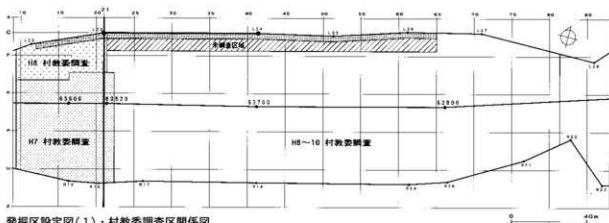
(2) 調査体制

財団法人北海道埋蔵文化財センター 理事長	大澤 清（平成14年6月30日まで） 森重 権（平成14年7月1日から）
専務理事	宮崎 勝（平成11年6月1日から） 常務理事 木村高俊（平成13年7月17日まで） 畑 宏明（平成14年6月1日から）
総務部長	中田 仁（平成13年3月31日まで） 第1調査部長 木村高俊（平成13年7月17日まで） 柳瀬茂樹（平成14年3月31日まで）（兼務） 下村一久（平成14年4月1日から） 大沼忠春（平成14年3月31日まで） （兼務） 畑 宏明（平成14年4月1日から） （兼務）
平成12年度	第1調査部第3調査課 課長 長沼 孝（発掘担当者） 同 主任 越田雅司（発掘担当者） 同 主任 鈴木宏行（発掘担当者） 同 文化財保護主事 直江康雄（発掘担当者）
平成13年度	第1調査部第3調査課 課長 長沼 孝 同 主任 鈴木宏行 同 文化財保護主事 直江康雄
平成14年度	第1調査部第3調査課 課長 長沼 孝 同 主任 鈴木宏行 同 主任 立田 理 同 文化財保護主事 直江康雄

1 調査の概要



調査範囲・周辺の地形図



発掘区設定図(1)・村教委調査区関係図



発掘区設定図(2)

図VI-1 調査範囲・発掘区設定図

(3) 調査日誌抄

平成12年			
5月8日(月)	調査員白滝入り。		
5月9日(火)	～11日(木) 現場開始準備・環境整備ほか。	6月15日(木)	C19～20区に細石刃石器群のブロックを確認。
5月12日(金)	現場掘削式。		包含層調査、C19区細石刃、C20区削器・両面調整石器出土、C20区の石器集中部で散発的ながら炭化木片を確認、位置を記録(22点)して取り上げる。
	(白滝18、服部台2遺跡の調査)		
5月31日(水)	トイレ設置、表土除去開始。		
6月2日(金)	表土除去終了。	6月16日(金)	包含層調査終了。
6月6日(火)	杭打ち。	6月20日(火)	土層断面実測終了。
6月8日(木)	包含層調査開始。全体状況を把握するため発掘区を一つ置きに調査(C21・23・25・27・29・31・33・35・37区から開始)。	6月21日(水)	杭撤去、調査完了。
	C21区表土挿器出土。		調査面積636㎡、点取り遺物データ314点。
6月13日(火)	包含層調査、C57・59区表土尖頭器出土。		(白滝8・白滝18・上白滝8・美白滝1・服部台2遺跡の調査)
6月14日(水)	包含層調査、C18・19・21区細石刃、C19区舟底形石器出土。	10月16日(月)	平成12年度の現地調査終了。
		10月17日(月)～26日(木)	遺物水洗、器材整備・片付け、環境整備ほか。
		10月27日(金)	調査員引き上げ。

(4) 発掘区の設定

白滝第4地点遺跡と白滝第30地点遺跡は古時による調査地点の名称を踏襲して分けているが、同一の台地上にあり、地形的や遺物分布から分離することが困難で、便宜上、既存の道路を境に遺跡を分けている。また、両遺跡は村教委による農地造成、移設鉄塔建設、高規格道路本線工事などに伴う調査が一部調査区が重複する形で行われている(図VI-1)。今回の調査区の大部分は、村教委の平成7～10年度に実施した高規格道路本線工事に伴う調査区での未調査区になる。平成7・8年の村教委の調査では用地内をすべて調査したが、発掘面積の縮小という観点から平成9年以降は掘削が及ばない範囲は調査を実施しなかった。防雪柵建設に伴う今回の調査区は用地の北端で、村教委の調査区とは接しておらず、7～10mの距離があり、その部分は未調査区域として残っている。また、調査を進める段階で、平成8年の村教委の調査(白滝第4地点遺跡)で、笹藪であったために未調査となっている部分があることが判明したので、その部分も同時に調査した。したがって、調査範囲の一部は平成8年の村教委の白滝第4地点遺跡の調査区と重複しているが、連続していることから、ここでは白滝第30地点遺跡の調査成果として報告する。

発掘区はアルファベットの大文字と数字の組み合わせで表示し、規格は4×4mとした。調査区の設定基準は、調査の効率上、村教委と同じにすることはできなかったが、調査区の方は同じにした。

村教委の発掘区設定の基準点はSP63600とSP63620であったが、今回は道路用地境界のL23とL24を使用した。L23とL24を結んだ直線を南北方向の基線とし、東西方向はL23を通り、南北の基線の直行する直線とした。ライン設定は南北方向の基線をCとし、南側をD、E、北側をB、Aとした。東西方向は数字で、基線を21とし、東側を22、23、24・・・、西側を20、19、18・・・とした。調査区域は南北方向のアルファベットラインではB～F、東西方向の数字のラインでは12～65の範囲で、基準点の測量成果は下記のとおりである。

L23	X = -13963.39	Y = 73944.12
L24	X = -13942.82	Y = 74023.05

(平面直角座標系 第XⅡ系)

発掘区の呼称は、4m四方区画の北西隅のライン交点で示した。例えば、Cラインと21ラインの

交点の南東側がC21区ということになる。また、発掘区の方向は、公共座標の北方向に対して右回りで東側に345° 23' 26" 傾いている。(長沼 孝)

(5) 土層

土層堆積状況は、Ⅱ章で記載した基本土層とほぼ同様で、上からⅠ層(表土)、Ⅱb層(灰白色粘質土)、Ⅱc層(赤褐色～灰褐色砂質土)、Ⅲ層(赤褐色～褐色砂質土)の順に堆積しているが、遺物包含層である明確なⅡa層(褐色粘質土)は見られなかった。しかし、笹藪や沢地形の部分で確認されたⅡb層はⅡa層に近く乾燥のため白色化したものと考えられる。土層は遺物の出土した19～22ラインと51～52ライン部分を中心に記録し、他は間隔を置いた部分的な記録とした。19～22ラインと51～52ライン以外は耕作土の下はⅡc層ないしⅢ層となり、耕作による攪乱が進んでいることが確認された。(長沼 孝)

(6) 調査の方法

重機による表土上層の除去を行った後、杭打ち、測量、包含層調査、測量という手順で調査を進めた。調査区域が細長い範囲であったため通常の25%調査は実施しなかった。また、表土上層の重機による除去を行った段階で、土層の残存状況が把握できたので、耕作土については重機による掘り上げ後に人力による遺物採取を行った。したがって、人力による調査を行ったのは笹藪部分の22ラインより西側と耕作土の下にⅡb層が残存していた50～54ライン部分である。

遺物の取り上げは、他の遺跡と同様に、Ⅰ層(表土および耕作土)については発掘区単位で一括して取り上げ、遺物包含層であるⅡ層については、出土位置を可能な限り計測した。しかし、Ⅱ層の遺物でも指先より小さい剥片類については、発掘区単位で一括して取り上げた。出土位置の記録はトータル・ステーションを使用し、さらに遺構・遺物データシステム(シン技術コンサルタント)にデータを蓄積すると同時に毎日遺物一覧表とドットマップ(分布図)を作成し、データのチェックと遺物の分布状況を把握しながら調査を進めた。現場終了時の白滝第30地点遺跡のデータ数は314件である。

(長沼 孝)

(7) 整理の方法

遺物の水洗作業は、基本的に現地で行った。その後、札幌の整理作業所へ運び、注記などの整理作業を開始した。

遺物の整理作業は、他の遺跡と同様に点取り遺物と一括遺物に分けて進めた。点取り遺物は注記後に、器種分類、重量計測、石質、残存状況、打点・自然面・被熱の有無など一次の属性観察を行い、次に接合・実測などの二次整理作業を進めた。遺物の注記は、道教委の登録番号、発掘区、遺物番号の順としたので、白滝第30地点遺跡、C21区出土、遺物番号10の石器の場合は「6 C21・10」となる。

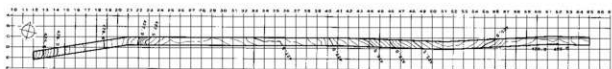
また、一括遺物は、定形的なものや点取り遺物と接合したものを抽出し、台帳を作成した。したがって、その注記は、点取り遺物と区別するため、発掘区と台帳の整理番号の間に層位を記入した。例えば、C21区、Ⅰ層出土、台帳番号5の石器は、「6 C21・Ⅰ・5」となる。

現場で取り上げた点取り遺物は314点であったが、水洗後に精査し、地山に含まれている自然産や黒曜石の原石を除いた結果、点取り遺物は最終的に313点となった。

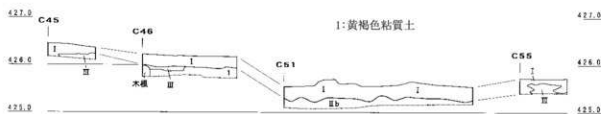
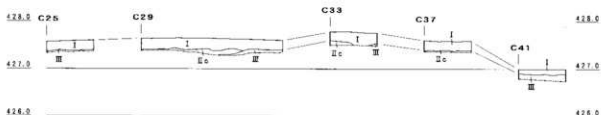
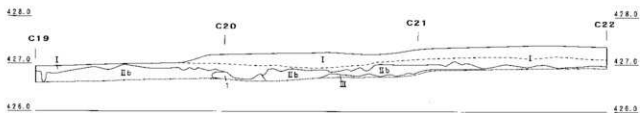
遺物の接合作業は、石質、発掘区そして全体の順に進めたが、全体量が少なく、遺物の分布が調査区域外に広がっていることなどから、あまり進展しなかった。



表土除去後の地形図



調査終了後の地形図



土層断面概略図

図Ⅵ-2 発掘区域地形・土層断面図

表VI-1 白滝第30地点遺跡出土遺物点数・重量一覧 ※重量の単位は(g)

種類	尖頭器		鋳器		鏃器		削器		羽根形石斧		二重刃石斧		砥石刃		石刃		縦長剥片		石核		剥片		割片		石鏃		合計			
	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量		
高取刃	1	5.7			41.5	2	36.3			10.5	4	3.2	2	6.5	2	70.4			2	83.7	6	39	296.3	3	3.3	152.9				
一括	1	5.1			2	71.8	9	39.9			9.7	2	6.2		3.4						1.4	356	459.4			1	36.5	467.1		
小計																						68	39.9			68	39.9			
合計	2	5.1	2	5.5	2	2.3	2	15.9	9	40.4	2	11.0	2	3.9	5	10.7	2	70.4			62	357	632.2	2	1.8	428	467.1	1	36.5	467.1

表VI-2 白滝第30地点遺跡出土遺物石質別一覧 ※重量の単位は(g)

種類	石目	尖頭器		鋳器		鏃器		削器		羽根形石斧		二重刃石斧		砥石刃		石刃		縦長剥片		石核		剥片		割片		石鏃		合計				
		点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量			
高取刃	雲母			5.5	41.5	2	36.3			10.5	4	3.2	2	6.5	2	70.4			2	83.7	6	39	296.3	3	3.3	152.9			353	132.2		
	雲石																						1	5.4			5	11.5				
小計	雲母			5.5	41.5	2	36.3			10.5	4	3.2	2	6.5	2	70.4			2	83.7	6	39	296.3	3	3.3	152.9			353	132.2		
	雲石	2	5.1			6.4	5.1	39.4			9.7	2	6.2		3.4							1.4	356	459.4			1	36.5	467.1			
一括	雲母					68.4		39.9			9.7	2	6.2		3.4								7	37.2			7	37.2				
	雲石																															
小計	雲母					68.4		39.9			9.7	2	6.2		3.4								7	37.2			7	37.2				
	雲石	2	5.1			2	71.8	9	39.9			9.7	2	6.2		3.4							1.4	356	459.4			1	36.5	467.1		
合計	2	5.1	2	5.5	2	2.3	2	15.9	9	40.4	2	11.0	2	3.9	5	10.7	2	70.4			62	357	632.2	2	1.8	428	467.1	1	36.5	467.1		

最終的に折れ面接合は9例(50001~50009)、剥離面接合は5例(1~5)となった。接合に関わる点数は28点(折れ面接合のみ16点、剥離面接合12点)で、点取り遺物の総数313点に対しては8.9%、点取り及び一括遺物の総数4,626点に対しては0.6%の接合率である。遺物・接合点数が少ないので、母岩別資料の抽出は行わなかった。

最終的に実測図などを掲載した石器類は35個体、36点で、接合資料はない。分布・接合図などを示した石器ブロックは2か所である。石器類の掲載割合は、点取り及び一括遺物の総数4,626点から剥片4,575点を引いた石器51点に対して70.6%である。(長沼 孝)

(8) 調査結果の概要

白滝第30地点遺跡では1か所の炭化木片ブロック(Cb-1)が石器ブロック(Sb-1)に重複して確認されたが、AMS法年代測定では $2,590 \pm 40$ yBP (Beta-150458・SHIRA-91)、 $2,500 \pm 60$ yBP (Beta-150459・SHIRA-92)という数値で、細石刃が出土しているSb-1に伴うものではないと考えられる。遺物の総数は4,626点、重量は10,417.3gで、詳細は表VI-1を参照願いたい。

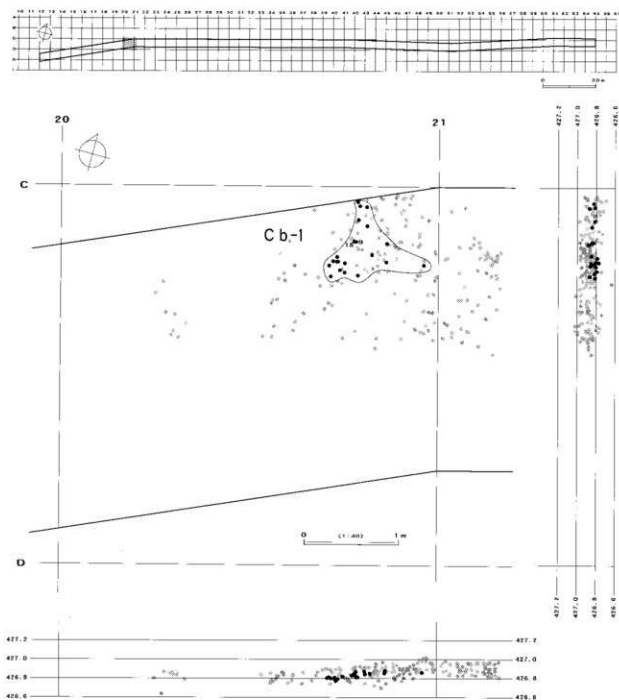
出土した遺物はすべて石器類で、時期的には縄文時代のもので旧石器時代のものである。器種としては、尖頭器、鋳器、鏃器、削器、舟底形石器、細石刃、石刃、縦長剥片、削片、石刃核、石核、石鏃、二次加工ある剥片、剥片などである。これらのうち縄文時代と考えられるのは、石鏃である。

石器類は、耕作による攪乱を免れた笹藪と浅い沢地形部分で確認され、小規模ながら、それぞれを石器ブロック(Sb-1・2)とした。

Sb-1は細石刃石器群と考えられ、村教委調査の白滝第4地点遺跡のブロックa-1の一部と見られる(松村・瀬下 2002)。ブロックa-1では、鋳器、鏃器、削器、細石刃、石刃、斧形石器などがあるが、細石刃核は出土していない。しかし、接合関係のあるブロックb-2で靱加型細石刃核が出土していることから、Sb-1、ブロックa-1も靱加型細石刃核の伴う石器群の可能性が高い。

Sb-2は剥片のみ出土で、詳細は不明である。

縄文時代と考えられる石鏃1点は、I層の耕作土中出土のものである。村教委の白滝第30地点遺跡



図VI-3 炭化木片ブロックの平面・断面図

の調査でも新作土中から石鏝が4点出土している（松村・瀬下 2003）ので、それらと関連した白滝の縄文時代を語ることができる貴重な資料と言える。（長沼 孝）

2 遺構と遺物

確認された遺構は炭化木片ブロックのみである。

表VI-3 白滝第30地点遺跡炭化木片ブロック一覧

	土 塊		炭化物重量 (g)	石 器		14C年代 (yBP)	
	体積 (cc)	重量 (g)		点 数	重量 (g)		
Cb-1			1.47	1	0.1	7500±60	7500±40

表VI-4 白滝第30地点遺跡出土点取り遺物ブロック・石質別一覧 ※系果の単位は(g)

ブロック	石質	礫石		細石		中石		粗石		大石		燧石		珪石		合計							
		点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量						
Sb-1	燧石	1	2.3											1	6.6	110	504.0	126	513.6				
	燧石																						
	燧石																						
	燧石			1	11.5										1	15.7			8	13.2	10	10.1	
	燧石																						
	燧石						2	10.2									2	56.3			10	530.1	10
Sb-2	燧石																						
	燧石																						
	燧石																						
	燧石																						
	燧石																						
	燧石																						
Sb-3	燧石	1	5.3	1	11.5	2	16.2	2	10.2	4	1.7	5	16.2	5	19.6	2	56.3	1	6.6	22	109.7	216	1316.1
	燧石																						
	燧石																						
	燧石																						
	燧石																						
	燧石																						
ブロック外	燧石																						
	燧石																						
合計	1	5.3	1	11.5	2	16.2	2	10.2	4	1.7	5	16.2	5	19.6	3	83.6	1	6.6	22	109.7	216	1316.1	

表VI-5 白滝第30地点遺跡出土層断面残存・被熱石器一覧

ブロック	遺物点数(点取り)(点)	原形面残存石器(点%)	被熱石器(点%)		
Sb-1	216	20	8.1	1	0.4
Sb-2	66	12	18.2	3	4.5
ブロック外	1	1	100.0		
合計	313	33	10.5	4	1.3

出土した遺物はすべて石器類で、畑の耕作による掘乱が著しいため遺物包含層が残存している部分が少なかったことや調査範囲が狭いことなどから位置を記録したものは少ない。点取り遺物が出土した区域2か所をそれぞれ石器ブロック1・2 (Sb-1・2) とした。

(1) 炭化木片ブロック

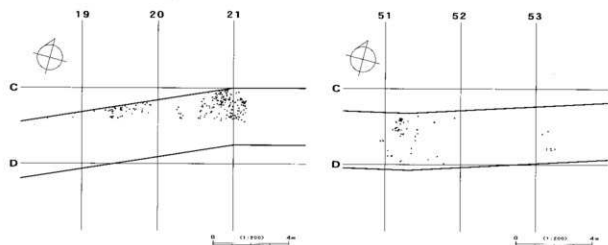
Cb-1 (図VI-3、表VI-3)

確認された炭化木片は小さく、分布も散漫であったので、土壌を採取するのではなく、炭化木片の位置を記録し、番号を付して取り上げた。

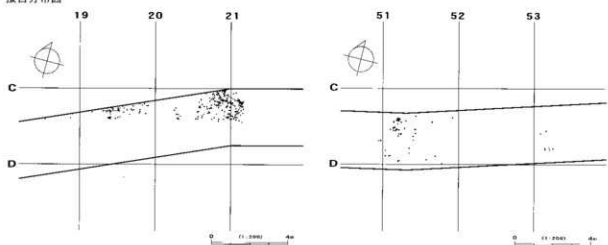
C20区の北東隅で、調査区の境界に接し、Sb-1に重複して確認された。炭化木片は20点ほどで、その分布範囲は1.1×0.9mである。保存状態が良好で、測定可能な2点(No. 9・18)について放射性炭素年代測定を行ったところ、2,590±40yBP (Beta-150458・SHIRA-91)、2,500±60yBP (Beta-150459・SHIRA-92)という数値が得られた。細石石器群のSb-1とは平面分布的には重複しているが、その年代観とは大きく異なっているので、Cb-1とSb-1は共存するものでは



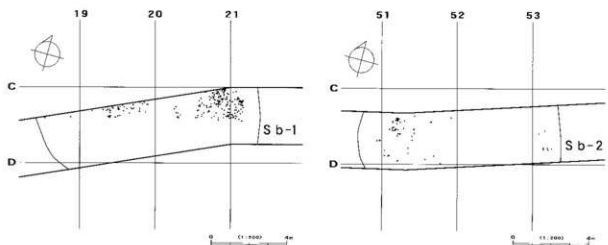
遺物分布図



接合分布図



石器ブロック設定図



図VI-4 遺物分布・接合分布・石器ブロック設定図

ない。

(2) 遺物分布と石器ブロック

18～22ラインと50～54ライン部分で表上下から遺物がまとも確認されただけである。また、接合もそれぞれで若干みられるだけで、それぞれを石器ブロック1・2 (Sb-1・2) とした。

Sb-1では細石刃を含む若干の石器類がみられるが、Sb-2は剥片のみで、その内容は不明である。

原礫面が残存している石器はSb-1では20点(点取り遺物246点の8%)、Sb-2では12点(点取り遺物66点の18%)、被熱石器はSb-1では1点(点取り遺物246点の0.4%)、Sb-2では3点(点取り遺物66点の4.5%)と、いずれも少ない割合である。

(3) 石器ブロック1 (Sb-1) の石器

出土石器

点取りでは彫器1点、搔器1点、削器2点、二次加工ある剥片2点、細石刃6点、石刃5点、縦長剥片3点、石核2点、削片1点、剥片223点、計246点、重量1,349.4gの石器類が出土したが、ブロックに重なる発掘区の表土などの一括取り上げの中にも定形的な石器類が多くあり、石器ブロックに含まれると考えられる。頁岩製の石刃1点、剥片4点以外は黒曜石で、全体の98.0%を占める。最も多いのは黒曜石1の126点で黒曜石全体の52.3%を占め、以下黒曜石5の97点(40.2%)、黒曜石4の10点(4.1%)、黒曜石3の7点(2.9%)、黒曜石2の1点(0.4%)と続く。

細石刃 (図VI-5-1～19、図版406-1～19)

1～3は短いながらも完形、4～12は打点軀、13～17は中間部、18、19末端部である。両側縁と2本の稜が平行で、形状が整ったものは7、14、15の3点と少ない。残存部分の最大幅は、1、13、18が4mm、2～4、14、19が5mm、5～8、15、16が6mm、9、17が7mm、10～12が8mmである。石質は13が頁岩で、他はすべて黒曜石1であるが、12は被熱しているとみられ、灰色で光沢を失っている。12、13以外は、透明感が強い良質の黒曜石で、10は黒色の縞模様が顕著であるが、他はモヤ状の模様のみで、同一母岩の可能性が高い。いずれも両側縁に明確な二次加工はない。

搔器 (図VI-5-20～22、図版406-20～22)

20は厚手で幅広い剥片を素材としたもので、頁岩製である。両側縁にやや粗い浅めの二次加工が施されている。形状は刃部に最大幅があり、左右は非対称である。刃部の角度は80度前後と急角度である。21は幅広い縦長剥片を素材として刃部にのみ浅い二次加工を施したものである。刃部は弧状で、角度は50度前後である。石質は黒色にやや赤味がかった茶色の模様のみみられる良質の黒曜石3で、薄い両側縁は透明な部分もある。22は刃部側の破片で、素材剥片の末端側に浅い二次加工で刃部を作出している。刃部中央右側のやや大きな剥離は、刃部再生の加工であるが、その左側が階段状になり、連続的な再生加工を困難にしているようである。

削器 (図VI-5-23・24、図版406-23・24)

いずれも破片である。22は石刃素材で、二次加工の状態は左側は連続的であるが、右側はやや不連続である。折れは径5mmの球顆から広がっている。石質は灰色に黒色の大小の斑点が入る黒曜石1である。23は幅広い剥片の周縁に浅い二次加工がみられるものであるが、全体の形状は分からない。折れは径5mmの球顆から広がっている。

舟底形石器 (図VI-6-26、図版406-26)

I層出土である。甲板面がわずかに波打ち、正面右側にみられる甲板面からの大きな剥離が内反剥離となり、全体のバランスを崩している。石質は漆黒色の良質な黒曜石1である。

石刃 (図VI-6-27~30、図版406-27~30)

4点とも破片で、27は打点側、28~30は中間部である。石質は28が頁岩で、他は良質の黒曜石1である。

削片 (図VI-6-31、図版406-31)

断面が三角形で、細かな剥離がみられる。石質は透明感のある黒曜石1である。

石器ブロック1 (Sb-1) の分布 (図VI-7)

遺物はC18~21区の東西11m、南北1.5mの範囲で確認されたが、調査区域外の北側に広がっている可能性がある。分布は東西に二つのまとまりがあり、西側は2×0.6m、東側は2.5×1.5mで、東側が大きい。石器類は西側は細石刃と縦長剥片だけであるが、東側は細石刃のほかには搔器、削器、石刃などがみられる。

石器ブロック1 (Sb-1) の接合状況 (図VI-7)

接合は、西側と東側のそれぞれのまとまりがあるだけで、全体にはみられない。

(4) 石器ブロック2 (Sb-2) の石器

出土石器

点取りでは剥片66点、重量166.6gの石器類が出土したのみである。石材はすべて黒曜石で、最も多いのは黒曜石4の36点で、黒曜石全体の54.5%を占め、以下黒曜石1の23点(34.8%)、黒曜石3の3点(4.5%)、黒曜石2の2点(3.0%)、黒曜石5の2点(3.0%)と続く。剥片のみで、実測図を掲載したものはない。剥片類は尖頭器を製作したと考えられるものが多い。

石器ブロック2 (Sb-2) の分布 (図VI-8)

C50~53区の東西10m、南北3mの範囲に分布するが、C52区は全くなく、C51区全域とC53区西側の二つのまとまりがある。

石器ブロック2 (Sb-2) の接合状況 (図VI-8)

C51区の近接して出土した剥片の接合が1例あるだけである。 (長沼 孝)

(5) 石器ブロック外・表土層の石器

調査区域の西端D12区で小型の石核が1点出土している。また、耕作により攪乱された表土層からは、尖頭器2点、搔器2点、削器1点、舟底形石器1点、細石刃3点、石刃1点、石刃核1点、石核1点、削片1点、石鏃1点、剥片3,660点(ボサを含む)、総計3,675点、重量8,793.0gの石器類が出土している。ブロック外の石核1点と表土層の細石刃1点、搔器2点、削器3点、舟底形石器1点、石鏃1点、尖頭器2点について実測図を掲載した。なお、細石刃1点、搔器2点、削器2点、舟底形石器1点、削片1点は出土位置からみてSb-1に伴うものと考えられるので、Sb-1の石器類とともに図示した。ここでは、ブロック外の石核1点と調査区の50ラインより東側の表土層から出土した石器を説明する。

石核 (図VI-5-25、図版406-25)

小型の角礫原石を素材とし、打面を90度転移した剥片剥離がみられる石核である。打面調整がみら

れず、白滝I群の石核の可能性はあるが、単独出土なので、明確でない。

石鏃 (図VI-6-32、図版406-32)

先端と左脚部が欠損しているが、ほぼ左右対称の長脚鏃とみられる。石質は透明感が強く、モヤ状の細かい縞模様がみられる黒曜石1である。

尖頭器 (図VI-6-33・34、図版406-33・34)

2点とも下半部が欠損し、全体の形状が不明な小型の尖頭器である。33は両面の加工も細かく、完成品とみられるが、裏面中央にわずかに素材面が残っている。石質は茶に黒がまじる黒曜石3で、比較的良質である。34は両面加工であるが、加工はやや粗い、石質は灰色がかった黒曜石1である。

削器 (図VI-6-35、図版406-35)

石刃素材である。両側縁の調整は極めて浅く、人為的な二次加工というよりは、耕作土中での潰れの可能性がある。(長沼 孝)

VII 自然科学的分析等

1 放射性炭素年代測定

(株) 地球科学研究所

放射性炭素年代測定結果報告書

放射性炭素年代測定の依頼を受けました試料について、別表の結果を得ましたのでご報告申し上げます。

報告内容の説明

^{14}C age (yBP)	: ^{14}C 年代 "measured radiocarbon age" 試料の $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比から、単純に現在 (1950年 AD) から何年前 (BP) かを計算した年代。 半減期はリビーの5568年を用いた。
補正 ^{14}C age (yBP)	: 補正 ^{14}C 年代 "conventional radiocarbon age" 試料の炭素安定同位体比 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$) を測定して試料の炭素の同位体分別を知り $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ の測定値に補正係を加えた上で、算出した年代。 試料の $\delta^{13}\text{C}$ 値を-25 (‰) に標準化することによって得られる年代値である。 暦年代を得る際にはこの年代値をもちいる。
$\delta^{13}\text{C}$ (permil)	: 試料の測定 $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比を補正するための $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比。 この安定同位体比は、下式のように標準物質 (PDB) の同位体比からの千分偏差 (‰) で表される。 $\delta^{13}\text{C} (\text{‰}) = \frac{(^{13}\text{C}/^{12}\text{C})_{\text{[試料]}} - (^{13}\text{C}/^{12}\text{C})_{\text{[標準]}}}{(^{13}\text{C}/^{12}\text{C})_{\text{[標準]}}} \times 1000$ ここで、 $(^{13}\text{C}/^{12}\text{C})_{\text{[標準]}} = 0.0112372$ である。
暦年代	: 過去の宇宙線強度の変動による大気中 ^{14}C 濃度の変動に対する補正により、暦年代を算出する。 具体的には年代既知の樹木年輪の ^{14}C の測定、サンゴのU-Th年代と ^{14}C 年代の比較により、補正曲線を作成し、暦年代を算出する。最新のデータベース ("INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration" Stuiver et al.1998, Radiocarbon 40 (3)) により約19,000yBPまでの換算が可能となった。 *但し、10,000yBP以前のデータはまだ不完全であり今後も改善される可能性が高いので、補正前のデータの保管を推奨します。 "The calendar calibrations were calculated using the newest calibration data as published in Radiocarbon, Vol.40, No.3, 1998 using the cubic spline fit mathematics as published by Talmu and Vogel, Radiocarbon, Vol.35, No.2, pg 317-322, 1993. A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates. Results are reported both as cal BC and cal BP. Note that calibration for samples beyond about 10,000 years is still very subjective. The calibration data beyond about 13,000 years is a "best fit" compilation of modeled data and, although an improvement on the accuracy of the radiocarbon date, should be considered illustrative. It is very likely that calibration data beyond 10,000 years will change in the future. Because of this, it is very important to quote the original BP dates and these references in your publications so that future refinements can be applied to your results."
測定方法などに関するデータ	
測定方法	AMS: 加速器質量分析 Radiometric: 液体シンチレーションカウンタによる β -総計数法
処理・調整・その他	: 試料の前処理、調整などの情報
前処理	acid-alkali-acid: 酸-アルカリ-酸洗淨 acid washes: 酸洗淨 acid etch: 酸によるエッチング none: 未処理
調整、その他	Bulk-Low Carbon Material: 低炭炭有機物処理 Bone Collagen Extraction: 骨、歯などのコラーゲン抽出 Cellulose Extraction: 木材のセルロース抽出 Extended Counting: Radiometricによる測定の際、測定時間を延長する
分析機関	BETA ANALYTIC INC. 4985 SW 74 Court, Miami, FL, U.S.A 33155

1 放射性炭素年代測定

測定番号	試料名	試料種	^{14}C age (yBP)	$\delta^{13}\text{C}$ (permil)	補正 ^{14}C age (yBP)	暦年代
Beta-101787	No.1	charred material	12460 ± 60	-26.1	12440 ± 60	交点 Cal BC 12400 2SIGMA Cal BC 13510 to 12190 95% probability 1SIGMA Cal BC 13470 to 12580 and 98% probability Cal BC 12520 to 12220
整理番号 4511	測定方法	AMS LLNL	処理・調整・その他 acid-alkali acid graphite			
Beta-101788	No.2	charred material	18570 ± 60	-24.3	18580 ± 60	交点 Cal BC 20110 2SIGMA Cal BC 20600 to 19640 95% probability 1SIGMA Cal BC 20530 to 19710 98% probability
整理番号 4512	測定方法	AMS LLNL	処理・調整・その他 acid-alkali acid graphite			
Beta-101790	No.4	charred material	26900 ± 120	-25.8	26880 ± 120	交点 2SIGMA 95% probability 1SIGMA 98% probability
整理番号 4514	測定方法	AMS LLNL	処理・調整・その他 acid-alkali acid graphite			
Beta-101791	No.3	charred material	27090 ± 130	-24.4	27010 ± 130	交点 2SIGMA 95% probability 1SIGMA 98% probability
整理番号 4515	測定方法	AMS LLNL	処理・調整・その他 acid-alkali acid graphite			
Beta-101792	No.6	charred material	26390 ± 90	-21.5	26400 ± 90	交点 2SIGMA 95% probability 1SIGMA 98% probability
整理番号 4516	測定方法	AMS Kiel	処理・調整・その他 acid-alkali acid graphite			
Beta-112894	SIRIA-2	charred material	12120 ± 100	-25.1	12120 ± 100	交点 Cal BC 12100 2SIGMA Cal BC 13540 to 12160 95% probability 1SIGMA Cal BC 13480 to 12190 98% probability
整理番号 7085	測定方法	AMS	処理・調整・その他 acid-alkali acid graphite			
Beta-112895	SIRIA-3	charred material	18650 ± 160	-25.0	18650 ± 160	交点 Cal BC 20190 2SIGMA Cal BC 20920 to 19590 95% probability 1SIGMA Cal BC 20730 to 19680 98% probability
整理番号 7088	測定方法	AMS	処理・調整・その他 acid-alkali acid graphite			
Beta-112896	SIRIA-1	charred material	18780 ± 160	-25.4	18770 ± 160	交点 Cal BC 20230 2SIGMA Cal BC 21090 to 19630 95% probability 1SIGMA Cal BC 20870 to 19810 98% probability
整理番号 7087	測定方法	AMS	処理・調整・その他 acid-alkali acid graphite			

測定番号	試料名	試料種	14C age (yBP)	δ13C (permil)	補正14C age (yBP)	暦年代
Beta-112859	SHIRA27	charred material	1790 ± 180	-21.5	17950 ± 180	交点 Cal BC 1930 2SIGMA Cal BC 2010 to 1850 95% probability 1SIGMA Cal BC 19630 to 1860 68% probability
整理番号 7090	測定方法	AMS	処理・調整・その他 acid-alkali-acid graphite			
Beta-112900	SHIRA28	charred material	18750 ± 170	-24.2	18770 ± 170	交点 Cal BC 2030 2SIGMA Cal BC 21090 to 19610 95% probability 1SIGMA Cal BC 20880 to 19800 68% probability
整理番号 7091	測定方法	AMS	処理・調整・その他 acid-alkali-acid graphite			
Beta-112901	SHIRA29	charred material	27500 ± 470	-23.7	27520 ± 470	交点 2SIGMA 95% probability 1SIGMA 68% probability
整理番号 7092	測定方法	AMS	処理・調整・その他 acid-alkali-acid graphite			
Beta-112902	SHIRA30	charred material	27990 ± 320	-25.1	27990 ± 320	交点 2SIGMA 95% probability 1SIGMA 68% probability
整理番号 7093	測定方法	AMS	処理・調整・その他 acid-alkali-acid graphite			
Beta-112903	SHIRA31	charred material	21980 ± 210	-21.9	21980 ± 210	交点 2SIGMA 95% probability 1SIGMA 68% probability
整理番号 7094	測定方法	AMS	処理・調整・その他 acid-alkali-acid graphite			
Beta-112904	SHIRA32	charred material	14030 ± 110	-25.2	14010 ± 110	交点 Cal BC 1450 2SIGMA Cal BC 15330 to 14360 95% probability 1SIGMA Cal BC 15210 to 14190 68% probability
整理番号 7095	測定方法	AMS	処理・調整・その他 acid-alkali-acid graphite			
Beta-126162	SHIRA51	charred material	13780 ± 100	-25.0	13780 ± 100	交点 Cal BC 1430 2SIGMA Cal BC 15090 to 14130 95% probability 1SIGMA Cal BC 14950 to 14210 68% probability
整理番号 10336	測定方法	AMS	処理・調整・その他 acid-alkali-acid graphite			
Beta-130438	SHIRA91	charred material	2590 ± 40	-28.0	2540 ± 40	交点 Cal BC 780 2SIGMA Cal BC 800 to 740 and 95% probability Cal BC 710 to 530 1SIGMA Cal BC 790 to 760 and 68% probability Cal BC 620 to 590
整理番号 16481	測定方法	AMS	処理・調整・その他 acid-alkali-acid graphite			

1 放射性炭素年代測定

測定番号	試料名	試料種	^{14}C age (yBP)	$\delta^{13}\text{C}$ (permil)	補正 ^{14}C age (yBP)	暦年代
Beta-150459	SHIRA-92	charred material	2500 ± 60	-27.0	2470 ± 60	交点 Cal BC 750 and Cal BC 700 and Cal BC 510 2SIGMA Cal BC 790 to 400 95% probability 1SIGMA Cal BC 780 to 420 58% probability
処理番号 16462	測定方法	AMS	処理・調整・その他 acid-alkali-acid			
Beta-174487	SHIRA-93	charred material	24340 ± 160	-22.4	24380 ± 160	交点 2SIGMA 95% probability 1SIGMA 98% probability
処理番号 24602	測定方法	AMS	処理・調整・その他 acid-alkali-acid			
Beta-174488	SHIRA-91	charred material	13090 ± 50	-25.6	13920 ± 50	交点 Cal BC 14750 2SIGMA Cal BC 15100 to 14390 95% probability 1SIGMA Cal BC 15040 to 14410 98% probability
処理番号 24604	測定方法	AMS	処理・調整・その他 acid-alkali-acid			

表Ⅶ-1 放射性炭素年代測定一覧

測定番号	試料名	遺跡名	出土地点	層位	^{14}C 年代 (yBP)	補正 ^{14}C 年代 (yBP)	暦年代	
							交点	1 σ
Beta-101787	No1	上白滝8	Cb-1	Ⅱ a	12460 ± 60	12440 ± 60	Cal BC 12400	Cal BC 13470 to 12580 and Cal BC 12520 to 12220
Beta-101788	No2	上白滝8	Cb-2(2)	Ⅱ a	18570 ± 60	18580 ± 60	Cal BC 20110	Cal BC 20630 to 19710
Beta-101790	No4	上白滝8	Cb-13(5)上	Ⅱ a-c	26900 ± 120	26880 ± 120		
Beta-101791	No5	上白滝8	Cb-13(5)中	Ⅱ a-c	27600 ± 130	27610 ± 130		
Beta-101792	No6	上白滝8	Cb-13(5)下	Ⅱ a-c	26390 ± 480	26400 ± 480		
Beta-112894	SHIRA-22	上白滝8	Cb-1	Ⅱ a	12420 ± 100	12420 ± 100	Cal BC 12400	Cal BC 13480 to 12190
Beta-112895	SHIRA-23	上白滝8	Cb-6	Ⅱ a-c	18650 ± 160	18650 ± 160	Cal BC 20190	Cal BC 20730 to 19680
Beta-112896	SHIRA-24	上白滝8	Cb-6	Ⅱ a-c	18780 ± 160	18770 ± 160	Cal BC 20330	Cal BC 20870 to 19810
Beta-112899	SHIRA-27	上白滝8	Cb-10(1)	Ⅱ a	17940 ± 180	17950 ± 180	Cal BC 19390	Cal BC 19930 to 18860
Beta-112900	SHIRA-28	上白滝8	Cb-11(1)	Ⅱ a	18760 ± 170	18770 ± 170	Cal BC 20330	Cal BC 20880 to 19800
Beta-112901	SHIRA-29	上白滝8	Cb-13(3)	Ⅱ a	27500 ± 470	27520 ± 470		
Beta-112902	SHIRA-30	上白滝8	Cb-13(5)	Ⅱ a-c	27690 ± 320	27690 ± 320		
Beta-112903	SHIRA-31	上白滝8	Cb-14	Ⅲ	21980 ± 210	21980 ± 210		
Beta-112904	SHIRA-32	上白滝8	Cb-15	Ⅲ	14030 ± 110	14010 ± 110	Cal BC 14850	Cal BC 15210 to 14480
Beta-126162	SHIRA-51	上白滝8	Cb-4	Ⅲ	13780 ± 100	13780 ± 100	Cal BC 14590	Cal BC 14950 to 14240
Beta-150458	SHIRA-91	白滝第30地点	Cb-1	Ⅱ a	2590 ± 40	2540 ± 40	Cal BC 780	Cal BC 790 to 760 and Cal BC 620 to 590
Beta-150459	SHIRA-92	白滝第30地点	Cb-1	Ⅱ a	2500 ± 60	2470 ± 60	Cal BC 750 and Cal BC 700 and Cal BC 510	Cal BC 780 to 420
Beta-174487	SHIRA-93	上白滝8	Cb-14	Ⅲ	24340 ± 160	24380 ± 160		
Beta-174488	SHIRA-94	上白滝8	Cb-15	Ⅲ	13930 ± 50	13920 ± 50	Cal BC 14750	Cal BC 15040 to 14440

2 上白滝8遺跡出土黒曜石のフィッシュントラック年代測定

山梨県環境科学研究所 奥水達司

(1) はじめに

北海道白滝村の上白滝8遺跡から出土した加熱を受けたと見られる黒曜石片5点につき、フィッシュントラック年代測定を実施したので、その結果を報告する。

(2) 分析資料

今回の実験に用いた黒曜石は上白滝8遺跡から出土した割片3点、石刃1点、尖頭器1点である(表VII-2)。

(3) フィッシュントラック年代測定

すべての天然鉱物・天然ガラスおよび人工ガラスには、一般に不純物として数ppmから数ppbの微量のウランが含まれている。ウラン同位体のうちウラン-238は、自発核分裂を起こして、それを含んでいる鉱物・ガラスに飛跡を残す。一方、ウラン-235は、原子炉で熱中性子を照射してはじめて核分裂(誘発核分裂)を起こして、同様に飛跡を残す。これらの飛跡がフィッシュントラックである。

フィッシュントラック年代とは、一般に火山活動などにより鉱物・ガラス等が晶出あるいは固結した時、すなわちフィッシュントラックが記録・保存される状態になってから現在までの経過時間を示すものである。しかし、熱効果あるいは圧力効果などによりフィッシュントラックが完全に消失した場合には、その時から新たに自発フィッシュントラックの蓄積が始まる訳である。フィッシュントラックの消失の原因が、例えば先史人類によって資料に与えられた熱効果-遺跡における火の使用-であれば、測定された年代値は考古学的な意味を持つことになる。このような事情から、遺跡から出土した焼けた黒曜石のフィッシュントラック年代を測定する重要性が生じる。

フィッシュントラック年代(A)は、標準ガラスについての定数が明らかにされている場合には、次式により算出される(Fleicher et al., 1975)。

$$A = \zeta (\rho_s / \rho_i) \rho_d$$

ここで、 ρ_s は自発フィッシュントラック密度、 ρ_i は誘発フィッシュントラック密度、 ζ は定数である。

実際には、同一の黒曜石から2箇の試料を用意し、その一つを標準ガラスと共に立教大学原子力研究所のTRIGA Mark II回転試料槽で熱中性子を照射した。その後、これら2箇の黒曜石(一方は自発フィッシュントラック密度用、他方は誘発フィッシュントラック密度用である)を樹脂に包埋し、黒曜石の内面を観察するため研削した。ついで、48%HFを用いて23℃で15秒間のエッチングを行い、エッチング面のレプリカを作り、これを光学顕微鏡下で観察した。測定の詳細については、奥水(1981)を参照されたい。

(4) 結果

得られた結果を表VII-2に示す。5箇の黒曜石につき21,500~24,100年の測定結果が得られ、各々の年代値の測定誤差は2,100~2,400年が見積もられた。これらの測定誤差を考慮すれば、今回得られた結果は互いに重なりあう年代であり、考古学的には同一の生活面に対する年代と考えて矛盾はない。北海道の旧石器時代の編年に寄与するものと思われる。

参考文献

Fleischer, R. L., Plice, P. B. and Walker, R. M. (1975) Nuclear Tracks in Solids: Principles and Applications. University of California Press. 609p.

奥水達司 (1981) 石狩低地帯に出土する黒曜石片の原産地. 地球科学, 35, 267-273.

表Ⅵ-2 上白滝8遺跡出土黒曜石のフィッシュントラック年代測定結果

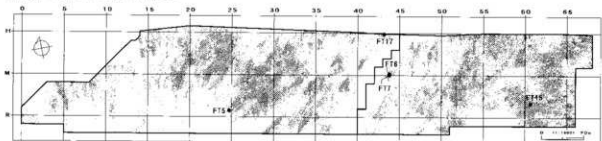
sample	式目 番号	遺跡名	プロット タイプ	遺物 番号	発行 番号	保存 番号	Ns	P _{ns}	N1	P1	N4	φ	Age (A1σ)	遺物名	プロットの 内容	
No.5	F T5	上白滝8	95	Q24	21	-	103	18.4	2000	2.62	2000	5.43	22600 ± 2400	石片	ナイフ形石片	
No.6	F T6	上白滝8	9	L43	16	-	124	19.1	2000	2.57	2000	5.43	24100 ± 2300	遺物	白滝1群	
No.7	F T7	上白滝8	9	L43	38	88	113	17.5	2000	2.42	2000	5.11	23000 ± 2300	遺物	白滝1群	
No.15	F T15	上白滝8	27	P60	1843	-	52506	16.8	15.8	2000	2.38	2000	5.11	21500 ± 2300	尖形器	尖形器
No.17	F T17	上白滝8	64	H43	118	-	135	18.8	2000	2.33	2000	5.11	23000 ± 2300	破片	白滝1群	

Ns: 1μm²のフィッシュントラック数 (tracks)
P_{ns}: 測定フィッシュントラック密度 (tracks/cm²)
N1: 標準ガラス中のフィッシュントラック数 (tracks)
φ: 標準ガラスの厚さ (×10⁻³cm)

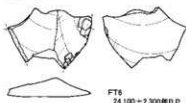
N4: 標準ガラス中に観察された異なるフィッシュントラック数 (tracks)
φ: 標準ガラスの厚さ (×10⁻³cm)

φ1: 測定フィッシュントラック密度 (×10⁴tracks/cm²)

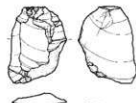
Age: 1σ (年 B.P.)



Sb-9

FT6
24,100 ± 2,300年B.P.FT7
23,400 ± 2,100年B.P.

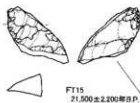
Sb-64

FT17
23,400 ± 2,100年B.P.

Sb-95

FT5
22,800 ± 2,400年B.P.

Sb-27

FT15
21,500 ± 2,200年B.P.

図Ⅵ-10-44

図Ⅵ-1 フィッシュントラック年代測定試料

3 上白滝 8 遺跡の堆積層・古植生の検討

バリノ・サーヴェイ株式会社

(1) はじめに

白滝遺跡群を構成する遺跡の一つである上白滝 8 遺跡は、遺跡群の他の遺跡と同様に湧別川沿いの段丘上に位置している。上白滝 8 遺跡の位置する段丘は、白滝団体研究会 (1963) により第 3 段丘とされ、中村・平川 (1998) による最近の研究では、上白滝面に分類されている。上白滝面の形成年代は、段丘礫河直上に 15~20 万年前に噴出したとされるトエトコテフラが確認されたことから、酸素同位体比ステージ 7 後半~ステージ 6 初期と考えられている (平川ほか, 2000)。したがって、上白滝 8 遺跡で観察された礫を多量に含む土層やその上位の遺物包含層は、温暖期である最終間氷期や寒冷期である最終氷期を経た、およそ 20 万年間に及ぶ時間により形成されたものといえる。出土した遺物は古くとも最近 3 万年間に形成された表層の土壌層中にしか認められないが、過去 20 万年間における環境変遷は、遺跡が立地する背景としての資料価値がある。

今回の分析調査では、上白滝 8 遺跡で認められた土層断面について、その中に含まれている珪藻化石、花粉化石および植物珪酸体の産状を調べるとともに粒度分析も行い、過去の環境変遷および植生について考察する。

(2) 基本土層および採取試料

試料は、上白滝 8 遺跡平成 8 年度調査区内の S27 区南壁より採取した。また、参考試料として、遺跡に近接する切り通して白滝層の試料 1 点を採取した。この切り通して試料を採取した地点を、ここでは上白滝 8 遺跡露頭 1 地点とする。

S27 区南壁では、白滝遺跡群における基本土層の I 層から III 層までが確認された。厚さ 10cm ほどの I 層の下位に遺物包含層である厚さ約 15cm の II a 層、同程度の厚さの II b 層が分層され、その下位に白滝 1 テフラ (Sit1) の軽石を多く含む II c 層が認められ、さらに下位に厚さ 30cm ほどの III 層とされる土壌層がある。なお、Sit1 は約 3 万年前に大雪山御鉢平カルデラから噴出した大雪山御鉢平軽石 (Ds-Oh) に対比されている (平川ほか, 2000)。III 層よりも下位には、径 10~数 10mm の礫を含んだ砂質シルト層が厚く堆積し、段丘の構成層に連続する。

試料は、基本的に細粒の堆積層について厚さ 5 cm で連続に採取したが、砂礫層や砂層などは層の中部付近や上部、中部、下部各 1 点ずつ採取するなど、層相や堆積状況に応じた採取方法をとった。南深淵における層序と試料採取層準を柱状図にして、図 VII-2 に示す。

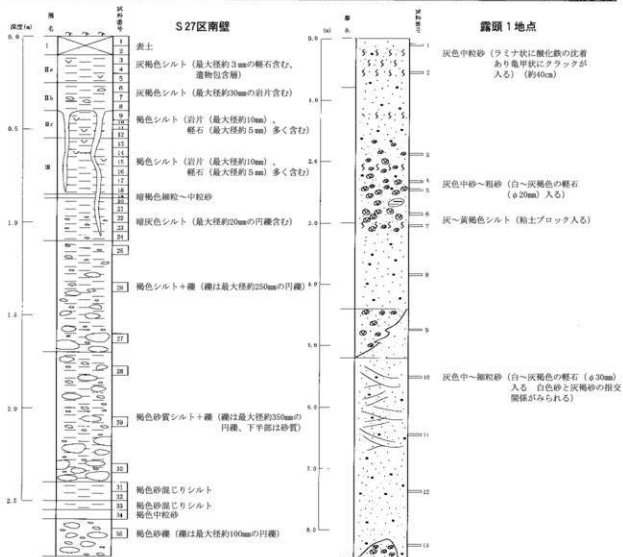
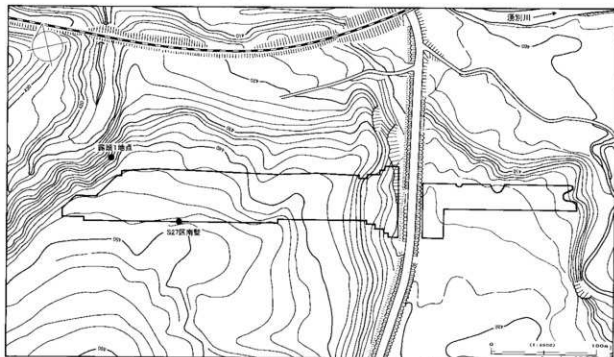
(3) 堆積層の検討

(ア) 分析方法および試料の選択

堆積層の特徴は、堆積構造や碎屑物の種類とその構成比など様々な捉え方があるが、ここでは特に分層の基準となっている堆積層の粒度について、それを数値化した粒度分布を求める。また、堆積環境を示唆する珪藻化石の産状についても調べる。S27 区南壁において対象とする試料は、両分析ともに同一試料の 15 点であるが、上白滝 8 遺跡露頭 1 地点から採取した白滝層の試料 1 点については、珪藻分析のみを行う。以下に各分析方法を述べる。

(a) 粒度分析

碎屑性堆積物研究会 (1983) の方法を参考に、礫・砂粒子画分はふるい分け法、シルト・粘土粒子画分はピペット法で行った。また、粒径区分は、Wentworth (1922) に従った。以下に分析方法を示す。



図VII-2 上白滝8遺跡サンプル採取地点と各地点の柱状図

表VII-3 上白滝8遺跡S27区南壁の粒度分析結果

層名	試料 番号	礫 2.00mm<	極粗粒砂 2.00~ 1.00mm	粗粒砂 1.00~ 0.50mm	中粒砂 0.50~ 0.25mm	細粒砂 0.25~ 0.125mm	極細粒砂 0.125~ 0.063mm	シルト 0.063~ 0.0039mm	粘土 0.0039mm>
II a	3	2.3	1.0	3.5	4.4	6.5	9.0	42.5	30.8
	5	0.5	1.2	3.5	4.7	6.3	7.1	41.3	35.5
II b	6	0.2	0.5	2.7	4.2	5.4	6.4	41.9	38.7
	8	1.4	0.9	3.6	5.2	6.5	6.4	37.3	38.6
II c	10	3.2	2.2	5.5	5.0	7.6	7.4	35.0	34.0
	12	0.9	0.9	3.6	5.9	8.3	7.0	35.5	38.0
III	14	1.4	1.9	4.2	6.1	8.8	6.0	34.5	37.0
	16	0.3	0.8	2.5	3.7	6.0	8.0	44.1	34.7
斜面堆積	19	0.9	0.3	4.2	16.8	31.1	12.1	17.1	17.5
	23	3.7	0.9	2.4	3.4	4.6	4.7	31.1	47.2
	26	13.2	0.8	2.1	3.2	2.8	3.8	27.8	47.3
	29	16.4	4.4	8.5	7.7	6.6	4.9	13.8	37.7
	31	3.3	4.1	9.1	11.6	10.9	5.7	11.6	43.8
	34	13.2	0.5	3.6	10.8	12.2	7.9	18.6	33.2
	35	61.4	3.4	6.3	4.5	2.6	1.5	5.8	14.5

表VII-4 上白滝8遺跡S27区南壁の粒度分析評価結果

層名	試料 番号	Md (中央値)	Ms (平均値)	Mo (最頻値)	Sk (歪度)	σ (分散)	Ku (尖度)
II a	3	7.53 ϕ (0.095mm) (シルト)	6.77 ϕ (0.090mm) (シルト)	7.64 ϕ (0.095mm) (シルト)	-0.28色の歪み	3.21非常に悪い	1.37非常に突出
	5	7.64 ϕ (0.095mm) (シルト)	7.01 ϕ (0.098mm) (シルト)	7.64 ϕ (0.095mm) (シルト)	-0.21色の歪み	3.26非常に悪い	1.65非常に突出
II b	6	7.71 ϕ (0.095mm) (シルト)	7.63 ϕ (0.095mm) (シルト)	7.64 ϕ (0.095mm) (シルト)	-0.06白く対称	3.08非常に悪い	1.72非常に突出
	8	7.69 ϕ (0.095mm) (シルト)	7.01 ϕ (0.098mm) (シルト)	7.64 ϕ (0.095mm) (シルト)	-0.20白の歪み	3.16非常に悪い	1.56非常に突出
II c	10	7.51 ϕ (0.095mm) (シルト)	6.82 ϕ (0.091mm) (シルト)	7.61 ϕ (0.095mm) (シルト)	-0.29白の歪み	3.65非常に悪い	1.00中間的
	12	7.66 ϕ (0.095mm) (シルト)	6.83 ϕ (0.098mm) (シルト)	7.61 ϕ (0.095mm) (シルト)	-0.21白の歪み	3.45非常に悪い	1.31突出
III	14	7.62 ϕ (0.095mm) (シルト)	6.80 ϕ (0.098mm) (シルト)	7.61 ϕ (0.095mm) (シルト)	-0.21白の歪み	3.38非常に悪い	1.16突出
	16	7.64 ϕ (0.095mm) (シルト)	7.40 ϕ (0.095mm) (シルト)	7.64 ϕ (0.095mm) (シルト)	-0.12色の歪み	2.83非常に悪い	1.71非常に突出
斜面堆積	19	3.39 ϕ (0.090mm) (粗粒砂)	4.02 ϕ (0.041mm) (シルト)	2.99 ϕ (0.120mm) (粗粒砂)	0.90青しい正	2.92非常に悪い	0.77扁平
	23	7.91 ϕ (0.094mm) (シルト)	7.25 ϕ (0.097mm) (シルト)	7.61 ϕ (0.095mm) (シルト)	-0.23白の歪み	3.38非常に悪い	1.82非常に突出
	26	7.91 ϕ (0.094mm) (シルト)	6.64 ϕ (0.091mm) (シルト)	7.61 ϕ (0.095mm) (シルト)	-0.31青しい負	4.09極めて悪い	1.63非常に突出
	29	6.19 ϕ (0.091mm) (シルト)	5.38 ϕ (0.094mm) (シルト)	-0.66 ϕ (1.385mm) (粗粒砂)	-0.20白の歪み	1.72極めて悪い	0.68扁平
	31	7.59 ϕ (0.095mm) (シルト)	6.51 ϕ (0.091mm) (シルト)	7.87 ϕ (0.097mm) (シルト)	-0.25白の歪み	1.88極めて悪い	0.75扁平
	34	6.36 ϕ (0.091mm) (シルト)	5.85 ϕ (0.091mm) (シルト)	-0.66 ϕ (1.385mm) (粗粒砂)	-0.14色の歪み	4.13極めて悪い	0.81扁平
	35	-0.95 ϕ (1.518mm) (粗粒砂)	3.11 ϕ (0.232mm) (粗粒砂)	-0.66 ϕ (1.385mm) (粗粒砂)	0.94青しい正	3.95非常に悪い	1.50非常に突出

注) 評価はFolk&Ward (1957)による

試料を風乾して2 mm ϕ 篩でふるい分ける。2 mm ϕ 篩上粒子は水洗して重量を測定する。一方、2 mm ϕ 篩下粒子は10.00gをピーカーに秤量し、蒸留水と30%過酸化水素水を加え、熱板上で有機物分解を行う。分解終了後、蒸留水と分散剤(4%カルボン)を加え、攪拌しながら30分間超音波処理を行う。沈底瓶にこの懸濁液を移し、往復振とう機で1時間振とうする。振とう終了後、水で全量を1,000mlにする。この沈底瓶を1分間手で激しく振り、直ちに静置する。ピペット法に準じて、所定時間に所定深度から粘土・シルト両分(0.063mm>), 粘土両分(0.0039mm>)を10ml採取し、105°Cで24時間乾燥させた後、重量を測定し加積通過率(質量%)を求める。ピペット法終了後、懸濁液を63 μ m篩で水洗いする。63 μ m篩残留物を105°Cで5時間加熱後、1.0、0.5、0.25、0.125mm ϕ 篩

でふるい分け、各篩毎に篩上残留物の質量を測定し、加積通過率（質量%）を求める。ピベット法および篩い分けで求められる加積通過率（質量%）から粒径加積曲線を描き、Wentworth（1922）の粒径区分毎の質量を算出する。

(b) 珪藻分析

試料を湿重で約70~80g秤量し、過酸化水素水、塩酸処理、自然沈降法の順に物理化学処理を施して、珪藻化石を濃集する。検鏡に適する濃度まで希釈した後、カバーガラス上に滴下し、乾燥させる。乾燥後、ブリュウラックスで封入して、永久プレパラートを作製する。検鏡は、光学顕微鏡で油浸600倍あるいは1000倍で行い、メカニカルステージで任意の視野を走査し珪藻殻が半分以上残存するものを対象に、200個体以上同定・計数する。同定は、K.Krammer（1992）、K.Krammer and Lange-Bertalot（1986・1988・1991a・1991b）などを参考とする。

同定結果は、海水生種、海水~汽水生種、淡水生種順に並び、その中の各種類はアルファベット順に並べた一覧表で示す。なお、淡水生種についてはさらに細かく生態区分し、塩分・水素イオン濃度（pH）・流水に対する適応能についても示す。また、環境指標種に相当する種については、その内容を示す。

(イ) 結果

(a) 粒度分析

粒度分析結果を表Ⅶ-3に、Folk & Ward（1957）による評価結果を表Ⅶ-4に示す。また、図Ⅶ-3・4に粒径加積曲線および粒径別の頻度を示す。

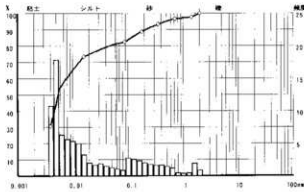
試料番号3~19は平均値（Mz）から全てシルトに区分されるが、中央値（Md）、最頻値（Mo）からは試料番号19が細粒砂に区分される。各堆積物の分級度（ σ ）は、非常に悪い。歪度（Sk）が試料番号19において著しく正に片寄っているほかは、全て負に片寄っていることから、本堆積層は主として細粒堆積物から構成されていることが指摘される。尖度（Kg）は試料番号19において扁平であるが、そのほかは突出している。

試料番号23~34は、平均値（Mz）からはシルトに、試料番号35は細粒砂に区分されるが、中央値（Md）からは試料番号35が粗粒砂に、また最頻値（Mo）からは試料番号29、31、35が粗粒砂に区分される。各堆積物の分級度（ σ ）は試料番号23、35において非常に悪く、試料番号26から34において極めて悪いものとなっている。歪度（Sk）が試料番号35において著しく正に片寄っているほかは、全て負に片寄っていることから、本堆積層は主として細粒堆積物から構成されていることが指摘される。尖度（Kg）は試料番号23、26、35において非常に突出しているが、そのほかは扁平である。

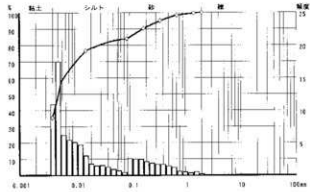
これら堆積物の特徴により、各堆積物の粒径加積曲線は試料番号3~16の粘土含量が30~50%の堆積物で、対数曲線に類似した加積曲線を描くグループ、および試料番号19の粘土含量が20%以下と低く、砂画分、特に細粒砂画分において急激に傾きが大きくなるグループ、試料番号23、26の粘土含量が50%前後の堆積物で、対数曲線に類似した加積曲線を描くグループ、試料番号29、31、34の粘土含量が40%前後、砂画分において急激に傾きが大きくなるグループ、および試料番号35の粘土・シルト・砂含量が極めて低く、礫画分において急激に傾きが大きくなるグループに大きく分類される。

(b) 珪藻分析

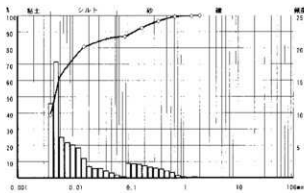
結果を表Ⅶ-5、図Ⅶ-5に示す。S27区南壁は、何れの試料も珪藻化石の産出が少ない。一方、露頭1地点の白濁層（試料番号12）は、完形殻の出現率が約90%と極めて高い。淡水浮遊性の *Melosira cf. longispina* が約70%と優占し、その変種の *Melosira cf. longispina var. tenuis*、同じ生態性の



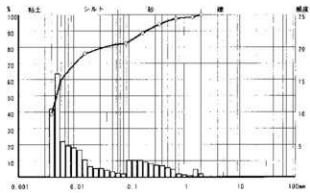
II a層 試料番号3



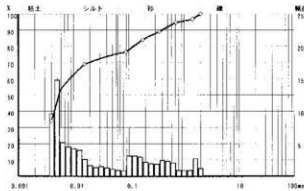
II a層 試料番号5



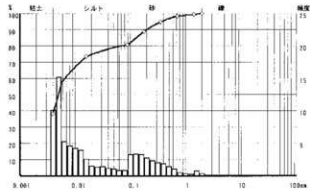
II a層 試料番号6



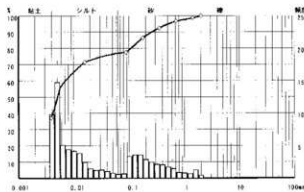
II a層 試料番号8



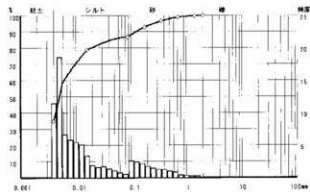
II c層 試料番号10



II c層 試料番号12



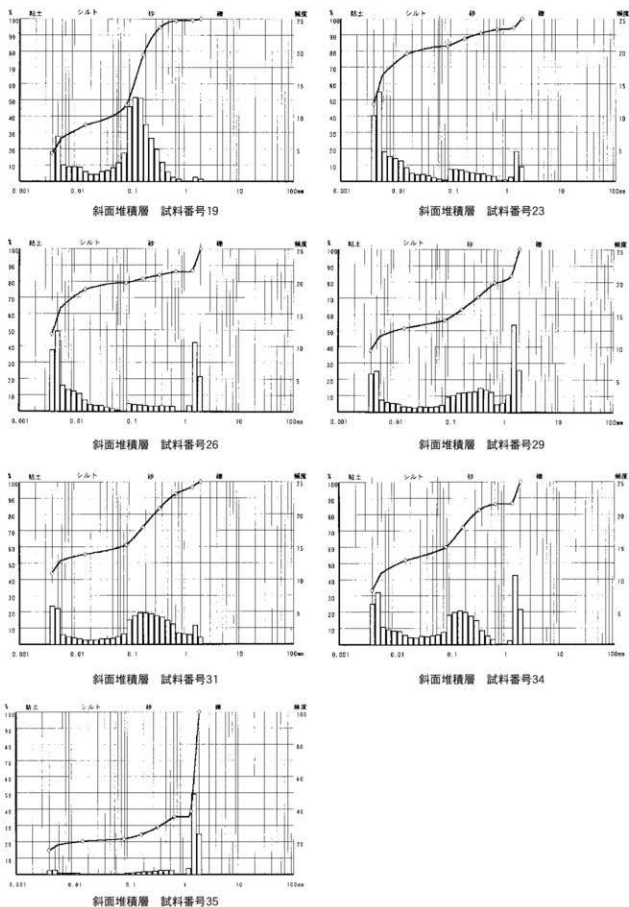
III層 試料番号14



III層 試料番号16

図VI-3 上白滝8遺跡S27区南壁の粒径加積曲線(1)

3 上白滝8遺跡の地積層・古植生の検討



図VI-4 上白滝8遺跡 S27区南壁の粒径加積曲線(2)

(小島・小林, 1976)。本種は、小島・小林(1976)も指摘しているように日光付近でしか見つからない種であり、今回の出現は本種の分布を考える上で重要な発見と言える。

なお、すでに報告した上白滝5遺跡では、場所によってⅡb層とⅢ層との間に灰白色粘土層が挟まれているが、この灰白色粘土層の下部からは、*Melosira cf. longispina* と *Melosira cf. longispina* var. *tenuis* が多産した(バリノ・サーヴェイ, 2002)。この灰白色粘土層下部は、周囲の状況から、白濁層の再堆積物であると考えたが、今回の分析結果は、それを支持するものとなった。

(ウ) 考察

段丘を構成する堆積層については、白滝団体研究会(1963)により、段丘の地形を構成する段丘砂礫層と、その上位に堆積する段丘上細粒堆積物とに分けられている。段丘上細粒堆積物は、湧別川の洪水性堆積物と段丘背後に広がる緩斜面からの solifluction(凍結融解作用による斜面堆積物の緩慢な流動)による碎屑物とが混在し、段丘形成後現在に至るかなり長期にわたって形成された堆積物と考えられている。

S27区南壁では、粒径組成により、1) 粘土含量の比較的高いⅡa層からⅢ層までの層位、2) 試料番号19の砂層、3) 粘土含量の比較的高い、礫を含む砂層上部(試料番号20-27)、4) 粘土含量のやや低い、礫を含む砂層下部(試料番号28-34)、5) 最下位の砂礫層(試料番号35)に分類できた。これらのうち、基本的にシルトに区分される1)から4)までの層位が、上記の段丘上細粒堆積物に対比されると考えられる。特に3)と4)の層位における試料の粒径組成は、融解時に水で飽和した細粒物質(粘土)の堆積とその流れによって斜面上を移動した粗粒碎屑物(礫)とから構成されることを示唆しており、上記のソリフラクションによる段丘上細粒堆積物の形成過程をよく反映していると考えられる。

また、その形成過程は1)から4)までの4段階に細分されること、そのうちの2)については洪水性堆積物の可能性があることが、本地点における特徴であると言える。これまでに、同じ地形面に対比される段丘上に位置する上白滝2遺跡や奥白滝1遺跡においても、段丘上に堆積する土壌層について粒度分析による記載を行ったが、その層位的な特徴などは、それぞれ本地点とは異なる様相を呈している(バリノ・サーヴェイ, 2001・2002)。現時点では、上白滝8遺跡S27区南壁付近における段丘上細粒堆積物形成時の各段階の年代観と環境がどのように変化したかは不明であるが、段丘上細粒堆積物の形成過程は、平面的な位置の違いによりそれぞれ異なっていた可能性がある。

(4) 古植生について

(ア) 分析方法および試料の選択

ここでは古植生を推定する方法として、堆積物中に含まれる花粉化石と植物珪酸体の産状を調べる。花粉分析試料は6点、植物珪酸体分析試料は9点の試料を選択する。以下に、各分析方法を述べる。

(a) 花粉分析

試料約10gについて、水酸化カリウムによる泥化、濾別、重液(臭化亜鉛:比重2.3)による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス処理(無水酢酸:濃硫酸=9:1)の順に物理・化学的処理を施し、花粉化石を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作製し、光学顕微鏡下でプレパラート全面を操作し、出現する全ての種類について同定・計数する。結果は、同定・計数結果の一覧表として示す。なお、表中で複数の種類をハイフオンで結んだものは、種類間の区別が困難なものである。

(b) 植物珪酸体分析

湿重5g前後の試料について、過酸化水素水・塩酸処理、超音波処理(70W, 250KHz, 1分間)、沈定法、重液分離法(ポリタングステン酸ナトリウム, 比重2.5)の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これを検鏡し易い濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、ブリュウラックスで封入しプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部(葉身と葉鞘)の葉部細胞に由来した植物珪酸体(以下、短細胞珪酸体と呼ぶ)および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体(以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ)を、近藤・佐瀬(1986)の分類に基づいて同定・計数する。結果は、検出される種類とその検出個数の一覧表で示す。

(イ) 結果

(a) 花粉分析

結果を表Ⅶ-6に示す。いずれの試料も検出個体数が少ない。また、検出される花粉化石は、全体的に保存状態が悪く、外膜が溶けて薄くなり壊れている。

(b) 植物珪酸体

結果を表Ⅶ-7に示す。各試料からは植物珪酸体が検出されるものの、検出個数が少ない試料も多く、保存状態も悪い。Ⅱb層からⅢ層およびその下位の土層(試料番号6~23)でクマザサ属などがわずかに認められるに過ぎない。また、Ⅱa層の試料番号5~3では、クマザサ属の機動細胞珪酸体の産出が目立つ。

表Ⅶ-6 上白滝8遺跡S27区南壁の花粉分析結果

種 類	試料番号	上白滝8 S27区南壁				
		3	5	6	8	10 14
木本花粉						
モミ属		3	-	-	-	-
トウヒ属		7	-	-	-	-
マツ属		3	-	-	-	-
シナノキ属		-	1	-	-	-
草本花粉						
イネ科		1	-	-	-	-
シダ類胞子						
シダ類胞子		163	4	4	-	-
合 計						
木本花粉		13	1	0	0	0
草本花粉		1	0	0	0	0
不明花粉		0	0	0	0	0
シダ類胞子		163	4	4	0	0
総計(不明を除く)		177	5	4	0	0

(ウ) 考察

今回の試料では、花粉化石がほとんど検出されなかった。また、前述のように、段丘上の細粒堆積物の堆積過程を考慮すると、誘導化石が含まれている可能性もある。したがって、今回の結果からは、当時の森林植生について検討することができない。

一方、植物珪酸体分析結果でも、各地点のⅡb層以深の堆積層が形成される過程で生育していた草本類について検討す

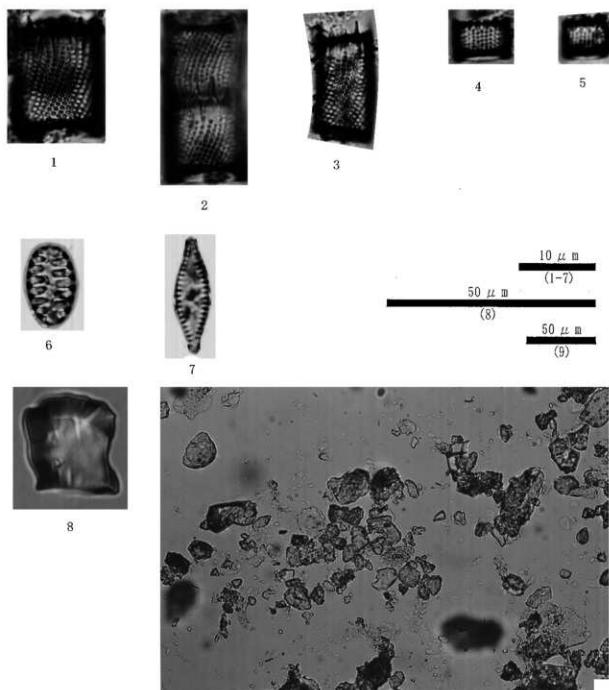
表Ⅶ-7 上白滝8遺跡S27区南壁の植物珪酸体分析結果

種 類	試料番号	上白滝8 S27区南壁								
		3	5	6	8	10	12	14	16	23
イネ科葉部短細胞珪酸体										
タケ亜科クマザサ属		39	37	1	7	6	12	5	-	-
イチゴツナギ亜科		1	-	-	2	1	-	3	-	-
不明キビ型		-	-	-	1	-	-	-	-	-
不明ヒゲシバ型		-	-	-	1	-	-	-	-	-
不明ダシチク型		-	-	-	1	1	-	-	-	-
イネ科葉身機動細胞珪酸体										
タケ亜科クマザサ属		316	224	1	44	7	15	19	4	-
不明		-	-	-	-	-	-	-	-	-
合 計										
イネ科葉部短細胞珪酸体		60	37	1	12	8	12	8	0	0
イネ科葉身機動細胞珪酸体		316	224	1	44	7	15	19	4	0
総 計		376	261	2	56	15	27	27	4	0

ることは難しい。しかし、少なくとも検出されたクマザサ属などのタケ亜科が生育していた可能性はある。II a層が形成される過程では、クマザサ属が林床の下草として繁茂し、イチゴツナギ亜科などが生育していたと考えられる。クマザサ属には、クマザサやチシマザサ、チマキザサなどが含まれる。これらは、亜高山帯針葉樹林では多くみられ、疎林な場所の林床や、林の間の開けた空間などに群生する。今回検出されたクマザサ属もこうした植生に由来すると考えられる。

引用文献

- 安藤一男 (1990) 淡水硬体藻による環境指標種群の設定と占環境復元への応用. 東北地理, 42, p. 73-88.
- Asai, K. and Watanabe, T. (1995) Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution (2) Saprobiolous and supracrenous taxa. Diatom, 10, 35-47.
- Fork, R. L. and Ward, W. (1957) Brazons river bars study in the significance of grain size parameters. J. Sed. Petrol., 27, p. 26.
- 平川 匠・中村有吾・石川 守 (2000) 北海道白滝遺跡と周辺地域のテフラ順序と地形環境. (財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第140集 白滝遺跡群Ⅱ 白滝村上白滝7遺跡 一般国道450号白滝村道路改良工事用地埋蔵文化財発掘調査報告書, p. 235-249. (財)北海道埋蔵文化財センター.
- 伊藤良永・堀内誠介 (1991) 陸生イヌの現在に於ける分布と占環境解析への応用. 貝塚学誌, 6, p. 23-45.
- 小島貞男・小林 弘 (1976) 素顔の水処理微生物 (34) ケイソウ植物類. 『水』臨時増刊号, 素顔の水処理微生物 総集版1, 月刊『水』発行所, p. 68-69.
- 近藤誠一・佐藤 隆 (1986) 植物は糞体分析, その特性と応用. 第四紀研究, 25, p. 31-64.
- Krammer, K. and Lange-Bertalot, H. (1986) Bacillariophyceae, Teil 1. Naviculaceae. Band 2/1 von Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 876p., Gustav Fischer Verlag.
- Krammer, K. and Lange-Bertalot, H. (1988) Bacillariophyceae, Teil 2. Epithemiaceae, Bacillariaceae, Surirellaceae. Band 2/2 von Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 536p., Gustav Fischer Verlag.
- Krammer, K. and Lange-Bertalot, H. (1991a) Bacillariophyceae, Teil 3. Centrales, Fragillariaceae, Eunotiaceae. Band 2/3 von Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 230p., Gustav Fischer Verlag.
- Krammer, K. and Lange-Bertalot, H. (1991b) Bacillariophyceae, Teil 4. Achnantheaceae, Kritische Ergaenzungen zu Navicula (Lineolata) und Gomphonema. Band 2/4 von Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 248p., Gustav Fischer Verlag.
- Krammer, K. (1992) PINNULARIA, eine Monographie der europäischen Taxa. BIBLIOTHECA DIATOMOLOGICA BAND 26, p. 1-353. BERLIN-STUTTGART.
- Lange-Bertalot, H. unter Mitarbeit von A. Steindorf (1995) Rote Liste der Kieselalgen (Bacillariophyceae) Deutschlands. Schr.-R.f. Vegetationskde. H. 28 000-000 BfN, Bonn-Bad Godesberg p. 1-31.
- Lange-Bertalot, H. and D. Metzeltin (1996) Oligotrophie-Indikatoren. 800 Taxa repräsentativ für drei diverse Seen-Typen. Iconographia Diatomologica 2. Koeltz.-Koenigstein.
- Lange-Bertalot, H., K. Kulbs, T. Lauser, M. Noerpel-Schempp and M. Willmann (1996) Dokumentation und Revision der von G. Krassee beschriebenen Taxa. Iconographia Diatomologica 3. Koeltz.-Koenigstein.
- Metzeltin, D. and A. Witkowski (1996) Diatomeen der Baren-Insel. Suesswasser- und marine Arten. Iconographia Diatomologica 4. Koeltz.-Koenigstein.
- 中村有吾・平川 匠 (1998) 北海道・白滝遺跡周辺のテフラ順序と地形環境. 日本地理学会 発表要旨集, No. 54, p. 162-163.
- パリオ・サーヴェイ株式会社 (2001) 上白滝2遺跡の堆積層・古植生の検討. (財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第151集 白滝遺跡群Ⅱ 一般国道450号白滝村道路改良工事用地埋蔵文化財発掘調査報告書, p. 203-222. (財)北海道埋蔵文化財センター.
- パリオ・サーヴェイ株式会社 (2002) 奥白滝1・上白滝5遺跡における埋蔵層・古植生の検討. (財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第169集 白滝遺跡群Ⅱ 一般国道450号白滝村道路改良工事用地埋蔵文化財発掘調査報告書, p. 265-288. (財)北海道埋蔵文化財センター.
- Powers, M. C. (1953) A new roundness scale for sedimentary particles. J. Sed. Petrol., 23, p. 117-119.
- Reichardt, E. (1995) Die Diatomeen (Bacillariophyceae) in Ehrenbergs Material von Cayenne, Guyana Gallica (1843). Iconographia Diatomologica 1. Koeltz.-Koenigstein.
- 砕同性形植物研究会編 (1983) 『地学双書24 堆積物の研究法』, 377p. 地学団体研究会.
- 白滝団体研究会 (1963) 白滝遺跡の研究, 71p. 地学団体研究会.
- 壺水重元・山内輝子 (1971) 花粉・胞子, 『化石の研究法』, 化石研究会編, p. 50-73, 共立出版株式会社.
- Wentworth, C. K. (1922) A scale of grade and class terms for clastic sediments. J. Geol., 30, p. 377-392.



1. *Melosira* cf. *longispina* Hustedt (露頭1地点:12)
2. *Melosira* cf. *longispina* Hustedt (露頭1地点:12)
3. *Melosira* cf. *longispina* Hustedt (露頭1地点:12)
4. *Aulacoseira* *alpigena* (Grun.)Krammer (露頭1地点:12)
5. *Aulacoseira* *alpigena* (Grun.)Krammer (露頭1地点:12)
6. *Fragilaria* *pinnata* Ehrenberg(露頭1地点:12)
7. *Fragilaria* *parasitica* (W. Smith)Grunow(露頭1地点:12)
8. クマザサ属短細胞珪酸体(南壁深掘:3)
9. 状況写真(鉱物粒子が散在)(南壁深掘:12)

図Ⅴ-6 珪藻化石・植物珪酸体

4 上白滝8・上白滝6遺跡出土の黒曜石製石器の 原材産地分析および非破壊分析による水相層の測定

薬科 哲男

(京都大学原子力実験所)

(1) はじめに

石器石材の産地を自然科学的な手法を用いて、客観的に、かつ定量的に推定し、古代の交流、交易および文化圏、交易圏を探ると言う目的で、蛍光X線分析法によりサマサイトおよび黒曜石製遺物の石材産地推定を行っている^{1, 2, 3)}。石材移動を証明するには必要条件と十分条件を満たす必要がある。地質時代に自然の力で移動した岩石の出発露頭を元素分析で求めるとも、移動原石と露頭原石の組成が一致すれば必要条件を満たし、その露頭からの流れたルートを地形学などで証明できれば、他の露頭から原石が流れて来ないことが証明されて、十分条件を満たし、ただ1カ所の一致する露頭産地の調査のみで移動原石の産地が特定できる。遺物の産地分析では「遺物とある産地の原石組成が一致する必要があるが、他の産地の原石にも一致する可能性が残っているから、その産地のものと言いつてもいい。従って、他の産地に一致しない証明も同時に必要である。一致しなかった産地との交流がなかったと証明され、考古学資料として非常に有用と思われる」。考古学では、人工品の様式が一致すると言う結果が非常に重要な意味があり、見える様式としての形態、文様、見えない様式として土器、青銅器、ガラスなどの人手が加わった調査素材があり一致すると言うことは古代人が意識して一致させた可能性があり、一致すると言うことは、古代人の思考が一致すると考えてもよく、相互関係を調査する重要な意味をもつ結果である。石器の様式による分類ではなく、自然の法則で決定した石材の元素組成を指標にした分類では、例えば石材産地が遺跡に近い、移動キャンプ地のルート上に位置する、産地地方との交流を示す石器が出土しているなどを十分条件の代用にすると産地分析は中途半端な結果となり、遠距離伝播した石材を近くの産地と誤判定する可能性がある。人が移動させた石器の元素組成とA産地原石の組成が一致し、必要条件を満足しても、原材産地と出土遺跡の間に地質的関連性がないため、十分条件の移動ルートを自然の法則に従って地形学で証明できず、その石器原材がA産地の原石と決定することができない。従って、石器原材と産地原石が一致したことが、直ちに考古学の資料とならない、確かにA産地との交流で伝播した可能性は否定できなくなったが、B、C、Dの産地でないとの証拠がないために、A産地だと言いつてもいい。B産地と一致しなかった場合、結果は考古学の資料として非常に有用である。それは石器に関してはB産地と交流がなかったと言いつてもいい。ここで、十分条件として、可能な限り地球上の全ての原産地(A、B、C、D・・・・)の原石群と比較して、A産地以外の産地とは一致しないことを十分条件として証明すれば、石器がA産地の原石と決定することができる。この十分条件を肉眼観察で求めることは分類基準が混乱し不可能であると思われる。また、自然科学的分析を用いても、全ての産地が区別できるかは、それぞれが使用している産地分析法によって、それぞれ異なる実際に行ってみなければ分からない。産地分析の結果の信頼性は何ヶ所の原材産地の原石と客観的に比較して得られたかにより、比較した産地が少なければ、信頼性の低い結果と言える。黒曜石、安山岩などの主成分組成は、原産地ごとに大きな差はみられないが、不純物として含有される微量成分組成には異同があると考えられるため、微量成分を中心に元素分析を行い、これを産地を特定する指標とした。分類の指標とする元素組成を遺物について求め、あらかじめ、各原産地ごとに数十個の原石を分析して求めておいた各原石群の元素組成の平均値、分散などと遺物のそれを対比して、各平均値からの離れ具合(マハラノビスの距離)を求める。次に、古代人が採取した原石産出地点と現代人が分析のために採取した原石産出地点と異なる地点の可

能性は十分に考えられる。従って、分析した有限個の原石から産地全体の無限の個数の平均値と分散を推測して判定を行うホテリングのT²乗検定を行う。この検定を全ての産地について行い、ある原石遺物原材と同じ成分組成の原石はA産地では10個中に一個みられ、B産地では一万個中に一個、C産地では百万個中に一個、D産地では・・・一個と各産地毎に求められるような、客観的な検定結果からA産地の原石を使用した可能性が高いと判定する。即ち多変量解析の手法を用いて、各産地に帰属される確率を求めて産地を判定する。

今回分析した遺物は白滝村上白滝6遺跡出土の縄文時代の黒曜石製石器の20個、上白滝8遺跡出土の旧石器時代の黒曜石製石器35個、割片35個の合計90個の産地分析および上白滝6遺跡出土黒曜石製石器5個、上白滝8遺跡出土の黒曜石製石器25個、割片32個の合計62個について非破壊分析による水相厚の厚さの結果が得られたので報告する。

(2) 黒曜石原石の分析

黒曜石原石の自然面を打ち欠き、新鮮面を出し、塊状の試料を作り、エネルギー分散型蛍光X分析装置によって元素分析を行う。分析元素はAl, Si, K, Ca, Ti, Mn, Fe, Rb, Sr, Y, Zr, Nbの12元素をそれぞれ分析した。塊試料の形状差による分析値への影響を打ち消すために元素量の比を取り、それでもって産地を特定する指標とした。黒曜石は、Ca/K, Ti/K, Mn/Zr, Fe/Zr, Rb/Zr, Sr/Zr, Y/Zr, Nb/Zrの比量を産地を区別する指標をしてそれぞれ用いる。黒曜石の原産地は北海道、東北、北陸、東関東、中信高原、伊豆箱根、伊豆七島の神津島、山陰、九州の各地に分布する。調査を終えた原産地を図Ⅷ-7に示す。黒曜石原産地のほとんどすべてがつかさされている。元素組成によってこれら原石を分類し表Ⅷ-8~10に示す。この原石群に原石産地は不明の遺物で作った遺物群を加えると225個の原石群になる。ここでは北海道地域および一部の東北地域の産地について記述すると、白滝地域の原産地は、北海道紋別郡白滝村に位置し、鹿野北方2kmの採石場の赤石山の露頭、鹿野東方約2kmの幌加沢地点、また白土沢、八号沢などより転搬として黒曜石が採取できる。赤石山の大量の黒曜石は色に関係無く赤石山群(旧白滝第一群)にまとまる。また、あじさいの滝の露頭からは赤石山と肉眼観察では区別できない原石が採取でき、あじさい滝群を作った(旧白滝第二群)、また、八号沢の黒曜石原石と白土沢の転搬は梨肌の黒曜石で組成はあじさい滝群に似るが石肌で区別できる。幌加沢よりの転搬の中で70%は幌加沢群になりあじさい滝群と元素組成から両群を区別できず、残りの30%は赤石山群に一致する。置戸地域産原石は、北海道常呂郡置戸町の清水の沢林道より採取された原石の元素組成は置戸・所山群にまとまり、また同町の秋田林道で採取される原石は置戸山群にまとまる。留辺蘂町のケシヨマップ川一帯で採取される原石はケシヨマップ第一および第二群に分類される。また、白滝地域、ケシヨマップ、置戸地域産原石は、湧別川および常呂川に通じる流域にあり、内河川の流域で黒曜石の円礫が採取され、湧別川下流域から採取した黒曜石円礫247個の組成分類結果を表Ⅷ-11に示し、中ノ島、北見大橋間の常呂川から採取した37個の円礫の中には、独特の組成の原石も見られ、新しい原石群を追加し分類結果を表Ⅷ-12に示した。十勝三股産原石は、北海道河東郡上上幌町の十勝三股の十三ノ沢の谷筋および沢の中より原石が採取され、この原石の元素組成は十勝三股群にまとまる。この十勝三股産原石は十三ノ沢から音更川さらに十勝川に流れた可能性があり、十勝川から採取される黒曜石円礫の組成は、十勝三股産の原石の組成と相互に近似している。また、上上幌町のサンケオルベ川より採取される黒曜石円礫の組成も十勝三股産原石の組成と相互に近似している。これら組成の近似した原石の原産地は区別できず、遺物石材の産地分析でたとえ、この遺物の原石産地が十勝三股群に判定されたとしても、これら十勝三股、

表Ⅷ-8 各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値(%)

原産地/原石名	分析 試料番号	元素比										
		Ca/Al	Si	Th	3Ba	Zr	Y	80-Zr	Sr	Zr	30-Zr	50-Zr
北海道	外道 第一	114	0.476±0.016	0.127±0.005	0.020±0.000	2.011±0.063	0.014±0.002	0.274±0.02	0.120±0.017	0.024±0.019	0.033±0.002	0.431±0.016
	外道 第二	91	0.502±0.011	0.115±0.003	0.017±0.001	2.221±0.021	0.046±0.001	0.263±0.017	0.201±0.021	0.024±0.008	0.391±0.013	
	外道 第三	116	0.177±0.014	0.061±0.003	0.079±0.012	2.711±0.112	1.159±0.079	0.263±0.019	0.711±0.039	0.107±0.026	0.026±0.002	0.371±0.016
	白土 第一	27	0.148±0.008	0.077±0.002	0.160±0.015	3.019±0.182	1.505±0.086	0.097±0.014	0.157±0.011	0.077±0.013	0.027±0.002	0.368±0.016
	白土 第二	30	0.138±0.008	0.073±0.002	0.163±0.017	3.123±0.127	1.840±0.063	0.103±0.019	0.473±0.048	0.074±0.046	0.027±0.006	0.336±0.043
	網走 第一	25	0.131±0.009	0.053±0.001	0.069±0.015	2.923±0.107	1.791±0.077	0.101±0.016	0.491±0.012	0.102±0.012	0.027±0.002	0.369±0.047
	網走 第二	29	0.145±0.010	0.053±0.001	0.101±0.011	3.098±0.124	1.877±0.076	0.113±0.011	0.137±0.015	0.079±0.011	0.027±0.001	0.366±0.011
	おじき 第一	39	0.819±0.033	0.163±0.006	0.048±0.010	3.164±0.117	0.064±0.007	0.461±0.049	0.163±0.010	0.039±0.016	0.026±0.002	0.421±0.016
	おじき 第二	40	0.517±0.011	0.099±0.003	0.073±0.009	2.721±0.087	0.162±0.007	0.013±0.001	0.102±0.011	0.061±0.019	0.037±0.003	0.361±0.011
	文島 第一	47	0.229±0.011	0.096±0.006	0.088±0.016	2.470±0.282	0.526±0.180	0.796±0.066	0.220±0.013	0.033±0.002	0.026±0.001	0.133±0.011
文島 第二	48	0.105±0.012	0.142±0.005	0.072±0.011	2.705±0.117	0.101±0.005	0.428±0.011	0.178±0.022	0.022±0.012	0.046±0.011	0.311±0.011	
行橋 第一	62	0.676±0.036	0.136±0.006	0.071±0.012	2.043±0.163	0.722±0.041	0.819±0.016	0.301±0.012	0.033±0.018	0.036±0.001	0.111±0.011	
行橋 第二	61	0.719±0.017	0.072±0.006	0.078±0.011	1.611±0.068	0.905±0.037	0.126±0.007	0.113±0.011	0.027±0.001	0.027±0.001	0.341±0.011	
網走 第三	46	0.316±0.016	0.063±0.001	0.063±0.011	2.910±0.121	0.814±0.036	0.789±0.041	0.264±0.029	0.032±0.016	0.017±0.001	0.471±0.011	
網走 第四	31	0.213±0.010	0.112±0.006	0.077±0.010	3.614±0.099	0.707±0.045	0.124±0.012	0.213±0.012	0.068±0.016	0.025±0.001	0.321±0.012	
網走 第五	32	0.196±0.017	0.101±0.003	0.081±0.011	3.021±0.126	0.866±0.063	0.122±0.016	0.266±0.012	0.039±0.013	0.026±0.001	0.111±0.012	
網走 第六	45	0.200±0.006	0.126±0.003	0.043±0.006	3.043±0.062	0.828±0.034	0.434±0.049	0.176±0.017	0.044±0.019	0.036±0.017	0.412±0.016	
網走 第七	44	0.249±0.011	0.136±0.003	0.049±0.008	1.798±0.072	0.460±0.024	0.472±0.012	0.133±0.014	0.028±0.014	0.012±0.012	0.436±0.016	
網走 第八	43	0.148±0.007	0.115±0.007	0.027±0.002	1.691±0.134	0.360±0.021	0.910±0.036	0.130±0.017	0.011±0.012	0.019±0.001	0.177±0.013	
網走 第九	58	0.269±0.011	0.137±0.006	0.030±0.006	1.530±0.039	0.232±0.016	0.238±0.014	0.119±0.012	0.029±0.013	0.023±0.001	0.311±0.011	
網走 第十	38	0.291±0.017	0.110±0.006	0.048±0.011	3.012±0.098	0.807±0.041	0.443±0.029	0.182±0.013	0.034±0.015	0.011±0.001	0.362±0.012	
網走 第十一	48	0.275±0.016	0.110±0.011	0.021±0.011	3.552±0.106	0.297±0.028	0.626±0.027	0.167±0.017	0.037±0.019	0.036±0.013	0.391±0.012	
網走 第十二	41	0.196±0.011	0.101±0.003	0.018±0.011	3.021±0.126	0.866±0.063	0.122±0.016	0.213±0.012	0.039±0.013	0.026±0.001	0.361±0.012	
十勝	40	0.236±0.013	0.074±0.003	0.068±0.010	3.289±0.062	1.767±0.053	0.434±0.025	0.334±0.024	0.064±0.023	0.026±0.002	0.396±0.013	
十勝 第一	11	0.306±0.038	0.121±0.007	0.022±0.010	3.031±0.161	0.801±0.041	0.717±0.041	0.149±0.019	0.026±0.012	0.012±0.012	0.112±0.011	
十勝 第二	28	0.267±0.007	0.111±0.012	0.016±0.010	3.028±0.251	0.767±0.030	0.764±0.012	0.107±0.026	0.036±0.022	0.011±0.002	0.149±0.011	
十勝 第三	39	0.244±0.029	0.073±0.004	0.040±0.010	2.713±0.134	0.966±0.040	0.428±0.011	0.249±0.014	0.038±0.023	0.022±0.001	0.371±0.011	
十勝 第四	30	0.279±0.002	0.072±0.002	0.040±0.010	2.287±0.083	0.929±0.045	0.136±0.015	0.241±0.011	0.021±0.019	0.025±0.007	0.311±0.011	
十勝 第五	35	0.172±0.010	0.119±0.002	0.049±0.012	1.710±0.072	0.438±0.027	0.607±0.039	0.127±0.019	0.031±0.017	0.033±0.002	0.400±0.011	
十勝 第六	42	0.182±0.011	0.101±0.003	0.013±0.011	3.221±0.096	0.216±0.018	0.113±0.016	0.177±0.014	0.067±0.018	0.026±0.002	0.421±0.011	
十勝 第七	38	0.260±0.010	0.087±0.003	0.110±0.012	1.876±0.142	1.743±0.211	1.131±0.267	0.269±0.066	0.033±0.013	0.011±0.001	0.343±0.011	
十勝 第八	32	0.298±0.013	0.072±0.002	0.060±0.006	1.977±0.066	1.291±0.046	0.319±0.014	0.111±0.013	0.019±0.012	0.021±0.002	0.311±0.011	
十勝 第九	27	0.289±0.002	0.132±0.006	0.231±0.013	2.918±0.063	0.807±0.044	1.106±0.015	0.269±0.016	0.179±0.013	0.038±0.001	0.190±0.011	
十勝 第十	36	0.260±0.006	0.087±0.001	0.047±0.011	3.021±0.098	0.627±0.018	0.033±0.002	0.356±0.013	0.033±0.014	0.024±0.002	0.371±0.011	
十勝 第十一	41	0.177±0.001	0.088±0.010	0.012±0.011	3.791±0.018	1.311±0.045	0.912±0.019	0.497±0.019	0.031±0.016	0.027±0.001	0.381±0.011	
宮城県	34	0.229±0.011	0.089±0.003	0.049±0.012	2.358±0.257	1.138±0.075	0.223±0.015	0.217±0.015	0.027±0.015	0.026±0.002	0.362±0.011	
宮城県 第一	9	0.242±0.006	0.124±0.006	0.013±0.011	3.221±0.096	0.216±0.018	0.113±0.016	0.177±0.014	0.067±0.018	0.026±0.002	0.421±0.011	
宮城県 第二	31	0.241±0.017	0.112±0.007	0.221±0.012	2.761±0.113	0.961±0.012	1.901±0.046	0.291±0.010	0.101±0.012	0.027±0.002	0.361±0.011	
宮城県 第三	47	0.252±0.017	0.069±0.006	0.079±0.011	3.518±0.121	1.113±0.049	0.368±0.146	0.388±0.037	0.019±0.016	0.026±0.002	0.381±0.011	
宮城県 第四	26	0.473±0.019	0.210±0.148	1.267±0.217	3.648±1.946	0.040±0.021	1.708±0.162	0.133±0.011	0.148±0.011	0.013±0.002	0.436±0.011	
宮城県 第五	42	0.213±0.016	0.082±0.006	0.077±0.012	2.519±0.144	1.112±0.043	0.238±0.007	0.288±0.015	0.047±0.019	0.028±0.014	0.381±0.011	
宮城県 第六	11	0.105±0.212	0.214±0.012	0.141±0.018	1.976±0.448	0.089±0.014	1.621±0.111	0.121±0.012	0.027±0.011	0.111±0.011	0.039±0.011	
宮城県 第七	41	0.294±0.006	0.082±0.006	0.229±0.019	2.548±0.148	0.161±0.011	0.820±0.017	0.240±0.019	0.068±0.014	0.026±0.012	0.260±0.011	
宮城県 第八	9	0.242±0.006	0.102±0.006	0.215±0.011	1.671±0.071	1.467±0.072	0.309±0.016	0.286±0.019	0.016±0.014	0.026±0.001	0.361±0.011	
宮城県 第九	31	0.292±0.012	0.123±0.007	0.142±0.011	1.996±0.096	0.160±0.019	1.027±0.017	0.276±0.019	0.112±0.013	0.013±0.002	0.143±0.011	
宮城県 第十	41	0.265±0.008	0.116±0.005	0.040±0.011	1.400±0.034	0.360±0.023	0.447±0.012	0.212±0.016	0.015±0.017	0.023±0.012	0.440±0.011	
山形県	27	0.438±0.032	0.181±0.012	0.032±0.002	1.214±0.061	0.385±0.016	0.131±0.017	0.209±0.013	0.013±0.011	0.011±0.001	0.381±0.011	
山形県 第一	29	0.527±0.032	0.281±0.010	0.028±0.002	1.751±0.027	0.386±0.013	0.421±0.016	0.238±0.021	0.015±0.011	0.011±0.001	0.291±0.011	
山形県 第二	26	0.286±0.017	0.117±0.018	0.016±0.006	1.717±0.072	0.111±0.019	0.420±0.012	0.220±0.015	0.019±0.013	0.011±0.001	0.361±0.011	
山形県 第三	21	0.114±0.006	0.109±0.017	0.013±0.011	2.548±0.148	0.116±0.049	0.828±0.017	0.240±0.019	0.059±0.013	0.017±0.011	0.310±0.011	
山形県 第四	32	0.429±0.252	0.139±0.110	0.178±0.017	1.127±0.118	0.359±0.016	1.264±0.019	0.112±0.016	0.037±0.018	0.027±0.002	0.730±0.012	
山形県 第五	11	0.247±0.007	0.100±0.008	0.041±0.006	3.021±0.126	0.802±0.010	0.307±0.046	0.149±0.012	0.023±0.011	0.016±0.002	0.310±0.011	
山形県 第六	30	0.380±0.012	0.136±0.003	0.162±0.011	1.739±0.079	0.471±0.027	0.689±0.017	0.142±0.017	0.006±0.026	0.013±0.012	0.310±0.011	
山形県 第七	21	0.317±0.014	0.170±0.008	0.114±0.011	1.832±0.069	0.617±0.039	0.616±0.016	0.303±0.011	0.017±0.016	0.013±0.007	0.171±0.011	
山形県 第八	49	0.222±0.020	0.229±0.005	0.128±0.011	1.865±0.086	0.611±0.030	0.665±0.015	0.251±0.029	0.049±0.030	0.015±0.001	0.171±0.011	
山形県 第九	38	0.246±0.234	0.219±0.027	0.228±0.016	3.392±0.622	0.648±0.011	1.712±0.061	0.212±0.017	0.023±0.016	0.148±0.006	0.128±0.011	
山形県 第十	11	0.242±0.017	0.113±0.006	0.013±0.011	2.712±0.101	1.875±0.010	0.674±0.023	0.362±0.016	0.022±0.016	0.015±0.001	0.310±0.011	
山形県 第十一	31	0.279±0.011	0.081±0.003	0.016±0.011	1.129±0.027	0.173±0.006	0.829±0.016	0.112±0.009	0.011±0.011	0.011±0.001	0.361±0.011	
山形県 第十二	32	0.225±0.014	0.106±0.003	0.042±0.016	2.228±0.764	0.985±0.066	0.120±0.019	0.131±0.013	0.010±0.011	0.011±0.001	0.606±0.011	
山形県 第十三	11	0.380±0.012	0.136±0.003	0.162±0.011	1.739±0.079	0.471±0.027	0.689±0.017	0.142±0.017	0.006±0.026	0.013±0.012	0.310±0.011	
山形県 第十四	21	0.317±0.014	0.170±0.008	0.114±0.011	1.832±0.069	0.617±0.039	0.616±0.016	0.303±0.011	0.017±0.016	0.013±0.007	0.171±0.011	
山形県 第十五	49	0.222±0.020	0.229±0.005	0.128±0.011	1.865±0.086	0.611±0.030	0.665±0.015	0.251±0.029	0.049±0.0			

音更川、十勝川、サンケオルベ川の複数の地点を考えなければならない。しかし、この複数の産地をまとめて、十勝地域としても、古代の地域間の交流を考察する場合、問題はないと考えられる。また、清水町、新得町、鹿追町にかけて広がる美瑛台地から産出する黒曜石から2個の美瑛原石群が作られた。この原石は産地近傍の遺跡で使用されている。名寄市の智南地域、智恵文川および忠烈布貯水池から上名寄にかけて黒曜石の円礫が採集される。これらを組成で分類すると88%は名寄第一群に、また12%は名寄第二群にそれぞれなる。旭川市の近文台、台場、嵐山遺跡付近および南文台北部などから採集される黒曜石の円礫は、20%が近文台第一群、69%が近文台第二群、11%が近文台第三群それぞれ分類され、台場の砂礫採取場からは近文台諸群に一致するもの以外に、黒、灰色系円礫も見られ、台場第一、二群を作った。また、滝川市江別乙で採集される親指大の黒曜石の礫は、組成で分類すると約79%が滝川群にまとまり、21%が近文台第二、三群に組成が一致する。滝川群に一致する組成の原石は、北竜市忠袋別川増木社からも採取される。秩父別町の雨竜川に開析された平野を見下す丘陵中腹の緩斜面から小円礫の黒曜石原石が採取される。産出状況と礫状は滝川産黒曜石と同じで、秩父別第一群は滝川第一群に組成が一致し、第二群も滝川第二群に一致しさらに近文台第二群にも一致する。赤井川産原石は、北海道余市郡赤井川村の土木沢上流域およびこの付近の山腹より採取できる。ここの原石には、少球類の列が何層にも重なり石器の原材料として良質とはいえない原石で赤井川第一群を、また、球類の非常に少ない握り拳半分大の良質な原石などで赤井川第二群を作った。これら第一、二群の元素組成は非常に似ていて、遺物を分析したときしばしば、赤井川両群に同定される。豊泉産原石は豊浦町から産出し、組成によって豊泉第一、二群の2群に区別され、豊泉第二群の原石は珪石が少なく良質な黒曜石である。豊泉産原石の使用圏は道南地方に広がり、一部は青森県に伝播している。また、青森県教育庁の斎藤岳氏提供の奥尻島幌内川産黒曜石の原石群が確立されている。出来島群は青森県西津軽郡木造町七里長浜の海岸部より採取された円礫の原石で作られた群で、この出来島群と相互に似た組成の原石は、岩木山の西麓を流れ鯉ヶ沢地区に流入する中村川の上流で1点採取され、また、青森市の鶴ヶ坂および西津軽郡森田村鶴ばみ地区より採取されている。青森県西津軽郡深浦町の海岸と同町の六角沢およびこの沢筋に位置する露頭より採取された原石で六角沢群をまた、八森山産出の原石で八森山群をそれぞれ作った。深浦の両群と相互に似た群は青森市戸門地区より産出する黒曜石で作られた戸門第二群である。戸門第一群、成田群、浪岡町泉民の森地区より産出の大釈迦群（旧浪岡群）は赤井川産原石の第一、二群と弁別は可能であるが原石の組成は比較的似ている。戸門、大釈迦産黒曜石の産出量は非常に少なく、希に石礫が作れる大きさがみられる程度であるが、鷹森群は鷹森山麓の成田地区産出の黒曜石の中には5 cm大のものもみられる。また、考古学者の話題になる下湯川産黒曜石についても原石群を作った。産地分析は、日本、近隣国を含めた産地の合計225個の原石群と比較し、必要条件と十分条件を求めて遺物の原石産地を同定する。

(3) 結果と考察

遺跡から出土した黒曜石製石器、石片は風化に対して安定で、表面に薄い水和層が形成されているにすぎないため、表面の泥を水洗するだけで完全な非破壊分析が可能であると考えられる。黒曜石製の石器で、水和層の影響を考慮するとすれば、軽い元素の分析ほど表面分析になるため、水和層の影響を受けやすいと考えられる。Ca/K、Ti/Kの両元素比量を除いて産地分析を行った場合、また除かず産地分析を行った場合、いずれの場合にも同定される産地は同じである。他の元素比量についても風化の影響を完全に否定することができないので、得られた確率の数値にはや、不確実さを伴うが、遺物の石材産地の判定を誤るようなことはない。また、安山岩製の遺物は、白っぽく表面が風

化しているために、アルミナ粉末を風化面に吹き付け、新鮮面を出して分析している。

今回分析した上白滝6、上白滝8遺跡出土黒曜石製遺物の分析結果を表VII-13・14に示した。石器の分析結果から石材産地を同定するためには数理統計の手法を用いて原石群との比較をする。説明を簡単にするためRb/Zrの一変量だけを考えると、表VII-13の試料番号88234番の遺物ではRb/Zrの値は0.805で、所山群の[平均値] ± [標準偏差]は、 0.824 ± 0.034 である。遺物と原石群の差を標準偏差(σ)を基準にして考えると遺物は原石群から 0.6σ 離れている。ところで所山群原産地から100個の原石を採ってきて分析すると、平均値から $\pm 0.6\sigma$ のずれより大きいものが54個ある。すなわち、この遺物が、所山群の原石から作られていたと仮定しても、 0.6σ 以上離れる確率は54%であると言える。だから、所山群の平均値から 0.6σ しか離れていないときには、この遺物が所山群の原石から作られたものでないとは、到底言い切れない。ところがこの遺物を赤石山群と比較すると、赤石山群の平均値からの隔たりは、約 9σ である。これを確率の言葉で表現すると、赤石山の原石を採ってきて分析したとき、平均値から 9σ 以上離れている確率は、十億分の一であると言える。このように、十億個に一個しかないような原石をたまたま採取して、この遺物が作られたとは考えられないから、この遺物は、赤石山の原石から作られたものではないと断定できる。これらのことを簡単にまとめて言うと、「この遺物は所山群に54%の確率で帰属され、信頼限界の0.1%を満たしていることから所山群産原石が使用されたと同定され、さらに赤石山群に一千万分の1%の低い確率で帰属され、信頼限界の0.1%を満たさないことから赤石山の原石でないと同定される」。遺物が1ヶ所の産地(所山群産地)と一致したからと言って、例えば所山群と赤石山群の原石は成分が異なっている、分析している試料は原石でなく遺物で、さらに分析誤差が大きくなる不定形(非破壊分析)であることから、他の産地に一致しないとは言えない、同種岩石の中での分類である以上、他の産地に一致する可能性は推測される。即ちある産地(所山群産地)に一致し必要条件を満足したと言っても一致した産地の原石とは限らないために、帰属確率による判断を表VII-8~10の225個すべての原石群について行い十分条件を求め、低い確率で帰属された原石群の原石は使用していないとして消していくことにより、はじめて所山群産地の石材のみが使用されていると判定される。実際はRb/Zrといった唯一つの変量だけでなく、前述した8つの変量で取り扱うので変量間の相関を考慮しなければならない。

例えば、A原産地のA群でCa元素とRb元素との間に相関がありCaの量を計ればRbの量は分析しなくても分かるようなときは、A群の石材で作られた遺物であれば、A群と比較したとき、Ca量が一致すれば当然Rb量も一致するはずである。したがって、もしRb量だけが少しづれている場合には、この試料はA群に属していないと言わなければならない。このことを数量的に導き出せるようにしたのが相関を考慮した多変量統計の手法であるマハラノビスの距離を求めて行うホテリングのT₂乗検定である。これによって、それぞれの群に帰属する確率を求めて産地を同定する^{4) 5)}。産地の同定結果は1個の遺物に対して、黒曜石製では225個の推定確率結果が得られている。今回産地分析を行った遺物の産地推定結果については低い確率で帰属された原産地の推定確率は紙面の都合上記入を省略しているが、本研究ではこれら産地の可能性が非常に低いことを確認したという非常に重要な意味を含んでいる。すなわち所山産原石と判定された遺物に対して、カムチャッカ原産石とかロシア、北朝鮮の遺跡で使用されている原石および信州和田峠産の原石の可能性を考える必要がないという結果であり、ここでは高い確率で同定された産地のみの結果を表VII-15・16に記入した。原石群を作った原石試料は直径3 cm以上であるが、多数の試料を処理するために、小さな遺物試料の分析に多くの時間をかけられない事情があり、短時間で測定を打ち切る。このため、得られた遺物の測定値には、大きな誤差範囲が含まれ、ときには原石群の元素組成のパラツキの範囲を越えて大きくなる。し

表VII-13 上白滝8・上白滝6遺跡出土黒曜石製遺物の元素比分析結果(1)

分析 番号	元 素 比									
	Cu/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K
88234	0.321	0.130	0.038	1.886	0.805	0.449	0.216	0.043	0.034	0.397
88235	0.311	0.124	0.052	1.835	0.833	0.470	0.159	0.024	0.033	0.369
88236	0.315	0.116	0.054	1.915	0.888	0.481	0.180	0.061	0.035	0.411
88237	0.299	0.114	0.039	1.724	0.821	0.439	0.186	0.024	0.025	0.354
88238	0.251	0.069	0.066	2.110	0.915	0.388	0.251	0.054	0.026	0.345
88239	0.483	0.123	0.025	1.994	0.610	0.539	0.128	0.018	0.031	0.435
88240	0.491	0.129	0.031	1.965	0.614	0.542	0.099	0.009	0.030	0.418
88241	0.488	0.132	0.035	1.922	0.597	0.534	0.067	0.011	0.037	0.423
88242	0.249	0.070	0.084	2.234	1.022	0.433	0.252	0.031	0.026	0.353
88243	0.152	0.026	0.129	2.996	1.762	0.151	0.533	0.125	0.028	0.334
88244	0.334	0.128	0.041	1.887	0.810	0.476	0.204	0.026	0.034	0.391
88245	0.340	0.118	0.055	1.822	0.819	0.439	0.162	0.015	0.033	0.397
88246	0.127	0.021	0.112	2.863	1.845	0.105	0.483	0.066	0.030	0.295
88247	0.309	0.118	0.051	1.900	0.826	0.451	0.181	0.040	0.026	0.371
88248	0.100	0.016	0.108	2.899	1.693	0.111	0.402	0.096	0.021	0.253
88264	0.328	0.127	0.050	1.747	0.779	0.428	0.211	0.014	0.031	0.388
88265	0.341	0.120	0.051	1.795	0.793	0.431	0.131	0.031	0.037	0.396
88266	0.216	0.063	0.087	2.325	1.121	0.426	0.309	0.037	0.030	0.357
88267	0.324	0.128	0.042	1.776	0.840	0.435	0.185	0.020	0.031	0.393
88268	0.316	0.121	0.041	1.939	0.811	0.469	0.153	0.000	0.033	0.394
63850	0.183	0.051	0.061	2.175	1.118	0.408	0.323	0.069	0.020	0.291
63851	0.162	0.051	0.078	2.038	1.115	0.417	0.283	0.067	0.019	0.288
63852	0.228	0.066	0.073	2.351	1.176	0.401	0.404	0.049	0.034	0.406
88256	0.157	0.027	0.068	2.751	1.673	0.103	0.445	0.065	0.030	0.340
88257	0.191	0.063	0.075	2.909	1.362	0.271	0.347	0.058	0.031	0.338
88258	0.134	0.050	0.075	2.558	1.362	0.274	0.320	0.039	0.023	0.274
88259	0.325	0.131	0.028	1.749	0.801	0.429	0.172	0.017	0.031	0.380
88260	0.259	0.067	0.087	2.293	0.993	0.420	0.258	0.067	0.032	0.354
88261	0.330	0.137	0.040	1.724	0.798	0.422	0.186	0.054	0.027	0.377
88262	0.162	0.024	0.072	2.559	1.579	0.098	0.486	0.098	0.030	0.340
88263	0.667	0.136	0.052	2.639	0.621	0.701	0.129	0.037	0.036	0.403
63946	0.160	0.057	0.078	2.736	1.404	0.257	0.301	0.050	0.028	0.348
63947	0.171	0.065	0.074	2.751	1.352	0.283	0.392	0.077	0.025	0.363
63948	0.177	0.057	0.054	2.623	1.387	0.278	0.318	0.075	0.023	0.345
63952	0.168	0.060	0.092	2.783	1.349	0.276	0.327	0.040	0.026	0.368
63953	0.161	0.060	0.076	2.768	1.382	0.287	0.316	0.035	0.024	0.366
63954	0.173	0.062	0.096	2.907	1.326	0.283	0.348	0.068	0.023	0.370
63955	0.179	0.059	0.065	2.831	1.299	0.263	0.363	0.069	0.024	0.351
63956	0.167	0.062	0.069	2.621	1.315	0.272	0.328	0.047	0.029	0.370
63957	0.175	0.063	0.071	2.902	1.332	0.295	0.338	0.053	0.027	0.362
63960	0.168	0.062	0.069	2.934	1.399	0.290	0.337	0.050	0.030	0.366
63961	0.164	0.058	0.075	2.936	1.331	0.249	0.372	0.121	0.030	0.366
63962	0.164	0.060	0.081	2.995	1.409	0.319	0.369	0.035	0.028	0.352
88269	0.167	0.061	0.074	2.760	1.271	0.300	0.286	0.052	0.033	0.369
88270	0.172	0.057	0.070	2.658	1.293	0.266	0.397	0.017	0.028	0.342
88271	0.197	0.059	0.067	2.544	1.261	0.258	0.371	0.037	0.028	0.341
88272	0.182	0.066	0.074	2.782	1.352	0.309	0.346	0.048	0.029	0.336
88273	0.196	0.062	0.077	2.642	1.274	0.263	0.326	0.059	0.031	0.350
88274	0.178	0.060	0.070	3.063	1.418	0.326	0.377	0.038	0.029	0.366
88275	0.196	0.058	0.093	2.662	1.290	0.251	0.318	0.039	0.027	0.347

表VII-14 上白滝 8・上白滝 6 遺跡出土黒曜石製遺物の元素比分析結果(2)

分析 番号	元 素 比									
	Cu/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K
88276	0.194	0.060	0.075	2.783	1.404	0.320	0.403	0.103	0.032	0.336
88277	0.182	0.060	0.063	2.714	1.301	0.294	0.400	0.080	0.034	0.351
88278	0.186	0.059	0.050	2.783	1.263	0.264	0.317	0.068	0.028	0.340
88279	0.184	0.061	0.091	2.744	1.333	0.282	0.350	0.045	0.030	0.337
88280	0.190	0.059	0.073	2.959	1.357	0.268	0.284	0.020	0.032	0.349
88281	0.177	0.058	0.092	3.188	1.382	0.289	0.287	0.036	0.028	0.376
88282	0.144	0.025	0.143	3.097	1.812	0.122	0.540	0.045	0.035	0.347
88283	0.184	0.062	0.052	2.863	1.343	0.277	0.326	0.066	0.027	0.345
88284	0.178	0.062	0.074	2.650	1.250	0.282	0.340	0.088	0.029	0.350
88285	0.191	0.059	0.078	2.672	1.324	0.264	0.327	0.046	0.034	0.344
88286	0.189	0.056	0.071	2.887	1.340	0.297	0.351	0.038	0.026	0.343
88287	0.178	0.062	0.056	2.781	1.410	0.298	0.377	0.084	0.036	0.348
88288	0.167	0.058	0.069	2.971	1.392	0.295	0.372	0.000	0.036	0.359
88289	0.683	0.136	0.056	2.797	0.603	0.758	0.203	0.020	0.034	0.416
88290	0.195	0.057	0.089	2.688	1.349	0.311	0.349	0.054	0.025	0.349
88291	0.152	0.056	0.089	2.770	1.349	0.305	0.439	0.044	0.027	0.322
88292	0.190	0.061	0.075	2.757	1.307	0.268	0.374	0.077	0.025	0.342
88293	0.194	0.058	0.092	2.633	1.299	0.286	0.388	0.039	0.030	0.337
88294	0.164	0.062	0.063	2.640	1.360	0.286	0.382	0.016	0.027	0.347
88295	0.171	0.064	0.090	2.700	1.316	0.285	0.367	0.029	0.026	0.340
88296	0.193	0.063	0.090	2.627	1.322	0.300	0.446	0.000	0.027	0.345
88297	0.201	0.063	0.062	2.629	1.332	0.256	0.362	0.089	0.029	0.359
88298	0.193	0.057	0.073	2.700	1.297	0.271	0.371	0.062	0.028	0.346
88299	0.182	0.054	0.082	2.645	1.291	0.277	0.349	0.065	0.029	0.348
88300	0.196	0.061	0.085	2.853	1.370	0.253	0.351	0.104	0.029	0.348
88301	0.191	0.060	0.053	2.831	1.339	0.305	0.354	0.075	0.027	0.345
88302	0.203	0.057	0.077	2.326	1.231	0.294	0.350	0.063	0.027	0.350
88303	0.203	0.061	0.063	2.626	1.277	0.273	0.329	0.076	0.033	0.358
88304	0.177	0.062	0.055	2.230	1.230	0.252	0.313	0.035	0.027	0.321
88305	0.219	0.060	0.072	2.310	1.183	0.413	0.392	0.017	0.030	0.372
88306	0.173	0.063	0.082	2.532	1.234	0.289	0.400	0.088	0.030	0.342
88307	0.191	0.062	0.081	2.692	1.291	0.259	0.379	0.085	0.028	0.331
88308	0.189	0.065	0.072	2.221	1.196	0.245	0.303	0.076	0.028	0.326
JG-1	0.801	0.213	0.074	3.952	0.973	1.280	0.278	0.074	0.030	0.316

JG-1 : 標準試料-Ando, A., Kurawawa, H., Ohmori, T. & Takeda, E. 1974 compilation of data on the GJS geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. *Geochemical Journal*, Vol. 8 175-192 (1974)

たがって、小さな遺物の産地推定を行ったときに、判定の信頼限界としている0.1%に達しない確率を示す場合が比較的多くみられる。この場合には、原石産地(確率)の欄の確率値に替えて、マハラノビスの距離D 2乗の値を記した。この遺物については、記入されたD 2乗の値が原石群の中で最も小さなD 2乗値で、この値が小さい程、遺物の元素組成はその原石群の組成と似ていると言えるため、推定確率は低いが、そこの原石産地と考えてほぼ間違いないと判断されたものである。白滝地域産黒曜石の中で、赤石山産原石の割れ面はガラス光沢を持っているが、元素組成が相互に似たあじさい滝、八号沢、白土沢、靫加沢などの群の原石は、あじさい滝、靫加沢産はガラス光沢を示し、八号沢、白土沢産は梨肌を示すため、原石産地の判定に梨肌か、ガラス光沢かを指標に加えた。また、赤井川および十勝産原石を使用した遺物の判定は複雑である。これは青森市戸門、鷹森山地区、浪岡町大沢廻より産出する黒曜石で作られた戸門第一、鷹森山、大沢廻の各群の組成が赤井川第一、二群、十勝三

表Ⅴ-15 上白滝8・上白滝6遺跡出土黒曜石製遺物の原材産地推定結果(1)

分析番号	試料番号	遺跡名	ブロック	グリッド	遺物番号	母体番号	組合番号	検出番号	原石産地(産率)	判定	希破壊	希破壊
63850	SHIRA X9	上白滝8	59	I47	5	-	-	N-544-13	脱熱?風化程度低い【十勝二群(45%)、奥火山(7%)、戸部1群(8%)】	十勝	なし	なし
63851	SHIRA X10	上白滝8	59	I47	29	-	-	N-544-12	脱熱?風化程度低い【十勝二群(1%)、戸部1群(8%)】	十勝	なし	なし
63852	SHIRA X11	上白滝8	17	K02	252	-	-	N-209-1	十勝二群(36%)	十勝	なし	なし
63946	SHERA W5	上白滝8	9	L14	97	97	251	-	赤石山(58%)	赤石山	なし	石核
63947	SHIRA W6	上白滝8	9	L43	69	-	-	N-136-1	赤石山(73%)	赤石山	なし	石核
63948	SHERA W7	上白滝8	9	L14	52	91	248	N-136-6	赤石山(27%)	赤石山	なし	石核
63952	SHIRA W11	上白滝8	10	N48	99	-	108	N-181-14	赤石山(94%)	赤石山	なし	削片
63953	SHERA W12	上白滝8	10	N17	145	-	50158	N-152-23	赤石山(82%)	赤石山	なし	新石器
63954	SHIRA W13	上白滝8	10	O48	23	-	-	N-185-32	赤石山(68%)	赤石山	なし	石核
63955	SHERA W11	上白滝8	17	H64	220	-	-	N-216-104	赤石山(67%)	赤石山	なし	新石器
63958	SHIRA W15	上白滝8	17	I64	941	-	2639	N-216-111	赤石山(96%)	赤石山	なし	新石器
63957	SHERA W16	上白滝8	17	J64	80	-	2642	N-216-106	赤石山(69%)	赤石山	なし	新石器
63960	SHIRA W19	上白滝8	61	N14	3	-	51212	N-555-19	赤石山(70%)	赤石山	なし	石核
63961	SHERA W20	上白滝8	61	O17	17	-	-	N-554-1	赤石山(7%)	赤石山	なし	新石器
63962	SHIRA W21	上白滝8	61	O17	13	-	2730	N-554-7	赤石山(28%)	赤石山	なし	新石器
88224	SHERA X17	上白滝6	5	X17	28	-	-	V-11-23	所山(45%)、常呂川第一群(8%)、滝川第二群(3%)	所山	なし	撻器
88225	SHIRA X18	上白滝6	5	W17	88	-	50083	V-11-25	所山(49%)、常呂川第一群(14%)、滝川第二群(6%)	所山	なし	撻器
88226	SHERA X19	上白滝6	5	W17	87	-	-	V-11-21	所山(30%)、滝川第二群(21%)、常呂川第一群(11%)	所山	なし	撻器
88227	SHIRA X19	上白滝6	5	W17	12	-	-	V-11-27	常呂川第一群(85%)、KS遺物群(2%)、滝川第二群(6%)、所山(2%)	所山	なし	新石器
88228	SHERA X15	上白滝6	5	W17	90	-	-	V-10-1	赤井川第一群(39%)、赤井川第二群(12%)、大沢原(1%)	赤井川	なし	石核
88229	SHIRA X19	上白滝6	5	W17	6	-	-	V-10-3	名寄第一群(60%)、美登第一群(0.4%)	名寄	なし	石核
88240	SHERA X15	上白滝6	5	W17	92	-	-	V-10-2	名寄第一群(57%)	名寄	なし	石核
88241	SHIRA X15	上白滝6	5	W17	7	-	-	V-10-4	名寄第一群(4%)	名寄	なし	石核
88242	SHERA X15	上白滝6	5	W17	8	-	-	V-10-5	赤井川第一群(94%)、赤井川第二群(8%)、大沢原(10%)、戸部第一群(1%)	赤井川	なし	石核
88243	SHIRA X16	上白滝6	5	X17	21	-	50081	V-12-38	あじさい滝(8%)、八号沢(2%)	あじさい滝	なし	石刃
88244	SHERA X15	上白滝6	5	W16	15	-	-	V-12-10	所山(47%)、滝川第二群(12%)、常呂川第一群(6%)	所山	なし	石刃
88245	SHIRA X16	上白滝6	5	X16	61	-	-	V-12-42	所山(14%)、常呂川第一群(6%)、滝川第二群(3%)	所山	なし	石刃
88246	SHERA X19	上白滝6	5	V17	20	-	50082	V-12-15	戸上沢(42%)、8号沢(12%)、あじさい滝(15%)、観加沢(11%)	あじさい滝	なし	石刃
88247	SHIRA X16	上白滝6	5	Y16	1	-	-	V-12-33	常呂川第一群(73%)、所山(18%)、滝川第二群(5%)	所山	なし	撻器
88248	SHERA X16	上白滝6	5	Y17	17	-	-	V-12-31	8号沢(1%)、あじさい滝(1%)、観加沢(1%)	あじさい滝	なし	撻器
88258	SHIRA X16	上白滝6	6	I59	142	38	141	-	あじさい滝(30%)、観加沢(23%)、八号沢(1%)、白1沢(0.1%)	あじさい滝	なし	撻片
88257	SHERA X17	上白滝6	3	J65	1	17	31	-	赤石山(62%)	赤石山	なし	撻片
88258	SHIRA X17	上白滝6	9	K14	14	87	244	-	赤石山(0.4%)	赤石山	なし	撻片
88259	SHERA X17	上白滝6	-	K33	I-54	-	-	N-133-163	所山(63%)、常呂川第一群(16%)、滝川第二群(1%)	所山	なし	撻片
88260	SHIRA X17	上白滝6	44	L32	160	-	-	N-429-119	赤井川第一群(87%)、赤井川第二群(3%)、大沢原(2%)、十勝三群(0.2%)	赤井川	なし	撻器
88261	SHERA X17	上白滝6	46	L34	33	-	-	N-136-128	所山(67%)、常呂川第一群(10%)、滝川第二群(2%)	所山	なし	撻器
88262	SHIRA X17	上白滝6	37	K57	125	-	-	N-429-126	観加沢(6%)、あじさい滝(3%)、8号沢(0.8%)	あじさい滝	なし	撻器
88263	SHERA X17	上白滝6	46	M31	11	-	-	N-136-131	クシャマップ第二群(49%)、内輪第一群(2%)、戸部第一群(1%)	クシャマップ	なし	撻器
88264	SHERA H10	上白滝6	-	W17	91	-	-	V-11-26	所山(29%)、常呂川第一群(30%)、滝川第二群(5%)	所山	なし	新石器
88265	SHERA H10	上白滝6	9	W17	9	-	-	V-10-7	所山(11%)、常呂川第一群(7%)、滝川第二群(1%)	所山	なし	石刃
88268	SHIRA H11	上白滝6	5	W16	56	-	-	V-10-11	十勝三群(6%)、大沢原(3%)、奥火山(2%)	十勝	なし	石刃
88267	SHERA H12	上白滝6	5	W17	11	-	50085	V-10-19	所山(82%)、常呂川第一群(15%)、滝川第二群(6%)	所山	なし	新石器
88268	SHIRA H13	上白滝6	-	W17	89	-	-	V-12-30	所山(2%)、常呂川第一群(1%)、滝川第二群(0.5%)	所山	なし	撻器
88269	SHERA H11	上白滝8	1	I66	374	1	1	-	赤石山(15%)	赤石山	なし	撻片
88270	SHIRA H15	上白滝8	1	I66	365	4	4	-	赤石山(24%)	赤石山	なし	撻片
88271	SHERA H16	上白滝8	1	I67	229	7	7	-	赤石山(42%)、ST139遺物群(0.2%)	赤石山	なし	撻片
88272	SHIRA H17	上白滝8	5	M62	390	21	47	-	赤石山(58%)、ST139遺物群(0.2%)	赤石山	なし	撻片
88273	SHERA H18	上白滝8	5	M63	1095	25	64	-	赤石山(82%)、ST139遺物群(0.3%)	赤石山	なし	撻片
88274	SHIRA H19	上白滝8	5	N64	55	30	68	-	赤石山(7%)	赤石山	なし	撻片
88275	SHERA H19	上白滝8	5	L62	849	36	74	-	赤石山(24%)	赤石山	なし	撻片
88276	SHIRA H21	上白滝8	6	J58	123	49	116	-	赤石山(35%)	赤石山	なし	撻片

表VII-16 上白滝8・上白滝6遺跡出土黒曜石製遺物の原産地推定結果(2)

分析番号	試料番号	遺物名	プロット	グリッド	遺物番号	分析番号	検出番号	検出番号	検出番号	原産地推定(確率)	判定	遺物種類
88277	SHIRA H122	上白滝6	6	J59	206	31	130	-	-	赤石山(66%)	赤石山	調片
88278	SHIRA H123	上白滝6	6	H56	19	60	161	-	-	赤石山(30%)	赤石山	調片
88279	SHIRA H124	上白滝6	8	H36	151	69	176	-	-	赤石山(92%)	赤石山	調片
88280	SITIRA H125	上白滝6	8	I56	621	70	177	-	-	赤石山(7%)	赤石山	調片
88281	SHIRA H126	上白滝6	9	K45	26	86	242	-	-	赤石山(1%)	赤石山	調片
88282	SITIRA H127	上白滝6	10	O18	33	73	180	-	-	あじさい沢(19%), 八号沢(11%), 梶加沢(2%), 白土沢(0.1%)	あじさい沢	調片
88283	SHIRA H128	上白滝6	12	Q11	1	459	378	-	-	赤石山(41%)	赤石山	調片
88284	SITIRA H129	上白滝6	12	P42	6	462	285	-	-	赤石山(91%)	赤石山	調片
88285	SHIRA H130	上白滝6	12	P12	9	465	289	-	-	赤石山(81%), ST139遺物群(0.2%)	赤石山	調片
88286	SITIRA H131	上白滝6	32	T18	130	360	1464	-	-	赤石山(33%)	赤石山	調片
88287	SHIRA H132	上白滝6	34	H37	1952	259	1456	-	-	赤石山(49%)	赤石山	調片
88288	SHIRA H133	上白滝6	33	I157	1620	289	1357	-	-	赤石山(7%)	赤石山	調片
88289	SHIRA H134	上白滝6	21	N64	48	214	1321	N-308-59	ケショマップ第二群(32%), FR2遺物群(10%), FR3遺物群(%)	ケショマップ	調片	
88290	SHIRA H135	上白滝6	27	O60	220	451	2038	N-309-61	赤石山(45%)	赤石山	調片	
88291	SHIRA H136	上白滝6	17	J64	53	-	2657	N-221-193	赤石山(3%)	赤石山	調片	
88292	SHIRA H137	上白滝6	-	J69	F-3	-	-	N-677-33	赤石山(83%)	赤石山	断面片	
88293	SHIRA H138	上白滝6	-	K74	I-1	-	-	N-577-27	赤石山(35%)	赤石山	断面片	
88294	SHIRA H139	上白滝6	-	K70	上-2	-	2636	N-579-52	赤石山(27%)	赤石山	調片	
88295	SITIRA H140	上白滝6	61	O13	31	112	1922	-	-	赤石山(77%)	赤石山	調片
88296	SHIRA H141	上白滝6	47	N51	623	268	1491	-	-	赤石山(1%), ST139遺物群(0.2%)	赤石山	調片
88297	SITIRA H142	上白滝6	41	K32	671	290	1379	-	-	赤石山(17%), ST139遺物群(0.7%)	赤石山	調片
88298	SHIRA H143	上白滝6	47	P51	386	333	1736	-	-	赤石山(69%)	赤石山	断面片
88299	SITIRA H144	上白滝6	27	O59	103	201	1278	-	-	赤石山(54%)	赤石山	調片
88300	SHIRA H145	上白滝6	27	Q60	1550	213	1409	-	-	赤石山(18%)	赤石山	調片
88301	SITIRA H146	上白滝6	-	Q68	上-9	195	1397	-	-	赤石山(38%)	赤石山	調片
88302	SHIRA H147	上白滝6	60	L16	103	413	1905	-	-	赤石山(5%), ST139遺物群(0.1%)	赤石山	調片
88303	SITIRA H148	上白滝6	60	L46	275	422	1942	-	-	赤石山(67%), ST139遺物群(0.1%)	赤石山	調片
88304	SHIRA H149	上白滝6	57	I19	117	416	1930	-	-	赤石山(5%), ST139遺物群(0.1%)	赤石山	調片
88305	SHIRA H150	上白滝6	17	K62	252	-	-	N-209-1	十勝 数(10%), 豊森山(0.3%)	十勝	断面片	
88306	SHIRA H151	上白滝6	47	O32	933	152	2029	-	-	赤石山(33%)	赤石山	調片
88307	SHIRA H152	上白滝6	-	H23	1-128	391	1372	-	-	赤石山(60%)	赤石山	調片
88308	SHIRA H153	上白滝6	47	O32	225	142	1142	-	-	赤石山(7%), ST139遺物群(0.6%)	赤石山	調片

散群に比較的近いため、遺物の産地を同定したときに、戸門原産地と赤井川または十勝産地、またこれら3ヶ所の原産地に同時に同定される場合がしばしば見られる。戸門産地の原石が使用されたか否かは、一遺跡で多数の遺物を分析し戸門第一群と第二群に同定される頻度を求め、これを戸門産地における第一群(50%)と第二群(50%)の産出頻度と比較し戸門産地の原石である可能性を推定する。今回分析した遺物のなかに全く戸門第二群に帰属される遺物が見られないことから戸門産地からの原石は使用されなかったと推測できる。また浪岡町大沢産地原石は非常に小さい原石が多く使用された可能性は低いと思われる。また、赤井川第一または第二群に高確率で同定され、大沢産地、戸門と十勝産地に同定された確率は赤井川に比べて十分の一〜百分の一がほとんどで、分析番号88242、88260は赤井川産の、88266、88305番には十勝産の原石がそれぞれ使用されていたと判定した。また、赤石山、八号沢・白土沢、あじさい滝、梶加沢群、ケショマップ第二群に一致する組成の原石は白滝地域、ケショマップ産地以外に湧別川下流域でも円礫状で原石が採取される(表VII-11)。

また、所山群、置戸山群、ケショマップ第二群、割れ面が梨肌の大沢産地と一致する組成の円礫状の原石が北見・常呂川流域で採取される(表VII-12)。分析した遺物が、白滝地域、置戸地域、

留辺蘆・ケショマツ地域での露頭産か、また湧別川下流域、常呂川流域産の何れかの産地から伝播したかを推測するには、多数の遺物を分析して、各産地群に同定される頻度を求め、湧別川、常呂川採取黒曜石原石の頻度分布と比較して決定される。原石・遺物群の中で、所山群、常呂川第4群、KS1遺物群、滝川第二群は相互に組成が似ていて、水和層の影響（K元素比が少し小さくなる傾向）を受けた黒曜石製遺物では、複数の産地に同時に信頼限界の0.1%を越えて同定される。複数の群に同定されたとき、遺物に原石の自然面が残る場合は円礫か、角礫か、河川産か、露頭産を判断する。

今回分析した上白滝6遺跡出土の黒曜石製石器、剥片の20個の中で所山産が55%（11個）、名寄産とあじさい滝産が15%（3個）で、赤井川産が10%（2個）、十勝産が5%（1個）と同定された。所山産と同定された11個が常呂川流域から採取された可能性は否定できないが、20個の遺物の中に常呂川流域のみ見られる常呂川第1、2、3群が見られないことから、常呂川流域から採取した証拠はない。また、上白滝8遺跡出土の黒曜石製石器、剥片の70個の中で、赤石山産が80%（56個）、あじさい滝産が6%（4個）、所山産とケショマツ産がそれぞれ3%（2個）、十勝産は3%（2個）であるが、原産地不明で札幌K19遺物群と判定した分析番号63850、6385番は軽元素を抜いて判定を行うと十勝三股、松浦第一群、戸門第一群の複数の原石群に同定され1カ所に特定できない。これら複数の原産地の中で上白滝8遺跡で使用されている産地は十勝産原石であることから、十勝産地と判定すると、十勝産は6%（4個）になる。赤井川産と原産地不明のFR2群は1%（1個）であった。

（4）非破壊分析による黒曜石製遺物の水和層測定

今回分析した遺物は上白滝6遺跡出土黒曜石製石器5個、上白滝8遺跡出土の黒曜石製石器、剥片57個の合計62個について非破壊分析による水和層の厚さの結果が得られたので報告する。

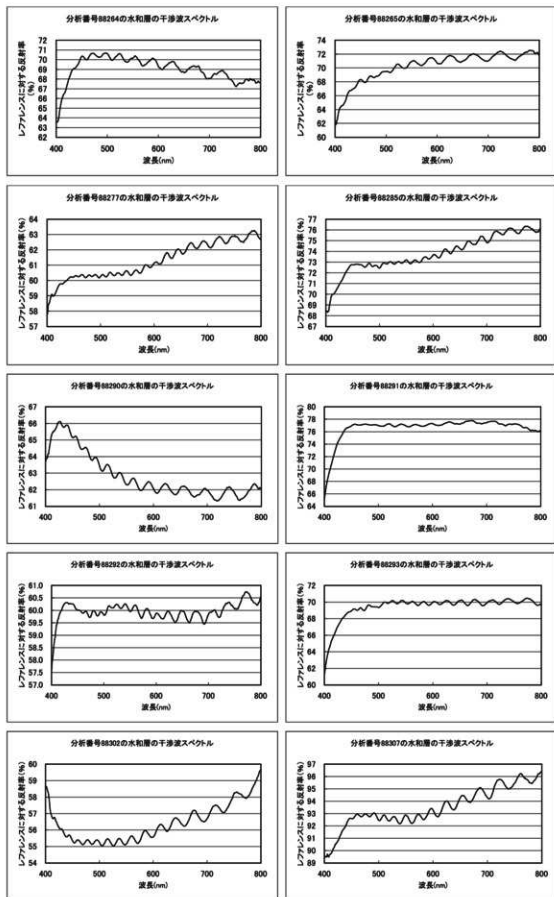
分析は黒曜石の表面に顕微鏡を通して光を照射したときに、黒曜石の表面で反射する光と、水和層で反射する光で生じる干渉波の波長から水和層の厚さを求める方法。光の反射を利用するため、遺物の表面にできた使用痕および埋土中にできた摩耗傷などが水和層測定の障害になり測定できない場合が多々ある。また、水和層と新鮮面との境界面での反射光が非常に弱いため、境界面が明確に発達した部分を探して測定しなければならない。従って、傷のない場所を顕微鏡下で探して分析を行うため、試料によっては1個に三時間以上かかることもある。石器について2～3ヶ所を分析し、代表的な水和層の干渉波スペクトルを選択し図Ⅷ-8に示した。また分析値の最大、中間、最小値を選んで表Ⅷ-17に記した。水和層の厚さを経過年代に換算するには、水和層を分析した黒曜石の経過年代を炭素-14法、フィッシュトラック法で求めた絶対年代から、水和速度を求めて行う。この水和速度は黒曜石の埋土中における温度によって異なるため、黒曜石が環境から受けた温度を正確に求めなければ、正確な年代の換算はできない。従って、遺物が経過した年代の間に受けた温度を約7.5℃を平均効果温度として水和速度⁴¹を推定したとき、赤石山産・八号沢（あじさい滝）産原石は $1.48 (\mu^2/1000年)$ 、所山産原石は 1.35 、十勝産は 1.56 、縄文時代（約8.5℃）では、十勝産は $1.75 (\mu^2/1000年)$ 、所山産は $1.517 (\mu^2/1000年)$ を用いて下記の式により水和層厚を経過年代に換算した。

$$\text{推定換算年代 (千年)} = \frac{\text{測定水和層厚} (\mu\text{m}) \times \text{測定水和層厚} (\mu\text{m})}{\text{水和速度} (\mu^2/1000年)}$$

今回非破壊分析で水和層が測定できた遺物の経過年代の結果を表Ⅷ-17に示した。水和層厚を経過年代に換算するときの重要な係数である水和速度を決める重要な要因は、黒曜石の化学組成と温度で

表Ⅶ-17 上白滝 8・上白滝 6 遺跡出土黒曜石製遺物の水和層厚測定結果

分析番号	試料番号	遺跡名	プロット	グリッド	遺物番号	検出番号	検合番号	編年番号	別定	水和層の厚さ(μm)	検出年代(比. P)	水和速度(μm/300P)	遺物名		
83916	SHRA W5	上白滝8	9	L41	97	97	234	-	赤石山	3.09	5.08	4.95	16,967±1,349	1.68	石鏡
83917	SHRA W6	上白滝8	9	L43	89	-	-	B-158-1	赤石山	3.83	5.11	5.18	19,596±1,072	1.98	二層上にある副石
83918	SHRA W7	上白滝8	8	L41	52	91	298	B-158-8	赤石山	2.42	4.02	2.99	8,268±2,010	1.68	二層上にある副石
83922	SHRA W11	上白滝8	10	N48	39	-	186	B-181-14	赤石山	2.09	3.98	4.66	11,517±2,365	1.48	筒首
83923	SHRA W12	上白滝8	10	N47	146	-	30138	B-182-23	赤石山	4.92	4.9	4.55	15,472±1,080	1.48	磨石片
83924	SHRA W15	上白滝8	10	O48	23	-	-	B-182-22	赤石山	4.89	5.02	5.15	16,965±2,220	1.48	石核
83925	SHRA W14	上白滝8	17	I54	220	-	-	B-216-104	赤石山	2.06	3.83	3.64	6,559±476	1.48	細石片
83926	SHRA W15	上白滝8	17	I64	941	-	2630	B-216-113	赤石山	4.32	4.33	4.35	12,463±219	1.48	細石片
83927	SHRA W16	上白滝8	17	J61	80	-	2642	B-216-105	赤石山	4.09	4.8	4.15	11,533±912	1.28	細石片
83960	SHRA W19	上白滝8	61	N41	3	-	54242	B-255-19	赤石山	4.17	4.35	4.11	12,506±290	1.68	ナイフ磨石
83961	SHRA W30	上白滝8	61	O47	17	-	-	B-254-1	赤石山	4.52	4.29	4.22	12,803±674	1.68	ナイフ磨石
83962	SHRA W21	上白滝8	61	O47	13	-	2790	B-254-7	赤石山	4.51	4.3	4.09	12,506±1,139	1.68	ナイフ磨石
83964	SHRA I109	上白滝6	6	W17	91	-	-	V-11-28	両山	3.129	3.159	3.11	6,410±78	1.817	つまみ付ナイフ
83965	SHRA I110	上白滝6	6	W17	8	-	-	V-10-7	両山	3.131	3.132	3.298	6,614±281	1.517	石片
83966	SHRA I111	上白滝6	6	W16	56	-	-	V-10-11	1 磨	2.094	2.767	2.783	4,634±303	1.73	石片
83967	SHRA I112	上白滝6	6	W17	71	-	30085	V-10-19	両山	2.141	3.214	2.960	6,391±912	1.517	石片
83968	SHRA I113	上白滝6	6	W17	80	-	-	V-12-30	両山	3.187	3.054	2.872	5,954±414	1.517	筒首
83969	SHRA I114	上白滝6	1	H65	321	1	1	-	赤石山	3.507	4.148	3.984	12,936±471	1.98	鏡片
83970	SHRA I115	上白滝6	1	H65	365	4	4	-	赤石山	2.409	5.319	5.761	10,944±1,116	1.48	鏡片
83971	SHRA I116	上白滝6	1	H67	229	7	7	-	赤石山	2.952	5.807	6.897	23,482±2,740	1.48	鏡片
83972	SHRA I117	上白滝6	5	M62	380	21	47	-	赤石山	4.752	4.172	5.852	11,182±1,014	1.48	鏡片
83973	SHRA I118	上白滝6	5	M63	1925	29	64	-	赤石山	-	-	-	-	1.48	鏡片
83974	SHRA I119	上白滝6	5	M64	55	30	68	-	赤石山	2.946	4.132	4.460	11,763±1,213	1.48	鏡片
83975	SHRA I120	上白滝6	5	L62	849	36	74	-	赤石山	4.832	4.910	5.319	17,724±1,854	1.28	鏡片
83976	SHRA I121	上白滝6	6	J58	123	49	116	-	赤石山	4.851	3.981	4.379	11,721±800	1.48	鏡片
83977	SHRA I122	上白滝6	6	J59	296	51	130	-	赤石山	6.892	5.898	6.399	25,029±1,140	1.98	鏡片
83978	SHRA I123	上白滝6	8	I56	19	60	143	-	赤石山	4.632	4.942	4.266	14,960±1,422	1.58	鏡片
83979	SHRA I124	上白滝6	8	I56	154	66	178	-	赤石山	4.435	4.16	4.931	13,723±1,954	1.58	鏡片
83980	SHRA I125	上白滝6	8	J56	634	70	177	-	赤石山	3.907	4.028	4.140	11,164±924	1.58	鏡片
83981	SHRA I126	上白滝6	9	K45	28	66	212	-	赤石山	4.384	4.399	4.712	12,534±411	1.48	鏡片
83982	SHRA I127	上白滝6	10	O48	53	73	140	-	あじき石	3.029	4.805	4.918	15,963±1,148	1.98	鏡片
83983	SHRA I128	上白滝6	12	O41	1	159	278	-	赤石山	5.2919	5.335	5.7105	20,743±970	1.98	鏡片
83984	SHRA I129	上白滝6	12	P42	6	462	285	-	赤石山	2.2762	4.9252	7.2222	19,351±2,355	1.98	鏡片
83985	SHRA I130	上白滝6	17	P42	9	465	280	-	赤石山	6.774	6.815	6.9182	16,976±1,843	1.48	鏡片
83986	SHRA I131	上白滝6	22	I58	130	250	1464	-	赤石山	4.5427	4.3803	4.2964	13,397±692	1.48	鏡片
83987	SHRA I132	上白滝6	24	I57	1927	329	1436	-	赤石山	2.8624	3.881	3.795	9,858±328	1.48	鏡片
83988	SHRA I133	上白滝6	33	I57	1020	389	1532	-	赤石山	4.5282	4.4744	4.2379	13,115±742	1.48	鏡片
83989	SHRA I134	上白滝6	21	N64	46	314	1294	B-308-50	トリアングル	-	-	-	-	1.48	鏡片
83990	SHRA I135	上白滝6	27	O60	220	451	2098	B-309-43	赤石山	2.9232	4.8972	4.164	10,573±230	1.48	鏡片
83991	SHRA I136	上白滝6	17	J61	53	-	2637	B-221-193	赤石山	3.3352	3.8327	3.9626	10,181±224	1.58	鏡片
83992	SHRA I139	上白滝6	-	J69	F-3	-	-	B-677-28	赤石山	5.5917	5.5461	5.1251	19,431±1,348	1.48	細石片
83993	SHRA I138	上白滝6	-	K71	L-1	-	-	B-677-37	赤石山	5.5201	5.25	5.1973	19,389±933	1.48	細石片
83994	SHRA I139	上白滝6	-	K70	L-2	-	2636	B-679-32	赤石山	5.5361	5.1361	4.9631	21,782±1,327	1.58	鏡片
83995	SHRA I140	上白滝6	61	O43	31	472	1922	-	赤石山	4.8763	4.613	4.3643	14,161±1,259	1.68	鏡片
83996	SHRA I141	上白滝6	47	N51	823	288	1491	-	赤石山	3.6884	5.467	5.549	21,412±648	1.48	鏡片
83997	SHRA I142	上白滝6	41	K53	871	393	1519	-	赤石山	3.4723	3.3099	5.2231	19,674±600	1.58	鏡片
83998	SHRA I143	上白滝6	47	P51	386	353	1728	-	赤石山	6.6479	6.9979	6.2926	27,736±1,810	1.48	細長副石
83999	SHRA I144	上白滝6	27	O50	163	201	1278	-	赤石山	4.1357	3.9188	4.2509	14,276±737	1.48	鏡片
83999	SHRA I145	上白滝6	27	O50	1550	743	1469	-	赤石山	5.0716	4.6681	4.9484	15,036±1,131	1.48	鏡片
83999	SHRA I146	上白滝6	-	G68	F-9	195	1267	-	赤石山	2.5127	3.324	3.3687	22,516±2,847	1.48	鏡片
83999	SHRA I147	上白滝6	60	L46	103	413	1925	-	赤石山	4.2301	4.951	4.6231	14,463±1,247	1.48	鏡片
83999	SHRA I148	上白滝6	60	L46	275	422	1942	-	赤石山	5.1189	5.484	5.8827	20,398±2,242	1.48	鏡片
83999	SHRA I149	上白滝6	57	I49	117	416	1940	-	赤石山	6.0252	5.9975	5.947	24,191±292	1.48	鏡片
83999	SHRA I150	上白滝6	17	O52	252	-	-	B-509-1	1 磨	4.3364	4.2169	4.2233	11,663±1,138	1.56	古き尖頭器
83999	SHRA I151	上白滝6	47	O52	933	452	2089	-	赤石山	6.025	6.3069	6.055	25,536±932	1.48	鏡片
83999	SHRA I152	上白滝6	-	I53	F-12a	391	1612	-	赤石山	4.8219	4.963	5.566	14,180±146	1.58	鏡片
83999	SHRA I153	上白滝6	47	O52	225	142	1142	-	赤石山	5.8226	5.6106	6.0611	22,464±1,430	1.58	鏡片



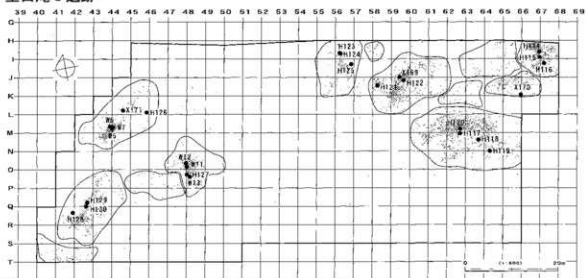
図Ⅶ-8 黒曜石水相層の干渉波スペクトル

あるため、自然科学者の実験室で水和実験によって水和速度を決定できるが、国内産黒曜石に関して研究はそこまで進んでいないのが現状である。現在は水和速度の決定については考古学者の協力なしでは決定できない。実験室での水和層生成が困難である限り、水和速度の決定の舞台は道跡になる。今回の年代が炭素-14年代に比べて古すぎる場合は、温泉地とか温度の高い地下水などで埋土中の遺物温度が異常に高かったことが推測され、水和層は非常に厚くなり推定換算年代は古くなる。これは遺物の埋土位置の地温測定で推測できるが、しかし、過去の地温の測定はできない。炭素-14年代などで年代の分かる層から出土する黒曜石の水和層から水和速度を決定するため、発掘が重要な鍵を握ることは言うまでもない。石器の組成（原産地）さえ分かれば、考古学者が炭素-14年代と水和層のデータを集積し整理するだけで、正確な水和層年代が得られるようになる。これら考古学的作業により求められた水和速度は、水和機構（理論）が証明されていないが、考古学試料として実用するには問題ないと推測できる。したがって、水和層年代は考古学者が企画するだけで実用的な年代が得られるため、将来、水和層年代が石器における土器輻年のように身近な存在になると推測できる。

参考文献

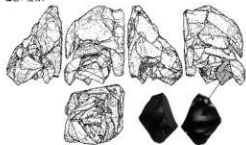
- 1) 藤科哲男・東村武信(1975)、蛍光X線分析法によるササカイト石器の原産地推定(II)。考古学と自然科学, 8:61-69
- 2) 藤科哲男・東村武信・鎌木義昌(1977), (1978)、蛍光X線分析法によるササカイト石器の原産地推定(III), (IV)。考古学と自然科学, 10, 11:53-81:33-47
- 3) 藤科哲男・東村武信(1983)、石器原料の産地分析。考古学と自然科学, 16:59-89
- 4) 東村武信(1976)、産地推定における統計的手法。考古学と自然科学, 9:77-90
- 5) 東村武信(1990)、考古学と物理化学。学生社
- 6) 近堂祐弘(1986)、北海道における黒曜石年代測定法について。北海道考古学, 22:1~15

上白滝8遺跡

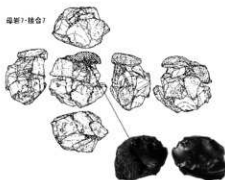


Sb-1

発掘1・組合1



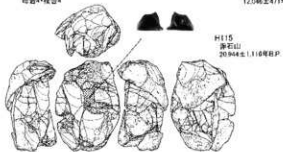
発掘7・組合7



H114
赤石山
12,046±471年B.P.

H118
赤石山
23,452±270年B.P.

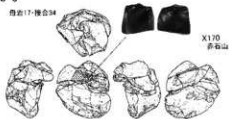
発掘4・組合4



H115
赤石山
20,944±1,116年B.P.

Sb-3

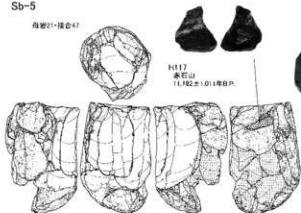
発掘17・組合34



X170
赤石山

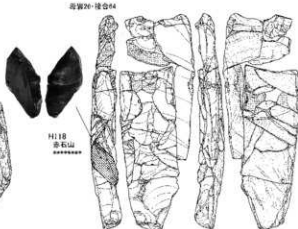
Sb-5

発掘21・組合47



H117
赤石山
11,822±1,013年B.P.

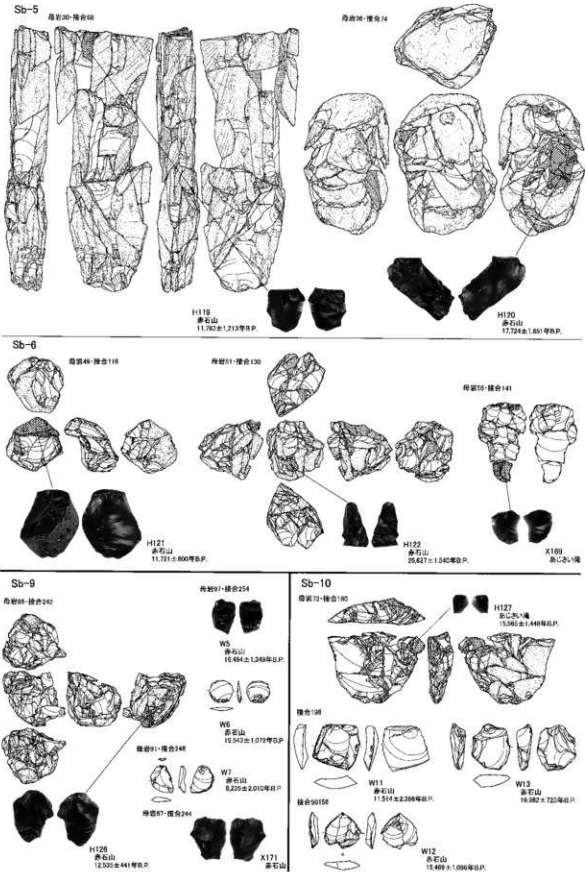
発掘29・組合44



H118
赤石山

図VI-9 産地分析・水相層測定試料(1)

上白滝 8 遺跡

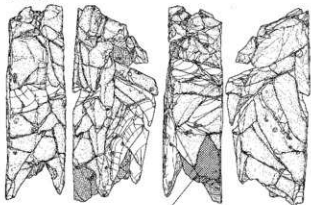


図Ⅴ-10 産地分析・水和層測定試料(2)

上白滝8遺跡

Sb-8

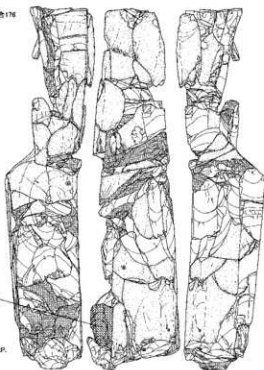
番号60・種合161



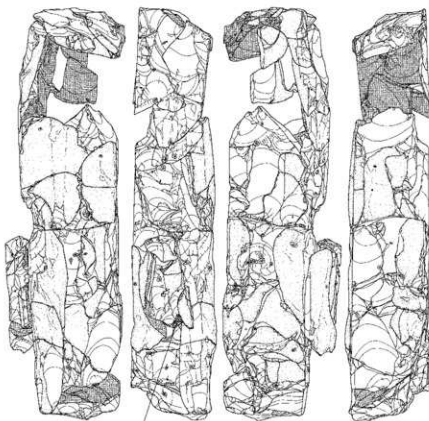
H123
赤石山
14,890±1,422年B.P.

H124
赤石山
13,720±1,054年B.P.

番号66・種合178



番号70・種合177



H125
赤石山
11,100±403年B.P.

Sb-12

番号49・種合278



H126
赤石山
20,142±970年B.P.

番号40・種合265



H129
赤石山
19,021±2,200年B.P.

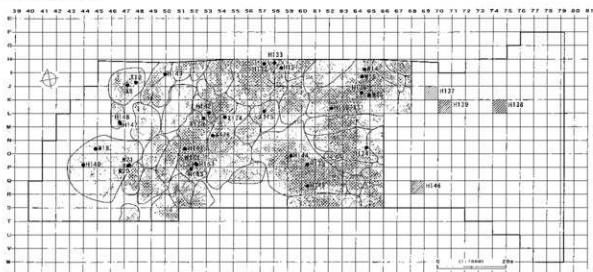
番号48・種合269



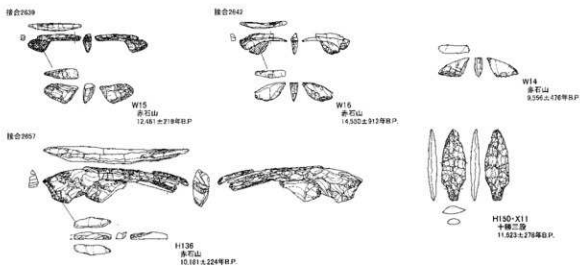
H130
赤石山
26,076±1,848年B.P.

図VI-11 産地分析・水相層測定試料(3)

上白滝 8 遺跡



Sb-17



Sb-21



Sb-27

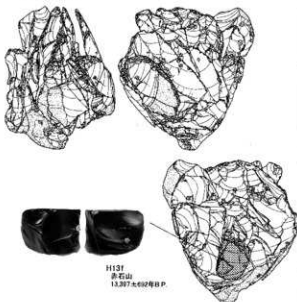


図Ⅴ-12 産地分析・水和層測定試料(4)

上白滝8遺跡

Sb-32

標本250・種合1454



H131
赤石山
13,387±612年B.P.

Sb-33

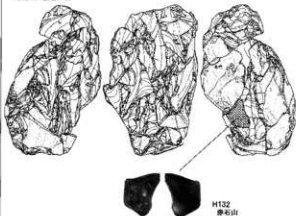
標本250・種合1397



H133
赤石山
13,115±742年B.P.

Sb-34

標本250・種合1458



H132
赤石山
9,658±326年B.P.

Sb-37



X175
高石山・溝

Sb-44

標本250・種合1578



H142
赤石山
18,574±820年B.P.

Sb-46

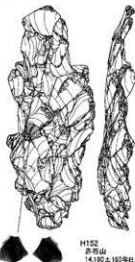


X174
高山

X176
アサマツ

Sb-39

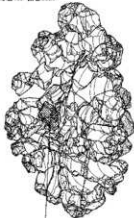
標本251・種合1572



H152
赤石山
14,180±165年B.P.

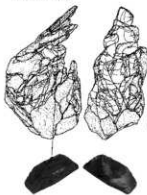
Sb-47

標本412・種合2028



H151
赤石山
25,838±932年B.P.

標本313・種合1726



H143
赤石山
27,756±1,601年B.P.

標本260・種合1491



H141
赤石山
21,412±468年B.P.

標本142・種合1142



H153
赤石山
22,484±1,630年B.P.

Sb-42



X172
高山

図VI-13 産地分析・水相層測定試料(5)

上白滝 8 遺跡

Sb-57

母体418・接合1830



H149
赤石山
24.181±2.09年B.P.

Sb-59



Sb-60

母体413・接合1925



H147
赤石山
14.445±1.542年B.P.

母体422・接合1942



H148
赤石山
20.388±2.342年B.P.

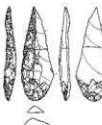
Sb-61

母体412・接合1922



H140
赤石山
14.481±1.258年B.P.

接合54242



W19
赤石山
12.350±1.983年B.P.

接合2790

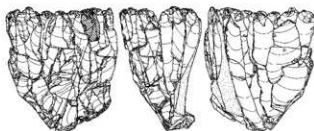


W20
赤石山
12.900±0.674年B.P.

W21
赤石山
12.585±1.151年B.P.

斜面部

母体190・接合1267

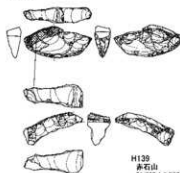


H146
赤石山
22.516±2.017年B.P.



H137
赤石山
18.834±1.518年B.P.

接合2828



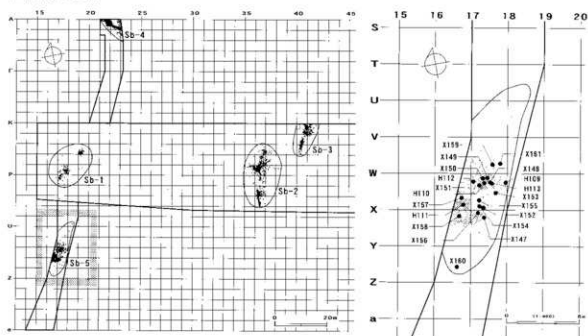
H139
赤石山
21.722±1.327年B.P.



H138
赤石山
18.899±1.033年B.P.

図Ⅴ-14 産地分析・水和層測定試料(6)

上白滝6遺跡



Sb-5



標在50085



標在50083



標在50081



標在50082



図VI-15 産地分析・水相層測定試料(7)

Ⅷ章 まとめ

1 上白滝8遺跡「白滝Ⅰ群」(Sb-1~13)について

上白滝8遺跡の東地区では、接合分布・剥片剥離技術・二次加工技術などから「白滝Ⅰ群」と呼称する後期旧石器時代前半期の石器群が、8,055点、197,507.1g出土している。内、点取り遺物は7,090点、162,212.8gである。これらは主に遺物分布から13か所の石器ブロック(Sb-1~13)に分け、さらに母岩分布や接合分布・石器組成から同時性が高いと思われるSb-1~3、4~6、7・8、9、10、11~13の6つの石器ブロック群に分けて報告を行った。ここでは「白滝Ⅰ群」の特徴を(1)石器・石材組成、(2)剥片剥離技術、(3)分布と遺跡の構造、(4)年代測定について概観し、(5)石器ブロック群間の関係と石器群の編年的位置付けについてまとめてみたい。

(1) 石器・石材組成

全体的に定形的な石器が少なく、剥片の縁辺に軽微な剥離がみられる二次加工ある剥片が多い。その他に石器ブロック群ごとに異なるが、錐形石器、搔器、削器が出土している(図Ⅷ-1・2)。

二次加工ある剥片 295点出土し、全ての石器ブロック群に分布している。加工された石器の中で最も数が多く、「白滝Ⅰ群」において主体的な石器と考えられる。多様な形態だが、長幅比1.8の前後に二つの大きなピークがある(図Ⅷ-3)。加工は軽微なものが多いため、ほとんどが素材の形状を変化させていない。それを踏まえ、素材は以下の四つに大きくまとめることができる。

- (a) 長幅比が1.8以下で、打面側が先端側より狭く、両側縁が「ハ」の字状に開くもの
- (b) 長幅比が1.8以下で、器体中央付近の両側縁がおおむね平行する寸詰まりのもの
- (c) 長幅比が1.8以下で、背面に剥片素材の石核の腹面部が残っているうろこ状のもの
- (d) 長幅比が1.8以上で、器体中央の両側縁がほぼ平行する縦長の剥片
- (e) 上記の分類に入らないもの

また、施される加工は、以下の三つがみられる。

- (ア) 素材の形状をほとんど変えない長さ2mm前後の軽微なもの
- (イ) 長さ8mmを越える平坦剥離
- (ウ) 素材を断ち切るような急角度の剥離

計測は掲載資料124点(112個体)について行った。その結果、素材(長幅比が計測可能な96個体)は(b)(d)が最も多く、ついで(a)の順となっている(表Ⅷ-1)。全体的に突出した値がなく、選択される素材の多様性がみとれる。加工は(ア)が78%を占めている。素材と加工の組み合わせは、素材(d)に加工(ア)を施すものが28%、素材(b)に加工(ア)を施すものが25%、素材(a)に加工(ア)を施すものが20%で主体的である。全体的に両側縁がほぼ平行する剥片を多用する傾向がある。また、素材(a)には片側縁が「く」の字状になる斜軸状の剥片が多く含まれ、加工は「く」の字縁の縁辺に施されるものが多い。全体的な大きさは40mm前後のものも多く、加工される部位は腹面側の片側縁がほとんどである。これらの素材剥片の形態は、剥片剥離技術の差異によることが接合資料から確認された。

少数だが特徴的なものとして、素材(c)もしくは(b)の一部に加工(イ)を施すものがある(図Ⅷ-1・Sb-1~3の1~3・Sb-4~6の1~4、図Ⅷ-2・Sb-9の1~3・5)。加工(イ)はバルブを除去するように腹面側に施される。加工された部位を基部として下に置いたとき、上端に



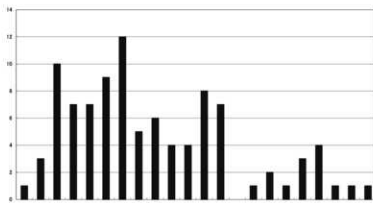
図Ⅴ-1 「白滝I群」石器組成図(1)



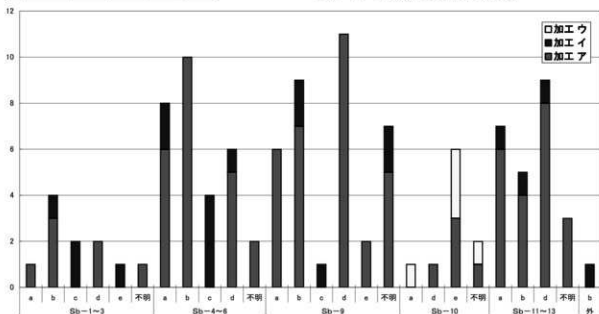
図Ⅷ-2 「白滝I群」石器組成図(2)

表Ⅷ-1 二次加工ある剥片の素材と加工

	加工			総計	
	(ア)	(イ)	(ウ)		
素材	(a)	19	3	1	23
	(b)	24	5		29
	(c)		7		7
	(d)	27	2		29
	(e)	5	1	3	9
	不明	12	2	1	15
総計	87	20	5	112	



図Ⅷ-3 二次加工ある剥片の長幅比



図Ⅷ-4 石器ブロック群別二次加工ある剥片の素材と加工

は鋭い縁辺が残り、先端が尖るものと横刃になるものがみられる。さらに、素材(d)を用いやや角度的のある加工(イ)を施すものが2点みられる(図Ⅷ-2・Sb-11~13の1、図Ⅳ-565-2)。このうち1点はI群以外の石器ブロック外の石器として掲載しているが、技術形態的な特徴や出土位置から「白滝I群」の石器として積極的に考えたい。これらは前述の一群よりも縦長の素材を利用して、技術的な特徴が類似している。この様な腹面のバルブ部に平坦剥離を加える一群は、素材や加工部位・技術などの諸特徴から二次加工ある剥片から分離可能な石器と考えられる。定義的には台形礫石器(佐藤 1988)の枠の中で捉えることができる。しかし、当該期は石器群の様相が本州島とやや異なり(佐藤 2003)、技術的にもバルブを除去するような薄く平坦な基部加工が特徴的にみられるなど、後続すると思われる広郷型ナイフ形石器の加工に類似する点から、新たな形式名を設定することが可能であろう。今後の課題としたい。道内では白滝村奥白滝1遺跡Sb-4~6(直江ほか 2002)、千歳市祝梅下層遺跡三角山地点(横山・吉峰 1974)等で出土している。

また、加工(ウ)を施す石器が5点みられる。変形度が大きく素材の推定が困難で、鋭い縁辺がまったく残らない例(図Ⅷ-2・Sb-10の2・3)がある。さらに、1点のみ素材(c)が利用されている(同-1)。これは素材の一側面を横刃になるように残して、両側縁に急角度的の加工が施される

ものであり、台形様石器(佐藤 1988)として認定しうる資料である。

石器ブロック群ごとの組成をみると、Sb-1~3、4~6は、素材(b)を中心とし、Sb-9、11~13は、素材(d)が高い割合でみられる(図Ⅷ-4)。また、Sb-11~13では、素材(a)を利用する割合が、他の石器ブロック群より高い。これに対し、Sb-10では上記の石器ブロック群と異なり、素材剥片の形態、加工部位、加工技術がより多様である。素材には(c)、(d)のみみられるが(e)が多く、形態・大きさの産一性がない。また、加工(u)を施す石器は全てSb-10から出土している。

搔器 Sb-1~3、4~6、7・8、10から17点出土している。各石器ブロック群とも少数で、加工は、端部にのみやや粗い剥離が施されるものが主体的である。しかし、Sb-10の搔器は加工がほぼ全周する。素材はSb-1~3、4~6では大型の縦長剥片、Sb-7・8では背面が原石面に覆われた剥片、Sb-10では横長剥片が利用され、各石器ブロック群によって差異がある。

削器 Sb-10のみで11点出土している。打面幅が大きく、器体中央部の両側縁がほぼ平行する剥片を素材とし、背面側の縁辺に奥まで入る平坦剥離が連続的に施されるのが特徴である。素材の形状を大きく変える加工ではないため、粗く急角度の加工が多い同ブロックの石器とは対照的である。

錐形石器 Sb-1~3、4~6、10、11~13で28点出土している。打面部分が幅広く厚い剥片を素材とする例が多い。しかし、Sb-11~13では縦長剥片が素材である。加工部位は、末端部、打面と側縁の交差部、折れ面と側縁の交差部などに背面側のみ、腹面側のみ、錯向状に施されており、非常に多様である。特にSb-10では折れ面と側縁の交差部に加工が施されるものが比較的高い割合でみられ、切断技法を用いていた可能性がある。

石核 623点出土し、全ての石器ブロック群に分布している。素材と剥離技術から以下の四つに大きくまとめることができる。

- ①剥片素材で、作業面を主に素材の扁平な広い面に設定しているもの
- ②剥片素材で、作業面を主に素材の小口面に設定しているもの
- ③転蹀素材で、打面転蹀を数多く行い、最終形態がサイコロ状になるもの
- ④角蹀素材で、作業面を主に素材の長軸に沿って設定しているもの

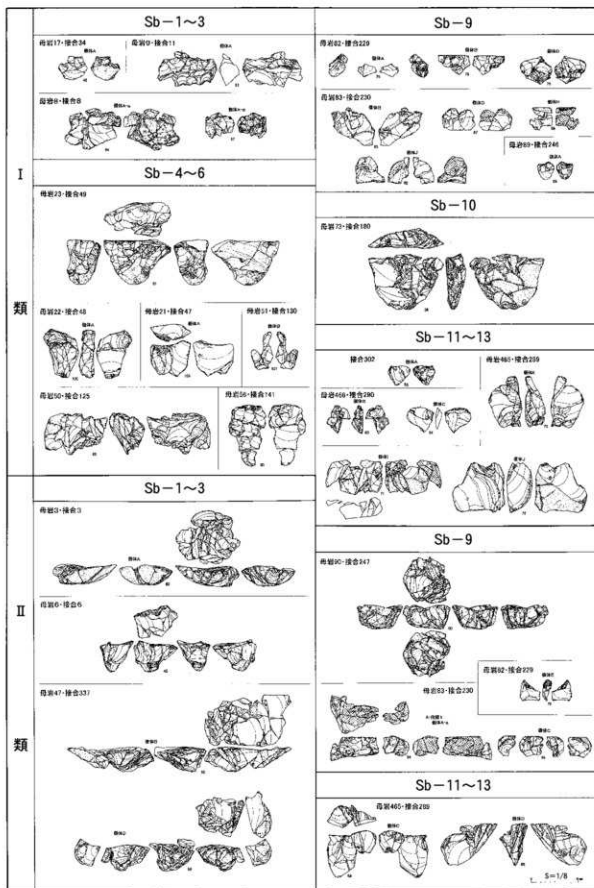
いずれも剥離の際に打面調整、頭部調整などの石核調整は施されない。③は打面と作業面を入れ替える交互剥離を基本とし、作業場所(交互剥離の二つの作業面)を転蹀させていく傾向がある。④は素材の形状を利用して縦長剥片が多く剥離されている。打面が固定的なもの而非固定的なものに分かれる。前者は両設打面のものがあり、後者は打面と作業面を入れ替える交互剥離を行いつつながら作業が進行していくものが主体的である。Sb-4~6、7・8のみで出土している。

石材 非常に高い割合で黒曜石を利用している。中でも黒曜石1の比率が高く、各石器ブロック群とも90%以上を占めている。また、原石面が残存する石器、被熱石器の割合が高いことも特徴である。

原石の形状は大半が円蹀や角が摩滅した亜角蹀など(以下総合して転蹀と記載)である。ただし、Sb-4~6、7・8では摩滅がない角蹀を利用して一帯が出土している。

角蹀の原石形状は角柱状、棒状、扁平な板状のものが多い。原石面はザラついた岩屑面が主体であるが、一部の原石にはほとんど風化がなく、打点・バルブがはっきりせず、大きなリングがある平坦面がみられ、露頭から分離してからさほど時間が経過していない面(Ⅳ章中では「露頭分離面」と表現)と考えられる。

黒曜石以外の石材としてはSb-1~3でめのう、Sb-4~6で頁岩、Sb-11~13でめのう、珪岩、碧玉が出土している。肉眼的に各石材を観察すると以下のような特徴が挙げられる。頁岩は珪質



図版-5 「白滝I群」母岩別資料(1)

分が弱く、やや質が悪い。碧玉は深い緑色で、興部産(藤科 2002)に類似している。めのうは透明感が無い。大半は接合資料がなく、単体で遺跡内に持ち込まれた後、遺棄されている状況であるが、碧玉は遺跡内で石核からの剥片剥離が行われている。

(2) 剥片剥離技術

剥片剥離技術は、素材の形態、打面・作業面の設定場所や転移方法、剥離された剥片の形態などからⅠ～Ⅲ類に大別し、さらに若干の細分を行った。なお、これは一昨年度報告した奥白滝Ⅰ遺跡(直江ほか 2002)の「白滝Ⅰ群」の剥離技術をもとにしている。

I類：扁平な石核の広い面で剥離作業を行うもの。

I a類…片側の広い面で作業を行うもの。主に長幅比が1.0前後の貝殻形・扇形・台形・三角形の剥片が剥離される。

I b類…表裏両方の広い面で作業を行うもの。主にやや横長の剥片が剥離される。

II類：素材の小口面で剥離作業を行うもの。

II a類…素材の広い面を打面に固定するもの。主に打面部が幅広く厚い剥片・両側線の中央がほぼ平行する寸詰まりの剥片が剥離される。

II b類…素材の小口面を打面に固定するもの。主に縦長剥片が剥離される。

III類：打面と作業面を頭部に転移するもの。剥離される剥片の形態は最も多様である。主に両側線の中央がほぼ平行する寸詰まりの剥片・やや横長の剥片・縦長剥片・片側線が「く」の字状になる剥片などが剥離される。

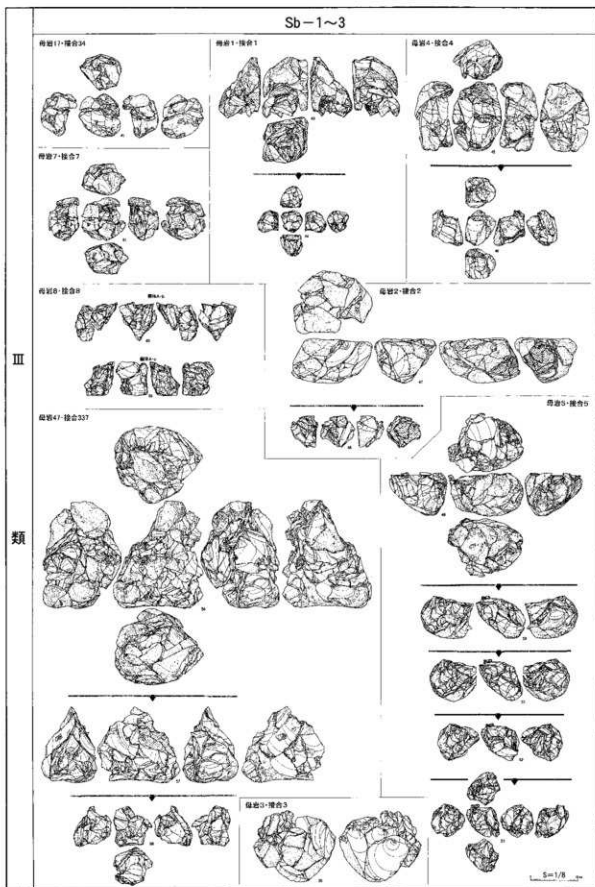
III a類…打面と作業面を1～数打ごとに入れ替える交互剥離を基本とし、作業場所を転移していくもの。

III b類…打面と作業面の転移に規則性が見られないもの。

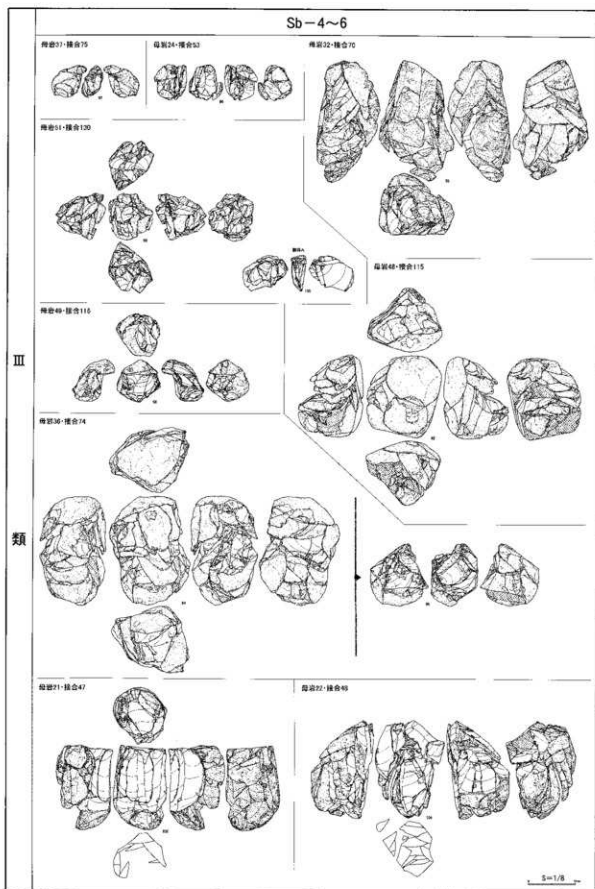
各類型とも、打面調整や頭部調整などの各種の石核調整は行われていない。接合資料はほぼ原石の段階まで復元できるものが大多数である。原石形状が転蹠と角蹠の資料とも上記の剥離技術の中でとらえられるが、若干傾向が異なるため、以下に分けて説明する。

転蹠 全体的な傾向として、III類(図Ⅷ-6～8)の剥離技術を用いて作業が進行することが多く、初期段階に剥離された大型の剥片がI類・II類(図Ⅷ-5)の石核素材となっている。そのため、I・II類の石核は剥片素材のものが大半である。また、III類の剥離の中ではIII a類の割合が高く、作業の最終段階になってランダムな剥離のIII b類に変わることが多い。その他に、剥離技術が途中で変化するものとして、I類→II類(母岩51・接合130個体B、母岩73・接合180)、II類→III a類(母岩90・接合217)がある。これらのことから、「白滝Ⅰ群」はI～III類の剥片剥離技術が同一の母岩に共存する技術構造であると指摘できる。

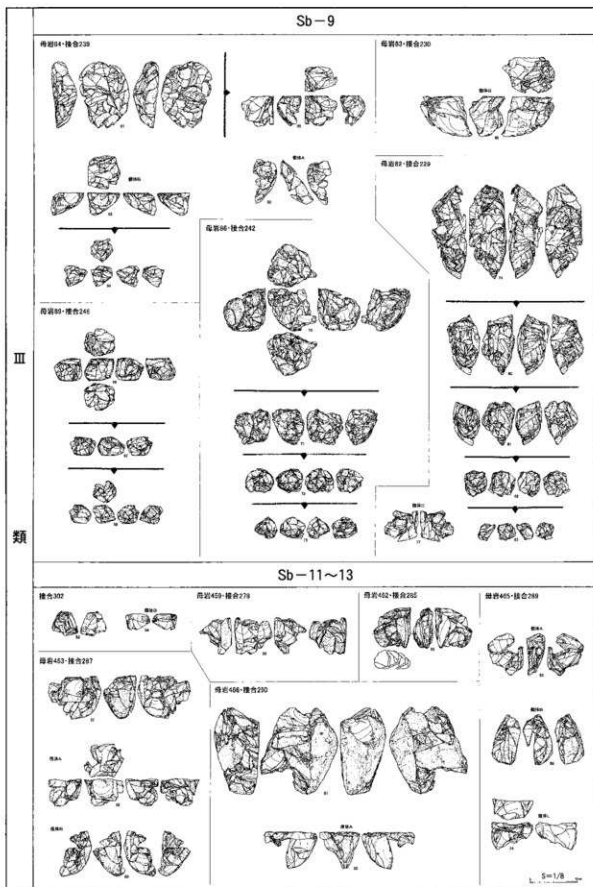
縦長剥片が生産される技術は、II b・III a類の二種の中にもみられる。さらに、III a類には剥片素材で、小口面同上で交互剥離を行うもの(母岩51・接合130-個体A、母岩162・接合285、母岩165・接合289-個体A)と礫素材のものがある。前者はII b類と同様、目的的な作業面の設定の仕方である。これに対し、礫素材のIII a類は一つの作業面において、石核の稜に沿って複数回剥離が行われ、結果的に縦長剥片を含んだ長幅比が1.0以上の剥片が不定形な剥片に混って剥離されており、両者は対照的である。また、礫素材のIII a類の交互剥離が石核の長軸と短軸で行われた場合、一見石刃技法のように見受けられる(母岩21・接合47、母岩22・接合48)。しかし、剥離技術全体の中で捉えた場合、III a類の交互剥離の中での縦長剥片剥離と位置付けることができ、「白滝Ⅰ群」の剥離技術の中で孤



図版-6 「白滝I群」母岩別資料(2)



図Ⅶ-7 「白滝I群」母岩別資料(3)



図Ⅷ-8 「白滝I群」母岩別資料(4)

立したものではない。

剥離技術とツール類との結びつきについては、ある程度の相関関係がみられる。二次加工ある剥片の素材(a)はⅢ類、素材(b)はI b・Ⅱ a・Ⅲ類、素材(c)はI a類、素材(d)はⅡ b・Ⅲ類の技術から剥離された剥片が用いられている。掻器はⅢ類の技術でも比較的早い段階で剥離された大型のものを素材としているものが多い。錐形石器の素材はⅡ a類の技術を主とし、I・Ⅲ類の技術のものも少数確認されている。また、石核については、類型①がI類、類型②がⅡ類、類型③がⅢ類の技術とほぼ対応する。

石器ブロック群ごとに剥離技術の特徴を抽出すると、Sb-1~3、4~6、9、11~13では類似点が多く、前述の全体的な傾向と一致する。この中でSb-11~13ではⅡ b類及び剥片素材で、小口面回上で交互剥離を行っているⅢ a類が多くみられる。これに対してSb-10ではやや様相が異なる。Ⅲ類の技術も確認されているが、よりI類の技術を多用している傾向がある。

角礫 原石形状が判別できるまで復元できた個体は15個体である(図Ⅷ-9・10)。剥離技術は原石の短軸で分割して剥離を開始することが多く、主にⅡ b類、Ⅲ a類の技術が用いられる。Ⅱ b類は分割面を打面として固定し、長軸に沿って作業面が設定される。角柱状のもの(母岩70・接合177、母岩69・接合176上端)と扁平な板状の母岩(母岩33・接合71、母岩35・接合73、母岩30・接合68、母岩61・接合162)があり、前者は石核を周囲するように剥離が行われ、後者は細長い小口面に作業面を固定するものが主体で、どちらも両設打面であるものが多い。Ⅲ a類の剥離は、お互いの作業面が長軸に対して斜行するように設定されているもの(母岩27・接合65、母岩60・接合161など)と、作業面が石核の長軸と短軸に設定されているもの(母岩45・接合110、母岩26・接合64など)がみられる。

原石形状別にみると、扁平な板状原石の剥離では、比較的作業が連続し、原石を多く消費しているのに対し、角柱状原石のⅡ b類の剥離は、石核を1周して作業を終了する程度の剥離しか行われず、原石形状に近い石核が遺棄されている。

Ⅱ b・Ⅲ a類の剥離技術とも剥片に大きな違いがみられず、いずれかの作業面では石核の縁に沿って剥離を行っているため、縦長剥片が比較的多く剥離されている。縦長剥片の特徴は、厚手で打面が大きく、パルプが発達するもので、転礫を素材とした一群の剥片と同様の傾向がある。また、剥片の末端形状がウートラパッセやヒンジになる割合が高い。その他に打撃の長軸と剥片の長軸が一致しない縦長状の剥片や大型で長幅比が2.0に満たない寸詰まりの剥片も一定量みられる。このように縦長剥片の獲得を目的としているとみられるが、その生産は不安定な面が多い。そのため原石形状に依存した母岩の採取を行っていたと考えられる。

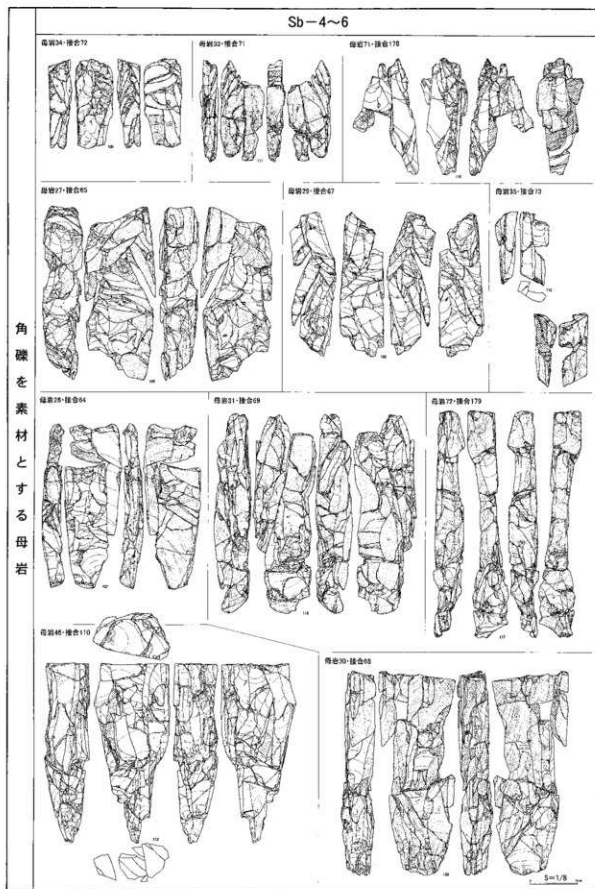
剥片とツール類との結びつきは非常に薄い。遺跡内では縦長剥片素材の二次加工ある剥片(図Ⅷ-1・Sb-4-6-26など)が僅かにみられるのみである。

これらの母岩はSb-4~6、7・8でみられ、特にSb-7・8は角礫を素材とするものが主体の石器ブロック群である。

(3) 分布と遺跡の構造

北東方向に緩やかに傾斜する地形のなかで、ほぼ平坦な北東部とやや傾斜が強い南西部に大きく分布が分かれる。前者がSb-1~3、4~6、7・8、後者がSb-9、10、11~13で、標高437~438mの中央部は大きな空白地帯となっている。

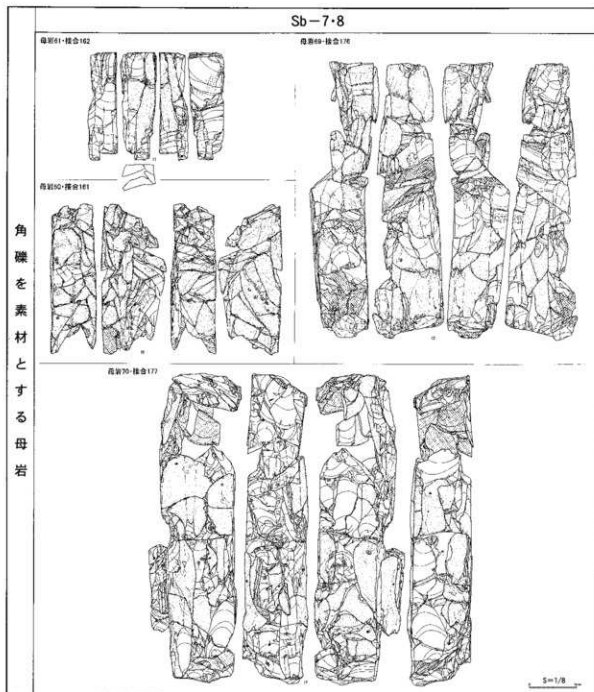
複数の石器ブロックからなる石器ブロック群間では、接合関係がみられ、点数が多く分布密度が高



図版-9 「白滝I群」母岩別資料(5)

い中核的な石器ブロックと、点数が少なく分布密度が低い石器ブロックとの組み合わせとなっている。

母岩ごとの分布状況を見てみると、掲載した58個体中、散漫に分布が広がるものが35個体、集中した分布を示すものが18個体である。また、石器ブロック内を含めて集中域同士に分かれて分布するものや、数点の石器が離れて分布するものが28個体と半数近くみられる。さらにそれらは段階や剥片素材の個体に関連性が無く、剥片や石器類のみが離れて分布するもの（20個体）と、石器製作の段階によって場所が移動しているもの（8個体）に分けられる（表Ⅷ-2）。接合資料中の離れて分布する石器や剥片は、比較的点数が少なく分布密度が低い石器ブロックに分布する場合が多い。出土傾向の散漫と集中の違いは同一ブロック内に見られる現象であり、一概に自然営力による石器の移動のみで



図Ⅷ-10 「白滝I群」母岩別資料（6）

1 「白滝1群」(Sb-1~13)について

表層一 母岩別資料接合・分布状況

石群 ブロック	母岩・接合番号	用字 ブロック	産出地	接合の 種類	中心	出 所	備考
1-3	母岩10-接合1	1	澁川	巻石	-	巻石	段階上で縦断に割られた面と、石縁の凹凸がブロック面と一致して接合
	母岩11-接合3	3	113号産石	巻石	-	巻石	
	母岩11-接合7	1	113号産石	巻石	-	巻石	
	母岩11-接合8	1	113号産石	巻石	-	巻石	段階1・2・3の面の一部がやぶれたブロック面から剥離した
	母岩11-接合9	1	113号産石	巻石	-	巻石	段階1-6のブロック面は、5-6の面と一致して
	母岩11-接合10	1	113号産石	巻石	-	巻石	
	母岩11-接合11	1-2	113号産石	巻石	片断	巻石	
	母岩11-接合12	1-3	113号産石	巻石	3	巻石	
	母岩11-接合13	6	113号産石	巻石	-	巻石	
	母岩11-接合14	5-6	剥片	巻石	6	巻石	
1-6	母岩11-接合15	5	113号産石	巻石	-	巻石	
	母岩11-接合16	6	113号産石	巻石	-	巻石	
	母岩11-接合17	3	113号産石	巻石	-	巻石	
	母岩11-接合18	3	113号産石	巻石	-	巻石	
	母岩11-接合19	3	113号産石	巻石	-	巻石	
	母岩11-接合20	3	113号産石	巻石	-	巻石	
	母岩11-接合21	3	113号産石	巻石	-	巻石	
	母岩11-接合22	3	113号産石	巻石	-	巻石	
	母岩11-接合23	3	113号産石	巻石	-	巻石	
	母岩11-接合24	3	113号産石	巻石	-	巻石	
2-8	母岩21-接合1	1	澁川	巻石	-	巻石	段階1-4まで内側片がSb-1に接合し、外側片は巻石の面と一致して接合
	母岩21-接合2	1	澁川	巻石	-	巻石	段階2の面と一致して接合
	母岩21-接合3	1	澁川	巻石	-	巻石	段階2の面と一致して接合
	母岩21-接合4	1	澁川	巻石	-	巻石	段階2の面と一致して接合
	母岩21-接合5	1	澁川	巻石	-	巻石	段階2の面と一致して接合
	母岩21-接合6	1	澁川	巻石	-	巻石	段階2の面と一致して接合
	母岩21-接合7	1	澁川	巻石	-	巻石	段階2の面と一致して接合
	母岩21-接合8	1	澁川	巻石	-	巻石	段階2の面と一致して接合
	母岩21-接合9	1	澁川	巻石	-	巻石	段階2の面と一致して接合
	母岩21-接合10	1	澁川	巻石	-	巻石	段階2の面と一致して接合
3	母岩31-接合1	1	澁川	巻石	-	巻石	段階1の面と一致して接合
	母岩31-接合2	1	澁川	巻石	-	巻石	段階1の面と一致して接合
	母岩31-接合3	1	澁川	巻石	-	巻石	段階1の面と一致して接合
	母岩31-接合4	1	澁川	巻石	-	巻石	段階1の面と一致して接合
	母岩31-接合5	1	澁川	巻石	-	巻石	段階1の面と一致して接合
	母岩31-接合6	1	澁川	巻石	-	巻石	段階1の面と一致して接合
	母岩31-接合7	1	澁川	巻石	-	巻石	段階1の面と一致して接合
	母岩31-接合8	1	澁川	巻石	-	巻石	段階1の面と一致して接合
	母岩31-接合9	1	澁川	巻石	-	巻石	段階1の面と一致して接合
	母岩31-接合10	1	澁川	巻石	-	巻石	段階1の面と一致して接合
11-13	母岩11-接合11	11-13	剥片	巻石	17	巻石	Sb-11から剥片の面と一致して接合し、Sb-11は巻石の面と一致して接合
	母岩11-接合12	11-13	剥片	巻石	17	巻石	Sb-11は巻石の面と一致して接合し、Sb-11は巻石の面と一致して接合
	母岩11-接合13	11-13	剥片	巻石	17	巻石	Sb-11は巻石の面と一致して接合し、Sb-11は巻石の面と一致して接合
	母岩11-接合14	11-13	剥片	巻石	17	巻石	Sb-11は巻石の面と一致して接合し、Sb-11は巻石の面と一致して接合
	母岩11-接合15	11-13	剥片	巻石	17	巻石	Sb-11は巻石の面と一致して接合し、Sb-11は巻石の面と一致して接合
	母岩11-接合16	11-13	剥片	巻石	17	巻石	Sb-11は巻石の面と一致して接合し、Sb-11は巻石の面と一致して接合
	母岩11-接合17	11-13	剥片	巻石	17	巻石	Sb-11は巻石の面と一致して接合し、Sb-11は巻石の面と一致して接合
	母岩11-接合18	11-13	剥片	巻石	17	巻石	Sb-11は巻石の面と一致して接合し、Sb-11は巻石の面と一致して接合
	母岩11-接合19	11-13	剥片	巻石	17	巻石	Sb-11は巻石の面と一致して接合し、Sb-11は巻石の面と一致して接合
	母岩11-接合20	11-13	剥片	巻石	17	巻石	Sb-11は巻石の面と一致して接合し、Sb-11は巻石の面と一致して接合

解決できる問題ではないであろう。石器製作中もしくは石器製作後における何らかの行動の違いを示している可能性があり、今後もデータを蓄積し、総合的に検討していきたい。

石器製作の状況として、58個体中50個体（離れた接合状況が無い母岩30個体と、段階や剥片素材の個体に関連性が無く剥片や石器類のみが離れて分布する母岩20個体）は、1か所で剥片作業が行われていたとみられる。その中の20個体については離れた接合状況がみられるが、それら全てが石器や剥片が持ち出されたかと判断するのは難しい。特に上白滝8遺跡の「白滝I群」は、I群以外の石器群と分布が重なる状況があり、後世の集出によって石器類が移動した可能性も考えなくてはならない。しかし、

石器製作の段階によって場所が移動しているものが8個体あることを考慮すれば、石器や剥片を石器製作した場以外に持ち出した可能性は十分あると思われる。具体的な場の機能については検討していないが、器種ごとの石器の偏りなどは観察されない。しかし、接合資料中の離れて分布する石器や剥片が、比較的点数が少なく分布密度が低い石器ブロックに分布する傾向から、それらの石器ブロックが、使用の場の一部であった可能性がある。

接合作業の結果、転蹠、角蹠とも原石の状態まで復元でき、最終的な石核まで接合する母岩が多数を占めた(表Ⅷ-2)。また、確実に剥片の状態でも遺跡内に持ち込まれ剥片剥離を行っている資料はSb-1~3の母岩6・接合6、Sb-4~6の母岩56・接合141、Sb-9の母岩90・接合247、Sb-10の母岩73・接合180、Sb-11~13の母岩462・接合285である。これと分布状況を総合すると、「白滝I群」では、遺跡内に原石を持ち込み、最終的な石核を遺棄するまで集中的に剥片剥離を行い、単体の石器もしくは剥片の状態でもブロック外・遺跡外に搬出しているものと考えられる。以上のことから「白滝I群」では非常に弱いながらも遺跡間の連鎖がみとれる。これは原産地分析の結果ともある程度相関性があり、剥片素材で搬入された3個体を分析した結果、2個体があじさい滝産で、原石まで復元できる母岩は全て赤石山産であった(Ⅷ章4)。

(4) 年代測定

放射性炭素年代 炭化木片ブロックに対して行った(Ⅷ章1)。現在のところ、炭化木片ブロックは近接した石器ブロックとの関係性が最も高いと捉えている。しかし、「白滝I群」とそれ以外の石器群の分布が重なる状況であるため年代値をそのまま採用する事は注意を要する。そのような条件の中で「白滝I群」の石器ブロックに近接した炭化木片ブロックは、Cb-1・6である。Sb-5の西縁辺部にCb-1があり、 $12,460 \pm 60$ yBP、 $12,420 \pm 100$ yBPの年代値が得られている。また、Sb-10の北東縁辺部にCb-6があり、 $18,650 \pm 160$ yBP、 $18,780 \pm 160$ yBPの年代値が得られている。逆に、近接した石器ブロックがない炭化木片ブロックはCb-14・15である。Cb-14は $21,980 \pm 210$ yBP、 $24,340 \pm 160$ yBP、Cb-15は $14,030 \pm 110$ yBP、 $13,930 \pm 50$ yBPの年代値が得られている。Cb-14が全体の中でも古い年代値であり、「白滝I群」と関わりがあるかもしれない。

水和層測定年代 Sb-1の出土石器に $12,046 \pm 47$ yBP (H114)、 $20,944 \pm 1,116$ yBP (H115)、 $23,482 \pm 270$ yBP (H116)、Sb-5の出土石器に $11,182 \pm 1,011$ yBP (H117)、 $11,783 \pm 1,213$ yBP (H119)、 $17,721 \pm 1,851$ yBP (H120)、Sb-6の出土石器に $11,721 \pm 800$ yBP (H121)、 $25,627 \pm 1,540$ yBP (H122)、Sb-8の出土石器に $14,690 \pm 1,422$ yBP (H123)、 $13,725 \pm 1,954$ yBP (H124)、 $11,103 \pm 423$ yBP (H125)、Sb-9出土石器に $16,467 \pm 1,349$ yBP (W5)、 $19,546 \pm 1,072$ yBP (W6)、 $8,238 \pm 2,010$ yBP (W7)、 $12,535 \pm 441$ yBP (H126)、Sb-10の出土石器に $11,517 \pm 2,366$ yBP (W11)、 $15,472 \pm 1,086$ yBP (W12)、 $16,985 \pm 720$ yBP (W13)、 $15,565 \pm 1,448$ yBP (H127)、Sb-12の出土石器に $20,743 \pm 970$ yBP (H128)、 $19,051 \pm 2,355$ yBP (H129)、 $26,076 \pm 1,849$ yBP (H130)の年代値が得られている(Ⅷ章4)。

同一石器ブロックでも年代差が大きく、単純に年代値を採用できない状況であるが、以下に石器ブロック群毎の特徴を概観する。Sb-1~3では、3点中2点が20,000年以上の年代値である。Sb-4~6では、角蹠を素材とした母岩とそれに類似した剥離技術を行っている転蹠素材の母岩(母岩21・接合47)が11,000年近くにまとまっている。Sb-7・8はすべて角蹠を素材とした母岩で11,000~15,000年の測定値である。比較的まとまり、前述のSb-4~6の角蹠素材の母岩ともやや近い。Sb-10は、4点中3点が16,000年前後にまとまっている。Sb-11~13は、最も新しいH129が19,000

年代で、全体的に古めの年代値である。

フィッシュントラック年代 Sb-9の剥片に21,100±2,300yBP (FT6)、23,400±2,100yBP (FT7)の年代値が得られている。まとまった測定値で、石器群の想定される年代との整合性も高いが、「白滝I群」以外の試料に関しても20,000年以上の古い年代値が得られている(Ⅷ章2)。年代順に「白滝I群」→ナイフ形石器群→尖頭器石器群となり、現在考えられている石器群の変遷観を支持するが、年代が全体的に古い値にまとまっているため、「白滝I群」も含めて採用には検討を要する。

(5) 石器ブロック群間の関係と石器群の編年的位置付け

以上のことを総合すると、石器組成、石器製作技術、接合分布から「白滝I群」を以下の二つに細分することが可能である。

「白滝I a群」 加工(ア)による二次加工ある剥片のほかに、加工(イ)による腹面側のバルブ部に平坦剥離を施す二次加工ある剥片(台形様石器)が特徴的に出土する。搔器、錐形石器を少数組成し、搔器は端部のみやや粗い剥離が施されるものが主体的である。剥片剥離はⅠ～Ⅲ類まで確認され、その他に角礫を素材とする母岩が伴う場合もあり、縦長剥片を目的的に剥離していた可能性が高い。

Sb-1~3、4~6、7・8、9、11~13がこれに該当し、同一の石器群として捉えることが可能である。このような一群は道内で白滝村奥白滝1遺跡Sb-1~3、4~6(直江ほか 2002)、千歳市祝梅下層遺跡三角山地点(横山・吉崎 1974)で確認され、現在、北海道の後期旧石器時代の中で最古の一群として捉えられている(佐藤 2003、山原 1996、寺崎 2003など)。

この中でSb-11~13は、他の石器ブロック群と若干異なる傾向がある。二次加工ある剥片の素材は(a)・(d)が多く、剥片剥離技術においてⅡb類や剥片を素材とし、小口面同士のⅢa類が行われるものが多い。特徴的な石器として、縦長剥片を素材として腹面側のバルブ部に平坦剥離を施す二次加工ある剥片が出土している。これは技術形態的に粗製の広郷型ナイフ形石器といった感がある。石器製作技術的にも広郷型ナイフ形石器は、北見市広郷8遺跡(宮 1985)でサイコロ状の石核が出土し、白滝村上白滝7遺跡(坂本ほか 2000)でチョッピングツール状の交互剥離を行う「白滝I群」に類似した剥離技術が伴っている。これらのことから広郷型ナイフ形石器群と台形様石器群との関係性を重視する見方がある(坂本 2003、寺崎 2003)。現段階では他の石器ブロック群と明確に分離できないため、同一の石器群とする。しかし、Sb-11~13は、広郷型ナイフ形石器を伴う石器群との関係を考える中で重要な石器ブロック群と考えられる。

「白滝I b群」 加工(ア)による二次加工ある剥片のほかに、加工(ウ)による二次加工ある剥片(台形様石器)が出土する。搔器、削器、錐形石器を組成し、搔器の加工は器体をほぼ全削する。剥離技術に関しては、Ⅲ類よりはⅠ類の技術が多用される傾向がある。

Sb-10がこれに該当する。このような一群と同様の組成を持つ石器群は、現在のところ確認されていない。個別の石器をみると、急角度の二次加工を施す台形様石器は函館市枯梗2遺跡(石川・長沼 1988)、清水町共栄3遺跡(山原 1992)で出土している。さらに搔器は、上上幌町嶋木遺跡(辻 1973、加藤・山田 1988)に代表される搔器を主体とする石器群や今金町神丘2遺跡(寺崎 1990)や広郷8遺跡の広郷型ナイフ形石器に伴う円形搔器とも類似するものである。

当該期の石器群は近年調査例が増加したものの、石器群ごとの様相は、異なる点と類似する点が複雑で、一系統の単純な発展段階論では説明がつかない状況となっている。「白滝I a群」と「白滝I b群」の関係についても同様である。詳細な編年的・系統的關係については、次年度以降報告予定の

上白滝8遺跡西地区の挿器を中心とした「白滝Ⅰ群」を検討した後の課題としたい。上述のように上白滝8遺跡東地区の「白滝Ⅰ群」は大きく二つの石器群として捉えることが可能である。

(直江康雄)

2 上白滝8遺跡「白滝Ⅰ群」以外について

白滝村には黒曜石の原石山である赤石山に隣接する立地環境を背景として非常に多くの遺跡が密集している。当センターは、旭川・紋別自動車道建設に伴う発掘調査として平成7年以来、白滝村において17遺跡(平成15年時点)の調査を行ってきたが、それらのほとんどが黒曜石の獲得を目的として形成されている点で共通して原産地遺跡の性格を持つ。しかし、遺跡群で採取される石材獲得から石材消費に至る戦略については遺跡群を構成する個々の遺跡・石器群等の諸階層で様々な違いがあることも明らかになりつつある。

上白滝8遺跡は17遺跡の中で最も大量の遺物が出土し、分布密度では低地部を除くと服部台2・奥白滝1とならんで1㎡あたり100点前後である。遺物分布は、他の遺跡に比べ最も広範囲に連続し、巨視的に見ると直径50m規模の集中域とみなすことができる。しかし、これらは、複数の石器群が重複する複雑な様相を示している。今回はこのような遺跡の状況をふまえ、連続した分布を把握・記述するための資料操作単位として便宜的に等密度線図からブロック設定を行い、さらに、最大公約数的な「石器群」の分類を目的として、特徴的な石器・近距離での接合関係を基に「区域」の設定を行った。この資料操作を経て、おぼろげながら「石器群」の特徴をつかむことができた。本節では、以上の資料操作を経てたどり着いた「区域」毎の特徴をまとめたいと思うが、前述の理由により厳密な「石器群」抽出には至っていない。しかしながら、このような、分布のあり方こそが原産地遺跡である白滝遺跡群の中でも最大級の規模を誇る本遺跡の性格を特徴づけていると考えることができる。なお、遺跡全体の検討は次年度以降の西地区報告時に行いたい。

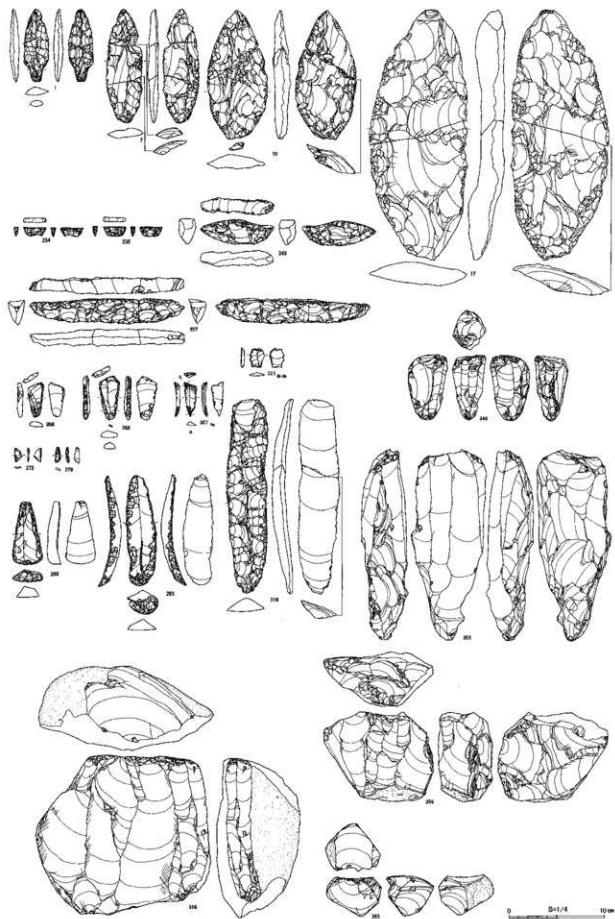
(1) A区・石器ブロック14~19 (Sb-14~19)

石器・石材組成 (図Ⅷ-11) 点取り遺物13,670点、188,721.7gの石器類が出土した。定形的な石器は尖頭器・尖頭器削片・両面調整石器・ナイフ形石器・彫器・彫器削片・挿器・削器・錐形石器・舟底形石器(I・II類)・細石刃・細石刃核・細石刃核削片・石刃・縦長剥片・石刃核・石核・台石が出土している。石材は黒曜石1(68.0%)が最も多く、次いで黒曜石4(16.4%)、黒曜石5(10.4%)、黒曜石3(4.6%)、黒曜石2(0.4%)、貞岩(0.11%)、安山岩(0.07%)、めのう(0.04%)、珪岩(0.01%)、泥岩(0.01%)、碧玉(0.01%)である。彫器・舟底形石器には黒曜石4が、細石刃関連資料には黒曜石1・5が多く利用される。

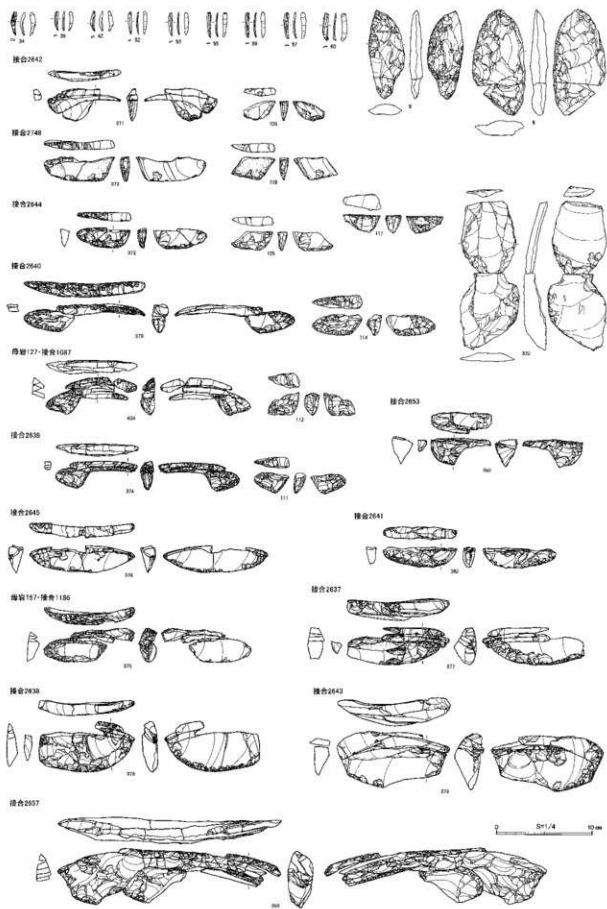
石器製作技術 尖頭器製作技術と石刃剥離を含む剥片剥離技術に分けられ、石刃剥離を含む剥片剥離技術の中に細石刃剥離技術が含まれる。

〈尖頭器製作技術〉 尖頭器は有舌尖頭器と通常の尖頭器が出土している。有舌尖頭器(図Ⅷ-11-1)は平行剥離ではない比較的大きい剥離で加工され、角張った舌部を持ち、舌部の縁辺は潰れている。単体で搬入され、産地分析で十勝三股産の結果が得られている。通常の尖頭器は剥片素材(図Ⅷ-11-7・10)と石核素材(図Ⅷ-11-17)があり、前者は15cm以下、後者は15~25cmである。剥片素材は転・角礫とも利用され、横長剥片素材が多く、石核素材は角礫が利用される。

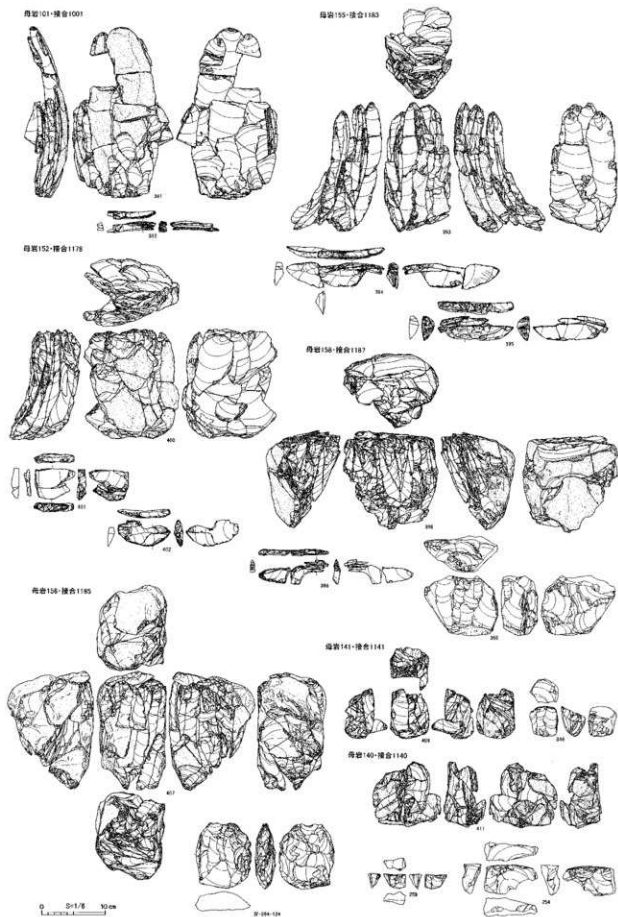
〈剥片剥離技術〉 大きく6種類に分けられる。



图四一11 A区(Sb-14~19)石器组成图



図Ⅷ-12 A区(Sb-14~19)細石刃関連資料



圖一三 A区(Sb-14~19)母岩別資料

- ①背縁から左右側面に石核調整を行い、横断面が扇形の母型から石刃が剥離される。単削の主に単剥離打面から頭部調整を伴わない10cm以下の小型のもの（図Ⅷ-11-346）。
- ②背縁から左右側面に石核調整を行い、横断面が扇形の母型から石刃が剥離される。複剥離（調整）打面から頭部調整を伴う20cm前後の大型のもの（図Ⅷ-11-355）。
- ③20～30cmの角礫ないし転礫の平坦面で、石核調整を行わずに一度の大型剥片剥離により作出された打面から石刃が剥離される（図Ⅷ-11-356、母岩101・接合1001、母岩155・接合1183、母岩152・接合1178）。平坦な作業面形状を反映して剥離される石刃は幅広である。また、作業面形状が平坦であるためヒンジになりやすく、悪化した作業面を修正するため180度の打面転移が行われるものが多い。
- ④20～30cmの主に扁平な角礫ないし転礫を素材とし、裏面調整・打面調整を伴う石刃剥離が行われ、打面転移の結果、円盤状になる（図Ⅷ-11-359、母岩158・接合1187）。③の工程を経て移行するものがある（母岩156・接合1185）。
- ⑤10cm程度の小型の転礫を素材とし、単剥離打面から石刃剥離が行われ、打面転移の結果、多面体をなすもの（図Ⅷ-11-363、母岩141・接合1141）。
- ⑥10cm程度の小型の原石を二分割するもの。（母岩140・接合1140）

峠下技法関連の接合関係が認められるのは③④である。舟底形石器が接合するのは⑥であるが、舟底形石器に小型の原石から剥離された厚手の剥片ないし縦長剥片素材が多く存在することから、そのような剥片剥離技術が存在したと考えられる。

- ②④⑤は打面調整・再生、打面転移の結果、石核は小型化し、剥離される石刃のサイズも小型化するが、①③は変化が少ない。

<細石刃剥離技術> 細石刃核は削片剥離によって打面が作出されるもの（図Ⅷ-12-106ほか）と素材腹面を打面に設定する観加型（図Ⅷ-12-117）がある。前者は主に③④の削片剥離技術で剥離されたと考えられる10～20cmの石刃・縦長剥片・剥片を素材とするが、石核素材の可能性のあるもの（接合2657）もある。後者は、甲板面が非常に平坦で大型の剥片素材と考えられる。細石刃核に残る細石刃剥離作業面長は21～27mmのものが多く、細石刃長と一致する。また、細石刃剥離角は60度前後である。細石刃剥離痕のある細石刃核の高さはほぼ一致するが、細石刃剥離痕のない細石刃核の高さは多様である。

削片剥離によって打面が作出される細石刃核母型は、主に縁辺部を中心とした加工により製作される（接合2642、2748、2644、2640）が、両面調整に近い母型（接合2639）、断面三角形の母型（接合2653）が準備されることもある。尖頭器に分類した図Ⅷ-12-6・8は縁辺部の潰れた状況から両面調整体の母型の可能性がある。また、図Ⅷ-12-320のように母型作成時に素材の反りのある先端部をノッチ状の剥離によって折り取る場合がある。

削片剥離は、ほとんどが母型の一方の端部から行われ、その打点位置には素材打面・先端部の偏りは見られない。また、ほとんどの細石刃剥離は削片剥離打面側で行われ、細石刃剥離作業面を正面に据えたと素材背面が左側面に、素材腹面が右側面に設定される。削片剥離の頻度は、3～5本が主体的であるが、削片の打面厚はほとんど変わらないこと、目的とする細石刃核未製品の大きさが一定であることからその数は細石刃核母型の大きさに規定されている。

削片剥離後、甲板面・下縁から側面に加工が行われるものがあり、面的な加工の施されるもの（母岩127・接合1087、接合2641、2637、2643、2657）と側面から甲板面への加工を含めた縁辺に細かい加工の施されるもの（接合2642、2645、2638、母岩157・接合1186）とに分けられる。前者は細石刃核の形態を変化させる調整、後者は次の削片剥離に先立つ調整と考えられる。これらには側面調整の

頻度に違いがあるが、細石刃剥離が行われている細石刃核の大きさを比較すると幅においては前者が14・15mm、後者が8・9mmで違いが見られるものの高さ・細石刃剥離作業面長はほとんど違いが無く、剥離される細石刃の大きさに違いが見られない。つまり、削片剥離段階での加工頻度を薄い素材には低く、厚手の素材には高くすることによって同一規格の細石刃核を製作し、同一規格の細石刃製作を保証しているのである。このことから、上白滝8遺跡における峠下技法の細石刃剥離技術は、目的とする細石刃の規格に対応した細石刃核を製作するために、削片剥離段階で加工頻度を変化させる技術であるといえる。このことは、また、本石器群における加工頻度の異なる細石刃核は同一規格の細石刃を剥離するという脈絡の中では同一の細石刃剥離技術の変異に過ぎないことを示している。

以上の結果を踏まえると、今後は、一遺跡内の石器群を単位として目的削片である細石刃の大きさを基準にした細石刃剥離技術の変異幅を検討し、細石刃剥離技術を再構築する必要がある。

1個体あたりの細石刃剥離頻度は、接合資料を観察すると細石刃剥離は全く行われないか、残材まで連続して行われるか両極端である。細石刃核の幅・高さ等の形状が細石刃剥離の条件を満たしたと判断できるものには消費しきるまで一気に細石刃が剥離されたものと考えられる。また、細石刃剥離中に打面再生は行われない。

削片のみ・細石刃核・未製品のみ資料があり、素材・細石刃核母型・細石刃核未製品など搬入形態は多様であったと考えられる。また、接合資料の欠落部分から素材・細石刃核母型・細石刃核未製品など搬出形態も搬入形態同様、多様であったと考えられる。

<二次加工技術> 舟底形石器はⅠ類(図Ⅷ-11-234・235)とⅡ類がある。Ⅰ類の加工は上下から行われ、最終的に下縁からの加工によって整形される。端部で細石刃状の縞状剥離が行われる。Ⅱ類(図Ⅷ-11-243)は、甲板面がポジ面とネガ面があり、削片・石核が素材となる。端部に原稜面・素材面が残るものが多く、小型の原石から剥離されたと考えられる。加工は主に甲板面から行われる。15cmを越える大型品(図Ⅷ-11-257)、甲板面が原稜面のものがあり、それらは素材・上下からの加工状況が他のⅡ類と異なる。彫器(図Ⅷ-11-266・268)は、両側縁に加工が行われ、腹面基部に加工が行われるものが多い。彫刀面は全て左肩に作出され、ほとんどが素材先端側である。腹面側に傾くものが多く、刃部形状は急角度の加工で直線的に整形されるもの(図Ⅷ-11-289)と斜角の加工で円形に整形されるもの(図Ⅷ-11-293)がある。錐形石器(図Ⅷ-11-307)は、石刃の端部に刃部が作出され、両端に刃部のあるものは、一端には中軸線上に、もう一端には斜めに作出される。削器には大型石刃素材で加工が背面を覆うもの(図Ⅷ-11-316)がある。

分布 細石刃関連資料、舟底形石器Ⅰ・Ⅱ類、彫器は分布が一致し、有舌尖頭器を含む尖頭器はその分布とは異なる。15cmを越える大型の尖頭器、大型ないし甲板面が原稜面の舟底形石器はB区近くに分布し、また、B区に同様の石器が分布することから関連がある。細石刃関連資料と舟底形石器は同一母岩に含まれる資料はなく、別の削片剥離技術から製作されているが、分布上ではこれらを分離することは困難である。

個々の接合資料はほとんどどこか所のまとまりに分布するが、ブロック内の近接した場所で前半と後半の分布が分かれるものがある。

炭化木片ブロックはCb-1がSb-19の西端に位置するが、周辺に被熱石器はみられない。

年代 Cb-1には12,460±60yBP、12,420±100yBPの放射性炭素年代測定値が得られている。水和層年代測定は、Sb-17出土の細石刃核に9,556±476yBP(W14)、12,461±219yBP(W15)、14,550

±912yBP (W16)、細石刃核削片に10,181±224yBP (H136)、有舌尖頭器に11,623±278yBP (H150)の水和層年代測定値が得られている。Cb-1はA区の南西端に位置し、被熱石器との関連も無く、石器群との対応関係は不明で、年代値の採用には検討を要する。細石刃核のサイズでは小型の峠下型細石刃核(寺崎 1999a)に対応し、それらは後期旧石器時代後半期前半と位置付けられているが、分布上分離できない後期旧石器時代終末期と位置付けられている(山原 1998b)舟底形石器Ⅰ類を共伴とすると従来の編年観には整合しない。(鈴木宏行)

(2) B区・石器ブロック20～29 (Sb-20～29)

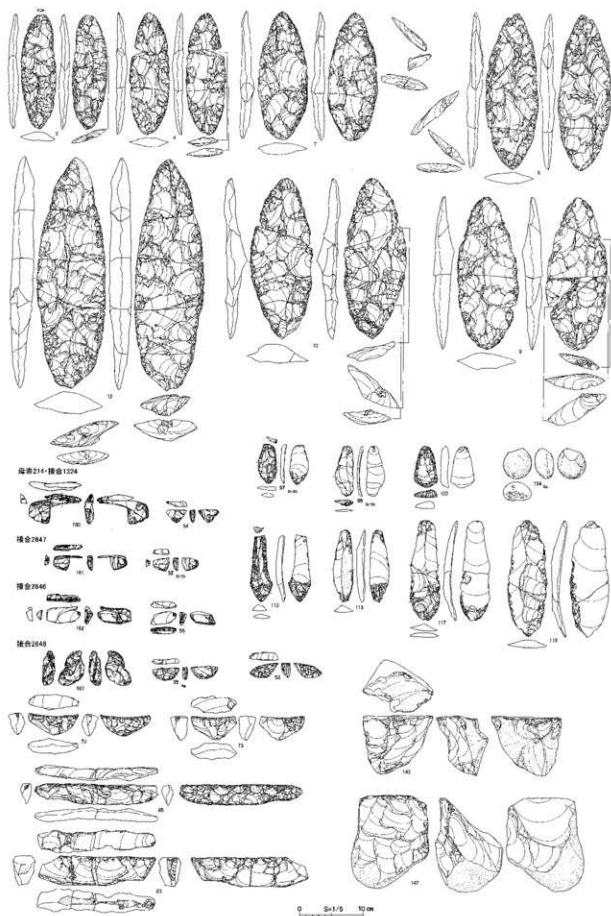
石器・石材組成 (図Ⅷ-14) 点取り遺物26,600点、213,398.4gの石器類が出土している。定形的な石器は尖頭器・尖頭器削片・両面調整石器・搔器・削器・錐形石器・舟底形石器・細石刃・細石刃核・細石刃核削片・石刃・縦長測片・石刃核・石核・石鏃・台石・敲石が出土している。石材は黒曜石1(47.1%)が最も多く、以下、黒曜石4(21.8%)、黒曜石5(20.1%)、黒曜石3(10.6%)、黒曜石2(0.2%)、安山岩(0.05%)、頁岩(0.04%)、めのう(0.01%)、砂岩(0.004%)である。彫器がほとんど含まれないのが特徴である。細石刃核の石材は黒曜石1・5が利用されるA区(Sb-14～19)と異なり、頁岩・めのう・黒曜石4・ケシヨマップ産の黒曜石が利用される。

石器製作技術 尖頭器製作技術と石刃剥離を含む剥片剥離技術に分けられ、石刃剥離を含む剥片剥離技術の中に細石刃剥離技術が含まれる。

<尖頭器製作技術> 角礫素材と考えられる平坦剥離面に覆われた15～35cmの大型の尖頭器(図Ⅷ-14-3～12)が多数出土している。形態は断面凸レンズ状で左右対称の均整のとれた形態である。これらは、ほとんど同一母岩の剥片が無く、ほぼ搬入形態を示している。接合資料(母岩231・接合1367、母岩458・接合2732)もほぼ同様の形状で大型の均整のとれた尖頭器で搬入され、加工が行われている。これらは、角礫素材であり、露頭周辺で初期段階の加工が行われ、搬入されたと考えられる。また、細長い扁平な角礫(母岩200・接合1277)や盤状の角礫(母岩197・接合1270)で搬入され、加工されるものがある。小型のものは再加工されたものが多く、基本的には遺跡内で小型品にするような連続した加工は行われない。大型のものは放射状の折れ面を持つもの(図Ⅷ-14-12など)が多く、それらはその他に調整の際に折損したと考えられる折れ面を持つことから、調整加工の折損後に器体中央を加撃して折損したと考えられる。

<剥片剥離技術> 平滑な原礫面を持つ45cmを越える大型の盤状原石、30cm程度の角礫、20～30cmの転礫が利用される。大型剥片剥離によって作出された単剥離打面ないし原礫面打面から頭部調整を伴い20cm程度大型石刃が剥離される。石刃剥離時に打面再生が行われるものがある。石核調整は転礫・中型の原石には行われないが、大型の原石素材の場合、最初の石刃剥離段階で後調整・裏面調整などがみられる。また、石刃剥離途中で若干の後調整・下縁調整などの作業面調整が行われるものがある。作業面形状がホームベース型の石刃核(母岩195・接合1267)は形態の整った石刃が連続的に剥離されている。大型原石素材の石刃技法は厚さ5cm程度の大型打面再生剥片が剥離されるが、このサイズの石刃核の打面更新にはこの厚さの打面再生剥片が必要である。また、原石を半分に分割する剥片剥離技術がある。

<細石刃剥離技術> 素材は小型の石刃・縦長測片で、めのう製の細石刃核(接合2648)は10cm弱の小型の原石を分割したような素材である。細石刃核は甲板面からの側面調整によって大きく変形する美利河型に類似する1点(図Ⅷ-14-58)を除き峠下型である。細石刃剥離作業面長は彫器から転用された頁岩製を除き20～25mmで、甲板面と作業面の角度は60度前後である。これらは、A地区



圖四—14 B区(Sb-20~29)石器組成圖

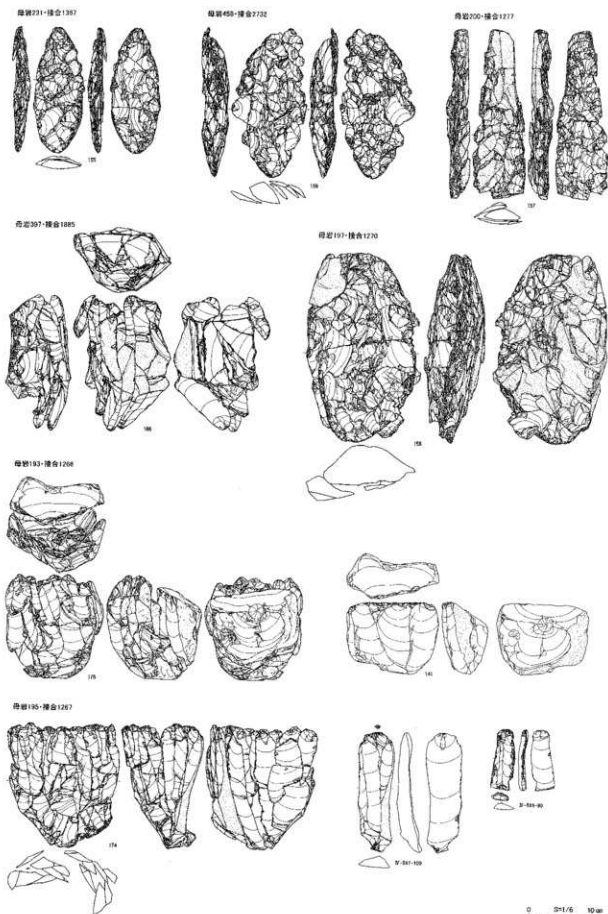


图 15 B 区 (Sb-20~29) 母岩別資料

の細石刃長・細石刃核の数値と一致する。しかし、A地区と異なり、貞岩（接合2647）・めのう（接合2648）・ケシヨマップ産の黒曜石（母岩214・接合1324）・黒曜石4（接合2646）などが利用され、それらの素材は薄く、調整は母型作成時の周辺可能のみで、刮片剥離後の側面調整は行われない。1個体あたりの細石刃剥離頻度はA区と同様である。

<二次加工技術> 舟底形石器は小型、大型のものがある。小型のもの（図Ⅷ-14-70・73）はザラつきの無い平坦な原礫面を持つ原石を分割した素材で側面形が三角形のものが多く、大型のものは大型石刃剥離の際に剥離された大型刮片・石刃、その石核・石刃核素材で側面形状が長方形になる。また、大型のものは主に甲板面からの粗い加工で整形されたもの（図Ⅷ-14-83）と上下からの細かい加工で整形されたもの（図Ⅷ-14-85）があり、後者は前者に比べ、幅・高さが小さい。後者が前者より加工が進んだ状態である可能性がある。また、甲板面が平滑な原礫面で原石から直接加工されたものもある。彫器（図Ⅷ-14-97）は一点のみ出土し、頁岩製の石刃である。孫器は石刃素材で端部に細かい剥離によって刃部が作出されるもの（図Ⅷ-14-99）と両側縁に連続した加工を施し、刃部にもしっかりした加工がみられるもの（図Ⅷ-14-102）がある。割器は大型の石刃素材で片面・両面に平坦剥離による加工がみられる。特に大型のもの（図Ⅷ-14-117・118）は素材の先端部背面に平坦加工が施され、その打面となる細かい剥離が虫面縁辺にみられる。また、両面加工で基部を整形し、先端部は背面の急角度の加工で尖頭状に加工されたもの（図Ⅷ-14-112）がある。敲石は5cm程度の円形の砂岩製である。

分布 大型尖頭器はSb-19・21・24、Sb-27・28にまとまりがある。舟底形石器は、前者には大型剥片素材の精製品・甲板面が原礫面の精製品が、後者にはざらつきのない平滑な原礫面を持つ原石素材の小型のもの・大型剥片素材の粗製品が伴う。Sb-26には転礫素材の石核類がまとまり、Sb-27には細石刃関連資料が分布する。

接合資料は基本的には一か所のまとまりに分布するが、近距離で複数のまとまりを持つものや長距離を隔てて分布するものがある。

近距離で複数のまとまりを持つものは、舟底形石器調整剥片とそれ以外の一次剥片の分布が異なるもの、段階で分布が異なるものがある。

長距離を隔てた接合資料として尖頭器単体ではSb-21とSb-50（D区）、Sb-27とSb-50・52（D区）の接合がある。剥離面接合資料ではA区とD区にまたがるものがある。A区にまたがる資料は細石刃関連資料・石刃関連資料があり、両者とも前半部分はB区（Sb-26、27）に、後半部分はA区（Sb-17）に分布する。特に、石刃関連資料は前半の石刃の一部もA区に分布している。D区にまたがる資料は尖頭器関連資料・大型石刃関連資料がある。尖頭器関連資料は、前半部分がB区（Sb-28）に、後半部分がD区（Sb-46）に分布するものとほとんどの剥片がB区（Sb-27）に、大型の剥片がB区（Sb-28）・D区（Sb-47）に分布するものがある。大型石刃関連資料は、ほとんどの一次剥片ないし舟底形石器調整剥片がB区（Sb-27・28）に、良好な石刃類がD区（Sb-46・47）に分布し、良好な石刃類がB区からD区に持ち込まれたものと考えられる。

遠距離接合に関しては単体の尖頭器接合資料はSb-50・52との関連が強いのに対し、剥離面接合資料ではSb-46・47との関連が強く、違いが見られる。これは、それぞれの遺物の移動・遺棄の脈絡の違いに起因すると考えられる。

年代 炭化木片ブロックは無く、Sb-27出土の細石刃核削片に $10,573 \pm 330yBP$ （H135）、大型石刃と舟底形石器の接合資料（母岩201・接合1278）に $11,276 \pm 737yBP$ （H144）、大型石刃の接合資料（母岩243・接合1409）に $16,146 \pm 1,131yBP$ （H145）、細石刃核削片に $10,181 \pm 224yBP$ （H136）の

水相層年代測定値が得られている。細石刃関連資料に10,000～11,000年の年代値が得られているが水相層年代値のみでは採用に検討を要する。大型石刃・舟底形石器を含む石器群は、当センターで調査を行った服部台2遺跡（未報告）で確認されているが、現段階では編年の位置付けは不明である。

（鈴木宏行）

（3）C区・石器ブロック30～35（Sb-30～35）

石器・石材組成（図Ⅷ-16） 点取り遺物9,664点、104,341.3gの石器類が出土した。定形的な石器は尖頭器・尖頭器削片・両面調整石器・ナイフ形石器・彫器・搔器・削器・錐形石器・舟底形石器・細石刃核・細石刃核削片・細石刃・石刃・縦長剥片・石刃核・石核・台石が出土している。石材は黒曜石1（55.3%）が最も多く、以下、黒曜石4（31.7%）、黒曜石5（5.9%）、黒曜石3（4.5%）、黒曜石2（2.5%）、安山岩（0.08%）、頁岩（0.02%）、めのう（0.01%）、流紋岩（0.1%）、である。石刃・縦長剥片は、黒曜石1が多い。

石器製作技術 尖頭器製作技術と石刃剥離を含む剥片剥離技術に分けられ、石刃剥離を含む剥片剥離技術の中に細石刃剥離技術が含まれる。

＜尖頭器製作技術＞ 主に角礫の石核素材と考えられる。両面調整石器には20cmを越えるものがあるが、尖頭器には無く、小型のものが主体である。片面が平坦で断面形が三角形のもの（図Ⅷ-16-4）、平坦剥離で覆われる薄手のもの（図Ⅷ-16-3）がある。両面調整石器には折損後、側縁に沿って剥離された削片を素材として舟底形石器が加工されるもの（図Ⅷ-16-14）がある。

＜剥片剥離技術＞ 大きく5種類に分けられる。

①20～30cm程度の転礫を素材として裏面・裏面から両側面・正面からの稜調整により、断面三角形の母型を作成し、頻繁に打面再生を行いながら頭部調整を伴って15～20cm程度の石刃が剥離される（図Ⅷ-16-74、母岩261・接合1465）。

②25cm程度の直角礫を素材として多方向の剥離によって15～20cm程度の幅広い縦長剥片が剥離され、石核形状は円盤状になる（母岩260・接合1464）。剥離された縦長剥片は細石刃核の素材となる。

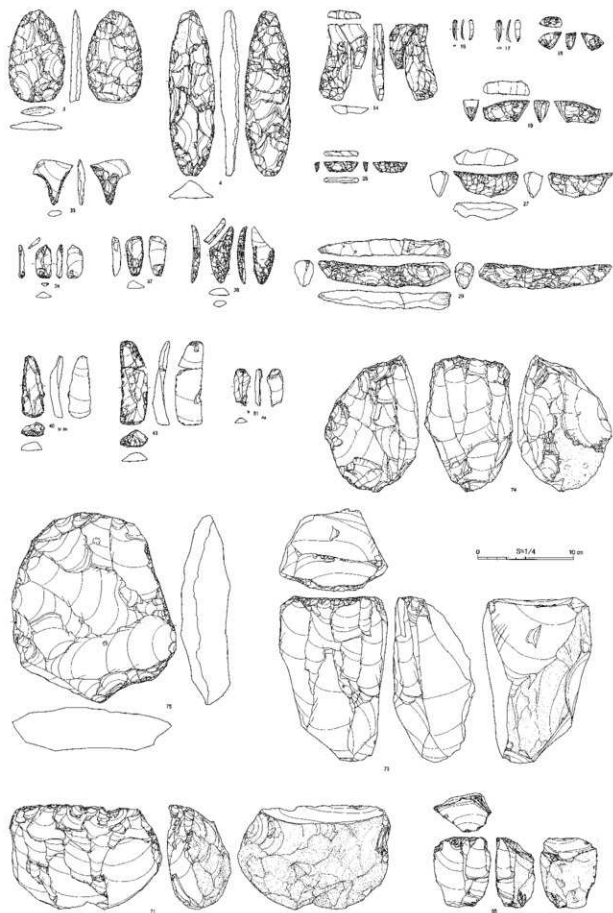
③40cm程度の大型の角礫を素材として一回の剥離によって作出された単剥離打面から頭部調整を伴って石刃が剥離されるもので、15cm程度の石刃が剥離される。厚手の石刃・石刃核を分割したものは舟底形石器の素材となる。

④15cm程度の転礫を素材として一回の剥離によって作出された単剥離打面から頭部調整を伴って石刃が剥離されるもので、作業面形状が平坦で10cm前後の幅広い石刃が剥離される（図Ⅷ-16-71、母岩189・接合1257）。

⑤10cm程度の転礫を素材として一回の剥離によって作出された単剥離打面から頭部調整を伴って石刃が剥離されるもので、10cm以下の比較的小型の石刃が剥離される（図Ⅷ-16-65）。

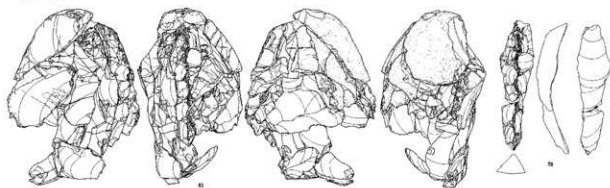
＜細石刃剥離技術＞ 比較的小型の厚手で幅広い縦長剥片を素材として細石刃核母型が製作される。厚手であるが、両面加工は行われず、縁辺のみの加工で母型は製作される。二次削片剥離に先立って加工が備面・甲板面に行われるが、幅を減少させるような広範囲の備面調整は行われない。細石刃剥離痕のある細石刃核は峠下型（図Ⅷ-16-18）・腕加型細石刃核（図Ⅷ-16-19）が出土し、それぞれ細石刃作業面長は22・27mm、甲板面と作業面の角度は60度程度でA区の細石刃核と一致する。また、細石刃の長さもそれらと一致する。

＜二次加工技術＞ 舟底形石器はⅠ・Ⅱ類が出土している。Ⅰ類には尖頭器の側縁で剥離された削片を素材とするものがある。Ⅱ類には小型（図Ⅷ-16-27）と大型のもの（図Ⅷ-16-29）がある。ナ

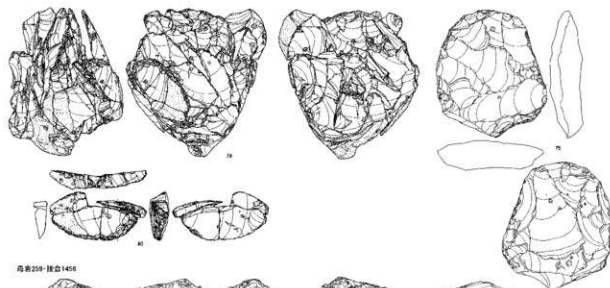


图Ⅷ—16 C区(Sb-30~35)石器组成图

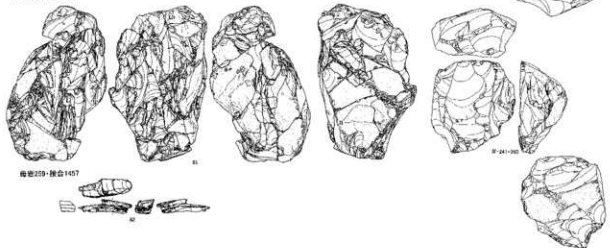
母岩201-群合1405



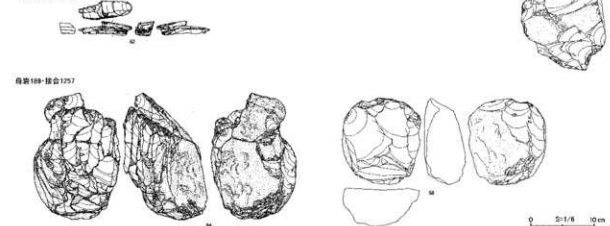
母岩210-群合1404



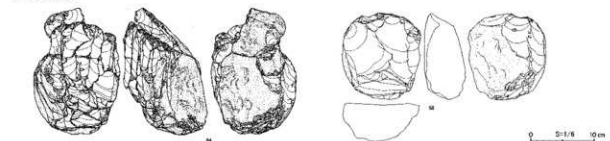
母岩220-群合1406



母岩230-群合1457



母岩100-群合1257



図Ⅲ-17 C区(Sb-30~35)母岩別資料

0 2.5/5 10cm

イフ形石器(図Ⅷ-16-33)は幅広い剥片素材で素材剥離軸に直交する基部が両面急角度の加工によって作出される。彫器は素材背面に平行剥離による加工が行われ、端部に作出された打面から斜めに直線的な彫り面が作出されるもの(図Ⅷ-16-36)がある。搔器は刃部形状が直線的で縁調整が軽微なもの(図Ⅷ-16-40・43)が多い。錐形石器(図Ⅷ-16-51)は小型の縦長剥片に斜めに刃部が作出される。

分布 C地区は、それぞれ石器の内容が異なる小規模なブロックが多いのが特徴である。Sb-31・32には石刃素材の搔器が多く、刃部形状は直線的である。また、黒曜石4が多い。Sb-33は単調な打面から大型の石刃が剥離されたほぼ一母岩(母岩289)で構成される。Sb-34には峠下技法の細石刃関連資料がまとまって分布する。細石刃関連の接合資料(母岩259・接合1456・1457)は峠下技法の細石刃関連資料が最も多いA地区と接合関係があり、初期の大型剥片・それを素材とした細石刃剥片の接合資料・後半段階の石器類がA区(Sb-17)から出土している。Sb-34で剥離された後、A区に持ち込まれ、剥離が行われたと考えられ、また、初期段階の大型剥片も選択して持ち込まれ、細石刃核に加工されたと考えられる。Sb-35は、作業面が幅広いの石刃核、搔器、舟底形石器・尖頭器にそれぞれ分布の偏りがみられる。複調打面から石刃が剥離された接合資料(母岩189・接合1257)はB地区と接合関係があり、形態の良い石刃がB区(Sb-22)に持ち出されている。Sb-34とSb-35にまたがる石刃剥離の接合資料があるが、それらの内容に明確な違いが見られない。

年代 炭化木片ブロックは無く、Sb-32出土の細石刃核を含む接合資料(母岩260・接合1464)に13,397±692yBP(H131)、Sb-33出土の大型石刃と舟底形石器の接合資料(母岩289・接合1357)に13,115±742yBP(H133)、細石刃核削片を同一母岩に持つ接合資料(母岩259・接合1456)に9,858±328yBP(H132)の水和層年代測定値が得られている。10,000~13,500年の測定値が得られているが、水相層年代測定値のみでは採用に検討を要する。A・B・D区に関連する複数の石器群があり、編年の位置付けはそれぞれの石器群に対応すると考えられる。

(鈴木宏行)

(4) D区・石器ブロック36~55(Sb-36~55)

石器・石材組成(図Ⅷ-18・19) 点取り遺物28,783点、257,068.5gの石器類が出土した。定形的な石器は尖頭器・尖頭器削片・両面調整石器・ナイフ形石器・彫器・搔器・削器・錐形石器・舟底形石器・細石刃・石刃・縦長剥片・石刃核・石核・斧形石器・台石・砥石・敲石が出土している。石材は黒曜石1(48.6%)が最も多く、以下、黒曜石4(30.7%)、黒曜石5(13.2%)、黒曜石3(7.0%)、黒曜石2(0.3%)、頁岩(0.09%)、安山岩(0.04%)、軽石(0.03%)、めのう(0.007%)、凝灰岩(0.003%)、砂岩(0.003%)である。細石刃1点を除くと細石刃関連資料が無く、他の区域に比べ彫器が多いのが特徴である。彫器・錐形石器・舟底形石器には黒曜石4が多く利用される。今回報告地区(東地区)では最大の区域で最多の遺物が出土している。

石器製作技術 尖頭器製作技術と石刃剥離技術を含む剥片剥離技術に分けられる。

<尖頭器製作技術> 剥片素材と石核素材があるが、ほとんどは石核素材である。石核素材の大部分は角礫素材で、多くの剥片で構成される接合資料は20~45cmの原石ないし粗加工された両面調整体で搬入されるものが多い。その内、25cm以下のものは原石ないし、それに近い形で搬入されるのがほとんど(母岩352・接合1720、母岩345・接合1700)であるが、30cmを越えるものは両面調整体が多い(母岩414・接合1926、母岩452・接合2029)。また、厚さ2cm以下の扁平な板状の角礫を素材としたものがある。同一母岩剥片が少なく母岩別資料に含まれないものも多く、あまり加工が行わ

れずに折損し、搬入形状に近いものもあると考えられる。遺跡内では主に厚さと幅を減少させて尖頭器は撤出される。折損後、折れ面を打面として側縁で刮片剥離が行われるもの（母岩345・接合1700）があり、一次刮片は断面三角形の形態的特徴を利用して舟底形石器Ⅰ類に加工されることがある（接合2675）。大型の尖頭器から小型の尖頭器にかけて粗い剥離（図Ⅷ-18-48・57）、平坦剥離（図Ⅷ-8-17）、平行剥離（図Ⅷ-3・4）が漸移的に見られ、幅・厚さも同様に小型化していることから大きさに応じて二次加工が変化し、平行剥離のある尖頭器が最終形態であると考えられる。

＜刮片剥離技術＞ 石刃剥離が行われる①～③と石刃以外の刮片剥離が行われる④～⑥の大きく6種類に分けられる。

①単調打面・原礫面打面・2～3枚の複剥離打面から頭部調整を伴って石刃が剥離される。大型のもの（母岩396・接合1883）は25cmを越える角礫が、小型のもの（母岩351・接合1716、母岩366・接合1739）は20cm以下の亜角礫・転礫が利用される。剥離される石刃は5～20cmと多様であるが大型のものを除くとほぼ10cm以下で、後者は彫器・搔器の素材となっている。また、一連の石刃剥離の中で剥離された打面作出刮片・厚手の刮片・石刃核は舟底形石器の素材となっている。

②調整打面の石刃核から石刃が剥離される。20cm程度の角礫・亜角礫が利用され、石核調整の無いもの（母岩390・接合1860）、裏面に横方向の石核調整が行われるもの、左右両側面に石核調整が行われるものがある。剥離される石刃は、前2者は15cm程度で、両側面に石核調整の行われるものは20cm程度である。

③角柱状の角礫から頭部調整無しで石刃が剥離される。打面再生が頻繁に行われ、両設のものが多い。原石の大きさは20～30cmが多く、作業面の中央がヒンジにより内湾するものが多い。

④5cm程度の小型の転礫素材で打面転移を頻繁に行い、頭部調整・打面調整を伴わずに刮片が剥離される。剥離された刮片は図Ⅳ-425-63のナイフ形石器の素材と考えられる。

⑤10～15cm程度の亜角礫素材で打面をほぼ固定し、頭部調整を伴わずに縁辺から2cm程度内側を加撃し、連続的に厚手の刮片が剥離される（母岩334・接合1680・母岩336・接合1684）。剥離される厚手の刮片は舟底形石器の素材となる。

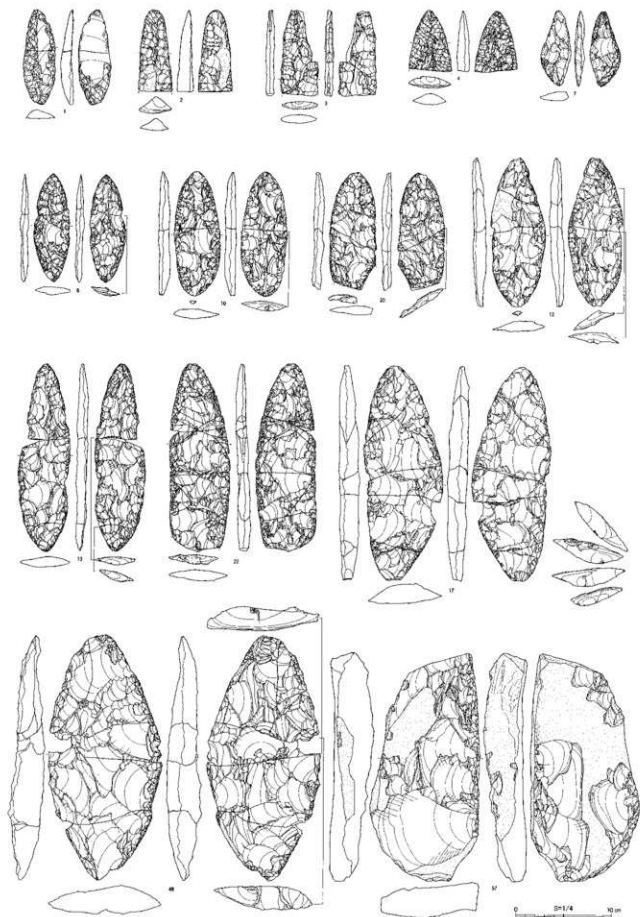
⑥角礫を素材として正面で多方向から刮片剥離を行う（母岩295・接合1581）。

全体として①の大型の石刃剥離が行われたもの以外は原石で搬入されるものが多い。

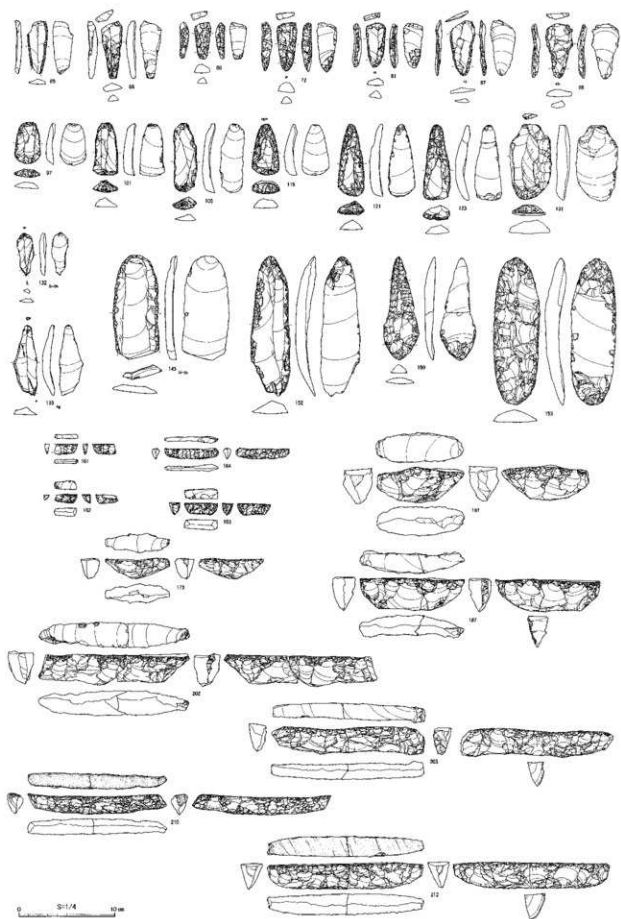
＜二次加工技術＞ 彫器（図Ⅷ-19-65～88）は石刃・縦長刮片素材が多い。ほとんどが両側縁に加工が施され、その3分の1には腹面に加工があり、片側に偏るものが多い。彫刀面はノッチ状に作出された彫刀面打面から素材先端部の左肩に作出される。背面先端部調整は彫刀面に腹面に傾くⅡ類のほとんどに行われ、6割程度の調整は彫刀面に切られる。形態軸・彫刀面交角はⅠ類が60度前後、Ⅱ類は45～95度と幅があるが、平均は73度でⅠ類より横向きである。彫刀面傾斜角はⅠ類が55度程度、Ⅱ類は130～140度が多い。

搔器はほとんどが石刃・縦長刮片素材である。両側縁の加工が軽微で素材形態を変化させないもの（図Ⅷ-19-97～105）と加工頻度が高く、素材形態変化の度合いの高いもの（図Ⅷ-19-119～123）がある。肉眼的に赤石山産と区別できる黒曜石が含まれ、原産地分析では、赤井川（図Ⅷ-19-119）・あじさい滝・所山・ケシヨマップ産（図Ⅷ-19-131）の結果が得られている。この中には、刃部が摩滅し、円くなっているものがある。赤井川産の結果は、当センターによる一連の調査では奥白滝Ⅰ遺跡に次いで2例目である。

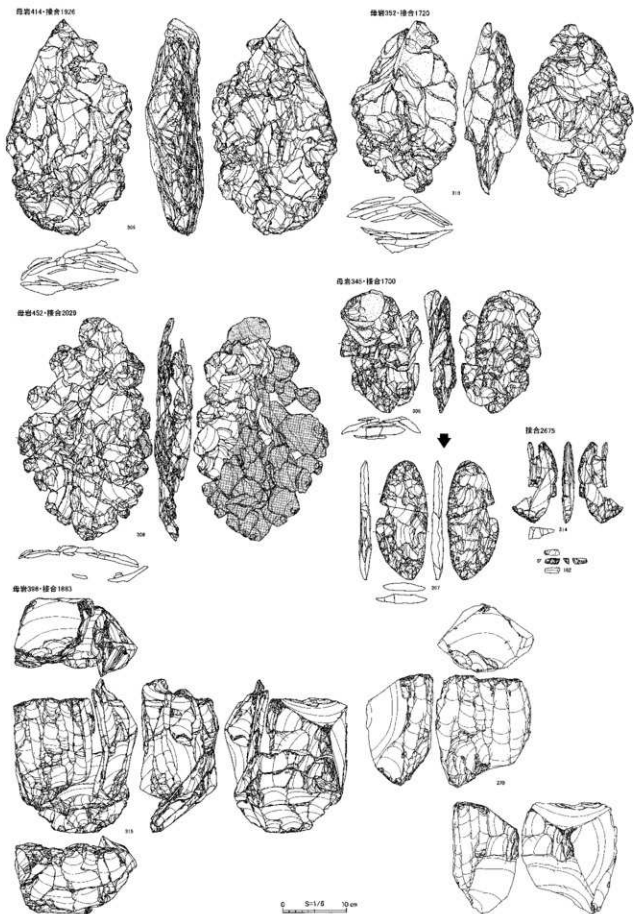
錐形石器（図Ⅷ-19-132・133）は黒曜石以外の石材（頁岩・めのう）が多く利用され、刃部は素材剥離軸に対して斜めに作出される。



図Ⅴ-18 D区(Sb-36~55)石器組成図(1)

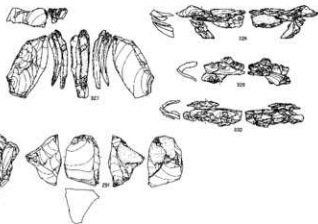
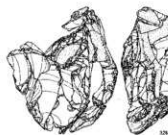


図Ⅷ-19 D区(Sb-36~55)石器組成図(2)

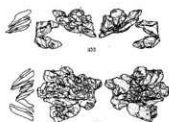


図版—20 D区(Sb-36~55)母岩別資料(1)

母岩251・緑角1716



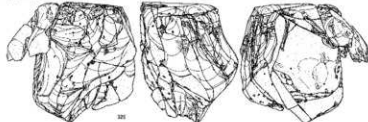
母岩268・緑角1759



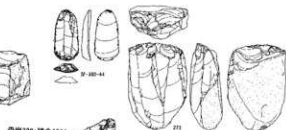
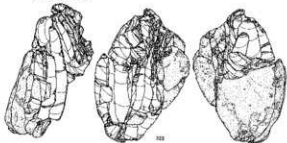
母岩324・緑角1830



母岩295・緑角1561



母岩290・緑角1900



母岩328・緑角1684



0 5=1/8 10cm

図21 D区(Sb-36~55)母岩別資料(2)

削器は大型の石刃素材が多く、片面加工(図Ⅷ-19-143)と両面加工がある。両面加工のものは、版面のバルブを除去するもの(図Ⅷ-19-152)、基部は平坦剥離による両面加工、先端部は背面に平行剥離を施して尖頭状にするもの(図Ⅷ-19-150)、背面はほぼ全体と版面両端に平坦剥離が行われるもの(図Ⅷ-19-153)などがある。

舟底形石器はⅠ・Ⅱ類共に出土し、素材剥離軸と石器長軸が一致するものが多く、Ⅱ類に関しては長さを変化させないように加工が行われるため、基本的には石器の長さは素材の長さを反映している。Ⅰ類は幅で4~8mmのもの(図Ⅷ-19-161・164)と8~12mmのもの(図Ⅷ-19-162・163)に分けることができ、後者には所山産(図Ⅷ-19-163)がある。Ⅰ類には端部に細石刃状の剥離痕のあるものと無いものがあり、石材は所山産の黒曜石Ⅰ以外、全て黒曜石4である。Ⅱ類は大きさ・素材・石質から3種類に分けられる。

- ①15cm以下、主に10cm以下で小型の剥片・石核素材のもの(図Ⅷ-19-181・187)。石質4が多い。
- ②10cm以上、主に15cm以上で大型の剥片・石核素材のもの(図Ⅷ-19-202・203)。下縁からの加工範囲の広いものは側面が平坦かつ下縁部がシャープである。大型の素材であるため甲板面は平坦で、側面は細長い形状である。石質Ⅰが多く利用される。
- ③石器形状に近い棒状の原石素材のもの(図Ⅷ-19-210・212)。石器の特徴は②と同様であるが、下縁からの加工が顕著でより細長い形状である。

①は利用石材・接合資料・分布・上臼淵5遺跡(Sb-6~11)の成果から二次加工による一連の形態変化に位置付けられるⅠ類の母型と考えられるが、②③は形態変化がⅠ類に連続せず、異なる最終形態であったと考えられる。最終形態は図Ⅳ-437・189・図Ⅷ-19-210の様な小型のものかもしれないし、あるいは、全てが一連の形態変化に位置付けられず、下縁からの精巧な加工の行われたものが大きさに関わらず完成品である可能性もある。いずれにしても現時点ではそれを判断する材料が無く、今後の課題としたい。

分布 舟底形石器を基準に分布を分けると、①はSb-36~39・41・43・44・47の北側に分布し、②③はSb-46・47の中央東寄り・50・51・53・54に分布している。大局的に見るとD区の北側に①が南側に②③が分布する。尖頭器は前者には偏りを持って分布し、後者には各ブロックに大小多量に分布する。彫器は前者にはSb-36・47を中心に多く含まれ、後者にはSb-47以外含まれない。掻器は前者には安定して組成されるが、後者には少なく、前者には赤井川・あじさい滝産、後者にはケショマップ・所山産のものが含まれる。石核類は全ての種類の舟底形石器が出土しているSb-47に舟底形石器とずれて多く分布し、それ以外は散漫に分布している。

他の区域との関連では舟底形石器②③はB区のSb-21・25・27にも分布し、尖頭器もSb-21・27・28に大小のものが多く分布する。接合資料にも前述のようにSb-46・47(D区)とSb-27・28(B区)には密接な接合関係があり、②③の分布するブロックはB区と関連が強い。

接合資料は基本的には一か所のまとまりに分布するが、区域内でブロックをまたいで分布するものがある。Sb-37・38にまたがるものは、尖頭器関連接合資料では初期・最終段階がSb-37に、中間段階がSb-38に分布し、あたかも両ブロックを往復したような関係を示す。同様な関係がSb-39とSb-42でも見られる。また、舟底形石器関連接合資料では前半がSb-37に、後半がSb-38に分布するもの、一次剥片がSb-38に、舟底形石器の個体のみがSb-37に分布するもの、など多様な様相を示す。

また、大規模ブロックであるSb-47ではブロック内で分布が分かれるものがある。尖頭器関連接合資料では粗い加工の初期段階がO51区に、後半の平坦剥離段階がP51区に分布するものがある。ま

た、舟底形石器関連接合資料では一次剥片・初期の舟底形石器調整剥片がP51区に、後半の舟底形石器調整剥片・石刃・厚手の剥片がMN51・52区に分布するようにP51区に一次剥離の痕跡が残り、MN51区に選択された石器や二次加工の調整剥片が分布する傾向がある。これらは全て石質4の舟底形石器Ⅰ類を含む石器群で、同様な石器群である上白滝5遺跡Sb-6~11でも看取されたこのような関係はSb-47→Sb-36の間でも見られ、本石器群の遺跡構造を形成する一つの特徴的なパターンと言えよう。

尖頭器の接合資料には特徴的な分布を示すものがある。母岩142・接合1143・1142はSb-17(A区)とSb-47(D区)の間に55mの距離を隔てた接合関係があり、前者は集中した、後者は散漫な分布である。これらの内容には剥離段階や剥片形状の違いが無く、両者にまたがる折れ面接合も多数見られることから、尖頭器調整剥片が剥離後、一度埋積した状態からランダムに分けられ、それぞれの地点に廃棄されたか、あるいはどちらか一方で堆積した剥片の一部をもう一方に運んで廃棄された状態が推測される。

炭化木片ブロックはSb-47の北端にCb-13、南西にCb-4、Sb-51との境界にSb-10が、Sb-49の北部にCb-6が、Sb-51の北西にCb-7・8、南部にCb-11・12が、Sb-52の西部にCb-5が、Sb-53の中央南にCb-2が分布する。これらの周辺には被熱石器が分布せず、石器群との直接的な関連は不明である。

年代 Cb-2には18,570±60yBP、Cb-4には13,780±100yBP、Cb-6には18,650±160yBP、18,780±160yBP、Cb-10には17,940±180yBP、Cb-11には18,760±170yBP、Cb-13には27,500±470yBP、26,900±120yBP、27,600±130yBP、26,390±480yBP、27,690±320yBPの放射性炭素年代測定値が得られている。水和層年代測定は、Sb-39出土の尖頭器調整剥片の接合資料(母岩291・接合1572)に14,180±165yBP(H152)、Sb-44出土の舟底形石器接合資料(母岩293・接合1579)に19,674±920yBP(H142)、Sb-47出土の石刃と舟底形石器の接合資料(母岩268・接合1491)に21,412±468yBP(H141)、尖頭器調整剥片の接合資料(母岩142・接合1142)に22,464±1,630yBP(H153)、石刃と舟底形石器の接合資料(母岩353・接合1726)に27,756±1,601yBP(H143)、尖頭器調整剥片の接合資料(母岩452・接合2029)に25,536±932yBPの水和層年代測定値が得られている。炭素年代測定値は18,000~19,000年が多いが、石器群との対応関係は不明である。水和層年代測定値はばらつきが大きく、また、現在想定される年代値とかけ離れており、採用するのは困難である。本地区は大きく南北に分けられ、北側の石器群は上白滝2(鈴木ほか 2001)、上白滝5(直江ほか 2002)、落合遺跡(北沢 1992、山原 1998a、2000)、南町1遺跡(山原・北沢 1995)、西町1遺跡(今井 1999)があり、後期旧石器時代終末期に位置付けられている(山原 1998b、寺崎 1999b)。また、南側の石器群はB地区に関連するが、現段階では細年の位置付けは不明である。

(鈴木宏行)

(5) E区・石器ブロック56~60(Sb-56~60)

石器・石材組成 (図Ⅷ-22上段) 点取り遺物2,788点、29,945.1gの石器類が出土した。定形的な石器は尖頭器・尖頭器削片・両面調整石器・削器・舟底形石器・石刃・縦長剥片・石刃核・石核である。石材は黒曜石1(65.3%)が最も多く、以下、黒曜石4(15.0%)、黒曜石3(13.8%)、黒曜石2(3.4%)、黒曜石5(2.6%)である。彫器・搔器・細石刃関連資料が組成されないのが特徴である。**石器製作技術** 尖頭器製作技術と石刃剥離技術を含む剥片剥離技術に分けられる。

<尖頭器製作技術> 石核素材と剥片素材がある。加工は平坦剥離(図Ⅷ-22上段-3)と細かい加

工(図Ⅷ-22上段-1)によるものがあり、前者から後者に変化したものと考えられる。石核素材のものは薄手で板状の原石が利用されるものがある。

〈剥片剥離技術〉 15cm前後の小型の亜角礫・転礫が利用される打面調整を伴い10cm前後の石刃が剥離されるものが主体で、裏面は横位の調整により、平坦にされるもの(図Ⅷ-22上段-20)がある。単剥離打面から頭部調整を伴う石刃剥離が周回するもの(図Ⅷ-22上段-18)もある。

〈二次加工技術〉 舟底形石器は大型の剥片ないし石核素材、原石素材のものがある。Ⅰ類(図Ⅷ-22上段-12・13)は他のⅠ類に比べ幅広で2点とも十勝三股産と判定されている。Ⅱ類には棒状の角礫素材のもの(図Ⅷ-22上段-17)があり、原石形状を反映して甲板面は平坦である。また、大型のものは原石を分割するような、石刃技法と異なる剥片剥離技術から剥離されたものである。

分布 B区のR50~52、S50区と接合関係のある尖頭器がある。Sb-59にツール、Sb-60に石核類が多い。

年代 炭化木片ブロックは無く、Sb-57出土の調整打面から石刃を剥離した接合資料(母岩416・接合1930)に24,191±292yBP(H149)、Sb-60出土の同接合資料(母岩413・接合1925)に14,465±1,542yBP(H147)、同接合資料(母岩422・接合1942)に20,398±2,342yBP(H148)の水利層年代測定値が得られている。水利層年代測定値はばらつきが大きく、採用するのは困難である。また、類似する石器群も現時点では不明である。

(鈴木宏行)

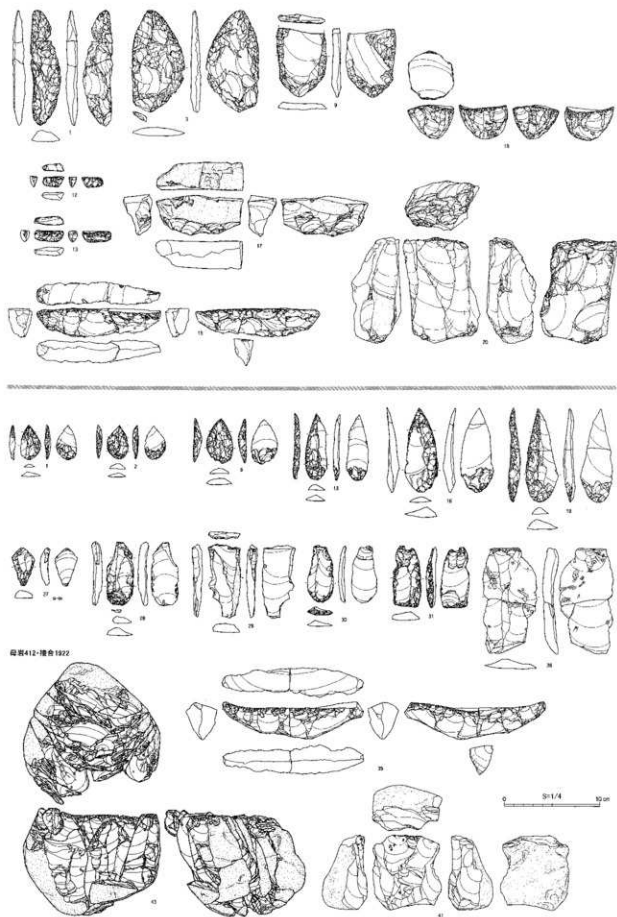
(6) F区・石器ブロック61(Sb-61)

石器・石材組成(図Ⅷ-22下段) 点取り遺物500点、6,068.5gの石器類が出土した。定形的な石器は尖頭器・広郷型ナイフ形石器・彫器・搔器・削器・舟底形石器・石刃・縦長剥片・石刃核・石核が出土している。石材は黒曜石1(80.4%)が最も多く、以下、黒曜石3(7.2%)、黒曜石5(6.0%)、黒曜石4(4.2%)、黒曜石2(2.0%)、泥岩(0.2%)である。黒曜石1の割合が非常に高く、ナイフ形石器が多く、細石刃関連資料が組成されないのが特徴である。

石器製作技術 石刃剥離技術のみ見られる。

〈石刃剥離技術〉 15cm程度の転礫を素材として一回の剥離によって作出された打面から石核調整を行わずに石刃が剥離される(母岩412・接合1922)。石刃剥離に伴う頭部調整は打面の縁辺部に行われ、後の頂部を除去するものではない。また、後の頂部と頂部の間を加撃するため、石刃の打面幅は広く、石刃も幅広である。また、それらの石刃剥離により石核形状も扁平になる。これらの特徴は上白滝7遺跡Sb-41~10(坂本ほか2000)に一致する。

〈二次加工技術〉 石刃を素材として加工は平坦剥離によって行われる。基部が両面加工により円形で平坦に作出されるのに対し、先端部の背面加工部位は背面を覆う加工(図Ⅷ-22下段-1・2・6)、右側縁のみ(図Ⅷ-22下段-16)、左側縁のみ(図Ⅷ-22下段-13・19)、先端部のみと多様で、偏りが見られない。同様に素材の打点位置と基部の位置関係にも偏りが見られず、尖頭状の形態を整形することを目的として縁辺を残す柔軟な素材利用があったと考えられる。その点で広郷型ナイフ形石器は尖頭器として分類した方が良いと思われる。形態は左右対称な柿の種子状で5cm以下の小型のものとして7~10cmの大型のものがある。前者は上白滝7遺跡のⅠA類(坂本ほか2000)に相当し、後者は上白滝7遺跡に比べ加工頻度が高いがⅡB類に相当する。彫器は両側縁に加工があり、右層に彫り面が作出されるもの(図Ⅷ-22下段-27)、先端部に作出された打面から左層に直線的な彫り面が作出されるもの(図Ⅷ-22下段-28)、石刃の折れ面から両側縁に彫り面が作出されるもの(図Ⅷ-



図版412-鎌倉1922

図版-22 E区(Sb-56~60)(上段)・F区(Sb-61)(下段)石器組成・母岩別資料

ー22下段-29)があり、多様である。削器には端部に両極打法による剥離の残るもの(図Ⅷ-22下段-31)がある。舟底形石器(図Ⅷ-22下段-35)は大型のものが多く、石刃技法とは異なる剥片剥離技術によるものと考えられる。また、棒状の角礫素材のものも見られる。

分布 P44区のナイフ形石器がまとまる非常に小規模な集中域、ナイフ形石器がまとまるO47区と剥片がまとまるP46区が連続した低密度の集中域があり、それ以外は散漫な分布である。前者には加工の少ないものが多く、後者には加工が多く形態の整ったものが多い。ナイフ形石器には西地区のN28区と70m離れた接合関係のあるものがある。舟底形石器・石核類は集中域から離れて分布し、彫器・搔器はO47、P46区周辺の集中域に分布する。接合資料は非常に散漫な分布で、母岩412・接合1922は主にナイフ形石器がP44区に集中し、人為的に集められたと考えられる。

年代 炭化木片ブロックは無く、Sb-61出土のナイフ形石器を含む接合資料(母岩412・接合1922)に14,461±1,259yBP(H140)、ナイフ形石器に12,505±590yBP(W19)、12,800±674yBP(W20)、12,583±1,151yBPの水和塚年代測定値が得られている。12,000~14,500年の測定値が得られているが水層測定値のみでは採用に検討を要する。広郷型ナイフ形石器が出土する遺跡は上白滝7遺跡(坂本ほか2000)、広郷8遺跡(宮1985)、神丘2遺跡(寺崎1990)などがある。本地区のナイフ形石器は石刃素材で石刃剥離技術と併せて上白滝7遺跡に類似する。本石器群は不定形剥片剥離技術と石刃技法が共存し、細石刃・周縁加工左対彫器を含まないことから不定形剥片石器群に後続し、細石刃石器群に先行すると位置付けられている(坂本2003など)。

(鈴木宏行)

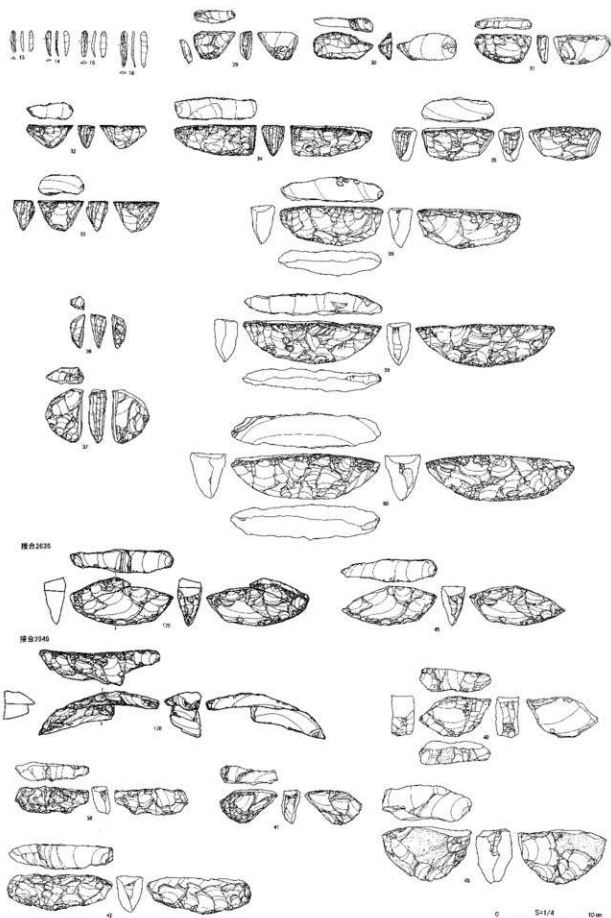
(7) 斜面部

石器・石材組成 全て一括遺物で18,910点、193,059.0gの石器類が出土した。定形的な石器は尖頭器・両面調整石器・ナイフ形石器・彫器・搔器・削器・錐形石器・舟底形石器・細石刃核・細石刃核削片・細石刃・石刃・縦長剥片・石刃核・石核が出土している。抽出された定形的な石器・高位部の石器と接合したものを対象とした石材比率は、黒曜石1(57.2%)が最も高く、以下黒曜石4(22.9%)、黒曜石5(13.0%)、黒曜石3(0.05%)、黒曜石2(0.01%)、貞岩(0.008%)である。彫器・舟底形石器には黒曜石4が、細石刃関連資料には黒曜石1・5が多く利用される。

石器製作技術 斜面部は高位部の東端であるA・B区と接するため両者の遺物が混在し、また、斜面で原位置を保っていないため石器群を抽出するのは困難である。しかし、A・B地区では見られない細石刃剥離技術があるため、ここでは細石刃剥離技術に関して説明を行う。

〈細石刃剥離技術〉 細石刃核は峠下型(図Ⅷ-23-29~31)、靴加型(図Ⅷ-23-32~35)、崗越型類似(図Ⅷ-23-36・37)、美利河型類似(図Ⅷ-23-38~46)がある。峠下型細石刃核は、甲板面と作業面の角度がほぼ60度でA地区の峠下型細石刃核に一致するが、細石刃剥離作業面長が22~33mm、細石刃核高が29~31mmでやや大きい。

靴加型細石刃核は素材版面である甲板面が非常に平坦で大型の剥片素材と考えられる。素材の剥離軸と石器長軸の関係では素材を縦方向に利用するもの(図Ⅷ-23-32・34)と横方向に利用するもの(図Ⅷ-23-33・35)があり、前者では素材先端部、後者では両端で細石刃剥離が行われ、素材打面部では細石刃剥離が行われない。主に、未製品は甲板面からの加工で整形されるが、下縁からの加工も多く、それにより、側面は凹凸が減り、滑らかな表面になる。また、下縁部への細かい加工により下縁が器軸に対して直線的に仕上げられている。下縁部と同様に甲板面の縁辺には頭部調整状の細かい加工が行われ、縁辺部が直線的に仕上げられている。舟底形石器に分類している靴加型細石刃核未



図Ⅷ-23 斜面部礫石刃関連資料

製品 (区画-23-56・59・60) の下縁部の側面形は整った弧状である。甲板面と作業面の角度は峠下型細石刃核と異なり、45~85度と幅があり、細石刃剥離作業面長は30mm前後で斜面部出土細石刃長と一致する。

薮越型類似の細石刃核は素材を縦に利用し、背縁からの加工により母型が作成され、横に断ち切るような削片剥離が行われ、50mmを越える細石刃剥離作業面を持つ点で薮越型細石刃核に類似するが、削片素材であり、細石刃剥離に先立つ石刃剥離が行われない点が薮越技法と異なる。

美利河型類似の細石刃核は細石刃核未製品のみが出土し、小型原石ないし大型削片素材である。削片剥離面となる上面を横方向の剥離によって加工し、幅が4cm程度の断面V字状の母型を作成し、比較的厚手の削片剥離後、幅を大きく減少させる側面調整を行う。削片同上の接合資料・細石刃核未製品のみで限定された資料体での検討であるが、その技術的特徴・細石刃剥離が行われない点など新道4遺跡(千葉 1988)の美利河技法に類似する。

分布 峠下型細石刃核・薮越型類似細石刃核・一部の腕加型細石刃核未製品はK74区周辺に、腕加型細石刃核と未製品の多くは斜面部の南北両端に分かれて分布し、美利河技法関連資料は斜面部中央の広い範囲に分布している。これらに分布の偏りが見られるが、前述の通り、斜面部で原位置を保っている保証が無いためこれらの細石刃核の関連性を明確にするのは厳密には困難である。

年代 炭化木片ブロックは無く、石刃の接合資料(母岩195・接合1267)に $22,516 \pm 2,817$ BP (H146)、腕加型細石刃核に $19,834 \pm 1,518$ BP (H137)、美利河型類似細石刃核接合資料(接合2636)に $21,732 \pm 1,527$ BP (H139)、薮越型類似細石刃核に $19,899 \pm 953$ BP (H138)の水和暦年代測定値が得られている。細石刃核については想定される年代値に近いが、水和暦年代値のみでは採用に検討を要する。薮越・美利河技法は約20,000年前の後期旧石器時代後半前半に位置付けられている(寺崎 1999a)が、本石器群とこれらの関係は不明である。腕加型細石刃核を主体とする石器群は今まで確認されていなかったが、白滝第4地点でまとまった石器群として確認された(松村・瀬下 2002)。本地区の腕加型細石刃核はこれに非常に類似しているが、編年の位置付けは不明である。

(鈴木宏行)

引用文献

- 石川 朗・長沼 季 1988 「Ⅲ-2 第IV層の遺構と遺物」・「V-4 旧石器について」『函館市 桔梗2遺跡、(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第46集 (財)北海道埋蔵文化財センター
- 今井真司 1999 「内町1遺跡」下川町教育委員会
- 遠藤岸則 1929 「本邦産玻璃質火山岩の化学成分に就きて」『岩石感物成床学』第2巻 日本岩石感物成床学会
- 河野義礼 1950 「本邦産玻璃質岩石の研究」地質調査所報告第134号 地質調査所
- 加藤晋平・山田昌久編 1988 「北海道河東郡上1.観町縄木遺跡の石器文化 -北海道最古の石器群の発掘調査報告-」『歴史人類』筑波大学歴史・人類学系紀要第16号
- 北沢 実 1992 「帯広・落合遺跡」帯広市埋蔵文化財調査報告第11冊 帯広市教育委員会
- 木村英明 2003 「白滝縄加沢遺跡遠州地点と黒曜石原産地」『第九次調査概報』札幌大学埋蔵文化財展示室
- 神津俊恒 1930 「黒曜石の岩石学的研究により浮石の成因を論ず」『岩石感物成床学』第3巻 日本岩石感物成床学会
- 坂本尚史・長沼 季・西江康華・鈴木宏行 2000 「白滝遺跡群I」(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第140

- 集 (財) 北海道埋蔵文化財センター
- 坂本尚史 2003 「広縁型ナイフ形石器を伴う石器群への一理解」 『古代文化』第53巻第4号
- 佐藤宏之 1988 「古形棒石器研究序論」 『考古学雑誌』73巻3号 日本考古学会
- 佐藤宏之 2003 「北海道の後期旧石器時代前半期の様相」 『古代文化』第55巻第4号
- 札幌大学木村英明ゼミナール 1988 「白滝村観加沢遺跡遠岡地点における考古学的調査」 『札幌大学教養ゼミナール論集』14
- 札幌大学木村英明ゼミナール 1989 「白滝村観加沢遺跡遠岡地点における考古学的調査」 『札幌大学教養ゼミナール論集』15
- 札幌大学木村英明ゼミナール 1990 「白滝村観加沢遺跡遠岡地点における考古学的調査」 『札幌大学教養ゼミナール論集』16
- 札幌大学木村英明ゼミナール 1996 「白滝村観加沢遺跡遠岡地点における考古学的調査」 『札幌大学教養ゼミナール論集』22
- 白滝団体研究会 1963 「白滝遺跡の研究」
- 杉原荘介・戸沢光則 1975 「北海道白滝郡台における細石器文化」 明治大学文学部研究報告考古学5 明治大学
- 鈴木大行・長沼 孝・藤田雅司・直江康雄 2001 「白滝遺跡群Ⅱ」(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第154集 (財)北海道埋蔵文化財センター
- 地学団体研究会 1996 「黒曜石」 『新版地学辞典』 平凡社
- 千葉英一 1985 「日本の旧石器第3回-北海道(3)」 『考古学ジャーナル』219 ニューサイエンス社
- 千葉英一 1988 「第2章 旧石器時代の遺跡」 『白内町 新遺4遺跡』(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第52集 (財)北海道埋蔵文化財センター
- 千葉英一・畑 宏明 1982 「服部台2遺跡・近藤台1遺跡」 白滝村教育委員会
- 辻 秀了 1973 「北海道土土俵崎木遺跡の調査報告」 『石器時代』10号
- 津中 治 1938 「北見岡白滝産黒曜石に就きて」 『岩石鉱物臨床学』第20巻 日本岩石鉱物臨床学会
- 寺崎康史 1990 「神丘2遺跡」 今金町文化財調査報告2 今金町教育委員会
- 寺崎康史 1999a 「北海道細石刃石器群理解への一試論」 『先史考古学論集』第8集 pp.71-88 安齋正人
- 寺崎康史 1999b 「細石刃石器群の変遷とその終末」 『シンポジウム 海峡と北の考古学 ―文化の接点を探る― 資料集Ⅰ・テーマ：旧石器から縄文へ』 日本考古学協会1999年度創路大会実行委員会
- 寺崎康史 2003 「北海道地方における後期旧石器時代初期の文化」 『日本旧石器学会第1回シンポジウム予稿集 後期旧石器時代のはじまりを探る』 JPra
- 西江康雄・鈴木大行・長沼 孝 2002 「白滝遺跡群Ⅲ」(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第169集 (財)北海道埋蔵文化財センター
- 中村有吾・平川一臣 1998 「北海道・白滝遺跡周辺のテフラ層序と地形環境」 『日本地理学会発表要旨集』54 日本地理学会
- 中村有吾・平川一臣・長沼 孝 1999 「白滝遺跡と周辺地域のテフラ」 『地学雑誌』108-5 東京地学協会
- 平川一臣・中村有吾・石川 守 2000 「IV-3 北海道白滝遺跡と周辺地域のテフラ層序と地形環境」 『白滝遺跡群Ⅰ』(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第140集 (財)北海道埋蔵文化財センター
- 北大調査団 1960 「白滝遺跡出土の遺物」 『北方文化研究報告』15 北海道大学
- (財)北海道埋蔵文化財センター 1996 「上白滝8遺跡」 『調査年報』8
- (財)北海道埋蔵文化財センター 1997 「上白滝8・2遺跡」 『調査年報』9
- (財)北海道埋蔵文化財センター 1998 「白滝遺跡群・奥白滝1・上白滝8・2・5・7遺跡」 『調査年報』10

- (財)北海道埋蔵文化財センター 1999 「白滝遺跡群・服部台2・奥白滝1・上白滝5・6・7・8・北支湧別4遺跡」『調査年報』11
- (財)北海道埋蔵文化財センター 2000 「白滝遺跡群・服部台2・奥白滝11遺跡」『調査年報』12
- (財)北海道埋蔵文化財センター 2001 「白滝遺跡群・服部台2・奥白滝1・上白滝8・白滝第30地点・白滝8・18遺跡」『調査年報』13
- (財)北海道埋蔵文化財センター 2002 「白滝遺跡群・上白滝6・白滝3・下白滝遺跡」『調査年報』14
- (財)北海道埋蔵文化財センター 2003 「白滝遺跡群・旧白滝8・9・下白滝遺跡」『調査年報』15
- 松村倫文 1995 「白滝第4地点・第30地点遺跡」白滝村教育委員会
- 松村倫文・瀬下直人 2002 「白滝第4地点」白滝村教育委員会
- 松村倫文・瀬下直人 2003 「白滝第30地点」白滝村教育委員会
- 松谷純一 1987a 「白滝第4地点遺跡」白滝村教育委員会
- 松谷純一 1987b 「白滝村の遺跡」白滝村教育委員会
- 三野紀雄 2002 「V-3 白滝遺跡群の旧石器文化層から検出された炭化材」『白滝遺跡群Ⅲ』(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第169集 (財)北海道埋蔵文化財センター
- 宮 宏明 1985 「広郷8遺跡(Ⅱ)」北見市立北見郷上柳博物館
- 宗像公司 1999 「白滝村赤石山採集の石器について」『北海道旧石器文化研究』第4号 北海道旧石器文化研究会
- 山田秀二 1977 「黒曜石のアイヌ地名を尋ねて」『北海道の文化』38 北海道文化財保護協会
- 山原敏朗 1992 「V-4 旧石器時代の遺物」・「IX-3 共栄3遺跡におけるV層の石器群の位置付け」『清水町上清水2遺跡・共栄3遺跡(2)・東松沢2遺跡・芽室町北明1遺跡』(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第76集 (財)北海道埋蔵文化財センター
- 山原敏朗 1993 「北海道における台形標石器を伴う石器群について」『考古論集』瀬見浩先生退官記念論文集
- 山原敏朗 1996 「北海道における細石刃文化以前の石器群について -十勝地域の恵庭a火山灰降下以前の石器群の分析から-」『帯広百年記念館紀要』第14号
- 山原敏朗 1998a 「帯広・落合遺跡2」帯広市埋蔵文化財調査報告第17冊 帯広市教育委員会
- 山原敏朗 1998b 「北海道の旧石器時代終末期についての覚悟」『北海道考古学』34 北海道考古学会
- 山原敏朗 2000 「帯広・落合遺跡3」帯広市埋蔵文化財調査報告第23冊 帯広市教育委員会
- 山原敏朗・北沢 実 1995 「帯広・南町遺跡」帯広市埋蔵文化財調査報告第14冊 帯広市教育委員会
- 吉崎昌一 1959 「北海道白滝村 Loc.30の石器群」『考古学手帖』6
- 吉崎昌一 1961 「白滝遺跡と北海道の無土器文化」『民族学研究』26-1 民族学研究会
- 吉崎昌一・横山英介 1974 「視梅三角山地点」千歳市教育委員会
- 米村哲英 1975 「白滝遺跡」『日本の旧石器文化』2 雄山閣
- 米村哲英 1977 「白滝遺跡-幌加川遺跡-遠岡地点」白滝村教育委員会
- 蘆科哲男 2002 「V-5 奥白滝1遺跡出土の碧玉製石器、剥片の産地分析」『白滝遺跡群Ⅲ』(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第169集 (財)北海道埋蔵文化財センター

表1 奥白滝11遺跡掲載石器一覧

標記	図説番号	品種名	石器アトラス	発掘区	層位	発物番号	長さ	幅	厚さ	重量	石質	図説番号	組合番号	備	考	
B-1	4	1	礫石片		N15	上	1	153	7	2	16.2					
B-4	4	2	河川漂石等		中		2	202	81	48	307.8					
B-1	4	3	石器	1	N15		1	137	63	21	194.8					
B-4	4	4	石片群	1	N15		1	82	87	32	378.9					
B-1	4	5	石核	1	N15		202	71	115	38	543.8					

表2 上白滝8遺跡掲載石器一覧

標記	図説番号	品種名	石器アトラス	発掘区	層位	発物番号	長さ(㎜)	幅(㎜)	厚さ(㎜)	重量(g)	石質	図説番号	組合番号	備	考
B-37	68	1	二次加工ある削片		I105	Ⅱ	138	24	6	3.5	黒曜石1				
B-37	68	2	二次加工ある削片	3	I05		115	33	30	7	3.8	黒曜石1			
B-37	68	3	二次加工ある削片	2	I105		280	32	32	9	4.3	黒曜石1			
B-37	68	4	二次加工ある削片	3	I04		876	33	29	8	6.3	黒曜石1	19		
B-37	68	5	二次加工ある削片	3	I05		1197	37	33	8	9.1	黒曜石1	17	34	
B-37	68	6	二次加工ある削片	3	I05		954	32	28	8	3.9	黒曜石1	17	34	
B-37	68	7	二次加工ある削片	1	I06		270	45	36	8	8.1	黒曜石1	2	2	
B-37	68	8	二次加工ある削片	3	I05		957	32	17	6	3.8	黒曜石1	8	8	
B-37	68	9	二次加工ある削片	3	I05		1127	51	34	11	14.3	黒曜石1	8	8	
B-37	68	10	二次加工ある削片	1	I106		340	54	25	9	15.0	黒曜石1	4	4	
B-37	68	11	二次加工ある削片	1	I107		722	123	103	33	313.1	黒曜石5	9	11	
B-37	68	12	掻器	1	I05		234	120	76	30	243.3	黒曜石1	47	337	
B-37	68	13	鎌形石核	3	I04		1234	51	49	20	30.1	黒曜石1			
B-38	68	14	石核	3	I05		112	50	43	14	22.6	黒曜石1	8	8	
B-38	68	15	石核	3	I05		68	46	56	15	37.3	黒曜石1	17	34	
B-38	68	16	石核	2	I04		67	79	97	32	243.8	黒曜石5	9	11	
B-38	69	17	石核	1	I07		158	69	125	32	284.0	黒曜石1	47	337	
B-38	69	18	石核	3	I04		1107	83	60	30	159.0	黒曜石1	8	8	
							364	1145							
							364	1167							
							364	1170							
							364	1171							
							365	111							
							365	219							
							365	561							
							365	566							
							365	593							
							365	635							
							365	746							
							365	767							
							365	867							
							365	Ⅲ	23						
B-39	69	19	石核	2	I105		33	58	105	37	180.7	黒曜石1	9	11	
B-39	69	20	石核	1	I06		163	30	82	62	78.8	黒曜石1	47	337	
B-39	69	21	石核	1	I05		160	45	60	45	77.9	黒曜石1	47	337	
B-39	69	22	石核	I107	T	79	77	180	100	699.0	黒曜石1	9	11		
B-40	69	23	石核	1	I07		169	63	66	47	150.3	黒曜石1	6	6	
B-40	69	24	石核	3	I04		973	33	21	29	15.4	黒曜石1		41	
							364	974							
B-40	69	25	石核	3	I04		671	35	20	23	18.6	黒曜石1		41	
B-40	69	26	石核	3	I06		79	53	88	51	254.3	黒曜石1	17	34	
B-40	70	27	石核	2	I104		121	139	108	110	1,475.4	黒曜石1	8	8	
							I109								
B-41	70	28	石核	3	I04		1168	38	25	21	17.1	黒曜石1	8	8	
B-41	70	29	石核	3	I05		102	71	41	34	53.2	ぬのう			
B-41	70	30	石核	3	I05	上	2	33	66	30	82.6	ぬのう			
B-41	70	31	石核	3	I05		716	69	39	37	77.8	黒曜石1	8	8	
B-41	70	32	石核	3	I04		875	50	51	33	76.8	黒曜石1	8	8	
							365	83							
							366	103							
							366	104							

上白滝8遺跡

緯度	経度	番号	築造名	石器ゾナ	外郭区	層位	建物番号	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	材質	母口番号	組合番号	記	考
							365	117								
							365	118								
							365	11								
							368	12								
							不明									
B-11	79	33	石椁	3	365		879	85	45	11	51.4	黒曜石1	8	8		
B-42	79	34	石椁	1	1196		485	30	42	31	55.0	黒曜石1	1	1		
B-42	79	35	石椁	1	1196		238	43	53	45	114.6	黒曜石1	4	4		
B-42	79	36	石椁	1	1197		973	54	49	38	149.1	黒曜石1	3	3		
B-42	79	37	石椁	1	1207		268	55	46	43	101.6	黒曜石1	7	7		
B-43	79	38	石椁	1	1696		286	50	56	49	140.5	黒曜石1	47	337		
B-43	79	39	石椁		1167	1	78	194	159	31	281.8	黒曜石1	9	11		
B-46	89	1	二次加工ある銅片		363	2	130	21	23	6	2.2	黒曜石1				
B-46	89	2	二次加工ある銅片	5	M62		691	24	31	27	3.8	黒曜石1				
B-46	89	3	二次加工ある銅片	6	269		118	38	35	7	7.8	黒曜石1				
B-46	89	4	二次加工ある銅片	5	L62		226	35	22	5	2.6	黒曜石1				
B-46	89	5	二次加工ある銅片	6	K36		667	28	24	10	8.1	黒曜石1	63	132		
B-46	89	6	二次加工ある銅片	6	269		44	21	23	7	2.8	黒曜石1				
B-46	89	7	二次加工ある銅片	5	L62		107	25	21	10	3.5	黒曜石1				
B-46	89	8	二次加工ある銅片	6	859		46	29	31	11	7.0	黒曜石1	54	133		
B-46	89	9	二次加工ある銅片	6	159		263	22	26	10	6.0	黒曜石1				
B-46	89	10	二次加工ある銅片	6	J39		1289	35	30	10	6.5	黒曜石5				
B-46	89	11	二次加工ある銅片	6	K39		617	35	27	6	3.7	黒曜石1		348		
B-46	89	12	二次加工ある銅片	5	L61		56	36	27	7	7.2	黒曜石1				
B-46	89	13	二次加工ある銅片	6	J50		216	33	29	9	8.0	黒曜石1	53	349		
B-46	89	14	二次加工ある銅片	6	361		503	37	29	9	8.3	黒曜石1				
B-46	89	15	二次加工ある銅片	6	J39		932	39	30	9	6.9	黒曜石1				
B-46	89	16	二次加工ある銅片	6	159		300	36	32	10	9.3	黒曜石1				
B-46	89	17	二次加工ある銅片	5	L63		1130	41	45	15	25.7	黒曜石4	51	139		
B-46	89	18	二次加工ある銅片	5	L62		795	41	33	11	10.7	黒曜石1	45	119		
B-46	89	19	二次加工ある銅片	6	J39		1004	49	36	12	18.0	黒曜石1	59			
B-46	89	20	二次加工ある銅片	6	K39		445	41	45	15	22.0	黒曜石4	51	139		
B-46	89	21	二次加工ある銅片	5	M61		108	191	72	18	59.1	黒曜石1	29	67		
B-46	89	22	二次加工ある銅片	6	J39		589	190	19	6	5.5	黒曜石1		350		
B-46	89	23	二次加工ある銅片	6	707		121	46	21	5	3.3	黒曜石1				
B-46	89	24	二次加工ある銅片	5	L63		714	67	22	6	3.3	黒曜石1	39			
B-46	89	25	二次加工ある銅片	6	707		21	41	22	10	6.6	黒曜石1				
B-46	89	26	二次加工ある銅片	5	M62 M62		311 451	173	39	13	26.0	黒曜石1	27	65		
B-46	89	27	二次加工ある銅片	5	L63		1010	64	35	17	27.2	黒曜石1	32	79		
B-46	89	28	二次加工ある銅片	5	L63 F.溝		986 145	93	53	19	62.0	黒曜石1	28	66		
B-46	89	29	二次加工ある銅片	5	L63		950	77	52	18	37.7	黒曜石1	25	60		
B-46	81	30	二次加工ある銅片	5	L63 M63		475 172	298	82	35	681.8	黒曜石1	45	110		
B-70	81	31	埴器	5	M63		1177	56	40	16	35.0	黒曜石5	36	74		
B-70	81	32	埴器	1	L62	T	8	86	50	27	75.0	黒曜石6	36	24		
B-70	81	33	埴器	5	M64		139	82	65	16	63.1	黒曜石5	36	24		
B-70	81	34	埴器	5	M63		462	121	33	160	7.1	黒曜石5	36	24		
B-70	81	35	埴器	5	M66		32	133	41	11	13.7	黒曜石1	38	27		
B-70	81	36	埴器石器	5	L61		156	37	43	16	13.7	黒曜石1				
B-70	81	37	埴器石器	5	L63		149	42	51	16	24.5	黒曜石1	40			
B-70	81	38	埴器石器	6	159		67	157	56	23	36.1	黒曜石5	49	116		
B-70	81	39	埴器石器	6	J39		1069	120	28	13	7.8	黒曜石1				
B-70	81	40	埴器石器	5	L62		407	37	23	12	5.7	黒曜石1				
B-70	81	41	石椁	6	J39		1014	33	37	11	16.1	黒曜石1	67	244		
B-70	81	42	石椁	1	L63	1	24	44	65	15	33.4	黒曜石1	24	53		
B-71	81	43	石椁	5	M62 M62 M62		49 386 295	50	62	21	54.5	黒曜石5	36	41		

種別	図号	番号	器種名	石器グループ	発掘K	層位	器物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	材質	採出番号	組合番号	記号	
B-71	81	44	石核	5	M61	10	230	78	54	17	53.1	黒曜石	56	141		
							57	114								
B-71	82	45	石核	6	J39		733	47	77	33	119.8	黒曜石	49	116		
B-71	82	46	石核	6	M50		2	69	71	23	89.0	黒曜石				
B-71	82	47	石核	6	M59		492	69	67	14	49.7	黒曜石	56	141		
B-71	82	48	石核	5	L61		242	63	62	25	71.4	黒曜石	22	48		
B-71	82	49	石核	5	M64		70	77	84	34	129.9	黒曜石	21	47		
B-71	82	50	石核			1	269	3	64	100	34	118.2	黒曜石	50	125	
B-72	82	51	石核	5	N61	1	21	74	141	43	349.4	黒曜石	23	49		
							123									
							232									
							640									
							3									
B-72	82	52	石核	5	L62		1	89	85	19	102.4	黒曜石			88	
B-72	82	53	石核	6	K38		636	64	72	26	111.0	黒曜石	51	130		
B-72	82	54	石核	6	J38		49	81	82	29	66.2	黒曜石	48	116		
B-72	82	55	石核	5	L64		108	90	66	39	168.2	黒曜石	22	48		
B-73	83	56	石核	5	M62		264	123	107	48	595.6	黒曜石	23	60		
B-73	83	57	石核	5	L63	1	18	88	66	34	109.9	黒曜石	37	75		
B-73	83	58	石核	4	J63		979	31	35	27	31.7	黒曜石				
B-73	83	59	石核	6	J39		440	31	32	35	41.2	黒曜石				
B-73	83	60	石核	4	J62		542	37	27	48	89.4	黒曜石	24	53		
B-74	83	61	石核	6	J39		734	46	59	15	119.7	黒曜石	51	130		
B-74	83	62	石核	5	M64		214	58	62	37	104.8	黒曜石				
B-74	83	63	石核	5	M62		294	85	87	56	395.1	黒曜石	36	74		
B-75	83	64	石核	5	M63		720	116	99	89	886.6	黒曜石	32	79		
B-75	83	65	石核	5	M65	5	21	141	20	27	126.6	黒曜石	23	73		
							30									
B-75	84	66	石核	5	L62	1	8	145	44	22	210.1	黒曜石	72	179		
							36									
B-76	84	67	石核	5	L64		175	36	49	22	32.1	黒曜石	33	71		
B-76	84	68	石核	5	M62		444	46	72	30	99.2	黒曜石	72	179		
B-76	84	69	石核	5	L63		77	56	78	26	54.7	黒曜石	33	71		
B-76	84	70	石核	5	M63		690	25	22	19	51.8	黒曜石	33	71		
B-76	84	71	石核	5	M63		897	62	41	33	89.7	黒曜石	31	69		
B-76	84	72	石核	5	M64		50	66	86	26	90.1	黒曜石	21	69		
B-76	84	73	石核	5	M62		564	64	88	32	160.7	黒曜石	30	88		
B-76	84	74	石核	5	M61		201	73	81	39	159.3	黒曜石	45	110		
B-77	84	75	石核	5	L63		237	86	82	20	118.2	黒曜石	72	179		
B-77	84	76	石核	5	N65		81	85	35	32	161.6	黒曜石	30	68		
B-77	84	77	石核	5	N65		90	91	51	43	219.2	黒曜石	30	68		
B-77	85	78	石核	5	L64	1	11	110	51	14	309.9	黒曜石	72	179		
B-78	85	79	石核	5	M64		53	117	59	31	162.0	黒曜石	31	69		
B-78	85	80	石核	5	N62		1002	105	86	37	329.9	黒曜石	30	88		
B-78	85	81	石核	5	M63	1	631	137	87	32	372.6	黒曜石	26	64		
							916									
B-79	85	82	石核	5	L62		839	122	74	51	573.1	黒曜石	28	66		
B-79	85	83	石核	5	M64	1	9	132	101	32	499.2	黒曜石	30	68		
B-80	86	84	石核	5	L62		691	171	71	51	524.4	黒曜石	71	178		
					M61		180									
B-80	86	85	石核	5	N62		777	133	128	37	472.5	黒曜石	39	88		
					N63		430									
B-80	86	86	石核	5	M64		81	63	72	28	149.9	黒曜石	31	69		
B-81	86	87	石核	5	L64		168	25	148	32	442.0	黒曜石	29	67		
B-81	86	88	石核	5	M63		68	105	112	49	661.1	黒曜石	27	65		
-	87	126	礫石	5	L63		151	(29)	22	5	2.1	黒曜石				
-	87	127	礫石	5	L63		410	(38)	8	3	1.3	黒曜石				
-	87	128	礫石	5	L63		1121	(39)	7	4	1.5	黒曜石				
-	87	129	礫石	5	L63		135	(38)	7	4	1.9	黒曜石				

上白滝8遺跡

棟別	間取	番号	築造名	石部ゾラップ	外周K	層位	建物番号	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	接点番号	組合番号	記	考
-	87	130	礎石	5	M62		130	45	11	9	3.8	黒曜石1				
-	87	131	礎石	5	M62		495	161	8	5	3.1	黒曜石1				
-	87	132	礎石	5	L61 L61		237 219	169	8	5	2.3	黒曜石1		50045		
-	87	133	礎石	5	L63		204	74	17	9	7.7	黒曜石1				
-	87	134	礎石	5	L63		26	71	14	8	8.0	黒曜石1				
-	87	135	礎石	5	M63		119	191	17	9	17.5	黒曜石1				
-	87	136	礎石	5	M61 M61		86 118	1196	130	18	52.6	黒曜石1		50043		
-	87	137	礎石	5	L63 L63		633 29	110	38	13	66.0	黒曜石1		50041		
-	87	138	礎石	5	K63 K63 L63	1	230 15 267	160	39	16	125.0	黒曜石1		50041		
-	87	139	礎石	5	L63 540-4		308 150	153	33	15	98.1	黒曜石1		50040		
-	87	140	礎石	5	K63 K63	1	914 16	148	25	14	57.3	黒曜石1		50042		
-	87	141	礎石		L63	1	5	1199	39	24	161.6	黒曜石1				
-	87	142	礎石	5	L63		330	172	55	21	290.5	黒曜石1				
-	87	143	礎石	5	L62 L63 540-5	1	182 7 122	325	45	33	536.6	黒曜石1		50033		
N-134	110	1	礎石	6	106		1914	94	152	20	49.5	黒曜石1				
N-134	110	2	石枕	8	106		102	45	68	25	55.4	黒曜石1		50		
N-134	110	3	石枕	8	102-10		108	103	102	34	346.5	黒曜石1		69	126	
N-134	110	4	石枕	8	106		685	181	63	48	306.3	黒曜石1		70	127	
N-134	110	5	石枕	8	102	1	3	111	80	30	252.9	黒曜石1		61	102	
N-135	111	6	石枕	6	106		871	129	81	85	778.5	黒曜石1		69	126	
N-135	110	7	石枕	8	106 106 106 106 106 100 193 106	1	283 521 648 991 9 100 193 296	287	145	143	6,048.1	黒曜石1		70	127	
N-136	111	8	石枕	8	540-4		58	216	129	80	1,825.5	黒曜石1		69	126	
N-136	111	9	石枕	8	106 104	7	242 7	203	158	104	3,806.4	黒曜石1		70	127	
-	111	21	礎石	8	103		875	129	7	4	9.8	黒曜石1				
-	111	22	礎石	8	106		974	137	6	4	1.1	黒曜石1				
-	111	23	礎石	8	106		127	161	12	13	11.6	黒曜石1				
-	111	24	礎石	8	106		185	175	10	7	3.8	黒曜石1				
-	111	25	礎石	8	106	1	1	197	19	15	26.2	黒曜石1				
-	111	26	礎石	8	106	1	3	174	14	12	11.7	黒曜石1				
-	111	27	礎石	8	106		732	167	15	9	11.3	黒曜石1				
-	111	28	礎石	8	106	1	5	1269	27	14	43.1	黒曜石1				
-	111	29	礎石	8	106		271	168	67	23	242.4	黒曜石1				
N-138	124	1	二次加工ある礎石	9	M43		69	24	25	5	2.3	黒曜石1		本形M W6		
N-138	124	2	二次加工ある礎石	9	M43		109	21	26	7	3.8	黒曜石1				
N-138	124	3	二次加工ある礎石	9	M43		165	21	25	3	2.7	黒曜石1		83		
N-138	124	4	二次加工ある礎石	9	M43		729	23	21	5	1.7	黒曜石1				
N-138	124	5	二次加工ある礎石	9	M43		565	129	126	3	2.7	黒曜石1		83		
N-138	124	6	二次加工ある礎石	9	M43		691	127	18	4	1.4	黒曜石1		82	229	
N-138	124	7	二次加工ある礎石	9	M43		625	26	23	7	2.7	黒曜石1				
N-138	124	8	二次加工ある礎石	9	M44		52	30	25	7	4.1	黒曜石1		91	248	本形M W7
N-138	124	9	二次加工ある礎石	9	M43		449	33	29	8	2.7	黒曜石1		84	239	
N-138	124	10	二次加工ある礎石	9	M44		73	29	29	13	6.2	黒曜石1		88		
N-138	124	11	二次加工ある礎石	9	M44		148	32	25	10	6.1	黒曜石1		85	246	

編年	関数	番号	器種名	石器グループ	発掘区	層位	器物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	材質	接点番号	組合番号	記号
第-138	124	12	次加工ある副片	9	L43		87	37	21	8	3.7	黒曜石	87	244	
第-138	124	13	次加工ある副片	9	M43		808	30	21	11	4.6	黒曜石	89	246	
第-138	124	14	二次加工ある副片	9	M13		572	39	25	4	2.5	黒曜石	82	229	
第-138	124	15	二次加工ある副片	9	L41		133	(26)	(18)	(8)	3.1	黒曜石	87	244	
第-138	124	16	二次加工ある副片	9	M13		306	22	16	5	1.7	黒曜石	82	229	
第-138	124	17	二次加工ある副片	9	M13		33	26	24	9	4.8	黒曜石	89	246	
第-138	124	18	二次加工ある副片	9	M43		177	32	17	9	5.2	黒曜石	84	239	
第-138	124	19	次加工ある副片	9	M13		62	39	17	8	2.8	黒曜石	88	246	
第-138	124	20	次加工ある副片	9	M43		106	34	22	9	4.9	黒曜石	90	247	
第-138	124	21	二次加工ある副片	9	M13		667	26	21	13	10.2	黒曜石	82	229	
第-138	124	22	二次加工ある副片	9	M43		32	(35)	23	9	5.4	黒曜石	86	242	
第-138	124	23	二次加工ある副片	9	M13		333	37	22	11	5.7	黒曜石	83	232	
第-138	124	24	二次加工ある副片	9	L43		190	49	25	6	5.9	黒曜石	87	244	
第-138	124	25	二次加工ある副片	9	L43		29	44	24	8	8.0	黒曜石	86	242	
第-138	124	26	二次加工ある副片	9	M43		364	49	28	13	9.6	黒曜石	82	229	
第-138	124	27	二次加工ある副片	9	M13		821								
第-138	124	27	二次加工ある副片	9	M43		299	43	33	13	16.3	黒曜石	82	229	
第-138	124	28	二次加工ある副片	9	L41		11	35	14	6	2.6	黒曜石	87	244	
第-138	124	29	二次加工ある副片	9	L41		162	41	18	9	6.9	黒曜石	87	244	
第-138	124	29	二次加工ある副片	9	M13		450								
第-138	124	29	二次加工ある副片	9	M13		462								
第-138	124	30	二次加工ある副片	9	M43		820	40	23	8	5.0	黒曜石	90	247	
第-138	124	31	次加工ある副片	9	L41		9	46	22	10	5.8	黒曜石	83	230	
第-138	124	32	次加工ある副片	9	M43		882	50	20	9	5.6	黒曜石			
第-138	124	33	次加工ある副片	9	L41		141	54	19	18	8.0	黒曜石			
第-138	124	34	二次加工ある副片	9	M13		126	61	25	12	12.1	黒曜石	82	229	
第-138	124	35	二次加工ある副片	9	M13		10	(29)	(17)	11	4.1	黒曜石	82	229	
第-138	124	36	二次加工ある副片	9	M13		81	(68)	28	7	8.3	黒曜石	82	229	
第-138	124	37	石核	9	M43		815	25	22	12	8.4	黒曜石	89	246	
第-138	124	38	石核	9	M13		733	38	48	21	17.3	黒曜石			50191
第-138	124	38	石核	9	M43		735								
第-138	124	39	石核	9	M13		331	36	65	11	11.4	黒曜石	91	50175	
第-138	124	39	石核	9	M43		806								
第-138	124	40	石核	9	M13		1	39	37	22	61.4	黒曜石	94	251	
第-138	124	41	石核	9	L43		149	(51)	(84)	(22)	41.0	黒曜石			261
第-138	124	41	石核	9	M13		635								
第-140	125	42	石核	9	M14		1	104	145	62	631.5	黒曜石	83	230	
第-140	124	43	石核	9	L43		117	58	38	17	14.5	黒曜石	82	229	
第-140	124	44	石核	9	L41		17	34	41	20	16.9	黒曜石	82	229	
第-140	125	45	石核	9	L43		179	79	57	26	78.0	黒曜石	83	230	
第-140	125	46	石核	9	L41		101	38	38	30	36.5	黒曜石	83	230	
第-140	125	47	石核	9	L43		51	42	67	29	35.3	黒曜石	82	229	
第-140	125	47	石核	9	L43		184								
第-140	125	47	石核	9	L43		209								
第-140	125	47	石核	9	L44		161								
第-140	125	47	石核	9	L44		8								
第-140	125	48	石核	9	M43		211	49	78	28	54.4	黒曜石	83	230	
第-140	125	48	石核	9	M13		516								
第-140	125	49	石核	9	K45		21	39	63	69	79.0	黒曜石	83	230	
第-140	125	49	石核	9	M13		310								
第-141	125	50	石核	9	M13		978	28	53	65	33.5	黒曜石	83	230	
第-141	125	50	石核	9	M13		977								
第-141	125	51	石核	9	M13		294	59	17	10	13.9	黒曜石	82	229	
第-141	125	52	石核	9	L43		155	50	43	32	31.5	黒曜石	84	230	
第-141	125	52	石核	9	L41		177								
第-141	125	53	石核	9	L43		185	80	113	71	443.7	黒曜石	83	230	
第-141	125	53	石核	9	L43		213								
第-141	125	53	石核	9	L43		214								
第-141	125	53	石核	9	L41		160								

上白滝8遺跡

緯度	経度	番号	築造名	石器の種類	発掘区	層位	発掘番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	材質	母口番号	組合番号	図	考
					M03		13									
					M43		914									
					M03		915									
					M03		981									
N-161	123	54	石楯	9	M03		539	33	32	22	22.7	黒曜石1		85	229	
N-161	123	55	石楯	9	L43		12	33	36	30	39.1	黒曜石1		84	230	
N-162	123	56	石楯	9	M43		228	30	49	25	35.9	黒曜石1		86	242	
N-162	123	57	石楯	9	L43		96	38	89	17	79.9	黒曜石1		81	228	
					M43		729									
N-162	123	58	石楯	9	L43		113	56	69	36	127.0	黒曜石1		90	247	
					L43		114									
					M03		535									
					M03		696									
					M43		707									
					M03		706									
					M43		712									
					M03		728									
					M43		748									
					M03		769									
					M03	Ⅱ	91									
					M03	Ⅱ	91									
N-162	123	59	石楯	9	L43		1	128	108	41	231.6	黒曜石1		88	230	
N-181	131	1	二次加工ある銅片	10	N47		212	23	26	8	3.3	黒曜石1		50155		
					N08	Ⅲ	45									
N-181	131	2	二次加工ある銅片	10	N47		49	29	21	8	2.9	黒曜石1				
N-181	131	3	二次加工ある銅片	10	N07		38	32	26	9	7.7	黒曜石1				
N-181	131	4	二次加工ある銅片	10	N08		4	(29)	(32)	10	6.6	黒曜石1		50154		
					O07		51									
N-181	131	5	二次加工ある銅片	10	O08		168	(53)	28	15	15.7	黒曜石2	480	342		
N-181	131	6	二次加工ある銅片	10	O48		10	24	31	6	2.7	黒曜石1				
N-181	131	7	二次加工ある銅片	10	N07		210	45	49	14	13.8	黒曜石1		50157		
					N08		109									
N-181	131	8	二次加工ある銅片	10	O08		225	49	42	13	11.7	黒曜石1				
N-181	131	9	二次加工ある銅片	10	N48		136	46	64	14	37.6	黒曜石1		50146		
					O07		81									
N-181	131	10	二次加工ある銅片	10	O08		125	41	16	9	4.7	黒曜石1				
N-181	131	11	鏃部	9	L49		4	27	48	13	17.2	黒曜石2	480	345		
					N07		194									
					N08		55									
					N08	Ⅲ	41									
N-181	131	12	鏃部	10	N49		118	38	(45)	9	12.5	黒曜石1				
N-181	131	13	鏃部	10	N07		23	38	(36)	11	11.6	黒曜石1		79	50114	
					N07		27									
					N07	I	9									
N-181	131	14	鏃部	10	N08		99	59	52	12	29.8	黒曜石1		198	水孔部 W11	
N-181	131	15	鏃部	10	N47		97	(25)	48	11	26.1	黒曜石1		50102		
					N08		117									
					O47		103									
					O08		130									
					O48	Ⅲ	5									
N-182	131	16	鏃部	10	O08		43	61	49	16	49.6	黒曜石1		139		
N-182	131	17	鏃部石芯	10	O08		137	25	16	7	1.1	黒曜石1				
N-182	131	18	鏃部石芯	10	N66		93	23	23	10	4.8	黒曜石1				
N-182	131	19	鏃部石芯	10	O08		145	22	21	9	3.9	黒曜石1				
N-182	131	20	鏃部石芯	10	N66		24	29	24	19	3.4	黒曜石1				
N-182	131	21	鏃部石芯	10	N07		21	27	(30)	8	3.7	黒曜石1				
N-182	131	22	鏃部石芯	10	O48		241	33	33	8	4.8	黒曜石1				
N-182	131	23	鏃部石芯	10	N07		145	49	41	9	11.0	黒曜石1		50158	水孔部 W12	
					N08		111									
N-182	131	24	鏃部石芯	10	N07		145	45	40	13	20.4	黒曜石1		228		

納庫	開館	番号	器種名	石器ゾナ	発掘区	層位	器物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	材質	検出番号	組合番号	記号
					N07		167								
W-182	131	25	藤形石斧	10	N47		71	16	10	7	1.4	黒曜石			
W-182	131	26	窪形石斧	10	N58		97	26	(21)	11	4.2	黒曜石			
W-182	131	27	藤形石斧	10	O17		67	42	28	12	8.1	黒曜石		50159	
					O17		94								
W-182	131	28	石核	10	N58		22	28	45	14	15.3	黒曜石		50161	
W-182	131	29	石核	10	O36		44	44	66	24	67.5	黒曜石	480	342	
W-182	131	30	石核	10	N07		222	30	37	14	15.2	黒曜石			
W-182	131	31	石核	10	O48		92	37	45	13	17.5	黒曜石			296
W-183	131	32	石核	10	O38		23	51	43	17	26.6	黒曜石			永代館 W13
W-183	131	33	石核	10	O48		57	36	32	22	21.4	黒曜石			
W-183	131	34	石核	10	O38		156	39	54	20	31.5	黒曜石			
W-183	131	35	石核	10	O38		216	23	88	25	59.4	黒曜石	73	180	
W-187	133	1	一次加工ある副片	12	Q42		193	48	25	9	6.9	黒曜石	476	300	
					Q42	I	35								
W-187	133	2	一次加工ある副片	12	Q41		24	33	25	7	5.3	黒曜石	459	278	
W-187	133	3	一次加工ある副片	12	R12		21	37	26	14	11.6	黒曜石			
W-187	133	4	一次加工ある副片	12	Q42		206	36	28	11	7.5	黒曜石	450	281	
W-187	133	5	一次加工ある副片	12	P43		21	42	33	12	13.2	黒曜石			310
W-187	133	6	二次加工ある副片	12	Q42		89	(53)	(28)	9	8.6	黒曜石	463	289	
W-187	133	7	一次加工ある副片	12	P43		4	42	32	11	9.1	黒曜石	463	289	
W-187	133	8	二次加工ある副片	12	P44		17	47	31	7	7.6	黒曜石	463	289	
W-187	133	9	一次加工ある副片	12	R42		2	47	36	10	12.9	黒曜石	459	278	
W-187	133	10	一次加工ある副片	12	P43		12	47	46	13	15.4	黒曜石	463	287	
W-187	133	11	一次加工ある副片	12	O43		24	(34)	35	8	5.7	黒曜石	462	285	
W-187	133	12	一次加工ある副片	12	Q42		47	43	21	13	19.0	黒曜石	459	278	
W-187	133	13	二次加工ある副片	12	Q42	I	11	44	31	13	16.0	黒曜石	459	278	
W-187	133	14	一次加工ある副片	12	P42		68	45	35	9	9.0	黒曜石	459	278	
W-187	133	15	二次加工ある副片	12	R12		18	54	39	13	15.4	黒曜石	459	278	
W-187	133	16	一次加工ある副片	12	P43		2	50	29	10	9.7	黒曜石	459	278	
W-187	133	17	二次加工ある副片	12	O43		56	36	36	16	26.4	黒曜石	463	289	
W-187	133	18	一次加工ある副片	12	Q42		75	41	17	5	3.7	黒曜石			
W-187	133	19	一次加工ある副片	12	P43		1	49	21	6	3.4	黒曜石			
W-187	133	20	二次加工ある副片	11	P47		76	44	75	17	8.6	黒曜石			
W-187	133	21	一次加工ある副片	12	O43		59	49	(25)	9	9.3	黒曜石	463	289	
W-187	133	22	二次加工ある副片	12	Q42		188	53	33	9	8.8	黒曜石			
W-188	133	23	一次加工ある副片	12	P43		65	56	22	10	8.9	黒曜石	463	289	
W-188	133	24	二次加工ある副片	12	P43		52	61	36	16	21.0	黒曜石	463	289	
W-188	133	25	藤形石斧		S41	I	5	58	22	13	11.5	黒曜石	470	294	
W-188	133	26	副片		O46	II	2	15	18	3	6.1	土器			
W-188	133	27	副片	12	P44		25	49	25	11	12.7	柱石			
W-188	133	28	副片	12	P44		21	(82)	32	21	42.6	柱石			
W-188	133	29	石核	12	P42		42	37	21	13	12.3	黒曜石	463	287	
W-188	133	30	石核	12	Q41		1	31	44	11	11.8	黒曜石			302
W-188	133	31	石核	13	S11		1	50	57	11	22.1	黒曜石	466	290	
W-188	133	32	石核	13	S41		1	36	61	20	34.9	黒曜石	466	290	
W-188	131	33	石核	12	R12		50	55	58	25	73.5	黒曜石	463	288	
W-188	134	34	石核	12	R42		4	75	69	37	129.6	黒曜石	463	288	
W-188	134	35	石核	12	O44		12	41	27	24	12.2	黒曜石			302
W-188	134	36	石核	12	Q42		183	43	21	25	19.1	黒曜石			305
W-188	131	37	石核	12	P42	I	3	42	23	28	19.5	心の子			
W-189	131	38	石核	12	P42		3	42	33	14	45.8	磐石	478	343	
W-189	131	39	石核	11	P46		6	26	25	27	2.1	黒曜石	466	290	
W-189	131	40	石核	12	Q42		27	49	30	32	43.4	黒曜石	463	288	
W-189	134	41	石核	12	Q41		23	54	63	31	49.5	黒曜石	463	288	
					Q42		87								
W-189	134	42	石核	12	R48		149	51	35	48	39.4	黒曜石	463	288	
W-189	131	43	石核	12	P42		40	31	58	40	196.7	黒曜石	463	288	
W-189	131	44	石核	12	R12		36	100	101	28	405.8	黒曜石	463	288	
W-189	131	45	石核	12	R11		1	68	40	42	113.9	黒曜石	463	288	

上白滝8遺跡

縄文	期別	番号	器種名	石器グループ	発掘区	層位	器物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	材質	接合番号	組合番号	図	考
Ⅱ-190	134	46	石核	12	F42		29	88	58	28	289.1	黒曜石5	463	289		
Ⅱ-190	134	47	石核	12	K43		10	55	32	17	11.6	黒曜石1	463	287		
Ⅱ-190	134	48	石核		F42	T	2	32	40	24	59.8	黒曜石1	462	286		
Ⅱ-190	134	49	石核	11	F45		1	44	53	33	71.5	黒曜石1	463	287		
Ⅱ-190	134	50	石核	12	B12		34	49	52	38	85.9	黒曜石1		303		
Ⅱ-190	134	51	石核	11	F47		3	87	60	41	184.3	黒曜石1	463	289		
					F47		98									
					F47		179									
Ⅱ-208	142	1	洗削したる剥片	外	J46		77	26	25	6	3.3	黒曜石1				
Ⅱ-208	142	2	石核	外	J49		215	48	67	20	41.4	黒曜石1				
Ⅱ-208	142	3	石核	外	H50		219	60	55	49	129.8	黒曜石5	49	116		
Ⅱ-209	143	1	尖頭器	17	K62		252	37	26	18	15.7	黒曜石1				浮城分析天11 本和暦11150
Ⅱ-209	143	2	尖頭器	165	I	135	(143)	(125)	46	(6.9)	黒曜石1					
Ⅱ-209	143	3	尖頭器	164	II	86	(22)	(17)	(7)	(1.4)	黒曜石5					
Ⅱ-209	143	4	尖頭器	16	166		165	58	26	9	9.3	黒曜石3				
Ⅱ-209	143	5	尖頭器	K62	I	35	87	42	13	43.7	黒曜石1					
Ⅱ-209	143	6	尖頭器	17	J62		144	59	38	13	41.2	黒曜石1		52357		
					J62		598									
Ⅱ-209	143	7	尖頭器	17	J62		134	150	34	10	(46.2)	黒曜石4		52363		
					J62		189									
					K61		145									
Ⅱ-209	143	8	尖頭器	17	J63		277	112	56	19	(163.2)	黒曜石1		52364		
					J63		750									
Ⅱ-209	143	9	尖頭器	17	K62		314	131	53	19	(95.0)	黒曜石4		52364		
					5230-6		1									
Ⅱ-209	143	10	尖頭器	17	J62		220	156	64	17	(122.2)	黒曜石5		52368		
					J62	I	2									
Ⅱ-210	144	11	尖頭器	K62	I	2	142	63	19	197.0	黒曜石1			52354		
					K64	I	1									
Ⅱ-210	144	12	尖頭器	19	L61		110	133	57	15	(125.0)	黒曜石5		52373		
					L61		123									
					L62		41									
					L62		450									
Ⅱ-210	144	13	尖頭器	H65	I	4	8	990	53	71	(739.4)	黒曜石1		7670		
					H65	I	6									
Ⅱ-210	144	14	尖頭器	16	196		15	120	72	26	(158.3)	黒曜石5		52364		
					196		16									
					196		47									
					196		100									
					J67	T	68									
Ⅱ-211	144	15	尖頭器	16	H65		90	132	69	26	213.8	黒曜石5		52365		
					H65	T	11									
Ⅱ-211	145	16	尖頭器	16	196		10	115	70	24	(165.2)	黒曜石3		52366		
					197	I	1									
Ⅱ-211	145	17	尖頭器	17	K63		690	261	104	30	(753.2)	黒曜石1		52366		
					K64		75									
Ⅱ-212	146	18	尖頭器	17	K63		1	344	127	37	(2,249.1)	黒曜石1		2723		
					J63	I	44									
					J63	I	43									
					5230-9		17									
Ⅱ-213	146	19	尖頭器	17	165		205	(27)	(33)	(9)	(5.1)	黒曜石1				
Ⅱ-213	146	20	尖頭器	16	166		18	(47)	(41)	(9)	(12.7)	黒曜石1				
Ⅱ-213	146	21	尖頭器	1925	I	10	(79)	(42)	(9)	(30.0)	黒曜石4					
Ⅱ-213	146	22	尖頭器	19	J61		82	(63)	(46)	(17)	(31.9)	黒曜石5				
Ⅱ-213	147	23	尖頭器	197	I	7	(85)	(28)	(26)	(69.4)	黒曜石4					
Ⅱ-213	147	24	尖頭器	16	J67		1	(71)	(42)	(18)	(26.0)	夜山磐1				
Ⅱ-213	147	25	尖頭器	17	K62		367	(156)	60	19	(485.3)	黒曜石1		52369		
					K63		132									
					K63		226									
					K64		15									

種別	図版	番号	器種名	石器ブロック	外観×	部位	器物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	材質	母口番号	組合番号	図	考	
B-213	147	26	丸頭器	16	K63	T	38	159	(137)	(77)	(15)	(131.2)	黒曜石3				
							296	168									
B-214	117	27	丸頭器	19	L63		937	(47)	(63)	(13)	(35.5)	黒曜石1	172	1208			
							645	(141)	25	19	(154.3)						
B-214	117	28	尖頭器	19	L63		701					黒曜石3					
							154	174									
B-214	117	29	尖頭器	19	L63	21	M62	72	(154)	(67)	(19)	(134.8)	黒曜石1			S289	
B-214	118	30	尖頭器	19	L71		320	(87)	(99)	(37)	(249.7)	黒曜石1	164	1194			
B-214	148	31	丸頭器	14	M67		1310	(76)	(73)	(18)	(67.7)	黒曜石4					
B-215	118	32	尖頭器	17	M69		60	(96)	(80)	(22)	(149.8)	黒曜石4					
B-215	148	33	両面調整石芯	17	M69		106	88	(83)	(79)	(23)	(133.1)	黒曜石1	105	1015		
							106	114									
							167	42									
							167	46									
							167	2									
							167	3									
							167	10									
167	18																
B-215	118	34	碇石A		M63	I	29	25	6	3	0.3	黒曜石1					
B-215	118	35	碇石A		M63	II	86	25	7	3	0.3	黒曜石1					
B-215	148	36	碇石A		M64	III	293	19	4	2	0.1	黒曜石1					
B-215	118	37	碇石A		M65	T	87	18	6	2	0.1	黒曜石1					
B-215	148	38	碇石A		M63	I	15	19	5	1	0.1	黒曜石1					
B-215	118	39	碇石A		M61	II	509	29	4	2	0.1	黒曜石1					
B-215	118	40	碇石A		M62	III	83	29	4	2	0.1	黒曜石1					
B-215	118	41	碇石A		M64	I	13	29	5	2	(6.1)	黒曜石1					
B-215	118	42	碇石A		M61	II	980	21	5	3	0.2	黒曜石1					
B-215	148	43	碇石A		M64	I	26	22	6	3	0.1	黒曜石1					
B-215	118	44	碇石A	17	M61	III	613	21	5	2	0.1	黒曜石1					
B-215	148	45	碇石A		K63	II	39	22	5	2	0.1	黒曜石1					
B-215	118	46	碇石A		M64	II	60	23	5	2	0.2	黒曜石1					
B-215	148	47	碇石A		M64	I	1	23	4	1	(6.1)	黒曜石1					
B-215	118	48	碇石A		M64	II	69	23	5	2	0.1	黒曜石1					
B-215	118	49	碇石A		M61	III	516	22	5	2	0.1	黒曜石1					
B-215	118	50	碇石A		M61	II	491	23	6	3	0.2	黒曜石1					
B-215	118	51	碇石A	17	M64	III	433	23	4	2	0.1	黒曜石1					
B-215	148	52	碇石A		M64	II	512	24	4	1	0.1	黒曜石1					
B-215	118	53	碇石A		M63	T	23	24	5	2	(6.1)	黒曜石1					
B-215	148	54	碇石A	17	M63	III	225	24	6	3	0.3	黒曜石1					
B-215	118	55	碇石A	17	M64	III	730	26	4	1	0.1	黒曜石1					
B-215	118	56	碇石A		M65	I	79	26	4	2	0.2	黒曜石1					
B-215	118	57	碇石A		M63	I	69	27	6	2	0.2	黒曜石1					
B-215	118	58	碇石A		M63	I	1	26	4	2	0.1	黒曜石1					
B-215	148	59	碇石A		M63	I	70	26	6	2	0.3	黒曜石1					
B-215	118	60	碇石A		M63	T	19	26	7	2	0.3	黒曜石1					
B-215	148	61	碇石A		M63	I	10	32	4	2	0.1	黒曜石1					
B-215	118	62	碇石A	17	M64	III	320	31	12	4	1.7	黒曜石1					
B-215	148	63	碇石A		M63	III	94	(12)	4	1	(6.1)	黒曜石1					
B-215	118	64	碇石A		M61	II	493	(15)	4	2	(6.1)	黒曜石1					
B-215	118	65	碇石A		M63	I	11	(15)	5	1	(6.1)	黒曜石4					
B-215	118	66	碇石A		M64	II	57	(29)	4	2	(6.1)	黒曜石1					
B-215	118	67	碇石A		M65	II	19	(24)	4	1	(6.1)	黒曜石1					
B-215	148	68	碇石A		M63	III	101	(18)	5	1	(6.1)	黒曜石1					
B-215	118	69	碇石A		M62	T	71	21	6	2	0.2	黒曜石1					
B-215	148	70	碇石A		M64	I	37	(17)	5	1	(6.1)	黒曜石1					
B-215	118	71	碇石A		M61	II	82	(15)	5	2	(6.1)	黒曜石1					
B-215	118	72	碇石A		M63	I	31	(29)	5	1	(6.1)	黒曜石1					
B-215	118	73	碇石A	17	M62	III	436	(22)	5	1	(6.1)	黒曜石3					

上白滝8遺跡

縄目	間取	番号	築造名	石部シロップ	外周K	階位	建物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(kg)	材質	接点番号	組合番号	記号
B-215	148	71	礎石	17	263		217	123	6	2	0(0.1)	黒曜石			
B-215	148	75	礎石		263	I	71	123	6	1	0(0.2)	黒曜石			
B-215	148	94	礎石	17	263		692	123	5	3	0(0.1)	黒曜石			
B-215	148	77	礎石		261		197	133	6	2	0(0.1)	黒曜石			
B-215	148	78	礎石		264	II	61	121	5	1	0(0.1)	黒曜石			
B-215	148	79	礎石		262	I	70	123	5	2	0(0.2)	黒曜石			
B-215	148	80	礎石		262	I	12	123	6	2	0(0.2)	黒曜石			
B-215	148	81	礎石		263	I	1	123	6	1	0(0.1)	黒曜石			
B-215	148	82	礎石		263	II	99	123	6	3	0(0.2)	黒曜石			
B-215	148	83	礎石	17	265		969	126	7	3	0(0.2)	黒曜石			
B-215	148	84	礎石		264	II	373	142	6	3	0(0.8)	黒曜石			
B-215	148	85	礎石		263	I	130	126	7	3	0(0.5)	黒曜石			
B-215	148	86	礎石		266	I	1	124	8	2	0(0.1)	黒曜石			
B-215	148	87	礎石		267	I	1	126	8	2	0(0.1)	黒曜石			
B-215	148	88	礎石		264	III	117	181	13	2	0(0.1)	黒曜石			
B-215	148	89	礎石		263	II	142	111	15	1	0(0.1)	黒曜石			
B-215	148	90	礎石		261	II	462	141	15	2	0(0.1)	黒曜石			
B-215	148	91	礎石		264	II	59	124	15	2	0(0.3)	黒曜石			
B-215	148	92	礎石		266	I	46	137	17	1	0(0.2)	黒曜石			
B-215	149	83	礎石		264	II	70	117	13	2	0(0.1)	黒曜石			
B-215	149	94	礎石		262	I	2	117	15	2	0(0.1)	黒曜石			
B-215	149	85	礎石		261	III	412	131	14	3	0(0.1)	黒曜石			
B-215	149	96	礎石	17	264		427	122	16	2	0(0.1)	黒曜石			
B-215	149	97	礎石		263	I	13	123	16	1	0(0.1)	黒曜石			
B-215	149	98	礎石	17	264		392	123	15	2	0(0.1)	黒曜石			
B-215	149	99	礎石		261	I	245	122	16	2	0(0.2)	黒曜石			
B-215	149	100	礎石		262		88	123	16	1	0(0.3)	黒曜石			
B-215	149	101	礎石		262	III	97	125	15	2	0(0.1)	黒曜石			
B-215	149	102	礎石		263	I	3	121	15	3	0(0.1)	黒曜石			
B-215	149	103	礎石	17	262		349	16	23	8	2.7	黒曜石			
B-215	149	104	礎石	17	261		220	21	31	9	5.1	黒曜石			水和層W14
B-216	149	105	礎石	17	262		449	19	43	9	6.8	黒曜石			3644
B-216	149	106	礎石	17	264		80	29	33	8	4.1	黒曜石			3642 水和層W16
B-216	149	107	礎石	17	265		80	37	33	9	7.8	黒曜石			
B-216	149	108	礎石	17	261		1132	22	47	12	9.9	黒曜石			
B-216	149	109	礎石	17	263		963	24	46	9	9.3	黒曜石			3748
B-216	149	110	礎石		265	I	2	20	71	14	28.9	黒曜石	153	1183	
B-216	149	111	礎石	17	261		941	21	37	11	7.2	黒曜石			3639 水和層W15
B-216	149	112	礎石		264	I	1	24	33	15	8.7	黒曜石	127	1267	
B-216	149	113	礎石	17	261		21	22	38	14	19.4	黒曜石			
B-216	149	114	礎石		264	I	3	22	52	15	14.0	黒曜石			2640
B-216	149	115	礎石	17	263		765	23	36	14	16.0	黒曜石			
B-216	149	116	礎石		261	I	9	22	56	12	13.5	黒曜石			
B-216	149	117	礎石	17	262		306	19	40	12	8.9	黒曜石			
B-216	149	118	礎石	17	263		412	14	42	16	5.5	黒曜石			
B-216	149	119	礎石	17	264		812	22	48	12	9.2	黒曜石	153	1178	
B-216	149	120	礎石	17	264		42	28	71	14	28.0	黒曜石	153	1160	
B-216	149	121	礎石	17	265		309	19	46	9	9.3	黒曜石			
B-216	149	122	礎石	17	261		548	24	65	12	19.3	黒曜石	157	1186	
B-216	149	123	礎石	17	265		32	37	67	12	29.2	黒曜石			
B-216	149	124	礎石	17	264		60	25	107	12	31.3	黒曜石			2645
B-217	149	125	礎石		261		211								
B-217	149	125	礎石		262	I	1	20	68	20	52.4	黒曜石			2627
B-217	149	126	礎石	17	261		539	27	107	17	42.2	黒曜石	153	1163	
B-217	149	127	礎石		264	I	3								
B-217	150	127	礎石		261	I	6	49	92	12	66.3	黒曜石			2638
B-217	150	128	礎石		264	I	7	43	109	25	91.0	黒曜石			2643
B-217	150	129	礎石	17	265		348	53	139	18	80.3	黒曜石	101	1002	
					261	I	599								
					261	I	600								

編年	階級	番号	器種名	石器グループ	器種	層位	器物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	材質	接点番号	組合番号	和	考
B-217	150	130	礫石片状		205	T	1	33	63	11	39.9	黒曜石	102	1178		
B-217	150	131	礫石片状		K93	I	40	(29)	(60)	12	(21.6)	黒曜石	153	1180		
B-217	150	132	礫石片状	IV	[26]		13	23	49	14	12.8	黒曜石				
B-217	150	133	礫石片状		261	I	2	21	57	12	13.5	黒曜石				
B-217	150	134	礫石片状		163	I	30	22	66	15	39.0	黒曜石				
B-218	150	135	礫石片状	17	261		850	26	67	14	19.4	黒曜石		52158		
					164	I	8									
B-218	150	136	礫石片状	17	261		831	29	76	13	18.3	黒曜石		2641		
B-218	150	137	礫石片状	17	105		182	23	91	17	34.9	黒曜石				
B-218	150	138	礫石片状	17	261		916	(7)	(41)	9	(1.8)	黒曜石		2651		
B-218	150	139	礫石片状		164	I	41	7	85	11	(4.2)	黒曜石		2651		
					161	I	242									
					261	II	459									
B-218	150	140	礫石片状	17	164		110	(7)	(52)	10	(3.2)	黒曜石	127	1087		
B-218	150	141	礫石片状	17	261		745	(8)	(56)	7	(2.9)	黒曜石	153	1160		
B-218	150	142	礫石片状		164	I	11	16	75	9	(4.5)	黒曜石	127	1087		
					261	T	12									
					261	I	13									
B-218	150	143	礫石片状		161	I	30	18	88	11	(9.2)	黒曜石		2652		
					261	I	37									
B-218	151	144	礫石片状	17	102		71	(22)	(52)	13	(19.6)	黒曜石	129	1174		
B-218	151	145	礫石片状		261	II	304	(5)	(17)	(3)	(9.3)	黒曜石	158	1167		
B-218	151	146	礫石片状		164	I	31	(16)	(31)	(19)	(2.3)	黒曜石		2653		
B-218	151	147	礫石片状	17	163		6	18	136	9	11.5	黒曜石		2659		
					162		537									
					K92		744									
B-218	151	148	礫石片状	17	167		425	(11)	(91)	9	(6.8)	黒曜石		2656		
					164	I	3									
B-218	151	149	礫石片状		K91	II	11	(11)	(82)	8	(3.3)	黒曜石		2657		
					264	I	2									
B-219	151	150	礫石片状		261	I	11	(15)	(65)	9	(8.3)	黒曜石	127	1088		
B-219	151	151	礫石片状	17	164		303	(6)	(25)	6	(1.4)	黒曜石		2661		
B-219	151	152	礫石片状		161	T	39	(7)	(46)	(16)	(2.3)	黒曜石	153	1183		
					164	II	444									
B-219	151	153	礫石片状		161	II	445	6	29	7	6.7	黒曜石	154	1187		
B-219	151	154	礫石片状		261	II	446	(7)	(41)	7	(1.1)	黒曜石	157	1188		
B-219	151	155	礫石片状		161	I	31	9	38	9	2.1	黒曜石		2656		
B-219	151	156	礫石片状		261	II	307	10	41	9	2.7	黒曜石	157	1186		
B-219	151	157	礫石片状	17	164		177	9	56	8	(2.3)	黒曜石		2656		
					161	T	214									
B-219	151	158	礫石片状	17	163		343	4	37	9	1.2	黒曜石		2656		
B-219	151	159	礫石片状		163	T	33	6	48	9	2.0	黒曜石	161	1611		
B-219	151	160	礫石片状		261	I	16	12	31	11	4.3	黒曜石	157	1186		
B-219	151	161	礫石片状	17	161		902	13	81	12	12.6	黒曜石		2640		
					161	II	319									
B-219	151	162	礫石片状		164	II	318	7	58	12	3.1	黒曜石		2620		
					161	II	333									
B-219	151	163	礫石片状		164	II	504	5	43	12	(1.8)	黒曜石		2641		
					161	II	560									
B-219	151	164	礫石片状	17	164		891	(7)	(54)	13	(2.3)	黒曜石		2654		
B-219	151	165	礫石片状		161	II	313	9	69	12	(6.5)	黒曜石	153	1189		
					161	II	431									
					161	II	475									
B-219	151	166	礫石片状	17	163		134	11	51	12	3.2	黒曜石		2645		
					162	I	40									
B-219	151	167	礫石片状		[16]	T	6	10	62	13	(4.6)	黒曜石	127	1087		
					105	II	145									
					[26]		146									
B-219	151	168	礫石片状		161	I	40	7	53	13	(3.1)	黒曜石		2649		
					161	II	323									

上白滝8遺跡

縄文	期別	番号	器種名	石器ブランク	外観	器位	器位番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	材質	注目番号	組合番号	記	考
IV-219	151	169	磁石片焼削片		204	T	198	12	23	14	6.9	黒曜石				2655
IV-220	151	170	磁石片焼削片	17	204		510	10	(65)	15	(6.8)	黒曜石				2657
IV-220	151	171	磁石片焼削片		201	T	25	12	38	16	17.8	黒曜石				2651
IV-220	151	172	磁石片焼削片		201	I	213	8	56	16	(4.7)	黒曜石				2637
					151	I	219									
					201	II	314									
IV-220	151	173	磁石片焼削片	17	204		283	11	20	17	19.8	黒曜石				2637
IV-220	151	174	磁石片焼削片	17	204		233	10	30	17	6.3	黒曜石				2651
					204	II	329									
					201	III	133									
IV-220	151	175	磁石片焼削片	17	204		325	14	31	17	(13.0)	黒曜石	153	1193		
					151	I	26									
IV-220	151	176	磁石片焼削片	17	204		1281	11	28	17	13.2	黒曜石				2652
IV-220	152	177	磁石片焼削片	17	204		269	13	25	17	9.6	黒曜石				2652
IV-220	152	178	磁石片焼削片	17	265		895	11	25	20	(3.6)	黒曜石				2643
					264	III	65									
IV-220	152	179	磁石片焼削片	17	204		141	13	22	25	(6.7)	黒曜石	259	1457		
					204	II	511									
IV-220	152	180	磁石片焼削片		1205	I	3	11	26	25	14.9	黒曜石	259	1457		
IV-221	152	181	磁石片焼削片		1205	I	5	13	53	9	3.2	黒曜石	127	1088		
IV-221	152	182	磁石片焼削片		1261	I	5	10	24	12	6.9	黒曜石	127	1088		
IV-221	152	183	磁石片焼削片	17	263		700	10	27	10	8.5	黒曜石				2642
					264	III	306									
IV-221	152	184	磁石片焼削片	16	1205		291	16	34	14	(6.4)	黒曜石	153	1180		
					1205	I	4									
					201	III	517									
IV-221	152	185	磁石片焼削片	10	1201		5	16	114	12	(11.4)	黒曜石	451	2025		
					1201	I	8									
IV-221	152	186	磁石片焼削片	17	264		781	26	55	10	8.6	黒曜石	158	1187		
					264	III	107									
IV-221	152	187	磁石片焼削片	17	264		33	30	31	12	23.8	黒曜石	152	1178		
IV-221	152	188	磁石片焼削片	17	164		541	25	104	14	(12.4)	黒曜石	153	1183		
					151	III	292									
					264	III	374									
IV-221	152	189	磁石片焼削片		201	II	180	(4)	(37)	9	(0.6)	黒曜石				2620
					201	III	514									
IV-221	152	190	磁石片焼削片		1261	I	4	(6)	(39)	10	(1.3)	黒曜石				2620
IV-221	152	191	磁石片焼削片		201	I	36	(8)	(35)	(16)	(2.8)	黒曜石				2638
IV-221	152	192	磁石片焼削片	17	263		760	(5)	(25)	(15)	(1.4)	黒曜石				2645
IV-221	152	193	磁石片焼削片	17	264		53	(8)	(40)	11	(2.0)	黒曜石				2657
IV-221	152	194	磁石片焼削片	17	264		144	(10)	(45)	(12)	(4.8)	黒曜石				2655
IV-221	152	195	磁石片焼削片	17	263		685	(9)	(38)	(12)	(4.4)	黒曜石				2658
IV-221	152	196	磁石片焼削片		263	I	31	(10)	(50)	12	(4.8)	黒曜石				2659
IV-222	152	197	磁石片焼削片	17	263		130	(6)	(22)	11	(4.0)	黒曜石	101	1001		
					262	I	5									
IV-222	152	198	磁石片焼削片	17	262		475	(12)	(66)	(13)	(5.2)	黒曜石	101	1001		
IV-222	152	199	磁石片焼削片	17	263		40	(8)	(58)	(4)	(4.1)	黒曜石				2649
IV-222	152	200	磁石片焼削片	17	264		536	(8)	(58)	(15)	(3.1)	黒曜石				2660
					263	T	126									
IV-222	152	201	磁石片焼削片		264	I	33	(13)	(31)	(15)	(4.1)	黒曜石				2652
IV-222	152	202	磁石片焼削片	17	261		236	(6)	(11)	19	(5.2)	黒曜石				2657
IV-222	152	203	磁石片焼削片	17	262		890	(4)	(41)	(19)	(3.5)	黒曜石				2657
IV-222	152	204	磁石片焼削片	17	263		276	(14)	(23)	21	(11.1)	黒曜石				2643
IV-222	152	205	磁石片焼削片	17	204		924	(8)	(40)	(26)	(19.9)	黒曜石	259	1457		
					1264	I	73									
IV-222	153	206	磁石片焼削片		1264	II	112	(3)	(29)	(7)	(0.4)	黒曜石				1162
IV-222	153	207	磁石片焼削片		264	I	347	(5)	(28)	(9)	(9.6)	黒曜石	158	1187		
IV-222	153	208	磁石片焼削片		1205	T	31	(4)	(26)	(8)	(0.3)	黒曜石	158	1189		
IV-222	153	209	磁石片焼削片	17	261		348	(7)	(53)	(7)	(3.1)	黒曜石	153	1183		
IV-222	153	210	磁石片焼削片		151	I	30	(6)	(45)	(12)	(3.1)	黒曜石				2651

表記欄付196

縄文	期数	番号	器種名	石器グループ	外郭X	厚さ	器台番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	材質	接点番号	組合番号	図	考
IV-222	153	211	磁石片状破片		263	T	51	120	176	115	16.7	黒曜石1			2669	
IV-222	153	212	磁石片状破片	17	164		796	191	155	115	16.1	黒曜石1			2661	
							8									
IV-222	153	213	磁石片状破片	17	161		531	171	158	110	13.7	黒曜石5	153		1183	
IV-222	153	214	磁石片状破片	17	164		315	110	147	110	12.7	黒曜石1			2641	
IV-222	153	215	磁石片状破片		161	II	435	153	133	110	11.2	黒曜石1	153		1166	
					164	II	427									
IV-222	153	216	磁石片状破片		165	T	56	153	122	122	16.3	黒曜石1	122		1688	
IV-222	153	217	磁石片状破片	17	162		781	161	138	11	12.0	黒曜石1			2659	
IV-222	153	218	磁石片状破片		161	T	27	142	133	11	13.1	黒曜石1			2641	
IV-222	153	219	磁石片状破片	17	162		768	143	146	11	14.3	黒曜石1	451		2126	
IV-223	153	220	磁石片状破片		164	I	6	115	111	111	14.7	黒曜石1	127		1686	
IV-223	153	221	磁石片状破片	17	163		736	127	111	115	11.0	黒曜石1			2643	
					165		697									
IV-223	153	222	磁石片状破片		163	I	37	161	136	11	16.3	黒曜石1	461		2126	
IV-223	153	223	磁石片状破片		164	II	129	141	124	11	16.5	黒曜石5	126		1187	
IV-223	153	224	磁石片状破片	17	163		134	110	150	11	12.1	黒曜石1			2649	
IV-223	153	225	磁石片状破片		164	I	10	110	130	111	12.1	黒曜石1	127		1687	
					161	II	164									
IV-223	153	226	磁石片状破片		161		432	110	130	11	11.2	黒曜石5	153		1178	
IV-223	153	227	磁石片状破片		164	I	7	110	146	112	12.7	黒曜石1	127		1687	
IV-223	153	228	磁石片状破片		161	I	236	110	146	112	13.2	黒曜石1			2651	
IV-223	153	229	磁石片状破片		164	I	17	110	120	11	15.1	黒曜石1			2629	
					161	II	162									
IV-223	153	230	磁石片状破片	17	163		562	116	115	11	11.5	黒曜石1			2627	
					163		736									
					165		1076									
IV-223	153	231	磁石片状破片	16	162		1	110	213	11	11.5	黒曜石1			2657	
					165	II	2									
					165	I	1									
IV-223	153	232	磁石片状破片	17	161		710	130	140	121	11.5	黒曜石1			2653	
IV-223	153	233	磁石片状破片		164	I	206	110	142	111	15.3	黒曜石1			2653	
IV-224	153	234	骨製石芯		163	II	166	110	25	5	1.0	黒曜石4				
IV-224	153	235	骨製石芯		165	II	103	110	15	5	1.2	黒曜石4				
IV-224	153	236	骨製石芯		162	II	102	110	25	5	1.2	黒曜石4				
IV-224	153	237	骨製石芯		161	I	17	110	17	5	2.0	黒曜石4				
IV-224	153	238	骨製石芯		161	II	225	111	129	11	11.8	黒曜石4				
IV-224	153	239	骨製石芯	17	163		121	24	51	11	16.9	黒曜石4				
IV-224	153	240	骨製石芯	19	163		328	18	51	22	15.2	黒曜石5				
IV-224	151	241	骨製石芯		161	T	49	29	61	15	15.2	黒曜石5				
IV-224	154	242	骨製石芯	17	164		434	29	77	19	11.4	黒曜石1				
IV-224	154	243	骨製石芯		165	T	7	36	28	17	16.8	黒曜石3				
IV-224	154	244	骨製石芯	17	163		696	34	80	23	13.2	黒曜石5				
IV-224	154	245	骨製石芯	17	163		735	21	82	17	16.9	黒曜石1				
IV-224	154	246	骨製石芯		165	I	8	27	86	25	17.7	黒曜石4				
IV-225	154	247	骨製石芯		164	I	48	27	90	23	17.4	黒曜石5				
IV-225	154	248	骨製石芯	17	164		731	21	97	17	16.1	黒曜石4				
IV-225	154	249	骨製石芯	17	164		71	30	28	21	12.3	黒曜石1				
IV-225	154	250	骨製石芯	17	161		315	33	118	16	11.7	黒曜石5				
IV-225	154	251	骨製石芯	17	161		122	33	118	25	17.2	黒曜石5				
IV-225	154	252	骨製石芯	17	163		180	32	109	30	17.9	黒曜石4				
IV-226	154	253	骨製石芯	17	164		430	39	114	16	11.5	黒曜石4			5239	
					165	I	6									
IV-226	154	254	骨製石芯		161	I	50	47	61	29	16.2	黒曜石4	140		1140	
IV-226	154	255	骨製石芯		164	I	3	45	116	23	13.5	黒曜石4	272		1506	
					164	T	8									
IV-226	155	256	骨製石芯	17	163		770	42	120	44	16.0	黒曜石5				
IV-227	153	257	骨製石芯	19	162		126	29	163	18	11.3	黒曜石1			5231	
					162		131									
					162	I	3									

上白滝8遺跡

縄目	間数	番号	器種名	石器グループ	発掘区	層位	器物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	材質	接点番号	組合番号	図	考
B-227	153	264	舟底形石器	Ⅱ	K02		32	(33)	(37)	(24)	(13.4)	黒曜石				
B-227	153	259	舟底形石器	Ⅱ	K04		396	(25)	(35)	(19)	(11.3)	黒曜石		140	1140	
B-227	153	260	舟底形石器	Ⅱ	K05	Ⅰ	103	(35)	(46)	(24)	(5.9)	黒曜石		156	114	
B-227	153	261	舟底形石器	Ⅱ	K03		482	(27)	(56)	(17)	(19.1)	黒曜石				
B-227	153	262	舟底形石器	Ⅱ	K03		427	(30)	(43)	16	(26.5)	黒曜石		116	1048	
B-227	153	263	舟底形石器	Ⅱ	K03		108	(41)	(27)	(24)	(47.2)	黒曜石				
B-227	153	264	舟底形石器	Ⅱ	L02		284	(28)	(45)	(19)	(49.9)	黒曜石				
B-228	153	265	ナイフ形石器	Ⅱ	K06		300	50	20	8	6.8	黒曜石				
B-228	153	266	槌形	Ⅱ	T01	T	29	37	17	6	4.1	黒曜石				
B-228	153	267	槌形	Ⅱ	K04	Ⅰ	6	37	20	12	8.5	頁岩				
B-228	153	268	槌形	Ⅱ	K04		640	36	22	7	7.2	黒曜石				
B-228	153	269	槌形	Ⅱ	T01		548	45	19	3	4.8	黒曜石				
B-228	153	270	槌形	Ⅱ	K05		1340	49	19	10	8.6	黒曜石				
B-228	153	271	槌形	Ⅱ	K03		310	53	22	13	10.3	頁岩				
B-228	153	272	槌形	Ⅱ	K05	Ⅰ	5	(54)	25	9	(11.5)	黒曜石				
B-228	153	273	槌形	Ⅱ	T03		3	69	21	9	9.2	黒曜石				
B-228	153	274	槌形	Ⅱ	K05		122	50	23	9	9.9	黒曜石				
B-228	153	275	彫形削片	Ⅱ	T01	Ⅰ	226	15	8	3	0.2	黒曜石				
B-228	153	276	彫形削片	Ⅱ	K01		465	24	9	4	0.4	黒曜石				
B-228	153	277	彫形削片	Ⅱ	T02	Ⅰ	115	(13)	(6)	(2)	(0.2)	のり				
B-228	153	278	彫形削片	Ⅱ	K05	Ⅱ	130	(13)	(7)	3	(0.1)	黒曜石				
B-228	153	279	彫形削片	Ⅱ	K04	Ⅱ	38	17	6	3	0.2	黒曜石				
B-228	153	280	彫形削片	Ⅱ	K03		123	29	7	4	0.3	黒曜石				
B-228	153	281	鏃形	Ⅱ	L03		380	48	19	7	4.8	頁岩				
B-228	153	282	鏃形	Ⅱ	K05		530	43	25	12	16.2	のり				
B-228	153	283	鏃形	Ⅱ	K06	Ⅰ	2	60	23	9	13.4	黒曜石				
B-228	153	284	鏃形	Ⅱ	K04		245	50	23	13	19.2	黒曜石				
B-228	153	285	鏃形	Ⅱ	K03	Ⅱ	105	64	28	10	17.9	黒曜石				
B-228	156	286	鏃形	Ⅱ	L07		290	58	26	12	14.8	黒曜石				
B-228	156	287	鏃形	Ⅱ	K01		232	68	26	10	17.2	黒曜石				
B-229	156	288	鏃形	Ⅱ	K07		50	64	25	9	14.0	黒曜石				
B-229	156	289	鏃形	Ⅱ	K02	T	9	66	32	12	21.1	黒曜石				
B-229	156	290	鏃形	Ⅱ	K04		538	79	30	15	31.1	黒曜石				
B-229	156	291	鏃形	Ⅱ	K07		2	94	28	13	29.8	黒曜石				
B-229	156	292	鏃形	Ⅱ	L05		1	94	21	10	21.4	黒曜石				
B-229	156	293	鏃形	Ⅱ	K07		31	117	32	11	36.0	黒曜石				
B-229	156	294	鏃形	Ⅱ	K06		1	131	32	15	46.2	黒曜石				
B-229	156	295	鏃形	Ⅱ	K06	T	9	156	55	14	37.4	黒曜石		53476		
B-229	156	296	鏃形	Ⅱ	K04		1024	56	28	13	19.2	黒曜石				
B-229	156	297	鏃形	Ⅱ	K03		690	56	33	10	17.7	黒曜石				
B-229	156	298	鏃形	Ⅱ	K06		48	63	41	11	38.4	黒曜石				
B-229	156	299	鏃形	Ⅱ	K07		50	79	41	18	40.3	黒曜石		121	1061	
B-229	156	300	鏃形	Ⅱ	K01		1276	84	61	22	103.2	黒曜石				
B-229	156	301	鏃形	Ⅱ	K06		56	(31)	41	(11)	(13.1)	黒曜石				
B-229	156	302	鏃形	Ⅱ	K06		131	(48)	27	13	(14.8)	黒曜石				
B-229	157	303	鏃形	Ⅱ	K06	Ⅰ	11	82	41	12	(26.7)	黒曜石				
B-229	157	304	鏃形	Ⅱ	K04		323	133	39	20	(40.1)	黒曜石		52477		
B-229	157	305	鏃形	Ⅱ	K05		450	144	38	10	(46.7)	黒曜石				
B-231	157	306	鏃形石器	Ⅱ	K05	Ⅰ	104	35	16	14	2.1	頁岩				
B-231	157	307	鏃形石器	Ⅱ	K05		15	27	12	5	1.8	のり				
B-231	157	308	鏃形石器	Ⅱ	K02	T	8	82	20	6	8.0	黒曜石				
B-231	157	309	鏃形石器	Ⅱ	K02	L02	357	112	29	12	32.7	黒曜石		52529		
B-231	157	310	鏃形石器	Ⅱ	K06	Ⅰ	1	(42)	(15)	(3)	(2.4)	黒曜石				
B-231	157	311	鏃形石器	Ⅱ	L02		664	(50)	(32)	(12)	(16.3)	黒曜石				
B-231	157	312	鏃形	Ⅱ	L03		624	61	42	7	18.5	燧石				
B-231	157	313	鏃形	Ⅱ	K03	Ⅱ	106	(102)	35	17	(51.1)	黒曜石				

納庫	図版	番号	器種名	石器ゾナ	発掘区	層位	器物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	材質	接点番号	組合番号	図	考	
N-201	157	314	圓形	17	K06		2	(66)	(20)	10	171.6	黒曜石4					
N-251	157	315	圓形	17	K06		1	(183)	48	11	194.77	貝石					
N-231	157	316	圓形	15	K06	1	2	204	41	14	115.7	黒曜石1		52339			
N-232	158	317	二次加工ある鏡片	17	164		1143	(97)	32	7	(16.8)	黒曜石5	156	1185			
N-232	158	318	二次加工ある鏡片	17	164		1154	143	110	49	12	49.3	黒曜石5	153	1160		
							1165	171									
							1165	19									
N-232	158	319	二次加工ある鏡片	17	260		125	98	25	19	14.4	黒曜石1					
N-232	158	320	二次加工ある鏡片	17	164		1287	157	62	23	(118.5)	黒曜石5	153	1183			
							164	291									
N-232	158	321	二次加工ある鏡片	17	165	1	89	21	16	4	1.1	貝石					
N-232	158	322	石片	16	B05		342	68	31	18	27.7	黒曜石4	141	1141			
N-232	158	323	石片	17	K06		3	27	29	15	24.0	黒曜石4	143	1147			
N-232	158	324	石片	15	K07	1	32	138	33	18	43.0	黒曜石4	143	1147			
							167	6									
N-232	158	325	石片	17	164		79	183	32	20	48.9	黒曜石5	164	1182			
							164	839									
N-232	158	326	石片	17	164		12	95	29	11	26.3	黒曜石5	158	1187			
							165	17									
N-233	158	327	石片	17	164		198	111	51	20	96.6	黒曜石5	158	1187			
							164	619									
N-233	159	328	石片	17	164		174	128	49	19	(46.1)	黒曜石5	156	1185			
							163-19	81									
N-233	159	329	石片	17	164		299	(122)	48	18	(73.6)	黒曜石5	156	1185			
N-243	159	330	石片	17	164		329	130	52	12	56.3	黒曜石5	156	1185			
							164	402									
							165	20									
N-233	159	331	石片	19	167		332	140	49	20	109.6	黒曜石5	153	1184			
N-233	159	332	石片		167	1	57	140	58	30	127.1	黒曜石5	154	1182			
							165	15									
N-234	159	333	石片	17	164		47	160	62	30	151.4	黒曜石5	156	1185			
							164	630									
N-234	159	334	石片	19	166		80	187	47	14	(79.7)	黒曜石5	153	1183			
							166	112									
							166	134									
N-234	159	335	石片	17	164		702	157	51	15	111.4	黒曜石5	153	1183			
N-234	160	336	石片	17	164		509	190	62	13	(145.7)	黒曜石1	153	1183			
							164	706									
							164	1058									
N-235	160	337	石片	17	164		105	162	79	23	(225.3)	黒曜石5	160	1190			
							164	676									
N-235	160	338	石片	17	164		62	205	49	34	(191.4)	黒曜石5	152	1183			
							164	22									
							164	284									
N-235	160	339	石片	17	164		674	216	77	17	(229.4)	黒曜石1	101	1001			
							164	139									
							164	199									
							164	260									
N-236	161	340	石片	17	164		964	(116)	(32)	12	(24.9)	黒曜石5	152	1183			
							164	75									
N-236	161	341	石片	17	164		180	(191)	(41)	14	(41.5)	黒曜石5	153	1183			
							164	93									
N-236	161	342	石片	17	164		822	(156)	45	33	(90.3)	黒曜石5	154	1182			
							164	330									
							164	1046									
N-236	161	343	鏡片	17	164		26	95	57	17	(60.6)	黒曜石5	154	1182			
							164	294									
N-236	161	344	石片	16	167		209	48	31	26	38.0	黒曜石5	102717				
							166	21									

上白滝8遺跡

緯度	経度	番号	築造名	石器ゾナ	発掘区	層位	発掘番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	材質	母口番号	組合番号	図	考
							206	1	25							
N-226	161	343	石房棟	14	1096		177	50	27	31	46.1	黒曜石1				
N-226	161	346	石房棟	15	109		50	69	30	41	83.7	黒曜石5		2/08		
N-226	161	347	石房棟	16	107		145	75	28	35	66.1	黒曜石5				
N-226	161	348	石房棟	16	1065		230	58	45	36	72.2	黒曜石4	141	1141		
N-227	161	349	石房棟	16	1065		315	76	88	63	451.8	黒曜石4	414	2005		
N-227	161	350	石房棟		1054	I	53	90	63	40	139.8	黒曜石1	154	1182		
N-227	162	361	石房棟		1003	I	17	156	130	94	1,429.5	黒曜石5	243	1415		
N-228	162	362	石房棟	17	104		537	197	92	55	479.7	黒曜石5	153	1180		
N-228	162	363	石房棟	17	1061		296	172	125	110	2,506.7	黒曜石5		2709		
N-229	163	384	石房棟	16	107		1	177	80	106	1,464.5	黒曜石1				
N-229	163	385	石房棟	17	1003		355	291	79	48	698.6	黒曜石5				
N-230	161	356	石房棟	17	103		690	168	166	87	2,843.4	黒曜石1	107	1006		
N-240	163	357	石房	17	1054		82	90	86	39	136.0	黒曜石1	127	1084		
					1064		225									
					104		961									
					104		1069									
					1054	III	106									
					101	I	131									
					101	I	132									
					101	I	134									
					101	I	187									
N-241	163	358	石房	16	105		490	59	74	22	33.7	黒曜石4	147			
N-211	161	309	石房	18	1003		2	94	116	36	803.0	黒曜石5	158	1182		
N-241	163	360	石房	17	104		533	146	133	74	1,358.5	黒曜石1	259	1456		
N-242	163	361	石房	17	1005		80	96	108	147	459.7	黒曜石4	477			
N-242	163	362	石房	18	100		36	146	117	130	2,159.8	黒曜石5		2710		
N-243	166	363	石房		1005	I	51	92	58	47	91.8	黒曜石4	143	1164		
N-213	166	364	石房	17	103		125	92	95	81	227.8	黒曜石1	124			
N-243	166	365	石房	17	104		200	126	154	84	5,124.4	黒曜石1	135	1132		
N-214	167	366	斧形石器		1002	I	1	183	87	32	504.1	安山岩1				
N-244	167	367	介石	17	1002		650	298	248	36	6,353.4	安山岩2				
N-291	194	1	尖頭器	27	Q60		332	141	62	16	161.3	黒曜石4		2620		
					Q61		371									
					R72		331									
					50		2									
					M58	I	2									
N-291	194	2	尖頭器	27	Q60		1723	161	51	15	111.0	黒曜石4		5231		
					M62	I	1									
					M62	I	2									
					SF0-G		40									
N-291	194	3	尖頭器	27	Q60		50	181	56	15	120.5	黒曜石4		5250		
					Q69		111									
N-291	194	4	尖頭器	21	N62		1080	192	83	16	157.6	黒曜石4		5258		
					23	P63	537									
					針置		067	1								
N-292	194	5	尖頭器	27	Q58		8	207	81	17	174.6	黒曜石3		5257		
					Q58A		17									
					Q58B		18									
					Q58C		569									
					Q58D		1965									
					2452-5)		36									
N-292	193	6	尖頭器	27	Q69		1	216	81	26	1207.6	黒曜石5		5263		
					Q59		204									
					Q68		510									
					Q59		1640									
					Q69		1981									
					Q66		1470									
					Q59	T	1									
N-293	193	7	尖頭器	27	P60		100	291	79	21	1202.1	黒曜石4	231	1367		
					Q60		425									

納品	図版	番号	器種名	石器グループ	発掘区	層位	器物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	材質	母口番号	組合番号	図	考
							Q60 Q66	920 1046								
N-293	193	A	尖頭器	25			Q59 Q59 Q59 Q59 Q59	1277 1290 2396 1400 1401	243	81	24	(336.9)	黒曜石3		52309	
N-294	194	B	尖頭器	21			M63 M63 N63	299 1127 1	240	97	30	(485.2)	黒曜石1		52309	
							T N63-41	9								
N-295	195	10	尖頭器	21			M62 M62 M63 N64 M63	230 420 1081 1 2	253	100	31	(536.0)	黒曜石1	171	1307	
							I M63 SF0-G	32								
N-296	198	11	尖頭器	21			N62 N63	200 743	280	118	27	683.8	黒曜石2	182	1237	
							O62 21	475								
N-297	197	12	尖頭器	27			Q59 Q59 Q55 Q60 Q59 Q59 Q60 Q60	450 1477 2350 36 363 414 1332 1515	302	100	36	(1,218.0)	黒曜石3		52510	
N-298	199	13	尖頭器	27			O68 O69 P59 P59 P59 P59 O59 P60	120 142 18 334 488 1081 45 88	263	114	42	(831.6)	黒曜石1	222	1347	
							I P60 SF0-G	2								
N-298	188	14	尖頭器	25			B65 O71	127 2	168	54	23	(227.4)	黒曜石1		52326	
							新産									
N-299	194	15	尖頭器	27			P60 P60	1002 2396	196	70	17	171.5	黒曜石3		52327	
N-299	199	16	尖頭器				Q65	7	68	48	16	41.6	黒曜石1			
N-299	199	17	尖頭器				O65	1	64	27	19	11.1	黒曜石1			
N-299	199	18	尖頭器	27			M3A J34	7 2	149	50	19	(167.2)	黒曜石5		2721	
							I									
N-299	200	19	尖頭器	27			P59 P60 P60 O69 O60	217 11 388 3 12	(263)	66	25	(307.1)	黒曜石1	200	1277	
							I O60									
N-300	200	20	尖頭器	20			M65	14	(32)	(30)	(7)	(7.6)	黒曜石1			
N-300	200	21	尖頭器	27			P58	50	(34)	(35)	(16)	(8.9)	黒曜石5			
N-300	200	22	尖頭器	27			P60	20	(51)	(56)	(15)	(16.0)	黒曜石1			
N-300	200	23	尖頭器	29			O56 O56	11 15	(54)	(37)	(12)	(23.2)	黒曜石1		52195	
N-300	200	24	尖頭器	20			N65	1	(37)	(50)	(12)	(29.2)	黒曜石1			
N-300	200	25	尖頭器	27			P60 P61	2320 1560	(66)	(48)	(10)	(22.5)	黒曜石4		52378	
N-300	200	26	尖頭器	21			O62	135	68	38	11	33.7	頁岩			
N-300	200	27	尖頭器	27			O60	109	(65)	(42)	(14)	(32.9)	黒曜石1	227	1300	

上白滝8遺跡

検出	図面	番号	器種名	石器ブレイク	発掘区	層位	器物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	材質	母口番号	組合番号	記号
							P56	137							
N-200	200	28	丸鋸形	27	P67		300	(80)	(47)	(13)	(52.4)	黒曜石1			
N-200	200	29	丸鋸形	21	M63		1100	(194)	65	(20)	(214.9)	黒曜石1		523/2	
							1	1							
							2	2							
N-201	201	30	丸鋸形	27	O60		52	(80)	(86)	(16)	(86.1)	黒曜石3		52385	
							O60	108							
N-201	201	31	丸鋸形	21	N62		998	(58)	(85)	(18)	(51.9)	黒曜石1			
N-201	201	32	丸鋸形	27	P60		2440	(91)	69	19	(181.3)	黒曜石4	233	1369	
							Q61	268							
N-201	201	33	丸鋸形	27	O59		420	(101)	(70)	(16)	(25.6)	黒曜石1			
N-201	201	34	丸鋸形	21	M61		121	(150)	(71)	(20)	(125.4)	黒曜石5		52502	
							M61	92							
N-202	201	35	丸鋸形	21	M62		251	(95)	(82)	(16)	(79.9)	黒曜石1			
N-202	201	36	丸鋸形	27	Q68		16	(182)	(85)	(22)	(130.9)	黒曜石5			
N-202	201	37	丸鋸形	21	M63		517	(61)	(58)	(22)	(61.6)	黒曜石1			
N-202	202	38	丸鋸形	21	M62		53	(134)	(84)	(15)	(89.3)	黒曜石1		52347	
							M62	57							
							M62	67							
							M62	281							
N-203	202	39	丸鋸形	27	O56		293	(141)	(96)	(13)	(120.4)	黒曜石1		52504	
							P58	69							
							P59	413							
							523-9	3							
							523-9	38							
N-203	202	40	丸鋸形	25	B60		1136	(82)	(72)	(28)	(129.1)	黒曜石5	250	1364	
N-203	202	41	丸鋸形	27	P62		639	(130)	(91)	(20)	(286.6)	黒曜石1	209	1387	
N-204	202	42	丸鋸形	21	M62		268	(167)	122	37	(614.2)	黒曜石1	290	1568	
							50	4							
							M62	4							
							M63	1							
							Q62	2							
N-204	203	43	丸鋸形	21	N61		30	(184)	107	26	(445.5)	黒曜石1	181	51119	
							N61	747							
							N62	760							
N-205	203	44	丸鋸形	27	P59		315	(286)	98	(27)	(581.0)	黒曜石1		52508	
							P59	294							
							P59	414							
							P59	459							
							P60	1267							
							P60	1366							
							P69	1380							
							Q68	451							
							Q59	1162							
							Q60	288							
							Q59	417							
							O60	13							
N-206	203	45	両面削形石斧	21	O63		232	181	96	28	(302.0)	黒曜石5		52453	
							O63	303							
							O63	360							
							O61	71							
							O65	27							
							P61	1560							
							O61	3							
							O64	4							
							O64	57							
							523-6	57							
N-206	205	46	両面削形石斧	23	P63		509	(176)	141	(51)	(1,235.8)	黒曜石1	190	1258	
N-207	204	47	両面削形石斧	29	P59		228	300	151	66	2,532.5	黒曜石1	197	1210	
							R59	41							
							D59	50							

種別	図版	番号	器種名	石器グループ	発掘区	層位	器物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	材質	母口番号	組合番号	記号
						表層	51								
B-208	205	48	西岡朝葉石器			O60 P12	I T	6 6	(5)†	(11)	(41)	168.2	黒曜石1	192	1264
B-209	205	19	西岡朝葉石器	27		P61		1120	185	86	22	358.3	黒曜石1		
B-208	205	50	緑石片			N64	Ⅱ	5	(16)	5	1	(11.1)	黒曜石1		
B-208	205	51	緑石片			N64	Ⅲ	4	(16)	6	1	(10.1)	黒曜石1		
B-208	205	22	緑石片塊	27		P50		931	21	26	9	5.8	頁岩		2647
B-208	205	53	緑石片塊	27		P59		330	14	33	8	4.3	頁岩		
B-208	205	54	緑石片塊	27		Q60		1577	21	33	8	4.5	黒曜石1	214	1324
B-208	205	55	緑石片塊	27		P09		271	20	43	8	8.3	めりう		2648
B-208	205	56	緑石片塊	27		O60		232	21	41	10	8.5	黒曜石4		2646
B-208	205	57	緑石片塊	21		O61		402	34	51	12	23.6	黒曜石1		
B-208	205	58	緑石片塊			N58	I	1	23	45	13	19.7	黒曜石1		
B-208	206	59	緑石片塊断片	21		N54		48	11	56	9	3.4	黒曜石1	214	1324
B-208	206	60	緑石片塊断片	27		O60		245	(22)	(52)	(11)	(7.3)	黒曜石4		2646
B-209	206	61	緑石片塊断片	27		O60 O60 O60	I	127 230 9	21	111	9	(5.5)	黒曜石1	451	2028
B-209	206	62	緑石片塊断片	27		O61		82	6	45	7	3.5	頁岩		2647
B-209	206	63	緑石片塊断片	27		O59		177	(16)	(95)	11	(6.1)	黒曜石1	451	2028
B-209	206	64	緑石片塊断片	21		M64		12	(13)	(57)	(6)	(5.0)	黒曜石1		2651
B-209	206	65	緑石片塊断片	27		P61		300	24	82	12	12.8	黒曜石1	214	1324
B-209	206	66	穴透器断片	47		N52 N63		640 412	(71)	(21)	19)	(11.9)	黒曜石4		2675
B-209	206	67	青灰形石器	21		M62 M62 M63		299 336 629	27	121	15	41.8	黒曜石5		2740
B-209	206	68	青灰形石器	29		P55 P55		21 86	39	102	30	91.9	黒曜石1		2674
B-209	206	69	舟状形石器	27		O57		316	38	95	18	71.0	黒曜石2		
B-210	206	70	舟状形石器	24		O62		349	35	79	24	46.6	黒曜石5		
B-210	206	71	舟状形石器	27		O58		213	39	92	31	68.9	黒曜石1		
B-210	206	77	舟状形石器	27		N60		53	79	81	76	47.0	黒曜石1		
B-210	206	73	舟状形石器	27		N56		199	36	72	27	53.5	黒曜石1		
B-210	206	71	舟状形石器	27		N60		1	35	80	32	57.3	黒曜石1		
B-211	206	75	舟状形石器			N61	I	1	31	82	26	49.5	黒曜石1		
B-211	207	26	舟状形石器	27		N60		33	36	91	32	65.2	黒曜石1		
B-211	207	77	舟状形石器	27		N59		30	30	90	23	64.6	黒曜石1		2672
B-211	207	28	舟状形石器	27		O60		308	64	131	38	258.0	黒曜石1		
B-212	207	29	舟状形石器	27		N59		179	40	97	29	101.2	黒曜石1		2672
B-212	207	30	舟状形石器	27		P59		335	66	118	36	188.1	黒曜石1	199	1322
B-212	207	81	舟状形石器	27		O60		115	37	149	14	165.2	黒曜石1		
B-213	207	82	舟状形石器	27		N56 N58		467 468	51	131	33	171.1	黒曜石5		5230
B-213	208	63	舟状形石器	27		O27 O58 O58		1 28 136	47	183	35	(286.6)	黒曜石1	201	1278
B-213	208	64	舟状形石器	21		N62 N62		620 661	30	166	33	159.5	黒曜石3		5232
B-214	208	65	舟状形石器			M35 N63	I I	7 3	33	195	30	121.6	黒曜石4		2670
B-214	208	66	舟状形石器	21		O62		247	65	159	29	151.2	黒曜石3	399	1487
B-214	208	87	舟状形石器			B65	I	1	42	200	30	309.4	黒曜石1		5234
B-215	209	88	舟状形石器	20		M65 M65		19 43	48	198	41	361.7	黒曜石4	184	1283
B-215	209	89	舟状形石器	21		M64		134	(19)	(29)	(35)	(14.2)	黒曜石1		
B-215	209	90	舟状形石器	21		N61		31	(21)	(78)	(16)	(38.7)	黒曜石1		
B-215	209	91	舟状形石器	29		P54		29	(35)	(20)	(15)	(10.8)	黒曜石5		

上白滝8遺跡

縄文	期数	番号	器種名	石器ブレイク	発掘区	層位	器物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	材質	接点番号	組合番号	図	考
N-315	209	92	舟底形石器	27	P91		538	313	171	126	142.9	黒曜石				
N-315	209	93	舟底形石器	27	N97		1	126	1100	23	144.4	黒曜石				
N-316	209	94	舟底形石器	29	P56		+	184	650	29	129.1	黒曜石				
N-316	209	95	舟底形石器	21	N63 N63		673 689	325	177	29	83.2	黒曜石	196	1249		
N-316	209	96	舟底形石器	27	P10		350	653	686	126	691.3	黒曜石				
N-316	209	97	削器		N92	1	2	92	30	17	13.1	頁岩				
N-316	209	98	鎌形	27	Q99		62	74	34	12	19.1	黒曜石				
N-316	209	99	鎌形	27	M38 N97 持1		6	79	29	5	11.6	頁岩		52484		
N-316	209	100	鎌形	28	R39		53	81	32	11	21.8	黒曜石				
N-316	209	101	鎌形	29	P55		89	55	31	10	18.8	黒曜石				
N-316	209	102	鎌形	27	P93		231	65	37	13	28.0	黒曜石				
N-316	209	103	鎌形	23	O63		283	82	49	16	49.1	黒曜石				
N-317	210	104	鎌形	27	N97		30	194	41	19	79.5	黒曜石				
N-317	210	105	鎌形	27	P99 P99 P91		638 1445 150	116	51	11	54.8	黒曜石			52481	
N-317	210	106	鎌形	27	N59		160	176	73	29	296.7	黒曜石				
N-317	210	107	鎌形	27	N58		684	680	41	10	121.0	黒曜石				
N-317	210	108	鎌形石器		N64	Ⅲ	6	81	14	4	2.0	頁岩				
N-317	210	109	鎌形石器	21	N63		742	142	12	4	11.8	黒曜石				
N-317	210	110	削器	21	N63		664	86	37	9	23.6	黒曜石				
N-317	210	111	削器	21	N82 N63		502 296	113	35	11	40.2	黒曜石			52544	
N-317	210	112	削器	24	O62 O65		132 91	191	35	19	32.3	黒曜石			52545	
N-318	210	113	削器	27	P97		21	113	31	13	38.1	黒曜石				
N-318	210	114	削器	27	P59 P59		207 509	123	42	14	129.0	黒曜石			52546	
N-318	211	115	削器	27	P58 P58 P58		8 31 144	159	45	14	87.8	黒曜石	226	1359		
N-318	211	116	削器	27	P54 O68 持2-5	1	198 2 107	141	51	10	171.9	黒曜石			52546	
N-318	211	117	削器	27	O69 P58		52 179	157	46	12	76.3	黒曜石			52549	
N-318	211	118	削器	27	O68 P58		51 178	182	42	17	146.8	黒曜石			52552	
N-319	211	119	削器	27	N69		241	112	51	21	186.6	黒曜石				
N-319	211	120	削器	27	O68		391	112	120	21	132.5	黒曜石	241	1494		
N-319	211	121	削器	21	M63 N62 N92 N63 持3-5		1007 609 791 83 1	129	54	13	96.2	黒曜石			52558	
N-319	212	122	削器		R64	1	1	138	65	34	211.2	黒曜石			2865	
N-319	212	123	削器	21	M62		696	695	23	11	18.0	頁岩				
N-319	212	124	石片	27	M79		8	27	13	3	6.8	黒曜石				
N-319	212	125	石片	27	P91 P92 P93 P91 P92	1	11 260 47 21 13	182	57	16	111.3	黒曜石	243	1498		
N-320	212	126	石片	27	N58 N64 N58		57 203 221	186	57	29	150.6	黒曜石	241	1494		
N-320	212	127	石片	29	P52		169	165	20	18	158.7	黒曜石	241	1494		

種別	年度	番号	器種名	石器ブロック	発掘区	層位	器物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	材質	母片番号	組合番号	図	考	
							P77 P78	17 1									
B-260	212	128	石片	25	N69 P58 O58	I	176 172 14	191	22	11	(141.2)	黒曜石5	211	1401			
B-260	213	129	石片	27	P61 P61	I	1461 19	217	55	14	(138.8)	黒曜石5	213	1409			
B-261	213	130	石片	27	Q69 Q69		378 1603	237	92	21	311.8	黒曜石5	213	1408			
B-261	213	131	石片	27	P61 P62 P62 P60	I	185 16 30 1	(206)	(81)	(17)	(235.4)	黒曜石5	213	1409			
B-262	214	122	石片	27	N56 N58 N59		255 625 280	(144)	(86)	25	(235.5)	黒曜石5	241	1404			
B-262	214	133	石片	23 27	O65 P61		6 1520	(181)	62	17	(116.8)	黒曜石5	243	1409			
B-262	214	134	石片	27	N60		43	251	117	27	681.5	黒曜石5	211	1404			
B-269	215	132	心形核	25	R65		23	75	52	41	149.7	黒曜石1					
B-269	215	136	石片核	26	R62		159	95	56	31	142.7	黒曜石1	209	1381			
B-269	215	137	石片核		Q61	I	1	112	88	61	462.7	黒曜石4					
B-269	215	138	石片核		O60	I	2	150	97	45	646.5	黒曜石5	243	1409			
B-269	215	139	石片核	27	O62		320	80	99	66	571.4	黒曜石1					
B-274	216	140	石片核	27	Q59		273	107	77	79	514.6	黒曜石1	153	1197			
B-274	216	141	石片核	26	P63		561	113	145	71	1,480.4	黒曜石1	153	1205			
B-285	216	142	石核	27	O56		439	64	72	69	379.0	黒曜石5	269	1647			
B-285	216	143	石核	R65	I	16	90	110	65	521.0	黒曜石1	195	1264				
B-285	217	144	石核	27	O61		145	120	116	70	529.5	黒曜石1	164	1196			
B-285	217	145	石核	27	N59		45	163	102	47	655.7	黒曜石5	241	1404			
B-286	217	146	石核	27	P60		2423	116	75	21	169.2	黒曜石1	193	1261			
B-286	218	147	石核	26	Q63		215	147	122	106	1,751.4	黒曜石1		3715			
B-287	218	148	石核	26	Q63		51	199	119	62	293.8	黒曜石1	210	1365			
B-297	218	149	石核	23 21	O61 O61 540-6)		559 265 31	(145)	133	77	1,106.5	黒曜石5	196	1740			
B-297	219	150	石核	27	P62		345	160	136	70	1,417.1	黒曜石5		3717			
B-298	219	151	石核		O68	I	8	62	41	121	340.1	黒曜石5	239	1401			
B-298	219	152	石核	27	O67 Q58 Q58 Q58 Q58		3 4 6 7 130	115	50	109	(565.7)	黒曜石5	239	1401			
B-298	219	153	石核	27	P62		481	196	62	92	202.5	黒曜石1	198	1271			
B-298	219	154	龜心	27	N58		430	(47)	45	29	(74.3)	砂岩					
B-306	256	1	尖頭器	35	J35 J37		105 50	89	36	14	54.7	黒曜石1		52301			
B-326	256	2	尖頭器	35	J35		371	122	41	29	94.4	黒曜石5					
B-326	256	3	尖頭器	32	I168		87	97	39	11	61.5	黒曜石4					
B-326	256	4	尖頭器	R35	I	51	174	50	29	152.6	黒曜石1						
B-326	256	5	尖頭器	35	J36 K36 J36	I	472 23 8	(137)	51	(8)	(52.1)	黒曜石5		52396			
B-326	256	6	尖頭器	35	K36		29	(37)	(30)	(7)	(7.0)	黒曜石1					
B-326	256	7	尖頭器	35	J37		64	(43)	(25)	(9)	(9.3)	黒曜石1					
B-326	256	8	尖頭器	34	I167		1822	(41)	(34)	(16)	(17.3)	黒曜石4					
B-327	256	9	尖頭器	35	J36		2	(10)	(68)	(27)	(186.7)	黒曜石1					
B-327	256	10	尖頭器	35	I36 540-9)		1054 33	(122)	(61)	(11)	(165.2)	黒曜石1		52399			
B-327	257	11	尖頭器		I35	I	1	(122)	(70)	(23)	(199.2)	黒曜石1					

上白滝8遺跡

棟号	間取	番号	築造名	石部ブレイク	外観×	層位	建物番号	長さ(m)	幅(m)	高さ(m)	重量(kg)	石質	接点番号	組合番号	記号
B-377	257	12	穴燻部	36	J37		53	160	148	135	(77.1)	黒曜石5			
B-377	257	13	西面御座石部	34	I37F		1750	(209)	53	(34)	(403.2)	黒曜石5			
B-378	257	14	舟状形石部 西面御座石部	31	I38A J38	I	11	40	51	12	(41.4)	黒曜石1	2625		
B-378	257	15	碓石片		I37F	II	10	21	4	2	0.1	黒曜石1			
B-378	257	16	碓石片		I35B	III	52	22	5	2	0.1	黒曜石1			
B-378	257	17	碓石片		J25	III	25	23	7	2	0.2	黒曜石1			
B-378	257	18	碓石片残	34	I37F		97	19	25	11	3.9	黒曜石3			
B-378	257	19	碓石片残		J35	I	1	23	50	15	15.5	黒曜石1			
B-378	257	20	碓石片残	34	I37F H38	I	4	54	134	25	(156.1)	黒曜石1	260	1451	
B-378	257	21	碓石片残削片	34	I37F		1979	7	66	20	5.1	黒曜石1	260	1454	
B-378	257	22	碓石片残削片	34	I37F		59	18	82	21	24.4	黒曜石1	260	1454	
B-378	257	23	碓石片残削片	34	I37F		902	(6)	(27)	(15)	(1.4)	黒曜石1			2602
B-378	257	24	碓石片残削片	34	I37F		1200	(5)	(25)	(15)	(1.8)	黒曜石1			2602
B-378	257	25	碓石片残削片	34	I37F		1841	(6)	(36)	(15)	(3.4)	黒曜石1			2602
B-378	258	26	舟状形石部		I360	II	5	12	37	6	2.1	黒曜石4			
B-378	258	27	舟状形石部	33	I37F		1017	24	69	19	27.7	黒曜石1			
B-378	258	28	舟状形石部	35	J35 H38-4		248	19	92	15	29.8	黒曜石1			5145
B-379	258	29	舟状形石部	35	J37 I37		25	28	141	19	61.0	黒曜石1			5237
B-379	258	30	舟状形石部	35	J38		900	37	112	14	161.3	黒曜石3			
B-379	258	31	舟状形石部		I359	I	2	52	188	48	221.3	黒曜石1			
B-380	258	32	舟状形石部	35	K36		43	(24)	(23)	(42)	(56.0)	黒曜石3			
B-380	258	33	テイク形石部	35	H36		44	46	42	7	7.7	黒曜石1			
B-380	258	34	碓部	35	J35		37	36	14	6	3.3	黒曜石3			
B-380	258	35	碓部		J35	I	2	71	28	6	19.5	黒曜石3			
B-380	258	36	碓部	35	J37		70	61	25	7	9.4	黒曜石1			
B-380	258	37	碓部		J38	I	1	42	18	8	7.1	黒曜石1			
B-380	258	38	碓部	31	I359 I39	T	75	51	25	6	7.6	黒曜石4			5248
B-380	258	39	碓部	35	J35		60	57	74	11	9.8	黒曜石4			
B-380	258	40	碓部	31	J39		280	66	21	16	17.0	頁岩			
B-380	258	41	碓部	32	J38		130	82	21	19	15.1	黒曜石1			
B-380	258	42	碓部	35	I35		511	77	30	10	15.6	黒曜石1	329		
B-380	259	43	碓部	32	I38 I158	I	94	88	29	13	(28.1)	黒曜石4			5248
B-380	259	44	碓部	35	I35		390	79	39	12	36.4	黒曜石5	360	1809	
B-381	259	45	碓部	35	I35		519	82	38	9	24.0	黒曜石5			
B-381	259	46	碓部	35	I36		1237	66	46	12	32.4	黒曜石1			
B-381	259	47	碓部	31	I38		135	(37)	27	(2)	(5.3)	黒曜石4			
B-381	259	48	碓部	32	I34		147	(45)	31	(6)	(16.2)	黒曜石4			
B-381	259	49	碓部	32	I38		285	(69)	24	(7)	(8.4)	黒曜石4			
B-381	259	50	碓部	35	J35		83	(72)	25	(12)	(24.2)	黒曜石1			
B-381	259	51	舟形石部	31	I38		1	39	17	7	3.3	砂岩2			
B-381	259	52	碓部	32	I38		224	65	28	13	29.2	黒曜石4			
B-381	259	53	碓部	32	I38		2	23	22	11	18.8	頁岩			
B-381	259	54	碓部	32	I38		143	77	25	12	29.0	黒曜石4			
B-381	259	55	碓部	35	I35		73	(83)	47	10	(41.2)	黒曜石4			
B-381	259	56	碓部	35	I35B I35	I	1312 5	192	69	16	159.7	黒曜石5			5237
B-382	259	57	碓部		J37	I	1	158	62	15	136.6	黒曜石5			
B-382	260	58	石片	34	I37F H39-4		1874	204	54	32	(126.8)	黒曜石1	261	1455	
B-382	260	59	石片	33	I37F I39	T	1201 50	196	59	37	312.8	黒曜石1	289	1507	
B-383	260	60	石片	31	I37F I35		3	166	51	21	(109.9)	黒曜石1	289	1507	

坑内	坑外	番号	器種名	石器グループ	発掘X	層位	器物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	材質	採坑番号	組合番号	記号
B-383	260	61	石片	33	I107		511 1483 1598	197	56	17	188.6	黒曜石1	289	1357	
B-383	260	62	石片	33	I157		1186 1609	212	104	35	(360.5)	黒曜石1	289	1357	
B-384	261	63	石片核	35	J36		600	68	29	69	115.9	黒曜石5		2711	
B-384	261	64	石片核	35	I56		1301	89	64	45	102.5	黒曜石6	290	1357	
B-384	261	65	石片核	35	J36		8	73	89	41	182.6	黒曜石4	273	1321	
B-384	261	66	石片核	35	K35		13	92	68	47	273.1	黒曜石4	440	1908	
B-384	261	67	石片核	35	I35		578	191	71	42	279.1	黒曜石4		2719	
B-385	261	68	石核	35	H55		470	136	123	64	1,176.1	黒曜石1	189	1257	
B-385	262	69	石片核	35	I156		7	156	125	81	1,013.8	黒曜石1			
B-386	262	70	石片核	35	I35		812	79	106	38	458.5	黒曜石4			
B-386	262	71	石片核	35	I155		430	110	102	65	1,179.0	黒曜石4	277	1354	
B-386	263	72	石片核	35	I35		440	106	149	66	1,133.3	黒曜石4	270	1499	
B-387	263	73	石片核	33	I107		833	174	114	85	1,855.0	黒曜石1	288	1357	
B-387	263	74	石片核	34	I107		1	144	94	99	1,253.2	黒曜石5			
B-388	264	75	石核	34	I157		1250	200	175	31	1,771.5	黒曜石1	290	1454	
B-388	264	76	石核	35	I55		266	66	67	27	87.6	黒曜石4	339	1690	
B-388	264	77	石核	35	K55		17	83	43	41	114.4	黒曜石4	334	1680	
B-408	279	1	尖頭器	46	M13		135	190	51	12	36.9	黒曜石1		5210	
B-408	279	2	尖頭器	46	O53		51	(86)	(26)	(17)	(42.6)	黒曜石1			
B-408	279	3	尖頭器	36	J19		572	(91)	(41)	(30)	(32.5)	黒曜石4		3622	
B-408	279	4	尖頭器	52	S30		334	(64)	(45)	(13)	(52.4)	黒曜石1			
B-408	279	5	尖頭器	Q47	I		1	(30)	(40)	(19)	(13.8)	黒曜石3			
B-408	279	6	尖頭器	152	I		1	(63)	(21)	(13)	(16.2)	黒曜石1			
B-408	279	7	尖頭器	L51	I		1	79	32	11	17.8	黒曜石1		3624	
B-408	279	8	尖頭器	47	152		141	114	38	9	28.8	黒曜石1		5213	
B-408	279	9	尖頭器	46	M18		31	157	53	11	(61.1)	黒曜石1		5209	
B-408	279	10	尖頭器	46	N54		100	132	50	12	71.4	黒曜石1		5212	
B-409	279	11	尖頭器	56	J19		160	137	88	16	81.1	黒曜石1		3731	
B-409	279	12	尖頭器	47	M52		329	168	68	14	(106.8)	黒曜石1		5214	
B-409	279	13	尖頭器	46	N53		109								
B-409	279	14	尖頭器	46	N61		1								
B-410	280	13	尖頭器	27	Q60		995	197	51	11	90.2	黒曜石4		5225	
B-410	280	14	尖頭器	53	P48		30	192	56	19	129.6	黒曜石1		3726	
B-410	280	15	尖頭器	44	K52		188	172	58	16	143.6	黒曜石1		5215	
B-410	280	16	尖頭器	40	H52		50	185	43	22	136.1	黒曜石1	436	1966	
B-410	280	17	尖頭器	51	P49		138	236	85	21	(351.8)	黒曜石1		5223	
B-411	281	18	尖頭器	53	P48		94	(68)	(30)	(7)	(11.4)	黒曜石3		5219	
B-411	281	19	尖頭器	51	P47		300	(156)	(56)	(9)	(48.7)	黒曜石3		3623	

上白滝8遺跡

検出	年度	番号	器種名	石器グループ	発掘区	層位	発物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	材質	母口番号	組合番号	図	考
							P47	461								
							Q47	227								
							P47	2								
	R-111	281	20	尖頭器	51		R50	70	(124)	(50)	(140)	(86.1)	黒曜石5		52520	
							R51	272								
	R-111	281	21	尖頭器	47		P51	57	(176)	(73)	(115)	(152.4)	黒曜石1		52407	
							Q51	2								
							±B3-5b	34								
	R-411	281	22	尖頭器	53		P48	102	(197)	(84)	(144)	(128.9)	黒曜石1		52433	
					54		P48	133								
							Q47	40								
							Q47	99								
							Q47	141								
							Q48	429								
							P47	I	3							
							P47	I	5							
							P48	T	33							
							Q47	II	11							
							Q47	II	12							
							Q47	II	13							
							Q48	I	2							
	R-112	281	23	尖頭器	52		S49	32	(176)	(76)	(115)	(147.8)	黒曜石4		52427	
							S50	98								
							S49	163								
							S50	302								
	R-112	282	24	尖頭器	37		L56	101	(138)	(73)	(123)	(213.6)	黒曜石3		2627	
	R-112	282	25	尖頭器	52		S50	178	(188)	(76)	(124)	(234.3)	黒曜石5		52510	
							S50	267								
							S49	287								
	R-413	282	26	尖頭器			P47	I	1	(165)	(73)	(28)	(101.8)	黒曜石5		52438
							P48	I	6							
	R-413	282	27	尖頭器	35		J56	367	(194)	(48)	17	(53.8)	黒曜石4		52503	
							L56	130								
	R-413	287	28	尖頭器	53		P48	17	(147)	(73)	(119)	(79.1)	黒曜石1	478	1953	
							P47	I	9							
							P48	I	2							
	R-113	282	29	尖頭器	47		Q51	850	(183)	(59)	(14)	(89.8)	黒曜石1			
	R-114	283	30	尖頭器	53		Q48	38	(161)	88	(17)	(111.8)	黒曜石1		52524	
							P47	I	7							
	R-114	284	31	尖頭器	52		S49	1	(159)	77	15	(168.6)	黒曜石3		52522	
							S50	238								
							S49	322								
							S50	323								
	R-115	283	32	尖頭器	47		Q51	1111	142	67	13	94.2	黒曜石5		52516	
							Q51	1387								
	R-415	283	33	尖頭器	44		K52	7	154	73	21	222.2	黒曜石1	294	1580	
							K52	8								
							K53	342								
	R-115	284	34	尖頭器	51		R51	83	176	83	26	222.8	黒曜石1		52521	
							R51	141								
	R-116	284	35	尖頭器	51		Q47	126	(178)	104	25	(225.4)	黒曜石4		52525	
							53	7								
							Q51	109								
							Q51	2								
	R-416	284	36	尖頭器	38		L56	26	108	72	9	67.7	黒曜石4		52469	
							L64	164								
							M55	99								
	R-116	284	37	尖頭器	50		R52	1	(122)	(86)	(15)	(102.7)	黒曜石1		52423	
							R52	32								
							D52	210								

納品	図版	番号	器種名	石器ブレイク	発掘区	層位	器物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	材質	母片番号	組合番号	図	考
						R12	394									
B-417	284	38	丸頭器	37	L57		32	560	72	110	33.6	黒曜石1				
B-417	284	39	丸頭器	52	S49		37	1300	136	241	129.0	黒曜石1				
B-417	285	01	丸頭器	36	J39		616	186	93	37	656.4	黒曜石1			52302	
						S49-G	66									
B-418	285	41	丸頭器	46	M53		30	216	92	36	351.0	黒曜石4	458	2732		
						N54	95									
B-418	285	42	丸頭器	42	K53		111	1162	631	24	213.7	黒曜石3	328	1658		
						L53	40									
B-418	285	43	丸頭器		K52	T	1	160	75	20	62.0	黒曜石4	328	1658		
B-419	286	44	丸頭器		L51	1	1	236	126	43	1,076.8	黒曜石4			52317	
						L52	1									
B-419	286	45	丸頭器	49	M19		30	57	31	14	26.8	黒曜石1				
B-419	286	46	丸頭器	49	N49		29	81	41	17	51.8	黒曜石4			52440	
						N49	233									
B-419	286	47	丸頭器	37	K37		115	70	56	15	44.5	黒曜石3				
B-420	287	48	丸頭器	52	S49		1	260	121	36	665.0	黒曜石1			52318	
						S49	2									
						S49	4									
						S49	53									
						S49	62									
						S50	99									
						S50	114									
B-420	286	49	丸頭器	50	R12		78	117	41	23	79.8	黒曜石4			3678	
						E52	407									
B-421	287	50	丸頭器	52	S49		63	257	113	25	432.3	黒曜石1	453	1946		
						S49	88									
						S50	97									
						S50	116									
						S50	147									
						S50	230									
B-421	286	51	丸頭器	37	K37		12	100	63	119	116.4	黒曜石4	243	1700		
B-422	284	52	両面潤整石器		S49	T	7	1192	160	175	1,863.5	黒曜石5	392	1826		
						T48	1									
						S49-G	20									
						S49-G	9									
B-423	289	53	両面潤整石器	47	N51		41	227	1140	185	859.1	黒曜石4			52726	
						N51	71									
						N51	72									
						N51	169									
						N51	179									
						N51	312									
						N51	474									
						N51	484									
						N51	532									
						N51	656									
						N51	658									
						N51	833									
						N51	991									
B-423	289	54	両面潤整石器	47	N52		325	1141	1720	143	764.1	黒曜石1	296	1382		
B-424	290	55	両面潤整石器	46	M53		14	217	130	33	420.3	黒曜石1			52155	
						M59	82									
						M53	120									
						M54	137									
						M53	16									
						S49-G	19									
						S49-G	32									
						S49-G	92									
B-424	290	56	両面潤整石器	38	M55		59	206	141	17	1,494.2	黒曜石4				
B-425	291	57	両面潤整石器	38	M55		69	212	116	41	1,158.1	黒曜石4				

上白滝8遺跡

縄文	期別	番号	器種名	石器ゾナ	分類	器種	器台番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	材質	注目番号	組合番号	図	考	
IV-425	291	58	尖頭器碎片		N63	T	17	(68)	(11)	(14)	(2.7)	黒曜石4				2675	
IV-425	291	59	尖頭器碎片		M56		37	121	70	10	14	8.9	黒曜石4	343	1700		
							38										
IV-425	291	60	尖頭器碎片		M12		47	610	39	8	1	0.9	黒曜石1			2621	
IV-425	291	61	尖頭器碎片		O51		47	1302	83	17	25	38.6	黒曜石4			2675	
IV-425	291	62	尖頭器碎片		M56	I	4	114	78	34	37.6	黒曜石4	343	1700			
							3										
IV-425	291	63	ナイフ形石器		K51		29	31	28	8	3.1	黒曜石1					
IV-426	291	64	彫器		K39		36	530	58	21	8	8.4	黒曜石1				
IV-426	291	65	彫器		N62	T	1	(56)	(22)	(6)	(2.3)	黒曜石5					
IV-426	291	66	彫器		M11		47	83	61	23	10	10.5	黒曜石4				
IV-426	291	67	彫器		M33		47	8	71	32	5	(10.8)	黒曜石4			52126	
								36									
IV-426	291	68	彫器		M17		37	157	13	29	18	9	5.6	黒曜石4			
IV-426	291	69	彫器		K39		36	660	92	20	12	7.8	黒曜石5				
IV-426	291	70	彫器		I14		39	56	42	19	9	6.8	黒曜石1				
IV-426	291	71	彫器		I33	T	1	118	81	20	9	8.8	黒曜石5				
IV-426	291	72	彫器		K56		37	32	52	22	11	11.2	黒曜石3				
IV-426	291	73	彫器		M59		36	159	2	89	26	11	10.5	黒曜石4			
IV-426	292	71	彫器		N52		47	634	89	21	11	10.1	黒曜石4				
IV-426	292	73	彫器		M33	I	1	20	20	6	2.6	頁岩					
IV-426	292	76	彫器		I19		36	422	42	10	7	5.8	黒曜石4				
IV-426	292	77	彫器		I14	I	38	46	17	8	6.2	黒曜石1					
IV-426	292	78	彫器		M12		47	39	47	21	6	6.7	黒曜石4				
IV-426	292	79	彫器		N52		47	1292	38	22	8	5.6	黒曜石3				
IV-426	292	80	彫器		M58		36	158	6	43	22	7	6.3	黒曜石4			
IV-426	292	81	彫器		M16		38	43	47	21	8	8.3	黒曜石4				
IV-426	292	82	彫器		I39		36	159	10	51	21	7	2.4	黒曜石4			
IV-426	292	83	彫器		N52		47	1162	56	21	8	8.4	黒曜石4			52124	
								14									
IV-427	292	84	彫器		O52		47	1260	60	23	6	8.1	黒曜石4			52125	
								1275									
IV-427	292	85	彫器		N52		47	491	38	26	7	8.8	黒曜石3				
IV-427	292	86	彫器		N51		47	30	59	27	9	19.1	黒曜石4				
IV-427	292	87	彫器		K59		36	459	59	27	6	2.1	黒曜石4				
IV-427	292	88	彫器		K39		36	457	58	29	7	10.8	黒曜石4				
IV-427	292	89	彫器		K59		36	95	55	27	9	12.4	黒曜石4				
IV-427	292	90	彫器		K60		36	6	60	36	8	11.9	黒曜石4				
IV-427	292	91	彫器		M36		38	39	72	24	10	13.1	黒曜石4				
IV-427	292	92	彫器		I13		39	740	82	21	7	10.4	黒曜石1				
IV-427	292	93	彫器		M12		47	109	72	22	8	11.2	黒曜石1			52473	
								42									
IV-427	292	94	彫器		I39		36	21	66	37	6	13.6	黒曜石4				
IV-427	292	95	彫器		K57	I	1	1	22	7	3	0.1	黒曜石4				
IV-427	292	96	鏃		N51		47	862	33	19	8	8.5	頁岩				
IV-427	292	97	鏃		O48		53	144	44	26	7	9.8	黒曜石1				
IV-427	292	98	鏃		I48		53	63	46	28	7	8.8	黒曜石1	410	1917		
IV-427	292	99	鏃		K52		44	948	53	22	9	15.4	黒曜石1				
IV-427	292	100	鏃		N51		47	830	56	21	12	12.1	黒曜石4				
IV-427	292	101	鏃		K59	I	3	55	25	10	16.4	黒曜石1					
IV-428	292	102	鏃		I33	I	49	53	29	8	11.1	黒曜石3					
IV-428	292	103	鏃		K53		44	814	59	29	10	13.5	黒曜石1				
IV-428	293	104	鏃		K53		44	538	64	20	8	12.4	黒曜石1				
IV-428	293	105	鏃		N51		47	314	73	25	9	16.4	黒曜石3				
IV-428	293	106	鏃		I53		39	113	87	29	9	18.6	黒曜石1			52488	
								53									
IV-428	293	107	鏃		I53		39	866	82	35	12	(30.1)	黒曜石4			54009	
								123									
IV-428	293	108	鏃		I39	I	2	89	39	14	41.4	黒曜石3					
IV-428	293	109	鏃		I51	I	1	(69)	(17)	(1)	(2.9)	黒曜石1					

納骨	開版	番号	器種名	石器グループ	分類K	層位	器物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	材質	接点番号	組合番号	記号
W-028	250	110	鎌形	47	M32		1172	(60)	24	9	(38.6)	黒曜石4			
W-028	250	111	鎌形			154	1	2	(55)	23	19	(13.9)			
W-028	250	112	鎌形	41	K55		503	(55)	28	10	(12.6)	黒曜石1			
W-028	250	113	鎌形	39	J51		8	(35)	(21)	9	(9.6)	黒曜石1			
W-028	250	114	鎌形	39	J54		104	(65)	26	8	(12.8)	黒曜石1			
W-028	250	115	鎌形	35	J51	I	3	(70)	30	8	(13.6)	黒曜石1			
W-028	250	116	鎌形	37	L27		10	(70)	32	9	(16.5)	黒曜石3			
W-028	250	117	鎌形	35	L27	T	1	(180)	56	23	(104.2)	黒曜石1			
W-029	250	118	鎌形	36	J60		37	46	24	13	(22.7)	黒曜石1			
W-029	250	119	鎌形	41	L52		460	51	29	10	(55.6)	黒曜石1			産地分析X173
W-029	250	120	鎌形	36	J60		161	58	28	15	24.8	黒曜石1			
W-029	250	121	鎌形	47	L52		92	37	26	11	22.4	黒曜石4			
W-029	250	122	鎌形	36	J59		151	76	25	9	17.0	黒曜石3			52167
							159	363							
W-029	250	123	鎌形	47	L52		477	79	29	11	33.5	黒曜石4			52192
							L52	1	53						
W-029	250	124	鎌形	43	K58		411	80	39	14	(30.7)	黒曜石1			52189
							J53	1	58						
W-029	250	125	鎌形		K54	I	1	47	40	15	50.2	黒曜石1			
W-029	250	126	鎌形	37	K57		125	66	42	15	36.8	黒曜石3			産地分析X175
W-029	250	127	鎌形	38	L56		100	(37)	32	14	(22.6)	黒曜石1			
W-030	250	128	鎌形	46	L54		33	(20)	38	19	(17.4)	黒曜石1			産地分析X171
W-030	250	129	鎌形	46	K53	I	49	64	41	11	25.5	黒曜石1			
W-030	250	130	鎌形	39	J53		410	66	41	7	17.7	黒曜石1			
W-030	250	131	鎌形	45	M33		11	80	45	14	51.7	黒曜石1			産地分析X176
W-030	250	132	鎌形石巻	47	N02		1	45	18	7	3.8	貝殻			
W-030	250	133	鎌形石巻	37	K57		209	74	36	9	13.7	ぬゆう			
W-030	250	134	鎌形石巻	39	J53		61	101	25	9	22.4	黒曜石4			52209
							K3	J33	92						
W-030	250	135	鎌形石巻	26	K59		173	(37)	(28)	(6)	(4.2)	黒曜石4			
W-030	250	136	鎌形石巻	45	J31		11	35	26	8	7.6	ぬゆう			
W-030	250	137	削形	54	P47		382	73	29	6	(5.7)	黒曜石1			410 1917
							Q47	140							
W-030	250	138	削形		P48	I	34	81	37	19	(17.6)	黒曜石1			410 1917
							P48	1	35						
							P48	1	36						
							P48	1	37						
W-030	250	139	削形	34	I	3	(72)	(29)	(7)	(13.2)	黒曜石4			342 1607	
W-030	250	140	削形	26	K59		401	86	26	9	22.3	黒曜石1			
W-030	250	141	削形	50	R32		129	111	36	11	38.7	黒曜石5			
W-031	250	142	削形	47	M31		324	111	40	9	(40.3)	黒曜石1			52261
							L51	T	3						
W-031	250	143	削形	52	S50		35	(110)	(49)	(9)	(61.7)	貫石			
W-031	250	144	削形	26	K59		8	(116)	47	12	(79.0)	黒曜石1			
W-031	250	145	削形	47	O61		1339	(196)	49	13	(53.5)	黒曜石1			52271
							N01	I	2						
W-031	250	146	削形	47	M31		221	174	51	15	(118.4)	黒曜石1			52264
							M31		514						
							N01		472						
W-031	250	147	削形	P48	I	7	(46)	(31)	(8)	(10.1)	黒曜石1				
W-031	250	148	削形	J59	I	3	81	29	12	31.6	黒曜石4			416 3008	
W-031	250	149	削形	52	S50		379	(100)	40	(11)	(42.7)	黒曜石1			
W-032	250	150	削形	47	M32		612	199	38	10	31.7	黒曜石1			52266
							M32	I	41						
W-032	250	151	削形	47	M31		531	(101)	40	(9)	(36.5)	黒曜石1			52263
							L51	T	3						
W-032	250	152	削形	45	O64		35	147	42	15	79.6	黒曜石5			
W-032	256	153	削形	38	M35		430	154	49	11	129.5	黒曜石1			
W-032	256	154	削形	47	M39		1025	87	58	29	34.4	黒曜石5			
W-032	256	155	削形	46	L52		32	87	55	9	27.5	黒曜石1			

上白滝8遺跡

縄目	図面番号	発掘層	器種名	石器ブレイク	発掘区	層位	器物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	材質	接点番号	組合番号	記号	
B-432	296	106	陶器	54	Q47		131	190	41	8	139.5	黒曜石4				
B-432	296	107	陶器	47	O61		646	161	32	11	123.4	黒曜石1				
B-432	296	108	陶器	41	I151		239	131	36	46	115.6	黒曜石4		52309		
				40		400										
				45		8										
B-433	296	109	陶器	46	M10		134	1300	115	113	127.6	黒曜石5		52322		
				M10		137										
				M10		287										
				M10		288										
				5432-9		10										
				5433-9		24										
				5435-9		25										
5437-9	26															
5439-9	27															
B-433	296	160	二次加工ある銅片	47	N52		895	78	40	22	56.3	黒曜石4	368	1737		
B-433	297	161	舟底形石器	41	K16	I	1	111	25	14	1.41	黒曜石4				
B-433	297	162	舟底形石器	41	O63	III	3	16	19	9	2.3	黒曜石4		3676		
B-433	297	163	舟底形石器	41	K23	I	54	13	36	11	5.2	黒曜石1			距離分析天172	
B-433	297	164	舟底形石器	47	N52		846	12	57	7	4.1	黒曜石4				
B-433	297	165	舟底形石器	41	L56	I	2	12	88	8	5.3	黒曜石4				
B-433	297	166	舟底形石器	47	M11		150	15	51	17	15.5	黒曜石4				
B-433	297	167	舟底形石器	41	J13	II	122	18	70	12	15.4	黒曜石4	338	1667		
						I	35									
B-433	297	168	舟底形石器	41	K12		1261	29	38	16	9.2	黒曜石4	438	1961		
B-433	297	169	舟底形石器	39	J13		818	23	49	14	13.2	黒曜石4	372	1771		
B-434	297	170	舟底形石器	47	M12		232	24	50	18	15.5	黒曜石4	360	1739		
B-434	297	171	舟底形石器	39	J13		464	22	61	22	39.0	黒曜石4	372	1771		
B-434	297	172	舟底形石器	39	J13		824	22	61	16	21.5	黒曜石4				
B-434	297	173	舟底形石器	43	J12		217	22	88	19	23.0	黒曜石4	819	1713		
B-434	297	174	舟底形石器	39	J13		817	22	70	23	49.2	黒曜石4	368	1764		
B-434	297	175	舟底形石器	41	J13	I	110	19	71	15	18.1	黒曜石4				
B-434	297	176	舟底形石器	47	M12		747	25	77	24	42.5	黒曜石4				
B-434	297	177	舟底形石器	47	L52		2	22	26	23	41.7	黒曜石4				
B-434	297	178	舟底形石器	39	J13		409	29	83	18	33.1	黒曜石4				
B-435	297	179	舟底形石器	43	J12		30	25	97	24	73.9	黒曜石4		2726		
B-435	297	180	舟底形石器	41	L12	I	1	34	81	26	53.6	黒曜石4	358	1737		
B-435	297	181	舟底形石器	47	M11		616	26	93	31	99.3	黒曜石4		2727		
B-435	297	182	舟底形石器	38	M15		140	26	97	16	37.4	黒曜石1				
B-435	298	183	舟底形石器	47	M12		1270	38	104	20	59.6	黒曜石4				
B-435	298	184	舟底形石器	46	M14		50	31	104	27	71.3	黒曜石5				
B-436	298	185	舟底形石器	46	N56		29	34	106	31	88.7	黒曜石1				
B-436	298	186	舟底形石器	46	N64		73	40	106	39	136.9	黒曜石5				
B-436	298	187	舟底形石器	47	O61		1210	35	111	22	79.8	黒曜石3		2729		
						51	2									
B-437	298	188	舟底形石器	47	M12		1291	46	116	24	149.0	黒曜石4		2727		
B-437	298	189	舟底形石器	47	P47	I	12	29	113	17	39.0	黒曜石1		52615		
						T	1									
B-437	298	190	舟底形石器	41	Q61	I	1	29	106	19	41.0	黒曜石1		52613		
B-437	298	191	舟底形石器	51	R59		68	26	111	24	50.0	黒曜石1		3677		
						R50	72									
B-437	298	192	舟底形石器	36	J16		299	34	124	31	87.3	黒曜石4	269	1994		
B-438	299	193	舟底形石器	40	O61	I	206	25	124	32	144.6	黒曜石1				
B-438	299	194	舟底形石器	44	K12		59	31	126	23	69.0	黒曜石4		341	1606	
						K12	1260									
B-438	299	195	舟底形石器	46	M10		65	32	134	29	157.8	黒曜石1		52609		
B-438	299	196	舟底形石器	47	M12	I	9	21	144	18	59.7	黒曜石1		52605		
						N52	1116									

納庫	図取	番号	器種名	石器グループ	発掘区	層位	器物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	材質	接点番号	組合番号	図	考
B-138	259	197	舟底形石器	47	N63 M52	I	90 8	29	142	28	199.6	黒曜石		52607		
B-139	259	198	舟底形石器		N61 M52	T	4 53	26	142	32	116.0	黒曜石	291	1805		
B-139	259	199	舟底形石器		M54 N64	I	36 3	35	146	32	153.8	黒曜石	304	1600		
B-430	259	200	舟底形石器	47	M52 M52	T	634 48	31	154	25	91.0	黒曜石	400	1800		
B-440	259	201	舟底形石器	47	N62 O63		343 62	38	156	26	122.6	黒曜石	310	1615		
B-440	300	202	舟底形石器	46	L54 N62		9 1216	34	159	26	139.5	黒曜石	311	1616		
B-110	300	203	舟底形石器	51	R11 R11		43 238	31	162	17	88.7	黒曜石		52619		
B-111	300	204	舟底形石器	50	R12 R12		238 415	36	160	20	126.50	黒曜石		2676		
B-111	300	205	舟底形石器	47	N62		138	46	147	45	229.4	黒曜石				
B-441	300	206	舟底形石器	46	M54 N62		17 988	54	173	32	219.4	黒曜石		52602		
B-112	300	207	舟底形石器		M52	I	2	67	195	27	547.6	黒曜石				
B-412	301	208	舟底形石器	46	O63 O63	I	1 10	21	104	17	37.4	黒曜石		52601		
B-442	301	209	舟底形石器	47	M52 M52		415 930	27	136	21	52.0	黒曜石		52608		
B-442	301	210	舟底形石器		K56 G42-9	I	2 51	22	147	16	48.5	黒曜石		52598		
B-113	301	211	舟底形石器	47	M52 M52	I	173 7	30	168	27	113.3	黒曜石		52603		
B-113	301	212	舟底形石器	46	M51 N62		27 2013	26	166	22	108.1	黒曜石		52606		
B-113	301	213	舟底形石器	40	R12		333	41	123	16	61.8	黒曜石	436	1966		
B-443	301	214	舟底形石器	43	J52 J52		119 249	29	64	30	37.1	黒曜石	238	1667		
B-444	301	215	舟底形石器	39	J51 J52 J52	I I I	64 25 31	76	71	42	44.7	黒曜石	338	1667		
B-114	301	216	舟底形石器	43	J53 J53		71 420	30	86	23	46.3	黒曜石	369	1705		
B-444	301	217	舟底形石器	44	K52 K52		47 1666	28	88	43	58.7	黒曜石	438	1901		
B-444	301	218	舟底形石器	38	M56		26	(25)	(25)	46	(76.3)	黒曜石	400	1900		
B-111	302	219	舟底形石器	38	M56 M56		28 165	33	87	45	192.1	黒曜石	491	1903		
B-115	302	220	舟底形石器	37	L56 M56		142 33	37	110	39	119.3	黒曜石	405	1903		
B-445	302	221	舟底形石器	47	N62		43	20	86	40	200.4	黒曜石	263	1745		
B-115	302	222	舟底形石器		M56	T	59	33	90	25	149.4	黒曜石	403	1903		
B-446	302	223	舟底形石器	41	L51		248	25	93	28	57.2	黒曜石	334	1680		
B-446	302	224	舟底形石器	36	K59		312	(18)	(57)	(24)	(21.0)	黒曜石				
B-446	302	225	舟底形石器	54	P47 P47		2 259	19	(81)	(18)	(27.0)	黒曜石		52616		
B-116	302	226	舟底形石器		M52	I	3	(29)	(71)	(16)	(26.0)	黒曜石				
B-116	302	227	舟底形石器	37	L56 L56		49 176	(23)	(29)	(12)	(16.5)	黒曜石		52600		
B-446	302	228	舟底形石器	36	J58		69	(25)	(25)	(28)	(26.7)	黒曜石	271	1501		
B-116	302	229	舟底形石器	51	R16 R59 R10		43 57 125	(29)	(116)	(16)	(37.9)	黒曜石		52612		
B-117	302	230	舟底形石器	47	N62 N62		8 631	(25)	(113)	(16)	(49.0)	黒曜石	293	1279		

上白滝8遺跡

縄文	期別	番号	器種名	石器グループ	発掘区	層位	器物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	材質	接合番号	組合番号	図	考
B-147	302	231	舟底形石鈿	53	F48		166	130	110	120	159.0	黒曜石	406	1909		
				54	Q47		19									
B-147	302	232	舟底形石鈿			T	1	(30)	(61)	(21)	(31.9)	黒曜石				
B-147	302	233	舟底形石鈿	42	K51		15	(18)	(51)	110	(16.1)	黒曜石				
B-147	302	234	舟底形石鈿				N55	1	(51)	(70)	(31.9)	黒曜石				
B-147	303	233	石片	47	O51		1171	72	19	7	6.6	黒曜石	364	1749		
B-147	303	236	石片	47	O51		624	89	35	19	11.7	黒曜石	304	1749		
B-147	303	237	石片	47	N52		691	82	29	8	8.2	黒曜石	351	1716		
B-147	303	238	石片	47	N52		881	83	17	19	9.3	黒曜石	351	1716		
B-147	303	239	石片	47	M52		238	91	29	11	13.0	黒曜石	351	1716		
B-147	303	240	石片	47	O51		144	108	15	25	28.0	黒曜石	364	1749		
B-148	303	211	石片	47	M52		333	123	36	15	(41.2)	黒曜石	389	1847		
					N51	I	151									
B-148	303	242	石片	47	M52		292	142	41	16	74.3	黒曜石	397	1885		
					N52		802									
B-148	303	243	石片	46	N54		290	122	49	16	82.5	黒曜石	243	1409		
B-148	303	244	石片	47	N52		92	168	55	33	(168.4)	黒曜石	389	1847		
					O52		879									
					N51	I	160									
B-148	303	213	石片	46	N51		127	183	59	18	(127.6)	黒曜石	213	1409		
					N54		291									
					P51		16									
B-149	304	246	石片	46	N54		247	170	58	15	(34.0)	黒曜石	243	1409		
					N51		237									
B-149	304	247	石片	47	O52		279	171	85	23	(158.6)	黒曜石	396	1863		
					N53	T	1									
B-149	304	248	石片	46	N54		68	163	72	12	(129.0)	黒曜石	213	1409		
					N54		126									
					N51		136									
					N51		136									
					N54		345									
					N55		17									
B-149	304	249	石片	47	N52		414	186	65	23	(128.0)	黒曜石	389	1847		
					N51	T	136									
B-150	304	250	石片	47	K53		334	150	47	13	(54.3)	黒曜石	390	1860		
					K54		5									
					K51		362									
B-150	304	251	石片	42	K51		189	136	41	17	80.8	黒曜石	390	1860		
					K51		219									
					K54		222									
B-150	304	252	石片	48	O59		420	123	62	21	(79.1)	黒曜石	293	1381		
					O59		448									
					O59		493									
B-150	303	253	石片	49	N49		299	160	60	19	102.4	黒曜石	292	1281		
					N50		187									
B-150	303	254	削片	48	O59		284	141	77	26	213.2	黒曜石	293	1381		
					O59		226									
B-150	303	255	石片	46	N56		51	(126)	48	(15)	(68.4)	黒曜石	307	1885		
B-151	303	256	石片	49	N49		43	45	33	28	49.1	黒曜石				
B-151	303	257	石片	47	N51		809	99	39	33	139.4	黒曜石	351	1716		
B-151	303	258	石片	47	O51		365	114	23	37	86.2	黒曜石	364	1749		
					O51		812									
B-151	303	259	石片	47	P51		381	83	42	11	145.6	黒曜石	353	1728		
B-151	303	260	石片	47	N51		895	96	59	31	212.9	黒曜石	316	1703		
B-151	303	261	石片	36	J19		23	69	61	33	159.3	黒曜石	416	2008		
B-151	303	262	石片	47	O53	I	1	64	53	27	74.5	黒曜石				
B-152	306	263	石片	47	M51		538	72	58	21	109.4	黒曜石	363	1746		
B-152	306	264	石片	47	M51		107	74	25	65	335.5	黒曜石	442	2093		
B-152	306	263	石片	39	K50		36	86	18	39	338.1	黒曜石				
B-152	306	266	石片	49	H59		186	81	67	72	(628.6)	黒曜石	353	1679		
					H52		386									

上白滝8遺跡

縄文	期別	番号	器種名	石器ゾーン	外郭×	層位	器物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	材質	母口番号	組合番号	記号
IV-343	207	7	尖頭型	59	J16 K49		109 40	163	44	17	1365.0	黒曜石1		S2144	
IV-344	207	8	ナイフ形石筥		M68	T	2	(250)	(26)	7	(4.2)	黒曜石1			
IV-344	207	9	短棒	59	J17		50	(73)	(53)	110	(41.0)	黒曜石1			
IV-344	207	10	短棒	58	K47		34	117	51	17	101.8	黒曜石1	419	1920	
IV-344	356	11	短棒	59	J18 J47 J12		12 1 53	128	78	15	163.5	黒曜石1		S2379	
IV-344	358	12	舟形石筥	59	I47		29	11	23	8	2.1	黒曜石1			距離分析X10
IV-344	358	13	舟形石筥	59	I47		5	15	31	9	3.9	黒曜石1			距離分析X9
IV-344	358	14	舟形石筥	59	J46 N66		102 7	53	169	49	(266.7)	黒曜石4		S2620	
IV-345	356	15	舟形石筥		J47 J47	I	2 8	34	132	23	62.6	黒曜石3		S2619	
IV-345	358	16	舟形石筥	60	K46		11	25	52	23	27.5	黒曜石1	423	1943	
IV-345	358	17	舟形石筥	59	I46		161	43	92	29	112.2	黒曜石1	425	1943	
IV-345	358	18	石片状		J18	III	1	36	49	51	85.4	黒曜石1			
IV-345	358	19	石片	60	L45		37	93	63	46	184.6	黒曜石1	413	1925	
IV-345	359	20	石片状	60	M46		1	111	82	51	447.6	黒曜石5	423	1942	
IV-345	359	21	石片	60	L45		93	85	81	60	392.0	黒曜石1	413	1927	
IV-345	359	22	石片状	58	K48		50	91	87	68	551.8	黒曜石5	416	1930	
IV-345	359	23	石片状	60	K46		30	107	101	85	623.9	黒曜石1	419	1938	
IV-344	362	1	ナイフ形石筥	61	O47		17	37	22	6	3.1	黒曜石1			水孔型W20
IV-344	362	2	ナイフ形石筥	61	O47		52	36	23	6	3.3	黒曜石1			
IV-344	362	3	ナイフ形石筥	61	P47		282	39	19	8	3.1	黒曜石1	409	1916	
IV-344	362	4	ナイフ形石筥	61	O44		1	49	24	4	3.7	黒曜石2			
IV-344	362	5	ナイフ形石筥	61	P44		66	47	23	8	5.4	黒曜石1			
IV-344	362	6	ナイフ形石筥	61	O47		57	56	29	8	2.6	黒曜石1			
IV-344	362	7	ナイフ形石筥	61	O47 O47 O47	I I I	13 7 16	39	32	7	8.1	黒曜石1	2790	水孔型W21	
IV-344	362	8	ナイフ形石筥	61	P44 P44		33 37	62	29	9	11.5	黒曜石1	412	51617	
IV-344	362	9	ナイフ形石筥	61	P44 P44	I I	34 1	93	79	7	19.7	黒曜石1	417	1937	
IV-344	362	10	ナイフ形石筥		O47	I	1	63	17	7	3.8	黒曜石1			
IV-344	362	11	ナイフ形石筥	61	O47		31	61	18	9	6.2	黒曜石1			
IV-344	362	12	ナイフ形石筥	61	O46		33	68	27	7	8.6	黒曜石1			
IV-344	362	13	ナイフ形石筥	61	P47		1	79	23	7	8.3	黒曜石1			
IV-344	362	14	ナイフ形石筥		O47	T	2	71	39	8	19.2	黒曜石1			
IV-344	362	15	ナイフ形石筥	61	P45		19	79	27	19	15.4	黒曜石1			
IV-344	362	16	ナイフ形石筥	外	N28 P45	III	165 1	89	35	11	21.0	黒曜石1		S1841	
IV-345	362	17	ナイフ形石筥	61	N47 O46 O47		5 69 24	90	30	9	16.8	黒曜石3		S2331	
IV-345	362	18	ナイフ形石筥	61	O46 O47		19 79	85	31	8	18.5	黒曜石1		S2332	
IV-345	362	19	ナイフ形石筥	61	N44 O43		3 14	99	35	11	25.0	黒曜石1		S4282	水孔型W19
IV-345	362	20	ナイフ形石筥	61	P44		11	(19)	(15)	(4)	(6.7)	黒曜石1			
IV-345	362	21	ナイフ形石筥		P44	I	2	(88)	(32)	(7)	(8.8)	黒曜石1	407	1912	
IV-345	362	22	ナイフ形石筥	61	P44		13	(56)	31	8	(10.1)	黒曜石1	412	1922	
IV-345	362	23	ナイフ形石筥	61	P44 P44 P44		2 18 39	71	32	3	(7.0)	黒曜石1	412	1923	
IV-345	362	24	ナイフ形石筥		P45	I	5	55	34	9	(14.9)	黒曜石1	412	1922	
IV-345	362	25	ナイフ形石筥	61	O43		44	29	23	7	(8.3)	黒曜石1			
IV-345	362	26	ナイフ形石筥	61	O47		42	(30)	(30)	(16)	(7.0)	黒曜石1			
IV-345	363	27	短棒		P46	I	1	49	24	8	7.0	貫貫			

納骨	開棺	番号	器種名	石器ゾロップ	発掘区	層位	器物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	材質	接点番号	組合番号	図	考
B-535	363	28	磨部	01	O12		58	62	29	9	16.3	黒曜石1				
B-536	363	29	磨部	01	P47		291	77	34	19	22.8	黒曜石1				
B-536	363	30	掻部	01	O15		59	61	28	6	7.9	黒曜石1				
B-536	363	31	磨部	01	O16		17	65	30	10	17.4	黒曜石1				
B-536	363	32	二次加工ある研片	01	N15		10	71	49	20	49.5	黒曜石1	412	1922		
B-536	363	33	研片 二次加工ある研片 研片	01	O14 P44 P45		17 52 51	100 66	46	12	(42.2)	黒曜石1	412	1922		
B-536	363	34	舟底形石器	01	O43 路土		22	41	38	30	34.8	黒曜石4	429	1956		
B-536	363	35	舟底形石器		O46 P43	1	1	30	150	39	115.6	黒曜石4		52617		
B-537	363	36	舟底形石器	01	N15		1	59	212	16	435.7	黒曜石1				
B-537	363	37	舟底形石器	01	O48		1	29	96	23	59.9	黒曜石1				
B-537	364	38	研片	01	O16 O46 N47 O46		52 34 12 9	111	57	14	71.9	黒曜石1	412	1922		
B-537	364	39	石片核		N17	1	1	59	34	32	25.2	黒曜石1	407	1911		
B-538	364	40	石片核	01	N17		7	68	51	36	148.8	黒曜石1	407	1911		
B-538	364	41	研片	01	O15		17	79	72	47	259.8	黒曜石1	412	1922		
B-538	364	42	石核	01	Q45		5	103	97	88	800.7	黒曜石3		2738		
B-545	366	1	欠損部	95	R42		52	163	38	25	379.8	黒曜石5				
B-545	366	2	ナイフ形石器	95	R12		16	42	19	8	8.1	黒曜石1				
B-545	366	3	掻部		O61	1	1	54	23	11	13.8	黒曜石1				
B-545	366	4	二次加工ある研片	95	L21		132	92	67	18	66.0	黒曜石3	328	1658		
B-545	366	5	舟底形石器	95	Q56		2	30	107	29	66.0	黒曜石3	309	1687		
B-545	366	6	石片核		(60)	1	4	158	131	50	936.6	黒曜石4				
B-547	367	1	欠損部		5431-11 5432-11 5433-11		119 120 21	261	88	24	(588.8)	黒曜石4		52159		
B-547	367	2	欠損部		5430-11		2	(191)	(88)	(26)	(139.6)	黒曜石4	230	1264		
B-547	367	3	尖頭部		5432-11 5433-11		13 99	(132)	39	13	(68.7)	黒曜石1		52148		
B-548	367	4	尖頭部		5432-11		118	128	51	15	115.8	砕岩				
B-548	367	5	欠損部		5430-11		22	193	88	26	341.5	砕岩				
B-548	368	6	両面調整石器		5430-11		21	180	61	29	332.5	黒曜石4				
B-548	368	7	縦石片核		5433-11		3	26	22	9	5.1	黒曜石4				
B-548	368	8	縦石片核		5432-11		1	31	57	14	23.8	黒曜石1				
B-548	368	9	縦石片核		5432-11		2	24	54	18	29.6	黒曜石1				
B-548	368	10	縦石片核		5432-11		1	47	106	15	65.8	黒曜石1				
B-548	368	11	縦石片核		5432-11		4	51	62	14	21.8	黒曜石1				
B-548	368	12	縦石片核削片		5432-11		228	20	62	26	45.5	黒曜石1	260	1161		
B-548	368	13	縦石片核削片		5430-11		68	16	62	13	6.3	黒曜石5	153	1183		
B-549	369	1	舟底形石器		5433-11		53	25	73	20	23.5	黒曜石1				
B-549	369	15	舟底形石器		5432-11		44	29	89	20	41.2	黒曜石1				
B-549	369	16	舟底形石器		5432-11		51	32	91	25	63.5	黒曜石4				
B-549	369	17	舟底形石器		5432-11		52	38	115	32	130.3	黒曜石1				
B-549	369	18	舟底形石器		5432-11		66	19	(52)	(16)	(17.1)	黒曜石4	273	1321		
B-549	369	19	舟底形石器		5432-11		43	23	(66)	(19)	(26.3)	黒曜石1				
B-549	369	20	舟底形石器		5432-11		38	25	(83)	(17)	(26.5)	黒曜石1				
B-549	369	21	舟底形石器		5433-11		10	28	(86)	25	(49.5)	黒曜石1				
B-549	369	22	舟底形石器		5432-11		50	(35)	(92)	(21)	(65.2)	黒曜石1				
B-549	369	23	舟底形石器		5432-11		49	(33)	(101)	27	(68.3)	黒曜石4				
B-549	369	24	舟底形石器		5432-11		48	34	113	23	78.4	黒曜石1				
B-549	369	25	舟底形石器		5432-11		56	42	137	24	146.8	黒曜石3				
B-549	369	26	舟底形石器		5430-11		7	51	176	25	274.7	黒曜石1				
B-549	369	27	舟底形石器		5432-11		47	(46)	(60)	(21)	(52.4)	黒曜石1				
B-549	369	28	舟底形石器		5432-11		13	(29)	(57)	(20)	(39.7)	黒曜石5				
B-549	370	29	磨部		5432-11		179	(56)	16	(6)	(3.7)	黒曜石1				

上白滝8遺跡

棟号	間数	番号	築造名	石器の種類	発掘区	層位	発掘番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	採寸番号	組合番号	図	考
B-322	370	30	扉部		B322-30		61	55	31	9	11.9	頁岩				
B-322	370	31	扉部		B322-31		7	61	29	14	27.9	洪層石1				
B-322	370	32	つまみ付きナイフ		B322-32		37	32	41	8	10.9	洪層石1				
B-323	370	33	石片核		B323-33		59	66	41	14	38.6	洪層石4	416		3708	
B-323	370	34	石片核		B323-34		110	85	41	24	81.6	洪層石4	405		1903	
B-323	370	35	石片核		B323-35		116	84	20	37	277.3	洪層石5	417		2014	
B-323	370	36	石片核		未定		62	131	24	63	639.0	洪層石3	293		1874	
B-323	370	37	石核		B323-37		22	66	82	37	254.1	洪層石1	284		1385	
B-324	370	38	石核		B324-38		33	94	94	62	665.4	洪層石1	198		1271	
B-324	371	39	石核		B324-39		13	167	126	39	1,133.2	洪層石5			2732	
B-325	371	40	石核		B324-40		63	85	95	33	422.0	洪層石4	159		1180	
B-325	371	41	石核		B47		4	296	124	70	1,223.0	洪層石3	196		1309	
B-326	372	1	尖頭器	研削	B26	ト	3	683	83	16	35.3	洪層石1				
B-326	372	2	尖頭器	新削	K73	上	9	142	58	16	130.0	洪層石1	130		1115	
B-326	372	3	尖頭器	研削	B69	下	4	1343	142	171	113.5	洪層石1				
B-326	372	4	尖頭器	新削	B69	下	4	1643	37	111	123.7	洪層石1				
B-326	372	5	尖頭器	新削	O71	上	1	770	89	13	139.0	洪層石1				
B-326	372	6	尖頭器	新削	K74	ト	3	1403	32	191	115.6	洪層石1				
B-326	372	7	尖頭器	新削	158	下	3	1633	147	141	130.3	洪層石1				
B-326	372	8	尖頭器	新削	B58	上	3	1673	147	116	145.2	洪層石1				
B-326	372	9	尖頭器	新削	K73	上	8	1683	141	121	156.0	洪層石4				
B-326	372	10	尖頭器	研削	B69	上	8	1733	57	12	146.6	洪層石1				
B-326	372	11	尖頭器	新削	L66	下	2	1613	150	112	132.9	洪層石1				
B-327	372	12	両面潤削石片	新削	B68	ト	3	150	81	30	261.4	洪層石1				
B-327	373	13	礫石片	新削	M75	ト	1	22	5	2	0.2	洪層石1				
B-327	373	14	礫石片	新削	J19	ト	1	26	6	2	0.1	洪層石1				
B-327	373	15	礫石片	新削	M69	ト	1	32	6	2	0.3	洪層石1				
B-327	373	16	礫石片	新削	J65	下	1	27	7	2	0.3	洪層石1				
B-327	373	17	礫石片	研削	N70	上	1	31	7	3	0.4	洪層石1				
B-327	373	18	礫石片	新削	L72	ト	1	28	7	2	0.4	洪層石1				
B-327	373	19	礫石片	研削	P69	ト	1	28	10	2	0.3	洪層石1				
B-327	373	20	礫石片	新削	J74	上	3	155	7	2	0.25	洪層石3				
B-327	373	21	礫石片	新削	K73	上	27	183	9	2	0.22	洪層石1				
B-327	373	22	礫石片	新削	K73	ト	1	193	66	7	0.3	洪層石1				
B-327	373	23	礫石片	新削	K73	上	33	127	8	2	0.41	洪層石1				
B-327	373	24	礫石片	研削	K71	上	2	126	8	3	0.3	洪層石1				
B-327	373	25	礫石片	新削	K73	ト	2	130	9	11	0.3	洪層石1				
B-327	373	26	礫石片	研削	K71	上	3	123	115	13	0.3	洪層石1				
B-327	373	27	礫石片	新削	N87	ト	1	133	9	10	0.4	洪層石1				
B-327	373	28	礫石片	新削	K69	上	1	133	119	12	0.5	洪層石1				
B-327	373	29	礫石片核	新削	K74	ト	2	39	44	14	17.5	洪層石1				
B-327	373	30	礫石片核	新削	Q78	ト	2	29	63	14	19.7	洪層石1				
B-327	373	31	礫石片核	新削	K73	ト	3	31	60	11	21.8	洪層石1				
B-327	373	32	礫石片核	新削	U73	下	1	25	49	16	17.1	洪層石1				
B-327	373	33	礫石片核	研削	Q78	上	1	32	48	21	39.4	洪層石4				
B-327	373	34	礫石片核	新削	S72	ト	3	20	86	24	24.6	洪層石1				
B-327	373	35	礫石片核	新削	B69	下	3	35	26	28	49.8	洪層石1				赤和編片137
B-327	373	36	礫石片核	新削	K72	ト	1	36	26	14	5.8	洪層石5				
B-327	373	37	礫石片核	新削	K74	上	1	67	40	16	39.3	洪層石1				赤和編片138
B-328	373	38	礫石片核	新削	N70	上	1	5	29	78	29	40.4		54704		
B-328	373	39	礫石片核	新削	N70	上	2									
B-328	373	40	礫石片核	新削	N87	上	12	39	75	24	59.7	洪層石5				
B-328	373	41	礫石片核	新削	L74	ト	2	43	26	25	81.3	洪層石1				
B-328	373	42	礫石片核	研削	N87	ト	2	37	81	19	32.6	洪層石1				
B-328	373	43	礫石片核	新削	O73	下	1	33	111	26	101.8	洪層石1				
B-328	374	44	礫石片核	新削	N88	ト	1	36	88	17	21.7	洪層石1				
B-328	374	45	礫石片核	新削	L73	ト	1	37	25	23	55.6	洪層石1				
B-328	374	46	礫石片核	新削	L74	上	1	41	101	24	81.1	洪層石1				2636
B-328	374	47	礫石片核	新削	L88	ト	1	58	95	37	184.7	洪層石1				
B-329	374	47	礫石片核断片	新削	B65	ト	4	27	45	8	8.4	洪層石1			2748	

納庫	図号	番号	器種名	石器ゾロツク	発掘区	層位	器物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	材質	接点番号	組合番号	記号
B-129	371	48	磁石方格腹片	新西	K73	T	4	130	170	23	148.9	黒曜石1			2657
B-129	374	49	磁石方格腹片	新西	L74	T	3	14	77	42	38.8	黒曜石1			
B-129	374	50	磁石方格腹片	新西	K70	上	1	(56)	(67)	(41)	(14.3)	黒曜石1			
B-129	374	51	磁石方格腹片	新西	N71	上	10	21	38	35	39.3	黒曜石5			2649
B-129	374	52	磁石方格腹片	新西	K70	F	2	(53)	(61)	(24)	(31.8)	黒曜石1			2626
B-129	374	53	磁石方格腹片	新西	O72	F	1	(26)	(83)	48	(68.7)	黒曜石1			
B-129	374	54	磁石方格腹片	新西	N96	F	1	(26)	(82)	(29)	(29.8)	黒曜石5			2649
B-180	374	55	舟底形石器	新西	I68	F	8	21	23	15	18.1	黒曜石3			
B-180	374	56	舟底形石器	新西	K74	F	6	42	110	26	115.4	黒曜石3			
B-180	375	57	舟底形石器	新西	B67	上	3	47	99	40	170.6	黒曜石1			
B-180	375	58	舟底形石器	新西	G75	上	3	50	136	48	340.0	黒曜石1			
B-181	375	59	舟底形石器	新西	J74	上	1	45	146	23	149.9	黒曜石5			
B-181	375	60	舟底形石器	新西	S72	L	11	47	157	36	282.6	黒曜石3			
B-181	375	61	舟底形石器	新西	S72	F	1	44	155	30	209.5	黒曜石1			
B-182	375	62	舟底形石器	新西	M68	L	2	31	163	24	(152.5)	黒曜石4	184	1243	
					N67	F	10								
B-182	376	63	舟底形石器	新西	N66	T	2	36	199	24	157.0	黒曜石4	184	1243	
					不明										
B-182	376	64	舟底形石器	新西	K71	上	1	52	112	46	236.3	黒曜石1			
B-182	376	65	舟底形石器	新西	N77	上	3	52	91	26	86.1	黒曜石1			
B-182	376	66	舟底形石器	新西	N71	上	3	(15)	(49)	(21)	(19.7)	黒曜石1			
B-182	376	67	舟底形石器	新西	N67	L	11	(20)	(117)	16	(159.0)	黒曜石1			
B-182	376	68	ナイフ形石器	新西	J63	F	9	44	21	8	4.8	黒曜石1			
B-182	376	69	ナイフ形石器	新西	I68	F	1	39	29	8	4.2	黒曜石1			
B-182	376	70	彫器	新西	J76	F	1	88	37	13	34.2	黒曜石1			
B-182	376	71	彫器	新西	J73	F	2	46	19	9	8.3	黒曜石3			
B-182	376	72	彫器	新西	K73	上	11	96	37	13	31.2	黒曜石1			
B-182	376	73	彫器	新西	I71	上	4	95	29	10	26.3	黒曜石1			
B-184	376	74	鏃部	新西	I68	L	3	57	22	12	9.6	黒曜石1			
B-184	376	75	鏃部	新西	Q67	F	1	57	27	12	14.0	黒曜石1			
B-184	376	76	鏃部	新西	K75	F	2	46	28	9	12.4	黒曜石1			
B-184	377	77	鏃部	新西	K69	F	2	85	24	12	22.0	黒曜石4			
B-184	377	78	鏃部	新西	K74	L	5	91	38	18	21.4	黒曜石1			
B-184	377	79	鏃部	新西	K70	F	5	96	36	19	35.4	黒曜石1			
B-184	377	80	鏃部	新西	M73	F	1	122	33	15	41.7	黒曜石4			
B-184	377	81	鏃部	新西	K74	L	4	(27)	(38)	(7)	(9.7)	黒曜石1			
B-184	377	82	鏃部	新西	K66	L	1	(72)	42	(14)	(32.2)	黒曜石4			
B-184	377	83	鏃部	新西	N74	F	2	(56)	27	10	(15.6)	黒曜石4			
B-184	377	84	鏃部	新西	J70	F	1	88	49	15	67.6	黒曜石1			
B-184	377	85	鏃部	新西	N74	L	1	85	56	16	(41.6)	黒曜石2			
B-185	377	86	鏃部	新西	K73	F	12	69	28	12	18.2	黒曜石1			
B-185	377	87	鏃部	新西	O66	F	8	82	29	6	9.8	黒曜石4			
B-185	377	88	鏃部	新西	K74	上	22	170	38	15	40.3	貫石			5238
					M72	上	1								
B-185	377	89	鏃部	新西	L68	L	3	230	42	16	121.9	黒曜石1			5235
					L68	F	4								
B-185	377	90	鏃部	新西	Q70	上	2	(95)	(38)	(12)	(38.4)	黒曜石1	163	1367	
B-185	378	91	鏃部	新西	J63	F	28	(50)	(56)	(24)	(73.5)	黒曜石4			
B-185	378	92	鏃部	新西	K74	上	20	(116)	(53)	(14)	(25.3)	黒曜石5			
B-185	378	93	鏃部	新西	B68	F	6	109	43	11	40.0	黒曜石5			
B-185	378	94	鏃部	新西	I77	F	2	177	60	32	236.9	黒曜石1			
B-185	378	95	鏃部	新西	R72	L	1	223	58	21	202.8	黒曜石1			
B-185	378	96	鏃部	新西	R72	F	3	253	51	21	(109.9)	黒曜石1			5234
					R72	L	3								
B-187	379	97	鏃部	新西	K70	F	3	132	84	23	120.6	黒曜石1	100	1069	
B-187	379	98	石刃	新西	K70	F	13	80	29	12	22.7	黒曜石1			
B-187	379	99	石刃	新西	R72	F	2	141	45	18	72.0	黒曜石1			
B-187	379	100	石刃	新西	B69	F	2	189	58	29	236.6	黒曜石1	190	1260	
B-187	379	101	石刃	新西	Q67	F	7	162	45	14	80.4	黒曜石1	183	1267	
B-188	379	102	石刃	新西	B65	F	10	167	71	28	(182.4)	黒曜石1	195	1307	

種別	図号	番号	名称	St	種類	形状	寸法	重量	製造地	材質	付与期	備考
				1	銅貨		252	24.0	1			
				1	銅貨		256	22.7	1			
			銅貨	1	銅貨		119	5.8	1			
-	22	45	銅貨銅貨	3	銅貨		135	1.8	1			
			銅貨	1	銅貨		230	29.7	1			
			銅貨	1	銅貨		247	9.5	1			
新-42	28	32	心算	1	銅貨		256	114.4	1			
			銅貨	1	銅貨		268	25.7	1			
			銅貨	1	銅貨		225	3.8	1			
			銅貨	1	銅貨		295	21.0	1			
			銅貨	1	銅貨		228	15.0	1			
			銅貨	1	銅貨		232	18.2	1			
新-22	68	10	二次加工未名銅貨	1	銅貨		249	15.0	1			
			銅貨	1	銅貨		258	19.5	1			
			銅貨	1	銅貨		265	4.0	1			
			銅貨	1	銅貨		437	18.9	1			
			銅貨	1	銅貨		225	3.5	1			
			銅貨	1	銅貨		205	17.8	1			
			銅貨	1	銅貨		432	3.1	1			
			銅貨	1	銅貨		454	6.9	1			
			銅貨	1	銅貨		458	12.8	1			
			銅貨	1	銅貨		482	26.2	1			
			銅貨	1	銅貨		408	14.9	1			
			銅貨	1	銅貨		425	5.2	1			
22	74		銅貨銅貨	1	銅貨		116	5.2	1			
			銅貨	1	銅貨		227	7.2	1			
			銅貨	1	銅貨		228	4.2	1			
			銅貨	1	銅貨		127	11.3	1			
			銅貨	1	銅貨		115	4.1	1			
			銅貨	1	銅貨		191	22.0	1			
			銅貨	1	銅貨		31	3.9	1			
			銅貨	1	銅貨		119	15.9	1			
			銅貨	1	銅貨		129	11.1	1			
			銅貨	1	銅貨		227	26.0	1			
新-51	23	17	銅貨資料	1	銅貨		1,321.1	30	1	2	2	
			銅貨	1	銅貨		128	19.0	1			
			銅貨	1	銅貨		223	21.6	1			
			銅貨	1	銅貨		252	22.4	1			
			銅貨	1	銅貨		219	11.7	1			
			銅貨	1	銅貨		251	13.4	1			
新-22	68	7	二次加工未名銅貨	1	銅貨		220	8.1	1			
			銅貨	1	銅貨		293	9.8	1			
			銅貨	1	銅貨		355	8.2	1			
			銅貨	1	銅貨		322	18.6	1			
			銅貨	1	銅貨		255	64.6	1			
			銅貨	1	銅貨		385	50.3	1			
			銅貨	1	銅貨		296	40.9	1			
			銅貨	1	銅貨		421	6.7	1			
			銅貨	1	銅貨		427	38.4	1			
			銅貨	1	銅貨		123	196.1	1			
			銅貨	1	銅貨		209	26.0	1			
			銅貨	1	銅貨		211	5.3	1			
			銅貨	1	銅貨		218	101.3	1			
			銅貨	1	銅貨		468	28.0	1			
			銅貨	1	銅貨		475	20.0	1			
			銅貨	1	銅貨		312	6.5	1			
			銅貨	1	銅貨		452	7.5	1			
			銅貨	1	銅貨		325	55.8	1			
			銅貨	1	銅貨		420	140.1	1			
			銅貨	1	銅貨		281	33.8	1			

種別	図号	番号	名称	St	種類	形状	寸法	重量	製造地	材質	付与期	備考
			銅貨	1	銅貨		126	126	26.1	1		
			銅貨	1	銅貨		126	182	11.5	1		
			銅貨	1	銅貨		126	201	129.0	1		
			銅貨	1	銅貨		126	196	100.0	1		
			銅貨	1	銅貨		127	191	143.1	1		
新-51	23	08	銅貨資料	1	銅貨				1,311.1	30	1	2
			銅貨	1	銅貨		20	3.7	1			
			銅貨	1	銅貨		21	5.6	1			
			銅貨	1	銅貨		84	1.0	1			
			銅貨	1	銅貨		100	292.7	1			
			銅貨	1	銅貨		91	0.8	1			
			銅貨	1	銅貨		101	5.5	1			
-	23	27	銅貨銅貨	1	銅貨		124	3.1	1			
			銅貨	1	銅貨		155	8.4	1			
			銅貨	1	銅貨		168	10.8	1			
			銅貨	1	銅貨		123	9.7	1			
			銅貨	1	銅貨		129	25.0	1			
			銅貨	1	銅貨		85	0.6	1			
			銅貨	1	銅貨		206	2.2	1			
			銅貨	1	銅貨		220	49.6	1			
			銅貨	1	銅貨		157	14	9.3	1		
			銅貨	1	銅貨		210	2.7	1			
			銅貨	1	銅貨		59	20.7	1			
			銅貨	1	銅貨		245	4.9	1			
			銅貨	1	銅貨		16	7.8	1			
			銅貨	1	銅貨		81	9.2	1			
			銅貨	1	銅貨		218	9.3	1			
			銅貨	1	銅貨		256	13.7	1			
			銅貨	1	銅貨		302	19.0	1			
			銅貨	1	銅貨		308	4.9	1			
			銅貨	1	銅貨		17	1.8	1			
			銅貨	1	銅貨		54	1.5	1			
			銅貨	1	銅貨		228	31.4	1			
			銅貨	1	銅貨		250	9.1	1			
			銅貨	1	銅貨		206	1.0	1			
			銅貨	1	銅貨		268	11.3	1			
			銅貨	1	銅貨		289	26.7	1			
			銅貨	1	銅貨		220	100.0	1			
			銅貨	1	銅貨		349	32.5	1			
			銅貨	1	銅貨		282	11.5	1			
			銅貨	1	銅貨		402	3.7	1			
			銅貨	1	銅貨		114	6.9	1			
			銅貨	1	銅貨		83	3.0	1			
			銅貨	1	銅貨		125	12.9	1			
			銅貨	1	銅貨		1257	19.4	1			
			銅貨	1	銅貨		441	8.6	1			
			銅貨	1	銅貨		151	22.4	1			
			銅貨	1	銅貨		22	0.8	1			
			銅貨	1	銅貨		124	1.7	1			
			銅貨	1	銅貨		181	16.5	1			
			銅貨	1	銅貨		1092	7.0	1			
			銅貨	1	銅貨		189	25.9	1			
			銅貨	1	銅貨		212	21.0	1			
			銅貨	1	銅貨		520	11.0	1			
			銅貨	1	銅貨		48	1.6	1			
			銅貨	1	銅貨		63	5.8	1			
			銅貨	1	銅貨		71	0.5	1			
			銅貨	1	銅貨		99	5.1	1			
			銅貨	1	銅貨		72	0.5	1			
			銅貨	1	銅貨		29	1.7	1			

船期	船名	船類	Sto	船期	船名	船類	船期	船名	船類	船期	船名	船類
		浦南	1806	80	0.9	1						
		浦南	1806	85	0.4	1						
		浦南	1806	82	2.8	1						
		浦南	1806	92	0.8	1						
		浦南	1807	1	6.4	1						
		浦南	1807	209	9.3	1						
		浦南	1807	222	7.4	1						
		浦南	1807	225	3.2	1						
		浦南	1806	156	1.8	1						
		浦南	1807	250	2.1	1						
		浦南	1807	84	17.6	1						
		浦南	1807	1193	3.8	1						
		浦南	1806	164	30.0	1						
		浦南	1806	20	1.4	1						
		浦南	1807	858	19.5	1						
		浦南	1807	882	40.4	1						
期-12	20	36	打輪	1807	929	106.1	1					
		浦南	1807	1	34	0.9	1					
		浦南	1807	1	63	2.3	1					
		浦南	1806	85	1.2	1						
		浦南	1807	1	112	42.1	1					
		浦南	1807	1	119	7.1	1					
		浦南	1806	223	21.1	1						
		浦南	1806	224	8.8	1						
		浦南	1806	250	1.9	1						
		浦南	1806	72	0.5	1						
		浦南	1806	40	3.2	1						
		浦南	1807	188	97.3	1						
-	23	26	浦南浦南	1807	189	2.9	1					
		浦南	1807	190	33.3	1						
		浦南	1807	218	12.3	1						
		浦南	1807	285	38.1	1						
		浦南	1807	1	11	11.2	1					
		浦南	1807	1	13	4.1	1					
		浦南	1807	1	15	19.2	1					
期-25	21	51	綜合資料	1		1,521.1	116	1	17	327		
		浦南	1806	1	11.4	1						
		浦南	1806	45	27.0	1						
		浦南	1806	408	52.2	1						
		浦南	1806	428	5.2	1						
		浦南	1806	184	21.0	1						
		浦南	1806	210	8.5	1						
		浦南	1807	20	11.4	1						
		浦南	1806	71	7.8	1						
		浦南	1806	72	39.2	1						
		浦南	1806	185	16.2	1						
		浦南	1806	209	35.8	1						
		浦南	1806	262	63.6	1						
		浦南	1806	1	30	89.1	1					
		浦南	1806	75	11.1	1						
		浦南	1806	118	8.1	1						
		浦南	1806	120	13.1	1						
		浦南	1806	121	23.0	1						
		浦南	1806	136	35.0	1						
		浦南	1806	176	40.2	1						
		浦南	1806	183	6.3	1						
		浦南	1806	261	41.5	1						
		浦南	1806	264	15.2	1						
		浦南	1806	316	71.1	1						
		浦南	1806	202	249.4	1						

船期	船名	船類	Sto	船期	船名	船類	船期	船名	船類	船期	船名	船類
		浦南	1	1806	186	38.0	1					
		浦南	1	186	258	9.1	1					
		浦南	1	167	286	117.2	1					
		浦南	1	1806	302	12.4	1					
		浦南	1	1806	307	4.6	1					
		浦南	1	1806	226	17.3	1					
		浦南	1	1806	293	13.2	1					
		浦南	1	1806	260	5.2	1					
		浦南	1	1806	309	49.1	1					
		浦南	1	1806	271	18.8	1					
		浦南	1	1806	303	22.2	1					
		浦南	1	1806	284	4.8	1					
期-12	20	38	打輪	1806	286	149.0	1					
		浦南	1	1806	290	32.6	1					
		浦南	1	1806	291	31.3	1					
		浦南	1	1806	294	11.2	1					
		浦南	1	1806	220	32.2	1					
		浦南	1	1806	326	30.6	1					
		浦南	1	1806	230	10.2	1					
		浦南	1	1806	355	35.0	1					
		浦南	1	1806	357	13.3	1					
		浦南	1	1806	363	18.2	1					
		浦南	1	1806	367	27.3	1					
		浦南	1	1806	426	120.2	1					
		浦南	1	1806	438	9.5	1					
		浦南	1	1806	278	28.4	1					
		浦南	1	1806	383	18.1	1					
		浦南	1	1807	1	108	14.6	1				
		浦南	1	1806	382	9.3	1					
		浦南	1	1806	388	7.5	1					
		浦南	1	1806	202	30.2	1					
		浦南	1	1806	386	6.0	1					
		浦南	1	1806	389	14.8	1					
		浦南	1	1806	412	5.1	1					
		浦南	1	1806	413	11.1	1					
		浦南	1	1806	423	8.9	1					
		浦南	1	1806	429	5.4	1					
		浦南	1	1806	450	13.9	1					
		浦南	1	1806	461	6.9	1					
		浦南	1	1806	484	21.2	1					
		浦南	1	1806	486	8.4	1					
		浦南	1	1806	420	37.2	1					
		浦南	1	1806	425	3.6	1					
		浦南	1	1806	396	26.3	1					
		浦南	1	1806	210	23.1	1					
		浦南	1	1806	213	4.6	1					
		浦南	1	1806	214	12.2	1					
		浦南	1	1806	215	4.4	1					
		浦南	1	1806	216	16.4	1					
		浦南	1	1806	219	18.8	1					
		浦南	1	1806	333	6.2	1					
		浦南	1	1806	8	1.7	1					
		浦南	1	1807	86	17.4	1					
		浦南	1	1807	354	5.5	1					
		浦南	1	1807	428	8.1	1					
		浦南	1	1806	121	5.1	1					
		浦南	1	1806	150	9.6	1					
		浦南	1	1806	153	14.6	1					
		浦南	1	1806	152	11.6	1					
期-20	29	21	心租	1806	180	27.9	1					

上白池8遺跡

棟目	図面	番号	材料名	St	包割区	仕付	延床面積	単価	取付品	右面	付与別	組合費
				2	365		236	51.2		1		
					365	■	108	4.2		1		
新-11	79	32	石積	2	365		829	94.4		1		
			割当	2	361		822	20.9		1		
				2	362		447	3.4		1		
					365	■	115	2.7		1		
				3	364		364	30.3		1		
				3	361		1073	6.4		2		
				3	364		1297	3.2		1		
			割当	3	361	■	271	2.1		1		
					363	■	111	1.6		1		
				2	369		116	16.2		1		
					不明		不明	1.9		1		
			割当	3	364		325	2.3		1		
			割当	3	365		82	5.8		2		
			割当	2	362		139	1.4		1		
			割当	2	363		225	8.2		1		
			割当	2	360		448	17.0		1		
			割当	2	363		310	182.1		1		
					366	T	8	91.1		1		
			割当	3	363		14	3.2		1		
			割当	3	365		16	4.8		1		
			割当	3	366		72	18.1		1		
新-28	88	11	石積	2	366		112	22.5		1		
					366		74	2.3		1		
-	79	81	縦長割当	2	366		116	11.4		1		
			割当	1	366		267	14.4		1		
			割当	1	366	I	10	1.8		1		
				1	367		217	2.2		1		
			割当	3	366		16	2.3		1		
			割当	3	367	T	8	14.3		1		
				3	364		344	12.2		1		
			割当	3	367		22	20.8		1		
			割当	3	363		109	9.0		1		
					363		113	1.2		1		
					363	■	115	3.0		1		
79	86		縦長割当	3	364		286	6.6		1		
			割当	3	361		228	21.6		1		
79	87		縦長割当	3	364		286	8.5		1		
			割当	2	361		495	2.9		1		
			割当	3	364		494	1.5		1		
-	79	83	縦長割当	2	361		485	3.0		1		
新-11	79	32	石積	2	361		829	94.4		1		
					369		87	8.1		1		
					366		103	13.4		1		
					365		104	16.3		1		
					366		127	15.3		1		
					366		138	12.9		1		
					368	■	11	1.7		1		
					368	■	12	2.7		1		
					不明		不明	15.6		1		
			割当	3	361		958	4.1		1		
				3	365		959	13.2		1		
			割当	3	361		1042	1.8		1		
新-38	69	16	台階	3	364		1107	1.8		1		
				3	361		1142	29.2		1		
				1	364		1167	7.8		1		
				2	361		1120	20.8		1		
				2	361		1121	6.2		1		
				2	365		111	12.2		1		

				3	365		219	9.2		1		
				3	365		261	12.1		1		
				3	365		266	28.6		1		
				3	365		309	18.4		1		
				3	365		435	20.1		1		
				3	365		766	9.5		1		
				3	365		762	4.1		1		
				3	365		867	1.7		1		
					365	■	25	3.2		1		
新-11	79	28	石積	3	361		1158	17.1		1		
			割当	3	361		1160	11.2		1		
			割当	3	365		57	7.7		1		
			割当	3	365		115	4.1		1		
			割当	3	365		279	1.6		1		
			割当	3	365		276	13.0		1		
			割当	3	365		380	2.2		1		
			割当	3	365		389	1.8		1		
新-41	20	31	台階	3	365		716	27.8		1		
			割当	3	365		726	2.2		1		
			割当	3	365		945	2.6		1		
新-37	88	8	二次加工木心割当	3	365		957	2.8		1		
			割当	3	365		1040	7.9		1		
新-37	68	9	二次加工木心割当	3	365		1127	14.3		1		
			割当	3	365		1271	1.6		1		
			割当	3	365		1402	28.2		1		
			割当	3	365		1409	11.5		1		
			割当	3	365	T	2	12.6		1		
					365	■	21	16.2		1		
			割当	3	366		2	2.9		1		
			割当	3	366		25	2.4		1		
			割当	3	366		26	5.8		1		
			割当	3	366		42	1.5		1		
			割当	3	366		29	2.9		1		
			割当	3	366		105	11.9		1		
			割当	3	367		17	28.2		1		
			割当	3	366	T	8	22.6		1		
79	88		縦長割当	3	361		42	6.0		1		
新-32	88	26	縦長割当	6			361.2	11	1	50	125	
			割当	6	361		2	113.0		1		
			割当	6	359		1109	26.1		1		
			割当	6	359		1252	16.5		1		
					361		22	2.9		1		
			割当	6	359	T	16	3.0		1		
			割当	6	360		120	13.8		1		
新-71	82	50	石積	3	360	T	3	318.2		1		
			割当	6	361		65	16.5		1		
			割当	6	359		201	38.8		1		
					360		88	8.7		1		
			割当	6	359		266	11.9		1		
新-83	88	90	縦長割当	3-6			133.6	6	1	26	141	
			割当	6	359		142	9.9		1		
新-71	81	61	石積	6	356		250	3.7		1		
				5	3201		52	9.6		1		
					361		114	26.8		1		
新-71	82	47	台階	6	359		422	49.2		1		
			割当	6	356		263	29.9		1		
新-84	88	91	縦長割当	5			634.0	11	1	23	49	
新-72	82	51	石積	5	361		21	52.4		1		
				5	3612		125	15.9		1		
				5	3612		232	25.2		1		

群号	国名	番号	器物名	Stb	発掘区	柱位	遺物番号	数量	測定法	材質	付着品	検出層
				5	M02		410	191.9		1		
					M02	T	9	63.0		1		
			銅片	5	M01		47	157.4		1		
				5	M02		309	90.6		1		
			銅片	5	M02		121	13.5		1		
			銅片	5	M02		231	27.4		1		
				5	M02	T	4	38.0		1		
			銅片	5	M02		509	7.2		2		
群 32	群 07	群 07	銅合材料	6			2,311.3	36	1	48	115	
			銅片	6	J58		138	26.1		2		
			銅片	6	J5a		160	10.1		1		
			銅片	6	J59		95	95.9		1		
			銅片	6	J37	T	9	22.6		1		
			銅片	6	J38		12	34.3		1		
			銅片	6	J38		26	259.2		2		
			銅片	6	J38		44	58.0		1		
			銅片	6	J38		45	188.5		1		
				6	J38		115	472.8		1		
			銅片	6	J38		215	7.4		2		
			銅片	6	J38		65	56.3		1		
			銅片	6	J38		47	37.3		1		
			銅片	6	J38		62	13.0		1		
			銅片	6	J38		225	44.6		1		
			銅片	6	J39		49	61.3		2		
群 72	群 54	群 54	石鏡	6	J38		49	66.2		1		
			銅片	6	J38		82	8.2		2		
			銅片	6	J38		63	22.9		1		
			銅片	6	J38		30	22.6		1		
			銅片	6	J38		82	58.2		1		
			銅片	6	J38		226	2.8		1		
			銅片	6	J39		88	32.7		2		
			銅片	6	J38		111	36.9		1		
			銅片	6	J38		121	145.5		1		
			銅片	6	J38		128	21.5		1		
			銅片	6	J38		132	13.8		2		
			銅片	6	J38		150	21.0		1		
			銅片	6	J38		287	19.6		1		
			銅片	6	J38		161	15.6		1		
			銅片	6	J38		180	23.6		1		
			銅片	6	J38		190	5.9		2		
			銅片	6	J38		218	17.1		1		
				6	J38		219	53.2		2		
			銅片	6	J38		230	11.7		1		
			銅片	6	J38		264	22.3		1		
群 96	群 03	群 03	銅合材料	5			1,333.9	33	1	32	70	
群 08	群 27	二次加工系土器類	5	L42		1040	27.2		1			
		銅片	5	M03		18	59.9		1			
		銅片	5	M03		80	5.1		2			
		銅片	5	M03		1021	27.2		1			
		銅片	5	M03		285	15.0		1			
		銅片	5	M04		140	57.1		1			
		銅片	5	M03		408	38.2		1			
		銅片	5	M04		22	112.1		1			
		銅片	5	M03		779	34.9		1			
群 23	群 64	石鏡	5	M03		750	306.4		2			
		銅片	5	M03		823	53.6		1			
		銅片	5	M03		1082	11.2		1			
		銅片	5	M03		1128	16.4		1			
		銅片	5	M04		2	88.9		1			

群号	国名	番号	器物名	Stb	発掘区	柱位	遺物番号	数量	測定法	材質	付着品	検出層
				5	M01		126	237.8		1		
			銅片	5	M04		6	53.7		1		
			銅片	5	M01		7	162.2		1		
			銅片	5	M04		19	139.6		1		
			銅片	5	M04		21	29.5		1		
			銅片	5	M04		54	126.3		1		
			銅片	5	M04		98	20.3		1		
			銅片	5	M01		131	49.2		1		
			銅片	5	M04		152	159.2		1		
			銅片	5	M01		1	9	48.9	1		
			銅片	5	M04	T	10	17.3		1		
			銅片	5	M01	B	2	162.6		1		
			銅片	5	M05	T	7	22.4		1		
			銅片	5	M04		1	52.0		1		
			銅片	5	M01	T	20	66.5		1		
			銅片	5	M04	T	29	192.0		1		
			銅片	5	M05		23	80.1		1		
			銅片	5	M05		54	214.9		1		
			銅片	5	M03		98	104.1		1		
群 04	群 01	群 01	銅合材料	5			1,029.1	50	5	26	74	
			銅片	5	L42		229	74.8		5		
			銅片	5	L42		234	107.6		5		
			銅片	5	L42		235	282.3		5		
			銅片	5	L42		235	11.9		5		
			銅片	5	M03		401	16.4		5		
			銅片	5	L42		229	137.1		5		
			銅片	5	L42		434	52.6		5		
			銅片	5	L47		1276	17.5		5		
			銅片	5	L43		128	4.4		5		
			銅片	5	L42		336	134.3		5		
			銅片	5	L42		332	101.6		5		
			銅片	5	L42		233	10.9		5		
			銅片	5	L42		783	806.9		5		
			銅片	5	L42		796	4.2		5		
			銅片	5	L41		16	29.7		5		
			銅片	5	L42		819	42.9		5		
群 70	群 32	群 32	漆器	5	L42	1	8	73.0		5		
			銅片	5	L43		361	4.2		5		
			銅片	5	L43		239	29.6		5		
			銅片	5	L42		405	21.0		5		
			銅片	5	L43		406	5.6		5		
			銅片	5	L42		883	21.2		5		
			銅片	5	L43		922	11.6		5		
			銅片	5	L43		923	11.5		5		
			銅片	5	L45		5	55.2		5		
			銅片	5	L43		963	56.6		5		
			銅片	5	L42		1016	38.6		5		
			銅片	5	L43		1034	24.5		5		
			銅片	5	L42		1116	1.3		5		
			銅片	5	L41		55	5.1		5		
			銅片	5	L41		85	127.1		5		
			銅片	5	L41		89	135.3		5		
			銅片	5	L44	1	7	228.4		5		
			銅片	5	L41	T	8	37.6		5		
			銅片	5	L44	T	9	42.7		5		
			銅片	5	L41	T	12	10.7		5		
			銅片	5	M01		100	32.5		5		
			銅片	5	M01		123	162.0		5		
群 71	群 43	群 43	石鏡	5	M02		19	28.4		5		
			銅片	5	M02		286	8.2		5		

種類	規格	品名	材料名	St	規格	寸法	重量	製造	品質	付与	検査	
-	95	160	概算測片	5	L62	600	10.2	1	1			
				5	L63	214	2.8					1
				5	L62	612	97.0					1
		5	M64	252	4.1	5						
		5	L63	155	97.8	1						
		5	L63	169	1.5	1						
		5	L63	297	1.5	5						
		5	L62	219	29.0	1						
		95	157	概算測片	5	L63	243	58.1	1			
		5	L62	1028	188.5	1						
-	95	150	概算測片	5	L60	1056	14.6	1				
				5	L61	197	15.2					1
				5	L65	1	19.5					1
				5	L63	1097	13.9					1
5	L62	1137	6.6	5								
5	L64	44	6.8	5								
5	L61	130	1.9	1								
5	L64	1	23.1	1								
95-22	92	石粉	5	L61	108	158.1	1					
5	L61	115	4.8	1								
-	95	161	概算測片	5	L64	158	77.9	1				
-	95	163	概算測片	5	L61	1	19	12.8	1			
5	L61	59	26.1	1								
5	L61	1	28	1.8	1							
95	151	概算測片	5	M62	440	171.4	1					
-	95	162	概算測片	5	M62	695	207.4	1				
-	95	158	概算測片	5	M63	295	100.4	1				
5	M63	275	1.8	1								
5	M64	236	196.5	1								
95	152	概算測片	5	M65	495	13.3	1					
5	M63	682	84.9	1								
95	152	概算測片	5	L62	98	14.2	1					
-	95	150	概算測片	5	L62	5	11.8	1				
98	161	検査資料	5			1054.0	66	1	98	60		
-	95	161	概算測片	5	L61	225	136.0	1				
5	L62	329	5.1	1								
5	L63	1070	2.1	1								
5	L62	240	125.4	1								
5	L62	267	12.1	1								
5	L62	712	3.9	1								
5	L64	72	2.1	1								
5	L62	798	16.9	1								
5	L62	36	8.2	1								
5	L62	822	3.5	1								
5	L62	874	12.2	1								
5	L62	5	1.9	1								
5	L62	19	15.5	1								
5	L61	110	4.2	1								
5	L62	238	26.2	1								
5	L63	251	13.9	1								
5	L62	245	6.3	1								
5	L63	268	1.6	1								
5	L63	801	1.3	1								
5	L63	204	2.8	1								
5	L63	778	1.3	1								
5	L62	237	1.7	1								
5	L63	385	1.7	1								
5	L62	685	11.9	1								
5	L63	583	11.3	1								
5	L62	1020	1.7	1								

種類	規格	品名	材料名	St	規格	寸法	重量	製造	品質	付与	検査		
			測片	5	L62	286	1.1						
				5	L63	387	5.1					1	
				5	L62	799	18.2					1	
				5	L68	1041	1.7					1	
				5	L63	470	4.5					1	
				5	L63	476	6.2					1	
				5	L63	359	49.8					1	
				5	L62	582	61.3					1	
				5	L63	383	13.6					1	
				5	L62	701	28.3					1	
			測片	5	L60	705	1.9						
				5	L62	1046	6.7					1	
				5	L61	65	12.9					1	
				5	L63	707	2.1					1	
				5	L62	771	1.8					1	
5	L63	960	16.0	1									
			測片	5	L62	787	7.9						
				5	L60	959	5.7					1	
				5	L62	790	136.1					1	
				5	L63	956	37.2					1	
				5	L63	16	1.5					1	
新	60	80	25	二次加工用測片	5	L63	950	17.2					
					5	L62	1036	13.0				1	
			測片	5	L61	1052	1.3						
				5	L61	1	6					0.7	1
				5	L61	12	25.0					1	
				5	L61	36	12.9					1	
				5	L61	122	2.1					1	
				5	L64	137	3.1					1	
				5	L61	157	3.2					1	
				5	L64	161	1.7					1	
				5	L61	129	2.0					1	
				5	L61	1	130.3					1	
5	L61	1	16.9	1									
5	L61	1	1.8	1									
新	73	83	56	心板	5	M62	284	592.6	1				
5	M62	220	88.9	1									
98	160	概算測片	5	M62	485	150.4	1						
5	L61	32	3.0	1									
新	100	37	100	検査資料	5			622.9	20	1	98	72	
-	97	167	概算測片	5	M63	224	10.4						
				5	M63	215	9.1					1	
				5	M63	633	9.1					1	
				5	M63	908	36.4					1	
				5	M63	928	17.5					1	
				5	M63	1082	38.4					1	
				5	M64	3	51.9					1	
				5	M61	14	71.7					1	
				5	M61	24	28.7					1	
				5	M61	30	23.4					1	
5	M61	12	36.7	1									
5	M64	1	3	22.4	1								
5	M61	21	13.3	1									
5	M65	55	36.5	1									
5	M65	21	6.7	1									
5	M64	1	10	116.6	1								
5	M65	20	5.5	1									
5	M63	28	10.4	1									
5	M62	1	4	12.6	1								

上白池8遺跡

探洞	探洞番号	探検品名	Stb	数量	単位	探検品名	数量	単位	石質	付与期	探検品名	
		銅貨		62	26.8				1			
第-108	107	107 聯合資料	5			1,277.4	28	1	28	64		
-	97	158 銅貨	5	L62	49	132.2			1			
		銅貨	5	M03	268	20.3			1			
		銅貨	5	M03	259	140.3			1			
第-78	85	81 石鏡	5	M03	431	137.3			1			
		銅貨	5	M03	916	292.4			1			
		銅貨	5	M03	483	21.6			2			
		銅貨	5	M03	430	47.8			1			
		銅貨	5	M03	925	5.2			1			
		銅貨	5	M03	925	15.6			1			
		銅貨	5	M03	1099	12.9			1			
		銅貨	5	M03	1011	23.6			1			
		銅貨	5	M03	1060	33.7			1			
		銅貨	5	M04	17	21.5			2			
		銅貨	5	M05	6	6.7			1			
		銅貨	5	M05	19	29.9			1			
		銅貨	5	M05	37	56.5			1			
		銅貨	5	M05	28	20.1			1			
		銅貨	5	M05	59	32.3			1			
		銅貨	銅	M09	上	12	22.7		1			
		銅貨	銅	M10	上	5	51.6		1			
		銅貨	銅	M04	上	13	24.0		1			
		銅貨	5	M05	17	18.0			1			
		銅貨	5	M05	77	16.5			1			
		銅貨	5	M03	156	12.3			1			
		銅貨	銅	M06	上	1	31.7		1			
		銅貨	中央部 中央部 中央部		75	32.4			1			
第-110	108	108 聯合資料	5			1,612.6	28	1	28	67		
		銅貨	5	L61	227	34.1			1			
		銅貨	5	L62	138	51.0			1			
		銅貨	5	L63	77	4.6			1			
		銅貨	5	L62	325	53.1			1			
		銅貨	5	L62	7	18	21.5		1			
		銅貨	5	L62	32	91.6			1			
		銅貨	5	L63	111	33.4			1			
		銅貨	5	L65	231	18.9			1			
-	98	109 銅貨	5	L63	280	4.7			1			
		銅貨	5	L64	171	24.8			1			
		銅貨	5	L62	438	19.3			1			
		銅貨	5	L63	492	32.4			1			
		銅貨	5	L64	141	28.0			1			
		銅貨	5	L65	863	12.5			1			
		銅貨	5	L64	37	66.7			1			
		銅貨	5	L63	1023	51.5			1			
		銅貨	5	L64	40	3.4			1			
		銅貨	5	L64	7	35	3.6		1			
第-91	86	87 石鏡	5	L64	158	442.0			1			
		銅貨	5	L64	1	123.9			1			
		銅貨	5	L64	7	22	32.6		1			
		銅貨	5	L64	1	29	65.8		1			
第-68	80	71 二次期下赤土銅貨	5	M01	106	90.1			1			
		銅貨	5	M02	1	6	7.5		1			
		銅貨	5	M03	496	2.0			1			
		銅貨	5	M04	94	58.9			1			
		銅貨	5	M04	237	51.3			1			
		銅貨	特殊		144	44.7			1			
第-111	109	109 聯合資料	5			1,611.1	33	1	27	45		
-	99	110 銅貨	5	L61	53	157.9			1			
-	99	111 銅貨	5	L62	845	182.0			1			

探洞	探洞番号	探検品名	Stb	数量	単位	探検品名	数量	単位	石質	付与期	探検品名
		銅貨	5	L61	107	61.1			1		
		銅貨	5	L64	7	34	13.8		1		
		銅貨	5	M02	121	96.6			1		
第-105	80	28 二次期上赤土銅貨	5	M07	311	8.6			1		
		銅貨	5	M07	451	19.4			1		
		銅貨	5	M02	375	163.3			1		
		銅貨	5	M02	305	62.6			1		
		銅貨	5	M02	297	58.4			1		
		銅貨	5	M02	420	10.5			1		
		銅貨	5	M03	105	112.9			1		
		銅貨	5	M03	338	191.3			1		
		銅貨	5	M03	191	134.2			1		
		銅貨	5	M03	860	40.1			1		
		銅貨	5	M03	402	26.3			1		
		銅貨	5	M03	883	107.1			1		
		銅貨	5	M05	403	82.3			1		
		銅貨	5	M02	1091	28.1			1		
		銅貨	5	M03	305	9.9			1		
		銅貨	5	M03	1	5	109.8		1		
		銅貨	5	M01	16	26.8			1		
第-81	86	88 石鏡	5	M03	48	584.1			1		
		銅貨	5	M02	930	11.0			1		
		銅貨	5	M02	905	292.2			1		
		銅貨	5	M02	1077	31.3			1		
		銅貨	5	M02	1083	101.6			1		
		銅貨	5	M02	1084	173.0			1		
		銅貨	5	M02	1102	121.9			1		
		銅貨	5	M02	1145	37.9			1		
		銅貨	5	M04	25	43.5			1		
		銅貨	5	M04	70	9.4			1		
		銅貨		M01	1	12	22.3		1		
		銅貨		M04	1	28	17.5		1		
		銅貨		M04	1	29	50.0		1		
第-113	100	110 聯合資料	5			250.7	6	1	28	29	
第-76	81	79 石鏡	5	M03	496	51.6			1		
		銅貨	5	M03	765	32.8			1		
		銅貨	5	M04	32	23.3			1		
		銅貨	5	M04	1	11.8			1		
第-73	83	63 石鏡	5	M05	24	29.3			1		
		銅貨	中央部 中央部		20	18.7			1		
第-115	100	111 聯合資料	5			527.7	15	1	38	21	
		銅貨	5	L62	335	43.9			1		
		銅貨	5	L63	68	12.8			1		
		銅貨	5	L63	375	20.6			1		
		銅貨	5	L63	505	4.8			1		
第-76	84	69 石鏡	5	L63	77	54.7			1		
		銅貨	5	L63	145	12.0			1		
		銅貨	5	L63	407	3.2			1		
		銅貨	不明	不明	不明	不明			1		
		銅貨	5	L63	1110	17.6			1		
第-76	84	67 石鏡	5	L64	175	21.1			1		
		銅貨	5	M02	159	17.6			1		
		銅貨	5	M03	269	90.8			1		
		銅貨	5	M03	791	22.0			1		
		銅貨	5	M04	4	46.3			1		
		銅貨	銅上		32	107.1			1		
第-115	101	112 聯合資料	5			4,290.7	54	1-5	45	110	
		銅貨	5	K62	1	12	26.7		1		
		銅貨	5	L61	809	19.8			1		
		銅貨	5	K63	1	45	52.6		1		

群号	展覧番号	器物名	Stb	種類	材質	数量	重量	寸法	位置	付属品	備考
		銅片	5	L41	8	18.0			1		
			5	M01	7	13.4			1		
			5	M01	170	98.6			1		
		銅片	5	L41	35	43.6			1		
		銅片	5	L41	40	21.9			1		
			5	L42	2	22	31.9		1		
		銅片	5	L41	326	10.2			1		
		銅片	5	L42	37	13.6			1		
		銅片	5	L42	197	196.0			1		
			5	L42	210	58.2			1		
		銅片	5	L42	354	39.7			1		
			5	L42	256	96.7			1		
		銅片	5	L42	230	145.5			1		
		銅片	5	L42	430	38.1			1		
			5	L42	6	8.8			1		
102	173	銅片銅片	5	L42	484	166.5			5		
			5	L42	2	11.2			1		
		銅片	5	L42	5	4.0			1		
			5	L44	1	29	25.6		1		
		銅片	5	L42	206	102.4			1		
新-09	81	30	二次加工赤心銅片	5	L43	475	397.8		1		
			5	M01	172	194.0			1		
			5	L43	689	12.2			1		
		銅片	5	L42	741	15.2			1		
			5	M01	76	23.9			1		
			5	M01	78	20.1			1		
			5	M03	140	140.4			1		
			5	M01	204	222.1			1		
-	102	172	銅片銅片	5	L43	791	6.8		1		
			5	M01	38	69.9			1		
			5	M01	20	25.2			1		
新-58	80	16	二次加工赤心銅片	5	L43	735	16.2		1		
		銅片	5	L42	911	132.1			1		
		銅片	5	L43	1094	95.2			1		
		銅片	5	L42	1104	26.2			1		
			5	L42	53	15.5			1		
		銅片	5	L44	1	53.6			1		
		銅片	5	L41	121	22.4			1		
		銅片	5	L44	148	18.8			1		
		銅片	5	L41	2	43.9			1		
		銅片	5	M01	50	20.2			1		
		銅片	5	M01	122	26.6			1		
		銅片	5	M01	163	191.1			1		
		銅片	5	M01	171	210.4			1		
		銅片	5	M01	182	145.4			1		
		銅片	5	M01	187	72.0			1		
		銅片	5	M01	199	42.1			1		
新-56	84	74	心鉄	5	M01	201	159.1		1		
		銅片	5	M01	205	26.3			1		
		銅片	5	M02	96	9.2			1		
		銅片	5	M02	205	98.5			1		
新-118	102	111	複合資料	5		1,031.2	20	28	66		
		銅片	5	L41	113	13.3			1		
			5	M02	202	19.3			1		
		銅片	5	L41	327	26.5			1		
新-29	85	82	行輪	5	L42	830	372.1		1		
		銅片	5	L42	834	11.4			1		
		銅片	5	L42	831	8.2			1		
		銅片	5	L43	286	15.9			1		
-	102	174	複合資料	5	L43	961	12.1		1		

群号	展覧番号	器物名	Stb	種類	材質	数量	重量	寸法	位置	付属品	備考
新-09	80	22	二次加工赤心銅片	5	L42	886	11.6		1		
			5	片銅	145	39.4			1		
		銅片	5	L41	102	22.3			1		
-	102	175	銅片銅片	5	L41	116	81.3		1		
			5	L44	170	37.1			1		
		銅片	5	M01	44	138.1			1		
		銅片	5	M01	98	29.6			1		
		銅片	5	M02	280	18.9			1		
		銅片	5	M03	320	29.5			1		
			5	M03	1302	97.2			1		
		銅片	5	M03	858	58.3			1		
		銅片	5	M01	224	102.0			1		
新-119	103	115	複合資料	5		1,301.2	17	1-5	71	128	
		銅片	5	L41	73	30.5			5		
			5	L45	7	47.6			1		
		銅片	5	L41	88	26.4			1		
			5	L41	111	6.9			1		
			5	L43	115	12.9			1		
		銅片	5	L42	103	12.6			1		
		銅片	5	L42	583	29.9			5		
新-80	84	84	心鉄	5	L42	401	16.8		1		
			5	M01	180	125.6			1		
		銅片	5	L43	409	9.1			5		
			5	L42	916	11.3			1		
103	176	銅片銅片	5	L43	1027	27.9			1		
			5	L41	1	23	50.5		1		
		銅片	5	L41	1	10	26.9		1		
		銅片	5	M01	45	26.4			1		
		銅片	5	M01	131	336.5			1		
		銅片	5	M01	133	12.2			1		
新-122	104	117	複合資料	5		1,372.4	31	1-5	73	179	
		銅片	5	L42	126	3.0			5		
		銅片	5	L42	815	172.2			1		
新-27	84	23	心鉄	5	L43	232	118.2		1		
		銅片	5	L42	232	7.1			5		
		銅片	5	L43	925	8.3			1		
104	180	複合資料	5	L43	1000	43.0			1		
新-25	84	66	行輪	5	L43	1	8	190.7	1		
			5	M01	36	19.4			1		
		銅片	5	L41	17	12.0			1		
		銅片	5	L44	18	13.1			1		
		銅片	5	L41	99	28.1			1		
-	104	181	銅片銅片	5	L41	162	13.0		1		
			5	M01	87	137.4			1		
			5	M01	133	16.9			1		
			5	M04	231	31.5			1		
		銅片	5	L41	305	10.2			1		
			5	L44	1	31	3.9		1		
			5	M03	852	10.3			1		
新-27	85	28	心鉄	5	L41	11	200.9		1		
		銅片	5	L41	1	32	9.2		1		
		銅片	5	M02	317	25.5			1		
		銅片	5	M02	324	14.3			1		
新-24	84	68	行輪	5	M02	414	90.2		1		
		銅片	5	M02	329	9.0			1		
-	104	179	銅片銅片	5	M02	403	18.1		1		
			5	M03	35	16.9			1		
		銅片	5	M03	1001	17.9			1		
		銅片	5	M03	1	10	17.3		1		
		銅片	5	M04	273	228.4			5		

上白池8遺跡

棟目	図面	番号	材料名	St	数量	仕付	面積㎡	重量	積込量	石質	付与別	積込量
-	104	176	欄板廻り	M04	1	8	4.2	1				
	104	177	欄板製作	丸鋼	143	54.5	1					
新-125	105	118	柱合資料	5			3,129.3	59	1・3	21	69	
			鋼骨	5	162	678	10.7	1				
			鋼骨	5	164	5	37.9	1				
			鋼骨	5	M02	7	102.1	1				
			鋼骨	5	M05	43	86.4	1				
			鋼骨	5	M03	81	90.0	2				
			鋼骨	5	M05	138	12.7	1				
			鋼骨	5	M03	091	29.5	1				
			鋼骨	5	M03	795	24.6	1				
			鋼骨	5	M03	789	29.5	1				
新-26	84	71	石積	5	M03	807	80.7	1				
			鋼骨	5	M05	924	41.9	1				
			鋼骨	5	M04	1	17	3.9	1			
			鋼骨	5	M05	902	27.6	1				
			鋼骨	5	M03	1033	18.0	1				
			鋼骨	5	M03	1037	34.6	1				
			鋼骨	5	M03	1099	8.5	1				
			鋼骨	5	M03	1085	15.9	1				
			鋼骨	5	M03	1053	80.0	1				
			鋼骨	5	中鋼04-05	58	30.5	1				
			鋼骨	5	M05	1126	8.0	1				
			鋼骨	5	M03	1178	67.6	1				
			鋼骨	5	M03	1184	39.2	1				
			鋼骨	5	M03	1	8	29.5	1			
			鋼骨	5	M04	9	19.3	1				
			鋼骨	5	M04	75	14.1	1				
			鋼骨	5	M04	1	18.4	1				
			鋼骨	5	M04	31	21.7	1				
			鋼骨	5	M04	89	25.5	1				
新-28	84	72	石積	5	M04	20	90.1	1				
新-28	85	79	石積	5	M04	23	182.0	5				
			鋼骨	5	M04	205	25.1	1				
			鋼骨	5	M04	232	132.1	5				
			鋼骨	5	M05	113	32.6	5				
			鋼骨	5	M05	30	8.0	1				
			鋼骨	5	M05	41	95.6	5				
			鋼骨	5	M05	58	13.6	1				
			鋼骨	5	M05	129	13.8	1				
			鋼骨	5	M05	40	137.0	1				
-	106	182	欄板廻り	M05	1	1	132.6	1				
			鋼骨	M05	1	1	56.7	1				
			鋼骨	M05	1	5	103.9	1				
			鋼骨	M05	1	6	2.7	1				
			鋼骨	5	M03	200	7.9	1				
			鋼骨	M04	1	22	6.2	1				
			鋼骨	M04	1	23	58.0	1				
			鋼骨	5	M02	733	21.7	1				
新-85	86	86	石積	5	M01	84	189.9	1				
			鋼骨	5	M01	8	6.3	1				
			鋼骨	M04	1	16	3.1	1				
			鋼骨	M04	1	21	7.4	1				
			鋼骨	M04	1	21	21.0	1				
			鋼骨	M04	1	27	5.3	1				
			鋼骨	5	M03	18	15.0	1				
新-126	106	172	鋼骨	5	M03	32	293.3	1				
			鋼骨	5	M03	29	25.1	1				
			鋼骨	5	M03	138	19.0	1				
			鋼骨	5	M03	1	55.5	1				

棟目	図面	番号	材料名	St	数量	仕付	面積㎡	重量	積込量	石質	付与別	積込量
			鋼骨	5	中鋼04-05	29	59.9	1				
			鋼骨	5	中鋼04-05	26	26.3	1				
新-129	107	123	柱合資料	5			2,385.1	10	1・3	20	68	
新-128	84	18	石積	5	M02	304	180.1	1				
			鋼骨	5	M02	366	110.3	1				
			鋼骨	5	M02	389	9.2	1				
			鋼骨	5	M04	39	11.9	1				
-	108	183	欄板廻り	5	M03	16	204.1	1				
			鋼骨	5	M03	68	12.7	1				
			鋼骨	5	M03	094	27.7	1				
			鋼骨	5	M03	812	203.3	1				
-	109	185	欄板廻り	5	M03	110	21.3	1				
			鋼骨	5	M03	813	52.9	1				
			鋼骨	5	M03	276	26.4	1				
			鋼骨	5	M03	1	6	21.7	1			
			鋼骨	5	M03	411	8.5	1				
			鋼骨	5	M02	781	11.3	1				
			鋼骨	5	M04	55	25.3	1				
			鋼骨	5	M04	57	12.9	1				
			鋼骨	5	M02	1088	17.9	1				
			鋼骨	5	M03	45	16.6	1				
			鋼骨	5	M02	180	142.7	1				
新-86	86	82	石積	5	M02	727	142.1	1				
			鋼骨	5	M02	626	237.1	1				
			鋼骨	5	M02	799	32.4	1				
			鋼骨	5	M02	1002	229.9	1				
-	108	184	欄板廻り	5	M03	109	246.3	1				
			鋼骨	5	M04	84	18.8	1				
			鋼骨	5	M04	1	18	3.1	1			
			鋼骨	5	M03	648	64.7	1				
			鋼骨	5	M04	65	3.2	1				
			鋼骨	5	M04	69	43.1	1				
			鋼骨	5	M04	80	22.2	1				
			鋼骨	5	M02	82	8.1	1				
			鋼骨	5	M04	108	22.6	1				
新-29	85	83	石積	5	M04	1	9	190.2	1			
			鋼骨	5	M04	1	25	13.6	1			
			鋼骨	5	M03	25	4.1	1				
			鋼骨	5	M02	38	9.9	1				
新-77	84	76	石積	5	M03	81	253.6	1				
新-77	84	77	石積	5	M03	90	279.2	1				
			鋼骨	5	M03	90	8.2	1				
			鋼骨	5	中鋼04-05	29	231.1	1				
新-110	112	10	柱合資料	8			3,963.9	53	1	40	181	
			鋼骨	8	H56	19	37.0	1				
			鋼骨	8	H56	53	182.6	1				
			鋼骨	8	H56	508	521.1	1				
			鋼骨	8	H56	1029	289.2	1				
			鋼骨	8	H56	1	13	121.2	1			
			鋼骨	8	H56	8	10.4	1				
			鋼骨	8	H56	1	15	52.5	1			
			鋼骨	8	H57	1	37	11.3	1			
			鋼骨	8	H56	1098	36.1	1				
			鋼骨	8	H56	16	47.2	1				
			鋼骨	8	H56	189	10.2	1				
			鋼骨	8	H56	893	25.8	1				
			鋼骨	8	H56	913	28.7	1				
			鋼骨	8	H56	1071	6.8	1				
-	112	33	欄板廻り	8	M06	64	32.7	1				
			鋼骨	8	M06	1286	94.5	1				

種別	図号	番号	名称	St	地層	形状	寸法	重量	測定	材質	行方	備考
			銅貨	8	156	68	25.9		1			
			銅貨	8	156	816	36.4		1			
			銅貨	8	156	218	17.2		1			
			銅貨	8	156	72	30.5		1			
			銅貨	8	156	190	9.4		1			
			銅貨	8	156	730	11.0		1			
			銅貨	8	156	1157	46.2		1			
			銅貨	8	156	286	13.0		2			
112	31		銅貨	8	156	401	351.1		1			
			銅貨	8	156	1159	56.3		1			
			銅貨	8	156	212	4.7		1			
			銅貨	8	156	1280	21.3		1			
			銅貨	8	156	1265	222.0		1			
			銅貨	8	156	273	45.2		1			
			銅貨	8	156	1278	11.4		2			
			銅貨	8	156	683	48.8		1			
			銅貨	8	156	594	11.5		1			
			銅貨	8	156	1023	36.0		1			
			銅貨	8	156	716	136.2		1			
			銅貨	8	156	1151	107.0		1			
			銅貨	8	156	811	13.2		1			
			銅貨	8	156	912	25.9		1			
112	30		銅貨	8	156	679	26.7		1			
			銅貨	8	156	1135	21.5		1			
			銅貨	8	156	687	57.9		1			
			銅貨	8	156	889	10.6		1			
-	112	31	銅貨	8	156	987	21.0		1			
			銅貨	8	156	1056	25.9		1			
			銅貨	8	156	1151	92.4		1			
112	32		銅貨	8	156	1182	32.4		1			
			銅貨	8	156	1283	26.4		2			
			銅貨	8	156	1189	21.6		1			
			銅貨	8	156	1192	23.6		1			
			銅貨	8	156	1221	68.1		1			
			銅貨	8	156	1197	21.1		1			
			銅貨	8	156	1253	15.0		1			
			銅貨	8	156	1267	80.8		1			
			銅貨	8	156	212	431.8		1			
			銅貨	8	156	249	80.0		1			
112	11		銅貨	8	156	992.1	9	61	182			
112	37		銅貨	8	156	747	46.4		1			
-	112	34	銅貨	7	157	10	289.5		1			
			銅貨	7	158	157	36.2		1			
-	112	36	銅貨	7	157	135	263.1		1			
			銅貨	7	158	137	55.9		1			
112	39		銅貨	7	158	158	18.6		1			
112	5		銅貨	7	157	2	262.9		1			
112	38		銅貨	7	158	1	22.0		1			
			銅貨	8	156	61	1.2		2			
112	11		銅貨	8	156	9239.1	69	1	49	179		
			銅貨	8	156	59	41.1		1			
			銅貨	8	156	28	26.3		1			
			銅貨	8	156	154	74.2		1			
			銅貨	8	156	214	20.8		1			
			銅貨	8	156	227	146.3		1			
			銅貨	8	156	786	25.7		1			
			銅貨	8	156	788	43.5		1			
			銅貨	8	157	890	20.1		1			
			銅貨	8	156	1173	36.4		1			
			銅貨	8	156	1	42	55.3		1		

種別	図号	番号	名称	St	地層	形状	寸法	重量	測定	材質	行方	備考
			銅貨	7	157	1220	23.3		1			
			銅貨	7	157	1226	42.8		1			
			銅貨	7	158	29	13.6		1			
			銅貨	7	158	118	13.1		1			
			銅貨	7	158	70	154.2		1			
			銅貨	7	158	122	153.8		1			
			銅貨	7	158	140	190.2		1			
			銅貨	7	158	141	229.0		1			
			銅貨	7	158	142	146.6		1			
			銅貨	7	158	129	152.2		1			
			銅貨	7	158	201	151.8		1			
			銅貨	7	158	218	141.1		1			
			銅貨	7	158	1	241.9		1			
			銅貨	8	156	1	196.4		1			
			銅貨	8	156	14	50.6		1			
			銅貨	8	156	15	132.3		1			
			銅貨	8	156	38	44.8		1			
			銅貨	8	156	398	86.4		1			
-	112	41	銅貨	8	156	67	96.6		1			
			銅貨	8	156	23	296.3		1			
			銅貨	8	156	24	189.2		1			
			銅貨	8	156	121	25.5		1			
			銅貨	8	156	259	29.2		1			
			銅貨	8	156	201	28.1		1			
			銅貨	8	156	302	8.8		1			
			銅貨	8	156	1182	7.4		1			
			銅貨	8	156	1191	18.9		1			
			銅貨	8	156	201	42.2		1			
			銅貨	8	156	352	19.8		1			
			銅貨	8	156	1206	10.1		1			
			銅貨	8	156	355	3.6		1			
			銅貨	8	156	700	31.8		1			
			銅貨	8	156	805	17.4		1			
112	111	6	銅貨	8	156	421	228.2		1			
			銅貨	8	156	922	63.0		1			
			銅貨	8	156	925	206.5		1			
			銅貨	8	156	1289	8.9		1			
			銅貨	8	156	933	83.8		1			
			銅貨	8	156	936	29.4		1			
			銅貨	8	156	1117	18.2		1			
			銅貨	8	156	1152	46.1		1			
			銅貨	8	156	1187	23.2		1			
			銅貨	8	156	1222	28.1		1			
			銅貨	8	156	1202	23.7		1			
			銅貨	8	156	1267	32.0		1			
			銅貨	8	156	1226	22.7		1			
			銅貨	8	156	1296	110.4		1			
			銅貨	8	156	1297	22.2		1			
-	112	10	銅貨	8	156	4299	43.7		1			
			銅貨	7	157	6	213.6		1			
-	116	62	銅貨	7	157	117	60.9		1			
B-154	110	3	銅貨	8	156	106	342.3		1			
			銅貨	8	156	190	222.8		1			
			銅貨	8	156	244	122.6		1			
			銅貨	8	156	215	130.2		1			
			銅貨	8	156	240	143.3		1			
B-156	111	8	銅貨	8	156	58	1,425.2		1			
-	116	62	銅貨	7	157	14	186.1		1			
B-158	113	17	銅貨	8	156	12,729.2	73	1	70	127		

上白池8遺跡

群別	区域	番号	発掘品名	Stb	発掘期	位置	遺物名	数量	測定法	品質	付与期	備考
			銅片	8	1853	69	256.9	1				
			銅片	8	1855	96	54.7	1				
			銅片	8	1855	283	273.4	1				
			銅片	8	1853	333	27.6	1				
			銅片	8	1853	1	71	29.2	1			
			銅片	8	1853	7	17.0	1				
			銅片	8	156	267	136.1	1				
-	122	45	銅片銅片	8	1856	5	13.8	1				
			銅片	8	335	83	333.7	1				
			銅片	8	335	127	15.8	1				
			銅片銅片	8	1856	15	95.7	1				
			銅片	8	1856	229	20.0	1				
			銅片	8	1856	1	41	6.4	1			
			銅片	8	1856	247	250.3	1				
			銅片	8	1856	272	93.6	1				
			銅片	8	1856	226	43.1	1				
			銅片	8	1856	279	91.3	1				
			銅片	8	1856	440	20.1	1				
			銅片	8	335	205	13.6	1				
群-133	130	7	石鉄	8	1856	293	15.9	1				
			銅片	8	1856	321	180.4	1				
			銅片	8	1856	618	216.0	1				
			銅片	8	1856	501	22.7	1				
			銅片	8	335	1	1,055.2	1				
			銅片	8	335	100	34.4	1				
			銅片	8	335	193	1,119.2	1				
			銅片	8	336	206	29.9	1				
			銅片	8	1856	296	71.2	1				
			銅片	8	335	294	13.2	1				
			銅片	8	1856	227	464.7	1				
			銅片	8	1856	588	15.5	1				
			銅片	8	156	1072	152.8	1				
			銅片	8	1856	1229	2.6	1				
			銅片	8	156	275	9.5	1				
-	120	13	銅片銅片	1857	1	17	220.5	1				
			銅片	1857	1	18	136.0	1				
			銅片	1857	1	19	19.6	1				
			銅片	8	156	23	13.6	1				
			銅片	8	335	618	16.6	1				
			銅片	8	156	24	17.5	1				
			銅片	8	156	63	8.7	1				
-	120	18	銅片銅片	8	156	81	262.1	1				
			銅片	8	335	103	121.3	1				
			銅片	8	156	181	71.9	1				
群-136	131	9	石鉄	8	156	217	6.0	1				
			銅片	8	335	1	1,806.4	1				
			銅片	8	156	255	91.0	1				
			銅片	8	335	127	6.4	1				
			銅片	8	156	222	13.0	1				
			銅片	8	156	631	11.3	1				
群-131	130	1	石鉄	8	156	685	263.3	1				
			銅片	8	156	833	6.5	1				
			銅片	8	156	921	240.6	1				
			銅片	8	156	918	17.7	1				
			銅片	8	156	1036	333.9	1				
			銅片	8	335	58	16.3	1				
122	50		銅片銅片	8	335	63	63.4	1				
			銅片	8	335	221	29.7	1				
			銅片	8	335	78	156.5	1				
			銅片	8	335	189	16.3	1				

-	120	17	銅片銅片	8	335	150	962.6	1				
			銅片	8	335	151	300.1	1				
			銅片	8	335	156	26.6	1				
			銅片	8	335	195	291.1	1				
			銅片	8	335	196	340.7	1				
			銅片	8	335	207	80.9	1				
	120	46	銅片銅片	8	335	277	572.0	1				
			銅片	8	335	258	15.2	1				
			銅片	8	336	75	19.9	1				
			銅片	8	336	209	7.1	1				
			銅片	8	336	319	329.1	1				
-	120	61	銅片銅片	8	336	328	29.7	1				
			銅片銅片	8	336	501	585.7	1				
			銅片	8	336	207	51.6	1				
			銅片	8	336	620	187.5	1				
群-142	126	60	銅片銅片	9			322.6	54	1	90	247	
			銅片	9	K13	9	0.8	1				
			銅片	9	L43	84	5.3	1				
			銅片	9	L12	92	8.7	1				
			銅片	9	L41	90	4.2	1				
群-162	123	56	石鉄	9	L43	113	5.1	1				
			銅片	9	L12	114	3.1	1				
			銅片	9	M43	235	16.3	1				
			銅片	9	M13	698	11.3	1				
			銅片	9	M43	707	5.6	1				
			銅片	9	M13	708	2.8	1				
			銅片	9	M13	712	6.2	1				
			銅片	9	M13	726	28.3	1				
			銅片	9	M13	748	96.6	1				
			銅片	9	M43	769	7.2	1				
			銅片	9	M13	II	91	6.6	1			
			銅片	9	M43	II	94	0.8	1			
			銅片	9	L42	187	3.9	1				
			銅片	9	M13	226	5.7	1				
			銅片	9	L41	2	7.1	1				
			銅片	9	M13	260	1.8	1				
			銅片	9	M43	616	3.4	1				
			銅片	9	L41	47	6.1	1				
			銅片	9	L44	48	7.3	1				
			銅片	9	M13	1250	5.2	1				
			銅片	9	M43	384	2.9	1				
			銅片	9	M13	614	6.3	1				
			銅片	9	L41	117	2.6	1				
			銅片	9	M13	216	2.1	1				
			銅片	9	M13	28	6.1	1				
			銅片	9	M43	174	9.2	1				
			銅片	9	M13	351	4.0	1				
群-156	124	20	二次加工未定銅片	9	M43	106	4.9	1				
			銅片	9	M13	111	16.3	1				
			銅片	9	M13	201	3.0	1				
			銅片	9	M13	282	2.7	1				
			銅片	9	M13	288	1.6	1				
			銅片	9	M43	230	16.3	1				
			銅片	9	M13	384	5.0	1				
			銅片	9	M43	426	1.4	1				
			銅片	9	M13	715	6.2	1				
			銅片	9	M43	792	3.1	1				
			銅片	9	M13	297	7.5	1				
			銅片	9	M13	562	3.2	1				
			銅片	9	M43	347	4.9	1				

群号	国産	番号	器物名	Stb	数量	単位	遺物番号	重量	測定値	石質	付着物	備考
			銅片	9	M13	252	21.5			1		
			銅片	9	M13	279	3.4			1		
			銅片	9	M13	310	8.5			1		
			銅片	9	M13	354	5.5			1		
			銅片	9	M13	267	8.7			1		
			銅片	9	M13	430	3.8			1		
			銅片	9	M13	754	7.5			1		
群-156	121	30	二次加工あぶ銅片	9	M13	820	5.0			2		
			銅片	9	M13	668	16.1			1		
			銅片	9	M13	989	4.0			1		
群-158	128	01	統合資料				188.8	72		1	81	239
			銅片	9	L12	2	2.9			1		
群-181	125	55	石錘	9	L13	12	29.1			1		
群-181	132	52	石鉄	9	L13	195	19.8			1		
			銅片	9	L11	127	20.2			2		
			銅片	9	L13	205	1.7			1		
			銅片	9	M13	887	6.8			1		
			銅片	9	L14	3	18.5			1		
			銅片	9	L11	10	8.8			1		
			銅片	9	L11	71	28.7			1		
			銅片	9	M13	201	15.2			1		
			銅片	9	M13	635	3.7			1		
			銅片	9	L14	74	5.1			1		
			銅片	9	M13	845	1.1			1		
			銅片	9	L14	81	1.7			1		
群-182	123	57	石鉄	9	L11	99	27.9			1		
			銅片	9	M13	720	52.0			1		
			銅片	9	L11	98	7.8			1		
			銅片	9	L11	103	5.1			1		
			銅片	9	L14	106	2.4			1		
			銅片	9	L11	150	7.5			2		
			銅片	9	L14	163	3.9			1		
			銅片	9	L11	170	4.1			1		
			銅片	9	M13	3	6.2			1		
			銅片	9	M13	209	2.7			1		
			銅片	9	M13	19	5.7			1		
			銅片	9	M13	21	7.2			1		
			銅片	9	M13	20	2.0			1		
			銅片	9	M13	920	3.0			1		
			銅片	9	M13	21	2.0			1		
			銅片	9	M13	20	5.3			1		
			銅片	9	M13	21	3.2			1		
			銅片	9	M13	26	2.0			1		
			銅片	9	M13	69	1.7			1		
			銅片	9	M13	99	4.1			1		
			銅片	9	M13	104	4.2			1		
			銅片	9	M13	128	7.1			1		
			銅片	9	M13	175	3.2			1		
			銅片	9	M13	128	1.7			1		
			銅片	9	M13	295	3.2			1		
			銅片	9	M13	183	7.9			1		
群-158	121	18	二次加工あぶ銅片	9	M13	127	3.2			1		
			銅片	9	M13	131	2.4			1		
			銅片	9	M13	203	5.7			1		
			銅片	9	M13	205	5.2			1		
			銅片	9	M13	231	10.0			1		
			銅片	9	M13	252	2.9			1		
			銅片	9	M13	275	8.7			1		
			銅片	9	M13	210	1.1			1		
			銅片	9	M13	215	5.5			1		

			銅片	9	M13	202	3.8			1		
			銅片	9	M13	307	10.6			1		
			銅片	9	M13	290	2.7			1		
			銅片	9	M13	309	1.1			1		
			銅片	9	M13	401	0.7			1		
			銅片	9	M13	405	2.1			1		
			銅片	9	M13	419	16.4			1		
			銅片	9	M13	424	10.4			1		
群-158	124	9	二次加工あぶ銅片	9	M13	449	2.7			1		
			銅片	9	M13	202	5.8			1		
			銅片	9	M13	218	3.7			1		
			銅片	9	M13	241	6.8			1		
			銅片	9	M13	402	1.0			1		
			銅片	9	M13	411	8.6			1		
			銅片	9	M13	431	2.5			1		
			銅片	9	M13	469	2.3			1		
			銅片	9	M13	480	6.7			1		
			銅片	9	M13	795	4.0			1		
			銅片	9	M13	811	2.1			1		
			銅片	9	M13	825	8.2			1		
			銅片	9	M13	846	3.2			1		
			銅片	9	M13	857	3.0			1		
			銅片	9	M13	924	2.6			1		
群-170	126	96	統合資料	9			110.5	30		1	89	215
			銅片	9	L13	24	2.3			1		
			銅片	9	L12	127	1.0			1		
			銅片	9	M13	608	2.6			1		
			銅片	9	L12	159	9.8			1		
			銅片	9	L11	11	2.5			1		
			銅片	9	L14	126	1.7			1		
群-158	121	11	二次加工あぶ銅片	9	L11	148	6.1			1		
			銅片	9	L14	11	0.6			1		
群-158	121	17	二次加工あぶ銅片	9	M13	35	4.8			1		
群-158	121	19	二次加工あぶ銅片	9	M13	62	9.8			1		
			銅片	9	M13	71	5.0			1		
			銅片	9	M13	88	1.1			1		
			銅片	9	M13	127	8.7			1		
			銅片	9	M13	183	15.6			1		
			銅片	9	M13	195	9.6			1		
			銅片	9	M13	197	2.1			1		
			銅片	9	M13	227	4.5			1		
			銅片	9	M13	243	5.0			1		
			銅片	9	M13	292	3.1			1		
			銅片	9	M13	337	9.9			1		
			銅片	9	M13	348	8.2			1		
			銅片	9	M13	402	0.7			1		
			銅片	9	M13	509	1.2			1		
			銅片	9	M13	724	3.7			1		
			銅片	9	M13	210	5.2			1		
			銅片	9	M13	226	2.7			1		
群-158	121	12	二次加工あぶ銅片	9	M13	908	1.6			1		
群-158	121	37	石鉄	9	M13	816	8.1			1		
			銅片	9	M13	462	2.9			1		
			銅片	9	M13	1008	0.9			1		
群-171	127	20	統合資料	9			420.2	91		1	86	242
			銅片	9	K15	6	15.5			1		
			銅片	9	K15	19	3.3			1		
			銅片	9	L11	125	1.6			1		
			銅片	9	L11	126	1.6			1		
			銅片	9	K15	26	29.9			1		

上白滝8遺跡

群別	区域	番号	発祥地	St	発掘区	柱径	遺物高さ	基礎	敷き詰め	石質	付着物	備考
			湖沼	9	L12	9	9.7			1		
				9	M43	231	2.3			1		
			湖沼	9	L12	11	1.2			1		
			湖沼	9	T16	19	11.2			1		
第-154	124	23	二次加工を中心湖沼	9	L43	79	4.4			1		
				9	L13	52	3.6			1		
			湖沼	9	L43	44	1.7			1		
				9	M13	295	3.5			1		
			湖沼	9	L43	48	10.8			1		
			湖沼	9	L12	37	3.0			1		
			湖沼	9	T16	28	10.1			1		
			湖沼	9	L12	39	1.8			1		
			湖沼	9	L13	60	1.1			1		
			湖沼	9	L43	66	3.0			1		
			湖沼	9	L13	71	2.6			1		
			湖沼	9	L43	72	12.5			1		
			湖沼	9	L12	79	2.2			1		
			湖沼	9	L43	79	2.9			1		
				9	L12	8	25	0.8		1		
				9	T11	31	1.0			1		
				9	M43	250	10.5			1		
			湖沼	9	L13	83	2.0			1		
			湖沼	9	L43	96	1.3			1		
			湖沼	9	L12	140	1.5			1		
			湖沼	9	L43	108	1.5			1		
			湖沼	9	L12	121	13.3			1		
			湖沼	9	T16	172	1.1			1		
			湖沼	9	L12	172	2.2			1		
			湖沼	9	L13	208	2.5			1		
			湖沼	9	L43	218	8.0			1		
			湖沼	9	L12	8	26	0.5		1		
			湖沼	9	L43	8	37	0.2		1		
			湖沼	9	L11	23	2.5			1		
				9	T11	37	1.6			1		
				9	M13	731	1.1			1		
				9	M15	809	0.6			1		
				9	M43	877	8.0			1		
				9	M15	878	2.3			1		
				9	M43	894	1.7			1		
			湖沼	9	L11	91	2.0			1		
			湖沼	9	L44	31	1.0			1		
				9	M13	30	1.5			1		
			湖沼	9	T11	33	22.5			1		
				9	M15	254	1.5			1		
			湖沼	9	L11	59	21.2			1		
			湖沼	9	L44	129	1.0			1		
			湖沼	9	L11	197	5.2			1		
			湖沼	9	L44	194	4.3			1		
			湖沼	9	M13	2	16.3			1		
				9	M15	15	3.5			1		
			湖沼	9	M13	18	2.0			1		
第-154	121	22	二次加工を中心湖沼	9	M15	27	5.1			1		
			湖沼	9	M43	41	9.1			1		
				9	M15	434	2.2			1		
			湖沼	9	M43	65	4.7			1		
			湖沼	9	M13	68	3.7			1		
			湖沼	9	M43	80	1.5			1		
			湖沼	9	M13	107	5.2			1		
			湖沼	9	M15	179	1.6			1		
				9	M43	959	2.2			1		

群別	区域	番号	発祥地	St	発掘区	柱径	遺物高さ	基礎	敷き詰め	石質	付着物	備考
			湖沼	9	M13	181	1.0			1		
第-162	125	56	石橋	9	M43	238	15.9			1		
			湖沼	9	M13	238	2.1			1		
				9	M18	272	1.1			1		
			湖沼	9	M43	298	0.7			1		
			湖沼	9	M18	306	2.6			1		
			湖沼	9	M43	406	1.9			1		
			湖沼	9	M13	467	11.2			1		
			湖沼	9	M43	488	2.3			1		
			湖沼	9	M13	501	9.1			1		
				9	M18	954	2.0			1		
			湖沼	9	M13	119	0.9			1		
			湖沼	9	M18	587	4.2			1		
			湖沼	9	M43	602	1.2			1		
				9	M13	663	2.9			1		
			湖沼	9	M43	682	14.0			1		
			湖沼	9	M13	731	1.8			1		
			湖沼	9	M43	753	3.2			1		
			湖沼	9	M13	755	8.2			1		
			湖沼	9	M18	852	1.3			1		
			湖沼	9	M43	896	2.2			1		
			湖沼	9	M15	891	0.8			1		
			湖沼	9	M43	918	1.4			1		
			湖沼	9	M13	929	1.1			1		
			湖沼	9	M43	1	6	5.0		1		
			湖沼	9	M13	1	18	2.8		1		
第-172	127	21	組合石橋	9			290.7	145	1	80	224	
			湖沼	9	K43	7	1.0			1		
			湖沼	9	K15	21	1.3			1		
			湖沼	9	L43	45	3.1			1		
第-160	115	67	石橋	9	L12	51	3.3			1		
				9	L43	184	17.4			1		
				9	L12	209	2.9			1		
				9	L11	181	9.9			1		
				9	L43	8	1.8			1		
			湖沼	9	L12	93	1.2			1		
			湖沼	9	L43	102	6.1			1		
第-160	121	63	石橋	9	L12	117	11.5			1		
			湖沼	9	L43	131	4.2			1		
			湖沼	9	M13	250	16.6			1		
			湖沼	9	L43	158	11.2			1		
			湖沼	9	L12	161	11.6			1		
			湖沼	9	L42	164	2.6			1		
				9	M13	903	11.7			1		
			湖沼	9	L12	181	9.1			1		
				9	M43	89	0.1			1		
			湖沼	9	L12	197	6.1			1		
				9	L43	198	5.4			1		
				9	L12	199	6.0			1		
				9	L18	29	1.0			1		
				9	M13	236	0.8			1		
			湖沼	9	L42	217	2.2			1		
			湖沼	9	L43	221	5.3			1		
			湖沼	9	L42	21	1.2			1		
			湖沼	9	L43	40	0.4			1		
第-160	121	61	石橋	9	L11	17	16.9			1		
			湖沼	9	L44	40	1.4			1		
				9	M13	53	0.6			1		
			湖沼	9	L11	77	10.2			1		
			湖沼	9	不明	不明	0.5			1		

群号	展覧番号	器物番号	Stb	種類	材質	器高cm	口径cm	重量	制作地	石質	行方別	組合別
		銅片	9	L11		87	2.2	1				
		銅片	9	L44		69	6.2	1				
		銅片	9	L11		92	1.7	1				
		銅片	9	L11		85	3.9	1				
		M33	II	44		0.5						
		銅片	9	L11		115	3.8	1				
		銅片	9	L44		118	4.5	1				
		銅片	9	L11		141	2.2	2				
		銅片	9	L44		4	0.8	1				
		M13		106		6.0						
		銅片	9	L11		9	0.6	1				
		銅片	9	L11		18	1.0	1				
		M13		60		0.6						
		銅片	9	L44		43	1.0	1				
		銅片	9	L11		85	1.2	1				
		M43		605		3.2						
		銅片	9	M13		5	7.8	1				
		銅片	9	M43		7	2.9	1				
		M13		181		6.1						
		M13		88		0.8						
第-156	124	32	二次加工済み銅片	9	M43	10	4.1	1				
		銅片	9	M13		35	3.0	1				
		銅片	9	M43		28	4.0	1				
		銅片	9	M13		41	2.6	1				
		銅片	9	M43		60	6.7	1				
		銅片	9	M13		61	6.8	1				
		銅片	9	M13		75	2.4	1				
第-156	126	36	二次加工済み銅片	9	M43	31	6.5	1				
		銅片	9	M13		100	6.8	1				
		銅片	9	M43		103	3.5	1				
		銅片	9	M13		117	5.8	1				
		銅片	9	M43		127	13.4	1				
		銅片	9	M13		125	2.5	1				
		銅片	9	M13		170	1.7	1				
		M13	II	31		1.0						
第-156	121	31	一次加工済み銅片	9	M13	126	12.1	1				
		銅片	9	M43		134	7.1	1				
		銅片	9	M13		157	13.2	1				
		銅片	9	M43		161	4.5	1				
		銅片	9	M13		198	0.4	1				
		銅片	9	M43		192	8.0	1				
		銅片	9	M13		187	1.2	1				
		銅片	9	M13		194	11.0	1				
		M13		85		0.3						
		M13	II	55		0.2						
		銅片	9	M43		251	7.9	1				
		銅片	9	M13		253	0.7	1				
		銅片	9	M43		259	8.1	1				
		銅片	9	M13		274	3.0	1				
		銅片	9	M13		298	2.5	1				
		M13		31		0.2						
		銅片	9	M13		284	12.6	1				
第-161	122	51	石製	9	M43	234	13.9	1				
第-156	123	27	二次加工済み銅片	9	M13	239	16.3	1				
		銅片	9	M43		237	6.7	1				
第-156	121	16	一次加工済み銅片	9	M13	206	1.7	1				
		銅片	9	M43		208	1.7	1				
		銅片	9	M13		218	2.4	1				
		銅片	9	M13		225	2.3	1				
		銅片	9	M43		227	1.2	1				

第-156	121	22	一次加工済み銅片	9	M13	233	5.7	1				
		銅片	9	M43		236	4.7	1				
		銅片	9	M13		238	10.7	1				
		銅片	9	M13		268	1.8	1				
第-156	124	26	二次加工済み銅片	9	M43	264	2.9	1				
		銅片	9	M13		261	4.7	1				
		銅片	9	M43		274	1.5	1				
		銅片	9	M13		268	0.6	1				
		銅片	9	M43		433	1.0	1				
		銅片	9	M13		441	21.7	1				
		銅片	9	M13		481	3.5	1				
		銅片	9	M13		447	2.7	1				
		銅片	9	M13		456	12.4	1				
		銅片	9	M43		473	2.5	1				
第-161	123	54	石製	9	M13	529	22.7	1				
		銅片	9	M43		236	9.3	1				
		M13	II	75		0.1						
		銅片	9	M43		250	4.6	1				
第-156	121	14	一次加工済み銅片	9	M13	467	2.5	1				
		銅片	9	M13		578	0.9	1				
		銅片	9	M43		603	1.7	1				
		銅片	9	M13		621	1.7	1				
		銅片	9	M43		627	1.5	1				
第-156	121	21	一次加工済み銅片	9	M13	667	10.3	1				
		銅片	9	M43		695	9.6	1				
第-156	121	6	一次加工済み銅片	9	M13	694	1.4	1				
		銅片	9	M13		713	6.4	1				
		銅片	9	M13		717	0.8	1				
		銅片	9	M13		712	4.2	1				
		銅片	9	M43		933	1.5	1				
		銅片	9	M13		782	0.6	1				
		銅片	9	M43		797	6.1	1				
		銅片	9	M13		828	1.2	1				
		銅片	9	M13		836	4.6	1				
		銅片	9	M13		855	1.5	1				
		銅片	9	M13		860	3.2	1				
		銅片	9	M43		908	8.1	1				
		銅片	9	M13		910	28.0	1				
		M43	II	58		0.6						
		銅片	9	M13		1	7	3.8	1			
		銅片	9	M43		1	8	4.2	1			
		銅片	9	M13		1	11	3.1	1			
		銅片	9	M13		1	16	2.7	1			
		銅片	9	M13		1	22	1.5	1			
		銅片	9	M13		1	24	1.0	1			
		銅片	9	M43		II	47	0.4	1			
		銅片	9	M13		II	49	0.5	1			
		銅片	9	M43		II	50	0.4	1			
		銅片	9	M13		II	52	0.8	1			
		銅片	9	M13		II	68	0.2	1			
		銅片	9	M13		II	71	0.1	1			
		銅片	9	M13		II	85	0.5	1			
第-126	128	01	鎌倉資料	9		4,161.9	124	1~5	48	230		
		銅片	9	J15		2	52.8	1				
		銅片	9	J45		4	5.5	1				
		銅片	9	K13		17	10.1	6				
		銅片	9	K43		28	17.4	5				
		銅片	9	J15		5	4.2	1				
		銅片	9	J16		1	8.7	1				
		銅片	9	L44		157	84.1	1				

上白池8遺跡

種類	図面番号	名称	St	地階	柱径	遺跡番号	面積	取込	石質	付与	備考
			9	M13	730	27.0		1			
			9	M13	760	49.7		1			
		礎石	9	K11	1	10.1		5			
			9	L11	330	16.4		1			
		礎石	9	K13	12	7.0		1			
			9	L11	22	3.0		1			
			9	L44	168	11.8		1			
			9	M13	202	3.6		2			
第160	125	49	台敷	K45	21	26.6		1			
			9	M13	210	2.1		2			
		礎石	9	K45	32	2.7		5			
第162	125	50	石積	L12	1	121.8		1			
		礎石	9	L43	3	16.9		1			
			9	L44	176	11.9		1			
			9	M13	156	23.0		2			
			9	M43	162	24.2		1			
			9	M13	793	4.9		2			
		礎石	9	L43	13	5.2		1			
		礎石	9	L12	23	13.8		2			
		礎石	9	L43	25	132.4		1			
			9	L43	122	5.9		1			
			9	L13	132	9.6		1			
			9	L44	18	2.8		1			
			9	L11	100	12.2		3			
		礎石	9	L43	26	23.5		1			
		礎石	9	L12	94	3.2		1			
			9	M13	686	6.7		1			
		礎石	9	L43	119	20.2		1			
		礎石	9	L13	128	25.2		1			
			9	L43	133	5.6		1			
		礎石	9	L12	144	1.1		2			
			9	L43	156	7.1		1			
			9	L12	201	1.8		1			
			9	L43	212	3.6		1			
			9	L11	13	2.2		2			
			9	L11	27	14.6		1			
			9	L44	43	23.4		1			
			9	L41	135	1.5		1			
			9	L44	146	2.4		1			
			9	L41	14	1.2		2			
			9	M43	145	1.2		1			
			9	M13	280	6.1		2			
			9	M13	287	1.2		1			
			9	M13	411	5.6		1			
			9	M13	425	26.1		1			
			9	M43	289	1.7		1			
			9	M13	434	5.1		1			
			9	M43	436	15.4		1			
			9	M13	757	1.5		2			
			9	M13	944	4.6		1			
		礎石	9	L12	187	22.3		1			
			9	M13	806	4.7		1			
第160	125	42	台敷	L43	170	28.0		1			
		礎石	9	L43	178	23.5		1			
第161	125	51	台敷	L43	195	3.0		1			
			9	L12	233	246.4		1			
			9	L43	214	4.6		1			
			9	L41	166	3.7		1			
			9	M13	13	20.2		1			
			9	M43	614	26.3		1			

種類	図面番号	名称	St	地階	柱径	遺跡番号	面積	取込	石質	付与	備考
			9	M13		615	5.0		1		
			9	M43		601	10.7		1		
		礎石	9	L12		202	29.2		1		
			9	M13		110	11.1		1		
			9	M43		198	16.1		1		
			9	M13		267	13.9		1		
			9	M43		186	1.8		1		
			9	M13		325	12.9		1		
			9	M43		137	3.3		1		
			9	M13		407	6.9		1		
			9	M13		750	8.1		1		
			9	M13		956	1.7		1		
		礎石	9	L43		207	3.8		1		
		礎石	9	L44		4	10.6		1		
第159	121	31	二次掘り基台礎石	L41		9	5.8		1		
		礎石	9	L44		24	16.9		1		
		礎石	9	L41		61	2.5		1		
			9	M43		150	4.0		1		
		礎石	9	L41		65	1.1		1		
			9	L41		66	3.9		1		
			9	L44		7	2.2		1		
			9	M13		91	8.0		1		
			9	M43		147	13.7		1		
			9	M13		150	2.0		1		
			9	M43		240	1.7		1		
			9	M13		221	1.8		1		
			9	M13		323	1.1		1		
			9	M13		461	1.1		1		
			9	M13		694	1.0		1		
第160	125	46	台敷	L44		101	36.5		1		
		礎石	9	L41		156	15.5		1		
		礎石	9	L44		182	3.6		1		
			9	L41		185	1.6		1		
			9	M13		681	6.6		1		
		礎石	9	M13		12	5.7		1		
		礎石	9	M13		55	5.6		1		
			9	M43		301	1.8		1		
		礎石	9	M13		63	3.1		1		
		礎石	9	M43		71	5.2		1		
			9	M13		82	3.2		1		
		礎石	9	M43		92	21.9		1		
			9	M13		115	26.6		1		
			9	M13		141	11.8		1		
			9	M13		271	18.9		1		
			9	M13		659	43.2		1		
			9	M43		620	6.0		1		
		礎石	9	M13		129	11.0		1		
		礎石	9	M43		131	2.2		1		
		礎石	9	M13		140	26.4		1		
		礎石	9	M13		126	1.2		1		
		礎石	9	M13		209	6.4		1		
		礎石	9	M13		210	37.7		1		
			9	M43		290	5.7		1		
			9	M13		785	20.3		1		
第160	125	48	台敷	M43		271	36.4		1		
			9	M13		116	17.8		1		
		礎石	9	M43		232	2.5		1		
		礎石	9	M13		281	13.2		1		
		礎石	9	M13		268	6.1		1		
		礎石	9	M43		313	6.1		1		

棟号	種類	番号	材料名	St	数量	単位	面積	単価	積算	取付	位置	付与	備考
			硝子		L14	並	23	0.4	1				
			硝子		M43	並	37	0.7	1				
			硝子		M13	並	105	1.9	1				
			硝子		M13	並	308	8.0	1				
			硝子		M43	並	827	10.4	1				
			硝子		M13	並	253	2.3	1				
			硝子		M43	並	412	3.0	1				
			硝子		M13	並	422	11.4	1				
			硝子		M43	並	426	10.2	1				
			硝子		M13	並	211	1.1	1				
			硝子		M13	並	213	3.5	1				
			硝子		M13	並	305	2.7	1				
			硝子		M13	並	510	4.5	1				
			硝子		M43	並	247	1.0	1				
			硝子		M13	並	202	9.6	1				
			硝子		M43	並	450	2.0	1				
			硝子		M13	並	795	1.9	1				
			硝子		M43	並	448	5.0	1				
			硝子		M13	並	891	1.0	1				
			硝子		M13	並	692	5.2	1				
			硝子		M43	並	70	0.0	1				
第-106	132	36	複合資料	30			252.7	0.8	1	73	180		
			硝子	30	M47	並	39	3.7	1				
			硝子	30	M17	並	50	3.0	1				
			硝子	30	M17	並	78	2.4	1				
			硝子	30	M17	並	81	2.5	1				
			硝子	30	M17	並	40	16.2	1				
			硝子	30	M17	並	97	1.0	1				
			硝子	30	M17	並	21	1.3	1				
			硝子	30	M17	並	105	62.1	1				
			硝子	30	M17	並	109	5.2	1				
			硝子	30	M17	並	110	18.3	1				
			硝子	30	M17	並	116	16.1	1				
			硝子	30	M17	並	121	1.1	1				
			硝子	30	M17	並	143	2.2	1				
			硝子	30	M17	並	163	17.8	1				
			硝子	30	M17	並	28	0.3	1				
			硝子	30	M17	並	168	3.8	1				
			硝子	30	M17	並	168	13.3	1				
			硝子	30	M17	並	199	2.1	1				
			硝子	30	M17	並	6	3.7	1				
			硝子	30	M17	並	7	1.8	1				
			硝子	30	M17	並	17	6.6	1				
			硝子	30	M17	並	19	0.1	1				
			硝子	30	M17	並	27	0.7	1				
			硝子	30	M48	並	33	30.1	1				
			硝子	30	M18	並	10	0.8	1				
			硝子	30	M48	並	40	2.0	1				
			硝子	30	M18	並	91	2.2	1				
			硝子	30	M18	並	150	3.0	1				
			硝子	30	M18	並	25	8.2	1				
			硝子	30	M48	並	26	0.5	1				
			硝子	30	M48	並	24	0.3	1				
			硝子	30	M17	並	45	1.2	1				
			硝子	30	M17	並	11	0.0	1				
			硝子	30	M18	並	53	1.4	1				
			硝子	30	M48	並	20	0.6	1				
			硝子	30	M18	並	45	12.7	1				
			硝子	30	M18	並	147	5.7	1				
			硝子	30	M48	並	226	6.8	1				

棟号	種類	番号	材料名	St	数量	単位	面積	単価	積算	取付	位置	付与	備考
			硝子	30	M18	並	206	3.2	1				
			硝子	30	M48	並	215	9.3	1				
第-107	131	33	石積	30	M18	並	216	50.4	1				
			硝子	30	M18	並	23	0.8	1				
			硝子	30	M48	並	25	0.6	1				
-	132	37	複合資料	30			42.9	11	1	70	182		
			硝子	30	M48	並	5	0.5	1				
-	132	38	石積	30	M17	並	20	0.1	1				
			硝子	30	M48	並	25	14.8	1				
-	132	39	墨形石積	30	M18	I	6	2.5	1				
			硝子	30	M18	II	61	0.1	1				
			硝子	30	M17	並	100	2.8	1				
			硝子	30	M17	並	15	0.1	1				
			硝子	30	M48	並	14	9.4	1				
			硝子	30	M18	並	16	2.0	1				
			硝子	30	M48	並	4	1.0	1				
			硝子	30	M18	並	10	0.1	1				
			複合資料	30			20.4	14	7	480	194		
			硝子	30	M17	並	122	6.5	1				
			硝子	30	M18	I	1	1.3	1				
			硝子	30	M48	I	42	2.8	1				
			硝子	30	M18	II	12	5.3	1				
			硝子	30	M48	II	64	2.0	1				
			硝子	30	M18	III	05	1.5	1				
			硝子	30	M48	III	135	1.5	1				
			硝子	30	M18	III	25	1.2	1				
-	132	42	研習	30	M18	並	115	18.0	1				
			硝子	30	M18	I	8	6.1	1				
			硝子	30	M18	I	53	0.7	1				
			硝子	30	M48	II	237	16.7	1				
			硝子	30	M18	II	26	3.1	1				
			硝子	30	M48	I	11	1.8	1				
-	132	43	複合資料	30			271.2	32	1-5	77	189		
			硝子	30	M18	並	62	9.5	1				
			硝子	30	M17	並	101	7.5	1				
			硝子	30	M18	並	30	2.1	1				
			硝子	30	M48	並	61	10.7	1				
			硝子	30	M17	並	33	21.3	1				
			硝子	30	M48	並	8	0.3	1				
-	132	45	二次掘下層石積	30	M17	並	40	3.9	1				
			硝子	30	M17	並	26	12.5	1				
			硝子	30	M17	並	113	0.9	1				
			硝子	30	M18	並	26	3.2	1				
			硝子	30	M17	I	12	5.7	1				
			硝子	30	M17	I	33	2.3	1				
			硝子	30	M17	I	35	12.1	1				
			硝子	30	M17	II	49	1.1	1				
			硝子	30	M18	II	95	2.6	1				
			硝子	30	M18	II	95	0.8	1				
			硝子	30	M18	III	26	1.3	1				
			硝子	30	M18	III	92	0.0	1				
			硝子	30	M18	III	153	1.8	1				
			硝子	30	M48	III	68	3.7	1				
			硝子	30	M18	III	105	0.8	1				
			硝子	30	M48	III	113	5.4	1				
-	132	46	二次掘下層石積	30	M18	I	19	5.0	1				
			硝子	30	M48	I	64	2.1	1				
			硝子	30	M18	II	98	0.9	1				
			硝子	30	M18	II	62	2.6	1				
			硝子	30	M48	I	63	2.7	1				

群号	展覧	番号	名称	品名	数量	材質	寸法	重量	制作地	年代	備考
				CR8	重	20	0.8		1		
			銅片	SR4	T	65	4.9		1		
				CR7		89	2.9		1		
			銅片	SR8	重	22	1.1		1		
			銅片	SR4	重	54	0.5		1		
-	132	46	石鏝	CR7		101	9.8		1		
			銅片	CR7	重	26	0.7		1		
				CR8		232	12.8		1		
			銅片	CR4		71	11.1		1		
				CR8		154	21.6		5		
			銅片	CR4		213	15.3		1		
-	132	47	組合資料			25.1	3	1	78	190	
			銅片	SR7		80	1.7		1		
				SR8		103	10.1		1		
			銅片	SR7		82	14.3		1		
				SR7	T	5	24.2		1		
			銅片	CR		78	17.7		1		
				CR4		72	3.5		1		
				CR8		78	5.1		1		
				CR8		127	4.4		1		
				CR8		128	1.6		1		
			銅片	CR8		134	21.1		1		
			銅片	CR4		164	1.2		1		
			銅片	CR8		205	3.8		1		
群 140	132	52	組合資料			47.0	5	1	302		
群 140	131	33	石鏝	CR11		12	12.3		1		
			銅片	CR		5	4.0		1		
			銅片	CR7		175	9.0		1		
			銅片	CR5		14	2.0		1		
群 146	132	30	石鏝	CR4		1	14.6		1		
群 145	135	55	組合資料			21.3	30	1	652	285	
群 147	131	11	二次加工あぶ銅片	CR1		24	5.7		1		
			銅片	CR2		23	13.1		1		
			銅片	CR3		80	3.7		1		
			銅片	CR2	T	7	7.1		1		
				CR2		102	1.7		1		
			銅片	CR4		9	13.7		1		
			銅片	CR1	T	9	1.8		1		
			銅片	CR2		6	22.8		1		
群 148	131	48	石鏝	CR2	T	2	50.8		1		
			銅片	CR2	T	12	14.2		1		
				CR2	T	31	1.0		1		
-	135	70	複合銅片	CR5		26	3.6		1		
				CR3		1	1.1		1		
			銅片	CR2	T	23	0.5		1		
				CR3		8	0.6		1		
			銅片	CR2		6	1.1		1		
				CR2		2	1.5		1		
			銅片	CR2		104	3.5		1		
			銅片	CR2		106	4.9		1		
			銅片	CR2		113	8.9		1		
-	135	78	複合銅片	CR2		126	10.1		1		
132	77	複合銅片	CR2		201	14.1			1		
-	135	73	複合銅片	CR2		204	1.5		1		
			銅片	CR2	T	4	10.3		1		
			銅片	CR2	T	11	0.1		1		
			銅片	CR2	T	24	1.4		1		
			銅片	CR2	T	25	4.9		1		
			銅片	CR2	重	28	0.6		1		
			銅片	CR2	重	29	0.5		1		

群号	展覧	番号	名称	品名	数量	材質	寸法	重量	制作地	年代	備考
-	135	79	複合銅片	SR1	T	1	14.1		1		
群 146	135	56	複合資料	CR2		CR2	16	1.2			
群 147	133	11	二次加工あぶ銅片	CR2		CR2	98	9.0			
			銅片	CR2	T	1	32	0.9			
-	135	80	複合銅片	CR2	T	24	21.7		1		
群 147	133	16	二次加工あぶ銅片	CR2		CR2	2	9.7			
			銅片	CR2	T	13	4.5		1		
			銅片	CR4	T	10	5.2		1		
群 142	133	2	二次加工あぶ銅片	CR1		CR1	1	29.1			
			銅片	CR2		CR2	21	3.0			
群 147	133	12	二次加工あぶ銅片	CR2		CR2	47	10.0			
			銅片	CR2		CR2	48	2.5			
			銅片	CR2		CR2	156	3.3			
			銅片	CR2		CR2	184	2.9			
			銅片	CR2		CR2	21	0.5			
群 142	133	13	二次加工あぶ銅片	CR3		CR3	11	16.0			
群 147	133	9	二次加工あぶ銅片	CR2		CR2	2	12.9			
群 147	133	15	二次加工あぶ銅片	CR2		CR2	18	15.4			
群 146	136	57	複合資料	CR2		CR2	412.9	33	1	403	287
			銅片	CR2		CR2	18	5.8			
			銅片	CR2		CR2	69	1.5			
			銅片	CR2	T	9	3.5		1		
			銅片	CR2	T	1	14.8		1		
			銅片	CR2	T	1	17.4		1		
群 146	133	28	石鏝	CR2		CR2	42	12.0			
			銅片	CR2		CR2	24	9.3			
			銅片	CR2	T	1	18.6		1		
			銅片	CR2	T	10	12.9		1		
			銅片	CR2	T	28	3.0		1		
			銅片	CR2	T	33	7.8		1		
			銅片	CR2	T	35	11.4		1		
群 142	133	10	二次加工あぶ銅片	CR2		CR2	12	12.4			
			銅片	CR2		CR2	31	11.1			
			銅片	CR2		CR2	11	3.1			
			銅片	CR3		CR3	62	10.9			
			銅片	CR3	T	1	12.3		1		
			銅片	CR2	T	21	14.4		1		
			銅片	CR2	T	25	2.1		1		
			銅片	CR4		CR4	26	6.6			
群 146	131	59	石鏝	CR1		CR1	6	21.5			
			銅片	CR2		CR2	101	2.6			
			銅片	CR2		CR2	120	2.7			
			銅片	CR2		CR2	125	3.1			
			銅片	CR2		CR2	124	4.1			
			銅片	CR2		CR2	129	8.5			
			銅片	CR2		CR2	208	2.6			
			銅片	CR2	T	12	36.8		1		
			銅片	CR2	T	34	1.9		1		
			銅片	CR2		CR2	9	3.2			
群 146	131	47	石鏝	CR2		CR2	10	11.6			
			銅片	CR2		CR2	12	6.7			
			銅片	CR2		CR2	15	9.9			
			銅片	CR2		CR2	20	6.1			
			銅片	CR2		CR2	19	13.8			
136	83	複合資料	CR2		CR2	102.1	9	1	471	295	
			銅片	CR2		CR2	9	23.9			
			銅片	CR2		CR2	15	6.7			
			銅片	CR2		CR2	52	2.9			

上白滝8遺跡

群別	区域	番号	発掘品名	St	発掘区	位置	面積(m ²)	面積	発掘日	石質	付与区	備考
			石核	P12	I	1	29.2	1				
			削片	P13		42	3.9	1				
			石核	P12		60	22.3	1				
-	136	82	磨石剥片	Q12	T	22	3.0	1				
			削片	P12		28	5.6	1				
			削片	P13		5	2.4	1				
	136	83	接合資料	P12		54.3	3	271	428	343		
群-126	131	38	石核	P12		3	15.4		磨石			
	136	82	削片	P12		20	5.8		磨石			
-	136	84	削片	P12		95	2.7		磨石			
-	136	86	接合資料	P12			87.5	8	1	450	351	
			石核	P12		1	27.0	1				
			削片	P12	T	11	11.5	1				
			削片	P13	I	3	8.4	1				
			削片	P12		129	1.7	1				
			削片	P13		11	3.8	1				
群-127	132	4	二次加工ある削片	P12		206	7.5	1				
			削片	P12		209	5.5	1				
			削片	P12		9	22.1	1				
群-126	137	61	接合資料	P12-P13			2,030.0	40	3	460	290	
			削片	Q12	I	1	103.4	1				
			削片	P12		1	26.8	1				
			削片	P12		22	56.8	1				
			削片	P12		2	18.2	1				
			削片	P12		13	272.5	1				
			削片	P12		25	61.5	1				
			削片	P12		36	25.1	1				
			削片	P12		36	22.6	1				
			削片	P12		38	16.8	1				
			削片	P12		62	44.4	1				
-	137	87	磨石剥片	P12		71	60.1	1				
			削片	P12		62	14.2	1				
			削片	P12		10	6.0	1				
			削片	Q12		12	2.9	1				
			削片	P12		15	836.9	1				
			削片	P13		20	3.9	1				
群-126	134	30	石核	P12		6	2.1	1				
			削片	Q11		13	3.3	1				
			削片	Q12		10	28.8	1				
			削片	Q12		12	7.0	1				
			削片	P13		9	4.3	1				
			削片	Q12		71	2.1	1				
			削片	Q12		78	26.2	1				
			削片	P12		79	17.7	1				
			削片	Q12		137	4.6	1				
			削片	Q12		62	23.6	1				
			削片	Q12		145	1.2	1				
			削片	Q12		45	20.1	1				
			削片	Q12		200	6.6	1				
			削片	Q12		122	6.9	1				
			削片	Q12	I	14	4.3	1				
			削片	P11		6	33.5	1				
			削片	P11		8	29.4	1				
群-126	133	32	石核	S11		1	34.9	1				
			削片	S11		3	8.8	1				
群-126	132	31	石核	S11		4	22.1	1				
			削片	S11		15	4.1	1				
			削片	S11		22	13.9	1				
			削片	S11		23	2.2	1				
			削片	S11		31	7.1	1				

群別	区域	番号	発掘品名	St	発掘区	位置	面積(m ²)	面積	発掘日	石質	付与区	備考
群-126	135	88	接合資料	I1-I12			6,132.1	122	1-5	455	289	
			削片	Q13		21	12.6	1				
			削片	Q13		28	1.0	1				
			削片	P12		22	31.1	1				
			削片	P12		27	41.8	1				
			削片	P12		60	9.0	1				
			削片	P12		44	10.0	1				
			削片	P12		51	866.2	1				
			削片	Q13		50	9.2	1				
群-127	132	17	二次加工ある削片	P12		12	56.2	1				
群-127	130	21	二次加工ある削片	P12		12	56.2	1				
			削片	Q12		60	307.7	1				
			削片	P13		64	11.0	1				
			削片	Q12		25	409.6	1				
			削片	Q11		7	11.6	1				
			削片	Q12		102	1.7	1				
			削片	Q12		8	124.2	1				
			削片	Q12	T	16	8.3	1				
			削片	P12		9	14.4	1				
			削片	Q12		186	6.3	1				
			削片	P12		10	31.5	1				
			削片	P12		23	8.7	1				
			削片	Q12	I	11	8.4	1				
			削片	P12		25	21.8	1				
群-126	134	46	石核	P12		29	200.1	1				
			削片	P12		22	2.7	1				
			削片	P12		58	223.7	1				
			削片	P12		59	2.0	1				
			削片	P12		63	229.5	1				
			削片	Q12		131	36.2	1				
群-126	134	43	石核	P12		60	135.7	1				
			削片	P12		45	1.9	1				
			削片	P12		53	233.7	1				
			削片	P12		54	60.1	1				
			削片	Q11		5	8.1	1				
			削片	Q11		8	68.2	1				
			削片	Q12	I	6	10.0	1				
			削片	P12		56	122.1	1				
			削片	P12		61	7.5	1				
			削片	P12		64	109.5	1				
			削片	P12	T	12	3.8	1				
-	129	90	磨石剥片	P12		14	12.2	1				
			削片	P12		15	10.6	1				
			削片	P12		1	20	8.1	1			
群-127	133	7	二次加工ある削片	P12		13	9.1	1				
			削片	P13		13	4.5	1				
			削片	P12		16	4.1	1				
			削片	P13		12	12.9	1				
			削片	Q11		3	7.2	1				
			削片	P12		30	5.8	1				
			削片	P12		25	2.0	1				
			削片	Q11		6	9.9	1				
			削片	P13		28	3.1	1				
			削片	P12	T	6	11.2	1				
			削片	P13		34	12.8	1				
			削片	Q11		16	27.3	1				
			削片	P12		45	18.8	1				
群-126	132	24	二次加工ある削片	P12		52	21.0	1				
			削片	P12		54	5.0	1				
			削片	P13		55	21.5	1				

群号	国名	番号	名称	St	数量	単位	重量	寸法	材質	寸法	備考
			銅片	17	362		604	14.3	5		
			銅片		362	1	17	8.2	4		
			銅片		362		1	20	4.1	1	
			銅片		362		99	10.1	3		
			銅片		362	1	28	43.2	4		
			銅片	17	333		174	14.1	1		
			銅片		362	1	29	3.7	4		
			銅片		362	1	20	22.8	5		
			銅片		362	1	35	11.5	4		
			銅片		362	1	47	15.1	1		
			銅片		362	1	45	3.9	1		
			銅片	17	331		244	9.7	1		
			銅片		362	1	46	1.7	1		
			銅片	17	331		234	4.0	5		
			銅片		362	1	31	11.5	1		
			銅片	17	363		92	8.0	5		
			銅片	17	331		154	51.2	1		
			銅片	17	331		221	7.5	5		
			銅片	17	332		207	23.1	5		
			銅片	17	332		578	11.1	5		
			銅片	17	332		102	26.1	3		
			銅片	17	330		111	11.4	1		
			銅片	17	363		4	3.4	4		
			銅片	17	331		19	6.1	1		
			銅片		331	1	24	4.1	4		
			銅片	17	331		25	4.4	1		
			銅片	17	333		38	3.7	1		
			銅片	17	331		107	3.0	1		
			銅片	17	331		109	5.1	1		
			銅片	17	363		162	1.6	4		
			銅片	17	331		185	4.5	1		
			銅片	17	331		234	2.5	4		
			銅片	17	332		206	11.5	4		
			銅片調整石盤	17	333		212	210.1	1		
			銅片		331	1	1	98.8	1		
			銅片	17	331		278	4.2	5		
			銅片	17	363		279	5.5	4		
			銅片	17	331		290	9.3	1		
			銅片		331	1	3	4.0	4		
			銅片		331	1	1	3.3	1		
			銅片		331	1	20	1.2	4		
			銅片	17	332		676	6.2	1		
			銅片		332	1	15	3.1	1		
			銅片	17	363		7	192.9	1		
			銅片		363	1	80	28.3	3		
			銅片		363	1	94	19.9	3		
			銅片		363	1	95	140.5	3		
第 253	109	373	複合資料	17			30.0	5	1		2648
第 219	151	161	銅石牙輪歯片	17	161		902	9.9	1		
			銅石牙輪歯片		161	1	230	2.7	1		
第 218	119	111	銅石牙輪	17	161		1	5	14.0	1	
第 219	151	168	銅石牙輪歯片	17	161		61	1.6	1		
			銅石牙輪歯片		164	1	323	1.8	1		
第 258	108	371	複合資料	17			15.3	4	1		2643
第 221	152	183	銅石牙輪歯片	17	164	1	306	1.1	1		
			銅石牙輪歯片		163	1	710	7.4	1		
第 216	149	106	銅石牙輪	17	164		40	4.1	1		
第 212	152	214	銅石牙輪歯片	17	164		215	2.7	1		
第 218	109	373	複合資料	17			10.2	3	1		2644
第 222	153	218	銅石牙輪歯片	17	164		1	27	3.4	1	
第 219	119	105	銅石牙輪	17	163		140	6.8	1		
第 264	166	373	複合資料	17			17.9	2	1		2744
第 219	119	109	銅石牙輪	17	163		853	9.2	1		
第 219	151	171	銅石牙輪歯片	17	163		1	8	8.6	1	
第 264	170	374	複合資料	17			16.3	7	1		2678
第 216	149	111	銅石牙輪	17	161		911	2.2	1		
第 223	153	229	銅石牙輪歯片	17	164	1	17	4.1	1		
			銅石牙輪歯片		161	1	502	1.2	1		
第 219	151	162	銅石牙輪歯片	17	164	1	118	1.6	1		
			銅石牙輪歯片		161	1	233	1.5	1		
第 221	152	188	銅石牙輪歯片	17	161		69	0.3	1		
			銅石牙輪歯片		161	1	144	0.2	1		
第 254	120	375	複合資料	17			28.6	6	1-5		152 1184
第 216	149	122	銅石牙輪	17	164		248	19.3	1		
第 219	151	160	銅石牙輪歯片	17	161	1	16	4.3	5		
第 219	151	126	銅石牙輪歯片	17	164		107	2.7	5		
第 222	152	215	銅石牙輪歯片	17	164		635	0.4	1		
			銅石牙輪歯片		164	1	427	0.8	1		
第 219	151	154	銅石牙輪歯片	17	161		116	1.1	1		
第 252	120	376	複合資料	17			28.9	5	1-5		1645
第 219	151	160	銅石牙輪歯片	17	163		154	2.3	1		
			銅石牙輪歯片		163	1	60	0.9	5		
第 221	152	192	銅石牙輪歯片	17	163		769	1.4	1		
第 216	119	124	銅石牙輪	17	161		90	11.1	5		
			銅石牙輪		163	1	231	13.2	5		
第 262	120	377	複合資料	17			21.7	6	1		3631
第 212	149	125	銅石牙輪	17	163	1	1	52.4	1		
第 236	151	173	銅石牙輪歯片	17	161		283	10.8	1		
第 220	151	170	銅石牙輪歯片	17	161		110	0.8	1		
第 223	151	172	銅石牙輪歯片	17	164	1	213	1.4	1		
			銅石牙輪歯片		161	1	219	1.1	1		
			銅石牙輪歯片		164	1	114	2.2	1		
第 256	120	378	複合資料	17			63.7	4	1		3634
第 221	152	190	銅石牙輪歯片	17	164	1	1	1.1	1		
第 212	150	127	銅石牙輪	17	161	1	8	59.2	1		
第 218	151	166	銅石牙輪歯片	17	161	1	31	2.3	1		
第 221	152	191	銅石牙輪歯片	17	164	1	36	2.8	1		
第 256	120	379	複合資料	17			115.7	6	1		3643
第 212	150	128	銅石牙輪	17	164	1	7	191.0	1		
第 222	152	204	銅石牙輪歯片	17	163		276	14.1	1		
第 224	153	221	銅石牙輪歯片	17	163		758	4.6	1		
			銅石牙輪歯片		17	165	607	12.4	1		
第 238	122	178	銅石牙輪歯片	17	164	1	65	0.9	1		
			銅石牙輪歯片		17	165	696	2.7	1		
第 267	120	380	複合資料	17			20.1	3	1-5		1641
第 218	150	135	銅石牙輪	17	164		431	16.3	1		
第 218	151	163	銅石牙輪歯片	17	161	1	504	1.3	5		
			銅石牙輪歯片		164	1	206	0.5	5		
第 267	121	184	複合資料	17			1.1	2	5		2654
第 219	151	161	銅石牙輪歯片	17	161		401	2.3	5		
第 218	150	128	銅石牙輪歯片	17	161		916	1.8	5		
第 267	121	182	複合資料	17			5.6	1	1		2656
第 219	151	127	銅石牙輪歯片	17	164		177	1.5	1		
			銅石牙輪歯片		161	1	216	0.8	1		
第 219	151	125	銅石牙輪歯片	17	164	1	34	2.1	1		
第 219	151	128	銅石牙輪歯片	17	163		243	1.2	1		
第 267	121	183	複合資料	17			11.7	2	1		2657
第 219	151	169	銅石牙輪歯片	17	161	1	198	6.9	1		
第 221	152	191	銅石牙輪歯片	17	164		144	4.8	1		
第 268	121	184	複合資料	17			36.1	3	1		2658

上白泥 8 遺跡

棟目	区域	番号	材料名	Stb	数量	単位	延床面積	重量	積立数	品質	付与区	備考
第-220	152	177	縦石切形部	17	164	個	209	9.0	1			
第-220	153	176	縦石切形部	17	164	個	1201	13.2	1			
第-218	150	142	縦石切形部		164	個	1	20	5.6	1		
					164	個	1	31	8.6	1		
第-272	152	201	縦石切形部		164	個	1	33	4.1	1		
第-250	171	303	複合資料	17				13.2	11	1	-	2051
第-220	153	174	縦石切形部	17	164	個	258	9.7	1			
					164	個	229	1.9	1			
					164	個	433	0.7	1			
第-222	152	212	縦石切形部	17	164	個	796	1.6	1			
					164	個	8	3.5	1			
第-272	152	210	縦石切形部		164	個	1	20	3.1	1		
第-220	153	171	縦石切形部		164	個	1	25	12.4	1		
第-216	150	139	縦石切形部		164	個	1	41	2.0	1		
					164	個	1	212	0.9	1		
					164	個	403	1.3	1			
第-222	152	228	縦石切形部		164	個	1	238	3.2	1		
第-250	171	366	複合資料	17				11.2	3	1-3		2058
第-218	151	148	縦石切形部		164	個	1	425	5.4	1		
					164	個	1	3	1.4	5		
第-272	152	192	縦石切形部		164	個	1	405	4.4	1		
第-209	171	367	複合資料	17				16.3	5	1	-	2059
第-216	151	147	縦石切形部		164	個	6	4.1	1			
					164	個	357	3.2	1			
					164	個	764	4.1	1			
第-221	152	196	縦石切形部		164	個	1	24	4.8	1		
第-229	154	217	縦石切形部		164	個	1	20	0.1	1		
第-209	171	368	複合資料	17				10.3	5	1	-	2060
第-222	152	196	縦石切形部		164	個	60	4.3	1			
第-222	153	224	縦石切形部		164	個	134	2.4	1			
第-222	152	211	縦石切形部		164	個	1	51	0.7	1		
第-272	152	200	縦石切形部		164	個	1	126	0.7	1		
					164	個	1	226	2.4	1		
第-220	157	389	複合資料	17-18				221.9	12	1		2062
第-222	152	231	縦石切形部	18	162	個	1	102.5	1	1		
					162	個	2	2.9	1			
					162	個	1	32.1	1			
第-222	153	250	縦石切形部		162	個	362	4.4	1			
					162	個	756	1.9	1			
					162	個	1	11.3	1			
第-221	152	193	縦石切形部		164	個	1	21	2.0	1		
第-222	152	202	縦石切形部		164	個	226	5.2	1			
第-222	153	149	縦石切形部		163	個	11	6.8	1			
					163	個	5	2.5	1			
第-222	152	203	縦石切形部		162	個	890	3.5	1			
第-229	174	48	縦石切形部		163	個	1	48.9	1			
第-271	171	390	複合資料	17				22.2	2	1	-	2063
第-222	152	232	縦石切形部		164	個	705	12.9	1			
第-222	152	232	縦石切形部		164	個	1	206	5.2	1		
第-272	172	391	複合資料	18-12				977.5	32	1	101	1003
			洞石		162	個	1	11.3	1			
			洞石		161	個	1	6.4	1			
			洞石		164	個	293	36.2	1			
			洞石		161	個	566	0.8	1			
			洞石		164	個	1	207	5.8	1		
			洞石		161	個	97	81.4	1			
			洞石		164	個	324	72.7	1			
			洞石		164	個	680	17.0	1			
			洞石		161	個	702	15.0	1			
			洞石		164	個	1	208	11.2	1		

棟目	区域	番号	材料名	Stb	数量	単位	延床面積	重量	積立数	品質	付与区	備考
			洞石		161	個	108	20.7	1			
			洞石		164	個	112	47.7	1			
			縦長洞石		161	個	199	6.8	1			
					161	個	123	8.7	1			
			洞石		164	個	175	43.7	1			
					161	個	486	9.9	1			
			洞石		164	個	276	8.1	1			
			洞石		161	個	460	32.4	1			
					162	個	238	126.3	1			
第-220	150	329	石室		161	個	471	88.8	1			
					161	個	159	11.4	1			
					161	個	1	199	9.9	1		
					164	個	1	200	2.0	1		
			洞石		164	個	426	32.3	1			
			洞石		161	個	1132	12.6	1			
第-222	152	198	縦石切形部		162	個	425	9.2	1			
第-222	152	197	縦石切形部		163	個	1	5	0.9	1		
					163	個	130	3.1	1			
			洞石		163	個	320	8.5	1			
					164	個	168	128.9	1			
第-219	151	130	縦石切形部		163	個	1	26	2.0	1		
			石室		162	個	1	8	29.5	1		
第-271	172	393	複合資料	17-19				1,005.4	44	1-5	155	1383
第-216	119	110	縦石切形		163	個	2	28.9	5			
			石室		163	個	4	27.9	1			
第-220	150	328	石室		164	個	82	107.8	5			
					161	個	22	22.1	5			
					164	個	1	284	54.6	5		
第-220	151	311	石室		161	個	180	18.5	1			
					161	個	35	23.0	5			
第-220	151	175	縦石切形部		161	個	1	225	8.7	1		
					164	個	1	26	2.2	1		
第-222	152	209	縦石切形部		161	個	318	2.1	1			
			洞石		161	個	637	25.9	1			
					161	個	1062	16.6	1			
			洞石		161	個	981	12.4	5			
			洞石		164	個	205	13.2	1			
第-221	150	326	石室		161	個	308	65.5	1			
					164	個	706	64.0	5			
					164	個	1058	26.2	1			
第-217	149	126	縦石切形		161	個	289	12.3	1			
					161	個	1	2	29.9	5		
第-221	152	188	縦石切形部		161	個	341	4.7	1			
					161	個	297	6.0	5			
					161	個	224	1.7	1			
第-222	151	213	縦石切形部		164	個	201	3.7	5			
第-221	150	325	石室		161	個	701	111.1	1			
			洞石		164	個	716	11.5	5			
第-220	151	310	石室		161	個	994	12.7	1			
					161	個	75	12.2	1			
第-222	158	320	「次郎丁」系洞石		161	個	1287	70.5	5			
					161	個	1	201	98.0	5		
第-219	151	122	縦石切形部		164	個	1	39	1.5	5		
					161	個	114	1.0	5			
			石室		164	個	1279	20.9	5			
					161	個	421	6.2	5			
			洞石		164	個	780	19.9	5			
			洞石		161	個	1	282	5.4	5		
					161	個	419	4.7	5			
			縦長洞石		164	個	1	286	19.2	5		

上白池8遺跡

探洞	探洞番号	探検品名	St	探検回数	探検日	探検時間	探検人数	探検内容	探検結果	探検場所	探検時期
		銅貨	17	165	121	4.1	5				
		銅貨	17	165	1	22	51.4	5			
		銅貨	17	165	1	27	11.6	5			
		銅貨	17	165	1	38	8.7	5			
		銅貨	17	167	1	25	194.5	5			
第-221	152	164	銅石分銅断片	17	164	1	781	7.9	5		
			銅貨	17	164	1	102	6.7	5		
第-222	152	232	銅石分銅断片	17	164	1	120	6.5	5		
			銅貨	17	166	1	67	4.7	5		
			銅貨	17	209	1	9	2.0	5		
第-280	178	103	鉄合資料	17	119		1,154.0	61	1~3	152	1128
		石炭	17	163	1	15	83.1	5			
			17	164	1	1131	5.5	5			
			17	164	1	65	12.8	5			
			17	164	1	66	18.8	5			
		石炭	17	163	1	28	23.7	5			
		石炭	17	164	1	20	94.9	5			
			17	164	1	446	110.3	5			
			17	164	1	285	16.4	5			
		銅貨	17	164	1	83	37.4	5			
			17	164	1	259	8.0	5			
		銅貨	17	164	1	18	5.6	5			
			17	164	1	219	58.6	5			
		石炭	17	164	1	54	69.2	5			
			17	164	1	24	21.7	5			
		石炭	17	164	1	60	7.2	5			
			17	164	1	560	11.3	5			
			17	165	1	15	28.4	5			
			17	165	1	75	17.4	5			
		石炭	17	164	1	264	97.8	5			
			17	164	1	1256	21.0	5			
		銅貨	17	164	1	355	5.2	5			
		銅貨	17	164	1	827	21.7	5			
		銅貨	17	164	1	256	19.3	5			
			17	164	1	262	23.3	5			
		銅貨断片	17	164	1	282	27.8	1			
			17	164	1	283	117.8	5			
			17	164	1	681	92.1	5			
		銅貨	17	164	1	747	24.6	5			
		銅貨	17	164	1	825	20.7	1			
		銅貨	17	164	1	1094	16.5	5			
		銅貨	17	164	1	1098	7.7	5			
		銅貨	17	164	1	1053	5.0	5			
		銅貨	17	164	1	273	19.6	5			
第-223	152	236	銅石分銅断片	17	164	1	432	1.2	5		
第-214	153	144	銅石分銅断片	17	162	1	71	16.6	5		
		銅貨	17	162	1	108	11.1	5			
		石炭	17	162	1	376	10.8	5			
			17	162	1	328	16.7	5			
		石炭	17	162	1	223	16.7	5			
第-217	150	130	銅石分銅	17	161	1	1	20.9	5		
第-221	152	167	銅石分銅断片	17	161	1	23	23.8	5		
第-214	149	119	銅石分銅	17	164	1	612	8.2	5		
		銅貨	17	165	1	111	19.5	1			
		銅貨	17	169	1	100	49.0	5			
第-281	179	112	鉄合資料	17	118		1,256.0	74	1~3	127	1088
		銅貨			CG5	1	9	6.6	1		
					184	1	121	2.9	1		
					22	1	88.9	1	1		
		銅貨			CG5	1	4	89.6	1		

探洞	探洞番号	探検品名	St	探検回数	探検日	探検時間	探検人数	探検内容	探検結果	探検場所	探検時期
		銅貨	17	164	1	23	22.2	5			
		銅貨	17	163	1	10	4.3	5			
		銅貨	17	164	1	28	108.9	1			
		銅貨	17	164	1	26	1.0	5			
第-241	163	157	石炭	17	164	1	82	8.6	1		
			17	164	1	225	23.7	1			
			17	164	1	106	6.3	1			
			17	164	1	561	18.6	1			
			17	164	1	1000	7.5	1			
			17	164	1	131	14.6	1			
			17	164	1	132	22.5	1			
			17	164	1	134	1.7	1			
			17	164	1	182	5.5	1			
		銅貨	17	164	1	92	2.4	1			
		石炭	17	164	1	216	3.2	1			
			17	164	1	247	4.9	1			
第-221	152	182	銅石分銅断片	17	164	1	5	6.9	1		
第-226	153	220	銅石分銅断片	17	164	1	6	4.7	1		
		銅貨			184	1	20	1.3	1		
					184	1	123	2.9	1		
					183	1	20	52.4	1		
		銅貨			184	1	21	18.2	1		
					184	1	168	6.1	1		
		銅貨			184	1	27	11.5	1		
					184	1	32	1.5	1		
					17	164	1	1127	16.0	1	
		銅貨			184	1	28	1.3	1		
		銅貨			184	1	29	4.0	1		
		銅貨			184	1	31	1.3	1		
					184	1	123	0.4	1		
		銅貨			184	1	33	1.6	1		
		銅貨			184	1	35	0.8	1		
		銅貨			184	1	65	3.8	1		
		銅貨			184	1	63	6.1	1		
		銅貨			184	1	96	1.7	1		
					184	1	109	5.1	1		
					184	1	117	1.2	1		
		銅貨			184	1	112	0.8	1		
		銅貨			184	1	104	0.8	1		
					164	1	218	6.2	1		
					162	1	252	3.1	1		
		銅貨			184	1	126	1.0	1		
第-221	152	181	銅石分銅断片	16	162	1	5	3.2	1		
		銅貨			183	1	29	0.9	1		
		銅貨			184	1	31	11.7	1		
					17	164	1	104	27.2	1	
		銅貨			184	1	54	30.4	1		
第-222	153	216	銅石分銅断片	16	162	1	56	6.5	1		
		銅貨			183	1	140	0.8	1		
		銅貨			17	162	1	14	117.2	1	
		銅貨			17	161	1	273	7.5	1	
		銅貨			17	161	1	804	36.7	1	
第-214	151	120	銅石分銅断片	17	164	1	14	4.3	1		
		銅貨			164	1	120	21.2	1		
					164	1	134	10.5	1		
					164	1	137	1.1	1		
		銅貨			164	1	966	0.8	1		
		銅貨			17	165	1	204	3.6	1	
					17	165	1	89	5.2	1	
					17	165	1	1212	17.3	1	

群号	国産	番号	器物名	St	種類	材質	器高cm	口径cm	重量	取付部	石質	打定規	検合表
			銅片	17	K52		299	1.0	1				
			銅片	15	K57		47	1.7	1				
			銅片		銅上		119	6.9	1				
			銅片	銅	K50	T	9	21.0	1				
			銅片	銅	L58	上	24	3.4	1				
			銅片	銅	L58	T	14	101.0	1				
			銅片	銅	L56	上	23	2.7	1				
			銅片	銅	M55	T	13	0.8	1				
			銅片	銅	M58	T	4	2.4	1				
			銅片		銅上		21	108.4	1				
第-250	179	401	統合資料	17				25.6	11	1	122	1062	
第-218	150	140	磁石片断断片	17	H61		115	3.2	1				
第-214	149	112	磁石片断	H61	T	1	8.7	1					
第-225	153	227	磁石片断断片	H64	T	7	2.7	1					
第-216	151	167	磁石片断断片	H65	T	6	3.1	1					
				H65	上	145	1.0	1					
				H65	上	145	0.5	1					
第-223	154	225	磁石片断断片	H64	T	10	1.5	1					
				H61	上	261	0.6	1					
第-218	150	142	磁石片断断片	H61	T	11	1.2	1					
				H64	T	12	1.9	1					
				H61	T	13	1.5	1					
第-283	180	403	統合資料	17-17			4,092.1	67	1-1	1	160	1130	
			銅片	17	H43		23	4.3	5				
			銅片	17	H64		117	2.7	1				
			銅片	17	H61		118	14.6	5				
			銅片		H61	T	385	2.0	5				
			銅片	17	H62		41	232.0	5				
第-213	140	337	石片	17	H61		105	150.8	5				
					H64	T	216	124.7	5				
			銅片	17	H61		214	59.4	5				
				17	H64		930	5.2	5				
				17	H61		1209	8.8	5				
			銅片	17	H61		263	11.3	5				
			磁石銅片	17	H61		277	25.3	5				
					H61	T	315	35.7	5				
			石片	17	H64		178	6.9	5				
				17	H61		336	1.6	5				
			銅片	17	H64		329	51.9	5				
			石片	17	H61		295	29.7	5				
				17	H64		935	28.2	5				
			銅片	17	H61		333	12.8	5				
				17	H65		266	20.9	5				
			銅片	17	H61		356	60.6	5				
			磁石銅片	17	H61		431	24.9	5				
				17	H60		349	18.5	5				
			磁石銅片	17	H61		455	11.0	1				
				17	H64		1086	42.6	5				
					H61	T	379	5.8	5				
			銅片	17	H61		713	14.9	1				
			銅片	17	H61		793	94.6	5				
			銅片	17	H61		936	88.2	5				
			石片	17	H64		1023	25.9	5				
					H61	T	381	16.9	5				
					H61	T	392	0.7	5				
					H61	T	387	1.0	5				
			磁石銅片	17	H64		1143	12.6	5				
			銅片		H61	T	377	18.5	5				
					H61	T	378	5.3	5				
			銅片		H61	T	380	29.3	5				

			銅片		H61	T	383	4.5	5			
					H61	T	105	57.1	5			
			銅片		H61	T	381	1.4	5			
			銅片		H61	T	380	2.1	5			
					H61	T	106	32.8	5			
			銅片		H61	T	388	8.9	5			
			銅片	17	H62		185	13.9	5			
			銅片	17	H65		245	82.1	5			
			石片	17	H63		317	6.7	5			
				17	H61		313	9.7	5			
				17	H61		314	40.2	5			
				17	H61		125	20.0	5			
				17	H63		311	251.8	5			
			銅片	17	H63		406	40.5	5			
					H61	T	137	2.4	5			
					H61	T	159	13.5	5			
			銅片	17	H61		498	25.9	5			
				17	H63		494	72.7	5			
			石片		H61	T	126	5.8	5			
				17	H63		313	51.1	5			
				17	H63		448	8.4	5			
				17	H63		361	3.9	5			
				17	H64		137	20.4	5			
			銅片	17	H65		1,145	6.1	5			
			石片	17	H65		1370	12.5	5			
第-591	283	123	石片断片	K70	T	1	2,131.2	5				
			銅片	27	H61		956	8.5	5			
					H61	T	40	58.9	5			
			銅片		中野川 石片		108	215.8	5			
			銅片		中野川 石片		104	96.5	5			
第-282	181	606	統合資料	17			633.9	16	1-5	151	1183	
第-282	156	325	石片	17	H64		79	36.1	5			
				17	H61		830	12.8	5			
			石片	17	H61	T	11	61.3	1			
				17	H61		1050	22.1	5			
第-237	161	330	石片断片	H61	T	53	1396.8	1				
第-236	161	343	銅片	17	H64		26	9.9	5			
				17	H61		262	51.6	5			
			銅片	17	H64		261	8.1	5			
				17	H61		407	1.2	5			
			石片	17	H64		389	9.7	5			
					H61	T	422	8.8	5			
第-236	161	332	石片	17	H61		822	65.1	5			
				17	H61		939	16.8	5			
				17	H61		1046	8.1	5			
第-233	159	332	石片	17	H61	T	67	302.7	5			
					取付部		15	21.4	1			
第-286	182	402	統合資料	17-19-19			1,308.9	50	9+4-5	156	1183	
			石片	17	H61		91	5.2	5			
			銅片	17	H61		214	4.7	5			
			銅片	17	H61		233	1.5	1			
			銅片	17	H61		301	2.6	5			
			銅片	17	H64		409	12.1	5			
				17	H61		746	6.6	5			
第-232	158	312	二次加工赤心銅片	17	H64		7163	16.8	5			
			銅片		H61	T	271	55.6	5			
			銅片		H64	T	272	48.6	5			
			銅片		H61	T	277	0.7	5			
			石片	18	H60		132	8.5	5			
				17	H64		408	10.8	5			

上白池8遺跡

探洞	探洞番号	探検品名	Stb	発掘区	探検品名	数量	測定値	石質	付与区	備考
		銅片	17	363	Ⅲ	156	62.9	5		
		銅片	17	364	Ⅲ	147	561.7	5		
		銅片	17	365	Ⅰ	7	7.2	5		
		銅片	17	366	Ⅰ	25	8.5	5		
		銅片	17	364	Ⅲ	1114	8.9	5		
B-251	159	353	77号	17	361	Ⅲ	195	119.7	5	
				17	364	Ⅲ	430	31.2	5	
		銅片	17	364	Ⅰ	74	9.2	5		
		銅片	17	364	Ⅲ	134	3.0	5		
		銅片	17	365	Ⅲ	190	22.9	5		
		石刃	17	361	Ⅲ	164	9.9	5		
				17	365	Ⅲ	1201	5.0	5	
B-252	159	326	77号	17	361	Ⅲ	174	15.4	5	
				17	365	Ⅲ	81	32.2	5	
		銅片	17	365	Ⅲ	237	30.8	5		
		銅片	17	364	Ⅲ	256	6.8	5		
B-253	159	329	77号	17	361	Ⅲ	289	23.5	5	
B-253	159	330	石刃	17	364	Ⅲ	329	8.5	5	
				17	365	Ⅲ	402	20.9	5	
				19	7.65	30	25.9	5		
		銅片	17	364	Ⅲ	441	3.4	5		
		銅片	17	365	Ⅲ	526	19.8	5		
		銅片	17	364	Ⅲ	1256	1.4	5		
		銅片	17	365	Ⅲ	921	2.8	5		
		銅片	17	364	Ⅲ	1280	14.2	5		
		銅片	17	365	Ⅲ	1206	2.8	5		
		銅片	17	361	Ⅲ	36	19.1	5		
		銅片	17	365	Ⅲ	39	24.9	5		
		銅片	17	361	Ⅲ	30	14.0	5		
		銅片	17	364	Ⅲ	144	52.6	5		
		銅片	17	365	Ⅲ	155	57.4	5		
		銅片	17	360	Ⅲ	507	2.8	5		
		石刃	17	365	Ⅲ	1190	11.0	5		
		銅片	17	360	Ⅲ	1232	1.1	5		
		石刃	銅	369	Ⅰ	12	6.8	5		
		銅片	17	365	Ⅲ	100	17.2	5		
				17	364	Ⅲ	125	58.4	5	
B-254	281	323	石刃抜	銅	366	Ⅰ	2	213.1	5	
B-256	194	408	銅合片	15・17			312.3	14	4	149
		銅片	17	365	Ⅲ	1207	1.0	4		
				15	357	Ⅲ	25	4.9	4	
		銅片	17	365	Ⅲ	2	8.5	4		
B-252	158	323	石刃	17	366	Ⅲ	3	24.6	4	
		石刃			8.06	Ⅰ	1	66.8	4	
		銅片			3.06	Ⅰ	17	3.9	4	
		石刃			8.06	Ⅰ	22	1.6	4	
					5.67	Ⅰ	2	5.2	4	
B-250	156	324	石刃	15	357	Ⅲ	32	15.3	4	
				銅	1.67	Ⅰ	6	22.7	4	
		銅片			357	Ⅲ	37	4.0	4	
		銅片			25	8.67	38	6.1	4	
		銅片			357	Ⅲ	12	9.0	4	
B-249	303	110	石刃	銅	1.09	Ⅰ	5	132.8	4	
B-258	183	409	銅合片	16・17			186.4	16	4	141
		銅片	16	362	Ⅲ	95	1.8	4		
		銅片	16	365	Ⅲ	122	2.7	4		
		銅片	16	363	Ⅲ	141	3.5	4		
					183	Ⅲ	185	2.7	4	
B-256	161	248	石刃抜	16	363	Ⅲ	230	22.2	4	
B-252	158	322	石刃	16	362	Ⅲ	347	27.2	4	

探洞	探洞番号	探検品名	Stb	発掘区	探検品名	数量	測定値	石質	付与区	備考
		銅片	16	363	Ⅲ	260	5.9	4		
		銅片	16	363	Ⅲ	305	14.7	4		
		銅片	16	363	Ⅰ	95	1.5	4		
		銅片	16	363	Ⅰ	105	1.6	4		
		銅片	16	363	Ⅰ	121	1.5	4		
		銅片	16	363	Ⅲ	160	1.2	4		
		銅片	17	362	Ⅲ	343	4.9	4		
		銅片	16	363	Ⅲ	546	6.9	4		
		銅片	17	364	Ⅲ	480	7.2	4		
		銅片	17	364	Ⅲ	235	6.0	4		
B-254	183	410	銅合片	16・17			288.3	9	4	145
		銅片	16	363	Ⅲ	195	13.3	4		
		銅片	16	363	Ⅲ	209	25.9	4		
		銅片	16	363	Ⅲ	302	12.4	4		
		銅片	16	363	Ⅲ	270	15.6	4		
B-243	196	303	石刃	16	362	Ⅰ	51	101.8	4	
					363	Ⅰ	61	6.5	4	
					363	Ⅰ	73	25.7	4	
					17	161	1293	36.3	4	
					17	163	370	27.9	4	
B-250	183	411	銅合片	16・17			326.9	21	4	149
		銅片	16	363	Ⅲ	159	1.0	4		
		銅片	16	364	Ⅲ	163	1.1	4		
		銅片	16	363	Ⅲ	270	4.2	4		
		銅片	16	363	Ⅰ	38	36.6	4		
		銅片	16	363	Ⅰ	117	42.8	4		
					161	Ⅲ	194	6.1	4	
		銅片	16	363	Ⅰ	173	6.9	4		
		銅片	16	363	Ⅰ	127	7.3	4		
		銅片	16	363	Ⅰ	130	11.5	4		
B-227	155	258	銅片	17	161	Ⅲ	296	11.9	4	
		銅片	17	164	Ⅲ	276	36.9	4		
					17	163	229	22.7	4	
					162	Ⅰ	83	4.6	4	
		銅片	17	161	Ⅲ	811	9.2	4		
					17	161	1241	17.9	4	
B-228	154	224	石刃抜	164	Ⅰ	50	89.7	4		
		銅片	161	Ⅲ	352	0.7	4			
		銅片	164	Ⅲ	258	0.9	4			
		銅片	164	Ⅲ	353	2.0	4			
		銅片	164	Ⅲ	264	3.9	4			
		銅片	161	Ⅲ	256	0.6	4			
		銅片	17	163	Ⅲ	130	19.8	4		
		銅片	17	161	Ⅲ	187	11.6	4		
-	166	415	銅合片	16・17			2.167	101	4	103
		銅片	16	1802	Ⅲ	22	81.0	4		
		銅片	16	1803	Ⅰ	16	138.8	4		
					163	Ⅰ	51	6.9	4	
					164	Ⅰ	267	1.9	4	
					37	359	39	42.9	4	
		銅片	31	157	Ⅲ	95	10.1	4		
			35	157	Ⅲ	241	7.6	4		
			31	159	Ⅲ	270	19.0	4		
			37	352	Ⅲ	886	3.1	4		
		銅片	162	Ⅰ	6	6.2	4			
			162	Ⅰ	69	1.4	4			
		銅片	17	163	Ⅲ	11	7.7	4		
		銅片	17	162	Ⅲ	12	5.5	4		
			161	Ⅲ	365	16.1	4			
			164	Ⅰ	272	1.3	4			

種類	図号	番号	名称	St	発掘区	位置	遺物名	数量	測定法	品質	付与区	備考
				17	K61		75	0.0		1		
			銅貨	17	K61		15	1.2		1		
			石製	17	K62		26	9.7		1		
				17	K63		88	3.9		1		
				17	K63		41	3.1		1		
				17	K63		12	0.9		1		
				17	K63		46	7.6		1		
			石製	17	K62		7	50.8		1		
				17	K63		18	23.8		1		
				17	K62		87	2.6		1		
				17	K61		224	130.0		1		
			銅貨	17	K62		18	4.9		1		
			銅貨	17	K63		17	32.5		1		
				17	K63		209	10.9		1		
				17	K63		19	14.3		1		
				17	K64		170	13.4		1		
				17	K61		858	21.1		1		
				17	K64		687	7.9		1		
				17	K61		8	21.6		1		
				17	K65		9	13.7		1		
				17	K68		17	5.2		1		
				17	K63		88	8.3		1		
				17	K63		439	6.7		1		
				17	K62		685	4.1		1		
				17	K63		636	4.4		1		
				17	K62		705	5.9		1		
				17	K68		10	10.0		1		
				17	K64		1	13.3		1		
			石製	17	K63		19	5.1		1		
				17	K63		287	3.5		1		
			銅貨	17	K62		10	12.8		1		
			銅貨	17	K61		44	9.7		1		
				17	K62		782	12.5		1		
			銅貨	17	K61		6	7.9		1		
				17	K62		47	2.9		1		
				17	K63		280	2.1		1		
			銅貨	17	K62		48	6.4		1		
				17	K61		212	16.6		1		
				17	K64		368	4.5		1		
			銅貨	17	K61		251	109.7		1		
			銅貨	17	K64		266	8.5		1		
			石製	17	K61		288	1.2		1		
				17	K65		494	2.8		1		
				17	K63		47	117.2		1		
				17	K63		147	0.7		1		
				17	K63		492	16.2		1		
				17	K62		560	2.7		1		
			銅貨	17	K64		269	0.3		1		
				17	K63		820	11.1		1		
				17	K67		11	92.7		1		
			銅貨	17	K61		270	5.6		1		
			銅貨	17	K61		276	0.7		1		
			銅貨	17	K64		271	2.8		1		
				17	K61		273	3.1		1		
			銅貨	17	K64		291	2.5		1		
			銅貨	17	K62		69	29.2		1		
				17	K62		44	42.5		1		
				17	K62		288	1.9		1		
			銅貨	17	K63		119	27.5		1		
			銅貨	17	K67		135	2.5		5		

			銅貨	17	K63		260	3.2		1		
				17	K63		305	1.5		1		
				17	K63		421	12.3		1		
				17	K61		188	12.4		1		
				17	K64		200	1.9		1		
			銅貨	17	K63		381	8.5		1		
				17	K63		433	2.7		1		
				17	K63		127	2.4		1		
				17	K63		438	2.6		1		
				17	K63		621	13.8		1		
				17	K63		632	9.3		1		
				17	K63		695	96.3		1		
				17	K63		716	21.3		1		
				17	K63		733	2.4		1		
			石製	17	K63		18	79.9		4		
				17	K62		902	112.2		1		
				17	K63		158	3.1		1		
				17	K64		52	10.4		1		
				17	K61		116	6.8		1		
				17	K64		272	2.0		1		
				17	K64		223	4.0		1		
				17	K61		12	20.7		1		
			新 S87 379 97	銅貨	17	K70	上	3	192.6	1		
				銅貨	17	K67	上	33	62.0	1		
				銅貨	17	K76	上	9	100.7	1		
				銅貨	17	K76	上	117	22.1	1		
			— 384 412	組合貨幣	17			5,537.2	29	1	120	1134
				銅貨	17	K61		79	76.8	1		
				銅貨	17	K62		31	158.5	1		
				銅貨	17	K64		297	11.0	1		
				銅貨	17	K61		161	15.9	1		
				銅貨	17	K61		27	80.3	1		
				銅貨	17	K61		203	3.7	1		
				銅貨	17	K61		121	21.2	1		
				銅貨	17	K61		228	17.2	1		
				銅貨	17	K61		96	30.7	1		
				銅貨	17	K64		330	1,092.6	1		
				銅貨	17	K61		200	7.7	1		
				銅貨	17	K64		247	12.6	1		
				銅貨	17	K61		426	84.4	1		
				銅貨	17	K64		602	153.6	1		
				銅貨	17	K61		700	130.8	1		
				銅貨	17	K61		701	23.2	1		
				銅貨	17	K61		695	53.6	1		
				銅貨	17	K61		190	142.5	1		
				銅貨	17	K64		400	2,233.6	1		
				銅貨	17	K64		29	259.7	1		
				銅貨	17	K64		488	72.0	1		
				銅貨	17	K63		221	67.8	1		
				銅貨	17	K61		79	124.7	1		
				銅貨	17	K61		111	126.7	1		
				銅貨	17	K61		158	41.2	1		
				銅貨	17	K64		174	47.5	1		
				銅貨	17	K61		438	83.2	1		
				銅貨	17	K62		40	171.5	1		
				銅貨	17	K61		51	107.6	1		
			389 418	組合貨幣	17			5,814.9	24	1~5	102	1006
				(石)	17	K65		13	128.7	1		
					17	K61		1045	16.0	1		
				石製	17	K62		102	12.3	1		

上白池8遺跡

種類	図面番号	名称等	St	地層	柱径	遺跡番号	面積	築造時期	石質	付着物	備考
			17	161		537	17.7	1			
		溝	17	164		13	197.5	1			
			17	161		281	210.4	5			
		石列	17	164		1163	188.1	1			
			17	164		15	56.4	1			
			17	161		804	96.2	1			
		溝	17	164		1056	102.1	1			
			17	161		565	26.8	2			
		溝	17	164		1003	109.7	1			
		跡	161	1	35	271.3	1				
		石列	161	1	134	55.2	1				
			161	1	35	33.1	1				
			17	164		212	58.6	1			
		石列	17	161		253	117.3	5			
		溝	17	165		229	457.9	1			
			17	162		231	36.0	1			
第210	161	354	石列	17	163	690	3,813.6	1			
		溝	17	163		629	27.6	5			
		石列	17	163		101	75.2	5			
			17	163		613	132.0	5			
		溝	17	163		131	42.5	1			
第211	170	170	複合資料	16-17			988.1	7	1	441	2055
		溝	16	162		92	51.8	4			
		溝	16	165		186	230.9	4			
第212	161	349	石列	16	163	315	424.8	4			
		溝	17	161		727	139.8	1			
		溝	17	163		203	9.5	1			
		溝	17	163		304	18.9	1			
		溝	16	165		219	1.7	1			
170	421	複合資料	17-19				616.5	10	4-5	159	1189
		溝	17	162		101	62.8	5			
		溝	17	161		49	1.6	5			
		石列	17	161		191	9.7	1			
			17	161		254	6.5	5			
		溝	17	162		301	1.2	5			
		溝	16	163		39	15.6	5			
		溝	16	163		41	6.7	5			
		溝	17	161		25	3.6	5			
		石列	19	161		146	86.0	5			
第213	271	45	石列	16-17			45	432.0	1		
192	412	複合資料	16-17				29,041	151	1-4	136	1132
		溝	17	161		183	29.6	1			
			17	161		12	3.0	1			
			17	161		13	36.7	1			
			17	161		71	29.6	1			
			17	164		76	47.8	1			
			17	161		150	6.0	1			
			17	164		861	17.8	1			
			17	161		1123	11.5	1			
			17	161		1221	42.1	1			
			161	1	82	22.5	1				
			161	1	83	13.4	1				
			164	1	113	87.9	1				
			161	1	134	47.2	1				
			164	1	175	16.4	1				
			161	1	119	23.2	1				
			164	1	138	14.9	1				
			161	1	119	13.0	1				
			161	1	120	5.9	1				
			164	1	123	39.6	1				

種類	図面番号	名称等	St	地層	柱径	遺跡番号	面積	築造時期	石質	付着物	備考
			161	I	124	6.6		1			
			164	I	144	29.7		1			
			161	I	145	20.6		1			
			161	I	119	10.1		1			
			164	I	150	7.9		1			
			161	I	152	3.8		1			
			164	I	407	31.0		1			
			161	I	408	48.7		1			
			164	II	406	6.4		1			
			161	III	226	20.8		1			
			161	III	138	157.1		1			
			161	III	125	114.0		1			
		溝	16	163		112	26.7	1			
			17	162		126	4.0	1			
			162	I	15	40.1	1				
			161	III	39	24.5	1				
		溝	16	163		110	12.4	1			
			17	164		600	37.4	1			
			17	161		601	11.9	1			
			17	161		755	16.2	1			
			17	164		876	43.7	1			
			17	161		880	28.6	1			
			17	164		885	226.6	1			
			17	161		896	42.0	1			
			17	164		914	26.3	1			
			17	161		986	71.3	1			
			17	161		990	21.8	1			
			17	161		999	36.4	1			
			17	161		1080	8.8	1			
			17	164		1091	49.6	1			
			17	161		1105	85.3	1			
			17	164		1151	102.7	1			
			17	161		1208	29.0	1			
			161	I	118	9.6	1				
			161	II	288	6.5	1				
			17	163		65	11.4	1			
			163		105	51.5	1				
			163	T	29	11.9	1				
			163	I	36	37.9	1				
			163	I	39	20.0	1				
			163	T	53	17.1	1				
			163	I	110	19.4	1				
			161	III	50	51.1	1				
			161	III	55	23.8	1				
			161	III	88	317.3	1				
		溝	16	163		101	39.3	1			
			163	I	14	22.5	1				
		溝	17	164		113	51.7	1			
			17	161		928	253.1	1			
			17	161		1019	138.4	1			
			17	161		1227	38.9	1			
			161	I	148	13.7	1				
			164	I	157	380.4	1				
			163	T	52	302.1	1				
			161	III	52	162.1	1				
		溝	17	161		143	118.5	1			
第241	196	305	石列	17	164	290	7,134.6	1			
		溝	17	161		227	2,281.6	1			
		溝	17	161		352	3,162.6	1			
		溝	17	164		369	10.1	1			

上白池8遺跡

棟号	種類	名称	種類名	St	地盤(1)	地盤(2)	面積	新設(1)	石質	付与期	備考
				28	3001	545	2.2		1		
		測尺		28	3000	800	2.8		4		
				28	3000	902	1.9		3		
				28	3001	318	2.1		1		
		測尺		28	3000	854	24.2		4		
		測尺		28	3000	863	3.1		1		
				28	3001	274	13.4		4		
		測尺		28	3000	1086	2.2		1		
		測尺		28	3000	1697	1.5		4		
				28	3000	1191	4.7		1		
		測尺		28	3000	1110	1.8		1		
				28	3000	1191	2.2		1		
		測尺		3000	3	1	1.6		1		
		測尺		28	3001	445	2.2		4		
				28	3001	591	5.7		1		
				28	3001	715	2.6		4		
		測尺		28	3001	882	4.1		1		
		測尺		28	3001	662	2.2		4		
				28	3001	721	3.8		1		
		測尺		28	3001	721	4.2		1		
		測尺		28	3001	745	1.6		4		
		測尺		28	3001	208	4.2		1		
B-342	222	157	統合資料	27			100.9	18	1+4-5	290	1227
				27	Q90	50	17.5		1		
				27	Q90	291	30.0		1		
B-299	230	19	穴埋部	Q90	1	3	142.9		1		
				27	Q90	11	5.0		1		
				27	Q90	288	14.5		1		
				Q90	1	12	150.2		1		
				27	Q90	212	84.5		5		
		測尺		27	Q90	27	27.1		1		
		測尺		27	Q90	155	12.9		1		
				27	Q90	1247	15.2		1		
		測尺		27	Q90	1768	2.5		1		
		測尺		27	Q90	2207	5.0		1		
		測尺		27	Q90	2268	13.1		1		
		測尺		27	Q90	2300	5.5		1		
		測尺		27	Q90	2306	9.1		1		
		測尺		27	Q90	2443	6.5		1		
		測尺		27	Q91	31	16.5		1		
		測尺		27	Q91	1489	11.2		1		
B-346	221	156	統合資料	27	Q90		2,084.1	22	1+3	197	1229
				27	Q91	184	21.0		1		
				27	Q90	2326	6.5		1		
				27	Q90	145	10.9		5		
		測尺		29	Q90	83	16.3		1		
B-307	201	47	河内掘削部	27	Q90	238	127.4		1		
				28	Q90	44	3.4		1		
				28	Q90	50	1,523.2		1		
				28	Q90	51	416.2		1		
		測尺		27	Q90	302	8.8		1		
				27	Q90	161	5.2		1		
		測尺		27	Q90	1	86	9.7	1		
				27	Q90	122	4.0		5		
		測尺		27	Q90	1	91	4.0	1		
				27	Q90	1862	3.8		1		
				27	Q90	1843	3.1		1		
		測尺		27	Q90	29	9.1		1		
				27	Q90	867	4.3		1		
				27	Q90	1884	4.9		5		

棟号	種類	名称	種類名	St	地盤(1)	地盤(2)	面積	新設(1)	石質	付与期	備考
				27	Q90	1892	8.5		5		
		測尺		27	Q90	108	3.8		1		
		測尺		27	Q90	825	2.2		1		
				27	Q90	884	4.0		1		
				27	Q90	1277	17.9		1		
				27	Q90	1395	1.8		1		
		測尺		27	Q90	481	5.6		1		
		測尺		27	Q90	596	16.2		1		
				27	Q90	1663	13.8		1		
				27	Q90	2252	2.9		1		
				27	Q90	302	0.5		1		
				27	Q90	313	6.2		1		
				27	Q90	1265	4.2		1		
				28	Q90	40	2.0		1		
				28	Q90	47	5.3		1		
		測尺		27	Q90	1222	8.4		1		
				27	Q90	21	2.1		1		
		測尺		27	Q90	1700	9.3		1		
				27	Q90	2286	1.9		1		
				27	Q90	951	1.5		1		
		二次加工中心測尺		27	Q90	1750	37.5		1		
		測尺		27	Q90	1874	4.2		1		
				27	Q90	402	3.2		1		
		測尺		27	Q90	2181	3.4		1		
				27	Q90	801	3.8		1		
				27	Q90	2182	2.7		1		
		測尺		27	Q90	2246	17.1		1		
				27	Q90	2512	1.5		1		
		測尺		27	Q90	2528	4.6		1		
		測尺		27	Q90	17	8.7		1		
				27	Q90	502	6.8		1		
		測尺		27	Q90	185	2.6		1		
		測尺		27	Q90	186	6.5		1		
				27	Q90	390	14.0		1		
				27	Q90	910	1.2		5		
				27	Q90	1023	11.1		1		
				27	Q90	1522	5.7		5		
		測尺		27	Q90	223	36.5		5		
				27	Q90	460	2.1		5		
				27	Q90	736	6.8		5		
		測尺		27	Q90	308	13.9		1		
				27	Q90	716	2.1		1		
				27	Q90	984	9.1		5		
		測尺		27	Q90	355	5.0		1		
				27	Q90	1202	4.1		1		
		測尺		27	Q90	779	27.3		5		
		測尺		27	Q90	1127	5.8		1		
		測尺		27	Q90	1792	16.2		1		
				27	Q90	1888	1.4		1		
		測尺		27	Q90	1439	18.9		5		
				27	Q90	1598	27.4		1		
		測尺		27	Q90	1851	1.7		1		
				28	Q90	168	96.1		1		
				Q90	3	6.5		1			
		測尺		28	Q90	1724	137.0		1		
				28	Q90	1123	91.1		1		
		測尺		28	Q91	403	219.4		1		
B-348	222	139	統合資料	27			1,746.2	13	4+5	239	1491
				27	Q90	11	36.6		5		
B-328	219	132	心相	27	Q91	5	304.3		5		

機種	図号	機材名	Stb	数量	仕付	取組品名	車番	取組品名	数量	仕付	取組品名
			27	Q58	4	9.5		5			
			27	Q58	6	143.9		5			
			27	Q58	7	23.0		5			
			27	Q59	130	11.8		1			
		機長測尺	07	1	7	25.1		5			
			27	Q58	8	151.7		5			
		縦上測尺	27	Q58	25	410.8		5			
			27	Q58	325	12.4		5			
			27	Q59	436	6.3		5			
第-220	229	151	心軸	Q58	1	8	230.1	5			
			測尺	Q60	70	10.3		5			
			測尺	159	1	20	16.2	5			
			測尺	Q58	13	158.2		5			
第-200	203	160	複合材料	21-27		269.7	3	1	214	1204	
第-208	206	56	縦石牙輪歯	21	N61	18	3.1	1			
第-309	204	62	横石牙輪歯	27	Q60	300	12.8	1			
第-308	203	54	縦石牙輪	27	Q60	1277	4.5	1			
第-350	223	163	複合材料	27		7.3	2	2		2647	
第-209	200	62	縦石牙輪歯	27	Q61	87	1.5	2			
第-208	205	52	縦石牙輪	27	Q60	421	5.8	2			
第-151	223	162	複合材料	27		15.8	2	4	-	2648	
第-208	205	56	縦石牙輪	27	Q60	232	8.5	1			
第-308	204	60	横石牙輪歯	27	Q60	245	7.5	1			
第-251	223	162	複合材料	27		22.2	2	4	-	2648	
第-308	203	52	縦石牙輪	27	Q60	271	8.3	2			
		二次加工済み測尺	27	Q61	25	23.9	20				
第-251	223	162	複合材料	27-29-27		27.8	8	1	453	2628	
第-220	152	222	縦石牙輪歯	27	1	27	0.5	1			
第-221	153	218	縦石牙輪歯	17	N52	768	4.3	1			
第-221	152	182	横石牙輪歯	19	L61	5	4.9	1			
					L61	1	8	6.5	1		
第-309	204	61	横石牙輪歯	27	Q59	127	0.7	1			
					27	Q60	220	1.5	1		
					Q60	1	9	3.3	1		
第-208	206	62	縦石牙輪歯	27	Q59	127	6.1	1			
第-252	223	163	複合材料	17-21		7.4	2	1	-	2651	
第-219	151	151	縦石牙輪歯	17	264	203	1.4	1			
第-209	206	61	縦石牙輪歯	21	N64	12	6.0	1			
第-351	224	160	複合材料	27-40-42		1,242.0	33	1-4-5	350	1805	
第-148	202	242	石牙	17	N52	292	22.5	5			
				17	N52	607	41.8	5			
				17	N52	208	28.3	5			
		縦長測尺	17	N52	608	28.8	5				
			17	N52	187	23.7	5				
		石牙	N51	1	158	66.7	5				
					N53	231	9.7	5			
					N52	220	23.5	5			
					N53	225	27.4	5			
第-150	203	253	石牙	N56	31	86.1	5				
			測尺	Q58	1	63.7	5				
			測尺	27	Q59	29	13.7	1			
			測尺	27	Q59	89	62.0	5			
			測尺	27	Q59	96	16.5	5			
			測尺	27	Q59	97	61.3	5			
			測尺	27	Q59	232	72.4	5			
			測尺	27	Q59	271	26.3	5			
			測尺	27	Q59	3	9.1	5			
			測尺	27	Q59	242	61.8	5			
			測尺	27	Q59	257	125.4	5			
			測尺	27	Q59	475	136.4	5			

			測尺	27	Q59	498	15.3	5			
			測尺	27	Q59	426	19.1	5			
			測尺	27	Q59	497	20.0	5			
			測尺	27	Q59	1080	11.5	5			
			測尺	27	Q59	1148	103.0	5			
			測尺	27	Q59	1381	52.5	4			
			測尺	27	Q59	1382	36.1	1			
			測尺	27	Q59	2024	21.8	1			
			縦長測尺	27	Q59	2231	22.4	5			
			測尺	27	Q60	229	26.3	5			
			測尺	27	Q60	1025	12.5	5			
			測尺	27	Q60	1402	29.5	5			
第-251	223	162	複合材料	27-27-27		2,791.0	28	3-5	186	1244	
			縦長測尺	21	N61	18	123.4	5			
				21	N61	14	12.8	5			
				21	N62	644	17.5	5			
			石牙	21	N61	27	17.9	3			
				21	N62	135	13.5	3			
				21	N62	453	30.4	3			
				21	N62	454	10.5	3			
			石牙	21	N61	28	180.5	5			
				21	N62	204	7.8	5			
			測尺	21	N61	29	138.5	5			
				21	N62	241	62.8	5			
			石牙	21	N62	45	21.7	3			
				21	N62	229	29.0	3			
				21	N63	716	5.8	3			
				21	N63	252	14.8	3			
			測尺	21	N62	127	21.8	5			
				21	N62	220	17.7	3			
				21	N62	242	10.3	3			
			縦長測尺	21	N62	343	22.7	3			
				21	N62	244	22.4	3			
			測尺	21	N62	315	8.0	3			
				21	N62	247	17.7	3			
			測尺	21	N62	352	17.2	3			
				21	N63	55	16.7	3			
				21	N63	58	2.2	3			
			石牙	21	N62	313	6.0	3			
				21	N62	588	7.2	3			
				N63	T	8	13.4	5			
			測尺	21	N62	248	26.4	3			
			石牙	21	N62	412	11.8	3			
				21	N62	922	28.3	3			
			測尺	21	N62	616	6.1	3			
			二次加工済み測尺	21	N62	455	37.3	3			
				21	N62	561	30.1	3			
			測尺	24	N62	457	22.6	3			
				21	N62	1001	65.0	3			
				N63	T	5	38.9	5			
			測尺	21	N62	391	21.0	3			
			測尺	21	N63	14	5.0	3			
			測尺	21	N63	90	32.3	3			
			測尺	21	N63	140	9.1	3			
			測尺	21	N63	158	14.9	3			
			測尺	21	N62	237	1.4	3			
			測尺	21	N63	147	16.6	3			
			測尺	21	N62	479	7.5	3			
			測尺	21	N63	321	3.7	3			
			測尺	21	N63	413	7.0	3			

上白池8遺跡

棟目	図面	番号	名称	St	地盤	柱径	遺跡高さ	基礎	敷地面積	石質	付与期	接合
			溝	21	N62	427	9.7	3				
			溝	21	N63	435	8.1	3				
			溝	21	N62	416	9.1	3				
			溝	N60	T	11	3.1	5				
B-314	208	93	自然形石礎	21	N67	473	26.1	3				
				21	N65	489	15.1	3				
			溝	27	N63	713	13.8	3				
			溝	21	N62	726	11.7	3				
			溝	21	N63	733	20.4	3				
			溝	21	N62	747	9.2	3				
			溝	27	N60	756	3.1	3				
			溝	21	N62	811	3.7	3				
			溝	21	N63	835	8.8	3				
			溝	N63	I	6	23.9	5				
			溝	N62	I	7	29.4	5				
			溝	N63	I	9	13.0	5				
			溝	N62	I	10	13.0	5				
			溝	N63	I	12	7.5	5				
			溝	N62	I	13	8.0	5				
			溝	21	N64	90	5.0	5				
			溝	N64	I	14	8.4	5				
			溝	27	Q61	63	8.5	5				
			溝	24	Q62	111	18.4	5				
			石室	21	Q62	25	21.0	3				
			石室	27	Q63	229	48.9	3				
B-327	218	159	石礎	23	Q62	350	302.0	5				
				21	Q64	366	95.4	5				
			石室	Q63	I	2	15.8	5				
			溝	N67	上	6	140.9	5				
			溝	中層	下	28	7.2	5				
B-356	236	168	掘合材料	30			367.2	13	4	184	1243	
B-341	239	88	自然形石礎	20	M05	19	232.5	1				
				20	M05	43	132.2	1				
			溝	溝	M06	I	7	157.9	1			
			溝	溝	M06	I	8	6.6	1			
			溝	溝	M06	I	9	9.8	4			
			溝	溝	M06	I	10	37.4	1			
			溝	溝	M06	I	11	12.2	4			
			溝	溝	M07	T	2	48.4	1			
B-580	273	62	自然形石礎	溝	M08	T	2	65.4	4			
				溝	M07	I	10	87.4	1			
B-582	276	64	自然形石礎	溝	M06	T	2	111.0	1			
			溝	不明	4溝	66.1	1					
			溝	溝	M08	I	15	20.3	1			
B-357	227	169	掘合材料	17-19-25			2,990.2	30	1+3	2645	1435	
				石室	161	I	43	23.1	5			
			溝	17	M4	47	7.0	5				
			溝	26	M2	206	6.2	5				
			溝	17	M3	62	22.3	5				
			溝	17	M2	313	18.2	1				
B-357	162	351	石室柱	17	M3	I	17	1,429.5	5			
				溝	27	M2	271	2.9	5			
			溝	26	M3	409	762.3	5				
			溝	27	M2	444	28.9	5				
			溝	M2	I	1	27.9	5				
			掘合材料	26	M3	399	3.2	5				
			溝	26	M4	173	12.3	5				
			溝	27	M3	391	20.6	5				
			溝	26	M4	85	18.2	5				

棟目	図面	番号	名称	St	地盤	柱径	遺跡高さ	基礎	敷地面積	石質	付与期	接合
			溝	26	M4	181	126.1	5				
			溝	26	M4	87	183.0	5				
			溝	26	M4	88	25.1	5				
			溝	26	M4	232	8.2	5				
			掘合材料	26	M4	137	111.0	5				
			溝	26	Q64	25	15.0	5				
B-358	238	170	掘合材料	27+46			2,738.1	28	1+5	284	1434	
				石室	J31	I	6	17.5	5			
			石室	J31	中層	18	30.9	5				
			石室	J31	I	17	51.9	5				
			石室	16	N50	394	89.7	5				
			溝	27	Q60	1151	7.5	5				
			不明	不明	不明	不明	27.6	5				
			石室	46	N54	234	21.9	5				
			石室	16	N51	230	12.6	5				
			溝	27	Q60	1901	5.5	5				
			石室	N57	I	12	41.7	5				
			溝	J30	I	1	56.4	5				
			掘合材料	27	Q60	201	10.7	5				
			溝	27	Q59	352	1.8	5				
			溝	27	Q59	401	1.9	5				
			溝	27	Q56	706	25.9	5				
			溝	27	Q60	128	13.6	5				
			溝	27	Q60	699	20.3	5				
			溝	27	Q60	936	9.7	5				
			溝	27	Q60	1247	5.8	5				
			溝	27	Q59	332	11.9	5				
			溝	27	Q59	376	1.8	5				
			溝	27	Q56	375	8.3	5				
			溝	27	Q56	2981	6.0	5				
			溝	27	Q56	312	11.5	5				
			溝	27	Q59	422	14.7	5				
			溝	27	Q59	1579	2.3	5				
			石室	27	Q59	610	16.4	5				
			溝	27	Q59	609	21.0	5				
			溝	27	Q56	512	8.5	5				
			溝	溝	Q59	I	13	18.7	5			
			溝	27	Q56	366	17.6	5				
			石室	27	Q59	740	29.5	5				
			溝	27	Q56	960	21.2	5				
			溝	27	Q59	1329	7.9	5				
			溝	27	Q59	809	1.5	5				
			石室	27	Q56	1024	26.7	5				
			溝	27	Q59	2330	18.8	5				
			溝	27	Q56	1341	3.8	5				
			溝	27	Q59	1342	10.2	5				
			溝	27	Q56	1372	32.6	5				
			溝	27	Q59	1371	12.9	5				
			溝	27	Q56	1376	21.7	5				
			溝	27	Q56	1391	6.8	1				
			溝	27	Q56	1441	1.2	5				
			溝	27	Q56	1560	19.3	5				
			溝	27	Q60	23	4.3	5				
			溝	中層	118	21.1	5					
			掘合材料	27	Q59	1023	8.5	5				
			溝	27	Q60	1112	1.1	5				
			溝	27	Q60	1314	4.0	5				
			溝	27	Q59	1827	10.0	5				
			石室	27	Q56	3147	25.6	5				
			溝	27	Q60	1900	17.2	5				

上白港8遺跡

棟別	棟名	棟形式	5b	壁紙	柱付	屋根形式	屋根	敷地積	延床	付与別	棟合算
		納戸	28	3011			721	2.0	1		
		納戸	28	3011			764	14.5	1		
		納戸	28	3012			125	18.4	1		
		納戸	28	3012			203	18.6	1		
		納戸	28	3011			927	5.0	1		
		納戸	28	3011			927	2.7	1		
		心室	28	3012			30	21.2	1		
		心室	28	3012			78	22.2	1		
		厨庫	28	3012			21	7.5	1		
		厨庫	28	3012			24	22.0	1		
		納戸	28	3012			46	3.7	1		
		心室	28	3012			45	11.9	1		
		納戸	28	3012			55	13.4	1		
		納戸	28	3012			66	31.2	1		
		納戸	28	3012			88	8.1	1		
		心室	28	3012			82	6.5	1		
		納戸	28	3012			214	88.1	1		
		納戸	28	3012			218	5.6	1		
		納戸	28	3012			99	15.3	1		
		石室	28	3012			101	25.7	1		
		心室	28	3012			102	8.9	1		
		親長納戸	28	3012			120	9.5	1		
第 323	212	136	心室	28	3012		159	142.7	1		
		納戸	28	3012			163	13.6	1		
		納戸	28	3012			167	12.4	1		
		納戸	28	3012			178	4.9	1		
		心室	28	3012			184	5.5	1		
		納戸	28	3012			196	12.6	1		
		納戸	28	3012			202	4.6	1		
第 364	232	174	狭小資料	25			1,006.6	42	1-3	195	1287
		石室		150	1	19	28.4	1			
				190	1	11	17.2	1			
第 547	229	101	石室	28	3017		7	83.1	1		
		親長納戸	28	3018			8	27.2	1		
		納戸	28	3018			9	8.2	1		
		親長納戸	28	3018			10	21.7	1		
				113	49.1	1					
		親長納戸	28	3018			11	28.4	1		
				116	8.0	1					
				215	2015	221	131.8	1			
				26	5.4	1					
第 548	227	90	厨庫	28	3019		2	26.1	1		
		心室	28	3021			1	20.3	1		
		納戸	28	3022			3	7.8	1		
		石室	28	3022			1	15.7	1		
		納戸	25	3014			18	27.0	3		
			25	3014			20	32.2	3		
		心室	25	3014			23	18.4	1		
			28	3016			22	23.5	1		
		親長納戸	25	3014			49	22.8	1		
			25	3014			232	4.5	1		
				51	27.2	1					
		心室	25	3014			61	18.2	3		
			28	3018			2	112.3	1		
				2	47.5	1					
		石室	25	3014			130	28.7	1		
			25	3014			134	18.7	1		
		親長納戸	25	3014			241	5.0	1		
			28	3018			1	83.7	1		
				25	26.2	1					

棟別	棟名	棟形式	5b	壁紙	柱付	屋根形式	屋根	敷地積	延床	付与別	棟合算	
		納戸	28	3011	1	15	15.5	1				
		石室	25	3015		12	27.5	1				
		納戸	28	3016		8	20.2	1				
				45	13.8	1						
				46	8.4	1						
		石室	25	3015		155	13.4	3				
			25	3015		172	42.5	3				
第 586	325	202	石室	28	3016		10	42.4	1			
			28	3016		11	3.7	1				
			28	3016		12	116.2	1				
第 542	329	300	石室	28	3019		2	253.6	1			
			石室	28	3020		1	22.3	1			
第 364	233	175	複合資料	25	24-25			2,078.2	52	1-3-2	193	1264
		納戸	27	192			107	3.3	1			
		親長納戸	27	192			100	91.1	1			
			27	192			240	29.5	3			
			27	192			206	23.4	3			
		親長納戸	27	192			439	112.1	1			
			27	192			112	1.5	1			
			27	192			143	9.6	1			
			27	192			202	2.9	1			
			27	192			259	21.7	1			
			27	192			261	5.3	1			
			27	192			1	5.1	1			
		親長納戸	27	192			203	7.6	1			
			27	192			105	22.4	1			
			27	192			132	2.0	1			
			27	192			230	8.5	1			
		納戸	27	192			262	11.8	1			
			27	193			409	154.0	1			
			27	193			13	13.4	1			
		納戸	27	192			269	24.6	1			
			26	192			294	4.2	1			
			27	192			252	12.2	1			
		親長納戸	27	192			252	1.0	1			
			26	194			62	25.6	1			
			26	194			172	126.2	1			
			194	1	2	333.2	1					
		納戸	23	193			261	31.7	1			
		親長納戸	27	192			241	1.1	1			
			194	1	9	9.9	1					
			194	1	13	2.8	1					
			25	194			107	11.8	1			
				10	27	31.1	1					
				28	46.2	1						
		納戸	23	193			466	12.8	1			
			27	192			187	36.7	1			
第 324	216	141	心室様	26	193		201	1,490.4	1			
		納戸	26	192			104	27.2	3			
			27	191			193	1.9	1			
		納戸	22	194			16	51.9	5			
			22	191			188	4.6	1			
		親長納戸	22	194			44	1.3	1			
			26	191			83	3.6	1			
			22	194			167	21.9	1			
			22	193			292	9.0	1			
				30	6.5	1						
		納戸	194	1	2	20.0	1					
			191	1	10	20.1	1					
		納戸		194	1	11	52.8	1				

種類	図号	番号	名称	St	種類	材質	重量	長さ	幅	厚さ	寸法	備考
			覆土銅片	23	Q53	T	207	15.3		1		
					Q53	T	1	46.1		1		
			銅片	23	J'N3		223	11.1		1		
			覆土銅片	26	Q61		120	11.3		3		
				26	Q64		189	12.6		1		
第-367	231	176	合金資料	27・28			383.3	5.3	1	180	1361	
			石片	Q59	T	4	16.1		1			
			覆土銅片	27	Q60		82	4.2		1		
				27	J'56		218	17.2		1		
				27	Q60		190	17.3		1		
			銅片	Q60	T	5	17.5					
第-368	233	181	西京遺物石彫	Q60	T	8	21.9		1			
				J'62	T	6	146.3		1			
			覆土銅片	27	J'59		157	44.0		1		
			銅片	27	J'56		111	9.8		1		
				J'60	T	9	3.2		1			
			銅片	27	J'59		118	7.9		1		
			銅片	27	J'60		12	17.0		1		
			石彫	27	J'60		170	4.8		1		
				J'61	T	71	2.2		1			
			銅片	27	J'60		297	2.3		1		
			銅片	27	J'60		279	17.0		1		
				27	J'60		404	29.0		1		
				27	J'60		695	21.0		1		
				27	J'60		1261	1.4		1		
			銅片	27	J'60		437	10.3		1		
			覆土銅片	27	J'60		755	5.7		1		
			銅片	27	J'60		1178	3.9		1		
			銅片	27	J'60		1318	13.3		1		
			銅片	27	J'60		1370	6.7		1		
				27	J'60		2119	4.1		1		
			覆土銅片	27	J'60		1466	16.9		1		
				27	J'60		2090	20.1		1		
			銅片	27	J'60		3596	21.0		1		
			銅片	27	J'60		3206	2.2		1		
第-326	217	146	石版	27	J'60		7123	169.2		1		
			石彫	27	J'61		1301	25.2		1		
				27	Q61		358	15.2		1		
			銅片	26	Q60		180	48.9		1		
第-368	243	182	合金資料	27			762.7	32	1・2	180	1280	
			銅片	J'59	T	19	6.7		1			
				27	Q59		688	11.6		0		
				Q60	T	22	163.9		1			
			銅片	27	J'61		36	36.3		1		
			銅片	27	Q59		89	5.2		1		
			銅片	27	Q59		120	22.3		1		
			銅片	27	Q59		231	10.3		0		
			銅片	27	Q59		443	9.5		1		
				27	Q60		1922	2.2		1		
			銅片	27	Q59		927	25.2		1		
				27	Q59		726	10.3		1		
				27	Q59		1805	6.7		1		
			銅片	27	Q59		256	1.1		1		
				27	Q59		829	62.8		1		
				Q59	T	14	7.1		1			
			銅片	27	Q59		305	10.0		1		
				27	Q59		1402	1.8		1		
				27	Q60		1951	4.3		1		
			銅片	27	Q59		283	4.7		1		
				27	Q59		954	56.3		1		

種類	図号	番号	名称	St	種類	材質	重量	長さ	幅	厚さ	寸法	備考
			銅片	27	Q59		694	11.4		0		
			銅片	27	Q59		439	49.6		1		
				27	Q59		1050	5.2		0		
			銅片	27	Q59		1323	26.9		1		
				27	Q59		1343	6.3		1		
			銅片	27	Q59		1622	3.3		1		
				27	Q60		1319	26.2		1		
			銅片	27	Q59		2210	5.6		1		
			銅片	27	Q59		2262	4.6		1		
				27	Q60		269	150.2		1		
			銅片	27	Q60		1118	11.1		1		
				27	Q60		1822	8.9		1		
第-368	242	181	合金資料	27・27a			1888.0	130	1・2	211	1361	
			石彫	27	J'59		12	199.0		1		
			銅片	27	N57	T	5	80.1		0		
			石彫	27	N58		9	57.4		0		
				27	N59		291	11.3		0		
			銅片	27	N58		24	16.5		0		
				27	Q68		253	3.7		0		
			銅片	27	N58		40	187.0		0		
第-326	212	126	石彫	27	N58		57	72.2		0		
				27	N58		201	30.6		0		
				27	N58		721	48.4		0		
			覆土銅片	27	N58		58	27.7		0		
				27	N58		406	53.8		0		
			覆土銅片	27	N58		112	11.0		0		
				27	N58		355	12.2		0		
			銅片	27	N58		276	8.7		0		
			銅片	27	N58		254	53.6		0		
第-322	214	132	石彫	27	N58		255	67.2		0		
				27	N58		625	7.6		0		
				27	N59		790	19.0		0		
			銅片	27	N58		282	29.0		0		
			覆土銅片	27	N58		275	196.6		0		
			石彫	27	N58		278	51.2		0		
				27	N58		305	10.6		0		
			銅片	27	N58		390	41.1		0		
				N60	T	6	20.7		0			
				27	Q59		463	21.4		0		
			銅片	27	N58		421	40.3		0		
			石彫	27	N58		472	203.2		0		
				27	N58		591	116.0		0		
			覆土銅片	27	N58		982	4.2		0		
				27	N59		51	6.2		0		
				27	N59		151	12.5		0		
			石彫	27	N58		233	9.8		0		
				27	N58		541	11.5		0		
			石彫	27	N58		237	16.3		0		
				27	N58		262	14.1		0		
				27	N59		126	17.9		0		
			銅片	27	N58		315	61.8		0		
				27	N58		289	4.1		0		
				27	N58		416	14.3		0		
				27	N58		38	22.5		0		
			銅片	27	N58		253	472.3		0		
			銅片	27	N58		280	31.2		0		
			銅片	27	N58		426	22.9		0		
				N58	T	10	28.5		0			
			銅片	N58	T	14	11.1		0			
				N58	T	15	25.2		0			

上白池8遺跡

探区	探区番号	探検号	Stb	発掘区	柱状	遺物名	数量	測定値	石質	付与種	備考
		湖沼	27	N50	1	18	4.9		5		
			27	O50		484	19.1		5		
		湖沼	27	N50		1	4.2		5		
			27	O50		17	20.9		5		
			27	O58		124	17.8		5		
			27	O59		258	2.0		5		
		湖沼	27	N50		21	23.9		5		
		湖沼	27	N50		21	113.7		5		
				O61	1	1	1,136.3		5		
		湖沼	27	N50		27	26.7		5		
		湖沼	27	N50		42	102.2		5		
B-210	217	143		石製	27	N50	45	463.7	5		
				湖沼	27	N50	40	47.1	5		
				湖沼	27	N50	90	49.5	5		
				湖沼湖沼	27	N50	97	16.5	5		
					27	O59	227	90.2	5		
				湖沼	27	N50	121	89.1	5		
				湖沼	27	N50	127	48.5	5		
				湖沼湖沼	27	N50	135	25.4	5		
					27	N50	157	11.9	5		
					27	O59	183	15.7	5		
B-210	218	158		石製	27	N50	170	14.9	5		
					27	O58	1	41.1	5		
					27	P58	177	118.2	5		
				石製	27	N50	177	62.6	5		
					27	N50	291	129.4	5		
				湖沼	27	N50	178	258.0	5		
				湖沼	27	N50	179	5.1	5		
					27	O59	289	39.9	5		
				湖沼	27	N50	183	92.8	5		
				湖沼	27	N50	258	38.8	5		
					27	N60	4	6.0	5		
				湖沼	27	N50	1	211.9	5		
				湖沼湖沼	N50	1	31	7.4	5		
					N60	1	7	10.8	5		
B-210	219	161		石製	27	N60	13	484.5	5		
				湖沼	27	N60	38	28.9	5		
					O59	1	19	25.2	5		
				湖沼	46	O54	18	312.3	5		
					46	O55	52	1,082.1	5		
				湖沼	47	O57	32	53.9	5		
				湖沼	27	O57	107	13.1	5		
				湖沼	27	O57	220	21.4	5		
				湖沼	27	O57	257	80.6	5		
				湖沼	27	O57	262	30.1	5		
				湖沼	27	O57	269	35.6	5		
				湖沼	27	O58	49	100.7	5		
				湖沼	27	O58	178	9.7	5		
				湖沼	27	O58	171	1.6	5		
					27	O58	161	20.7	5		
				湖沼	27	O58	136	15.7	5		
				湖沼	27	O58	143	19.7	5		
					27	O59	153	3.9	5		
				湖沼	27	O58	235	32.1	5		
				湖沼	27	O58	245	132.9	5		
				湖沼	27	O58	263	95.3	5		
				湖沼	27	O58	284	3.4	5		
					O58	1	16	21.1	5		
					O59	1	15	24.6	5		
					O59	1	26	8.0	5		

探区	探区番号	探検号	Stb	発掘区	柱状	遺物名	数量	測定値	石質	付与種	備考
			27	O58		205	12.1		5		
			27	O58		174	51.8		5		
B-219	211	129		湖沼	27	O58	291	32.5	5		
				湖沼	O58	1	9	8.9	5		
					27	O59	36	23.4	5		
				湖沼	O58	1	21	47.3	5		
				湖沼	27	O59	98	80.4	5		
				湖沼	27	O58	215	12.5	5		
				石製	27	O59	349	132.3	5		
				湖沼	27	O59	255	7.8	5		
				湖沼	27	O59	303	7.6	5		
				湖沼	27	O59	224	136.2	5		
				湖沼	27	O58	315	1.9	5		
					27	P61	336	32.4	5		
					27	P61	1152	4.6	5		
				湖沼	27	O59	150	284.9	5		
				湖沼	27	O58	290	29.9	5		
				湖沼	27	O59	303	12.4	5		
				湖沼	27	O59	382	29.9	5		
				湖沼	27	O60	109	18.7	5		
					O60	1	31	10.3	5		
				湖沼	23	O62	12	12.0	5		
				湖沼	23	O62	54	219.0	5		
					27	P61	803	15.0	5		
					27	P61	1779	130.2	5		
					P61	1	6	11.8	5		
					P61	1	13	18.0	5		
					P61	1	19	102.9	5		
B-220	212	127		石製	29	P53	169	51.2	5		
					29	P55	1	26.7	5		
					29	P57	17	25.8	5		
				湖沼	27	P60	769	32.0	5		
				湖沼	27	P61	267	85.9	5		
					23	P62	350	17.6	5		
				湖沼	27	P61	633	47.5	5		
				湖沼	27	P61	509	16.2	5		
				湖沼	27	P62	296	21.1	5		
				湖沼	23	P62	273	273.9	1		
				湖沼	27	P62	313	36.3	5		
				湖沼	27	P62	235	29.2	5		
				湖沼	27	P62	485	30.0	5		
				湖沼	27	P62	6	250.7	5		
				湖沼	湖上	138	132.1	5			
B-221	216	180		複合資料	20-22			11,331.6	283	1+1-5	283
				湖沼	16	N53	210	27.5	5		
B-440	304	248		石製	46	N54	68	29.8	5		
					16	N54	126	61.6	5		
					46	N54	138	14.9	5		
					16	N54	245	16.1	5		
					46	N55	17	3.6	5		
B-148	302	235		石製	16	N54	127	18.7	5		
					16	N54	201	98.5	5		
					27	P61	16	10.4	5		
B-149	301	236		石製	16	N54	317	31.9	5		
					46	N54	257	29.1	5		
B-148	302	232		石製	16	N54	290	82.5	5		
				湖沼	27	N58	401	12.7	5		
					N60	1	4	212.3	1		
				湖沼	27	N58	171	36.6	5		
					27	O58	486	3.0	5		

種別	図号	番号	名称	Stb	発掘区	柱状	遺物番号	数量	単位	材質	付与期	備考
				27	Q99		453	27.7	5			
				27	Q99		457	144.7	5			
				27	Q99		497	3.5	5			
				27	Q99		185	15.1	5			
				27	Q99		2330	15.4	5			
				27	Q99		105	3.4	5			
				27	Q99		116	45.4	5			
				27	Q99		617	12.7	5			
				27	Q99		288	6.2	5			
				27	Q99		611	2,035.0	5			
				27	Q99		686	4.6	5			
			銅片	27	Q99		205	91.2	5			
			銅片	27	Q99		1	8	217.3	5		
			銅片	27	Q99		1	3	20.8	5		
			銅片	27	Q99		187	5.9	5			
			銅片	27	Q99		1	35	4.8	5		
第-322	213	138	石片核	Q99	I	2	618.5	5				
			銅片	Q99	I	14	15.3	1				
			銅片	Q99	I	209	294.4	5				
			銅片	Q99	I	250	118.3	5				
			銅片	Q99	I	28	491.2	5				
			銅片	Q99	I	27	81.2	5				
			銅片	Q99	I	82	8.6	1				
			銅片	Q99	I	12	21.5	5				
			銅片	Q99	I	25	45.4	5				
第-322	214	132	石片	Q92	I	8	72.1	5				
			銅片	Q91	I	1309	14.7	5				
			銅片	Q92	I	9	57.2	5				
			銅片	Q92	I	2	38.1	5				
			銅片	Q92	I	1	42.9	5				
			銅片	Q92	I	1	13.0	5				
			銅片	Q92	I	6	3.7	5				
			銅片	Q99	I	29	1.5	5				
			銅片	Q99	I	209	23.2	5				
			銅片	Q99	I	106	262.2	5				
			銅片	Q99	I	109	11.9	5				
			銅片	Q99	I	236	4.3	4				
			銅片	Q99	I	285	28.5	5				
			銅片	Q99	I	1297	13.4	5				
			銅片	Q91	I	21	10.5	5				
			銅片	Q99	I	501	5.4	5				
			銅片	Q99	I	1837	7.0	5				
			銅片	Q99	I	1829	23.8	5				
			銅片	Q99	I	1847	132.8	5				
			銅片	Q99	I	2051	281.4	5				
			銅片	Q99	I	232	4.5	5				
			銅片	Q91	I	3	27.5	5				
			銅片	Q99	I	2070	14.4	5				
			銅片	Q91	I	261	3.8	5				
			銅片	Q92	I	27	27.8	5				
第-323	213	131	石片	Q99	I	1	186.4	5				
			銅片	Q91	I	185	17.5	5				
			銅片	Q92	I	16	25.1	5				
			銅片	Q92	I	30	16.4	5				
			銅片	Q91	I	2	313.3	5				
			銅片	Q91	I	8	15.5	5				
第-319	212	125	石片	Q91	I	11	15.2	5				
			銅片	Q91	I	21	29.2	5				
			銅片	Q92	I	268	32.7	5				
			銅片	Q92	I	13	7.1	5				

種別	図号	番号	名称	Stb	発掘区	柱状	遺物番号	数量	単位	材質	付与期	備考
				27	Q92		17	17.1	5			
			銅片	27	Q91		34	13.9	5			
			銅片	27	Q91		205	26.4	5			
			銅片	27	Q91		115	12.1	5			
			銅片	27	Q91		178	144.3	5			
			銅片	27	Q91		220	30.5	5			
			銅片	27	Q99		2782	10.6	5			
			銅片	27	Q91		232	32.0	5			
			銅片	27	Q91		231	6.9	5			
			銅片	27	Q91		618	17.0	5			
			銅片	27	Q91		1561	61.2	5			
			銅片	27	Q91		1092	8.0	5			
			銅片	27	Q91		1117	22.2	5			
			銅片	27	Q91		1236	40.9	5			
			銅片	27	Q91		1239	45.0	5			
			銅片	27	Q91		1234	31.5	5			
			銅片	27	Q92		270	11.3	5			
			銅片	27	Q91		1287	24.2	5			
			銅片	27	Q91		22	87.4	5			
			銅片	27	Q91		1250	7.1	5			
			銅片	27	Q91		1434	2.9	5			
			銅片	27	Q91		1142	10.6	5			
			銅片	27	Q91		1446	50.3	5			
第-320	213	129	石片	Q91	I	1191	65.7	5				
			銅片	Q91	I	19	23.1	5				
			銅片	Q91	I	1190	1.1	5				
			銅片	Q91	I	1623	34.9	5				
			石片	Q91	I	1276	107.8	5				
			銅片	Q91	I	215	27.8	5				
			石片	Q91	I	1284	52.8	5				
			銅片	Q92	I	15	11.7	5				
			銅片	Q92	I	48	4.1	5				
			銅片	Q92	I	205	11.6	5				
			銅片	Q91	I	5	191.5	5				
			銅片	Q92	I	2	5.7	5				
			銅片	Q91	I	20	8.2	5				
			石片	Q91	I	24	86.1	5				
			石片	Q92	I	65	56.2	5				
			銅片	Q92	I	178	0.8	1				
			銅片	Q92	I	80	56.2	5				
			銅片	Q92	I	122	3.7	5				
			銅片	Q92	I	140	10.4	5				
			銅片	Q92	I	215	27.8	5				
			銅片	Q92	I	143	25.5	5				
			銅片	Q92	I	167	35.7	5				
			銅片	Q92	I	404	2.6	5				
			銅片	Q92	I	212	31.8	5				
			銅片	Q92	I	254	43.9	5				
			銅片	Q92	I	286	20.1	5				
			銅片	Q92	I	261	9.9	5				
			銅片	Q92	I	228	11.3	5				
			銅片	Q92	I	402	9.0	5				
			銅片	Q92	I	3	86.2	5				
			銅片	Q92	I	11	21.7	5				
			銅片	Q92	I	70	234.1	5				
			銅片	Q92	I	12	25.9	5				
			銅片	Q93	I	96	110.1	5				
			銅片	Q92	I	14	101.1	5				
			銅片	Q92	I	29	25.4	5				
			銅片	Q92	I	23	8.2	5				

上白滝8遺跡

探区	探区番号	探検号	St	地層	柱状	遺物名	数量	測定値	位置	付与期	備考
		調査		P5C	I	25	66.4		5		
		調査	27	P5C		138	56.7				
		調査	27	P5C		141	26.0		5		
		調査	27	Q59		618	31.4		5		
		調査	27	Q60		1264	13.3		5		
		調査	27	Q60		1168	13.2		5		
		調査	27	Q59		401	3.1		5		
		調査	27	Q60		1638	3.0		5		
		調査	27	Q59		1230	309.0		5		
		調査	27	Q59		3203	8.9		5		
		調査	27	Q60		732	30.2		5		
		調査	27	Q59		1630	17.6		5		
		調査	27	Q59		2117	33.1		1		
		調査	27	Q59		2297	6.1		1		
		調査	27	Q59		1253	18.8		5		
		調査	27	Q60		713	14.1		5		
		調査	27	Q59		2321	20.1		5		
		調査	27	Q60		74	129.0		5		
		調査	27	Q60		80	98.5		5		
		調査	27	Q60		1221	11.0		5		
		調査	27	Q60		136	14.3		5		
		調査	27	Q60		155	35.0		1		
		調査	27	Q60		1201	23.7		1		
		調査	27	Q60		1282	35.9		5		
		調査	27	Q60		166	26.9		5		
		調査	27	Q60		225	14.1		5		
		調査	27	Q60		183	23.4		1		
		調査	27	Q60		195	1.7		5		
		調査	27	Q60		211	61.4		5		
		調査	27	Q60		486	2.1		1		
		調査	27	Q60		1119	5.8		1		
		調査	27	Q60		240	80.6		5		
		調査	27	Q60		221	15.8		5		
第 221	213	180	石室	27	Q60	278	207.0		5		
				27	Q60	1692	5.8		5		
			調査	27	Q60	208	16.8		5		
			調査	27	Q60	1298	32.1		5		
			調査	27	Q60	289	106.0		1		
			調査	27	Q60	651	58.1		5		
			調査	27	Q60	857	1.5		5		
			調査	27	Q60	456	15.0		5		
			調査	27	Q60	718	16.5		5		
			調査	27	Q60	853	13.5		5		
			調査	27	Q60	921	21.2		5		
			調査	27	Q60	1350	16.0		5		
			調査	27	Q60	925	8.5		5		
			調査	27	Q60	1043	4.2		5		
			調査	27	Q60	1053	66.1		1		
			調査	27	Q60	1094	20.0		5		
			調査	27	Q60	1365	1.8		5		
			調査	27	Q60	1393	212.2		5		
			調査	27	Q60	1333	21.7		5		
			調査	27	Q60	1623	8.7		5		
			調査	Q60	I	5	19.9		5		
			調査	Q60	I	6	13.0		5		
			調査	Q60	I	7	6.9		5		
			石室	Q60	I	1	127.0		5		
			調査	Q60	I	6	252.1		5		
			調査	Q60	I	67	27.1		5		
			調査	Q60	I	68	31.4		5		

探区	探区番号	探検号	St	地層	柱状	遺物名	数量	測定値	位置	付与期	備考
		調査		Q60	I	69	31.4		5		
		調査		Q60	I	78	39.9		5		
第-272	233	179	組合資料	22-27				1,677.9	34	1-3-5	286 1271
		調査	25	P50		3050	181.1		1		
		調査	27	P62		105	87.0		1		
		調査	27	P62		116	36.5		1		
		調査	27	P62		192	223	142.8	1		
		調査	27	P62		192	5	17.5	1		
		調査	27	P62		24	334.2		1		
		調査	27	P62		65	212.0		1		
		調査	27	P61		791	8.5		5		
		調査	27	P61		1182	30.0		5		
		調査	27	P61		1271	1.7		3		
		調査	27	P61		1380	12.9		5		
		調査	27	P61		1552	219.1		1		
		調査	27	P62		483	32.5		5		
		調査	27	P62		41	3.0		1		
		調査	23	P62		52	404.2		1		
		調査	27	P62		1215	7.2		1		
		調査	23	P62		512	3.9		1		
		調査	27	P62		302	7.2		1		
		調査	27	P62		1	13.6		1		
		調査	27	P62		47	16.3		1		
		調査	27	P62		295	16.1		1		
		調査	27	P62		1	36.3		1		
		調査	27	P62		102	2.3		1		
		調査	27	P62		163	19.7		1		
		調査	27	P62		308	2.7		15		
		調査	27	P62		1	12.7		1		
		調査	27	P62		229	12.9		1		
		調査	27	P62		212	3.9		1		
		調査	27	P62		347	1.1		1		
		調査	27	P62		474	56.7		5		
第 226	219	121	石室	27	Q62	681	202.2		1		
			調査	27	Q62	1	22	6.7	5		
			調査	23	P62	83	50.3		1		
第 274	370	38	石室	27	Q60	23	603.4		5		
第-325	243	183	組合資料	21-29-31				229.5	12	3-5	269 1887
		調査	21	N54		I	15	6.9	5		
第-314	208	86	石室	21	Q62	217	351.1		3		
		調査	46	P54		4	5.5		5		
		調査	29	P51		12	8.0		5		
		調査	29	P51		96	9.7		5		
		調査	29	P51		1	13.6		5		
		調査	29	P51		2	4.6		5		
		調査	29	P54		I	3	1.9	5		
		調査	29	P51		I	4	2.1	5		
		調査	29	P52		58	1.4		5		
		調査	29	P53		59	6.7		5		
第 240	206	5	組合資料	25	Q66			2	96.0	3	
-	217	285	組合資料	21-21				707.8	8	2	182 1237
第-256	198	11	石室	21	N62	200	312.0		3		
		調査	21	N63		741	107.3		2		
		調査	21	Q62		425	251.3		2		
		調査	21	N63		719	3.7		2		
		調査	21	Q62		104	1.9		5		
		調査	21	Q62		145	4.5		2		
		調査	21	Q62		206	9.1		2		
		調査	21	Q62		314	4.5		2		
-	248	147	組合資料	26				232.0	27	3-4-5	230 1264

種類	図号	番号	発祥地	Sh	Hei	Hei	遺物番号	重量	長さ	幅	寸法	備考
			銅貨	28	2850		430	2.4			1	
			銅貨	28	2850		480	20.1			4	
			銅貨	28	2850		383	1.6			1	
			銅貨	28	2851		202	10.1			1	
			銅貨	28	2850		485	1.1			4	
			銅貨	28	2850		711	3.2			1	
			銅貨	28	2850		486	7.8			4	
			銅貨	28	2851		287	3.2			4	
			銅貨	28	2850		203	7.2			4	
			銅貨	28	2851		204	3.2			1	
			銅貨	28	2851		201	2.1			1	
			銅貨	28	2851		879	2.4			1	
			銅貨	28	2851		880	2.1			1	
			銅貨	28	2850		421	7.7			4	
			銅貨	28	2850		615	18.5			4	
			銅貨	28	2851		754	24.0			4	
			銅貨	28	2850		427	9.3			1	
			銅貨	28	2850		1023	13.5			4	
			銅貨	28	2850		1081	21.7			1	
			銅貨	28	2851		204	1.6			1	
			銅貨	28	2851		648	7.4			4	
			銅貨	28	2850		633	3.2			1	
			銅貨	28	2850		601	6.3			4	
			銅貨	28	2850		602	2.1			1	
			銅貨	28	2850		1043	7.2			4	
			銅貨	28	2850		1051	12.3			1	
			銅貨	28	2850		726	2.8			1	
			銅貨	28	2850		400	1.2			2	
			銅貨	28	2851		206	1.5			1	
			銅貨	28	2851		740	2.2			4	
			銅貨	28	2851		884	5.3			1	
			銅貨	28	2850		401	16.3			4	
			銅貨	28	2850		709	11.7			1	
			銅貨	28	2850		1154	6.3			1	
			銅貨	28	2851		230	3.7			1	
			銅貨	28	2851		232	2.1			1	
			銅貨	28	2851		649	2.0			4	
			銅貨	28	2850		741	2.6			1	
			銅貨	28	2850		787	8.4			4	
			銅貨	28	2851		832	5.8			1	
			銅貨	28	2850		919	3.1			4	
			銅貨	28	2851		830	1.8			1	
			銅貨	28	2850		941	1.5			1	
			銅貨	28	2850		802	2.8			1	
			銅貨	28	2850		1015	8.6			1	
			銅貨	28	2850		1044	2.9			4	
			銅貨	28	2851		823	15.5			1	
			銅貨	28	2850		1031	5.0			4	
			銅貨	28	2851		841	3.5			1	
			銅貨	28	2851		827	2.7			1	
			銅貨	28	2850		1057	6.3			1	
			銅貨	28	2851		783	1.9			1	
			銅貨	28	2851		806	16.8			4	
			銅貨	28	2851		7	3.2			3	
			銅貨	28	2850		1079	9.2			4	
			銅貨	28	2851		22	2.7			1	
			銅貨	28	2851		817	6.1			4	
古-302	2202	40	元朝部	28	2850		1156	129.1			5	
			銅貨	28	2850		1172	5.7			1	
			銅貨	28	2851		256	7.4			4	

種類	図号	番号	発祥地	Sh	Hei	Hei	遺物番号	重量	長さ	幅	寸法	備考
			銅貨	28	2851		615	16.6			1	
			銅貨	28	2851		90	5.2			4	
			銅貨	28	2851		419	3.5			1	
			銅貨	28	2851		212	3.2			1	
			銅貨	28	2851		216	1.0			4	
			銅貨	28	2851		609	4.0			4	
			銅貨	28	2851		373	9.4			1	
			銅貨	28	2851		423	1.0			1	
			銅貨	28	2851		434	5.4			4	
			銅貨	28	2851		825	1.7			1	
			銅貨	28	2851		252	2.1			1	
			銅貨	28	2851		287	1.0			1	
			銅貨	28	2851		760	16.4			4	
			銅貨	28	2851		816	2.6			4	
			銅貨	28	2851		912	23.1			4	
			銅貨	28	2852		204	7.9			4	
古-502	262	2	元朝部	28	2850		25	136.6			1	
248	368	鎌倉初期	27				453.8	94	4	237	1300	
		銅貨	27	060			209	3.0			1	
		銅貨	27	760			147	17.2			1	
		銅貨	27	760			1363	8.3			4	
		銅貨	27	960	甲		28	6.8			1	
		銅貨	27	060	乙		16	2.3			4	
		銅貨	27	060	丙		12	1.1			1	
		銅貨	27	060	丁		41	0.9			4	
		銅貨	27	760			1092	2.0			1	
		銅貨	27	760			1366	3.9			1	
		銅貨	27	760			24	9.0			1	
		銅貨	27	956			123	6.1			4	
		銅貨	27	760	甲		8	1.2			4	
		銅貨	27	956			73	6.7			1	
		銅貨	27	760			475	0.7			1	
		銅貨	27	956			126	2.0			1	
		銅貨	27	760			112	1.7			1	
		銅貨	27	760			156	3.2			1	
		銅貨	27	956			282	10.6			4	
		銅貨	27	760			1487	12.0			4	
		銅貨	27	956			205	5.0			4	
		銅貨	27	760	乙		55	0.4			4	
		銅貨	27	956			476	7.9			1	
		銅貨	27	760	甲		48	1.3			4	
		銅貨	27	760	乙		21	0.1			1	
		銅貨	27	760	丙		2	1.6			1	
		銅貨	27	760	丁		7	1.0			1	
		銅貨	27	956	乙		12	1.2			1	
		銅貨	27	760	甲		14	1.0			4	
		銅貨	27	760			1305	1.5			4	
		銅貨	27	760			1202	1.1			4	
		銅貨	27	760			1201	6.8			1	
		銅貨	27	760			1842	2.9			1	
		銅貨	27	760	甲		71	6.6			1	
		銅貨	27	956	乙		15	1.0			1	
		銅貨	27	760			69	16.9			4	
		銅貨	27	956	乙		16	0.9			1	
		銅貨	27	760			1343	42.8			4	
		銅貨	27	960	甲		59	1.0			1	
		銅貨	27	960	乙		148	13.9			1	
		銅貨	27	760	乙		18	0.8			1	
		銅貨	27	760			112	1.3			1	
		銅貨	27	760			401	1.5			4	

上白池8遺跡

種類	図面番号	資料名	Stb	包蔵区	柱位	遺跡番号	坐標	南北向き	石質	付与期	組合名
			27	P90		899	4.3		1		
			27	P90		2097	4.8		4		
				P90	I	20	0.1		1		
		測尺		P90	II	10	0.5		1		
		測尺	27	P90		29	2.0		4		
				P90	II	47	0.8		1		
		測尺	27	P90		140	2.0		4		
		測尺	27	P90		153	0.8		1		
			27	P90		611	12.4		4		
		測尺	27	P90		156	22.9		1		
		測尺	27	P90		235	7.3		1		
			27	P90		1143	4.9		1		
		測尺	27	P90		270	1.0		1		
		測尺	27	P90		295	19.9		4		
			27	P90		1306	2.7		1		
			27	P90		2301	6.0		4		
			27	P91		271	4.8		1		
		測尺	27	P90		259	2.5		4		
		測尺	27	P90		270	1.7		1		
				P90	I	33	10.8		1		
				P90	I	29	0.8		1		
			27	P91		60	5.3		1		
		測尺	27	P90		331	1.0		4		
				P90	II	45	0.9		1		
				P90	II	60	0.9		4		
				P90	II	72	0.5		1		
		測尺	27	P90		959	1.1		1		
			27	P90		1206	2.1		1		
		測尺	27	P90		202	1.2		1		
		測尺	27	P90		433	6.1		4		
				P90	II	31	0.9		1		
		測尺	27	P90		790	2.2		4		
		測尺	27	P90		1287	2.1		1		
		測尺	27	P90		1294	4.0		1		
			27	P90		2509	1.2		1		
		測尺	27	P90		1981	0.2		1		
		測尺	27	P90		1206	1.1		4		
		測尺	27	P90		1323	0.9		1		
			27	P90		1604	1.9		4		
		測尺	27	P90		1846	2.4		1		
			27	P90		2021	2.6		4		
		測尺	27	P90		3096	11.2		1		
				P90	II	37	0.1		1		
		測尺		P90	II	99	1.1		1		
		測尺		P90	II	61	0.5		1		
		測尺	27	P91		468	2.9		4		
			27	Q59		82	29.4		1		
		測尺		P91	II	20	0.2		4		
		測尺		P91	II	32	0.6		1		
				P91	II	24	1.0		1		
				P91	II	232	1.2		1		
		測尺		P91	II	58	0.1		1		
249	100	組合資料	27			424.6	90	4	250	1351	
		測尺	27	P90		166	0.2		1		
			27	P90		1182	1.2		4		
				P90	II	63	0.5		1		
			27	P91		32	3.1		4		
		敷瓦破片	P90	I	18	3.2			1		
			27	P90		653	2.4		1		
			27	P90		1143	2.8		4		

種類	図面番号	資料名	Stb	包蔵区	柱位	遺跡番号	坐標	南北向き	石質	付与期	組合名
			27	P90		1278	1.5		1		
				P90	II	46	0.8		1		
		測尺		P90	II	25	0.6		1		
			27	P90		205	4.2		1		
				P90	II	1161	3.0		4		
				P90	II	56	0.8		1		
				P90	II	25	1.1		4		
		測尺		P90	II	38	0.2		1		
			27	P90		1092	14.8		4		
			27	P91		920	0.9		1		
		測尺		P90	II	60	0.9		1		
			27	P90		151	1.2		1		
			27	P90		225	3.2		1		
			27	P90		136	1.1		4		
			27	P90		602	11.3		1		
		測尺		Q61	I	4	1.3		4		
				P90	I	3	4.6		1		
			27	P90		305	4.6		4		
			27	P90		1098	2.1		1		
			27	P91		691	2.0		1		
		測尺	27	P90		135	0.3		4		
		測尺	27	P90		38	2.0		1		
		測尺	27	P90		26	1.3		4		
		測尺	27	P90		86	25.0		1		
			27	P90		370	34.0		4		
			27	P90		678	11.0		1		
			27	P90		780	2.7		1		
			27	P90		1043	2.1		1		
			27	P90		1020	0.9		1		
		測尺	27	P90		111	1.2		4		
		測尺	27	P90		205	13.2		1		
			27	P90		443	2.4		4		
		測尺	27	P90		415	1.2		1		
		測尺	27	P90		679	16.4		1		
			27	P91		196	1.1		1		
			27	Q56		328	4.2		1		
		測尺		P90	II	6	0.8		4		
				P90	II	23	0.6		1		
		測尺		P90	II	12	0.8		4		
			27	P90		1076	1.2		1		
		測尺	27	P90		26	1.3		4		
		測尺	27	P90		61	3.8		1		
			27	P90		389	0.6		1		
			27	P90		757	1.4		1		
			27	P90		1651	1.2		1		
				P90	I	26	1.5		4		
		測尺	27	P90		65	1.2		1		
				P90	I	25	47.1		4		
				P90	I	22	1.5		1		
		測尺	27	P90		68	0.8		1		
			27	P90		1009	25.8		1		
			27	P91		183	1.5		1		
			27	P91		1172	3.7		4		
		測尺	27	P90		104	4.2		1		
		測尺	27	P90		145	0.4		4		
			27	P90		303	9.2		1		
		測尺	27	P90		158	1.9		4		
			27	P90		1041	15.0		1		
			27	P91		1520	3.1		1		
		測尺	27	P90		312	1.1		4		

上白池8遺跡

探区	探区番号	探検号	Stb	地層	柱状	遺物名	数量	測定値	石質	付与区	備考
		調査	27	Q99		1829	69.1	5			
		石瓦	27	Q99		1408	64.6	1			
			27	Q99		2917	28.1	1			
		石瓦	27	Q99		1361	4.8	1			
			27	Q99		2426	2.7	1			
		調査	27	Q99		2152	3.1	1			
		調査	27	Q99		2296	4.4	1			
		石瓦	27	Q99		2072	6.2	1			
		調査	27	Q99		2407	11.4	1			
		調査	27	Q99		18	5.3	1			
		調査	27	Q99		205	1.6	1			
		調査	27	Q99		225	4.1	1			
			27	Q99		1055	6.8	1			
		調査	27	Q99		290	22.3	5			
			27	Q99		1631	3.4	1			
		調査	27	Q99		423	26.3	5			
		調査	27	Q99		891	13.7	1			
		石瓦	27	Q99		903	5.4	1			
		調査	27	Q99		1180	1.9	1			
		調査	27	Q99		1231	44.2	5			
		調査	27	Q99		1298	10.5	5			
			27	Q99		1730	62.1	1			
		調査	27	Q99		1323	1.39	5			
		調査	27	Q99		1231	55.6	1			
		調査	27	Q99		1410	8.9	1			
		調査	27	Q99		1412	15.3	5			
		調査	27	Q99		1431	7.9	5			
		調査	27	Q99		1230	9.2	5			
		調査	27	Q99		1322	1.5	1			
		石瓦	27	Q99		1281	15.0	1			
		調査	27	Q99		1400	3.9	1			
		調査	27	Q99		1619	4.5	1			
		調査	27	Q99		1619	2.4	1			
		調査	27	Q99		1791	4.9	1			
		調査	27	Q99		1822	9.8	1			
		調査	27	Q99		1467	16.2	1			
251	193	調査資料				2,223.2	30	1	190	1258	
		調査	27	P92		257	19.6	1			
		調査	27	P92		258	28.4	1			
			26	P92		81	12.8	1			
		調査	27	P92		204	4.3	1			
			27	P92		18	6.5	1			
		調査	27	P92		209	2.8	1			
		調査	27	P92		257	3.3	1			
			26	P93		267	16.4	1			
			27	P93		408	193.0	1			
		調査	27	P92		263	3.2	1			
		調査	27	P92		266	3.2	1			
		調査	27	P92		416	7.8	1			
			27	P93		254	25.3	1			
27-306	203	66	調査調整石版			309	1,293.8	1			
		調査	23	P93		202	257.4	1			
			22	P94		195	25.7	1			
			22	P93		124	42.2	1			
		調査	26	P93		205	53.1	1			
			研1			116	100.5	1			
			研2			112	11.1	1			
		調査	27	P92		402	7.0	1			
		調査	27	P91		148	28.1	1			
		調査	27	P94		223	27.6	1			

探区	探区番号	探検号	Stb	地層	柱状	遺物名	数量	測定値	石質	付与区	備考
		調査				P94	1	16	4.5	1	
		調査				P94	1	17	7.8	1	
		調査	22	P93		96	16.1	1			
			27	Q96		1	16.0	1			
		調査	22	P93		286	96.6	1			
		調査				F930	25	21	11.1	1	
						研01	研02	1.3	1		
1-1	252	294	調査資料			27+51		6,184.9	204	1+5	202 1278
		調査	27	M99		4	144.3	5			
			27	N58		189	66.5	5			
			27	N59		250	4.1	5			
		調査				M99	1	2	12.9	5	
			27	N58		560	2.7	1			
		調査	27	N57		108	13.6	1			
		調査				N57	1	3	151.5	1	
			27	Q96		90	47.5	1			
		調査				N57	1	8	29.1	5	
		石瓦	27	N58		13	46.8	5			
			27	N58		114	20.6	5			
						T	3	97.5	1		
			27	Q99		435	32.5	5			
		調査	27	N58		16	9.5	1			
		調査	27	N58		21	11.0	1			
			27	N59		59	3.4	1			
		調査	27	N56		133	14.3	1			
			27	Q98		253	23.9	1			
			27	Q98		114	2.5	1			
			27	Q99		228	9.5	1			
		石瓦	27	N58		292	26.8	5			
			27	N58		480	1.5	5			
			27	N58		885	27.5	5			
						N59	1	2	103.6	1	
		石瓦	27	N58		225	22.4	1			
			27	N59		10	19.2	5			
			27	N59		110	2.7	5			
			27	N56		227	18.5	5			
		調査	27	N56		479	27.0	5			
		調査	27	N58		194	27.2	5			
		調査	27	N56		407	54.9	5			
			27	N59		23	4.0	1			
			27	N59		142	47.6	5			
			27	N59		26	42.4	5			
		調査	27	N58		948	113.8	5			
		石瓦	27	N58		398	79.2	5			
			27	P93		720	41.9	5			
		石瓦	27	N56		249	32.1	5			
						Q58	1	3	126.7	1	
		調査	27	N58		254	46.9	5			
		調査	27	N58		421	48.0	1			
			27	Q99		66	19.8	5			
			27	Q99		119	91.5	5			
			27	Q99		221	198.3	5			
		石瓦	27	N59		66	30.6	5			
			27	N56		74	9.1	1			
			27	N59		290	44.0	5			
		調査	27	N56		94	88.8	1			
			27	N59		157	3.5	1			
		石瓦	27	N59		102	53.0	5			
			27	N59		219	31.9	5			
		調査	27	N59		111	12.7	5			

種類	図号	番号	名称	Stb	数量	単位	重量	容積	材質	寸法	備考
			銅片	27	N59	113	38.2		1		
				27	N59	1	9	39.9	5		
				27	N60	45	56.3		5		
			銅片	27	N59	144	1.8		1		
				27	N60	35	24.1		1		
			銅片	27	N59	145	10.2		5		
			銅片	27	N59	192	166.2		5		
			石膏	27	N59	196	115.5		5		
				27	N59	200	87.7		5		
			銅片	27	N59	289	2.5		5		
			銅片	27	N59	295	3.9		1		
				27	Q68	421	3.8		5		
			石膏	27	N59	207	13.9		1		
				27	Q59	215	25.6		1		
			石膏	27	N59	1	5.9		1		
			石膏	27	N60	15	32.3		5		
			銅片	27	N60	29	20.5		1		
			銅片	27	N60	52	302.3		5		
			銅片	27	N60	61	158.9		5		
第-313	308	A3	舟底の釘跡	27	Q67	1	131.9		1		
				27	Q68	28	67.8		1		
				27	Q68	138	83.9		1		
			銅片	27	Q57	11	16.4		5		
			銅片	27	Q57	99	12.5		1		
			銅片	27	Q66	13	11.2		5		
				27	Q68	417	2.6		5		
			銅片	27	Q68	39	3.2		5		
			銅片	27	Q68	88	70.9		5		
			銅片	27	Q68	64	24.8		5		
				27	Q66	328	15.8		5		
			銅片	27	Q68	132	14.9		5		
			銅片	27	Q66	104	15.1		5		
			銅片	27	Q68	214	13.1		5		
			銅片	27	Q68	222	12.1		1		
			銅片	27	Q68	206	28.5		5		
			銅片	27	Q68	219	20.8		5		
				27	Q59	48	28.9		5		
			銅片	27	Q68	284	7.5		5		
			銅片	27	Q66	405	4.6		5		
			銅片	27	Q68	439	10.9		5		
			銅片	27	Q66	427	25.5		5		
			銅片	27	Q68	630	3.5		5		
				27	Q68	136	19.1		5		
			銅片	27	Q68	1	30	58.3		5	
				27	Q59	1	8	14.3		5	
			銅片	27	Q59	101	60.3		5		
			銅片	27	Q59	201	13.5		5		
			銅片	27	Q59	209	11.6		5		
			銅片	27	Q59	202	8.9		1		
			銅片	27	Q59	1	47	15.9		5	
			銅片	25	J51	82	57.5		1		
			銅片	27	Q59	63	98.6		1		
253	193		銅片	27	Q59	1	1,102.0	30	1+2	885	1193
			銅片	27	Q59	7	21.4		1		
				27	Q59	114	6.9		1		
			銅片	27	Q60	1	91	53.0		1	
			銅片	27	Q58	193	133.4		1		
				27	J50	25	25.1		1		
			銅片	27	Q59	217	32.1		1		
				27	Q59	272	55.0		1		

種類	図号	番号	名称	Stb	数量	単位	重量	容積	材質	寸法	備考
				27	Q59	419	16.4		1		
				27	Q60	760	9.2		1		
				27	Q60	1287	116.6		1		
第-315	316	316	石膏跡	25	Q59	278	831.6		1		
			銅片	27	Q59	470	13.1		1		
			銅片	27	Q59	816	16.4		1		
			銅片	27	Q59	923	31.3		1		
				27	Q60	151	313.6		1		
				27	Q60	1	21	42.5		1	
			銅片	27	Q59	1290	196.3		1		
			銅片	27	Q60	324	11.7		1		
			銅片	27	Q60	784	27.4		1		
				27	Q60	1710	58.7		1		
254	395		銅片	25+27			2,306.2	32	1+4-5	164	1196
第-317	311		石膏	27	Q61	148	379.6		1		
			銅片	25	Q62	25	8.2		1		
				27	Q62	613	20.3		1		
			銅片	27	J60	492	1.0		4		
				27	J61	1258	11.8		5		
			銅片	27	J60	1157	14.1		1		
				27	J62	5	3.4		1		
			銅片	27	J61	210	1.2		5		
				27	J62	1	31	20.4		1	
				27	Q63	1	14	31.0		1	
			銅片	27	J61	1050	10.5		5		
				27	J61	1153	92.5		1		
			銅片	27	J61	1179	11.5		5		
				27	J62	280	82.4		15		
				27	J62	1	39	1.6		1	
			銅片	27	J61	1252	4.5		1		
				27	J62	1	33	18.7		1	
			銅片	27	J61	1266	5.7		1		
				27	J61	1418	172.6		1		
				27	J62	291	32.4		5		
			銅片	27	J61	1818	32.0		5		
			銅片	27	J61	1821	88.4		1		
			銅片	27	J61	1781	253.8		5		
				27	J61	1	44	31.7		5	
				27	J61	1	67	8.2		1	
			銅片	27	J62	18	3.0		1		
			銅片	27	J62	127	286.7		15		
			銅片	27	J62	314	7.7		1		
				27	J62	16	283.7		1		
			銅片	27	J62	346	36.1		5		
			銅片	27	J62	271	98.7		5		
			銅片	27	J62	22	479.7		1		
一	353	357	銅片	25			1,023.0	31	1+3-9	187	1250
			石膏	25	Q67	上	13	16.8		1	
				25	Q65		194	22.4		1	
			石膏	25	Q67	下	5	13.1		1	
			銅片	25	Q64		291	26.3		1	
			石膏	25	Q65		34	13.4		1	
				25	Q65		411	85.2		1	
			銅片	25	Q65		233	57.0		1	
			石膏	25	Q65		21	32.6		1	
			銅片	25	Q66	平	21	13.3		1	
			石膏	25	Q67	下	2	82.9		1	
			銅片	25	Q67	上	15	21.1		1	
			石膏	25	Q67	下	17	31.3		1	
第-362	363	118	石膏跡	25	Q68	1	1	802.6		3	

上白泥 8 遺跡

種類	種類	種類名	Stb	数量	単位	数量	単位	数量	単位	数量	単位	数量	単位
		瓦葺	跡	309	1	5	118.5	1					
		心石	平石	40	0.2								
		礎石	礎石	10	129.2	1							
		礎石	平石	61	56.6	1							
		礎石	礎石	11	14.6	1							
		礎石	礎石	13	14.0	1							
		礎石	礎石	29	58.5	1							
		礎石	礎石	109	91.2	2							
瓦	363	207	76	組合瓦葺	34		6.8	3	1			2007	
瓦	278	257	22	礎石瓦葺	21	礎石	502	1.1	1				
瓦	328	257	25	礎石瓦葺	34	礎石	1813	3.1	1				
瓦	378	257	21	礎石瓦葺	21	礎石	1900	4.8	1				
瓦	385	265	29	礎石瓦葺	22 + 24		5,021.2	55	1	360	1,664		
瓦	326	257	20	礎石瓦葺	34	礎石	4	107.9	1				
					礎石	1	63.2	1	1				
瓦	326	257	22	礎石瓦葺	34	礎石	20	11.2	1				
					礎石	21	礎石	923	12.7	1			
					礎石瓦葺	34	礎石	42	6.6	1			
					礎石	1	23	10.7	1				
					礎石	7	51	56.8	1				
					礎石	34	礎石	91	8.1	1			
					礎石	34	礎石	162	108.1	1			
					礎石瓦葺	34	礎石	410	12.3	1			
					礎石	21	礎石	432	6.9	1			
					礎石	34	礎石	927	96.1	1			
					礎石	21	礎石	1701	19.7	1			
					礎石	22	礎石	121	21.4	1			
					礎石	21	礎石	279	59.8	1			
					礎石	21	礎石	912	15.9	1			
					礎石	24	礎石	1286	2.1	1			
					礎石	24	礎石	948	89.3	1			
					礎石	34	礎石	949	36.7	1			
					礎石	21	礎石	957	12.2	1			
瓦	388	264	22	心葺	31	礎石	1260	1,271.2	1				
					礎石	21	礎石	1089	5.9	1			
					礎石	24	礎石	1862	56.6	1			
					礎石	34	礎石	2083	91.4	1			
					礎石	15	1	19	117.5	1			
					礎石	34	礎石	291	5.0	1			
					礎石	21	礎石	1727	51.6	1			
					礎石	22	礎石	136	22.2	1			
					礎石	21	礎石	1762	4.2	1			
					礎石	21	礎石	1783	16.5	1			
					礎石	21	礎石	1823	22.7	1			
					礎石	21	礎石	1816	26.5	1			
瓦	326	257	21	礎石瓦葺	34	礎石	1929	6.1	1				
					礎石	1	11	29.0	1				
					礎石	平石	122	191.9	1				
					礎石	礎石	1	15	10.9	1			
					礎石	平石	229	19.3	1				
					礎石	礎石	1	18	287.9	1			
					礎石	礎石	1	52	217.8	1			
					礎石	礎石	1	25	6.6	1			
					礎石	礎石	30	282.2	1				
					礎石	34	礎石	21	3.7	1			
					礎石	34	礎石	126	3.6	1			
					礎石	34	礎石	208	3.1	1			
					礎石	平石	222	25.0	1				
					礎石	34	礎石	104	28.5	1			
					礎石	34	礎石	129	96.3	1			

種類	種類	種類名	Stb	数量	単位	数量	単位	数量	単位	数量	単位	数量	単位
			34	礎石	209	20.6	1						
			34	礎石	221	45.0	1						
			礎石	225	48.4	1							
			礎石	226	47.8	1							
			礎石	227	47.9	1							
瓦	560	368	12	礎石瓦葺	平石	228	15.5	1					
					礎石	43	27.9	1					
					礎石	平石	296	302.1	1				
瓦	66	266	23	組合瓦葺	17 + 34		3,209.7	42	1	259	1,406		
					礎石	21	礎石	21	2.8	1			
					礎石	34	礎石	1900	8.1	1			
					礎石	21	礎石	1945	22.9	1			
					礎石	34	礎石	1980	4.8	1			
					礎石	12	49	1.3	1				
					礎石	34	礎石	59	11.9	1			
					礎石	34	礎石	64	4.4	1			
					礎石瓦葺	21	礎石	283	8.1	1			
					礎石	34	礎石	889	10.9	1			
					礎石	21	礎石	227	12.9	1			
					礎石	21	礎石	437	36.6	1			
					礎石	34	礎石	490	265.1	1			
					礎石	34	礎石	462	31.2	1			
					礎石	34	礎石	1312	1.9	1			
					礎石	21	礎石	1712	51.3	1			
					礎石	34	礎石	1946	8.4	1			
					礎石	21	礎石	2089	233.2	1			
					礎石	T	29	152.2	1				
					礎石	21	礎石	800	127.2	1			
					礎石	21	礎石	1644	3.3	1			
					礎石	34	礎石	1952	20.6	1			
					礎石	21	礎石	943	7.3	1			
					礎石	34	礎石	1304	1.3	1			
					礎石	21	礎石	1712	4.0	1			
					礎石	21	礎石	2064	6.7	1			
					礎石	21	礎石	4217	5.7	1			
					礎石瓦葺	21	礎石	1333	168.6	1			
					礎石	34	礎石	1902	32.1	1			
					礎石	21	礎石	1716	132.3	1			
					礎石	34	礎石	1842	14.2	1			
					礎石	21	礎石	1886	7.1	1			
					礎石	34	礎石	1925	2.8	1			
					礎石	21	礎石	1929	5.2	1			
					礎石	21	礎石	1958	1.1	1			
					礎石	21	礎石	1960	1.5	1			
					礎石	T	45	2.5	1				
					礎石	34	礎石	1926	21.4	1			
					礎石	21	礎石	1990	7.0	1			
					礎石	34	礎石	2023	14.9	1			
					礎石	21	礎石	2081	23.6	1			
					礎石	21	礎石	2048	2.3	1			
					礎石	21	礎石	2097	5.1	1			
					礎石	21	礎石	2029	8.1	1			
					礎石	礎石	1	44	6.9	1			
					礎石	164	55	2.7	1				
					礎石	164	401	12.4	1				
					礎石	17	161	119	22.3	1			
					礎石	17	164	120	28.0	1			
					礎石	17	164	146	4.1	1			
					礎石	17	165	163	17.4	1			
瓦	241	343	300	心葺	17	164	153	1,158.2	1				

群号	展覧番号	器物名	Stb	地区	出所	遺跡名	数量	年代	材質	寸法	備考
		銅貨	17 161		597	4.3	1				
		銅貨	17 161		406	5.6	1				
		銅貨	17 161		099	16.0	1				
		銅貨	17 161		613	3.0	1				
		銅貨	17 164		472	5.6	1				
		銅貨	17 164		492	4.6	1				
		銅貨	17 164		405	6.3	1				
		銅貨	17 163		18	4.0	1				
		銅貨	17 163		203	162.2	1				
		銅貨	17 163		11	154.1	1				
		銅貨	17 163		136	13.7	1				
B-399	207	82	組合資料	17			21.5	5	1	器9	1451
B-222	152	205	銅石分輪銅片	17	164	1	73	3.7	1		
			銅貨	17	164		524	2.2	1		
B-220	152	180	銅石分輪銅片	17	164	1	9	14.9	1		
B-220	152	179	銅石分輪銅片	17	164	1	141	6.8	1		
			銅貨	17	164		611	4.9	1		
B-400	204	83	組合資料	34-35			3,407.2	66	1	器3	1465
		石製	17	164	1	29	17.5	1			
		銅貨	17	164		40	67.6	1			
		銅貨	17	164		226	6.7	1			
		銅貨	34	1657		692	21.8	1			
		銅貨	34	1657		1248	18.2	1			
		銅貨	34	1657		1755	21.6	1			
		銅貨	35	136		182	107.2	1			
		銅貨	35	136		162	2.7	1			
		銅貨	35	136		207	16.0	1			
		銅貨	34	1657		1782	40.8	1			
		銅貨	34	1657		1800	23.5	1			
		銅貨	34	1657		1792	27.2	1			
		銅貨	35	136		82	106.4	1			
		銅貨	35	136		115	11.3	1			
		銅貨	35	136		158	137.8	1			
		銅貨	35	136		217	8.1	1			
		銅貨	35	136		218	12.1	1			
		銅貨	35	136		219	21.3	1			
		銅貨	35	136		296	3.5	1			
B-382	260	58	石製	34	1657	1821	37.8	1			
			銅貨	34	1657	71	141.0	1			
		石製	35	136	154	1	18	7.7	1		
		銅貨	35	136	161	1	146.1	1			
		銅貨	35	136	1	20	9.0	1			
		銅貨	35	136	1	216	117.4	1			
		銅貨	35	136	22	3.8	1				
		銅貨	35	136	216	5.1	1				
		銅貨	35	136	114	13.5	1				
		銅貨	35	136	733	31.2	1				
		銅貨	35	136	902	9.2	1				
		銅貨	35	136	107	50.1	1				
		銅貨	35	136	113	68.7	1				
		銅貨	34	1657	177	8.1	1				
		銅貨	35	136	7	53.4	1				
		銅貨	35	136	175	22.2	1				
		銅貨	35	136	120	100.1	1				
		銅貨	35	136	677	3.4	1				
		銅貨	35	136	105	21.3	1				
		銅貨	35	136	302	33.8	1				
		銅貨	35	136	642	22.4	1				
		銅貨	35	136	180	9.6	1				
		銅貨	35	136	189	27.9	1				

群号	展覧番号	器物名	Stb	地区	出所	遺跡名	数量	年代	材質	寸法	備考
		銅貨	35	136		109	9.1	1			
		銅貨	35	136		220	5.0	1			
		銅貨	35	136		221	22.3	1			
		銅貨	35	136		370	56.8	1			
		銅貨	35	136		403	6.2	1			
		銅貨	35	136		728	2.3	1			
		銅貨	35	136		408	12.7	1			
		銅貨	35	136		475	11.6	1			
		銅貨	35	136		28	27.7	1			
		銅貨	35	136		1	14.7	1			
		銅貨	35	136		205	11.7	1			
		銅貨	35	136		219	1.6	1			
		銅貨	35	136		29	12.7	1			
		銅貨	35	136		1	8.5	1			
		銅貨	35	136		2	7.3	1			
		銅貨	35	136		103	157.3	1			
		銅貨	35	136		209	42.2	1			
		銅貨	35	136		204	30.6	1			
		銅貨	35	136		206	50.5	1			
		銅貨	35	136		308	20.7	1			
		銅貨	35	136		211	774.3	1			
		銅貨	35	136		214	25.5	1			
		銅貨	35	136		217	2.3	1			
		銅貨	35	136		218	29.2	1			
B-401	267	84	組合資料	22-35			2,137.1	39	1	器9	1257
		銅貨	35	1653		104	28.0	1			
		銅貨	35	1653		119	20.9	1			
		銅貨	35	1653		108	16.7	1			
		銅貨	35	1653		723	11.8	1			
		銅貨	35	1653		141	30.6	1			
		銅貨	35	1653		212	20.1	1			
		銅貨	35	1653		109	57.9	1			
		銅貨	35	1653		258	5.1	1			
		銅貨	35	1653		602	119.9	1			
		石製	35	1653		228	12.7	1			
		銅貨	35	1653		327	27.1	1			
		銅貨	35	1653		1123	13.4	1			
		銅貨	35	1653		58	47.1	1			
		銅貨	35	1653		145	6.4	1			
		銅貨	35	1653		158	21.4	1			
B-386	263	66	石製	35	1653		429	1,126.1	1		
		銅貨	35	1653		184	3.5	1			
		銅貨	35	1653		312	47.9	1			
		銅貨	35	1653		808	31.7	1			
		銅貨	35	1653		910	36.9	1			
		銅貨	35	1653		923	4.6	1			
		銅貨	35	1653		68	37.8	1			
		銅貨	35	1653		1032	6.4	1			
		銅貨	35	1653		89	19.7	1			
		銅貨	35	1653		226	3.5	1			
		石製	35	1653		1182	8.9	1			
		銅貨	35	1653		66	37.2	1			
		銅貨	35	1653		67	12.5	1			
		石製	35	1653		1253	22.3	1			
		銅貨	35	1653		59	21.5	1			
		銅貨	35	1653		60	17.3	1			
		石製	22	164		11	34.1	1			
		銅貨	22	164		74	37.1	1			
		銅貨	22	164		38	57.3	1			
		銅貨	22	164		1	3.0	1			

上白池8遺跡

棟号	面積	番号	材料名	St	巻数	仕付	延床面積	重量	新設品	石質	付与別	総合
			縦長破片	33	1954		106	24.9		1		
				33	1954		224	12.7		1		
			破片	33	1953	平置	201	94.6		1		
			破片	33	1953	平置	202	29.0		1		
第-480	289	83	組合材料	35			1,267.3	10	3+4	270	1408	
第-584	353	72	石片状	35	1955		140	133.3		1		
			破片	35	1952		447	5.8		4		
				35	1952		1222	106.1		6		
			破片	35	1953		209	43.7		3		
				35	1953		359	21.9		9		
			破片	35	1956		136	17.2		1		
				35	1956		1038	6.3		1		
				35	1956		1055	4.4		1		
			破片	35	1956		1042	24.3		4		
			破片	35	1956		1198	1.2		1		
第-480	289	86	横合材料	35			2,586.9	24	1+9+4	543	1608	
			破片	35	1953		21	83.4		1		
				35	1953		1123	197.3		4		
				35	1953		1191	15.4		1		
				35	1953	T	15	3.4		1		
				35	1953	L	18	2.3		4		
			破片	35	1953		87	217.4		1		
				35	1953		1123	2.0		3		
			破片	35	1953		131	236.5		9		
			破片	35	1953		151	7.2		4		
				35	1953		283	12.6		1		
				35	1953		307	8.5		1		
			破片	35	1952		208	8.5		9		
				35	1953		303	4.0		1		
				35	1953		1028	406.4		4		
				35	1953		1283	1.6		9		
			破片	35	1953		464	244.7		4		
				35	1953		692	11.2		1		
			破片	35	1953		768	97.7		1		
			縦長破片	35	1953		1032	50.3		9		
			破片	35	1953		1180	50.9		1		
				35	1953		1193	14.9		4		
				35	1953	T	13	4.3		1		
			破片	35	1953	L	19	1.9		4		
				35	1953	L	53	51.3		1		
第-484	272	80	横合材料	35-33			24,863.4	200	1+9+9	289	1322	
			石片	35	1956		297	19.9		1		
				35	1956		716	12.2		1		
			石片	33	1957		7	110.3		1		
第-583	360	60	石片	33	1957		5	87.8		1		
				33	1957		240	22.1		1		
			破片	33	1957		9	12.9		1		
			石片	33	1957	平置	13	7.3		1		
				33	1957	平置	39	5.0		2		
			破片	33	1957		126	21.9		1		
				33	1957		147	3.3		5		
				33	1957		1456	29.6		1		
				33	1956		36	9.5		1		
			石片	33	1957		237	23.5		1		
				33	1957		815	17.4		1		
				33	1957		1236	11.0		2		
			破片	33	1957		240	7.2		1		
				33	1957		334	15.2		1		
				33	1957		821	36.8		1		
				33	1957		1219	7.9		1		

棟号	面積	番号	材料名	St	巻数	仕付	延床面積	重量	新設品	石質	付与別	総合
			石片	33	1957		217	2.7		4		
				33	1957		781	41.1		1		
			縦長破片	33	1957		312	162.8		1		
				33	1956		134	58.1		1		
			破片	33	1957		315	0.4		1		
				33	1957		1091	1.3		1		
			破片	33	1957		219	9.2		1		
				33	1957		720	536.2		1		
			石片	33	1957		226	17.2		1		
				33	1957		719	113.0		1		
			縦長破片	33	1957		322	195.3		1		
				33	1957		1107	13.4		1		
第-583	260	63	石片	33	1957		511	31.6		1		
				33	1957		1483	43.6		1		
				33	1957		1598	12.6		1		
			破片	33	1957		346	49.9		1		
				33	1957		319	537.3		1		
				33	1957		254	572.2		1		
			縦長破片	33	1957		350	231.3		1		
				33	1957		1321	31.0		1		
			破片	33	1957		256	30.7		1		
			石片	33	1957		357	91.9		1		
				33	1957		1223	11.1		1		
			破片	33	1957		368	312.7		1		
				33	1957		707	2.6		1		
			破片	33	1957	平置	609	2.8		1		
				33	1957	平置	255	4.8		1		
			破片	33	1957		219	13.1		1		
			破片	33	1957		715	92.2		1		
				33	1957		782	313.7		1		
				33	1957		1395	1.7		1		
				33	1957		1473	3.2		1		
			破片	33	1957		715	10.3		1		
				33	1957		1501	18.0		1		
			破片	33	1957		728	29.7		1		
			破片	33	1957		724	12.4		1		
				33	1957		728	37.8		1		
				33	1957		735	4.4		1		
			石片	33	1957		734	21.4		1		
				33	1957		1125	20.4		1		
			縦長破片	33	1957		740	227.6		1		
			破片	33	1957		748	17.5		1		
			縦長破片	33	1957		757	60.8		1		
				33	1957		1499	6.9		1		
			縦長破片	33	1957		764	37.7		1		
				33	1957		905	5.4		1		
				33	1958		184	9.7		1		
			石片	33	1957		965	11.7		1		
				33	1958		180	27.9		1		
			破片	33	1957		766	33.7		1		
				33	1957		1121	63.2		1		
			破片	33	1957		767	31.0		1		
				33	1957		770	4.5		1		
				33	1957		772	10.7		1		
				33	1957		1382	13.5		1		
			石片	33	1957		780	36.8		1		
				33	1957		1086	23.7		1		
				33	1957		1117	18.3		1		
			破片	33	1957		783	5.8		1		
				33	1957		788	113.8		1		

上白池8遺跡

種類	図面番号	名称	Stb	地階	柱径	基礎径	基礎	高さ	石質	付着物	備考
		打石		中央部		303	13.2	2			
	220	87	組合石積	17-19 17-20-25			6.034.2	96	2	855	1487
		礎石	34	1857	98	14.0		2			
			34	1857	98	22.6		2			
		礎石	34	1857	109	4.9		2			
			34	1857	229	15.4		2			
			34	1857	852	14.2		2			
			34	1857	1823	207.5		2			
			34	1857	1823	61.5		2			
		礎石	34	1857	278	11.7		2			
			34	1857	217	15.6		2			
			25	156	429	13.2		2			
			25	156	1029	66.2		2			
		礎石	34	1857	313	12.3		2			
			34	1857	289	12.2		2			
			32	1856	45	56.6		2			
		礎石	34	1857	231	171.2		2			
			34	1857	255	12.4		2			
			34	1857	819	5.4		2			
			34	1857	925	64.1		2			
			34	1857	1263	20.1		2			
			34	1857	2033	67.1		2			
			25	156	1232	2.5		2			
			34	1857	21	56.3		2			
			中央部		167	63.5		2			
			中央部		179	121.3		2			
		礎石調子	34	1857	236	6.1		2			
			34	1857	929	29.2		2			
			1857	1	31	127.4		2			
		礎石調子	34	1857	241	26.1		2			
			34	1857	1825	14.3		2			
			34	1857	1829	3.3		2			
		礎石	34	1857	698	6.1		2			
			34	1857	917	16.3		2			
			34	1857	3094	152.7		2			
			1857	1	29	164.0		2			
			32	1856	38	753.1		2			
			25	156	630	4.1		2			
		礎石	34	1857	418	3.4		2			
			34	1857	1941	9.4		2			
		礎石	34	1857	203	27.4		2			
			34	1857	932	3.0		2			
			34	1857	1763	18.9		2			
			34	1857	607	11.0		2			
		礎石	34	1857	650	12.2		2			
			34	1857	829	66.5		2			
			34	1857	1256	19.5		2			
			34	1857	1426	151.4		2			
			中央部		108	26.5		2			
		礎石	34	1857	612	19.4		2			
			34	1857	1711	102.9		2			
			34	1857	107	25.0		2			
		礎石	34	1857	694	15.2		2			
			中央部		169	6.8		2			
		礎石	34	1857	848	8.2		2			
			26	1858	123	26.1		2			
		礎石	34	1857	954	31.5		2			
			34	1857	1888	6.5		2			
			1857	1	23	161.0		2			
		礎石	34	1857	959	2.5		2			

				34	1857		1252	4.1	2					
				34	1857		1307	2.9	2					
				34	1857		1841	20.4	2					
				32	1856		132	108.9	2					
				34	1857		20	20.3	2					
				34	1857		962	2.0	2					
				1857	1	35	9.4	2						
				32	1856		89	1.9	2					
				17	1852		408	26.5	2					
				17	1852		899	21.6	2					
				34	1857		993	5.1	2					
				34	1857		1187	29.0	2					
				34	1857		1518	9.8	2					
				34	1857		1519	3.4	2					
				34	1857		1520	12.7	2					
				34	1857		1521	5.9	2					
				34	1857		1817	10.8	2					
				34	1857		2033	24.8	2					
				1857	1	23	474.2	2						
				礎上		103	136.9	2						
				34	1857		1561	13.2	2					
				34	1857		1801	61.2	2					
				34	1857		1647	22.3	2					
				中央部		99	66.5	2						
				34	1857		1700	24.7	2					
				34	1857		1702	382.1	2					
				34	1857		1951	25.1	2					
				150	1	1	238.1	2						
				34	1857		2088	716.6	2					
				1857	1	30	111.7	2						
				1857	1	3	29.1	2						
				1857	1	31	22.7	2						
				1857	1	25	22.5	2						
				1857	1	27	192.6	2						
				1857	1	28	291.4	2						
				25	156	637	25.5	2						
				25	156	1342	27.4	2						
				石室	中央部	95	21.2	2						
				221	66	組合石積	35			191.3	4	1+4	339	1600
				264	26	石積	25	155		236	87.6	4		
							153	1	6	107.9	4			
							25	156		881	25.1	4		
							25	156		925	10.2	4		
							25	156		925	10.2	4		
				214	325	組合石積	27-28 27-29			2,684.1	2/2	4	111	1200
							17	152		108	3.1	4		
							46	N54		227	0.8	4		
							17	152		209	2.9	4		
							47	N52		37	13.2	4		
							L54	1	15	1.9	4			
							38	N55		73	4.4	4		
							38	N56		19	3.4	4		
							38	N56		50	2.6	4		
							37	L56		73	6.2	4		
							38	N56		31	2.4	4		
							38	N56		58	2.2	4		
							N55	1	65	2.4	4			
							38	N56		12	19.2	4		
							17	O51		1192	8.2	4		
							17	N51		28	6.3	4		
							47	N51		85	5.1	4		

種類	所属	番号	名称	Sp	種類	形状	寸法	重量	製造地	材質	付与期	備考
				17	OS1		225	10.8		土		
				47	OS1		286	3.0		土		
			銅片	17	NS1		225	28.5		土		
				17	OS1		804	4.3		土		
			銅片	47	NS1		170	4.9		土		
				17	OS1		148	8.5		土		
			銅片	NS1	T		78	6.7		土		
				17	OS1		500	6.5		土		
				47	OS1		932	15.5		土		
			銅片	NS1	T		31	11.4		土		
				17	OS1		974	3.0		土		
			銅片	NS1	T		68	4.0		土		
				17	OS1		266	1.7		土		
			銅片	NS1	T		72	2.5		土		
				17	OS1		119	2.7		土		
			銅片	NS1	T		191	4.2		土		
				OS0	T		5	10.3		土		
				47	OS1		1806	39.4		土		
				17	OS1		1181	6.2		土		
				OS1	T		82	2.4		土		
			銅片	47	NS2		175	3.9		土		
			銅片	17	NS2		650	5.1		土		
			銅片	47	NS2		776	1.3		土		
				17	OS1		208	22.5		土		
				47	OS1		869	10.7		土		
				17	OS1		933	2.2		土		
				17	OS1		1280	2.2		土		
				OS1	T		27	13.4		土		
			銅片	17	OS0		151	12.8		土		
				47	OS1		967	28.3		土		
				17	OS1		1136	20.0		土		
			銅片	47	OS0		257	100.6		土		
				17	OS1		18	96.8		土		
				17	OS1		200	3.3		土		
			銅片	17	OS0		263	3.0		土		
				17	OS1		85	5.3		土		
				47	OS1		191	2.6		土		
				17	OS1		851	2.3		土		
				47	OS1		963	4.3		土		
				17	OS0		45	3.2		土		
			銅片	47	OS0		481	16.8		土		
				17	OS1		206	5.2		土		
				17	OS1		815	5.0		土		
			銅片	17	OS0		113	10.3		土		
				OS0	T		10	2.9		土		
				47	OS1		27	12.9		土		
				17	OS1		228	20.8		土		
				47	OS1		1126	65.9		土		
				17	OS1		1898	2.0		土		
				17	OS1		1889	2.9		土		
			銅片	OS0	T		9	26.2		土		
				17	OS1		969	9.9		土		
			銅片	47	OS1		22	13.4		土		
				17	OS1		261	14.7		土		
				47	OS1		738	111.7		土		
				17	OS1		1028	2.5		土		
			銅片	47	OS1		23	16.2		土		
			銅片	17	OS1		20	12.8		土		
			銅片	17	OS1		83	4.0		土		
			銅片	47	OS1		97	13.1		土		

種類	所属	番号	名称	Sp	種類	形状	寸法	重量	製造地	材質	付与期	備考
				17	OS1		1179	5.2		土		
			銅片	47	OS1		133	4.5		土		
			銅片	17	OS1		126	9.0		土		
				17	OS1		110	28.5		土		
				47	OS1		230	2.0		土		
				17	OS1		425	8.0		土		
			銅片	47	OS1		134	9.2		土		
				17	OS1		209	9.8		土		
				47	OS1		710	5.9		土		
			銅片	17	OS1		141	2.9		土		
				17	OS1		294	17.6		土		
				17	OS1		1192	8.9		土		
			銅片	17	OS1		148	2.2		土		
				47	OS1		190	5.9		土		
			銅片	17	OS1		152	5.8		土		
				47	OS1		729	19.5		土		
			銅片	17	OS1		155	2.7		土		
				47	OS1		1164	2.1		土		
				OS1	T		17	3.5		土		
			銅片	17	OS1		168	2.5		土		
			銅片	47	OS1		198	14.4		土		
			銅片	17	OS1		208	7.8		土		
				47	OS1		211	6.2		土		
				17	OS1		201	3.2		土		
				47	OS1		631	30.3		土		
				17	OS1		925	21.1		土		
				17	OS1		1021	2.7		土		
				47	OS1		1190	36.4		土		
				17	OS1		1558	2.4		土		
			銅片	47	OS1		297	9.1		土		
				17	OS1		266	2.9		土		
				47	OS1		628	5.6		土		
				17	OS1		748	12.1		土		
			銅片	17	OS1		212	12.2		土		
			銅片	17	OS1		222	6.8		土		
			銅片	17	OS1		226	4.8		土		
				47	OS1		234	4.2		土		
				17	OS1		291	2.4		土		
				47	OS1		1156	2.4		土		
			銅片	17	OS1		221	2.9		土		
				47	OS1		962	2.5		土		
			銅片	17	OS1		226	9.6		土		
				17	OS1		229	1.6		土		
				17	OS1		296	1.5		土		
			銅片	17	OS1		238	3.0		土		
				47	OS1		733	10.1		土		
			銅片	17	OS1		240	10.4		土		
			銅片	47	OS1		242	1.7		土		
			銅片	17	OS1		244	5.2		土		
				17	OS1		221	2.6		土		
				OS1	T		32	6.2		土		
			銅片	17	OS1		252	2.6		土		
			銅片	47	OS1		254	129.5		土		
				17	OS1		164	1.2		土		
				47	OS1		224	21.3		土		
			銅片	17	OS1		256	81.9		土		
				47	OS1		295	30.7		土		
			銅片	17	OS1		256	2.5		土		
			銅片	17	OS1		257	2.1		土		
				47	OS1		209	3.5		土		

上白池8遺跡

棟別	図面	番号	材料名	St	種類	仕様	数量	単位	石質	付与期	備考
			硝子	17	OSL	781	1.2	1			
			硝子	47	OSL	807	3.6	4			
			硝子	17	OSL	845	17.1	1			
			硝子	11	OSL	915	2.1	1			
			硝子	47	OSL	1173	16.3	4			
			硝子		OSL	T	4	6.1	1		
			硝子		OSL	T	45	16.1	4		
			硝子		OSL	T	81	13.1	4		
			硝子		OSL	T	94	1.3	4		
			硝子	17	PSL	229	16.7	1			
			硝子		PSL	T	32	8.5	1		
			硝子		PSL	T	48	15.8	1		
第-153	215	306	花合資料	47			16.7	1	1	-	2021
第-498	279	7	床頭飾		LSL	1	4	17.8	1		
第-155	291	66	土間磁器片	17	MSS	436	8.9	1			
第-494	317	910	鏡合資料	47		1485.6	116	4	352	1720	
			硝子	17	MSS	18	5.8	1			
					MSS	T	4	3.5	4		
					MSS	T	5	11.7	1		
			硝子	17	MSS	38	14.4	1			
					MSS	42	10.3	4			
			硝子	17	MSS	234	26.8	1			
			硝子	47	MSS	336	32.4	4			
					MSS	585	6.7	1			
			硝子	47	MSS	444	15.7	4			
					MSS	724	9.7	1			
					MSS	232	3.7	1			
			硝子	17	MSS	751	56.0	1			
			硝子		MSS	T	185	32.8	1		
					MSS	T	186	12.0	4		
			硝子		MSS	T	25	28.9	1		
			硝子	47	OSL	17	48.3	4			
					OSL	219	33.2	1			
					OSL	715	6.2	1			
			硝子	17	OSL	202	37.0	1			
					OSL	805	18.8	1			
					OSL	734	3.2	4			
			硝子	17	OSL	357	32.1	1			
					OSL	735	6.9	4			
					OSL	1057	6.8	1			
					OSL	135	2.0	4			
			硝子	17	OSL	214	11.9	1			
					OSL	216	11.5	1			
					OSL	712	7.1	1			
					OSL	935	1.6	1			
					OSL	183	3.5	4			
			硝子	17	OSL	21	4.3	1			
					OSL	528	5.2	4			
			硝子	17	OSL	25	6.3	1			
					OSL	861	6.1	1			
			硝子	17	OSL	138	6.0	1			
					OSL	1177	8.7	1			
			硝子	47	OSL	164	5.9	4			
			硝子	17	OSL	204	3.9	1			
					OSL	730	5.5	4			
			硝子	17	OSL	205	11.1	1			
			硝子	47	OSL	289	8.4	4			
			硝子	17	OSL	285	2.0	1			
			硝子	17	OSL	277	1.8	1			
			硝子	47	OSL	369	6.0	4			

棟別	図面	番号	材料名	St	種類	仕様	数量	単位	石質	付与期	備考
				47	PSL	99	11.9	1			
				47	PSL	408	8.9	4			
			硝子	17	OSL	412	30.3	1			
					OSL	900	7.1	1			
				47	OSL	1163	26.3	4			
			硝子	17	OSL	352	4.9	1			
					OSL	1026	4.3	4			
			硝子	47	OSL	381	12.8	1			
			硝子	47	OSL	119	64.7	4			
					OSL	1	171	33.3	1		
			硝子	17	OSL	732	28.9	1			
					OSL	957	17.0	1			
			硝子	17	OSL	820	8.5	1			
					OSL	200	1.0	4			
			硝子	17	OSL	966	7.3	1			
					OSL	983	4.4	4			
					OSL	1187	12.7	1			
			硝子	47	OSL	1280	5.8	4			
					OSL	724	11.8	1			
			硝子		OSL	T	73	1.7	1		
					OSL	330	5.2	4			
			硝子	17	PSL	78	21.1	1			
					PSL	322	0.9	4			
					PSL	51	21.6	1			
			硝子	47	PSL	38	3.9	4			
					PSL	104	29.4	1			
			硝子	17	PSL	106	2.7	1			
			硝子	47	PSL	110	2.3	1			
					PSL	289	7.8	1			
					PSL	739	5.1	4			
			硝子	47	PSL	214	3.2	1			
			硝子	47	PSL	721	5.9	4			
					PSL	223	1.1	1			
					PSL	232	4.8	1			
					PSL	250	5.5	1			
					PSL	480	2.6	1			
			硝子	47	PSL	225	8.9	4			
					PSL	736	51.9	1			
			硝子	47	PSL	255	3.2	1			
					PSL	230	7.7	1			
					PSL	284	0.9	4			
			硝子	17	PSL	282	22.7	1			
			硝子	17	PSL	312	22.2	1			
					PSL	606	13.8	1			
			硝子	17	PSL	321	2.1	1			
			硝子	47	PSL	327	2.1	4			
			硝子	17	PSL	338	8.5	1			
			硝子	47	PSL	344	16.8	4			
					PSL	687	2.2	1			
			硝子	17	PSL	390	5.6	1			
					PSL	282	11.6	1			
					PSL	716	22.5	1			
			硝子	47	PSL	403	21.5	4			
			硝子	17	PSL	501	6.9	1			
			硝子	47	PSL	303	5.2	4			
					PSL	725	3.0	1			
			硝子	47	PSL	310	18.0	4			
					PSL	326	11.2	1			
			硝子	17	PSL	313	7.9	1			
					PSL	605	6.1	4			

種別	図号	番号	名称	品名	数量	単位	重量	長さ	幅	高さ	材質	備考
			銅貨	17	1551	519	4.2				1	
			銅貨	47	1551	201	1.2				4	
			銅貨	17	1551	607	1.1				1	
			銅貨	17	1551	608	3.1				4	
			銅貨	47	1551	706	13.5				4	
			銅貨	17	1551	433	4.5				1	
			銅貨	47	1551	456	11.1				4	
			銅貨	17	1551	611	4.2				4	
			銅貨	47	1551	635	4.6				4	
			銅貨	17	1551	672	13.5				4	
			銅貨	17	1551	702	14.9				4	
			銅貨	17	1551	715	25.4				1	
			銅貨	17	1551	757	16.0				1	
			銅貨	17	1551	757	1.5				4	
第1-196	218	311	総合資料	39・42		1,100.2	66	1・1	291	1,071		
			銅貨	39	1653	217	4.2				1	
			銅貨	39	1653	684	6.8				1	
			銅貨		1653	1	126	5.6			1	
			銅貨		1652	1	129	10.5			1	
			銅貨		1553	1	135	5.2			1	
			銅貨		1553	1	136	13.1			1	
			銅貨	12	1353	86	4.1				1	
			銅貨	42	1654	24	10.4				1	
			銅貨	12	1354	209	3.9				1	
			銅貨		1354	1	26	4.8			1	
			銅貨	12	1354	243	25.5				1	
			銅貨	12	1654	384	2.6				1	
			銅貨	12	1654	281	21.6				1	
			銅貨	12	1354	245	1.5				1	
			銅貨	42	1654	20	64.8				1	
			銅貨	12	1654	241	4.5				1	
			銅貨		1354	1	14	114.5			1	
			銅貨	12	1654	97	17.1				1	
			銅貨	12	1654	99	7.6				1	
			銅貨	12	1654	28	28.8				1	
			銅貨	12	1654	17	17.1				1	
			銅貨	42	1654	156	26.3				1	
			銅貨	12	1654	32	5.5				1	
			銅貨	42	1654	602	4.7				1	
			銅貨	12	1654	59	105.1				1	
			銅貨	42	1654	459	10.8				1	
			銅貨	12	1654	605	11.8				1	
			銅貨	12	1654	70	20.5				1	
			銅貨	12	1654	354	9.0				1	
			銅貨	12	1654	126	28.4				1	
			銅貨	42	1654	154	4.2				1	
			銅貨	12	1654	272	15.5				1	
			銅貨	42	1654	326	7.5				1	
			銅貨		1654	1	33	3.6			1	
			銅貨	12	1654	120	10.7				1	
			銅貨	12	1654	185	12.8				1	
			銅貨	12	1654	260	5.1				1	
			銅貨	42	1654	237	11.7				1	
			銅貨	12	1654	286	20.1				1	
			銅貨	42	1654	305	3.9				1	
			銅貨	12	1654	419	20.4				1	
			銅貨	12	1654	492	31.5				1	
			銅貨	12	1654	699	2.3				1	
			銅貨		1654	1	12	0.9			1	
			銅貨	42	1654	535	6.7				1	

種別	図号	番号	名称	品名	数量	単位	重量	長さ	幅	高さ	材質	備考
			銅貨									
第1-197	218	312	総合資料	39-42-44		1,067.4	47	1	291	1,071		
			銅貨	39	1652	72	6.2				1	
			銅貨		1654	1	45	7.7			1	
			銅貨	39	1652	132	21.5				1	
			銅貨	39	1653	135	12.9				1	
			銅貨	39	1653	403	13.7				1	
			銅貨	41	1352	20	31.6				1	
			銅貨		1351	1	76	9.5			1	
			銅貨	39	1351	6	5.0				1	
			銅貨	12	1351	11	9.1				1	
			銅貨	12	1351	95	26.3				1	
			銅貨		1354	1	24	2.7			1	
			銅貨	42	1654	231	49.3				1	
			銅貨	12	1351	98	3.1				1	
			銅貨	42	1354	137	6.3				1	
			銅貨	12	1654	246	23.7				1	
			銅貨	42	1354	121	14.3				1	
			銅貨	12	1654	203	3.7				1	
			銅貨		1654	1	57	18.8			1	
			銅貨	42	1354	176	33.9				1	
			銅貨	12	1654	285	2.7				1	
			銅貨	42	1654	292	2.7				1	
			銅貨	12	1654	356	12.8				1	
			銅貨	42	1354	221	10.1				1	
			銅貨	12	1654	428	9.3				1	
			銅貨	12	1654	313	5.8				1	
			銅貨	42	1354	275	42.4				1	
			銅貨	12	1654	365	56.1				1	
			銅貨	42	1354	285	3.2				1	
			銅貨	12	1354	291	15.4				1	
			銅貨	42	1654	167	62.9				1	
			銅貨		1654	1	54	106.0			1	
			銅貨	12	1354	102	7.2				1	
			銅貨	12	1654	363	13.6				1	
			銅貨	12	1654	228	27.3				1	
			銅貨	42	1654	141	8.9				1	
			銅貨	12	1654	148	7.6				1	
			銅貨	42	1654	288	3.7				1	
			銅貨	12	1654	238	3.1				1	
			銅貨	42	1654	358	4.5				1	
			銅貨	12	1654	268	11.0				1	
			銅貨	12	1654	25	22.9				1	
			銅貨		1654	1	46	39.8			1	
			銅貨	12	1654	215	5.8				1	
			銅貨	42	1654	269	44.5				1	
			銅貨	12	1654	419	3.5				1	
			銅貨	42	1654	417	42.7				1	
			銅貨	12	1654	302	6.2				1	
第1-198	218	313	総合資料	40		822.5	64	1	420	1966		
			銅貨	10	1652	39	28.5				1	
			銅貨	10	1652	134	1.2				1	
			銅貨	40	1652	47	5.1				1	
			銅貨	10	1652	274	13.7				1	
			銅貨	40	1652	284	3.4				1	
第1-199	218	16	先頭部	10	1652	50	82.1				1	
			銅貨	40	1652	425	53.0				1	
			銅貨	10	1652	115	1.1				1	
			銅貨	10	1652	118	2.8				1	
			銅貨	40	1652	120	26.4				1	

上海港 8 道航

船名	船型	船号	船类	船位	船位号	船位	船位号	船位	船位号	船位	船位号	船位	船位号	船位	船位号
			浦南	40	浦南	210	3.8	1							
			浦南	40	浦南	247	39.4	1							
			浦南	10	浦南	282	2.1	1							
			浦南	10	浦南	319	5.2	1							
			浦南	40	浦南	354	5.3	1							
			浦南	40	浦南	371	15.9	1							
			浦南	40	浦南	345	17.1	1							
			浦南	40	浦南	328	6.9	2							
			浦南	40	浦南	376	16.1	1							
			浦南	10	浦南	288	23.1	1							
			浦南	10	浦南	290	14.2	1							
			浦南	10	浦南	495	13.0	1							
			浦南	10	浦南	322	30.1	1							
			浦南	40	浦南	295	41.2	1							
第 142	201	212	普航砂石船	10	普航	233	64.8	2							
			浦南	40	浦南	347	4.4	1							
			浦南	10	浦南	243	2.6	1							
			浦南	40	浦南	347	7.9	1							
			浦南	10	浦南	251	4.9	2							
			浦南	40	浦南	367	1.6	1							
			浦南	40	浦南	389	5.0	1							
			浦南	10	浦南	275	3.7	1							
			浦南	40	浦南	426	2.8	1							
			浦南	10	浦南	317	1.6	3							
			浦南	40	浦南	416	7.9	1							
			浦南	10	浦南	419	1.7	1							
			浦南	10	浦南	316	4.2	1							
			浦南	10	浦南	350	13.0	1							
			浦南	10	浦南	352	3.9	1							
			浦南	40	浦南	453	5.9	1							
			浦南	10	浦南	354	1.0	1							
			浦南	40	浦南	303	8.8	1							
			浦南	10	浦南	333	19.8	1							
			浦南	10	浦南	363	11.2	1							
			浦南	10	浦南	385	1.2	1							
			浦南	10	浦南	383	4.5	1							
			浦南	40	浦南	406	2.4	1							
			浦南	10	浦南	315	7.0	1							
			浦南	40	浦南	219	21.4	1							
			浦南	10	浦南	331	2.0	1							
			浦南	40	浦南	336	3.6	1							
			浦南	10	浦南	339	2.1	1							
			浦南	10	浦南	312	11.1	1							
			浦南	10	浦南	384	3.5	1							
			浦南	10	浦南	369	5.7	1							
			浦南	40	浦南	279	2.4	1							
			浦南	10	浦南	309	2.1	1							
			浦南	40	浦南	405	11.0	1							
			浦南	10	浦南	405	6.2	1							
			浦南	10	浦南	401	39.3	1							
			浦南	10	浦南	403	12.7	1							
			浦南	10	浦南	480	2.5	1							
			浦南	40	浦南	495	1.7	1							
			浦南	10	浦南	11	30.0	1							
第 448	379	314	综合材料	21-40-47			36.4	9	4					2025	
第 308	216	66	吴淞西桥片	47	NS1	1	102	15.0	1						
				16	NS2		152	11.3	1						
				21	NS3		317	8.8	1						
			吴淞西桥片	48	NS1		133	1.5	4						

船名	船型	船号	船类	船位	船位号	船位	船位号	船位	船位号	船位	船位号	船位	船位号	船位	船位号
第 128	291	58	吴淞西桥片	47	NS2	1	17	7.7	1						
第 425	291	63	吴淞西桥片	47	OS1		1302	36.6	4						
第 132	297	262	吴淞西桥片	47	OS2	3	2	2.3	1						
			吴淞西桥片	47	OS2	3	38	8.1	1						
第 500	370	315	综合材料	47			4,473.3	28	1-5	266	1863				
			行船	47	NS2	T	35	36.8	5						
			行船	47	NS1	T	138	6.5	5						
			吴淞西桥片	47	NS2	T	49	1.0	5						
				47	NS2		47	43.0	5						
				17	NS2		303	363.6	5						
				17	OS2		1080	31.7	5						
				17	OS2		102	38.5	5						
			浦南	47	NS1	T	106	19.9	5						
			浦南	47	NS2		308	106.4	5						
			浦南	47	NS2		1262	130.2	5						
			浦南	47	OS1		88	5.5	5						
			浦南	17	OS2		1137	138.9	1						
			浦南	47	NS2		257	403.6	5						
			浦南	47	OS1	T	186	136.3	5						
			浦南	47	OS1	T	190	17.6	5						
			浦南	47	OS2	T	103	96.5	5						
第 149	301	212	行船	47	NS1	T	1	306.1	5						
			行船	47	OS2		220	49.2	5						
			浦南	17	OS1		82	6.8	5						
第 454	307	270	吴淞西桥片	47	OS1		421	2,464.8	5						
			浦南	47	OS1	T	188	13.8	5						
			浦南	47	OS1	T	222	3.7	5						
			浦南	47	OS2		398	9.5	5						
			浦南	17	OS2		431	12.6	5						
			行船	47	OS2		1170	1.7	5						
			行船	17	OS2		1236	7.9	5						
			行船	47	OS2		1252	6.2	5						
			浦南	17	OS2		129	28.5	5						
第 507	321	310	综合材料	17			1,300.0	12	1-5	139	1863				
			浦南	17	LS1		25	8.5	1						
			浦南	17	LS2		36	3.3	4						
			浦南	17	NS1	1	93	8.8	4						
			浦南	17	NS1		33	12.3	4						
			浦南	47	MS1		320	8.4	4						
			浦南	17	NS2		96	15.7	4						
			浦南	47	NS2		189	30.3	4						
			浦南	17	NS2		4280	6.2	4						
			浦南	17	MS1		111	4.6	4						
			浦南	17	MS1		287	5.0	4						
			浦南	17	MS1		224	2.0	4						
			浦南	47	MS1		351	7.1	4						
			浦南	17	MS1		353	31.1	4						
			浦南	47	MS1		359	11.3	4						
			浦南	17	MS1		416	18.8	4						
			浦南	17	MS1		431	7.2	4						
			浦南	17	MS1		474	9.0	4						
			浦南	17	MS2		15	5.8	4						
			浦南	47	NS1		195	12.9	4						
			浦南	17	NS1		438	18.3	4						
			浦南	47	NS1		744	24.5	4						
			浦南	17	NS1	1	90	1.7	4						
第 256	306	263	吴淞西桥片	47	NS1		710	311.6	4						
			浦南	17	NS1		201	29.6	4						
			浦南	17	NS1		105	6.0	4						
			浦南	47	NS1		421	3.4	4						

機械遺物一覧

種類	図面番号	材料名	St	数量	単位	重量	単位重	品質	付与品	備考
F-15A	208	肘方鉄	13	S52	238	718.5	1			
			鋼片	S52	3	71	2.8	5		
			鋼片	S52	121	4.0	5			
F-450	251	心対	42	S54	189	11.1	5			
			12	S54	219	37.4	5			
			42	S54	222	32.3	5			
			鋼片	S52	190	1.9	5			
			鋼片	S54	212	5.8	5			
			12	S52	212	16.7	5			
		鋼片	12	S54	211	29.6	5			
			12	S54	267	54.3	5			
			12	S54	477	29.6	5			
			鋼片	42	S54	256	4.3	5		
				10	S52	251	15.4	5		
			鋼片	42	S54	228	4.0	5		
12	S52	231		17.9	1					
心対	42	S54	256	18.4	5					
	12	S54	429	8.1	5					
鋼片	12	S54	223	7.0	5					
	42	S54	476	9.1	5					
鋼片	心対	S51	1	32	6.2	5				
		S52	253	22.8	5					
心対	心対	S52	1	230	21.7	1				
		S52	252	16.9	5					
F-510	226	肘方資料	10-10-90		1,880.2	66	50.4	180	198	
			心対	S51	1	2	32.3	3		
鋼片	16	S52	227	20.8	1					
	12	S51	16	11.7	1					
	42	S54	483	54.3	4					
	12	S51	111	4.9	1					
	鋼片	42	S54	113	12.9	4				
		1	S52	1	65	50.8	2			
	鋼片	12	S54	128	9.9	1				
		10	S52	180	19.9	1				
	鋼片	12	S51	152	32.8	1				
		42	S54	231	7.3	3				
	鋼片	心対	S51	1	25	19.0	1			
			S54	1	20	49.3	4			
鋼片	心対	S54	1	6	3.2	1				
		S54	1	34	27.9	4				
鋼片	心対	S51	1	6	7.5	1				
		S51	1	26	13.8	1				
鋼片	心対	S51	1	87	2.8	1				
		S51	1	28	2.7	1				
F-304	293	心方鉄	35	S52	13	272.1	4			
			鋼片	S58	1	12.9	1			
				46	S51	19	3.0	4		
			鋼片	16	S52	62	3.9	1		
				16	S53	23	16.7	3		
			鋼片	16	S52	20	3.5	1		
		16		S51	83	19.6	1			
		鋼片	46	S52	76	37.9	4			
			16	S51	112	4.6	1			
		鋼片	46	S52	77	2.8	3			
			16	S52	121	112.8	1			
		鋼片	心対	46	S51	49	16.0	4		
16	S52			90	7.6	1				
鋼片	心対	128	11.1	1						
		46	S52	127	80.1	4				

種類	図面番号	材料名	St	数量	単位	重量	単位重	品質	付与品	備考		
鋼片	16	S52	1219	4.9	5							
			46	S54	85	26.9	4					
			S52	1	70	13.2	3					
			16	S51	102	8.1	4					
			S54	1	5	12.3	1					
			16	S53	35	16.4	4					
			鋼片	46	S53	32	44.1	3				
			鋼片	16	S53	189	85.3	4				
			10	S52	181	128.7	4					
			鋼片	16	S53	285	157.1	1				
			鋼片	16	S53	189	50.0	4				
			16	S53	181	206.2	1					
F-511	227	混合資料	10-10-90		3,075.2	100	1	266	1381			
			鋼片	45	S51	48	4.6	1				
				18	N50	162	1.8	1				
			鋼片	46	O50	286	9.6	1				
				18	O50	270	1.1	1				
			鋼片	46	O50	394	2.1	1				
				48	O50	112	3.0	1				
			鋼片	心対	48	O50	153	1.1	1			
					S50	1	2	1.0	1			
			F-150	263	心対	19	N45	209	85.1	1		
						48	N50	182	17.3	1		
						19	N50	1	10.9	1		
48	N50	226				14.2	1					
鋼片	18	N50				101	1.5	1				
	18	N50				218	12.8	1				
鋼片	48	N50				126	0.6	1				
	18	N50				124	0.2	1				
鋼片	48	N50				142	2.7	1				
	18	N50				165	7.1	1				
鋼片	48	N50				141	1.5	1				
	48	N50				217	1.1	1				
鋼片	18	O50	136	16.4	1							
	18	O50	198	7.5	1							
鋼片	18	N50	191	0.1	1							
	48	N50	182	5.1	1							
鋼片	18	N50	282	67.4	1							
	48	O50	401	1.7	1							
鋼片	18	N50	181	90.7	1							
	48	N50	185	13.8	1							
鋼片	18	N50	283	7.2	1							
	18	O50	102	131.1	1							
鋼片	18	O50	101	6.0	1							
	18	N50	192	3.6	1							
鋼片	46	O50	429	133.4	1							
	18	O50	119	9.1	1							
鋼片	46	O50	425	3.6	1							
	18	O50	426	6.9	1							
鋼片	18	O50	109	31.5	1							
	18	N50	286	1.8	1							
鋼片	18	N50	281	10.8	1							
	48	N50	325	80.5	1							
鋼片	心対	18	N50	398	6.9	1						
		48	O50	418	27.3	1						
鋼片	心対	18	N50	289	18.9	1						
		48	N50	291	2.2	1						
鋼片	心対	18	N50	292	106.6	1						
		18	O50	268	8.8	1						
鋼片	心対	48	N50	398	1.9	1						

群号	国号	番号	器物名	Sp	包数	位付	遺物名	数量	単位	石質	付与期	組合
			銅片	17	PS1		226	1.7	1			
			銅片	47	PS1		254	31.9	1			
			銅片	17	PS1		259	9.5	1			
			銅片	17	PS1		266	4.1	1			
			銅片	47	PS1		314	3.5	4			
			銅片	17	PS1		223	2.5	1			
			銅片	47	PS1		327	14.8	4			
			銅片	17	PS1		261	2.2	1			
			銅片	47	PS1		367	2.6	4			
			銅片	17	PS1		265	14.8	1			
			銅片	17	PS1		303	30.0	1			
			銅片	17	PS1		473	3.1	1			
			銅片	17	PS1		477	64.2	1			
			銅片	47	PS1		241	1.0	4			
			銅片	17	PS1		299	12.8	1			
			銅片	47	PS1		447	7.2	4			
			銅片	17	PS1		613	5.1	1			
			靑銅片	47	PS1		648	6.4	4			
			銅片	17	PS1		691	2.3	1			
			銅片	17	PS1		695	5.6	1			
			銅片	47	PS1		697	1.2	4			
			銅片		PS1		不明	3.0	1			
			銅片		不明		不明	6.2	4			
若-514	230	331	複合資料	17			1,235.4	60	1	353	1758	
			靑銅片	47	L52		73	47.1	4			
			銅片	17	M31		151	34.6	1			
			二次加工赤銅片	17	M31		411	69.2	1			
			靑銅片	17	M32		79	14.8	1			
			靑銅片	17	M32		1125	11.2	1			
				47	M32		1255	18.9	4			
			靑銅片	17	M32		1176	26.5	1			
			二次加工赤銅片	47	M32		1179	15.1	4			
			銅片	17	PS1		265	10.1	1			
			靑銅片	17	M32		1214	14.3	1			
			銅片		M32	上	14	1.7	1			
			靑銅片	17	NS1		10	29.0	1			
				47	PS1		322	0.9	4			
				17	PS1		430	11.8	1			
				47	PS1		295	4.5	4			
			二次加工赤銅片	17	NS1		301	8.9	1			
			銅片	47	NS1		421	29.6	4			
				17	NS1		894	70.2	1			
				17	PS1		85	21.4	1			
				17	PS1		678	8.9	1			
			銅片	17	PS1		122	3.6	1			
			銅片	47	PS1		154	3.0	4			
			銅片	17	PS1		208	26.5	1			
				47	PS1		217	2.9	4			
			銅片	17	PS1		208	1.0	1			
			銅片	17	PS1		231	9.1	1			
				17	PS1		988	2.1	1			
			銅片	17	PS1		233	3.1	1			
				47	PS1		310	0.9	4			
				17	PS1		236	16.8	1			
			銅片	47	PS1		243	5.8	4			
				17	PS1		261	11.2	1			
				47	PS1		486	7.8	4			
			靑銅片	17	PS1		272	10.3	1			
				17	PS1		254	8.2	1			
			銅片	47	PS1		308	7.3	4			

群号	国号	番号	器物名	Sp	包数	位付	遺物名	数量	単位	石質	付与期	組合
			銅片	17	PS1		224	22.5	1			
			銅片	47	PS1		337	5.8	4			
				17	PS1		389	7.0	1			
若-515	303	258	石刃片	17	PS1		381	143.6	1			
			靑銅片	47	PS1		385	1.9	4			
			靑銅片	17	PS1		386	16.3	1			
			銅片	47	PS1		402	2.0	4			
				47	PS1		728	5.0	4			
			銅片	47	PS1		485	19.6	4			
			銅片	17	PS1		495	10.0	1			
				PS1	II		2	2.1	1			
			銅片	17	PS1		398	2.6	1			
			銅片	17	PS1		351	6.0	1			
			銅片	47	PS1		253	32.0	4			
			銅片	17	PS1		284	29.1	1			
			銅片	47	PS1		202	11.5	4			
			銅片	17	PS1		248	26.6	1			
			銅片	47	PS1		604	15.6	4			
			石刃	17	PS1		692	12.7	1			
			銅片	17	PS1		477	14.5	1			
			銅片	47	PS1		404	5.8	4			
			銅片	17	PS1		498	7.1	1			
			銅片	47	PS1		706	22.7	4			
			銅片	17	PS1		732	15.8	1			
若-517	330	332	複合資料	29+47			1,151.9	77	4	356	1758	
若-146	210	282	石核	17	NS1		1092	334.2	1			
			銅片		NS1	I	25	37.0	1			
			銅片		NS1	I	79	10.4	1			
			銅片		NS1	I	30	3.5	1			
			銅片		NS1	I	50	7.6	4			
			銅片	17	NS2		848	43.7	1			
			銅片	47	OS1		17	1.7	4			
			銅片	17	OS1		50	4.1	1			
				17	OS2		748	1.1	1			
			銅片	17	OS1		51	29.4	1			
				OS1	I		15	8.2	1			
			銅片	47	OS1		327	7.9	4			
			銅片	17	OS1		329	8.7	1			
				47	OS2		43	22.7	4			
				17	OS2		754	7.2	1			
				47	OS2		782	3.8	4			
			銅片	17	OS1		182	1.1	1			
			銅片	17	OS1		165	96.5	1			
			銅片	17	OS1		371	10.8	1			
			銅片	17	OS1		300	8.9	1			
			銅片		OS1	I	19	7.4	4			
				OS2	I		24	1.0	1			
			銅片		OS1	I	28	4.7	1			
			銅片		OS1	I	10	6.8	1			
				OS2			482	1.5	1			
			銅片		OS1	I	44	12.0	1			
			銅片		OS1	I	51	2.9	1			
			銅片		OS1	I	110	2.0	4			
			銅片	17	OS2		15	6.0	1			
			銅片	47	OS2		36	27.4	4			
			銅片	17	OS2		58	6.1	1			
			銅片	47	OS2		80	2.6	4			
				OS2	I		72	2.5	1			
			銅片	17	OS2		201	1.7	1			
			銅片	47	OS2		203	2.1	4			

棟目	棟名	棟形式	Stb	敷地	延床	延床面積	容積	延床積	容積	付帯設備
		廊下	17	052	201	3.2	1			
		廊下	47	052	403	1.7	4			
		廊下	17	052	230	5.5	1			
		廊下	11	052	336	13.4	1			
		廊下	47	052	451	0.7	4			
		廊下	17	052	159	3.3	1			
		廊下	47	052	464	7.3	4			
		廊下	17	052	367	1.5	1			
		廊下	47	052	484	1.8	4			
		廊下	17	052	385	18.9	1			
		17	052	712	11.3	1				
		052	1	72	1.7	1				
		352	1	39	51.6	1				
		廊下	47	052	240	7.3	4			
		廊下	17	052	260	6.6	1			
		廊下	47	052	265	2.8	4			
		廊下	17	052	296	11.1	1			
		廊下	47	052	299	1.5	4			
		廊下	17	052	411	2.9	1			
		廊下	17	052	436	2.0	1			
		廊下	47	052	444	2.8	4			
		廊下	17	052	452	0.7	1			
		廊下	47	052	422	4.5	4			
		廊下	17	052	423	3.1	1			
		廊下	47	052	711	6.8	4			
		廊下	17	052	732	11.0	1			
		廊下	17	052	766	12.0	1			
		052	1	38	54.1	1				
		廊下	17	052	769	4.8	1			
		廊下	47	052	772	2.7	4			
		廊下	17	052	805	4.9	1			
		廊下	47	052	839	3.1	4			
		廊下	17	052	931	11.6	1			
		廊下	17	052	935	5.9	1			
		廊下	052	1	25	10.0	1			
		廊下	052	1	61	9.3	1			
		廊下	052	1	42	3.1	4			
		廊下	052	1	66	7.3	1			
		廊下	052	1	68	5.1	4			
		廊下	29	056	29	3.7	1			
		廊下	47	051	716	7.3	4			
		廊下	17	052	1	20	3.9	1		
第-119	211	333	総合資料	17	051	206.8	39	1	361	1179
		廊下	17	051	287	65.3	1			
		050	1	15	30.8	1				
		47	051	1257	6.0	4				
		廊下	051	1	181	12.3	1			
		廊下	47	050	152	2.7	4			
		石灯	17	050	104	9.2	1			
		廊下	17	051	32	38.5	1			
		17	051	172	6.2	1				
第-117	210	243	石灯	17	051	114	28.0	1		
		廊下	47	051	149	12.9	4			
		廊下	17	051	219	1.7	1			
		17	051	937	1.8	4				
		17	051	1206	7.6	1				
		47	051	186	3.5	4				
		17	051	621	9.9	1				
		廊下	17	051	229	55.5	1			
		廊下	47	051	234	4.1	4			

棟目	棟名	棟形式	Stb	敷地	延床	延床面積	容積	延床積	容積	付帯設備
		石灯	17	051	235	15.3	1			
		47	051	1346	10.4	4				
		廊下	17	051	236	9.5	1			
第-151	210	238	石灯	17	051	305	50.1	1		
		石灯	17	051	342	32.8	1			
		廊下	17	051	159	2.0	1			
		47	051	361	36.5	4				
		廊下	17	051	186	20.1	1			
		石灯	47	051	489	5.6	4			
		17	051	1267	11.3	1				
第-112	210	246	石灯	17	051	624	11.7	1		
		廊下	17	051	719	2.1	1			
		廊下	17	051	815	12.9	1			
		47	051	1092	3.6	4				
		PS1	1	14	7.2	1				
		廊下	47	051	931	9.9	4			
		廊下	17	051	917	1.8	1			
		廊下	47	051	954	57.6	4			
第-117	210	225	石灯	17	051	1171	6.8	1		
		廊下	17	051	1380	8.0	1			
		廊下	47	051	1340	7.8	4			
		廊下	051	1	39	3.6	1			
第-209	211	238	綜合資料	43-44			340.4	51	1-4	438
		廊下	11	052	11	7.2	1			
第-444	211	217	奈良都心部	44	052	47	25.8	4		
		11	052	1596	32.9	1				
		廊下	11	052	267	10.6	1			
		廊下	11	052	227	1.9	1			
		廊下	11	052	351	4.1	1			
		44	052	1223	6.8	4				
		11	052	1827	6.6	1				
		廊下	44	052	221	8.8	4			
		11	052	1294	12.7	1				
		廊下	11	052	222	9.3	1			
		廊下	11	052	679	6.5	1			
		廊下	44	052	484	25.1	4			
		44	052	1220	3.8	4				
		11	052	1253	7.5	1				
		廊下	44	052	888	3.6	4			
		廊下	11	052	1124	5.5	1			
		廊下	44	052	1137	9.2	4			
		廊下	11	052	1142	29.9	1			
		廊下	11	052	1150	11.5	1			
		廊下	11	052	1161	21.1	1			
		廊下	11	052	1166	2.3	1			
		廊下	44	052	1214	2.3	4			
		11	052	1266	1.9	1				
		052	1	7	9.4	4				
		廊下	11	052	1222	6.7	1			
		廊下	11	052	1225	12.7	1			
		廊下	11	052	1259	21.6	1			
		11	052	1336	4.1	1				
		44	052	1478	7.2	4				
第-133	210	248	奈良都心部	44	052	1251	9.2	1		
		廊下	44	052	1262	7.7	4			
		052	1	5	0.9	1				
		052	1	6	0.6	4				
		13	052	263	11.0	1				
		廊下	11	052	1282	11.2	1			
		廊下	44	052	1297	51.1	4			

群号	展覧番号	器物名	Stb	発掘区	埋付	遺物番号	重量	測定器	材質	寸法(縦)	寸法(横)	寸法(厚)
		銅片	01	K52		1298	7.7		銅			
		銅片	44	K52		1301	8.4		銅			
		銅片	01	K52		1322	2.8		銅			
		銅片	01	K52		1322	19.0		銅			
		銅片	44	K52		1360	12.4		銅			
		銅片	01	K52		1500	3.3		銅			
		銅片	44	K52		1501	11.3		銅			
		銅片	01	K52		1527	7.2		銅			
		銅片	44	K52		1528	7.0		銅			
		銅片	01	K52		1520	6.5		銅			
		銅片	01	K52		1543	4.2		銅			
		銅片	01	K52		1549	10.3		銅			
		銅片	01	K52		1550	16.5		銅			
		銅片	44	K52		1610	11.8		銅			
第-521	232	341	総合資料	07			261.5	31	銅		360	17.05
		銅片	47	L51		12	16.1		銅			
		銅片	07	M51		18	20.1		銅			
		銅片	47	L51		18	1.9		銅			
		銅片	07	M51		805	6.1		銅			
		銅片		T51	T	8	2.6		銅			
		銅片	47	M51		17	28.1		銅			
		銅片	07	M51		36	11.3		銅			
		銅片	47	M51		409	3.1		銅			
		銅片	07	M51		885	20.2		銅			
		銅片	47	M51		827	20.8		銅			
		銅片	07	M51		106	1.1		銅			
第-522	208	283	石刀群	07	M03		338	100.4	銅			
		銅片	07	M51		703	3.7		銅			
		銅片	07	M51		206	6.0		銅			
		銅片	47	M51		305	5.7		銅			
		銅片	07	M51		258	2.5		銅			
		銅片	47	M51		354	6.0		銅			
		銅片		M51	I	23	19.3		銅			
		銅片	07	M51		236	6.9		銅			
		鍍金銅片	07	M51		629	1.7		銅			
		鍍金銅片	07	M51		762	3.7		銅			
		鍍金銅片	47	M51		780	2.3		銅			
		鍍金銅片	07	M51		1125	18.5		銅			
		銅片	47	M51		767	0.9		銅			
		鍍金銅片	07	M51		797	5.0		銅			
		銅片	47	M51		1030	2.3		銅			
		銅片	07	M51		840	5.8		銅			
		銅片	07	M51		924	15.1		銅			
		銅片	07	M51		986	7.0		銅			
		銅片	07	M51		1005	7.1		銅			
第-443	302	221	自然形石群	47	M02		43	200.4	銅			
第-523	232	342	総合資料	07	-28		2,007.0	114	銅		605	1910
		鍍金銅片		L51	I	1	10.4		銅			
		銅片		L51	I	2	5.5		銅			
		銅片		L51	T	3	5.2		銅			
		鍍金銅片		L51	II	0	4.7		銅			
				M55		113	8.0		銅			
				M55	II	95	6.6		銅			
		銅片	37	L56		5	4.0		銅			
		銅片	07	L56		6	3.8		銅			
		銅片	38	L56		21	22.8		銅			
		銅片	38	M55		419	12.4		銅			
		銅片	38	M55		698	8.5		銅			
		銅片		M56	I	26	3.6		銅			
		銅片	38	L56		24	31.3		銅			

群号	展覧番号	器物名	Stb	発掘区	埋付	遺物番号	重量	測定器	材質	寸法(縦)	寸法(横)	寸法(厚)
			37	L56		114	3.8		銅			
				L56	T	46	8.8		銅			
			38	M55		127	4.4		銅			
			38	M55		172	2.5		銅			
				M56	I	37	1.9		銅			
		銅片	38	L56		27	3.8		銅			
		銅片	38	M56		24	6.0		銅			
		銅片	37	L56		45	5.2		銅			
		銅片	37	L56		51	7.9		銅			
		銅片	38	M55		96	11.7		銅			
		銅片	38	M55		108	0.9		銅			
		銅片	37	L56		53	1.2		銅			
		銅片	37	L56		86	5.2		銅			
		銅片	37	L56		115	3.8		銅			
		銅片	37	L56		124	1.5		銅			
		銅片	37	L56		216	2.6		銅			
		銅片	37	L56		140	1.2		銅			
第-445	302	220	自然形石群	37	L56		142	10.8	銅			
			38	M56		35	30.3		銅			
		銅片	38	L56		158	8.0		銅			
		銅片	38	L56		163	4.2		銅			
		銅片	38	M55		240	8.8		銅			
		銅片	37	L56		127	11.1		銅			
		銅片	38	L56		148	11.9		銅			
		銅片	37	L56		204	14.8		銅			
		銅片	37	L56		219	12.1		銅			
		銅片	38	L56		229	15.0		銅			
		銅片	38	M55		117	17.8		銅			
		銅片		L56	T	29	9.2		銅			
		銅片		L56	I	31	12.6		銅			
		銅片		L56	I	33	5.2		銅			
		銅片		L56	I	40	7.4		銅			
		銅片		L57	I	4	10.5		銅			
		銅片		L56	T	45	16.4		銅			
		銅片	37	L57		26	6.5		銅			
		銅片		L57	T	5	10.1		銅			
		銅片	38	M55		15	3.4		銅			
		銅片	38	M55		25	2.7		銅			
		銅片	38	M55		26	24.4		銅			
		銅片	38	M55		110	56.1		銅			
第-444	302	219	自然形石群	38	M55		28	25.4	銅			
			38	M55		105	68.7		銅			
		銅片	38	M55		32	2.3		銅			
		銅片	38	M55		35	50.1		銅			
		銅片	38	M55		43	2.0		銅			
		銅片	38	M55		45	14.8		銅			
		銅片		M55	T	53	2.4		銅			
		銅片	38	M55		55	202.0		銅			
		銅片	38	M55		112	3.7		銅			
		銅片	38	M55		251	31.7		銅			
		銅片	38	M55		90	89.8		銅			
		銅片	38	M56		25	1.7		銅			
		銅片	38	M55		62	24.5		銅			
		銅片	38	M55		65	25.0		銅			
		銅片	38	M55		171	7.8		銅			
		銅片	38	M55		119	7.8		銅			
		銅片	38	M55		122	1.9		銅			
		銅片	38	M55		126	1.5		銅			
		銅片	38	M55		224	3.8		銅			
		銅片	38	M55		134	0.7		銅			

上白滝8遺跡

種類	図面番号	図名	Stb	建群	面積	容積	高さ	位置	付帯施設	
			38	M55	100	3.7	3			
			38	M55	143	31.7	3			
		概略図	38	M55	144	2.6	3			
			M55	T	35	1.8	4			
			38	M55	154	26.5	4			
			38	M55	175	4.1	3			
			38	M55	179	1.5	3			
			38	M55	191	23.9	4			
			38	M55	205	2.0	4			
			38	M55	238	1.1	2			
			38	M55	247	1.6	3			
			38	M55	253	3.1	3			
			38	M55	260	3.7	4			
			38	M55	267	4.0	3			
			38	M55	273	3.3	4			
			38	M55	316	0.9	3			
			38	M55	323	4.1	4			
			38	M55	329	5.3	3			
			38	M55	338	7.7	3			
			38	M55	360	4.8	4			
			38	M56	3	15.3	4			
			38	M55	282	2.0	4			
			38	M55	443	1.3	4			
			M55	T	67	26.7	4			
			38	M55	444	36.3	4			
			M55	T	34	2.1	4			
			M55	T	46	1.2	3			
			38	M55	412	6.7	4			
			M55	T	30	11.2	4			
			38	M55	486	7.8	4			
			M55	T	32	2.5	4			
			M55	T	48	47.3	4			
			M55	T	49	23.3	4			
			M55	T	21	6.6	4			
			M55	T	38	1.7	4			
			M55	T	38	1.2	4			
	443	222	20	M55	1	20	140.4	4		
			38	M56	8	1.0	4			
	444	218	30	M56	25	26.3	4			
			38	M56	68	19.9	4			
	529	320	34	平瓦葺	130	80.6	4			
	529	232	348	板合資料	17-30-0	2,235.1	308	2・4	147	2014
			J17	T	24	12.0	3			
			J19	T	5	25.7	4			
			L57	T	6	6.8	3			
			L57	T	20	1.5	3			
			38	M55	1	33.5	4			
			38	M55	233	3.3	4			
			38	M55	295	9.1	4			
			M56	T	81	5.6	3			
			平瓦葺	130	110.9	4				
			38	M55	6	7.9	3			
			38	M52	7	5.0	3			
			38	M55	284	2.6	3			
			38	M52	20	17.0	3			
			38	M55	133	1.9	4			
			38	M55	151	1.9	4			
			M55	T	72	27.5	3			
			M56	T	75	82.6	3			
			37	L56	12	2.0	3			

種類	図面番号	図名	Stb	建群	面積	容積	高さ	位置	付帯施設
			37	L56	16	6.2	3		
			37	L56	44	9.5	3		
			37	L56	95	20.1	3		
			37	L56	17	9.0	3		
			37	L56	89	1.4	3		
			37	L56	71	4.9	3		
			37	L57	22	3.9	3		
			37	L56	123	6.6	3		
			37	L56	128	3.4	3		
			37	L56	132	1.8	3		
			L56	T	51	16.1	3		
			平瓦葺	130	17.5	3			
			37	L56	111	5.5	3		
			37	L56	146	16.2	3		
			38	L56	201	9.8	3		
			L56	T	59	2.0	3		
			L56	T	90	18.2	3		
			38	L56	107	3.9	3		
			38	M55	190	26.3	3		
			38	M55	281	1.6	3		
			37	L56	227	32.9	3		
			L56	T	6	87.9	4		
			38	M55	282	5.9	3		
			L56	T	52	116.1	3		
			38	M55	346	5.5	3		
			38	M55	249	2.8	3		
			M55	T	68	11.3	3		
			M55	T	80	2.7	3		
			M55	T	83	5.9	3		
			L56	T	53	83.9	3		
			L57	T	17	5.0	3		
			L57	T	18	3.2	3		
			38	M55	16	2.2	3		
			38	M55	27	31.6	3		
			38	M55	231	6.7	3		
			38	M55	39	5.8	3		
			38	M55	44	2.9	4		
			38	M55	89	11.4	4		
			38	M55	52	1.4	3		
			38	M55	91	3.2	3		
			38	M55	114	11.2	3		
			38	M55	118	2.0	4		
			38	M55	129	2.8	4		
			38	M55	114	1.5	3		
			38	M55	138	21.3	3		
			38	M55	157	1.9	3		
			38	M55	152	0.9	3		
			38	M55	159	13.3	4		
			38	M55	236	1.5	4		
			38	M55	289	2.0	4		
			38	M55	220	9.7	4		
			M55	T	90	1.6	3		
			38	M55	100	4.5	3		
			38	M55	174	6.5	3		
			38	M55	182	16.4	3		
			38	M55	230	216.1	3		
			38	M55	177	2.8	4		
			M55	T	79	14.0	3		
			M56	T	10	208.3	3		
			38	M55	185	3.5	4		

種別	図号	番号	名称	St	種類	形状	数量	重量	長さ	幅	高さ	材質	備考
				17	361		137	6.9				1	
				17	364		747	17.7				1	
					365	■	27	9.9				1	
				11	052		601	6.5				1	
				47	052		926	11.4				1	
			銅片		165	丁	154	11.3				1	
				17	364		745	1.8				4	
					365		165	6.7				1	
			銅片	17	363		747	10.6				4	
			銅片	17	361		87	1.9				1	
				17	361		993	14.9				1	
			銅片	17	352		216	3.7				1	
			銅片	17	352		274	17.3				1	
				47	352		1061	5.3				1	
			銅片	16	353		96	1.5				1	
				46	353		157	2.2				1	
				17	353		217	4.1				1	
			銅片	47	051		415	1.9				4	
					051		82	2.5				1	
			銅片	17	051		578	3.0				3	
					051	I	21	5.4				3	
				17	052		751	6.9				3	
			銅片		051	I	224	4.7				4	
				17	052		496	5.1				1	
					052	I	100	9.1				4	
			銅片	17	052		28	1.2				1	
				17	052		87	11.3				1	
				12	052		778	1.8				1	
				17	052		229	1.6				1	
				47	052		236	1.2				1	
			銅片	17	052		67	21.6				1	
			銅片	47	052		219	16.7				4	
				17	052		253	5.1				1	
				17	052		537	8.6				1	
			銅片	17	052		225	29.5				1	
			銅片	17	052		213	1.0				1	
				47	052		290	20.5				1	
			銅片	17	052		316	6.9				1	
				47	052		699	1.7				1	
			銅片	17	052		511	3.2				1	
				47	052		734	2.2				1	
				17	052		832	3.8				1	
				17	052		836	5.7				1	
					052	■	177	0.8				1	
			銅片	17	052		362	15.5				1	
			銅片	47	052		263	6.7				4	
					052	I	101	6.6				1	
					052	I	105	1.0				4	
			銅片	17	052		690	3.1				1	
			銅片	17	052		826	3.2				1	
			銅片	17	052		829	9.5				1	
			銅片		052	I	99	5.6				1	
			銅片		052	I	136	4.8				1	
			銅片		052	I	117	1.9				1	
			銅片		052		81	15.3				1	
			銅片		052		89	20.1				1	
			銅片		不明		不明	1.6				1	
31-531	238	258	統合資料	36			1,179	2	122	1.3-1	207	1,088	

種別	図号	番号	名称	St	種類	形状	数量	重量	長さ	幅	高さ	材質	備考
			銅片	36	359		76	9.7				1	
				36	359		200	19.8				4	
				36	359		276	1.4				1	
			銅片		359	I	8	32.3				1	
					359	I	10	19.9				1	
				36	358		113	8.1				1	
				36	359		24	1.0				4	
					360	I	5	0.8				1	
					051		28	6.1				1	
			銅片		359	I	11	1.1				1	
				36	360		108	4.5				3	
				36	358		100	1.6				3	
			銅片		359	I	34	55.9				1	
			銅片		359	I	36	7.1				1	
			銅片		359	I	39	2.7				3	
				36	359		105	6.4				4	
			銅片		359	■	60	1.2				1	
			銅片		359	■	70	1.5				1	
				36	359		174	11.6				1	
				36	359		176	2.6				1	
				36	360		10	5.1				1	
					051		84	8.1				3	
			銅片		360	I	20	0.7				4	
					360	■	23	3.7				1	
				36	360		75	26.5				4	
			銅片		360	I	21	0.5				1	
				36	360		12	4.1				1	
					360	■	74	1.7				1	
					051		138	16.2				1	
					不明		不明	1.1				1	
			銅片		360	■	74	1.0				1	
			銅片	36	356		1	12.7				4	
				36	358		209	4.1				4	
				36	359		139	12.1				1	
			銅片	36	358		5	18.6				1	
				36	356		382	2.9				1	
			銅片	36	356		11	7.3				4	
					358		27	31.1				1	
					360	■	43	1.6				4	
					052		121	8.1				1	
			銅片	36	356		13	6.6				1	
				36	359		194	10.1				1	
			銅片	36	356		14	196.2				1	
			銅片	36	358		18	6.3				1	
					360	■	19	6.5				1	
			銅片	36	356		65	12.3				1	
			銅片	36	358		97	1.5				1	
				36	359		21	6.0				4	
			銅片	36	358		147	1.1				1	
					359		6	7.1				1	
			銅片	36	359		20	3.9				1	
			銅片	36	359		21	0.9				1	
			銅片	36	359		47	34.9				1	
				36	356		186	1.7				3	
			銅片	36	359		172	9.5				4	
			銅片	36	359		117	9.1				1	
					359	I	14	11.4				1	
					360	■	35	3.5				1	
			銅片	36	359		123	1.6				1	
			銅片	36	359		124	2.1				4	

上白滝8遺跡

種類	区域	番号	植物名	St	種類	単位	遺物数	数量	割合	石質	付与区	備考
			湖沼	36	K59	157	2.8	3				
				36	K60	49	3.3	4				
				K60	Ⅲ	42	2.0	1				
			湖沼	36	K59	129	11.1	1				
				K59	Ⅲ	35	1.3	4				
				K60	Ⅲ	52	0.1	1				
			湖沼	36	K59	192	60.2	3				
				36	K56	484	3.4	3				
			湖沼	36	K59	212	25.5	4				
			湖沼	36	K59	223	1.0	1				
				36	K59	285	3.1	3				
			湖沼	36	K59	238	11.7	1				
			湖沼	36	K56	238	1.6	1				
			湖沼	36	K59	245	1.9	4				
			湖沼	36	K59	259	3.7	1				
				36	K59	328	2.2	4				
			湖沼	36	K59	285	5.1	1				
			湖沼	36	K59	287	1.4	4				
				36	K59	288	0.6	1				
			湖沼	36	K59	398	52.4	1				
				36	K59	283	35.8	4				
			湖沼	36	K59	206	5.2	1				
				36	K59	426	16.2	3				
			湖沼	36	K59	205	5.7	1				
			湖沼	36	K59	368	3.6	1				
				36	K60	69	16.3	3				
			湖沼	36	K59	225	3.0	1				
			湖沼	36	K59	289	1.9	1				
				K60	Ⅰ	2	3.5	1				
			湖沼	36	K59	455	17.7	4				
				K59	Ⅲ	81	1.3	1				
			湖沼	36	K59	247	1.1	4				
			湖沼	36	K59	258	5.1	1				
			湖沼	36	K59	404	1.9	1				
				36	K60	22	1.8	1				
			湖沼	36	K59	453	3.5	1				
			湖沼	36	K59	425	2.4	4				
			湖沼	36	K59	426	2.7	1				
			湖沼	36	K59	491	3.7	1				
			湖沼		K59	Ⅰ	16	3.0	1			
					K60	Ⅲ	23	0.4	4			
			湖沼		K59	Ⅰ	17	9.0	1			
				36	K60	96	2.0	3				
			湖沼		K59	Ⅰ	19	28.1	1			
			湖沼		K59	Ⅰ	19	4.5	1			
			湖沼	36	K60	9	15.3	4				
				K60	Ⅲ	36	2.0	1				
			湖沼	36	K60	11	8.3	4				
			湖沼	36	K60	22	1.9	1				
			湖沼		K60	Ⅲ	19	1.3	1			
			湖沼		K60	Ⅲ	88	9.8	1			
			湖沼		K60	Ⅲ	81	1.0	1			
			湖沼		L56	Ⅰ	5	24.1	4			
					L56	Ⅲ	37	4.5	1			
			湖沼		L56	Ⅲ	68	1.0	4			
			湖沼		群	群	1	1	3.3	1		
			湖沼		K59	Ⅲ	132	3.8	4			
			湖沼		K59	Ⅲ	131	2.9	1			
			湖沼		K59	Ⅲ	158	1.0	1			
			湖沼		不明	不明	4	4.7	4			

種類	区域	番号	植物名	St	種類	単位	遺物数	数量	割合	石質	付与区	備考
第一区画	237	232	混合遺物	群・区			230.2	91	1	298	1373	
			湖沼	44	K53	438	1.4	1				
			湖沼	44	K52	221	1.2	1				
			湖沼	44	K53	318	3.0	1				
			湖沼	44	K53	359	6.2	1				
			湖沼	44	K53	376	5.5	1				
			湖沼	44	K53	384	2.9	1				
				44	K52	409	2.0	1				
				44	K53	757	2.2	1				
				44	K53	853	1.0	1				
			湖沼	44	K53	282	4.1	1				
			湖沼	44	K53	395	2.2	1				
			湖沼	44	K53	597	1.1	1				
				44	K53	619	0.8	1				
			湖沼	44	K53	599	3.0	1				
			湖沼	44	K53	403	6.4	1				
				44	K53	711	2.1	1				
				44	K53	795	3.1	1				
			湖沼	44	K53	404	1.3	1				
			湖沼	44	K53	412	3.3	1				
			湖沼	44	K53	416	2.1	1				
			湖沼	44	K53	422	1.7	1				
			湖沼	44	K53	425	5.4	1				
				44	K53	426	1.5	1				
			湖沼	44	K53	424	1.6	1				
			湖沼	44	K53	428	8.0	1				
			湖沼	44	K53	440	3.1	1				
				44	K52	708	2.6	1				
				44	K53	809	2.8	1				
				44	K53	900	0.5	1				
				44	K53	902	2.9	1				
			湖沼	44	K53	402	7.5	1				
			湖沼	44	K53	453	9.7	1				
			湖沼	44	K53	490	10.1	1				
				44	K52	763	5.2	1				
			湖沼	44	K53	492	3.0	1				
			湖沼	44	K53	498	7.5	1				
			湖沼	44	K53	702	5.1	1				
			湖沼	44	K53	719	10.1	1				
				44	K54	525	1.8	1				
			湖沼	44	K53	710	9.3	1				
			湖沼	44	K53	711	6.7	1				
			湖沼	44	K53	716	3.1	1				
			湖沼	44	K53	718	2.8	1				
				44	K53	806	1.1	1				
			湖沼	44	K53	730	29.3	1				
			湖沼	44	K53	758	4.9	1				
			湖沼	44	K53	759	47.1	1				
			湖沼	44	K53	769	1.8	1				
			湖沼	44	K53	792	2.5	1				
			湖沼	44	K53	801	3.2	1				
			湖沼	44	K53	805	10.6	1				
			湖沼	44	K53	807	1.6	1				
			湖沼	44	K53	813	2.1	1				
			湖沼	44	K53	817	10.9	1				
			湖沼	44	K53	821	6.7	1				
			湖沼	44	K53	822	2.5	1				
			湖沼	44	K53	881	3.2	1				
			湖沼	44	K53	887	1.0	1				
			湖沼	44	K53	890	2.1	1				

群別	図號	番号	材料名	St	規格	仕付	数量	重量	加工時間	台数	加工時間	備付
			鋼片	11	S52		505	20.2	1			
			鋼片	11	S52		914	6.0	1			
群-506	210	261	取付資料	21-204 26-17			5,167.2	152	5	289	1817	
			心厚	34	特0		1,106	8.3	5			
			鋼片	111	I	4	164.9	5	5			
			鋼片	17	N52		405	23.8	5			
			鋼片	111	I	7	33.0	5				
			鋼片	111	I	18	4.8	5				
				47	N52		25	137.9	5			
				17	O52		139	12.2	5			
			板金鋼片	17	L52		72	11.4	5			
				M52	I	47	25.0	5				
			鋼片	17	L52		217	37.9	5			
			鋼片	47	L52		257	36.9	5			
			石炭	17	L52		233	19.8	5			
				L52	I	6	15.9	5				
			板金鋼片	L52	I	7	102.3	5				
			板金鋼片	36	L58 心厚27-20		3	9.7	5			
			石炭	17	M51		116	8.5	5			
				47	M51		407	2.3	5			
群-148	303	341	石炭	17	M52		233	15.0	5			
				N51	I	151	28.2	5				
			鋼片	17	M52		220	10.0	5			
				47	N51		325	69.5	5			
			鋼片	M53	I	28	10.4	5				
			心厚	17	N51		223	31.1	5			
				M51	I	173	37.9	5				
			鋼片	17	N51		821	5.3	5			
				47	N51		1886	4.3	5			
			石炭	17	N51		1111	7.8	5			
			鋼片	N51	I	123	36.4	5				
				17	N52		509	25.5	5			
				17	O52		279	12.8	5			
			板金鋼片	N51	I	121	23.5	5				
			鋼片	N51	I	128	18.1	5				
			心厚	N51	I	129	9.4	5				
				N51	I	168	4.1	5				
群-149	304	343	石炭	N51	I	136	32.6	5				
				M52	I	121	115.4	5				
			鋼片	N51	I	144	69.0	5				
				O51	I	231	12.4	5				
				O52	I	1218	2.7	5				
				O52	I	121	106.8	5				
				25-9	I	9	74.4	5				
			鋼片	N51	I	156	6.1	5				
				17	N52		1126	15.2	5			
				47	O52		222	13.4	5			
群-149	305	344	石炭	N51	I	100	8.1	5				
				N52	I	92	81.7	5				
				17	O52		879	15.5	5			
			板金鋼片	N51	I	163	27.3	5				
			鋼片	N51	I	207	29.2	5				
				N51	I	215	7.5	5				
				47	N52		477	4.5	5			
			鋼片	N51	I	205	7.1	5				
				47	N52		203	47.6	5			
				17	N52		783	9.1	5			
			鋼片	N51	I	211	13.0	5				
			鋼片	N51	I	218	16.6	5				

群別	図號	番号	材料名	St	規格	仕付	数量	重量	加工時間	台数	加工時間	備付
			石炭	17	N52		23	17.9	5			
				47	N52		432	44.4	5			
				N52	I	23	12.3	5				
			鋼片	17	N52		111	49.3	5			
			板金鋼片	47	N52 O51	T	128	3.4	5			
				17	N52		106	13.8	5			
			鋼片	47	N52		148	1.6	5			
			鋼片	17	N52		119	3.2	5			
			板金鋼片	47	N52		218	3.0	5			
				17	N52		95	7.2	5			
			鋼片	17	N52		292	8.0	5			
				17	N52		151	59.4	5			
				17	N52		1142	11.3	5			
			鋼片	47	N52		208	10.1	5			
				17	N52		972	3.8	5			
				47	O52		948	2.9	5			
			鋼片	17	N52		202	2.1	5			
				47	N52		146	55.2	5			
				17	N52		1370	10.0	5			
			鋼片	17	N52		376	25.2	5			
			鋼片	47	N52		111	107.5	5			
			板金鋼片	17	N52		320	10.9	5			
				47	N52		1054	1.6	5			
				O51	I	207	5.9	5				
			鋼片	47	N52		736	11.9	5			
				N51	I	787	25.4	5				
			鋼片	17	N52		905	6.9	5			
			鋼片	47	N51		1018	2.7	5			
				17	N52		1184	2.2	5			
			鋼片	47	N52		1022	6.7	5			
				17	N52		1279	11.1	5			
			板金鋼片	47	N52 O52	I	1351	109.1	5			
				17	N52		127	115.9	5			
			鋼片	17	N52		1385	4.0	5			
				17	N52		1122	182.7	5			
			鋼片	17	N52		1127	11.5	5			
				47	N52		1483	20.8	5			
			鋼片	N52	I	26	18.4	5				
				心厚27-20	I	109	149.7	5				
			鋼片	N52	I	37	8.8	5				
				47	O52		1247	2.0	5			
			鋼片	N52	I	23	5.9	5				
			鋼片	27	N51		58	11.2	5			
			鋼片	N51	I	11	73.7	5				
				17	O52		288	18.6	5			
			鋼片	27	N56		140	19.4	5			
				27	N59		288	16.8	5			
			鋼片	27	N60		40	43.2	5			
				O50	I	29	22.7	5				
			鋼片	27	N60		65	1.9	5			
				27	O58		207	6.9	5			
				27	O59		252	1.5	5			
			鋼片	O50	I	24	37.4	5				
			石炭	O51	I	6	12.4	5				
			鋼片	O51	I	197	50.4	5				
			鋼片	17	O52		119	22.0	5			
				47	O52		228	128.9	5			
				17	O52		240	142.7	5			
			鋼片	17	O52		361	30.4	5			
			鋼片	47	O52		383	7.7	5			

上白池8遺跡

棟目	棟名	番号	種類	Stb	敷地面積	延床面積	容積	構造	基礎	竣工年	竣工月	竣工日	備考
			床	17	062	1035	27.0	5					
			廊	47	062	1008	3.8	5					
			床	17	062	1170	6.5	5					
			廊	47	062	1003	36.7	5					
			床	47	062	1071	26.7	5					
			廊		062	1	122	14.8	5				
			組立天井	062	1	325	7.4	5					
			石灯	27	062	126	29.1	5					
			組立天井	27	068	297	26.7	5					
			石灯	27	068	109	15.2	5					
			石灯	27	068	224	12.6	5					
				27	068	437	12.9	5					
			廊	068	1	24	8.1	5					
				069	1	41	4.9	5					
			組立天井	27	069	3	10.4	5					
				27	069	404	14.5	5					
			敷地天井	27	069	42	10.5	5					
			廊	27	069	400	5.5	5					
			石灯	27	069	439	27.0	5					
			廊	069	1	28	18.8	5					
			廊	069	1	30	10.4	5					
			廊	069	1	10	7.0	5					
			廊	069	1	42	4.9	5					
			廊	069	1	43	6.5	5					
			組立天井	27	060	41	108.4	5					
			廊		060	122	59.4	5					
			組合天井	36+47		223.1	38	1+1	308	1981			
			廊	337	1	13	21.2	4					
			廊	337	1	14	7.8	4					
				339	並	71	1.2	4					
			廊	36	338	23	5.8	4					
			廊	36	338	65	2.2	4					
			廊	36	338	98	5.0	4					
			廊	36	338	191	1.9	4					
				36	360	25	1.2	4					
			廊	36	338	205	2.3	4					
			片取窓心算	36	339	136	11.8	4					
			廊	36	339	145	5.3	4					
			廊	36	339	233	20.0	4					
			廊	36	339	682	2.0	4					
			廊	339	1	4	8.6	4					
			廊	339	並	65	3.6	4					
			廊	360	1	22	10.8	4					
			廊	36	859	35	8.9	4					
			廊	36	856	644	4.7	4					
			廊		LS1	1	6	6.5	4				
				47	NS1	204	6.2	4					
			廊	47	LS2	95	20.2	4					
				47	NS1	108	3.9	4					
				47	NS1	246	22.6	4					
			廊	47	MS1	104	6.0	4					
				47	MS1	205	10.5	4					
				47	NS1	445	26.1	4					
				47	NS1	1128	8.1	4					
			廊	47	MS1	177	9.1	4					
			廊	47	MS1	494	17.4	4					
			廊	47	MS1	349	4.7	4					
			廊	47	NS1	27	6.6	4					
				47	NS1	889	6.9	4					
			廊	47	NS1	405	6.8	4					

棟目	棟名	番号	種類	Stb	敷地面積	延床面積	容積	構造	基礎	竣工年	竣工月	竣工日	備考
			床	47	NS1	402	5.8	4					
			廊	47	NS1	740	12.6	4					
			床	47	NS1	755	21.8	4					
				47	NS1	1000	10.3	4					
			廊	47	NS1	979	20.5	4					
			組合天井	05-05-05		336.1	33	0	343	1497			
			廊	43	JS3	26	16.0	4					
			廊	43	JS3	1	20	21.6	4				
			廊	47	JS4	1	3	13.2	4				
			廊	11	KS2	228	13.6	4					
				14	KS2	212	4.2	4					
			覆瓦天井	12	KS2	8	20.9	4					
				12	KS2	83	9.3	4					
			廊	44	KS3	15	26.0	4					
			廊	12	KS3	162	5.5	4					
				44	LS3	131	16.3	4					
			廊	11	KS2	239	10.7	4					
			廊	42	KS3	383	17.3	4					
			廊	12	KS2	297	7.3	4					
			廊	12	KS2	980	4.7	4					
			廊	42	KS3	483	4.4	4					
			廊		KS3	1	2	2.7	4				
			石灯		KS3	1	22	3.0	4				
					LS2	1	2	22.3	4				
					LS3	1	21	31.3	4				
			廊	11	LS2	284	2.2	4					
			廊	14	LS3	318	4.3	4					
			二次加工木造調子	42	LS2	286	6.3	4					
					LS3	1	22	26.6	4				
			組合天井	47		404.1	26	4	354	1727			
			廊	NS1	1	18	30.0	4					
			廊	NS1	1	180	27.4	4					
			廊	NS1	1	183	9.8	4					
			廊	17	OS0	459	18.0	4					
			廊	17	OS1	5	3.2	4					
			廊	17	OS1	19	5.6	4					
			廊	47	OS1	80	13.9	4					
			廊	47	OS1	195	31.0	4					
			廊	47	OS1	427	3.3	4					
			廊	17	OS1	429	9.1	4					
			廊	47	OS1	207	11.3	4					
			廊	17	OS1	217	6.1	4					
			廊	17	PS1	731	18.6	4					
			廊	17	OS1	280	4.0	4					
			廊	17	OS1	682	9.0	4					
				47	OS1	1092	2.6	4					
			廊	17	OS1	729	120.2	4					
			廊	47	OS1	1166	22.3	4					
			廊	17	OS1	1262	8.1	4					
			廊	OS1	1	16	18.1	4					
			廊	OS1	1	212	1.2	4					
			廊	17	PS1	184	32.5	4					
			廊	47	PS1	193	3.5	4					
			廊	17	PS1	194	2.1	4					
			廊	47	PS1	674	2.5	4					
			廊	17	PS1	638	11.6	4					
			組合天井	46+47		704.5	47	4	356	1737			
			廊	17	LS2	105	1.1	4					
			廊	17	LS2	108	10.5	4					
			廊	47	LS2	383	17.3	4					

上白滝8遺跡

種類	図号	番号	名称	Stb	地区	地号	面積	積立	石質	付与区	備考
				17	P5C	25	10.9		1		
				47	P5C	43	1.6		4		
				17	P5C	37	26.7		1		
				11	P5C	81	19.0		1		
				47	P5C	191	3.9		4		
			溝	OG1	I	59	7.3		1		
			溝	OG1	I	65	7.0		3		
				17	OG2	58	5.7		1		
			溝	OG1	I	67	2.8		4		
					OG1	I	70	2.1		1	
			溝	OG1	I	86	5.0		1		
			溝	OG1	I	101	5.7		1		
			溝	OG1	I	108	2.9		1		
				47	OG2	81	21.4		4		
					OG2	I	23	5.3		1	
					OG2	II	109	2.8		4	
			溝	17	OG2	82	3.5		1		
			溝	47	OG2	84	7.7		4		
			溝	17	OG2	88	3.3		1		
				17	OG2	571	5.1		1		
			溝	47	OG2	91	3.5		4		
				17	P5D	125	2.2		1		
			溝	47	OG2	233	2.9		4		
			溝	17	OG2	235	21.3		1		
					P5I	II	71	6.6		1	
			溝	17	OG2	236	1.8		1		
			溝	17	OG2	227	2.9		1		
				17	P5C	76	1.7		1		
			溝	17	OG2	269	3.1		1		
			溝	47	OG2	268	5.1		4		
			溝	17	OG2	351	3.3		1		
			溝	47	OG2	243	15.1		4		
			溝	17	OG2	215	4.7		1		
			溝	17	OG2	496	3.9		1		
			溝	17	OG2	689	3.1		1		
				17	P5D	81	4.8		1		
				47	OG2	794	86.7		4		
			溝		OG2	I	5	9.9		1	
				59	KA9	I	23.5		4		
			溝		OG2	I	17	16.7		1	
				47	P5C	74	5.1		4		
				17	P5C	159	6.5		1		
			溝		OG2	I	19	2.7		1	
					P19	I	5	39.6		1	
				53	QA8	2	6.8		1		
				54	QA8	121	16.1		4		
			溝		OG2	I	30	11.2		1	
				47	P5C	251	2.5		4		
			溝		OG2	I	32	6.1		1	
					P5C	I	12	4.2		1	
					P5C	II	32	2.5		1	
			溝		OG2	I	81	5.5		1	
					OG2	II	111	1.4		4	
			溝		OG2	I	83	1.7		1	
			溝		OG2	I	29	1.2		4	
			溝		OG2	II	108	1.6		1	
			溝	57	OG2	139	20.5		4		
			溝		P17	I	15	4.9		1	
					P17	I	16	11.4		1	
				53	P18	19	14.1		4		

種類	図号	番号	名称	Stb	地区	地号	面積	積立	石質	付与区	備考
					P18	I	21	9.2		1	
					P19	I	9	14.6		4	
				54	QA7		106	1.9		1	
				54	QA1		118	2.6		1	
					QA8	I	9	1.6		4	
			溝	53	P18		110	2.1		1	
				59	KA9		3	81.6		4	
			溝		P18	I	21	1.6		1	
					P18	I	25	2.1		4	
					P51	I	26	6.8		1	
				54	QA7		9	8.1		1	
				54	QA7		55	6.2		1	
				54	QA7		102	10.4		1	
				54	QA7		229	5.8		4	
			溝	18	P19		97	1.0		1	
			溝		P5G	I	1	22.7		4	
				17	P51	I	3	3.3		1	
				53	QA9		36	14.1		4	
				53	QA9		37	6.2		1	
			溝	17	P51		6	15.7		1	
			溝	17	P51		50	6.4		1	
			溝	17	P51		262	1.9		1	
				47	P51		434	3.2		4	
				17	P5C		288	1.6		1	
			溝	47	P51		483	3.1		4	
			溝	17	P51		313	5.5		1	
			溝	17	P51		358	5.0		1	
					P51	II	79	0.5		1	
			一次加工品と溝	17	P51		427	17.8		1	
					P51	II	60	12.6		1	
			溝	17	P51		637	61.5		1	
			溝	47	P51		666	6.0		4	
			溝	17	P51		697	1.0		1	
			溝	17	P51		723	11.4		1	
			溝		P51	I	15	89.7		1	
			溝		P51	I	18	19.3		1	
			溝		P51	I	25	12.4		4	
					P51	II	58	6.6		1	
				47	P5C		152	16.4		4	
				17	P5C		189	1.9		1	
				47	P5C		210	1.4		4	
				17	P5C		230	1.9		1	
					中絶品		65	10.6		1	
			溝		P51	II	57	1.0		1	
			溝		P51	II	62	3.1		1	
			溝		P51	II	64	0.7		1	
			溝		P51	II	67	0.5		1	
			溝		P51	II	68	0.4		4	
			溝	17	P5C		21	13.3		1	
				17	P5C		97	1.9		1	
			溝	17	P5C		25	5.7		1	
			溝		P5C		28	1.0		1	
			溝	47	P5C		32	3.1		4	
			溝	17	P5C		91	21.8		1	
				47	P5C		181	2.3		4	
			溝	17	P5C		27	1.3		1	
			溝	47	P5C		53	198.0		4	
			溝	17	P5C		54	2.8		1	
				17	P5C		55	3.6		1	
			溝	47	P5C		206	4.0		4	

群別	区域	番号	発掘号	St	地層	柱状	遺物名	数量	測定値	石質	付与別	検出層
				11	L52		208	3.3	3			
			測行	42	K53		266	11.6	4			
				11	L52		26	29.5	3			
					L50	T	11	1.8	3			
			測行	44	K53		321	5.7	3			
			測行	11	K53		113	2.8	3			
				44	L53		379	4.2	3			
			測行	12	K52		104	9.7	4			
				44	L53	K53	279	1.4	3			
					L50		147	181.0	3			
			測行	12	K52		160	2.2	3			
				11	L52		265	2.5	3			
				11	L52		162	3.9	3			
				44	L53		329	15.4	3			
					L50	T	12	6.8	3			
			測行	44	K53		289	18.5	3			
					K53	T	6	8.3	3			
					K53	T	8	20.7	3			
			測行		K52	T	9	15.0	3			
			測行		K53	T	10	7.1	3			
					K53	T	12	4.7	3			
			測行		K53	T	11	6.3	3			
				44	L53		376	8.7	3			
			測行		K52	T	11	1.3	3			
			測行		K53	T	29	298.2	3			
			測行		K52	B	60	3.3	3			
				11	L53		182	13.9	3			
第-562	306	4	大館工業心洞	76	L71		172	58.0	3			
			測行	17	L52		78	6.3	3			
			測行	44	L52		84	2.4	3			
				11	L52		234	5.0	3			
			測行	44	L70		65	13.0	3			
				17	L52		174	4.7	3			
			測行	11	L52		66	2.5	3			
				11	L52		287	1.9	3			
				11	L53		101	8.6	3			
			測行	44	L52		89	3.2	3			
			測行	11	L52	K53	194	3.5	3			
					K53		150	150.3	3			
			測行	11	L52		259	9.4	3			
				44	L70		105	3.9	3			
				11	L52		119	19.1	3			
				11	L53		279	1.1	3			
				11	L70		178	1.5	3			
				11	L53		363	3.3	3			
				44	L53		377	39.8	4			
			測行	11	L52		102	14.9	3			
				46	L53		28	1.2	1			
					L52	T	7	12.6	3			
			測行	11	L52		264	4.2	3			
			測行	11	L52		274	26.6	3			
					L53	T	63	6.9	3			
			測行	47	L52		376	1.8	3			
			測行	11	L52		172	1.2	3			
			測行		L52	T	11	49.7	3			
					L52	T	12	6.7	3			
			測行		L52	T	39	11.4	3			
				11	L52		268	8.0	3			
			測行		L52	T	61	4.3	3			
			測行		L52	T	61	3.8	3			

群別	区域	番号	発掘号	St	地層	柱状	遺物名	数量	測定値	石質	付与別	検出層
				11	L52		255	7.9	3			
					L52	T	12	121.5	3			
			測行		L52	T	12	1.8	3			
			測行		L52	T	18	12.4	3			
				44	L52		209	14.8	3			
				11	L53		186	5.3	3			
				44	L53		117	11.7	3			
			測行		L52	T	27	0.8	3			
			測行		L52	B	75	13.6	3			
				11	L52		222	6.5	3			
			測行	11	L52		2	259.2	3			
					L52	T	3	13.3	3			
					L53	T	52	23.7	3			
			測行	44	L53		9	1.4	3			
				11	L53		10	2.3	1			
			測行	44	L53		18	3.8	3			
				11	L53		271	17.7	3			
					L52	T	60	2.7	3			
			測行	11	L52		151	2.0	3			
			測行	11	L52		177	4.7	3			
				44	L53		305	36.2	3			
				11	L53		158	47.6	3			
					L53	T	82	2.6	3			
			測行	17	L52		201	5.5	3			
			測行	44	L52		207	9.5	3			
				11	L52		251	23.4	3			
				11	L52		162	30.4	3			
				17	L53		118	1.5	3			
			測行	11	L53		211	20.7	3			
			測行	44	L53		212	6.3	3			
			測行	11	L53		215	27.4	3			
				44	L53		364	16.9	3			
			測行	11	L52		285	21.2	3			
				11	L52		233	14.2	3			
				11	L52		280	15.9	3			
			測行	11	L52		286	17.2	3			
			測行	44	L53		323	10.1	3			
			測行	11	L53		312	8.2	3			
			測行	44	L53		148	19.1	3			
				11	L52		251	6.1	3			
			測行	44	L53		351	4.7	3			
			測行	11	L52		290	6.9	3			
				11	L52		100	20.5	3			
				11	L53		105	7.2	3			
			測行	11	L52		120	13.1	3			
					L53	T	11	3.2	3			
			測行	11	L52		112	1.8	3			
			測行		L52	T	5	41.3	3			
					L52	T	77	12.6	3			
					L52	T	26	1.5	3			
			測行		L52	T	9	13.8	3			
					L52	T	13	12.0	3			
					L53	T	14	4.0	3			
			測行		L52	T	58	11.2	3			
			測行		L53	T	59	6.2	3			
-	317	369	総合資料	17	J51	T	89	1,781.9	1	296	1362	
					N51	T	208	30.0	1			
					J51	T	21	23.7	1			
					J51	T	22	4.1	1			

群号	国号	番号	器物名	Sp	種類	材質	器高cm	口径cm	重量	新出点	位置	付家名	備考
			銅片	3552	I	56	69.0	1					
			銅片	47	N52	385	37.0	1					
			銅片	47	N52	1170	6.5	1					
			銅片	N51	I	208	26.1	1					
			銅片	47	N52	568	14.0	1					
			銅片	47	N52	558	4.9	1					
			銅片	CG1	I	236	8.0	1					
			銅片	CG1	I	22	26.0	1					
			銅片	N51	I	202	48.3	1					
			銅片	N51	I	209	90.0	1					
			銅片	47	N52	111	35.3	1					
			銅片	47	N52	176	5.1	1					
			銅片	47	N52	218	10.7	1					
			銅片	47	N52	202	30.4	1					
			銅片	CG1	I	237	28.4	1					
			銅片	47	N52	245	4.4	1					
			銅片	47	N52	261	17.8	1					
			銅片	47	N52	1353	137.0	1					
			銅片	47	N52	205	98.6	1					
			銅片	47	N52	961	10.9	1					
			銅片	47	N52	1228	12.7	1					
			銅片	47	N52	1337	23.5	1					
第 421	298	54	西面銅製石盤	47	N52	325	764.1	1					
			銅片	47	N52	353	51.9	1					
			銅片	47	N52	1482	39.8	1					
			銅片	CG0	I	23	18.4	1					
			銅片	47	N52	408	29.0	1					
			銅片	47	N52	718	56.9	1					
			銅片	47	N52	1218	21.2	1					
			銅片	47	N52	1223	21.3	1					
			銅片	47	CG1	661	71.3	1					
			銅片	47	N52	1260	230.4	1					
			銅片	N52	I	42	71.5	1					
			銅片	N52	I	45	27.9	1					
			銅片	CG1	I	235	67.4	1					
			銅片	47	CG2	1198	1.7	1					
			銅片	47	CG2	1224	4.0	1					
			銅片	CG2	I	351	4.1	1					
			銅片	CG2	I	152	56.1	1					
-	348	370	綜合資料	48-47		4,353.3	55	3-4-5	380	1874			
			銅片	J31	I	3	52.4	5					
			銅片	47	N52	110	10.1	5					
			銅片	47	N52	219	3.8	5					
			銅片	47	N52	1378	15.2	5					
			銅片	47	N52	1495	5.1	5					
			銅片	CG2	I	1623	27.7	1					
			銅片	CG5	I	117	13.6	5					
			銅片	N51	I	308	26.9	5					
			銅片	N51	I	109	130.5	5					
			銅片	N51	I	111	32.1	5					
			銅片	N51	I	112	72.5	5					
			銅片	N51	I	114	37.8	5					
			銅片	CG1	I	188	460.8	5					
			銅片	N51	I	101	16.7	5					
			銅片	47	N52	1114	21.7	5					
			銅片	N51	I	105	11.2	5					
			銅片	N51	I	102	14.5	5					
			銅片	CG1	I	230	47.1	5					
			銅片	47	N52	79	18.0	5					
			銅片	CG1	I	182	217.3	5					

群号	国号	番号	器物名	Sp	種類	材質	器高cm	口径cm	重量	新出点	位置	付家名	備考
			銅片	47	N52	138	26.5	5					
			銅片	47	N52	194	13.4	5					
			銅片	47	N52	19	23.7	5					
			銅片	47	N52	239	110.8	5					
			銅片	47	N52	498	19.7	5					
			銅片	47	N52	791	8.8	5					
			銅片	47	N52	1250	11.4	5					
			銅片	47	CG2	140	122.8	5					
			銅片	47	N52	295	17.9	5					
			銅片	47	N52	321	82.1	1					
			銅片	47	N52	383	101.9	5					
			銅片	47	N52	850	108.4	5					
			銅片	47	N52	1330	37.3	5					
			銅片	47	N52	1344	9.1	5					
			銅片	47	N52	1312	20.2	5					
			銅片	CG1	I	99	49.2	5					
			銅片	CG1	I	189	12.6	5					
			銅片	CG1	I	229	22.8	5					
			銅片	CG1	I	19	111.8	5					
			銅片	CG1	I	101	8.1	5					
			銅片	CG1	I	231	2.0	5					
			銅片	47	CG2	134	11.9	5					
			銅片	CG2	I	118	13.4	5					
			銅片	47	CG2	273	1,335.0	5					
			銅片	47	CG2	1157	2.2	1					
			銅片	CG2	I	111	96.4	5					
			銅片	CG2	I	115	191.7	5					
			銅片	CG2	I	119	110.2	5					
			銅片	CG2	I	120	21.2	5					
第 422	298	52	西面銅製石盤	S49	I	7	318.6	5					
			銅片	T18	I	1	938.6	5					
			銅片	CG1	I	20	396.2	1					
			銅片	CG1	I	9	312.1	5					
			銅片	CG1	I	189	192.1	5					
			銅片	CG1	I	96	31.2	5					
-	350	371	綜合資料	42-41		511.1	22	1-1	391	1380			
第 415	283	33	銅製石	44	K52	7	77.2	1					
			銅片	44	K52	8	138.1	1					
			銅片	44	K53	342	16.9	1					
			銅片	44	K52	201	3.0	1					
			銅片	44	K52	261	2.2	1					
			銅片	44	K52	2700	1.5	1					
			銅片	44	K52	1723	13.4	1					
			銅片	44	K53	58	52.7	1					
			銅片	44	K53	148	2.8	1					
			銅片	44	K53	191	12.1	1					
			銅片	44	K52	194	5.1	1					
			銅片	44	K53	286	42.3	1					
			銅片	44	K52	298	5.0	1					
			銅片	44	K53	302	19.2	1					
			銅片	44	K52	311	9.5	1					
			銅片	44	K53	367	8.2	1					
			銅片	42	K53	408	21.4	1					
			銅片	44	K53	429	21.8	1					
			銅片	44	K53	401	19.1	1					
			銅片	44	K52	492	58.3	1					
			銅片	44	K53	722	5.2	1					
			銅片	44	K52	1	31.9	1					
-	350	372	綜合資料	47		2,779.6	42	3-5	301	3988			
			銅片	J31	I	13	6.2	5					

上白池8遺跡

種類	規模	番号	名称	Stb	種類	坪数	面積	敷地面積	石質	付与区	備考
			礎石	J31	T	18	53.6		5		
			礎石	47	N51	101	54.9		5		
			礎石	47	N51	259	26.6		5		
			礎石	1	N51	908	28.7		5		
			礎石		N51	1	7	158.9	5		
			礎石		N51	T	135	32.5	5		
			礎石		N51	T	136	29.2	5		
			礎石		N51	T	122	158.7	5		
			礎石		N51	T	148	6.0	5		
			礎石		N51	T	150	65.8	5		
			礎石		N51	T	152	9.3	5		
			礎石	17	N52	1104	13.8		5		
			礎石		N51	T	159	23.5	5		
			礎石		N51	T	201	10.7	5		
			礎石	47	N52	285	24.9		5		
			礎石		N51	T	203	19.8	5		
			礎石	17	N52	45	37.5		5		
			礎石	47	N52	1402	32.6		5		
			礎石	17	N52	1	111.7		5		
			礎石	47	N52	61	65.7		5		
			礎石	47	N52	88	77.6		5		
			礎石	17	N52	311	8.8		5		
			礎石	47	N52	413	21.0		5		
			礎石	17	OS1	351	6.9		5		
			礎石	47	N52	476	38.9		5		
			礎石	17	N52	508	28.7		5		
			礎石	17	N52	478	113.5		5		
			礎石	47	N52	1111	4.3		5		
			礎石	47	N52	702	667.4		5		
			礎石	47	N52	1406	32.1		5		
			礎石	17	N52	1039	28.8		5		
			礎石	47	N52	1250	9.7		5		
			礎石	17	N52	1289	11.9		5		
			礎石	17	N52	1360	28.0		5		
			礎石		N52	T	13	27.8	5		
			礎石		N52	T	14	25.3	5		
			礎石		N52	T	21	69.8	5		
			礎石		N52	T	10	6.8	3		
			礎石		OS1	T	105	8.0	5		
			礎石		OS1	T	199	16.7	5		
			礎石		OS1	T	108	11.8	5		
-	251	372	組合資料	65-47			1,896.0	5	2-3	381	1893
第-139	298	198	赤鹿野石器	17	N51	T	4	62.7	5		
					OS1	T	27	85.3	5		
			礎石調片		N51	T	118	297.8	5		
					OS1	T	5	23.1	5		
			礎石		N51	T	127	168.4	5		
			礎石		N51	T	121	28.2	5		
			礎石		N51	T	143	21.1	5		
			礎石		N51	T	169	31.3	5		
			礎石		N51	T	170	25.5	5		
			礎石	17	N52	63	34.1		5		
			礎石	47	N52	136	1.8		5		
			礎石	17	N52	192	2.5		5		
			礎石	47	N52	208	9.0		5		
			礎石	17	N52	237	21.5		5		
			礎石調片		N52	286	74.4		5		
					N52	405	81.8		5		
					OS1	217	52.5		5		
			礎石	47	N52	284	25.3		5		

種類	規模	番号	名称	Stb	種類	坪数	面積	敷地面積	石質	付与区	備考
			礎石	17	N52	590	1.7		5		
			礎石	47	N52	601	25.7		5		
			礎石	17	N52	752	56.0		5		
			行房	1	N52	919	10.8		5		
			礎石		N52	1471	24.0		5		
			礎石	17	N52	1003	8.2		5		
			礎石		N52	1124	48.1		5		
			礎石	47	N52	1196	5.2		5		
			礎石		N52	T	29	371.0	5		
			礎石		N52	T	30	13.8	5		
			礎石		N52	T	31	10.5	5		
			礎石	16	N52	8	10.4		5		
			礎石	17	OS1	22	9.3		5		
			礎石	47	OS1	431	2.0		5		
			礎石	17	OS1	78	9.1		5		
			礎石	47	OS1	404	11.3		5		
			礎石	17	OS1	808	22.5		5		
			礎石		OS1	T	192	26.7	5		
			礎石		OS1	T	193	16.1	5		
			礎石		OS1	T	201	11.5	5		
			礎石	47	OS1	5	10.2		5		
			礎石	17	OS1	8	18.0		5		
			石炭	47	OS1	125	101.4		5		
			石炭	17	OS1	291	65.1		3		
			礎石		OS1	T	146	26.3	5		
			礎石	17	OS1	387	29.8		5		
			礎石		OS1	T	147	5.8	5		
-	251	374	組合資料	47		966.8	9	6-5	284	1383	
			行房		N51	T	53	8.7	5		
			石炭		N51	T	3	18.9	5		
					OS1	T	3	27.2	5		
			石炭	17	N52	109	22.8		5		
			礎石	47	OS1	1	28.4		5		
			礎石	17	N52	271	9.5		5		
			礎石	17	OS1	814	25.1		5		
			礎石		不明		30.8		5		
第-451	306	269	石炭採	47	OS1	290	682.4		4		
-	252	375	組合資料	17-30-1			1,605.3	11	1-5	293	1828
			石炭	35	157	258	26.5		5		
			礎石		N52	T	3	342.5	5		
			礎石		N52	T	2	19.4	5		
			礎石		N52	T	3	55.5	5		
			礎石		N52	T	32	78.4	5		
					不明	280	23.7		1		
			礎石調片		37	N52	167	48.4	5		
			石炭		36	N56	6	42.3	5		
					39	N58	28	36.6	5		
					45	L50	18	36.7	5		
			行房		15	L50	13	18.8	1		
			礎石		15	L50	15	72.6	5		
			礎石		15	L50	90	81.9	5		
			礎石		15	L50	24	17.7	5		
			礎石		45	L50	28	14.3	5		
					L50	T	2	186.8	5		
			礎石	47	N51	264	12.5		1		
			行房			28	28.6		5		
					不明	29	34.4		5		
					(不明)	01	51.7		5		
第-573	370	36	石炭採	17-1		62	830.0		5		
-	252	378	組合資料	40		2,618.5	121	3-4	333	3529	

種類	図号	番号	名称	Stb	発掘区	層位	遺物名	数量	単位	材質	寸法	備考
			銅貨	10	第2区	58	1.2	3				
			銅貨	40	第2区	110	5.6	3				
			銅貨	10	第2区	130	22.3	3				
			銅貨	10	第2区	171	61.9	3				
			銅貨	40	第2区	184	3.1	3				
			銅貨	10	第2区	222	3.8	3				
			銅貨	40	第2区	334	19.2	3				
			銅貨	10	第2区	376	5.3	3				
			銅貨	40	第2区	391	18.0	3				
			銅貨	10	第2区	427	15.3	3				
			銅貨	10	第2区	491	1.1	3				
			銅貨	10	第2区	355	59.7	3				
			銅貨	10	第2区	365	19.3	3				
			銅貨	40	第2区	271	17.2	3				
			銅貨	10	第2区	376	2.5	3				
			銅貨	40	第2区	287	28.8	3				
			銅貨	10	第2区	394	3.1	3				
			銅貨	40	第2区	422	7.0	3				
			銅貨	10	第2区	436	95.0	3				
			銅貨	10	第2区	452	73.2	3				
			銅貨	40	第2区	453	13.3	3				
			銅貨	10	第2区	454	18.1	3				
			銅貨	40	第2区	483	4.7	3				
			銅貨	10	第2区	487	2.2	3				
			銅貨	40	第2区	498	1.7	3				
			銅貨	10	第2区	115	2.9	3				
			銅貨	10	第2区	227	3.0	3				
			銅貨	10	第2区	469	1.8	3				
			銅貨	10	第2区	174	8.2	3				
			銅貨	40	第2区	244	10.1	3				
			銅貨	10	第2区	283	3.2	3				
			銅貨	40	第2区	335	20.2	3				
			銅貨	10	第2区	476	20.6	3				
			銅貨	10	第2区	510	53.9	3				
			銅貨	10	第2区	416	122.9	3				
			銅貨	10	第2区	176	2.3	3				
			銅貨	40	第2区	409	2.1	3				
			銅貨	10	第2区	185	6.8	3				
			銅貨	40	第2区	268	10.5	3				
第1区	206	206	石分核	10	第2区	186	6.0	3				
			銅貨	40	第2区	386	6.6	3				
			銅貨	10	第2区	919	19.6	3				
			銅貨	10	第2区	312	1.3	3				
			銅貨	10	第2区	351	64.8	3				
			銅貨	10	第2区	270	215.2	3				
			銅貨	40	第2区	409	256.9	3				
			銅貨	10	第2区	420	53.0	3				
			銅貨	40	第2区	432	2.3	3				
			銅貨	10	第2区	433	2.2	3				
			銅貨	10	第2区	182	6.8	3				
			銅貨	10	第2区	419	1.3	3				
			銅貨	10	第2区	244	3.1	3				
			銅貨	40	第2区	189	4.6	3				
			銅貨	10	第2区	217	6.1	3				
			銅貨	40	第2区	203	16.7	3				
			銅貨	10	第2区	193	3.3	3				
			銅貨	40	第2区	393	6.5	3				
			銅貨	10	第2区	196	30.5	3				
			銅貨	10	第2区	207	12.4	3				
			銅貨	40	第2区	208	6.0	3				

種類	図号	番号	名称	Stb	発掘区	層位	遺物名	数量	単位	材質	寸法	備考
			銅貨	10	第2区	229	2.1	3				
			銅貨	40	第2区	241	9.5	3				
			銅貨	10	第2区	428	20.1	3				
			銅貨	10	第2区	329	1.6	3				
			銅貨	40	第2区	457	2.0	3				
			銅貨	10	第2区	215	2.5	3				
			銅貨	40	第2区	249	2.2	3				
			銅貨	10	第2区	267	2.0	3				
			銅貨	40	第2区	279	1.3	3				
			銅貨	10	第2区	451	1.5	3				
			銅貨	10	第2区	286	0.0	3				
			銅貨	10	第2区	318	21.4	3				
			銅貨	10	第2区	387	12.0	3				
			銅貨	40	第2区	441	6.8	3				
			銅貨	10	第2区	294	7.0	3				
			銅貨	40	第2区	327	4.9	3				
			銅貨	10	第2区	281	6.1	3				
			銅貨	40	第2区	329	3.2	3				
			銅貨	10	第2区	400	2.7	3				
			銅貨	10	第2区	455	26.3	3				
			銅貨	40	第2区	276	1.4	3				
			銅貨	10	第2区	358	8.1	3				
			銅貨	40	第2区	216	2.8	3				
			銅貨	10	第2区	236	4.2	3				
			銅貨	40	第2区	402	5.2	3				
			銅貨	10	第2区	229	1.2	3				
			銅貨	10	第2区	348	5.2	3				
			銅貨	10	第2区	219	10.2	3				
			銅貨	10	第2区	324	3.5	3				
			銅貨	40	第2区	360	7.9	3				
			銅貨	10	第2区	294	8.3	3				
			銅貨	40	第2区	411	370.1	3				
			銅貨	10	第2区	414	79.2	3				
			銅貨	10	第2区	439	1.8	3				
			銅貨	10	第2区	494	10.0	3				
			銅貨	10	第2区	455	11.1	3				
			銅貨	40	第2区	459	6.3	3				
			銅貨	10	第2区	361	1.6	3				
			銅貨	40	第2区	256	22.4	3				
			銅貨	10	第2区	421	2.9	3				
			銅貨	40	第2区	402	2.0	3				
			銅貨	10	第2区	454	2.1	3				
			銅貨	10	第2区	425	18.8	3				
			銅貨	10	第2区	387	10.5	3				
			銅貨	10	第2区	388	1.7	3				
			銅貨	40	第2区	406	2.7	3				
			銅貨	10	第2区	510	1.6	3				
			銅貨	40	第2区	427	11.1	3				
			銅貨	10	第2区	200	10.2	3				
			銅貨	10	第2区	321	63.2	3				
			銅貨	10	第2区	436	1.2	3				
			銅貨	10	第2区	230	4.1	3				
			銅貨	40	第2区	232	2.3	3				
			銅貨	10	第2区	350	5.7	3				
			銅貨	40	第2区	247	6.1	3				
			銅貨	10	第2区	431	6.9	3				
			銅貨	40	第2区	254	14.2	3				
			銅貨	10	第2区	408	23.2	3				
			銅貨	10	第2区	411	21.0	3				
			銅貨	40	第2区	490	96.3	3				

上白滝8遺跡

種類	図面	番号	名称	Stb	種類	仕様	数量	単価	数量	品質	仕工	検査
			掘削		掘削	工	4	4.2	1			
253	377	掘削資料	47-48				2,389.0	89	1-4	380	1,087	
			掘削		M19	1	9	20.4	1			
			掘削		1A	M01	9	8.0	1			
			掘削		48	M50	94	55.7	1			
			掘削		1A	M50	170	8.5	1			
			掘削資料		48	M50	227	6.2	1			
			掘削		1A	M50	227	15.8	1			
			掘削		48	M50	234	3.3	1			
			掘削		1A	M50	290	6.5	1			
			掘削		1A	O50	222	59.9	1			
			掘削		1A	O50	487	16.7	1			
			掘削		1A	O50	519	3.8	1			
			掘削資料		48	M50	256	21.9	1			
			掘削		1A	M50	257	6.2	1			
			掘削		48	O50	325	63.3	1			
			掘削		1A	M50	208	3.8	1			
			掘削		48	M50	310	24.1	1			
			掘削		1A	M50	208	57.6	1			
			掘削		1A	O50	431	5.6	1			
			掘削		48	O50	327	1.9	1			
			掘削		1A	O50	531	22.4	1			
			掘削		48	O50	255	13.6	1			
			掘削		1A	M50	217	17.1	1			
			掘削		48	M50	330	43.6	1			
			掘削		1A	M50	217	5.8	1			
			掘削		1A	M50	313	2.1	1			
			掘削		1A	M50	216	14.9	1			
			掘削		1A	M50	269	14.0	1			
			掘削		48	M50	372	9.1	1			
			掘削		1A	O50	265	2.7	1			
			掘削		48	O50	439	177.8	1			
			掘削		1A	O50	495	11.3	1			
			掘削		1A	O50	133	2.7	1			
			掘削資料		1A	O50	138	16.8	1			
			掘削		1A	O50	291	28.7	1			
			掘削		48	O50	488	4.8	1			
			掘削		1A	O50	222	12.5	1			
			掘削		48	O50	297	12.2	1			
			掘削		1A	O50	288	4.9	1			
			掘削		48	O50	257	4.5	1			
			掘削		1A	O50	290	57.2	1			
			掘削		1A	O50	287	8.2	1			
			掘削		1A	O50	294	41.6	1			
			掘削		1A	O50	736	7.0	1			
			掘削		47	O51	383	2.1	4			
			掘削資料		48	O50	223	9.4	1			
			掘削		48	O50	330	6.4	1			
			掘削		1A	O50	221	108.0	1			
			掘削		1A	O50	227	3.1	1			
			掘削		1A	O50	231	10.7	1			
			掘削		1A	O50	237	2.0	1			
			掘削		48	O50	478	16.2	1			
			掘削		1A	O50	239	19.1	1			
			掘削		48	O50	434	1.5	1			
			掘削		1A	O50	210	16.8	1			
			掘削		48	O50	341	2.0	1			
			掘削		1A	O50	241	6.9	1			
			掘削		1A	O50	458	3.8	1			
			掘削		48	O50	345	5.0	1			

種類	図面	番号	名称	Stb	種類	仕様	数量	単価	数量	品質	仕工	検査
			打削		1A	O50	257	21.1	1			
			掘削		48	O50	301	38.1	1			
			掘削		1A	O50	251	50.1	1			
			掘削		1A	O50	416	10.8	1			
			掘削		48	O50	372	52.1	1			
			掘削		1A	O50	373	69.1	1			
			掘削		48	O50	487	3.2	1			
			掘削		1A	O50	288	3.2	1			
			掘削資料		48	O50	306	12.1	1			
			掘削		1A	O50	299	10.5	1			
			掘削		1A	O50	404	0.2	1			
			掘削		1A	O50	409	2.9	1			
			掘削		1A	O50	410	4.3	1			
			掘削		48	O50	412	4.5	1			
			掘削資料		1A	O50	411	10.3	1			
			掘削		48	O50	416	3.9	1			
			掘削		1A	O50	433	12.4	1			
			掘削		48	O50	432	2.5	1			
			掘削		1A	O50	415	96.0	1			
			掘削		1A	O50	455	52.5	1			
			掘削		48	O50	325	5.3	1			
			掘削資料		1A	O50	466	17.0	1			
			掘削		48	O50	473	22.7	1			
			掘削		1A	O50	469	3.1	1			
新-452	398	277	石筋様		48	O50	470	249.4	1			
			掘削		1A	O50	492	5.8	1			
			掘削		1A	O50	308	164.7	1			
			掘削		1A	O50	308	80.5	1			
			掘削		1A	O50	311	7.1	1			
			掘削		48	O50	230	85.0	1			
			掘削		47	O51	135	1.0	4			
394	378	掘削資料	47				2,131.6	39	1-5	259	1,268	
			掘削資料		17	M52	104	41.6	5			
			掘削		17	M52	106	17.9	5			
			掘削		17	M52	105	8.2	5			
新-156	349	280	石筋様		17	M52	227	1,086.6	5			
			掘削		47	M52	281	40.3	4			
			掘削		47	M52	282	1.1	1			
			掘削		47	M52	283	2.0	1			
			掘削		47	M52	284	2.5	1			
			掘削		47	M52	286	39.3	1			
			掘削		17	M52	287	2.7	1			
			掘削資料		17	M52	310	42.8	1			
			掘削		17	M52	54	96.4	1			
			掘削資料		17	M52	314	117.1	5			
			掘削		47	M52	288	26.8	1			
			掘削		17	M52	316	8.3	1			
			掘削		47	M52	347	13.8	15			
			掘削		17	M52	263	1.7	1			
			掘削		17	M52	365	2.4	1			
			掘削		17	M52	254	31.2	1			
			掘削		17	M52	264	10.8	1			
			掘削		47	M52	358	21.4	1			
			掘削		47	N51	311	22.7	5			
			掘削		47	M52	359	170.8	1			
			掘削		17	M52	260	2.9	1			
			掘削		47	M52	361	2.1	1			
			掘削		17	M52	282	0.7	1			
			掘削		17	M52	492	11.3	5			
			掘削		47	M52	284	12.9	5			

群号	国号	番号	器物名	Sp	種類	材質	器高(cm)	口径(cm)	重量(g)	出土地	石質	行方別	組合別
				47	M5Z		289	1.5	1				
				47	M5Z		431	18.9	5				
			石刀	47	M5Z		285	22.5	5				
			鍔片	47	M5Z		386	2.7	1				
			鍔片		M5Z	I	31	42.7	1				
					M5Z	T	52	24.0	1				
			鍔片		M5I	I	298	30.0	1				
			鍔片	47	M5Z		875	13.4	1				
			靱先鍔片		靱先鍔片		21	42.7	1				
			靱先鍔片		靱先鍔片		38	34.2	1				
			鍔片		靱先鍔片		106	106.1	1				
-	254	279	組合資料	53			154.2		29	1	131	1319	
			鍔片	53	Q48		118	181.4	1				
			鍔片	53	Q48		422	1.3	1				
				53	Q48		723	3.5	1				
				53	Q48		38	3.0	1				
				53	Q48		29	3.1	1				
			鍔片	53	Q48		426	7.3	1				
				53	Q48		719	3.5	1				
				53	Q49		176	7.7	1				
			鍔片	53	Q49		422	28.3	1				
				53	Q49		92	15.9	1				
			鍔片	53	Q48		426	1.8	1				
			鍔片	53	Q48		429	8.5	1				
			鍔片	53	Q48		430	1.9	1				
				53	Q49	II	9	0.6	1				
				53	Q48		36	106.4	1				
				53	Q48		27	70.4	1				
				53	Q48		96	4.9	1				
			鍔片	53	Q49		23	16.3	1				
				53	Q49		82	10.5	1				
				53	Q49		63	3.9	1				
			鍔片	53	Q49		73	25.6	1				
			鍔片	53	Q49		71	5.1	1				
				53	Q49		112	22.3	1				
			鍔片	53	Q49		80	31.8	1				
			鍔片	53	Q49		94	6.3	1				
				53	Q49		130	15.5	1				
			靱先鍔片	53	Q49		109	18.8	1				
			鍔片		Q49	II	5	1.2	1				
			鍔片	53	Q48		47	2.1	1				
-	255	280	組合資料	65・67			2,828.2		58	1	288	1385	
			鍔片		M5S	T	17	22.9	1				
			鍔片	47	M5I		116	4.8	1				
			鍔片	46	M5I		250	11.8	1				
			鍔片		M5I	I	23	2.7	1				
					M5Z	T	149	5.5	1				
			鍔片	46	M54		10	3.7	1				
				46	M5Z		21	5.7	1				
			鍔片	46	M5I		143	26.4	1				
				46	M5Z		77	17.6	1				
					靱先鍔片		113	10.4	1				
			鍔片	46	M5Z		13	20.3	1				
			鍔片		M5Z	T	148	43.4	1				
			鍔片	46	M5Z		2	26.5	1				
			靱先鍔片	46	M5Z		12	5.2	1				
				46	M5I		73	6.0	1				
			靱先鍔片	46	M5Z	T	14	21.3	1				
					M5Z	I	12	5.9	1				
			鍔片	46	M5Z		16	26.0	1				

群号	国号	番号	器物名	Sp	種類	材質	器高(cm)	口径(cm)	重量(g)	出土地	石質	行方別	組合別
				46	M5Z		75	6.8	1				
			鍔片	46	M5I		17	7.0	1				
			靱先鍔片	46	M5Z		19	5.8	1				
					M5Z	T	14	4.1	1				
			鍔片	46	M5Z		20	7.7	1				
			鍔片	46	M5Z		21	8.5	1				
			鍔片	46	M5Z		22	102.8	1				
			鍔片	46	M5Z		23	22.5	1				
			鍔片	46	M5Z		24	4.6	1				
				46	M5Z		25	2.8	1				
			鍔片	46	M5Z		26	11.0	1				
			鍔片	46	M5Z		27	32.1	1				
					M5Z	T	13	31.9	1				
			鍔片	46	M5Z		28	5.0	1				
			鍔片	46	M5Z		29	4.1	1				
			鍔片	46	M5Z		32	2.4	1				
				46	M5Z		44	142.9	1				
				46	M5Z		45	4.4	1				
			靱先鍔片	46	M5Z		33	4.1	1				
				46	M5Z		38	6.7	1				
			靱先鍔片	46	M5Z		34	8.8	1				
					M5Z	T	18	11.6	1				
			鍔片	46	M5Z		36	26.6	1				
			鍔片	46	M5Z		37	27.0	1				
			鍔片	46	M5Z		39	6.3	1				
			鍔片	46	M5Z		42	82.0	1				
			鍔片	46	M5Z		43	27.9	1				
			鍔片	46	M5Z		46	10.5	1				
			鍔片	46	M5Z		78	15.6	1				
			鍔片	46	M5Z		80	45.4	1				
				46	M5Z		84	17.3	1				
			鍔片		M5Z	T	14	13.4	1				
			鍔片		M5Z	T	15	56.4	1				
			鍔片		M5Z	T	16	2.7	1				
			鍔片		M5Z	T	19	10.5	1				
			鍔片		M5Z	T	20	17.7	1				
			鍔片	46	M54		28	119.9	1				
			鍔片		Q49	T	4	6.6	1				
新	574	370	37	石鏡	靱先鍔片		22	254.1	1				
				靱先鍔片	靱先鍔片		111	140.7	1				
			靱先鍔片		靱先鍔片		46・47		229.9	44	4	388	1738
			鍔片	47	L5Z		70	7.8	1				
			鍔片	47	L5Z		115	2.1	1				
			鍔片		L5Z	I	41	1.9	1				
			鍔片	47	M5Z		21	1.9	1				
			鍔片	47	M5Z		190	1.8	1				
			鍔片	47	M5Z		304	4.3	1				
			鍔片	47	M5Z		274	5.7	1				
				47	M5Z		4092	1.8	1				
			鍔片	47	M5Z		329	2.9	1				
			鍔片	47	M5Z		242	6.1	1				
					M5Z	II	35	5.2	1				
					M5Z	II	34	3.3	1				
新	574	370	47	靱先鍔片	靱先鍔片		47	15.5	1				
			鍔片	47	M5Z		476	5.8	1				
			鍔片	47	M5Z		325	1.0	1				
			鍔片	47	M5Z		260	2.6	1				
			鍔片	47	M5Z		352	3.5	1				
			鍔片	47	M5Z		429	2.8	1				
			鍔片	47	M5Z		488	5.7	1				

上白池8遺跡

棟別	棟名	棟番号	Stb	建築年	延床面積	基礎	床面積	構造	石造部	石質	石工	石工種	備考
		甬道	47	MDF	695	1.8							
			47	MDF	932	3.4							
		甬道	47	MDF	729	8.9							
		甬道	47	MDF	758	1.5							
		甬道	47	MDF	781	3.0							
		甬道	47	MDF	786	1.7							
		甬道	47	MDF	837	4.1							
		甬道	47	MDF	869	5.0							
		甬道	47	MDF	901	1.5							
		甬道	47	MDF	995	2.8							
		甬道	47	MDF	1064	2.6							
		甬道	47	MDF	1100	2.7							
		甬道	47	MDF	1145	2.6							
		甬道	47	MDF	1183	1.1							
		甬道	47	MDF	1189	1.1							
		甬道	47	MDF	1201	10.3							
		甬道	47	MDF	1233	5.6							
		甬道		MDF II	35	4.5							
		甬道		MDF II	29	1.3							
		甬道		MDF II	27	0.7							
		甬道		MDF II	28	0.4							
		甬道		MDF II	28	0.2							
		甬道		MDF I	5	35.4							
		甬道		MDF I	1	16.1							
		甬道	46	OFG	22	4.9							
		甬道	35	OFG	35	6.8							
		甬道	36	OFG	105	2.6							
		甬道		OFG I	7	10.0							
		甬道		不明	不明	1.3							
256	382	狭小資料	44-47		389.5	20	1-2	297	1283				
		礎石破片	44	KSD	850	14.9							
			47	LSD	281	20.5							
		礎石破片	47	LSD	18	12.3							
		礎石割片	47	LSD	168	10.1							
			47	MDF	126	1.4							
		石割	47	LSD	201	5.3							
		石割	47	LSD	279	11.4							
		礎石破片	47	LSD	206	8.5							
			47	MDF	800	4.9							
		礎石破片	47	LSD	291	6.1							
		甬道	47	LSD	206	19.3							
		礎石破片	47	MDF	126	8.3							
			47	MDF	864	12.0							
		礎石破片	47	MDF	127	4.8							
5-15A	208	25A	石割拵	47	MDF	617	126.3		5				
		石割	47	MDF	471	8.0							
			47	MDF	881	3.8							
			47	MDF	825	5.4							
		礎石破片	47	MDF	939	3.2							
			47	MDF	1050	2.5							
-	256	382	狭小資料	39		431.1	27	4	352	1736			
		甬道	39	HSD	119	24.4							
			39	HSD	433	4.9							
			39	HSD	692	20.1							
				HSD I	5	28.4							
		甬道	39	HSD	108	1.3							
		甬道	39	HSD	259	8.5							
		甬道	39	HSD	623	19.9							
		甬道	39	HSD	881	21.2							
			39	JSD	1026	35.9							

棟別	棟名	棟番号	Stb	建築年	延床面積	基礎	石造部	石質	石工	石工種	備考		
		甬道	39	HSD	689	1.7							
		甬道		HSD I	4	1.0							
				HSD I	7	21.0							
		甬道		HSD I	9	10.1							
				HSD I	1	18	7.4						
		甬道	39	HSD	104	4.3							
		甬道	39	HSD	103	6.9							
		甬道	39	HSD	105	3.9							
				HSD I	8	10.5							
				HSD I	101	29.4							
				HSD I	872	12.3							
				HSD I	922	27.9							
				HSD I	922	1.6							
				HSD I	927	16.6							
				HSD I	994	1.1							
				HSD I	5	43.7							
				HSD I	7	1.1							
				HSD I	1	50.1							
B-552	390	33	狭小資料	59-60		L716.2	10	1	419	1920			
		甬道	59	J48	38	3.1							
			57	J48	42	36.5							
			57	J48	73	21.8							
			57	J48	82	256.0							
			57	J48	281	75.8							
		甬道	56	J49	129	39.7							
			60	K16	2	362.7							
			60	K16	3	2.7							
B-546	359	32	心付拵	60	K16	30	852.9						
B-551	357	18	礎石	58	K17	24	391.8						
B-552	360	25	狭小資料	59-60		194.0	13	1	423	1943			
		甬道	59	J16	155	3.2							
B-545	356	17	舟形石割拵	59	J46	101	112.2						
			60	K16	10	4.2							
B-545	358	16	舟形石割拵	60	K16	14	27.5						
		甬道	60	K16	17	16.8							
		甬道	60	K16	18	3.8							
		甬道	60	K46	36	7.3							
		甬道	60	K16	38	9.2							
			60	K46	72	3.9							
		甬道	60	K16	52	3.2							
		甬道	60	K46	62	6.9							
		甬道	60	K16	63	2.1							
		甬道	60	K16	64	3.7							
B-551	361	26	狭小資料	60-61		830.8	15	1-5	422	1942			
		甬道	60	L46	9	7.2							
			60	L46	275	27.8							
		甬道	60	L46	10	10.6							
			60	L46	28	10.3							
			60	L46	117	3.1							
		石割	60	L46	34	20.5							
		礎石破片	60	L16	84	50.4							
			60	L46	119	69.4							
		礎石破片	60	L46	160	12.5							
		石割	60	L46	194	6.7							
		礎石割片	60	L46	270	27.8							
			60	L16	277	20.5							
		石割	61	M45	4	31.9							
B-545	359	20	石割拵	60	M15	1	147.6		5				
		甬道		石割拵		27	38.7						
B-551	361	27	狭小資料	67-68		790.3	8	1-5	416	1920			

群号	展覧番号	器物番号	Stb	種類	材質	器高(㎝)	口径(㎝)	重量	出土層	石質	付着物	備考
		銅片	57	109		127	28.3		1			
		銅板銅片	57	108		6	26.8		1			
			57	8.58		89	16.0		1			
		銅片	57	108		88	7.1		5			
		鍍金銅片	57	108		98	11.2		5			
		銅片	57	108		127	4.7		1			
		銅片	57	168		102	15.1		1			
第-566	205	22	石刀核	58	108	20	251.8		5			
	303	28	鍍金貨幣	60		452.4	10	1	433	1925		
		銅片	60	1.06		19	69.5		1			
			60	1.66		20	3.6		1			
B-543	258	19	石核	60	1.06	27	183.4		1			
		銅片	60	1.66		103	32.4		1			
		銅片	60	1.66		192	65.7		1			
		銅片	60	1.66		209	71.6		1			
			60	1.66		210	40.0		1			
		銅片	60	1.06		211	19.7		1			
		銅片	60	1.66		227	7.8		1			
		銅片	60	1.06		232	19.5		1			
第-542	307	43	総合資料	70-80-01		1,022.1	27	1	432	1922		
		銅片	61	3A15		1	4.2		1			
		鍍金銅片	61	3A16		2	21.2		1			
		銅板銅片	61	3A44		4	3.2		1			
			61	3A12	Ⅱ	7	1.2		3			
		銅片	61	3A44		6	9.3		1			
			61	3A12		28	2.2		1			
		鍍金銅片	61	3A13		3	4.1		1			
			61	1A18		162	69.9		1			
		鍍金銅片	61	3A15		1	10.2		1			
			61	3A45		15	3.3		1			
			61	3A11		16	5.7		1			
		銅片	61	3A42		8	1.4		1			
			61	3A15		12	16.0		1			
			61	3A11	I	2	52.1		1			
			61	3A12		20	2.8		1			
第-556	303	32	一次加工した銅片	61	3A15	10	19.4		1			
		鍍金銅片	61	3A45		11	37.5		1			
			61	3A11		18	2.6		1			
		銅片	61	3A42		18	8.0		1			
			61	3A14		2	12.1		1			
		鍍金銅片	61	3A43		20	15.4		1			
			61	1A13	I	8	1.4		1			
		銅片	61	3A13		21	2.1		1			
		銅片	61	3A13		1	4.1		1			
		銅片	61	3A17		187	253.1		1			
第-557	304	38	銅片	61	3A17	12	6.6		1			
			61	3A16		52	29.7		1			
			61	3A16		24	47.0		1			
			61	3A16		9	8.6		1			
		銅片	61	3A19		3	1.9		1			
		鍍金銅片	61	3A12		1	7.8		1			
			61	3A13		27	1.5		1			
			61	3A15		14	3.9		1			
			61	3A11		1	1.0		1			
		銅片	61	3A12		5	12.2		1			
		銅片	61	3A13		10	77.3		1			
			61	3A13		15	58.5		1			
			61	3A11		1	6.9		1			
		銅片	61	3A12		21	13.6		1			
		銅片	61	3A12		1	15.1		1			

群号	展覧番号	器物番号	Stb	種類	材質	器高(㎝)	口径(㎝)	重量	出土層	石質	付着物	備考
		銅片	61	3A11		5	3.5		1			
第-566	303	33	銅片	61	3A44	17	11.7		1			
		一次加工した銅片	61	1A11		52	23.6		1			
		銅片	61	3A11		54	4.9		1			
		銅片	61	3A44	I	3	10.0		1			
		銅片	61	3A41	T	1	1.7		1			
			61	1A44		32	2.0		1			
		銅片	61	3A11	I	6	1.7		1			
		鍍金銅片	61	3A42		7	3.4		1			
			61	3A16		7	8.9		1			
			61	3A16		9	13.4		1			
			61	1A11		7	8.7		1			
		銅片	61	3A45		10	1.8		1			
第-558	304	41	石核	61	3A42	17	259.6		1			
		銅片	61	3A12	Ⅱ	1	0.7		1			
		銅片	61	3A46		50	17.1		1			
		銅片	61	3A17		22	21.4		1			
			61	3A47		29	12.2		1			
		銅片	61	3A17	I	5	2.3		1			
		銅片	61	3A47	T	6	1.3		1			
第-556	302	23	ナイフ形石核	61	1A44	2	2.2		1			
			61	3A11		16	1.8		1			
			61	1A44		29	3.0		1			
		銅片	61	1A11		10	3.8		1			
			61	1A44	Ⅱ	9	0.7		1			
第-555	302	22	ナイフ形石核	61	1A11	13	10.1		1			
		銅片	61	3A43		28	1.0		1			
第-554	302	9	ナイフ形石核	61	1A11	24	9.7		1			
			61	3A11	T	1	3.0		1			
		銅片	61	1A44		38	2.3		1			
		銅片	61	1A11		53	2.5		1			
		銅片	61	1A44		62	16.9		1			
		鍍金銅片	61	1A11	Ⅱ	6	35.7		1			
		銅片	61	1A11	Ⅱ	2	6.6		1			
			61	1A11	Ⅱ	8	1.9		1			
		銅片	61	1A15		9	138.1		1			
第-552	302	24	ナイフ形石核	61	1A43	1	14.9		1			
-	304	41	総合資料	58+61		288.6	12	1	102	1911		
		鍍金銅片	58	3A47		40	7.5		1			
		銅片	61	3A11		7	12.5		1			
		鍍金銅片	61	3A43		14	5.0		1			
			61	3A12		19	20.9		1			
		銅片	61	3A13	T	3	3.3		1			
第-558	304	40	石刀核	61	3A17	7	118.8		1			
第-557	304	36	石刀核	61	3A17	1	25.5		1			
		銅片	61	3A42		16	4.0		1			
		銅片	61	3A47	T	20	8.1		1			
		鍍金銅片	61	3A44		4	2.4		1			
		銅片	61	1A11		12	1.2		1			
		銅片	61	1A15		15	9.9		1			
第-900	306	125	総合資料	銅		103.9	2	1	-	3046		
第-579	321	52	銅刀形銅片	銅	370	1	2	21.8		1		
第-578	324	42	銅石刀核	銅	1274	上	1	39.1		1		
第-600	306	125	総合資料	銅		90.1	2	5	-	3049		
第-579	324	54	銅石刀核銅片	銅	266	上	1	50.8		5		
第-579	321	51	銅刀形銅片	銅	371	1	15	36.3		5		
	306	127	鍍金貨幣	銅		884.3	15	5	280	1402		
		銅片	銅	1267	F	1	6.5		5			
		石刀	銅	1268	T	1	20.3		5			
			銅	1268	上	5	112.2		5			

上白滝8遺跡

探検	探検	番号	名称	St	地層	形状	面積(m ²)	容積	容積(m ³)	石質	付与品	採合番号
			石室	群	J98	上	6	92.8	5			
			石室	群	J98	下	2	26.1	5			
			石室	群	J98	上	3	33.0	5			
			石室	群	J98	上	5	118.2	5			
			洞門	群	J98	上	9	97.0	5			
			洞門	群	J98	上	7	7.4	5			

探検	探検	番号	名称	St	地層	形状	面積(m ²)	容積	容積(m ³)	石質	付与品	採合番号
			石室	群	J98	上	2	103.9	5			
			石室	群	J98	下	11	40.9	5			
			石室	群	J98	下	12	26.1	5			
			石室	群	J98	下	8	7.1	5			
			石室	群	J72	上	8	15.1	5			
			石室	群	S73	上	11	95.8	5			

表4 上白滝6遺跡掲載石器一覧

探検	探検	番号	名称	石質	形状	面積(m ²)	容積(m ³)	厚さ(mm)	縦径(mm)	横径(mm)	重量(g)	石質	付与品	採合番号	備	考
V-8	881-1	1	尖頭器	4	A22	71	(25)	(21)	6	(2.2)		黒曜石3				
V-8	881-1	2	尖頭器	4	A21	73	(72)	(87)	16	(65.8)		黒曜石1				
V-8	881-1	3	鎌形	4	A21	60	(73)	54	14	(34.3)		黒曜石4				
V-8	881-1	4	短冊状	4	A22	134	122	41	16	58.4		黒曜石3				
V-10	884-2	1	石鏃	5	W17	90	29	28	3	1.2		黒曜石1				放射分析 J151
V-10	884-2	2	石鏃	5	W17	92	31	35	4	1.8		黒曜石1				放射分析 J153
V-10	884-2	3	石鏃	5	W17	6	52	16	4	2.6		黒曜石1				放射分析 J152
V-10	884-2	4	石鏃	5	W17	7	(36)	35	3	(1.6)		黒曜石1				放射分析 J154
V-10	884-2	5	石鏃	5	W17	8	(26)	35	3	(1.3)		黒曜石1				放射分析 J155
V-10	884-2	6	石鏃	5	W17	10	(12)	(30)	3	(0.4)		黒曜石1				
V-10	884-2	7	石鏃	5	W17	9	31	32	3	1.0		黒曜石1				放射分析 J9
V-10	884-2	8	石鏃	5	X16	1	40	33	4	1.6		黒曜石1				
V-10	884-2	9	石鏃	5	W17	134	66	32	2	1.4		黒曜石1				
V-10	884-2	10	石鏃	5	X16	10	51	30	3	1.8		黒曜石3				
V-10	884-2	11	石鏃	5	W16	56	(25)	11	3	(1.1)		黒曜石1				水取層 J111
V-10	884-2	12	石鏃	5	W17	3	(23)	(14)	4	(1.2)		黒曜石1				
V-10	884-2	13	石鏃	5	W17	94	(15)	(32)	3	(0.3)		黒曜石1				
V-10	884-2	14	石鏃	5	W16	47	(17)	(17)	2	(0.4)		黒曜石1				
V-10	884-2	15	石鏃	5	W17	2	(20)	11	3	(0.7)		黒曜石1				
V-10	884-2	16	石鏃	5	X16	21	(31)	32	3	(1.3)		黒曜石1				
V-10	884-2	17	石鏃	5	W17	4	(18)	(32)	3	(0.7)		黒曜石1				
V-10	884-2	18	尖頭器	5	X17	3	(57)	(31)	5	(10.5)		黒曜石1				
V-10	884-2	19	尖頭器	5	W17	11	(82)	(45)	7	(26.5)		黒曜石1				50905 水取層 J112
				5	W17	19										
V-10	884-2	20	尖頭器	5	V11	2	(30)	(32)	7	(12.9)		黒曜石1				50904
				5	W17	28										
V-10	884-2	21	両面潤削石	5	X16	82	(111)	82	60	(336.4)		黒曜石2				8 41
V-11	343	22	両面潤削石	5	V17	1	150	108	50	882.8		黒曜石2				4 40
					W17	53										
					X17	26										
					X12	30										
V-11	343	23	鎌形	5	X17	28	47	36	7	5.3		黒曜石1				放射分析 J17
V-11	343	24	鎌形	5	W17	37	(43)	(25)	(18)	(20.4)		黒曜石1				放射分析 J143
V-11	343	25	鎌形	5	W17	88	(30)	(40)	14	(11.0)		黒曜石1				50903 放射分析 J148
					W17	138										
V-11	343	26	鎌形	5	X16	83	57	67	23	209.1		黒曜石2				4 40
V-11	343	27	つまみ付きナイフ	5	W17	19	(36)	21	4	(7.4)		黒曜石1				放射分析 J150
V-11	343	28	つまみ付きナイフ	5	W17	91	(41)	37	4	(5.8)		黒曜石1				水取層 J199
V-12	343	29	短冊	5	X17	19	(63)	33	4	(9.3)		黒曜石1				
V-12	343	30	短冊	5	W17	39	(72)	35	4	(5.4)		黒曜石1				水取層 J113
V-12	343	31	短冊	5	X16	61	(36)	32	3	(1.4)		黒曜石1				
V-12	343	32	短冊	5	X17	6	(35)	24	5	(2.4)		黒曜石1				
V-12	343	33	短冊	5	V16	1	(37)	(17)	7	(8.3)		黒曜石1				放射分析 J160
V-12	343	34	短冊	5	V17	17	(25)	25	4	(2.1)		黒曜石1				放射分析 J161
V-12	343	35	短冊	5	W17	20	113	20	23	302.8		黒曜石2				4 40
V-12	343	36	石角	5	V17	3	(72)	36	6	(7.3)		頁石				
V-12	343	37	石角	5	X17	1	(32)	(31)	2	(0.3)		黒曜石1				
V-12	343	38	石角	5	X17	21	(33)	30	2	(1.0)		黒曜石1				50901 放射分析 J156
				5	X17	31										
V-12	343	39	石角	5	W17	1	(80)	33	3	(8.0)		黒曜石1				50900
				5	W17	93										

緯度	経度	番号	品類名	石器グループ	発掘区	層位	器物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	材質	接合番号	組合番号	組	考
V-12	343	40	石片	5	W16		15	(40)	17	4	(3.3)	黒曜石1				産地分析X157
V-12	343	41	石片	5	W17		5	(26)	17	5	(2.2)	黒曜石1				
V-12	343	42	石片	5	X16		64	(51)	22	6	(1.3)	黒曜石1				産地分析X158
V-12	343	43	石片	5	V17 V17	II	30 5	(35)	23	4	(1.9)	黒曜石1		50002		産地分析X159
V-12	346	44	石核		X17	I	1	68	128	110	664.3	黒曜石2	4	40		
V-12	346	45	石核	5	X16		27	165	133	123	2,324.8	黒曜石2	5	41		
V-12	346	46	台石	5	W17		147	225	257	46	2,896.8	黒曜石				

表5 上白滝6遺跡掲載接合資料一覧

緯度	経度	番号	品類名	St	発掘区	層位	器物番号	長さ	幅	厚さ	重量	材質	接合番号	組合番号	組	考
V-11	287	47	接合資料	5				2,088.4	68	2	8	14				
			湖片	5	V17		18	132.2		2						
				5	X16		65	6.9		2						
			湖片	5	V17	I	1	12.6		2						
			湖片	5	V17	I	2	2.6		2						
			湖片	5	W16		6	36.1		2						
				5	W17		24	4.8		2						
				5	W12		102	2.4		2						
				5	X17		26	2.7		2						
				5	W17	I	2	5.6		2						
			湖片	5	W16		32	11.6		2						
				5	W12		92	4.6		2						
			湖片	5	W16		40	10.8		2						
			湖片	5	W17		14	5.3		2						
			湖片	5	W12		26	100.2		2						
			湖片	5	W17		21	26.3		2						
				5	W17		150	1.1		2						
			湖片	5	W17		34	10.0		2						
				5	W17		115	16.7		2						
				5	W12		125	2.2		2						
				5	W12		150	2.8		2						
			湖片	5	W12		37	27.9		2						
			湖片	5	W17		39	21.5		2						
				5	W17		76	10.6		2						
				5	W12		108	3.5		2						
			湖片	5	W17		69	13.9		2						
				5	W17		71	3.2		2						
				5	X16		21	190.2		2						
				5	X17		12	8.2		2						
				5	X17		17	1.9		2						
			湖片	5	W17		74	3.5		2						
				5	X16		89	11.1		2						
			湖片	5	W17		78	63.5		2						
				5	W17		95	3.7		2						
				5	X16		104	1.1		2						
				5	X16		172	1.8		2						
			湖片	5	W17		120	11.1		2						
			湖片	5	W17		131	1.2		2						
				5	X17		27	10.7		2						
			湖片	5	W12		137	8.9		2						
				5	X16		79	8.9		2						
				5	X16		80	1.6		2						
				5	X16		86	0.9		2						
				5	X17		5	4.5		2						
			湖片	5	W17		146	2.5		2						
			湖片	5	W17	I	1	282.3		2						
			湖片	5	X16		2	9.1		2						
				5	X16		5	10.5		2						
			湖片	5	X16		16	1.7		2						
			湖片	5	X16		20	12.9		2						
				5	X16		28	4.6		2						
				5	X16		44	3.5		2						
				5	X16		51	1.5		2						
				5	X16		55	833.2		2						
			湖片	5	X16		78	0.8		2						
V-10	294	21	西側溝壁石片	5	X16		82	236.4		2						
				5	X16		93	1.2		2						
				5	X16		114	2.8		2						
				5	X17		4	11.3		2						
			湖片	5	X16		84	16.6		2						
				5	X16		93	11.8		2						
			湖片	5	X16		105	7.8		2						
			湖片	5	X16		109	3.2		2						
				5	X16		1	6.1		2						
				5	X16		1	2.0		2						
			湖片	5	X17		18	1.2		2						
				5	X17		20	1.4		2						
				5	X17		40	13.3		2						
				5	X17	I	2	116.9		2						
V-18	288	05	接合資料	5				3,668.2	47	2	4	40				
			湖片	5	W18		1	4.6		2						
V-11	293	22	西側溝壁石片	5	V17		1	352.3		2						
				5	W12		95	60.1		2						
				5	X17		26	148.0		2						
				5	X17		30	318.2		2						
			湖片	5	V17		4	53.1		2						
				5	X18		33	16.6		2						
			湖片	5	V17		9	25.5		2						
				5	W16		29	5.9		2						
			湖片	5	W17		19	60.9		2						
				5	X16		30	80.3		2						
				5	X16		121	4.5		2						
				5	X17		1	5.9		2						
			湖片	5	W12		51	21.6		2						
				5	W17		130	29.1		2						
V-12	285	25	湖片	5	W12		70	282.8		2						
				5	W12		72	2.8		2						
				5	W12		73	9.7		2						
			湖片	5	W12		109	12.6		2						
				5	W12		130	16.3		2						
				5	W12		129	1.8		2						
			湖片	5	X16		22	4.4		2						
				5	X16		29	29.2		2						
			湖片	5	X16		32	7.2		2						
				5	X17		18	29.3		2						
			湖片	5	X16		36	31.5		2						
				5	X16		41	2.9		2						
			湖片	5	X16		60	13.2		2						

上白滝第30地点通称

種類	規格	番号	材料名	Stb	巻数	径付	巻掛高	巻数	巻掛高	石質	付与期	検査号
			鋼管	5	X16	71	9.9	2				
			鋼管	5	X17	101	1.2	2				
			鋼管	5	X16	72	7.2	2				
			鋼管	5	X16	73	10.5	2				
			鋼管	5	X16	74	9.9	2				
			鋼管	5	X16	75	64.5	2				
V-11	302	30	鋼管	5	X16	45	309.1	2				
			鋼管	5	X16	118	29.7	2				
			鋼管	5	X16	130	6.3	2				
			鋼管	5	X17	9	7.7	2				
			鋼管	5	X17	7	149.5	2				
			鋼管	5	X17	23	3.7	2				
			鋼管	5	X17	33	30.2	2				
V-12	206	41	石積	X17	I	1	454.3	2				
			鋼管	X17	I	3	251.1	2				
			鋼管	X17	I	4	25.1	2				
V-19	209	52	接合材料	5			1,400.2	4	2	5	41	
			鋼管	5	W18	29	38.3	2				
			鋼管	5	W16	115	385.5	2				
V-13	208	42	心鉄	5	X16	27	2,234.9	2				
			鋼管	5	X16	51	257.7	2				
V-19	440	53	接合材料	5			1,721.3	19	2	6	42	
			鋼管	W17	I	1	442.9	2				
			鋼管	5	W17	32	85.4	2				
			鋼管	5	W17	47	83.3	2				
			次加工ある鋼管	5	W16	8	35.0	2				
			鋼管	5	W12	30	89.8	2				
			鋼管	5	W12	110	99.2	2				
			鋼管	5	W17	23	66.5	2				
			鋼管	5	W17	29	4.9	2				

種類	規格	番号	材料名	Stb	巻数	径付	巻掛高	巻数	巻掛高	石質	付与期	検査号
			鋼管	5	W17	35	16.0	2				
			鋼管	5	W17	42	14.6	2				
			鋼管	5	W17	111	1.5	2				
			鋼管	5	W17	135	8.6	2				
			鋼管	5	W17	49	1.0	2				
			鋼管	5	W17	50	297.9	2				
			鋼管	5	X16	56	3.3	2				
			鋼管	5	W17	55	101.1	2				
			鋼管	5	W12	128	10.7	2				
			鋼管	5	W17	90	291.7	2				
			鋼管	5	W17	100	11.3	2				
V-19	400	54	接合材料	5			1,361.9	14	3	7	43	
			鋼管	5	V16	7	435.5	2				
			鋼管	5	V16	2	256.9	2				
			鋼管	5	V16	3	17.5	2				
			鋼管	5	V17	14	1.5	2				
			鋼管	5	W17	15	43.2	2				
			鋼管	5	W17	16	4.7	2				
			鋼管	5	W17	20	6.7	2				
			鋼管	5	V16	I	2	11.8	2			
			鋼管	5	W17	40	43.9	2				
			鋼管	5	W17	54	116.2	2				
			鋼管	5	W17	39	4.2	2				
			鋼管	5	V16	I	3	7.1	2			
			鋼管	5	V16	I	2	7.8	2			
			鋼管	5	W17	102	28.4	2				
			鋼管	5	W12	106	2.1	2				
			鋼管	5	W17	105	51.1	2				
			鋼管	5	W18	I	1	8.9	2			
			鋼管	X16	I	3	4.5	2				

表6 白滝第30地点通称掲載石器一覧

種類	規格	番号	材料名	石器プロセス	巻数	径付	巻掛高	巻数	径付	巻掛高	巻数	径付	巻掛高	石質	用形番号	検査番号	備	考
M-5	356	1	磁石片		C20	II	5	9	4	1	0.1			黒曜石1				
M-5	356	2	磁石片		C20	III	1	16	5	1	0.1			黒曜石1				
M-5	356	3	磁石片		C20	II	1	18	5	2	0.2			黒曜石1				
M-5	356	4	磁石片		C19	III	3	(16)	5	1	(0.1)			黒曜石1				
M-5	356	5	磁石片		C19	II	2	(15)	6	1	(0.1)			黒曜石1				
M-5	356	6	磁石片		C19	III	4	(20)	6	1	(0.2)			黒曜石1				
M-5	356	7	磁石片		C18	I	1	(22)	6	2	(0.2)			黒曜石1				
M-5	356	8	磁石片	1	C21	II	33	(25)	6	2	(0.4)			黒曜石1				
M-5	356	9	磁石片		C21	III	3	(13)	7	2	(0.1)			黒曜石1				
M-5	356	10	磁石片	1	C20	II	32	(14)	8	2	(0.3)			黒曜石1				
M-5	356	11	磁石片	1	C20	III	130	(21)	8	2	(0.3)			黒曜石1				
M-5	356	17	磁石片	1	C70		98	(96)	8	?	0.5			黒曜石1				
M-5	356	18	磁石片		C21	III	4	(6)	4	1	(0.1)			頁岩				
M-5	356	14	磁石片	1	C19	II	37	(11)	5	1	(0.1)			黒曜石1				
M-5	356	15	磁石片		C20	II	9	(8)	6	1	(0.1)			黒曜石1				
M-5	356	16	磁石片		C20	III	3	(14)	6	1	(0.1)			黒曜石1				
M-5	356	12	磁石片		C19	II	5	(15)	7	2	(0.2)			黒曜石1				
M-5	356	18	磁石片		C20	III	6	(19)	(4)	1	(0.1)			黒曜石1				
M-5	356	19	磁石片	1	C19	II	16	(15)	(5)	2	(0.1)			黒曜石1				
M-5	356	20	磁石片		C21	I	1	35	45	16	(0.4)			頁岩				
M-5	356	21	磁石片	1	C20	II	23	87	43	11	41.5			黒曜石3				
M-5	356	22	磁石片		C21	I	2	(27)	32	8	(6.4)			黒曜石1				
M-5	356	23	磁石片	1	C20	II	70	(54)	38	10	(21.4)			黒曜石1				
M-5	356	24	磁石片	1	C20	II	68	(45)	(53)	9	(14.8)			黒曜石1				
M-5	356	25	石核	95	D12	I	38	28	30	26.9				黒曜石1				
M-6	356	26	奇形型石片		C19	I	1	45	146	27	168.8			黒曜石1				

種別	図版	番号	学名	石器グループ	分類K	部位	器物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	材質	採集番号	組合番号	和	考
VI-6	356	27	石片	1	C20		128	(50)	21	6	(6.3)	黒曜石1				
VI-6	356	28	石片	1	C20		67	(40)	19	9	(6.3)	頁岩				
VI-6	356	29	石片	1	C20		33	(8)	30	6	(6.6)	黒曜石1				
VI-6	356	30	石片	1	C21 C21		6 17	(8)	36	12	(27.0)	黒曜石1		50009		
VI-6	356	31	石片	1	C21		41	(28)	8	3	(0.8)	黒曜石1				
VI-6	356	32	石片		L20	1	1	(30)	20	3	(1.1)	黒曜石1				
VI-6	356	33	尖頭器		C19	T	2	(34)	17	4	(1.8)	黒曜石4				
VI-6	356	34	尖頭器		C17	T	1	(36)	20	6	(3.3)	黒曜石1				
VI-6	356	35	箭鏃		C10	T	1	(80)	31	7	(9.7)	黒曜石3				

報告書抄録

ふりがな	しらたまいせきごふん							
書名	白滝遺跡群Ⅳ							
副書名	一般国道450号白滝丸瀬布道路工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第195集							
編著者名	長沼 孝・鈴木宏行・直江康雄							
編集機関	(財)北海道埋蔵文化財センター							
所在地	〒069-0832 江別市西野沢685番地1							
発行年月日	2004年3月31日							
所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
奥白滝11遺跡	北海道紋別郡白滝村 奥白滝52-5	01557	I-20-65	43°52'39"	143°06'56"	19990506～ 19990704	505㎡	道路建設に伴う事前調査
上白滝8遺跡	北海道紋別郡白滝村 字上白滝179-1、 181-2～4、182-2・3		I-20-91	43°52'25"	143°07'58"	19950508～ 19951025 19960508～ 19961025 19970506～ 19971025 19980506～ 19981024 20000508～ 20001027	6,600㎡ 10,212㎡ 320㎡ 56㎡ 661㎡	
上白滝6遺跡	北海道紋別郡白滝村 字上白滝123		I-20-89	43°52'18"	143°08'45"	20010716～ 20010914	670㎡	
白滝第30地点遺跡	北海道紋別郡白滝村 字上白滝382-4		I-20-6	43°52'20"	143°10'00"	20000508～ 20001027	636㎡	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
奥白滝11遺跡	散布地	旧石器時代	石器ブロック 1か所		尖頭器、両面調整石器、鏃器、 掻器、削器、舟底形石器、細石 刃、石刃、縦長削片、石刃核、 石核、原石 (総点数2,396点) (総重量13,918.2g)			
上白滝8遺跡 (東地区)	散布地	旧石器時代	炭化木片ブロック 13か所 石器ブロック 63か所		有石尖頭器、尖頭器、尖頭器削 片、両面調整石器、ナイフ形石 器、鏃器、縦長削片、掻器、削 器、磨形石器、舟底形石器、二 次加工ある剥片、細石刃、細石 刃核、細石刃核残片、石刃、細 長削片、石刃核、石核、舟形石 器、石鏃、つまみ付きナイフ、 燧石、石核、削片、砥石 (総点数702,618点) (総重量1,641,790.2g)		後期旧石器時代前半期の石器 群(「白滝1群」 「特ト型」)：細石刃核を含む石 器群 大原石刃、大原舟底形石器を 含む石器群 舟底形石器・尖頭器を含む石 器群 筐型ナイフ形石器を含む石 器群	
上白滝6遺跡 (平成13年度調査分)	散布地	旧石器時代 縄文時代 早期	石器ブロック 2か所		尖頭器、両面調整石器、掻器、 削器、二次加工ある剥片、石刃、 縦長削片、石核、石鏃、石刃核、 つまみ付きナイフ、台石 (総点数1,038点) (総重量18,442.4g)		尖頭器を含む石器群 石刃鏃を含む石器群	
白滝第30地点遺跡	散布地	旧石器時代	炭化木片ブロック 1か所 石器ブロック 2か所		尖頭器、鏃器、掻器、舟 底形石器、二次加工ある剥片、 細石刃、石刃、縦長削片、石刃 核、石核、削片、石鏃 (総点数1,626点) (総重量10,417.3g)			

(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第195集

白滝遺跡群 IV

第1分冊 (本文編)

白滝村 奥白滝11遺跡
上白滝8遺跡
上白滝6遺跡(2)
白滝第30地点遺跡

一般国道450号白滝丸瀬布道路工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書
平成16年3月31日

編集・発行 財団法人 北海道埋蔵文化財センター
〒069-0832 江別市西野幌685番地1
☎011(386)3231 FAX011(386)3238
印刷 ひまわり印刷株式会社
